

シラバス

農学部授業計画

2024年度



明治大学

シ ラ バ ス

農学部授業計画

2024年度



明 治 大 学

明治大学2024年度学年暦

春 学 期		4月1日(月) ~ 9月19日(木)
入 学 式		4月7日(日)
学 習 指 導		4月1日(月) ~ 4月9日(火)
授 業 期 間		4月10日(水) ~ 7月22日(月)
	前半集中開講科目(S1)※	4月10日(水) ~ 6月3日(月)
	後半集中開講科目(S2)※	6月4日(火) ~ 7月22日(月)
臨時休業(休講)日		5月1日(水) ・ 5月2日(木)
休日授業実施日①		4月29日(月) [昭 和 の 日]
休日授業実施日②		7月15日(月) [海 の 日]
補 講 日 ①	※土曜日の通常時限を利用	5月25日(土) ・ 6月1日(土)
補 講 日 ②	※土曜日の通常時限を利用	7月13日(土) ・ 7月20日(土)
定 期 試 験	※予備日を含む	7月23日(火) ~ 7月31日(水)
夏 季 休 業		8月1日(木) ~ 9月19日(木)
秋 季 卒 業 式		9月19日(木)
秋 学 期		9月20日(金) ~ 3月31日(月)
秋 季 入 学 式		9月19日(木)
学 習 指 導		9月18日(水)
授 業 期 間		9月20日(金) ~ 1月23日(木)
	前半集中開講科目(F1)※	9月20日(金) ~ 11月14日(木)
	後半集中開講科目(F2)※	11月15日(金) ~ 1月23日(木)
休日授業実施日①		9月23日(月) [振 替 休 日]
休日授業実施日②		10月14日(月) [スポーツの日]
休日授業実施日③		11月23日(土) [勤 労 感 謝 の 日]
補 講 日 ①	※土曜日の通常時限を利用	10月19日(土) ・ 10月26日(土)
補 講 日 ②	※全日補講のみ実施	1月22日(水)
補 講 日 ③	※全日補講のみ実施	1月23日(木)
大 学 祭 週 間	※当該期間中は全日休講	10月31日(木) ~ 11月6日(水)
明 大 祭		11月2日(土) ~ 11月4日(月)
生 明 祭		11月2日(土) ~ 11月4日(月)
創 立 記 念 祝 日		11月1日(金)
臨時休業(休講)日		12月24日(火) ・ 1月18日(土)
冬 季 休 業		12月25日(水) ~ 1月7日(火)
創 立 記 念 日		1月17日(金)
定 期 試 験	※予備日を含む	1月24日(金) ~ 2月3日(月)
春 季 休 業		2月4日(火) ~ 3月31日(月)
卒 業 式		3月26日(水)

※各学期の前半集中・後半集中開講科目の利用は、一部の授業で7週完結授業を導入する学部に限る。
 ※大学祭週間中の授業休講措置は全キャンパスに適用する。ただし、大学院、専門職大学院において大学祭週間に授業を実施する場合がある。

明治大学2024年度学年暦

全キャンパス共通

【 春学期 】

曜日	日	月	火	水	木	金	土
4		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
5				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
6							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
7		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
8					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
9	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19		

前半集中開講科目【S1】

後半集中開講科目【S2】

前半集中開講科目【F1】

後半集中開講科目【F2】

授業回数

14 14 14 14 14 14

学習指導日

休日

休日授業実施日

定期試験日(予備日を含む)

大学祭週間

※大学祭週間中は全キャンパス休講

【 秋学期 】

曜日	日	月	火	水	木	金	土
9						20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
10			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
11						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
12	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
1				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
2							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
3	23	24	25	26	27	28	
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
3	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

授業回数

14 14 14 14 14 14

臨時休業(休講)日

土曜通常時限使用補講日

完全補講日(秋学期のみ)

明大祭: 11月2日(土)~11月4日(月)

生明祭: 11月2日(土)~11月4日(月)

2024 Academic Year Schedule

Spring Semester		April 1 (Mon.)	~	September 19 (Thu.)
Entrance Ceremony		April 7 (Sun.)		
Orientation		April 1 (Mon.)	~	April 9 (Tue.)
Course Terms		April 10 (Wed.)	~	July 22 (Mon.)
	First Half Intensive Course (S1) *	April 10 (Wed.)	~	June 3 (Mon.)
	Second Half Intensive Course (S2) *	June 4 (Tue.)	~	July 22 (Mon.)
Temporary Closure (No Classes)		May 1 (Wed.)	.	May 2 (Thu.)
Classes held on this holiday (1)		April 29 (Mon.)		[Showa Day]
Classes held on this holiday (2)		July 15 (Mon.)		[Marine Day]
Make-up Classes (1)	*Held on periods available on Saturdays	May 25 (Sat.)	.	June 1 (Sat.)
Make-up Classes (2)	*Held on periods available on Saturdays	July 13 (Sat.)	.	July 20 (Sat.)
Final Examinations	*Including days in reserve	July 23 (Tue.)	~	July 31 (Wed.)
Summer Break		August 1 (Thu.)	~	September 19 (Thu.)
Fall Graduation Ceremony		September 19 (Thu.)		
Fall Semester		September 20 (Fri.)	~	March 31 (Mon.)
Fall Entrance Ceremony		September 19 (Thu.)		
Orientation		September 18 (Wed.)		
Course Terms		September 20 (Fri.)	~	January 23 (Thu.)
	First Half Intensive Course (F1) *	September 20 (Fri.)	~	November 14 (Thu.)
	Second Half Intensive Course (F2) *	November 15 (Fri.)	~	January 23 (Thu.)

Classes held on this holiday (1)		September 23 (Mon.)	[Substitute holiday]
Classes held on this holiday (2)		October 14 (Mon.)	[Sports Day]
Classes held on this holiday (3)		November 23 (Sat.)	[Labor Thanksgiving Day]
Make-up Classes (1)	*Held on periods available on Saturdays	October 19 (Sat.)	October 26 (Sat.)
Make-up Classes (2)	*Only Make-up Classes will be held, all day	January 22 (Wed.)	
Make-up Classes (3)	*Only Make-up Classes will be held, all day	January 23 (Thu.)	
University Festival Week	*No Classes during this period	October 31 (Thu.)	~ November 6 (Wed.)
Meiji Festival ("Meidaisai")		November 2 (Sat.)	~ November 4 (Mon.)
Ikuta Meiji Festival ("Ikumeisai")		November 2 (Sat.)	~ November 4 (Mon.)
University Foundation Memorial Holiday		November 1 (Fri.)	
Temporary Closure (No Classes)		December 24 (Tue.)	January 18 (Sat.)
Winter Break		December 25 (Wed.)	~ January 7 (Tue.)
University Foundation Day		January 17 (Fri.)	
Final Examinations	*Including days in reserve	January 24 (Fri.)	~ February 3 (Mon.)
Spring Break		February 4 (Tue.)	~ March 31 (Mon.)
Graduation Ceremony		March 26 (Wed.)	

*First and second half intensive courses for each semester are only provided in schools which have a 7-week completion system for some of their courses.

*No undergraduate classes will be held on any of the campuses during the University Festival Week. However, classes may be held in the Graduate School or Professional Graduate School during this week.

2024 Academic Year Calendar

Applies to All Campuses

【Spring Semester】

	Sun.	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	Sat.
4 Apr.		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
5 May				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
6 Jun.							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
7 Jul.							
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
8 Aug.					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
9 Sep.	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19		

First Half Intensive Course (S1)

First Half Intensive Course (F1)

Second Half Intensive Course (S2)

Second Half Intensive Course (F2)

The Number of Classes

14 14 14 14 14 14

- Orientation
- Holiday (School Closure)
- Classes held on the holiday
- Final Examinations (Including reserve days)
- University Festival Week

*No undergraduate classes at any campuses

【Fall Semester】

	Sun.	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.	Sat.
9 Sep.						20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
10 Oct.			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
11 Nov.						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
12 Dec.	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
1 Jan.							
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
2 Feb.							
	26	27	28	29	30	31	
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
3 Mar.							
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31				

The Number of Classes

14 14 14 14 14 14

- Temporary Closure (No Classes)
- Make-up Classes (Held on periods available on Saturdays)
- Only Make-up Classes are held, all day (Only in the Fall Semester)

Meidaisai: November 2 (Sat.)~4 (Mon.)

Ikumeisai: November 2 (Sat.)~4 (Mon.)

目 次

1. シラバスについて

科目読み替え表

科目ナンバリングについて

2. シラバス

総合科目 教養科目群/共通科目群<第一分野>

総合科目 教養科目群/共通科目群<第二分野>

総合科目 教養科目群/共通科目群<第三分野>

総合科目 共通専門科目群/フィールドサイエンス科目群

総合科目 外国語科目群<第一外国語>

総合科目 外国語科目群<第二外国語>

総合科目 保健・体育科目群

総合科目 総合科目ゼミナール (サブ・ゼミナール)

複数学科設置科目

農学科

農芸化学科

生命科学科

食料環境政策学科

1. シラバスについて

このシラバスには授業の概要，成績評価の方法など，履修をする際の重要な情報が掲載されています。各自の入学年度の「農学部便覧」と併せて熟読し，充実した履修計画を検討してください。

〈注意事項〉

シラバスは各学科ごとに科目を並べてあります。必要に応じて巻末の科目名索引より検索してください。

〈2024年度・2025年度・2026年度未開講・廃止科目〉

以下の表は2024年度・2025年度・2026年度の未開講・廃止科目になりますので，履修計画を組む際の参考にしてください。

また，入学年度によって科目名が異なる場合がありますので，注意してください。

なお，未開講・廃止科目については変更になる可能性があります。

2024年度～2026年度未開講・廃止科目一覧			
【2024年度未開講・廃止科目】			
開設	2022年度以降入学者	2017～2021年度入学者	備考
農学科	植物遺伝資源学	植物遺伝資源学	未開講
	環境気象学	環境気象学	未開講
	花卉園芸学	花卉園芸学	未開講
	生産気象学	生産気象学	未開講
農芸化学科	インターンシップ	インターンシップ	廃止
	土壌圏科学	土壌圏科学	未開講
		食品物性学	廃止
		動物資源化学	廃止
生命科学科	バイオインフォマティクス	バイオインフォマティクス	未開講
食料環境政策学科			
【2025年度未開講・廃止科目】			
開設	2022年度以降入学者	2017～2021年度入学者	備考
農学科			
農芸化学科			
生命科学科			
食料環境政策学科	食料農業社会学	食料農業社会学	未開講
	現代社会と食	現代社会と食	未開講
【2026年度未開講・廃止科目】			
開設	2022年度以降入学者	2017～2021年度入学者	備考
農学科			
農芸化学科			
生命科学科			
食料環境政策学科			

〈実務経験のある教員による授業科目〉

以下の表中の科目は、実践的教育として実務経験のある教員によって実施されます。

【実務経験のある教員による授業科目】

【実務経験のある教員による授業科目】			
開設	2022年度以降入学者	2017～2021年度入学者	備考
総合科目	生命倫理学	生命倫理学	
農学科	プロジェクト計画法	プロジェクト計画法	
食料環境政策学科	環境学入門	環境学入門	
	国際協力論	国際協力と国際機関	
	協同組合論	協同組合論	
	「食料環境政策」総合講座	「食料環境政策」総合講座	

【科目読み替え表】

入学年度により科目名が異なる場合があります。
以下の読替え表を必要に応じて参照して下さい。

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目教養科目群〈第一分野〉	共通科目群〈第一分野〉
宗教の哲学	宗教の哲学
科学の哲学	科学の哲学
現代倫理学の諸問題	現代倫理学の諸問題
論理的思考の技法	論理的思考の技法
心理学A	心理学A
心理学B	心理学B
日本文学（1）	日本文学（1）
日本文学（2）	日本文学（2）
外国文学	外国文学
ことばと文化A	ことばと文化A
ことばと文化B	ことばと文化B
日本語表現A（1）（2）	日本語表現A（1）（2）
日本語表現A（3）（4）	日本語表現A（3）（4）
日本語表現A（5）（6）	日本語表現A（5）（6）
日本語表現B（1）（2）（3）	日本語表現B（1）（2）（3）
日本語表現B（4）（5）	日本語表現B（4）（5）
日本語表現B（6）	日本語表現B（6）
文芸思潮	文芸思潮
地域文化研究	地域文化研究
日本の歴史A	日本の歴史A
日本の歴史B	日本の歴史B
西洋の歴史	西洋の歴史
アジアの歴史	アジアの歴史
Global Competence A（実りある海外体験）	Global Competence A（実りある海外体験）
Global Competence B（異文化理解と適応力）	Global Competence B（異文化理解と適応力）
Global Competence C（日本文化の理解と発信力）	Global Competence C（日本文化の理解と発信力）
総合科目教養科目群〈第二分野〉	共通科目群〈第二分野〉
経済学	経済学
社会学	社会学
民俗学	民俗学
法学	法学
日本国憲法	日本国憲法
総合科目教養科目群〈第三分野〉	共通科目群〈第三分野〉
生物学基礎	生物学基礎
物理学基礎	物理学基礎
化学基礎	化学基礎
数学基礎	数学基礎
総合科目共通専門科目群	共通科目群〈第二分野〉
農業経済初歩概説	農業経済初歩概説
総合科目共通専門科目群	共通科目群〈第三分野〉
生物生産学初歩概説	生物生産学初歩概説
農芸化学初歩概説	農芸化学初歩概説
生命科学初歩概説	生命科学初歩概説

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目共通専門科目群	共通科目群〈学際的分野〉
生命倫理学	生命倫理学
総合科目共通専門科目群	専攻科目・専攻科目群
英語農学Ⅰ(農)	英語農学Ⅰ(農)
英語農学Ⅱ(農)	英語農学Ⅱ(農)
英語農学Ⅰ(農化)	英語農学Ⅰ(農化)
英語農学Ⅱ(農化)	英語農学Ⅱ(農化)
英語農学Ⅰ(生命)	英語農学Ⅰ(生命)
英語農学Ⅱ(生命)	英語農学Ⅱ(生命)
英語農学Ⅰ(政策)	英語農学Ⅰ(政策)
英語農学Ⅱ(政策)	英語農学Ⅱ(政策)
総合科目共通専門科目群	専攻科目・フィールドサイエンス科目群
農場実習(農・1班)	農場実習(農・1班)
農場実習(農・2班)	農場実習(農・2班)
農場実習(化・4組)	農場実習(化・4組)
農場実習(化・5組)	農場実習(化・5組)
農場実習(化・6組)	農場実習(化・6組)
農場実習(生・1班)	農場実習(生・1班)
農場実習(生・2班)	農場実習(生・2班)
農場実習(食料環境政策学科)	農場実習(食料環境政策学科)
アグリサイエンス論	アグリサイエンス論
フィールド先端農学	フィールド先端農学
国際農業文化理解(タイ)	国際農業文化理解(タイ)
2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目外国語科目群〈第一外国語〉	
英語Ⅰa農(1)	英語Ⅰa農(1)
英語Ⅰa農(2)	英語Ⅰa農(2)
英語Ⅰa農(3)	英語Ⅰa農(3)
英語Ⅰa農(4)	英語Ⅰa農(4)
英語Ⅰa農(5)	英語Ⅰa農(5)
英語Ⅰa化(1)	英語Ⅰa化(1)
英語Ⅰa化(2)	英語Ⅰa化(2)
英語Ⅰa化(3)	英語Ⅰa化(3)
英語Ⅰa化(4)	英語Ⅰa化(4)
英語Ⅰa化(5)	英語Ⅰa化(5)
英語Ⅰa生(1)	英語Ⅰa生(1)
英語Ⅰa生(2)	英語Ⅰa生(2)
英語Ⅰa生(3)	英語Ⅰa生(3)
英語Ⅰa生(4)	英語Ⅰa生(4)
英語Ⅰa生(5)	英語Ⅰa生(5)
英語Ⅰa政(1)	英語Ⅰa政(1)
英語Ⅰa政(2)	英語Ⅰa政(2)
英語Ⅰa政(3)	英語Ⅰa政(3)
英語Ⅰa政(4)	英語Ⅰa政(4)

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目外国語科目群〈第一外国語〉	
英語Ⅰa政(5)	英語Ⅰa政(5)
英語Ⅰb農(1)	英語Ⅰb農(1)
英語Ⅰb農(2)	英語Ⅰb農(2)
英語Ⅰb農(3)	英語Ⅰb農(3)
英語Ⅰb農(4)	英語Ⅰb農(4)
英語Ⅰb農(5)	英語Ⅰb農(5)
英語Ⅰb化(1)	英語Ⅰb化(1)
英語Ⅰb化(2)	英語Ⅰb化(2)
英語Ⅰb化(3)	英語Ⅰb化(3)
英語Ⅰb化(4)	英語Ⅰb化(4)
英語Ⅰb化(5)	英語Ⅰb化(5)
英語Ⅰb生(1)	英語Ⅰb生(1)
英語Ⅰb生(2)	英語Ⅰb生(2)
英語Ⅰb生(3)	英語Ⅰb生(3)
英語Ⅰb生(4)	英語Ⅰb生(4)
英語Ⅰb生(5)	英語Ⅰb生(5)
英語Ⅰb政(1)	英語Ⅰb政(1)
英語Ⅰb政(2)	英語Ⅰb政(2)
英語Ⅰb政(3)	英語Ⅰb政(3)
英語Ⅰb政(4)	英語Ⅰb政(4)
英語Ⅰb政(5)	英語Ⅰb政(5)
英語Ⅱa農(1)	英語Ⅱa農(1)
英語Ⅱa農(2)	英語Ⅱa農(2)
英語Ⅱa農(3)	英語Ⅱa農(3)
英語Ⅱa農(4)	英語Ⅱa農(4)
英語Ⅱa農(5)	英語Ⅱa農(5)
英語Ⅱa化(1)	英語Ⅱa化(1)
英語Ⅱa化(2)	英語Ⅱa化(2)
英語Ⅱa化(3)	英語Ⅱa化(3)
英語Ⅱa化(4)	英語Ⅱa化(4)
英語Ⅱa化(5)	英語Ⅱa化(5)
英語Ⅱa生(1)	英語Ⅱa生(1)
英語Ⅱa生(2)	英語Ⅱa生(2)
英語Ⅱa生(3)	英語Ⅱa生(3)
英語Ⅱa生(4)	英語Ⅱa生(4)
英語Ⅱa生(5)	英語Ⅱa生(5)
英語Ⅱa政(1)	英語Ⅱa政(1)
英語Ⅱa政(2)	英語Ⅱa政(2)
英語Ⅱa政(3)	英語Ⅱa政(3)
英語Ⅱa政(4)	英語Ⅱa政(4)
英語Ⅱa政(5)	英語Ⅱa政(5)
英語Ⅱb農(1)	英語Ⅱb農(1)
英語Ⅱb農(2)	英語Ⅱb農(2)
英語Ⅱb農(3)	英語Ⅱb農(3)

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目外国語科目群〈第一外国語〉	
英語Ⅱ b 農(4)	英語Ⅱ b 農(4)
英語Ⅱ b 農(5)	英語Ⅱ b 農(5)
英語Ⅱ b 化(1)	英語Ⅱ b 化(1)
英語Ⅱ b 化(2)	英語Ⅱ b 化(2)
英語Ⅱ b 化(3)	英語Ⅱ b 化(3)
英語Ⅱ b 化(4)	英語Ⅱ b 化(4)
英語Ⅱ b 化(5)	英語Ⅱ b 化(5)
英語Ⅱ b 生(1)	英語Ⅱ b 生(1)
英語Ⅱ b 生(2)	英語Ⅱ b 生(2)
英語Ⅱ b 生(3)	英語Ⅱ b 生(3)
英語Ⅱ b 生(4)	英語Ⅱ b 生(4)
英語Ⅱ b 生(5)	英語Ⅱ b 生(5)
英語Ⅱ b 政(1)	英語Ⅱ b 政(1)
英語Ⅱ b 政(2)	英語Ⅱ b 政(2)
英語Ⅱ b 政(3)	英語Ⅱ b 政(3)
英語Ⅱ b 政(4)	英語Ⅱ b 政(4)
英語Ⅱ b 政(5)	英語Ⅱ b 政(5)
英語Ⅲ(1)	英語Ⅲ(1)
英語Ⅲ(2)	英語Ⅲ(2)
英語Ⅲ(3)	英語Ⅲ(3)
英語Ⅲ(4)	英語Ⅲ(4)
英語Ⅲ(5)	英語Ⅲ(5)
英語Ⅲ(6)	英語Ⅲ(6)
英語Ⅲ(7)	英語Ⅲ(7)
英語Ⅲ(8)	英語Ⅲ(8)
英語Ⅲ(9)	英語Ⅲ(9)
英語Ⅲ(10)	英語Ⅲ(10)
英語Ⅲ(11)	英語Ⅲ(11)
英語Ⅲ(12)	英語Ⅲ(12)
英語Ⅲ(13)	英語Ⅲ(13)
英語Ⅲ(14)	英語Ⅲ(14)
英語Ⅲ(15)	英語Ⅲ(15)
英語Ⅲ(16)	英語Ⅲ(16)
英語Ⅲ(17)	英語Ⅲ(17)
英語Ⅲ(18)	英語Ⅲ(18)
英語Ⅲ(19)	英語Ⅲ(19)
英語Ⅲ(20)	英語Ⅲ(20)
英語Ⅲ(21)	英語Ⅲ(21)
英語Ⅲ(22)	英語Ⅲ(22)
英語Ⅲ(23)	英語Ⅲ(23)
英語Ⅲ(24)	英語Ⅲ(24)
英語Ⅲ(25)	英語Ⅲ(25)

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目外国語科目群〈第一外国語〉	
英語Ⅲ(26)	英語Ⅲ(26)
英語Ⅲ(27)	英語Ⅲ(27)
英語Ⅲ(28)	英語Ⅲ(28)
英語Ⅲ(29)	英語Ⅲ(29)
英語Ⅲ(30)	英語Ⅲ(30)
英語Ⅲ(31)	英語Ⅲ(31)
英語Ⅲ(32)	英語Ⅲ(32)
英語Ⅲ(33)	英語Ⅲ(33)
英語Ⅲ(34)	英語Ⅲ(34)
英語Ⅲ(35)	英語Ⅲ(35)
英語Ⅲ(36)	英語Ⅲ(36)
英語Ⅲ(37)	英語Ⅲ(37)
英語Ⅲ(38)	英語Ⅲ(38)
英語Ⅲ(39)	英語Ⅲ(39)
英語Ⅲ(40)	英語Ⅲ(40)
英語Ⅲ(41)	英語Ⅲ(41)
英語Ⅲ(42)	英語Ⅲ(42)
科学英語(1)	科学英語(1)
科学英語(2)	科学英語(2)
科学英語(3)	科学英語(3)
科学英語(4)	科学英語(4)
科学英語(5)	科学英語(5)
科学英語(6)	科学英語(6)
科学英語(7)	科学英語(7)
科学英語(8)	科学英語(8)
科学英語(9)	科学英語(9)
科学英語(10)	科学英語(10)
科学英語(11)	科学英語(11)
科学英語(12)	科学英語(12)
科学英語(13)	科学英語(13)
科学英語(14)	科学英語(14)
科学英語(15)	科学英語(15)
科学英語(16)	科学英語(16)
科学英語(17)	科学英語(17)
科学英語(18)	科学英語(18)
科学英語(19)	科学英語(19)
科学英語(20)	科学英語(20)
科学英語(21)	科学英語(21)
科学英語(22)	科学英語(22)
科学英語(23)	科学英語(23)
科学英語(24)	科学英語(24)
科学英語(25)	科学英語(25)
科学英語(26)	科学英語(26)
科学英語(27)	科学英語(27)

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目外国語科目群〈第一外国語〉	
科学英語(28)	科学英語(28)
英語コミュニケーション(1)	英語コミュニケーション(1)
英語コミュニケーション(2)	英語コミュニケーション(2)
英語コミュニケーション(3)	英語コミュニケーション(3)
英語コミュニケーション(4)	英語コミュニケーション(4)
英語コミュニケーション(5)	英語コミュニケーション(5)
英語コミュニケーション(6)	英語コミュニケーション(6)
英語コミュニケーション(7)	英語コミュニケーション(7)
英語コミュニケーション(8)	英語コミュニケーション(8)
英語コミュニケーション(9)	英語コミュニケーション(9)
英語コミュニケーション(10)	英語コミュニケーション(10)
英語コミュニケーション(11)	英語コミュニケーション(11)
英語コミュニケーション(12)	英語コミュニケーション(12)
2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目外国語科目群〈第二外国語〉	
ドイツ語Ⅰa農	ドイツ語Ⅰa農
ドイツ語Ⅰa政	ドイツ語Ⅰa政
ドイツ語Ⅰa化	ドイツ語Ⅰa化
ドイツ語Ⅰa生	ドイツ語Ⅰa生
ドイツ語Ⅰb農	ドイツ語Ⅰb農
ドイツ語Ⅰb政	ドイツ語Ⅰb政
ドイツ語Ⅰb化	ドイツ語Ⅰb化
ドイツ語Ⅰb生	ドイツ語Ⅰb生
ドイツ語Ⅱa農	ドイツ語Ⅱa農
ドイツ語Ⅱa政	ドイツ語Ⅱa政
ドイツ語Ⅱa化	ドイツ語Ⅱa化
ドイツ語Ⅱa生	ドイツ語Ⅱa生
ドイツ語Ⅱb農	ドイツ語Ⅱb農
ドイツ語Ⅱb政	ドイツ語Ⅱb政
ドイツ語Ⅱb化	ドイツ語Ⅱb化
ドイツ語Ⅱb生	ドイツ語Ⅱb生
ドイツ語Ⅲ(1)	ドイツ語Ⅲ(1)
ドイツ語Ⅲ(2)	ドイツ語Ⅲ(2)
ドイツ語Ⅲ(3)	ドイツ語Ⅲ(3)
ドイツ語Ⅲ(4)	ドイツ語Ⅲ(4)
ドイツ語Ⅲ(5)	ドイツ語Ⅲ(5)
ドイツ語Ⅲ(6)	ドイツ語Ⅲ(6)
フランス語Ⅰa農	フランス語Ⅰa農
フランス語Ⅰa政	フランス語Ⅰa政
フランス語Ⅰa化	フランス語Ⅰa化
フランス語Ⅰa生	フランス語Ⅰa生
フランス語Ⅰb農	フランス語Ⅰb農
フランス語Ⅰb政	フランス語Ⅰb政

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目外国語科目群〈第二外国語〉	
フランス語Ⅰb化	フランス語Ⅰb化
フランス語Ⅰb生	フランス語Ⅰb生
フランス語Ⅱa農	フランス語Ⅱa農
フランス語Ⅱa政	フランス語Ⅱa政
フランス語Ⅱa化	フランス語Ⅱa化
フランス語Ⅱa生	フランス語Ⅱa生
フランス語Ⅱb農	フランス語Ⅱb農
フランス語Ⅱb政	フランス語Ⅱb政
フランス語Ⅱb化	フランス語Ⅱb化
フランス語Ⅱb生	フランス語Ⅱb生
フランス語Ⅲ(1)	フランス語Ⅲ(1)
フランス語Ⅲ(2)	フランス語Ⅲ(2)
フランス語Ⅲ(3)	フランス語Ⅲ(3)
フランス語Ⅲ(4)	フランス語Ⅲ(4)
フランス語Ⅲ(5)	フランス語Ⅲ(5)
フランス語Ⅲ(6)	フランス語Ⅲ(6)
スペイン語Ⅰa農	スペイン語Ⅰa農
スペイン語Ⅰa政	スペイン語Ⅰa政
スペイン語Ⅰa化	スペイン語Ⅰa化
スペイン語Ⅰa生	スペイン語Ⅰa生
スペイン語Ⅰb農	スペイン語Ⅰb農
スペイン語Ⅰb政	スペイン語Ⅰb政
スペイン語Ⅰb化	スペイン語Ⅰb化
スペイン語Ⅰb生	スペイン語Ⅰb生
スペイン語Ⅱa農	スペイン語Ⅱa農
スペイン語Ⅱa政	スペイン語Ⅱa政
スペイン語Ⅱa化	スペイン語Ⅱa化
スペイン語Ⅱa生	スペイン語Ⅱa生
スペイン語Ⅱb農	スペイン語Ⅱb農
スペイン語Ⅱb政	スペイン語Ⅱb政
スペイン語Ⅱb化	スペイン語Ⅱb化
スペイン語Ⅱb生	スペイン語Ⅱb生
スペイン語Ⅲ(1)	スペイン語Ⅲ(1)
スペイン語Ⅲ(2)	スペイン語Ⅲ(2)
中国語Ⅰa農	中国語Ⅰa農
中国語Ⅰa政	中国語Ⅰa政
中国語Ⅰa化	中国語Ⅰa化
中国語Ⅰa生	中国語Ⅰa生
中国語Ⅰb農	中国語Ⅰb農
中国語Ⅰb政	中国語Ⅰb政
中国語Ⅰb化	中国語Ⅰb化
中国語Ⅰb生	中国語Ⅰb生
中国語Ⅱa農	中国語Ⅱa農
中国語Ⅱa政	中国語Ⅱa政

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目外国語科目群〈第二外国語〉	
中国語Ⅱa化	中国語Ⅱa化
中国語Ⅱa生	中国語Ⅱa生
中国語Ⅱb農	中国語Ⅱb農
中国語Ⅱb政	中国語Ⅱb政
中国語Ⅱb化	中国語Ⅱb化
中国語Ⅱb生	中国語Ⅱb生
中国語Ⅲ（1）	中国語Ⅲ（1）
中国語Ⅲ（2）	中国語Ⅲ（2）
2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目保健・体育科目群	
スポーツ実習Ⅰ(1組)男子	スポーツ実習Ⅰ(1組)男子
スポーツ実習Ⅰ(2組)男子	スポーツ実習Ⅰ(2組)男子
スポーツ実習Ⅰ(3組)男子	スポーツ実習Ⅰ(3組)男子
スポーツ実習Ⅰ化男子(1)	スポーツ実習Ⅰ化男子(1)
スポーツ実習Ⅰ化男子(2)	スポーツ実習Ⅰ化男子(2)
スポーツ実習Ⅰ(7組)男子	スポーツ実習Ⅰ(7組)男子
スポーツ実習Ⅰ(8組)男子	スポーツ実習Ⅰ(8組)男子
スポーツ実習Ⅰ(9組)男子	スポーツ実習Ⅰ(9組)男子
スポーツ実習Ⅰ(10組)男子	スポーツ実習Ⅰ(10組)男子
スポーツ実習Ⅰ(11組)男子	スポーツ実習Ⅰ(11組)男子
スポーツ実習Ⅰ(12組)男子	スポーツ実習Ⅰ(12組)男子
スポーツ実習Ⅰ農・女子(1)	スポーツ実習Ⅰ農・女子(1)
スポーツ実習Ⅰ農・女子(2)	スポーツ実習Ⅰ農・女子(2)
スポーツ実習Ⅰ化・女子(1)	スポーツ実習Ⅰ化・女子(1)
スポーツ実習Ⅰ化・女子(2)	スポーツ実習Ⅰ化・女子(2)
スポーツ実習Ⅰ化・女子(3)	スポーツ実習Ⅰ化・女子(3)
スポーツ実習Ⅰ生・女子(1)	スポーツ実習Ⅰ生・女子(1)
スポーツ実習Ⅰ生・女子(2)	スポーツ実習Ⅰ生・女子(2)
スポーツ実習Ⅰ政・女子(1)	スポーツ実習Ⅰ政・女子(1)
スポーツ実習Ⅰ政・女子(2)	スポーツ実習Ⅰ政・女子(2)
スポーツ実習Ⅱ(1)	スポーツ実習Ⅱ(1)
スポーツ実習Ⅱ(2)	スポーツ実習Ⅱ(2)
スポーツ実習Ⅱ(3)	スポーツ実習Ⅱ(3)
スポーツ実習Ⅱ(4)	スポーツ実習Ⅱ(4)
スポーツ実習Ⅱ(5)	スポーツ実習Ⅱ(5)
スポーツ実習Ⅱ(6)	スポーツ実習Ⅱ(6)
スポーツ実習Ⅱ(7)	スポーツ実習Ⅱ(7)
スポーツ実習Ⅱ(8)	スポーツ実習Ⅱ(8)
スポーツ実習Ⅱ(9)	スポーツ実習Ⅱ(9)
スポーツ実習Ⅱ(10)	スポーツ実習Ⅱ(10)
スポーツ実習Ⅱ(11)	スポーツ実習Ⅱ(11)
スポーツ実習Ⅱ(12)	スポーツ実習Ⅱ(12)
スポーツ実習Ⅱ(13)	スポーツ実習Ⅱ(13)

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
総合科目保健・体育科目群	
スポーツ実習Ⅱ(14)	スポーツ実習Ⅱ(14)
スポーツ実習Ⅱ(15)	スポーツ実習Ⅱ(15)
スポーツ実習Ⅱ(16)	スポーツ実習Ⅱ(16)
スポーツ実習Ⅱ(17)	スポーツ実習Ⅱ(17)
スポーツ実習Ⅱ(18)	スポーツ実習Ⅱ(18)
スポーツ実習Ⅱ(19)	スポーツ実習Ⅱ(19)
スポーツ実習Ⅱ(20)	スポーツ実習Ⅱ(20)
スポーツ実習Ⅱ(21)	スポーツ実習Ⅱ(21)
スポーツ実習Ⅱ(22)	スポーツ実習Ⅱ(22)
スポーツ実習Ⅱ(23)	スポーツ実習Ⅱ(23)
スポーツ実習Ⅱ(24)	スポーツ実習Ⅱ(24)
スポーツ実習Ⅱ(25)	スポーツ実習Ⅱ(25)
スポーツ実習Ⅱ(26)	スポーツ実習Ⅱ(26)
運動学(1)	運動学(1)
運動学(2)	運動学(2)
健康科学(1)	健康科学(1)
健康科学(2)	健康科学(2)
総合科目総合科目ゼミナール	
人文科学ゼミナール(哲学)	人文科学ゼミナール(哲学)
人文科学ゼミナール(文章表現)	人文科学ゼミナール(文章表現)
外国文化ゼミナール(英語)(1)	外国文化ゼミナール(英語)(1)
外国文化ゼミナール(英語)(2)	外国文化ゼミナール(英語)(2)
外国文化ゼミナール(英語)(3)	外国文化ゼミナール(英語)(3)
外国文化ゼミナール(英語)(4)	外国文化ゼミナール(英語)(4)
外国文化ゼミナール(英語)(5)	外国文化ゼミナール(英語)(5)
外国文化ゼミナール(フランス語)	外国文化ゼミナール(フランス語)
身体運動学ゼミナール(1)	身体運動学ゼミナール(1)
身体運動学ゼミナール(2)	身体運動学ゼミナール(2)
複数学科	
数学概論	数学概論
物理学概論	物理学概論
物理学実験(1)	物理学実験(1)
物理学実験(2)	物理学実験(2)
化学実験	化学実験
地学概論	地学概論
地学実験	地学実験
実験動物学	実験動物学
生物物理学	生物物理学
職業指導	職業指導

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
農学科	
化学概論	化学概論
栽培学入門	栽培学入門
アニマルサイエンス入門	基礎動物生産学
ランドスケープ入門	緑地学入門
生産環境学入門	生産環境学入門
基礎生物統計学(農)	基礎生物統計学(農)
応用生物統計学	応用生物統計学
植物生理学	植物生理生態学
マクロ生物学入門	植物分類・形態学
植物遺伝資源学	植物遺伝資源学
動物遺伝資源学	動物遺伝資源学
基礎図法	図学
分子生物学(農)	分子生物学(農)
バイオテクノロジー	遺伝子工学(農)
動物生理・栄養学	動物生理学入門
土壌学	土壌学
生物多様性進化学	-
基礎植物育種学	基礎植物育種学
測量学Ⅰ	測量学Ⅰ
測量実習Ⅰ	測量実習Ⅰ
農学基礎実験(1班)(2班)	農学基礎実験(1班)(2班)
技術者倫理	技術者倫理
作物学概論	作物学概論
園芸学概論	園芸学概論
動物生産・福祉学	動物生産学
植物保護学概論	植物保護学概論
環境気象学	環境気象学
農地工学	農地工学
応用力学	応用力学
土質力学	土質力学
水理学	水理学
生産システム学概論	生産システム学概論
動物行動学	動物行動学
資源植物学	資源植物学
保全生態学	植物保全生態学
ランドスケープデザイン学	環境デザイン学
農学実験Ⅰ	農学実験Ⅰ
農学実験Ⅱ	農学実験Ⅱ
農学実験Ⅲ	農学実験Ⅲ
農学実験Ⅳ	農学実験Ⅳ
農学実験Ⅴ	農学実験Ⅴ
農学実験Ⅵ	農学実験Ⅵ
専門実習Ⅰ	専門実習Ⅰ

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
農学科	
専門実習Ⅱ	専門実習Ⅱ
食用作物学	食用作物学
工芸作物学	工芸作物学
野菜園芸学	野菜園芸学
花卉園芸学	花卉園芸学
果樹園芸学	果樹園芸学
園芸植物繁殖学	園芸植物繁殖学
植物成長制御学	植物成長制御学
植物育種学	植物育種学
生産システム学	生産システム学
動物育種学	動物育種学
動物資源繁殖学	動物資源繁殖学
動物資源機能利用学	動物資源機能利用学
熱帯農学	熱帯農学
肥料学	肥料学
植物病理学	植物病理学
植物ウイルス学	植物ウイルス学
植物病害制御学	植物病害制御学
応用昆虫学	応用昆虫学
害虫管理学	害虫管理学
植物線虫学	植物線虫学
雑草学	雑草学
野生動物学	有害動物学
動物環境学	動物環境学
動物生産制御学	動物生産制御学
動物感染症学	動物感染症学
実験動物学	実験動物学
農村計画学	農村計画学
生産気象学	生産気象学
応用水理学	応用水理学
土壌物理学	土壌物理学
構造力学	構造力学
材料施工学	材料施工学
農業水利学	農業水利学
測量学Ⅱ	測量学Ⅱ
測量実習Ⅱ	測量実習Ⅱ
プロジェクト計画法	プロジェクト計画法
生物多様性再生学	生物多様性デザイン学
ランドスケープ工学	緑地工学
景観園芸学	景観園芸学
ランドスケープエコロジー	緑地環境学
ランドスケープ情報論	自然公園論
ランドスケープ活用学	緑地管理学
ランドスケープ設計学	緑空間設計学
ランドスケープ計画学	緑地計画学
文献調査・特別研究（卒論）	文献調査・特別研究（卒論）

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
農芸化学科	
生物学	-
農芸化学	農芸化学
必修化学	分析化学
有機化学	有機化学Ⅰ
生化学Ⅰ	生化学Ⅰ
生化学Ⅱ	生化学Ⅱ
微生物学Ⅰ(農化)	微生物学Ⅰ(農化)
微生物学Ⅱ(農化)	微生物学Ⅱ(農化)
基礎分子生物学	基礎分子生物学
生物有機化学	有機化学Ⅱ
栄養科学	栄養科学
食品化学	食品化学
環境科学	環境科学
土壌化学	土壌化学
分子生物学(農化)	分子生物学(農化)
有機分析化学	有機分析化学
物理化学	物理化学
植物栄養学	植物栄養学
細胞生物学(農化)	細胞生物学(農化)
物理学(力学・熱力学)	物理学(力学・熱力学)
物理学(電磁気学・光学)	物理学(電磁気学・光学)
基礎生物統計学(農化)	基礎生物統計学(農化)
化学実験(農化)	化学実験(農化)
食品生化学	食品生化学
栄養生化学	栄養生化学
食品衛生学	食品衛生学
食品機能化学	食品機能化学
食品工学	食品工学
発酵食品学	発酵食品学
天然物有機化学	天然物有機化学
生物機能化学	生物機能化学
ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー
応用生化学	応用生化学
生物物理学	生物物理学
植物環境制御学	植物環境制御学
環境分析化学	環境分析化学
土壌圏科学	土壌圏科学
環境バイオテクノロジー	環境バイオテクノロジー
微生物化学	微生物化学
微生物遺伝学	微生物遺伝学
微生物生態学	微生物生態学
生命システム工学	生命システム工学
食品健康科学	食品健康科学

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
農芸化学科	
食品冷凍冷蔵学	食品冷凍冷蔵学
食品安全学	食品安全学
食品免疫学	食品免疫学
応用微生物学	応用微生物学
農薬化学	農薬化学
高分子化学	高分子化学
環境化学	環境化学
土壌環境保全学	土壌環境保全学
微生物生理学	微生物生理学
環境微生物学	環境微生物学
生化学・物理化学実験	生化学・物理化学実験
環境化学実験	環境化学実験
環境分析実験	環境分析実験
有機化学・有機分析実験	有機化学・有機分析実験
微生物学実験	微生物学実験
バイオテクノロジー実験	バイオテクノロジー実験
食品化学・食品分析実験	食品化学・食品分析実験
文献調査及び特別研究（卒論）	文献調査及び特別研究（卒論）

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
生命科学科	
生命科学入門	生命科学入門
化学要論	化学要論
動物生命科学	動物生命科学
植物生命科学	植物生命科学
分子生物学入門	分子生物学入門
遺伝学	遺伝学
細胞生物学(生命)	細胞生物学(生命)
生物有機化学(生命)	生物有機化学(生命)
生化学Ⅰ(生体成分・酵素)	生化学Ⅰ(生体成分・酵素)
分子生物学(生命)	分子生物学(生命)
微生物学Ⅰ(生命)	微生物学Ⅰ(生命)
生化学Ⅱ(動物代謝)	生化学Ⅱ(動物代謝)
生化学Ⅲ(植物代謝)	生化学Ⅲ(植物代謝)
バイオインフォマティクス入門	バイオインフォマティクス入門
キャリア教育	キャリア教育
動物生理学Ⅰ	動物生理学Ⅰ
動物生理学Ⅱ	動物生理学Ⅱ
生殖生物学	生殖生物学
生体機構学Ⅰ	生体機構学Ⅰ
生体機構学Ⅱ	生体機構学Ⅱ
生体防御学	生体防御学
生体制御学	生体制御学
動物栄養学Ⅰ	動物栄養学Ⅰ
動物栄養学Ⅱ	動物栄養学Ⅱ
発生工学	発生工学
分子発生学	分子発生学
生体機能物質学	生体機能物質学
植物細胞生物学	植物細胞生物学
植物環境生理学	植物環境生理学
植物分子生理学	植物分子生理学
植物工学	植物工学
環境応答生物学	環境応答生物学
環境応答植物学	環境応答植物学
分子遺伝学	分子遺伝学
植物機能制御学	植物機能制御学
糖鎖生物学	糖鎖生物学
タンパク質科学Ⅰ	タンパク質科学Ⅰ
タンパク質科学Ⅱ	タンパク質科学Ⅱ
微生物学Ⅱ(生命)	微生物学Ⅱ(生命)
微生物工学	微生物工学
ウイルス学概論	ウイルス学概論
遺伝子工学(生命)	遺伝子工学(生命)
生物統計学	生物統計学
バイオインフォマティクス	バイオインフォマティクス
ゲノム機能工学	ゲノム機能工学
細胞情報制御学	細胞情報制御学
動物再生システム学	動物再生システム学
生命科学実験Ⅰ	生命科学実験Ⅰ
生命科学実験Ⅱ	生命科学実験Ⅱ
生命科学実験Ⅲ	生命科学実験Ⅲ
生命科学実験Ⅳ	生命科学実験Ⅳ
文献調査・特別研究(卒論)	文献調査・特別研究(卒論)

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
食料環境政策学科	
食料環境政策学を学ぶ	食料環境政策学を学ぶ
食料環境政策入門	食料環境政策入門
経済学入門	経済学入門
ミクロ経済学	ミクロ経済学
マクロ経済学	マクロ経済学
政治経済学	政治経済学
政策科学入門	政策科学入門
社会学入門	社会学入門
統計学入門	統計学入門
経営学入門	経営学入門
会計学入門	会計学入門
社会経済史入門	社会経済史入門
社会調査法入門	社会調査法入門
農学入門	農学入門
環境学入門	環境学入門
英語農学入門	英語農学入門
基礎ゼミ	基礎ゼミ
プロジェクトゼミ	プロジェクトゼミ
ファームステイ実習	ファームステイ実習
海外農業体験	海外農業体験
食料貿易論	食料貿易論
フードシステム論	フードシステム論
食料農業社会学	食料農業社会学
農業政策論	農業政策論
農業マネジメント論	農業マネジメント論
国際農業経済論	国際農業経済論
国際開発論	国際開発論
環境経済論	環境経済論
資源経済論	資源経済論
環境資源会計論	環境資源会計論
環境社会学	環境社会学
地域ガバナンス論	地域ガバナンス論
共生社会論	共生社会論
現代社会と食	現代社会と食
食生活の科学	食生活の科学
食品ブランド化戦略論	食品ブランド化戦略論
食品マーケティング論	食品マーケティング論
6次産業化論	6次産業化論
食文化と農業ビジネス	食文化と農業ビジネス
食農メディア論A	食農メディア論A
食農メディア論B	食農メディア論B
農業経営の発展と地域農業	農業経営の発展と地域農業
農業史	農業史
アジア農業論	アジア農業論
比較農業論	国際比較農政論
国際食料需給論	国際食料需給論

2022年度以降入学者カリキュラム科目名	2017-2021年度入学者カリキュラム科目名
食料環境政策学科	
食と農の貿易ルール	国際貿易協定論
国際協力論	国際協力と国際機関
途上国と一次産品論	途上国と一次産品論
先進国の食と環境	先進国の食と環境
途上国の食と環境	途上国の食と環境
農業・環境法	農業・環境法
農業・資源問題の経済学	農業・資源問題の経済学
環境行動経済学	環境行動経済学
持続可能性の経済学	持続可能性の経済学
持続可能性の会計学	持続可能性の会計学
環境問題と地域社会	環境問題と地域社会
内発的発展論	内発的発展論
協同組合論	協同組合論
森林・水産政策論	森林・水産政策論
キャリア探求実習	キャリア探求実習
「食料環境政策」総合講座	「食料環境政策」総合講座
法律学概論	法律学概論
民法Ⅰ	民法Ⅰ
民法Ⅱ	民法Ⅱ
政治学Ⅰ	政治学Ⅰ
政治学Ⅱ	政治学Ⅱ
日本史概論	日本史概論
東洋史概論	東洋史概論
西洋史概論	西洋史概論
地誌学概論	地誌学概論
地理学概論	地理学概論
哲学概論	哲学概論
倫理学概論	倫理学概論
フィールドワーク実習	フィールドワーク実習
リサーチゼミ・卒論ゼミ	リサーチゼミ・卒論ゼミ

科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバーを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

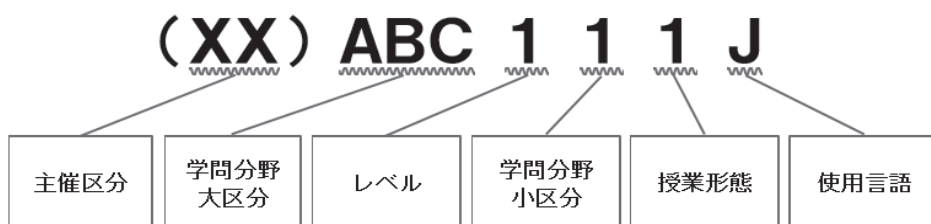
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバーを付番します。

<科目ナンバーの構造>



<各ナンバリングコードの定義>

- ① 主催区分コード
当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。
- ② 学問分野 大区分コード
学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。
- ③ レベルコード
当該科目のレベルを数字1文字で示しています。
- ④ 学問分野小区分
本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。
- ⑤ 授業形態コード
当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。
- ⑥ 使用言語コード
当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

<各コードの詳細>

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバーについては、本学ホームページ又はOh-o! Meiji システムにて確認ください。

以 上

2022年度以降入学者

総合科目教養科目群<第一分野>

2017~2021年度入学者

総合科目共通科目群<第一分野>

科目ナンバー (AG)PHL111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
宗教の哲学

2 単位

長田蔵人

2017~2021 年度入学者
宗教の哲学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

科学の正しさに対する「信念」と宗教的な「信念」との違いは何だろうか？本講義では、科学と宗教という、もっとも人間らしいとも言える2つの精神活動のうち、宗教的な信念（信仰）を取り上げ、その特質や働き、またその多様なあり方について学ぶことが目指される。

授業ではまず、宗教を哲学的考察の対象とすることの意味と方法についての議論を確認したうえで、世界の代表的な宗教を概観する。そのうえで、信仰の問題に対して合理的な知がいかんにかに関わりうるかという問いを通じて、現代社会における宗教の意味や問題点について理解を深めたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のBに対応する科目である。

《到達目標》

- (1) 「信じる」ということの複数の意味を区別して説明できる。
- (2) 「合理的である」ということの意味を説明できる。
- (3) 宗教の役割や問題点について、自分なりの考え方を説明することができる。

2. 授業内容

- 第1回 a のみ： イントロダクション — 宗教的世界観と科学的世界観
- 第2回 宗教学および宗教哲学の方法
- 第3回 世界の諸宗教1（ユダヤ教）
- 第4回 宗教の心理学的解釈
- 第5回 世界の諸宗教2（キリスト教）
- 第6回 信仰と合理性
- 第7回 世界の諸宗教3（イスラーム教）
- 第8回 想像力と信念の力
- 第9回 世界の諸宗教4（インドの宗教）
- 第10回 合理主義的宗教批判
- 第11回 世界の諸宗教5（日本の宗教）
- 第12回 現代日本と宗教
- 第13回 宗教と倫理
- 第14回 信念の根拠への問い

3. 履修上の注意

出席数が授業回数の3分の2を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。

また、特段の事情がない限り、20分以上の遅刻は出席としては認められませんので、注意してください。

履修希望者が100名を越えた場合は、抽選を行います。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ配布されるレジュメや資料を熟読のうえ、疑問点をまとめておくこと。

また授業後は、レジュメを中心にノートを整理し、正確な理解と自分なりの考えを深めたうえで、ミニ・レポート課題を提出する。

5. 教科書

教科書は使用せず、レジュメや資料を配布する。

6. 参考書

棚次正和, 山中宏, 『宗教学入門』(ミネルヴァ書房, 2005年)

中村圭志, 『教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化』(中公新書, 2014年)

阿満利磨, 『日本人はなぜ無宗教なのか』(ちくま新書, 1996年)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

ミニ・レポート 30%, 期末試験 70%

9. その他

連絡先: kurandoo@meiji.ac.jp

研究室: 哲学研究室 (3号館4階 401号室)

科目ナンバー (AG)PHL111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学の哲学

2 単位

長田蔵人

2017～2021 年度入学者
科学の哲学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

科学の正しさに対する「信念」と宗教的な「信念」（信仰）との違いは何だろうか？本講義では、科学と宗教という、もっとも人間らしいとも言える2つの精神活動のうち、科学的な信念を取り上げ、その信頼性の特質や源泉について学ぶことが目指される。

授業ではまず、ヨーロッパ古代・中世の世界観の理解から始め、近代科学の形成の構造について考察する。そのうえで、科学的説明の性質や、その正当性の根拠にかかわる問いに進み、最後に、現代人の世界観と科学的世界像との関係について理解を深めたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のBに対応する科目である。

《到達目標》

(1) 科学的知識の「正しさ」に対する私たち信念が、どのような考え方の上に成立しているのかを説明できる。

(2) 科学的世界像と日常的な世界理解の違いと関わりを説明できる。

2. 授業内容

第1回 aのみ： イントロダクション — 科学と哲学

第2回 古代・中世の世界観（1）

第3回 古代・中世の世界観（2）

第4回 宇宙の調和

第5回 数学的自然観の確立

第6回 17世紀科学革命の完成

第7回 理論と観察

第8回 パラダイム論と科学的相対主義

第9回 化学における遅れた革命

第10回 対象の数量化と仮説の役割

第11回 科学の方法と科学的説明

第12回 進化論と神の放逐

第13回 科学の正当性の問題

第14回 科学的世界像と生活世界

3. 履修上の注意

出席数が授業回数の3分の2を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。

また、特段の事情がない限り、20分以上の遅刻は出席としては認められませんので、注意してください。

履修希望者が100名を越えた場合は、抽選を行います。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ配布されるレジュメと資料を熟読のうえ、疑問点をまとめておくこと。

また授業後は、レジュメを中心にノートを整理し、正確な理解と自分なりの考えを深めたうえで、ミニ・レポート課題を提出する。

5. 教科書

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

6. 参考書

伊勢田哲治、『疑似科学と科学の哲学』（名古屋大学出版会、2003年）

内井惣七、『科学哲学入門 — 科学の方法・科学の目的』（世界思想社、1995年）

小林道夫、『科学哲学』（産業図書、1996年）

渡辺正雄、『文化としての近代科学 — 歴史的・学際的視点から』（講談社学術文庫、2000年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

ミニ・レポート 30%、 期末試験 70%

9. その他

連絡先： kurandoo@meiji.ac.jp

研究室： 哲学研究室（3号館4階 401号室）

科目ナンバー (AG)PHL121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
現代倫理学の諸問題

2017～2021 年度入学者
現代倫理学の諸問題

2 単位

長田 蔵人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

急速に発展する科学技術の上に成り立つ現代社会において、私たちは、以前には考えられなかったような倫理的問題に囲まれている。そのような新しい状況の中で、道徳的な行動や決断を迫る問題に対して、私たちはどのような選択肢を持っているのか、またその選択を、いかなる根拠に基づいて行うべきだろうか。この授業では、現代社会が直面している具体的な倫理的問題に対するいくつかの考え方を検討し、各人が「自立的」に考えて判断する力の養成を目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のBに対応する科目である。

《到達目標》

- (1) 問題の要点とその背景を、正確に説明できる。
- (2) 問題に対するさまざまな考え方や議論を批判的に検討し、その良し悪しを評価できる。
- (3) 自分自身の考え方を、筋道を立てて論じることが出来る。

2. 授業内容

- 第1回 aのみ:イントロダクション — 「道徳的」とはどのようなことか
- 第2回 相対主義の問題
- 第3回 主観主義の問題
- 第4回 利己主義の問題
- 第5回 道徳と宗教の関係
- 第6回 功利主義の可能性と問題
- 第7回 義務論の可能性と問題
- 第8回 「良心」とは何か
- 第9回 ケアの倫理の可能性と問題
- 第10回 徳の倫理の可能性と問題
- 第11回 ワークショップ — デートDVについて
- 第12回 社会契約説の可能性と問題
- 第13回 ロールズの正義論
- 第14回 共同体主義の可能性と問題

3. 履修上の注意

出席数が授業回数の3分の2を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。

また、特段の事情がない限り、20分以上の遅刻は出席として認められませんので、注意してください。

履修希望者が100名を越えた場合は、抽選を行います。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ配布されるレジュメと資料を熟読のうえ、疑問点をまとめておくこと。

また授業後は、レジュメを中心にノートを整理し、正確な理解と自分なりの考えを深めたうえで、ミニ・レポート課題を提出する。

5. 教科書

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

6. 参考書

ジェイムズ・レイチェルズ、『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』（晃洋書房、2017年）

児玉聡、『実践倫理学 — 現代の問題を考えるために』（勁草書房、2020年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

ミニ・レポート 30%、 期末試験 70%

9. その他

連絡先： kurandoo@meiji.ac.jp

研究室： 哲学研究室（3号館4階 401号室）

科目ナンバー (AG)PHL191J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
論理的思考の技法

2017～2021 年度入学者
論理的思考の技法

2 単位

長田蔵人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

論理とは、文と文、主張と主張との関係の仕方である。この授業では、「論理的に思考する姿勢」、つまり、言葉や文同士の関係性の意味と正しさに注意を払う姿勢を身につけ、主張の論証、議論の一貫性の保持、議論のよし悪しの判定、推論の正しさの判定、などの実践的な技術の習得を目指す。

授業ではまず、議論を理解・評価するうえで必要となる、「接続」関係と「指示」関係の構造を理解する（第 2～4 回）。ついで、議論のなかでも特に、「論証」と呼ばれるものを取り上げ、そのさまざまなパターンと評価の仕方を学習する（第 6～8 回）。さらに、最も厳格な推論である「演繹」に焦点を絞り、厳密な論理的思考がどのようなものであるかを理解してもらおう（第 10～13 回）。また、それぞれの節目で練習問題に取り組み、学習内容の定着を図る（第 5 回、第 9 回、第 14 回）。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の F に対応する科目である。

《到達目標》

- (1) 議論の構造を正確にとらえ、議論における主張とその根拠を把握することができる。
- (2) 議論の適切性を評価できる。
- (3) 正しい推論形式を身に付け、運用することができる。

2. 授業内容

- 第 1 回 a のみ: イントロダクション — 言葉と論理
- 第 2 回 順接の論理
- 第 3 回 逆説の論理
- 第 4 回 指示の論理および議論の骨格
- 第 5 回 練習問題 (1)
- 第 6 回 論証の構造
- 第 7 回 論証の適切性
- 第 8 回 評価判断の論証と適切性
- 第 9 回 練習問題 (2)
- 第 10 回 帰納的推論
- 第 11 回 否定の論理
- 第 12 回 演繹的推論 (1)
- 第 13 回 演繹的推論 (2)
- 第 14 回 練習問題 (3)

3. 履修上の注意

出席数が授業回数の 3 分の 2 を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。

また、特段の事情がない限り、20 分以上の遅刻は出席として認められませんので、注意してください。

履修希望者が 100 名を越えた場合は、抽選を行います。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回宿題が出されるので、必ずやってくること。

また授業後は、例題や練習問題を再度解き、理解の定着を図るように。

5. 教科書

教科書は使用せず、レジュメを配布す。

6. 参考書

野矢茂樹、『論理トレーニング』（産業図書、1997 年）

野矢茂樹、『論理トレーニング 101 題』（産業図書、2001 年）

金子洋之、『記号論理学入門』（産業図書、1994 年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

課題 30%、 期末試験 70%

9. その他

連絡先： kurandoo@meiji.ac.jp

研究室： 哲学研究室（3 号館 4 階 401 号室）

科目ナンバー (AG)PSY111J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
心理学A

2017～2021年度入学者
心理学A

2単位

浅井健史

1. 授業の概要・到達目標

授業の達成目標及びテーマ

- ・社会心理学の基本概念や発想を理解し、説明できる。
- ・身近な人間行動や社会的問題を心理学的視点から考察できる。

授業の概要

人間は多面的な存在であり、活動領域も広範である。それを反映して「心理学」にも多くの分野がある。「心理学A」では、大学生の日常生活や現代社会のトピックと関連づけながら、社会心理学を中心に人間理解や実践の方法を学ぶ。社会・集団と個人の相互作用から生じる心理的現象を理解するとともに、社会と調和をとりながら私たちの心の健康や幸福を追求していく方途を受講者とする。動画資料の視聴、自ら考える「ワーク」などの体験学習を多く取り入れるため、受講者には主体的・能動的な参加姿勢が求められる。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Gに対応する科目である。

2. 授業内容

以下の内容を予定している。

- 第1回：集団の定義
- 第2回：社会的存在としての人間：人はなぜ集団を求めるのか？
- 第3回：集団心理の基本原則
- 第4回：集団意思決定の心理
- 第5回：群衆行動の心理
- 第6回：災害発生時の心理
- 第7回：リーダーシップの心理
- 第8回：偏見・差別の心理
- 第9回：非倫理的行動の心理
- 第10回：「いじめ」の心理
- 第11回：オンライン・コミュニティの心理
- 第12回：迷惑行動の心理
- 第13回：マインド・コントロールと説得の心理
- 第14回：異文化コミュニケーションと異文化適応の心理

3. 履修上の注意

履修希望者が100名を超えた場合は、抽選を行う。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

初回授業で提示する関連文献リストと各回で紹介する参考文献を活用し、準備学習と発展的学習に努めること。

5. 教科書

クラスウェブにアップしたプリントを用いて講義を進めるため、教科書は使用しない。

6. 参考書

各回の講義で関連文献を紹介する。各自が関心をさらに掘り下げて、学期末レポートに結実させること。

7. 課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーおよび学期末レポートへのフィードバックは、希望者に対してのみ行う。

8. 成績評価の方法

学期末レポート（70%）と各回のリアクションペーパー（30%）で評価。

学期末レポートは、掘り下げた考察がなされているか（50%）、自己の意見が明確に述べられているか（50%）を評価する。

9. その他

質問や連絡は、浅井のメールアドレスまで。

aae19090@gmail.com

科目ナンバー (AG)PSY111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 心理学B	2単位	浅井健史
2017~2021年度入学者 心理学B		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・「心の健康」「心理的支援」に関する基本概念を理解し、説明できる。
- ・心理学の理論・概念を、セルフケアのために活用できる。
- ・心理学の理論・概念を、身近な他者の心をケアするために活用できる。
- ・心理学の理論・概念にもとづき、人々が生きやすい社会のあり方を構想できる。

《授業の概要》

人間は多面的な存在であり、活動領域も広範である。それを反映して「心理学」にも多くの分野がある。「心理学B」では、臨床心理学を中心に「心の健康」に関わる理論と実践方法を学ぶ。自分の「心の健康」を維持・増進するだけでなく、周りの人々や社会全体の「心の健康」を守るための方途を受講者と考える。動画の視聴、自ら考える「ワーク」などの体験学習を多く取り入れるため、受講者には主体的・能動的な参加姿勢が求められる。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Gに対応する科目である。

2. 授業内容

以下の内容を予定している。

- 第1回：ストレス・マネジメント (1) - ストレス概念とコーピング
- 第2回：ストレス・マネジメント (2) - 認知行動療法、自律訓練法
- 第3回：ストレス・マネジメント (3) - マインドフルネス、アサーション
- 第4回：「居場所」と心の健康 (1) - 大人の居場所
- 第5回：「居場所」と心の健康 (2) - 子どもの居場所
- 第6回：大学生期と「アイデンティティ」の形成
- 第7回：心理アセスメントによる人間理解
- 第8回：心理検査とパーソナリティの測定
- 第9回：心の専門家によるカウンセリング (1) - カウンセリング概説
- 第10回：心の専門家によるカウンセリング (2) - カウンセリングの方法
- 第11回：心の専門家によるコミュニティ支援
- 第12回：ピアサポートと勇気づけの心理 (1) - ピアサポートの意義
- 第13回：ピアサポートと勇気づけの心理 (2) - 言葉の影響
- 第14回：ピアサポートと勇気づけの心理 (3) - 支え合いの力

3. 履修上の注意

履修希望者が100名を超えた場合、抽選を行う。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

初回の授業で提示する関連文献リスト、各回で紹介する参考文献を活用し、準備学習と発展的学習に努めること。

5. 教科書

クラスウェブにアップしたプリントを用いて講義を進めるため、教科書は使用しない。

6. 参考書

各回の講義で関連文献を紹介する。各自が関心をさらに掘り下げて、学期末レポートに結実させること。

7. 課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーおよび学期末レポートへのフィードバックは、希望者に対してのみ行う。

8. 成績評価の方法

学期末レポート（70%）と各回のリアクションペーパー（30%）で評価。

学期末レポートは、選択したテーマについて掘り下げた考察がなされているか（50%）、自己の意見が明確に述べられているか（50%）を評価する。

9. その他

質問や連絡は浅井のメールアドレスまで。

aae19090@gmail.com

科目ナンバー (AG)LIT111J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 日本文学（1）	2 単位	西連寺成子
2017～2021 年度入学者 日本文学（1）		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

当授業のテーマは、日本近代文学を代表する作家の作品を通して、人間や社会、制度、歴史等について考察を深めることである。また、作品を細やかに読み解く中で、豊かな人間性と他者への想像力を培っていくことも大切にしたい。趣味で本を読む姿勢とは異なる作品への向き合い方と解釈の仕方を身につけ、文学から深く学び取る力を得ることを達成目標とする。

近代文学は現代の若者にとっては遠い時代のものであり、手に取る機会も少ないだろう。だが、普遍的なテーマを持ち、現代社会に通じる問題を浮かび上がらせる作品は数多く存在する。そのような近代文学を読む楽しさも味わってみたいと思う。

《授業の概要》

授業は講義が中心になるが、受け身に聴くだけでなく各自の解釈も大切にしてほしいと考えている。中間テストや期末試験では作品に対する自分の意見や解釈などを書く機会があるので、受講生各自の積極的な取り組みを期待する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション・日本近代文学概説

第2回：樋口一葉「にぎりえ」

第3回：樋口一葉「にぎりえ」

第4回：田山花袋「一兵卒」

第5回：田山花袋「一兵卒」

第6回：芥川龍之介「奉教人の死」

第7回：芥川龍之介「奉教人の死」

第8回：中間テスト

第9回：川端康成「伊豆の踊子」

第10回：川端康成「伊豆の踊子」

第11回：川端康成「伊豆の踊子」

第12回：宮沢賢治「土神ときつね」他短編

第13回：坂口安吾「桜の森の満開の下」

第14回：坂口安吾「桜の森の満開の下」

※上記はあくまで目安である。進行上の必要に応じて、扱う作品の回数を変更する場合もある。

3. 履修上の注意

授業には必ずテキスト（プリント）を持参すること。テキストは授業を受ける前に読み終わっていること。以上を前提に授業を進める。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、作品は必ず授業の前に読み終えておくこと。ストーリーを確認するだけでなく、わからない言葉の意味などを調べておくこと。

講義の中ではテキストに傍線などの書き込みを行うこともある。復習では、講義の内容を振り返りながら、ノートにわかりやすくまとめておくことが望ましい。

5. 教科書

テキストはオンライン上にて事前に配布するので、授業前に各自でプリントアウトしておくこと。

配布困難なテキストの場合は「青空文庫」（インターネットの電子図書館）HPや入手しやすい文庫本を案内する。

6. 参考書

『本の読み方 スロー・リーディングの実践』平野啓一郎（PHP 新書）

7. 課題に対するフィードバックの方法

中間テストの後に口頭解説を行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%、中間テスト 40%、授業貢献度 10%

なお、私語や周囲への迷惑行為があった場合は総合評価より減点する。

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する。

連絡先：最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)LIT111J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
日本文学(2)

2単位

松下浩幸

2017~2021年度入学者
日本文学(2)

1. 授業の概要・到達目標

夏目漱石と日本の近代—恋愛・家族・他者—

夏目漱石の作品に描かれた近代日本の問題点は、三角関係という男女の〈恋愛〉を通して描かれる。それは多くの場合〈友情〉を裏切り、また〈家族〉との葛藤を引き起こす。西洋化を突き進む明治時代の日本人が直面したアイデンティティー（存在証明）の揺らぎを、漱石はなぜ〈恋愛〉の問題として描いたのだろうか。この授業では漱石作品のジェンダー表象（男らしさ／女らしさ）に注目し、作品世界を形作っている文化的・歴史的背景を掘り起こしながら、漱石が描く近代日本の姿を、恋愛・家族・他者という3つのキーワードを通して考察する。また原作と映画との比較も行う。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。

2. 授業内容

- 〔第1回〕イントロダクション 夏目漱石が生きた時代
- 〔第2回〕夏目漱石という作者(1) —生立ち・イギリス留学・職業作家
- 〔第3回〕夏目漱石という作者(2) —生立ち・イギリス留学・職業作家
- 〔第4回〕夏目漱石という作者(3) —生立ち・イギリス留学・職業作家
- 〔第5回〕『こころ』(1) —先生と青年—
- 〔第6回〕『こころ』(2) —先生と青年—
- 〔第7回〕『こころ』(3) —地方と家族—
- 〔第8回〕『こころ』(4) —地方と家族—
- 〔第9回〕『こころ』(5) —三角関係と明治時代の学生—
- 〔第10回〕『こころ』(6) —三角関係と明治時代の学生—
- 〔第11回〕映画「こころ」(監督・市川崑)との比較(1)
- 〔第12回〕映画「こころ」(監督・市川崑)との比較(2)
- 〔第13回〕『こころ』(7) —「明治の精神」そして人間の〈心〉とは何か—
- 〔第14回〕漱石の文明批評

3. 履修上の注意

授業には必ずテキストおよび配布プリントを持参すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習: 指定された章を読んで授業に臨むこと。また、物語内容を追うだけでなく、わからない言葉の意味などを調べておくこと。

復習: 講義内容をノートにまとめ、また授業で紹介した文献などに目を通しておくこと。

5. 教科書

夏目漱石『こころ』(新潮文庫)などの文庫本を各自で用意すること。

6. 参考書

- ・夏目鏡子『漱石の思い出』(文春文庫)
- ・江藤淳『漱石とその時代』全5巻 新潮選書・
- ・三好行雄編『夏目漱石事典』学燈社
- ・江藤淳編『朝日小事典 夏目漱石』朝日新聞社
- ・中島国彦『漱石の地図帳』大修館書店
- ・宮地正人他著『ビジュアル・ワイド 明治時代館』小学館

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業においてリアクションペーパーの内容について適宜、応答する。

8. 成績評価の方法

毎回の出席+リアクション・ペーパーの作成(30%)、および期末試験(70%)により評価する。また、単位取得のためには全体の3分の2以上の出席を原則とする。

9. その他

オフィスアワー 月曜日 13:00~14:30
研究室・第一校舎3号館402号(日本語研究室)

科目ナンバー (AG)LIT131J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
外国文学

2017～2021 年度入学者
外国文学

2 単位

狩野晃一

1. 授業の概要・到達目標

ジェフリー・チョーサー (c1342/3-1400) の作品を通して中世ヨーロッパ文化に触れ、理解することを目標とする。

ジェフリー・チョーサーの代表作『カンタベリ物語』(c1386-1400) を中心にして、中世の文学、文化 (美術、音楽)、歴史などを概観する。『カンタベリ物語』の世界や中世文学の魅力を味わう。

2. 授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 中世イギリス文学概観
- 第3回 チョーサーの人生
- 第4回 チョーサーの英語
- 第5回 中世ラテン文学
- 第6回 中世フランス文学
- 第7回 中世イタリア文学
- 第8回 中世の美術
- 第9回 中世の音楽
- 第10回 チョーサーの文学1
- 第11回 チョーサーの文学2
- 第12回 チョーサーの文学3
- 第13回 中世文学の伝統1
- 第14回 中世文学の伝統2
- 第15回 まとめ レポート／試験

3. 履修上の注意

今までにあまり触れたことのない文学世界かもしれないので、作品をあらかじめ読んで参加してほしい。積極的な参加を求めます。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

あらかじめ指定された箇所を読んで来ること。

5. 教科書

池上忠弘『チョーサー巡礼』(悠書館、2022年)

6. 参考書

チョーサー『カンタベリ物語』(悠書館、2021年)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業内の発言等30% レポートまたは期末試験70%

9. その他

科目ナンバー (AG)LIN111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ことばと文化A

2017~2021 年度入学者
ことばと文化A

2 単位

下永裕基

1. 授業の概要・到達目標

「言語を思考対象とする意義をさぐる（英語学編）」

言語はわれわれにとって最も身近なもののひとつであり、また思考の道具として、大学に学ぶ者はその重要性をしっかりと認識すべきものでもありません。

したがって言語についてある程度学問的にとらえ、見つめなおすことは、その知的生活において大きな意味のあることです。

日本語・英語・第二外国語として学ぶ言語、そのほか世界には多くの言語が存在しますが、それぞれは孤立した存在ではありません。そればかりか、言語は人間の思考パターンや世界の認識法と密接にかかわっていることから、言語の枠を超えて普遍的にみられる現象が存在するのです——意味変化・音韻変化・言語の誕生と死など。そうしたテーマを学ぶことによって、言語についての理解を深め、学生諸君の世界についての理解がより成熟したものとなることを、この講義は目指しています。

《授業の概要》

多くの学生が第二言語として接する「英語」について、それを歴史的側面を中心にさまざまな角度から眺めてみたい。そのうえで英語の歴史において生じている出来事をより身近に感じられるように、日本語の事例を考察する機会も多く取り入れる予定です。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回：Introduction：英語はいつから「国際共通語」なのか？

第2回：英語をさかのぼる——メディアの変化とともに

第3回：英語とはなにか——印欧語族の世界

第4回：単語の出自——三層の同義語と外来語

第5回：意味は広がり、変化する

第6回：英語史にみる発音と綴り字の変化

第7回：英語史にみる文法の変化（1）——名詞と語順

第8回：英語史にみる文法の変化（2）——代名詞と動詞

第9回：英語史にみる文法の変化（3）——形容詞と副詞

第10回：世界に広がる英語（1）——辺境言語コンプレックスの克服

第11回：世界に広がる英語（2）——英語・米語・Englishes と和製英語

第12回：変わる力・抑える力——教育と言語

第13回：品詞の転換——“Google”は名詞なのか？

第14回：英語の歴史が映し出すもの

定期試験期間中に期末試験を行う。

なお、やむを得ない事情により、この通りに展開しない場合がありますが、その場合は授業時に変更を告知するので、それにしただけでください。

3. 履修上の注意

遅刻厳禁（授業冒頭にリアクション・ペーパーが配布されます）。

なお、リアクション・ペーパーは、単に提出すればよいものではなく、読み手に誤解なく伝わる言葉の使い方を常に意識して記入し、提出してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

言語を観察するうえでのさまざまなポイントが、講義において紹介されます。

それらを参考にしつつ、ふだんから「ことば」をよく観察し、面白いと感じる点を見つけ、それを漠然とした印象ではなく、「なにが」「どのように」面白く感じたかを表現できるよう、感性を磨いておいてください。そうした感性によって気づいたことを言語化する（verbalize）ことが、授業のより深い理解に役立ちます。

（なお、授業時のリアクション・ペーパーや定期試験の自由記述では、そうした感性が評価されます。）

参考書籍は下記のもの以外にも多数、講義で紹介いたしますので、それらをぜひ読んでさらに理解を深めてください。

5. 教科書

ハンドアウト教材を使用。

6. 参考書

織田哲司（著）、『英語の語源探訪』（大修館書店）。

寺澤盾（著）、『英語の歴史—過去から未来への物語』（中公新書）。

ブラッグ、メルヴィン（著）三川基好（訳）『英語の冒険』（講談社学術文庫）。

渡部昇一（著）、『英語の歴史』（大修館書店）。

渡部昇一（著）、『英文法を撫でる』（PHP新書）。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題はリアクションの提出です。講義内容への単なる感想ではなく、個々人の「ことば」観を踏まえたリアクションについて、そのフィードバックを各回講義の冒頭で、口頭で行い、他の受講者と分かち合います。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業出席数の3分の2以上）が、期末試験を受けるための条件である。

そのうえで定期試験期間中に行う期末試験90%、平常のリアクション・ペーパー10%。

リアクション・ペーパーは、単に提出すればよいものではなく、読み手に誤解なく伝わる言葉の使い方を常に意識して記入し、提出してください。

9. その他

研究室は3号館4階、3-405にある。

オフィスアワー：火曜 16時～17時。水曜 13時30分～16時。

オフィスアワー以外でも、在室時には可能な限り、対応します。

授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先 = ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LIN111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ことばと文化B	2 単位	下永裕基
2017～2021年度入学者 ことばと文化B		

1. 授業の概要・到達目標

「言語を思考対象とする意義をさぐる（言語学編）」

言語はわれわれにとって最も身近なもののひとつであり、また思考の道具として、大学に学ぶ者はその重要性をしっかりと認識すべきものでもありません。

したがって言語についてある程度学問的にとらえ、見つめなおすことは、その知的生活において大きな意味のあることです。

日本語・英語・第二外国語として学ぶ言語、そのほか世界には多くの言語が存在しますが、それぞれは孤立した存在ではありません。そればかりか、言語は人間の思考パターンや世界の認識法と密接にかかわっていることから、言語の枠を超えて普遍的にみられる現象が存在するのです——意味変化・音韻変化・言語の誕生と死など。そうしたテーマを学ぶことによって、言語についての理解を深め、学生諸君の世界についての理解がより成熟したものとなることを、この講義は目指しています。

《授業の概要》

日本語や英語を中心にして、言語一般にみられる諸現象と人間の文化的営みとのかかわりを論じます。言語を考察する上で、歴史的観点からの観察と、共時的観点からの観察の双方の重要性を指摘します。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回：ことばを考察する意味

第2回：記号とことば

第3回：人間にとっての「ことば」と「文化」

第4回：言語・民族・国家・文化の関係性

第5回：地方語・共通語・国際語と民主化・グローバル化

第6回：ある文明語の死——言語が廃用となることについて

第7回：人工言語の試み（1）

第8回：人工言語の試み（2）

第9回：言語と文字（1）

第10回：言語と文字（2）

第11回：世界に意味を与える言語（1）

第12回：世界に意味を与える言語（2）

第13回：世界観とメタファー

第14回：人間とともに歩む言語——手話の事例から

定期試験期間中に期末試験を行う。

3. 履修上の注意

遅刻厳禁（授業冒頭にリアクション・ペーパーが配布されます）。

なお、リアクション・ペーパーは、単に提出すればよいものではなく、読み手に誤解なく伝わる言葉の使い方を常に意識して記入し、提出してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

言語を観察するうえでのさまざまなポイントが、講義において紹介されます。

それらを参考にしつつ、ふだんから「ことば」をよく観察し、面白いと感じる点を見つけ、それを漠然とした印象ではなく、「なにが」「どのように」面白く感じたかを表現できるよう、感性を磨いておいてください。そうした感性によって気づいたことを言語化する（verbalize）ことが、授業のより深い理解に役立ちます。

（なお、授業時のリアクション・ペーパーや定期試験の自由記述では、そうした感性が評価されます。）

参考書籍は下記のもの以外にも多数、講義で紹介いたしますので、それらをぜひ読んでさらに理解を深めてください。

5. 教科書

ハンドアウト教材を使用。

6. 参考書

池上忠彦（著）、『記号論への招待』（岩波新書）。

佐々木 健一（著）、『辞書になった男 ケンポー先生と山田先生』（文藝春秋）

祖父江 孝男（著）、『文化人類学入門』（中公新書）。

ハリソン、K. デイビッド（著）、川島満重子（訳）、『亡びゆく言語を話す最後の人々』（原書房）。

渡部昇一（著）、『英語の語源』（講談社現代新書）。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題はリアクションの提出です。講義内容への単なる感想ではなく、個々人の「ことば」観を踏まえたリアクションについて、そのフィードバックを各回講義の冒頭で、口頭で行い、他の受講者と分かち合います。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の3分の2以上）が、期末試験を受けるための条件である。

そのうえで定期試験期間中に行われる期末試験90%、平常のリアクション・ペーパー10%。

リアクション・ペーパーは、単に提出すればよいものではなく、読み手に誤解なく伝わる言葉の使い方を常に意識して記入し、提出してください。

9. その他

研究室は3号館4階、3-405にある。

オフィスアワー：火曜 16時～17時。水曜 13時30分～16時。

オフィスアワー以外でも、在室時には可能な限り、対応します。

授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先 = ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LIN131J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
日本語表現A (1) (2)

2 単位

西連寺成子

2017~2021 年度入学者
日本語表現A (1) (2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

読むことや書くことに対して私達はさほど訓練の必要がないものと思いがちである。しかし、実際には読みこなすことの困難な文章に遭遇したり、紙を前にしても書くことができずに躊躇した覚えがある者は少なくないだろう。殊に大学という学びの場において、日本語能力は大きく影響してくると考えられる。そこで当授業のテーマを他の学習の基礎になる文章の読解や文章作成に必要な力を養うこととし、主に論理的な文章能力の充実を図ることを達成目標とする。

《授業の概要》

授業では文章表現に関する基本的事項を確認しながら、論理的文章の読解や作成を繰り返すことが中心となる。受講生には毎回何らかの課題について作業し提出してもらうことになる。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：aタームのみ：イントロダクション

第2回：論理的な文章における基礎事項の確認 (1) 文のねじれ・接続語

第3回：論理的な文章における基礎事項の確認 (2) パラグラフ

第4回：レポート作成の注意点 (引用・参考文献記載の方法など)

第5回：縮約文～社説から学ぶ

第6回：論理的文章の読解 (1) 短めの文章

第7回：論理的文章の読解 (2) 長めの文章

第8回：論理的文章の読解 (3) 長めの文章

第9回：論証

第10回：文章表現・表記に関する基礎事項の確認 (悪文訂正・原稿用紙の使い方など)

第11回：小論文の作成 (1)

第12回：小論文の作成 (2)

第13回：小論文の作成 (3)

第14回：補足説明、まとめ

※小論文の作成では、実施回ごとに異なる課題に取り組む。

※必要に応じて授業内容や順番に変更が生じる場合がある。

3. 履修上の注意

・文章の添削指導を行うので、履修希望者が40名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録 (日本語表現B) も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

・授業で取り組んだ課題は、授業終了時まで提出することを原則とする。オンライン上での提出を認める場合でも、教室にとどまって課題に取り組み授業時間内に提出をすること。例外を除き、課題の持ち帰りや授業時間外の提出、後日提出は許可しない。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

復習として、当日行った授業の内容をノートにわかりやすくまとめ、使用した文献については読み直して理解を深めること。授業で取り組んだ練習問題や文章作成の返却物を見直して、不十分だった点を確認し次の課題に生かすようにすること。

5. 教科書

教科書は指定しない。作業に必要な資料等はプリントを配布する。

6. 参考書

『最新版 論文の教室—レポートから卒論まで』戸田山和久 (日本放送出版協会)

『文章工房—表現の基本と実践』中村明 (ちくま新書)

『悪文—裏返し文章読本』中村明 (ちくま新書)

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出課題は、採点または添削の上、各自に返却する。

また、必要に応じて授業内での課題の振り返りや解説を行う。

8. 成績評価の方法

毎回の課題提出とその評価 (70%)、及び期末試験の評価 (30%) によって行う。また、全体の3分の2以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する。

連絡先：最初の講義で提示する。

科目ナンバー (AG)LIN131J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
日本語表現A (3) (4)

2 単位

川島みどり

2017~2021 年度入学者
日本語表現A (3) (4)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

私たちは日々、「ことば」と葛藤しながら思考を構築し、他者とのコミュニケーションを繰り返している。この授業を通して「ことば」の重要性を自覚し、さまざまな状況において適切な文章を創出できる力を身に付けてもらいたい。自分と他者をつなぐ「ことば」を磨くとともに、みずからの論理的思考力・表現の可能性を広げてゆくことが本授業の目標である。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。

《授業の概要》

日本語表現の根幹となる「書く」力の向上を目的とし、さまざまな状況に応じた論理的文章作成方法を習得するための実践的授業を行う。大学生としてだけでなく、社会人にとっても必要な論述文の基礎を身に付けよう。文章表現の授業である以上、要約文・説明文・資料意見文など毎回テーマに沿った演習問題や作文課題に取り組むことになる。また、「伝わる」文章・説得力のある文章を書くためには、自己を見つめ直すための他者が不可欠である。教員による添削指導はもちろん、ペアワークや相互評価など学生間のコミュニケーションを通して、刺激しあいながらスキルアップしていきたい。各課題に真摯に向き合い、確かな文章構成力・論理的文章を書く力を養おう。

2. 授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション——履修者確認と授業上の注意点。
- 第2回 基礎を学ぶ〈1〉—原稿用紙のルールを学ぶ。
- 第3回 基礎を学ぶ〈2〉—語彙・表現力を高める。
- 第4回 文章を組み立てる〈1〉—パラグラフライティングを学ぶ。
- 第5回 文章を組み立てる〈2〉—推敲を学ぶ。
- 第6回 要点をつかむ〈1〉—文章の要約を学ぶ。
- 第7回 要点をつかむ〈2〉—資料活用を学ぶ。
- 第8回 レポートの基本—構成・引用のルールを学ぶ。
- 第9回 情報を収集しまとめる〈1〉—推薦文の書き方を学ぶ。
- 第10回 情報を収集しまとめる〈2〉—インタビュー・聞き取り力を高める。
- 第11回 情報を収集しまとめる〈3〉—インタビュー・まとめる力を高める。
- 第12回 批評をする——コメント力を高める。
- 第13回 意見を述べる〈1〉—根拠を示し、意見を述べる。
- 第14回 意見を述べる〈2〉—反論を想定し、意見を述べる。

3. 履修上の注意

文章の添削指導を行うので、履修希望者が40名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録（日本語表現B）も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次回授業についての課題を課す場合と、授業内容の振り返りプリント等を配布する場合がある。指示に従い、適宜予習復習を行ってほしい。

5. 教科書

特に指定しない。講義の際に必要な資料・教材を配布する。

6. 参考書

- 梅田卓夫『文章表現 四〇〇字からのレッスン』（筑摩書房）
- 樺島忠夫『文章術——「伝わる書き方」の練習』（角川学芸出版）
- 野村進『調べる技術・書く技術』（講談社現代新書）
- 石黒圭『「読む」技術——速読・精読・味読の力をつける』（光文社新書）
- 木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で課題の講評を行う。また、添削対象作文の課題については、随時 Oh-no! Meiji を通して個別にフィードバックを行うので、確認してほしい。

8. 成績評価の方法

毎回の課題提出とその評価（70%）、及び期末試験の評価（30%）によって行う。また、全体の3分の2以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー・連絡先は最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)LIN131J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 日本語表現A(5)(6)	2単位	松下浩幸
2017~2021年度入学者 日本語表現A(5)(6)		

1. 授業の概要・到達目標

「高く登ろうと思うなら、自分の脚を使うことだ。」(ニーチェ)

文章作成能力向上のためのトレーニング、及び総合的なコミュニケーション・スキルの習得を行う。

授業は基本的に作業(文章を書く)と講評(書かれたものの中から優れたものを取り上げて学び合う)によって進めていく。

「理屈」よりも「実践」を、というのがこの授業のモットーである。練習すれば上達する。だが、そのためには自分なりの「コツ」をつかむ必要がある。書くことを中心に上手に読み・聞き・話すためのヒントを、少しでもこの授業から習得してもらえればと思う。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 「イントロダクション」(履修の仕方、授業の進め方、アンケートなど)
 - 第2回 文章はいかに書かれているか1(内容把握の方法1)
 - 第3回 文章はいかに書かれているか2(内容把握の方法2)
 - 第4回 「形式」は「内容」を規定する(構成パターンの習得)
 - 第5回 情報整理の能力(要約のすすめ)
 - 第6回 情報収集とメモの取り方1(映像を図化する)
 - 第7回 情報収集とメモの取り方2(インタビュー記事を書く)
 - 第8回 物語に学ぶ(構成力を鍛える)
 - 第9回 自己PRの〈文法〉(具体的に書く)
 - 第10回 反時代的考察(コメント力を鍛える)
 - 第11回 方法としてのディベート(両義性を考える)
 - 第12回 「意見」の書き方1(データを読む)
 - 第13回 「意見」の書き方2(コラムを読む)
 - 第14回 批評する力(考察力を鍛えるために)
- ※授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

文章の添削指導を行うので、履修希望者が40名を越えた場合は抽選を行う。

また、秋学期の履修登録(日本語表現B)も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。

ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。

なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習一授業で示した課題について各自で考え、準備をしておく。

復習一添削された課題を再考し、正確な文章表現と課題に対する理解を深める。

5. 教科書

教科書は指定しない。必要な資料や教材はその都度、配布する。

6. 参考書

小坂修平『考える技術』(PHP新書)

荒木晶子他『自己表現の教室』(情報センター出版局)

小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)

岩淵悦太郎『悪文』(角川ソフィア文庫)

本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)

花村太郎『知的トレーニングの技術』(ちくま学芸文庫)

齋藤孝『原稿用紙10枚を書く力』(だいわ文庫)

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業において適宜、課題についてのコメントを、個別または全体に対して行う。

8. 成績評価の方法

毎回の課題提出とその評価(70%)、及び期末試験の評価(30%)によって行う。

また、全体の3分の2以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー 月曜日 13:00~14:30

研究室・第一校舎3号館4階402号(日本語研究室)

科目ナンバー (AG)LIN131J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
日本語表現 B (1) (2) (3)

2 単位

西連寺成子

2017~2021 年度入学者
日本語表現 B (1) (2) (3)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

自己を伝えることも他者とコミュニケーションを取ることも、言葉に対して無自覚な状態のままでは適切な対応ができない。日本語に対する意識を高めること、これが当授業の主要テーマである。

たとえば読み手の記憶に残り、感動を与え、感性に訴えかけるような文章はどのような言語表現上の工夫によって成立するのか、書く練習を重ねながらその技術を身に付ける。また、敬語や手紙、メールの正しい用法や自己PRに関する表現のこつを知り、的確に相手に伝えていく方法を習得する。

さらに、私達が当たり前のように使用している日本語の歴史について学び、言葉への漫然とした向き合い方を改める一つの機会として生かしてもらいたいと考える。

様々な方法と知識を身に付けることで、より良い日本語の表現者となることが当授業の達成目標である。

《授業の概要》

授業では、講義内容に応じた課題に毎回取り組むことになる。課題は文章作成のほか練習問題などを予定している。「日本語の歴史から」の授業においても同様である。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション・自己PR文作成準備

第2回：自己PR文を書く

第3回：敬語（1）

第4回：敬語（2）

第5回：作文～読者をひきつける工夫を知る

第6回：作文を書く（1）

第7回：作文を書く（2）

第8回：手紙とメール

第9回：日本語の歴史から（1）文字の話

第10回：日本語の歴史から（2）文体の話

第11回：日本語の歴史から（3）「国語」の話

第12回：日本語の歴史から（4）前衛的な表現の話

第13回：書評

第14回：aタームのみ：補足説明など

※必要に応じて授業内容や順番に変更が生じる場合がある。

3. 履修上の注意

・文章の添削指導を行うので、履修希望者が40名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録（日本語表現B）も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

・授業で取り組んだ課題は、授業終了時まで提出することを原則とする。オンライン上での提出を認める場合でも、教室にとどまって課題に取り組み、授業時間内に提出をすること。例外を除き、提出課題の持ち帰りや授業時間外の提出、後日提出は許可しない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・復習として、当日行った講義の内容をノートにわかりやすくまとめておくこと。特に「日本語の歴史から」の授業では、自分でノートを作って理解を深めることが肝要である。

・授業中に取り組んだ練習問題や文章作成の返却物を見直して、不十分だった点を確認し次の課題に生かすようにすること。

5. 教科書

教科書は指定しない。作業に必要な資料等はプリントを配布する。

6. 参考書

『文章の書き方』辰濃和男（岩波新書）

『文章のみがき方』辰濃和男（岩波新書）

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出課題は採点または添削の上、各自に返却する。

また、必要に応じて授業内で課題の振り返りや解説を行う。

8. 成績評価の方法

毎回の課題提出とその評価（70%）、及び期末試験（30%）によって行う。また、全体の3分の2以上の課題提出を単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する。

連絡先：最初の講義で提示する。

科目ナンバー (AG)LIN131J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
日本語表現B(4)(5)

2017~2021年度入学者
日本語表現B(4)(5)

2単位

川島みどり

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

「ことば」は、自己表現に欠かせないものである。しかし、私たちは「ことば」を十分に使いこなせていると言えるだろうか。この授業を通して、「ことば」への意識を高めるとともに、文章表現を工夫・模索し、「私」の思いや考えを発信する力を獲得してもらいたい。自己表現を追求することは、自己と真摯に向き合い、自分を見つめ直す機会となるだろう。文章表現はもとより、己を知り、自己の可能性を広げてゆく試みの場でもあることを認識してもらいたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。

《授業の概要》

日本語表現の根幹となる「書く」力の向上を目的とし、効果的な文章作成のための実践的授業を行う。紹介文や手紙文、エントリーシートなど、自己を語る文章の作成を通して、自己と向き合い、自分の「核」を探ることとなる。また、教員による添削指導や講評・学生間のペアワークや相互評価など他者との交流を通して、「私」を読み手にアピールする工夫・技術を高めてゆこう。各課題を通して、表現の多様性や語彙の豊かさを育み、「私」を伝える文章を生き生きと書く力を伸ばしてゆきたい。

2. 授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション——履修者確認と授業上の注意点。
- 第2回 文章の基本を確認する—語彙力・文の構成力を高める。
- 第3回 「私」を伝える〈1〉—レビューの書き方を学ぶ。
- 第4回 思いを伝える〈1〉—メール文書作成・敬語表現を学ぶ。
- 第5回 思いを伝える〈2〉—葉書の書き方を学ぶ。
- 第6回 思いを伝える〈3〉—手紙文の書き方を学ぶ。
- 第7回 「私」を伝える〈2〉—自己紹介文作成・表現の工夫を学ぶ。
- 第8回 推敲する—自己紹介文推敲・推敲力を高める。
- 第9回 批評する—ブックレビュー相互評価・コメント力を高める。
- 第10回 「私」の人生を考える〈1〉—エッセイ作成・表現力を高める。
- 第11回 「私」の人生を考える〈2〉—語彙の確認・履歴書の書き方を学ぶ。
- 第12回 「私」の人生を考える〈3〉—エントリーシートの書き方を学ぶ。
- 第13回 「私」の人生を考える〈4〉—エントリーシート作成・アピール力を高める。
- 第14回 マナーを学ぶ—電話応対を学ぶ。

3. 履修上の注意

文章の添削指導を行うので、履修希望者が40名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録(日本語表現B)も春学期に行い、春・秋学期ともに、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

次回授業についての課題を課す場合と、授業内容の振り返りプリント等を配布する場合がある。指示に従い、適宜予習復習を行ってほしい。

5. 教科書

特に指定しない。講義の際に必要な資料・教材を配布する。

6. 参考書

- 梅田卓夫『文章表現 四〇〇字からのレッスン』(筑摩書房)
- 榊島忠夫『文章術——「伝わる書き方」の練習』(角川学芸出版)
- 野村進『調べる技術・書く技術』(講談社現代新書)
- 石黒圭『「読む」技術——速読・精読・味読の力をつける』(光文社新書)
- 木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書)

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で課題の講評を行う。また、添削対象作文の課題については、随時 Oh-no! Meiji を通して個別にフィードバックを行うので、確認してほしい。

8. 成績評価の方法

毎回の課題提出とその評価(70%)、及び期末試験の評価(30%)によって行う。また、全体の3分の2以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー・連絡先は最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)LIN131J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
日本語表現 B (6)

2017~2021 年度入学者
日本語表現 B (6)

2 単位

松下浩幸

1. 授業の概要・到達目標

「読むことは人を豊かにし、話し合うことは人を機敏にし、書くことは人を確かにする。」(フランシス・ベーコン)

本授業では「自分史」を書くことを通して、実践的な文章作成のトレーニング及び総合的なコミュニケーション・スキルの習得をめざす。書くことは考えることと同義である。深く考え表現するためには、やみくもに練習するのではなく、適切な「技術」の習得が必要である。書くことを中心に、上手に読み・聞き・話すためのヒントを、少しでもこの授業から習得してもらえればと思う。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A・F に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第 1 回 イントロダクション (履修者の確認・授業上の注意点) + 練習問題
- 第 2 回 人間と言葉の関係を考える 1 (映画「マイ・フェア・レディ」前半)
- 第 3 回 人間と言葉の関係を考える 2 (映画「マイ・フェア・レディ」後半)
- 第 4 回 思考マップの活用 1 (世界と私をつなぐもの一物)
- 第 5 回 思考マップの活用 2 (世界と私をつなぐもの一場所)
- 第 6 回 思考マップの活用 3 (世界と私をつなぐもの一想像力)
- 第 7 回 引用文をどう活かすか (他者の言葉 1)
- 第 8 回 自己評価と向き合う (他者の言葉 2)
- 第 9 回 セルフイメージを考える (他者の言葉 3)
- 第 10 回 失敗から学ぶ
- 第 11 回 メールの書き方
- 第 12 回 反省と抱負
- 第 13 回 手紙の力 (想いを伝える)
- 第 14 回 私の未来予想図

※授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

文章の添削指導を行うので、履修希望者が 40 名を越えた場合は抽選を行う。また、秋学期の履修登録 (日本語表現 B) も春学期に行い、抽選後の履修変更は行えないので注意すること。ただし、秋学期は人数に余裕のある場合のみ追加募集を行う。なお、初回の授業で、履修上の注意点や授業内容について詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習一授業で示した課題について各自で考え、準備をしておく。復習一添削された課題を再考し、正確な文章表現と課題に対する理解を深める。

5. 教科書

教科書は指定しない。必要な資料や教材はその都度、配布する。

6. 参考書

榎本博明『〈私〉の心理学的探究—物語としての自己の視点から—』(有斐閣選書)
梅田卓夫『文章表現 400 字からのレッスン』(ちくま学芸文庫)
本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)
岩淵悦太郎『悪文』(角川ソフィア文庫)
花村太郎『思考のための文章読本』(ちくま学芸文庫)
齋藤孝『原稿用紙 10 枚を書く力』(だいわ文庫)

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業において適宜、課題についてのコメントを、個別または全体に対して行う。

8. 成績評価の方法

毎回の課題提出とその評価 (70%)、及び期末試験の評価 (30%) によって行う。また、全体の 3 分の 2 以上の課題提出を、単位取得のための最低条件とする。

9. その他

オフィスアワー 月曜日 13:00~14:30
研究室・第一校舎 3 号館 402 号 (日本語研究室)

科目ナンバー (AG)ART111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 文芸思潮	2 単位	高瀬智子
2017～2021年度入学者 文芸思潮		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標およびテーマ》

どのような分野でも、パイオニアとよばれる人々の勇気と忍耐力なくしては、新たな扉が開かれることはありませんでした。「文芸」の世界の歴史、これは、フランスでは、演劇界、ひいては芸術界全体、また社会現象とも結びついてきます。フランスと日本の演劇・舞踊・絵画に関する交流、特に19世紀から20世紀への転換期における日仏芸術交流を紐解くことで、その頃の日本のアーティストの夢みていた未来を追体験すると同時に、そこから脈々と続く流れの中に身を置き、現代に生きる我々がさらなる未来を切り開くある種のヒントとなる視点を得ることが、本講義の目指すところです。

《授業の概要》

たとえば、現代の舞台芸術、映画、テレビやネット配信のドラマに「女優」という存在は欠かせないの言うまでもないことですが、日本では、この近代的な意味での「女優」は、明治時代半ばまで事実上存在してはいませんでした。その誕生秘話には、未知の世界に飛び込んでいった日本のアーティストたちの姿がありました。一体どのような人たちだったのでしょうか？

また、そこに当時の技術、テクノロジーはどのように関わっていたのでしょうか？19世紀から20世紀にかけて、鎖国から開国へ、グローバルな世界へと向かっていった日本の演劇界のアーティストと、1900年パリ万博から巻き起こった”Sadayacco”ブームについて、色々な側面から考察していきます。彼らの残した「問いかけ」はその後、フランスの演劇界にも波及していきます。異文化の出会いから何が生まれていったのでしょうか。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目です。

2. 授業内容

- [第1回] イントロダクション
- [第2回] 日仏交流ことはじめ『絹と光』
- [第3回] 翻訳・通訳の果たした役割：ちょっと脱線『不思議の国のパート』
- [第4回] 最初に翻訳されたフランス語の書籍は何だったのか？
- [第5回] 浮世絵の世界：ゲスト講師（予定）
- [第6回] パリの美術館事情～ジャポニスムって何？
- [第7回] 19世紀のパリ万国博覧会
- [第8回] 19世紀日本のラップ「オッペケペー」？／貞奴とは何者か？
- [第9回] ノスタルジーから異文化の大陸へ
- [第10回] 北米大陸からヨーロッパへ “Sada Yacco” の誕生
- [第11回] 1900年の日仏メディアが語った Kawakami & Sada Yacco
- [第12回] 女優誕生！ 貞奴 in 『オセロ』
- [第13回] ベル・エポックのフランスが見た日本演劇の姿？
- [第14回] まとめ

3. 履修上の注意

国際交流について、興味を持ち、フランスと日本にかぎらず、色々な国・文化圏のニュースなどにもアンテナを張っていきましょう。各回の授業内容は、必要に応じて変更となる可能性があります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

イントロダクションで参考となる文献を紹介します。
授業資料に提示される文献・資料を積極的に読んでみましょう！

5. 教科書

授業資料欄にアップされる資料を各自閲覧・DLすること。

6. 参考書

『絹と光』 クリスチャン・ポラック（アシェット婦人画報社）
『川上音二郎と貞奴』（I～III）井上理恵（社会評論社） 他

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中、開始時、後半に入る前、授業のまとめの時期に
クラスウェブ「アンケート機能」を利用します。

8. 成績評価の方法

アンケート機能を利用した課題・授業への参加等平常点30%、
まとめのレポート70%の総合評価とする。
出席は3分の2以上すること。

9. その他

オフィス・アワー：金曜日 12:30-13:30

2号館農学部講師控室 事前にご連絡下さい。

メールは開講時にお知らせします。

科目ナンバー (AG)ARS121J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 地域文化研究	2 単位	織田哲司
2017～2021 年度入学者 地域文化研究		

1. 授業の概要・到達目標

日本文化の源流である古代日本人の世界を概観する-古代人の「農学」を中心に

《授業の概要》

「私はだれ、ここはどこ？」というのは大学の4年間、そしてわれわれが生きているかぎり探求し続けるべき問いです。

この講義では日本人とはいかなる民族なのか、また日本人が生きているこの空間—日本列島—はいかなるところなのかという問題を、できるだけ過去—神話の時代、あるいはそれよりも前の時代—にさかのぼって考えていきます。そうすると土や稲や森が古代以前から日本人とは切っても切れない関係にあること、農業なくして日本人はありえないことなども理解されるようになるでしょう。

ただ日本人が日本のことを見ようとしても、なかなか客観的には見られないかもしれませんから、ときおり西洋文化も参照して相対化を図ります。したがってこの講義は日本に若干のウェイトを置いた日本と西洋の比較文化論あるいは比較神話論といえるでしょう。

《到達目標》

歴史学や考古学が明らかにしてきた知見をもとに日本の古代文化を概観することにより、次のような学習目標が達成できると期待される：

1. 現代まで連綿と続く日本文化の根源的な世界観を理解することができる。
2. 西洋文化と日本文化の相違点を比較することができる。
3. 日本そして日本人の成り立ちを理解することにより、それを自分のことばで説明することができる。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 ガイダンスとイントロダクション

1 人間らしさとは

第2回 言霊幸はふ国

- 2.1 言語と認識
- 2.2 神とやりとりすることば
- 2.3 母語は世界を作る

第3回 日本人はどこから来た

- 3.1 神話的説明
- 3.2 人類学的説明

第4回 縄文文化 1

- 4.1 世界遺産 北海道・北東北の縄文遺産群
- 4.2 原始社会ではない縄文時代

第5回 縄文文化 2

5 土器を使用する定住生活

第6回 縄文文化 3

- 6.1 農業以前の狩猟文化
- 6.2 海人族と稲作の到来

第7回 弥生文化 1

7 縄文時代後半のイネの到来

第8回 弥生文化 2

- 8.1 日本語の成立
- 8.2 やまとことば

第9回 弥生文化 3

9.1 王の発生

第10回 日本神話 1

- 10.1 天地開闢
- 10.2 イザナギとイザナミによる国産み
- 10.3 アマテラスの誕生

第11回 日本神話 2

- 11.1 国譲り神話 1
- 11.2 天孫降臨と天照大神の神勅

第12回 歴史時代 1

12 仏教伝来

第13回 歴史時代 2

13.1 『古事記』と『日本書紀』の成立事情：大陸との関係

13.2 なんでも日本化する文化力

第14回 まとめ

14 歴史を知ること

3. 履修上の注意

充分な予習、復習と出席はいうまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、日本語や日本文化のみならず西洋文化にも興味をもつことが非常に重要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o! Meiji System から配信する資料の該当箇所をふり返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料や下に掲げる教科書・参考書に目を通しておくこと。

5. 教科書

とくになし。

6. 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の冒頭に前回分リアクションペーパーの講評を行う。

8. 成績評価の方法

年間授業回数数の2/3以上の出席者が評価対象となる。Oh-o! Meiji System の小テスト機能を用いた毎回の課題50%、レポート50%の配分で計算し、合計で60%以上を合格とする。

レポートは上記および授業中に紹介される参考書を一冊選んで読み、その書評をレポート用紙2・3枚にまとめることとする。

9. その他

英語第IV研究室（3号館3階3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HIS111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
日本の歴史 A

2017～2021 年度入学者
日本の歴史 A

2 単位

中村友一

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

この科目は人文学の日本史の分野の授業である。古代を中心にして、中世までの日本において、人々が何を生産し、どのようなものを食してきたかを概説する。上記の視点から、古代～中世の人々の文化・歴史を把握し、現在の私たちの立脚する意識を理解することを到達目標とする。

《授業の概要》

古代・中世における生産と消費を、天皇・貴族層と民衆レベルを対比しつつ重層的な歴史像を提示していく。

国史や古記録・律令格式といった文献史料を中心に講義する。それに加え、考古資料や実験考古学の成果なども随時取り入れながら、複合的に歴史観を構築できるような講義を行う。

なお、農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第 1 回 a ガイダンス・日本人の来歴と狩猟・採集
- 第 2 回 稲作の由来と生産体制
- 第 3 回 稲以外の穀物・畑作
- 第 4 回 薬草の採取と栽培や園地
- 第 5 回 貢納される水産物
- 第 6 回 肉食忌避とその実態
- 第 7 回 蘇や醗酵の製造と家畜
- 第 8 回 塩など調味料の生産
- 第 9 回 古代～中世の酒造
- 第 10 回 天皇・貴族・下級官人の食膳
- 第 11 回 民衆や武家の食膳
- 第 12 回 中世の穀物と農業生産
- 第 13 回 農具と飲食具
- 第 14 回 補足・小試験

3. 履修上の注意

講義形式で行う。特に履修を前提とする授業科目はない。

遅刻時の入室や雑談などの騒音の発生などには注意を与えるので、留意していただきたい。

出席とコメントや質疑などの授業へ取り組む姿勢も試験と併せて評価対象となるので、留意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の形式は、講義形式で行う。

授業は、レジュメとパワーポイントを使用する。

予習はとくに必要ないが、日本史の概説書や用語集、電子辞書などを参看して、基礎的な事項や用語にはたいおうできるようにしておくこと。

初回以降の授業では、授業ないでのメモをとるなどをして、レジュメと併せて復習して知識を蓄積することが肝要である。

5. 教科書

教科書は使用しない。レジュメを配付する。

6. 参考書

- ①佐原真『食の考古学』（東京大学出版会）
 - ②関根真隆『奈良朝食生活の研究』（吉川弘文館）
 - ③江原絢子他『日本食物史』（吉川弘文館）
 - ④広野卓『食の万葉集』（中公新書）
 - ⑤武光誠・山岸良二編『古代日本の稲作』（雄山閣出版）など。
- その他は、適宜レジュメに提示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時のコメントやプリントなどに反映させる。

オー明治の活用などでフィードバックする。

8. 成績評価の方法

全授業日数の 3 分の 2 以上の出席で、試験を受ける資格を有する。ただし、問題のある授業態度や遅刻は減点の対象とする。成績評価は、定期試験 70% と出席とコメントなどの授業に対する姿勢を 30% 合算で評価する。満点の 60% 以上が合格点である。

9. その他

質問・相談は適宜出席と併せて実施するコメントペーパーへの記載によって受け付けるが、一部は明治メール（〇〇@〇〇）にて受け付ける。授業時レジュメに記載する。

科目ナンバー (AG)HIS111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 日本の歴史B	2単位	森朋久
2017～2021年度入学者 日本の歴史B		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

日本の歴史のうち、日本の原風景、伝統的な景観であり、主に耕地と集落で成り立つ、村（ムラ）の歴史について、各時代の政治と経済を背景としながら、通史的に明らかにする。特に、現在の市町村の基盤となる村が成立する、近世・近代に重点を置く。耕地と集落は、棚田に代表されるように、人間と自然との共同作品である、文化的景観として近年注目されている。世界的に優良なその景観は、世界遺産の選定項目となり、日本でも優良な景観は、文化財保護法、農林水産業の重要文化的景観に選定されており、文化財としての意義がある。授業では前提として、日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）を紹介するとともに、耕地や集落が文化財としてどのような意義があるのかを明らかにする。（学問分野：日本史、日本地域史、日本村落史、環境歴史学、文化財学）

《到達目標》

日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）や耕地と集落の文化財的な意義を踏まえ、日本の農林水産業の地域基礎単位である村（ムラ）に関する通史的な学習を通じ、教科書的な理解を越え日本史に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 a：イントロダクション（日本史における耕地と集落の意義日本史研究の基礎）
- 第1回 b：日本史学入門（1）…歴史資料の提示、解説
- 第2回：日本史学入門（2）…歴史資料の内容解説、背景
- 第3回：文化財保護法と耕地と集落…文化財・重要文化的景観からみた村（耕地と集落）
- 第4回：弥生・古墳時代の村…縄文・弥生移行期、弥生・古墳時代の耕地と集落
- 第5回：古代の政治と経済：古代の村と領主支配との関係
- 第6回：古代の村：古代の開発、条里と村、荘園と村、初期武士団の村
- 第7回：中世の政治と経済：中世の村と領主支配との関係
- 第8回：中世の村…村の景観、惣村と在家、開発と経営、近世の村との関係
- 第9回：近世の村の景観…村の基本構成要素、様々な村のかたち
- 第10回：近世の村の機能…村で作成される様々な文書、ムラの運営
- 第11回：幕藩領主の農政と近世の村（1）…近世中期までの領主財政と年貢収奪
- 第12回：幕藩領主の農政と近世の村（2）…吉宗政権の年貢増徴策と新田開発、土地政策
- 第13回：近代の村…地租改正、戸長制、大区小区制、地方三新法、地方改良運動と村
- 第14回 a：現代の村…農地改革、昭和の市町村合併と村、高度成長下の耕地と集落
- 第14回 b：試験

3. 履修上の注意

- 〈1〉履修前提科目、同時履修が望ましい科目については、指定しない。
- 〈2〉授業全体を通して、日本の地域の歴史に注目しながら話を進める。
- 〈3〉授業後の復習用、関連知識の習得用に、参考書〈1〉を紹介する。
- 〈4〉参考書以外の文献・論文（文化財および環境歴史学関係）は、適宜紹介する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- 〈1〉予習：あらかじめ配信または配布した資料を一読、一覧しておくこと。各授業の時代背景を、日本史年表で調べておくことが望ましい。
- 〈2〉復習：日本各地の地名が出てくるので、馴染みがない地名は地名辞典などで調べておくこと。授業内レポートに備えて、授業の内容を各回まとめておくこと。

5. 教科書

特に定めない。適宜配信または配布した資料に沿って授業を行う。

6. 参考書

- 〈1〉『村の語る日本の歴史 古代・中世編』、『村の語る日本の歴史 近世編①』、『村の語る日本の歴史 近世編②』木村礎著（1983年 そしえて）
- 〈2〉『日本の農業150年 1850～2000年』暉峻衆三編著（2003年 有斐閣）

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスwebのレポート欄に「授業に関する質問」を設定し、質問のある履修者にコメント欄で返答する。授業内レポートに関しては、各レポート項目のコメントでフィードバックを行う。

8. 成績評価の方法

平常点（授業内小レポート 20%）と定期試験（80%）で、評価を決める。

9. その他

オフィスアワー：最初の授業および明治大学授業サイト0h-o! Meijiで指示する。
連絡先：明治大学授業サイト0h-o! Meijiを利用した連絡を行うので、週に最低一度は閲覧のこと。その方法や他の手段については最初の授業で指示する。
本年度は、学芸員養成課程設置科目「博物館情報メディア論」と内容が一部関連するので、同課程受講者の履修を歓迎する。（強制ではない）

科目ナンバー (AG)HIS131J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 西洋の歴史	2 単位	渡辺知
2017～2021 年度入学者 西洋の歴史		

1. 授業の概要・到達目標

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに関接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

2. 授業内容

以下の通り授業を進める予定ですが、進行具合によって若干の変更を加えることもあります。

- 第 1 回 授業内容の紹介 16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
- 第 2 回 16 世紀のイギリス 1 バラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
- 第 3 回 16 世紀のイギリス 2 16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
- 第 4 回 イギリス帝国の形成 1 15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
- 第 5 回 イギリス帝国の形成 2 17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
- 第 6 回 イギリス帝国の形成 3 17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。
- 第 7 回 イギリス商業革命 1 イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。
- 第 8 回 イギリス商業革命 2 イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。
- 第 9 回 イギリス生活革命 イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。
- 第 10 回 砂糖と西インド諸島 イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。
- 第 11 回 大西洋黒人奴隷貿易 イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。
- 第 12 回 13 植民地の独立 13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。
- 第 13 回 産業革命と帝国 産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。
- 第 14 回 まとめ 第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

3. 履修上の注意

西洋やイギリスの歴史に興味のある方はもちろん、これまで歴史にあまりなじみがなかったという方も受講を歓迎します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した問題について参考文献等で調べてください。授業前に前回の授業ノート、参考文献を見返し、まとめておいてください。

5. 教科書

特に使用しません。

6. 参考書

適宜、プリントを配布し、参考文献を紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業でコメントします。

8. 成績評価の方法

授業の区切りに授業内容のまとめや感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20%、学期末の試験 80%）。

9. その他

オフィスアワーは最初の授業でお知らせします。

科目ナンバー (AG)HIS121J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 アジアの歴史	2 単位	鳥居高
2017～2021年度入学者 アジアの歴史		

1. 授業の概要・到達目標

(1) 授業の概要

本講義はアジア諸国の中で、東南アジア世界の歴史を対象とする。日本国内の高校までの教育課程では世界史、日本史と2分法でアプローチしてきたことに現在、東南アジア世界を見えにくくしている原因の1つである。そのもっとも象徴的な事象が「ヴァスコ・ダ・ガマのインド航路」と「フランシスコ・ザビエルの来日」ならびに「鉄炮の伝来」であろう。この3つの事象は東南アジアの歴史を学ぶことによって1本の線で結ばれる。

東南アジア世界は地勢上・宗教上の特徴から海に浮かぶ「島嶼(しょ)部」とユーラシア大陸と地続きの「大陸部」に大別される。講義ではa. 両世界を概観し、b. イスラーム世界である島嶼部東南アジアを主な対象とし、c. 時期的にはアジア・太平洋戦争後、経済開発を目指す1960年代までを扱う。個別の時代の詳細な歴史展開よりも、東南アジア世界の歴史の特徴とその形成のダイナミズムを論じ、現代の東南アジアの理解へとつなげる。

半年間のキーワードは港市国家と季節風、イスラーム、植民地支配、華僑、多民族社会、開発主義である。なお、各時代の日本社会・日本人との関係にも注目する。

(2) 到達目標

高校までの世界史・日本史ではあまり学ぶ機会がなかった東南アジア世界の歴史とその経済社会構造の「大きな枠組み」を理解することを目標とする。各講義には「1つのテーマ」と「3つのキーワード」を設定するので、それぞれのテーマをについて、それぞれ3つのキーワードを用い、自分の言葉で説明することができることを具体的な到達目標としている。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1部 東南アジア世界をどのように捉えるか

- 第1回：ザビエル、鉄炮、「大航海時代」：世界史の中での東南アジアの位置を再考する
- 第2回：地域概念としての「東南アジア」の成立：他称から自称となった Southeast Asia の意味とは
- 第3回：東南アジアの再構築の試み：様々な資料から

第2部 海から見た東南アジア世界

- 第4回：海から見た東南アジア史(1)－初期南海貿易から扶南王国－
- 第5回：海から見た東南アジア史(2)－論争続くシュリービジャヤ－
- 第6回：港市国家論とマラッカ王国
- 第7回：マラッカ王国の経済活動と社会構造
- 第8回：マラッカ、ムスリム商人、バサイ王国：東南アジア島嶼部においてイスラームがどのように受容されたか

第3部 「平和な海」から「構想の海」へ

- 第9回：ポルトガルの進出と東南アジア
- 第10回：連合東インド会社(V.O.C)、株式会社、傭兵：オランダは東南アジアにどのように進出したか
- 第11回：天然ゴム、錫、間接支配：イギリスはなぜ、どのように東南アジアを支配したか

第4部 東南アジア世界と日本の関わり

- 第12回：からゆきさん、ベンゲット道路、小農：日本人は東南アジアにどう関与してきたか
- 第13回：もう一つの「12月8日」：アジア・太平洋戦争と東南アジア
- 第14回：VJ-Day、サンフランシスコ講和条約、賠償：日本は東南アジア諸国とどのように再会したか

3. 履修上の注意

授業は原則として「2回の授業」を1テーマとして扱う。高校までの世界史、日本史の履修経験は不問です。授業はレジュメ・配付資料、映像を用いて行う。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

授業時間内に授業内容に関連する書籍、テレビ番組、映画などの映像資料を紹介するので、活用すること。

5. 教科書

特に用いない。

6. 参考書

『東南アジアを知るための50章』 東京外国語大学東南アジア課程編集 (明石書店)
『新版 東南アジアを知る事典』石井米雄他編集 (平凡社)
この他、平凡社『東洋文庫シリーズ』など。

7. 課題に対するフィードバックの方法

複数回の講義で構成される「テーマ」を単位として行う「事後学習課題」に関して、全体的な講評を行う。

8. 成績評価の方法

本科目は複数回の授業を「1つのテーマ」として、設計されている。第1回目から第3回目までを対象として「事後学習」(10%)、第4回目から8回目までを対象にした「まとめレポート」(20%)、すべての講義が終わった後での「感想・コメント」(10%)、最後に期末に行う定期試験(60%)。

9. その他

特になし。

科目ナンバー (AG) IND112E

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
Global Competence A
(実りある海外体験)

2017～2021年度入学者
Global Competence A
(実りある海外体験)

2 単位

長谷川安代

1. 授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業科目は、アクティブラーニング型で実施します。授業では、毎時、異なるアクティビティに取り組んでいただきます。アクティビティへの参加を通じて、異文化に関心をもつきっかけをつくり、異文化に対する理解を深めていきます。さらに、相手を尊重しながら、コミュニケーションをとる力や課題分析のスキル、課題の解決に向けて建設的に行動する力を培っていきます。これらはGlobal Competence とされている知識・スキルの一部で、海外留学やグローバル企業への就職を控えている人にとっては、異文化環境での生活を円滑にすすめるための重要な能力となります。授業は、講師のこれまでの異文化環境での経験を多く共有しながら進めていきます。また、履修学生の皆さんの「異文化」に対するギモンを共に考えることで、皆さんの海外体験への不安の軽減につなげていきます。

＜授業の到達目標＞

- ・異文化理解に関する基本的な知識を習得する。
- ・「違い」に気づき、「違い」の背景に関心を抱くことができる。
- ・「違い」を尊重しながらコミュニケーションを図ることができる
- ・他者と協力して、行動することができる。
- ・課題（問題）の要因を分析し、解決に向けた行動計画をたてることができる。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] イントロダクション
- [第2回] 文化とは
- [第3回] 「違い」に気づく
- [第4回] 異文化を疑似体験する
- [第5回] カルチャーショック/異文化適応
- [第6回] 世界の価値観/ステレオタイプ
- [第7回] 「英語」でのコミュニケーション
- [第8回] 宗教（リサーチ）/チームワーキング①
- [第9回] 宗教（発表）/チームワーキング②
- [第10回] ケーススタディ
- [第11回] 異文化間交流（またはゲストスピーカー）
- [第12回] 課題分析・目的分析（ロジカルシンキング①）
- [第13回] アクション・プラン作成（ロジカルシンキング②）
- [第14回] 期末レポートの共有/全体の振り返り

※授業内容の順番は変更になる可能性があります。

3. 履修上の注意

- ・本授業は基本的には日本語で行いますが、英語での事例を扱う授業回もあります。
- ・本授業は講義型の授業ではありません。アクティビティへの積極的参加は必須です。
- ・毎回の授業時のグループ分けはランダムに行います。
- ・履修希望者が多数の場合は抽選で履修者を決定する可能性があります。
- ・授業には、PC、Tablet等のデバイスを持参してください。
- ・異文化理解に関する知識を深めるためには、Global Competence Bを事前、事後あるいは同時に受講することを推奨します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・期末レポートに向けて、計画的に課題図書を読み進める必要があります。詳細は第1回の授業時に説明します。

5. 教科書

期末レポートのための課題図書です。
前野ウルド浩太郎（2017）『バッタを倒しにアフリカへ』、光文社新書

6. 参考書

必要に応じて、授業内で紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内やオンラインシステム等を活用して、振り返りシートに対するコメントを共有します。

8. 成績評価の方法

- ・平常点（アクティビティへの参加態度・振り返りシート）:60%
- ・期末レポート:40%

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

科目ナンバー (AG) IND112E

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 Global Competence B (異文化理解と適応力)	2 単位	長谷川安代
2017~2021 年度入学者 Global Competence B (異文化理解と適応力)		

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

本授業科目では、Global Competence のうち、異文化間でのコミュニケーションを円滑におこなうための知識とスキルを学びます。異文化というと、国レベルでの文化の違いをイメージするかもしれませんが、私たちは、世代間や地域間、男女間など、自分とは異なる「文化」に日々接触しています。日本国内であっても、「文化」が違えば、考え方や行動も変わってきます。使う言葉も異なります。考え方や行動が異なる他者を尊重し、より良い関係を築くためには、自分自身がどのような考え方をし、どのような振る舞いをすればよいのでしょうか。教科書にかかれた知識を習得するだけでなく、履修学生間でのグループワークを通じて、異文化間でのコミュニケーションのスキルを身につけていきましょう。

In this course, students will learn the knowledge and skills to communicate smoothly with people from different cultures. These knowledge and skills are considered parts of Global Competence. When we think of different cultures, we may imagine cultural differences at the country level, but we are in daily contact with different 'cultures', such as between generations, between regions, between men and women, and so on. Even within Japan, people think and behave differently in different 'cultures'. The language we use is also different. In order to respect others with different ways of thinking and acting and to build better relationships with them, how should we think and behave? In addition to acquiring knowledge from the textbook, students will also acquire intercultural communication skills while participating in group works.

<授業の到達目標>

1. 異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する基礎的知識を習得する
 2. 他者との考え方や価値観の違いに気づくことができる
 3. 他者を尊重しながらコミュニケーションをはかることができる
1. To acquire basic knowledge of intercultural understanding and intercultural communication.
 2. to be able to recognize differences in ideas and values
 3. to be able to communicate with others in a respectful manner

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- [第 1 回] Introduction
- [第 2 回] Unit 1 Communication
- [第 3 回] Unit 2 Culture
- [第 4 回] Unit 3 Nonverbal Communication
- [第 5 回] Unit 4 Communicating Clearly
- [第 6 回] Unit 5 Culture and Values
- [第 7 回] Unit 6 Culture and Perception
- [第 8 回] Unit 7 Diversity
- [第 9 回] Unit 8 Stereotypes
- [第 10 回] Unit 9 Culture Shock
- [第 11 回] Unit 10 Culture and Change
- [第 12 回] Unit 11 Talking about Japan
- [第 13 回] Unit 12 Becoming a global person
- [第 14 回] 全体の振り返り・まとめ

3. 履修上の注意

・授業では英語と日本語の両方を使用します。(履修学生の希望に応じて、英語と日本語の使用割合を調整します。希望によっては、オールイングリッシュでの授業となる可能性もあります。)

Both English and Japanese are used in class. The ratio of English to Japanese will be adjusted according to the proficiency level of the students. There is a possibility that classes may be conducted only in English.

- ・授業には、PC、Tablet 等のデバイスを持参してください。
- ・授業はグループワークを中心として進めていきます。グループワークへの積極的な参加が求められます。
- ・毎回の授業のグループ分けはランダムに行います。
- ・英語学習用テキストを教科書として使用しますが、語学の習得を主たる目的とする授業科目ではありません。教科書の各 Unit のトピックを題材として、発展的に学びを広げていきます。
- ・原則として、20 分以上の遅刻は欠席扱いとします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・毎授業時、テキストの指定する箇所を熟読し、課題に取り組んでから、授業に参加する必要があります。（予習 90 分）

5. 教科書

『Speaking of Intercultural Communication 異文化理解の英語コミュニケーション』、Peter Vincent 著、（南雲堂）

6. 参考書

必要に応じて、授業内で紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内やオンラインシステム等を活用して、振り返りシートに対するコメントを共有します。

8. 成績評価の方法

- ・平常点（グループワークへの参加態度・振り返りシート）:50%
 - ・期末レポート:50%
- （単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。）

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

科目ナンバー (AG) IND112E

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 Global Competence C (日本文化の理解と発信力)	2 単位	長谷川安代
2017~2021 年度入学者 Global Competence C (日本文化の理解と発信力)		

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

本授業科目では、Global Competence のうち、グローバル・イシュー（地球規模の課題）に対する知識の習得、そして、事象を分析的・批判的に考察し、自らの考えを他者に発信するスキルを培うことに焦点をあてます。グローバル・イシューの多くは、文化的な背景にもつながっています。また、課題に対するアクションも、文化的な背景によって異なることがあります。本授業科目では、グローバル・イシューに対して、日本でとられているアクションにも目を向けます。グローバル・イシューは、私たちの日々の暮らしと密接につながっています。私たち自身が、日々の生活の中で、どのようなアクションをとるかによって、未来は変わります。履修学生同士でのディスカッションを通じて、他者の考えを知り、自分の考えとの違いに気づき、そして、互いを尊重しながらコミュニケーションを図り、自分たちがとれるアクションを考えていきましょう。講師の国際協力の現場での経験も共有しながら、授業を進めていきます。

This course focuses on acquiring knowledge of global issues and developing the skills to examine them analytically and critically and to communicate one's ideas to others. This course also looks at actions being taken in Japan in response to global issues. Many global issues are related to cultural contexts. Therefore, actions taken may also differ depending on the cultural context. Global issues are closely linked to our daily lives, so our future depends on what actions we take in our daily lives. Through discussions, students will learn about other people's ideas and realize the differences. Then, communicating with others in a way that respects differences, students consider the actions they can take. The lecturer will also share her experiences in the field of international cooperation.

<授業の到達目標>

- ・グローバル・イシューについての理解を深める。
 - ・グローバル・イシューに対して日本でとられているアクションを知る。
 - ・グローバル・イシューや日本で実践されているアクションについて、自らの考えを論理的に述べることができる。
 - ・グローバル・イシューについて、他者の考えに関心を持ち、なぜそう考えるか（背景）に意識を向けることができる。
 - ・自らがとれるアクションを考え、行動に移すことができる。
- To deepen understanding of global issues.
 -To learn about actions being taken in Japan in response to global issues.
 -To be able to express one's own ideas about global issues and actions being taken in Japan logically
 -To be interested in other people's thoughts on global issues and be aware of the context of their thoughts.
 -To be able to think about actions students can take and start doing them.

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] Introduction / Chapter 1 Global Perspectives
- [第2回] Chapter 2 Climate Change
- [第3回] Chapter 3 Water
- [第4回] Chapter 4 Clean Energy
- [第5回] Chapter 5 Poverty
- [第6回] Chapter 6 Hunger
- [第7回] Chapter 7 Children
- [第8回] Chapter 8 Gender
- [第9回] Chapter 9 Refugees
- [第10回] Chapter 10 Insects
- [第11回] Chapter 11 Vegetarianism
- [第12回] Chapter 12 Plastic Waste
- [第13回] Chapter 13 Shopping
- [第14回] Chapter 14 Partnership / Reflection

3. 履修上の注意

・授業では英語と日本語の両方を使用します。（履修学生の希望に応じて、英語と日本語の使用割合を調整します。希望によっては、オールイングリッシュでの授業となる可能性もあります。）

Both English and Japanese are used in class. The ratio of English to Japanese will be adjusted according to the proficiency level of the students. There is a possibility that classes may be conducted only in English.

- ・授業には、PC、Tablet等のデバイスを持参してください。
- ・授業はグループワークを中心として進めていきます。グループワークへの積極的な参加が求められます。
- ・毎回の授業のグループ分けはランダムに行います。
- ・英語学習用テキストを教科書として使用しますが、語学の習得を主たる目的とする授業科目ではありません。教科書の各Chapterのトピックを題材として、発展的に学びを広げていきます。
- ・原則として、20分以上の遅刻は欠席扱いとします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・ 毎回、テキストの指定する箇所を熟読し、課題に取り組んでから、授業に参加する必要があります。（予習 90 分）
具体的な課題内容は、授業ごとに指示します。

5. 教科書

『Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals 「地球市民として生きる：英語で学ぶSDGs実践入門」』小関一也・マクス・ゲビン著、（南雲堂）

6. 参考書

関連する Website 等を随時紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内やオンラインシステム等を活用して、振り返りシートに対するコメントを共有します。

8. 成績評価の方法

- ・ 平常点（グループワークへの参加態度・振り返りシート）:50%
 - ・ 期末レポート:50%
- （単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。）

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

2022年度以降入学者

総合科目教養科目群<第二分野>

2017~2021年度入学者

総合科目共通科目群<第二分野>

科目ナンバー (AG)ECN111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 経済学	2 単位	深澤竜人
2017～2021年度入学者 経済学		

1. 授業の概要・到達目標

本科目では農学部を受講生という点を鑑みて、経済学と関連させた農業・食料・資源・環境等々の側面に関する研究と、その概略に関して照射していき、近年国際社会で見直されている経済理論に至るまでの過程の理解を到達目標とします。また講師・深澤が実践している小規模農業も提示し、そこからの研究成果や、また持論としての「非農家による農業参画」「家庭内供給的な小規模農業展開論」を開陳していきます。
(なお食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAおよびBに対応する科目です。)

2. 授業内容

- 第1回：〈序論〉経済学から見た日本の農業 国際競争力強化 v.s 保護政策
- 第2回：〈新自由主義経済学の基本原理①〉 市場・価格メカニズムの有効性
- 第3回：〈新自由主義経済学の基本原理②〉 比較生産費説 貿易の有効性と問題点
- 第4回：〈新自由主義経済学の問題点①〉 日本の米農家の現状
- 第5回：利潤の発生や経済成長の根本を経済学的に考える
- 第6回：〈マクロ経済学①〉 生産活動の重要性 農業労働を例に 労働価値説①
- 第7回：〈マクロ経済学②〉 再生産という考え・視点 労働価値説②
- 第8回：〈地方・地域経済学 観光経済学〉 貨幣の循環 地域・地方の活性化・再生という課題
- 第9回：〈資源・エネルギー経済学〉 エネルギー問題 人口問題・マルサス理論
- 第10回：〈環境・生態系経済学〉 慣行農業と有機農業 環境問題
- 第11回：〈株式会社論〉 株式会社の特性を考える
- 第12回：〈重商主義・重農主義の経済学〉 〈古典学派・ケインズ学派の経済学〉
- 第13回：〈自由主義経済学の問題点②〉 国連のSDGs宣言 「家族農業の10年」
- 第14回：〈家庭内供給的小規模農業展開論〉 全体のまとめ

*理解度や進行具合、日程の都合上など状況に応じて、上記項目は変化する場合があります。

3. 履修上の注意

講義は教科書と合わせた板書で行っていきます。板書内容をノートに取っておいてください。そうしないとレポートの作成に支障をきたし、試験に望めなくなります。
対面授業の場合、講義が一方通行にならないように、また理解度を確認するため、皆さんにかなり質問し、マイクを持って答えてもらうかもしれません。この点を了解しておいてください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義でその都度示していきますが、特に自主的に講義内容を復習しておくといよいです。

5. 教科書

深澤竜人『市民がつくる半自給農の世界—農的参加で循環・共生型の社会を—』農林統計協会。

6. 参考書

同上。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回簡単なレポートを出してもらいまして、それで質問には答え、間違った理解などには修正して返信していました。

8. 成績評価の方法

実際の受講人数等々を見た後に決めていきますが、今時点では出席・平常点、授業でのレポート、および期末レポートとしておきます。

9. その他

特になし。

科目ナンバー (AG)S0C111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
社会学

2017~2021 年度入学者
社会学

2 単位

福重清

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》《授業の概要》

社会学とは、ごく単純に言えば、社会の中に生じる様々な現象（社会現象、社会的事実）を対象に、その成り立ちやメカニズムを説明しようとする学問である。私たちが日々当たり前のものとして経験している現象—それは例えば、「家族」であったり、「恋愛」であったり、「格差社会」であったり、あるいは「限界集落」などといった”社会問題”であったりするが—は、なぜそのようなものとして私たちの前に立ち現れるのであろうか。社会学は、そんな「当たり前」として日々経験される社会現象に、改めて論理的な（因果関係についての）説明を与えるものである。

この授業では、こうした説明のし方、考え方、理論枠組を学習する。社会学的なものの方、考え方、社会理論を身につけることを通じて、日頃は自明で不変だと思っている現象が、実は様々な社会的なメカニズムの中でできあがったものであることがわかり、それによってより良い社会のあり方を構想することができるようになるだろう。社会の成り立ちを論理的・科学的・客観的に説明できるようになることが、この講義の最大の目標である。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のB・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 社会とは何か、社会学とはどういう学問か
- 第2回 社会を分析・把握する社会学の基本的な考え方（1）—方法論的個人主義と方法論的集合主義
- 第3回 社会を分析・把握する社会学の基本的な考え方（2）—社会構造と社会変動
- 第4回 社会を知る技法としての社会調査（1）—社会調査の種類と考え方
- 第5回 社会を知る技法としての社会調査（2）—量的調査の手順
- 第6回 社会を知る技法としての社会調査（3）—量的調査の活用と質的調査
- 第7回 ジェンダー（1）—ジェンダーに関する基本的な考え方
- 第8回 ジェンダー（2）—現代社会におけるジェンダー問題
- 第9回 家族（1）—家族とは何か
- 第10回 家族（2）—現代社会と家族の変容
- 第11回 都市と農村、地域社会（1）—都市および農村とは
- 第12回 都市と農村、地域社会（2）—今日の地域が抱える問題
- 第13回 社会階層と格差（1）—現代日本の階級・階層構造
- 第14回 社会階層と格差（2）—「一億層中流」から格差社会へ

3. 履修上の注意

毎回、授業の際にプリントを配布する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回授業開始前にプリントを配流するのでその内容をよく読み、内容を予習した上で次の授業に臨むこと。プリントには各回の講義に関連した文献一覧を掲載するので、授業後にはそれらを一読し、理解を深めるようにすることが望ましい。また、毎回授業後にその日の授業内容の修得を確認する小テストをクラスウェブを使用して実施するので、復習の一助としてもらいたい。

5. 教科書

特定の教科書は使用しない。各回のテーマに関連する重要な文献や資料については、その授業内および配布プリント内で紹介する。

6. 参考書

- 『社会学講義』橋爪大三郎・大澤真幸ほか著（ちくま新書）
- 『社会学入門』森岡清志編（日本放送出版協会）
- 『社会学になにができるか』奥村隆編（八千代出版）
- その他、授業の中で随時参考文献を紹介をする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブを使用して受講内容の修得を確認する小テストを毎回実施する。その中にはリアクションを書いてもらう設問も用意し、必要に応じて適宜授業内でコメントする。

8. 成績評価の方法

レポート70%、平常点（授業参加・貢献度、毎回の小テスト）30%
レポートでは、現代社会に関する問いを社会学的に分析・考察して自ら解答を導き、その説明を論理的・説得的に他人に伝える能力が身についているかどうかを評価する。

9. その他

オフィスアワー：出講日 16:50 まで（中央校舎講師控室）

科目ナンバー (AG)ANT121J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
民俗学

2単位

安倍幸

2017～2021年度入学者
民俗学

1. 授業の概要・到達目標

民俗学は生活そのものの成り立ちを研究する学問といえます。この中でも、本講義では、「都市」「暴力」「現代社会」に焦点を当てて、ともすれば抱かれがちな「民俗学とは古臭い（廃れた）風習を研究する学問」という固定概念を相対化していきたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：民俗学とはどのような学問か

第2回：民俗とはどのような現象か

第3回：都市と民俗学

第4回：京都五山送り火

第5回：京都五山送り火 (2)

第6回：京都五山送り火 (3)

第7回：江戸・東京の盛り場の重層性

第8回：新宿の成立

第9回：「新宿文化」の発生 (1)

第10回： " (2)

第11回： " (3)

第12回：トランスジェンダーの民俗 (1)

第13回： " (2)

第14回： " (3)

※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

本講座で触れられるテーマは、皆さんの生活にどこかでかかわりを持つものだと思います。「では自分（達）は」と考える形で受講してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

すべての回にノート整理（復習）

5. 教科書

特に指定なし。

6. 参考書

参考書は適宜指示するが、主だったものは以下の通り。一冊でも多く読破していただきたい（できれば全部）。

「都市のドラマトウルギー」吉井俊哉、弘文堂

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

原則として期末試験で評価します。出席点は予定しませんが、状況次第では大きな意味を持つこともあるかもしれません。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAW111J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 法学	2 単位	田村翔
2017～2021 年度入学者 法学		

1. 授業の概要・到達目標

本講義では、そもそも法とは何であるのか、法と道徳とはどのような関係にあるのか、法の種類・体系、法を解釈するとはどういうことか、などの基本的な事項について確認したうえで、私たちの社会生活における様々な具体的な場면을素材として、そこに実際にかかわりうる法律にはどのようなものがあるのか、そのそれぞれの法律の目的や具体的な内容を学習していきます。

また、本講義では、全 14 回の授業を通じ、私たちの社会生活と大きなかかわりを有する様々な法（法律）を概観し、その目的や具体的な内容を理解していくことで、法（法律）の役割の重要性を一層強く意識し、法的思考力（リーガル・マインド）、すなわち、様々な利益を有する様々な人々が共同生活を送る現代社会において時としてそれらの利益が対立し（法的）紛争が起きた際に、そこではそもそもどのような利益がどのように対立し問題となっているのか、複雑に絡み合う事情を整理したうえで真の問題点を見出し、そこで見出された問題点を説得力のある形で他者にも説明することで紛争解決のための交渉を可能にする力、法的コミュニケーション能力を獲得することを到達目標とします。

2. 授業内容

- 第 1 回：法とは何か
- 第 2 回：法の発展
- 第 3 回：法と裁判、裁判の基準となるもの
- 第 4 回：法の解釈
- 第 5 回：法の分類
- 第 6 回：国家と法（1）—日本国憲法の基本原理
- 第 7 回：国家と法（2）—基本的人権の尊重
- 第 8 回：犯罪と法（1）—刑法の機能と刑罰の目的
- 第 9 回：犯罪と法（2）—犯罪の成立要件と刑法の基本原理
- 第 10 回：財産関係と法（1）—民法・財産法の内容と基本原則
- 第 11 回：財産関係と法（2）—物権と債権、契約の意義
- 第 12 回：家族生活と法（1）—民法・家族法の基本原則、婚姻と離婚
- 第 13 回：家族関係と法（2）—親子と相続
- 第 14 回 a：国際社会と法—国際法
b：試験

3. 履修上の注意

本講義の授業は、基本的に指定の教科書や適宜配布する授業プリント、板書などを用い講義形式で行いますが、随時こちらから授業内容と関連した質問を投げかけ、学生からの発言を求めたり、リアクションペーパーを配布し、その提出をしてもらうことがあります。

また、各回の授業内容は原則として上記の計画に沿って実施しますが、その進行具合などによっては一部計画が変更されることもあります。

授業に参加する際は、授業内容と関係のない私語の禁止など、一般的な授業マナーを守ってください。

なお、本講義を履修する際は、前提として「日本国憲法」の単位を取得していること、あるいは、「日本国憲法」と同時履修することが望まれます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業に参加するにあたっては、あらかじめシラバス（上記授業内容計画）で実施する授業内容を確認したうえで、教科書でその内容が記載された箇所に目を通してください（予習）。

また、各回の授業後には、授業内での板書や指定の参考書、配布プリントがあった場合にはそれも利活用し、再度教科書を読み込むなどしてその回に実施した授業内容を自分なりに理解できるようにしてください（復習）。

もっとも、法学の講義においては、回によっては非常に抽象度の高い授業内容が実施されることもあり、事前の予習段階で完全に授業内容を理解・把握することは難しいものとも思われます。そのため、予習段階ではその回の授業内容の大枠をつかみ、準備学習としては、とくに復習に力を入れるよう心がけてください（決して、予習が重要ではない、という意味ではありません）。

なお、授業内容についてわからなかった点・不明な点などは、授業中ないし授業終了後に質問を受け付けますので、必ず、疑問を疑問のままに終わらせないようにしてください。

5. 教科書

『現代実定法入門〈第 3 版〉』原田大樹（弘文堂、2023 年）

6. 参考書

『現代法学入門〔第 4 版〕』伊藤正己・加藤一郎編（有斐閣双書、2005 年）

『エッセンシャル法学〔第 7 版〕』大谷實編（成文堂、2019 年）

『法学入門』早川吉尚（有斐閣、2016 年）

『高校生からの法学入門』中央大学法学部編（中央大学出版部、2016 年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題等があった場合には、その提出日以降の授業時間内で説明します。

8. 成績評価の方法

試験 80%、授業への貢献度 20%で評価します（あくまで予定であり、変更の可能性があります。変更する場合は適宜アナウンスいたします）。

9. その他

科目ナンバー (CC)LAW111J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 日本国憲法	2 単位	小出幸祐
2017～2021 年度入学者 日本国憲法		

1. 授業の概要・到達目標

授業の概要

日本国憲法の基本原理と構造を概説する。社会で話題になっているテーマについて憲法の観点から取り上げることで、社会制度を形作っている憲法への関心を高めて、その理解を深めることを目指す。

到達目標

履修者が憲法の基礎知識を身につけて、社会や日常生活における様々なケースで、憲法の視点から主体的に考える能力を養うことを目標にする
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のB・Gに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] 憲法とは何か
- [第2回] 統治の原理と権力分立
- [第3回] 国会の地位と権能
- [第4回] 国会議員と参政権
- [第5回] 地方自治
- [第6回] 内閣の構成と権能
- [第7回] 財政と予算
- [第8回] 司法権と裁判官
- [第9回] 国民の司法参加と刑事手続上の権利
- [第10回] 思想良心の自由と信教の自由
- [第11回] 表現の自由
- [第12回] 職業選択の自由と財産権
- [第13回] 生存権
- [第14回] 幸福追求権と法の下での平等

3. 履修上の注意

Oh-o! Meiji で授業資料を配信する（授業前日までに配信する）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各回の準備学習時間は、60分程度を想定しています。
各回で扱うテーマについて、授業資料に予め目を通しておくことをお勧めします。

5. 教科書

『新憲法四重奏〔第2版〕』、大津浩＝大藤紀子＝高佐智美＝長谷川憲、（有信堂）、2017、税抜3000円。

6. 参考書

- ①『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）』、長谷部恭男＝石川健治＝穴戸常寿 編著、（有斐閣）、2019、定価2530円。
- ②『図録 日本国憲法（第2版）』、斎藤一久＝堀口悟郎 編集、（弘文堂）、2021、定価2530円。
- ③『リーガル・リサーチ&レポート（第2版）』、田高寛貴、＝秋山靖浩、＝原田昌和、（有斐閣）、2019、定価1870円。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

成績評価は、以下のA.とB.の合計点で評価をします。

- A. 授業内試験（20％）
- B. レポート（80％）

A. 授業内試験は、多肢択一式問題（正しい記述を選択肢の中から選ぶ問題）によって行います。なお、授業第1回から第3回までは授業内試験を行いません。

B. レポート成績の評価要素として、以下の2つの面を考慮して判定を行います。

1. 形式面
 - ・体裁が整っているか
 - ・誤字脱字がないか
2. 実質面
 - ・法的知識の正確性
 - ・論旨または論理的思考の一貫性

9. その他

2022年度以降入学者

総合科目教養科目群<第三分野>

第三
分野

2017~2021年度入学者

総合科目共通科目群<第三分野>

科目ナンバー (AG)CBI111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 生物学基礎	2 単位	吉田学
2017～2021年度入学者 生物学基礎		

1. 授業の概要・到達目標

〈概要〉
 農学は、生物学を基礎として成立している分野です。本授業では、生物学の基礎である、生命現象と物質、生物の環境応答、遺伝子情報の発現と発生、生態と環境、生物の進化、についての基礎知識を解説します。高校で「生物」を履修していない、もしくは十分に履修してこなかった学生を対象としています。

〈到達目標〉
 高校で「生物」を履修していない学生が、今後農学を学ぶ上で必要不可欠な最低限の生物学的な知識を習得することを目指します。
 食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回： 生物の共通性と多様性
- 第2回： 生物の系統と分類
- 第3回： 細胞の構造と働き
- 第4回： 代謝とエネルギー
- 第5回： 遺伝情報の発現
- 第6回： 生殖と発生1（生殖と遺伝）
- 第7回： 生殖と発生2（動物と植物の発生）
- 第8回： 植物の環境応答
- 第9回： 動物の環境応答1（恒常性の維持）
- 第10回： 動物の環境応答2（刺激の受容と反応）
- 第11回： 生物群集と生態系
- 第12回： 生物の進化
- 第13回： 現代社会と生命科学（バイオテクノロジー、ライフサイエンス）
- 第14回： a まとめ b 試験

3. 履修上の注意

高校で生物を履修していない学生を対象とした授業ですので、高校で十分に生物学を履修した学生には不向きです。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習は求めませんが、講義を受けたあとは、資料プリントを振り返ったり、疑問に思ったことがあれば質問したりして、内容理解に努めてください。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

- 「キャンベル生物学」（丸善）
- 「理系総合のための生命科学 第5版」（羊土社）
- 高校教科書「生物」「生物基礎」

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義後に理解度確認のための小テストをOh-o! Meiji上で実施します。基本的に自動採点により解答後即時に結果をフィードバックします。簡単な説明を含めた正答は、解答期間終了後に公開します。

8. 成績評価の方法

定期試験、及び講義での小テストの合計で評価します。評価点の割合については、初回講義時に示します。

9. その他

オフィスアワー・連絡先：初回講義時に示します。

科目ナンバー (AG)BPH191J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 物理学基礎	2 単位	小山岳人
2017～2021年度入学者 物理学基礎		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

農学を含む多くの分野で、現象の数理的理解の基礎として、物理学が使われます。ここでは、物理的概念や物理法則に基づいた考え方が必要とされます。これを踏まえてこの授業では、物理学の基本分野である力学・波動学・熱力学・電磁気学について、そこに現れる基礎的な概念を、微分積分を用いずに、説明していきます。

《到達目標》

物理学の知識を必要とする科目を履修する上での最低限の知識の修得を目指します。基本的な法則や公式から多くの現象を説明できることを示し、物理学は多くの現象に共通する法則を抽出して体系化された学問であることへの理解や、物理学で用いられる筋道だった考え方の理解を図ります。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のCに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回：《イントロダクション》

《力学1》運動の表現

第2回：《力学2》力と運動の法則/万有引力と重力

第3回：《力学3》仕事とエネルギー/エネルギー保存則

第4回：《力学4》力積と運動量/回転運動と角運動量

第5回：《力学5》剛体の基礎/振動

第6回：《波動学》波動/音と光

第7回：《熱力学1》圧力と内部エネルギー/温度と状態方程式

第8回：《熱力学2》圧力と仕事・温度と熱/物質の状態変化と潜熱

第9回：《熱力学3》熱力学第1法則/熱力学第2法則

第10回：《電磁気学1》電荷と電場/電圧

第11回：《電磁気学2》コンデンサ/電流と抵抗

第12回：《電磁気学3》電流と磁場

第13回：《電磁気学4》電磁誘導/インダクタンスと電磁波の基礎

第14回：《総合復習》

3. 履修上の注意

高校程度の数学の知識があれば大丈夫です。

* 秋学期「物理学概論」の単位取得を目指される方に：高校での物理・数学の履修がない方・少ない方で「物理学概論」を履修される必要のある方は、春学期「物理学基礎」から秋学期「物理学概論」への連続履修をお勧めします。このように履修すると、ベクトル・微積分の数学を用いない「物理学基礎」で、まずは物理的内容の基礎に慣れておくことができます。その後に「物理学概論」では、「物理学基礎」ですでに学んでいる内容を高度な数学とともに再度学ぶことができます。これによって皆さんが必要な単位を取得しやすくなると思いますので、是非ご検討ください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義では物理のいろいろな概念・法則が出てきます。その理解を深めるため、講義の前に、配布される講義用スライドを資料に目を通しておくとともに、教科書の対応箇所を読んでおいて下さい。そして講義後に内容の確認・補強のため、講義資料・教科書を参照してもらいながらレポートに取り組んでもらいます。さらにこのレポートの締め切り後に、レポートの解答例を配布しますので、これを見ながらレポートの答え合わせをしてください。

5. 教科書

『物理学へのガイド』田辺行人・塚田昌甫（裳華房）

6. 参考書

『東大の先生！文系の私に超わかりやすく物理を教えてください』西成活裕・郷和貴（かんき出版）

『はじめて学ぶ物理学』阿部龍蔵（サイエンス社）

『エネルギーの物理学』砂川重信（河出書房新社）

『第3版 物理学入門』原 康夫（学術図書出版社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

各回のレポートに質問があれば、同じ回のクラスウェブ・レポート欄に、フィードバックファイルを返します。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、毎回講義後のレポート・授業貢献 40%

総合点の60%以上を単位修得の条件とする。

9. その他

オフィスアワー： 授業時間の前後に講師控室にいます。

科目ナンバー (AG) BCH191J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
化学基礎

2017~2021 年度入学者
化学基礎

2 単位

小林一幾

1. 授業の概要・到達目標

農学部における学問や研究の対象は、主に生命体や生命関連物質である。生命現象およびその原理の解明を目的とする生命科学、さらにそれらの応用としての農学を学んでいくために、物質の性質と変化を取り扱う学問である化学の知識や手法を修得することを目的とする。本科目では、物質を構成する元素、原子の性質、原子や分子の電子配置、化学結合、物質の状態とその変化などについて講義する。

- ・原子の構造や電子配置を説明することができる。
- ・原子について一般的な性質を周期表と関連づけて説明することができる。
- ・主要族元素の反応性について予測することができる。
- ・化学結合の成り立ちについて例を挙げて説明することができる、などを到達目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] 物質の構成粒子と分類
- [第2回] 原子モデル、原子の電子配置
- [第3回] 原子の性質と周期律
- [第4回] さまざまな化学結合
- [第5回] 共有結合と分子(1): 電子対反発理論と分子の形
- [第6回] 共有結合と分子(2): 混成軌道と分子の形
- [第7回] 結合の極性、双極子モーメント
- [第8回] 分子間に働く力とその影響
- [第9回] 物質と化学反応式
- [第10回] 化学平衡
- [第11回] 酸と塩基
- [第12回] 酸塩基反応と水素イオン濃度
- [第13回] 酸化と還元
- [第14回] 酸化還元反応

3. 履修上の注意

本講義は高校で化学を履修しなかった、あるいは履修したけれど理解できたとはいいがたいと感じている学生を対象とするので、高校の化学を十分に習得してきた学生には不向きである。講義内容に即した計算問題を行なうので電卓を持参のこと。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習は求めませんが、講義を受けたあとは、資料プリントを振り返ったり、疑問に思ったことがあれば質問したりして、内容理解に努めてください。

5. 教科書

特に指定しません

6. 参考書

特に指定しません

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

毎講義 10 分程度の時間を使い、その日の講義内容に関する演習問題を解き提出してもらおう。定期試験 70%、演習課題 30%で評価する。ただし正当な理由なく欠席が 1/3 を超えた場合は、定期試験の受験を認めない。

9. その他

科目ナンバー (AG)MAT151J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 数学基礎	2 単位	小林徹平
2017～2021年度入学者 数学基礎		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

高等学校で学習した数学（数学 I, II, A, B）を復習しつつ、高等学校の数学 III で学習する微積分学の理解と、将来において様々な分野へ応用できるような数学的なものの考え方や計算法の習得を目標とする。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の C に対応する科目である。

《授業の概要》

一変数関数の微積分について関数の定義から始めて、高等学校の数学 II 程度の数学を復習しつつ、解析学の基礎概念の定着をはかる。厳密な論証よりは概念の理解と計算技術の習得を重視し、具体例を多く挙げて講義を進める予定である。

2. 授業内容

- 第 1 回：関数の定義と三角関数
- 第 2 回：三角関数の演習
- 第 3 回：指数関数と対数関数
- 第 4 回：指数関数と対数関数の演習
- 第 5 回：関数の極限と連続
- 第 6 回：極限と連続の演習
- 第 7 回：中間テスト
- 第 8 回：関数の微分と様々な微分の公式
- 第 9 回：微分とその演習
- 第 10 回：合成関数の微分
- 第 11 回：合成関数の微分の演習
- 第 12 回：逆三角関数とその演習
- 第 13 回：ロピタルの定理とその演習
- 第 14 回：総復習

3. 履修上の注意

高等学校の数学 I・II の履修を仮定する。

半期科目のため、講義内で演習に当てる時間が少ないので、各自、教科書等の問題を解いておくようにすること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

数学は復習が大切なので、教科書の練習問題などを多く解くこと。

5. 教科書

『真基礎コース微積分』坂田定久、中村拓司、萬代武史、山原英男（学術図書出版）

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

8. 成績評価の方法

中間試験 20%、期末試験 70%、レポート 10% で評価する。合計が満点の 60% 以上を単位修得の条件とする。

9. その他

2022年度以降入学者

総合科目共通専門科目群

2017～2021年度入学者

フィールドサイエンス科目群

フィールドサイエンス科目群
総合科目共通専門科目群

科目ナンバー (AG)AGR121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生物生産学初歩概説

2017～2021 年度入学者
生物生産学初歩概説

2 単位

農学科教員

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

明治大学農学部に掲げる「食料・生命・環境」を広く研究している農学科の研究内容をオムニバス形式で紹介する。世界人口の増加などにより食料生産の増大の必要性が叫ばれているが、それと同時に資源・エネルギー消費型農業を見直し、食料生産と自然環境との調和も図らなければならない。生物生産学の基本的な考え方を理解できるように、生物生産を量的・質的に高める研究・技術、環境保全に関する研究・技術および農学の役割等を解説する。

《授業の概要》

基本的なところからわかりやすく、生物生産に関する研究項目を科学的に考察する。

2. 授業内容

第1回～第14回：未定

シラバスの補足で掲示します。

3. 履修上の注意

講義の内容と順番は変更になることがある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

第1回で農学科の紹介をするので、各回の授業内容に関連する事項について事前に学習すること。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

特に指定はしない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

成績は、毎回の講義中に行う小テストまたは課題により評価する。5回以上欠席した者は評価の対象としない。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGC191J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 農芸化学初歩概説	2 単位	農芸化学科教員
2017～2021年度入学者 農芸化学初歩概説		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

「農芸化学」とは、農業生産や人類の持続性のための環境、動物・植物・微生物の生命現象、生物が生産する種々の物質とその機能、食品と健康などを主として化学的考え方に基づいて基礎から応用までを広く研究する学問領域です。特に、本農芸化学科では、化学的手法やバイオテクノロジーにより人間生活に密着した諸課題を研究しています。生物の生存環境、食品の機能と安全性、さらに生物機能の解析について紹介しますので、ヒトの生活環境の維持、食品の安全などについて自分なりの考えを持つ機会とされたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目である。

《授業の概要》

農芸化学科の複数教員から、個々の研究分野に関連する話題を、研究手法や考え方を含めて紹介します。さらに研究の展開や将来展望について講述します。

2. 授業内容

第1回：オリエンテーション

第2－3回：生物科学分野

第4－5回：環境科学分野

第6－7回：微生物科学分野

第8－9回：食品科学分野

第10－11回：栄養科学分野

第12－13回：生物有機分野

第14回：総括課題レポートの作成

日程は進行状況により変更することがあります。

具体的なスケジュールは、オリエンテーション時に提示します。

3. 履修上の注意

授業では、幅広い農芸科学分野を紹介します。関連する解説書を授業で紹介し、図書館等を利用して自習し、理解を深めてください。講義の最後に小レポート（A5 版用紙）の提出を求めます。

オムニバス形式の授業ですので、特段の理由がない限り、遅刻は出席として認めない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

日本農芸化学会のホームページ（<http://www.jsbba.or.jp/>）から、「農芸化学とは？」および農芸化学の関連する学問分野、関連企業一覧などを閲覧すると、本講義の理解の助けとなる。

5. 教科書

特に指定しない。講義はプリントを配布して行う。

6. 参考書

「農芸化学に学ぶ」日本農芸化学会のHP

<https://www.jsbba.or.jp/manabu/>

各講義において関連図書を紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時間内で解説する。加えてOh-o! Meiji システムも利用する。

8. 成績評価の方法

毎回の授業で作成する小レポートを含む平常点と最終の課題レポートにより評価を行います。

レポートの作成等の指導はオリエンテーションで行います。

9. その他

講義内容に関する質問等は担当教員に直接問い合わせてください。

科目ナンバー (AG)AGR121J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生命科学初歩概説

2017～2021年度入学者
生命科学初歩概説

2単位

佐藤伴

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生命現象の全体像を法則でとらえようとする学問である生命科学は、人類の病気の予防・治療や生命現象に関わる多くの分野に貢献してきた。最近の生命科学分野の著しい発展は、多くの研究者によって集積された研究結果の積み重ねであることを理解し、本分野の発展において重要な変換点となる研究について焦点をあてて講義を行う。講義内では、特定の教科書は用いず、基礎的な内容と最新のトピックについて資料及び映像を用いて解説する。

《授業の達成目標及びテーマ》

生命現象の全体像を法則でとらえようとする学問である生命科学は、人類の病気の予防・治療や生命現象に関わる多くの分野に貢献してきた。本講義では、様々な学問の基盤となっている生命科学分野の基礎知識と応用を理解することを到達目標とする。また、生命科学の発展において変換点となった基礎研究をテーマとし学ぶことで、本研究分野における基礎的な考え方を習得することを目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のB・Cに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：生命科学の流れ
- 第2回：遺伝子とタンパク質
- 第3回：遺伝子導入・ゲノム編集
- 第4回：表現型解析
- 第5回：細胞の種類、構造と機能
- 第6回：バイオイメーjing
- 第7回：細胞内恒常性（プロテアソームとオートファジー）
- 第8回：細胞の初期化・iPS細胞の再生医療への応用
- 第9回：生殖細胞と生殖補助医療
- 第10回：細胞周期と癌
- 第11回：免疫システムと抗体医薬
- 第12回：糖鎖生物学
- 第13回：動物実験
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

講義は、主にパワーポイントを使用します、その際の資料は事前に Oh-o! Meiji にて配布します。講義開始までに各自ダウンロードしてください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業で使用する資料を事前にダウンロードし、関連する分野について調べておくこと。
講義内で生じた疑問について、自身で調べるなどして復習すること。

5. 教科書

特に指定しません。

6. 参考書

特に指定しません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎授業のアンケートについては、次回の講義の冒頭にアンケートの疑問点などについて解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験（100%）にて評価を行います。

9. その他

E-mailにて随時受け付ける。メールアドレスは、初回の講義で示す。

科目ナンバー (AG)ECN121J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
農業経済初歩概説

2017～2021年度入学者
農業経済初歩概説

2 単位

古田恒平

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

この科目は、食料環境政策学科以外の学科に在籍する学生が、「食料環境政策学科ではどんなことを学んでいるのだろうか?」ということを理解するために設置された科目です。本講義では、主として農業・食料に焦点を当てます。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のB・Eに対応する科目である。

《授業の概要》

講義では世界の食料、日本の農業、毎日の食生活に関わるトピックについて、経済学をベースにできるだけ平易に解説します。食と農に関する社会科学的な理解を深めることを目指します。

2. 授業内容

第1回：授業イントロダクション

第2回：日本の農業と食料

第3回：経済発展と農業

第4回：食料の需要と供給

第5回：農業生産と土地

第6回：農業の経営組織

第7回：中間まとめ

第8回：農産物貿易と農業保護政策

第9回：世界の人口と食料

第10回：「食文化」の形成

第11回：食生活の「成熟」とフードシステム

第12回：農業の「近代化」

第13回：資源・環境と農業

第14回：まとめ

3. 履修上の注意

食料環境政策学科の学生は、学科に設置された各専攻科目を履修して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

経済学をベースとしますが、特別な準備は必要ありません。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

『農業経済学 第5版』荏開津典生・鈴木宣弘 岩波書店

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学期末試験によって評価します。変更がある場合には、初回講義時に指示します。

9. その他

質問等の問い合わせ先は、初回の講義で指示します。

科目ナンバー (AG)PHL121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生命倫理学

2 単位

川上直人

2017~2021 年度入学者
生命倫理学

1. 授業の概要・到達目標

ゲノム解析、遺伝子組み換え、ゲノム編集、クローンなど、生物に関わる技術的な進歩は、20 世紀末から今世紀にかけて生命科学を大きく発展させた。基礎研究から得られた成果は、環境問題や食糧問題、難病治療などの解決に貢献し始めており、今後も様々な応用が期待されている。一方、不可能を可能とした科学技術の利用は人類に新たな選択肢を与え、倫理に関わる新たな問題を生んでいる。この講座では、将来生命・食料・環境分野の専門家を目指す学生のみならず、専門分野の異なる学生を含めて、これらの研究分野の現状を知るとともに、現場ではどのような問題が生じているのか、こうした研究やその応用に当たってどのような倫理観をもつべきか、一般社会との相互理解・コミュニケーションはどうあるべきか、などを学び考える機会を提供する。本講義では、確立された考え方を学ぶというよりも、こうした問題提起を受けて個々の学生が自ら考える姿勢をもつようになることを目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の B に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回：講座の概要、成績評価方法等の説明（農学部：川上直人）

本講義のコーディネーターは分子生物学とバイオテクノロジーの発展を間近に見ながら、その成果や技術を活用した植物生命科学の基礎研究を行ってきた。この中で、自分の中に研究者としての論理的な理解と、科学の発展にさらされた一人の人間としての受け止め方や志向性について二面性を感じ、また先端技術や生命科学研究と一般社会の間のギャップについて考えさせられてきた。こうした経験も踏まえ、本講義が目指すもの、講義の内容について説明する。

第 2 回：科学的合理性と社会的合理性（農学部：長田蔵人）

この講義では、科学的真理の追求において用いられる判断基準と、社会的な意思決定を行う際の判断基準との違いについて考察し、そのギャップに対する無理解が問題を悪化させてしまったケースについて学ぶ。特に危機管理とリスク管理に関わる考え方について説明するとともに、予防原則の考え方について説明する。

第 3 回：動物福祉と生命倫理（元農学部教授：瀬藤雄三）

欧州の畜産先進国や米国でも、農業動物の福祉は大きな社会的問題となっている。日本国内では情緒的な福祉が言われていて、実践的な福祉考慮とはほど遠い。さらに日本は動物の生産技術でも遅れ、生産コストが高い。日本の生産現場では、福祉を考慮しつつ効率の良い生産技術が求められている。授業では養豚を例にして動物福祉について、履修学生が自分で考えられるようにする。

第 4 回：生殖医療の生命倫理（1）（先端生殖技術研究所・所長：桑山正成）

現在日本では新たに結婚した 6 組に 1 組が不妊であり、みなさんの想像以上に不妊に悩んでいるカップルは多い。本講義ではまずこうした実情を紹介しながら、不妊とは何か、どう対処するのかを知るため、女性はどうすれば妊娠するのか、どうして妊娠ができないのかを説明する。さらに、最先端の不妊治療の実際を紹介し、不妊治療がどこまで許されるのかを共に考える。

第 5 回：生殖医療の生命倫理（2）（先端生殖技術研究所・所長：桑山正成）

世界で初めてヒト卵子の凍結保存に成功し、世界中へ卵子バンクを普及させた本講師の経験から、卵子凍結バンクとは何か、健康な未婚女性の卵子保存とガン患者（ガン治療により多くの女性は副作用として卵巣機能が廃絶し不妊になる）の卵子保存についてそれぞれの意義や実態、そして倫理を考える。

第 6 回：「生命の尊厳」をめぐる論争（農学部：長田蔵人）

人間の存在や生命に、「尊厳」、つまり「侵されてはならない特別な価値」があるとすれば、それはどのような根拠に基づいているのか、そしてまた、その扱いについて、どのような制限が敷かれることになるのか、という問題について考察する。主に生殖科学に関わる問題について説明する。

第 7 回：植物バイオテクノロジーと社会（筑波大学遺伝子実験センター准教授：小野道之）

内外の穀物自給と遺伝子組換え作物の栽培の現状を概説する。遺伝子組換え及び新規の植物バイオテクノロジーの技法と問題点、将来性について解説する。社会との接点としてのリテラシー教育・サイエンスコミュニケーションの重要性と研究者・技術者の役割について触れる。

第 8 回：日本の生命倫理政策の実際と問題点（1）（生命倫理政策研究会・共同代表：櫛島次郎）

まず総論として、倫理が問題とされる先端医療の全体を俯瞰し、日本でこれまでどのような公的対応（立法や行政指針の策定）が行われてきたかを概観する。次いで各論として、脳死論議と日本の臓器移植の問題点、再生医療の展開とその研究管理のあり方について考える。

第 9 回：日本の生命倫理政策の実際と問題点（2）（生命倫理政策研究会・共同代表：櫛島次郎）

前回に続き各論として、動物実験と動物保護の兼ね合いについて、生命と研究の倫理の観点から、歴史も踏まえて考える。

第 10 回：生命の研究のよりどころは何か～研究倫理基礎論（生命倫理政策研究会・共同代表：櫛島次郎）

STAP 細胞捏造騒動は、研究倫理について大きな問題を提起した。では、生命科学に求められる研究倫理とは、どのようなものでなければならないだろうか。科学と倫理、法律などとの関係を考えることを通じて、生命の研究が社会の中にどのように位置付けられるべきなのか、議論してみたい。

第 11 回：消費者から見た生命科学・バイオテクノロジー（1）（日本生活協同組合連合会安全政策推進室室長：鬼武一夫）

2003 年、国内で BSE 問題が発生したことを受けて、政府は食品安全行政を立て直すために、リスクアナリシスの考え方（リスクアセスメント、リスクマネジメント及びリスクコミュニケーションの 3 要素）を導入した。この 2 回の講義では、食品の安全に関する取組み及び消費者の視点をベースとして、1. 消費者の権利、2. 食品の安全とは、3. リスクアナリシス、4. ゲノム応用食品と表示の話題を提供する。第 1 回目はこれまでの食品安全行政の取組み、食品安全に関する国際的な動向、消費者の認知等の全体像を報告する。

第 12 回：消費者から見た生命科学・バイオテクノロジー（2）（日本生活協同組合連合会安全政策推進室室長：鬼武一夫）

第 2 回の講義では、遺伝子組換え食品を中心にに関する国内外の経過や表示、特にリスク&ベネフィットの両面から課題の整理をおこなうこととした。更に話題の新しい育種技術（New Plant Breeding Technology）、ゲノム応用食品の動向については将来的な食品安全や食料問題の視点から皆さんと一緒に考えてみたい。

第 13 回：人間の認知特性と情報理解（立命館大学食マネジメント学部・教授：和田有史）

人間の情報の理解は、知識や経験、さらに認知的な特性によっても異なる。従って同様の情報を与えられても、個人ごとにその理解は異なる可能性が高い。本講義では人間の認識についての心理学的な知見を紹介し、科学コミュニケーション、リスクコミュニケーションにおける留意点を考察する。

第 14 回：総括とレポート作成（農学部：川上直人）

これまでの講義をもとに、各自の考え方をまとめたレポートを作成する。

3. 履修上の注意

本講義では多忙な外部の先生方に講義をお願いしていること、講義内容が倫理に関する内容であることなどから、履修時の態度を厳しくチェックする。授業中に寝ている場合は原則として出席と認めない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

生命、生命科学、生命を扱う医療・農業・産業、そして食品について、日頃感じていることを大事にする。また、様々な報道メディアや書籍から情報を引き出し、自分はどう考えるかを意識する。

5. 教科書

特になし

6. 参考書

特に指定しないが、各回の講師が紹介することがある。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

日常の受講姿勢（40%）および小論文（60%）により評価する。

9. その他

学部間共通総合講座

「生命倫理学：生命科学・バイオテクノロジーと社会」を過年度履修した者については、本講義の履修を認めない。

科目ナンバー (AG) AGR391E

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語農学 I (農)	2 単位	マクタガート
2017~2021 年度入学者 英語農学 I (農)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

The objective of this course on Agricultural Science (英語農学 I・農学科) is to help students to understand and talk about agricultural and environmental science in English. Students will learn English terminology used in agricultural and environmental science fields and will practice reading, writing, discussing and presenting information about these topics in English. In the class, students will work in small groups to research information and case studies related to each class topic and present their findings to the other students in the class. Classes will be conducted mainly in English.

農業環境科学英語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、その分野の論文を英語で読み、書き、討論し、発表できるようにすることを目指します。授業では、小グループに分かれて各授業のテーマに関する情報や事例を調べ、その結果をクラスで発表します。授業は主に英語で行います。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A, C, D に対応する科目です。

《授業の概要》

This course will study the relationship between agriculture, food production, and the environment. In the Spring semester we will look at sustainable food and agriculture, agriculture and climate change, and threats of invasive species to agriculture and ecosystems.

このコースでは、農業と食料生産、環境との関係について学びます。今学期は、持続可能な食料と農業、農業と気候変動、農業と生態系に対する外来種の脅威を中心に学びます。

2. 授業内容

- 第1回: ガイダンス + Introducing yourself to other people
- 第2回: a Sustainable agriculture and food production - Introduction
- 第2回: b Challenges that threaten food security and sustainability
- 第3回: a Strategies for improving sustainability 1 - organic agriculture
- 第3回: b Strategies for improving sustainability 2 - sustainable intensification
- 第4回: Group Work - Pros and cons (利点・欠点) of organic farming & sustainable intensification
- 第5回: Presentation 1 - Which is better for sustainability - organic farming or sustainable intensification?
- 第6回: a Global warming and climate change - Introduction
- 第6回: b Agriculture's contribution to global warming
- 第7回: a Effects of climate change on food and agriculture
- 第7回: b Agricultural countermeasures against climate change
- 第8回: Group Work - Research in to how agriculture can adapt 適応 or mitigate 緩和 climate change
- 第9回: Presentation 2 - Examples of agricultural adaptation to or mitigation of climate change
- 第10回: a Invasive species - what is an 'alien' invasive species?
- 第10回: b Invasive species problems 1 - Threats to agriculture production
- 第11回: a Invasive species problems 2 - Threats to local ecosystems
- 第11回: b Examples of countermeasures against invasive species
- 第12回: Group Work 3 - Investigate examples of invasive species problems & countermeasures
- 第13回: Presentation 3 - Invasive species: examples of problems and solutions
- 第14回: Revision (まとめ)

3. 履修上の注意

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。
Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete exercises and group work before coming to the next class.

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.
教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

3 x Group Presentations = 75%, Final Report = 25%

発表 3 回 75% + レポート 25%

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5号館 (農学部) 205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR391E

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語農学Ⅱ(農)

2017~2021年度入学者
英語農学Ⅱ(農)

2単位

マクタガート

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

The objective of this course on Agricultural Science (英語農学Ⅱ・農学科) is to help students to understand and talk about agricultural and environmental science in English. Students will learn English terminology used in agricultural and environmental science fields and will practice reading, writing, discussing and presenting information about these topics in English. In the class, students will work in small groups to research information and case studies related to each class topic and present their findings to the other students in the class. Classes will be conducted mainly in English.

農業環境科学英語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、その分野の論文を英語で読み、書き、討論し、発表できるようにすることを目指します。授業では、小グループに分かれて各授業のテーマに関する情報や事例を調べ、その結果をクラスで発表します。授業は主に英語で行います。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA, C, Dに対応する科目です。

《授業の概要》

This course will study the relationship between agriculture, food and the environment. In the Autumn semester we will focus on how digital technology can improve agriculture and food production, consider the potential of biotechnology for food and agriculture, and look at the causes of food loss and food waste and solutions.

このコースは農業と食料生産、環境との関係について勉強します。秋学期には、デジタル技術が農業と食品生産をどのように改善できるかに焦点を当て、食品と農業のためのバイオテクノロジーの可能性を検討し、食品ロスや食品廃棄の原因と解決策を検討する。

2. 授業内容

- 第1回: ガイダンス + Introduce your laboratory 研究室 research
- 第2回: a Digital Agriculture - Introduction
- 第2回: b Using IT and IoT to improve agricultural productivity and sustainability
- 第3回: a Digital agriculture case studies - Japan
- 第3回: b Digital agriculture case studies - international
- 第4回: Group Work - investigate how digital agriculture can make agriculture more sustainable
- 第5回: Presentation 1 - Examples of digital agriculture around the world
- 第6回: a Applications of biotechnology in agriculture & food production
- 第6回: b Main types of biotech methods for improving crops & food
- 第7回: a Examples of biotech applications in crops and food
- 第7回: b Safety of biotech: risks and safety management
- 第8回: Group Work - Investigate how biotechnology can improve agriculture and food production
- 第9回: Presentation 2 - Examples of biotechnology to improve agriculture and food production
- 第10回: a Food Loss and Food Waste - Introduction
- 第10回: b Main causes of food loss and food waste
- 第11回: a Examples of ways to reduce food loss
- 第11回: b Examples of ways to reduce food waste
- 第12回: Group Work - Examples of reducing food loss and food waste in different countries
- 第13回: Presentation 3 - Examples of reducing food loss and food waste
- 第14回: Revision (まとめ)

3. 履修上の注意

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。

Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete exercises and group work before coming to the next class.

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.

教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

3 x Group Presentations = 75%, + Final Report = 25%
発表 3 回 75% + レポート 25%

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5号館 (農学部) 205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR391E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語農学 I (農化)

2017~2021 年度入学者
英語農学 I (農化)

2 単位

マクタガート

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

The objective of this course on Agricultural Chemistry (英語農学 I・農芸化学科) is to help students to understand and talk about science in English. During the course you will learn specialized vocabulary for different selected topics. You will use this vocabulary to read, write, and talk about these topics in English. In the class you will do various individual and group practice exercises to help you understand the course topics. The classes will be conducted mainly in English.

科学英語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、その分野の論文を英語で読み、書き、討論し、発表できるようにすることを目指します。コースで扱う様々な内容を理解するため、個人でまたはグループで練習問題を行います。授業は主に英語で行います。

《授業の概要》

This course will study issues related to food production, agriculture, and the environment. In the Spring semester we will focus on important food compounds and their functions, food chemistry and microbiology, the relationship between biogeochemical cycles and global warming, ways to mitigate greenhouse gas emissions, and eco-friendly agriculture.

このコースは食品、農業、健康と環境に関する様々な問題について学びます。春学期は、重要な食品化合物とその機能、食品化学と微生物学、生物地球化学サイクルと地球温暖化の関係、温室効果ガス排出を緩和する方法、環境に優しい農業に焦点を中心に学びます。

2. 授業内容

- 第1回: ガイダンス + Introducing yourself to other people
- 第2回: a Important Food Compounds - Introduction Quiz
- 第2回: b Carbohydrates and Fats
- 第3回: a Aroma Compounds and Proteins
- 第3回: b Group Work - Practice Exercise 1
- 第4回: a Uses of Chemistry and Microbiology in Food Production
- 第4回: b Examples of fungal and bacterial processes
- 第5回: a Examples of non-microbial processes.
- 第5回: b Group Work - Practice Exercise 2
- 第6回: a Biogeochemical cycles in the Environment
- 第6回: b How human activities can alter natural balance
- 第7回: a Global Warming and greenhouse gas emissions
- 第7回: b Group Work - Practice Exercise 3
- 第8回: a Ways to reduce greenhouse gas emissions
- 第8回: b Biological carbon uptake, carbon capture & control (CCUS) & alternative fuels
- 第9回: a Group work discussion of different methods to control greenhouse gas emissions
- 第9回: b Group Work - Practice Exercise 4
- 第10回: Start Group PowerPoint Report - Mitigating (reducing) greenhouse gas emissions
- 第11回: a Agriculture and the Environment - risks to the environment
- 第11回: b Examples of agri-environmental management in Japan
- 第12回: a Examples of agri-environmental management in the UK
- 第12回: b Group Work - Practice Exercise 5
- 第13回: Food and Agriculture systems in the UK
- 第14回: Revision (まとめ)

3. 履修上の注意

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

The reading materials will be in English.
資料は全て英語です。

Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practical exercises related to class handouts before coming to the next class.

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.
教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Written Report 30%, PowerPoint Report 25%, Exam 35%, Class participation & Practice Exercises 10%
(レポート 30%、パワーポイントレポート 25%、定期試験 35%、平常点 (グループワークと練習問題) 10%)

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5号館 (農学部) 205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR391E

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語農学Ⅱ (農化)	2 単位	マクタガート
2017~2021 年度入学者 英語農学Ⅱ (農化)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

The objective of this course on Agricultural Chemistry (英語農学Ⅱ・農芸化学科) is to help students to understand and talk about science in English. During the course you will learn specialized vocabulary for different selected topics. You will use this vocabulary to read, write, and talk about these topics in English. In the class you will do various individual and group practice exercises to help you understand the course topics. The classes will be conducted mainly in English.

科学英語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、その分野の論文を英語で読み、書き、討論し、発表できるようにすることを目指します。コースで扱う様々な内容を理解するため、個人またはグループで練習問題を行います。授業は主に英語で行います。

《授業の概要》

This course will study the issues related to food production, agriculture, health and the environment. The Autumn semester will focus on basic genetic science, the use of biotechnology in agriculture, toxic chemical problems, air pollution, and water pollution and control.

このコースでは、食品生産、農業、健康、環境に関する様々な問題について学びます。秋学期は、基礎遺伝子科学、農業におけるバイオテクノロジーの利用、有害化学物質問題、大気汚染、水質汚染とその防止に焦点を中心に学びます。

2. 授業内容

- 第1回: ガイダンス + Introduce your laboratory 研究室 research
- 第2回: a Basic Genetics - Introduction & Quiz
- 第2回: b Cells, DNA and Genes
- 第3回: a Important genetic processes
- 第3回: b Group Work - Practice Exercise 1
- 第4回: a Biotechnology in agriculture - Introduction
- 第4回: b Genetically modified crops & animals (GMOs)
- 第5回: a Gene editing (CRISPR etc.)
- 第5回: b Group Work - Practice Exercise 2
- 第6回: Start Group PowerPoint Report - Uses of Biotechnology in agriculture and food production
- 第7回: a Toxic Chemicals - types of toxic chemicals and toxic effects
- 第7回: b Toxic chemical problems in Japan
- 第8回: a Persistent organic pollutants (POPs)
- 第8回: b Radioactive pollution risks
- 第9回: a Group Work - Practice Exercise 3
- 第10回: a Air Pollution 1 - Introduction
- 第10回: b Ozone Layer
- 第11回: a Air Pollution 2 - photochemical smog and industrial smog
- 第11回: b Group Work - Practice Exercise 4
- 第12回: a Water pollution and control - Introduction
- 第12回: b Sources and effects of water pollution
- 第13回: a Controlling agricultural and urban water pollution
- 第13回: b Group Work - Practice Exercise 5
- 第14回: Revision (まとめ)

3. 履修上の注意

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。

Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practical exercises related to class handouts before coming to the next class.

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.

教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Written Report 30%, PowerPoint Report 25%, Exam 35%, Class participation & Practice Exercises 10%
(レポート 30%、パワーポイントレポート 25%、定期試験 35%、平常点 (グループワークと練習問題) 10%)

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5号館 (農学部) 205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR391E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語農学 I (生命)

2017~2021 年度入学者
英語農学 I (生命)

2 単位

マクタガート

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

The objective of this course on Life Sciences (英語農学 I・生命科学), is to help students to understand and talk about Life Sciences in English. During the course you will learn specialized vocabulary for different selected topics. You will use this vocabulary to read, write and talk about these topics. In the class you will do various individual and group practice exercises to help you understand the course topics. The classes will be conducted mainly in English.

科学英語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、その分野の論文を英語で読み、書き、討論し、発表できるようになることを目指します。コースで扱う様々な内容を理解するため、個人またはグループで練習問題を行います。授業は主に英語で行います。

《授業の概要》

This course will study the relationship between life sciences, agriculture, food, health and the environment. The first semester will focus on genetic science, stem cells and gene therapy methods, as well as toxic chemical pollution problems and agri-environmental management.

このコースは、生命科学、農業、食物、健康、環境との関係について学びます。春学期は遺伝子科学、幹細胞、遺伝子療法、毒性化学物質により引き起こされる汚染問題、また環境に優しい農業などを中心に学びます。

2. 授業内容

- 第1回: ガイダンス・Introduce yourself to other students
- 第2回: a Basic Genetics - Introduction & Quiz
- 第2回: b Cells, DNA and Genes
- 第3回: a Important genetic processes
- 第3回: b Group Work - Practice Exercise 1
- 第4回: a Stem Cells - Introduction and Quiz
- 第4回: b types and characteristics of naturally occurring stem cells
- 第5回: a Medical uses of stem cells
- 第5回: b Group Work - Practice Exercise 2
- 第6回: Start Group PowerPoint Report on Stem Cells Research & Applications
- 第7回: a Gene Therapy - genetic disease + Introduction to gene therapy
- 第7回: b Gene therapy methods
- 第8回: a Examples of gene therapy treatments
- 第8回: b Group Work - Practice Exercise 3
- 第9回: a Toxic Chemicals - types of toxic chemicals and toxic effects
- 第9回: b Toxic chemical problems in Japan
- 第10回: a Persistent organic pollutants (POP) and radioactive pollution risks
- 第10回: b Group Work - Practice Exercise 4
- 第11回: a Agriculture and the Environment - risks to the environment
- 第11回: b Examples of agri-environmental management in Japan
- 第12回: a Examples of agri-environmental management in the UK
- 第12回: b Group Work - Practice Exercise 5
- 第13回: Agriculture in the UK
- 第14回: Revision (まとめ)

3. 履修上の注意

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

The reading materials will be in English.
資料は全て英語です。

Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practical exercises related to class handouts before coming to the next class.

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.
教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

PowerPoint Report 25%, Written Report 30%, Final Exam 35%, Class participation & Practice Exercises 10%
(パワーポイントレポート 25%、レポート 30%、定期試験 35%、平常点 (グループワークと練習問題) 10%)

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5号館 (農学部) 205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR391E

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語農学Ⅱ(生命)	2 単位	マクタガート
2017~2021 年度入学者 英語農学Ⅱ(生命)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

The objective of this course on Life Sciences (英語農学Ⅱ・生命科学), is to help students to understand and talk about Life Sciences in English. During the course you will learn specialized vocabulary for different selected topics. You will use this vocabulary to read, write and talk about these topics. In the class you will do various individual and group practice exercises to help you understand the course topics. The classes will be conducted mainly in English.

科学英語を理解し、使えるようになることを目標とします。科学分野で用いられる英語の専門用語を学び、その分野の論文を英語で読み、書き、討論し、発表できるようになることを目指します。コースで扱う様々な内容を理解するため、個人またはグループで練習問題を行います。授業は主に英語で行います。

《授業の概要》

This course will study the relationship between life sciences, agriculture, food, health, and the environment. In this semester we will look at genetically modified crops and food, gene editing, global warming, climate change, and improving nutrition & health.

このコースは、生命科学と農業、食物、健康、環境との関係について学びます。秋学期は遺伝子組み換え作物と食物、遺伝子編集、地球温暖化、気候変動の影響と対策、また栄養と健康の改善を中心に見ていきます。

2. 授業内容

- 第1回：ガイダンス・Introduce your laboratory 研究室 research
- 第2回：a Genetically Modified Organisms: What are GMOs?
- 第2回：b Examples of GM uses in crops & food production
- 第3回：a Risks of GM crops and food + safety management
- 第3回：b Group Work - Practice Exercise 1
- 第4回：a Gene Editing - CRISPR-Cas9 & potential uses
- 第4回：b Uses of gene editing for health and disease treatment
- 第5回：a Uses of gene editing for food and agriculture
- 第5回：b Group Work - Practice Exercise 2
- 第6回：a Global Warming - Introduction Quiz
- 第6回：b How global warming happens + sources of greenhouse gases
- 第7回：a Food production and greenhouse gas emissions
- 第7回：b Group Work - Practice Exercise 3
- 第8回：a Climate Change - how is the climate changing?
- 第8回：b Effects of climate change on agriculture & food production
- 第9回：a Effects of climate change on health and the environment
- 第9回：b Group Work - Practice Exercise 4
- 第10回：Start Group PowerPoint Report - Effects of Climate Change
- 第11回：a Nutrition and Health - Introduction
- 第11回：b Important food nutrients
- 第12回：a Nutrition problems - food insecurity and poor nutrition
- 第12回：b Improving food nutrition and health
- 第13回：Group work - Practice Exercise 5
- 第14回：Revision (まとめ)

3. 履修上の注意

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

The reading materials will be in English.
資料は全て英語です。

Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practical exercises related to class handouts before coming to the next class.

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.
教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Written Report 30% PowerPoint Report 25%, Exam 35%, Class Participation & Practice Exercises 10%
(レポート 30%、パワーポイントレポート 25%、定期試験 35%、平常点 (グループワークと練習問題) 10%)

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5号館 (農学部) 205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR391E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語農学 I (政策)

2017~2021 年度入学者
英語農学 I (政策)

2 単位

マクタガート

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

The objective of this course on Agri-Food & Environmental Policy (英語農学 I・食料環境政策学科) is to help students to understand and talk about agri-food and environmental issues in English. Students will learn English typically used when discussing these topics and issues, and will be able to read, write, discuss, and present their findings. In the class, students will work in small groups to research information and case studies related to each class topic and present their findings to the class. Classes will be conducted primarily in English.

専門英語、特に食料環境に関する英語を理解し、使えるようになることを目標とします。食料環境政策分野で用いられる英語を学び、読み、書き、討論し、発表できるようになることを目指します。授業では、小グループに分かれて各授業のテーマに関する情報や事例を調べ、その結果をクラスで発表します。授業は主に英語で行います。

《授業の概要》

This course will study issues and policies related to sustainable agriculture, food production and the environment. In the Spring semester we will look at ways to promote Japanese agriculture and rural areas, investigate climate change problems and solutions, and consider the merits and risks of genetically modified crops and food.

このコースは持続可能な農業、食糧生産、環境に関する課題と政策について勉強します。春学期には、日本の農業と農村地域の振興策を検討し、気候変動の問題と解決策を調査し、遺伝子組み換え作物と食品のメリットとリスクを中心に学びます。

2. 授業内容

- 第1回: ガイダンス + Introducing yourself to other people
- 第2回: a Improving Japanese agriculture and rural areas - Introduction
- 第2回: b Challenges facing Japan's Agri-Food Businesses and Rural Areas
- 第3回: a Japan's agri-food strengths and opportunities
- 第3回: b Examples of strategies to improve Japanese agri-food business & rural areas
- 第4回: Group Work - Research ways to improve Japanese agriculture and rural areas
- 第5回: Presentation 1 - Improving Japanese agriculture and rural areas
- 第6回: a Agriculture and climate change - Introduction
- 第6回: b Effects of climate change and risks to food security
- 第7回: a Climate Smart Agriculture - feed the world, adapt to climate change, reduce greenhouse gases
- 第7回: b Case studies in various countries
- 第8回: Group Work - Research how climate smart agriculture can reduce climate change problems
- 第9回: Presentation 2 - Examples of climate smart agriculture in different countries
- 第10回: a Biotechnology in agriculture & food production - Introduction
- 第10回: b Benefits of genetically modified crops and gene editing
- 第11回: a World use of biotechnology + safety and consumer confidence
- 第11回: b What are Japan's policies on biotechnology for agriculture & food production?
- 第11回: Group Work - research into benefits and safety of using agri-food biotechnology in Japan
- 第13回: Presentation 3 - Should Japan promote the use of biotechnology for food and agriculture?
- 第14回: Revision (まとめ)

3. 履修上の注意

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

The reading materials will be in English. 資料は全て英語です。

Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete exercises and group work before coming to the next class.

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.

教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

3 x Group Presentations = 75% + Final Report = 25%

発表 3回 75% + レポート 25%

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5号館 (農学部) 205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) AGR391E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語農学Ⅱ (政策)

2017~2021 年度入学者
英語農学Ⅱ (政策)

2 単位

マクタガート

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

The objective of this course on Agri-Food & Environmental Policy (英語農学 II・食料環境政策学科) is to help students to understand and talk about agri-food and environmental issues in English. Students will learn English typically used when discussing these topics and issues, and will be able to read, write, discuss, and present their findings. In the class, students will work in small groups to research information and case studies related to each class topic and present their findings to the class. Classes will be conducted primarily in English.

科学英語、特に食料環境に関する英語を理解し、使えるようになることを目標とします。食料環境政策分野で用いられる専門用語を英語で学び、論文を英語で読み、書き、討論し、発表できるようになることを目指します。授業では、小グループに分かれて各授業のテーマに関する情報や事例を調べ、その結果を他のクラスの人たちに向けて発表します。授業は主に英語で行います。

《授業の概要》

This course will study issues and policies related to sustainable agriculture, food production and the environment. In the Autumn semester you will study about ways to promote sustainable seafood in Japan, improve food security and nutrition, and assess ways to protect and manage Japan's Natural Heritage Sites.

このコースでは、持続可能な農業、食糧生産、環境に関する問題や政策について学びます。秋学期には、日本における持続可能な水産物の普及方法、食料安全保障と栄養の改善、日本の自然遺産の保護・管理方法の評価を中心に学びます。

2. 授業内容

第1回：ガイダンス・ Introduce your laboratory 研究室 research

第2回：a Sustainable Seafood - Introduction

第2回：b Challenges facing sustainable seafood and Japan's seafood business

第3回：a Making seafood production more sustainable

第3回：b Cases studies - promoting sustainability of seafood and fishing communities in Japan

第4回：Group Work - Research ways to improve sustainability of seafood in Japan

第5回：Presentation 1 - Improving Japan's Seafood Sustainability

第6回：a Food security and nutrition - Introduction

第6回：b Causes of poor food security and nutrition

第7回：a Ways to improve food security and nutrition

第7回：b Case studies from various countries

第8回：Group Work - Assess ways to improve food security and nutrition in different countries

第9回：Presentation 2 - Strategies for improving food security and nutrition

第10回：a World Heritage Convention - Cultural and Natural World Heritage Sites

第10回：b World Natural Heritage Sites - criteria and examples

第11回：a Japan's World Natural Heritage Sites

第11回：b Challenges facing Japan's World Natural Heritage Sites

第12回：Group Work - Unique features, challenges & management of Japan's World Natural Heritage sites

第13回：Presentation 3 - Japan's World Natural Heritage Sites - Features, Risks & Management

第14回：Revision (まとめ)

3. 履修上の注意

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

The reading materials will be in English.

資料は全て英語です。

Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete exercises and group work before coming to the next class.

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.

教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

3 x Group Presentations = 75% + Final Report = 25%

発表 3回 75% + レポート 25%

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5号館 (農学部) 205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG)AGR135J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
農場実習(農・1班)

2017~2021年度入学者
農場実習(1)

1 単位

伊藤・齋藤・徳田・倉本・矢崎

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農作物の播種、育苗、施肥、除草、病虫害防除などの栽培管理、および収穫、出荷調製、農産加工などを体験し、農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに、里山の機能、自然循環機能などについても実習・講義を通じて理解を深める。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のD・G・Hに対応する科目である。

《授業の概要》

農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行い、実際に圃場で、土作り、施肥、畝立て、播種、定植、除草などの栽培管理および収穫、出荷調製等の作物栽培に関する技術を実践する。

2. 授業内容

(1)

第1回：オリエンテーション、安全教育、農場内施設、圃場、農機具等の説明

第2回：播種、果菜類の定植と圃場管理

第3回：果菜類の施設栽培管理に関する実習と講義

第4回：栽培管理(1) 芽かき・誘引・仕立て

第5回：栽培管理(2) 追肥

第6回：栽培管理(3) 除草、野菜類の収穫

第7回：秋野菜の播種、定植

第8回：農産加工

第9回：里山の機能・物質循環に関する実習と講義

第10回：野菜類の収穫、まとめ

※天候により内容が変更されることがあります。

3. 履修上の注意

農作業のできる服装で臨むこと。なお、作業中は土を触って汚れたり、作物や土の中から虫が出てくることもある。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

実習内容について関連した情報を学習し、理解を深めること。

実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実技と実習態度 50%、レポート 50%で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR135J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
農場実習(農・2班)

2017~2021年度入学者
農場実習(2)

1単位

伊藤・齋藤・徳田・倉本・矢崎

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農作物の播種、育苗、施肥、除草、病虫害防除などの栽培管理、および収穫、出荷調整、農産加工などを体験し、農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに、里山の機能、自然循環機能などについても実習・講義を通じて理解を深める。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のD・G・Hに対応する科目である。

《授業の概要》

農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行い、実際に圃場で、土作り、施肥、畝立て、除草等の圃場管理、播種、定植等の栽培管理および収穫、出荷調整等の作物栽培に関する技術を実践する。

2. 授業内容

(2)

第1回：オリエンテーション、安全教育、農機具、施設、圃場等の説明

第2回：秋野菜の播種、定植

第3回：ラッカセイの収穫、サツマイモの収穫

第4回：葉根菜類の栽培管理(1)、間引き

第5回：葉根菜類の栽培管理(2)、追肥

第6回：施設園芸の環境制御と測定に関する実習と講義

第7回：果菜類の施設栽培管理に関する実習と講義

第8回：農産加工

第9回：里山の機能・物質循環に関する実習と講義

第10回：葉根菜類の収穫と出荷調整

※天候や生育状況により内容が変更になることがあります。

3. 履修上の注意

農作業のできる服装で臨むこと。なお、作業中は土を触って汚れたり、作物や土の中から虫が出てくることもある。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

実習内容について関連した情報を学習し、理解を深めること。

実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。

5. 教科書

特に使用しない。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実技と実習態度50%、レポート50%で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR135J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
農場実習(化・4組)

2017~2021年度入学者
農場実習

1単位

岩崎・甲斐・徳田

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農作業の実践及び講義を通じて、栽培技術を体系的に体験することにより、作物生理と栽培技術の意味を理解する。さらに、自然循環機能や食品加工などについても実習・講義を通じて理解を深める。

《授業の概要》

農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行うとともに、実際に圃場において、土作り、施肥、播種、定植、間引き、整枝、収穫などの栽培技術を実践する。また収穫された野菜等を利用して、加工を実践する。

2. 授業内容

(1)

第1回：夏野菜の播種・定植

第2回：栽培管理(1) 誘引・仕立て

第3回：栽培管理(2) 追肥・収穫

第4回：野菜の収穫

夏期集中

1日目：圃場管理(夏野菜収穫及び片付け)

資源循環型農業技術に関する講義

2日目：野菜を使った食品加工実習

ICT活用農業技術に関する講義

※天候や生育状況により内容が変更になることがあります。

3. 履修上の注意

- ・農作業のできる服装で臨むこと。
- ・作業内容について関連情報を学習し、理解を深めること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

- ・農業や作物に関するプリントを配付するので、その内容を理解するとともに、関連情報を調べ、理解を深めること。
- ・実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実技と実習態度 50%、レポート 50%で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR135J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
農場実習(化・5組)

2017~2021年度入学者
農場実習

1単位

岩崎・甲斐・徳田

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農作業の実践及び講義を通じて、栽培技術を体系的に体験することにより、作物生理と栽培技術の意味を理解する。さらに、自然循環機能や食品加工などについても実習・講義を通じて理解を深める。

《授業の概要》

農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行うとともに、実際に圃場において、土作り、施肥、播種、定植、間引き、整枝、収穫などの栽培技術を実践する。また収穫された野菜等を利用して、加工を実践する。

2. 授業内容

(2)

第1回：野菜の播種・定植など

第2回：栽培管理(1) 誘引、仕立てなど

第3回：栽培管理(2) 仕立て、追肥、収穫など

第4回：野菜の収穫及び片付け

夏期集中

1日目：圃場管理(夏野菜収穫及び片付け)

資源循環型農業技術に関する講義

2日目：野菜を使った食品加工実習

ICT活用農業技術に関する講義

※天候や生育状況により内容が変更になることがあります。

3. 履修上の注意

- ・農作業のできる服装で臨むこと。
- ・作業内容について関連情報を学習し、理解を深めること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

- ・農業や作物に関するプリントを配付するので、その内容を理解するとともに、関連情報を調べ、理解を深めること。
- ・実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実技と実習態度 50%、レポート 50%で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR135J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農場実習（化・6組）

2017～2021 年度入学者
農場実習

1 単位

岩崎・甲斐・徳田

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農作業の実践及び講義を通じて、栽培技術を体系的に体験することにより、作物生理と栽培技術の意味を理解する。さらに、自然循環機能や食品加工などについても実習・講義を通じて理解を深める。

《授業の概要》

農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行うとともに、実際に圃場において、土作り、施肥、播種、定植、間引き、整枝、収穫などの栽培技術を実践する。また収穫された野菜等を利用して、加工を実践する。

2. 授業内容

(3)

第1回：野菜の播種・定植など

第2回：栽培管理（1） 誘引、仕立てなど

第3回：栽培管理（2） 仕立て、追肥、収穫など

第4回：野菜の収穫及び片付け

夏期集中

1日目：圃場管理（夏野菜収穫及び片付け）

資源循環型農業技術に関する講義

2日目：野菜を使った食品加工実習

ICT活用農業技術に関する講義

※天候や生育状況により内容が変更になることがあります。

3. 履修上の注意

- ・農作業のできる服装で臨むこと。
- ・作業内容について関連情報を学習し、理解を深めること

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・農業や作物に関するプリントを配付するので、その内容を理解するとともに、関連情報を調べ、理解を深めること。
- ・実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実技と実習態度 50%、レポート 50%で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG) AGR135J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農場実習 (生・1 班)

2017~2021 年度入学者
農場実習

1 単位

川岸・甲斐・
伊藤・武田・徳田

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農作物の播種、育苗、定植、間引き、除草、片付けなどの栽培管理、および収穫、出荷調製、農産加工などを体験し、農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに、里山の機能、自然循環機能などについても実習・講義を通じて理解を深める。

《授業の概要》

農作物の栽培技術体系や野菜類の作型、施肥設計などに関する解説を行い、実際に圃場で除草や片付けなどの圃場管理、播種、定植、間引きなどの栽培管理および収穫、出荷調製などの作物栽培に関する技術を実践する。また、収穫された野菜を用いた加工の実践や里山における下草刈りなどを実践する。

2. 授業内容

1 日目

オリエンテーション・安全教育

栽培管理 (秋野菜の播種・定植・間引き)

収穫・出荷調製

2 日目

野菜の品質評価測定と施肥設計

施設栽培に関する講義と実習

3 日目

里山の機能と管理、物質循環に関する講義と実習

農産加工

4 日目

圃場管理 (夏野菜片付け、除草)

まとめ

※天候や生育状況により順番が変更になることがあります。

3. 履修上の注意

農作業のできる服装で臨むこと。なお、作業中は土を触って汚れたり、作物や土の中から虫が出てくることもある。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

実習内容について関連した情報を学習し、理解を深めること。

実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実技と実習態度 50%、レポート 50%で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR135J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農場実習 (生・2 班)

2017~2021 年度入学者
農場実習

1 単位

川岸・甲斐・
伊藤・武田・徳田

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農作物の播種、育苗、定植、間引き、除草、片付けなどの栽培管理、および収穫、出荷調製、農産加工などを体験し、農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに、里山の機能、自然循環機能などについても実習・講義を通じて理解を深める。

《授業の概要》

農作物の栽培技術体系や野菜類の作型、施肥設計などに関する解説を行い、実際に圃場で除草や片付けなどの圃場管理、播種、定植、間引きなどの栽培管理および収穫、出荷調製などの作物栽培に関する技術を実践する。また、収穫された野菜を用いた加工の実践や里山における下草刈りや落葉掃きなどを実践する。

2. 授業内容

1 日目

オリエンテーション・安全教育

栽培管理 (秋野菜の播種・定植・間引き)

収穫・出荷調製

2 日目

野菜の品質評価測定と施肥設計

施設栽培に関する講義と実習

3 日目

里山の機能と管理、物質循環に関する講義と実習

食品加工

4 日目

圃場管理 (夏野菜片付け、除草)

まとめ

※天候や生育状況により順番が変更になることがあります。

3. 履修上の注意

農作業のできる服装で臨むこと。

なお、作業中は土を触って汚れたり、作物や土の中から虫が出てくることもある。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

実習内容について関連した情報を学習し、理解を深めること。

実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実技と実習態度 50%、レポート 50%で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR135J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農場実習（食料環境政策学科）
2017～2021 年度入学者
農場実習（食料環境政策学科）

1 単位

川岸・齋藤・徳田・岩崎・武田

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農作物の播種、育苗、施肥、除草、病虫害防除などの栽培管理、および収穫、出荷調製、農産加工などを体験し、農業生産技術の成り立ちを理解する。さらに、里山の機能などについても実習・講義を通じて理解を深める。

《授業の概要》

農作物の栽培技術体系と野菜類の作型に関する解説を行い、実際に圃場で、土作り、施肥、畝立て、除草等の圃場管理、播種、定植等の栽培管理および収穫、出荷調製等の作物栽培に関する技術を実践する。

2. 授業内容

第1回：オリエンテーション、安全教育、農場内施設、圃場、農機具等の説明、播種

第2回：圃場準備、果菜類、葉菜類の播種、定植

第3回：果菜類、葉菜類の栽培管理、イモ類の植え付け

第4回：果菜類、葉菜類の栽培管理

第5回：果菜類、葉菜類の栽培管理、収穫、春学期のまとめ

第6回：圃場準備、秋野菜の播種、定植

第7回：秋野菜の栽培管理、食品加工

第8回：秋野菜の収穫と調製、イモ類の収穫

第9回：里山の機能、物質循環に関する実習と講義

第10回：秋野菜の収穫、圃場の片付け、秋学期のまとめ

※天候により内容が変更されることがあります。

3. 履修上の注意

農作業のできる服装で臨むこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

実習内容について関連した情報を学習し、理解を深めること。

実習内容に関連した情報を調べ、レポートにして提出する。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実技と実習態度 50%、レポート 50%で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR121J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 アグリサイエンス論	2 単位	岩崎泰永
2017～2021年度入学者 アグリサイエンス論		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

農業の基本的な知識や技術を広く教養として学ぶとともに、日本および世界の農場や食料生産の現状や課題を理解し、解決策を考える。

《授業の到達目標》

今日、人口増加、食糧問題、環境問題、資源問題などが大きな課題として顕在化しつつある。作物を生産することで食糧を確保し、同時に環境を浄化し、生物資源を蓄積することが農業の持つ本来の姿である。安定的に食糧を生産・供給・備蓄できる農業技術の開発が急務であるが、将来に向けて生態系と調和し、地球環境に負荷のかからない持続的農業技術を確立することも必要であり、従来から行われてきた農業について今一度見直す時期に来ている。本講義は上記の視点から、まず、現在の農業を理解するための基本的な知識や技術を広く学び、環境と農業の関わりを学術論文や現場の事例を紹介しながら理解し、農業の課題と解決策を考えることを目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション：国内外の農業の現状と課題
- 第2回：作型、作付け体系について
- 第3回：土壌の生成、役割、管理
- 第4回：灌水の考え方と基本技術、最新技術
- 第5回：施肥の考え方と基本技術、最新技術
- 第6回：防除の考え方と基本技術、最新技術
- 第7回：施設園芸とスマート農業の基礎知識、先端技術の紹介
- 第8回：省エネルギーと地球温暖化対策
- 第9回：生産現場を支える仕組み（普及指導員、営農指導員）
- 第10回：SDGsについて考える
- 第11回：環境保全型農業
- 第12回：有機農業・有機栽培
- 第13回：水資源の有効利用
- 第14回：社会で仕事するための基礎知識（特許、種苗法）

※講義の順番や内容は変更する場合があります。

3. 履修上の注意

- ・外部講師による講義を行なうこともある。
 - ・参加者同士で議論・発表を行う場合もある。
- 農業を取り巻く現状を把握するために、日頃から新聞・テレビ・ネット・書物等で情報を習得しておいてください。

（参考）番外編として、以下のようなこともやっています（希望者のみ。成績評価には関係ありません）

- 1) 生産者や研究機関や企業の訪問
- 2) 実践的な農業体験実習
 - ・近隣の生産者を訪問して作業を手伝う
 - ・独自に借りている露地畑（露地野菜）やハウス（トマト、イチゴ、葉物野菜）における生産と販売

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義に関する事項に関して、新聞・テレビ・ネット・書物等で情報を習得しておくこと。

5. 教科書

なし。必要に応じて資料を配布する。

6. 参考書

- 『環境制御のための植物生理』エペ フォーヴェリンクほか（著）、中野 明正ほか（翻訳）（農山漁村文化協会）
- 『植物生産技術学』秋田重誠・塩谷哲夫（文永堂出版）
- 『生物環境物理学の基礎 第2版』ゲイロン・サンフォード キャンベル ほか（著） 久米篤ほか（翻訳）、（文永堂出版）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

小課題（授業に関連することを調べたり、考える）を授業期間中に複数回（2～5回）行う（50%）。
期末に論文形式のレポート課題を出題する（50%）。

9. その他

アグリサイエンス研究室（黒川農場本館 2 階 1-203）

連絡はメールで対応。

iwasakiy@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGR131J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フィールド先端農学

2017~2021 年度入学者
フィールド先端農学

2 単位

伊藤善一

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

先端農学の一分野である、施設園芸および植物工場における野菜生産について理解することを目的とする。また、実際の栽培現場で用いられている各種技術（養液栽培、環境制御、栽培システム、栽培管理等）と代表的な数種野菜の生理生態的・栽培学的特性について理解し、実際にフィールドで栽培を行うために必要となる基礎的な知識・技術についての理解を深めることを目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のD・Eに対応する科目である。

《授業の概要》

施設園芸および植物工場における野菜生産技術について講義する。また、関連する各種技術や環境問題・食糧問題についても概説する。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション（講義の概要、授業日程、評価方法等の説明）

第2回：施設園芸

第3回：太陽光型植物工場

第4回：人工光型植物工場

第5回：養液栽培の技術と理論

第6回：遺伝子組み換え作物（1）

第7回：遺伝子組み換え作物（2）

第8回：熱帯農学（1）「ハワイの農業」

第9回：熱帯農学（2）「ハワイ大学での研究と持続可能型農業の取り組み」

第10回：イチゴの生理生態的特性と人工光型植物工場でのイチゴ生産

第11回：トマトの生理生態的特性と栽培技術

第12回：黒川農場の栽培施設、環境保全への取り組みについての紹介

第13回：黒川農場の養液栽培によるサラダハウレンソウ栽培

第14回：まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

野菜栽培の基礎と先進的な栽培技術、農業と食について講義します。

専門分野にかかわらず、ご理解頂けるような内容といたします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で取り上げた内容について、関連する書籍、雑誌等を読み、学習するとともに理解を深めること。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

講義の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験または期末レポートで評価する。

9. その他

フィールド先端農学研究室（黒川農場）

E-mail: yito@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) ABR925M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 国際農業文化理解 (タイ)	2 単位	マクタガート, イアン
2017~2021年度入学者 国際農業文化理解 (タイ)		

1. 授業の概要・到達目標

この授業は、タイにおいて約10日間実習を行う。明治大学農学部と協定を結んでいる大学を訪問し、講義やアクティビティを通してタイの文化を学ぶ。また、タイの農業についても学ぶ機会を提供する。このプログラムに参加することで、日本とは異なる風土・文化・歴史・言語・ライフスタイルなどを実感し、国際的な視点から農業についての知識や見聞を得られることを期待する。

2. 授業内容

学部間協定校の学生と一つのテーマに関して多方面から討論を行う。その他、学部間協定校や日系企業訪問、市場視察等も実施する予定である。

日程や履修条件等の詳細は、年度初めに実施する農学部留学ガイダンスにて説明するので、必ず確認確認すること。

また渡航前の事前研修や帰国後の報告書の提出及び報告会への参加は必須となる。

<事前研修の例>

・チームワーク： 模擬国連大会のテーマについて紹介します。

例年、以下のようなテーマで開催しています：

2017年「ASEAN 諸国の貧困・飢餓問題と解決策

2018 - アジア・太平洋地域における食品ロス・食品廃棄物の削減に向けて

2019 - 気候スマート農業 - 気候変動の悪影響を最小限に抑える（適応、回復力、緩和）

2023 - アジア太平洋地域における食料安全保障の改善 - 食品ロスと食品廃棄物の削減を通じて

・タイの言語について

・英語でのプレゼンテーションについて

3. 履修上の注意

海外での研修となるため、履修者数については10-15名を上限とし、書類選考及び面接審査を行う。なお現地参加費として15~20万円程度の自己負担がある。

履修希望者は年度初めのガイダンスに必ず出席すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

討論のテーマに関して、各自が積極的に自習することが望まれる。

5. 教科書

Any necessary textbook will be announced during training classes prior to the visit.

6. 参考書

事前研修の際に必要なに応じて周知する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

事前研修への参加態度、現地での学習態度・生活態度及び事後の報告書により、総合的に判断する。

9. その他

質問等があれば、農学部事務室の窓口にて問い合わせをすること。

総合科目

外国語科目群＜第一外国語＞

科目名	単位数	担当者
英語Ⅰ・英語Ⅱについて	各1単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>言語はコミュニケーションの手段であると同時に、その言語を育んできた文化の一つの姿でもある。国際化・情報化が進んでいる今、コミュニケーションの能力を高めるためにも、また、外国の文化を理解するためにも、外国語を学ぶことはますます重要になってきている。</p> <p>こうした認識に基づき、英語Ⅰはコミュニケーション能力を充実し強化することを目的とした総合的な授業を、英語Ⅱは英語Ⅰで養った力を基にして読解スキル・表現スキルなど目的を明確化した形での授業を行っている。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>英語（Ⅰ 必修科目）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次の春学期に「英語Ⅰ a」を、秋学期に「英語Ⅰ b」を履修する。 ・ 同一学科の1年生全員が、組の枠を外し、それぞれ指定のクラスで授業を受ける。春学期と秋学期は同一クラスを受講することとし、クラス替えは行わない。 <p>英語Ⅱ（Ⅰ 必修科目）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年次の春学期に「英語Ⅱ a」を、秋学期に「英語Ⅱ b」を履修する。 ・ 同一学科の2年生全員が、組の枠を外し、それぞれ指定のクラスで授業を受ける。春学期と秋学期は同一クラスを受講することとし、クラス替えは行わない。 		
<p>3. 履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度の初めに基礎・初級レベルの認定を受けた学生には別途指示があるのでそれに従うこと。 ・ 「英語Ⅰ a」、「英語Ⅰ b」、「英語Ⅱ a」、「英語Ⅱ b」の単位を修得できなかった者は、翌年度以降に当該科目を受講することによって、その単位を修得しなければならない。再履修者は、同一科目名であれば他学科用のクラスを選択することもできる。 		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p>		
<p>5. 教科書</p>		
<p>6. 参考書</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p>		
<p>8. その他</p>		

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 農 (1)	1 単位	行田勇
2017~2021 年度入学者 英語 I a 農 (1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] <授業の概要> [/b]

- ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。
 - ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。
- 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。

[b] <到達目標> [/b]

- ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。
 - ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。
 - ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせて、無理なく確実に理解してゆくことができる。
 - ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。
- 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 イントロダクション（授業方法・成績評価の説明）

第2回・第3回 Unit 1

第4回・第5回 Unit 2

第6回・第7回 Unit 3

第8回・第9回 Unit 4

第10回・第11回 Unit 5

第12回・第13回 Unit 6

第14回 a:まとめ b:試験

内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。

講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。

多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。

色々な意味で忍耐力が要求される授業です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。

提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。

課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。

5. 教科書

『British News Update 6 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 6』

Timothy Knowles 他 編著

出版社 金星堂

テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。

テキストがないと授業に参加できず欠席扱いとなります。

6. 参考書

CALL 教材『Listen to Me!』

この教材は大学のパソコンにインストール済みなので購入する必要はありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。

各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第1回授業で説明しますが、以下は基本方針です。

定期試験 50%、平常点（授業中の発表・課題の提出等）50%。

毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。

皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはありません。

欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 農 (2)	1 単位	原田英子
2017~2021 年度入学者 英語 I a 農 (2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

<英語の運用能力を高める>

現代社会における、世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。

[b]《授業の概要》[/b]

上記の目標のために、テキストに沿って基本的に 2 回の授業で 1 つの Unit を進め、Unit6 まで終了することを目指す。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。また、必要に応じて映像を使って理解を深める。各 Unit のテキストの問題について小テストを実施する。メディア授業期間は進度に合わせてテキストの問題を課題として出題する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第 1 回 インTROダクシヨン (授業方法・テキストの説明) [対面授業]
- 第 2 回 Unit 1 Ukraine、Reading [対面授業]
- 第 3 回 Unit 1 Ukraine、Episode1、2 [対面授業]
- 第 4 回 Unit 2 Ireland、Reading [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 5 回 Unit 2 Ireland、Episode 1、2 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 6 回 Unit 3 Brexit、Reading [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 7 回 Unit 3 Brexit、Episode1、2 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 8 回 Unit 4 The Second Cold War?、Reading [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 9 回 Unit 4 The Second Cold War?、Episode 1、2 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 10 回 Unit 5 The Baltic States、Reading [対面授業]
- 第 11 回 Unit 5 The Baltic States、Episode 1、2 [対面授業]
- 第 12 回 Unit 6 Rohingya、Reading [対面授業]
- 第 13 回 Unit 6 Rohingya、Episode1、2 [対面授業]
- 第 14 回 a まとめ・b 試験 [対面授業]

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

[u][b]この授業は、第 4 回~第 9 回はメディア授業 (オンデマンド型) で行う。[/b][/u]

初回の授業で、オンライン授業で使用するツール (Forms、Teams) の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること (スマートフォンも可)。また、初回授業までに多要素認証を済ませておくこと。

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則火曜日の朝 9:00 に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方で Microsoft の Teams と Forms を利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則火曜日の朝 9:00 に配信し、翌週の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teams の機能を活用し授業の質問を受け付ける (対面授業期間は直接申し出ることが望ましい)。初回到公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u]必ず[/u]本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること (英和・和英・英英)

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues (国際問題のルーツを探る)』 石谷由美子 (南雲堂)

6. 参考書

特に定めないが、必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト・課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 農 (3)	1 単位	下永裕基
2017~2021 年度入学者 英語 I a 農 (3)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の概要》 [/b]

「未知を読むための英語力」

英語に限らず、書かれたものを読む方法は、読む目的やその内容によって異なる。しかし英語になると多くの場合、学生は偏った方法でしか読むことができないようである。一文ずつ読めても全体の意味が分からなかったり、ごく身近なトピックなら読めても、未知の領域の英文にはまったく手が出なかったり、音読しても英語とは思えない発音であったりするならば、それはこれまでの学習法が誤っていたことの証左である。

英文の印刷されたハンドアウトを配布する。基本方針は「訳読方式」なので、学生はその英文を徹底して予習し、授業に臨めばよい。授業では冒頭に発音アクセントのトレーニングや速読即解なども取り入れることがある。

[b] 《到達目標》 [/b]

この授業では、できるだけ多くの英文に触れ、英語を読むことの楽しさを再発見してもらいたい。英語は暗号ではなく、ことばである。ことばを大切に読む方法を探っていきたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 a) イントロダクション「大学生に求められる読解力」

b) 公式予習シートを使用した予習の方法について

第2回：Reading Material 1：音読を取り入れる 1

第3回：Reading Material 1：音読を取り入れる 2

第4回：Reading Material 2：言語 1

第5回：Reading Material 2：言語 2

第6回：Reading Material 3：文化 1

第7回：Reading Material 3：文化 2

第8回：Reading Material 4：宗教 1

第9回：Reading Material 4：宗教 2

第10回：Reading Material 5：文化 3

第11回：Reading Material 5：文化 4

第12回：Reading Material 6：言語 3

第13回：Reading Material 6：言語 4

第14回 a) 学期末試験

b) 解説とふり返り

* 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。

* 授業の一部をディクテーション課題に充てることもある。

3. 履修上の注意

辞書を携行すること（電子辞書可）。

遅刻厳禁。

予習前提。比較的難しめの長い英文を扱うが、授業の進行はゆっくりなので、予習が追いつかない事態にはならないはず。

授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立てます。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の3分の2以上）が、期末試験を受けるための必須条件である。

そのうえで、定期試験80%、授業への積極性・リアクション・課題等20%。

9. その他

研究室は3号館4階、3-405にある。

オフィスアワー：火曜16時～17時。水曜13時30分～16時。

オフィスアワー以外でも、在室時には可能な限り、対応します。

授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先= ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 農 (4)	1 単位	瀬端睦
2017~2021 年度入学者 英語 I a 農 (4)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標及びテーマ》 [/b]

英文法を復習しながら大学生に必要な英語コミュニケーションスキルを身につけ、4 技能の基礎固めを目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

[b] 《授業の概要》 [/b]

50' s~現代までの洋楽を聴きながら、歌の歌詞や歌に関するエッセイを読み、歌に関する会話を聞いていく。歌の歌詞を理解すると同時に、その歌詞が書かれた歴史的・社会的背景を理解し、それに対する自分の意見を英語で発信できるようになる。

2. 授業内容

第 1 回 a: イントロダクション (授業の進め方、辞書の使い方、成績評価の仕方など)

b: Unit 1 Stand by Me (Ben E. King) : 歌詞の理解

第 2 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King) : 関係代名詞の that

第 3 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King) : 読解

第 4 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King) : 会話リスニング

第 5 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan) : 現在進行形

第 6 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan) : 読解

第 7 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan) : 会話リスニング

第 8 回 Bohemian Rhapsody 鑑賞

第 9 回 Bohemian Rhapsody 会話リスニング

第 10 回 “We are the Champions” 解説

第 11 回 Unit 8 Imagine (John Lennon) : wonder if

第 12 回 Unit 8 Imagine (John Lennon) : 読解

第 13 回 Unit 8 Imagine (John Lennon) : 会話リスニング

第 14 回 a: 授業内容のまとめ

b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

今回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

歌詞の意味と文法、リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてくること。歌を繰り返し聞いて、聞き取り、意味が分かるようにすること。

5. 教科書

『ソングス&カルチャー』 関戸冬彦ほか著 (朝日出版社)

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックします。

8. 成績評価の方法

期末試験 60% + 平常点 (授業への取り組み、課題など) 40% で総合評価する。

9. その他

オフィスアワー: 授業後に対応する

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I a 農 (5)

1 単位

熊田和典

2017~2021 年度入学者
英語 I a 農 (5)

1. 授業の概要・到達目標

AFP のニュースを教材に使い、現在社会で起こっている世界の諸問題について学習する。各課では、AFP のニュースを学習するとともに、同一のテーマを扱った英文を読んで、英語を聴く力、読む力、文法力、語彙力、表現する力を養う。扱う問題については、自動運転の倫理問題、人間の活動が動物の行動に及ぼす影響、ビジネスのグローバル化とローカル化、オンライン学習へのアクセスの平等、ストリートアートと落書きの境界、食品廃棄問題を解決するアプリである。

現代社会の問題を扱った教材を学習することを通して、将来専門教育や社会の要求に応えるための土台となる総合的な英語力を養成することをこの授業の目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回 Introduction (授業の内容、成績評価の基準などの説明)

第 2 回 Lesson 1 First autonomous ship prepares for maiden voyage from UK: Listening の解釈

第 3 回 Lesson 1 First autonomous ship prepares for maiden voyage from UK: Reading の解釈

第 4 回 Lesson 2 The seaweed-eating sheep helping tackle climate change: Listening の解釈

第 5 回 Lesson 2 The seaweed-eating sheep helping tackle climate change: Reading の解釈

第 6 回 Lesson 3 Video game developers crash in on Africa's booming market: Listening の解釈

第 7 回 Lesson 3 Video game developers crash in on Africa's booming market: Reading の解釈

第 8 回 Lesson 4 Ugandan children back to school after nearly 2-year COVID closure: Listening の解釈

第 9 回 Lesson 4 Ugandan children back to school after nearly 2-year COVID closure: Reading の解釈

第 10 回 Lesson 5 Street art transforms Quinta Do Mocho District in Lisbon: Listening の解釈

第 11 回 Lesson 5 Street art transforms Quinta Do Mocho District in Lisbon: Reading の解釈

第 12 回 Lesson 6 Waste not, want not: UK consumers use apps to fight food waste: Listening の解釈

第 13 回 Lesson 6 Waste not, want not: UK consumers use apps to fight food waste: Reading の解釈

第 14 回 a. 講義 (重要事項の確認、補足)

b. 期末試験

* 講義内容、進度には必要に応じて若干変更を加えることがある。

3. 履修上の注意

英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。

辞書を必ず携帯すること。(電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。)

遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習に関しては、教科書の該当箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、意味がわからない部分を特定し、その部分を辞書で調べておくことは不可欠である。音声はあらかじめ何度も聴いて授業に臨むこと。復習としては、理解が及ばなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読んでみる。音声も何度も聴いて、音声だけでも内容が理解できるように努めていただきたい。

5. 教科書

『AFP World News Report 7』 宍戸真, Kevin Murphy, 高橋真理子 (成美堂)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評については、後日で公表する。

8. 成績評価の方法

定期試験 (70%) と小テスト (単語テスト) (30%) で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。定期試験ではリスニングの形式では出題しない。

9. その他

オフィスアワー: 火曜日 10:40~17:10 の授業外の時間 (中央校舎 3 階講師控室)

連絡先: メールアドレスを初回の授業で伝える。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I a 政 (1)

1 単位

行田勇

2017~2021 年度入学者
英語 I a 政 (1)

1. 授業の概要・到達目標

[b] <授業の概要> [/b]

- ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。
 - ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。
- 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。

[b] <到達目標> [/b]

- ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。
 - ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。
 - ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせて、無理なく確実に理解してゆくことができる。
 - ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。
- 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション（授業方法・成績評価の説明）
 第2回・第3回 Unit 1
 第4回・第5回 Unit 2
 第6回・第7回 Unit 3
 第8回・第9回 Unit 4
 第10回・第11回 Unit 5
 第12回・第13回 Unit 6
 第14回 a:まとめ b:試験
- 内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

- 皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。
 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。
 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。
 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- 隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。
 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。
 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。

5. 教科書

- 『British News Update 6 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 6』
 Timothy Knowles 他 編著
 出版社 金星堂
 テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。
 テキストがないと授業に参加できないので、欠席扱いとなります。

6. 参考書

- CALL 教材『Listen to Me!』
 この教材は大学のパソコンにインストール済みなので購入する必要はありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

- 課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。
 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。

8. 成績評価の方法

- 成績評価方法の詳細については第1回授業で説明しますが、以下は基本方針です。
 定期試験 50%、平常点（授業中の発表・課題の提出等） 50%。
 毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。
 皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはありません。
 欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

- オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 政 (2)	1 単位	原田英子
2017~2021 年度入学者 英語 I a 政 (2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

<英語の運用能力を高める>

現代社会における、世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。

[b]《授業の概要》[/b]

上記の目標のために、テキストに沿って基本的に2回の授業で1つのUnitを進め、Unit6まで終了することを目指す。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。また、必要に応じて映像を使って理解を深める。各Unitのテキストの問題について小テストを実施する。メディア授業期間は進度に合わせてテキストの問題を課題として出題する。

2. 授業内容

- 第1回 インTRODクダクシヨン(授業方法・テキストの説明) [対面授業]
- 第2回 Unit 1 Ukraine、Reading [対面授業]
- 第3回 Unit 1 Ukraine、Episode1、2 [対面授業]
- 第4回 Unit 2 Ireland、Reading [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第5回 Unit 2 Ireland、Episode 1、2 [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第6回 Unit 3 Brexit、Reading [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第7回 Unit 3 Brexit、Episode1、2 [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第8回 Unit 4 The Second Cold War?、Reading [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第9回 Unit 4 The Second Cold War?、Episode 1、2 [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第10回 Unit 5 The Baltic States、Reading [対面授業]
- 第11回 Unit 5 The Baltic States、Episode 1、2 [対面授業]
- 第12回 Unit 6 Rohingya、Reading [対面授業]
- 第13回 Unit 6 Rohingya、Episode1、2 [対面授業]
- 第14回 a まとめ・b 試験 [対面授業]

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

[u][b]この授業は、第4回~第9回はメディア授業(オンデマンド型)で行う。[/b][/u]

初回の授業で、オンライン授業で使用するツール(Forms、Teams)の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること(スマートフォンも可)。また、初回授業までに多要素認証を済ませておくこと。

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則火曜日の朝9:00に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方でMicrosoftのTeamsとFormsを利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則火曜日の朝9:00に配信し、翌週の朝8:30を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teamsの機能を活用し授業の質問を受け付ける(対面授業期間は直接申し出ることが望ましい)。初回到公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u]必ず[/u]本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること(英和・和英・英英)

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues(国際問題のルーツを探る)』 石谷由美子 (南雲堂)

6. 参考書

特に定めないが、必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト・課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 政 (3)	1 単位	熊田和典
2017~2021 年度入学者 英語 I a 政 (3)		

1. 授業の概要・到達目標

AFP のニュースを教材に使い、現在社会で起きている世界の諸問題について学習する。各課では、AFP のニュースを学習するとともに、同一のテーマを扱った英文を読んで、英語を聴く力、読む力、文法力、語彙力、表現する力を養う。扱う問題については、自動運転の倫理問題、人間の活動が動物の行動に及ぼす影響、ビジネスのグローバル化とローカル化、オンライン学習へのアクセスの平等、ストリートアートと落書きの境界、食品廃棄問題を解決するアプリである。

現代社会の問題を扱った教材を学習することを通して、将来専門教育や社会の要求に応えるための土台となる総合的な英語力を養成することをこの授業の目標とする。

2. 授業内容

- 第 1 回 Introduction (授業の内容、成績評価の基準などの説明)
- 第 1 回 Introduction (授業の内容、成績評価の基準などの説明)
- 第 2 回 Lesson 1 First autonomous ship prepares for maiden voyage from UK: Listening の解釈
- 第 3 回 Lesson 1 First autonomous ship prepares for maiden voyage from UK: Reading の解釈
- 第 4 回 Lesson 2 The seaweed-eating sheep helping tackle climate change: Listening の解釈
- 第 5 回 Lesson 2 The seaweed-eating sheep helping tackle climate change: Reading の解釈
- 第 6 回 Lesson 3 Video game developers crash in on Africa's booming market: Listening の解釈
- 第 7 回 Lesson 3 Video game developers crash in on Africa's booming market: Reading の解釈
- 第 8 回 Lesson 4 Ugandan children back to school after nearly 2-year COVID closure: Listening の解釈
- 第 9 回 Lesson 4 Ugandan children back to school after nearly 2-year COVID closure: Reading の解釈
- 第 10 回 Lesson 5 Street art transforms Quinta Do Mocho District in Lisbon: Listening の解釈
- 第 11 回 Lesson 5 Street art transforms Quinta Do Mocho District in Lisbon: Reading の解釈
- 第 12 回 Lesson 6 Waste not, want not: UK consumers use apps to fight food waste: Listening の解釈
- 第 13 回 Lesson 6 Waste not, want not: UK consumers use apps to fight food waste: Reading の解釈
- 第 14 回 a. 講義 (重要事項の確認、補足)
b. 期末試験

* 講義内容、進捗には必要に応じて若干変更を加えることがある。

3. 履修上の注意

英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。
辞書を必ず携帯すること。(電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。)
遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習に関しては、教科書の該当箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、意味がわからない部分を特定し、その部分を辞書で調べておくことは不可欠である。音声はあらかじめ何度も聴いて授業に臨むこと。復習としては、理解が及ばなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読んでみる。音声も何度も聴いて、音声だけでも内容が理解できるように努めていただきたい。

5. 教科書

『AFP World News Report 7』 央戸真, Kevin Murphy, 高橋真理子 (成美堂)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評については、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。

8. 成績評価の方法

定期試験 (70%) と小テスト (単語テスト) (30%) で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。定期試験ではリスニングの形式では出題しない。

9. その他

オフィスアワー: 火曜日 10:40~17:10 の授業外の時間 (中央校舎 3 階講師控室)
連絡先: メールアドレスを初回の授業で伝える。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I a 政 (4)

1 単位

瀬端睦

2017~2021 年度入学者
英語 I a 政 (4)

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標及びテーマ》 [/b]

英文法を復習しながら大学生に必要な英語コミュニケーションスキルを身につけ、4 技能の基礎固めを目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

[b] 《授業の概要》 [/b]

50' s~現代までの洋楽を聴きながら、歌の歌詞や歌に関するエッセイを読み、歌に関する会話を聞いていく。歌の歌詞を理解すると同時に、その歌詞が書かれた歴史的・社会的背景を理解し、それに対する自分の意見を英語で発信できるようになる。

2. 授業内容

第 1 回 a: イントロダクション (授業の進め方、辞書の使い方、成績評価の仕方など)

b: Unit 1 Stand by Me (Ben E. King) : 歌詞の理解

第 2 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King) : 関係代名詞の that

第 3 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King) : 読解

第 4 回 Unit 1 Stand by Me (Ben E. King) : 会話リスニング

第 5 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan) : 現在進行形

第 6 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan) : 読解

第 7 回 Unit 3 Blowin' in the Wind (Bob Dylan) : 会話リスニング

第 8 回 Bohemian Rhapsody 鑑賞

第 9 回 Bohemian Rhapsody 会話リスニング

第 10 回 “We are the Champions” 解説

第 11 回 Unit 8 Imagine (John Lennon) : wonder if

第 12 回 Unit 8 Imagine (John Lennon) : 読解

第 13 回 Unit 8 Imagine (John Lennon) : 会話リスニング

第 14 回 a: 授業内容のまとめ

b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

今回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

歌詞の意味と文法、リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてくること。歌を繰り返し聞いて、聞き取り、意味が分かるようにすること。

5. 教科書

『ソングス&カルチャー』 関戸冬彦ほか著 (朝日出版社)

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックします。

8. 成績評価の方法

期末試験 60% + 平常点 (授業への取り組み、課題など) 40% で総合評価する。

9. その他

オフィスアワー: 授業後に対応する

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 政 (5)	1 単位	下永裕基
2017～2021 年度入学者 英語 I a 政 (5)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の概要》 [/b]

「未知を読むための英語力」

英語に限らず、書かれたものを読む方法は、読む目的やその内容によって異なる。しかし英語になると多くの場合、学生は偏った方法でしか読むことができないようである。一文ずつ読めても全体の意味が分からなかったり、ごく身近なトピックなら読めても、未知の領域の英文にはまったく手が出なかったり、音読しても英語とは思えない発音であったりするならば、それはこれまでの学習法が誤っていたことの証左である。

英文の印刷されたハンドアウトを配布する。基本方針は「訳読方式」なので、学生はその英文を徹底して予習し、授業に臨めばよい。授業では冒頭に発音アクセントのトレーニングや速読即解なども取り入れることがある。

[b] 《到達目標》 [/b]

この授業では、できるだけ多くの英文に触れ、英語を読むことの楽しさを再発見してもらいたい。英語は暗号ではなく、ことばである。ことばを大切に読む方法を探っていきたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 a) イントロダクション「大学生に求められる読解力」

b) 公式予習シートを使用した予習の方法について

第2回：Reading Material 1：音読を取り入れる 1

第3回：Reading Material 1：音読を取り入れる 2

第4回：Reading Material 2：言語 1

第5回：Reading Material 2：言語 2

第6回：Reading Material 3：文化 1

第7回：Reading Material 3：文化 2

第8回：Reading Material 4：宗教 1

第9回：Reading Material 4：宗教 2

第10回：Reading Material 5：文化 3

第11回：Reading Material 5：文化 4

第12回：Reading Material 6：言語 3

第13回：Reading Material 6：言語 4

第14回 a) 学期末試験

b) 解説とふり返し

* 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。

* 授業の一部をディクテーション課題に充てることもある。

3. 履修上の注意

辞書を携行すること（電子辞書可）。

遅刻厳禁。

予習前提。比較的難しめの長い英文を扱うが、授業の進行はゆっくりなので、予習が追いつかない事態にはならないはず。

授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立てます。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の3分の2以上）が、期末試験を受けるための必須条件である。

そのうえで、定期試験80%、授業への積極性・リアクション・課題等20%。

9. その他

研究室は3号館4階、3-405にある。

オフィスアワー：火曜16時～17時。水曜13時30分～16時。

オフィスアワー以外でも、在室時には可能な限り、対応します。

授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先= ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 化 (1)	1 単位	伊達恵理
2017～2021 年度入学者 英語 I a 化 (1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

「総合英語」 この授業では、文化論を扱った教科書[i]TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity[/i] を用い、Iaでは聖書、ルネサンス、物語の構造、演劇をトピックとした4つのReadingを、速読・精読を交えて扱います。本文の読解・論旨の把握とともに、CDの音声聞き取りによって耳から英文の内容に馴染み、各Readingに即した設問によって内容・語彙理解の確認、ライティング力の向上を図ります。各Readingにつき、テキストのより深い内容理解の一助としてプリント教材を配布し、必要に応じて映像資料の提示などを行います。

[b]《授業の到達目標》[/b]

高校までに習得した英語力の上に立ち、大学レベルで必要とされる英語リーディング、リスニング、ライティングの基礎力を総合的に養うことを目的とします。特にこの授業では、論理的な英文読解の基礎技能、文法力・語彙力を向上させ、英語論説記事の内容・情報を的確に読みとるための土台作りを目標とします。

2. 授業内容

第1回: Introduction

第2回: The Bible - Mainstay of Christianity (1) Reading 本文読解①

第3回: The Bible - Mainstay of Christianity (2) Reading 本文読解②

第4回: The Bible - Mainstay of Christianity (3) Reading 本文読解③・テキスト設問

第5回: Renaissance - Transcending Cultural Movements (1) Reading 本文読解①

第6回: Renaissance - Transcending Cultural Movements (2) Reading 本文読解②

第7回: Renaissance - Transcending Cultural Movements (3) Reading 本文読解③・テキスト設問

第8回: The Structure of Fictional Literature (1) Reading 本文読解①

第9回: The Structure of Fictional Literature (2) Reading 本文読解②

第10回: The Structure of Fictional Literature (3) Reading 本文読解③・テキスト設問

第11回: The Theater and Acting (1) Reading 本文読解①

第12回: The Theater and Acting (2) Reading 本文読解②

第13回: The Theater and Acting (3) Reading 本文読解③・テキスト設問

第14回: a. 試験 b. まとめ

* 講義の進捗は必要に応じ変更することがあります

3. 履修上の注意

テキストの内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとい良いでしょう。

授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

授業では、テキストの設問に加えて、各Readingの内容理解・構成整理のためのプリントを配布し、教員がそれらに基づいた質問・解説を行う形でReading本文の読解を進めます。プリント教材やテキストの設問に解答した上で、それらの設問以外の箇所についても疑問点があれば明らかにできるように、単語・成句や構文を含めてReading本文を十分に読み込み、パラグラフの論旨を把握して授業に備えて下さい。

[復習]

授業で各パラグラフ内の文章構成・内容、論旨の展開を確認した後は、Reading全体の、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。

5. 教科書

[i]TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity[/i], 『多元文化論エッセイ - 響き合う文化たち』 Christopher Belton, 小田島恒志著 (金星堂)

6. 参考書

なし

7. 課題に対するフィードバックの方法

各Unitの予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。0h-o!Meijiを通じて出された練習問題等については、0h-o!Meiji上にて解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%, 平常点 (課題の提出とその内容, 出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度, 小テストなどの成績) 40%. 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。(欠席は3回まで)

9. その他

オフィスアワー: 木曜日 12:50~13:20 中央棟3F講師控室

質問・連絡は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡窓口として0h-o!Meiji「アンケート」を使用します。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I a 化 (2)

1 単位

中村美帆子

2017~2021 年度入学者
英語 I a 化 (2)

1. 授業の概要・到達目標

「英語 4 技能の向上」

《授業の概要》

NHK の英語ニュースを教材として、英語の 4 技能 (Listening, Speaking, Reading, Writing) を総合的に高める。ニュースを視聴して内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。その他の映像資料や新聞・雑誌記事等も適宜取り入れる。

《到達目標》

1. 語彙や表現を習得する。
2. 時事問題に関する知識を得て、多方面から検討できるようになる。

2. 授業内容

- 第 1 回：イントロダクション
 第 2 回：Unit 1-1 (Studying in the Metaverse)
 第 3 回：Unit 1-2
 第 4 回：Unit 2-1 (Japanese Firms Switching to English Amid Engineer Shortage)
 第 5 回：Unit 2-2
 第 6 回：小テスト 1, まとめ
 第 7 回：Unit 3-1 (Recycling Car Parts Into Fashion Treasure)
 第 8 回：Unit 3-2
 第 9 回：Unit 4-1 (Japanese Family Steps Up to Support Evacuee)
 第 10 回：Unit 4-2
 第 11 回：小テスト 2, まとめ
 第 12 回：Unit 5-1 (Mixing Art With Online Meetings)
 第 13 回：Unit 5-2
 第 14 回：a. 試験, b. まとめ

3. 履修上の注意

1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること (英和、和英)。
2. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。
3. この授業では教科書の前半 (Units 1-7) から 5 つの unit を選んで使用する。教科書の後半 (Units 8-15) は、秋学期の「英語 Ib」で使用する。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く (1 時間)。
 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える (1 時間)。

5. 教科書

『NHK NEWSLINE 7 / 映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本 7』, Tatsuroh Yamazaki 他著 (金星堂)

※大学の書店で必ず購入すること。

6. 参考書

資料を適宜配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%, 小テスト 30%, 授業への参加度 20%

9. その他

連絡先：最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I a 化 (3)

1 単位

狩野晃一

2017～2021 年度入学者
英語 I a 化 (3)

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標およびテーマ》[/b]

高等学校までの英語学習を基礎として、高度な総合的な英語運用を目指す。

[b]《授業の概要》[/b]

さまざまなタイプの英文を読み、英文のみならずそこに書かれた内容の理解に努める。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：English etymology (1)

第3回：English etymology (2)

第4回：English etymology (3)

第5回：Origin of English words (1)

第6回：Origin of English words (2)

第7回：Origin of English words (3)

第8回：Essays on English words (1)

第9回：Essays on English words (2)

第10回：Essays on English words (3)

第11回：History of English Expression (1)

第12回：History of English Expression (2)

第13回：History of English Expression (3)

第14回：まとめ、期末試験

3. 履修上の注意

予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習（20分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。

5. 教科書

授業内でプリントを配布する。

6. 参考書

授業内で適宜指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。

9. その他

オフィス・アワー：金曜日・3時限目

英語第Ⅱ研究室（3号館404号室）

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語 I a 化 (4)

1 単位

小嶺智枝

2017～2021年度入学者
英語 I a 化 (4)

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

「4技能向上を目指す」

リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングなど、各技能の向上を総合的に目指します。

[b]《授業の概要》[/b]

多様なトピックを扱ったリーディング活動、シャドーイング、ロールプレイング、ダイアログなど、様々な練習を通して英語能力の向上を目指します。学習した内容に応じてペアやグループで会話プラクティスやディスカッションを行います。

2. 授業内容

第1回：オリエンテーション

第2回：Unit 1

第3回：同上

第4回：Unit 2

第5回：同上

第6回：Unit 3

第7回：同上

第8回：Mid-term test/Unit 4

第9回：同上

第10回：Unit 5

第11回：同上

第12回：Unit 6

第13回：同上、発表

第14回：a. まとめ b. 学期末試験

※講義内容やUnitの順番は必要に応じて変更になる場合がある。

3. 履修上の注意

ペア・グループワークを多く取り入れます。積極的姿勢で授業に参加すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Reading passage の予習を必ず行うこと。

5. 教科書

Goro Yamamoto, Jonathan Brown, [i]SDGs and Challenges We Face[/i] (松柏社)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験 50%, 平常点（出席、小テスト、授業貢献度などを含む）50%の総合評価

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 化 (5)	1 単位	樋渡さゆり
2017~2021 年度入学者 英語 I a 化 (5)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] 「(5) 総合英語」 [/b]

[b] ≪授業の概要≫ [/b]

総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a では論説文テキストを用いてリーディングを行う。テキスト内容は、アカデミックな視点から読み解く多元文化論。後半の Module b ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を養う。

[b] [b] ≪到達目標≫ [/b] [/b]

論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解定着などを目標とする。大学での研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターン構築を目指す。

2. 授業内容

第1回：aのみ：イントロダクション

第2回：リーディング Unit 1 から章立て順に講読する／Listening & Vocabulary Stage 1

第3回：辞書について／リーディング

第4回：リーディング／L&V Stage 2

第5回：リーディング／L&V Stage 3

第6回：リーディング／L&V Stage 4

第7回：リーディング／L&V Stage 5

第8回：復習と補足

第9回：リーディング／L&V Stage 6

第10回：リーディング／L&V Stage 7

第11回：リーディング／L&V Stage 8

第12回：リーディング

第13回：リーディング

第14回：a:まとめ、b: 期末定期試験

* 毎回、履修者の発表に基づいて授業を進める

* 演習科目の特性上、「履修者の理解到達度を重要視してフィードバックを返すパターン」を反復して授業を展開し、リーディングの進捗を最適化する

3. 履修上の注意

資料掲示や課題提出、連絡には Oh-o!Meiji のクラスウェブを使用。

高校で学んだ内容に基礎を置きますが、次のステップへ向けて新しい学習習慣を身に着ける心構えて授業に臨んでください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Module a: テキストの指定された範囲を辞書を用いて予め読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認し、補足して理解を深める。

Module b: 事前に各自でリスニングを行い、予習してくる。授業では答え合わせから始める。復習によってヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身に着ける

5. 教科書

Module a: 『Transculture: Transcending Time, Region and Ethnicity』 Christopher Belton, Koshi Odashima (金星堂)

Module b: 『TOEIC TEST 基本単語熟語チェック 550 点レベル』 西谷恒志・吉塚弘・マイケル・シャワティ (音羽書房鶴見書店)

いずれも音声 URL 有り

6. 参考書

辞書については授業で紹介し、ステップアップし、下記と同程度の辞書を使用することを薦める

『プログレッシブ英和中辞典』(小学館)

『リーダーズ英和辞典』(研究社)

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出は原則としてクラスウェブを利用します。

フィードバックは、クラスウェブのコメント欄で各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業展開に取り入れる、などの方法をとります。

8. 成績評価の方法

期末試験実施日を含めた授業実施回数²/₃以上に出席している履修者を評価対象とします。

期末定期試験 70%、平常点(出席状況、課題提出など) 30%で評価。出席状況を記録・認識しておくこと。

9. その他

1. 連絡方法⇒クラスウェブ上に用途別の連絡欄を設置。質問は随時受け付けます

2. オフィスアワー⇒質問対応は1. のとおり。面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとると確実です

場所：英語第 I 研究室(第一校舎 3号館 4階 403号室)

時間：在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 生 (1)	1 単位	原田英子
2017~2021 年度入学者 英語 I a 生 (1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

<英語の運用能力を高める>

現代社会における、世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。

[b]《授業の概要》[/b]

上記の目標のために、テキストに沿って基本的に 2 回の授業で 1 つの Unit を進め、Unit6 まで終了することを目指す。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。また、必要に応じて映像を使って理解を深める。各 Unit のテキストの問題について小テストを実施する。メディア授業期間は進度に合わせてテキストの問題を課題として出題する。

2. 授業内容

- 第 1 回 イントロダクション (授業方法・テキストの説明) [対面授業]
- 第 2 回 Unit 1 Ukraine、Reading [対面授業]
- 第 3 回 Unit 1 Ukraine、Episode1, 2 [対面授業]
- 第 4 回 Unit 2 Ireland、Reading [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 5 回 Unit 2 Ireland、Episode 1, 2 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 6 回 Unit 3 Brexit、Reading [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 7 回 Unit 3 Brexit、Episode1, 2 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 8 回 Unit 4 The Second Cold War?、Reading [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 9 回 Unit 4 The Second Cold War?、Episode 1, 2 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第 10 回 Unit 5 The Baltic States、Reading [対面授業]
- 第 11 回 Unit 5 The Baltic States、Episode 1, 2 [対面授業]
- 第 12 回 Unit 6 Rohingya、Reading [対面授業]
- 第 13 回 Unit 6 Rohingya、Episode1, 2 [対面授業]
- 第 14 回 a まとめ・b 試験 [対面授業]

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

[u][b]この授業は、第 4 回~第 9 回はメディア授業 (オンデマンド型) で行う。[/b][/u]

初回の授業で、オンライン授業で使用するツール (Forms、Teams) の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること (スマートフォンも可)。また、初回授業までに多要素認証を済ませておくこと。

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則金曜日の朝 9:00 に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方で Microsoft の Teams と Forms を利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則金曜日の朝 9:00 に配信し、翌週の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teams の機能を活用し授業の質問を受け付ける (対面授業期間は直接申し出ることが望ましい)。初回到公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u]必ず[/u]本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること (英和・和英・英英)

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues (国際問題のルーツを探る)』 石谷由美子 (南雲堂)

6. 参考書

特に定めないが、必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト・課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 生 (2)	1 単位	中須賀稚子
2017~2021 年度入学者 英語 I a 生 (2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標及びテーマ》 [/b] 「総合英語」

日本の学生のために書かれたエッセイを読む。
日本人的な発想でも読み解ける英文なので、受験英語を経験してきた学生ならば
それほど困難ではないレベルの英文であるが、多くの学生にとっては予習が必要なレベルである。

扱う内容が、現代の様々なジャンルにわたっているので、英文はわかるが、内容として
理解できるか、という点が問題である。この授業では、英文を読み、内容を理解する、ことを目標とする。

[b] 《授業の概要》 [/b]

学生の予習に基づいて授業は進行する。

2. 授業内容

第 1 回 a: イン트로ダクション (授業の進め方, 辞書の使い方, 成績評価の方法と基準についての説明)

b: プリントを使った演習

第 2 回: 第 1 課 インテル株式会社 1 回目

第 3 回: 同 2 回目

第 4 回: 第 2 課 日本コカコーラ 1 回目

第 5 回: 同 2 回目

第 6 回: 第 3 課 シャネル 1 回目

第 7 回: 同 2 回目

第 8 回: 第 4 課 サッポロビール 1 回目

第 9 回: 同 2 回目

第 10 回: 第 5 課 良品計画 1 回目

第 11 回: 同 2 回目

第 12 回: 第 6 課 インテル その 2 1 回目

第 13 回: 同 2 回目

第 14 回 a: まとめ

b: 到達度確認試験

[b] * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 [/b]

3. 履修上の注意

必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。
興味を持っていただけるのが一番です。

授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。
自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください

2 つ、お願いがあります。

その 1

授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。

教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、

[b] 教室内の出入りは、最小限にとどめるよう、自分の体を制御してください [/b]

その 2

教科書は必ず購入してください。

そして、必ず教科書をもって授業に出席してください。

コピー (その他写メ等) で授業に出席している場合、欠席扱いとします。

[b] 中須賀のクラスでは、コピーで授業に出席しても、出席とはみなしません。 [/b]

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

知らない語句は辞書を引き意味や用法を調べておくこと。

英文の内容を、自分なりに理解できているか、自分で考えておくこと。

単語の意味が分かれば英文の内容が分かる、ということではない、部分もあるので、単語の意味は分かるのに、何を言っているのか分からない、という部分を自分なりに見つけ、授業内でその部分を「納得」できるよう、予習をしてきてください
翻訳アプリを使いたい、という誘惑に打ち勝てるよう、努力してください。

5. 教科書

Global Leadership-2nd Revised Edition-(金星堂、2022)

6. 参考書

授業内で指示する

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて全体に対して、または個別に、対面で、もしくはポートフォリオを通して行う

8. 成績評価の方法

筆記試験（授業内及び期末実施予定）60%、授業への取り組みや課題の提出（出席点ではない）40%で総合評価する。
期末の試験の受験資格は、授業3分の2以上出席が必要である。
欠席が5回を超えた段階で受験資格を失うが、遅刻は3回で欠席1回となり、遅刻、欠席のトータルの減点が、授業の3分の1を超えると、受験資格を失う。
欠席と共に、遅刻にも注意するように。

[b]また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください。[/b]

授業に出席したが課題は未提出、または、授業は欠席したが課題は提出、という場合、欠席扱いとなります。
授業に欠席したが課題を出した、という場合、課題の点数は配慮するケースもあります

9. その他

オフィス・アワー：金曜日の昼休み、(12:45~13:20) いくつかの講師控室

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I a 生 (3)	1 単位	原功
2017~2021 年度入学者 英語 I a 生 (3)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

この授業では、農学部での学修に必要なと思われる英語のスキルのうち、特に必要かつ独習が難しいと考えられる英文読解と英作文を中心とした演習を行います。国内外の研究成果の多くは英語で発表されているため、その内容を正確に捉えることと自分の考えを適切な英語で表現することはこれからの学修活動に必須であると思われます。従って、自力で英文を読んだり、書いたりするために身につける必要のある知識を順を追って身につけ、多くの演習を通じてスキルを高めていきます。

英文読解は、英文を正確に和訳することから始めます。分からない単語を調べるだけでなく、英文はどのように書かれているのかを正確に把握した上で適切な日本語に直すトレーニングを続けます。勤や感覚に頼らず、文法や語法などのルールに基づいた和訳ができるようにします。

英作文は、パラグラフライティングを中心として、英文の構成の仕方や文法・構文を学んだ上で実際にパラグラフを書いてもらいます。書いている間に文法や語法についての指摘を行い、提出された作文は添削した上でコメントをつけて返却します。

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

- 1) 英文を自力で読み取ることができるようになること
- 2) 自分の考えを適切に英語で表現できるようになること

2. 授業内容

- 第1回： a. 授業概要の説明 b. 英文を「読む」「書く」ための準備学習
 第2回： [b]Writing[/b] Unit 1 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第3回： [b]Writing[/b] Unit 2 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第4回： [b]Reading[/b] Chapter 1, 2 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第5回： [b]Reading[/b] Chapter 2, 3 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第6回： [b]Writing[/b] Unit 3 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第7回： [b]Writing[/b] Unit 4 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第8回： [b]Reading[/b] Chapter 4, 5 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第9回： [b]Reading[/b] Chapter 5, 6 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第10回： [b]Writing[/b] Unit 5 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第11回： [b]Writing[/b] Unit 6 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第12回： [b]Reading[/b] Chapter 7, 8 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第13回： [b]Reading[/b] Chapter 8, 9 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第14回： a. 期末試験 b. 総括と今後の学習の指針

3. 履修上の注意

- 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。
- 2) 授業回数の3分の1を超える欠席(5回以上)は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。
- 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

[b]Reading[/b]

予習：その週に扱う英文に目を通し、分からない単語を調べておくこと、また記述式の設問に対する回答を準備すること。
 復習：英文の意味が理解できるまで読み直すこと、音読すること、付属の音声ファイルを聞くこと、練習問題の答え合わせをすること。

[b]Writing[/b]

予習：教科書に目を通し、設問への回答を準備しておくこと。
 復習：返却された作文を見直し、修正箇所を点検すること。

5. 教科書

[b]Reading[/b]: 『World Today (世界が見える—VOAサイエンストピックを読む)』音羽書房鶴見書店

[b]Writing[/b]: 『Writing Accelerator 1 (パラグラフ構成要素から学べるライティング入門)』松柏社

※これらの教科書は秋学期「英語 I b 生 (3)」でも継続して使用します。

6. 参考書

未知の英文を読んだり、母語でない言語の文章を書いたりするのに辞書が必要なのは言うまでもありません。しかしながら、どのような辞書を用意すればいいか迷っている人も多いことでしょう。もし手元に英和辞典と和英辞典があるのなら、ひとまずそれらを教室に持ってきてください。学習を続けていくうちに手持ちの辞書では歯が立たないと感じたり、何かしら不便に思ったりすることがあるはずですが。その時にこそ、どのような辞書が自分にとって必要なかを考え、新しい辞書の購入を検討しましょう。

また、英文法の解説書も学習には必携です。高等学校で使っていたものが手元にあれば、ひとまずそれを活用しましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題(和訳や作文など)と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題(教科書掲載の Exercise)があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I a 生 (4)

1 単位

川村晶彦

2017~2021 年度入学者
英語 I a 生 (4)

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

「英語で読み、考え、発信する」

語彙・文法・語法をはじめとする基礎的英語力を活用し、毎回特定のトピックについて読み、考え、意見を発信することで、大学生に必要な英語力を身につけるだけでなく、課題となるトピックへの理解を深める。

[b]《授業の概要》[/b]

毎回、授業開始時に語彙あるいは文法・語法の小テストを行う。その後、1つのトピックにつき2回の授業で英文を読み、考え、英語で意見を発信する練習を行う。

* 英語による意見の発信は〔メディア授業（オンデマンド型）〕で、グループ・ワークおよびピア・レビューを中心としたライティングを行う。

** 学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：Introduction & Getting to know each other

第2回：Whose English? (Reading)

第3回：Whose English? (Writing) [メディア授業（オンデマンド型）]

第4回：“My mother isn’t well, sir.” (Reading)

第5回：“My mother isn’t well, sir.” (Writing) [メディア授業（オンデマンド型）]

第6回：Your variety is better than mine. (Reading)

第7回：Your variety is better than mine. (Writing) [メディア授業（オンデマンド型）]

第8回：Saying hello. (Reading)

第9回：Saying hello. (Writing) [メディア授業（オンデマンド型）]

第10回：What is the Culture of English? (Reading)

第11回：What is the Culture of English? (Writing) [メディア授業（オンデマンド型）]

第12回：Where should I go to learn English?

第13回：英語圏のポップカルチャー

第14回：a：まとめ b：期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

英語で意見を発信してもらう上で、パソコンを使用する。オフィス系のソフトの基礎的活用能力は必須であり、授業用に Google のアカウントを用意してもらう。プライベートで使用しているものでも構わない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は毎回、十分な準備をした上で自分の疑問点をはっきりとさせて授業に臨むこと。当然ながら、テキストや事前に配布したプリント等、予習可能な教材に関しては、しっかりと目を通し、予習した上で出席すること。

5. 教科書

テキストを使用するが、現時点で候補が決定しておらず、初回に指示する。

6. 参考書

中辞典クラス以上の学習辞典（英和または英英）

* 電子辞書を推奨するが、スマホ等を介してオンライン辞書を利用する場合は一定の基準を満たしたサイトのみ可。

7. 課題に対するフィードバックの方法

リーディング授業時の受講生の発言等に関しては基本的に口頭でフィードバックを行うが、ライティングの課題は授業用に用意した Google の共有ドライブに Google ドキュメントで提出してもらい、添削とコメントを加えた上で翌週の授業時に返却する。

8. 成績評価の方法

対面授業への参加度および口頭での質疑応答（30%）、ライティング課題等（30%）、小テスト&レポート（10%）および期末試験（30%）で総合的に評価する。

* 詳細は初回授業時に説明する。

9. その他

連絡先：初回授業時に指示する。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I a 生 (5)

1 単位

狩野晃一

2017～2021 年度入学者
英語 I a 生 (5)

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標およびテーマ》 [/b]

高等学校までの英語学習を基礎として、高度な総合的な英語運用を目指す。

[b] 《授業の概要》 [/b]

さまざまなタイプの英文を読み、英文のみならずそこに書かれた内容の理解に努める。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：English etymology (1)

第3回：English etymology (2)

第4回：English etymology (3)

第5回：Origin of English words (1)

第6回：Origin of English words (2)

第7回：Origin of English words (3)

第8回：Essays on English words (1)

第9回：Essays on English words (2)

第10回：Essays on English words (3)

第11回：History of English Expression (1)

第12回：History of English Expression (2)

第13回：History of English Expression (3)

第14回：まとめ、期末試験

3. 履修上の注意

予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習（20分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。

5. 教科書

授業内でプリントを配布する。

6. 参考書

授業内で適宜指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。

9. その他

オフィス・アワー：金曜日・3時限目

英語第Ⅱ研究室（3号館404号室）

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 農 (1)	1 単位	行田勇
2017~2021 年度入学者 英語 I b 農 (1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] <授業の概要> [/b]

- ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。
 - ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。
- 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。

[b] <到達目標> [/b]

- ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。
 - ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。
 - ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせ、無理なく確実に理解してゆくことができる。
 - ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。
- 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回・第2回 Unit7
 第3回・第4回 Unit8
 第5回・第6回 Unit9
 第7回・第8回 Unit10
 第9回・第10回 Unit11
 第11回・第12回 Unit12
 第13回 Unit13
 第14回 a:まとめ b:試験
- 内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。
 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。
 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。
 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。
 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。
 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。

5. 教科書

『British News Update6 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース6』
 Timothy Knowles 他 編著
 出版社 金星堂
 テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。
 テキストがないと授業に参加できず、欠席扱いとなります。

6. 参考書

CALL 教材『Listen to Me!』
 この教材は大学のパソコンにインストール済みなので購入する必要はありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。
 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第1回授業で説明しますが、以下は基本方針です。
 定期試験 50%、平常点（授業中の発表・課題の提出等）50%。
 毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。
 皆勤は当然の義務なので、欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスパワーと連絡方法は授業中に指示します。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 農 (2)	1 単位	原田英子
2017~2021 年度入学者 英語 I b 農 (2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

<英語の運用能力を高める>

現代社会における、世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。

[b]《授業の概要》[/b]

春学期と同じテキストを使用する。正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。上記の目標のために、テキストに沿って基本的に2回の授業で1つのUnitを進め、テキストのUnit 12まで終了することを目指す。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。また、必要に応じて映像を使って理解を深める。各Unitのテキストの問題について小テストを実施する。メディア授業期間は進度に合わせてテキストの問題を課題として出題する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション（授業方法・Unit 7の導入） [対面授業]
- 第2回 Unit 7 Basques、Reading [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第3回 Unit 7 Basques、Episode1、2 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第4回 Unit 8 Korea、Reading [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第5回 Unit 8 Korea、Episode 1、2 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第6回 Unit 9 Romani、Reading [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第7回 Unit 9 Romani、Episode1、2 [対面授業]
- 第8回 Unit 10 Switzerland、Reading [対面授業]
- 第9回 Unit 10 Switzerland、Episode 1、2 [対面授業]
- 第10回 Unit 11 Hong Kong、Reading [対面授業]
- 第11回 Unit 11 Hong Kong、Episode 1、2 [対面授業]
- 第12回 Unit 12 The Pope and the Vaticane City State、Reading [対面授業]
- 第13回 Unit 12 The Pope and the Vaticane City State、Episode1、2 [対面授業]
- 第14回 a まとめ・b 試験 [対面授業]

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

[u][b]この授業は、第2回～第6回はメディア授業（オンデマンド型）で行う。[/b][/u]

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則火曜日の朝9:00に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方でMicrosoftのTeamsとFormsを利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則火曜日の朝9:00に配信し、翌週の朝8:30を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teamsの機能を活用し授業の質問を受け付ける（対面授業期間は直接申し出ることが望ましい）。初回に公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u]必ず[/u]本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues（国際問題のルーツを探る）』 石谷由美子（南雲堂）

6. 参考書

特に定めないが、必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト・課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I b 農 (3)

1 単位

下永裕基

2017~2021 年度入学者
英語 I b 農 (3)

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

「未知を読むための英語力」

春学期の英語 I a に引き続き、Reading Material の種類に応じた読み方を模索する。未知を読む訓練として、とくにフィクションも取り入れたい。英文の印刷されたハンドアウトを配布する。基本方針は「訳読方式」なので、学生はその英文を徹底して予習し、授業に臨めばよい。授業では冒頭に発音アクセントのトレーニングや速読即解なども取り入れることがある。

[b] 〈到達目標〉 [/b]

この授業では、できるだけ多くの英文に触れ、英語を読むことの楽しさを再発見してもらいたい。英語は暗号ではなく、ことばである。ことばを大切に読む方法を探っていきたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回 a) 速読即解

b) 夏休みについての英作文課題

第 2 回：Reading Material 7：未知の領域 3

第 3 回：Reading Material 7：未知の領域 4

第 4 回：Reading Material 8：言語 5

第 5 回：Reading Material 8：言語 6

第 6 回：Reading Material 9：文化 5

第 7 回：Reading Material 9：文化 6

第 8 回：Reading Material 10：宗教 3

第 9 回：Reading Material 10：宗教 4

第 10 回：Reading Material 11：文化 6

第 11 回：Reading Material 11：文化 8

第 12 回：Reading Material 12：言語 7

第 13 回：Reading Material 12：言語 8

第 14 回 a) 学期末試験

b) 解説とふり返り

* 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。

* 授業の一部をディクテーション課題に充てることもある。

3. 履修上の注意

辞書を携行すること（電子辞書可）。

遅刻厳禁。

予習前提。比較的難しめの長い英文を扱うが、授業の進行はゆっくりなので、予習が追いつかない事態にはならないはず。

授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立ちます。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の 3 分の 2 以上）が、期末試験を受けるための必須条件である。

そのうえで、定期試験 80%、授業への積極性・リアクション・課題等 20%。

9. その他

研究室は 3 号館 4 階、3-405 にある。

オフィスアワー：火曜 16 時～17 時。水曜 13 時 30 分～16 時。

オフィスアワー以外でも、在室時には可能な限り、対応します。

業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先 = ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 農 (4)	1 単位	瀬端睦
2017~2021 年度入学者 英語 I b 農 (4)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標及びテーマ》 [/b]

英文法の基礎を復習しながら大学生に必要な英語コミュニケーションスキルを身につけ、4 技能の基礎固めを目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

[b] 《授業の概要》 [/b]

50' s~現代までの洋楽を聴きながら、歌の歌詞や歌に関するエッセイを読み、歌に関する会話を聞いていく。歌の歌詞を理解すると同時に、その歌詞が書かれた歴史的・社会的背景を理解し、それに対する自分の意見を英語で発信できるようになる。

2. 授業内容

第 1 回 a : イントロダクション (授業の進め方、辞書の使い方、成績評価の仕方など)

b : Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters) : 歌詞の理解

第 2 回 Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters) : 仮定法過去

第 3 回 Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters) : 読解・会話リスニング

第 4 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel) : to 不定詞の形容詞的用法

第 5 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel) : 読解

第 6 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel) : 会話リスニング

第 7 回 Greatest Showman 鑑賞

第 8 回 " This Is Me" 歌詞解説、映画の会話リスニング

第 9 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You

(Stevie Wonder) : to 不定詞の副詞的用法

第 10 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You

(Stevie Wonder) : 読解

第 11 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You

(Stevie Wonder) : 会話リスニング

第 12 回 What Makes You Beautiful (One Direction) : 歌詞理解

第 13 回 What Makes You Beautiful (One Direction) : 読解

第 14 回 a : 授業内容のまとめ

b : 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

次回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

歌詞の意味と文法、リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてくること。歌を繰り返し聞いて、聞き取り、意味が分かるようにすること。

5. 教科書

『ソングス&カルチャー』 関戸冬彦ほか著 (朝日出版社)

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックします。

8. 成績評価の方法

期末試験 60% + 平常点 (授業への取り組み、課題など) 40% で総合評価する。

9. その他

オフィスアワー : 授業後に対応する

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 農 (5)	1 単位	熊田和典
2017~2021 年度入学者 英語 I b 農 (5)		

1. 授業の概要・到達目標

AFP のニュースを教材に使い、現在社会で起こっている世界の諸問題について学習する。各課では、AFP のニュースを学習するとともに、同一のテーマを扱った英文を読んで、英語を聴く力、読む力、文法力、語彙力、表現する力を養う。扱う問題については、性別の固定観念、気象変動対策と経済レベル、地域経済の活性化と文化継承、発展途上国への投資、植民地時代の財宝、危険を伴うスポーツへの挑戦である。

現代社会の問題を扱った教材を学習することを通して、将来専門教育や社会の要求に応えるための土台となる総合的な英語力を養成することをこの授業の目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第 1 回 Introduction (春学期、英語 Ia の授業の復習、秋学期英語 Ib の授業に向けての導入など)
- 第 2 回 Lesson 7 Ethiopian girls take on gender stereotypes at the skatepark: Listening の解釈
- 第 3 回 Lesson 7 Ethiopian girls take on gender stereotypes at the skatepark: Reading の解釈
- 第 4 回 Lesson 8 Africa to press climate finance demands at COP26: Listening の解釈
- 第 5 回 Lesson 8 Africa to press climate finance demands at COP26: Reading の解釈
- 第 6 回 Lesson 9 Tourism's gifts and woes for Santa and Sami homeland: Listening の解釈
- 第 7 回 Lesson 9 Tourism's gifts and woes for Santa and Sami homeland: Reading の解釈
- 第 8 回 Lesson 10 Untapped potential: The Central African Republic develops its agricultural sector: Listening の解釈
- 第 9 回 Lesson 10 Untapped potential: The Central African Republic develops its agricultural sector: Reading の解釈
- 第 10 回 Lesson 11 Going home: Europe starts slow return of looted African art: Listening の解釈
- 第 11 回 Lesson 11 Going home: Europe starts slow return of looted African art: Reading の解釈
- 第 12 回 Lesson 12 Torfaera, the motor sport captivating Iceland: Listening の解釈
- 第 13 回 Lesson 12 Torfaera, the motor sport captivating Iceland: Reading の解釈
- 第 14 回 a. 講義 (重要事項の確認、補足)
b. 期末試験

* 講義内容、進度には必要に応じて若干変更を加えることがある。

3. 履修上の注意

英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。

辞書を必ず携帯すること。(電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。)

遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習に関しては、教科書の該当箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、意味がわからない部分を特定し、その部分を辞書で調べておくことは不可欠である。音声はあらかじめ何度も聴いて授業に臨むこと。復習としては、理解が及ばなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読んでみる。音声も何度も聴いて、音声だけでも内容が理解できるように努めていただきたい。

5. 教科書

『AFP World News Report 7』 宍戸真, Kevin Murphy, 高橋真理子 (成美堂)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評については、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。

8. 成績評価の方法

定期試験 (70%) と小テスト (単語テスト) (30%) で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。定期試験ではリスニングの形式では出題しない。

9. その他

オフィスアワー: 火曜日 10:40~17:10 の授業外の時間 (中央校舎 3 階講師控室)

連絡先: メールアドレスを初回の授業で伝える。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語I b 政(1)	1 単位	行田勇
2017～2021年度入学者 英語I b 政(1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] <授業の概要> [/b]

- ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。
 - ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。
- 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。

[b] <到達目標> [/b]

- ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。
 - ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。
 - ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせ、無理なく確実に理解してゆくことができる。
 - ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。
- 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回・第2回 Unit7
 第3回・第4回 Unit8
 第5回・第6回 Unit9
 第7回・第8回 Unit10
 第9回・第10回 Unit11
 第11回・第12回 Unit12
 第13回 Unit13
 第14回 a:まとめ b:試験
- 内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。
 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。
 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。
 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。
 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。
 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。

5. 教科書

『British News Update6 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース6』
 Timothy Knowles 他 編著
 出版社 金星堂
 テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。
 テキストがないと授業に参加できず、欠席扱いとなります。

6. 参考書

CALL 教材『Listen to Me!』
 この教材は大学のパソコンにインストール済みなので購入する必要はありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。
 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第1回授業で説明しますが、以下は基本方針です。
 定期試験 50%、平常点（授業中の発表・課題の提出等） 50%。
 毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。
 皆勤は当然の義務なので、欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスパワーと連絡方法は授業中に指示します。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 政 (2)	1 単位	原田英子
2017~2021 年度入学者 英語 I b 政 (2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

<英語の運用能力を高める>

現代社会における、世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。

[b]《授業の概要》[/b]

春学期と同じテキストを使用する。正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。上記の目標のために、テキストに沿って基本的に2回の授業で1つのUnitを進め、テキストのUnit 12まで終了することを目指す。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。また、必要に応じて映像を使って理解を深める。各Unitのテキストの問題について小テストを実施する。メディア授業期間は進度に合わせてテキストの問題を課題として出題する。

2. 授業内容

- 第1回 インTRODクダクシヨン（授業方法・Unit 7の導入） [対面授業]
- 第2回 Unit 7 Basques、Reading [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第3回 Unit 7 Basques、Episode1、2 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第4回 Unit 8 Korea、Reading [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第5回 Unit 8 Korea、Episode 1、2 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第6回 Unit 9 Romani、Reading [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第7回 Unit 9 Romani、Episode1、2 [対面授業]
- 第8回 Unit 10 Switzerland、Reading [対面授業]
- 第9回 Unit 10 Switzerland、Episode 1、2 [対面授業]
- 第10回 Unit 11 Hong Kong、Reading [対面授業]
- 第11回 Unit 11 Hong Kong、Episode 1、2 [対面授業]
- 第12回 Unit 12 The Pope and the Vaticane City State、Reading [対面授業]
- 第13回 Unit 12 The Pope and the Vaticane City State、Episode1、2 [対面授業]
- 第14回 a まとめ・b 試験 [対面授業]

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

[u][b]この授業は、第2回～第6回はメディア授業（オンデマンド型）で行う。[/b][/u]

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則火曜日の朝9:00に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方でMicrosoftのTeamsとFormsを利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則火曜日の朝9:00に配信し、翌週の朝8:30を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teamsの機能を活用し授業の質問を受け付ける（対面授業期間は直接申し出ることが望ましい）。初回到公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u]必ず[/u]本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues（国際問題のルーツを探る）』 石谷由美子（南雲堂）

6. 参考書

特に定めないが、必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト・課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 政 (3)	1 単位	熊田和典
2017~2021 年度入学者 英語 I b 政 (3)		

1. 授業の概要・到達目標

AFP のニュースを教材に使い、現在社会で起こっている世界の諸問題について学習する。各課では、AFP のニュースを学習するとともに、同一のテーマを扱った英文を読んで、英語を聴く力、読む力、文法力、語彙力、表現する力を養う。扱う問題については、性別の固定観念、気象変動対策と経済レベル、地域経済の活性化と文化継承、発展途上国への投資、植民地時代の財宝、危険を伴うスポーツへの挑戦である。

現代社会の問題を扱った教材を学習することを通して、将来専門教育や社会の要求に応えるための土台となる総合的な英語力を養成することをこの授業の目標とする。

2. 授業内容

- 第 1 回 Introduction (春学期、英語 I a の授業の復習、秋学期英語 I b の授業に向けての導入など)
- 第 2 回 Lesson 7 Ethiopian girls take on gender stereotypes at the skatepark: Listening の解釈
- 第 3 回 Lesson 7 Ethiopian girls take on gender stereotypes at the skatepark: Reading の解釈
- 第 4 回 Lesson 8 Africa to press climate finance demands at COP26: Listening の解釈
- 第 5 回 Lesson 8 Africa to press climate finance demands at COP26: Reading の解釈
- 第 6 回 Lesson 9 Tourism's gifts and woes for Santa and Sami homeland: Listening の解釈
- 第 7 回 Lesson 9 Tourism's gifts and woes for Santa and Sami homeland: Reading の解釈
- 第 8 回 Lesson 10 Untapped potential: The Central African Republic develops its agricultural sector: Listening の解釈
- 第 9 回 Lesson 10 Untapped potential: The Central African Republic develops its agricultural sector: Reading の解釈
- 第 10 回 Lesson 11 Going home: Europe starts slow return of looted African art: Listening の解釈
- 第 11 回 Lesson 11 Going home: Europe starts slow return of looted African art: Reading の解釈
- 第 12 回 Lesson 12 Torfaera, the motor sport captivating Iceland: Listening の解釈
- 第 13 回 Lesson 12 Torfaera, the motor sport captivating Iceland: Reading の解釈
- 第 14 回 a. 講義 (重要事項の確認、補足)
b. 期末試験

* 講義内容、進度には必要に応じて若干変更を加えることがある。

3. 履修上の注意

英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。

辞書を必ず携帯すること。(電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。)

遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習に関しては、教科書の該当箇所を読んで全体の内容の理解に努めること。その際に、意味がわからない部分を特定し、その部分を辞書で調べておくことは不可欠である。音声はあらかじめ何度も聴いて授業に臨むこと。復習としては、理解が及ばなかったところを重点的にもう一度教科書の該当箇所を読んでみる。音声も何度も聴いて、音声だけでも内容が理解できるように努めていただきたい。

5. 教科書

『AFP World News Report 7』 宍戸真, Kevin Murphy, 高橋真理子 (成美堂)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評については、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。

8. 成績評価の方法

定期試験 (70%) と小テスト (単語テスト) (30%) で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。定期試験ではリスニングの形式では出題しない。

9. その他

オフィスアワー: 火曜日 10:40~17:10 の授業外の時間 (中央校舎 3 階講師控室)

連絡先: メールアドレスを初回の授業で伝える。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I b 政 (4)

2017~2021 年度入学者
英語 I b 政 (4)

1 単位

瀬端睦

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

英文法の基礎を復習しながら大学生に必要な英語コミュニケーションスキルを身につけ、4 技能の基礎固めを目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

[b]《授業の概要》[/b]

50' s~現代までの洋楽を聴きながら、歌の歌詞や歌に関するエッセイを読み、歌に関する会話を聞いていく。歌の歌詞を理解すると同時に、その歌詞が書かれた歴史的・社会的背景を理解し、それに対する自分の意見を英語で発信できるようになる。

2. 授業内容

第 1 回 a : イントロダクション (授業の進め方、辞書の使い方、成績評価の仕方など)

b : Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters) : 歌詞の理解

第 2 回 Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters) : 仮定法過去

第 3 回 Unit 9 I Need to Be in Love (The Carpenters) : 読解・会話リスニング

第 4 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel) : to 不定詞の形容詞的用法

第 5 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel) : 読解

第 6 回 Unit 10 Honesty (Billy Joel) : 会話リスニング

第 7 回 Greatest Showman 鑑賞

第 8 回 " This Is Me" 歌詞解説、映画の会話リスニング

第 9 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You

(Stevie Wonder) : to 不定詞の副詞的用法

第 10 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You

(Stevie Wonder) : 読解

第 11 回 Unit 12 I Just Called to Say I Love You

(Stevie Wonder) : 会話リスニング

第 12 回 What Makes You Beautiful (One Direction) : 歌詞理解

第 13 回 What Makes You Beautiful (One Direction) : 読解

第 14 回 a : 授業内容のまとめ

b : 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

次回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

歌詞の意味と文法、リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてくること。歌を繰り返し聞いて、聞き取り、意味が分かるようにすること。

5. 教科書

『ソングス&カルチャー』 関戸冬彦ほか著 (朝日出版社)

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックします。

8. 成績評価の方法

期末試験 60% + 平常点 (授業への取り組み、課題など) 40% で総合評価する。

9. その他

オフィスアワー : 授業後に対応する

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語 I b 政 (5)	1 単位	下永裕基
2017～2021年度入学者 英語 I b 政 (5)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] <授業の概要> [/b]

「未知を読むための英語力」

春学期の英語 I a に引き続き、Reading Material の種類に応じた読み方を模索する。未知を読む訓練として、とくにフィクションも取り入れたい。英文の印刷されたハンドアウトを配布する。基本方針は「訳読方式」なので、学生はその英文を徹底して予習し、授業に臨めばよい。授業では冒頭に発音アクセントのトレーニングや速読即解なども取り入れることがある。

[b] <到達目標> [/b]

この授業では、できるだけ多くの英文に触れ、英語を読むことの楽しさを再発見してもらいたい。英語は暗号ではなく、ことばである。ことばを大切に読む方法を探っていきたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回 a) 速読即解

b) 夏休みについての英作文課題

第 2 回：Reading Material 7：未知の領域 3

第 3 回：Reading Material 7：未知の領域 4

第 4 回：Reading Material 8：言語 5

第 5 回：Reading Material 8：言語 6

第 6 回：Reading Material 9：文化 5

第 7 回：Reading Material 9：文化 6

第 8 回：Reading Material 10：宗教 3

第 9 回：Reading Material 10：宗教 4

第 10 回：Reading Material 11：文化 6

第 11 回：Reading Material 11：文化 8

第 12 回：Reading Material 12：言語 7

第 13 回：Reading Material 12：言語 8

第 14 回 a) 学期末試験

b) 解説とふり返り

* 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。

* 授業の一部をディクテーション課題に充てることもある。

3. 履修上の注意

辞書を携行すること（電子辞書可）。

遅刻厳禁。

予習前提。比較的難しめの長い英文を扱うが、授業の進行はゆっくりなので、予習が追いつかない事態にはならないはず。

授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立ちます。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況（授業回数の 3 分の 2 以上）が、期末試験を受けるための必須条件である。

そのうえで、定期試験 80%、授業への積極性・リアクション・課題等 20%。

9. その他

研究室は 3 号館 4 階、3-405 にある。

オフィスアワー：火曜 16 時～17 時。水曜 13 時 30 分～16 時。

オフィスアワー以外でも、在室時には可能な限り、対応します。

業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先 = ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 化 (1)	1 単位	伊達恵理
2017~2021 年度入学者 英語 I b 化 (1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

「総合英語」 この授業では、文化論を扱った教科書 [i]TRANSCULTURE[/i] を用い、Ib では民主主義という制度、結婚と国家、「祈り」の持つ意味、笑いと人間 をトピックとした6つの Reading を、速読・精読を交えて扱います。本文の読解・論旨の把握とともに、CD の音声聞き取りによって耳から英文の内容に馴染み、各 Reading に即した設問によって内容・語彙理解の確認、ライティング力の向上を図ります。各 Reading につき、テキストのより深い内容理解の一助としてプリント教材を配布し、必要に応じて映像資料の提示などを行います。

[b]《授業の到達目標》[/b]

高校までに習得した英語力の上に立ち、大学レベルで必要とされる英語リーディング、リスニング、ライティングの基礎力を総合的に養うことを目的とします。特にこの授業では、論理的な英文読解の基礎技能、文法力・語彙力を向上させ、英語論説記事の内容・情報を的確に読みとるための土台作りを目標とします。

2. 授業内容

第1回： Introduction

第2回： How Democracy Works (1) Reading 本文読解①

第3回： How Democracy Works (2) Reading 本文読解②

第4回： How Democracy Works (3) Reading 本文読解③・テキスト設問

第5回： Marriage and the State (1) Reading 本文読解①

第6回： Marriage and the State (2) Reading 本文読解②

第7回： Marriage and the State (3) Reading 本文読解③・テキスト設問

第8回： The Meaning of Prayers (1) Reading 本文読解①

第9回： The Meaning of Prayers (2) Reading 本文読解②

第10回： The Meaning of Prayers (3) Reading 本文読解③・テキスト設問

第11回： Mankind and Laughter (1) Reading 本文読解①

第12回： Mankind and Laughter (2) Reading 本文読解②

第13回： Mankind and Laughter (3) Reading 本文読解③・テキスト設問

第14回： a. 試験 b. まとめ

* 講義の進捗は必要に応じ変更することがあります

3. 履修上の注意

テキストの内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとい良いでしょう。

授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

授業では、テキストの設問に加えて、各 Reading の内容理解・構成整理のためのプリントを配布し、教員がそれらに基づいた質問・解説を行う形で Reading 本文の読解を進めます。プリント教材やテキストの設問に解答した上で、それらの設問以外の箇所についても疑問点があれば明らかにできるよう、単語・成句や構文を含めて Reading 本文を十分に読み込み、パラグラフの論旨を把握して授業に備えて下さい。

[復習]

授業で各パラグラフ内の文章構成・内容、論旨の展開を確認した後は、Reading 全体の、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。

5. 教科書

[i]TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity[/i], 『多元文化論エッセイ - 響き合う文化たち』 Christopher Belton, 小田島恒志著 (金星堂)

6. 参考書

なし

7. 課題に対するフィードバックの方法

各 Unit の予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。0h-o!Meiji を通じて出された練習問題等については、0h-o!Meiji 上にて解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、平常点 (課題の提出とその内容、出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度、小テストなどの成績) 40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。(欠席は 3 回まで)

9. その他

オフィスアワー：木曜日 12:50~13:20 中央棟 3F 講師控室

質問・連絡は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡窓口として 0h-o!Meiji 「アンケート」を使用します。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 化 (2)	1 単位	中村美帆子
2017~2021 年度入学者 英語 I b 化 (2)		

1. 授業の概要・到達目標

「英語 4 技能の向上」

《授業の概要》

NHK の英語ニュースを教材として、英語の 4 技能 (Listening, Speaking, Reading, Writing) を総合的に高める。ニュースを視聴して内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。その他の映像資料や新聞・雑誌記事等も適宜取り入れる。

《到達目標》

1. 語彙や表現を習得する。
2. 時事問題に関する知識を得て、多方面から検討できるようになる。

2. 授業内容

第 1 回：イントロダクション

第 2 回：Unit 8-1 (Think Globally, Graze Locally)

第 3 回：Unit 8-2

第 4 回：Unit 9-1 (A Sea Turtle's Tale)

第 5 回：Unit 9-2

第 6 回：小テスト 1, まとめ

第 7 回：Unit 10-1 (“Robot Cafe” Showcases AI's Potential)

第 8 回：Unit 10-2

第 9 回：Unit 11-1 (More Than Just a Cafe)

第 10 回：Unit 11-2

第 11 回：小テスト 2, まとめ

第 12 回：Unit 12-1 (Heeding the Words of Younger People for a Better Future)

第 13 回：Unit 12-2

第 14 回：a. 試験, b. まとめ

3. 履修上の注意

1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること (英和、和英)。
2. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。
3. この授業では教科書の後半 (Units 8-15) から 5 つの unit を選んで使用する。教科書の前半 (Units 1-7) は、春学期の「英語 Ia」で使用する。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く (1 時間)。

復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える (1 時間)。

5. 教科書

『NHK NEWSLINE 7 / 映像で学ぶ NHK 英語ニュースが伝える日本 7』, Tatsuroh Yamazaki 他著 (金星堂)

※大学の書店で必ず購入すること。

6. 参考書

資料を適宜配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%, 小テスト 30%, 授業への参加度 20%

9. その他

連絡先：最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I b 化 (3)

1 単位

狩野晃一

2017～2021 年度入学者
英語 I b 化 (3)

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標およびテーマ》 [/b]

高等学校までの英語学習を基礎として、高度な総合的な英語運用を目指す。

[b] 《授業の概要》 [/b]

さまざまなタイプの英文を読み、英文のみならずそこに書かれた内容の理解に努める。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：History of Science (1)

第3回：History of Science (2)

第4回：History of Science (3)

第5回：History of Science (4)

第6回：History of Science (5)

第7回：History of Science (6)

第8回：History of Science (7)

第9回：History of Science (8)

第10回：History of Science (9)

第11回：History of Science (10)

第12回：History of Science (11)

第13回：History of Science (12)

第14回：まとめ、期末試験

3. 履修上の注意

予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習（20分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。

5. 教科書

授業内でプリントを配布する。

6. 参考書

授業内で適宜指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。

9. その他

オフィス・アワー：金曜日・3時限目

英語第Ⅱ研究室（3号館404号室）

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語 I b 化 (4)

1 単位

小嶺智枝

2017~2021年度入学者
英語 I b 化 (4)

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

「4技能向上を目指す」

リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングなど、各技能の向上を総合的に目指します。

[b]《授業の概要》[/b]

多様なトピックを扱ったリーディング活動、シャドーイング、ロールプレイング、ダイアログなど、様々な練習を通して英語能力の向上を目指します。学習した内容に応じてペアやグループで会話プラクティスやディスカッションを行います。

2. 授業内容

第1回：Unit 7

第2回：同上

第3回：Unit 8

第4回：同上

第5回：Unit 9

第6回：同上

第7回：Unit 10

第8回：Mid-term test/同上

第9回：Unit 11

第10回：同上

第11回：Unit 12

第12回：同上

第13回：Unit 13、発表

第14回：a まとめ b. 学期末試験

* 講義内容やUnitの順番は必要に応じて変更になる場合がある。

3. 履修上の注意

ペア・グループワークを多く取り入れます。積極的姿勢で授業に参加すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Reading passage の予習を必ず行うこと。

5. 教科書

Goro Yamamoto, Jonathan Brown, [i]SDGs and Challenges We Face[/i] (松柏社)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験 50%, 平常点（出席、小テスト、授業貢献度などを含む）50%の総合評価

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語 I b 化 (5)	1 単位	樋渡さゆり
2017~2021年度入学者 英語 I b 化 (5)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]「(5) 総合英語」[/b]

[b]《授業の概要》[/b]

総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a では論説文テキストを用いてリーディングを行う。テキスト内容は、アカデミックな視点から読み解く多元文化論。後半の Module b ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を養う。出版社の判断では、リーディング・テキストの難易度は TOEIC 550-650 点レベル

[b][b]《到達目標》[/b][[/b]

論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解定着などを目標とする。大学での研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターン構築を目指す。

2. 授業内容

第1回：aのみ：イントロダクション

第2回：リーディング（英語 I a（5）の続きから基本的には章立て順に購読する）／Listening & Stage 9

第3回：リーディング／L&V Stage 10

第4回：リーディング／L&V Stage 11

第5回：リーディング／L&V Stage 12

第6回：リーディング

第7回：リーディング／L&V Stage 13

第8回：復習と補足

第9回：リーディング／L&V Stage 14

第10回：リーディング／L&V Stage 15

第11回：リーディング

第12回：リーディング

第13回：リーディング

第14回：a. まとめ／b. 期末定期試験

3. 履修上の注意

春学期 英語 IIa (5) から継続履修。再履修の場合は春学期シラバスを参照のこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Module a: テキストの指定された範囲を予め読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認・補足して理解を深める。
Module b: 事前に各自でリスニングを行い、予習してくる。授業では答え合わせから始める。復習によってヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身に着ける

5. 教科書

Module a: 『Transculture: Transcending Time, Region and Ethnocity』 Christopher Belton, Koshi Odashima (金星堂)

Module b: 『TOEIC TEST 基本単語チェック 550 点レベル』 西谷恒志・吉塚弘・マイケル・シャワティ (音羽書房鶴見書店)

6. 参考書

『プログレッシブ英和中辞典』(小学館)

『リーダーズ英和辞典』(研究社)

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出は原則としてクラスウェブを利用します。

フィードバックは、クラスウェブのコメント欄で各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業展開に取り入れる、などの方法をとります。

8. 成績評価の方法

期末試験実施日を含めた授業実施回数の2/3以上に出席している履修者を評価対象とします。

期末定期試験 70%、平常点（出席状況、小課題など）30%で評価。出席状況を記録・認識しておくこと。

9. その他

1. 連絡方法⇒クラスウェブ上に用途別の連絡欄を設置。質問は随時受け付けます

2. オフィスアワー⇒質問対応は1. のとおり。面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとると確実です

場所：英語第 I 研究室（第一校舎 3号館 4階 403号室）

時間：在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 生 (1)	1 単位	原田英子
2017~2021 年度入学者 英語 I b 生 (1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標及びテーマ》 [/b]

<英語の運用能力を高める>

現代社会における、世界情勢について取り上げた英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようにすることがこの授業の目標である。

[b] 《授業の概要》 [/b]

春学期と同じテキストを使用する。正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。上記の目標のために、テキストに沿って基本的に2回の授業で1つのUnitを進め、テキストのUnit 12まで終了することを目指す。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。また、必要に応じて映像を使って理解を深める。各Unitのテキストの問題について小テストを実施する。メディア授業期間は進度に合わせてテキストの問題を課題として出題する。

2. 授業内容

- 第1回 インTRODakション (授業方法・Unit 7の導入) [対面授業]
- 第2回 Unit 7 Basques, Reading [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第3回 Unit 7 Basques, Episode1, 2 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第4回 Unit 8 Korea, Reading [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第5回 Unit 8 Korea, Episode 1, 2 [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第6回 Unit 9 Romani, Reading [メディア授業 (オンデマンド型)]
- 第7回 Unit 9 Romani, Episode1, 2 [対面授業]
- 第8回 Unit 10 Switzerland, Reading [対面授業]
- 第9回 Unit 10 Switzerland, Episode 1, 2 [対面授業]
- 第10回 Unit 11 Hong Kong, Reading [対面授業]
- 第11回 Unit 11 Hong Kong, Episode 1, 2 [対面授業]
- 第12回 Unit 12 The Pope and the Vaticane City State, Reading [対面授業]
- 第13回 Unit 12 The Pope and the Vaticane City State, Episode1, 2 [対面授業]
- 第14回 a まとめ・b 試験 [対面授業]

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

[u] [b] この授業は、第2回~第6回はメディア授業 (オンデマンド型) で行う。 [/b] [/u]

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則金曜日の朝9:00に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方でMicrosoftのTeamsとFormsを利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則金曜日の朝9:00に配信し、翌週の朝8:30を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teamsの機能を活用し授業の質問を受け付ける (対面授業期間は直接申し出ることが望ましい)。初回に公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u] 必ず [/u] 本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること (英和・和英・英英)

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues (国際問題のルーツを探る)』 石谷由美子 (南雲堂)

6. 参考書

特に定めないが、必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト・課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I b 生 (2)

1 単位

中須賀稚子

2017~2021 年度入学者
英語 I b 生 (2)

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標及びテーマ》 [/b]

「総合英語」

春学期に続き、同じテーマのテキストを読み進める。微妙なニュアンスまで読み込めることに加え、速さも同時に目指したい。

[b] 《授業の概要》 [/b]

英語の構成、構文、語法、関連語彙を理解しながら、エッセイの内容とその背景を学んでいく。

2. 授業内容

第1回： a ガイダンス

b 第7課 JR九州高速船株式会社 1回目

第2回： 同 2回目

第3回： 第8課 資生堂 1回目

第4回： 同 2回目

第5回： 第9課 東芝 1回目

第6回： 同 2回目

第7回： 第10課 インテル その3 1回目

第8回： 同 2回目

第9回： 第11課 明月堂 (博多通りもん)

第10回： 第12課 良品計画 その2

第11回： 第13課 資生堂 その2

第12回： 第14課 東芝 その2

第13回： 第15課 コニカミノルタ

第14回 a: まとめ

b: 到達度確認試験

履修した学生の希望があれば、中間試験を実施することもあり得る

[b] * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。 [/b]

3. 履修上の注意

教室に辞書 (スマートフォンの辞書は内容が不十分のため望ましくない) を持って出席するようにしてください

春学期 英語 Ia (中須賀) の項を参照のこと

授業中にはむやみに教室を抜け出ないこと、
教科書は必ず買って、コピーで授業を受けないこと、
出席と課題は不可分であること

呉々も気を付けて下さい

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

知らない語句は辞書を引き意味や用法を調べておくこと。

5. 教科書

Global Leadership-2nd Revised Edition-(金星堂、2022)

6. 参考書

授業内で指示する

7. 課題に対するフィードバックの方法

中須賀 英語 Ia 春学期の項を参照の事

8. 成績評価の方法

筆記試験 60% (授業内及び期末を予定)、課題提出や授業への取り組み 40%、トータル 100%のうち、60%以上を取れた場合に単位認定となります。

詳細は中須賀 英語 Ia (中須賀) を参照のこと

9. その他

オフィス・アワー：金曜日の昼休み いづれかの講師控室

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語 I b 生 (3)	1 単位	原功
2017~2021 年度入学者 英語 I b 生 (3)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

この授業では、農学部での学修に必要なと思われる英語のスキルのうち、特に必要かつ独習が難しいと考えられる英文読解と英作文を中心とした演習を行います。国内外の研究成果の多くは英語で発表されているため、その内容を正確に捉えることと自分の考えを適切な英語で表現することはこれからの学修活動に必須であると思われます。従って、自力で英文を読んだり、書いたりするために身につける必要のある知識を順を追って身につけ、多くの演習を通じてスキルを高めていきます。

秋学期は、春学期の成果を踏まえ、より発展的な学習を行います。英文読解では、正確に読むことができることを前提として、より短時間に、効率的に読むためのトレーニングを行います。教科書の文章に関連した様々な文章を読み比べ、トピックに対するより深い理解を目指します。英作文では、自分が述べたいことを十分に述べられることを目指し、発想法や構成法に基づいた実践的な学習活動を行います。

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

- 1) 英文を自力で読み取ることができるようになること
- 2) 自分の考えを適切に英語で表現できるようになること

2. 授業内容

- 第1回： a. 授業概要の説明 b. 英文を「読む」「書く」ための準備学習
- 第2回： [b]Writing[/b] Unit 7 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
- 第3回： [b]Writing[/b] Unit 8 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
- 第4回： [b]Reading[/b] Chapter 11, 12 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
- 第5回： [b]Reading[/b] Chapter 12, 13 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
- 第6回： [b]Writing[/b] Unit 9 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
- 第7回： [b]Writing[/b] Unit 10 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
- 第8回： [b]Reading[/b] Chapter 14, 15 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
- 第9回： [b]Reading[/b] Chapter 15, 16 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
- 第10回： [b]Writing[/b] Unit 11 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
- 第11回： [b]Writing[/b] Unit 12 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
- 第12回： [b]Reading[/b] Chapter 17, 18 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
- 第13回： [b]Reading[/b] Chapter 18, 19 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
- 第14回： a. 期末試験 b. 総括と今後の学習の指針

3. 履修上の注意

- 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。
- 2) 授業回数の3分の1を超える欠席（5回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。
- 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

[b]Reading[/b]

予習：その週に扱う英文に目を通し、分からない単語を調べておくこと、また記述式の設定問に対する回答を準備すること。
復習：英文の意味が理解できるまで読み直すこと、音読すること、付属の音声ファイルを聞くこと。

[b]Writing[/b]

予習：教科書に目を通し、設問への回答を準備しておくこと。
復習：返却された作文を見直し、修正箇所を点検すること。

5. 教科書

[b]Reading[/b]: 『World Today (世界が見える—VOAサイエンストピックを読む)』音羽書房鶴見書店

[b]Writing[/b]: 『Writing Accelerator 1 (パラグラフ構成要素から学べるライティング入門)』松柏社

※これらの教科書は春学期「英語 I a 生 (3)」から継続して使用します。

6. 参考書

未知の英文を読んだり、母語でない言語の文章を書いたりするのに辞書が必要なのは言うまでもありません。しかしながら、どのような辞書を用意すればいいか迷っている人も多いことでしょう。もし手元に英和辞典と和英辞典があるのなら、ひとまずそれらを教室に持ってきてください。学習を続けていくうちに手持ちの辞書では歯が立たないと感じたり、何かしら不便に思ったりすることがあるはずです。その時にこそ、どのような辞書が自分にとって必要なかを考え、新しい辞書の購入を検討しましょう。

また、英文法の解説書も学習には必携です。高等学校で使っていたものが手元にあれば、ひとまずそれを活用しましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出するべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や作文など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

- 授業内課題 20%
授業へのコメント 10%

自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I b 生 (4)

1 単位

川村晶彦

2017~2021 年度入学者
英語 I b 生 (4)

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標及びテーマ》 [/b]

語彙・文法・語法をはじめとする基礎的英語力を活用し、毎回特定のトピックについて読み、考え、意見を発信することで、大学生に必要な英語力を身につけるだけでなく、課題となるトピックへの理解を深める。

[b] 《授業の概要》 [/b]

毎回、授業開始時に語彙あるいは文法・語法の小テストを行う。その後、1つのトピックにつき2回の授業で英文を読み、考え、英語で意見を発信する練習を行う。

* 英語による意見の発信は [メディア授業 (オンデマンド型)] で、グループ・ワークおよびピア・レビューを中心としたライティングを行う。

* * 学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第1回: Introduction & Getting to know each other

第2回: Writing extremely short stories (Reading)

第3回: Writing extremely short stories (Writing) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第4回: How do I know when it's my turn to speak? (Reading)

第5回: How do I know when it's my turn to speak? (Writing) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第6回: Who makes the best English teachers? (Reading)

第7回: Who makes the best English teachers? (Writing) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第8回: English is an Asian language! (Reading)

第9回: English is an Asian language! (Writing) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第10回: What is my first language? (Reading)

第11回: What is my first language? (Writing) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第12回: Complimenting across cultures and genders

第13回: 英語圏のポップカルチャー

第14回: a: まとめ b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

英語で意見を発信してもらう上で、パソコンを使用する。オフィス系のソフトの基礎的活用能力は必須であり、授業用に Google のアカウントを用意してもらう。プライベートで使用しているものでも構わない。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

受講者は毎回、十分な準備をした上で自分の疑問点をはっきりとさせて授業に臨むこと。当然ながら、テキストや事前に配布したプリント等、予習可能な教材に関しては、しっかりと目を通し、予習した上で出席すること。

5. 教科書

テキストを使用するが、現時点で候補が決定しておらず、初回に指示する。

6. 参考書

中辞典クラス以上の学習辞典 (英和または英英)

* 電子辞書を推奨するが、スマホ等を介してオンライン辞書を利用する場合は一定の基準を満たしたサイトのみ可。

7. 課題に対するフィードバックの方法

ライティングの課題は授業用に用意した Google の共有ドライブに Google ドキュメントで提出してもらい、添削とコメントを加えた上で翌週の授業時に返却する。

8. 成績評価の方法

対面授業への参加度および口頭での質疑応答 (30%)、ライティング課題等 (30%)、小テスト&レポート (10%) および期末試験 (30%) で総合的に評価する。

* 詳細は初回授業時に説明する。

9. その他

連絡先: 初回授業時に指示する。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語 I b 生 (5)

1 単位

狩野晃一

2017~2021 年度入学者
英語 I b 生 (5)

1. 授業の概要・到達目標

[b] 《授業の達成目標およびテーマ》 [/b]

高等学校までの英語学習を基礎として、高度な総合的な英語運用を目指す。

[b] 《授業の概要》 [/b]

さまざまなタイプの英文を読み、英文のみならずそこに書かれた内容の理解に努める。

2. 授業内容

第 1 回：イントロダクション

第 2 回：History of Science (1)

第 3 回：History of Science (2)

第 4 回：History of Science (3)

第 5 回：History of Science (4)

第 6 回：History of Science (5)

第 7 回：History of Science (6)

第 8 回：History of Science (7)

第 9 回：History of Science (8)

第 10 回：History of Science (9)

第 11 回：History of Science (10)

第 12 回：History of Science (11)

第 13 回：History of Science (12)

第 14 回：まとめ、期末試験

3. 履修上の注意

予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習（20 分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40 分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。

5. 教科書

授業内でプリントを配布する。

6. 参考書

授業内で適宜指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。

9. その他

オフィス・アワー：金曜日・3 時限目

英語第 II 研究室（3 号館 404 号室）

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅱa 農(1)

2017~2021 年度入学者
英語Ⅱa 農(1)

1 単位

中須賀稚子

1. 授業の概要・到達目標

昨今の大学生にとって、英語はいろいろな意味において必要不可欠であると言われている。一介の英語教師として、学生に、英語を楽しんでもらいたい、という思いは強いが、それぞれのニーズが異なる故、すべての学生がハッピーな授業はなかなか困難であるのが実情である。

今回のテキストは、英語を読みつつも、その内容が若い学生に何かを考えさせるきっかけとなれば、幸いである。具体的には、様々なものの見方を与えてくれる内容の英文を、細かいニュアンスまで含めて、理解できることが目標である。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

[b]《授業の概要》[/b]

テキストだけに頼らずにさまざまな英語に触れ、自分で自分の理解度を確認しながらゆっくり、しかし確実に前進していく。授業では、学生が発表し、教師は補足・解説を加える。自発的学習が大いに期待されるクラスである。

2. 授業内容

第1回：a イントロダクション

b プリントを用いた演習

第2回：第1課 美しさの驚くべき真実 1回目

第3回：同 2回目

第4回：第2課 珍しい趣味 1回目

第5回：同 2回目

第6回：第3課 スポーツの理論 1回目

第7回：同 2回目

第8回：第4課 退屈とは 1回目

第9回：同 2回目

第10回：第5課 意志疎通の様々な方法 1回目

第11回：同2回目

第12回：第6課 手品から見る我々の意識 1回目

第13回：同2回目

第14回：a: まとめ

b: 試験

[b]授業内容は、進行状況に応じて変更もあり得る。[/b]

履修した学生の希望があれば、中間試験等を実施することもあり得る

3. 履修上の注意

必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。興味を持っていただけるのが一番です。

授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。
自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください

2つ、お願いがあります。

その1

授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。

教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、

[b]教室内の出入りは、最小限にとどめるよう、自分の体を制御してください[/b]

その2

教科書は必ず購入してください。

そして、必ず教科書をもって授業に出席してください。

コピー（その他写メ等）で授業に出席している場合、欠席扱いとします。

[b]中須賀のクラスでは、コピーで授業に出席しても、出席とはみなしません。[/b]

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に分らない点を自分なりにはっきりさせ、授業中は不明だった部分を解決し、帰宅後はその部分を中心に、確認作業を行うこと。

5. 教科書

Grand Tour—New Discoveries— (成美堂, 2024)

6. 参考書

授業内で指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて全体に、または個別に、対面で、もしくはポートフォリオを通して行う

8. 成績評価の方法

筆記試験（授業内及び期末を予定）で 60%，課題提出や授業内での評価（出席点ではない）40%，計 100% で評価を決定する。総合で 60% 以上に単位を認定する。

欠席は 5 回を超えた段階で受験資格を失う。

遅刻は 3 回で欠席 1 回とするので、遅刻をしないよう気を付けること。

[b] また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください。[/b]

授業に出席したが課題は未提出、または、授業は欠席したが課題は提出、という場合、欠席扱いとなります。

授業に欠席したが課題を出した、という場合、課題の点数は配慮するケースもあります

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12：45～13：15（いずれかの講師控え室）

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅱa 農(2)

1 単位

狩野晃一

2017～2021 年度入学者
英語Ⅱa 農(2)

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標およびテーマ》[/b]

さまざまな種類のエッセイを毎回読み進めます。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目である。

[b]《授業の概要》[/b]

様々な読み物を通して、広い知見を英語で得るだけでなく、そこにある問題に対する理解を深める。

2. 授業内容

第 1 回：イントロダクション

第 2 回：English etymology (1)

第 3 回：English etymology (2)

第 4 回：English etymology (3)

第 5 回：Origin of English words (1)

第 6 回：Origin of English words (2)

第 7 回：Origin of English words (3)

第 8 回：Essays on English words (1)

第 9 回：Essays on English words (2)

第 10 回：Essays on English words (3)

第 11 回：History of English Expression (1)

第 12 回：History of English Expression (2)

第 13 回：History of English Expression (3)

第 14 回：まとめ、期末試験

3. 履修上の注意

予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習（20 分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40 分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。

5. 教科書

毎回プリントを配布する。

6. 参考書

授業内で適宜指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。

9. その他

オフィス・アワー：金曜日・3 時限目

英語第Ⅱ研究室（3 号館 404 号室）

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱa 農(3)	1 単位	川村晶彦
2017～2021 年度入学者 英語Ⅱa 農(3)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

「英語で考え、発信する」

語彙・文法・語法をはじめとする基礎的英語力を活用し、毎回様々なトピックについて読み、考え、意見を発信することで、大学生に必要な英語力を身につけるだけでなく、英語と英語文化への理解を深める。

[b]《授業の概要》[/b]

毎回、授業開始時に語彙あるいは文法・語法の小テストを行う。その後、1つのトピックにつき2回の授業で英文を読み、考え、英語で意見を発信する練習を行う。

* 英語による意見の発信は〔メディア授業（オンデマンド型）〕で、グループ・ワークおよびピア・レビューを中心としたライティングを行う。

** 学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 Introduction

第2回 Culture and Society（内容理解）

第3回 Culture and Society（議論と意見の発信）〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第4回 Human Brain（内容理解）

第5回 Human Brain（議論と意見の発信）〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第6回 Education（内容理解）

第7回 Education（議論と意見の発信）〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第8回 Global Economy（内容理解）

第9回 Global Economy（議論と意見の発信）〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第10回 Innovation（内容理解）

第11回 Innovation（議論と意見の発信）〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第12回 AI（内容理解）

第13回 イギリスのポップカルチャー

第14回 a:まとめ b:期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

英語で意見を発信してもらう上で、パソコンを使用する。オフィス系のソフトの基礎的活用能力は必須であり、授業用に Google のアカウントを用意してもらう。プライベートで使用しているものでも構わない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は毎回、十分な準備をした上で自分の疑問点をはっきりとさせて授業に臨むこと。当然ながら、テキストや事前に配布したプリント等、予習可能な教材に関しては、しっかりと目を通し、予習した上で出席すること。

5. 教科書

プリントを使用する予定

6. 参考書

中辞典クラス以上の学習辞典（英和または英英）

* 電子辞書を推奨するが、スマホ等を介してオンライン辞書を利用する場合は一定の基準を満たしたサイトのみ可。

7. 課題に対するフィードバックの方法

リーディング授業時の受講生の発言等に関しては基本的に口頭でフィードバックを行うが、ライティングの課題は授業用に用意した Google の共有ドライブに Google ドキュメントで提出してもらい、添削とコメントを加えた上で翌週の授業時に返却する。

8. 成績評価の方法

対面授業への参加度および口頭での質疑応答（30%）、ライティング課題等（30%）、小テスト&レポート（10%）および期末試験（30%）で総合的に評価する。

* 詳細は初回授業時に説明する。

9. その他

連絡先：初回授業時に指示する。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅱa 農(4)

2017～2021 年度入学者
英語Ⅱa 農(4)

1 単位

原田英子

1. 授業の概要・到達目標

[b] <英文読解力の強化と英語表現力> [/b]

社会、文化、歴史、芸術など、人類に共通する様々な普遍的テーマに関する英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。

上記の目的・目標のために、基本的にテキストに沿って2回の授業で1課進める。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なリーディングのプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。また、必要に応じて映像を使って理解を深める。対面授業、オンライン授業ともにテキストの問題に即した小テストを出題する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション(授業方法・テキストの説明) [対面授業]
- 第2回 Unit 1 The Concept of Beauty (1) [対面授業]
- 第3回 Unit 1 The Concept of Beauty (2) [対面授業]
- 第4回 Unit 2 Greek Mythology (1) [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第5回 Unit 2 Greek Mythology (2) [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第6回 Unit 3 The Bible (1) [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第7回 Unit 3 The Bible (2) [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第8回 Unit 4 Renaissance (1) [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第9回 Unit 4 Renaissance (2) [メディア授業(オンデマンド型)]
- 第10回 Unit 5 The Structure of Fictional Literature (1) [対面授業]
- 第11回 Unit 5 The Structure of Fictional Literature (2) [対面授業]
- 第12回 Unit 6 The Theater and Acting (1) [対面授業]
- 第13回 Unit 6 The Theater and Acting (2) [対面授業]
- 第14回 a: 授業内容のまとめ b: 確認テスト [対面授業]

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

[u] [b] この授業は、第4回～第9回はメディア授業(オンデマンド型)で行う。 [/b] [/u]

初回の授業で、オンライン授業で使用するツール(Forms、Teams)の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること(スマートフォンも可)。また、初回授業までに多要素認証を済ませておくこと。

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則金曜日の朝9:00に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方でMicrosoftのTeamsとFormsを利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則金曜日の朝9:00に配信し、翌週の朝8:30を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teamsの機能を活用し授業の質問を受け付ける(対面授業期間は直接申し出ることが望ましい)。初回に公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u] 必ず [/u] 本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること(英和・和英・英英)

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity(多元文化論エッセイ響き合う文化たち)』 Christopher Belton、小田島恒志(金星堂)

6. 参考書

とくには定めない。必要に応じて関連書籍を授業中に紹介し、プリントを配布することがある。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト・課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー: 質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること (メールアドレスは最初の授業で示す)。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱa農(5)	1単位	原功
2017～2021年度入学者 英語Ⅱa農(5)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

この授業では、農学部での学修に必要なと思われる英語のスキルのうち、特に必要かつ独習が難しいと考えられる英文読解と英作文を中心とした演習を行います。国内外の研究成果の多くは英語で発表されているため、その内容を正確に捉えることと自分の考えを適切な英語で表現することはこれからの学修活動に必須であると思われます。従って、自力で英文を読んだり、書いたりするために身につける必要のある知識を順を追って身につけ、多くの演習を通じてスキルを高めていきます。

英文読解は、英文を正確に和訳することから始めます。分からない単語を調べるだけでなく、英文はどのように書かれているのかを正確に把握した上で適切な日本語に直すトレーニングを続けます。勤や感覚に頼らず、文法や語法などのルールに基づいた和訳ができるようにします。

英作文は、パラグラフライティングを中心として、英文の構成の仕方や文法・構文を学んだ上で実際にパラグラフを書いてもらいます。書いている間に文法や語法についての指摘を行い、提出された作文は添削した上でコメントをつけて返却します。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

- 1) いろいろな種類の英文を自力で読み取ることができるようになること
- 2) 自分の考えを適切に英語で表現できるようになること

2. 授業内容

- 第1回： a. 授業概要の説明 b. 英文を「読む」「書く」ための準備学習
 第2回： [b]Reading[/b] Unit 1 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第3回： [b]Reading[/b] Unit 2 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第4回： [b]Writing[/b] Unit 1 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第5回： [b]Writing[/b] Unit 2 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第6回： [b]Reading[/b] Unit 3 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第7回： [b]Reading[/b] Unit 4 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第8回： [b]Writing[/b] Unit 3 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第9回： [b]Writing[/b] Unit 4 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第10回： [b]Reading[/b] Unit 5 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第11回： [b]Reading[/b] Unit 6 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第12回： [b]Writing[/b] Unit 5 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第13回： [b]Writing[/b] Unit 6 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第14回： a. 期末試験 b. 総括と今後の学習の指針

3. 履修上の注意

- 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。
- 2) 授業回数の3分の1を超える欠席(5回以上)は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。
- 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

[b]Reading[/b]

予習：その週に扱う英文に目を通し、分からない単語を調べておくこと、また記述式の設問に対する回答を準備すること。
 復習：英文の意味が理解できるまで読み直すこと、音読すること、付属の音声ファイルを聞くこと。

[b]Writing[/b]

予習：教科書に目を通し、設問への回答を準備しておくこと。
 復習：返却された作文を見直し、修正箇所を点検すること。

5. 教科書

[b]Reading[/b]: 『Eureka! (世界を飛躍させた偉人たち—英語で学ぶ理工系の常識—)』南雲堂

[b]Writing[/b]: 『Genre Approach to Paragraph Writing (ジャンル別パラグラフ・ライティング)』成美堂

※これらの教科書は秋学期「英語Ⅱb農(5)」でも継続して使用します。

6. 参考書

未知の英文を読んだり、母語でない言語の文章を書いたりするのに辞書が必要なのは言うまでもありません。しかしながら、どのような辞書を用意すればいいか迷っている人も多いことでしょう。もし手元に英和辞典と和英辞典があるのなら、ひとまずそれらを教室に持ってきてください。学習を続けていくうちに手持ちの辞書では歯が立たないと感じたり、何かしら不便に思ったりすることがあるはずです。その時にこそ、どのような辞書が自分にとって必要なかを考え、新しい辞書の購入を検討しましょう。

また、英文法の解説書も学習には必携です。高等学校で使っていたものが手元にあれば、ひとまずそれを活用しましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題(和訳や作文など)と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題(教科書掲載の Exercise)があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱa政(1)	1単位	伊達恵理
2017～2021年度入学者 英語Ⅱa政(1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

この授業では、英語をリーディングを中心に、併せてパラグラフ・ライティングの基礎固めを行います。多岐にわたる分野の論説を扱った中級-準上級レベルの教科書[i]Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking [/i] second edition 3を用い、IIaでは、教科書前半の遺伝子工学、都市学、ビジネスに関する3 Unitsの中から、古代エジプト王家の秘密に関する科学捜査、都市化する世界の未来、観光ビジネスの新たな様相、ジオツーリズムをトピックとした4つのReadingを、速読・精読を交えて扱います。各Readingに即した練習問題によってトピックの内容・語彙理解を深めるとともに、読解技術・ライティング技術の基本を確認します。

[b]《授業の到達目標及びテーマ》[/b]

1年次までに習得した英語力の上に立って、英語を「読む」力をさらに養い、英語を通じて現代社会や私たちの生活を読み解く情報・知識を身につけることを目指します。大学レベルで必要と考えられる論理的な英文読解の基礎技能、文法力・語彙力を向上させ、長文の英語記事や論説の内容・情報を、パラグラフ構成をしっかりと理解した上での確に読みとるための土台作りを目標とします。また、ライティングについては、要約文、原因/結果説明、手順説明など種々の目的に応じたエッセイを書くために必要な文法事項・パラグラフ構成の基礎的技術を習得することを目指します。

2. 授業内容

第1回：Introduction

第2回：King Tut's Family Secrets (1) Unit Introduction/Preparing to Read - Reading 本文読解①

第3回：King Tut's Family Secrets (2) Reading 本文読解②

第4回：King Tut's Family Secrets (3) Reading 本文読解③ - テキスト設問

第5回：The Urban Visionary (1) Unit Introduction/Preparing to Read - Reading 本文読解①

第6回：The Urban Visionary (2) Reading 本文読解②

第7回：The Urban Visionary (3) Reading 本文読解③ - テキスト設問

第8回：The New Face of Tourism (1) Unit Introduction/Preparing to Read - Reading 本文読解①

第9回：The New Face of Tourism (2) Reading 本文読解②

第10回：The New Face of Tourism (3) Reading 本文読解③ - テキスト設問

第11回：Geotourism in Action (1) Unit Introduction/Preparing to Read - Reading 本文読解①

第12回：Geotourism in Action (2) Reading 本文読解②

第13回：Geotourism in Action (3) Reading 本文読解③ - テキスト設問

第14回：a. 試験 b. まとめ

* 講義の進捗は必要に応じ変更することがあります

3. 履修上の注意

テキストの内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、各Readingの内容把握とともに、リーディング・ライティングの設問に対する解答の準備等、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとい良いでしょう。

授業中の私語、特段理由のない中途退席など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

授業では、テキストのリーディング・ライティングに関する設問に加えて、各Reading本文の内容・構成の整理のためのプリント教材を配布し、教員が文法事項・意味内容などの補足的な質問・解説を行う形でReading本文の読解を進めますので、それらの質問にも解答できるよう、単語・成句や構文を含めてReading本文を十分に読み込み、パラグラフの論旨を把握して授業に備えて下さい。

[復習]

授業でパラグラフ内の文章構成・内容、論旨の展開を確認した後は、Reading全体の中で各パラグラフの担う役割・関係性を理解し見通せるよう、復習すること。また、各パラグラフで学んだ語彙・成句について、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。

5. 教科書

[i]Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking [/i] second edition 3, Mari Vargo, Laurie Blass 編 (National Geographic Learning)

6. 参考書

なし

7. 課題に対するフィードバックの方法

各Unitの予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。Oh-o!Meijiを通じて出された練習問題等については、Oh-o!Meiji上にて解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、平常点（課題の提出とその内容、出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度、小テストなどの成績）40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。（欠席は3回まで）

9. その他

オフィスアワー：木曜日 12：50～13：20 中央棟 3F 講師控室

質問・連絡は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡については Oh-o!Meiji「アンケート」も窓口として使用します。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱa政(2)	1単位	織田哲司
2017～2021年度入学者 英語Ⅱa政(2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]-Economist 誌の記事を読む-[/b]

[b]《授業の概要》[/b]

Economist 誌の記事を読む。テキストの内容は科学、文化、政治、経済などできるだけ新しく多岐にわたるトピックを取り上げる。将来的には専門科目における学術論文をも読む準備段階として、[b]英文の構造をしっかりと把握[/b]し、それに忠実な日本語訳を作れるようになるための訓練の場とする。また [b]「批判的読解(critical reading)」[/b]のセンスを身に付けることも目指す。

1つのトピックを約2週間かけて読む。授業の進む速さは受講者からの質問に答えながら進むのでゆっくりである。

[b]《到達目標》[/b]

英語テキストを読むことによって具体的には次の到達目標をバランスよく達成する：

1. 英語で書かれた文章を読んで、主題を把握することができる。
2. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。
3. 言語・歴史・宗教を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。
4. 文化に幅広く興味をもち、その価値について討議する。
5. 日本社会の成り立ちについて歴史などの観点から説明できる。
6. 日本の国際社会における位置づけを歴史などの観点から説明できる。

到達目標達成のための学問領域：英語、歴史、宗教、哲学、政治など。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：進化論 1-読解のポイント解説

第3回：進化論 2-テキストの読解

第4回：文化人類学 1-読解のポイント解説

第5回：文化人類学 2-テキストの読解

第6回：未来学 1-読解のポイント解説

第7回：未来学 2-テキストの読解

第8回：認知科学 1-読解のポイント解説

第9回：認知科学 2-テキストの読解

第10回：農業経済学 1-読解のポイント解説

第11回：農業経済学 2-テキストの読解

第12回：社会学 1-読解のポイント解説

第13回：社会学 2-テキストの読解

第14回：a まとめ；b 試験

※各回のテーマは変更される場合がある。

3. 履修上の注意

充分な予習、復習と出席はいうまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃から国際ニュースに触れて、いま世界で何が起きているのかについて絶えず関心を持ち続けることが必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。

1. 英和辞典を活用する—単語を調べる

事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書の余白のみならずノートに記入しておくことよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくことよい。

授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。

とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。

自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているため、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。

2. 百科事典を活用する—単語以外のさまざまな事項を調べる

たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、などを百科事典を参照して、自分から進んで調べておくことよい。

以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。

さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。

3. 自分の五官を活用する

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオや DVD を活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はあっという間に楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用してプリントを配付する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

初級者向け：『総合英語フォレスト』石黒昭博（監修）（桐原書店）

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。課題小テスト（Oh-o! Meiji System）30%、試験 50%、授業中のパフォーマンス 20%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第IV研究室（3号館3階3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅱa 政(3)

1 単位

中村美帆子

2017~2021 年度入学者
英語Ⅱa 政(3)

1. 授業の概要・到達目標

「英語 4 技能の向上」

《授業の概要》

英語記事を教材として、4 技能 (Reading, Listening, Speaking, Writing) を総合的に高める。記事の内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。

《到達目標》

1. 語彙や表現を習得する。
2. 時事問題に関する知識を得て、多方面から検討できるようになる。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：Chapter 1 Hug a Seal, Begin to Heal

第3回：Chapter 2 Inheriting Traditional Sounds

第4回：Chapter 3 Used Home Appliances Gaining Popularity

第5回：Chapter 4 The Ideal Solid Fuel

第6回：小テスト1, まとめ

第7回：Chapter 5 Dress Codes to Promote Gender Equality

第8回：Chapter 6 Do You Dare to Take the “Train to Apocalypse”?

第9回：Chapter 7 Island Doctor Saves the Day

第10回：Chapter 8 Changing Flavor with Magic Tableware

第11回：小テスト2, まとめ

第12回：Chapter 9 Rethinking Our Relationship with Animals in Captivity

第13回：Chapter 10 Movie House Turned Club House

第14回：a. 試験, b. まとめ

3. 履修上の注意

1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。
2. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。
3. この授業では教科書の前半 (Chapters 1-10) を使用する。教科書の後半 (Chapters 11-20) は、秋学期の「英語Ⅱb」で使用する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1 時間）。

復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1 時間）。

5. 教科書

『Insights 2024 / 世界を読むメディア英語入門 2024』, 村尾純子 他編著 (金星堂)

※大学の書店で必ず購入すること。

6. 参考書

資料を適宜配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%, 小テスト 30%, 授業への参加度 20%

9. その他

連絡先：最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱa政(4)	1 単位	樋渡さゆり
2017～2021年度入学者 英語Ⅱa政(4)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]「(1) 総合英語」[/b]

[b]《授業の概要》[/b]

総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を養う。後半の Module b では論説文テキストのリーディングを行う。テキストの内容は、西洋文化の歩みを文学・絵画・彫刻・建築・自然科学・音楽の6つのテーマから読み解くことで人類の創造性を見出し、グローバルな視点から現代文化を考えさせるものである。テキスト難易度は、出版社の判断では TOEIC 500-700 点レベル。

[b]《到達目標》[/b]

論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解の定着などを目標とする。研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターン構築を目指す。

2. 授業内容

- 第1回：bのみ：イントロダクション
- 第2回：Listening & Vocabulary Stage 1/リーディング
- 第3回：Stage 2/リーディング
- 第4回：Stage 3/リーディング
- 第5回：Stage 4/リーディング
- 第6回：L & V 復習/リーディング
- 第7回：L & V Stage 5/リーディング
- 第8回：リーディングの復習/L & V Stage 6
- 第9回：L & V Stage 7/リーディング
- 第10回：Stage 8/リーディング
- 第11回：L & V 復習/リーディング
- 第12回：a, b とも：リーディング
- 第13回：a, b とも：リーディング
- 第14回：a. まとめ/b：期末定期試験

- * 毎回、履修者の発表に基づいて授業を進める
- * 演習科目の特性上、「履修者の理解到達度を重要視してフィードバックを返すパターン」を反復して授業を展開し、リーディングの進捗を最適化する
- * リーディングのテキストは、目次記載順に上から Ch. 1-6 とみなし、春学期は Ch. 5-6 を中心に精読する

3. 履修上の注意

大学生にふさわしい辞書を使用していることが前提となる。辞書の選び方、使用方法については講義で取り上げる
資料掲示や課題提出、連絡等にクラスウェブを使用

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Module a: 事前に各自でリスニングを行い、授業では答え合わせから始める。復習を行い、ヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身に着ける
Module b: 指定範囲のテキストを、示されたポイントに注目して読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認・補足して理解を深める。

5. 教科書

Module a: 『TOEIC TEST 必修単熟語チェック 650 点レベル』西谷・吉塚（音羽書房鶴見書店）

Module b: 『Triumphs of Western Civilization: The Creativity of Man』 John Ricker & John Saywell（金星堂）

6. 参考書

『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出はおもにクラスウェブを利用します。
フィードバックはクラスウェブのコメント欄をとおして各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業展開に取り入れる、などの方法をとります。

8. 成績評価の方法

期末試験実施日を含めた授業実施回数2/3以上に出席している履修者を評価対象とします。
期末定期試験 70%、平常点（リスニング、出席状況、課題提出など）30%で評価。出席状況を記録・認識しておくこと。

9. その他

1. 連絡方法⇒クラスウェブ上に用途別の連絡欄を設置。質問は随時受け付けます

2. オフィスアワー⇒質問対応は1. のとおり。面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとると確実です

場所：英語第Ⅰ研究室（第一校舎 3号館4階403号室）

時間：在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅱa 政(5)

1 単位

小嶺智枝

2017～2021 年度入学者
英語Ⅱa 政(5)

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

- ・リーディング・リスニング力を付ける。
- ・思考力を養い、自分の意見を述べるスピーキング・ライティング力向上を目指す。
- ・英語で発信できるようになるための語学トレーニングを行う。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

[b]《授業の概要》[/b]

難易度中程度の語彙が含まれる Reading Passage を読み、練習問題にて理解度を確認する。会話例を通してリスニングの練習を行う。Discussion 問題について考え、話し合い、意見を述べる練習を行う。

2. 授業内容

第1回：オリエンテーション

第2回：Unit 1

第3回：同上

第4回：Unit 2

第5回：同上

第6回：Unit 3

第7回：同上

第8回：Unit 4

第9回：同上

第10回：Unit 5

第11回：同上

第12回：Unit 6

第13回：同上、発表

第14回：a.まとめ b.学期末試験

* 講義内容やUnitの順番は必要に応じて変更になる場合がある。

3. 履修上の注意

ペア・グループワークを多く取り入れます。積極的姿勢で授業に参加すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Reading passage の予習を行うこと。

5. 教科書

Goro Yamamoto, Johathan Brown, [i]SDGs and Global Issues[/i] (松柏社)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験 50%, 平常点（出席、課題の提出、小テスト、授業貢献度などを含む）50%の総合評価

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱa 化(1)	1 単位	平野桃子
2017～2021 年度入学者 英語Ⅱa 化(1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

[i]Active—Skills for Reading 4[/i] (Third Edition) を教材として利用し、リーディングを主としながら、内容理解と、語彙の増強、ライティングにも役立つ英文の構造を学びます。基礎的なアカデミック・ライティングも行います。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

[b]《授業の到達目標》[/b]

仕事、旅行、幽霊話など、多岐にわたるトピックに関する英文を読みながら、読解力の向上、基礎的な単語力の増強、文法の確認、さらには英語の文章構成を理解し、自分で書けるようになることを目的とします。

2. 授業内容

この科目はメディア授業（オンデマンド型）を行う回があります。

第1回 a: インTRODakション（授業の進め方と成績評価基準など）

b: Academic Writing—topic sentence

* 以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。

第2回 Unit1, Reading1, 'Not Your Typical 9-to-5 Job'

第3回 Unit1, Reading2, 'Job Interview Types' [メディア授業（オンデマンド型）]

第4回 Unit2, Reading1, 'Unmasking Virus Writers and Hackers'

第5回 Unit2, Reading2, 'Female Virus Writer Packs Punch' [メディア授業（オンデマンド型）]

第6回 Unit3, Reading1, 'Into the Heart of a Family in Casablanca' / Academic Writing—Concluding sentence

第7回 Unit3 Reading2, 'Travel for Good' [メディア授業（オンデマンド型）]

第8回 Unit4, Reading1, 'The Vanishing Hitchhikers' / Academic Writing—Unity

第9回 Unit4, Reading2, 'The Bell Witch' [メディア授業（オンデマンド型）]

第10回 Unit5, Reading1, 'What exactly Is a Short Story?'

第11回 Unit5, Reading2, 'An Interview with J.K. Rowling/ Academic Writing—Coherence [メディア授業（オンデマンド型）]

第12回 Paragraph Writing

第13回 Unit6, Reading1, 'Emotional Intelligence' [メディア授業（オンデマンド型）]

第14回 a: まとめ

b: 期末テスト

3. 履修上の注意

各回の授業で扱う範囲の予習をして下さい。自身の専攻や分野にとらわれず、様々な主題に触れながら英語を使って幅広い知識を吸収したいという学生を歓迎します。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は3回で1回分の欠席とみなします。また授業開始後20分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとします。

この授業は3、5、7、9、11、13回目がメディア授業になります。課題の提出期限の後、解答・解説動画が配信されます。動画は当該学期中の視聴が可能です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前にテキストを一読し、分からない単語を辞書で調べておいて下さい。単語の意味だけでなく発音やアクセントも必ず確認するようにして下さい。ライティングにつなげるため、テキストに使われている英文の構造や、使われている文法の種類等もよく見て下さい。

5. 教科書

Neil J. Anderson

[i]Active—Skills for Reading 4[/i] (Third Edition)

(National Geographic Learning)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

対面授業では口頭で行います。オンライン授業のフィードバックはOh-o!Meiji を使って行います。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%、ライティング 20%、授業への参加度 30%で総合的に評価する。

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱa化(2)	1 単位	柏原俊樹
2017～2021 年度入学者 英語Ⅱa化(2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

[b]《授業の概要》[/b]

主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、使われている英語を通じた学習のきっかけとして、随時実践的な [やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。

2. 授業内容

- 【第1回】SCENE 1: THORNTON SQUARE
- 【第2回】SCENE 1: Gregory looks questioningly at Paula.
- 【第3回】SCENE 1: HOTEL ROOM
- 【第4回】SCENE 2: THORNTON SQUARE GARDENS
- 【第5回】SCENE 2: Paula takes out a glove.
- 【第6回】SCENE 3: NUMBER 9 THORNTON SQUARE
- 【第7回】SCENE 3: Gregory takes Paula's handbag.
- 【第8回】SCENE 3: JEWEL ROOM IN THE TOWER
- 【第9回】SCENE 4: THE PARK OPPOSITE NUMBER 9 THORNTON SQUARE
- 【第10回】SCENE 4: The Police Commissioner's Office
- 【第11回】SCENE 5: THE DRAWING ROOM AT NUMBER 9 THORNTON SQUARE
- 【第12回】SCENE 5: THE ENTRANCE HALL
- 【第13回】まとめ及び理解度確認試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。
積極的に発言してください（思い込み歓迎）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の予習は必須。次回の範囲の教科書の文章に目を通しておくこと、各回にメモを取った内容を復習・整理することが望ましい。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

5. 教科書

ガス灯（開文社出版）

6. 参考書

英語辞書は、できる限り語源欄の付いているものを使用してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70%）。英語を使うための知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30%）。

9. その他

第一外国語

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱa化(3)	1 単位	大須賀寿子
2017～2021 年度入学者 英語Ⅱa化(3)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

「英語のどの能力を伸ばしたい？」と質問されたら、あなた方はどのように答えますか？きっと多くの人は、「英語を使っている」= 「スピーキング」がうまくできるというイメージが強いと思います。しかし、すべての基本はリーディングにあります。ゆえに、リーディングというインプットの作業から得た知識、文法事項、語彙などがライティングやスピーキングのアウトプットの作業に生かされていきます。

インターネット、オンラインミーティングが普及したおかげで日本にいながらも海外が身近になっている今、英語でメールを書く機会も増え、英語で自分の意見を述べる必要性が生じています。本授業では、英語を読むことを中心にしながら、基本的な文章の作成から意見を論理的に書けるようにすること、また広い視野を持つことを目標とします。

[b]《授業の概要》[/b]

さまざまな話題を扱った英語教材を読むことによって、専門分野以外の内容にも柔軟な思考を持てるような一助にしたいと思います。また、教材を介して語彙や情報を知り、正確な文法事項を理解し、そして情報から得た知識などをライティングやリスニング、スピーキングにも応用していきます。読解教材を利用して、英文を暗記し、重要なフレーズを学習し、時には良い文章のサンプルをまねて学ぶことによって、writing の学習やリスニングの練習を進めていくようにします。春学期は sentence writing の練習及び文法事項の確認を丁寧にやることを基本として、まとまった内容の英語を書けるようにすることを目標とします。その日に学習した表現を使って、writing の練習をしていきます。

2. 授業内容

毎回少しずつでも英文を書いていくことを習慣づけるようにします。

時々グループワークを取り入れていきます。

授業の進行状況によって、読解の資料や小テストの日程が変わる場合があります。必ず授業時に確認すること

第1回：オリエンテーション, self-introduction

第2回：Unit 1 Images of Life A: Visual of Life

第3回：Unit 1 Images of Life My Journey in Photographs

第4回：Unit 2 Natural Attraction Living Light

第5回：Unit 2 Natural Attraction Feathers of Love

第6回：第1回小テスト Unit 3 Food and Health How Safe Is Our Food ?

第8回：Unit 3 Food and Health How Safe Is Our Food?

第9回：Unit 3 Food and Health The Battle of BioTech

第10回：Unit 4 Design and Engineering Design by Nature

第11回：Unit 4 Design and Engineering Biomimetics

第12回：第2回小テスト Unit 5 Human Journey The DNA Trail

第13回：Unit 5 Human Journey Fantastic Voyage と春学期のまとめ

第14回：a: 春学期試験

b 春学期試験解答と解説

小テストのほかにも、随時授業内で演習を行います。

3. 履修上の注意

わからないところをはっきりさせるために、授業には予習をして臨んでください。

教科書で書かれている英文は一見簡単そうに見えるかもしれませんが、比喩があったり、難しいかもしれません。

ゆえに丁寧に読んでください。

授業時には辞書、とくに英英辞典は必ず持参してください。

授業時には私語以外は積極的に発言したり、課題に取り組んでください。

また、授業以外でも必ず英語を読んだり、書いたりする機会を持つようにしてください。授業時に内職などほかの作業をしたり、居眠りをしたり、授業と関係ないことをする学生には退室を命じます。

それから、oh-o meiji を利用して、資料を配布したり作業をしてもらうことがありますので、、ノートパソコン、タブレット、スマートホンのいずれかを授業時に持参していることが望ましい。

欠席は減点となる。[b]欠席回数が4回に達した場合には単位を認定しません[/b]。

遅刻2回で欠席1回とカウントします。授業開始後20分までの入室を遅刻とみなし、以降は欠席とみなします。

教科書を持参していない場合には欠席とみなします。

途中退室をしたまま、10分以上戻らない場合には欠席とします。

授業中の睡眠時間が多い学生、授業に参加する意思の見られない学生も同じように欠席とみなします

欠席に関して、感染症に罹患し登校停止になった場合、長期入院などやむをえない事情がある場合には、必ず申し出ること

交通事情などによって、遅刻をした場合には、必ず申し出ること

正当な理由と判断できない自己都合による小テストの再受験は一切許可しません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む際には、予習を行い教科書および配布された教材を読み、内容を把握しておく。わからない単語などは辞典で調べる。

パラグラフごとに、内容をどのようにパラフレーズできるのか考えておきましょう。復習として、授業時に判明したことを見直しましょう。

授業で学習する予定の教材を翻訳ソフトにかけた日本語を読むことは予習ではありません。必ず自分で英語を読み、文章を作成すること。

5. 教科書

Reading Explorer 4 Third Edition センゲージラーニング

初回の授業時には準備をしておいてください

6. 参考書

辞典は各自が使用しやすいものを使用すること。参考書は必要に応じて指示します。

必要に応じて、プリントを使用します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は返却時に個別にコメントをして返却します。全体的に間違いが多かった箇所など全員で共有すべき内容は全体に行います。小テストは返却し、全体に向けて答えあわせをしてコメントをします

8. 成績評価の方法

学期末試験（50％）と平常点（50％：小テスト20、課題20、授業時の演習10など）を合わせて総合的に評価します。授業回数の1/3の欠席回数に達した場合は単位を認定できません。欠席、遅刻などについての説明は開講時に行います。

この授業では、学習を習慣づけるために授業時の作業、そして、普段からの積み重ねが大切なので提出物はどうしても多くなります。

ゆえに、課題の提出状況が少ないと評価が不利になるかもしれないので、気をつけましょう。

欠席や遅刻などについては「履修上の注意」の項目を確認すること

9. その他

出席は各自で管理をしてください。オフィスアワー、および教員への連絡手段については初回開講時にお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱa化(4)	1単位	織田哲司
2017～2021年度入学者 英語Ⅱa化(4)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]-Economist 誌の記事を読む-[/b]

[b]《授業の概要》[/b]

Economist 誌の記事を読む。テキストの内容は科学、文化、政治、経済などできるだけ新しく多岐にわたるトピックを取り上げる。将来的には専門科目における学術論文をも読む準備段階として、[b]英文の構造をしっかりと把握[/b]し、それに忠実な日本語訳を作れるようになるための訓練の場とする。また [b]「批判的読解(critical reading)」[/b]のセンスを身に付けることも目指す。

1つのトピックを約2週間かけて読む。授業の進む速さは受講者からの質問に答えながら進むのでゆっくりである。

[b]《到達目標》[/b]

英語テキストを読むことによって具体的には次の到達目標をバランスよく達成する：

1. 英語で書かれた文章を読んで、主題を把握することができる。
2. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。
3. 言語・歴史・宗教を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。
4. 文化に幅広く興味をもち、その価値について討議する。
5. 日本社会の成り立ちについて歴史などの観点から説明できる。
6. 日本の国際社会における位置づけを歴史などの観点から説明できる。

到達目標達成のための学問領域：英語、歴史、宗教、哲学、政治など。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：進化論 1ー読解のポイント解説
- 第3回：進化論 2ーテキストの読解
- 第4回：文化人類学 1ー読解のポイント解説
- 第5回：文化人類学 2ーテキストの読解
- 第6回：未来学 1ー読解のポイント解説
- 第7回：未来学 2ーテキストの読解
- 第8回：認知科学 1ー読解のポイント解説
- 第9回：認知科学 2ーテキストの読解
- 第10回：農業経済学 1ー読解のポイント解説
- 第11回：農業経済学 2ーテキストの読解
- 第12回：社会学 1ー読解のポイント解説
- 第13回：社会学 2ーテキストの読解
- 第14回：a まとめ；b 試験

※各回のテーマは変更される場合がある

3. 履修上の注意

充分な予習、復習と出席はいうまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃から国際ニュースに触れて、いま世界で何が起きているのかについて絶えず関心を持ち続けることが必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。

1. 英和辞典を活用するー単語を調べる

事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書の余白のみならずノートに記入しておくとうい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくとうい。

授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。

とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。

自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているため、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。

2. 百科事典を活用するー単語以外のさまざまな事項を調べる

たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、などを百科事典を参照して、自分から進んで調べておくとうい。

以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。

さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。

3. 自分の五官を活用する

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオや DVD を活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はいつそう楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用して教材を配付する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

初級者向け：『総合英語フォレスト』石黒昭博（監修）（桐原書店）

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。課題小テスト（Oh-o! Meiji System）30%、試験 50%、授業中のパフォーマンス 20%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第IV研究室（3号館3階3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱa化(5)	1 単位	宮川敬子
2017～2021 年度入学者 英語Ⅱa化(5)		

1. 授業の概要・到達目標

このクラスでは英語の実践的な力を効率よく向上させることを目標とします。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能全てを練習しますが、主にリーディングに焦点を当てて練習します。英語を読んで理解するということは一文一文英語を日本語に置き換えることではなく、読みながら同時に理解し、理解した意味を積み重ねながら文章全体の趣旨を把握することです。ただ訳すのではなく、理解したことを自分の言葉で伝えるという練習を積み重ねていくことによって、より実践的なリーディングスキルを身につけていきます。

授業ではテキストの各章を読み、自分の言葉（日本語・英語共に）で説明してもらいます。さらに練習問題をこなしながら、自分の意見を発表することも練習の一部となります。また各章の終わりにクイズで学んだことを確認します。

2. 授業内容

第1回：a. シラバスと評価方法の説明

b. ウォームアップアクティビティ

第2回：Unit 1A: Sports and Fitness; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第3回：Unit 1A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第4回：Unit 2A: Skin Deep; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第5回：Unit 2A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第6回：Unit 3A: Animals in Danger; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第7回：Unit 3A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第8回：Unit 4A: Violent Earth; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第9回：Unit 4A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz

第10回：Unit 5A: Island and Beaches; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第11回：Unit 5A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第12回：Unit 6A: Global Addictions; Reading A, Exercise Questions

第13回：Unit 6A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第14回：a. 期末テスト

b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

テキストと辞書は毎回必ず授業に持参すること。持参しない学生には平常点は加点されません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎週予習を欠かさず行うことによって、学生が授業中に積極的に参加することが重要です。英語を日本語に訳してくるだけでは予習として不十分です。各パラグラフにどのような内容が書かれているのか、文章全体で何を言いたいのかを「自分の言葉（英語/日本語）」で言える様に準備してする必要があります。読みながら同時に理解していく実践的な練習を予習の段階でも行いましょう。また各トピックについて自分の意見を持ち、それを表現出来る様にしましょう。

5. 教科書

Reading Explorer 3, 3rd ed. (2020, Cengage Learning Inc.)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットでの語彙の検索は認めません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。

また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。

8. 成績評価の方法

授業中の参加&平常点（読解説明、英語での発表など） 30%、小テスト（テキスト問題とクイズ）と期末テスト70%を元に総合的に評価し、総合点60点以上を合格とします。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィスアワー：火曜 12：30-13：20（中央棟3F 講師控室）

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱa 生(1)	1 単位	樋渡さゆり
2017~2021 年度入学者 英語Ⅱa 生(1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]「(1) 総合英語」[/b]

[b]《授業の概要》[/b]

総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を養う。後半の Module b では論説文テキストのリーディングを行う。テキストの内容は、西洋文化の歩みを文学・絵画・彫刻・建築・自然科学・音楽の6つのテーマから読み解くことで人類の創造性を見出し、グローバルな視点から現代文化を考えさせるものである。テキスト難易度は、出版社の判断では TOEIC 500-700 点レベル。

[b]《到達目標》[/b]

論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解の定着などを目標とする。研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターン構築を目指す。

2. 授業内容

- 第1回：bのみ：イントロダクション
- 第2回：Listening & Vocabulary Stage 1/リーディング
- 第3回：Stage 2/リーディング
- 第4回：Stage 3/リーディング
- 第5回：Stage 4/リーディング
- 第6回：L & V 復習/リーディング
- 第7回：L & V Stage 5/リーディング
- 第8回：リーディングの復習/L & V Stage 6
- 第9回：L & V Stage 7/リーディング
- 第10回：Stage 8/リーディング
- 第11回：L & V 復習/リーディング
- 第12回：a, bとも：リーディング
- 第13回：a, bとも：リーディング
- 第14回：a. まとめ/b: 期末定期試験

- * 毎回、履修者の発表に基づいて授業を進める
- * 演習科目の特性上、「履修者の理解到達度を重要視してフィードバックを返すパターン」を反復して授業を展開し、リーディングの進捗を最適化する
- * リーディングのテキストは、目次記載順に上から Ch. 1-6 とみなし、春学期は Ch. 5-6 を中心に精読する

3. 履修上の注意

大学生にふさわしい辞書を使用していることが前提となる。辞書の選び方、使用方法については講義で取り上げる。資料提示や課題提出、連絡等にクラスウェブを使用。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Module a: 事前に各自でリスニングを行い、授業では答え合わせから始める。復習を行い、ヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身に着ける
Module b: 指定範囲のテキストを、示された学習ポイントに注目して予め読んでくる。各回受講後は内容や文法事項を確認・補足して理解を深める。

5. 教科書

Module a: 『TOEIC TEST 必修単熟語チェック 650 点レベル』西谷・吉塚（音羽書房鶴見書店）

Module b: 『Triumphs of Western Civilization: The Creativity of Man』John Ricker & John Saywell（金星堂）

6. 参考書

『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出はおもにクラスウェブを利用します。フィードバックはクラスウェブのコメント欄をとおして各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業展開に取り入れるなどの方法をとります。

8. 成績評価の方法

期末試験実施日を含めた授業実施回数の2/3以上に出席している履修者を評価対象とします。
期末定期試験 70%、平常点（リスニング、出席状況、課題提出など）30%で評価。出席状況を記録・認識しておくこと。

9. その他

- 1. 連絡方法⇒クラスウェブ上に用途別の連絡欄を設置。質問は随時受け付けます
 - 2. オフィスアワー⇒質問対応は1. のとおり。面談を希望する場合は授業終了後または事前連絡でアポイントメントをとると確実にです
- 場所：英語第1研究室（第一校舎 3号館4階403号室）
時間：在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱa 生(2)	1 単位	柏原俊樹
2017～2021 年度入学者 英語Ⅱa 生(2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

[b]《授業の概要》[/b]

主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、使われている英語を通じた学習のきっかけとして、随時実践的な [やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。

2. 授業内容

- 第1回：Unit 1: GEORGE' S BEACH SHACK
- 第2回：Unit 1: KIMBALL' S DINING ROOM
- 第3回：Unit 2: KIMBALL' S KITCHEN
- 第4回：Unit 2: COMMUTER TRAIN
- 第5回：Unit 3: HOSPITAL ROOM
- 第6回：Unit 3: SAN JUAN CAPISTRANO TRAIN STATION
- 第7回：Unit 4: GEORGE' S GARAGE
- 第8回：Unit 4: GEORGE' S SHACK
- 第9回：Unit 4: GEORGE' S SHACK
- 第10回：Unit 4: GEORGE' S SHACK
- 第11回：Unit 6: JOSH' S PORSCHE
- 第12回：Unit 7: GEORGE' S SHACK
- 第13回：総復習
- 第14回：まとめと理解度確認試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。
積極的に発言してください（思い込み歓迎）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の予習は必須。次回の範囲の教科書の文章に目を通しておくこと、各回にメモを取った内容を復習・整理することが望ましい。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

5. 教科書

映画シナリオ『海辺の家』（英宝社）

6. 参考書

英語辞書は、できる限り語源欄の付いているものを使用してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭で、もしくは Oh-o Meiji を活用します。

8. 成績評価の方法

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70%）。英語を使うための知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30%）。

9. その他

第一外国語

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱa 生 (3)	1 単位	大須賀寿子
2017～2021 年度入学者 英語Ⅱa 生 (3)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

「英語のどの能力を伸ばしていきたい？」と質問されたら、あなた方はどのように答えますか？きっと多くの人は、「英語を使っている、英語ができる」＝「スピーキングがうまくできる」という考えが強いと思います。しかし、すべての基本はリーディングにあります。ゆえに、リーディングというインプットの作業から得た知識、文法事項、語彙などがライティングやスピーキングのアウトプットの作業に生かされていきます。また私たちも、英語で書かれたホームページにもアクセスする機会や英語でメールを書く機会も増えています。つまり、英語で自分の意見を述べる必要性が増えています。本授業では、英語を読むことを中心にし、その知識を生かし基本的な文章の作成から意見を論理的に書ける、そして伝えられるようにすること、そして専門科目に偏らない広い視野を持つことを目標とします。

[b]《授業の概要》[/b]

さまざまな話題を扱った英語教材を読むことによって、専門分野以外の内容にも柔軟な思考を持てるような一助にしたいと思います。また、教材を介して語彙や情報を知り、正確な文法事項を再確認し、そして情報から得た知識などをライティングやリスニング、スピーキングにも応用していきます。読解教材を利用して、英文を暗記し、重要なフレーズを学習し、時には良い文章のサンプルをまねて学ぶことによって、writing の学習やリスニングの練習を進めていくようにします。英文読解を春学期は sentence writing の練習及び文法事項の確認を丁寧に行うことを基本として、まとまった内容の英語を書けるようにすることを目標とします。その日に学習した表現を使って、writing の練習をしていきます。少しずつでも英文を書くことを習慣づけるようにします。

2. 授業内容

毎回少しずつでも英文を書いていくことを習慣づけるようにします。

時々グループワークを取り入れていきます

授業の進行状況によって、読む Unit や小テストの日程が変わる場合があります。

第1回：オリエンテーション, self-introduction

第2回：Unit 1 Images of Life A: Visual of Life

第3回：Unit 1 Images of Life My Journey in Photographs

第4回：Unit 2 Natural Attraction Living Light

第5回：Unit 2 Natural Attraction Feathers of Love

第6回：第1回小テスト Unit 3 Food and Health How Safe Is Our Food ?

第8回：Unit 3 Food and Health How Safe Is our Food?

第9回：Unit 3 Food and Health The Battle of BioTech

第10回：Unit 4 Design and Engineering Design by Nature

第11回：Unit 4 Design and Engineering Biomimetics

第12回：第2回小テスト Unit 5 Human Journey The DNA Trail

第13回：Unit 5 Human Journey Fantastic Voyage と春学期のまとめ

第14回：a: 春学期試験

b: 春学期試験解答と解説

小テストのほかにも、随時授業内で演習を行います。

3. 履修上の注意

oh-o meiji を利用して、資料配布および課題提出、連絡事項をするので必ず確認すること。

また授業中に oh-o meiji 上での作業をやってもらうこともありますので、

わからないところをはっきりさせるために、授業には予習をして臨んでください。

教科書で書かれている英文は単語などから見ると、一見簡単そうに見えるかもしれませんが、しかし

比喩などもあるので、丁寧に英語を自分で読んでください。翻訳ソフトに本文をかけることは予習ではありません

辞書、とくに英英辞典は必ず持参してください。

授業時には私語以外は積極的に発言したり、授業内作業に取り組んでください。

また、授業以外でも必ず英語を読んだり、書いたりする機会を持つようにしてください。

[b]欠席回数が4回に達した場合には単位を認定しません[/b]。

遅刻2回で欠席1回とカウントします。授業開始後20分までの入室を遅刻とみなし、以降は欠席とみなします。

教科書を持参していない場合には欠席とみなします。

途中退室をしたまま、10分以上戻らない場合には欠席とします。

授業中の睡眠時間が多い学生、授業に参加する意思の見られない学生も同じように欠席とみなします

欠席に関して、感染症の罹患による登校停止や長期入院などやむをえない事情がある場合には、必ず申し出ること

同様に、交通事情などやむをえない事情で遅れた場合は必ず申し出ること

正当な理由と判断できない自己都合による小テストの再受験は一切許可しません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む際には、予習を行い教科書および配布された教材を読み、内容を把握しておく。わからない単語などは辞典で調べること。パラグラフごとに、内容をどのようにパラフレーズできるのか考えておきましょう。復習として、授業時に判明したことを見直しましょう。

授業で学習する予定の教材を翻訳ソフトにかけた日本語を読むことは予習ではありません。必ず自分で英語を読み、文章を作成すること。

5. 教科書

[i]Reading Explorer[/i] 4 Third Edition センゲージラーニング
必要に応じて、プリントを配布します

6. 参考書

書籍の英和辞典は中辞典以上のもの、そして用例の多いものを勧めます。

授業中は電子辞書、場合によってはオンライン上の辞書の使用を認めます。

英語に関する参考書、授業教材の内容に関する参考書は必要に応じて指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は返却時に個別にコメントをして返却します。全体的に間違いが多かった箇所など全員で共有すべき内容は全体に行います。小テストは返却し、全体に向けて答えあわせをしてコメントをします。

8. 成績評価の方法

学期末試験（50％）と平常点（50％：小テスト20、課題20、授業時の演習10など）を合わせて総合的に評価します。授業回数の1/3の欠席回数に達した場合は単位を認定できません。

この授業では、学習を習慣づけるため授業時の作業、そして、普段からの積み重ねが大切なので提出物はどうしても多くなります。

欠席、遅刻、課題の未提出は評価が不利になります。出欠に関する事項は「履修上の注意」を確認してください。

9. その他

出席は各自で管理をしてください。オフィス・アワー、および教員への連絡方法は初回授業時に指示をします。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語Ⅱa生(4)

1単位

行田勇

2017～2021年度入学者
英語Ⅱa生(4)

1. 授業の概要・到達目標

[b] <<授業の概要>> [/b]

- ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。
 - ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。
- 効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。

[b] <<到達目標>> [/b]

- ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。
 - ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。
 - ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせて、無理なく確実に理解してゆくことができる。
 - ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。
- 農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 イントロダクション（授業方法・成績評価の説明）

第2回・第3回 Unit 1

第4回・第5回 Unit 2

第6回・第7回 Unit 3

第8回・第9回 Unit 4

第10回・第11回 Unit 5

第12回・第13回 Unit 6

第14回 a:まとめ b:試験

内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。

講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。

多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。

色々な意味で忍耐力が要求される授業です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。

提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。

課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。

5. 教科書

『British News Update 6 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 6』

Timothy Knowles 他 編著

出版社 金星堂

テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。

テキストがないと授業に参加できず、欠席扱いとなります。

6. 参考書

CALL 教材『Listen to Me!』

この教材は大学のパソコンにインストール済みなので購入する必要はありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。

各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。

8. 成績評価の方法

成績評価方法の詳細については第1回授業で説明しますが、以下は基本方針です。

定期試験 50%、平常点（授業中の発表・課題の提出等） 50%。

毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。

皆勤は当然の義務なので、いわゆる出席点などはありません。

欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示します。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱa生(5)	1単位	宮川敬子
2017～2021年度入学者 英語Ⅱa生(5)		

1. 授業の概要・到達目標

このクラスでは英語の実践的な力を効率よく向上させることを目標とします。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能全てを練習しますが、主にリーディングに焦点を当てて練習します。英語を読んで理解するという事は一文一文英語を日本語に置き換えることではなく、読みながら同時に理解し、理解した意味を積み重ねながら文章全体の趣旨を把握することです。ただ訳すのではなく、理解したことを自分の言葉で伝えるという練習を積み重ねていくことによって、より実践的なリーディングスキルを身につけていきます。

授業ではテキストの各章を読み、自分の言葉（日本語・英語共に）で説明してもらいます。さらに練習問題をこなしながら、自分の意見を発表することも練習の一部となります。また各章の終わりにクイズで学んだことを確認します。

2. 授業内容

第1回：a. シラバスと評価方法の説明

b. ウォームアップアクティビティ

第2回：Unit 1A: Sports and Fitness; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第3回：Unit 1A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第4回：Unit 2A: Skin Deep; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第5回：Unit 2A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第6回：Unit 3A: Animals in Danger; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第7回：Unit 3A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第8回：Unit 4A: Violent Earth; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第9回：Unit 4A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz

第10回：Unit 5A: Island and Beaches; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第11回：Unit 5A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第12回：Unit 6A: Global Addictions; Reading A, Exercise Questions

第13回：Unit 6A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第14回：a. 期末テスト

b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

テキストと辞書は毎回必ず授業に持参すること。持参しない学生には平常点は加点されません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎週予習を欠かさず行うことによって、学生が授業中に積極的に参加することが重要です。英語を日本語に訳してくるだけでは予習として不十分です。各パラグラフにどのような内容が書かれているのか、文章全体で何を言いたいのかを「自分の言葉（英語/日本語）」で言える様に準備してやる必要があります。読みながら同時に理解していく実践的な練習を予習の段階でも行いましょう。また各トピックについて自分の意見を持ち、それを表現出来る様にしましょう。

5. 教科書

Reading Explorer 3, 3rd ed. (2020, Cengage Learning Inc.)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットでの語彙の検索は認めません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。

また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。

8. 成績評価の方法

授業中の参加&平常点（読解練習と設問などの解答）30%、小テスト（テキスト問題とクイズ）と期末テスト70%をもとに総合的に評価し、総合点60点以上を合格とします。詳しくは第一回目の授業で説明します。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィスアワー：火曜 12:30-13:20（中央棟3F 講師控室）

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅱb 農(1)

2017～2021 年度入学者
英語Ⅱb 農(1)

1 単位

中須賀稚子

1. 授業の概要・到達目標

昨今の大学生にとって、英語はいろいろな意味において必要不可欠であると言われていて、一介の英語教師として、学生に、英語を楽しんでもらいたい、という思いは強いが、それぞれのニーズが異なる故、すべての学生がハッピーな授業はなかなか困難であるのが実情である。

今回のテキストは、英語を読みつつも、その内容が若い学生に何かを考えさせるきっかけとなれば、幸いである。具体的には、様々なものの見方を与えてくれる内容の英文を、細かいニュアンスまで含めて、理解できることが目標である。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

[b] 《授業の概要》 [/b]

テキストだけに頼らずにさまざまな英語に触れ、自分で自分の理解度を確認しながらゆっくり、しかし確実に前進していく。授業では、学生が発表し、教師は補足・解説を加える。自発的学習が大いに期待されるクラスである。

2. 授業内容

第1回：a イントロダクション

b 第7課 SNS とナルシズム

第2回：第8課 異種移植とは

第3回：第9課 ワクチン

第4回：第10課 大気汚染の危険

第5回：第11課 広告はペイする？

第6回：第12課 人生は誰のもの？

第7回：第13課 貧困の高い代償

第8回：第14課 実際にはいくら必要か

第9回：第15課 教育の価値とは

第10回：第16課 対外援助は役に立つのか？

第11回：第17課 平和的抗議

第12回：第18課 背反する権利

第13回：第19課 移民の経済的効果

第14回：a： 第20課 ソフトパワー

b： 期末試験

[b] 授業内容は、進行状況に応じて変更もあり得る。 [/b]

履修した学生の希望があれば中間試験等を実施することもあり得る

3. 履修上の注意

必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。興味を持っていただけるのが一番です。

授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。
自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください

2つ、お願いがあります。

その1

授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。

教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、

[b] 教室内の出入りは、最小限にとどめるよう、自分の体を制御してください [/b]

その2

教科書は必ず購入してください。

そして、必ず教科書をもって授業に出席してください。

コピー（その他写メ等）で授業に出席している場合、欠席扱いとします。

[b] 中須賀のクラスでは、コピーで授業に出席しても、出席とはみなしません。 [/b]

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に分らない点を自分なりにはっきりさせ、授業中に解決すること。
帰宅後はその部分を中心に、確認作業を行うこと。

5. 教科書

Grand Tour—New Discoveries— (成美堂, 2024)

6. 参考書

授業内で指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、全体に、もしくは個別に、対面で、またはポートフォリオを通じて行う

8. 成績評価の方法

筆記試験（授業内及び期末を予定）で 60%、課題提出や授業内での評価（出席点ではない）40%、計 100% で評価を決定する。総合で 60% 以上に単位を認定する。

欠席は 5 回を超えた段階で受験資格を失う。

遅刻は 3 回で欠席 1 回とするので、遅刻をしないよう気を付けること。

[b] また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください。 [/b]

授業に出席したが課題は未提出、または、授業は欠席したが課題は提出、という場合、欠席扱いとなります。

授業に欠席したが課題を出した、という場合、課題の点数は配慮するケースもあります

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12：45～13：15（いずれかの講師控え室）

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅱb 農(2)

1 単位

狩野晃一

2017～2021 年度入学者
英語Ⅱb 農(2)

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標およびテーマ》[/b]

ことばの不思議に関するエッセイを毎回読み進めます。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目である。

[b]《授業の概要》[/b]

様々な読み物を通して、広い知見を英語で得るだけでなく、そこにある問題に対する理解を深める。

2. 授業内容

第 1 回：イントロダクション

第 2 回：History of Science (1)

第 3 回：History of Science (2)

第 4 回：History of Science (3)

第 5 回：History of Science (4)

第 6 回：History of Science (5)

第 7 回：History of Science (6)

第 8 回：History of Science (7)

第 9 回：History of Science (8)

第 10 回：History of Science (9)

第 11 回：History of Science (10)

第 12 回：History of Science (11)

第 13 回：History of Science (12)

第 14 回：まとめ、期末試験

3. 履修上の注意

予習は必須。積極的な授業への参加（発言等）が求められる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習（20 分）はどこがわからない点を明確にすること。復習（40 分）は授業で明らかになった点を重点的に繰り返して行う。

5. 教科書

毎回プリントを配布する。

6. 参考書

授業内で適宜指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（課題、小テストなど）40%、試験 60%の総合評価。

9. その他

オフィス・アワー：金曜日・3 時限目

英語第Ⅱ研究室（3 号館 404 号室）

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb農(3)	1単位	川村晶彦
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb農(3)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

「英語で考え、発信する」

語彙・文法・語法をはじめとする基礎的英語力を活用し、毎回様々なトピックについて読み、考え、意見を発信することで、大学生に必要な英語力を身につけるだけでなく、英語と英語文化への理解を深める。

[b]《授業の概要》[/b]

毎回、授業開始時に語彙あるいは文法・語法の小テストを行う。その後、1つのトピックにつき2回の授業で英文を読み、考え、英語で意見を発信する練習を行う。

* 英語による意見の発信は〔メディア授業（オンデマンド型）〕で、グループ・ワークおよびピア・レビューを中心としたライティングを行う。

** 学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 Introduction (Ibの復習と課題の確認)

第2回 AI (議論と意見の発信)

第3回 History (内容理解)

第4回 History (議論と意見の発信)〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第5回 Social Networking Sites (SNS) (内容理解)

第6回 Social Networking Sites (SNS) (議論と意見の発信)〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第7回 Business (内容理解)

第8回 Business (議論と意見の発信)〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第9回 War and Peace (内容理解)

第10回 War and Peace (議論と意見の発信)〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第11回 Intercultural Communication (内容理解)

第12回 イギリスのポップカルチャー (クリスマス)

第13回 Intercultural Communication (議論と意見の発信)〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第14回 a:まとめ b:期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

英語で意見を発信してもらう上で、パソコンを使用する。オフィス系のソフトの基礎的活用能力は必須であり、授業用に Google のアカウントを用意してもらう。プライベートで使用しているものでも構わない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は毎回、十分な準備をした上で自分の疑問点をはっきりとさせて授業に臨むこと。当然ながら、テキストや事前に配布したプリント等、予習可能な教材に関しては、しっかりと目を通し、予習した上で出席すること。

5. 教科書

プリントを使用する。

6. 参考書

中辞典クラス以上の学習辞典（英和または英英）

* 電子辞書を推奨するが、スマホ等を介してオンライン辞書を利用する場合は一定の基準を満たしたサイトのみ可。

7. 課題に対するフィードバックの方法

リーディング授業時の受講生の発言等に関しては基本的に口頭でフィードバックを行うが、ライティングの課題は授業用に用意した Google の共有ドライブに Google ドキュメントで提出してもらい、添削とコメントを加えた上で翌週の授業時に返却する。

8. 成績評価の方法

対面授業への参加度および口頭での質疑応答（30%）、ライティング課題等（30%）、小テスト&レポート（10%）および期末試験（30%）で総合的に評価する。

* 詳細は初回授業時に説明する。

9. その他

連絡先：初回授業時に指示する。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱb 農(4)	1 単位	原田英子
2017～2021 年度入学者 英語Ⅱb 農(4)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] <英文読解力の強化と英語表現力> [/b]

英語Ⅱaに引き続き、社会、文化、歴史、芸術など様々な分野の話題に関する英文エッセイを読み、異文化理解や読解力、語彙力の増強を図る。

上記の目的・目標のために、基本的にテキストに沿って2回の授業で1課進める。学生の要望やテキストのトピックにあわせて補足的なリーディングのプリントを配布し、リーディング能力の増強をする。また、必要に応じて映像を使って理解を深める。対面授業、オンライン授業ともにテキストの問題に即した小テストを出題する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション（授業方法・Unit 7の導入）
- 第2回 Unit 7 The English Language (1) [対面授業]
- 第3回 Unit 7 The English Language (2) [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第4回 Unit 8 The Rise of Cities (1) [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第5回 Unit 8 The Rise of Cities (2) [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第6回 Unit 9 Trusting in Recorded History (1) [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第7回 Unit 9 Trusting in Recorded History (2) [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第8回 Unit 10 Battles on Board Games (1) [対面授業]
- 第9回 Unit 10 Battles on Board Games (2) [対面授業]
- 第10回 Unit 11 How Democracy Works (1) [対面授業]
- 第11回 Unit 11 How Democracy Works (2) [対面授業]
- 第12回 Unit 12 Marriage and the State (1) [対面授業]
- 第13回 Unit 12 Marriage and the State (2) [対面授業]
- 第14回 a: 授業内容のまとめ b: 確認テスト
[対面授業]

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

[u] [b] この授業は、第2回～第6回はメディア授業（オンデマンド型）で行う。 [/b] [/u]

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則金曜日の朝9:00に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方でMicrosoftのTeamsとFormsを利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則金曜日の朝9:00に配信し、翌週の朝8:30を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teamsの機能を活用し授業の質問を受け付ける（対面授業期間は直接申し出ることが望ましい）。初回到公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u] 必ず [/u] 本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity（多元文化論エッセイ響き合う文化たち）』 Christopher Belton、小田島恒志（金星堂）

6. 参考書

とくには定めない。必要に応じて授業中に紹介し、プリントを配布することがある。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト・課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー: 質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること (メールアドレスは最初の授業で示す)。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb農(5)	1単位	原功
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb農(5)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

この授業では、農学部での学修に必要なと思われる英語のスキルのうち、特に必要かつ独習が難しいと考えられる英文読解と英作文を中心とした演習を行います。国内外の研究成果の多くは英語で発表されているため、その内容を正確に捉えることと自分の考えを適切な英語で表現することはこれからの学修活動に必須であると思われます。従って、自力で英文を読んだり、書いたりするために身につける必要のある知識を順を追って身につけ、多くの演習を通じてスキルを高めていきます。

秋学期は、春学期の成果を踏まえ、より発展的な学習を行います。英文読解では、正確に読むことができることを前提として、より短時間に、効率的に、大量の英文を読むためのトレーニングを行います。教科書の文章に関連した様々な文章を読み比べ、トピックに対するより深い理解を目指します。英作文では、自分が述べたいことを十分に述べられることを目指し、発想法や構成法に基づいた実践的な学習活動を行います。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

- 1) 英文を自力で読み取ることができるようになること
- 2) 自分の考えを適切に英語で表現できるようになること

2. 授業内容

- 第1回： a. 授業概要の説明 b. 英文を「読む」「書く」ための準備学習
 第2回： [b]Reading[/b] Unit 7 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第3回： [b]Reading[/b] Unit 8 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第4回： [b]Writing[/b] Unit 7 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第5回： [b]Writing[/b] Unit 8 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第6回： [b]Reading[/b] Unit 9 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第7回： [b]Reading[/b] Unit 10 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第8回： [b]Writing[/b] Unit 9 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第9回： [b]Writing[/b] Unit 10 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第10回： [b]Reading[/b] Unit 11 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第11回： [b]Reading[/b] Unit 12 a. 和訳・読解 b. 考察・発展学習
 第12回： [b]Writing[/b] Unit 11 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第13回： [b]Writing[/b] Unit 12 a. 文法・構文 b. 英文構成・作文
 第14回： a. 期末試験 b. 総括と今後の学習の指針

3. 履修上の注意

- 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。
- 2) 授業回数の3分の1を超える欠席(5回以上)は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。
- 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

[b]Reading[/b]

予習：その週に扱う英文に目を通し、分からない単語を調べておくこと、また記述式の設問に対する回答を準備すること。
 復習：英文の意味が理解できるまで読み直すこと、音読すること、付属の音声ファイルを聞くこと。

[b]Writing[/b]

予習：教科書に目を通し、設問への回答を準備しておくこと。
 復習：返却された作文を見直し、修正箇所を点検すること。

5. 教科書

[b]Reading[/b]: 『Eureka! (世界を飛躍させた偉人たち—英語で学ぶ理工系の常識—)』南雲堂

[b]Writing[/b]: 『Genre Approach to Paragraph Writing (ジャンル別パラグラフ・ライティング)』成美堂

※これらの教科書は春学期「英語Ⅱa農(5)」から継続して使用します。

6. 参考書

未知の英文を読んだり、母語でない言語の文章を書いたりするのに辞書が必要なのは言うまでもありません。しかしながら、どのような辞書を用意すればいいか迷っている人も多いことでしょう。もし手元に英和辞典と和英辞典があるのなら、ひとまずそれらを教室に持ってきてください。学習を続けていくうちに手持ちの辞書では歯が立たないと感じたり、何かしら不便に思ったりすることがあるはずです。その時にこそ、どのような辞書が自分にとって必要なかを考え、新しい辞書の購入を検討しましょう。

また、英文法の解説書も学習には必携です。高等学校で使っていたものが手元があれば、ひとまずそれを活用しましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題(和訳や作文など)とOh-o! Meijiの「小テスト」機能を利用した自習課題(教科書掲載のExercise)があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%
自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱb 政(1)	1 単位	伊達恵理
2017～2021 年度入学者 英語Ⅱb 政(1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

この授業では、英語をリーディングを中心に、併せてパラグラフ・ライティングの基礎固めを行います。多岐にわたる分野の論説を扱った中級-準上級レベルの教科書[i]Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking [/i] second edition 3 を用い、I1b では、教科書後半の情報デザイン、健康医学、言語人類学、心理学に関する 4 Units の中から、視覚デザインによる文化、再生医療とナノテクノロジーによる医学の最前線、消えゆく言語、サバイバルと呼吸をトピックとした4つの Reading を、速読・精読を交えて扱います。各 Reading に即した練習問題によってトピックの内容・語彙理解を深めるとともに、読解技術・ライティング技術の基本を確認します。

[b]《授業の到達目標及びテーマ》[/b]

1 年次までに習得した英語力の上に立って、英語を「読む」力をさらに養い、英語を通じて現代社会や私たちの生活を読み解く情報・知識を身につけることを目指します。大学レベルで必要と考えられる論理的な英文読解の基礎技能、文法力・語彙力を向上させ、長文の英語記事や論説の内容・情報を、パラグラフ構成をしっかりと理解した上での確に読みとるための土台作りを目標とします。また、ライティングについては、説得する、意見を述べる、出来事を叙述するなど種々の目的に応じたエッセイを書くために必要な文法事項・パラグラフ構成の基礎的技術を習得することを目指します。

2. 授業内容

第1回: Introduction

第2回: Visual Culture (1) Unit Introduction/Preparing to Read - Reading 本文読解①

第3回: Visual Culture (2) Reading 本文読解②

第4回: Visual Culture (3) Reading 本文読解③ - テキスト設問

第5回: Medical Frontiers (1) Unit Introduction/Preparing to Read - Reading 本文読解①

第6回: Medical Frontiers (2) Reading 本文読解②

第7回: Medical Frontiers (3) Reading 本文読解③ - テキスト設問

第8回: Vanishing Voices (1) Unit Introduction/Preparing to Read - Reading 本文読解①

第9回: Vanishing Voices (2) Reading 本文読解②

第10回: Vanishing Voices (3) Reading 本文読解③ - テキスト設問

第11回: Breath of Life (1) Unit Introduction/Preparing to Read - Reading 本文読解①

第12回: Breath of Life (2) Reading 本文読解②

第13回: Breath of Life (3) Reading 本文読解③ - テキスト設問

第14回: a. 試験 b. まとめ

* 講義の進度は必要に応じ変更することがあります

3. 履修上の注意

テキストの内容理解および習熟度の確認のため、個々の受講生との質疑応答を重視しますので、積極的な授業参加が求められます。ある程度分量のある長文を読むので、各 Reading の内容把握とともに、リーディング・ライティングの設問に対する解答の準備等、十分に予習をし、疑問点などを前もって明らかにしておくとい良いでしょう。

授業中の私語、特段理由のない中途退席など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

[予習]

授業では、テキストのリーディング・ライティングに関する設問に加えて、各 Reading 本文の内容・構成の整理のためのプリント教材を配布し、教員が文法事項・意味内容などの補足的な質問・解説を行う形で Reading 本文の読解を進めますので、それらの質問にも解答できるよう、単語・成句や構文を含めて Reading 本文を十分に読み込み、パラグラフの論旨を把握して授業に備えて下さい。

[復習]

授業でパラグラフ内の文章構成・内容、論旨の展開を確認した後は、Reading 全体の中で各パラグラフの担う役割・関係性を理解し見通せるよう、復習すること。また、各パラグラフで学んだ語彙・成句について、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。

5. 教科書

[i]Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking [/i] second edition 3, Mari Vargo, Laurie Blass 編 (National Geographic Learning)

6. 参考書

なし

7. 課題に対するフィードバックの方法

各 Unit の予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。Oh-o!Meiji を通じて出された練習問題等については、Oh-o!Meiji 上にて解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、平常点（課題の提出とその内容、出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度、小テストなどの成績）40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。（欠席は3回まで）

9. その他

オフィスアワー：木曜日 12：50～13：20 中央棟 3F 講師控室

質問・連絡は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡については Oh-o!Meiji「アンケート」も窓口として使用します。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb政(2)	1 単位	織田哲司
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb政(2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]-Economist 誌の記事を読む-[/b]

[b]《授業の概要》[/b]

Economist 誌の記事を読む。テキストの内容は科学、文化、政治、経済などできるだけ新しく多岐にわたるトピックを取り上げる。将来的には専門科目における学術論文をも読む準備段階として、[b]英文の構造をしっかりと把握[/b]し、それに忠実な日本語訳を作れるようになるための訓練の場とする。また [b]「批判的読解(critical reading)」[/b]のセンスを身に付けることも目指す。

1つのトピックを約2週間かけて読む。授業の進む速さは受講者からの質問に答えながら進むのでゆっくりである。

[b]《到達目標》[/b]

英語テキストを読むことによって具体的には次の到達目標をバランスよく達成する：

1. 英語で書かれた文章を読んで、主題を把握することができる。
2. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。
3. 言語・歴史・宗教を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。
4. 文化に幅広く興味をもち、その価値について討議する。
5. 日本社会の成り立ちについて歴史などの観点から説明できる。
6. 日本の国際社会における位置づけを歴史などの観点から説明できる。

到達目標達成のための学問領域：英語、歴史、宗教、哲学、政治など。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：パンデミック1-読解のポイント解説

第3回：パンデミック2-テキストの読解

第4回：ソーシャル・メディア1-読解のポイント解説

第5回：ソーシャル・メディア2-テキストの読解

第6回：君主制1-読解のポイント解説

第7回：君主制2-テキストの読解

第8回：都市の問題1-読解のポイント解説

第9回：都市の問題2-テキストの読解

第10回：グローバル化1-読解のポイント解説

第11回：グローバル化2-テキストの読解

第12回：健康1-読解のポイント解説

第13回：健康2-テキストの読解

第14回：a まとめ；b 試験

※各回のテーマは変更される場合がある

3. 履修上の注意

充分な予習、復習と出席はいうまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃から国際ニュースに触れて、いま世界で何が起きているのかについて絶えず関心を持ち続けることが必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。

1. 英和辞典を活用する—単語を調べる

事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書の余白のみならずノートに記入しておくことよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくことよい。

授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。

とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。

自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているため、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。

2. 百科事典を活用する—単語以外のさまざまな事項を調べる

たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、など百科事典を参照して、自分から進んで調べておくことよい。

以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。

さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。

3. 自分の五官を活用する

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオや DVD を活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はあっという間に楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用してプリントを配付する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

初級者向け：『総合英語フォレスト』石黒昭博（監修）（桐原書店）

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。課題小テスト（Oh-o! Meiji System）30%、試験 50%、授業中のパフォーマンス 20%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第IV研究室（3号館3階3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅱb 政(3)

1 単位

中村美帆子

2017~2021 年度入学者
英語Ⅱb 政(3)

1. 授業の概要・到達目標

「英語 4 技能の向上」

《授業の概要》

英語記事を教材として、4 技能 (Reading, Listening, Speaking, Writing) を総合的に高める。記事の内容を把握し、そこから読み取れる諸問題について考え、自分の意見を英語で表現する力を身につける。

《到達目標》

1. 語彙や表現を習得する。
2. 時事問題に関する知識を得て、多方面から検討できるようになる。

2. 授業内容

第 1 回：イントロダクション

第 2 回：Chapter 11 Rice Is Out, Vegetables Are In

第 3 回：Chapter 12 Finding a Home Away from Home

第 4 回：Chapter 13 Learned from a Chatbot

第 5 回：Chapter 14 Food Opens a Gateway to Cultural Diversity

第 6 回：小テスト 1, まとめ

第 7 回：Chapter 15 Competing for Cutting-Edge Robot Technology

第 8 回：Chapter 16 Can You Do Without It?

第 9 回：Chapter 17 An Apocalypse Already in Progress

第 10 回：Chapter 18 Tailoring Tea to Taste

第 11 回：小テスト 2, まとめ

第 12 回：Chapter 19 Art of Noise

第 13 回：Chapter 20 New Leadership at Harvard University

第 14 回：a. 試験, b. まとめ

3. 履修上の注意

1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること (英和、和英)。
2. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。
3. この授業では教科書の後半 (Chapters 11-20) を使用する。教科書の前半 (Chapters 1-10) は、春学期の「英語Ⅱa」で使用される。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く (1 時間)。

復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える (1 時間)。

5. 教科書

『Insights 2024 / 世界を読むメディア英語入門 2024』, 村尾純子 他編著 (金星堂)

※大学の書店で必ず購入すること。

6. 参考書

資料を適宜配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%, 小テスト 30%, 授業への参加度 20%

9. その他

連絡先：最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb政(4)	1 単位	樋渡さゆり
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb政(4)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]「(1) 総合英語」[/b]

[b]《授業の概要》[/b]

総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を養う。後半の Module b では論説文テキストのリーディングを行う。テキストの内容は、西洋文化の歩みを文学・絵画・彫刻・建築・自然科学・音楽の6つのテーマから読み解くことで人類の創造性を見出し、グローバルな視点から現代文化を考えさせるものである。テキスト難易度は、出版社の判断では TOEIC 500-700 点レベル。

[b]《到達目標》[/b]

論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解の定着などを目標とする。研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターン構築を目指す。

2. 授業内容

第1回：bのみ：秋学期イントロダクション／L & V Stage 9

第2回：L & V Stage 10／リーディング

第3回：L & V Stage 11／リーディング

第4回：L & V Stage 12／リーディング

第5回：L & V 復習／L & V Stage 12

第6回：L & V Stage 13／リーディング

第7回：L & V Stage 14／リーディング

第8回：復習と補足

第9回：L & V Stage 15／リーディング

第10回：L & V 復習／リーディング

第11回：a, bとも：リーディング

第12回：a, bとも：リーディング

第13回：a, bとも：リーディング

第14回：a. まとめ／b: 期末定期試験

3. 履修上の注意

春学期 英語Ⅱa (4) から継続履修。再履修の場合は春学期シラバスを参照のこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Module a: 事前に各自でリスニングを行い、授業では答え合わせから始める。復習を行い、ヴォキャブラリーの定着につとめ、英文特有の抑揚や発音を身に着ける

Module b: 指定範囲のテキストを、示されたポイントに注目して読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認・補足して理解を深める。

5. 教科書

Module a: 『TOEIC TEST 必修単熟語チェック 650 点レベル』西谷・吉塚（音羽書房鶴見書店）

Module b: 『Triumph of Western Civilization』John Ricker & John Saywell（金星堂）

6. 参考書

『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出はおもにクラスウェブを利用します。

フィードバックは、クラスウェブのコメント欄をとおして各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業展開に取り入れる、などの方法をとります。

8. 成績評価の方法

期末試験実施日を含めた授業実施回数の2/3以上に出席している履修者を評価対象とします。

期末定期試験 70%、平常点（リスニング、出席状況、小課題など）30%で評価。出席状況を記録・認識しておくこと。

9. その他

1. 連絡方法⇒クラスウェブ上に用途別の連絡欄を設置。質問は随時受け付けます

2. オフィスアワー⇒質問対応は1. のとおり。面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとると確実です

場所：英語第Ⅰ研究室（第一校舎 3号館4階403号室）

時間：在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅱb 政(5)

1 単位

小嶺智枝

2017～2021 年度入学者
英語Ⅱb 政(5)

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

- ・リーディング・リスニング力を付ける。
- ・思考力を養い、自分の意見を述べるスピーキング・ライティング力向上を目指す。
- ・英語で発信できるようになるための語学トレーニングを行う。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

[b]《授業の概要》[/b]

難易度中程度の語彙が含まれる Reading Passage を読み、練習問題にて理解度を確認する。会話例を通してリスニングの練習を行う。Discussion 問題について考え、話し合い、意見を述べる練習を行う。

2. 授業内容

第1回：Unit 7

第2回：同上

第3回：Unit 8

第4回：同上

第5回：Unit 9

第6回：同上

第7回：Unit 10

第8回：同上

第9回：Unit 11

第10回：同上

第11回：Unit 12

第12回：同上

第13回：Unit 13

第14回：a まとめ b. 学期末試験

* 講義内容やUnitの順番は必要に応じて変更になる場合がある。

3. 履修上の注意

ペア・グループワークを多く取り入れます。積極的姿勢で授業に参加すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Reading passage の予習を行うこと。

5. 教科書

Goro Yamamoto, Johathan Brown, [i]SDGs and Global Issues [/i](松柏社)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験 50%, 平常点（出席、課題の提出、小テスト、授業貢献度などを含む）50%の総合評価

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb化(1)	1 単位	平野桃子
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb化(1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の概要》[/b]

[i]Active—Skills for Reading 4[/i> (Third Edition) を教材として利用し、リーディングを主としながら、内容理解と語彙の増強、ライティングにも役立つ英文の構造を学びます。基礎的なアカデミック・ライティングも行います。
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

[b]《授業の到達目標》[/b]

宇宙、史跡、多様な言語など、多岐にわたるトピックに関する英文を読みながら、読解力の向上、基礎的な単語力の増強、文法の確認、さらには英語の文章構成を理解し、自分で書けるようになることを目的とします。

2. 授業内容

この科目はメディア授業（オンデマンド型）を行う回があります。

* 以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。

第1回 Unit6, Reading2, 'Left Brains, Right Brains, and Board Games'

第2回 Unit7, Reading1, 'The Mediterranean Diet'

第3回 Unit7, Reading2, 'Genetically Modified Food' [メディア授業（オンデマンド型）]

第4回 Unit8, Reading1, 'Solar Storms'

第5回 Unit8, Reading2, 'Star Struck' [メディア授業（オンデマンド型）]

第6回 Unit9, Reading1, 'The Search for Cleopatra' /Academic Writing—types of sentences ① (1)

第7回 Unit9, Reading2, 'Where Inca Kings Lie' /Academic Writing—types of sentences ① (2) [メディア授業（オンデマンド型）]

第8回 Unit10, Reading1, 'The Exodus of Languages'

第9回 Unit10, Reading2, 'Life with the Tarahumaras' [メディア授業（オンデマンド型）]

第10回 Unit11, Reading1, 'The Race to Rescue Koaras'

第11回 Academic Writing—types of sentences ② [メディア授業（オンデマンド型）]

第12回 Paragraph Writing

第13回 Unit11, Reading2, 'Rhino Wars' [メディア授業（オンデマンド型）]

第14回 期末試験

3. 履修上の注意

各回の授業で扱う範囲の予習をするようにして下さい。自身の専攻や分野にとらわれず、様々な主題に触れながら英語を使って幅広い知識を吸収したいという学生を歓迎します。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は3回で1回分の欠席とみなします。また授業開始後20分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとなります。

この授業は3、5、7、9、11、13回目がメディア授業になります。課題の提出期限の後、解答・解説動画が配信されます。動画は当該学期中の視聴が可能です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前にテキストを一読し、分からない単語を辞書で調べておいて下さい。単語の意味だけでなく、発音やアクセントも必ず確認するようにして下さい。ライティングにつなげるため、テキストに使われている英文の構造や、使われている文法の種類等もよく見て下さい。

5. 教科書

Neil J. Anderson

[i]Active—Skills for Reading 4[/i> (Third Edition)

(National Graphic Learning)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

対面授業では口頭で行います。オンライン授業のフィードバックはOh-o!Meiji を使って行います。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%、ライティング 20%、授業への参加度 30%で総合的に評価する。

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb化(2)	1 単位	柏原俊樹
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb化(2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

[b]《授業の概要》[/b]

主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、使われている英語を通じた学習のきっかけとして、随時実践的な「やや難しい」リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。

2. 授業内容

- 【第1回】 SCENE 5: THE HALLWAY
- 【第2回】 SCENE 6: BRIAN'S HOUSE
- 【第3回】 SCENE 6: THE DRAWING ROOM
- 【第4回】 SCENE 7: LADY DALROY'S MUSIC ROOM
- 【第5回】 SCENE 7: PAULA'S BEDROOM
- 【第6回】 SCENE 8: THE STREET
- 【第7回】 SCENE 8: BRIAN'S APARTMENT
- 【第8回】 SCENE 9: THE HALLWAY OF NUMBER 9
- 【第9回】 SCENE 9: THE UPPER HALLWAY
- 【第10回】 SCENE 9: GREGORY'S ROOM
- 【第11回】 SCENE 10: PAULA'S BEDROOM
- 【第12回】 SCENE 10: THE ATTIC
- 【第13回】 総復習
- 【第14回】 まとめ及び理解度確認試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。
積極的に発言してください（思い込み歓迎）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の予習は必須。次回の範囲の教科書の文章に目を通しておくこと、各回にメモを取った内容を復習・整理することが望ましい。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

5. 教科書

ガス灯（開文社出版）

6. 参考書

英語辞書は、できる限り語源欄の付いているものを使用してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70%）。英語を使うための知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30%）。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱb化(3)	1 単位	大須賀寿子
2017~2021 年度入学者 英語Ⅱb化(3)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

春学期での学習を発展させて、さらに英語の4技能を伸ばしていくことを目標とします。秋学期では、読解をすることを介して、基本的な文章の作成を進めて、最終的には paragraph 単位のまとまった文章を書くことを目標にします。春学期は英文を丁寧に読み、sentence を正確に丁寧に書くことに注意を払ってきましたが、秋学期はそれを発展させて、複数の paragraph で自分の意見を文章で表現したり Presentation をすることを目標にしていきます。

[b]《授業の概要》[/b]

春学期と同様に、さまざまな話題を扱った英語教材を読むことによって、専門分野以外の内容にも柔軟な思考を持てるような一助にしたいと思います。また、教材を介して語彙や情報を知り、正確な文法事項を理解し、そして情報から得た知識などをライティングやリスニング、スピーキングにも応用していきます。読解教材を利用して、英文を暗記し、重要なフレーズを学習し、時には良い文章のサンプルをまねて学ぶことによって、writing の学習やリスニングの練習を進めていくようにします。春学期で学習した sentence writing の練習及び文法事項、表現の確認に加え、さらにまとまった内容の英語を書くようにすることを目標とします。そして最終的には、自分の意見を英語で論理的に述べられるようにします。

2. 授業内容

テキストの他に以下のテーマに基づいて学習をします。

Output を中心としつつ、総合的に英語の知識の取得をめざします。授業の終盤には、Presentation を入れます。

授業の進行で、小テストの実施日や読む Unit が変更になることもあります。

- 第1回：春学期の復習 TOEIC Practice
- 第2回：Unit 7 Group Behavior Our Online Behavior
- 第3回：Unit 8 Investigations Who Killed Emperor
- 第4回：第1回 小テスト Unit 9 Recovering the Past Virtually Immortal
- 第5回：Unit 10 Healthy Living Living Longer
- 第6回：Unit 10 Healthy Living In Search of Longevity
- 第7回：第2回 小テスト Unit 11 Green Solutions Saving Water
- 第8回 Unit 11 Green Solutions Technology as Trash
- 第9回：Unit 12 Earth and Beyond Planet Hunters
- 第10回：Unit 12 Earth and Beyond The Threat from Space
- 第11回：Presentation
- 第12回：Presentation
- 第13回：Presentation(予備日) Presentation が順調に進んだ場合には読解などを行います
- 第14回：a 秋学期試験
b 秋学期試験解説

* 授業内容は必要に応じて変更する可能性があります。授業内で Presentation の説明、準備などもあります。

3. 履修上の注意

授業には予習をして臨んでください。自分で必ず文章を作成してから授業に参加してください。授業時は辞書、とくに英英辞典を必ず持参してください。授業では、積極的に発言し、課題にとりくんで下さい。授業時には携帯電話やスマートホンを持参して使用しないで下さい。授業以外でも英文を書く機会を作ってください。積極的に発言したり、課題に取り組んでください。なお、授業と関係ないことをする学生には退室を命じます。

授業時には、oh-o meiji を使って課題提出やクイズなどの作業もありますので、ノートパソコン、タブレット、スマートホンを持参してください。

欠席は減点となる。[b]欠席回数が4回に達した場合には単位を認定しません[/b]。

遅刻2回で欠席1回とカウントします。授業開始後20分までの入室を遅刻とみなし、以降は欠席とみなします。

教科書を持参していない場合には欠席とみなします。

途中退室をしたまま、10分以上戻らない場合には欠席とします。

授業中の睡眠時間が多い学生、授業に参加する意思の見られない学生も同じように欠席とみなします

感染症罹患による出席停止、長期入院などやむをえない事情で欠席した場合には、必ず申し出ること。

交通機関の遅延などで、遅刻をした場合には必ず申し出ること

正当な理由と判断できない自己都合による小テストの再受験は一切許可しません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む際には、予習を行い教科書および配布された教材を読み、内容を把握しておく。わからない単語などは辞典で調べること。パラグラフごとに、内容をどのようにパラフレーズできるのか考えておきましょう。復習として、授業時に判明したことを見直しましょう。

授業で学習する予定の教材を翻訳ソフトにかけた日本語を読むことは予習ではありません。必ず自分で英語を読み、文章を作成すること。

5. 教科書

Reading Explorer 4 Third Edition (センゲージラーニング)

6. 参考書

必要に応じて、授業時に指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は返却時に個別にコメントをして返却します。全体的に間違いが多かった箇所など全員で共有するべき内容は全体に行います。小テストは返却し、全体に向けて答えあわせをしてコメントをします

8. 成績評価の方法

学期末試験 (50%) と平常点 (50% : 小テスト 20, 課題 20, 授業時の演習, 授業における積極的な発言 10 など) を合わせて総合的に評価します。授業回数の 1/3 にあたる欠席回数に達した場合には単位を認定できません。欠席、遅刻に関する説明を開講時にします
この授業では学習を習慣づけるようにするために、課題が多くなってしまいかもしれません。その分日々の努力を評価します。

欠席、遅刻、未提出 (および期限を守っていない提出物) は評価が不利になりますので、気をつけること

9. その他

教員への連絡手段は春学期と同様です。

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb化(4)	1単位	織田哲司
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb化(4)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]-Economist 誌の記事を読む-[/b]

[b]《授業の概要》[/b]

Economist 誌の記事を読む。テキストの内容は科学、文化、政治、経済などできるだけ新しく多岐にわたるトピックを取り上げる。将来的には専門科目における学術論文をも読む準備段階として、[b]英文の構造をしっかりと把握[/b]し、それに忠実な日本語訳を作れるようになるための訓練の場とする。また [b]「批判的読解(critical reading)」[/b]のセンスを身に付けることも目指す。

1つのトピックを約2週間かけて読む。授業の進む速さは受講者からの質問に答えながら進むのでゆっくりである。

[b]《到達目標》[/b]

英語テキストを読むことによって具体的には次の到達目標をバランスよく達成する：

1. 英語で書かれた文章を読んで、主題を把握することができる。
2. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。
3. 言語・歴史・宗教を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。
4. 文化に幅広く興味をもち、その価値について討議する。
5. 日本社会の成り立ちについて歴史などの観点から説明できる。
6. 日本の国際社会における位置づけを歴史などの観点から説明できる。

到達目標達成のための学問領域：英語、歴史、宗教、哲学、政治など。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：パンデミック1ー読解のポイント解説

第3回：パンデミック2ーテキストの読解

第4回：ソーシャル・メディア1ー読解のポイント解説

第5回：ソーシャル・メディア2ーテキストの読解

第6回：君主制1ー読解のポイント解説

第7回：君主制2ーテキストの読解

第8回：都市の問題1ー読解のポイント解説

第9回：都市の問題2ーテキストの読解

第10回：グローバル化1ー読解のポイント解説

第11回：グローバル化2ーテキストの読解

第12回：健康1ー読解のポイント解説

第13回：健康2ーテキストの読解

第14回：a まとめ；b 試験

※各回のテーマは変更される場合がある

3. 履修上の注意

充分な予習、復習と出席はいうまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃から国際ニュースに触れて、いま世界で何が起きているのかについて絶えず関心を持ち続けることが必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。

1. 英和辞典を活用する—単語を調べる

事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書の余白のみならずノートに記入しておくことよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくことよい。

授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。

とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。

自宅等における予習には冊子体の中辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているため、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。

2. 百科事典を活用する—単語以外のさまざまな事項を調べる

たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、など百科事典を参照して、自分から進んで調べておくことよい。

以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。

さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。

3. 自分の五官を活用する

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオや DVD を活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はあっという間に楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用してプリントを配付する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

初級者向け：『総合英語フォレスト』石黒昭博（監修）（桐原書店）

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期中の授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。課題小テスト（Oh-o! Meiji System）30%、試験 50%、授業中のパフォーマンス 20%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第IV研究室（3号館3階3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb化(5)	1 単位	宮川敬子
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb化(5)		

1. 授業の概要・到達目標

このクラスでは英語の実践的な力を効率よく向上させることを目標とします。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能全てを練習しますが、主にリーディングに焦点を当てて練習します。英語を読んで理解するということは一文一文英語を日本語に置き換えることではなく、読みながら同時に理解し、理解した意味を積み重ねながら文章全体の趣旨を把握することです。ただ訳すのではなく、理解したことを自分の言葉で伝えるという練習を積み重ねていくことによって、より実践的なリーディングスキルを身につけていきます。

授業ではテキストの各章を読み、自分の言葉（日本語・英語共に）で説明してもらいます。さらに練習問題をこなしながら、自分の意見を発表することも練習の一部となります。

2. 授業内容

第1回：a. シラバスと評価方法の説明

b. ウォームアップアクティビティ

第2回：Unit 7A: Energy Solutions; Reading A, Exercise Questions

第3回：Unit 7A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第4回：Unit 8A: Epic Engineering; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第5回：Unit 8A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第6回：Unit 9A: High-Tech Solutions; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第7回：Unit 9A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz

第8回：Unit 10A: All in the Mind; Reading A, Exercise Questions

第9回：Unit 10A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第10回：Unit 11A: Visual Pioneers; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第11回：Unit 11A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第12回：Unit 12A: Far Out; Reading B, Exercise Questions, Quiz

第13回：Unit 12A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第14回：a. 期末テスト

b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

テキストと辞書は毎回必ず授業に持参すること。持参しない学生には平常点は加点されません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎週予習を欠かさず行うことによって、学生が授業中に積極的に参加することが重要です。英語を日本語に訳してくるだけでは予習として不十分です。各パラグラフにどのような内容が書かれているのか、文章全体で何を言いたいのかを「自分の言葉（英語/日本語）」で言える様に準備してやる必要があります。読みながら同時に理解していく実践的な練習を予習の段階でも行いましょう。また各トピックについて自分の意見を持ち、それを表現出来る様にしましょう。

5. 教科書

Reading Explorer 3, 3rd ed. (2020, Cengage Learning Inc.)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットでの語彙の検索は認めません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。

また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。

8. 成績評価の方法

授業中の参加&平常点（読解練習と設問などの解答） 30%、小テスト（テキスト問題とクイズ）と期末テスト70%をもとに総合的に評価し、総合点60点以上を合格とします。詳しくは第一回目の授業で説明します。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィスパワー：火曜 12:30-13:20（中央棟3F 講師控室）

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱb 生(1)	1 単位	樋渡さゆり
2017~2021 年度入学者 英語Ⅱb 生(1)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]「(1) 総合英語」[/b]

[b]《授業の概要》[/b]

総合的な語学力を養い、応用として論説文を読む。授業前半の Module a ではリスニング&ヴォキャブラリーのテキストを用いて英語コミュニケーション能力を養う。後半の Module b では論説文テキストのリーディングを行う。テキストの内容は、西洋文化の歩みを文学・絵画・彫刻・建築・自然科学・音楽の6つのテーマから読み解くことで人類の創造性を見出し、グローバルな視点から現代文化を考えさせるものである。テキスト難易度は、出版社の判断では TOEIC 500-700 点レベル。

[b]《到達目標》[/b]

論説文の正確な読解、基本的なヴォキャブラリーの涵養、リスニング力の向上、文法事項の理解の定着などを目標とする。研究活動や英語四技能試験に対応できるように、大学生にふさわしい英語学習の基本的なパターン構築を目指す。

2. 授業内容

第1回：bのみ：秋学期イントロダクション/L & V Stage 9

第2回：L & V Stage 10/リーディング

第3回：L & V Stage 11/リーディング

第4回：L & V Stage 12/リーディング

第5回：L & V 復習/L & V Stage 12

第6回：L & V Stage 13/リーディング

第7回：L & V Stage 14/リーディング

第8回：復習と補足

第9回：L & V Stage 15/リーディング

第10回：L & V 復習/リーディング

第11回：a, b とも：リーディング

第12回：a, b とも：リーディング

第13回：a, b とも：リーディング

第14回：a. まとめ/b: 期末定期試験

3. 履修上の注意

春学期 英語Ⅱa (1) から継続履修。再履修の場合は春学期シラバスを参照のこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

リスニング&ヴォキャブラリーは事前に各自でリスニングを行い、授業では答え合わせから始める。リーディングは、指定範囲のテキストを、示されたポイントに注目して読んでくる。各回受講後は、内容や文法事項を確認・補足して理解を深める。

5. 教科書

Module a: 『TOEIC TEST 必修単熟語チェック 650 点レベル』西谷・吉塚（音羽書房鶴見書店）

Module b: 『Triumph of Western Civilization: The Creativity of Man』 John Ricker & John Saywell（金星堂）

6. 参考書

『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出はおもにクラスウェブを利用します。

フィードバックは、クラスウェブのコメント欄をおして各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業展開に取り入れる、などの方法をとります。

8. 成績評価の方法

期末試験実施日を含めた授業実施回数の2/3以上に出席している履修者を評価対象とします。

期末定期試験 70%、平常点（リスニング、出席状況、小課題など）30%で評価。出席状況を記録・認識しておくこと。

9. その他

1. 連絡方法⇒クラスウェブ上に用途別の連絡欄を設置。質問は随時受け付けます

2. オフィスアワー⇒質問対応は1. のとおり。面談を希望する場合は授業後または事前連絡でアポイントメントをとると確実です

場所：英語第Ⅰ研究室（第一校舎 3号館4階403号室）

時間：在室中は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb生(2)	1 単位	柏原俊樹
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb生(2)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

[b]《授業の概要》[/b]

主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、使われている英語を通じた学習のきっかけとして、随時実践的な[やや難しい]リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。

2. 授業内容

- 第1回：Unit 7: GEORGE' S GARAGE
- 第2回：Unit 8: GEORGE' S SHACK
- 第3回：Unit 8: ALYSSA' S HOUSE
- 第4回：Unit 9: GEORGE' S GARAGE
- 第5回：Unit 9: DAVID DOKOS' HOUSE
- 第6回：Unit 10: GEORGE' S SHACK
- 第7回：Unit 10: GEORGE' S HOUSE
- 第8回：Unit 11: ROBIN' S KITCHEN
- 第9回：Unit 11: GEORGE' S HOUSE
- 第10回：Unit 12: GEORGE' S GARAGE
- 第11回：Unit 12: GEORGE' S HOUSE
- 第12回：Unit 13: COLLEEN' S FAMILY ROOM
- 第13回：総復習
- 第14回：まとめと理解度確認試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。
積極的に発言してください(思い込み歓迎)。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の予習は必須。次回の範囲の教科書の文章に目を通しておくこと、各回にメモを取った内容を復習・整理することが望ましい。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

5. 教科書

映画シナリオ『海辺の家』(英宝社)

6. 参考書

英語辞書は、できる限り語源欄の付いているものを使用してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学習したことを身につけているかを試験(学期末試験その他の試験)によって確認する(70%)。英語を使うための知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度(積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど)で示すことを評価する(30%)。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱb 生 (3)	1 単位	大須賀寿子
2017~2021 年度入学者 英語Ⅱb 生 (3)		

1. 授業の概要・到達目標

[b]《授業の達成目標及びテーマ》[/b]

春学期での学習を進展させて、さらに英語の4技能を伸ばしていくことを目標とします。秋学期では、読解をすることを介して、基本的な文章の作成を進めて、最終的には paragraph 単位のまとまった文章を書くことを目標にします。春学期は英文を丁寧に読み、sentence を正確に丁寧に書くことに注意を払ってきましたが、秋学期は春学期で学習した内容をさらに発展させて、自分の意見を複数の paragraph で文章とそて、Presentation をすることを目標にしていきます。

[b]《授業の概要》[/b]

春学期と同様に、さまざまな話題を扱った英語教材を読むことによって、専門分野以外の内容にも柔軟な思考を持てるような一助にしたいと思います。また、教材を介して語彙や情報を知り、正確な文法事項を理解し、そして情報から得た知識などをライティングやリスニング、スピーキングにも応用していきます。読解教材を利用して、英文を暗記し、重要なフレーズを学習し、時には良い文章のサンプルをまねて学ぶことによって、writing の学習やリスニングの練習を進めていくようにします。春学期で学習した sentence writing の練習及び文法事項、表現の確認に加え、さらにまとまった内容の英語を書くようにすることを目標とします。そして最終的には、自分の意見を英語で論理的に述べられるようにします。

2. 授業内容

テキストの他に以下のテーマに基づいて学習をします。

Output を中心としつつ、総合的に英語の知識の取得をめざします。授業の終盤には、Presentation を入れます。

読む Unit や小テストの実施日が変更になる可能性があります。

- 第1回：春学期の復習 TOEIC Practice
- 第2回：Unit 7 Group Behavior Our Online Behavior
- 第3回：Unit 8 Investigations Who Killed Emperor
- 第4回：第1回 小テスト Unit 9 Recovering the Past Virtually Immortal
- 第5回：Unit 10 Healthy Living Living Longer
- 第6回：Unit 10 Healthy Living In Search of Longevity
- 第7回：第2回 小テスト Unit 11 Green Solutions Saving Water
- 第8回 Unit 11 Green Solutions Technology as Trash
- 第9回：Unit 12 Earth and Beyond Planet Hunters
- 第10回：Unit 12 Earth and Beyond The Threat from Space
- 第11回：Presentation
- 第12回：Presentation
- 第13回：Presentation 予備日 presentation が終了した場合には読解
- 第14回：a 秋学期試験
b 秋学期試験解説

* 授業内容は必要に応じて変更する可能性があります。授業内で Presentation の説明、準備などもあります。

3. 履修上の注意

授業には予習をして臨んでください。自分で必ず文章を作成してから授業に参加してください。授業時は英英辞典も入っている電子辞書などが使用することもあります。ゆえに辞書類は必ず持参してください。

授業では、積極的に発言し、課題にとりくんで下さい

授業以外でも英文を書く機会を作ってください。私語以外は積極的に発言したり、課題に取り組んでください。

授業では oh-o meiji を使って、資料を配ることもあるので、ノートパソコン、タブレット端末、およびスマートフォンのどれかを持参してあることが望ましい。

欠席や遅刻は減点となる。[b]欠席回数が4回に達した場合には単位を認定しません[/b]。

遅刻2回で欠席1回とカウントします。授業開始後20分までの入室を遅刻とみなし、以降は欠席とみなします。

教科書を持参していない場合には欠席とみなします。これあ

途中退室をしたまま、10分以上戻らない場合には欠席とします。

授業中の睡眠時間が多い学生、授業に参加する意思の見られない学生も同じように欠席とみなします

感染症の罹患による登校停止、長期入院などやむをえない事情で欠席した場合には、必ず申し出ること。

また交通事情などが原因で遅刻した場合には必ず申し出ること。

正当な理由と判断できない自己都合による小テストの再受験は一切許可しません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む際には、予習を行い教科書および配布された教材を読み、内容を把握しておく。わからない単語などは辞典で調べること。パラグラフごとに、内容をどのようにパラフレーズできるのか考えておきましょう。復習として、授業時に判明したことを見直しましょう。

授業で学習する予定の教材を翻訳ソフトにかけた日本語を読むことは予習ではありません。必ず自分で英語を読み、文章を作成すること。秋学期は英作文の作業も多くなっていくので、授業時に学んだ英語表現も復習しましょう。本文の音読は必ずしてください。

5. 教科書

[i]Reading Explorer 4[/i] Third Edition (センゲージラーニング)

6. 参考書

辞書は自分の使いやすい、なるべく用例の多いものを使ってください。
授業内容に関係のある資料も併せて提示します

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は返却時に個別にコメントをして返却します。全体的に間違いが多かった箇所など全員で共有すべき内容は全体に行います。小テストは返却し、全体に向けて答えあわせをしてコメントをします

8. 成績評価の方法

学期末試験 (50%) と平常点 (50% : 小テスト 20, 課題 20, 授業時の演習, 授業における積極的な発言 10 など) を合わせて総合的に評価します。授業回数 1/3 にあたる欠席回数に達した場合には単位を認定できません。欠席、遅刻に関する説明を開講時にします

この授業では学習を習慣づけるようにするために、課題が多くなってしまいかもしれません。その分日々の努力を評価します。

欠席、遅刻、課題の未提出 (あるいは期限を遅れての提出) は評価が不利になるので、気をつけること

出欠に関しては「履修上の注意」を読んでください。

9. その他

教員への連絡方法は春学期と同じです

科目ナンバー (AG) LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅱb生(4)	1単位	行田勇
2017～2021年度入学者 英語Ⅱb生(4)		

1. 授業の概要・到達目標

[b] <授業の概要> [/b]

- ・テレビニュース（BBCワールド）を素材に、メディアの英語を学びます。
- ・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とします。
効果的なコミュニケーションとは、自分の言いたいことを一方的に相手に伝えるだけではありません。相手の言うことを正しく理解した上で、それに適切に対応することが重要です。ただ一方的にしゃべりまくるだけでは「コミュニケーション」とはいえません。本当に「発信」する力をつけるには、まずは「聴く力」を養成することが何よりも大切なのです。

<到達目標>

- ・最新のニュースプログラムを編集した音声教材を用いて、生のメディア英語を耳から学ぶことができるとともに、英国社会の話題や国際情勢について学ぶことができる。
- ・単なる「音」の認識ではなく、「内容の理解」に目的を絞ることによって、自然な速度で話される英語を聞き取るコツを身につけることができる。
- ・速くて難しい教材でも、やさしい学習作業（タスク）を組み合わせ、無理なく確実に理解してゆくことができる。
- ・自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化する。
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回・第2回 Unit7
- 第3回・第4回 Unit8
- 第5回・第6回 Unit9
- 第7回・第8回 Unit10
- 第9回・第10回 Unit11
- 第11回・第12回 Unit12
- 第13回 Unit13
- 第14回 a:まとめ b:試験

内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

- 皆勤とは無縁の学生には、相当な覚悟が無い限り受講をお勧めしません。
- 講義形式ではなく、緊張感のある演習形式の油断できない授業です。
- 多大なる集中力・労力・勤勉さが要求される授業です。
- 色々な意味で忍耐力が要求される授業です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- 隔週で在宅学習による課題の提出が義務付けられます。
- 提出期限に遅れた課題は、理由のいかんを問わず、一切受け取りません。
- 課題以外にも、かなりの時間をかけて自宅で学習をすることが要求されます。

5. 教科書

- 『British News Update6 映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース6』
- Timothy Knowles 他 編著
- 出版社 金星堂
- テキストは各自購入のうえ、毎回必ず持参して下さい。
- テキストがないと授業に参加できず、欠席扱いとなります。

6. 参考書

- CALL 教材『Listen to Me!』
- この教材は大学のパソコンにインストール済みなので購入する必要はありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

- 課題の解答・解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信します。
- 各自で添削したノート原本は、学期末に提出する必要があります（評価対象）。

8. 成績評価の方法

- 成績評価方法の詳細については第1回授業で説明しますが、以下は基本方針です。
- 定期試験 50%、平常点（授業中の発表・課題の提出等） 50%。
- 毎回欠かさずきちんと授業に参加していない場合、定期試験での一発逆転はありません。
- 皆勤は当然の義務なので、欠席・遅刻・早退および課題未提出に対してはそれぞれ大幅な減点をします。

9. その他

- オフィスパワーと連絡方法は授業中に指示します。

科目ナンバー (AG)LAN111M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅱb 生 (5)	1 単位	宮川敬子
2017~2021 年度入学者 英語Ⅱb 生 (5)		

1. 授業の概要・到達目標

このクラスでは英語の実践的な力を効率よく向上させることを目標とします。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能全てを練習しますが、主にリーディングに焦点を当てて練習します。英語を読んで理解するということは一文一文英語を日本語に置き換えることではなく、読みながら同時に理解し、理解した意味を積み重ねながら文章全体の趣旨を把握することです。ただ訳すのではなく、理解したことを自分の言葉で伝えるという練習を積み重ねていくことによって、より実践的なリーディングスキルを身につけていきます。

授業ではテキストの各章を読み、自分の言葉（日本語・英語共に）で説明してもらいます。さらに練習問題をこなしながら、自分の意見を発表することも練習の一部となります。

2. 授業内容

第1回：a. シラバスと評価方法の説明

b. ウォームアップアクティビティ

第2回：Unit 7A: Energy Solutions; Reading A, Exercise Questions

第3回：Unit 7A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第4回：Unit 8A: Epic Engineering; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第5回：Unit 8A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第6回：Unit 9A: High-Tech Solutions; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第7回：Unit 9A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz

第8回：Unit 10A: All in the Mind; Reading A, Exercise Questions

第9回：Unit 10A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第10回：Unit 11A: Visual Pioneers; Reading A, Exercise Questions, Quiz

第11回：Unit 11A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第12回：Unit 12A: Far Out; Reading B, Exercise Questions, Quiz

第13回：Unit 12A: Paraphrasing/Summarizing Exercise, Quiz, Video

第14回：a. 期末テスト

b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

テキストと辞書は毎回必ず授業に持参すること。持参しない学生には平常点は加点されません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎週予習を欠かさず行うことによって、学生が授業中に積極的に参加することが重要です。英語を日本語に訳してくるだけでは予習として不十分です。各パラグラフにどのような内容が書かれているのか、文章全体で何を言いたいのかを「自分の言葉（英語/日本語）」で言える様に準備してやる必要があります。読みながら同時に理解していく実践的な練習を予習の段階でも行いましょう。また各トピックについて自分の意見を持ち、それを表現出来る様にしましょう。

5. 教科書

Reading Explorer 3, 3rd ed. (2020, Cengage Learning Inc.)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットでの語彙の検索は認めません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。

また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。

8. 成績評価の方法

授業中の参加&平常点（読解練習と設問などの解答） 30%、小テスト（テキスト問題とクイズ）と期末テスト 70%をもとに総合的に評価し、総合点 60 点以上を合格とします。詳しくは第一回目の授業で説明します。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィスパワー：火曜 12:30-13:20（中央棟 3F 講師控室）

科目名	単位数	担当者
英語Ⅲ・科学英語・英語コミュニケーションについて	各1単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>言語はコミュニケーションの手段であると同時に、その言語を育んできた文化の一つの姿でもある。国際化・情報化が進んでいる今、コミュニケーションの能力を高めるためにも、また、外国の文化を理解するためにも、外国語を学ぶことはますます重要になってきている。</p> <p>そのような認識のもと、農学部では必修科目とならんで選択必修科目である「英語III」・「科学英語」・「英語コミュニケーション」を開講している。これらの授業はいずれもテーマやトピック、鍛錬する技能が特化されており、各自の関心に応じて英語力を伸ばし、教養を深めていくことができる。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>「英語III」・「科学英語」・「英語コミュニケーション」の中から、次の条件を満たすかたちで選択し、履修しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2017年度以降入学者は、1年次から4年次までの間に最低4単位を履修する。4単位を越えて履修した場合、超過分の修得単位は卒業要件単位として認められる。 ・ 2016年度以前の入学者は、1年次から4年次までの間に最低2単位を履修する。2単位を越えて履修した場合、超過分の修得単位は卒業要件単位として認められる。 ・ 授業によっては、「基礎・初級レベル」対象のものがあり、年度の初めに基礎・初級レベルの認定を受けた学生しか受講を許可されないクラスがあるので、個別の授業のシラバスをよく読んで選択すること。 ・ 「科学英語」はすべて中・上級者用クラスで、基礎・初級レベルのクラスは設置されていない。 ・ 英語力の確実なものとするために、内容面でバランスのとれた授業選択をすることが望ましいが、選択必修の単位数を満たす上では、「英語III」・「科学英語」・「英語コミュニケーション」の組み合わせに制限はなく、いっさい自由である。 		
<p>3. 履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部間共通外国語の「英会話科目」は、2単位までに限り「英語II（I 英会話）」として「英語 III」の修得単位に振り替えることができる。 ・ 履修者が適正規模を越えた場合、抽籤による人数制限を行うことがある。 ・ 「英語 III」・「科学英語」・「英語コミュニケーション」を受講してその単位を修得できなかった場合、翌年度以降、改めてこれら選択必修科目を履修すること。 		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p>		
<p>5. 教科書</p>		
<p>6. 参考書</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p>		
<p>8. その他</p>		

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(1)	1 単位	原功
2017～2021年度入学者 英語Ⅲ(1)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

この授業は「音声面からの英語力向上」をテーマとし、英語の音声の仕組みを学んだ上でその知識を発音とリスニングに生かす実践的な演習を行います。この授業で想定されている英語力は中級程度です。

毎週いくつかの発音記号を提示し、標準的な発音の仕方を解説した上で単語や文を各自発音し、英語らしい発音ができるようになることを目指します。単音の発音を定着させた上で、似た音との区別練習、文章や会話での発音練習を経て、早口言葉や歌、文章の朗読などの実践的な演習につなげます。また、発音の知識を生かしたリスニングのトレーニングも行います。

《授業の達成目標及びテーマ》

- 1) 発音記号を読めるようになること
- 2) 単語の標準的な発音を把握できること
- 3) 英文を分かりやすく読み上げられること
- 4) 文字を介さずに英語の音声を聞き取れるようになること

※農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回： a. 授業概要、履修上の注意、評価方法などの説明 b. 発音学習の基本トレーニング

第2回： Unit 1 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第3回： Unit 2 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第4回： Unit 3 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第5回： Unit 4 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第6回： Unit 5 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第7回： Unit 6 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第8回： Unit 7 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第9回： Unit 8 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第10回： Unit 9 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第11回： Unit 10 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第12回： Unit 11 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第13回： Unit 12 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第14回： a. 期末試験 b. 今後の学習指針

3. 履修上の注意

1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。

2) 授業時数の3分の1を超える欠席（5回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。

3) 発音は実技です。したがって授業では音を聞いたり発音したりと、能動的な学習姿勢が求められます。得手不得手はともかく声に出して発音する意思のない人、居眠りをしている人、別の作業をしている人などは、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習は特に必要ありませんが、復習を重視してください。

その週に学習したことをまとめておくだけでなく、音声ファイルを何度も聞くこと、それに合わせて発音することは最低限行ってください。

それ以外にも、各自の興味関心に応じて各種ニュース動画や映画、音楽など様々な音声を聞くことを勧めます。また、今年度受講している他の英語科目の付属CDや音声ファイルを聞いたり、それに合わせて発音したりすることは、それらの科目の学習としても役立つことでしょう。

5. 教科書

『Exploring Speech Sounds(リスニングから学ぶ大学英語演習)』 南雲堂

6. 参考書

岩村圭南 (2019) . 『【改訂版】英語の正しい発音の仕方（基礎編）』 研究社

岩村圭南 (2019) . 『CD 【改訂版】英語の正しい発音の仕方（基礎編）』 研究社

岩村圭南 (2019) . 『【改訂版】英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編）』 研究社

岩村圭南 (2019) . 『CD 【改訂版】英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編）』 研究社

こちらのウェブサイトでの学習は特に有効であると思われる。

[url]<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/features/pronunciation/>[url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出するべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（ディクテーションなど）と0h-o! Meijiの「レポート」に提出する発音実技課題、0h-o! Meijiへの出席登録の際に記入する授業へのコメントがあります。紙媒体の課題については提出後コメントをつけて返却し、発音実技課題はレポート提出画面の「教員からのコメント」でフィードバックを行います。授業へのコメントについては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題 20%

発音実技課題 20%

授業へのコメント . . . 10%

期末試験 50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語Ⅲ(2)

1 単位

中村啓子

2017~2021年度入学者
英語Ⅲ(2)

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

このコースでは、身近なトピック、例えば、「Wellbeing」、「What are you into?」、「Society」を通して日常生活や業務で使用される英語を学びます。テキストの音声、ビデオも活用し、会話の練習や、リスニング練習、必要な文法を復習し、語彙力を強化します。また、スピーキング・ストラテジーを学び、ロールプレイやディスカッション、プレゼンテーションなどの活動を通じて実践的な英語を身につけます。

〈授業の達成目標及びテーマ〉

特に日常生活で頻繁に使用される単語力の強化、リスニング力の向上、英会話を中心としたコミュニケーションのスキルアップを目標としています。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- (1) イントロダクション (シラバス、テキスト、クラス・ルールの説明など)
- (2) Unit 7 (Lesson A): How do you feel? (Warm-up video & Vocabulary) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (3) Unit 7 (Lesson A): How do you feel? (Listening & Speaking)
- (4) Unit 7 (Lesson A): How do you feel? (Grammar) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (5) Unit 7 (Lesson A): Review Test, Active English, Global Voices
- (6) Unit 8 (Lesson A): Leisure time (Warm-up video & Vocabulary) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (7) Unit 8 (Lesson A): Leisure time (Listening & Speaking)
- (8) Unit 8 (Lesson A): Leisure time (Grammar) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (9) Unit 8 (Lesson A): Review Test, Active English, Global Voices
- (10) Unit 9 (Lesson A): Urban issues (Warm-up video & Vocabulary) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (11) Unit 9 (Lesson A): Urban issues (Listening & Speaking)
- (12) Unit 9 (Lesson A): Urban issues (Grammar) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (13) Unit 9 (Lesson A): Review Test, Active English, Global Voices
- (14) a: まとめ b: 試験

尚、授業内容や進度は、受講者のニーズや受講生の人数など、必要に応じて変更する可能性があります。

3. 履修上の注意

- ・このコースの一部の授業はメディア授業科目として開講されます。メディア授業はすべて、講義動画を 0h-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行われます。
- ・講義動画は原則月曜日の午前9時に 0h-o! Meiji システム上の「授業内容・資料」機能を通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。
- ・講義動画に対して、課題を同システム上の「レポート」機能へ、同じ週の水曜日午後5時までに提出することで、出席確認及び理解度確認を行います。
- ・対面授業では、ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

- ・予習: テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認、テキストの音声やビデオを視聴、テキストの読解問題に挑戦しましょう。
- ・復習: 授業で取り扱った表現の口頭練習を繰り返し行い、さらに定着させましょう。また、オンライン上の教材を活用し、音声や映像を視聴して復習しましょう。

5. 教科書

- ・『World Link, Combo Split 3B』、(第四版) James R. Morgan and Nancy Douglas 著、(出版社: センテージ・ラーニング)、2021年、ISBN: 978-0-357-50394-2 (『World Link 3 (全12課)』の後半のUnit 7からUnit 12が集約されている分冊版です)。
- ・春学期と秋学期で同一の教科書を使用します。
- ・教科書の音声、ビデオは、オンラインでアクセスできます。

6. 参考書

BBC Learning English: <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>

7. 課題に対するフィードバックの方法

口頭で行います。

8. 成績評価の方法

試験（レビュー・テスト、期末試験）70%、平常点（課題、貢献度）30%。遅刻は（授業開始後30分までに入室）3回で欠席1回とみなします。授業回数の2/3以上の出席者が評価対象となります。

9. その他

教員への質問・相談窓口は、Oh-o! Meijiの「ディスカッション」機能で、または、そこに記載されている教員のメールアドレスで受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (3)

1 単位

宮川敬子

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (3)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の到達目標》

米英の質の高い新聞 (The New York Times, The Washington Post, The Guardian など) からコミュニケーション、労働、多様性、持続可能性などの様々な分野の記事を取り上げたリーディングテキストを読み、英語の4技能を向上させることを目標とします。

《授業の概要》

授業ではテキストを読み、練習問題や関連したトピックについてのディスカッションなどを行います。テキストは全15課で構成されており、春学期は奇数章、秋学期は偶数章を扱います。

2. 授業内容

第1回 : a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります)

b. Warm-up Exercise など

第2回 : Unit 1 No Phones, No Apps, No Likes (スマホを捨てた若者たち)

第3回 : Unit 1 Exercise, Discussion & Speaking

第4回 : Unit 3 Can We Communicate with Animals? (AIで動物と会話できる日がやってくる?)

第5回 : Unit 3 Exercise, Discussion & Speaking

第6回 : Unit 7 Reshaping the Values of Beauty (コスメ広告から「美の概念」の変貌を考える)

第7回 : Unit 7 Exercise, Discussion & Speaking

第8回 : Unit 11 Global Warming Solutions from the Past (砂漠で育てる一温暖化で注目される先住民の伝統農法)

第9回 : Unit 11 Exercise, Discussion & Speaking

第10回 : Unit 13 The True Cost of Fast Fashion (サステナブルファッションを拒むのは産業構造と私たちの意識)

第11回 : Unit 13 Exercise, Discussion & Speaking

第12回 : Unit 15 Challenges to “Forever Chemicals” (もう「永遠」じゃない!?-PFASの除去に成功)

第13回 : Unit 15 Exercise, Discussion & Speaking

第14回 : a. 期末テスト

b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

春学期は主に奇数の章を秋学期は主に偶数の章を扱います。1年を通して受講することによってテキストを1冊読み終えることになります。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習は必ず行ってください。[u]全文の日本語訳を書いてくるのではなく[/u]、語彙の意味と各パラグラフの要点などを簡単に余白にメモしておくだけにとどめることが大切です。日本語は自ずと出てきますから。また予習の段階でよくわからなかった部分には印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speakingに関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います。

5. 教科書

[u]Stories of the World We Live In [/u]「クオリティペーパーで読む私たちが生きる世界」(2024, 金星堂)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書を持参すること。授業中スマホやタブレットなどでの語句の検索は認めません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。

また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。

8. 成績評価の方法

授業中の参加と課題30%、各種テスト (予習テスト、小テスト、期末テスト等) 70%をもとに総合的に評価します。また欠席が1/3 (5回以上) を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィス・アワー : 火曜 12:30-13 :20 (中央棟 3F 講師控室)

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ(4)

1 単位

宮川敬子

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ(4)

1. 授業の概要・到達目標

《到達目標》

実践的な英語力を効率よく向上させることを目標とするクラスです。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能を練習します。リーディングは1文ずつ訳を付けるという段階からステップアップし、パラグラフ単位、文章全体の流れと要点を理解できるよう練習します。リスニングは、音を拾う段階からフレーズを聞くという段階へ、さらには文、パラグラフの理解へとステップアップしましょう。自分の意見を端的にまとめて表現する練習も行います。

《授業の概要》

海外メディア動画を使って近年の社会問題を取り上げたテキストを使用し、動画に出てくる語句や口語表現、文化背景知識なども学びながら、4技能を伸ばす練習をします。テキストはテーマの14章で構成されていますが、春学期は奇数章、秋学期は偶数章を扱います。

2. 授業内容

第1回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります)

b. テキストの構成と授業の進め方などの説明

第2回：Unit 1: Nicknames: Is It Hazing? 「ニックネームの是非」 Phase 1-2

第3回：Unit 1: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第4回：Unit 3: It's (Not) an Equal World After All 「不平等は解消されるのか？」 Phase 1-2

第5回：Unit 3: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第6回：Unit 5: Bike Helmets: Are They Safe? 「ヘルメットは安全のため？」 Phase 1-2

第7回：Unit 5: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第8回：Unit 7: How Does Water Taste? 「水のソムリエ」 Phase 1-2

第9回：Unit 7: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第10回：Unit 9: The Dark Side of Robots with Common sense 「ロボットと倫理」 Phase 1-2

第11回：Unit 9: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第12回：Unit 11: I@NY: An Enduring Legacy of Design 「不滅のデザイン」 Phase 1-2

第13回：Unit 11: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第14回：a. 期末テスト

b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

春学期は奇数章、秋学期は偶数章を読みます。春秋両方受講すると1冊読み終えます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

扱う章に注意して予習をしてください。設問に答えるだけでは不十分です。リーディングの内容はパラグラフ毎に要点を余白にメモするなどの準備が必要です。また、全文日本語訳を書いてくることは許可しません。単語の意味やパラグラフの要点のメモなどに留めるべきで、文章全体の意味は日本語で自然に説明できるはずで

英語は触れている時間が長いほど上達するものです。普段からラジオの英語放送やテレビの2カ国語放送、映画、英字新聞、英文雑誌などを利用して、英語を聞いたり読んだりする時間を増やすようにしましょう。

5. 教科書

[u]Integrity: Advanced[/u] 「海外メディア映像から深める4技能・教養英語上級編」(2023, 金星堂)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書(電子、紙のいずれか)を持参すること。授業中スマホやタブレットでの語句の検索は認めません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。

また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。

8. 成績評価の方法

授業中の参加と課題30%、各種テスト(予習問題テスト、小テスト、期末テスト等)70%をもとに総合的に評価します。また欠席が1/3(5回以上)を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィス・アワー：火曜12:30-13:20 (中央棟3F 講師控室)

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (5)	1 単位	平野桃子
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (5)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

[i]15 Selected Units of English through the News Media[/i]を教材として利用します。英文の内容を正しく読み取る練習や、ニュースに出てくる語彙の習得を行います。テキスト音声のリスニングも行います。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

またこのクラスは、授業内容が基礎・初級レベルであるため、成績点がよい場合でも、S、A、およびBの成績評価はつきません。

《授業の到達目標》

語彙の増強や、内容を正しく理解することを目標とします。ニュース記事には普段あまり目にしない単語も数多く出てくるかもしれませんが、辞書を引いて語彙を増やしていきましょう。

2. 授業内容

この科目はメディア授業（オンデマンド型）を行う回があります。

第1回 a: イントロダクション（授業の進め方と成績評価基準）

b: Unit1: 「AI チャットボット出現で、大学は教育方法の見直し」

* 以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。

第2回 Unit2: 「インドネシア実習生が東日本大震災被災地の漁業を支える」

第3回 Unit3: 「地熱発電が日本で進展しない理由」 [メディア授業（オンデマンド型）]

第4回 Unit4: 「中国政府高官の多くは欧米の学校出身」

第5回 Unit5: 「バリ島 ロシアとウクライナからの避難民受け入れ見直し」 [メディア授業（オンデマンド型）]

第6回 Unit6: 「AUKUS の潜水艦に関する協定は地域集団安全保障の柱」

第7回 Unit7: 「決勝戦が日米対決となり、世界中が既に大盛り上がり」 / 「日本 WBC 優勝に沸く」 [メディア授業（オンデマンド型）]

第8回 Unit8: 「フィンランドの NATO 加盟発表とロシア国境」

第9回 Unit9: 「米国の驚異的な経済記録からの教訓」 [メディア授業（オンデマンド型）]

第10回 Unit10: 「インドは人口で中国を追い抜く 果たして経済では？」

第11回 Unit11: 「イランが通貨危機に直面 その理由は？」 [メディア授業（オンデマンド型）]

第12回 Unit12: 「「寿司テロ」により、回転寿司のレーンが停止」 / 「大阪の「飲食店テロ」で2人逮捕」

第13回 Unit13: 「中南米のコカイン・カルテルと欧州」 [メディア授業（オンデマンド型）]

第14回 a: まとめ

b: 期末試験

3. 履修上の注意

各回の授業で扱う範囲の予習をするようにして下さい。自身の専攻や分野にとらわれず、様々な主題に触れながら英語を使って幅広い知識を吸収したいという学生を歓迎します。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は3回で1回分の欠席とみなします。また授業開始後20分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとなります。

この授業は3、5、7、9、11、13回目がメディア授業になります。課題の提出期限の後、解答・解説動画が配信されます。動画は当該学期中の視聴が可能です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業には辞書を持参して下さい。

事前にテキストに目を通し、単語調べをして来て下さい。構文等が分からない文に関して、どこがどう分からないか質問できるようにして下さい。

授業中に小テストを行います。該当する範囲を復習し授業に臨んで下さい。

5. 教科書

Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell

[i]15 Units of English through the News Media[/i] (『15章版：ニュースメディアの英語』)

(朝日出版社)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

対面授業では口頭でフィードバックを行います。オンライン授業の際は Oh-o!Meiji を使ってコメントします。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%で総合的に評価する。

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ(6)	1 単位	下永裕基
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ(6)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

「語幹を軸にした語彙増強」(中・上級)

英語力を身につけるための骨格として、十分な語彙力は不可欠である。それは「英語が外国語だから」ではなく、英語を母語とする人々も同じであって、英語圏で成功している人々は皆、日常レベルをはるかに超えた語彙を備えていることがわかっている。

この授業では、英語圏の人々が長年、利用してきた信頼できる vocabulary building のワークブックをもとにした教材を使用し、英文を正確に読む訓練とあわせて語彙を増強する。ターゲットとなる英単語は主としてギリシア語・ラテン語に由来する hard words が中心であるが、教材の内容以外にも、授業では適宜、英語本来のゲルマン系の単語の語源についても扱って、語源を知る楽しみをも味わいたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

《授業の到達目標》

語彙増強としては、ギリシア語・ラテン語に由来する語彙を中心に体系的に学び、未知の語であっても語源的に推測できる力を身につける。

2. 授業内容

第1回 a イントロダクション(授業の進め方と成績評価基準)

b: 英語学習用ツールの紹介、担当範囲の確認など

* 以下、テキスト上の Session 番号です。

Session 19 以降を使用しますが、それ以前の内容には関係なく、独立した授業内容です。

第2回 Session 19 - 1: Ideas 1

第3回 Session 19 - 2: Ideas 2

第4回 Session 19 - 3: Ideas 3

第6回 Session 20: Equality / How to Say Yes and No

第7回 Session 21 - 1: More on Equality

第8回 Session 21 - 2: Not to be Confused With Horses / Hear Voices?

第9回 Session 22 - 1: How to Tickle / How to Flatter / Ways of Writing

第10回 Session 22 - 2: It's Obvious / War / First the Bad News

第11回 Session 23 - 1: So Now What's the Good News?

第12回 Session 23 - 2: Say, Do and Wish

第13回 Session 23 - 3: If You Please!

第14回 a: 学期末試験

b: 解説および総括

* 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。

3. 履修上の注意

辞書を携帯すること(電子辞書可)。

遅刻厳禁。

授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。

・テキストには練習問題が付されているが、それには解答がついているので、授業では扱わない。各自で取り組むこと。

5. 教科書

Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。

6. 参考書

織田哲司『英語の語源探訪』(大修館書店)

渡部昇一『英語の語源』(講談社現代新書)

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立ちます。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況(授業回数の3分の2以上)が、期末試験を受けるための必須条件である。

そのうえで、定期試験80%、授業への積極性20%。

9. その他

研究室は3号館4階、3-405にある。

オフィスアワー: 火曜16時~17時。水曜13時30分~16時。

オフィスアワー以外でも、在室時には可能な限り、対応します。

授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。

研究室連絡先 = ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (7)

1 単位

行田 勇

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (7)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

ビジン・クレオール及びハワイの言語文化に関する英語文献を精読する。

受講者は指定された箇所を全訳したものを用意し発表する。

授業中の既習事項については毎回小テストを行い理解度の確認をする。

《到達目標》

言語学に関する英語文献の読み方を習得することを第一の目標とする。

将来的にBiolinguistics (統語論の進化論的及び生物学的ルーツの解明を目標とした研究) の専門書を読めるようになる準備をする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 機器の使用法、教材の入手法と予習の進め方、単位認定等についての詳しい説明、小テスト

第2回~第13回 テキストの精読・小テスト

第14回 まとめ

授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

第1回目は単なるイントロダクションではないので、[u]履修を迷っている場合でも必ず出席すること[/u]。

毎回出席することは「当然の義務」であるから、欠席・遅刻・早退についてはそれぞれ大幅に減点をする。

皆勤とは無縁の学生にはお勧めしない。

課題未提出の場合には、大幅に減点する。

理由のいかんにかかわらず提出期限を過ぎたものや形式等に不備があるものは無効となる。

また、指示に従わず内容が不十分な場合にも評価対象外となることがある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ配布された英文資料を全訳し、毎回授業前に提出する（評価対象）。

準備にかなりの時間を要することを覚悟すること。

5. 教科書

特に定めない。

英文資料の入手方法については第1回の授業で説明する。

欠席した場合には第2回以降の授業に参加できないなど支障をきたすことがあるので注意すること。

6. 参考書

授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に詳細に解説するので、各自で丁寧に添削する必要がある。

また、この添削済のノート原本は、学期末に提出する必要がある（評価対象）。

8. 成績評価の方法

毎回の小テスト 40%、平常点（提出物・授業中の発表および添削等）60%の総合評価である。

授業中に各自で添削したノートの原本は、授業の終盤に提出する必要がある（評価対象）。

授業回数数の3分の2以上に参加していない者は成績評価の対象から外す。

評点算出方法等については、第1回の授業で詳細に説明する。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示する。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (8)

1 単位

平野桃子

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (8)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

[i]English for the Global Age with CNN Vol. 25[/i]をテキストを使います。CNN ニュースの DVD 映像や音声を使ってリスニング力を鍛えると共に、時に文章としても難解なニュース内容の理解に努めます。

農業科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目です。

《授業の到達目標》

CNN のアンカーやレポーターにはアメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語、カナダ英語等、様々な発音の人がいます。発音の特徴が異なる色々な英語を聞いて、聞く力を鍛えましょう。ニュースの英語はスピードが早く、難しい単語が使われることも度々あります。語彙を増やして、ニュース英語の内容を理解できるようにしていきます。

2. 授業内容

この科目はメディア授業（オンデマンド型）を行う回があります。

第 1 回 a: イントロダクション（授業の進め方と成績評価基準など）

b: CNN で話される英語の特徴と音声変化のポイント

* 以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。

第 2 回 Unit1: Seven Decades of Service (エリザベス女王と王室の軌跡)

第 3 回 Unit2: Seeking Safety in Numbers (フィンランドとスウェーデンが NATO 加盟へ) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第 4 回 Unit3: Keeping to the Sidelines (ロシア批判ためらうアフリカ諸国、その理由は)

第 5 回 Unit4: Protected by Love (戦争孤児と「家族」として生きることを選んだウクライナの夫婦) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第 6 回 Unit5: Victory in the Kitchen (「ボルシチ」の勝者はウクライナ? ユネスコの決定にロシア反発)

第 7 回 Unit6: Controversial Debt Relief (最大 '2 万ドル' の学生ローン返済免除へ) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第 8 回 Unit7: The Dwindling Appeal of Parenthood ('産みの苦しみ' 世界最低の出生率にあえぐ韓国)

第 9 回 Unit8: For People on the Go (地球環境に配慮した台湾の次世代型電動スクーターとは) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第 10 回 Unit9: Creative Thinking (今話題の言語処理人工知能、ChatGTP を使ってみた)

第 11 回 Unit10: India Joins the Club (中国への抑止力となるか インド初の国産空母「ビ克蘭ト」就役) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第 12 回 Unit11: Radical Calls for Action (ゴッホの「ひまわり」にトマトスープ 環境活動家の目的は?)

第 13 回 Unit12: Goofy Gadgets (最新機器よ、集まれ! 世界最大のテクノロジー見本市 GES) [メディア授業 (オンデマンド型)]

第 14 回 a: まとめ

b: 期末試験

3. 履修上の注意

各回の授業で扱う範囲の予習、復習をするようにして下さい。英語力、特にリスニング力の向上に意欲のある学生を歓迎します。

全日程の 3 分の 1 以上を欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は 3 回で 1 回分の欠席とみなします。また授業開始後 20 分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとなります。

この授業は 3、5、7、9、11、13 回目がメディア授業になります。課題の提出期限の後、解答・解説動画が配信されます。動画は当該学期中の視聴が可能です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの動画や音声ダウンロードできるので、それを利用して予習、復習をして下さい。繰り返し見て、聞くことを勧めます。語彙を増やすために、単語練習もしてください。

5. 教科書

関西大学 CNN 英語研究会

[i]English for the Global Age with CNN Vol.25[/i] (2024) (朝日出版社)

6. 参考書

特に定めなし。

7. 課題に対するフィードバックの方法

対面授業では口頭で行います。オンライン授業では Oh-o!Meiji を使ってフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

期末試験 60%、小テスト 20%、授業への参加度 20%で総合的に評価する。

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(9)	1 単位	貝塚泰幸
2017~2021年度入学者 英語Ⅲ(9)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

Roger Lancelyn Green によって現代語に書き直された中世ヨーロッパのアーサー王物語のなかでも特に「聖杯探究の物語」を読み、ファンタジー映画や日本の漫画・アニメの源泉となっているアーサー王文学の世界を味わう。現代を生きる私たちと中世ヨーロッパ文学との間には、思想や信仰・文化の面で大きな隔たりがあるのは確かだが、同時にそこには現代の人々を引きつける普遍的な魅力がある。

《授業の到達目標》

難解な英文を精読を通して読解力と語彙力を向上させるとともに、物語の登場人物への共感能力や英文を多様に解釈する洞察力を養うことを目的とする。また教養としての中世ヨーロッパ文学と文化に関する知識を身につけ、異国の古い文学と文化、宗教、倫理的価値観などに対する知見を広めることも目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

- a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明
- b. Introduction

第2回：英文精読・考察およびディスカッション

第3回：英文精読・考察およびディスカッション

第4回：英文精読・考察およびディスカッション

第5回：英文精読・考察およびディスカッション

第6回：英文精読・考察およびディスカッション

第7回：英文精読・考察およびディスカッション

第8回：英文精読・考察およびディスカッション

第9回：英文精読・考察およびディスカッション

第10回：英文精読・考察およびディスカッション

第11回：英文精読・考察およびディスカッション

第12回：英文精読・考察およびディスカッション

第13回：英文精読・考察およびディスカッション

第14回： a. まとめ

- b. 期末試験

* 授業内容は進度などに応じて変更する場合がある。

3. 履修上の注意

学生は自らの意見を自発的に表現することで、積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、多様な解釈が可能性のある英文を探すとともに、該当する英文についてはその読みを考えておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。

準備学習が不十分であった場合や、授業への参加態度が不適切な場合（私語やスマートフォンの使用など）には成績より減点する。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。

遅刻・早退は3回で1回分の欠席とみなし、また授業開始後30分以上遅れて来た者および授業終了30分以前に退出した者も欠席とみなす。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語については授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。また特に難解な箇所や理解できない点に関しては学生全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。

5. 教科書

プリント配布

6. 参考書

Roger Lancelyn Green, [i]King Arthur and His Knights of the Round Table[/i] (Puffin Classics, 2008).

フィリップ・ヴァルテール 著、渡邊浩司・渡邊裕美子 訳 『アーサー王神話大事典』（原書房）

アンドレア・ホプキンズ 著、山本士郎 訳 『図説アーサー王物語』（原書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験：70%

授業への貢献度：30%（和訳作成、授業内の質疑応答・発言など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はフィードバック・シートおよび授業の前後に受け付ける。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (10)	1 単位	松井恭子
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (10)		

1. 授業の概要・到達目標

授業の概要・到達目標

多文化社会の英国、ブレクジット、移民問題、英国の教育など揺れる英国の今について書かれた読みやすいエッセイや英国の庭園や食文化、英国の医療保険に関する興味深いエッセイを読む。また、トピックに関する資料も配布するので一緒に読む。

英国の医療保険制度を深く理解するためにアメリカ、イギリス、カナダの保険制度を紹介している傑作ドキュメンタリー映画『Sicko』を観賞する。コメディータッチの楽しくわかりやすい映画である。映画資料も配布する。監督は社会問題を扱い、ドキュメンタリー作品で数々の賞を受賞している Michael Moore である。

英国の社会事情を読解し、パラグラフの構成の正確な理解を目指し、精読・速読する力をつける。関連した英文資料も配布し、読解に役立てる。エッセイを読解し、知見を広げる。そして、クラスメートと楽しく、学んだことについて英語で意見を出し合う練習も行い、理解を深める。

2. 授業内容

授業内容

第1回：イントロダクション（評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明）

Chapter 1: Multi-Cultural UK (1)

第2回：Chapter 1: Multi-Cultural UK (2)

第3回：Chapter 2: English Gardens (1)

第4回：Chapter 3: English Gardens (2) English Garden の変遷に関する資料 1.

第5回：Chapter 3: English Gardens (3) English Garden の変遷に関する資料 2.

第6回：The British Royal Family

第7回：Chapter 4: Education in the UK

第8回：Chapter 5: Eating in Britain

第9回：Chapter 6: Health & the Medical System (1) と映画『Sicko』

第10回：Chapter 6: Health & the Medical System (2) と映画『Sicko』

第11回：Chapter 6: Health & the Medical System (3) と映画『Sicko』

第12回：Chapter 7: Music & Fashion (1)

第13回：Chapter 7: Music & Fashion (2)

第14回：まとめと解説&. 期末テスト

3. 履修上の注意

履修上の注意

春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、春学期はテキストの Chapter1 から Chapter 7 の前半、秋学期はテキストの Chapter 8 から Chapter 15 の後半を扱い重複していない。

授業形態については、詳しいことは4月の終わりに授業中また、Oh-Meiji「授業お知らせ管理」にてお伝えするが、14回中、おおよそ5回はZOOMによるリアルタイムのオンライン授業、9回ほどを対面授業とする計画である。4月全部と5月3週目あたりまでは、すべて対面授業とする。変更がある場合は、前もって Oh-Meiji の「授業お知らせ管理」に載せる。

教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。また、Oh-Meiji にも4月に載せる。欠席が4回以上の場合、単位は取得できないので注意して下さい。

お渡しする資料は、忘れずに授業に持参してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を自分の言葉で説明出来るように準備して授業に望む。授業で自分の意見や調べたことを発表担当する学生を順番に当てるので、責任をもって取り組んでください。各 Chapter のトピックは単語を調べて、深い知識も得られるよう積極的に予習、復習をする。

Group Discussion で発言することは前もって用意しておき、積極的に discussion に参加すること。

5. 教科書

教科書

Modern Britain: Culture Society and History. 『現代英国の文化・社会・歴史』

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できます。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小課題については、締め切りの後、授業で解説をする。期末試験の解答については、Oh-Meiji のシステムを通じて、最後の授業から約2, 3週間後に Oh-Meiji に配信する。

8. 成績評価の方法

期末テスト (40%)、Group Discussion や英語で自分の意見を発表 (30%)、授業の平常点 (30%)

9. その他

オフィスアワーや連絡方法については、第一回目の授業でお伝えする。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(11)	1 単位	織田哲司
2017～2021年度入学者 英語Ⅲ(11)		

1. 授業の概要・到達目標

英文法への理解を深める（中級・上級者用）

《授業の達成目標及びテーマ》

これまでは英文法をただ規則として覚えるだけであったかもしれないが、ここではときにはその歴史的な成り立ちにも言及しながら、システムとして「なぜこう言うのか」に焦点を当てながら英文法への理解を深める機会にしたい。

《授業の概要》

したがって、文法説明はこれまでとは違う切り口で行われるはずである。春学期の「英語 III」は「相当語句」という切り口から英文法を解説する。受講者は解説を聞くだけでなく、例文を訳したり、英語を書いたりしながら英文法を身につけられるようにする。できるだけ多くミニテストも用意する。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 イン트로ダクションー「文法」とは
- 第2回 相当語句：名詞1
- 第3回 相当語句：名詞2
- 第4回 相当語句：形容詞1
- 第5回 相当語句：形容詞2
- 第6回 相当語句：副詞1
- 第7回 相当語句：副詞2
- 第8回 不定詞1
- 第9回 不定詞2
- 第10回 分詞構文1
- 第11回 分詞構文2
- 第12回 比較
- 第13回 仮定法（叙想法）
- 第14回 a：まとめ b：期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

充分な予習、復習と出席はいうまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃からことばそのものに関心を持ち続けることが必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。

1. 英和辞典を活用する—単語を調べる

事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書（資料）の余白のみならずノートに記入しておくことよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくことよい。

授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。

とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。

自宅等における予習には冊子体の辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているため、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。

2. 百科事典を活用する—単語以外のさまざまな事項を調べる

たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、などを百科事典を参照して、自分から進んで調べておくことよい。

以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。

さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。

3. 自分の五官を活用する

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオやDVDを活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はいっそう楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用して教材を配信する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

さらなる参考書について必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji System から学生個々人にコメントを配信するほか、授業においても前回授業に関する課題を解説する。

8. 成績評価の方法

年間授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。小テスト 40%、期末テスト 40%の配分、授業中のパフォーマンス 20%で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第IV研究室（3号館3階3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12:40~13:30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語Ⅲ(12)

1単位

瀬端 睦

2017～2021年度入学者
英語Ⅲ(12)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

映画『ラブ・アクチュアリー』を題材として、映画のシーンのリスニングを行う。映画の背景知識の力をつけると同時に映画のシーンの聞き取りでリスニング力を鍛え、シャドーイングやロールプレイをすることによってスピーキングの力もつける。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

《授業の概要》

映画で使用される語句や口語表現を学ぶと同時に、映画の視聴を基にしたリスニングや背景知識を学ぶことによって、映画のストーリーや背景知識を理解できるようになる。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション (授業の進め方、成績評価の仕方など)

b: “ラブアクチュアリー” 概要

第2回: Unit 1 Love Actually Is All Around 前半

第3回: Unit 1 Love Actually Is All Around 中間

第4回: Unit 1 Love Actually Is All Around 後半

第5回: Unit 2 Agony of Being in Love 前半

第6回: Unit 2 Agony of Being in Love 中間

第7回: Unit 2 Agony of Being in Love 後半

第8回: Unit 3 Feel Uncomfortable? 前半

第9回: Unit 3 Feel Uncomfortable? 中間

第10回: Unit 3 Feel Uncomfortable? 後半

第11回: Unit 4 Have You Gone Completely Insane? 前半

第12回: Unit 4 Have You Gone Completely Insane? 中間

第13回: Unit 4 Have You Gone Completely Insane? 後半

第14回: a: 授業内容のまとめ

b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

映画『ラブアクチュアリー』とイギリス文化に興味を持って授業にのぞむこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

次回の授業範囲について、辞書を使って分からない単語を調べて予習をしてくること。リスニングの問題を繰り返し聞いて、復習すること。

5. 教科書

映画総合教材『ラブ・アクチュアリー』Richard Curtis 著 松柏社 2014年

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックします。

8. 成績評価の方法

期末テスト60%+平常点 (授業態度、小テストなど) 40%

9. その他

オフィスアワー: 授業後に対応する。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (13)

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (13)

1 単位

松井恭子

1. 授業の概要・到達目標

この授業は、映画の中で使われている生きた英語を学ぶことを通じて、総合的な英語力を育成することを目的としている。また、教科書は映画全体を6つのストーリーに分け、それぞれのストーリーを Reading のユニットでまず読み、次に視聴覚学習のユニットで学ぶという構成になっている。つまり、一週目の授業で読んで理解した内容を、翌週の授業では映像と音声で確認しながらじっくり学んでいくことができる。生きた英語のリスニング力をつけることを目標とする。

取り上げているアメリカ映画は、実話に基づいて製作された社会派映画である。1993年に実際にアメリカで起きた公害訴訟事件をもとに作られている。有害物を大量に排出しながら、適切な処理を怠り、長年近隣住民を騙し、隠蔽し続けていた大企業を相手に訴訟により和解金を見事に勝ち取った主人公、若い女性エリン・プロコビッチの活躍ぶりがコメディタッチで描かれている。

エリンは、ロサンゼルス郊外の小さな町に住み、3人の子どもを抱えたシングルマザーである。法律を専門に学んだこともないエリンであるが、たまたま法律事務所ではアルバイトを始めることができ、ファイルの整理を命じられた中、ある大企業が、自社工場の近隣住民の土地を買おうとしている不審な不動産案件の書類を見つける。エリンは独自に調査を始める。さまざまな苦難を乗り越えて、健康被害に苦しむ人々のために最後まで闘い抜く姿は感動的である。

この映画主演のエリン役、ジュリア・ロバーツの演技は絶賛され、第73回アカデミー賞、ゴールデングローブ賞、英国アカデミー賞など数多くの賞を受賞した。

この映画を通して、英語のみならず、アメリカの文化や社会について学ぶことができるでしょう。クラスでの Group ディスカッション等を楽しめるよう進めたい。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション（評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明と Unit 1
- 第2回：Unit 2 Reading (Story 1 Job Hunting, DVD Chapter 1-5)
- 第3回：Unit 3 Audio-Visual Learning (Story 1 Job Hunting, DVD Chapter 1-5)
- 第4回：Unit 4 Reading (Story 2 Discovery, DVD Chapter 6-11)
- 第5回：Unit 5 Audio-Visual Learning (Story 2 Discovery, DVD Chapter 6-11)
- 第6回：Unit 6 Reading (Story 3 Getting ready for the Suit, DVD Chapter 12-16)
- 第7回：Unit 7 Audio-Visual Learning (Story 3 Getting ready for the Suit, DVD Chapter 12-16)
- 第8回：Unit 8 Reading (Story 4 Four-hundred-or-so Plaintiffs, DVD Chapter 17-20)
- 第9回：Unit 9 Audio-Visual Learning (Story 4 Four-hundred-or-so Plaintiffs, DVD Chapter 17-20)
- 第10回：Unit 10 Reading (Story 5 Binding Arbitration, DVD Chapter 21-24)
- 第11回：Unit 11 Audio-Visual Learning (Story 5 Binding Arbitration, DVD Chapter 21-24)
- 第12回：Unit 12 Reading (Story 6 Settlement, DVD Chapter 25-28)
- 第13回：Unit 13 Audio-Visual Learning (Story 6 Settlement, DVD Chapter 25-28)
- 第14回：Unit 14 Reading (The Real Erin)
 - a. 期末レポートについての説明
 - b. まとめと解説

3. 履修上の注意

授業形態

授業形態については、詳しいことは4月の終わりに授業中また、Oh-Meiji「授業お知らせ管理」にてお伝えするが、14回中、おおよそ5回はZOOMによるリアルタイムのオンライン授業、9回ほどを対面授業とする計画である。4月全部と5月3週目あたりまでは、すべて対面授業とする。変更がある場合は、前もって Oh-Meiji の「授業お知らせ管理」に載せる。

教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。また、Oh-Meiji にも4月に載せる。欠席が4回以上の場合、単位は取得できないので注意して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を自分の言葉で説明出来るように準備して授業に望む。授業での英語での短い感想発表担当者は順番に当てるので準備をしておいて欲しい。Group Discussion で発言することは前もって用意しておき、積極的に discussion に参加すること。

5. 教科書

English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich.

映画『エリン・プロコビッチ』で学ぶ実践英語の基本 金星堂

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小課題については、締め切りの後、授業で解説をする。期末レポートの課題については、Oh-Meiji のシステムを通じて、レポート締め切り日の翌週に配信する。

8. 成績評価の方法

期末レポート (40%)、Group Discussion や英語で短い自分の感想発表 (30%)、授業の平常点 (30%)

9. その他

オフィス・アワーと email 等の連絡方法は第一回目の授業中に指示する。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(14)	1 単位	伊達恵理
2017～2021年度入学者 英語Ⅲ(14)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

「英国事情を学ぶ」レベル(中級) 英語及び英語文化圏に対する理解を深める作業の一環として、英国事情を学びます。[i]Britain Today: Approached through Folk Song[/i] 『フォークソングの視点からみた現代イギリス』をテキストに用い、春学期は、英国における産業革命とその影響、死刑制度、英国という国の成り立ち、階級社会の問題をトピックとした前半4章を扱います。民謡を通じて、英国の歴史・文化伝統と社会、その中にうかがわれる英国人の価値観を概観し、内容に応じて、随時視聴覚関連資料なども採り入れる予定です。

《授業の到達目標》

英国の民謡に関するリーディングを通じて英語論説文的確な読解を目指し、テキストから見えてくる英国の歴史・社会的背景や文化伝統、英国人の価値観の変遷について学ぶと同時に、英国人の考え方・感じ方への理解や親しみを深めることを目標とします。英国社会・文化においてよく用いられる表現・語彙に馴染み、音声教材によってイギリス英語の聴き取りに慣れることを目指すとともに、練習問題により英文読解・ライティング力の向上を目指します。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回: Introduction

第2回: The Weaver and the Factory Maid: Industrialization (1) 本文読解①(パラグラフ構成, 構文, 意味内容, 語彙確認)

第3回: The Weaver and the Factory Maid: Industrialization (2) 本文読解②

第4回: The Weaver and the Factory Maid: Industrialization (3) 本文読解③, Exercises

第5回: Jack Hall: The Death Penalty (1) 本文読解①(パラグラフ構成, 構文, 意味内容, 語彙確認)

第6回: Jack Hall: The Death Penalty (2) 本文読解②

第7回: Jack Hall: The Death Penalty (3) 本文読解③, Exercises

第8回: Parcel of Rogues: Not Just England (1) 本文読解①(パラグラフ構成, 構文, 意味内容, 語彙確認)

第9回: Parcel of Rogues: Not Just England (2) 本文読解②

第10回: Parcel of Rogues: Not Just England (3) 本文読解③, Exercises

第11回: Blackleg Miner: Class Struggle (1) 本文読解①(パラグラフ構成, 構文, 意味内容, 語彙確認)

第12回: Blackleg Miner: Class Struggle (2) 本文読解②

第13回: Blackleg Miner: Class Struggle (3) 本文読解③, Exercises

第14回: a. 試験 b. まとめ

* 講義の進捗は必要に応じ変更することがあります

3. 履修上の注意

十分な予習(準備学習の項目を参照)、教員との質疑応答への積極的な授業参加が求められます。授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]

ある程度分量のある長文を読むので、辞書を引いて単語・成句の意味を確認し、リーディング全体の構文・文法・意味内容を理解できるよう、また、テキストの設問や教員の質問に解答できるよう、十分準備をして下さい。前もって疑問点などを明確にしておくことで読解の助けとなります。日頃から、英国関連のニュース・情報にも目を配ると良いでしょう。

[復習]

授業でパラグラフ内の語彙や構文、テキストの意味内容を確認した後は、各章リーディング全体の文章構成、論旨の展開を理解し見通せるよう、復習すること。また、各パラグラフで学んだ語彙・成句について、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。

5. 教科書

[i]Britain Today: Approached through Folk Song[/i] 『フォークソングの視点からみた現代イギリス』 Simon Rosati 著 (英宝社)

6. 参考書

副教材として随時プリントなどを配布。

7. 課題に対するフィードバックの方法

各 Chapter の予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。0h-o!Meiji を通じて出された練習問題等については、0h-o!Meiji 上にて解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、平常点(課題の提出とその内容、出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度、小テストなどの成績) 40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。(欠席は3回まで)

9. その他

オフィスアワー: 木曜日 12:50~13:20 中央棟 3F 講師控室
質問・連絡等は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡の窓口として 0h-o!Meiji の「アンケート」を使用します。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (15)	1 単位	貝塚泰幸
2017～2021 年度入学者 英語Ⅲ (15)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

グローバル社会の進展とともに、国内において英語能力検定試験の需要は高まってきている。特に TOEIC は、その手頃さから広く企業に認知・利用されている。そのため、分野を問わず TOEIC 受験はキャリア形成のために不可欠といえる。授業はテキストに沿って進めていき、毎回の語彙テストやペアワークなどを織り交ぜながら、特に文法事項について戦略的な復習と確認を通して TOEIC のスコアアップに必要な「語彙力」、「文法力」、「リスニング力」、「リーディング力」を養う。

《授業の到達目標》

TOEIC スコア 600 点以上を目指す。また、TOEIC だけでなく他の様々な英語能力検定試験に対応できる「語彙力」、「文法力」、「リスニング力」、「リーディング力」といった英語の基礎力を習得することを目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回：イントロダクション

- a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明
- b. イントロダクション

第 2 回：Chapters 1, 2

第 3 回：Chapters 3, 4

第 4 回：Chapters 5, 6

第 5 回：Chapters 7, 8

第 6 回：Chapters 9, 10

第 7 回：Chapters 11, 12

第 8 回：Chapters 13, 14

第 9 回：Chapters 15, 16

第 10 回：Chapters 17, 18

第 11 回：Chapters 19, 20

第 12 回：追加教材

第 13 回：レビュー

第 14 回：a. まとめ

- b. 期末試験

* 授業内容は進度などに応じて変更する場合がある。

3. 履修上の注意

学生は積極的な授業参加が求められる。学生は指定された箇所の予習および復習は必須である。また毎回の授業には必ず辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。

準備学習が不十分であった場合や、授業への参加態度が不適切な場合（私語やスマートフォンの使用など）には成績より減点する。

全日程の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とする。

遅刻・早退は 3 回で 1 回分の欠席とし、授業開始後 30 分以上遅れて来た者および授業終了 30 分以内に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者も欠席扱いとする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指定された範囲の意味のわからない単語については授業までに必ず調べた上で授業に臨むこと。難解な箇所や理解できない点に関してはクラス全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。またリスニング・セクションの復習と課題確認は特に重要となる。

5. 教科書

松岡 昇・傍島一夫、『ポキヤビル重視型 TOEIC® L&R 総合演習』（松柏社）。

6. 参考書

TOEIC 公式サイト[url]https://www.iibc-global.org/[url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30%（予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (16)

1 単位

瀬端 睦

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (16)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

TOEIC 形式の問題演習するとともに、頻出会話フレーズや文法事項の復習をすることで、テスト対策だけで終わらない、総合的な英語運用能力をつける。TOEIC のリスニングとリーディングのパートを交互に行う。

《授業の到達目標》

TOEIC 形式の問題に慣れ、リスニング、リーディングの問題がともに抵抗なく解けるようになる。リスニング、リーディングのスピードが上がることを目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目です。

2. 授業内容

第 1 回 a: イントロダクション (授業の進め方、成績評価の仕方などの説明)

b: Unit 1 Eating out (リスニング Part1, 2)

第 2 回 Unit 1 Eating out (リスニング Part 3, 4)

第 3 回 Unit 1 品詞 (1) (リーディング)

第 4 回 Unit 2 Travel (リスニング)

第 5 回 Unit 2 品詞 (2) (リーディング)

第 6 回 Unit 3 Amusement (リスニング)

第 7 回 Unit 3 時制 (リーディング)

第 8 回 Unit 4 Meetings (リスニング)

第 9 回 Unit 4 動詞 (リーディング)

第 10 回 Unit 5 Personnel (リスニング)

第 11 回 Unit 5 名詞 (1) (リーディング)

第 12 回 Unit 6 Shopping (リスニング)

第 13 回 Unit 6 形容詞 (2) (リーディング)

第 14 回 a: 授業内容のまとめ

b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

辞書を使って予習をすること。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

語彙、会話フレーズ、文法、リーディング (リスニングの演習問題以外) は、辞書を使って予習をしてくること。テキスト以外の TOEIC 形式の問題も解いてみる。

5. 教科書

『一歩上を目指す TOEIC Listening and Reading TEST: Level 4』北尾泰幸ほか著 (朝日出版社)

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックします。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%, 平常点 (授業参加度, 小テストなどの成績) 40%

9. その他

オフィスアワー: 授業後に対応する

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (17)	1 単位	貝塚泰幸
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (17)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

グローバル化の進展とともに国と国との距離は狭まり、異なる言語を話し、異なる文化を背景とする人々との交流は我が国においても日常の風景となっておりつつある。その結果、他言語を話す人々とのコミュニケーション・ツールとして英語が広く用いられており、これまで以上に英語の運用能力の向上を目指す学生も多いことだろう。そこで英語そのものについての理解を深めるために教養として身につけておくべきアメリカ英語とイギリス英語の違いや世界共通語としての英語、言語使用域、和製英語といった内容の英文を読む。

《授業の到達目標》

難解な英文の精読を通して読解力と語彙力を向上させ、正確な英文読解と批判的な視点からのテキスト解釈を通して、学生が独自の意見を形成・発信できるようになることを目的とする。また英語を取り巻く現在の状況やその歴史と言語学的な特徴、そして和製英語やシェイクスピアの英語といった世界共通語としての英語の背後にある学術的、社会的、文化的な知識を教養として身につけることも目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

- a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明
- b. イントロダクション

第2回：British English and American English

第3回：English as a World Language

第4回：Linguistics, Language, and Culture

第5回：Registers

第6回：Language, Culture, and Categorization

第7回：First Language Acquisition

第8回：The Study of the Sounds of Language

第9回：Names in English

第10回：Language Contact and Borrowing

第11回：Language Variation

第12回：Meaning in Words and Sentences

第13回：Japanese English

第14回：a. まとめ

- b. 期末試験

* 授業内容は進度などに応じて内容を変更する場合がある。

3. 履修上の注意

学生は自らの意見を自発的に表現することで、積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、多様な解釈が可能性のある英文を探すとともに、該当する英文についてはその読みを考えておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。

準備学習が不十分であった場合や、授業への参加態度が不適切な場合（私語やスマートフォンの使用など）には成績より減点する。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。

遅刻・早退は3回で1回分の欠席とし、授業開始後30分以上遅れて来た者および授業終了30分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者も欠席扱いとする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

履修するすべての学生は予定される範囲の本文をあらかじめ熟読し、すべての設問を解答した上で授業に臨むこと。意味のわからない単語については授業までに調べ、おおよその内容を把握する必要がある。また特に難解な箇所や理解できない点に関してはクラス全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。

5. 教科書

赤楚治之, William Herlofsky, 清水克正, 『英語についての26章』(英宝社).

6. 参考書

武内信一, 『英語文化史を知るための15章』(研究社).

堀田隆一, 『英語の「なぜ?」に答えるはじめての英語史』(研究社).

唐澤一友, 『世界の英語ができるまで』(亜紀書).

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30%（予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はフィードバック・シートおよび授業の前後に受け付ける。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (18)

1 単位

瀬端 睦

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (18)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

TED の教材を用いて、リーディングとリスニングの力を伸ばす。また、TED のプレゼンテーションを視聴することで、英語で発信する表現力についても学ぶ。

《授業の概要》

TED の動画を視聴し、それに関連したパッセージを読むことで、リーディングとリスニングの力をつけながら、社会的な問題についての理解を深める。また、TED のプレゼンテーションの仕方を学び、自分の意見を英語で発信できるようになる。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目です。

2. 授業内容

第 1 回 a : イントロダクション (授業の進め方、成績評価の仕方など)

b: Unit 1 Inspired Leadership : プレリーディング

第 2 回 Unit 1 Inspired Leadership

第 3 回 Unit 1 How to Start a Movement (読解)

第 4 回 Unit 1 How to Start a Movement (リスニング)

第 5 回 Unit 3 Big Problems, Simple Solutions

第 6 回 Unit 3 A Warm Embrace that Saves Lives (読解)

第 7 回 Unit 3 A Warm Embrace that Saves Lives (リスニング)

第 8 回 中間のまとめ

第 9 回 Unit 5 Engaging Learners

第 10 回 Unit 5 The Key to Success? Grit (読解)

第 11 回 Unit 5 The Key to Success? Grit (リスニング)

第 12 回 プレゼンテーション

第 13 回 プレゼンテーション

第 14 回 a: 授業内容のまとめ

b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

次回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてこること。授業で扱った TED のリスニングを繰り返し聴き、余裕があれば、他の動画も見てみるここと。

5. 教科書

『21st Century Reading 2: Creative Thinking and Reading with TED Talks』 Laurie Blass ほか著 (センゲージラーニング)

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%+プレゼンテーション 30%+平常点 (授業への取り組み、小テストなど) 20%で総合評価する。

9. その他

オフィスアワー : 授業後に対応する

sebatamu@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(19)	1 単位	中須賀稚子
2017~2021年度入学者 英語Ⅲ(19)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

〈現代アメリカを探る〉(中級)

同じ中級でも、春学期は初中級～中級レベルと考えて下さい。

英語で書かれた文章を読んで内容を理解する。これは、実はなかなか難しいことである。

書かれている英語を、文字だけでなく、その内容を理解するために必要なのが、背景知識である。

教科書はアメリカの有名人を1課につき一人ずつ扱う。なじみのある人、なじみの少ない人、いろいろだが、それらの人々の背景を知り、アメリカの現代について自分なりの情報を増やしていってもらえれば幸いである。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である

《授業の概要》

学生の発表に、教師が補足説明を加えることになる。出席者は全員予習をして授業に出席するように。

2. 授業内容

第1回：a イントロダクション

b 第1課 Barack Obama

第2回：第2課 Stan Lee

第3回：第3課 Angelina Jolie

第4回：第4課 Justin Bieber

第5回：第5課 Mark Zuckerberg

第6回：第6課 Matt Damon

第7回：第7課 Tim Cook

第8回：第8課 Lady Gaga

第9回：第9課 Marc Jacobs

第10回：第10課 Michael Bloomberg

第11回：第11課 Doris Kearns Goodwin

第12回：第12課 George Lucas

第13回：第13課 Martin Seligman

第14回：a 第14課 Michael Kors

b 到達度確認試験

履修者の希望により、中間試験を実施する可能性もある。

あくまでも授業が始まり、履修者の希望があれば、である。

授業の予定は必要に応じて変更の可能性はある。

3. 履修上の注意

必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。

興味を持っていただけるのが一番です。

授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。

自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください

2つ、お願いがあります。

その1

授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。

教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、

教室内の出入りは、最小限にとどめるよう、自分の体を制御してください

その2

教科書は必ず購入してください。

そして、必ず教科書をもって授業に出席してください。

コピー(その他写メ等)で授業に出席している場合、欠席扱いとします。

中須賀のクラスでは、コピーで授業に出席しても、出席とはみなしません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを読み、わからない単語は調べ、不明な点はどこか、を認識して授業に出席のこと。
授業内で問題を解決できるように。

5. 教科書

Cultural Leaders In America Today ② 『今、アメリカを動かす人たち（2）』（朝日出版社、2014）

6. 参考書

授業内で指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要な折に全体、または個人に、対面で、もしくはポートフォリオを通じて行う。

8. 成績評価の方法

筆記試験（中間を実施すれば中間試験及び到達度確認試験）60%、平常点（出席点ではない。授業内参加や課題など）40%の割合で評価を出す。総合で60%以上に単位を認定する。

欠席は5回を超えると受験資格を失う。

遅刻は3回で欠席1回と換算するので注意のこと。

つまり、欠席と遅刻の減点を合わせて、授業の3分の1を超えると試験を受ける資格を失うので、

欠席、遅刻とも気を付けるようにしてください

また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください。

授業に出席したが課題は未提出、または授業には欠席したが課題は提出した、は欠席扱いとなります。

ただし、授業は欠席したが課題を出した場合、点数を配慮するケースもあります

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12：45～13：15（いずれかの講師控え室）

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (20)

1 単位

中村啓子

2017～2021 年度入学者
英語Ⅲ (20)

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

このコースでは、基礎的な文法の復習を含め、日常生活や職場でよく使用される実践的な英語を中心に学習します。今学期に学習するトピックは、「(天然)資源や資産」、「ストリート・ライフ (街の人々の暮らし)」、「音楽の響き」です。リスニング・スキルとスピーキング・スキルの向上に向けてビデオや音声を活用し、ペアやグループによる口頭練習を積極的に行います。

〈授業の達成目標及びテーマ〉

社会人の実生活にあるような題材や、国際的な様々な場面に応じた英語のフレーズや語彙の習得、コミュニケーション能力の向上、さらに異文化に対する理解を深めることを目標とします。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- (1) イントロダクション (シラバス、テキスト、クラス・ルールの説明など)
- (2) Unit 1: Getting started [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (3) Unit 1: Getting started
- (4) Unit 1: Getting started [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (5) Unit 1: Getting started
- (6) Unit 1: Review [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (7) Unit 1: Review test
- (8) Unit 2: Celebration [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (9) Unit 2: Celebration
- (10) Unit 2: Celebration [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (11) Unit 2: Celebration
- (12) Unit 2: Review [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (13) Unit 2: Review Test
- (14) a: まとめ b: 試験

尚、授業内容や進度は、受講者のニーズや受講生の人数など、必要に応じて変更する可能性があります。

3. 履修上の注意

- ・このコースの一部の授業はメディア授業科目として開講されます。メディア授業はすべて、講義動画を 0h-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行われます。
- ・講義動画は原則金曜日の午前9時に 0h-o! Meiji システム上の「授業内容」機能を通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。
- ・講義動画に対して、課題を同システム上の「レポート」機能へ、翌週の月曜日午後5時までに提出することで、出席確認及び理解度確認を行います。
- ・対面授業では、ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

- ・予習: テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認、テキストの音声やビデオを視聴、テキストの読解問題に挑戦しましょう。
- ・教科書の本文の音声とビデオは、インターネット上の www.oup.com/elt/internationalexpress から無料でダウンロード可能です。予習・復習に役立ててください。
- ・復習: 授業で取り扱った表現の口頭練習を繰り返し行い、さらに定着させましょう。また、オンライン上の教材を活用し、音声や映像を視聴して復習しましょう。

5. 教科書

『International Express, Pre-Intermediate, Student's Book with Pocket Book』, Keith Harding and Rachel Appleby 著, (Oxford University Press), 2014 年, ISBN: 978-0-19-441826-3.

春学期と秋学期で同一の教科書を使用しますが、学習範囲が異なります。

6. 参考書

BBC Learning English: [url]<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>[/url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

口頭で行います。

8. 成績評価の方法

試験（レビュー・テスト、期末試験）70%、平常点（課題、貢献度）30%。遅刻は（授業開始後30分までに入室）3回で欠席1回とみなします。授業回数の2/3以上の出席者が評価対象となります。

9. その他

オフィスアワーは金曜日、12:30-13:10（中央校舎3階講師控室）です。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (21)

1 単位

松井恭子

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (21)

1. 授業の概要・到達目標

アメリカでアメリカの学生向けに放送されているニュース番組 CNN Student News を素材とし、日本の大学生が英語を学習しやすいように編集された教科書を使う。様々なジャンルの最新映像ニュースの聞き取りと読解をする。番組自体にエンターテインメント的要素もあり、取り上げられているニュースは興味深い。ニュース内容について、自分なりのコメントや意見を英語で話す能力も養う。クラスメイトと簡単な意見交換も英語でしたり、英語で発信する練習を楽しく進める。

Web 動画を活用してリスニング力、読解力をつけ、基礎的な英語スピーキング力をつけると同時に様々なジャンルの最新情報を知ることで見聞を広げる。ポキャブラリーを増やしていくことが求められる。

2. 授業内容

第1回 インTRODakション (評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明)

Unit 1: Mail by Drone (1)

第2回 Unit 1: Mail by Drone (2), The structure of mini-presentation 1

第3回 Unit 2: History of General Electric (1), The structure of mini-presentation 2

第4回 Unit 2: History of General Electric (2), Introduction part in a presentation 1

第5回 Unit 3: Foxes (1), Body and conclusion parts in a presentation

第6回 Unit 3: Foxes (2), How to use visual effects in mini-presentation 1

第7回 Unit 4: Air Taxi (1), How to use visual effects in mini-presentation 2

第8回 Unit 4: Air Taxi (2), How to express your opinion briefly 1

第9回 Unit 5: Youngest Female Pilot (1), How to express your opinion briefly 2

第10回 Unit 5: Youngest Female Pilot (2), Discussion 1

第11回 Unit 6: Flashfood App(1), Speed Reading 1

第12回 Unit 6: Flashfood App (2) Discussion 2

第13回 Unit 7: China's Video Game Restrictions Speed Reading 2

第14回 Unit 8: Giant Sequoia Trees a. 期末レポートについての説明 b. まとめと解説

3. 履修上の注意

Oh-Meiji のクラスウェブのディスカッション機能を活用して、担当者は依頼されたことを UP してもらい、意見等、シェアできるようにする。教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。また、Oh-Meiji にも 4 月に載せる。欠席が 5 回以上の場合、単位は取得できない。欠席、遅刻については減点をする。

授業形態については、コロナ感染の発生状況によって変わるため、詳しいことは 4 月の終わりに Oh-Meiji にてお伝えする。4 月は、まず、すべて対面授業とする。計画としては、教室における対面授業を 10 回程度、オンライン授業を 4 回程度とする予定である。4 月中にどの週をオンラインとするか Oh-Meiji にてお知らせする。変更がある場合は、前もって Oh-Meiji の「授業お知らせ管理」に載せる。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を自分の言葉で説明出来るように準備して授業に望む。各 Unit のトピックは新聞、インターネットなどで調べて、深い知識も得られるよう積極的に予習、復習をする。授業での英語でのプレゼンテーション担当者は順番に当てるので、責任をもって原稿を用意して取り組んで欲しい。

5. 教科書

CNN 10 Student News Vol.11 朝日出版 (2023) Fuyukiko Sekido 他著

ISBN 9784255 15695 8

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小課題については、締め切りの後、授業で解説をする。期末レポートの課題については、Oh-Meiji のシステムを通じて、レポート締め切りの翌週に配信する。

8. 成績評価の方法

期末レポート (40%)、Mini-プレゼンテーションと課題 (30%)、
授業中の参加と平常点 (30%)

9. その他

オフィスアワーと連絡方法については、第一回目の授業時にお伝えする。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(22)	1 単位	原功
2017～2021年度入学者 英語Ⅲ(22)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

この授業は「音声面からの英語力向上」をテーマとし、英語の音声の仕組みを学んだ上でその知識を発音とリスニングに生かす実践的な演習を行います。この授業で想定されている英語力は中級程度です。

毎週いくつかの発音記号を提示し、標準的な発音の仕方を解説した上で単語や文を各自発音し、英語らしい発音ができるようになることを目指します。単音の発音を定着させた上で、似た音との区別練習、文章や会話での発音練習を経て、早口言葉や歌、文章の朗読などの実践的な演習につなげます。また、発音の知識を生かしたリスニングのトレーニングも行います。

《授業の達成目標及びテーマ》

- 1) 発音記号を読めるようになること
- 2) 単語の標準的な発音を把握できること
- 3) 英文を分かりやすく読み上げられること
- 4) 文字を介さずに英語の音声を聞き取れるようになること

※農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回：a. 授業概要、履修上の注意、評価方法などの説明 b. 発音学習の基本トレーニング

第2回：Lesson 01, 02, 03 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第3回：Lesson 04, 05, 06 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第4回：Lesson 07, 08, 09 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第5回：Lesson 10, 11, 12 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第6回：Lesson 13, 14, 15 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第7回：Lesson 16, 17, 18 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第8回：Lesson 19, 20, 21 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第9回：Lesson 22, 23, 24 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第10回：Lesson 25, 26, 27 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第11回：Lesson 28, 29, 30 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第12回：Lesson 31, 32, 33 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第13回：Lesson 34, 35, 36 a. 発音解説・演習 b. リスニング演習

第14回：a. 期末試験 b. 今後の学習指針

3. 履修上の注意

1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。

2) 授業時数の3分の1を超える欠席(5回以上)は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。

3) 発音は実技です。したがって授業では音を聞いたり発音したりと、能動的な学習姿勢が求められます。得手不得手はともかく声に出して発音する意思のない人、居眠りをしている人、別の作業をしている人などは、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習は特に必要ありませんが、復習を重視してください。

その週に学習したことをまとめておく他、付属のCDあるいは音声ファイルを何度も聞くこと、それらに合わせて発音することは最低限行ってください。

その他、各自の興味関心に応じて各種ニュース動画や映画、音楽など様々な音声を聞くことを勧めます。また、今年度受講している英語科目の付属CDや音声ファイルを聞いたり、それに合わせて発音したりすることは、それらの科目の学習としても役立つことでしょう。

5. 教科書

『English Pronunciation for Communication (コミュニケーションへの英語発音演習)』南雲堂

6. 参考書

岩村圭南(2019) 『【改訂版】英語の正しい発音の仕方(基礎編)』研究社

岩村圭南(2019) 『CD【改訂版】英語の正しい発音の仕方(基礎編)』研究社

岩村圭南(2019) 『【改訂版】英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社

岩村圭南(2019) 『CD【改訂版】英語の正しい発音の仕方(リズム・イントネーション編)』研究社

こちらのウェブサイトでの学習は特に有効であると思われる。

[url]<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/features/pronunciation/>[url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題(ディクテーションなど)とOh-o! Meijiの「レポート」に提出する発音実技課題、Oh-o! Meijiへの出席登録の際に記入する授業へのコメントがあります。紙媒体の課題については提出後コメントをつけて返却し、発音実技課題はレポート提出画面の「教員からのコメント」でフィードバックを行います。授業へのコメントについては必要に応じて返信あるいは授業内で言及します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題・・・・・・・・20%

発音実技課題・・・・・・・・20%

授業へのコメント・・10%

期末試験・・・・・・・・50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (23)	1 単位	中村啓子
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (23)		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

このコースでは、身近なトピック、例えば、「Money」、「Trust」、「Our world」を通して日常生活や業務で使用される英語を学びます。テキストの音声、ビデオも活用し、会話の練習や、リスニング練習、必要な文法を復習し、語彙力を強化します。また、スピーキング・ストラテジーを学び、ロールプレイやディスカッション、プレゼンテーションなどの活動を通じて実践的な英語を身につけます。

〈授業の達成目標及びテーマ〉

特に日常生活で頻繁に使用される単語力の強化、リスニング力の向上、英会話を中心としたコミュニケーションのスキルアップを目標としています。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- (1) イントロダクション (シラバス、テキスト、クラス・ルールの説明など)
- (2) Unit 10 (Lesson A): Saving and spending (Warm-up video & Vocabulary) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (3) Unit 10 (Lesson A): Saving and spending (Listening & Speaking)
- (4) Unit 10 (Lesson A): Saving and spending (Grammar) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (5) Unit 10 (Lesson A): Review Test, Active English, Global Voices
- (6) Unit 11 (Lesson A): Right and wrong (Warm-up video & Vocabulary) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (7) Unit 11 (Lesson A): Right and wrong (Listening & Speaking)
- (8) Unit 11 (Lesson A): Right and wrong (Grammar) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (9) Unit 11 (Lesson A): Review Test, Active English, Global Voices
- (10) Unit 12 (Lesson A): The animal world (Warm-up video & Vocabulary) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (11) Unit 12 (Lesson A): The animal world (Listening & Speaking)
- (12) Unit 12 (Lesson A): The animal world (Grammar) [メディア授業 (オンデマンド型)]
- (13) Unit 12 (Lesson A): Review Test, Active English, Global Voices
- (14) a: まとめ b: 試験

尚、授業内容や進度は、受講者のニーズや受講生の人数など、必要に応じて変更する可能性があります。

3. 履修上の注意

・このコースの一部の授業はメディア授業科目として開講されます。メディア授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行われます。

・講義動画は原則月曜日の午前9時に Oh-o! Meiji システム上の「授業内容・資料」機能を通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。

・講義動画に対して、課題を同システム上の「レポート」機能へ、同じ週の水曜日午後5時までに提出することで、出席確認及び理解度確認を行います。

・対面授業では、ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

・予習: テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認、テキストの音声やビデオを視聴、テキストの読解問題に挑戦しましょう。

・復習: 授業で取り扱った表現の口頭練習を繰り返し行い、さらに定着させましょう。また、オンライン上の教材を活用し、音声や映像を視聴して復習しましょう。

5. 教科書

・『World Link, Combo Split 3B』, Fourth Edition (第四版) James R. Morgan and Nancy Douglas 著, (出版社: センゲージ・ラーニング), 2021年, ISBN: 978-0-357-50394-2 (『World Link 3 (全12課)』の後半のUnit 7からUnit 12が集約されている分冊版です)。

・春学期と秋学期で同一の教科書を使用します。

・教科書の音声、ビデオは、オンラインでアクセスできます。

6. 参考書

BBC Learning English: [url]<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>[/url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

口頭で行います。

8. 成績評価の方法

試験（レビュー・テスト、期末試験）70%、平常点（課題、貢献度）30%。遅刻は（授業開始後30分までに入室）3回で欠席1回とみなします。授業回数の2/3以上の出席者が評価対象となります。

9. その他

教員への質問・相談窓口は、Oh-o! Meijiの「ディスカッション」機能で、または、そこに記載されている教員のメールアドレスで受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (24)

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (24)

1 単位

宮川敬子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の到達目標》

米英の質の高い新聞 (The New York Times, The Washington Post, The Guardian など) からコミュニケーション、労働、多様性、持続可能性などの様々な分野の記事を取り上げたリーディングテキストを読み、英語の4技能を向上させることを目標とします。

《授業の概要》

授業ではテキストを読み、練習問題や関連したトピックについてのディスカッションなどを行います。テキストは全15課で構成されており、春学期は奇数章、秋学期は偶数章を扱います。

2. 授業内容

第1回 : a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります)

b. Worm-up Exercise など

第2回 : Unit 2 Disappearing Languages (“絶滅危惧言語”を救え!)

第3回 : Unit 2 Exercise, Discussion & Speaking

第4回 : Unit 4 Escape from Burnout (“男性らしさ”の呪縛からの解放)

第5回 : Unit 4 Exercise, Discussion & Speaking

第6回 : Unit 6 The Runner Who Took a Stand (人種差別に抗った黒人ランナーの半生)

第7回 : Unit 6 Exercise, Discussion & Speaking

第8回 : Unit 10 In Search of Freedom (ウクライナ侵攻を批判したロシア人亡命者が辿った苦難)

第9回 : Unit 10 Exercise, Discussion & Speaking

第10回 : Unit 12 Hidden Network Inside the Forests (“マザーツリー”を守る-森の生態系を発見した女性科学者)

第11回 : Unit 12 Exercise, Discussion & Speaking

第12回 : Unit 14 Should A.I. Contend for Art Prizes? (AI 作品が絵画賞を受賞-その後の波紋)

第13回 : Unit 14 Exercise, Discussion & Speaking

第14回 : a. 期末テスト

b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

春学期は主に奇数の章を秋学期は主に偶数の章を扱います。1年を通して受講することによってテキストを1冊読み終えることになります。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習は必ず行ってください。[u]全文の日本語訳を書いてくるのではなく[/u]、語彙の意味と各パラグラフの要点などを簡単に余白にメモしておくだけにとどめることが大切です。日本語は自ずと出てきますから。また予習の段階でよくわからなかった部分には印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speaking に関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います。

5. 教科書

[u]Stories of the World We Live In [/u]「クオリティペーパーで読む私たちが生きる世界」(2024, 金星堂)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書を持参すること。授業中スマホやタブレットなどでの語句の検索は認めません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。

また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。

8. 成績評価の方法

授業中の参加と課題30%、各種テスト(予習テスト、小テスト、期末テスト等)70%をもとに総合的に評価します。また欠席が1/3(5回以上)を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィス・アワー : 火曜 12:30-13 :20 (中央棟 3F 講師控室)

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (25)

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (25)

1 単位

宮川敬子

1. 授業の概要・到達目標

《到達目標》

実践的な英語力を効率よく向上させることを目標とするクラスです。リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能を練習します。リーディングは1文ずつ訳を付けるという段階からステップアップし、パラグラフ単位、文章全体の流れと要点を理解できるよう練習します。リスニングは、音を拾う段階からフレーズを聞くという段階へ、さらには文、パラグラフの理解へとステップアップしましょう。自分の意見を端的にまとめて表現する練習も行います。

《授業の概要》

海外メディア動画を使って近年の社会問題を取り上げたテキストを使用し、動画に出てくる語句や口語表現、文化背景知識なども学びながら、4技能を伸ばす練習をします。テキストはテーマの14章で構成されていますが、春学期は奇数章、秋学期は偶数章を扱います。

2. 授業内容

第1回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります)

b. テキストの構成と授業の進め方などの説明

第2回：Unit 2: The Global Shift to Renewable Energy「世界は再生可能エネルギーへ」Phase 1-2

第3回：Unit 2: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第4回：Unit 4: The Search for a Perfect Partner「理想のパートナーはいるのか？」Phase 1-2

第5回：Unit 4: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第6回：Unit 6: Green Fabrics: Toward a Sustainable Fashion Industry「環境に優しい服」Phase 1-2

第7回：Unit 6: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第8回：Unit 8: Emerging Forms of Family「新しい家族の形」Phase 1-2

第9回：Unit 8: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第10回：Unit 10: Mission to Make Space Exploration Sustainable「持続可能な宇宙開発とは」Phase 1-2

第11回：Unit 10: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第12回：Unit 14: Women Finding Their Strength「女性の「強さ」とは？」Phase 1-2

第13回：Unit 14: Viewing & Output Task: Phase 3-4

第14回：a. 期末テスト

b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

春学期は奇数章、秋学期は偶数章を読みます。春秋両方受講すると1冊読み終えます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

扱う章に注意して予習をしてください。設問に答えるだけでは不十分です。リーディングの内容はパラグラフ毎に要点を余白にメモするなどの準備が必要です。また、全文日本語訳を書いてくることは許可しません。単語の意味やパラグラフの要点のメモなどに留めるべきで、文章全体の意味は日本語で自然に説明できるはずで、

英語は触れている時間が長いほど上達するものです。普段からラジオの英語放送やテレビの2カ国語放送、映画、英字新聞、英文雑誌などを利用して、英語を聞いたり読んだりする時間を増やすようにしましょう。

5. 教科書

[u]Integrity: Advanced[/u] 「海外メディア映像から深める4技能・教養英語上級編」(2023, 金星堂)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業中スマホやタブレットでの語句の検索は認めません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定。

また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定。

8. 成績評価の方法

授業中の参加と課題30%、各種テスト（予習問題テスト、小テスト、期末テスト等）70%をもとに総合的に評価します。また欠席が1/3(5回以上)を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィス・アワー：火曜 12:30-13:20（中央棟3F 講師控室）

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (26)	1 単位	平野桃子
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (26)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

[i]Hear Here!-Practical Listening Skills in Real-Life Situations[/i]を教材として利用し、基礎的なリスニング力を付ける練習をします。インプット（リスニング）からアウトプット（スピーキング）に繋げましょう。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

またこのクラスは、授業内容が基礎・初級レベルであるため、成績点がよい場合でも、S、A、およびBの成績評価はつきません。

《授業の到達目標》

基礎的なリスニング力を付けることを目標とします。繰り返し聞いて英語の音に慣れ、聞き取る力を付けると同時に、聞こえた音を自分で発音できるようにします。そして各 Unit のトピックに関して、自分の言葉で発信できるようにしていきます。

2. 授業内容

この科目はメディア授業（オンデマンド型）を行う回があります。

第1回 a: インタロダクション（授業の進め方と成績評価基準）

b: Unit1: Who Are All These People?

*以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。

第2回 Unit2: I'm a Bookworm

第3回 Unit3: Spill the Beans! [メディア授業（オンデマンド型）]

第4回 Unit4: This Is Your Captain Speaking

第5回 Unit5: Blow Out the Candles! [メディア授業（オンデマンド型）]

第6回 Unit6: Everything Came from My Own Brain

第7回 Unit7: That Seems Reasonable [メディア授業（オンデマンド型）]

第8回 Unit8: Home Sweet Home

第9回 Unit9: I Bet You Have a Sweet Tooth [メディア授業（オンデマンド型）]

第10回 Unit10: My Ears Are Ringing!

第11回 Unit11: She Sounds Promising [メディア授業（オンデマンド型）]

第12回 Unit12: I Have 22 Million Followers

第13回 Unit13: You're in Good Shape! [メディア授業（オンデマンド型）]

第14回 a: まとめ

b: 期末試験

3. 履修上の注意

各回の授業で扱う範囲の予習をするようにして下さい。自身の専攻や分野にとらわれず、様々な主題に触れながら英語を使って幅広い知識を吸収したいという学生を歓迎します。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。また授業開始後20分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者と欠席扱いとなります。

この授業は3、5、7、9、11、13回目がメディア授業になります。課題の提出期限の後、解答・解説動画が配信されます。動画は当該学期中の視聴が可能です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業には辞書を持参して下さい。

予習、復習としてテキストの音声ファイルを繰り返し聞くようにして下さい。分からない単語は事前に調べておいて下さい。

授業中に小テストを行います。範囲を復習して臨んで下さい。

5. 教科書

Anthony Allan

[i]Hear Here!-Practical Listening Skills in Real-Life Situations[/i] (National Geographic Learning)

6. 参考書

特に定めなし。

7. 課題に対するフィードバックの方法

対面授業では口頭で行います。オンライン授業の課題には Oh-o!Meiji でフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%で総合的に評価する。

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (27)	1 単位	下永裕基
2017～2021 年度入学者 英語Ⅲ (27)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

「語幹を軸にした語彙増強」(中・上級)

英語力を身につけるための骨格として、十分な語彙力は不可欠である。それは「英語が外国語だから」ではなく、英語を母語とする人々も同じであって、英語圏で成功している人々は皆、日常レベルをはるかに超えた語彙を備えていることがわかっている。

この授業では、英語圏の人々が長年、利用してきた信頼できる vocabulary building のワークブックをもとにした教材を使用し、英文を正確に読む訓練とあわせて語彙を増強する。ターゲットとなる英単語は主としてギリシア語・ラテン語に由来する hard words が中心であるが、教材の内容以外にも、授業では適宜、英語本来のゲルマン系の単語の語源についても扱って、語源を知る楽しみをも味わいたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

《授業の到達目標》

語彙増強としては、ギリシア語・ラテン語に由来する語彙を中心に体系的に学び、未知の語であっても語源的に推測できる力を身につける。

2. 授業内容

第1回 a インTROダクション(授業の進め方と成績評価基準)

b: 英語学習用ツールの紹介、担当範囲の確認など

* 以下、テキスト上の Session 番号です。

Session 24 以降を使用しますが、それ以前の内容には関係なく、独立した授業内容です。

第2回 Session 24 - 1 Ideas (1)

第3回 Session 24 - 2 Ideas (2)

第4回 Session 24 - 3 Ideas (3)

第6回 Session 25 - 1 About Keeping One's Mouth Shut / Better Left Unsaid

第7回 Session 25 - 2 Talk, Talk, Talk!

第8回 Session 26 - 1 A Spartan Virtue

第9回 Session 26 - 2 Brilliant / Back to Talk

第10回 Session 26 - 3 At Large / Words, Words, Words! / Roll on, and On!

第11回 Session 27 - 1 Front and Back --- and Uncles

第12回 Session 27 - 2 The Noise and the Fury / To Sleep or Not to Sleep --- That Is the Question

第13回 Session 27 - 3 A Walkaway / Back to Sleep / Noun Suffixes

第14回 a: 学期末試験

b: 解説および総括

* 講義内容、進度には必要に応じて変更を加えることがある。

3. 履修上の注意

辞書を携帯すること(電子辞書可)。

遅刻厳禁。

授業時の質問を歓迎するので、積極的な学習態度を期待します。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

・各回に指定した範囲を読み込み、和訳を用意し、指定の方法で提出する。不明な点があればその際に質問しておくことが望ましい。予習とは、自分には分からない点が具体的に何であるのかを明らかにすることだからである。

・テキストには練習問題が付されているが、それには解答がついているので、授業では扱わない。各自で取り組むこと。

5. 教科書

Oh-o! Meiji クラスウェブから PDF ファイルをダウンロードすること。

6. 参考書

織田哲司『英語の語源探訪』(大修館書店)

渡部昇一『英語の語源』(講談社現代新書)

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回課される「準備課題」へのフィードバックは各回授業の講読において、進度に応じて口頭で行い、クラスのテキスト理解を深めるために役立ちます。

8. 成績評価の方法

良好な出席状況(授業回数の3分の2以上)が、期末試験を受けるための必須条件である。

そのうえで、定期試験80%、授業への積極性20%。

9. その他

研究室は3号館4階、3-405にある。

オフィスアワー: 火曜16時~17時。水曜13時30分~16時。

オフィスアワー以外でも、在室時には可能な限り、対応します。

授業前後のコンタクトやメールを通して、日時の都合を合わせれば、確実です。
研究室連絡先 = ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (28)

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (28)

1 単位

行田 勇

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

ビジン・クレオール及びハワイの言語文化に関する英語文献を精読する。
受講者は指定された箇所を全訳したものを用意し発表する。
授業中の既習事項については毎回小テストを行い理解度の確認をする。

《到達目標》

言語学に関する英語文献の読み方を習得することを第一の目標とする。
将来的にBiolinguistics (統語論の進化論的及び生物学的ルーツの解明を目標とした研究) の専門書を読めるようになる準備をする。
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 機器の使用方法, 教材の入手方法と予習の進め方, 単位認定等についての詳しい説明, 小テスト
第2回~第13回 テキストの精読・小テスト
第14回 まとめ
授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

第1回目は単なるイントロダクションではないので, [u]履修を迷っている場合でも必ず出席すること [/u]。
毎回出席することは「当然の義務」であるから, 欠席・遅刻・早退についてはそれぞれ大幅に減点をする。
皆勤とは無縁の学生にはお勧めしない。

課題未提出の場合には、大幅に減点する。

理由のいかんにかかわらず提出期限を過ぎたものや形式等に不備があるものは無効となる。
また、指示に従わず内容が不十分な場合にも評価対象外となることがある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ配布された英文資料を全訳し、毎回授業前に提出する。
準備にかなりの時間を要することを覚悟すること。

5. 教科書

特に定めない。

英文資料の入手方法については第1回の授業で説明する。

欠席した場合には第2回以降の授業に参加できないなど支障をきたすことがあるので注意すること。

6. 参考書

授業中に指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に詳細に解説するので、各自で丁寧に添削する必要がある。

また、この添削済のノート原本は、学期末に提出する必要がある（評価対象）。

8. 成績評価の方法

毎回の小テスト 40%、平常点（提出物・授業中の発表および添削等）60%の総合評価である。

授業中に各自で添削したノートの原本は、授業の終盤に提出する必要がある（評価対象）。

授業回数数の3分の2以上に参加していない者は成績評価の対象から外す。

評点算出方法等については、第1回の授業で詳細に説明する。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示する。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (29)

1 単位

平野桃子

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (29)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

Charles Dickens による小説[*Oliver Twist*]を、Oxford Bookworm 版で読みます。[*Oliver Twist*]は 19 世紀のイギリス小説です。作者の Dickens はディズニーがアニメ化もした[*A Christmas Carol*]等も書いていて、イギリスの大作家の一人です。[*Oliver Twist*]は世界で最も発展した国であった当時のイギリス社会が抱えていた闇、下層階級の人々を色濃く描いています。悪がはびこるロンドンの下町で、懸命に生きる少年オリヴァーの物語です。小説の内容を楽しみながら、英文理解や語彙の増強をします。

農業科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目です。

《授業の到達目標》

Oxford Bookworm は原作を少し容易にしたリトルド版です。これを使って英語で書かれた小説を 1 冊読破しましょう。内容理解に留まらず、内容に関する考察をしたり、単語や文法にも目を向けます。

2. 授業内容

この科目はメディア授業（オンデマンド型）を行う回があります。

第 1 回 a: イントロダクション（授業の進め方と成績評価基準など）

b: Story Introduction

* 以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります。

第 2 回 Chapter1: Oliver's early life/ Chapter2: Oliver's first job (1)

第 3 回 Chapter2: Oliver's first job (2)/ Chapter3: Oliver goes to London [メディア授業（オンデマンド型）]

第 4 回 Chapter4: Oliver in London

第 5 回 Chapter5: Oliver's life changes/ Chapter6: Oliver is found again (1) [メディア授業（オンデマンド型）]

第 6 回 Chapter6: Oliver is found again (2)/ Chapter7: The robbery (1)

第 7 回 Chapter7: The robbery (2)/ Chapter8: After the robbery (1) [メディア授業（オンデマンド型）]

第 8 回 Chapter8: After the robbery (2)/ Chapter9: Oliver starts another life

第 9 回 Chapter10: Life in the country [メディア授業（オンデマンド型）]

第 10 回 Chapter11: Nancy makes a visit (1)

第 11 回 Chapter11: Nancy makes a visit (2)/ Chapter12: Nancy keeps an appointment (1) [メディア授業（オンデマンド型）]

第 12 回 Chapter12: Nancy keeps an appointment (2)/ Chapter13: The end of the gang (1)

第 13 回 Chapter13: The end of the gang (2)/ Chapter14: The end of the mystery [メディア授業（オンデマンド型）]

第 14 回 a: まとめ

b: 期末試験

3. 履修上の注意

各回の授業で扱う範囲の予習、復習をするようにして下さい。英語力向上に意欲のある学生を歓迎します。

全日程の 3 分の 1 以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とします。遅刻は 3 回で 1 回分の欠席とみなします。また授業開始後 20 分以上遅れて来た者、教科書を持って来なかった者も欠席扱いとなります。

この授業は 3、5、7、9、11、13 回目がメディア授業になります。課題の提出期限の後、解答・解説動画が配信されます。動画は当該学期中の視聴が可能です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

学習内容を確認するための小テストを適宜行う予定ですので、学習内容の復習をするようにして下さい。

各週の範囲を事前に一読し、単語調べをしておいてください。

5. 教科書

Charles Dickens

[*Oliver Twist*] (Oxford Bookworm 6)

(Oxford University Press)

6. 参考書

特に定めなし。

原作小説はコピーして配布します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

対面授業では口頭で行います。オンライン授業のフィードバックは Oh-olMeiji を使って行います。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%、小テスト 20%、授業への参加度 30%で総合的に評価する。

9. その他

質問や相談は授業時間の前後、あるいは email で受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (30)	1 単位	貝塚泰幸
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (30)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

Roger Lancelyn Green によって現代語に書き直された中世ヨーロッパのアーサー王物語のなかでも特に「聖杯探究の物語」を読み、ファンタジー映画や日本の漫画・アニメの源泉となっているアーサー王文学の世界を味わう。現代を生きる私たちと中世ヨーロッパ文学との間には、思想や信仰・文化の面で大きな隔たりがあるのは確かだが、同時にそこには現代の人々を引きつける普遍的な魅力がある。

《授業の到達目標》

難解な英文を精読を通して読解力と語彙力を向上させるとともに、物語の登場人物への共感能力や英文を多様に解釈する洞察力を養うことを目的とする。また教養としての中世ヨーロッパ文学と文化に関する知識を身につけ、異国の古い文学と文化、宗教、倫理的価値観などに対する知見を広めることも目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

- a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明
- b. Introduction

第2回：英文精読・考察およびディスカッション

第3回：英文精読・考察およびディスカッション

第4回：英文精読・考察およびディスカッション

第5回：英文精読・考察およびディスカッション

第6回：英文精読・考察およびディスカッション

第7回：英文精読・考察およびディスカッション

第8回：英文精読・考察およびディスカッション

第9回：レポートの書き方

第10回：英文精読・考察およびディスカッション

第11回：英文精読・考察およびディスカッション

第12回：英文精読・考察およびディスカッション

第13回：英文精読・考察およびディスカッション

第14回：英文精読・考察およびディスカッション

* 授業内容は進度などに応じて変更する場合がある。

3. 履修上の注意

学生は自らの意見を自発的に表現することで、積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、多様な解釈が可能性のある英文を探すとともに、該当する英文についてはその読みを考えておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。

準備学習が不十分であった場合や、授業への参加態度が不適切な場合（私語やスマートフォンの使用など）には成績より減点する。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。

遅刻・早退は3回で1回分の欠席とし、授業開始後30分以上遅れて来た者および授業終了30分以内に退出した者も欠席とみなす。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語については授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。また特に難解な箇所や理解できない点に関しては学生全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。

5. 教科書

プリント配布

6. 参考書

Roger Lancelyn Green, [i]King Arthur and His Knights of the Round Table[/i] (Puffin Classics, 2008).

フィリップ・ヴァルテール 著、渡邊浩司・渡邊裕美子 訳 『アーサー王神話大事典』（原書房）

アンドレア・ホプキンズ 著、山本士郎 訳 『図説アーサー王物語』（原書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内容に関する質問等はフィードバック・シートおよび授業の前後に受け付ける。

8. 成績評価の方法

レポート 70%

授業への貢献度 30%（和訳提出、授業内の質疑応答・発言など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (31)	1 単位	松井恭子
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (31)		

1. 授業の概要・到達目標

ブレクジット後の英国、英国の人気スポーツ、21世紀の英国人は大英帝国時代をどう思っているのか、ラジオ・テレビを一括運営するイギリスの公共放送局BBC (British Broadcasting Corporation) は、公平性を保ち、真実を伝えているのか、英国の宗教とは、英国階級社会はどう変わったか、など英国の今について書かれた読みやすいエッセイを読む。また、トピックに関する参考資料も配布し、関連のある映画も観賞する。

英国の社会事情を読解し、パラグラフの構成の正確な理解を目指し、精読・速読する力をつけながら、知見を広げる。関連した英文資料も配布し、読解に役立てる。エッセイを読解し、そして、クラスメートと楽しく、学んだことについて英語で意見を出し合う練習も行い理解を深める。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション（評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明）

Chapter 8: Tourism (1)

第2回：Chapter 8: Tourism (2)

第3回：Chapter 9: Post Brexit Britain (1)

第4回：Chapter 9: Post Brexit Britain (2)

第5回：Chapter 10 Leisure & Sport in the UK

第6回：Chapter 11: British Empire (1)

第7回：Chapter 11: British Empire (2)

第8回：Chapter 12: Media in the UK

第9回：Chapter 13: Regions of Britain (1)

第10回：Chapter 13: Regions of Britain (2)

第11回：Chapter 14: God and Dog

第12回：Chapter 15: Class and Money (1) 映画『マイフェア・レディー』と階級 1

第13回：Chapter 15: Class and Money (2) 映画『マイフェア・レディー』と階級 2

第14回：まとめと解説& 期末テスト

3. 履修上の注意

春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、春学期はテキストの Chapter1 から Chapter 7 の前半、秋学期はテキストの Chapter 8 から Chapter 15 の後半を扱い重複していない。

授業形態については、詳しいことは10月の終わり頃に授業中また、Oh-Meiji「授業お知らせ管理」にてお伝えするが、14回中、おおよそ5回はZOOMによるリアルタイムのオンライン授業、9回ほどを対面授業とする計画である。但し、9月全部と10月3週目あたりまでは、すべて対面授業とする。変更がある場合は、前もってOh-Meijiの「授業お知らせ管理」に載せる。

教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。また、Oh-Meijiにも9月に載せる。欠席が4回以上の場合、単位は取得できないので気を付けて下さい。

お渡しする資料は、忘れずに授業に持参してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を理解出来るように準備して授業に望む。単語力をつけるために予習と復習もしてください。自分の意見や調べたことを発表する学生を順番に当てるので、準備をして取り組んでください。

5. 教科書

Modern Britain: Culture Society and History. 『現代英国の文化・社会・歴史』
James C. House and Michiko Miyoshi 著 (松伯社) 2021年. ISBN 9784 881987674

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できます。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小課題については、締め切り後、授業で解説をする。期末レポートの課題については、Oh-Meijiのシステムを通じて、レポート締め切り日の翌週に配信する。

8. 成績評価の方法

期末レポート (40%)、英語で自分の意見を発表 (30%)、
Group Discussion と授業の平常点 (30%)

9. その他

オフィス・アワーと email 等の連絡方法は授業中に指示する。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (32)	1 単位	織田哲司
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (32)		

1. 授業の概要・到達目標

英文法への理解を深める

《授業の達成目標及びテーマ》

これまでは英文法をただ規則として覚えるだけであったかもしれないが、ここではときにはその歴史的な成り立ちにも言及しながら、システムとして「なぜこう言うのか」に焦点を当てながら英文法への理解を深める機会にしたい。

《授業の概要》

したがって、文法説明はこれまでとは違う切り口で行われるはずである。秋学期の「英語 III」は基本 5 文型を中心に英文法を解説する。受講者は解説を聞くだけでなく、例文を訳したり、英語を書いたりしながら英文法を身につけられるようにする。できるだけ多くミニテストも用意する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回 イントロダクション：ことばと化学記号は同じなのかがうのか

第 2 回 Time flies like an arrow を訳してみよう

第 3 回 文法用語の確認と整理

第 4 回 品詞 1

第 5 回 品詞 2

第 6 回 品詞 3

第 7 回 文の構造

第 8 回 文の要素

第 9 回 文型 1

第 10 回 文型 2

第 11 回 文型 3

第 12 回 文型 4

第 13 回 文型 5

第 14 回 a: まとめ b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

充分な予習、復習と出席はいうまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、受講者は日頃からことばそのものに関心を持ち続けることが必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業に臨む前に以下のような要領で予習することが重要である。

1. 英和辞典を活用する—単語を調べる

事前に辞書を調べ、知らない単語の意味や発音をチェックしておく。教科書（資料）の余白のみならずノートに記入しておくことよい。またその単語はどのような文脈で使われるか、使い方の特徴はなにか、そういう点に目を向けるのも準備としてすぐれた態度である。その使い方が歴然として分かるような用例を辞書にあげてある文をノートに記入しておくことよい。

授業中、理解できなかった点や、いまひとつ理解がいかず曖昧な点は、教員に質問をして、次回までに疑問を残さないように、心がけることが重要である。

とくに英作文の準備には和英辞典で調べた単語や表現をもう一度英和辞典で確認することが必要である。そうすることが日本語訛りの少ない、より自然な英語への近道となる。

自宅等における予習には冊子体の辞典クラスの利用を勧める。電子辞書類の使用を否定するものではないが、電車の中や授業時など、臨時的な使用に適しているため、冊子体の辞書と電子辞書類をうまく使い分けることが大切である。

2. 百科事典を活用する—単語以外のさまざまな事項を調べる

たとえばテキストのなかに人名が出てきた場合、これがどの国の人か、どの時代の人か、何をした人か、などを百科事典を参照して、自分から進んで調べておくことよい。

以上のように、もちろんすべて完全に調べつくす必要はないが、できるだけ広い範囲から辞書類、文献にあたることを勧める。

さらに書物だけにとどまらず、自分の五官を通して体験する予習も好ましい。

3. 自分の五官を活用する

これは辞書類からの知識だけでなく自らの目や耳、舌などをあらゆるチャンネルを通してテキストに関連する事項を体験することである。たとえば音楽や絵画の話題が出てきたとすれば、実際にそれを聴いたり観たりする、そのためには実際に会場に行ってみることもできるがビデオや DVD を活用すれば便利である。あるいはインド料理の話題が出てきたとする。そのときにはレストランで実際に食べてみる。そういう点まで踏み込んで調べておくと、講義はいっそう楽しいものになるはずである。

5. 教科書

Oh-o! Meiji System を利用して教材を配付する。

6. 参考書

いざというときに頼りになる文法解説書を手元にもっておくことが重要である。代表的な解説書を挙げておく。

中級者向け：『ロイヤル英文法』綿貫、須貝、宮川、高松（著）（旺文社）

上級者向け：『英文法解説』江川泰一郎（著）（金子書房）

さらなる参考書について必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回授業分の課題小テストについては次の回の授業冒頭で解説を行う。

8. 成績評価の方法

年間授業回数の 2/3 以上の出席者が評価対象となる。小テスト 40%、期末テスト 40%の配分、授業中のパフォーマンス 20%で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第IV研究室（3号館3階3-406）

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40～13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(33)	1 単位	瀬端 睦
2017～2021年度入学者 英語Ⅲ(33)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

映画『ラブ・アクチュアリー』を題材として、映画のシーンのリスニングを行う。映画の背景知識の力をつけると同時に、映画のシーンの聞き取りでリスニング力も鍛え、シャドーイングやロールプレイをすることによってスピーキングの力もつける。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

《授業の概要》

映画で使用される語句や口語表現を学ぶと同時に、映画の視聴を基にしたリスニングや背景知識を学ぶことによって、映画のストーリーや背景知識を理解できるようになる。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション (授業の進め方、成績評価の仕方など)

b: “ラブ・アクチュアリー” 概要

第2回: Unit 5 It's For You 前半

第3回: Unit 5 It's For You 後半

第4回: Unit 6 You're Beautiful 前半

第5回: Unit 6 You're Beautiful 後半

第6回: Unit 7 Merry Christmas 前半

第7回: Unit 7 Merry Christmas 後半

第8回: Unit 8 The Time to be With the People You Love 前半

第9回: Unit 8 The Time to be With the People You Love 後半

第10回: Unit 9 All I Want Is Christmas Is You 前半

第11回: Unit 9 All I Want Is Christmas Is You 後半

第12回: Unit 10 Let's Review 前半

第13回: Unit 10 Let's Review. 後半

第14回: a: 授業内容のまとめ

b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

映画『ラブ・アクチュアリー』とイギリス文化に興味を持って授業にのぞむこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について、辞書を使って分からない単語を調べて予習をしてくること。リスニングの問題を繰り返し聞いて、復習すること。

5. 教科書

映画総合教材『ラブ・アクチュアリー』Richard Curtis 著 松柏社 2014年

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックします。

8. 成績評価の方法

期末テスト60%+平常点（授業態度、小テストなど）40%

9. その他

オフィスアワー：授業後に対応する。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(34)	1 単位	松井恭子
2017～2021年度入学者 英語Ⅲ(34)		

1. 授業の概要・到達目標

英国の作家ダフニ・デュ・モーリエの代表作である『レベッカ』は、ラブロマンスであると同時に見事なミステリー・サスペンスである。今も心理サスペンスの名作と認められているこの小説の面白さを味わいましょう。

貧しいけれど若く清純なイギリス人女性「私」が物語の語り手である。「私」は年配の婦人に彼女の世話係として雇われ、南フランスへの旅に同行していた。その旅先で貴族のマキシム・デ・ウィンターに出会う。マキシムは、一年前に事故で妻、レベッカを亡くしていた。二人は惹かれ合い、ある日突然「私」はマキシムから結婚を申し込まれる。

マキシムはイギリスの南西のマンダレイに大邸宅を所有している。手入れされていない野花、高い崖の下には海、そのような野性的な海岸に屋敷は建っている。マキシムの愛を信じ、屋敷に住み始めた「私」は強い不安を感じ始める。屋敷には前妻レベッカの存在を未だ強く主張する品々や屋敷の使用人が語る才色兼備だった前妻のレベッカの評判に「私」は不安と嫉妬に苛まれる。後半、座礁した古い船が発見されるところから、レベッカの意外な秘密が明かされ、息詰まるサスペンスに満ちたクライマックスへと展開する。

この作品から、アルフレッド・ヒッチコック監督によるサイコスリラー映画『レベッカ』が制作された。1940年のアカデミー作品賞を受賞し、高い評価を得ている。どんでん返しのような作り方も見事なこのサスペンスの傑作映画も鑑賞し、この映画と原作『レベッカ』と比較し、クラスでのディスカッションに繋がりたい。

授業では、物語を原作より全体のページ数を減らし、平易な現代英語に書き直され、英語学習者が読書を楽しめるように工夫された Graded Readers 版の『レベッカ』を読んでいくので読み易いと思われる。その他、皆さんが興味を持つと思われる箇所については、適宜、英語の原文を印刷したプリントをお渡しする。

また、読解力を深めていくことを主眼として、簡単な自分の感想を英語で述べ、クラスメートと意見を交換し合う機会も設けたいと考えている。物語をクラスのみならず味わう楽しみをもてるように進めたい。また、朗読することから発音や英語の読み方の練習、アドバイスをしていく。

2. 授業内容

第1回 インTRODクダクション（評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明）

Chapter 1 Maxim de Winter & Introduction (1) 作品の時代、歴史、背景

第2回 Chapter 1 Maxim de Winter & Introduction (2), 作品の時代、歴史、背景 資料 1

第3回 Chapter 2 Manderley. 映画

第4回 Chapter 3 The Cottage in the Bay 映画

第5回 Chapter 4 The Shadow of Rebecca 映画

第6回 Chapter 5 Rebecca's Room

第7回 Chapter 6 The Fancy-Dress Dance (1) 映画

第8回 Chapter 6 The Fancy-Dress Dance (2) & Chapter 7 The Sunken boat (1)

内容に関する 資料 2

第9回 Chapter 7 The Sunken boat (2) 映画

第10回 Chapter 8 The Inquiry (1) Discussion 1

第11回 Chapter 8 The Inquiry (2) 映画

第12回 Chapter 9 Favell Accuses Maxim Discussion 2

第13回 Chapter 10 The Visit to Dr Baker (1) 映画

第14回 Chapter 10 The Visit to Dr Baker (2) Discussion 3

a. まとめと解説 b. 期末レポートについての説明

3. 履修上の注意

授業形態については、詳しいことは10月の終わり頃に授業中また、Oh-Meiji「授業お知らせ管理」にてお伝えするが、14回中、5回はZOOMによるリアルタイムのオンライン授業、9回ほどを対面授業とする計画である。9月全部と10月3週目あたりまでは、すべて対面授業とする。変更がある場合は、前もってOh-Meijiの「授業お知らせ管理」に載せる。

教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。また、Oh-Meijiにも9月に載せる。欠席が4回以上の場合、単位は取得できないので気を付けて下さい。

お渡しする資料は、忘れずに授業に持参してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に授業で読む箇所は、予め読んで予習をする。内容の感想・意見などについて、担当者は自分の言葉で説明出来るように準備して授業に望む。担当者は順番に当てる予定である。クラスメートがよく理解できるよう、原稿を用意して取り組んで欲しい。

5. 教科書

Rebecca. Daphne de Maurier 著. Pearson English Readers 978 14058 62479

6. 参考書

プリントとして渡す資料は、授業時にお渡しし、読解に役立て解説もします。

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小課題については、締め切りの後、授業で解説をする。期末レポートの課題については、Oh-Meiji のシステムを通じて、レポート締め切り日の翌週に配信する。

8. 成績評価の方法

期末レポート (40%)、音読の練習と自分の感想発表 (30%)、授業中の参加と平常点 (30%)

9. その他

オフィス・アワーと email 等の連絡方法は一回目の授業中に指示する。Oh-Meiji にも載せる。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (35)	1 単位	伊達恵理
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (35)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

「英国事情を学ぶ」レベル(中級) 英語及び英語文化圏に対する理解を深める作業の一環として、英国事情を学びます。[i]Britain Today: Approached through Folk Song[/i] 『フォークソングの視点からみた現代イギリス』をテキストに用い、秋学期は、宗教と迷信、英国と近隣諸国との関係、労働と失業、母性のあり方をトピックとした4章を扱います。民謡を通じて、英国の歴史・文化伝統と社会、その中にかがわれる英国人の価値観を概観し、内容に応じて、随時視聴覚関連資料なども採り入れる予定です。

《授業の到達目標》

英国の民謡に関するリーディングを通じて英語論説文的確な読解を目指し、テキストから見えてくる英国の歴史・社会的背景や文化伝統、英国人の価値観の変遷について学ぶと同時に、英国人の考え方・感じ方への理解や親しみを深めることを目標とします。英国社会・文化においてよく用いられる表現・語彙に馴染み、音声教材によってイギリス英語の聴き取りに慣れることを目指すとともに、練習問題により英文読解・ライティング力の向上を目指します。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回: Introduction

第2回: Down in Yon Forest: The Search of Meaning (1) 本文読解①(パラグラフ構成, 構文, 意味内容, 語彙確認)

第3回: Down in Yon Forest: The Search of Meaning (2) 本文読解②

第4回: Down in Yon Forest: The Search of Meaning (3) 本文読解③, Exercises

第5回: The Plains of Waterloo: Attitudes to the French (1) 本文読解①(パラグラフ構成, 構文, 意味内容, 語彙確認)

第6回: The Plains of Waterloo: Attitudes to the French (2) 本文読解②

第7回: The Plains of Waterloo: Attitudes to the French (3) 本文読解③, Exercises

第8回: Hard Times of Old England: the World of Work (1) 本文読解①(パラグラフ構成, 構文, 意味内容, 語彙確認)

第9回: Hard Times of Old England: the World of Work (2) 本文読解②

第10回: Hard Times of Old England: the World of Work (3) 本文読解③, Exercises

第11回: The Cruel Mother: Motherhood (1) 本文読解①(パラグラフ構成, 構文, 意味内容, 語彙確認)

第12回: The Cruel Mother: Motherhood (2) 本文読解②

第13回: The Cruel Mother: Motherhood (3) 本文読解③, Exercises

第14回: a. 試験 b. まとめ

* 講義の進捗は必要に応じ変更することがあります

3. 履修上の注意

十分な予習(準備学習の項目を参照)、教員との質疑応答への積極的な授業参加が求められます。授業中の私語、特段理由のない中途退出など、他の受講生の迷惑になる行為は厳重に注意します。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]

ある程度分量のある長文を読むので、辞書を引いて単語・成句の意味を確認し、リーディング全体の構文・文法・意味内容を理解できるよう、また、テキストの設問や教員の質問に解答できるよう、十分準備をして下さい。前もって疑問点などを明確にしておくことで読解の助けとなります。日頃から、英国関連のニュース・情報にも目を配ると良いでしょう。

[復習]

授業でパラグラフ内の語彙や構文、テキストの意味内容を確認した後は、各章リーディング全体の文章構成、論旨の展開を理解し見通せるよう、復習すること。また、各パラグラフで学んだ語彙・成句について、知らない語句、忘れていた語句は必ずチェックし、注意すべき発音も確認して下さい。

5. 教科書

[i]Britain Today: Approached through Folk Song[/i] 『フォークソングの視点からみた現代イギリス』 Simon Rosati 著 (英宝社)

6. 参考書

副教材として随時プリントなどを配布。

7. 課題に対するフィードバックの方法

各 Chapter の予習課題・復習課題については、基本的に各回授業内で解説を行います。Oh-o!Meiji を通じて出された練習問題等については、Oh-o!Meiji 上にて解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、平常点(課題の提出とその内容、出欠状況・予習・質疑応答等の授業参加度、小テストなどの成績) 40%。 単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。(欠席は3回まで)

9. その他

オフィスアワー: 木曜日 12:50~13:20 中央棟 3F 講師控室
質問・連絡等は授業の前後に受け付けます。また、緊急の連絡の窓口として Oh-o!Meiji の「アンケート」を使用します。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(36)	1 単位	貝塚泰幸
2017～2021年度入学者 英語Ⅲ(36)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

グローバル社会の進展とともに、国内において英語能力検定試験の需要は高まってきている。特に TOEIC は、その手頃さから広く企業に認知・利用されている。そのため、分野を問わず TOEIC 受験はキャリア形成のために不可欠といえる。本授業は特に TOEIC のリーディング・セクションに重点を置いている。授業はテキストに沿って進めていき、毎回の語彙テストやペアワークなどを織り交ぜながら、文法事項について戦略的な復習と確認を通して TOEIC のスコアアップに必要な「語彙力」、「文法力」、「リーディング力」を養う。

《授業の到達目標》

TOEIC スコア 600 点以上を目指す。また、TOEIC だけでなく他の様々な英語能力検定試験に対応できる「語彙力」、「文法力」、「リーディング力」といった英語の基礎力を習得することを目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

- a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明
- b. イントロダクション

第2回：Section 1 Unit 1

第3回：Section 1 Unit 2

第4回：Section 1 Unit 3

第5回：Section 1 Unit 4

第6回：Section 1 Unit 5

第7回：Section 1 Unit 6

第8回：Section 1 Unit 7

第9回：Section 2 Unit 1

第10回：Section 2 Unit 2

第11回：Section 2 Unit 3

第12回：Section 2 Unit 4

第13回：Section 2 Unit 5

第14回：a. まとめ

- b. 期末試験

* 授業内容は進度などに応じて内容は変更される場合がある。

3. 履修上の注意

学生は積極的な授業参加が求められる。学生は指定された箇所の予習および復習は必須である。また毎回の授業には必ず辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中携帯電話やスマート・フォンを辞書などとして用いることは認めない。

準備学習が不十分であった場合や、授業への参加態度が不適切な場合（私語やスマートフォンの使用など）には成績より減点する。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とする。

遅刻・早退は3回で1回分の欠席とし、授業開始後30分以上遅れて来た者および授業終了30分以内に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者も欠席扱いとする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指定された範囲の意味のわからない単語については授業までに必ず調べた上で授業に臨むこと。難解な箇所や理解できない点に関しては学生全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。また復習と課題確認は特に重要となる。

5. 教科書

西谷敦子・James G. Wong 『[新訂版] TOEIC®テスト文法・読解頻出ポイント』（朝日出版社）

6. 参考書

TOEIC 公式サイト[url]https://www.iibc-global.org/[url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30%（予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はフィードバック・シートおよび授業の前後に受け付ける。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (37)

1 単位

瀬端 睦

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (37)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

TOEIC 形式の問題演習するとともに、頻出会話フレーズや文法事項の復習をすることで、テスト対策だけで終わらない、総合的な英語運用能力をつける。TOEIC のリスニングとリーディングのパートを交互に行う。

《授業の到達目標》

TOEIC 形式の問題に慣れ、リスニング、リーディングの問題がともに抵抗なく解けるようになる。リスニング、リーディングのスピードが上がることを目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目です。

2. 授業内容

第 1 回 a: イントロダクション (授業の進め方、成績評価の仕方などの説明)

b: Unit 7 Advertisement (リスニング Part1, 2)

第 2 回 Unit 7 Advertisement (リスニング Part 3, 4)

第 3 回 Unit 7 副詞 (リーディング)

第 4 回 Unit 8 Daily Life (リスニング)

第 5 回 Unit 8 前置詞 (リーディング)

第 6 回 Unit 9 Office Work (リスニング)

第 7 回 Unit 9 分詞 (リーディング)

第 8 回 Unit 10 Business (リスニング)

第 9 回 Unit 10 接続詞・関係詞 (リーディング)

第 10 回 Unit 11 Traffic (リスニング)

第 11 回 Unit 11 仮定法 (リーディング)

第 12 回 Unit 12 Finance and Banking (リスニング)

第 13 回 Unit 12 数量詞 (リーディング)

第 14 回 a: 授業内容のまとめ

b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

辞書を使って予習をすること。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

語彙、会話フレーズ、文法、リーディング (リスニングの演習問題以外) は、辞書を使って予習をしてくること。テキスト以外の TOEIC 形式の問題も解いてみる。

5. 教科書

『一歩上を目指す TOEIC Listening and Reading TEST: Level 4』北尾泰幸ほか著 (朝日出版社)

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックします。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%, 平常点 (授業参加度、小テストなどの成績) 40%

9. その他

オフィスアワー: 授業後に対応する

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (38)	1 単位	貝塚泰幸
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (38)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

グローバル化の進展とともに国と国との距離は狭まり、異なる言語を話し、異なる文化を背景とする人々との交流は我が国においても日常の風景となっておりつつある。その結果、他言語を話す人々とのコミュニケーション・ツールとして英語が広く用いられており、これまで以上に英語の運用能力の向上を目指す学生も多いことだろう。そこで英語そのものについての理解を深めるために教養として身につけておくべき内容、例えば英語の綴り字と発音、ビジン英語、英語の歴史やシェイクスピアの英語などに関する英文を読む。

《授業の到達目標》

難解な英文の精読を通して読解力と語彙力を向上させ、正確な英文読解と批判的な視点からのテキスト解釈を通して、学生が独自の意見を形成・発信できるようになることを目的とする。また英語を取り巻く現在の状況やその歴史と言語学的な特徴、そして和製英語やシェイクスピアの英語といった世界共通語としての英語の背後にある学術的、社会的、文化的な知識を教養として身につけることも目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

- a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明
- b. イントロダクション

第2回：Word Formation in English

第3回：Spelling and English Pronunciation

第4回：The Importance of Language

第5回：Language Learning

第6回：Slang

第7回：English in Scotland

第8回：Pidgin English

第9回：English and Other Indo-European Languages

第10回：Modern Linguistics

第11回：English Onomatopoeia

第12回：English through the Ages

第13回：Shakespeare and English

第14回：a. まとめ

- b. 期末試験

* 授業内容は進度などに応じて内容は変更される場合がある。

3. 履修上の注意

学生は自らの意見を自発的に表現することで、積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、多様な解釈が可能性のある英文を探すとともに、該当する英文についてはその読みを考えておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。

準備学習が不十分であった場合や、授業への参加態度が不適切な場合（私語やスマートフォンの使用など）には成績より減点する。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価の対象外とする。

遅刻・早退は3回で1回分の欠席とし、授業開始後30分以上遅れて来た者および授業終了30分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者も欠席扱いとする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

履修するすべての学生は予定される範囲の本文をあらかじめ熟読し、すべての設問を解答した上で授業に臨むこと。意味のわからない単語については授業までに調べ、おおよその内容を把握する必要がある。また特に難解な箇所や理解できない点に関してはクラス全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。

5. 教科書

赤楚治之, William Herlofsky, 清水克正, 『英語についての26章』（英宝社）.

6. 参考書

武内信一, 『英語文化史を知るための15章』（研究社）.

堀田隆一, 『英語の「なぜ?」に答えるはじめての英語史』（研究社）.

唐澤一友, 『世界の英語ができるまで』（亜紀書）.

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30%（予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はフィードバック・シートおよび授業の前後に受け付ける。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語Ⅲ (39)

2017~2021 年度入学者
英語Ⅲ (39)

1 単位

瀬端 睦

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

TED の教材を用いて、リーディングとリスニングの力を伸ばす。また、TED のプレゼンテーションを視聴することで、英語で発信する表現力についても学ぶ。

《授業の概要》

TED の動画を視聴し、それに関連したパッセージを読むことで、リーディングとリスニングの力をつけながら、社会的な問題についての理解を深める。また、TED のプレゼンテーションの仕方を学び、自分の意見を英語で発信できるようになる。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目です。

2. 授業内容

第 1 回 a : イントロダクション (授業の進め方、成績評価の仕方など)

b: Unit 6 Food Revolution : プレリーディング

第 2 回 Unit 6 Food Revolution

第 3 回 Unit 6 Teach Every Child About Food (読解)

第 4 回 Unit 6 Teach Every Child About Food (リスニング)

第 5 回 Unit 7 Power Poses

第 6 回 Unit 7 Your Body Language Shapes Who You are (読解)

第 7 回 Unit 7 Your Body Language Shapes Who You are (リスニング)

第 8 回 中間のまとめ

第 9 回 Unit 8 Kite Power

第 10 回 Unit 8 How I Harnessed the Wild (読解)

第 11 回 Unit 8 How I Harnessed the Wild (リスニング)

第 12 回 プレゼンテーション

第 13 回 プレゼンテーション

第 14 回 a: 授業内容のまとめ

b: 期末試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

次回の授業範囲について、事前に辞書を引いて予習しておくこと。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

リーディングの箇所を辞書を使って予習をしてこること。授業で扱った TED のリスニングを繰り返し聴き、余裕があれば、他の動画も見てみるここと。

5. 教科書

『21st Century Reading 2: Creative Thinking and Reading with TED Talks』 Laurie Blass ほか著 (センゲージラーニング)

6. 参考書

英語辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

期末試験 50% + プレゼンテーション 30% + 平常点 (授業への取り組み、小テストなど) 20% で総合評価する。

9. その他

オフィスアワー : 授業後に対応する

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (40)	1 単位	中須賀稚子
2017～2021 年度入学者 英語Ⅲ (40)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

〈現代アメリカを探る〉(中級)

秋学期の中級は、中級～中上級レベルである

英語で書かれた文章を読んで内容を理解する。これは、実はなかなか難しいことである。
書かれている英語を、文字だけでなく、その内容を理解するために必要なのが、背景知識である。

秋学期は、『ニューヨークタイムズ』の記事の抜粋を教科書にしたものを使用予定である。
記事で取り上げる内容はアメリカ以外の地域にも及ぶが、アメリカのニュースメディアが海外をどのように報じているか、という
外側の視点からアメリカの一端に触れよう、という趣旨である。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である

《授業の概要》

学生の発表に、教師が補足説明を加えることになる。出席者は全員予習を完璧にしてくるよう。

2. 授業内容

第1回：a イントロダクション

b 第1課 プラスチックなしの生活 その1

第2回： 同 その2

第3回：第2課 レジ袋は使えない

第4回：第3課 ケニアの食糧難

第5回：第4課 タイの危険なリサイクル

第6回：第5課 宿題を実際にやるのは？

第7回：第6課 教室の映像を全国に生配信

第8回：第7課 世界が変化するにつれて

第9回：第8課 出生地主義で妊婦はどこへ？

第10回：第9課 タブレットの中で猫を飼う

第11回：第10課 あなたのペット、クローンでよみがえります

第12回：第11課 食料品の廃棄を減らす

第13回：第12課 フェイク肉 vs リアル肉

第14回：a 秋学期まとめ

b 到達度確認試験

授業履修者の希望があれば、途中で中間試験を実施することもあり得る

授業の予定は必要に応じて変更の可能性がある。

3. 履修上の注意

必ず予習をして授業に出席すること。辞書を手元に置き、単語を丁寧に調べること。
興味を持っていただけるのが一番です。

授業中にパソコンを使うことは特に禁止しません。
自分が一番効率上がる学習スタイルで進めてください

2つ、お願いがあります。

その1

授業中に洗面所に立つ学生が、近年多く見られます。
教員も、他の学生も気が散る可能性もあるので、
教室内の出入りは、最小限にとどめるよう、自分の体を制御してください

その2

教科書を購入して授業を受けてください。
教科書を買わずにコピー（その他写メ等）で済ませる学生を散見します。
中須賀のクラスでは、コピー等で出席しても、それは欠席と扱います。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを読み、わからない単語は調べ、不明な点はどこか、を認識して授業に出席のこと。
授業内で問題を解決できるように。

5. 教科書

Beyond Borders 『ニューヨークタイムズ世界見聞』（英宝社、2021）

6. 参考書

授業内で指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

英語Ⅲ 中須賀 春学期
を参照の事

8. 成績評価の方法

筆記試験（中間を実施すれば中間試験＋到達度確認試験）60%、平常点（出席点ではない。積極的授業参加や課題提出など）40%の割合で評価を出す。
総合で60%以上に単位を認定する。

欠席は5回を超えると受験資格を失う。

遅刻は3回で欠席1回と換算するので注意のこと。

つまり、欠席と遅刻の減点を合わせて、授業の3分の1を超えると試験を受ける資格を失うので、
欠席、遅刻とも気を付けるようにしてください

また、授業出席と課題提出も不可分と考えてください。

授業に出席したが課題は未提出、または授業には欠席したが課題は提出した、は欠席扱いとなります。

ただし、授業は欠席したが課題を出した場合、点数を配慮するケースもあります

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12：45～13：15（いずれかの講師控え室）

科目ナンバー (AG)LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 英語Ⅲ(41)	1 単位	中村啓子
2017～2021年度入学者 英語Ⅲ(41)		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

このコースでは、基礎的な文法の復習を含め、日常生活や職場でよく使用される実践的な英語を中心に学習します。今学期に学習するトピックは、「正しい言い方」、「スタート・アップ」、「さて、次は」です。リスニング・スキルとスピーキング・スキルの向上に向けてビデオや音声を活用し、ペアやグループによる口頭練習を積極的に行います。

〈授業の達成目標及びテーマ〉

社会人の実生活にあるような題材や、国際的な様々な場面に応じた英語のフレーズや語彙の習得、コミュニケーション能力の向上、さらに異文化に対する理解を深めることを目標とします。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- (1) イントロダクション（シラバス、テキスト、クラス・ルールの説明など）
- (2) Unit 3: Travelling to work [メディア授業（オンデマンド型）]
- (3) Unit 3: Travelling to work
- (4) Unit 3: Travelling to work [メディア授業（オンデマンド型）]
- (5) Unit 3: Travelling to work
- (6) Unit 3: Review [メディア授業（オンデマンド型）]
- (7) Unit 3: Review test
- (8) Unit 4: Objects and designs [メディア授業（オンデマンド型）]
- (9) Unit 4: Objects and designs
- (10) Unit 4: Objects and designs [メディア授業（オンデマンド型）]
- (11) Unit 4: Objects and designs
- (12) Unit 4: Review [メディア授業（オンデマンド型）]
- (13) Unit 4: Review Test
- (14) a: まとめ b: 試験

尚、授業内容や進度は、受講者のニーズや受講生の人数など、必要に応じて変更する可能性があります。

3. 履修上の注意

・このコースの一部の授業はメディア授業科目として開講されます。メディア授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行われます。

・講義動画は原則金曜日の午前9時に Oh-o! Meiji システム上の「授業内容」機能を通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。

・講義動画に対して、課題を同システム上の「レポート」機能へ、翌週の月曜日午後5時までに提出することで、出席確認及び理解度確認を行います。

・対面授業では、ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認、テキストの音声やビデオを視聴、テキストの読解問題に挑戦しましょう。

・教科書の本文の音声とビデオは、インターネット上の www.oup.com/elt/internationalexpress から無料でダウンロード可能です。予習・復習に役立ててください。

・復習： 授業で取り扱った表現の口頭練習を繰り返し行い、さらに定着させましょう。また、オンライン上の教材を活用し、音声や映像を視聴して復習しましょう。

5. 教科書

『International Express, Pre-Intermediate, Student's Book with Pocket Book』, Keith Harding and Rachel Appleby 著, (Oxford University Press), 2014年, ISBN: 978-0-19-441826-3.

春学期と秋学期で同一の教科書を使用しますが、学習範囲が異なります。

6. 参考書

BBC Learning English: [url]<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>[/url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

口頭で行います。

8. 成績評価の方法

試験（レビュー・テスト、期末試験）70%、平常点（課題、貢献度）30%。遅刻は（授業開始後30分までに入室）3回で欠席1回とみなします。授業回数の2/3以上の出席者が評価対象となります。

9. その他

オフィスアワーは金曜日、12:30-13:10（中央校舎3階講師控室）です。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 英語Ⅲ (42)	1 単位	松井恭子
2017~2021 年度入学者 英語Ⅲ (42)		

1. 授業の概要・到達目標

レポーターが報告する学生にとって興味を引く映像を視聴し、次に関連したエッセイの読解を通じて世界における社会問題への理解を深めていく。単に情報のインプットだけにとどまらず、リスニング力の強化、英語の語彙の増強、自分の感想なりを英語で簡単に話す力をつけることを到達点として英語学習をすることを目指している教材である。ひとつのユニットは長くなくスクリプトもあり読み易く、4 技能のバランスの良い英語学習ができる教科書である。

取り上げている話題には、例えば、タリバンによりでは女性が大学に進学することが禁止され、苦悩するアフガニスタンの女子高校生、女性と男性の賃金格差に取り組む米国政府、トマトにより豊富なビタミンDを含むようにする従来の遺伝子組み換えとは異なる農業編集技術、超音速飛行機コンコルドの今後の復帰、アメリカの仮眠ポッドの成功と仮眠の効用、などがある。

リスニング力と読解力とをつけ、更に簡単な英文で簡単な感想を英語で話す練習も行う予定である。

各ユニットの理解を深めるために、教員が関連資料も配り解説する。クラスメイトと簡単な意見交換をしたり、英語で発信する練習を楽しく出来るよう進める。英語動画を活用してリスニング力、読解力をつけ、基礎的な英語スピーキング力をつけると同時に様々なジャンルの最新情報を知ることで見聞を広げる。ポキャブラリーを増やしていくことが求められる。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション (評価基準、クラスの進め方、予習の仕方などの説明)
- Unit 8: Afghan Girls Cling to Dreams as Taliban Continue Education Ban (1)
- 第2回 Unit 8: Afghan Girls Cling to Dreams as Taliban Continue Education Ban (2)
How to express your opinion briefly 1
- 第3回 Unit 9: Equal Pay Day Reminder of Pay Disparity Between Men, Women (1)
How to summarize passages.
- 第4回 Unit 9: Equal Pay Day Reminder of Pay Disparity Between Men, Women (2)
How to express your opinion briefly 2
- 第5回 Unit 10: New York School Offers Dual-Language Instruction (1)
Introduction part in your opinion 1
- 第6回 Unit 10: New York School Offers Dual-Language Instruction (2)
Body and conclusion parts in your opinion 1
- 第7回 Unit 11: Could Gene Edited Plants Play a key Part in Helping to Improve Global Food Inequality? (1)
The structure of your opinion or comment 1
- 第8回 Unit 11: Could Gene Edited Plants Play a key Part in Helping to Improve Global Food Inequality? (2)
How to show sources you make research. 1
- 第9回 Unit 12: New Supersonic Plane (1)
Discussion 1
- 第10回 Unit 12: New Supersonic Plane (2)
Discussion 2
- 第11回 Unit 13: University Students Back
発音練習 1
- 第12回 Unit 14: English Language Volunteer Teachers in Colorado Build Meaningful Connections for Immigrants
発音練習 2
- 第13回 Unit 15: Melting of Kashmir Glaciers Causes Concern About Water Shortages (1)
発音練習 3
- 第14回 Unit 15: Melting of Kashmir Glaciers Causes Concern About Water Shortages (2)
a. まとめと解説 b. 期末レポートについての説明

3. 履修上の注意

春学期と秋学期は同じテキストを使用するが、春学期はテキストの前半の Unit、秋学期はテキストの後半の Unit を扱い重複していない。

授業形態については、詳しいことは 10 月の終わり頃に授業中また、Oh-Meiji「授業お知らせ管理」にてお伝えするが、14 回中、おおよそ 5 回は ZOOM によるリアルタイムのオンライン授業、9 回ほどを対面授業とする計画である。9 月全部と 10 月 3 週目あたりまでは、すべて対面授業とする。変更がある場合は、前もって Oh-Meiji の「授業お知らせ管理」に載せる。

教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。また、Oh-Meiji にも 9 月に載せる。欠席が 4 回以上の場合、単位は取得できないので気を付けて下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を理解し、和訳出来るように準備して授業に望む。各 Unit のトピックはインターネットなどで調べて、予習すると理解しやすいであろう。音読する練習をする。授業での英語での自分の意見発表担当者は順番に当てるので、原稿を用意して取り組んで欲しい。

5. 教科書

Towards a Diverse Society 2 : Learning English through Video (2024)
Osamu Takeuchi 著他、松柏社。 978-4-88198-787-26.

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題については、締め切りの後、授業で解説をする。期末レポートの課題については、Oh-Meiji のシステムを通じて、レポート締め切りの翌々週後に配信する。

8. 成績評価の方法

期末レポート（40%）、課題（30%）、授業中の参加と平常点（30%）

9. その他

オフィスアワーや連絡方法については、第一回目の授業でお伝えする。Oh-Meiji にも載せる。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
科学英語(1)

2017~2021年度入学者
科学英語(1)

1 単位

原功

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

「科学英語」という授業を通じて身につけたいスキルは、専門文献や研究論文を自力で正確に読み取れるようになることです。そのためには、日常生活で使われる単語とは異なった学術用語を知らなくてはいけません、それで終わりというわけにもいきません。1文1文を正確に読み取り、背景知識を得て、パラグラフを理解し、文章全体を把握しなくてはなりません。そのためのトレーニングとして、短くまとまった難解な理科系の英文を自力で読み解きます。まずは難しいと感じることから始め、どのような知識をどのように活用すれば内容を理解できるようになるのかの手ほどきを行います。

〈授業の到達目標〉

- 1) 科学系の英文を自力で正確に理解するためのスキルを身につけること
- 2) 自分の考えを自力で正確に表現するためのスキルを身につけること

※農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回： a. 授業概要、授業の進め方、履修上の注意など b. 科学英語を理解するポイント

第2回： Unit 1 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第3回： Unit 2 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第4回： Unit 3 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第5回： Unit 4 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第6回： Unit 5 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第7回： Unit 6 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第8回： Unit 7 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第9回： Unit 8 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第10回： Unit 9 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第11回： Unit 10 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第12回： Unit 11 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第13回： Unit 12 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第14回： a. 期末試験・b. 解説、総括、今後の指針

3. 履修上の注意

- 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。
- 2) 授業回数の3分の1を超える欠席(5回以上)は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。
- 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、知らない単語が文章中にあるのは当たり前のことであると考え、未知の単語をピックアップしてその意味を調べておくこと、その週に扱うユニットに目を通し、分かりそうなところと難しいところを把握しておくことくらいは最低でも行ってください。それに加えて疑問点をいくつか持つておくこと、質問したいことをまとめておくことを期待します。

復習としては、記憶が新鮮なうちに新たに得た知識をまとめておくこと、CDまたは音声ファイルを、英文の意味が理解できるようになるまで繰り返し聞くこと、英文をすらすら読めるようになるまで音読すること、授業内容に関連した新聞記事やウェブ記事、専門書などを読むことが理想的です。

半期の学習を通じ、教科書の英文は自信をもって読める、同じくらいのレベルの英文は自力で読むことができる、さらに高度な英文でも理解するための手法が身につけている、という目標の元で取り組んでください。

5. 教科書

『Step into the World of Science (自然科学を読む：過去・現在・未来)』朝日出版社

6. 参考書

専門性の高い英文に専門用語や学術用語など、分からない単語があるのは当たり前であり、それらの意味は各自で調べて理解するしかなく、いくら英文を眺めていても分かるようにはなりません。そのためには辞書や学術用語集が必要ですが、電子辞書であれ紙媒体であれ、まずは手持ちの辞書を活用することから考えましょう。手持ちの辞書できちんと読めているうちは新しいものに手を出す必要はありません。教科書や学術書、雑誌記事や学術論文を読み進めていくと、ある時手持ちの辞書では太刀打ちできないと感じる時があるはずですが。その時にこそ、新しい辞書の購入を検討しましょう。何にせよ、辞書も持たずに教室に来るのはやめてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題(和訳や考察など)と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題(教科書掲載の Exercise)があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題 20%
授業へのコメント 10%

自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 科学英語(2)	1 単位	中村啓子
2017~2021 年度入学者 科学英語(2)		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

主に自然科学分野のテキストを読むリーディングが中心のコースです。テキストの内容に関する問題を解きながら読解力を身につけるとともに、科学分野で用いられる語彙を習得していきます。さらに、これまでに備わった自然科学分野の知識に加え、教科書の内容や、クラスメートとのディスカッションを通じ、クリティカル・シンキングスキル（批判的な思考力）も向上させます。

〈授業の到達目標〉

コース終了時には自然科学分野のテキストを読んで、その主旨を理解し、そのトピックに対する自分の考えを英語で表現できることを目標としています。

・農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回： イントロダクション（シラバスの説明、クラスルールズ、自己紹介など）
- 第2回： Unit 7A The flower trade [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第3回： Unit 7A The flower trade
- 第4回： Unit 7B The power of perfume [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第5回： Unit 7 Review Test and Video, Flowers from Ecuador
- 第6回： Unit 9A The teenage brain [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第7回： Unit 9A The teenage brain
- 第8回： Unit 9B Seeing double [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第9回： Unit 9 Review Test and Video, The global village
- 第10回： Unit 10A The big thaw [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第11回： Unit 10A The big thaw
- 第12回： Unit 10B Life on the edge [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第13回： Unit 10 Review Test and Video, The sled Dogs of Greenland
- 第14回 a: まとめ b: 試験

尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。

3. 履修上の注意

・このコースの一部の授業はメディア授業科目として開講されます。メディア授業はすべて、講義動画を 0h-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行われます。

・講義動画は原則月曜日の午前9時に 0h-o! Meiji システム上の「授業内容・資料」機能を通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。

・講義動画に対して、課題を同システム上の「レポート」機能へ、同じ週の水曜日午後5時までに提出することで、出席確認及び理解度確認を行います。

・対面授業では、ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認しテキストを読みましょう。
- ・復習： 単語や練習問題を復習しましょう。

5. 教科書

『Reading Explorer, 2B』(第三版), Paul MacIntyre and David BohLke 著, (出版社: センゲージ・ラーニング) 2020年, ISBN: 978-0-357-12366-9

注意: 使用するテキストは、Reading Explorer, Level 2 (全12課)のうち、後半の6課を集約した分冊版、「Split 2B」です。

6. 参考書

- ・自然と生物をテーマにしたTED: <https://digitalcast.jp/vc/nature/>
- ・バイオをテーマにしたTED: <https://digitalcast.jp/vc/biotechnology/> (字幕付きのものもあります)

7. 課題に対するフィードバックの方法

口頭で行います。

8. 成績評価の方法

試験（小テスト、期末テスト）70%、平常点（課題、受講態度）30%。遅刻（授業開始後30分までに入室）3回で欠席1回とみなします。授業回数の2/3以上の出席者が評価対象となります。

9. その他

教員への質問・相談窓口は、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」機能で、または、そこに記載されている教員のメールアドレスで受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (3)

2017~2021 年度入学者
科学英語 (3)

1 単位

行田勇

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

Linguistic Science (言語科学) に関する英語文献を精読する。
受講者は指定された箇所を全訳したものを用意し発表する。
授業中の既習事項については毎回小テストを行い理解度の確認をする。

《到達目標》

Linguistic Science (言語科学) に関する英語文献の読み方を習得することを第一の目標とする。
将来的に Biolinguistics (統語論の進化論的及び生物学的ルーツの解明を目標とした研究) の専門書を読めるようになる準備をする。
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回 機器の使用方法, 教材の入手方法と予習の進め方, 単位認定等についての詳しい説明, 小テスト
第 2 回~第 13 回 テキストの精読・小テスト
第 14 回 まとめ
授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

第 1 回目は単なるイントロダクションではないので, [u]履修を迷っている場合でも必ず出席すること [/u]。
毎回出席することは「当然の義務」であるから, 欠席・遅刻・早退についてはそれぞれ大幅に減点をする。
皆勤とは無縁の学生にはお勧めしない。

課題未提出の場合には、大幅に減点する。
理由のいかんにかかわらず提出期限を過ぎたものや形式等に不備があるものは無効となる。
また、指示に従わず内容が不十分な場合にも評価対象外となることがある。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

あらかじめ指定された英文資料を全訳し、毎回授業前にオンラインで提出する (評価対象)。
難解なテキストであるので準備にかなりの時間を要することを覚悟すること。

5. 教科書

特に定めない。(クラスウェブで指示する)
教科書として使用する英文資料は, [i]Language[/i] (Linguistic Society of America), [i]Linguistic Inquiry[/i] (The MIT Press) などの学術誌に掲載された論文を予定している。
英文資料の入手方法については第 1 回の授業で説明する。
欠席した場合には第 2 回以降の授業に参加できないなど支障をきたすことがあるので注意すること。

6. 参考書

以下の書籍については購入する必要はない。
[i]Biological Foundations and Origin of Syntax[/i]
著者 Derek Bickerton and Eörs Szathmáry
出版社 The MIT Press

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に詳細に解説するので、各自で丁寧に添削する必要がある。
また、この添削済の和訳レポートの原本は、学期末に提出する必要がある (評価対象)。

8. 成績評価の方法

毎回の小テスト 40%, 平常点 (提出物・授業中の発表および添削等) 60% の総合評価である。
授業中に各自で添削した和訳レポートの原本は、授業の終盤に提出する必要がある (評価対象)。
授業回数数の 3 分の 2 以上に参加していない者は成績評価の対象から外す。
評点算出方法等については、第 1 回の授業で詳細に説明する。

9. その他

オフィスアワーと連絡方法は授業中に指示する。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 科学英語(4)	1 単位	原田英子
2017~2021 年度入学者 科学英語(4)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

<科学の話題を英語で読む>

この授業では、科学についての様々な話題を扱ったテキストを用いて、内容と論理展開を正確に理解する能力を養う。また、科学英語を読む際に必要となる語彙力の増強を図る。

《授業の概要》

1 回の授業で 1 つの Unit を終わらせることを基準に授業を進め、Unit 10 までこなすことを目標とする。必要に応じて、テキストに載っていない記事もしくは関連記事をクラスで取り上げ、読む時間を設けることがある。毎回 Unit の内容に即した小テストを出題する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第 1 回：イントロダクション（授業の諸注意、テキストの説明）〔対面授業〕
- 第 2 回：Unit 1 Digital Amnesia 〔対面授業〕
- 第 3 回：Unit 2 Sleep Paralysis 〔対面授業〕
- 第 4 回：Unit 3 Why Are Some People Better at Learning Languages? 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第 5 回：Unit 4 The McCollough Effect 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第 6 回：Unit 5 The Healthiest Drink? 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第 7 回：Unit 6 Health Advice for Fashion Lovers? 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第 8 回：Unit 7 Live to Be 120 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第 9 回：Unit 8 A New Antibiotic Found in the Soil 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第 10 回：Unit 9 The World's Oldest Creature? 〔対面授業〕
- 第 11 回：Unit 10 Lazy Ants 〔対面授業〕
- 第 12 回：補足プリント 1 〔対面授業〕
- 第 13 回：補足プリント 2 〔対面授業〕
- 第 14 回：a まとめ・b 試験 〔対面授業〕

※講義内容は必要に応じて変更になる場合がある。

3. 履修上の注意

[u]この授業は、第 4 回～第 9 回はメディア授業（オンデマンド型）で行う。[/u]

初回の授業で、オンライン授業で使用するツール (Forms、Teams) の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証を済ませておくこと。

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則火曜日の朝 9：00 に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方で Microsoft の Teams と Forms を利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則火曜日の朝 9：00 に配信し、翌週の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teams の機能を活用し授業の質問を受け付ける（対面授業期間は直接申し出ることが望ましい）。初回到公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u]必ず[/u]本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Science Finder（科学の不思議）』 Johnathan Lynch、委文光太郎（成美堂）

6. 参考書

とくには定めない。必要に応じて関連書籍を授業中に紹介し、プリントを配布することがある。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 科学英語 (5)	1 単位	宮川敬子
2017~2021 年度入学者 科学英語 (5)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の到達目標》

様々な日常の科学の話題をテーマにした英語文章を読みながら、科学分野の文章構成や語彙に慣れ、英語の論理的な説明文を、日本語を読むように理解を積み重ねて全体の趣旨を把握することを目標に4技能を学習します。

《授業の概要》

テキストは動物、環境、エネルギー資源、技術、健康などのテーマを含む全20章で構成されており、春学期は奇数章、秋学期は偶数章を行う予定です。
[u]一回の授業で1章を終えるスケジュール[/u]で、リーディング、練習問題、小テストなどを毎回行います。

2. 授業内容

- 第1回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります)
b. テキストの構成と授業の進め方などの説明
- 第2回：Unit 1: Sink or Swim「生存を懸けた大航海」
- 第3回：Unit 3: The Last Moments Matters「命をつなぐ戦略」
- 第4回：Unit 5: Drift Ice Comes「流氷がやってくる」
- 第5回：Discussion & Speaking
- 第6回：Unit 7: Pollution Solution「待ったなしの環境汚染対策」
- 第7回：Unit 9: Between Low and High Tides「海がもたらす再生可能エネルギー」
- 第8回：Unit 11: Fusion Power「太陽の活動を地球で再現」
- 第9回：Discussion & Speaking
- 第10回：Unit 15: Moon Tunnels「世界が注目、月の溶岩洞」
- 第11回：Unit 17: Hay Fever Horror「花粉症を知ったうえでの対策を」
- 第12回：Unit 19: Stem Cell Heaven or Hell「幹細胞研究への期待」
- 第13回：Discussion & Speaking
- 第14回：a. 期末テスト
b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

春学期は奇数章のみです。春秋両方受講することによってテキストを1冊読み終えることになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習は必ず行ってください。全文の日本語訳を書いてくるのではなく、語彙の意味と各パラグラフの要点などを簡単に余白にメモしておくだけにとどめることが大切です。そこから日本語は自ずと出てきます。また予習の段階でよくわからなかった部分には印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speakingに関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います。

5. 教科書

[i]Science Stream[/i]「覗いてみよう、科学の世界」(2022, 成美堂)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットでの語彙の検索は許可しません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定です。
また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定です。

8. 成績評価の方法

授業中の参加と課題30%、各種テスト（予習テスト、小テスト、期末テスト等）70%をもとに総合的に評価します。また欠席が1/3（5回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィス・アワー： 火曜 12:30-13:20（中央棟3F 講師控室）

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 科学英語(6)	1 単位	熊田和典
2017~2021年度入学者 科学英語(6)		

1. 授業の概要・到達目標

環境、健康、科学技術の分野の身近な話題を取り上げた映像と英文の理解を通して、科学について話された、あるいは書かれた英語に慣れるとともに、科学英語の語彙を身につけて、科学英語の総合的な基礎力を養うことを目標とする。

各課とも、まず、親しみやすい身近な話題を扱った AFP のニュース映像を見てその英語の理解に努め、その後、同一の話題を扱った英文を精読する。次に、練習問題にも取り組み、さらに深い理解や科学英語の語彙の習得に努める。本授業では、テキストの前半部分を扱う。(扱う題材に関しては下記の「授業内容」を参照のこと。)

食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 a. インTRODakション (科学英語を学ぶにあたって)
b. Lesson 1 Global Warming and Climate Change (地球温暖化と気候変動): ニュース映像視聴, リスニング指導等
- 第2回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change (地球温暖化と気候変動): ニュース映像の解釈
- 第3回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change (地球温暖化と気候変動): 英文読解
- 第4回 Lesson 2 Diet and Health for Long Lives (食習慣): ニュース映像の解釈
- 第5回 Lesson 2 Diet and Health for Long Lives (食習慣): 英文読解
- 第6回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species (生物多様性の保全と都市開発): ニュース映像の解釈
- 第7回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species (生物多様性の保全と都市開発): 英文読解
- 第8回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts (3D プリンターの医療利用): ニュース映像の解釈
- 第9回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts (3D プリンターの医療利用): 英文読解
- 第10回 Lesson 8 Practical Uses of Drones (ドローンの実用性): ニュース映像の解釈
- 第11回 Lesson 8 Practical Uses of Drones (ドローンの実用性): 英文読解
- 第12回 Lesson 9 Garbage Problems (ごみ問題を考える): ニュース映像の解釈
- 第13回 Lesson 9 Garbage Problems (ごみ問題を考える): 英文読解
- 第14回 a. まとめ, 補足
b. 試験

* 講義内容、進度は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。

辞書を必ず携帯すること。(電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。)

遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習に関しては、事前にテキストの該当箇所を読み、全体の内容の理解に努めること。その際に意味のわからない部分を明確にし、その部分を辞書で調べておくこと。受講後は、重要な文法事項、意味のわからなかった部分を中心に見直すとともに、語彙力の増強に努めること。映像の部分については、音声だけで理解できるように何度も聴くとともに、音声に合わせて何度も自分で発音してみることが望ましい。

5. 教科書

『AFP World Focus: Environment, Health, and Technology』 宍戸真, Kevin Murphy, 高橋真理子著 (成美堂)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評については、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。

8. 成績評価の方法

定期試験(70%)と小テスト(単語テスト)(30%)で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。テストはリスニングの形式では出題しない。

9. その他

オフィスアワー: 火曜日 10:40~17:10 の授業外の時間 (中央校舎 3 階講師控室)

連絡先: メールアドレスを初回の授業で伝える。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 科学英語(7)	1 単位	樋渡さゆり
2017~2021年度入学者 科学英語(7)		

1. 授業の概要・到達目標

「英語で読む自然科学史：チャールズ・ダーウィンとその時代」

《授業の概要》

上級レベル。自然科学史を掘り下げる論集[i]The History of Scientific Discovery[/i] (Oxford UP) から、W.H. Brock 著「ダーウィンの生涯と業績と時代」を精読する。Charles Robert Darwin (1809-1882) はヴィクトリア朝時代の英国の博物学者(naturalist)であり、後世に大きな影響を与えた進化論の提唱者である。英語論説文を読み、自然科学史を文化史的な広い視野から学び、今日の私たちの文化や生活を考える。

毎回、授業内容にかかわる課題を提出してもらう

《到達目標》

到達目標は、長文の論説文を正確に読む技術の習得と、そのために効果的な学習方法を身につけること、そして自然科学史や歴史の基礎的な知識を身につけ、そのヴォキャブラリーになじむことである

農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する

2. 授業内容

第1回：aのみ：イントロダクション。辞書について

第2回：テキストを精読。Ch 1 Darwin's origins

第3回：Ch 2 The lessons of the Beagle (1)

第4回：Ch 2 The lessons of the Beagle (2)

第5回：Background 1 (1)

第6回：Background 1 (2)

第7回：Background 2

第8回：第7回までの復習・補足 / Ch 3 the Origin of Species

第9回：Ch 4 The reception of Darwin's Theory

第10回：Background 3 Science versus Religion

第11回：Background 4 Darwin and Literature

第12回：Ch 5 Man's place in nature

第13回：Ch 6 Darwin's century

第14回：a: 発展的学習のために / b: 期末試験

3. 履修上の注意

欠席や遅刻は極力避けること。上級レベル。クラスウェブに一部掲示されているテキストを参照のこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ示された範囲のテキストを、段階的・発展的に指示されたポイントに注目し、脚注と辞書を用いてテキストを読む。受講後は、授業中に注目したヴォキャブラリーやセンテンス、文法事項を見直して、定着に努める

5. 教科書

『The Origin of a Theory: Chartles Darwin--His Life, Work and Times』 編注 ジョン・カンスタブル・小畠啓邦。(音羽書房鶴見書店)

6. 参考書

出版社は問わず、下記と同等レベル(内容・情報量)の英和辞典を薦める。電子辞書やオンライン辞書を使用するメリットも紹介するが、予習の際には紙媒体の辞書を薦めたい

『プログレッシブ英和中辞典』(小学館)

『リーダーズ英和辞典』(研究社)

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出課題はおもにクラスウェブを利用します

フィードバックはクラスウェブのコメント欄で各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業展開に取り入れる、などの方法をとります

8. 成績評価の方法

期末試験実施日を含めた授業実施回数の2/3以上に出席している履修者を評価対象とします。

教室での授業に参加し、かつ提出課題を提出し、受理されて初めて「出席」と見做されます

期末定期試験 60%、平常点(出席・参加状況、課題提出など) 40%で評価する。主席状況を記録・認識しておくこと。

良好な出席状況が前提です。

9. その他

1. 連絡方法⇒クラスウェブ上に用途別の連絡欄を設置。質問は随時受け付けます

2. オフィスアワー⇒質問対応は1. のとおり。面談を希望する場合は授業終了時または事前連絡でアポイントメントをとると確実です

場所：英語第I研究室(第一校舎 3号館4階403号)

時間：在室時は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 科学英語 (8)	1 単位	貝塚泰幸
2017~2021 年度入学者 科学英語 (8)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

私たちは科学に関する日本語の表現や言い回しを幼い頃より耳にしており、慣れ親しんでいる。しかし科学に関する英語の表現や言い回しとなると、それらを読み聞きする機会が極端に少ないため基礎的な内容でさえも英語で表現することは難しい。そこで科学、特に人間の身体と関わるさまざまな内容を読み、人体の仕組みや言語や睡眠を司る脳の機能、遺伝子組み換え食品、動物といったトピックの英文を読み、日常的に使用される表現から専門的な語彙まで幅広く学んでいく。

《授業の到達目標》

人体の仕組みや脳の機能、遺伝子組み換え、動物などに関する英文を読み、そこで使用される英語表現に慣れ親しみながら基本的な表現パターンとその文を作るために必要な重要表現や語句を習得し、かつそれらを用いて学習した分野に関する知識を伝え自らの考えを表現できるようになることを目標とする。さらに英文の精読を通して読解力と一般的な語彙力を向上させ、批判的な視点からテキストを読み、学生が独自の意見を形成できるようになることを目的とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

- a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明
- b. イントロダクション

第2回：Unit 1

第3回：Unit 1

第4回：Unit 2

第5回：Unit 2

第6回：Unit 3

第7回：Unit 3

第8回：Unit 4

第9回：Unit 4

第10回：Unit 5

第11回：Unit 5

第12回：Unit 6

第13回：Unit 6

第14回：a. まとめ

- b. 期末試験

* 授業内容は進度などに応じて内容は変更する場合がある。

3. 履修上の注意

学生は積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、特に科学分野に関する英語表現については対応する正確な日本語による表現を調べておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。

準備学習が不十分であった場合や、授業への参加態度が不適切な場合（私語やスマートフォンの使用など）には成績より減点する。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とする。

遅刻・早退は3回で1回分の欠席とし、授業開始後30分以上遅れて来た者および授業終了30分前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者も欠席扱いとする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語については授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。また特に難解な箇所や理解できない点に関しては学生全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。

5. 教科書

笹島茂, 他, 『CLIL 英語で学ぶ身体のおもしろさと働き』(三修社).

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30%（予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (9)

1 単位

長谷川安代

2017~2021 年度入学者
科学英語 (9)

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

本授業では、IPCC の第 6 次評価報告書第 2 作業部会の報告『気候変動 - 影響・適応・脆弱性』(Climate Change 2022: Impacts, Adaptation and Vulnerability) の Fact sheet を教材とし、気候変動の影響について、分野別に、英語で学んでいきます。科学分野で使われる英単語や英語表現は繰り返し出現するため、本授業でのインプット・アウトプットを繰り返すことで、科学分野(特に気候変動分野)で頻出する単語や表現を自然と習得することを目指します。また、英語の語学教材ではなく、国際機関の報告書を教材とすることで、英語で科学分野の情報収集をすることへの抵抗を軽減していきます。

<授業の到達目標>

1. 気候変動分野(科学分野)における事象やそれに対する自身の考えを適切な英語で表現することができる。
2. 科学分野の英語資料を読むことへの抵抗を軽減する。
3. 国際機関の報告書を読むときのスキルを身につけることができる。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- [第 1 回] a のみ: Introduction
- [第 2 回] Human Settlements (Input)
- [第 3 回] Human Settlements (Output)
- [第 4 回] Cities and Settlements by the Sea (Input)
- [第 5 回] Cities and Settlements by the Sea (Output)
- [第 6 回] Responding to Sea Level Rise (Input)
- [第 7 回] Responding to Sea Level Rise (Output)
- [第 8 回] Mountains (Input)
- [第 9 回] Mountains (Output)
- [第 10 回] Biodiversity (Input)
- [第 11 回] Biodiversity (Output)
- [第 12 回] Health (Input)
- [第 13 回] Health (Output)
- [第 14 回] Review

3. 履修上の注意

- ・授業はグループワークを中心に進めていきます。授業毎にランダムにグループ分けを行います。
- ・授業には、PC、Tablet 等のデバイスを持参してください。
- ・原則として、20 分以上の遅刻は欠席扱いとします。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

テキストを読む、質問を考える、重要な論点を抽出するなどの課題に取り組んだ上で、授業に参加してください(各回の予習 90 分)。課題の詳細については、第 1 回の授業時に説明します。

5. 教科書

IPCC の第 6 次評価報告書第 2 作業部会の報告『気候変動 - 影響・適応・脆弱性』(Climate Change 2022: Impacts, Adaptation and Vulnerability) の Fact sheet を教材にします。

次のサイトよりダウンロードしてください。<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg2/about/factsheets/>

6. 参考書

Fact Sheet で言及される各文書は次のサイトからダウンロードできます。
<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-working-group-ii/>

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内やオンラインシステム等を活用して、振り返りシートに対するコメントを共有します。

8. 成績評価の方法

- ・平常点(グループワークへの参加態度・振り返りシート): 50%
 - ・期末レポート: 50%
- (単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。)

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

科目ナンバー (AG)LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 科学英語 (10)	1 単位	中村美帆子
2017~2021 年度入学者 科学英語 (10)		

1. 授業の概要・到達目標

「科学の話題について英語で読み、考える」

《授業の概要》

科学関連の記事の講読を通じて、リーディング能力を高める。

科学関連の話題をまとめた教科書と、その他の新聞・雑誌記事を使用する。教科書から5つのテーマを選び、次の3つの手順で学習する。

1. 教科書掲載の記事を読み、単語や表現を確認しつつ、内容を把握する。
2. 関連するテーマを扱った新聞・雑誌記事を読む。
3. 自分の意見や調べたことについて英語でまとめ、小レポートとして提出する。

その他、映像資料等も適宜取り入れる。

《到達目標》

1. 科学関連の記事を英語で読み、リーディング能力を高める。
2. 専門的な語彙や表現を習得する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：Unit 1 Flowers Sweeten Up When They Sense Bees Buzzing

第3回：新聞・雑誌記事講読 1

第4回：Unit 2 Sorry, the Mona Lisa Is Not Looking at You

第5回：新聞・雑誌記事講読 2

第6回：小テスト1, まとめ

第7回：Unit 3 Nearly One-Third of Americans Sleep Fewer Than Six Hours Per Night

第8回：新聞・雑誌記事講読 3

第9回：Unit 4 There's No Limit on Longevity, But Getting Super Old Is Still Tough

第10回：新聞・雑誌記事講読 4

第11回：小テスト2, まとめ

第12回：Unit 5 Chinese City Wants to Launch Fake Moon to Illuminate Its Streets

第13回：新聞・雑誌記事講読 5

第14回：a. 試験, b. まとめ

3. 履修上の注意

1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。
2. 5回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は3回で1回の欠席とみなす。
3. この授業では教科書の前半（Units 1-8）から5つのunitを選んで使用する。教科書の後半（Units 9-15）は、秋学期の「科学英語」で使用する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1時間）。

復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1時間）。

5. 教科書

『Science at Hand: Articles from Smithsonian Magazine's Smart News / スミソニアンで読む日常の科学』, Keiko Miyamoto 著（金星堂）

※大学の書店で必ず購入すること。

6. 参考書

資料を適宜配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%, 小テスト 30%, 小レポート 10%, 授業への参加度 10%

9. その他

連絡先：最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 科学英語 (11)	1 単位	原功
2017~2021 年度入学者 科学英語 (11)		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

「科学英語」という授業を通じて身につけたいスキルは、専門文献や研究論文を自力で正確に読み取れるようになることです。そのためには、日常生活で使われる単語とは異なった学術用語を知らなくてはいけません、それで終わりというわけにもいきません。1文1文を正確に読み取り、背景知識を得て、パラグラフを理解し、文章全体を把握しなくてはいけません。そのためのトレーニングとして、短くまとまった難解な理科系の英文を自力で読み解きます。まずは難しいと感じることから始め、どのような知識をどのように活用すれば内容を理解できるようになるのかの手ほどきを行います。

〈授業の到達目標〉

- 1) 科学系の英文を自力で正確に理解するためのスキルを身につけること
- 2) 自分の考えを自力で正確に表現するためのスキルを身につけること

※農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回： a. 授業概要、授業の進め方、履修上の注意など b. 科学英語を理解するポイント

第2回： Unit 1 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第3回： Unit 2 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第4回： Unit 3 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第5回： Unit 4 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第6回： Unit 5 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第7回： Unit 6 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第8回： Unit 7 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第9回： Unit 8 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第10回： Unit 9 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第11回： Unit 10 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第12回： Unit 11 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第13回： Unit 12 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第14回： a. 期末試験・b. 解説、総括、今後の指針

3. 履修上の注意

1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。

2) 授業回数の3分の1を超える欠席（5回以上）は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。

3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習としては、知らない単語が文章中にあるのは当たり前のことであると考え、未知の単語をピックアップしてその意味を調べておくこと、その週に扱うユニットに目を通し、分かりそうなところと難しいところを把握しておくことくらいは最低でも行ってください。それに加えて疑問点をいくつか持つておくこと、質問したいことをまとめておくことを期待します。

復習としては、記憶が新鮮なうちに新たに得た知識をまとめておくこと、CDまたは音声ファイルを、英文の意味が理解できるようになるまで繰り返し聞くこと、英文をすらすら読めるようになるまで音読すること、授業内容に関連した新聞記事やウェブ記事、専門書などを読むことが理想的です。

半期の学習を通じ、教科書の英文は自信をもって読める、同じくらいのレベルの英文は自力で読むことができる、さらに高度な英文でも理解するための手法が身につけている、という目標の元で取り組んでください。

5. 教科書

『Reading Prospect (リーディング・プロスペクト 英文読解の総合演習)』金星堂

6. 参考書

専門性の高い英文に専門用語や学術用語など、分からない単語があるのは当たり前であり、それらの意味は各自で調べて理解するしかなく、いくら英文を眺めていても分かるようにはなりません。そのためには辞書や学術用語集が必要ですが、電子辞書であれ紙媒体であれ、まずは手持ちの辞書を活用することから考えましょう。手持ちの辞書できちんと読めているうちは新しいものに手を出す必要はありません。教科書や学術書、雑誌記事や学術論文を読み進めていくと、ある時手持ちの辞書では太刀打ちできないと感じる時があるはず。その時にこそ、新しい辞書の購入を検討しましょう。何にせよ、辞書も持たずに教室に来るのはやめてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題（和訳や考察など）と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題（教科書掲載の Exercise）があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題 20%

授業へのコメント 10%

自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (12)

2017~2021 年度入学者
科学英語 (12)

1 単位

原田英子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

<科学の話題を英語で読む>

この授業では、科学についての様々な話題を扱ったテキストを用いて、内容と論理展開を正確に理解する能力を養う。また、科学英語を読む際に必要となる語彙力の増強を図る。

《授業の概要》

1 回の授業で 1 つの Unit を終わらせることを基準に授業を進め、Unit 10 までこなすことを目標とする。必要に応じて、テキストに載っていない記事もしくは関連記事をクラスで取り上げ、読む時間を設けることがある。毎回 Unit の内容に即した小テストを出題する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回：イントロダクション（授業方法・テキストの説明）〔対面授業〕

第 2 回：Unit 1 Fast Asleep? 〔対面授業〕

第 3 回：Unit 2 All Gone? 〔対面授業〕

第 4 回：Unit 3 Beeing and Nothingness 〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第 5 回：Unit 4 As Clever as Us? 〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第 6 回：Unit 5 Life in the Oceans 〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第 7 回：Unit 6 Powering Our World 〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第 8 回：Unit 7 Hot, Powerful, and Clean 〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第 9 回：Unit 8 Keep in Running 〔メディア授業（オンデマンド型）〕

第 10 回：Unit 9 Where Are All Trees? 〔対面授業〕

第 11 回：Unit 10 Too Hot to Live? 〔対面授業〕

第 12 回：補足プリント 1 〔対面授業〕

第 13 回：補足プリント 2 〔対面授業〕

第 14 回：a まとめ・b 試験 〔対面授業〕

※講義内容は必要に応じて変更になる場合がある。

3. 履修上の注意

[u]この授業は、第 4 回～第 9 回はメディア授業（オンデマンド型）で行う。[/u]

初回の授業で、オンライン授業で使用するツール (Forms、Teams) の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証を済ませておくこと。

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則金曜日の朝 9:00 に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方で Microsoft の Teams と Forms を利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則金曜日の朝 9:00 に配信し、翌週の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teams の機能を活用し授業の質問を受け付ける（対面授業期間は直接申し出ることが望ましい）。初回到公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u]必ず[/u]本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Science Quest（未来科学への誘い）』 安浪誠祐、Richard S. Lavin（成美堂）

6. 参考書

特に定めないが、必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト、課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、課題 30%

9. その他

オフィスアワー: 質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
科学英語(13)

2017~2021年度入学者
科学英語(13)

1 単位

松井恭子

1. 授業の概要・到達目標

◆授業の概要

科学のトピックを英語で読む。例えば、哺乳類や鳥類の生態、森林保護、ワクチン、3Dプリンターの貢献、気象変動、サンゴ礁の保護など身近なトピックの英文エッセイを精読する。現在を見据え、未来を展望するエッセイは知的好奇心を刺激すると思われる。

◆到達目標

内容の正確な理解と科学英語の論理展開を把握する力を養うことを第一目標とする。また、教科書はリスニング力養成に最適な教材となっている。科学の話題について自分のコメントを英語で言う、ミニ・プレゼンテーションの練習も加える。その担当者は順番にあてる。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション（評価基準などの説明、クラスの進め方、Mini-presentationの仕方、予習の仕方などの説明）Unit 1: 犬がストレスを感じる原因(1)

第2回：Unit 1: 犬がストレスを感じる原因(2)

(Mini-presentationの構造、Introduction partの大切さ)

第3回：Unit 4: サンゴ礁を保護するために(Mini-presentationのBody partの要点)

第4回：Unit 6: 森林から情報を得るために(1)

(Mini-presentationのConclusion partの要点)

第5回：Unit 6: 森林から情報を得るために(2)(Mini-presentationのその他のコツ1)

第6回：Unit 8: マウンテンゴリラの生息数(1)(Mini-presentationのその他のコツ2)

第7回：Unit 8: マウンテンゴリラの生息数(2)(PresentationとVoice)

第8回：Unit 9: ワクチンに対するFake News(2)(Presentationに必要なVisual Effect 1)

第9回：Unit 10: 鳥類の生息域の移動(Presentationに必要なVisual Effect 2)

第10回：Unit 12: 気象変動と闘う生徒たち(1)(2)(PresentationのPeer Evaluation)

第11回：Unit 12: 気象変動と闘う生徒たち(2)(Discussion 1)

第12回：Unit 14: ドローンを使ったクジラ観察(Discussion 2)

第13回：Unit 15: 3Dプリンターで臓器作成(1)(Discussion 3)

第14回：Unit 15: 3Dプリンターで臓器作成(2)

a. まとめ b. 期末レポートの解説

3. 履修上の注意

Oh-Meijiのクラスウェブのディスカッション機能を活用して、担当者は依頼されたことをUPしてもらい、意見等、シェアできるようにする。教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。また、Oh-Meijiにも4月に載せる。欠席が5回以上の場合、単位は取得できない。欠席、遅刻については減点をする。

授業形態については、コロナ感染の発生状況によって変わるため、詳しいことは4月の終わりにOh-Meijiにてお伝えする。4月は、まず、すべて対面授業とする。計画としては、教室における対面授業を10回程度、オンライン授業を4回程度とする予定である。4月中にどの週をオンラインとするかOh-Meijiにてお知らせする。変更がある場合は、前もってOh-Meijiの「授業お知らせ管理」に載せる。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を自分の言葉で説明出来るように準備して授業に望む。各Unitのトピックは新聞、インターネットなどで調べて、深い知識も得られるよう積極的に予習、復習をする。授業での英語での一分ほどのミニ・プレゼンテーション担当者は順番に当てるので、原稿を用意して取り組んで欲しい。

5. 教科書

Health & Environment Reports from VOA Volume 4 松伯社、2020 (編著) Richard S. Lavin 安浪誠祐 ISBN 978-4-88198 7544

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小課題については、締め切り後、授業で解説をする。期末レポートの課題については、Oh-Meijiのシステムを通じて、レポート締め切り日の翌週に配信する。

8. 成績評価の方法

期末レポート (40%)、Mini-プレゼンテーションと和訳などの課題 (30%)、授業中の参加と平常点 (30%)

9. その他

オフィス・アワーと連絡方法は第一回目の授業時に指示する。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (14)

2017~2021 年度入学者
科学英語 (14)

1 単位

中村啓子

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

このコースではテキストの中から、「動物」、「環境」、「健康とフィットネス」に関する英文記事やエッセイを読み読解力の向上を目指すクラスです。これらのテキストを読解しながら、スキミング・スキル、筆者の考えを裏付ける支持文、要約、物事や出来事の順番や順序の理解、言葉や例の引用などについて学びます。また、使用する教科書には Web 上で視聴できるビデオ映像、音声、さらに練習問題（オンライン・ワークブック）もありますので、五感を使って読解力や語彙力も強化していきます。

〈授業の到達目標〉

コース終了時には様々な科学分野のアカデミックなテキストの主旨を理解、必要な情報を見つけ、読解し要約できることを目標としています。また、自分のこれまでに備わった知識やクラスメートとのディスカッションを通じ、クリティカル・シンキングスキル（批判的な思考力）を伸ばします。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回： イントロダクション（シラバスの説明、クラスルールズ、自己紹介など）
- 第2回： Unit 1 Animals, Watch and Listen [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第3回： Unit 1 Animals, Reading 1
- 第4回： Unit 1 Animals, Reading 2 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第5回： Unit 1 Animals, Review Test + Language development
- 第6回： Unit 2 The environment, Watch and Listen [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第7回： Unit 2 The environment, Reading 1
- 第8回： Unit 2 The environment, Reading 2 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第9回： Unit 2 The environment, Review Test + Language development
- 第10回： Unit 5 Health and fitness, Watch and Listen [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第11回： Unit 5 Health and fitness, Reading 1
- 第12回： Unit 5 Health and fitness, Reading 2 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第13回： Unit 5 Health and fitness, Review Test + Language development
- 第14回 a: まとめ b: 試験

尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。

3. 履修上の注意

- ・このコースの一部の授業はメディア授業科目として開講されます。メディア授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行われます。
- ・講義動画は原則金曜日の午前9時に Oh-o! Meiji システム上の「授業内容」機能を通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。
- ・講義動画に対して、課題を同システム上の「レポート」機能へ、翌週の月曜日午後5時までに提出することで、出席確認及び理解度確認を行います。
- ・対面授業では、ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認しテキストを読みましょう。
- ・復習： 科書及びオンラインワークブックで読解問題や語彙を復習しましょう。

5. 教科書

『Unlock Reading, Writing & Critical Thinking, Level 3』（第二版） Carolyn Westbrook and Lida Baker with Chris Sowton 著, (Cambridge University Press), 2019年, ISBN: 978-1-108-68601-3 または 9781009031400。

6. 参考書

- ・自然と生物をテーマにした TED: [url]<https://digitalcast.jp/vc/nature/>[/url]
- ・バイオをテーマにした TED: [url]<https://digitalcast.jp/vc/biotechnology/>[/url]（字幕付きのものもあります）

7. 課題に対するフィードバックの方法

口頭で行います。

8. 成績評価の方法

試験（小テスト、期末試験）70%、平常点（課題、受講態度）30%。遅刻は（授業開始後30分までに入室）3回で欠席1回とみなします。授業回数の2/3以上の出席者が評価対象となります。

9. その他

オフィスアワーは金曜日、12:30-13:10（中央校舎3階講師控室）です。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 科学英語(15)	1 単位	原功
2017～2021年度入学者 科学英語(15)		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

「科学英語」という授業を通じて身につけたいスキルは、専門文献や研究論文を自力で正確に読み取れるようになることです。そのためには、日常生活で使われる単語とは異なった学術用語を知らなくてはなりません、それで終わりというわけにもいきません。1文1文を正確に読み取り、背景知識を得て、パラグラフを理解し、文章全体を把握しなくてはなりません。そのためのトレーニングとして、短くまとまった難解な理科系の英文を自力で読み解きます。まずは難しいと感じることから始め、どのような知識をどのように活用すれば内容を理解できるようになるのかの手ほどきを行います。

〈授業の到達目標〉

- 1) 科学系の英文を自力で正確に理解するためのスキルを身につけること
- 2) 自分の考えを自力で正確に表現するためのスキルを身につけること

※農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回： a. 授業概要、授業の進め方、履修上の注意など b. 科学英語を理解するポイント
- 第2回： Lesson 1 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第3回： Lesson 2 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第4回： Lesson 3 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第5回： Lesson 4 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第6回： Lesson 5 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第7回： Lesson 6 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第8回： Lesson 7 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第9回： Lesson 8 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第10回： Lesson 9 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第11回： Lesson 10 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第12回： Lesson 11 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第13回： Lesson 12 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習
- 第14回： a. 期末試験・b. 解説、総括、今後の指針

3. 履修上の注意

- 1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。
- 2) 授業回数の3分の1を超える欠席(5回以上)は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。
- 3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、知らない単語が文章中にあるのは当たり前のことであると考え、未知の単語をピックアップしてその意味を調べておくこと、その週に扱うユニットに目を通し、分かりそうなところと難しいところを把握しておくことくらいは最低でも行ってください。それに加えて疑問点をいくつか持つておくこと、質問したいことをまとめておくことを期待します。

復習としては、記憶が新鮮なうちに新たに得た知識をまとめておくこと、CDまたは音声ファイルを、英文の意味が理解できるようになるまで繰り返し聞くこと、英文をすらすら読めるようになるまで音読すること、授業内容に関連した新聞記事やウェブ記事、専門書などを読むことが理想的です。

半期の学習を通じ、教科書の英文は自信をもって読める、同じくらいのレベルの英文は自力で読むことができる、さらに高度な英文でも理解するための手法が身につけている、という目標の元で取り組んでください。

5. 教科書

『Everyday Science and Technology (日常生活にみる現代の科学技術を読む)』南雲堂

6. 参考書

専門性の高い英文に専門用語や学術用語など、分からない単語があるのは当たり前であり、それらの意味は各自で調べて理解するしかなく、いくら英文を眺めていても分かるようにはなりません。そのためには辞書や学術用語集が必要ですが、電子辞書であれ紙媒体であれ、まずは手持ちの辞書を活用することから考えましょう。手持ちの辞書できちんと読めているうちは新しいものに手を出す必要はありません。教科書や学術書、雑誌記事や学術論文を読み進めていくと、ある時手持ちの辞書では太刀打ちできないと感じる時があるはず。その時にこそ、新しい辞書の購入を検討しましょう。何にせよ、辞書も持たずに教室に来るのはやめてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題(和訳や考察など)と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題(教科書掲載の Exercise)があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題	20%
授業へのコメント	10%

自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 科学英語 (16)	1 単位	中村啓子
2017~2021 年度入学者 科学英語 (16)		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

主に自然科学分野のテキストを読むリーディングが中心のコースです。テキストの内容に関する問題を解きながら読解力を身につけるとともに、科学分野で用いられる語彙を習得していきます。さらに、これまでに備わった自然科学分野の知識に加え、教科書の内容や、クラスメートとのディスカッションを通じ、クリティカル・シンキングスキル（批判的な思考力）も向上させます。

〈授業の到達目標〉

コース終了時には自然科学分野のテキストを読んで、その主旨を理解し、そのトピックに対する自分の考えを英語で表現できることを目標としています。

・農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回： イントロダクション（シラバスの説明、クラスルールズ、自己紹介など）
- 第2回： Unit 1 Reading 1, Is there a recipe for happiness? [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第3回： Unit 2 Reading 1, Is there a recipe for happiness?
- 第4回： Unit 2 Reading 2, Four keys to happiness [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第5回： Unit 2 Review test and video
- 第6回： Unit 4 Reading 1, Where have all the fish gone? [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第7回： Unit 4 Reading 1, Where have all the fish gone?
- 第8回： Unit 4 Reading 2, What we eat makes a difference [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第9回： Unit 4 Review test and video
- 第10回： Unit 5 Reading 1, The art of memory [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第11回： Unit 5 Reading 1, The art of memory
- 第12回： Unit 5 Reading 2, Sleep and memory [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第13回： Unit 5 Review test and video
- 第14回 a: まとめ b: 試験

尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。

3. 履修上の注意

・このコースの一部の授業はメディア授業科目として開講されます。メディア授業はすべて、講義動画を 0h-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行われます。

・講義動画は原則月曜日の午前9時に 0h-o! Meiji システム上の「授業内容・資料」機能を通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。

・講義動画に対して、課題を同システム上の「レポート」機能へ、同じ週の水曜日午後5時までに提出することで、出席確認及び理解度確認を行います。

・対面授業では、ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認しテキストを読みましょう。
- ・復習： 単語や練習問題を復習しましょう。

5. 教科書

・『Pathways, Reading, Writing and Critical Thinking, 2A』（第二版）, Laurie Blass and Mari Vargo 著,（出版社：センゲージラーニング）2018年、ISBN: 978-1-337-62490-9

・使用するテキストは、PATHWAYS (Reading, Writing, and Critical Thinking), Level 2（全10課）のうち、前半の5課を集約した分冊版「Split 2A」です。

6. 参考書

- ・自然と生物をテーマにした TED: <https://digitalcast.jp/vc/nature/>
- ・バイオをテーマにした TED: <https://digitalcast.jp/vc/biotechnology/>（字幕付きのものもあります）

7. 課題に対するフィードバックの方法

口頭でお伝えします。

8. 成績評価の方法

試験（小テスト、期末テスト）70%、平常点（課題、受講態度）30%。遅刻（授業開始後30分までに入室）3回で欠席1回とみなします。授業回数の2/3以上の出席者が評価対象となります。

9. その他

教員への質問・相談窓口は、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」機能で、または、そこに記載されている教員のメールアドレスで受け付けます。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (17)

2017~2021 年度入学者
科学英語 (17)

1 単位

行田勇

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

Linguistic Science (言語科学) に関する英語文献を精読する。
受講者は指定された箇所を全訳したものを用意し発表する。
授業中の既習事項については毎回小テストを行い理解度の確認をする。

《到達目標》

Linguistic Science (言語科学) に関する英語文献の読み方を習得することを第一の目標とする。
将来的にBiolinguistics (統語論の進化論的及び生物学的ルーツの解明を目標とした研究) の専門書を読めるようになる準備をする。
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 機器の使用方法, 教材の入手方法と予習の進め方, 単位認定等についての詳しい説明, 小テスト
第2回~第13回 テキストの精読・小テスト
第14回 まとめ
授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

第1回目は単なるイントロダクションではないので, [u]履修を迷っている場合でも必ず出席すること[/u]。
毎回出席することは「当然の義務」であるから, 欠席・遅刻・早退についてはそれぞれ大幅に減点をする。
皆勤とは無縁の学生にはお勧めしない。

課題未提出の場合には、大幅に減点する。

理由のいかんにかかわらず提出期限を過ぎたものや形式等に不備があるものは無効となる。
また、指示に従わず内容が不十分な場合にも評価対象外となることがある。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

あらかじめ配布された英文資料を全訳し、毎回授業前に提出する。
準備にかなりの時間を要することを覚悟すること。

5. 教科書

特に定めない。(クラスウェブで指示する)

教科書として使用する英文資料は, [i]Language[/i] (Linguistic Society of America), [i]Linguistic Inquiry[/i] (The MIT Press) などの学術誌に掲載された論文を予定している。

英文資料の入手方法については第1回の授業で説明する。

欠席した場合には第2回以降の授業に参加できないなど支障をきたすことがあるので注意すること。

6. 参考書

以下の書籍については購入する必要はない。

[i]Biological Foundations and Origin of Syntax[/i]

著者 Derek Bickerton and Eörs Szathmáry

出版社 The MIT Press

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に詳細に解説するので、各自で丁寧に添削する必要がある。

また、この添削済の和訳レポート原本は、学期末に提出する必要がある (評価対象)。

8. 成績評価の方法

毎回の小テスト 40%, 平常点 (提出物・授業中の発表および添削等) 60%の総合評価である。

授業中に各自で添削した和訳レポート原本は、授業の終盤に提出する必要がある (評価対象)。

授業回数数の3分の2以上に参加していない者は成績評価の対象から外す。

評点算出方法等については、第1回の授業で詳細に説明する。

9. その他

オフィシアワーと連絡方法は授業中に指示する。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (18)

2017~2021 年度入学者
科学英語 (18)

1 単位

原田英子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

<科学の話題を英語で読む>

この授業では、科学についての様々な話題を扱ったテキストを用いて、内容と論理展開を正確に理解する能力を養う。また、科学英語を読む際に必要となる語彙力の増強を図る。

《授業の概要》

春学期と同じテキストを使用する。正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。1 回の授業で 1 つの章を終わらせることを基準に授業を進め、テキストの最後までこなすことを目標とする。必要に応じて、テキストに載っていない記事もしくは関連記事をクラスで取り上げ、読む時間を設けることがある。毎回 Unit の内容に即した小テストを出題する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第 1 回：イントロダクション（授業の諸注意、Unit 11 の導入） [対面授業]
- 第 2 回：Unit 11 (Almost) Vegetarian Bears [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第 3 回：Unit 12 Animals and Earthquakes [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第 4 回：Unit 13 LiquiGlide [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第 5 回：Unit 14 Unbreakable Glass [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第 6 回：Unit 15 Robots Are Winning [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第 7 回：Unit 16 Li-Fi [対面授業]
- 第 8 回：Unit 17 Enceladus [対面授業]
- 第 9 回：Unit 18 The Ninth Planet [対面授業]
- 第 10 回：Unit 19 Dyson Sphere [対面授業]
- 第 11 回：Unit 20 When Will We See a Great Comet? [対面授業]
- 第 12 回：補足プリント 1 [対面授業]
- 第 13 回：補足プリント 2 [対面授業]
- 第 14 回：a まとめ・b 試験 [対面授業]

※講義内容は必要に応じて変更になる場合がある。

3. 履修上の注意

[u]この授業は、第 2 回～第 6 回をメディア授業（オンデマンド型）で行う。[/u]

初回の授業で、オンライン授業で使用するツール (Forms、Teams) の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証を済ませておくこと。

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則火曜日の朝 9:00 に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方で Microsoft の Teams と Forms を利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則火曜日の朝 9:00 に配信し、翌週の朝 8:30 を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teams の機能を活用し授業の質問を受け付ける（対面授業期間は直接申し出ることが望ましい）。初回到公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u]必ず[/u]本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Science Finder（科学の不思議）』 Johnathan Lynch、委文光太郎（成美堂）

6. 参考書

特に定めないが、必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー：質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (19)

2017~2021 年度入学者
科学英語 (19)

1 単位

宮川敬子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の到達目標》

様々な日常の科学の話題をテーマにした英語文章を読みながら、科学分野の文章構成や語彙に慣れ、英語の論理的な説明文を、日本語を読むように理解を積み重ねて全体の趣旨を把握することを目標に4技能を学習します。

《授業の概要》

テキストは動物、環境、エネルギー資源、技術、健康などのテーマを含む全20章で構成されており、春学期は奇数章、秋学期は偶数章を行う予定です。[u]一回の授業で1章を終えるスケジュール[/u]で、リーディング、練習問題、小テストなどを毎回行います。

2. 授業内容

第1回：a. Introduction (syllabus, 評価基準などの説明、以下のスケジュールはコースの途中で変更されることがあります)

b. テキストの構成と授業の進め方などの説明

第2回：Unit 2: Biology of Microbes 「微生物が開く道の扉」

第3回：Unit 4: Owning and Cloning Your Pet 「未来を拓くクローン技術」

第4回：Unit 6: Linear Precipitation Band 「列島を襲う線状降水帯」

第5回：Discussion & Speaking

第6回：Unit 8: Natural Hazards 「牙をむく自然」

第7回：Unit 10: Underground Source of Energy 「地熱の恵みを活かす」

第8回：Unit 12: Ensuring Marine Resources 「限りある海洋資源」

第9回：Discussion & Speaking

第10回：Unit 14: Nature is Our Greatest Teacher 「自然はアイデアの宝庫」

第11回：Unit 16: Intelligence Driving Our Future 「未来へ発信する自動運転車」

第12回：Unit 18: Pleasure Threshold 「依存をもたらす脳の働き」

第13回：Discussion & Speaking

第14回：a. 期末テスト

b. まとめと今後の学習

3. 履修上の注意

秋学期は偶数章のみです。春秋両方受講することによってテキストを1冊読み終えることになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習は必ず行ってください。全文の日本語訳を書いてくるのではなく、語彙の意味と各パラグラフの要点などを簡単に余白にメモしておくだけにとどめることが大切です。そこから日本語は自ずと出てきます。また予習の段階でよくわからなかった部分には印をつけるなどして、授業で確認するようにしましょう。Speaking に関しては、十分な準備が必要ですが、英語の学習のためだけではなく、自己表現の一つとして楽しんでトライして欲しいと思います。

5. 教科書

[i]Science Stream[/i] 「覗いてみよう、科学の世界」(2022, 成美堂)

6. 参考書

毎回必ず和英・英和辞書（電子、紙のいずれか）を持参すること。授業でスマホやタブレットでの語彙の検索は許可しません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン予習テストに関しては、受付期間終了後にスコアが確認できます。詳しい解答の説明等は授業中に行う予定です。

また、授業内テストに関しては、その場で答え合せをする予定です。

8. 成績評価の方法

授業中の参加と課題30%、各種テスト（予習テスト、小テスト、期末テスト等）70%をもとに総合的に評価します。また欠席が1/3（5回以上）を超えた場合は評価の対象としないので要注意。詳しくは第一回目の授業で説明します。

9. その他

オフィス・アワー： 火曜 12:30-13:20 （中央棟3F 講師控室）

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 科学英語(20)	1 単位	熊田和典
2017~2021年度入学者 科学英語(20)		

1. 授業の概要・到達目標

環境、健康、科学技術の分野の身近な話題を取り上げた映像と英文の理解を通して、科学について話された、あるいは書かれた英語に慣れるとともに、科学英語の語彙を身につけて、科学英語の総合的な基礎力を養うことを目標とする。

各課とも、まず、親しみやすい身近な話題を扱った AFP のニュース映像を見てその英語の理解に努め、その後、同一の話題を扱った英文を精読する。次に、練習問題にも取り組み、さらに深い理解や科学英語の語彙の習得に努める。本授業では、テキストの後半部分を扱う。(扱う題材に関しては下記の「授業内容」を参照のこと。)

食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 a. インTRODakション (科学英語を学ぶにあたって)
b. Lesson 10 Eating Disorders (摂食障害) : ニュース映像 リスニング指導
- 第2回 Lesson 10 Eating Disorders (摂食障害) : ニュース映像の解釈
- 第3回 Lesson 10 Eating Disorders (摂食障害) : 英文読解
- 第4回 Lesson 11 Virtual Reality for Therapy and Treatment (バーチャルリアリティー) : ニュース映像の解釈
- 第5回 Lesson 11 Virtual Reality for Therapy and Treatment (バーチャルリアリティー) : 英文読解
- 第6回 Lesson 12 Ecotourism and Protection of the Natural Habitat (観光開発と自然保護) : ニュース映像の解釈
- 第7回 Lesson 12 Ecotourism and Protection of the Natural Habitat (観光開発と自然保護) : 英文読解
- 第8回 Lesson 13 Health Check (ウェアラブルの進化) : ニュース映像の解釈
- 第9回 Lesson 13 Health Check (ウェアラブルの進化) : 英文読解
- 第10回 Lesson 14 Saving Food Waste (食品ごみを減らす) : ニュース映像の解釈
- 第11回 Lesson 14 Saving Food Waste (食品ごみを減らす) : 英文読解
- 第12回 Lesson 15 Climate Change, Drought, and Water Use (水資源の有効利用) : ニュース映像の解釈
- 第13回 Lesson 15 Climate Change, Drought, and Water Use (水資源の有効利用) : 英文読解
- 第14回 a. まとめ、補足
b. 試験

* 講義内容、進度は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

英語力の向上を目指して、授業に積極的に参加すること。授業時の質問は歓迎する。
辞書を必ず携帯すること。(電子辞書可。ただし、スマートフォンなど辞書以外の機器に付随したものは不可。)
遅刻厳禁。病欠などの突発的事情を除き、無断欠席をしないこと。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習に関しては、事前にテキストの該当箇所を読み、全体の内容の理解に努めること。その際に意味のわからない部分を明確にし、その部分を辞書で調べておくこと。受講後は、重要な文法事項、意味のわからなかった部分を中心に見直すとともに、語彙力の増強に努めること。映像の部分については、音声だけで理解できるように何度も聴くとともに、音声に合わせて何度も自分で発音してみることが望ましい。

5. 教科書

『AFP World Focus: Environment, Health, and Technology』 宍戸真, Kevin Murphy, 高橋真理子著 (成美堂)

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評については、後日 Oh-o! Meiji にて公表する。

8. 成績評価の方法

定期試験(70%)と小テスト(単語テスト)(30%)で総合的に評価する。小テストは数回実施する予定である。テストはリスニングの形式では出題しない。

9. その他

オフィスアワー : 火曜日 10:40~17:10 の授業外の時間 (中央校舎 3 階講師控室)
連絡先 : メールアドレスを初回の授業で伝える。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 科学英語(21)	1 単位	樋渡さゆり
2017～2021年度入学者 科学英語(21)		

1. 授業の概要・到達目標

「英語で読む自然科学史：ウィリアム・ハーヴィーとその時代」

《授業の概要》

上級レベル. 自然科学史をほり下げる論集 [i]The History of Scientific Discovery[/i] (W.H. Brock 著, Oxford UP) から、「生命科学のあけぼの：ウィリアム・ハーヴィーとその時代」を精読する. William Harvey (1578-1657) は英国の医師・解剖学者である. ハーヴィーは英国で学んだ後に、ガリレオが数学を教えていたイタリアのパドヴァ大学に留学して最先端の医学を学び、血液循環のメカニズムを発見したことで知られている. 自然科学史を文化的な広い視野から学び、今日の私たちの文化や生活を考える. 毎回、授業内容にかかわる課題を提出してもらう.

《到達目標》

長文の論説文を正確に読む技術の習得と、そのために効果的な学習方法を身につけること、そして自然科学史や歴史の基礎的な知識を身につけ、そのヴォキャブラリーになじむことが到達目標である

農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する.

2. 授業内容

第1回：aのみ：イントロダクション

第2回：テキストを精読。Ch 1 Harvey and Galileo

第3回：Ch 2 A Student at Padua

第4回：Ch 3 Galen's views are challenged

第5回：Background 1 Medical Schools and Hospitals

第6回：Ch 4 Return to England: The Action of the Heart

第7回：Background 2 Kill or Cure

第8回：第7回までの復習・補足 / Ch 5 Demonstrations of circulation

第9回：Ch 6 Harvey publishes his discovery

第10回：Background 4 Humors Plague and Witchcraft

第11回：Ch 7 The generation of animals

第12回：Ch 8 Harvey in old age

第13回：Ch 9 Harvey's heritage / 総復習

第14回：a: 発展的学習のために / b: 期末試験

3. 履修上の注意

欠席や遅刻は極力避けること. テキストは上級レベル

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ示された範囲のテキストを、段階的・発展的に指示されたポイントに注目し、脚注と辞書を用いてテキストを読んでくる. 受講後は、授業中に注目したヴォキャブラリーやセンテンス、文法事項を見直して、定着に努める

5. 教科書

『A Revolution in Life Sciences』 Jack Meadows 編、虎岩正純・虎岩直子 編注（鶴見書店）

6. 参考書

出版社は問わず、下記と同等レベル（内容・情報量）の英和辞典を薦める。電子辞書やオンライン辞書を使用するメリットも紹介するが、予習の際には紙媒体の辞書を薦めたい。

『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出課題はおもにクラスウェブを利用します

フィードバックはクラスウェブのコメント欄で各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業展開に取り入れる、などの方法をとります

8. 成績評価の方法

期末試験実施日を含めた授業実施回数の2/3以上に出席している履修者を評価対象とします。

教室での授業に参加し、かつ提出課題を提出し、受理されて初めて「出席」と見做されます

期末定期試験 60%、平常点（出席・参加状況、課題提出など）40%で評価します。

9. その他

1. 連絡方法⇒クラスウェブ上に用途別の連絡欄を設置. 質問は随時受け付けます

2. オフィスアワー⇒質問対応は1. のとおり. 面談を希望する場合は授業終了時または事前連絡でアポイントメントをとると確実です

場所：英語第1研究室（第一校舎 3号館4階403号）

時間：在室時は可能な範囲で対応

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 科学英語 (22)	1 単位	貝塚泰幸
2017~2021 年度入学者 科学英語 (22)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

私たちは科学に関する日本語の表現や言い回しを幼い頃より耳にしており、慣れ親しんでいる。しかし科学に関する英語の表現や言い回しとなると、それらを読み聞きする機会が極端に少ないため基礎的な内容でさえも英語で表現することは難しい。そこで科学、特に人間の身体と関わるさまざまな内容を読み、農業や人の健康、医薬品、食品そして環境といったトピックの英文を読み、日常的に使用される表現から専門的な語彙まで幅広く学んでいく。

《授業の到達目標》

農業や健康、医薬品と人体の関わり合い、食品や環境などに関する英文を読み、そこで使用される英語表現に慣れ親しみながら基本的な表現パターンとその文を作るために必要な重要表現や語句を習得し、かつそれらを用いて学習した分野に関する知識を伝え自らの考えを表現できるようになることを目標とする。さらに英文の精読を通して読解力と一般的な語彙力を向上させ、批判的な視点からテキストを読み、学生が独自の意見を形成できるようになることを目的とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

- a. 授業の進め方と成績評価の方法に関する説明
- b. イントロダクション

第2回：Unit 7

第3回：Unit 7

第4回：Unit 8

第5回：Unit 8

第6回：Unit 9

第7回：Unit 9

第8回：Unit 10

第9回：Unit 10

第10回：Unit 12

第11回：Unit 12

第12回：Unit 13

第13回：Unit 13

第14回：a. まとめ

- b. 期末試験

* 授業内容は進度などに応じて内容は変更される場合がある。

3. 履修上の注意

学生は積極的な授業参加が求められる。学生はテキストを熟読し、特に科学分野に関する英語表現については対応する正確な日本語による表現を調べておくこと。また毎回の授業には辞書（電子辞書・紙媒体のもの共に可）を持参すること。授業中に携帯電話やスマートフォンを辞書などとして用いることは認めない。

準備学習が不十分であった場合や、授業への参加態度が不適切な場合（私語やスマートフォンの使用など）には成績より減点する。

全日程の3分の1以上欠席した者は、原則として成績評価対象外とする。

遅刻・早退は3回で1回分の欠席とし、授業開始後30分以上遅れて来た者および授業終了30分以前に退出した者も欠席とみなす。また教科書を持参しない者も欠席扱いとする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ予定された範囲の本文を熟読し、意味のわからない単語については授業までに必ず調べ、おおよその内容を把握した上で授業に臨むこと。また特に難解な箇所や理解できない点に関しては学生全体で共有し議論するため指摘できるようにしておくこと。

5. 教科書

笹島茂, 他, 『CLIL 英語で学ぶ身体のおもしろさと働き』(三修社).

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは Oh-o! Meiji の「レポート」機能を利用して行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%

授業への貢献度 30%（予習、授業内の質疑応答、授業内の発言、課題など。遅刻・欠席は成績に加味する。）

9. その他

授業内容に関する質問等はリアクション・ペーパーおよび授業の前後に受け付ける。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (23)

1 単位

長谷川安代

2017~2021 年度入学者
科学英語 (23)

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

本授業では、IPCC の第 6 次評価報告書第 2 作業部会の報告『気候変動 - 影響・適応・脆弱性』(Climate Change 2022: Impacts, Adaptation and Vulnerability) の Fact sheet を教材とし、気候変動の影響について、地域別に、英語で学んでいきます。科学分野で使われる英単語や英語表現は繰り返し出現するため、本授業でのインプット・アウトプットを繰り返すことで、科学分野(特に気候変動分野)で頻出する単語や表現を自然と習得することを目指します。また、英語の語学教材ではなく、国際機関の報告書を教材とすることで、英語で科学分野の情報収集をすることへの抵抗を軽減していきます。

<授業の到達目標>

1. 気候変動分野(科学分野)における事象やそれに対する自身の考えを適切な英語で表現することができる。
2. 科学分野の英語資料を読むことへの抵抗を軽減する。
3. 国際機関の報告書を読むときのスキルを身につけることができる。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

- [第 1 回] a のみ: Introduction
- [第 2 回] Africa (Input)
- [第 3 回] Africa (Output)
- [第 4 回] Australia (Input)
- [第 5 回] Australia (Output)
- [第 6 回] Central and South America (Input)
- [第 7 回] Central and South America (Output)
- [第 8 回] Europe (Input)
- [第 9 回] Europe (Output)
- [第 10 回] North America (Input)
- [第 11 回] North America (Output)
- [第 12 回] Small Islands (Input)
- [第 13 回] Small Islands (Output)
- [第 14 回] Review

3. 履修上の注意

- ・授業はグループワークを中心に進めていきます。授業毎にランダムにグループ分けを行います。
- ・授業には、PC、Tablet 等のデバイスを持参してください。
- ・授業では、英語と日本語の両方を使います。
- ・原則として、20 分以上の遅刻は欠席扱いとします。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

テキストを読む、質問を考える、重要な論点を抽出するなどの課題に取り組んだ上で、授業に参加してください(各回の予習 90 分)。課題の詳細については、第 1 回の授業時に説明します。

5. 教科書

IPCC の第 6 次評価報告書第 2 作業部会の報告『気候変動 - 影響・適応・脆弱性』(Climate Change 2022: Impacts, Adaptation and Vulnerability) の Fact sheet を教材にします。

次のサイトよりダウンロードしてください。 <https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg2/about/factsheets/>

6. 参考書

Fact Sheet で言及される各文書は次のサイトからダウンロードできます。
<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-working-group-ii/>

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内やオンラインシステム等を活用して、振り返りシートに対するコメントを共有します。

8. 成績評価の方法

- ・平常点(グループワークへの参加態度・振り返りシート): 50%
 - ・期末レポート: 50%
- (単位取得に必要な出席日数を満たしていることを成績評価の前提とします。)

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (24)

1 単位

中村美帆子

2017~2021 年度入学者
科学英語 (24)

1. 授業の概要・到達目標

「科学の話題について英語で読み、考える」

《授業の概要》

科学関連の記事の講読を通じて、リーディング能力を高める。

科学関連の話題をまとめた教科書と、その他の新聞・雑誌記事を使用する。教科書から5つのテーマを選び、次の3つの手順で学習する。

1. 教科書掲載の記事を読み、単語や表現を確認しつつ、内容を把握する。
2. 関連するテーマを扱った新聞・雑誌記事を読む。
3. 自分の意見や調べたことについて英語でまとめ、小レポートとして提出する。

その他、映像資料等も適宜取り入れる。

《到達目標》

1. 科学関連の記事を英語で読み、リーディング能力を高める。
2. 専門的な語彙や表現を習得する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：Unit 9 Children Are Susceptible to Robot Peer Pressure

第3回：新聞・雑誌記事講読 1

第4回：Unit 10 British Doctors May Soon Prescribe Art, Music, Dance, Singing Lessons

第5回：新聞・雑誌記事講読 2

第6回：小テスト1, まとめ

第7回：Unit 11 This Remote Control Vest Trains Rescue Dogs Using Flashlights

第8回：新聞・雑誌記事講読 3

第9回：Unit 12 Sans Forgetica Is the Typeface You Won't Forget

第10回：新聞・雑誌記事講読 4

第11回：小テスト2, まとめ

第12回：Unit 13 How Fish Farms Can Use Facial Recognition to Survey Sick Salmon

第13回：新聞・雑誌記事講読 5

第14回：a. 試験, b. まとめ

3. 履修上の注意

1. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。
2. 5回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は3回で1回の欠席とみなす。
3. この授業では教科書の後半（Units 9-15）から5つのunitを選んで使用する。教科書の前半（Units 1-8）は、春学期の「科学英語」で使用する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1時間）。

復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1時間）。

5. 教科書

『Science at Hand: Articles from Smithsonian Magazine's Smart News / スミソニアンで読む日常の科学』, Keiko Miyamoto 著（金星堂）

※大学の書店で必ず購入すること。

6. 参考書

資料を適宜配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。

8. 成績評価の方法

期末試験 50%, 小テスト 30%, 小レポート 10%, 授業への参加度 10%

9. その他

連絡先：最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (25)

2017~2021 年度入学者
科学英語 (25)

1 単位

原功

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

「科学英語」という授業を通じて身につけたいスキルは、専門文献や研究論文を自力で正確に読み取れるようになることです。そのためには、日常生活で使われる単語とは異なった学術用語を知らなくてはいけません、それで終わりというわけにもいきません。1文1文を正確に読み取り、背景知識を得て、パラグラフを理解し、文章全体を把握しなくてはいけません。そのためのトレーニングとして、短くまとまった難解な理科系の英文を自力で読み解きます。まずは難しいと感じることから始め、どのような知識をどのように活用すれば内容を理解できるようになるのかの手ほどきを行います。

〈授業の到達目標〉

- 1) 科学系の英文を自力で正確に理解するためのスキルを身につけること
- 2) 自分の考えを自力で正確に表現するためのスキルを身につけること

※農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回： a. 授業概要、授業の進め方、履修上の注意など b. 科学英語を理解するポイント

第2回： Unit 1 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第3回： Unit 2 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第4回： Unit 3 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第5回： Unit 4 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第6回： Unit 5 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第7回： Unit 6 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第8回： Unit 7 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第9回： Unit 8 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第10回： Unit 9 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第11回： Unit 10 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第12回： Unit 11 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第13回： Unit 12 a. 英文読解・情報整理 b. 考察その他発展学習

第14回： a. 期末試験・b. 解説、総括、今後の指針

3. 履修上の注意

1) この授業は始業時刻と同時に開始しますので、間に合うように教室で準備してください。理由なく大幅に遅刻した場合は出席したものとみなしません。

2) 授業回数の3分の1を超える欠席(5回以上)は評価の対象としません。やむを得ない理由で欠席する場合は相談に応じます。

3) 語学は実技科目です。読むにせよ書くにせよ、能動的な学習姿勢が求められます。従って、授業に参加する意志がないものと判断した場合、度重なる警告にも関わらず授業と関係のない行為を継続している場合については、たとえ教室にいても出席したものとみなしません。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、知らない単語が文章中にあるのは当たり前のことであると考え、未知の単語をピックアップしてその意味を調べておくこと、その週に扱うユニットに目を通し、分かりそうなところと難しいところを把握しておくことくらいは最低でも行ってください。それに加えて疑問点をいくつか持つておくこと、質問したいことをまとめておくことを期待します。

復習としては、記憶が新鮮なうちに新たに得た知識をまとめておくこと、CDまたは音声ファイルを、英文の意味が理解できるようになるまで繰り返し聞くこと、英文をすらすら読めるようになるまで音読すること、授業内容に関連した新聞記事やウェブ記事、専門書などを読むことが理想的です。

半期の学習を通じ、教科書の英文は自信をもって読める、同じくらいのレベルの英文は自力で読むことができる、さらに高度な英文でも理解するための手法が身につけている、という目標の元で取り組んでください。

5. 教科書

『Science Bridge (ニュースでつなぐ日常と科学)』金星堂

6. 参考書

専門性の高い英文に専門用語や学術用語など、分からない単語があるのは当たり前であり、それらの意味は各自で調べて理解するしかなく、いくら英文を眺めていても分かるようにはなりません。そのためには辞書や学術用語集が必要ですが、電子辞書であれ紙媒体であれ、まずは手持ちの辞書を活用することから考えましょう。手持ちの辞書できちんと読めているうちは新しいものに手を出す必要はありません。教科書や学術書、雑誌記事や学術論文を読み進めていくと、ある時手持ちの辞書では太刀打ちできないと感じる時があるはず。その時にこそ、新しい辞書の購入を検討しましょう。何にせよ、辞書も持たずに教室に来るのはやめてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出すべき課題は、授業時間中に実施される紙媒体の課題(和訳や考察など)と Oh-o! Meiji の「小テスト」機能を利用した自習課題(教科書掲載の Exercise)があります。前者は提出後、添削あるいはコメントをつけた上で返却します。後者は回答送信後に正解が表示されます。また、出席登録のコメントに対しては必要に応じて返信します。

8. 成績評価の方法

出席率が規定以上であることを前提として、次の観点により評価します。

授業内課題 20%

授業へのコメント 10%

自習課題	20%
期末試験	50%

9. その他

授業に関する質問などは授業前後に教室で受けます。また、Oh-o! Meiji の「ディスカッション」に質問専用のスレッドを用意する他、質問専用のメールアドレスをお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 科学英語(26)	1 単位	原田英子
2017～2021年度入学者 科学英語(26)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

<科学の話題を英語で読む>

最新の科学についての様々な話題についての英文エッセイを読み、読解力、語彙力の増強を図る。英文の中の情報を的確に読み解けるようになることがこの授業の目標である。

《授業の概要》

春学期と同じテキストを使用する。正確にどの章から始まるかは初回の授業内で説明する。上記の目標のために、テキストに沿って基本的に1回の授業で1つのUnitを進め、テキストの最後まで終了することを目指す。毎回Unitの内容に即した小テストを出題する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション（授業方法・Unit 11の導入）〔対面授業〕
- 第2回：Unit 11 Reading Anywhere 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第3回：Unit 12 Controlling Everything 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第4回：Unit 13 Easy Payments 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第5回：Unit 14 Let's All Pay 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第6回：Unit 15 Where Do You Want to Fly Today? 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
- 第7回：Unit 16 Flying Tonight 〔対面授業〕
- 第8回：Unit 17 Off to the Asteroids 〔対面授業〕
- 第9回：Unit 18 Going Beyond 〔対面授業〕
- 第10回：Unit 19 The Red Planet 〔対面授業〕
- 第11回：Unit 20 Casting a Shadow 〔対面授業〕
- 第12回：補足プリント1 〔対面授業〕
- 第13回：補足プリント2 〔対面授業〕
- 第14回：a まとめ・b 試験 〔対面授業〕

※講義内容は必要に応じて変更になる場合がある。

3. 履修上の注意

[u]この授業は、第2回～第6回はメディア授業（オンデマンド型）で行う。[/u]

初回の授業で、オンライン授業で使用するツール（Forms、Teams）の使い方を説明するので、各自使用するデバイスを持参すること（スマートフォンも可）。また、初回授業までに多要素認証を済ませておくこと。

メディア授業期間はクラスウェブの授業内容・資料欄に原則金曜日の朝9:00に動画を配信し、学期中の視聴を可能とする。

対面授業、メディア授業両方でMicrosoftのTeamsとFormsを利用してテキスト内容に即した小テストを出題する。小テストは原則金曜日の朝9:00に配信し、翌週の朝8:30を締め切りとする。特別な場合を除いて遅延提出は減点対象とする。

Teamsの機能を活用し授業の質問を受け付ける（対面授業期間は直接申し出ることが望ましい）。初回到公開するメールアドレスは事務連絡、相談窓口とする。

授業の大切なお知らせ等についてはクラスウェブにも反映させる。

[u]必ず[/u]本文読解の予習をすること。集中して積極的な態度での授業参加を心がけること。

毎回必ず辞書を持参すること（英和・和英・英英）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

対面授業では毎回指名されることを念頭に、英文を読み、わからない単語はあらかじめ調べておくこと。その上でわからない箇所があれば明らかにしておくこと。メディア授業期間は授業の動画を視聴し、わからない部分は積極的に質問すること。各自でテキストの問題にあらかじめ取り組んでおくこと。

5. 教科書

『Science Quest（未来科学への誘い）』 安浪誠祐、Richard S. Lavin（成美堂）

6. 参考書

特に定めないが、必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト、課題に関して、締め切り日の授業冒頭もしくは動画冒頭で正答解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、授業貢献・参加度 10%、小テスト・課題 30%

9. その他

オフィスアワー: 質問がある場合には、授業の前後に申し出る、もしくはメールをすること（メールアドレスは最初の授業で示す）。

科目ナンバー (AG) LAN211M

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
科学英語 (27)

2017~2021 年度入学者
科学英語 (27)

1 単位

松井恭子

1. 授業の概要・到達目標

◆授業の概要

身近な科学をテーマに、それに関する最新の研究成果や未来の姿を予見させる技術革新についてわかりやすい英文を読む。主なテーマは自然、生物、環境、人間と社会、宇宙探索、健康医療とバイオサイエンス、ロボット開発、未来と科学、と幅広い内容である。現在を見据え、未来を展望するエッセイは知的好奇心を刺激すると思われる。

◆到達目標

英文内容の正確な理解と科学英語の論理展開を把握する力を養うことを第一目標とする。また、正しく発音し、聞き取りやすい英語発音ができるように練習をしていく。更に、話題について自分のコメントを簡単に英語で言う練習も加える。各 Unit のトピックに関して、Agree or Disagree? Why? についてクラスメイトと意見交換を楽しめるようにしていく予定である。自分自身の視点で話題に向き合うことができるようになることを目指す。

2. 授業内容

第 1 回：イントロダクション（評価基準などの説明、クラスの進め方、Mini-presentation の仕方、予習の仕方などの説明）

Unit 1: Extinct No More: Can We Bring Back Mammoths? (1)

第 2 回：Unit 1: Extinct No More: Can We Bring Back Mammoths? (2)

(発音練習 1)

第 3 回：Unit 2: That Sinking Feeling: Cities Returning to the Sea (1)

(発音練習 2)

第 4 回：Unit 2: That Sinking Feeling: Cities Returning to the Sea (2)

(発音練習 3)

第 5 回：Unit 5: Helping the Deaf: the Teen Who Translates Sign Language

(意見を述べる際の Introduction と Body part の大切さ)

第 6 回：Unit 6: Fline Truths: How to Make Your Cat Love You

(意見を述べる際の Conclusion part の大切)

第 7 回：Unit 9: Real After All: NASA' s Growing Interest om UFOs

(Voice の出し方 1)

第 8 回：Unit 10: Hard Gardening: Growing Plants on the Moon

(Vocabulary game)

第 9 回：Unit 13: An Itchy Problem: The Science of Mosquito Bites

(Voice の出し方 2)

第 10 回：Unit 14: Goodbye Diets? (1)

(Vocabulary test)

第 11 回：Unit 14: Goodbye Diets? (2)

(Discussion 1)

第 12 回：Unit 17: Closer to Humans: Developing Robots with Skin

(Discussion 2)

第 13 回：Unit 18: A New Solution: Plastic-Eating Enzymes

(Discussion 3)

第 14 回：a. まとめと解説 b. 期末レポートの説明

3. 履修上の注意

授業形態については、詳しいことは 10 月の終わり頃に授業中また、Oh-Meiji 「授業お知らせ管理」にてお伝えするが、14 回中、5 回は ZOOM によるリアルタイムのオンライン授業、9 回ほどを対面授業とする計画である。9 月全部と 10 月 3 週目あたりまでは、すべて対面授業とする。変更がある場合は、前もって Oh-Meiji の「授業お知らせ管理」に載せる。

教員のメールアドレスを初回の授業のときに履修者にお知らせする。また、Oh-Meiji にも 4 月に載せる。欠席が 4 回以上の場合、単位は取得できないので注意して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当ページを辞書を使って読み、内容を自分の言葉で説明出来るように準備して授業に望む。各 Unit のトピックはインターネットなどで調べて、深い知識も得られるよう積極的に予習、復習をする。授業での英語でコメント・意見など話してもらうときは、担当者を順番に当てるので、原稿を用意して取り組んで欲しい。

5. 教科書

Science Inspirations: 未来を創る科学の英知

Dave Rear 著 成美堂 (2024 年) ISBN 97847919-7287-6

6. 参考書

毎回必ず辞書は持参すること。スマートフォンなどの電子辞書も使用できる。英語辞書は、ときに英英辞典を使用してみてください。参考になる本などは、授業時にお知らせする。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小課題については、締め切りの後、授業で解説をする。期末レポートの課題については、Oh-Meiji のシステムを通じて、レポート締め切り日の翌々週に配信する。

8. 成績評価の方法

期末レポート (40%)、自分の感想発表と発音練習 (30%)、授業中の参加と平常点 (30%)

9. その他

オフィス・アワーと連絡方法は、第一回目の授業時に指示する。Oh-Meiji にも載せる。

科目ナンバー (AG)LAN211M

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 科学英語 (28)	1 単位	中村啓子
2017~2021 年度入学者 科学英語 (28)		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

このコースではテキストの中から主に自然科学分野のトピック、「栄養に関する研究：食のルール」、「科学捜査：科学とフィクション」、「先史時代：オオカミから犬まで」に関する英文記事やエッセイを読み読解力の向上を目指すクラスです。これらのテキストを読解しながら、スキミング・スキル、筆者の考えを裏付ける支持文、要約、物事や出来事の順番や順序の理解、言葉や例の引用などについて学びます。また、使用する教科書には Web 上で視聴できるビデオ映像、音声、さらに練習問題（オンライン・ワークブック）もありますので、五感を使って読解力や語彙力も強化していきます。

〈授業の到達目標〉

コース終了時には様々な科学分野のアカデミックなテキストの主旨を理解、必要な情報を見つけ、読解し要約できることを目標としています。また、自分のこれまでに備わった知識やクラスメートとのディスカッションを通じ、クリティカル・シンキングスキル（批判的な思考力）を伸ばします。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回： イントロダクション（シラバスの説明、クラスルールズ、自己紹介など）
- 第2回： Chapter 3 Nutrition Studies, Reading 1 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第3回： Chapter 3 Nutrition Studies, Reading 2
- 第4回： Chapter 3 Nutrition Studies, Reading 3 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第5回： Chapter 3 Review Test, Chapter 4 Medicine, Reading 1
- 第6回： Chapter 7 Forensics, Reading 1 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第7回： Chapter 7 Forensics, Reading 2
- 第8回： Chapter 7 Forensics, Reading 3 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第9回： Chapter 7 Review Test, Chapter 8 Prehistory, Reading 1
- 第10回： Chapter 8 Prehistory, Reading 1 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第11回： Chapter 8 Prehistory, Reading 2
- 第12回： Chapter 8 Prehistory, Reading 3 [メディア授業（オンデマンド型）]
- 第13回： Chapter 8 Review Test
- 第14回 a：まとめ b：試験

尚、授業内容や進度は、受講生のニーズなど必要に応じて変更する可能性があります。

3. 履修上の注意

・このコースの一部の授業はメディア授業科目として開講されます。メディア授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行われます。

・講義動画は原則金曜日の午前9時に Oh-o! Meiji システム上の「授業内容」機能を通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。

・講義動画に対して、課題を同システム上の「レポート」機能へ、翌週の月曜日午後5時までに提出することで、出席確認及び理解度確認を行います。

・対面授業では、ペアワークによるロールプレイや、グループワーク、ディスカッションなどの活動に積極的に参加することが求められます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・予習： テキストに出てくる単語の意味や使い方を確認しテキストを読みましょう。
- ・復習： 単語や練習問題を復習しましょう。

5. 教科書

『Longman Academic Reading Series 3』 Judy L. Miler and Robert F. Cohen 著, (Pearson), 2017 年, ISBN: 978-1-108-68601-3

6. 参考書

- ・自然と生物をテーマにした TED: [url]https://digitalcast.jp/vc/nature/[/url]
- ・バイオをテーマにした TED: [url]https://digitalcast.jp/vc/biotechnology/[/url] (字幕付きのものもあります)

7. 課題に対するフィードバックの方法

口頭で行います。

8. 成績評価の方法

試験（小テスト、期末テスト）70%、平常点（課題、受講態度）30%。遅刻（授業開始後30分までに入室）3回で欠席1回とみなします。授業回数の2/3以上の出席者が評価対象となります。

9. その他

オフィスアワーは金曜日、12:30-13:10（中央校舎3階講師控室）です。

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語コミュニケーション(1)

1 単位

中村啓子

2017~2021 年度入学者
英語コミュニケーション(1)

1. 授業の概要・到達目標

<Course Descriptions>

On this course, you will develop speaking and listening skills while strengthening grammatical competence and building a strong vocabulary for better communication. You will also challenge immersive tasks that involve information sharing, problem solving, and decision making. The language of instruction is English.

<Course Objectives>

By the end of this course, you should be better able to:

- talk about variety of topics of everyday life;
- understand others and express yourselves in English with confidence;
- participate in an informal conversation enthusiastically.

In the Food Production and the Environment Course in the Department of Agriculture, this course corresponds to A in the educational objectives.

2. 授業内容

- (1) Course work, Presentation of syllabus, Class rules
- (2) Unit 7.1: A 50-year playlist (on-demand classes in the form of media classes)
- (3) Unit 7.2: The best entertainment
- (4) Unit 7.3: A new band (on-demand classes in the form of media classes)
- (5) Review Test and Unit 7.5: Time to Speak
- (6) Unit 8.1: Saying and doing (on-demand classes in the form of media classes)
- (7) Unit 8.2: Started, but not finished
- (8) Unit 8.3: How have you been? (on-demand classes in the form of media classes)
- (9) Review Test and Unit 8.5: Time to Speak
- (10) Unit 9.1: Building a future (on-demand classes in the form of media classes)
- (11) Unit 9.2: House rules
- (12) Unit 9.3: A new challenge (on-demand classes in the form of media classes)
- (13) Review Test and Unit 9.5 Time to Speak
- (14) Review and Exam

*The schedule is subject to change. Changes, if necessary, will be announced in class or on the ClassWeb.

3. 履修上の注意

・ A combination of face-to-face and media classes is adopted. Media classes refer to an on-demand format in which students access recorded videos. Videos will be uploaded in the “Class Contents & Resources” section of the ClassWeb at 09:00 on Monday of the designated week.

・ When on-demand classes are conducted, homework is given almost every time to help you review the class contents. Homework should be submitted to “Reports” section of the ClassWeb by 17:00 on Wednesday of the same week. Submission of homework on time will be counted as one attendance.

・ In principle, an attendance record of less than two-thirds of the total class hours will automatically result in a grade of F.

・ Any students who fail to arrive within the first 30 minutes of a face-to-face class will be regarded as being absent, even if they attend the rest of the class.

・ If you are late for class three times, it will be counted as one absence.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・ Outside of class time, you are expected to read assigned parts of the textbook for the next class, and complete the relevant sections of the textbook to review classes.

5. 教科書

Title: Evolve Level 3 SB with Digital Pack Split B (ISBN: 9781009231848) OR EVOLVE Student's Book 3B (ISBN: 978-1-108-40920-9) . Either would be fine.

Author: Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, and Kathryn O' Dell

Publisher: Cambridge University Press

・ Please note that 『EVOLVE Level 3』 is available in split volume editions: 『Student' s Book A』 and 『Student' s Book B』 . We will use 『Evolve Student' s Book 3B』 for this course.

6. 参考書

BBC Learning English: <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>

7. 課題に対するフィードバックの方法

Verbally

8. 成績評価の方法

Active participation 30%

Review tests and exam 70%

9. その他

Instructors can be contacted at: k_nakamura@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語コミュニケーション(2)
2017~2021 年度入学者
英語コミュニケーション(2)

1 単位

長谷川安代

1. 授業の概要・到達目標

<Course Description>

Students who have difficulty communicating with foreigners often say that they do not know what to talk about with foreigners. In this course, using the textbook based on the TV programme "COOL JAPAN" (broadcasted on NHK), first we will learn what aspects of Japanese culture or technology foreigners are interested in and then practice speaking about them in simple English. In "COOL JAPAN," not only native English speakers but also non-native English speakers take part in discussions, so students will be familiar with English with a variety of accents and learn how English is used as Lingua Franca.

<Learning Objectives>

Having completed this course, students will:

- be able to find the topics related to Japanese culture or technology that may interest foreigners.
- be able to describe Japanese culture and technology and talk about their thoughts on them in simple English.
- be able to hear and understand English with a variety of accents.

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] bのみ: Introduction
- [第2回] Unit 2: Uniforms (1)
- [第3回] Unit 2: Uniforms (2)
- [第4回] Unit 3: Volunteer Work (1)
- [第5回] Unit 3: Volunteer Work (2)
- [第6回] Unit 4: High-Tech Living (Automobiles) (1)
- [第7回] Unit 4: High-Tech Living (Automobiles) (2)
- [第8回] Unit 5: Japanese Tableware (1)
- [第9回] Unit 5: Japanese Tableware (2)
- [第10回] Unit 6: Homemakers of Japan (1)
- [第11回] Unit 6: Homemakers of Japan (2)
- [第12回] Unit 7: Seafood (1)
- [第13回] Unit 7: Seafood (2)
- [第14回] Review

3. 履修上の注意

- ・ Students are required to actively participate in class.
- ・ For group discussions or pair work, students will be randomly grouped or paired.
- ・ Classes will be taught in English.

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

For each class, students should work on the assignments in the textbook before the class starts(90mins.). Details will be explained in the first class.

5. 教科書

『発掘! かわいいニッポン—異文化理解から日本文化発信へ— (Discovering Cool Japan)』、津田晶子ほか著、(成美堂)

6. 参考書

- ・ It is recommended to watch the TV programme "COOL JAPAN" .
- Detailed information on the programme can be found at: <https://www.nhk.jp/p/cooljapan/ts/P2RMMPW5JM/>
- ・ 『クール・ジャパン!?外国人が見たニッポン』、鴻上尚史著、(講談社現代新書)

7. 課題に対するフィードバックの方法

Reaction sheets will be commented in class or online.

8. 成績評価の方法

- ・ Attitudes in class(participation in discussion, reflection sheets):50%
- ・ Final Report:50%

9. その他

For Office Hours, please email the lecturer. The email address will be provided in first class.

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語コミュニケーション(3)

1 単位

ティベール

2017~2021年度入学者
英語コミュニケーション(3)

1. 授業の概要・到達目標

1- <ACHIEVEMENT GOALS a>

Following spoken and written instructions, as well as demonstrations, participants will be able (0) to improve their English skills toward a better communicative fluency. The real objective is (1) to achieve better mutual understanding by using English for communication in class, especially speaking (and writing by speaking with technological assistance). All skills are used to these ends. Technological help provides models and supplementary support. Improvement happens along the assignment production.

On the side of attitudes, participants will be able: (2) to get more confident and autonomous in English; (3) to create a daily habit of listening to and reading English; and (4) to become more aware of the learning process through project management.

Specifically, participants will be able (5) to speak about their personal interests; (6)- to become better communicators, using proper tense aspects, stories, and webpages to carry their message; and (hopefully) (7) to enjoy doing so in English.

2- <COURSE OUTLINE a>

This project-driven course offers a unique opportunity to break through the English language barrier for beginners to highly motivated participants. Though it is in English entirely, easy-to-follow instructions and demonstrations make it a breeze. In class, participants learn experientially by matching models and recreating them with their own topics. Language acquisition occurs by complying to spoken and written instructions in English. Written and translatable instructions provide additional support to complete the project parts in solo. Communicative achievement arises through preparation, practice, and media creation. Participants produce project parts with their own personal computer. Bringing a PC to class is the main way to (1) participate, (2) obtain feedback on assignments, (3) share, and (4) correct one's work. A PC (preferably equipped with Windows 10 or 11) is required to pass this course.

2. 授業内容

Spring and Autumn Semester Course Contents

Most of the specific contents cannot be described in advance. A typical class contains a review time (RT), a media target (MT), and a project time (PT). Participants partly choose the contents by adapting the demo projects to their own preferences. Participants may refer to the Progressive Assignment List Report (PALR) for more details.

<Tentative Schedule> 😊

This schedule is explained in the colorful version of PALR (Progressive Assignment List Report).

From MO1 to M10, we study the corresponding How-To (HT) document with micro-instructions. Thus, the four kinds of projects become integrated. The instructor selects the required target sites, types, and format for four kinds of projects: (1) YouTube-Video-Book Project (YT-VBP), (2) AUDible-Audio-Book Project (AUD-ABP), (3) BLIinkist-Book Summary Project (BLI-BSP), and (4) Web Infographic Project (WIP). Participants have 3 weeks to complete each kind of project. They select the categories and topics for these projects. The project parts, graded tasks leading the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

CVB is the chosen Class Video Book for basic understanding, and accelerated language acquisition. (Chosen for beginners.) We begin targeting the chosen CVB from Meeting 8, if needed, to increase participation in larger groups.

From meeting 8, when producing 6-to-8-part projects, keep the troublesome parts for the end and / or switch to the CVB for completion.

HT01 explains the basic recommended online settings for smooth functioning in this course.

Browser settings (4), required extensions (4), applications (4), sign-ups (4), and necessary websites (4).

HT02 explains how to complete a weekly Self-evaluation with the Progressive Assignment List Report (PALR) & LG05.

HT03 explains how to complete the project Part 1 Edit Reference Screen (P1EditRefScreen).

HT04 explains how to complete the project Part 2 Otter Speech (P2OSpeech).

HT05 explains how to complete the project Part 3 Edit Otter Speech (P3EditOSpeech).

HT06 explains how to complete the project Part 4 Otter Screen Proof (P4OScreenProof).

HT07 explains how to complete the project Part 5 Review Time Quiz Questions (P5RTQQ).

HT08 explains how to complete the project Part 6 Menti Online Quiz Report (P6MOQR-0result).

HT09 explains how to complete the project Part 7 Menti Calculations (P7bMOQR-Calc) for participants.

HT10 explains how to complete the project Part 8 Menti Class Results (P8MOQR-ClassRes) for quiz masters.

Meeting Targets

MO1 = HT01 demo+00-PALR demo / AYS GUGIN PNF / email contact

MO2 = HT02 demo+00-PALR, FSES, and PORTFOLIO demo

MO3 = HT03 demo+P1EditRefScreen YT-VBP (Topic)

MO4 = HT04 demo+P1~P2OSpeech YT-VBP (Topic)

MO5 = HT05 demo+P1~P3EditOSpeech YT-VBP (Topic)

MO6 = HT06 demo+P1~P4OScreenProof AUD-ABP (Topic)

MO7 = HT07 demo+P1~P5RTQQ AUD-ABP (Topic)

MO8 = HT08 demo+P1~P6MOQR-0result AUD-ABP (Topic) + CVB01.

M09 = HT09 demo+P1~P7MOQR-Calc BLI-BSP (Topic) + CVB02.
M10 = HT10 demo+P1~P8MOQR-ClassRes BLI-BSP (Topic) + CVB03.
M11 = PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip demo + Complete 8-part BLI-BSP (Topic) + CVB04.
M12 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB05.
M13 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB06.
M14 = Complete 8-part WIP (Topic)
FINAL
M14 or
M15 = Final PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip
(Final updating by M15)

3. 履修上の注意

<PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS>

1- Are you willing to produce files in English and share them in English? That is the main prerequisite. Most of the note-taking and sharing are made with participants' computers. We use online technology in class. Participants must attend in person with a PC.

2- The use of computers in class is required simultaneously. Be smarter than a smartphone.

3- Attend the FIRST 5 MEETINGS: a) to confirm your registration; b) to get your Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN); c) to get the target report URL; d) to send to the instructor your PALR static Dropbox address. Without them, you start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), you won't exist on the instructor's list until you ask for it in class directly in order to confirm and update your data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

<PREPARATION and REVIEW> (Required Gate)

Be willing to prepare for class with the learning guides, how-to documents, and templates for about 15 minutes a day.

Everyone (from beginners to high achievers) is requested (1) to watch (listen / read) the media in advance and (2) to compose 5 quiz questions from the weekly Media Target. These questions are presented during the following meeting. They provide more participation points and sharing marks. Thus, participating in the weekly REVISION time and SHARING time become very easy.

Every participant is given the opportunity to practice and share their favorite topics through various kinds of containers like video-books, audio-books, book summaries, and various web pages within the Project Time. That is a sure way towards higher scores.

5. 教科書

<TEXTBOOKS>

The instructor progressively adapts his instruction manuals (HT & LG) to the perceived participants' understanding. They consist of (translatable PDF) learning guides (LG) and how-to (HT) documents. Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PALR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the guides and how-to documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

<REFERENCE BOOKS>

The best reference is the chosen topics and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. 😊

7. 課題に対するフィードバックの方法

<METHOD OF FEEDBACK ON PROJECTS AND ISSUES ab>

1. Bring Your Own Device (BYOD): A PC laptop (& electric connector) is best to get Participation points & Project marks.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW (and TELL, when possible, for more points).

2. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

3. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (a) evaluate their projects with criteria given in the HT and LG documents; (b) confirm their scores in class by sharing their screen; (c) update their improved (or corrected) projects through DROPBOX.COM; (d) practice / participate with partners; and (e) share their personal projects with the group.

4. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (a) Attendance; (b) Project Points; (c) Practice/Participation points; and (d) Sharing marks in their personal PALR. They must (e) document (keep proof of) how these scores were obtained in the PALR Memo Note Table, (f) take screenshots of the quiz results, (g) identify these screenshots properly as demonstrated, (h) calculate their various scores, (i) provide the calculations of those scores on edited screenshots, and (j) connect them with Dropbox links in their personal PALR.

5. There is no return of assignments by the instructor. Participants may update their assignments, or make a better attempt with the next project parts.

8. 成績評価の方法

<GRADING & EVALUATION>

(Consult LG05 GRADING when it comes out.)

(A) BASIC CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

(1) Participants must prepare and practice for class.

More precisely, they must produce weekly media with the demo model and their own topic as target, before class participation can be added to the total.

(2) Participants must attend a minimum of 10 meetings for active participation to be counted.

(3) Participants must produce the necessary weekly report (docx & pdf) PALR (Progressive Assignment List Report).

(4) Participants must complete the necessary final self-evaluation section FSES.

(5) Participants must provide a Dropbox link to their zipped PORTFOLIO by the end of the semester.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate)

F= 0~1259 (0~44%), F+=1260~1679 (45~59%);

C=1680~1819 (60~64%), C+=1820~1959 (65~69%),

B=1960~2099 (70~74%), B+=2100~2239 (75~79%),

A=2240~2379 (80~84%), and A+=2380~ (85~89%).

S (90~94%), and S+ (95~99%) grades can only be reached with green Sharing marks and threshold jumps.

The letter grades more or less correspond to the percentage grades as prescribed by the school.

Conversion: 1% = 28 (project / participation) points.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The Progressive List of Assignment is a menu that becomes easier along the weeks.

The evaluation criteria for each item are explained in the how-to (HT) and learning guide (LG) documents.

Other requirements are explained in the Grading document.

The project parts are demonstrated and put into practice from the very beginning to balance points and marks.

The evaluation distribution is more or less:

Homework (project parts through ZOOM & DROPBOX.COM) 0~89%;

Participation 0~50%;

Screen sharing 0~89%. (3 threshold jumps: 36S, 72S, or 96S)

Producing weekly media is the way to go. Do not wait for others, lead your own way.

9. その他

<PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE ab>

1. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) for review (MOQP), reports, tasks, or projects. It may take more at the beginning and less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

2. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

3. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, and text-to-speech devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding. Thus, they get ready to share their work in class to get confirmation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English.

4. Participants are willing to prepare their media for class with the instruction documents. Taking notes and composing questions after each class is part of the weekly assignment too, since it consists in understanding English. Thus, participants become able to participate in the following weekly revision: a "live" quiz game.

5. The project time is meant to share your personal projects with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These projects certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

6. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

7. A missing 2024a GUGIN Pnf PORTFOLIO at the end of the semester is an automatic failure.

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語コミュニケーション(4)

1 単位

小嶺智枝

2017~2021年度入学者
英語コミュニケーション(4)

1. 授業の概要・到達目標

This class is designed to help students engage in English for events with an academic purpose.

Students will learn how to make speeches in academic presentations and participate in discussions of social, political, and economic issues in the international community.

- Learn basic rules of presentation.
- Improve knowledge and use of vocabulary and expressions.
- Learn to conduct research effectively.
- Learn to make public speeches logically and effectively.
- Encourage team learning.

2. 授業内容

- 1) Course Guidance
- 2) Phase 1-1
- 3) Phase 1-2
- 4) Mission 1
- 5) Phase 2-1
- 6) Phase 2-2
- 7) Mission 2
- 8) Phase 3-1
- 9) Phase 3-2
- 10) Mission 3
- 11) Phase 4-1
- 12) Phase 4-2
- 13) Final Presentation-1
- 14) Final Presentation-2

3. 履修上の注意

* Please note that the course structure and content for the spring and fall semesters are nearly identical.

(春学期と秋学期コースの構成と内容はほぼ同じです)

* Students are required to be active participants in class.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Students are expected to be well-prepared and active participants in every class.

5. 教科書

JACET, Power Presentation [New Edition] (Sanshusha)

6. 参考書

N/A

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Attendance and class activities 50%

Presentations 50%

9. その他

Students may post their questions and comments to the O-Meiji Discussion.

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語コミュニケーション(5)

1単位

ティベール

2017~2021年度入学者
英語コミュニケーション(5)

1. 授業の概要・到達目標

1- <ACHIEVEMENT GOALS a>

Following spoken and written instructions, as well as demonstrations, participants will be able (0) to improve their English skills toward a better communicative fluency. The real objective is (1) to achieve better mutual understanding by using English for communication in class, especially speaking (and writing by speaking with technological assistance). All skills are used to these ends. Technological help provides models and supplementary support. Improvement happens along the assignment production.

On the side of attitudes, participants will be able: (2) to get more confident and autonomous in English; (3) to create a daily habit of listening to and reading English; and (4) to become more aware of the learning process through project management.

Specifically, participants will be able (5) to speak about their personal interests; (6)- to become better communicators, using proper tense aspects, stories, and webpages to carry their message; and (hopefully) (7) to enjoy doing so in English.

2- <COURSE OUTLINE a>

This project-driven course offers a unique opportunity to break through the English language barrier for beginners to highly motivated participants. Though it is in English entirely, easy-to-follow instructions and demonstrations make it a breeze. In class, participants learn experientially by matching models and recreating them with their own topics. Language acquisition occurs by complying to spoken and written instructions in English. Written and translatable instructions provide additional support to complete the project parts in solo. Communicative achievement arises through preparation, practice, and media creation. Participants produce project parts with their own personal computer. Bringing a PC to class is the main way to (1) participate, (2) obtain feedback on assignments, (3) share, and (4) correct one's work. A PC (preferably equipped with Windows 10 or 11) is required to pass this course.

2. 授業内容

Spring and Autumn Semester Course Contents

Most of the specific contents cannot be described in advance. A typical class contains a review time (RT), a media target (MT), and a project time (PT). Participants partly choose the contents by adapting the demo projects to their own preferences. Participants may refer to the Progressive Assignment List Report (PALR) for more details.

<Tentative Schedule> 😊

This schedule is explained in the colorful version of PALR (Progressive Assignment List Report).

From MO1 to M10, we study the corresponding How-To (HT) document with micro-instructions. Thus, the four kinds of projects become integrated. The instructor selects the required target sites, types, and format for four kinds of projects: (1) YouTube-Video-Book Project (YT-VBP), (2) AUDible-Audio-Book Project (AUD-ABP), (3) BLIinkist-Book Summary Project (BLI-BSP), and (4) Web Infographic Project (WIP). Participants have 3 weeks to complete each kind of project. They select the categories and topics for these projects. The project parts, graded tasks leading the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

CVB is the chosen Class Video Book for basic understanding, and accelerated language acquisition. (Chosen for beginners.) We begin targeting the chosen CVB from Meeting 8, if needed, to increase participation in larger groups.

From meeting 8, when producing 6-to-8-part projects, keep the troublesome parts for the end and / or switch to the CVB for completion.

HT01 explains the basic recommended online settings for smooth functioning in this course.

Browser settings (4), required extensions (4), applications (4), sign-ups (4), and necessary websites (4).

HT02 explains how to complete a weekly Self-evaluation with the Progressive Assignment List Report (PALR) & LG05.

HT03 explains how to complete the project Part 1 Edit Reference Screen (P1EditRefScreen).

HT04 explains how to complete the project Part 2 Otter Speech (P2OSpeech).

HT05 explains how to complete the project Part 3 Edit Otter Speech (P3EditOSpeech).

HT06 explains how to complete the project Part 4 Otter Screen Proof (P4OScreenProof).

HT07 explains how to complete the project Part 5 Review Time Quiz Questions (P5RTQQ).

HT08 explains how to complete the project Part 6 Menti Online Quiz Report (P6MOQR-0result).

HT09 explains how to complete the project Part 7 Menti Calculations (P7bMOQR-Calc) for participants.

HT10 explains how to complete the project Part 8 Menti Class Results (P8MOQR-ClassRes) for quiz masters.

Meeting Targets

MO1 = HT01 demo+00-PALR demo / AYS GUGIN PNF / email contact

MO2 = HT02 demo+00-PALR, FSES, and PORTFOLIO demo

MO3 = HT03 demo+P1EditRefScreen YT-VBP (Topic)

MO4 = HT04 demo+P1~P2OSpeech YT-VBP (Topic)

MO5 = HT05 demo+P1~P3EditOSpeech YT-VBP (Topic)

MO6 = HT06 demo+P1~P4OScreenProof AUD-ABP (Topic)

MO7 = HT07 demo+P1~P5RTQQ AUD-ABP (Topic)

MO8 = HT08 demo+P1~P6MOQR-0result AUD-ABP (Topic) + CVB01.

M09 = HT09 demo+P1~P7MOQR-Calc BLI-BSP (Topic) + CVB02.
M10 = HT10 demo+P1~P8MOQR-ClassRes BLI-BSP (Topic) + CVB03.
M11 = PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip demo + Complete 8-part BLI-BSP (Topic) + CVB04.
M12 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB05.
M13 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB06.
M14 = Complete 8-part WIP (Topic)
FINAL
M14 or
M15 = Final PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip
(Final updating by M15)

3. 履修上の注意

<PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS>

1- Are you willing to produce files in English and share them in English? That is the main prerequisite. Most of the note-taking and sharing are made with participants' computers. We use online technology in class. Participants must attend in person.

2- The use of computers in class is required simultaneously. Be smarter than a smartphone.

3- Attend the FIRST 5 MEETINGS: a) to confirm your registration; b) to get your Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN); c) to get the target report URL; d) to send to the instructor your PALR static Dropbox address. Without them, you start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), you won't exist on the instructor's list until you ask for it in class directly in order to confirm and update your data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

<PREPARATION and REVIEW> (Required Gate)

Be willing to prepare for class with the learning guides, how-to documents, and templates for about 15 minutes a day.

Everyone (from beginners to high achievers) is requested (1) to watch (listen / read) the media in advance and (2) to compose 5 quiz questions from the weekly Media Target. These questions are presented during the following meeting. They provide more participation points and sharing marks. Thus, participating in the weekly REVISION time and SHARING time become very easy.

Every participant is given the opportunity to practice and share their favorite topics through various kinds of containers like video-books, audio-books, book summaries, and various web pages within the Project Time. That is a sure way towards higher scores.

5. 教科書

<TEXTBOOKS>

The instructor progressively adapts his instruction manuals (HT & LG) to the perceived participants' understanding. They consist of (translatable PDF) learning guides (LG) and how-to (HT) documents. Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PALR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the guides and how-to documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

<REFERENCE BOOKS>

The best reference is the chosen topics and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. 😊

7. 課題に対するフィードバックの方法

<METHOD OF FEEDBACK ON PROJECTS AND ISSUES ab>

1. Bring Your Own Device (BYOD): A PC laptop (& electric connector) is best to get Participation points & Project marks.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW (and TELL, when possible, for more points).

2. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

3. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (a) evaluate their projects with criteria given in the HT and LG documents; (b) confirm their scores in class by sharing their screen; (c) update their improved (or corrected) projects through DROPBOX.COM; (d) practice / participate with partners; and (e) share their personal projects with the group.

4. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (a) Attendance; (b) Project Points; (c) Practice/Participation points; and (d) Sharing marks in their personal PALR. They must (e) document (keep proof of) how these scores were obtained in the PALR Memo Note Table, (f) take screenshots of the quiz results, (g) identify these screenshots properly as demonstrated, (h) calculate their various scores, (i) provide the calculations of those scores on edited screenshots, and (j) connect them with Dropbox links in their personal PALR.

5. There is no return of assignments by the instructor. Participants may update their assignments, or make a better attempt with the next project parts.

8. 成績評価の方法

<GRADING & EVALUATION>

(Consult LG05 GRADING when it comes out.)

(A) BASIC CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

(1) Participants must prepare and practice for class.

More precisely, they must produce weekly media with the demo model and their own topic as target, before class participation can be added to the total.

(2) Participants must attend a minimum of 10 meetings for active participation to be counted.

(3) Participants must produce the necessary weekly report (docx & pdf) PALR (Progressive Assignment List Report).

(4) Participants must complete the necessary final self-evaluation section FSES.

(5) Participants must provide a Dropbox link to their zipped PORTFOLIO by the end of the semester.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate)

F= 0~1259 (0~44%), F+=1260~1679 (45~59%);

C=1680~1819 (60~64%), C+=1820~1959 (65~69%),

B=1960~2099 (70~74%), B+=2100~2239 (75~79%),

A=2240~2379 (80~84%), and A+=2380~ (85~89%).

S (90~94%), and S+ (95~99%) grades can only be reached with green Sharing marks and threshold jumps.

The letter grades more or less correspond to the percentage grades as prescribed by the school.

Conversion: 1% = 28 (project / participation) points.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The Progressive List of Assignment is a menu that becomes easier along the weeks.

The evaluation criteria for each item are explained in the how-to (HT) and learning guide (LG) documents.

Other requirements are explained in the Grading document.

The project parts are demonstrated and put into practice from the very beginning to balance points and marks.

The evaluation distribution is more or less:

Homework (project parts through ZOOM & DROPBOX.COM) 0~89%;

Participation 0~50%;

Screen sharing 0~89%. (3 threshold jumps: 36S, 72S, or 96S)

Producing weekly media is the way to go. Do not wait for others, lead your own way.

9. その他

<PRECAUTIONS FOR TAKING COURSES>

(1) The out-of-class time required for study is about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) for review, reports and tasks is required. It may take more at the beginning and less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

(2) This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. Participants are expected to use online dictionaries, online translators, and text-to-speech devices to navigate within this course. Guidelines are provided in English.

(3) When you don't understand, use tools to do so. They will guide you toward better understanding. Then, share your work in class to get confirmation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if we are correct or not. Nothing is done in vain when it is done in English.

(4) Be willing to prepare for class with the document guides and the media. Thus, you will be able to participate in the following weekly revision that is a quiz game.

(5) The project time is meant to share extra projects with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. They certainly confirm your understanding. These extra projects are what you should focus on.

(6) Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly.

GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

(7) A missing PORTFOLIO at the end of the semester is an automatic failure.

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語コミュニケーション(6)

1単位

ティベール

2017~2021年度入学者
英語コミュニケーション(6)

1. 授業の概要・到達目標

1- <ACHIEVEMENT GOALS a>

Following spoken and written instructions, as well as demonstrations, participants will be able (0) to improve their English skills toward a better communicative fluency. The real objective is (1) to achieve better mutual understanding by using English for communication in class, especially speaking (and writing by speaking with technological assistance). All skills are used to these ends. Technological help provides models and supplementary support. Improvement happens along the assignment production.

On the side of attitudes, participants will be able: (2) to get more confident and autonomous in English; (3) to create a daily habit of listening to and reading English; and (4) to become more aware of the learning process through project management.

Specifically, participants will be able (5) to speak about their personal interests; (6)- to become better communicators, using proper tense aspects, stories, and webpages to carry their message; and (hopefully) (7) to enjoy doing so in English.

2- <COURSE OUTLINE a>

This project-driven course offers a unique opportunity to break through the English language barrier for beginners to highly motivated participants. Though it is in English entirely, easy-to-follow instructions and demonstrations make it a breeze. In class, participants learn experientially by matching models and recreating them with their own topics. Language acquisition occurs by complying to spoken and written instructions in English. Written and translatable instructions provide additional support to complete the project parts in solo. Communicative achievement arises through preparation, practice, and media creation. Participants produce project parts with their own personal computer. Bringing a PC to class is the main way to (1) participate, (2) obtain feedback on assignments, (3) share, and (4) correct one's work. A PC (preferably equipped with Windows 10 or 11) is required to pass this course.

2. 授業内容

Spring and Autumn Semester Course Contents

Most of the specific contents cannot be described in advance. A typical class contains a review time (RT), a media target (MT), and a project time (PT). Participants partly choose the contents by adapting the demo projects to their own preferences. Participants may refer to the Progressive Assignment List Report (PALR) for more details.

<Tentative Schedule> 😊

This schedule is explained in the colorful version of PALR (Progressive Assignment List Report).

From MO1 to M10, we study the corresponding How-To (HT) document with micro-instructions. Thus, the four kinds of projects become integrated. The instructor selects the required target sites, types, and format for four kinds of projects: (1) YouTube-Video-Book Project (YT-VBP), (2) AUDible-Audio-Book Project (AUD-ABP), (3) BLIinkist-Book Summary Project (BLI-BSP), and (4) Web Infographic Project (WIP). Participants have 3 weeks to complete each kind of project. They select the categories and topics for these projects. The project parts, graded tasks leading the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

CVB is the chosen Class Video Book for basic understanding, and accelerated language acquisition. (Chosen for beginners.) We begin targeting the chosen CVB from Meeting 8, if needed, to increase participation in larger groups.

From meeting 8, when producing 6-to-8-part projects, keep the troublesome parts for the end and / or switch to the CVB for completion.

HT01 explains the basic recommended online settings for smooth functioning in this course.

Browser settings (4), required extensions (4), applications (4), sign-ups (4), and necessary websites (4).

HT02 explains how to complete a weekly Self-evaluation with the Progressive Assignment List Report (PALR) & LG05.

HT03 explains how to complete the project Part 1 Edit Reference Screen (P1EditRefScreen).

HT04 explains how to complete the project Part 2 Otter Speech (P2OSpeech).

HT05 explains how to complete the project Part 3 Edit Otter Speech (P3EditOSpeech).

HT06 explains how to complete the project Part 4 Otter Screen Proof (P4OScreenProof).

HT07 explains how to complete the project Part 5 Review Time Quiz Questions (P5RTQQ).

HT08 explains how to complete the project Part 6 Menti Online Quiz Report (P6MOQR-0result).

HT09 explains how to complete the project Part 7 Menti Calculations (P7bMOQR-Calc) for participants.

HT10 explains how to complete the project Part 8 Menti Class Results (P8MOQR-ClassRes) for quiz masters.

Meeting Targets

MO1 = HT01 demo+00-PALR demo / AYS GUGIN PNF / email contact

MO2 = HT02 demo+00-PALR, FSES, and PORTFOLIO demo

MO3 = HT03 demo+P1EditRefScreen YT-VBP (Topic)

MO4 = HT04 demo+P1~P2OSpeech YT-VBP (Topic)

MO5 = HT05 demo+P1~P3EditOSpeech YT-VBP (Topic)

MO6 = HT06 demo+P1~P4OScreenProof AUD-ABP (Topic)

MO7 = HT07 demo+P1~P5RTQQ AUD-ABP (Topic)

MO8 = HT08 demo+P1~P6MOQR-0result AUD-ABP (Topic) + CVB01.

M09 = HT09 demo+P1~P7MOQR-Calc BLI-BSP (Topic) + CVB02.
M10 = HT10 demo+P1~P8MOQR-ClassRes BLI-BSP (Topic) + CVB03.
M11 = PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip demo + Complete 8-part BLI-BSP (Topic) + CVB04.
M12 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB05.
M13 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB06.
M14 = Complete 8-part WIP (Topic)
FINAL
M14 or
M15 = Final PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip
(Final updating by M15)

3. 履修上の注意

<PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS>

1- Are you willing to produce files in English and share them in English? That is the main prerequisite. Most of the note-taking and sharing are made with participants' computers. We use online technology in class. Participants must attend in person with a PC.

2- The use of computers in class is required simultaneously. Be smarter than a smartphone.

3- Attend the FIRST 5 MEETINGS: a) to confirm your registration; b) to get your Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN); c) to get the target report URL; d) to send to the instructor your PALR static Dropbox address. Without them, you start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), you won't exist on the instructor's list until you ask for it in class directly in order to confirm and update your data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

<PREPARATION and REVIEW> (Required Gate)

Be willing to prepare for class with the learning guides, how-to documents, and templates for about 15 minutes a day.

Everyone (from beginners to high achievers) is requested (1) to watch (listen / read) the media in advance and (2) to compose 5 quiz questions from the weekly Media Target. These questions are presented during the following meeting. They provide more participation points and sharing marks. Thus, participating in the weekly REVISION time and SHARING time become very easy.

Every participant is given the opportunity to practice and share their favorite topics through various kinds of containers like video-books, audio-books, book summaries, and various web pages within the Project Time. That is a sure way towards higher scores.

5. 教科書

<TEXTBOOKS>

The instructor progressively adapts his instruction manuals (HT & LG) to the perceived participants' understanding. They consist of (translatable PDF) learning guides (LG) and how-to (HT) documents. Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PALR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the guides and how-to documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

<REFERENCE BOOKS>

The best reference is the chosen topics and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. 😊

7. 課題に対するフィードバックの方法

<METHOD OF FEEDBACK ON PROJECTS AND ISSUES ab>

1. Bring Your Own Device (BYOD): A PC laptop (& electric connector) is best to get Participation points & Project marks.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW (and TELL, when possible, for more points).

2. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

3. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (a) evaluate their projects with criteria given in the HT and LG documents; (b) confirm their scores in class by sharing their screen; (c) update their improved (or corrected) projects through DROPBOX.COM; (d) practice / participate with partners; and (e) share their personal projects with the group.

4. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (a) Attendance; (b) Project Points; (c) Practice/Participation points; and (d) Sharing marks in their personal PALR. They must (e) document (keep proof of) how these scores were obtained in the PALR Memo Note Table, (f) take screenshots of the quiz results, (g) identify these screenshots properly as demonstrated, (h) calculate their various scores, (i) provide the calculations of those scores on edited screenshots, and (j) connect them with Dropbox links in their personal PALR.

5. There is no return of assignments by the instructor. Participants may update their assignments, or make a better attempt with the next project parts.

8. 成績評価の方法

<GRADING & EVALUATION>

(Consult LG05 GRADING when it comes out.)

(A) BASIC CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

(1) Participants must prepare and practice for class.

More precisely, they must produce weekly media with the demo model and their own topic as target, before class participation can be added to the total.

(2) Participants must attend a minimum of 10 meetings for active participation to be counted.

(3) Participants must produce the necessary weekly report (docx & pdf) PALR (Progressive Assignment List Report).

(4) Participants must complete the necessary final self-evaluation section FSES.

(5) Participants must provide a Dropbox link to their zipped PORTFOLIO by the end of the semester.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate)

F= 0~1259 (0~44%), F+=1260~1679 (45~59%);

C=1680~1819 (60~64%), C+=1820~1959 (65~69%),

B=1960~2099 (70~74%), B+=2100~2239 (75~79%),

A=2240~2379 (80~84%), and A+=2380~ (85~89%).

S (90~94%), and S+ (95~99%) grades can only be reached with green Sharing marks and threshold jumps.

The letter grades more or less correspond to the percentage grades as prescribed by the school.

Conversion: 1% = 28 (project / participation) points.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The Progressive List of Assignment is a menu that becomes easier along the weeks.

The evaluation criteria for each item are explained in the how-to (HT) and learning guide (LG) documents.

Other requirements are explained in the Grading document.

The project parts are demonstrated and put into practice from the very beginning to balance points and marks.

The evaluation distribution is more or less:

Homework (project parts through ZOOM & DROPBOX.COM) 0~89%;

Participation 0~50%;

Screen sharing 0~89%. (3 threshold jumps: 36S, 72S, or 96S)

Producing weekly media is the way to go. Do not wait for others, lead your own way.

9. その他

<PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE ab>

1. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) for review (MOQP), reports, tasks, or projects. It may take more at the beginning and less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

2. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

3. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, and text-to-speech devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding. Thus, they get ready to share their work in class to get confirmation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English.

4. Participants are willing to prepare their media for class with the instruction documents. Taking notes and composing questions after each class is part of the weekly assignment too, since it consists in understanding English. Thus, participants become able to participate in the following weekly revision; a "live" quiz game.

5. The project time is meant to share your personal projects with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These projects certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

6. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

7. A missing 2024a GUGIN Pnf PORTFOLIO at the end of the semester is an automatic failure.

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語コミュニケーション(7)

1 単位

中村啓子

2017~2021 年度入学者
英語コミュニケーション(7)

1. 授業の概要・到達目標

<Course Descriptions>

On this course, you will develop speaking and listening skills while strengthening grammatical competence and building a strong vocabulary for better communication. You will also challenge immersive tasks that involve information sharing, problem solving, and decision making. The language of instruction is English.

<Course Objectives>

By the end of this course, you should be better able to:

- talk about variety of topics of everyday life;
- understand others and express yourselves in English with confidence;
- participate in an informal conversation enthusiastically.

In the Food Production and the Environment Course in the Department of Agriculture, this course corresponds to A in the educational objectives.

2. 授業内容

- (1) Course work, Presentation of syllabus, Class rules
- (2) Unit 10.1: Green clothes (on-demand classes in the form of media classes)
- (3) Unit 10.2: Global or local?
- (4) Unit 10.3: What to buy? (on-demand classes in the form of media classes)
- (5) Review Test and Unit 10.5: Time to Speak
- (6) Unit 11.1: Secrets of success (on-demand classes in the form of media classes)
- (7) Unit 11.2: Now that's interesting!
- (8) Unit 11.3: It's not worth it. (on-demand classes in the form of media classes)
- (9) Review Test and Unit 11.5: Time to Speak
- (10) Unit 12.1: It was an accident! (on-demand classes in the form of media classes)
- (11) Unit 12.2: Learning underwater
- (12) Unit 12.3: A hotel nightmare (on-demand classes in the form of media classes)
- (13) Review Test and Unit 12.5 Time to Speak
- (14) Review and Exam

*The schedule is subject to change. Changes, if necessary, will be announced in class or on the ClassWeb.

3. 履修上の注意

・ A combination of face-to-face and media classes is adopted. Media classes refer to an on-demand format in which students access recorded videos. Videos will be uploaded in the "Class Contents & Resources" section of the ClassWeb at 09:00 on Monday of the designated week.

・ When on-demand classes are conducted, homework is given almost every time to help you review the class contents. Homework should be submitted to "Reports" section of the ClassWeb by 17:00 on Wednesday of the same week. Submission of homework on time will be counted as one attendance.

・ In principle, an attendance record of less than two-thirds of the total class hours will automatically result in a grade of F.

・ Any students who fail to arrive within the first 30 minutes of a face-to-face class will be regarded as being absent, even if they attend the rest of the class.

・ If you are late for class three times, it will be counted as one absence.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・ Outside of class time, you are expected to read assigned parts of the textbook for the next class, and complete the relevant sections of the textbook to review classes.

5. 教科書

Title: Evolve Level 3 SB with Digital Pack Split B (ISBN: 9781009231848) OR EVOLVE Student's Book 3B (ISBN: 978-1-108-40920-9) . Either would be fine.

Author: Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, and Kathryn O' Dell

Publisher: Cambridge University Press

・ Please note that 『EVOLVE Level 3』 is available in split volume editions: 『Student' s Book A』 and 『Student' s Book B』 . We will use 『Evolve Student' s Book 3B』 for this course.

6. 参考書

BBC Learning English: <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>

7. 課題に対するフィードバックの方法

Verbally

8. 成績評価の方法

Active participation 30%
Review tests and exam 70%

9. その他

Instructors can be contacted at: k_nakamura@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語コミュニケーション(8)
2017~2021 年度入学者
英語コミュニケーション(8)

1 単位

長谷川安代

1. 授業の概要・到達目標

<Course Description>

Students who have difficulty communicating with foreigners often say that they do not know what to talk about with foreigners. In this course, using the textbook based on the TV programme "COOL JAPAN" (broadcasted on NHK), first we will learn what aspects of Japanese culture or technology foreigners are interested in and then practice speaking about them in simple English. In "COOL JAPAN," not only native English speakers but also non-native English speakers take part in discussions, so students will be familiar with English with a variety of accents and learn how English is used as Lingua Franca.

<Learning Objectives>

Having completed this course, students will:

- be able to find the topics related to Japanese culture or technology that may interest foreigners.
- be able to describe Japanese culture and technology and talk about their thoughts on them in simple English.
- be able to hear and understand English with a variety of accents.

食糧生産・環境コースにおいて学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] bのみ: Introduction
- [第2回] Unit 8: Voice Actors (1)
- [第3回] Unit 8: Voice Actors (2)
- [第4回] Unit 9: Japanized Foreign Dishes (1)
- [第5回] Unit 9: Japanized Foreign Dishes (2)
- [第6回] Unit 10: Bags (1)
- [第7回] Unit 10: Bags (2)
- [第8回] Unit 11: Senior Citizens (1)
- [第9回] Unit 11: Senior Citizens (2)
- [第10回] Unit 12: Money (1)
- [第11回] Unit 12: Money (2)
- [第12回] Unit 13: Monkeys (1)
- [第13回] Unit 13: Monkeys (2)
- [第14回] Review

3. 履修上の注意

- ・ Students are required to actively participate in class.
- ・ For group discussions or pair work, students will be randomly grouped or paired.
- ・ Classes will be taught in English.

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

For each class, students should work on the assignments in the textbook before the class starts(90mins.). Details will be explained in the first class.

5. 教科書

『発掘! かわいいニッポン—異文化理解から日本文化発信へ— (Discovering Cool Japan)』、津田晶子ほか著、(成美堂)

6. 参考書

- ・ It is recommended to watch the TV programme "COOL JAPAN".
- Detailed information on the programme can be found at: <https://www.nhk.jp/p/cooljapan/ts/P2RMMPW5JM/>
- ・ 『クール・ジャパン! ?外国人が見たニッポン』、鴻上尚史著、(講談社現代新書)

7. 課題に対するフィードバックの方法

Reaction sheets will be commented in class or online.

8. 成績評価の方法

- ・ Attitudes in class(participation in discussion, reflection sheets):50%
- ・ Final Report:50%

9. その他

For Office Hours, please email the lecturer. The email address will be provided in first class.

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語コミュニケーション(9)

2017~2021 年度入学者
英語コミュニケーション(9)

1 単位

ティベール

1. 授業の概要・到達目標

<COURSE OUTLINE b>

This course builds on its spring predecessor with what was experientially used and learned with media creation. Listen to its description again, and read it to recall its 8 goals. Now, we expect a quicker start after a recap of the learning guides with complete interactive sessions and continue in a similar direction with extra project parts, class-media, and specific projects chosen by the participants. We use conversational interactions to share what we know, understand, learn, guess, and think in a common context. Participants (1) make project parts and quizzes to solidify each other knowledge in learning, (2) share them, and (3) self-manage their compiling and evaluation. Participants progressively find it easier to do that in English with online tools, guides, and models.

<ACHIEVEMENT GOALS b>

The main hidden goals are to improve spoken grammar and communicative fluency further. This improvement is (formatively, qualitatively, and quantitatively) evaluated through spoken / written weekly project parts, speaking activities, and project sharing in class. The ultimate goal in learning a language is to be able to communicate successfully with the users of that language with confidence in the knowledge we have learned and have already acquired. Errors are expected and welcomed. That is how we learn any new language and skills.

Given our limited time in class for formative feedback and evaluation, the tangible weekly goals remain: (1) to create project parts with topics of interest; (2) to share project parts with the group; (3) to participate in class interaction; (4) to evaluate the project parts; (5) to manage a long-term report of the project parts in a PORTFOLIO folder; (6) to evaluate one's performance; and (7) to compile one's own RESULTS. The instructor demonstrates every of these steps, and provides detailed instructions and guidelines for a fun experience in English.

2. 授業内容

Spring and Autumn Semester Course Contents

Most of the specific contents cannot be described in advance. A typical class contains a review time (RT), a media target (MT), and a project time (PT). Participants partly choose the contents by adapting the demo projects to their own preferences. Participants may refer to the Progressive Assignment List Report (PALR) for more details.

<Tentative Schedule> 😊

This schedule is explained in the colorful version of PALR (Progressive Assignment List Report).

From M01 to M10, we study the corresponding How-To (HT) document with micro-instructions. Thus, the four kinds of projects become integrated. The instructor selects the required target sites, types, and format for four kinds of projects: (1) YouTube-Video-Book Project (YT-VBP), (2) AUDible-Audio-Book Project (AUD-ABP), (3) BLIinkist-Book Summary Project (BLI-BSP), and (4) Web Infographic Project (WIP). Participants have 3 weeks to complete each kind of project. They select the categories and topics for these projects. The project parts, graded tasks leading the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

CVB is the chosen Class Video Book for basic understanding, and accelerated language acquisition. (Chosen for beginners.) We begin targeting the chosen CVB from Meeting 8, if needed, to increase participation in larger groups.

From meeting 8, when producing 6-to-8-part projects, keep the troublesome parts for the end and / or switch to the CVB for completion.

HT01 explains the basic recommended online settings for smooth functioning in this course.

Browser settings (4), required extensions (4), applications (4), sign-ups (4), and necessary websites (4).

HT02 explains how to complete a weekly Self-evaluation with the Progressive Assignment List Report (PALR) & LG05.

HT03 explains how to complete the project Part 1 Edit Reference Screen (P1EditRefScreen).

HT04 explains how to complete the project Part 2 Otter Speech (P2OSpeech).

HT05 explains how to complete the project Part 3 Edit Otter Speech (P3EditOSpeech).

HT06 explains how to complete the project Part 4 Otter Screen Proof (P4OScreenProof).

HT07 explains how to complete the project Part 5 Review Time Quiz Questions (P5RTQQ).

HT08 explains how to complete the project Part 6 Menti Online Quiz Report (P6MOQR-Oresult).

HT09 explains how to complete the project Part 7 Menti Calculations (P7bMOQR-Calc) for participants.

HT10 explains how to complete the project Part 8 Menti Class Results (P8MOQR-ClassRes) for quiz masters.

Meeting Targets

M01 = HT01 demo+00-PALR demo / AYS GUGIN Pnf / email contact

M02 = HT02 demo+00-PALR, FSES, and PORTFOLIO demo

M03 = HT03 demo+P1EditRefScreen YT-VBP (Topic)

M04 = HT04 demo+P1~P2OSpeech YT-VBP (Topic)

M05 = HT05 demo+P1~P3EditOSpeech YT-VBP (Topic)

M06 = HT06 demo+P1~P4OScreenProof AUD-ABP (Topic)

M07 = HT07 demo+P1~P5RTQQ AUD-ABP (Topic)

M08 = HT08 demo+P1~P6MOQR-Oresult AUD-ABP (Topic) + CVB01.

M09 = HT09 demo+P1~P7MOQR-Calc BLI-BSP (Topic) + CVB02.

M10 = HT10 demo+P1~P8MOQR-ClassRes BLI-BSP (Topic) + CVB03.
M11 = PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip demo + Complete 8-part BLI-BSP (Topic) + CVB04.
M12 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB05.
M13 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB06.
M14 = Complete 8-part WIP (Topic)
FINAL
M14 or
M15 = Final PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip
(Final updating by M15)

3. 履修上の注意

<PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS>

1- Are you willing to produce files in English and share them in English? That is the main prerequisite. Most of the note-taking and sharing are made with participants' computers. We use online technology in class. Participants must attend in person with a PC.

2- The use of computers in class is required simultaneously. Be smarter than a smartphone.

3- Attend the FIRST 5 MEETINGS: a) to confirm your registration; b) to get your Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN); c) to get the target report URL; d) to send to the instructor your PALR static Dropbox address. Without them, you start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), you won't exist on the instructor's list until you ask for it in class directly in order to confirm and update your data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

<PREPARATION and REVIEW> (Required Gate)

Be willing to prepare for class with the learning guides, how-to documents, and templates for about 15 minutes a day.

Everyone (from beginners to high achievers) is requested (1) to watch (listen / read) the media in advance and (2) to compose 5 quiz questions from the weekly Media Target. These questions are presented during the following meeting. They provide more participation points and sharing marks. Thus, participating in the weekly REVISION time and SHARING time become very easy.

Every participant is given the opportunity to practice and share their favorite topics through various kinds of containers like video-books, audio-books, book summaries, and various web pages within the Project Time. That is a sure way towards higher scores.

5. 教科書

<TEXTBOOKS>

The instructor progressively adapts his instruction manuals (HT & LG) to the perceived participants' understanding. They consist of (translatable PDF) learning guides (LG) and how-to (HT) documents. Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PALR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the guides and how-to documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

<REFERENCE BOOKS>

The best reference is the chosen topics and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. 😊

7. 課題に対するフィードバックの方法

<METHOD OF FEEDBACK ON PROJECTS AND ISSUES ab>

1. Bring Your Own Device (BYOD): A PC laptop (& electric connector) is best to get Participation points & Project marks.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW (and TELL, when possible, for more points).

2. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

3. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (a) evaluate their projects with criteria given in the HT and LG documents; (b) confirm their scores in class by sharing their screen; (c) update their improved (or corrected) projects through DROPBOX.COM; (d) practice / participate with partners; and (e) share their personal projects with the group.

4. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (a) Attendance; (b) Project Points; (c) Practice/Participation points; and (d) Sharing marks in their personal PALR. They must (e) document (keep proof of) how these

scores were obtained in the PALR Memo Note Table, (f) take screenshots of the quiz results, (g) identify these screenshots properly as demonstrated, (h) calculate their various scores, (i) provide the calculations of those scores on edited screenshots, and (j) connect them with Dropbox links in their personal PALR.

5. There is no return of assignments by the instructor. Participants may update their assignments, or make a better attempt with the next project parts.

8. 成績評価の方法

<GRADING & EVALUATION>

(Consult LGO5 GRADING when it comes out.)

(A) BASIC CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

(1) Participants must prepare and practice for class.

More precisely, they must produce weekly media with the demo model and their own topic as target, before class participation can be added to the total.

(2) Participants must attend a minimum of 10 meetings for active participation to be counted.

(3) Participants must produce the necessary weekly report (docx & pdf) PALR (Progressive Assignment List Report).

(4) Participants must complete the necessary final self-evaluation section FSES.

(5) Participants must provide a Dropbox link to their zipped PORTFOLIO by the end of the semester.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate)

F= 0~1259 (0~44%), F+=1260~1679 (45~59%);

C=1680~1819 (60~64%), C+=1820~1959 (65~69%),

B=1960~2099 (70~74%), B+=2100~2239 (75~79%),

A=2240~2379 (80~84%), and A+=2380~ (85~89%).

S (90~94%), and S+ (95~99%) grades can only be reached with green Sharing marks and threshold jumps.

The letter grades more or less correspond to the percentage grades as prescribed by the school.

Conversion: 1% = 28 (project / participation) points.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The Progressive List of Assignment is a menu that becomes easier along the weeks.

The evaluation criteria for each item are explained in the how-to (HT) and learning guide (LG) documents.

Other requirements are explained in the Grading document.

The project parts are demonstrated and put into practice from the very beginning to balance points and marks.

The evaluation distribution is more or less:

Homework (project parts through ZOOM & DROPBOX.COM) 0~89%;

Participation 0~50%;

Screen sharing 0~89%. (3 threshold jumps: 36S, 72S, or 96S)

Producing weekly media is the way to go. Do not wait for others, lead your own way.

9. その他

<PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE ab>

1. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) for review (MOQP), reports, tasks, or projects. It may take more at the beginning and less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

2. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

3. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, and text-to-speech devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding. Thus, they get ready to share their work in class to get confirmation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English.

4. Participants are willing to prepare their media for class with the instruction documents. Taking notes and composing questions after each class is part of the weekly assignment too, since it consists in understanding English. Thus, participants become able to participate in the following weekly revision; a "live" quiz game.

5. The project time is meant to share your personal projects with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These projects certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

6. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

7. A missing 2024a GUGIN Pnf PORTFOLIO at the end of the semester is an automatic failure.

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語コミュニケーション(10)

1 単位

小嶺智枝

2017~2021年度入学者
英語コミュニケーション(10)

1. 授業の概要・到達目標

This class is designed to help students engage in English for events with an academic purpose.

Students will learn how to make speeches in academic presentations and participate in discussions of social, political, and economic issues in the international community.

- Learn basic rules of presentation.
- Improve knowledge and use of vocabulary and expressions.
- Learn to conduct research effectively.
- Learn to make public speeches logically and effectively.
- Encourage team learning.

2. 授業内容

- 1) Course Guidance
- 2) Phase 1-1
- 3) Phase 1-2
- 4) Mission 1
- 5) Phase 2-1
- 6) Phase 2-2
- 7) Mission 2
- 8) Phase 3-1
- 9) Phase 3-2
- 10) Mission 3
- 11) Phase 4-1
- 12) Phase 4-2
- 13) Final Presentation-1
- 14) Final Presentation-2

3. 履修上の注意

* Please note that the course structure and content for the spring and fall semesters are nearly identical.

(春学期と秋学期コースの構成と内容はほぼ同じです)

* Students are required to be active participants in class.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Students are expected to be well-prepared and active participants in every class.

5. 教科書

JACET, Power Presentation [New Edition] (Sanshusha)

6. 参考書

N/A

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Attendance and class activities 50%
Presentations 50%

9. その他

Students may post their questions and comments to the O-Meiji Discussion.

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
英語コミュニケーション(11)

1 単位

ティベール

2017~2021 年度入学者
英語コミュニケーション(11)

1. 授業の概要・到達目標

<COURSE OUTLINE b>

This course builds on its spring predecessor with what was experientially used and learned with media creation. Listen to its description again, and read it to recall its 8 goals. Now, we expect a quicker start after a recap of the learning guides with complete interactive sessions and continue in a similar direction with extra project parts, class-media, and specific projects chosen by the participants. We use conversational interactions to share what we know, understand, learn, guess, and think in a common context. Participants (1) make project parts and quizzes to solidify each other knowledge in learning, (2) share them, and (3) self-manage their compiling and evaluation. Participants progressively find it easier to do that in English with online tools, guides, and models.

<ACHIEVEMENT GOALS b>

The main hidden goals are to improve spoken grammar and communicative fluency further. This improvement is (formatively, qualitatively, and quantitatively) evaluated through spoken / written weekly project parts, speaking activities, and project sharing in class. The ultimate goal in learning a language is to be able to communicate successfully with the users of that language with confidence in the knowledge we have learned and have already acquired. Errors are expected and welcomed. That is how we learn any new language and skills.

Given our limited time in class for formative feedback and evaluation, the tangible weekly goals remain: (1) to create project parts with topics of interest; (2) to share project parts with the group; (3) to participate in class interaction; (4) to evaluate the project parts; (5) to manage a long-term report of the project parts in a PORTFOLIO folder; (6) to evaluate one's performance; and (7) to compile one's own RESULTS. The instructor demonstrates every of these steps, and provides detailed instructions and guidelines for a fun experience in English.

2. 授業内容

Spring and Autumn Semester Course Contents

Most of the specific contents cannot be described in advance. A typical class contains a review time (RT), a media target (MT), and a project time (PT). Participants partly choose the contents by adapting the demo projects to their own preferences. Participants may refer to the Progressive Assignment List Report (PALR) for more details.

<Tentative Schedule> 😊

This schedule is explained in the colorful version of PALR (Progressive Assignment List Report).

From M01 to M10, we study the corresponding How-To (HT) document with micro-instructions. Thus, the four kinds of projects become integrated. The instructor selects the required target sites, types, and format for four kinds of projects: (1) YouTube-Video-Book Project (YT-VBP), (2) AUDible-Audio-Book Project (AUD-ABP), (3) BLIinkist-Book Summary Project (BLI-BSP), and (4) Web Infographic Project (WIP). Participants have 3 weeks to complete each kind of project. They select the categories and topics for these projects. The project parts, graded tasks leading the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

CVB is the chosen Class Video Book for basic understanding, and accelerated language acquisition. (Chosen for beginners.) We begin targeting the chosen CVB from Meeting 8, if needed, to increase participation in larger groups.

From meeting 8, when producing 6-to-8-part projects, keep the troublesome parts for the end and / or switch to the CVB for completion.

HT01 explains the basic recommended online settings for smooth functioning in this course.

Browser settings (4), required extensions (4), applications (4), sign-ups (4), and necessary websites (4).

HT02 explains how to complete a weekly Self-evaluation with the Progressive Assignment List Report (PALR) & LG05.

HT03 explains how to complete the project Part 1 Edit Reference Screen (P1EditRefScreen).

HT04 explains how to complete the project Part 2 Otter Speech (P2OSpeech).

HT05 explains how to complete the project Part 3 Edit Otter Speech (P3EditOSpeech).

HT06 explains how to complete the project Part 4 Otter Screen Proof (P4OScreenProof).

HT07 explains how to complete the project Part 5 Review Time Quiz Questions (P5RTQQ).

HT08 explains how to complete the project Part 6 Menti Online Quiz Report (P6MOQR-Oresult).

HT09 explains how to complete the project Part 7 Menti Calculations (P7bMOQR-Calc) for participants.

HT10 explains how to complete the project Part 8 Menti Class Results (P8MOQR-ClassRes) for quiz masters.

Meeting Targets

M01 = HT01 demo+00-PALR demo / AYS GUGIN Pnf / email contact

M02 = HT02 demo+00-PALR, FSES, and PORTFOLIO demo

M03 = HT03 demo+P1EditRefScreen YT-VBP (Topic)

M04 = HT04 demo+P1~P2OSpeech YT-VBP (Topic)

M05 = HT05 demo+P1~P3EditOSpeech YT-VBP (Topic)

M06 = HT06 demo+P1~P4OScreenProof AUD-ABP (Topic)

M07 = HT07 demo+P1~P5RTQQ AUD-ABP (Topic)

M08 = HT08 demo+P1~P6MOQR-Oresult AUD-ABP (Topic) + CVB01.

M09 = HT09 demo+P1~P7MOQR-Calc BLI-BSP (Topic) + CVB02.

M10 = HT10 demo+P1~P8MOQR-ClassRes BLI-BSP (Topic) + CVB03.
M11 = PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip demo + Complete 8-part BLI-BSP (Topic) + CVB04.
M12 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB05.
M13 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB06.
M14 = Complete 8-part WIP (Topic)
FINAL
M14 or
M15 = Final PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip
(Final updating by M15)

3. 履修上の注意

<PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS>

1- Are you willing to produce files in English and share them in English? That is the main prerequisite. Most of the note-taking and sharing are made with participants' computers. We use online technology in class. Participants must attend in person with a PC.

2- The use of computers in class is required simultaneously. Be smarter than a smartphone.

3- Attend the FIRST 5 MEETINGS: a) to confirm your registration; b) to get your Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN); c) to get the target report URL; d) to send to the instructor your PALR static Dropbox address. Without them, you start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), you won't exist on the instructor's list until you ask for it in class directly in order to confirm and update your data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

<PREPARATION and REVIEW> (Required Gate)

Be willing to prepare for class with the learning guides, how-to documents, and templates for about 15 minutes a day.

Everyone (from beginners to high achievers) is requested (1) to watch (listen / read) the media in advance and (2) to compose 5 quiz questions from the weekly Media Target. These questions are presented during the following meeting. They provide more participation points and sharing marks. Thus, participating in the weekly REVISION time and SHARING time become very easy.

Every participant is given the opportunity to practice and share their favorite topics through various kinds of containers like video-books, audio-books, book summaries, and various web pages within the Project Time. That is a sure way towards higher scores.

5. 教科書

<TEXTBOOKS>

The instructor progressively adapts his instruction manuals (HT & LG) to the perceived participants' understanding. They consist of (translatable PDF) learning guides (LG) and how-to (HT) documents. Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PALR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the guides and how-to documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

<REFERENCE BOOKS>

The best reference is the chosen topics and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. 😊

7. 課題に対するフィードバックの方法

<METHOD OF FEEDBACK ON PROJECTS AND ISSUES ab>

1. Bring Your Own Device (BYOD): A PC laptop (& electric connector) is best to get Participation points & Project marks.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW (and TELL, when possible, for more points).

2. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

3. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (a) evaluate their projects with criteria given in the HT and LG documents; (b) confirm their scores in class by sharing their screen; (c) update their improved (or corrected) projects through DROPBOX.COM; (d) practice / participate with partners; and (e) share their personal projects with the group.

4. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (a) Attendance; (b) Project Points; (c) Practice/Participation points; and (d) Sharing marks in their personal PALR. They must (e) document (keep proof of) how these

scores were obtained in the PALR Memo Note Table, (f) take screenshots of the quiz results, (g) identify these screenshots properly as demonstrated, (h) calculate their various scores, (i) provide the calculations of those scores on edited screenshots, and (j) connect them with Dropbox links in their personal PALR.

5. There is no return of assignments by the instructor. Participants may update their assignments, or make a better attempt with the next project parts.

8. 成績評価の方法

<GRADING & EVALUATION>

(Consult LGO5 GRADING when it comes out.)

(A) BASIC CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

(1) Participants must prepare and practice for class.

More precisely, they must produce weekly media with the demo model and their own topic as target, before class participation can be added to the total.

(2) Participants must attend a minimum of 10 meetings for active participation to be counted.

(3) Participants must produce the necessary weekly report (docx & pdf) PALR (Progressive Assignment List Report).

(4) Participants must complete the necessary final self-evaluation section FSES.

(5) Participants must provide a Dropbox link to their zipped PORTFOLIO by the end of the semester.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate)

F= 0~1259 (0~44%), F+=1260~1679 (45~59%);

C=1680~1819 (60~64%), C+=1820~1959 (65~69%),

B=1960~2099 (70~74%), B+=2100~2239 (75~79%),

A=2240~2379 (80~84%), and A+=2380~ (85~89%).

S (90~94%), and S+ (95~99%) grades can only be reached with green Sharing marks and threshold jumps.

The letter grades more or less correspond to the percentage grades as prescribed by the school.

Conversion: 1% = 28 (project / participation) points.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The Progressive List of Assignment is a menu that becomes easier along the weeks.

The evaluation criteria for each item are explained in the how-to (HT) and learning guide (LG) documents.

Other requirements are explained in the Grading document.

The project parts are demonstrated and put into practice from the very beginning to balance points and marks.

The evaluation distribution is more or less:

Homework (project parts through ZOOM & DROPBOX.COM) 0~89%;

Participation 0~50%;

Screen sharing 0~89%. (3 threshold jumps: 36S, 72S, or 96S)

Producing weekly media is the way to go. Do not wait for others, lead your own way.

9. その他

<PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE ab>

1. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) for review (MOQP), reports, tasks, or projects. It may take more at the beginning and less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

2. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

3. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, and text-to-speech devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding. Thus, they get ready to share their work in class to get confirmation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English.

4. Participants are willing to prepare their media for class with the instruction documents. Taking notes and composing questions after each class is part of the weekly assignment too, since it consists in understanding English. Thus, participants become able to participate in the following weekly revision; a "live" quiz game.

5. The project time is meant to share your personal projects with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These projects certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

6. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

7. A missing 2024a GUGIN Pnf PORTFOLIO at the end of the semester is an automatic failure.

科目ナンバー (AG) LAN212E

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語コミュニケーション(12)

2017~2021年度入学者
英語コミュニケーション(12)

1 単位

ティベール

1. 授業の概要・到達目標

<COURSE OUTLINE b>

This course builds on its spring predecessor with what was experientially used and learned with media creation. Listen to its description again, and read it to recall its 8 goals. Now, we expect a quicker start after a recap of the learning guides with complete interactive sessions and continue in a similar direction with extra project parts, class-media, and specific projects chosen by the participants. We use conversational interactions to share what we know, understand, learn, guess, and think in a common context. Participants (1) make project parts and quizzes to solidify each other knowledge in learning, (2) share them, and (3) self-manage their compiling and evaluation. Participants progressively find it easier to do that in English with online tools, guides, and models.

<ACHIEVEMENT GOALS b>

The main hidden goals are to improve spoken grammar and communicative fluency further. This improvement is (formatively, qualitatively, and quantitatively) evaluated through spoken / written weekly project parts, speaking activities, and project sharing in class. The ultimate goal in learning a language is to be able to communicate successfully with the users of that language with confidence in the knowledge we have learned and have already acquired. Errors are expected and welcomed. That is how we learn any new language and skills.

Given our limited time in class for formative feedback and evaluation, the tangible weekly goals remain: (1) to create project parts with topics of interest; (2) to share project parts with the group; (3) to participate in class interaction; (4) to evaluate the project parts; (5) to manage a long-term report of the project parts in a PORTFOLIO folder; (6) to evaluate one's performance; and (7) to compile one's own RESULTS. The instructor demonstrates every of these steps, and provides detailed instructions and guidelines for a fun experience in English.

2. 授業内容

Spring and Autumn Semester Course Contents

Most of the specific contents cannot be described in advance. A typical class contains a review time (RT), a media target (MT), and a project time (PT). Participants partly choose the contents by adapting the demo projects to their own preferences. Participants may refer to the Progressive Assignment List Report (PALR) for more details.

<Tentative Schedule> 😊

This schedule is explained in the colorful version of PALR (Progressive Assignment List Report).

From M01 to M10, we study the corresponding How-To (HT) document with micro-instructions. Thus, the four kinds of projects become integrated. The instructor selects the required target sites, types, and format for four kinds of projects: (1) YouTube-Video-Book Project (YT-VBP), (2) AUDible-Audio-Book Project (AUD-ABP), (3) BLIinkist-Book Summary Project (BLI-BSP), and (4) Web Infographic Project (WIP). Participants have 3 weeks to complete each kind of project. They select the categories and topics for these projects. The project parts, graded tasks leading the completion of a project, can be seen as steps leading to improvement in English.

CVB is the chosen Class Video Book for basic understanding, and accelerated language acquisition. (Chosen for beginners.) We begin targeting the chosen CVB from Meeting 8, if needed, to increase participation in larger groups.

From meeting 8, when producing 6-to-8-part projects, keep the troublesome parts for the end and / or switch to the CVB for completion.

HT01 explains the basic recommended online settings for smooth functioning in this course.

Browser settings (4), required extensions (4), applications (4), sign-ups (4), and necessary websites (4).

HT02 explains how to complete a weekly Self-evaluation with the Progressive Assignment List Report (PALR) & LG05.

HT03 explains how to complete the project Part 1 Edit Reference Screen (P1EditRefScreen).

HT04 explains how to complete the project Part 2 Otter Speech (P2OSpeech).

HT05 explains how to complete the project Part 3 Edit Otter Speech (P3EditOSpeech).

HT06 explains how to complete the project Part 4 Otter Screen Proof (P4OScreenProof).

HT07 explains how to complete the project Part 5 Review Time Quiz Questions (P5RTQQ).

HT08 explains how to complete the project Part 6 Menti Online Quiz Report (P6MOQR-Oresult).

HT09 explains how to complete the project Part 7 Menti Calculations (P7bMOQR-Calc) for participants.

HT10 explains how to complete the project Part 8 Menti Class Results (P8MOQR-ClassRes) for quiz masters.

Meeting Targets

M01 = HT01 demo+00-PALR demo / AYS GUGIN Pnf / email contact

M02 = HT02 demo+00-PALR, FSES, and PORTFOLIO demo

M03 = HT03 demo+P1EditRefScreen YT-VBP (Topic)

M04 = HT04 demo+P1~P2OSpeech YT-VBP (Topic)

M05 = HT05 demo+P1~P3EditOSpeech YT-VBP (Topic)

M06 = HT06 demo+P1~P4OScreenProof AUD-ABP (Topic)

M07 = HT07 demo+P1~P5RTQQ AUD-ABP (Topic)

M08 = HT08 demo+P1~P6MOQR-Oresult AUD-ABP (Topic) + CVB01.

M09 = HT09 demo+P1~P7MOQR-Calc BLI-BSP (Topic) + CVB02.

M10 = HT10 demo+P1~P8MOQR-ClassRes BLI-BSP (Topic) + CVB03.
M11 = PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip demo + Complete 8-part BLI-BSP (Topic) + CVB04.
M12 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB05.
M13 = Complete 8-part WIP (Topic) + CVB06.
M14 = Complete 8-part WIP (Topic)
FINAL
M14 or
M15 = Final PALR, FSES, and PORTFOLIO.zip
(Final updating by M15)

3. 履修上の注意

<PREREQUISITES and REGISTRATION REQUIREMENTS>

1- Are you willing to produce files in English and share them in English? That is the main prerequisite. Most of the note-taking and sharing are made with participants' computers. We use online technology in class. Participants must attend in person with a PC.

2- The use of computers in class is required simultaneously. Be smarter than a smartphone.

3- Attend the FIRST 5 MEETINGS: a) to confirm your registration; b) to get your Unique Group Identification Number (GUGIN or TUGIN); c) to get the target report URL; d) to send to the instructor your PALR static Dropbox address. Without them, you start at a loss and are lost. Still, without a GUGIN (or TUGIN), you won't exist on the instructor's list until you ask for it in class directly in order to confirm and update your data with DROPBOX.COM in the format instructed from the first meeting.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

<PREPARATION and REVIEW> (Required Gate)

Be willing to prepare for class with the learning guides, how-to documents, and templates for about 15 minutes a day.

Everyone (from beginners to high achievers) is requested (1) to watch (listen / read) the media in advance and (2) to compose 5 quiz questions from the weekly Media Target. These questions are presented during the following meeting. They provide more participation points and sharing marks. Thus, participating in the weekly REVISION time and SHARING time become very easy.

Every participant is given the opportunity to practice and share their favorite topics through various kinds of containers like video-books, audio-books, book summaries, and various web pages within the Project Time. That is a sure way towards higher scores.

5. 教科書

<TEXTBOOKS>

The instructor progressively adapts his instruction manuals (HT & LG) to the perceived participants' understanding. They consist of (translatable PDF) learning guides (LG) and how-to (HT) documents. Participants access the evolving English material (under the form of guides, models, and media / documents) with online devices. The instructor's PALR contains all the necessary details and access points. The instructor recommends watching (listening + reading) the guides and how-to documents to improve the understanding of what is being instructed in class.

6. 参考書

<REFERENCE BOOKS>

The best reference is the chosen topics and the class media, if any.

"Learning how to learn (or study)" publications from your school should also be consulted regularly and applied in this course; especially for notetaking and recommended study habits. 😊

7. 課題に対するフィードバックの方法

<METHOD OF FEEDBACK ON PROJECTS AND ISSUES ab>

1. Bring Your Own Device (BYOD): A PC laptop (& electric connector) is best to get Participation points & Project marks.

Participants are required to share their screen weekly to share their weekly project parts.

That is how they get direct feedback for instant correction and demonstration.

Feedback cannot be given with nothing to show for it. Just SHOW (and TELL, when possible, for more points).

2. Feedback is given in class orally through sharing screen online with our devices. Access through the participants' Dropbox links from the instructor's machine is possible for oral and written feedback.

3. Feedback occurs weekly in each group to provide scoring self-management. Participants: (a) evaluate their projects with criteria given in the HT and LG documents; (b) confirm their scores in class by sharing their screen; (c) update their improved (or corrected) projects through DROPBOX.COM; (d) practice / participate with partners; and (e) share their personal projects with the group.

4. Feedback goes further with formative self-management. It implies that participants must take notes of: (a) Attendance; (b) Project Points; (c) Practice/Participation points; and (d) Sharing marks in their personal PALR. They must (e) document (keep proof of) how these

scores were obtained in the PALR Memo Note Table, (f) take screenshots of the quiz results, (g) identify these screenshots properly as demonstrated, (h) calculate their various scores, (i) provide the calculations of those scores on edited screenshots, and (j) connect them with Dropbox links in their personal PALR.

5. There is no return of assignments by the instructor. Participants may update their assignments, or make a better attempt with the next project parts.

8. 成績評価の方法

<GRADING & EVALUATION>

(Consult LGO5 GRADING when it comes out.)

(A) BASIC CONDITIONS (as gates, hurdles, or threshold for success)

(1) Participants must prepare and practice for class.

More precisely, they must produce weekly media with the demo model and their own topic as target, before class participation can be added to the total.

(2) Participants must attend a minimum of 10 meetings for active participation to be counted.

(3) Participants must produce the necessary weekly report (docx & pdf) PALR (Progressive Assignment List Report).

(4) Participants must complete the necessary final self-evaluation section FSES.

(5) Participants must provide a Dropbox link to their zipped PORTFOLIO by the end of the semester.

(B) GRADE EVALUATION METHOD IN PERCENTAGE (as point thresholds for the second gate)

F= 0~1259 (0~44%), F+=1260~1679 (45~59%);

C=1680~1819 (60~64%), C+=1820~1959 (65~69%),

B=1960~2099 (70~74%), B+=2100~2239 (75~79%),

A=2240~2379 (80~84%), and A+=2380~ (85~89%).

S (90~94%), and S+ (95~99%) grades can only be reached with green Sharing marks and threshold jumps.

The letter grades more or less correspond to the percentage grades as prescribed by the school.

Conversion: 1% = 28 (project / participation) points.

(C) GRADE EVALUATION CRITERIA, EVALUATION DISTRIBUTION, ETC.>

The Progressive List of Assignment is a menu that becomes easier along the weeks.

The evaluation criteria for each item are explained in the how-to (HT) and learning guide (LG) documents.

Other requirements are explained in the Grading document.

The project parts are demonstrated and put into practice from the very beginning to balance points and marks.

The evaluation distribution is more or less:

Homework (project parts through ZOOM & DROPBOX.COM) 0~89%;

Participation 0~50%;

Screen sharing 0~89%. (3 threshold jumps: 36S, 72S, or 96S)

Producing weekly media is the way to go. Do not wait for others, lead your own way.

9. その他

<PRECAUTIONS FOR TAKING THIS COURSE ab>

1. Out-of-class time for study requires about 90 minutes (or more) every week (6 days X 15 minutes) for review (MOQP), reports, tasks, or projects. It may take more at the beginning and less toward the end when the process is understood and acquired. This is an average.

2. This course is immersive. It means: All the study material (including the syllabus) and class time are entirely in English. It consists of instructions, guiding documents (including this syllabus), and model templates in English.

3. Participants also use technological tools to understand when they are stuck. They use online dictionaries, online translators, and text-to-speech devices to learn pronunciation and navigate within this course. These tools guide them toward better understanding. Thus, they get ready to share their work in class to get confirmation. There is no shame in guessing, only curiosity to see if our interpretation is adequate. Nothing is done in vain when it is done in English.

4. Participants are willing to prepare their media for class with the instruction documents. Taking notes and composing questions after each class is part of the weekly assignment too, since it consists in understanding English. Thus, participants become able to participate in the following weekly revision; a "live" quiz game.

5. The project time is meant to share your personal projects with the whole group. This is the win-win shortcut that help others to understand and help yourself to improve by doing so. These projects certainly confirm your understanding. Participants focus on them to get superior grades.

6. Being there for the initial and final meetings is the best way to start and finish properly. GUGIN (or TUGIN) is never given by email.

If participants do not have GUGIN (or TUGIN), they must come to class in person, and ask for it.

7. A missing 2024a GUGIN Pnf PORTFOLIO at the end of the semester is an automatic failure.

総合科目

外国語科目群〈第二外国語〉

科目名	単位数	担当者
ドイツ語 I について	各 1 単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>《授業の達成目標及びテーマ》</p> <p>日本とドイツ語圏との結びつきは長く深いもので、私たちはドイツから医学や化学、生物学などの自然科学の知識をはじめ、音楽や美術、哲学、文学など人間の創造的分野でもさまざまな影響をうけてきました。そして現在、農学部が重要な課題のひとつとして取り組んでいる環境問題の分野においてドイツが世界をリードしていることはよく知られています。</p> <p>意外に思われるかもしれませんが、ドイツ語はヨーロッパで最も多くの人（約1億人）に話されている言語です。ドイツ語を学ぶことによって、欧州の最先端の情報に直接触れる機会が得られることも意味のあることといえます。</p> <p>農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>主に文法に重点をおいて、初級ドイツ語を学びます。</p> <p>発音も重視し、日常的なやさしい表現も習得しながら、1年間で初級文法のあらましを学びます。ごく簡単な会話ができ、やさしい文章なら辞書を用いて自分で読める水準に達することを目標にしています。またドイツ語の文法はきわめて論理的であるため、思考の訓練にも役立つと考えています。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>語学の学習は、予習・復習なしには成り立ちません。初級クラスでは音声データ等を活用して、授業中に習ったことをしっかりと身につけ、つぎの段階に進む基礎を作っていく必要があります。</p> <p>必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。</p> <p>「ドイツ語 I a」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「ドイツ語 I a」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p> <p>「ドイツ語 I b」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「ドイツ語 I b」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>各担当者の指示に従って下さい。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>ドイツ語 II と同一の教科書を使用し、2人の担当者がリレー方式で授業を進めていきます。</p> <p>教科書は、教科書販売所の教科書一覧に従って購入してください。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>各科目のシラバスを参照。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「ドイツ語会話」、夏期に実施される「ドイツ語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ドイツ語 I a 農	1 単位	辻朋季
2017～2021年度入学者 ドイツ語 I a 農		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語の文法の基礎を一つ一つ着実に学んでいきます。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、日常的な会話表現を習得したり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。また授業と並行して、現代のドイツ事情や日本とドイツのつながりなどについても適宜解説を加えていきます。

《授業の概要》

教科書に従って、各課ともまず文法事項を学んだうえで、練習問題を通して定着を図ります。ドイツ語の文法は英語に比べると複雑に見えますが、格(が・の・に・を)がしっかりしている分、文の構造がわかりやすく、主客の関係が読み取りやすいという利点もあります。ドイツ語学習を通して、こうした外国語の奥深さに触れてもらえたらと思います。

2. 授業内容

- 第1回 : インTRODakション (ドイツ語学習がめざすもの)
- 第2回 : Lektion 1 動詞の現在人称変化、文の作り方
- 第3回 : Lektion 1 読解と演習
- 第4回 : Lektion 2 名詞の性、格変化について
- 第5回 : Lektion 2 読解と演習
- 第6回 : Lektion 3 名詞の格変化 (1格と4格)
- 第7回 : Lektion 3 読解と演習
- 第8回 : Lektion 4 複数形と格変化、不規則動詞
- 第9回 : Lektion 4 読解と演習
- 第10回 : Lektion 5 前置詞と格支配
- 第11回 : Lektion 5 読解と演習
- 第12回 : Lektion 6 定冠詞類、不定冠詞類の変化
- 第13回 : Lektion 6 読解と演習
- 第14回 : a : 試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

語学の勉強は継続が大切です。授業には必ず紙の独和辞典(下記の「参考書」を閲覧のこと)を持参してください。ドイツ語専用の授業ノート(大学ノート等を使用のこと)で復習を必ず行って授業に参加すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

シラバスで指定した範囲を読み、教科書を予め読んでおいてください。

5. 教科書

『ドイツ語ベーシックコース [三訂版]』、大藪正彦ほか著、2024年2月初版、三修社

* ドイツ語 IIa と同一の教科書を使用します。

6. 参考書

『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』、平尾浩三ほか著、2020年、白水社

『だいたい楽しいドイツ語文法』、辻朋季著、2014年、三修社

『アクセス独和辞典』(三修社)

『クラウン独和辞典』(三省堂)

『アポロン独和辞典』(同学社)

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブ経由、或いはアクションペーパーの返却を通してフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 70%

平常点 30% (課題の解答と授業態度)

9. その他

研究室は第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスアワーは開講時にお伝えします。

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語 I a 政

2017~2021 年度入学者
ドイツ語 I a 政

1 単位

松島 渉

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。ドイツ語文法の基礎を一通り学びます。教科書に従って文法事項を学び、練習問題で知識を確認します。

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語の基礎文法を学び、活用できるようにします。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。

2. 授業内容

- 第1回 授業の進行についてのガイダンス。ドイツ語の文字や発音についての説明。
- 第2回 動詞の現在人称変化・
- 第3回 sein/haben の変化、定動詞の位置
- 第4回 名詞の性と格 (4 格)
- 第5回 定冠詞と不定冠詞の格変化
- 第6回 不規則変化動詞、名詞の複数形
- 第7回 格 (3 格)
- 第8回 前置詞
- 第9回 副文
- 第10回 人称代名詞、2 格
- 第11回 再帰代名詞、再帰動詞
- 第12回 冠詞類
- 第13回 否定
- 第14回 前期学習授業内容の確認

3. 履修上の注意

予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくること。学生の主体的な授業参加が求められます。無断欠席が4回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次回までにやっておくべき練習問題を指定します。

5. 教科書

『ドイツ語の時間〈恋するベルリン〉』清野智昭 2017年 朝日出版社

6. 参考書

辞書は必ず買しましょう。以下に例を挙げます。簡素過ぎる辞書は避けてください。

- 『クラウン独和辞典』（三省堂）
- 『アクセス独和辞典』（三修社）
- 『アポロン独和辞典』（同学社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出課題がある場合は添削し返却します。

8. 成績評価の方法

定期試験7割、平常点（出席・授業参加・小テストなど）3割。

9. その他

連絡先：初回授業時に示します。

科目ナンバー (AG)LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
ドイツ語 I a 化

2017～2021年度入学者
ドイツ語 I a 化

1 単位

金子祥之

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語を読み・書き・話すためのツールである基礎文法及び発音を学んでいきます。まずは基本的な発音のルールから始めていきます。最終的には辞書を使って簡単なドイツ語の文を読み・書くことができるようになることが目標です。ドイツ語圏の文化や社会に関する解説も適宜加えていきます。

《授業の概要》

教科書に基づいてまず文法を学び、練習問題を用いて作文を行います。

2. 授業内容

第1回：a: イントロダクション b: 発音のルール

第2回：動詞の人称変化

第3回：名詞と冠詞（1）

第4回：名詞と冠詞（2）

第5回：不規則変化動詞（1）

第6回：不規則変化動詞（2）・名詞の3格

第7回：前置詞（1）

第8回：前置詞（2）

第9回：副文

第10回：人称代名詞3・4格

第11回：再帰代名詞・再帰動詞

第12回：定冠詞類

第13回：不定冠詞類

第14回：まとめ・定期テスト

3. 履修上の注意

辞書を一冊用意してください（電子辞書も可）。必要な文法や単語に関しては授業時に解説いたします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

入念に予習を行ってください。不明な部分に関しては放置せずに必ず質問するよう心掛けてください。

5. 教科書

『ドイツ語の時間<恋するベルリン>Web改訂版 エピローグ付き』（清野智明著 朝日出版社）を使用いたします。

6. 参考書

適宜指示いたします。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業評価（30パーセント）及び定期テスト（70パーセント）

9. その他

連絡先：初回授業時に示します。

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ドイツ語 I a 生	1 単位	辻朋季
2017~2021年度入学者 ドイツ語 I a 生		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語の文法の基礎を一つ一つ着実に学んでいきます。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、日常的な会話表現を習得したり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。また授業と並行して、現代のドイツ事情や日本とドイツのつながりなどについても適宜解説を加えていきます。

《授業の概要》

教科書に従って、各課ともまず文法事項を学んだうえで、練習問題を通して定着を図ります。ドイツ語の文法は英語に比べると複雑に見えますが、格(が・の・に・を)がしっかりしている分、文の構造がわかりやすく、主客の関係が読み取りやすいという利点もあります。ドイツ語学習を通して、こうした外国語の奥深さに触れてもらえたらと思います。

2. 授業内容

- 第1回： イントロダクション（ドイツ語学習がめざすもの）、アルファベットと発音
- 第2回： Lektion 1 動詞の現在人称変化(規則動詞)
- 第3回： Lektion 1 語順と文の作り方
- 第4回： Lektion 2 人称代名詞・冠詞の変化
- 第5回： Lektion 2 定冠詞、不定冠詞、複数形
- 第6回： Lektion 3 動詞の現在人称変化(不規則動詞)、命令形
- 第7回： Lektion 3 冠詞の変化（定冠詞類、不定冠詞類）
- 第8回： Lektion 4 話法の助動詞の現在人称変化
- 第9回： Lektion 4 前置詞
- 第10回： Lektion 5 複合動詞（分離動詞、非分離動詞）
- 第11回： Lektion 5 接続詞
- 第12回： 文法事項の補足(1)
- 第13回： 今学期のまとめと復習
- 第14回： a : 試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

必ず紙の独和辞典（下記の「参考書」欄を参照のこと）を持参してください。また、ドイツ語学習専用の授業ノート（大学ノート等）を作成し、授業内容を整理するようにして下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内での指示にしたがって、練習問題等をやってくるように。

5. 教科書

『ドイツに行ってみませんか<Ver. 3>』（Deutsch, mein Schluessel zur neuen Welt）、佐藤和宏ほか著、2014年初版、郁文堂。

* ドイツ語 II a と同一の教科書を使用します。

6. 参考書

文法解説書：

『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』、平尾浩三ほか著、2020年、白水社。

問題集：

『だいたい楽しいドイツ語入門ー使える文法』、2014年、三修社。

和独辞典：

『アクセス独和辞典』（三修社）／『クラウン独和辞典』（三省堂）／『アポロン独和辞典』（同学社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブ経由、またはリアクションペーパーの返却を通してフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 70%

平常点 30%（課題の解答と授業態度）

9. その他

研究室は第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスパワーは開講時にお伝えします。

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
ドイツ語 I b 農

2017～2021年度入学者
ドイツ語 I b 農

1 単位

辻朋季

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語の文法の基礎を一つ一つ着実に学んでいきます。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、日常的な会話表現を習得したり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。また授業と並行して、現代のドイツ事情や日本とドイツのつながりなどについても適宜解説を加えていきます。

《授業の概要》

教科書に従って、各課ともまず文法事項を学んだうえで、練習問題を通して定着を図ります。ドイツ語の文法は英語に比べると複雑に見えますが、格(が・の・に・を)がしっかりしている分、文の構造がわかりやすく、主客の関係が読み取りやすいという利点もあります。ドイツ語学習を通して、こうした外国語の奥深さに触れてもらえたらと思います。

2. 授業内容

第1回 : インTRODakション (春学期の復習)

第2回 : Lektion 7 分離動詞と zu 不定詞

第3回 : Lektion 7 読解と演習

第4回 : Lektion 8 再帰動詞と再帰代名詞

第5回 : Lektion 8 読解と演習

第6回 : Lektion 9 話法の助動詞と人称変化

第7回 : Lektion 9 読解と演習

第8回 : Lektion 10 形容詞の格変化

第9回 : Lektion 10 読解と演8習

第10回 : Lektion 11 比較級と最上級

第11回 : Lektion 11 読解と演習

第12回 : Lektion 12 現在完了形と過去形

第13回 : Lektion 12 読解と演習

第14回 : a : 試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

語学の勉強は継続が大切です。授業には必ず紙の独和辞典(下記の「参考書」を閲覧のこと)を持参してください。ドイツ語専用の授業ノート(大学ノート等を使用のこと)で復習を必ず行って授業に参加すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

シラバスで指定した範囲を読み、教科書を予め読んでおいてください。

5. 教科書

『ドイツ語ベーシックコース [三訂版]』、大藪正彦ほか著、2024年2月初版、三修社。

* ドイツ語 I b と同一の教科書を使用します。

6. 参考書

『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』、平尾浩三ほか著、2020年、白水社

『だいたい楽しいドイツ語文法』、辻朋季著、2014年、三修社

『アクセス独和辞典』(三修社)

『クラウン独和辞典』(三省堂)

『アポロン独和辞典』(同学社)

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブ経由、或いはアクションペーパーの返却を通してフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 70%

平常点 30% (課題の解答と授業態度)

9. その他

研究室は第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスアワーは開講時にお伝えします。

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
ドイツ語 I b 政

1 単位

松島 渉

2017～2021年度入学者
ドイツ語 I b 政

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

Iaに引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。教科書に従って文法事項を学び、練習問題で知識を確認します。

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語の基礎文法を学び、活用できるようにします。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。

2. 授業内容

- 第1回 既習学習事項の確認
- 第2回 zu 不定詞・zu 不定詞句
- 第3回 分離動詞・非分離動詞
- 第4回 話法の助動詞
- 第5回 未来形
- 第6回 過去形
- 第7回 完了形
- 第8回 受動態
- 第9回 形容詞の格変化
- 第10回 比較表現
- 第11回 関係代名詞
- 第12回 命令形
- 第13回 接続法、既習事項の復習
- 第14回 後期学習内容理解度の確認

3. 履修上の注意

予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくること。学生の主体的な授業参加が求められます。無断欠席が4回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、次回までにやっておくべき練習問題を指定します。

5. 教科書

『ドイツ語の時間<恋するベルリン>』 清野智昭 2017年 朝日出版社

6. 参考書

辞書は必ず買しましょう。以下に例を挙げます。簡素過ぎる辞書は避けてください。

『クラウン独和辞典』（三省堂）

『アクセス独和辞典』（三修社）

『アポロン独和辞典』（同学社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出課題がある場合は添削し返却します。

8. 成績評価の方法

定期試験7割、平常点（出席・授業参加・小テストなど）3割。

9. その他

履修者の理解度によって進度を変更することがあります。

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
ドイツ語 I b 化

2017～2021年度入学者
ドイツ語 I b 化

1 単位

金子祥之

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

春学期同様に、教科書に沿って基礎文法及び発音を学んでいきます。秋学期は助動詞の使い方から再開し、過去時制を中心に学んでいきます。

《授業の概要》

教科書に基づいてまず文法を学び、練習問題を用いて作文を行います。

2. 授業内容

第1回：a: インTRODakション b: 春学期内容の確認

第2回：冠詞類の復習・否定冠詞

第3回：zu 不定詞句

第4回：分離動詞

第5回：話法の助動詞 1

第6回：話法の助動詞 2

第7回：動詞の3基本形・過去形

第8回：現在完了形

第9回：受動態

第10回：形容詞・比較

第11回：命令形

第12回：関係代名詞

第13回：接続法

第14回：まとめ・定期テスト

3. 履修上の注意

教科書のほかに辞書を必ず持参してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で学習した事柄に関しては必ず復習を行うよう心掛けてください。

5. 教科書

『ドイツ語の時間<恋するベルリン>Web 改訂版 エピローグ付き』（清野智明著 朝日出版社）を使用いたします。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業評価3割、定期テスト7割から算出します。

9. その他

ドイツ語検定試験（4級以上）にも挑戦してください。

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ドイツ語 I b 生	1 単位	辻朋季
2017~2021年度入学者 ドイツ語 I b 生		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語の文法の基礎を一つ一つ着実に学んでいきます。学習した内容をもとに、辞書を使ってドイツ語の文章を正確に読み解けるようにすること、また基本的な表現を覚えたり、日常的な会話表現を習得したり、聞き取りの力を養ったりするのが狙いです。また授業と並行して、現代のドイツ事情や日本とドイツのつながりなどについても適宜解説を加えていきます。

《授業の概要》

教科書に従って、各課ともまず文法事項を学んだうえで、練習問題を通して定着を図ります。ドイツ語の文法は、特に動詞の語尾変化や冠詞の格変化が複雑ですが、原則を一通り学べば例外は少なく、むしろ理路整然とした言語、論理的な表現に適した言葉であることに気づけるとと思います。学習を通して、こうしたドイツ語の魅力を感じてもらえたらと思います。

2. 授業内容

- 第1回：春学期の復習
- 第2回：Lektion 6 動詞の三基本形
- 第3回：Lektion 6 過去形・現在完了形
- 第4回：Lektion 7 受動態
- 第5回：Lektion 7 比較級と最上級
- 第6回：Lektion 8 関係代名詞
- 第7回：Lektion 8 再帰代名詞
- 第8回：Lektion 9 zu 不定詞
- 第9回：Lektion 9 分詞の用法
- 第10回：Lektion 10 接続法 II 式
- 第11回：Lektion 10 接続法 I 式
- 第12回：文法の補足
- 第13回：今学期のまとめ
- 第14回：a: 試験

* 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

必ず紙の独和辞典（下記の「参考書」欄を参照のこと）を持参してください。また、ドイツ語学習専用の授業ノート（大学ノート等）を作成し、授業内容を整理するようにして下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内での指示にしたがって、練習問題等をやってくるように。

5. 教科書

『ドイツに行ってみませんか<Ver. 3>』（Deutsch, mein Schluessel zur neuen Welt）、佐藤和宏ほか著、2014年初版、郁文堂。

* ドイツ語 II b と同一の教科書を使用します。

6. 参考書

文法解説書：

『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』、平尾浩三ほか著、2020年、白水社。

問題集：

『だいたい楽しいドイツ語入門ー使える文法』、2014年、三修社。

和独辞典：

『アクセス独和辞典』（三修社）／『クラウン独和辞典』（三省堂）／『アポロン独和辞典』（同学社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブ経由、またはリアクションペーパーの返却を通してフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

定期試験 70%

平常点 30%（課題の解答と授業態度）

9. その他

研究室は第一校舎3号館407号室。オフィスアワーは開講時にお伝えします。

科目名	単位数	担当者
ドイツ語Ⅱについて	各1単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>日本とドイツ語圏との結びつきは長く深いもので、私たちはドイツから医学化学、生物学などの自然科学の知識をはじめ、音楽や美術、哲学、文学など人間の創造的分野でもさまざまな影響をうけてきました。そして現在、農学部が重要な課題のひとつとして取り組んでいる環境問題の分野においてドイツが世界をリードしていることはよく知られています。</p> <p>意外に思われるかもしれませんが、ドイツ語はヨーロッパで最も多くの人（約1億人）に話されている言語です。ドイツ語を学ぶことによって、欧州の最先端の情報に直接触れる機会が得られることも意味のあることといえます。</p> <p>農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>主に読解と会話に重点をおいて、初級ドイツ語を学びます。</p> <p>発音も重視し、日常的なやさしい表現も習得しながら、1年間で初級文法のあらましを学びます。ごく簡単な会話ができ、やさしい文章なら辞書を用いて自分で読める水準に達することを目標にしています。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>語学の学習は、予習・復習なしには成り立ちません。初級クラスでは音声データ等を活用して、授業中に習ったことをしっかりと身につけ、つぎの段階に進む基礎を作っていく必要があります。</p> <p>必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。</p> <p>「ドイツ語Ⅱ a」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「ドイツ語Ⅱ a」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p> <p>「ドイツ語Ⅱ b」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「ドイツ語Ⅱ b」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>各担当者の指示に従って下さい。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>ドイツ語Ⅰと同一の教科書を使用し、2人の担当者がリレー方式で授業を進めていきます。</p> <p>教科書販売所の教科書一覧に従って購入してください。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>各科目のシラバスを参照。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「ドイツ語会話」、夏期に実施される「ドイツ語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG)LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅱa 農

2017～2021 年度入学者
ドイツ語Ⅱa 農

1 単位

松島 渉

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語の基本的な会話を学びます。教科書の会話文で扱われたテーマに関しても適宜補足し、ドイツの日常生活や社会的・文化的背景も学んでいきます。

《授業の概要》

教科書の例文に従って、会話練習を行います。同じ表現の一部を変えるパターンプラクティスで基本表現を覚えます。

2. 授業内容

第1回 授業の進行についてのガイダンス、ドイツ語の文字や発音、数詞、あいさつ

第2回 挨拶、自己紹介（名前、出身地、専攻）

第3回 動詞を使った表現、アルファベットの音価

第4回 建物や施設、名詞の性

第5回 形容詞を使った表現

第6回 様々な動作、目的語のある文章

第7回 定冠詞、不定冠詞、否定冠詞を使った表現

第8回 名詞の複数形、不規則変化動詞

第9回 2 ケタの数詞

第10回 前置詞の用法

第11回 位置と方向の使い分け

第12回 定冠詞類、不定冠詞類

第13回 ドイツ語特有の動詞表現

第14回 学習内容の確認

3. 履修上の注意

授業ではパートナー練習や音声メディアを使ったヒアリング等を行います。原則として予習は必要ありませんが、その分受講者には集中して授業を受けることが求められます。コミュニケーション能力は語学力だけによるものではありません。積極的に授業に参加しましょう。無断欠席が4回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習として授業内で練習した会話表現を、最低1回は実際に声に出して発音しましょう。また、教科書内の問題を復習の課題として指定することがあります。次回までに準備すべきことがある場合、授業内で指示します。

5. 教科書

『ドイツ語ベーシック・コース[三訂版]』大藺正彦、Roland Schulz、西脇宏、行重耕平 2024年 三修社

6. 参考書

外国語学習に辞書は必須です。自学自習のためにも必要です。特に指定はしませんが必ず辞書は持っておきましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説します。

8. 成績評価の方法

定期試験7割、平常点（出席・授業参加・小テストなど）3割

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅱa 政

1 単位

木村裕一

2017～2021 年度入学者
ドイツ語Ⅱa 政

1. 授業の概要・到達目標

〈概要〉

この授業ではドイツ語を初めて学ぶ人を対象に、簡単な会話表現や短いテキストの読解練習などを通じ、基礎的な語彙や発音、文法事項に関する理解を深めていきます。

また、語学学習と同時にドイツ語圏の文化や社会について関心をもってもらうことも目的としています。少しでも第二外国語学習のモチベーションを高めてもらうために、できるだけ無理なく楽しく授業していきたいと思ます。

〈到達目標〉

初歩的なドイツ語の語彙や表現、文法規則を理解し、短いテキストであれば理解できるようになること、またそれらを正確に発音できるようになること
食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回：ガイダンス

第2回：ドイツ語の発音規則

第3回：Lektion 1 Ankunft in Berlin (1)

第4回：Lektion 1 Ankunft in Berlin (2)

第5回：Lektion 2 Beim Bäcker (1)

第6回：Lektion 2 Beim Bäcker (2)

第7回：Lektion 3 Sprachkurs (1)

第8回：Lektion 3 Sprachkurs (2)

第9回：Lektion 4 In der Mensa (1)

第10回：Lektion 4 In der Mensa (2)

第11回：Lektion 5 Beim Arzt (1)

第12回：Lektion 5 Beim Arzt (2)

第13回：Lektion 6 Beim Studentenwohnheim

第14回：今学期のまとめ

* 授業進度やクラスの理解度に応じて、計画を変更する可能性があります

3. 履修上の注意

- ・対面授業における 10 分以上の遅刻は、理由にかかわらず、3 回で 1 回分の欠席とみなします。
- ・4 回以上欠席がある場合、履修意思がないものと判断し、不合格とします（ただし特別な事由等がある場合は適宜対応しますので必ず連絡すること）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

〈予習〉

- ・予定されている課で学習する文法事項を確認すること
- ・新しく出てきた単語を辞書で調べ、意味を確認すること

〈復習〉

- ・各回ごとに学習した例文やテキストの発音を正確に再現できるよう練習すること
- ・宿題がある場合はそれらを行うこと
- ・小テストがある場合は、そのための準備をすること

5. 教科書

清野智昭『ドイツ語の時間 <恋するベルリン>』朝日出版、ISBN: 978-4-255-25393-0

6. 参考書

ドイツ語の辞書（電子辞書も可）は必ず購入し、毎授業持参するようにしてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、授業内にて返却します。

8. 成績評価の方法

小テスト： 80%

期末課題： 20%

各課の区切りごとに、授業冒頭の 15 分程度小テストを実施します。

小テストの実施スケジュールについては、授業内で連絡します。

期末課題については、授業内で指示します。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者

ドイツ語Ⅱa 化

2017～2021 年度入学者

ドイツ語Ⅱa 化

1 単位

木村裕一

1. 授業の概要・到達目標

〈概要〉

この授業ではドイツ語を初めて学ぶ人を対象に、簡単な会話表現や短いテキストの読解練習などを通じ、基礎的な語彙や発音、文法事項に関する理解を深めていきます。

また、語学学習と同時にドイツ語圏の文化や社会について関心をもってもらうことも目的としています。少しでも第二外国語学習のモチベーションを高めてもらうために、できるだけ無理なく楽しく授業していきたいと思えます。

〈到達目標〉

初歩的なドイツ語の語彙や表現、文法規則を理解し、短いテキストであれば理解できるようになること、またそれらを正確に発音できるようになること
食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回：ガイダンス

第2回：ドイツ語の発音規則

第3回：Lektion 1 Ankunft in Berlin (1)

第4回：Lektion 1 Ankunft in Berlin (2)

第5回：Lektion 2 Beim Bäcker (1)

第6回：Lektion 2 Beim Bäcker (2)

第7回：Lektion 3 Sprachkurs (1)

第8回：Lektion 3 Sprachkurs (2)

第9回：Lektion 4 In der Mensa (1)

第10回：Lektion 4 In der Mensa (2)

第11回：Lektion 5 Beim Arzt (1)

第12回：Lektion 5 Beim Arzt (2)

第13回：Lektion 6 Beim Studentenwohnheim

第14回：今学期のまとめ

* 授業進度やクラスの理解度に応じて、計画を変更する可能性があります

3. 履修上の注意

・対面授業における 10 分以上の遅刻は、理由にかかわらず、3 回で 1 回分の欠席とみなします。

・4 回以上欠席がある場合、履修意思がないものと判断し、不合格とします（ただし特別な事由等がある場合は適宜対応しますので必ず連絡すること）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

〈予習〉

・予定されている課で学習する文法事項を確認すること

・新しく出てきた単語を辞書で調べ、意味を確認すること

〈復習〉

・各回ごとに学習した例文やテキストの発音を正確に再現できるよう練習すること

・宿題がある場合はそれらを行うこと

・小テストがある場合は、そのための準備をすること

5. 教科書

清野智昭『ドイツ語の時間 <恋するベルリン>』朝日出版、ISBN: 978-4-255-25393-0

6. 参考書

ドイツ語の辞書（電子辞書も可）は必ず購入し、毎授業持参するようにしてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、授業内にて返却します。

8. 成績評価の方法

小テスト： 80%

期末課題： 20%

各課の区切りごとに、授業冒頭の 15 分程度小テストを実施します。

小テストの実施スケジュールについては、授業内で連絡します。

期末課題については、授業内で指示します。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅱa 生

2017～2021 年度入学者
ドイツ語Ⅱa 生

1 単位

羽田野まち子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語の基礎的な知識を養うこと。また、ドイツ語の学習を通してヨーロッパ（とくにドイツ語圏）の文化・社会についての理解を深める。

《授業の概要》

ドイツ語初習者を対象に、ドイツ語文法の基礎的な知識を身につけ、1年後には簡単なドイツ語を自力で読んだり書いたり話したりできるように練習をしていく。

2. 授業内容

第1回：a. イントロダクション

b. ドイツ語の発音

第2回：Lektion 1: Willkommen

第3回：Lektion 1: 出会いと自己紹介

第4回：Lektion 2 :Nanas Universität

第5回：Lektion 2 : カフェで注文

第6回：Lektion 3 : Meine Familie

第7回：Lektion 3 : 何をするのが好き？

第8回：ここまでのまとめ

第9回：Lektion 4: Eine Reise nach Dresden

第10回：Lektion 4 : 週末の予定

第11回：Lektion 5 : Genießen wir jeden Sommertag!

第12回：Lektion 5 : 好み、休暇について

第13回：ここまでのまとめ

第14回：a. 春学期のまとめ

b. 定期試験

3. 履修上の注意

事前に必ず辞書をひいて予習をしてくること。また授業には毎回辞書を持参すること。なお、5回以上の欠席は履修放棄と見なします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習としては、Dialog と購読部分（Für Leseratten）の発音を練習をし、わからない単語は辞書で調べておく。その際、完璧な日本語訳を作ってくる必要はないので、文の構造を考え、学習する（した）文法事項を確認しながら意味をとっておくことが大事です。

復習は、教科書に出てきた単語を覚えること。そして、テキストを音読したり、音声を聞いたりしながら、学習した文法事項を再度確認してください。そして、わからないことがあった場合は、次の授業で質問できるよう準備をしておくこと。

5. 教科書

『ドイツに行ってみませんか〈Ver.3〉』、佐藤和弘、Heike Pinnau、中村俊子著、郁文堂（¥2500+税）

（ドイツ語 I a と同じ教科書を使用します。）

6. 参考書

授業内で適宜紹介します。辞書についても初回の授業で案内をします。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験 50% 平常点（授業への参加度、小テストなど）50%

9. その他

語学は練習と実践が大事です。授業に積極的に参加して下さい。なお、授業中のスマホ使用は、基本的には禁止とします。タブレットやパソコンをノートとして使用する場合は、授業に集中できるように、通知などを切る設定をお願いします。

科目ナンバー (AG)LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅱb 農

1 単位

松島 渉

2017～2021 年度入学者
ドイツ語Ⅱb 農

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

I1bに引き続き、ドイツ語の基本的な会話を学びます。教科書の会話文で扱われたテーマについても適宜補足し、ドイツの日常生活や社会的・文化的背景も学んでいきます。

《授業の概要》

教科書の例文に従って、会話練習を行います。同じ表現の一部を変えるパターンプラクティスで基本表現を覚えます。

2. 授業内容

- 第1回 既習事項の復習
- 第2回 さまざまな動詞表現（分離動詞）
- 第3回 語順
- 第4回 再帰表現
- 第5回 命令形
- 第6回 話法の助動詞
- 第7回 助動詞の用法、不規則変化動詞
- 第8回 名詞についた形容詞の変化
- 第9回 形容詞の用法と副詞
- 第10回 比較表現、比較級と最上級
- 第11回 現在完了形
- 第12回 過去形
- 第13回 既習事項のまとめ
- 第14回 学習内容の確認

3. 履修上の注意

授業ではパートナー練習や音声メディアを使ったヒアリング等を行います。原則として予習は必要ありませんが、その分受講者には集中して授業を受けることが求められます。コミュニケーション能力は語学力だけによるものではありません。積極的に授業に参加しましょう。無断欠席が4回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習として授業内で練習した会話表現を、最低1回は実際に声に出して発音しましょう。また、教科書内の問題を復習の課題として指定することがあります。次回までに準備すべきことがある場合、授業内で指示します。

5. 教科書

『ドイツ語ベーシック・コース[三訂版]』大藺正彦、Roland Schulz、西脇宏、行重耕平 2024年 三修社

6. 参考書

外国語学習に辞書は必須です。自学自習のためにも必要です。特に指定はしませんが必ず辞書は持っておきましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説します。

8. 成績評価の方法

定期試験7割、平常点（出席・授業参加・小テストなど）3割

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 ドイツ語Ⅱb 政	1 単位	木村裕一
2017～2021 年度入学者 ドイツ語Ⅱb 政		

1. 授業の概要・到達目標

〈概要〉

前期に引き続き、会話表現や短いテキストの読解練習などを通じ、ドイツ語の語彙や発音、文法事項に関する理解を深めていきます。また、語学学習と同時にドイツ語圏の文化や社会について関心をもってもらうことも目的としています。少しでも第二外国語学習のモチベーションを高めてもらうために、できるだけ無理なく楽しく授業していきたいと思ます。

〈到達目標〉

基礎的なドイツ語の語彙や表現、文法規則を理解し、短いテキストや日常的な会話内容であれば理解できるようになること、またそれらを正確に発音できるようになること

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回：前期の復習
- 第2回：Lektion 6 Beim Studentenwohnheim
- 第3回：Lektion 7 Zum Wannsee (1)
- 第4回：Lektion 7 Zum Wannsee (2)
- 第5回：Lektion 8 Beim Friseur (1)
- 第6回：Lektion 8 Beim Friseur (2)
- 第7回：Lektion 9 In einem Biergarten (1)
- 第8回：Lektion 9 In einem Biergarten (2)
- 第9回：Lektion 10 In einer Boutique (1)
- 第10回：Lektion 10 In einer Boutique (2)
- 第11回：Lektion 11 Philipps Geburtstag (1)
- 第12回：Lektion 11 Philipps Geburtstag (2)
- 第13回：Lektion12 Vor der Abreise
- 第14回：今学期のまとめ

3. 履修上の注意

- ・対面授業における10分以上の遅刻は、理由にかかわらず、3回で1回分の欠席とみなします。
- ・4回以上欠席がある場合、履修意思がないものと判断し、不合格とします（ただし特別な事由等がある場合は適宜対応しますので必ず連絡すること）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

〈予習〉

- ・予定されている課で学習する文法事項を確認すること
- ・新しく出てきた単語を辞書で調べ、意味を確認すること

〈復習〉

- ・各回ごとに学習した例文やテキストの発音を正確に再現できるよう練習すること
- ・宿題がある場合はそれらを行うこと
- ・小テストがある場合は、そのための準備をすること

5. 教科書

清野智昭『ドイツ語の時間 <恋するベルリン>』朝日出版、ISBN: 978-4-255-25393-0

6. 参考書

ドイツ語の辞書（電子辞書も可）は必ず購入し、毎授業持参するようにしてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、授業内にて返却します。

8. 成績評価の方法

小テスト： 80%
 期末課題： 20%

各課の区切りごとに、授業冒頭の15分程度小テストを実施します。
 小テストの実施スケジュールについては、授業内で連絡します。

期末課題については、授業内で指示します。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅱb 化

2017～2021 年度入学者
ドイツ語Ⅱb 化

1 単位

木村裕一

1. 授業の概要・到達目標

〈概要〉

前期に引き続き、会話表現や短いテキストの読解練習などを通じ、ドイツ語の語彙や発音、文法事項に関する理解を深めていきます。また、語学学習と同時にドイツ語圏の文化や社会について関心をもってもらうことも目的としています。少しでも第二外国語学習のモチベーションを高めてもらうために、できるだけ無理なく楽しく授業していきたいと思ます。

〈到達目標〉

基礎的なドイツ語の語彙や表現、文法規則を理解し、短いテキストや日常的な会話内容であれば理解できるようになること、またそれらを正確に発音できるようになること

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回：前期の復習
- 第2回：Lektion 6 Beim Studentenwohnheim
- 第3回：Lektion 7 Zum Wannsee (1)
- 第4回：Lektion 7 Zum Wannsee (2)
- 第5回：Lektion 8 Beim Friseur (1)
- 第6回：Lektion 8 Beim Friseur (2)
- 第7回：Lektion 9 In einem Biergarten (1)
- 第8回：Lektion 9 In einem Biergarten (2)
- 第9回：Lektion 10 In einer Boutique (1)
- 第10回：Lektion 10 In einer Boutique (2)
- 第11回：Lektion 11 Philipps Geburtstag (1)
- 第12回：Lektion 11 Philipps Geburtstag (2)
- 第13回：Lektion12 Vor der Abreise
- 第14回：今学期のまとめ

3. 履修上の注意

- ・対面授業における10分以上の遅刻は、理由にかかわらず、3回で1回分の欠席とみなします。
- ・4回以上欠席がある場合、履修意思がないものと判断し、不合格とします（ただし特別な事由等がある場合は適宜対応しますので必ず連絡すること）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

〈予習〉

- ・予定されている課で学習する文法事項を確認すること
- ・新しく出てきた単語を辞書で調べ、意味を確認すること

〈復習〉

- ・各回ごとに学習した例文やテキストの発音を正確に再現できるよう練習すること
- ・宿題がある場合はそれらを行うこと
- ・小テストがある場合は、そのための準備をすること

5. 教科書

清野智昭『ドイツ語の時間 <恋するベルリン>』朝日出版、ISBN: 978-4-255-25393-0

6. 参考書

ドイツ語の辞書（電子辞書も可）は必ず購入し、毎授業持参するようにしてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、授業内にて返却します。

8. 成績評価の方法

小テスト： 80%
期末課題： 20%

各課の区切りごとに、授業冒頭の15分程度小テストを実施します。
小テストの実施スケジュールについては、授業内で連絡します。

期末課題については、授業内で指示します。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN121N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅱb 生

2017～2021 年度入学者
ドイツ語Ⅱb 生

1 単位

羽田野まち子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ドイツ語の基礎を養うこと。また、ドイツ語の学習を通してヨーロッパ（とくにドイツ語圏）の文化・社会についての理解を深める。

《授業の概要》

ドイツ語初習者を対象に、ドイツ語文法の基礎的な知識を身につけ、簡単なドイツ語を自力で読んだり書いたり話したりできるように練習をしていく。

春学期に引き続き、練習問題や会話練習、テキスト講読を通じてドイツ語の構造を読み解く力を養っていく。

2. 授業内容

第1回：春学期の復習・確認

第2回：Lektion 6：Der Beginn des Wintersemesters

第3回：Lektion 6：週末に何をした？

第4回：Lektion 7：Ein Waldspaziergang

第5回：Lektion 7：一番好きなのは…

第6回：Lektion 8：Berlin hat viele Gesichter

第7回：Lektion 8：朝の身だしなみ、怪我・病気

第8回：ここまでのまとめ

第9回：Lektion 9：Auf dem Weihnachtsmarkt

第10回：Lektion 9：気持ちや状況を述べる、クリスマスカード

第11回：Lektion 10：Rollenverteilung heute

第12回：Lektion 10：プロポーズ、議論・意見を交わす

第13回：ここまでのまとめ

第14回：a. 1年間のまとめ

b. 定期試験

3. 履修上の注意

必ず事前に辞書を引いて教科書の練習問題や読解問題の予習をしてください。また授業にも辞書を持参すること。なお、5回以上の欠席は履修放棄と見なします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習としては、Dialog と購読部分（Für Leseratten）の発音を練習をし、わからない単語は辞書で調べておく。その際、完璧な日本語訳を作ってくる必要はないので、文の構造を考え、学習する（した）文法事項を確認しながら意味をとっておくことが大切です。

復習は、教科書に出てきた単語を覚えること。そして、テキストを音読したり、音声を聞いたりしながら、学習した文法事項を再度確認してください。そして、わからないことがあった場合は、次の授業で質問できるよう準備しておくこと。

5. 教科書

『ドイツに行ってみませんか〈Ver.3〉』、佐藤和弘、Heike Pinnau、中村俊子著、郁文堂（¥2500+税）

（ドイツ語Ⅱaと同じ教科書を使用します。）

6. 参考書

授業内で適宜紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験 50% 平常点（授業への参加度、小テストなど）50%

9. その他

語学は練習と実践が大切です。授業に積極的に参加して下さい。授業中のスマホ使用は、基本的に禁止とします。タブレットやパソコンをノートとして使用する場合は、授業に集中できるように、通知を切るようにしておいてください。

科 目 名	単 位 数	担 当 者
ドイツ語Ⅲについて	各 1 単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>ドイツ語をさらに深く学びたい人のために、自由選択科目として設けられています。二年次から四年次までのどの時期にも履習でき、重複履習が可能なうえ、同一年度内に複数のドイツ語Ⅲ科目を履習することもできます。少人数でじっくり学ぶことができ、大学の語学授業の楽しみを味わうことのできる科目です。</p> <p>農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>一年次の授業で扱い切れなかった事柄を補いつつ、さらにドイツ語の運用能力を高めるため、一年次の学習を基礎に、履修者の希望も取り入れながら、コミュニケーション力の強化や、中級・上級テキストの講読などを行います。又、ことばの背景となる文化・社会の理解にも踏み込んだ解説を行います。</p> <p>個々の授業内容に関しては該当するシラバスを参照してください。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>語学の授業なので予習することが必要です。そして自分なりの目標をたてることがそれを容易にしてくれるものと思います。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>各担当者の指示に従って下さい。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>各科目のシラバスを参照して下さい。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「ドイツ語会話」、夏期に実施される「ドイツ語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG) LAN221N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅲ(1)

1 単位

辻朋季

2017~2021 年度入学者
ドイツ語Ⅲ(1)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

1 年次に学んだ文法事項を復習しつつ、中級文法も習得し、込み入ったテーマのドイツ語の文章を正確に読み解く力を養います。読解テキストのテーマに関連して、ドイツの現代事情や人々の暮らしなどについても学び、ドイツ語の奥深さやドイツ人の思考様式にも触れていきたいと思えます。この科目は、農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応します。

《授業の概要》

履修者の興味関心に応じて、こちらで読解用のテキストを用意します。ドイツ語の読解を通して、応用力を身に付けるとともに、ドイツ語圏の社会・文化事情についての知識も高めていきます。

2. 授業内容

(以下の内容は、現時点で想定している内容ですが、履修者の希望に応じて適宜変更も可能です)

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：初級文法の復習・短いテキストの速読
- 第3回：2023 年のドイツを振り返る
- 第4回：ドイツの公共交通機関(ドイツチケット)について
- 第5回：ドイツ人の SNS との付き合い方
- 第6回：スイス・オーストリアについて
- 第7回：ドイツ語圏のキャッシュレス事情
- 第8回：ドイツの夏とグリルパーティー
- 第9回：ドイツ語圏の宅配サービス事情
- 第10回：ドイツの若者とシェアハウス(WG)
- 第11回：ドイツのビールについて
- 第12回：ドイツのスイーツについて
- 第13回：ドイツ映画の鑑賞
- 第14回：a: 今学期のまとめ

3. 履修上の注意

予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくる。学生の主体的な授業参加が求められます。無断欠席が4回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習に当たっては、単に辞書の意味を調べるだけでなく、単語の用例やイディオムにも気を配り、文脈全体の流れを掴めるようにすることが重要です。

5. 教科書

(適宜プリントを配布します)

6. 参考書

- 『必携ドイツ文法総まとめ』、中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著、白水社、2003 年。
- 『もやもやを解消! ドイツ語文法ドリル』、辻朋季、三修社、2015 年。
- 『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季、三修社、2023 年。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点(授業参加・小テストなど)6割、定期試験4割。

9. その他

研究室は第一校舎3号館407号室、オフィスアワーは授業時に伝えます。

科目ナンバー (AG) LAN221N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅲ(2)

2017~2021 年度入学者
ドイツ語Ⅲ(2)

1 単位

辻朋季

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

1 年次に学んだ文法事項のうち、特に複雑な項目を重点的に復習しながら、会話や聞き取りの能力を高め、ドイツ語を使えるようにマスターしていくのが目標です。少人数のクラスで、個別指導をしながら表現の幅を広げていきます。ドイツの文化や社会についても学びながら、より人々の暮らしなどについても学び、ドイツ語圏とドイツ語をより身近なものにしていきましょう。この科目は、農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応します。

《授業の概要》

中級用の教科書を使用して、読む・書く・話す・聞くの各能力を総合的に高めていきます。

2. 授業内容

第1回：オリエンテーション、発音のまとめと復習

第2回：Lektion 1: 過去形と現在完了形(1) 文法の解説

第3回：Lektion 1: 過去形と現在完了形(2) 会話表現

第4回：Lektion 1: 過去形と現在完了形(3) 聞き取り

第5回：Lektion 1: 過去形と現在完了形(4) 読解・作文

第6回：Lektion 2: 副文をマスターする(1): 文法の解説

第7回：Lektion 2: 副文をマスターする(2): 会話表現

第8回：Lektion 2: 副文をマスターする(3): 聞き取り

第9回：Lektion 2: 副文をマスターする(4): 読解・作文

第10回：Lektion 3: 関係文を使いこなす(1): 文法の解説

第11回：Lektion 3: 関係文を使いこなす(2): 会話表現

第12回：Lektion 3: 関係文を使いこなす(3): 聞き取り

第13回：Lektion 3: 関係文を使いこなす(4): 読解・作文

第14回：a: 今学期のまとめ

3. 履修上の注意

予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくることを。学生の主体的な授業参加が求められます。

無断欠席が4回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内の指示に従って、予習・復習をして来ること。

5. 教科書

ドイツ語ネクストステージ[改訂版] (Aufbaukurs Deutsch), 大園正彦・Roland Schulz 著, 三修社, 2024 年。

6. 参考書

『必携ドイツ文法総まとめ』、中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著、白水社、2003 年。

『もやもやを解消！ドイツ語文法ドリル』、辻朋季、三修社、2015 年。

『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季、三修社、2023 年。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点 6 割（授業への積極的参加）、小テスト 4 割。

9. その他

研究室は第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスアワーは開講時にお伝えします。

科目ナンバー (AG) LAN221N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ドイツ語Ⅲ(3)	1 単位	金子祥之
2017～2021年度入学者 ドイツ語Ⅲ(3)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

「旅行」「グリム童話」「世界遺産」など、ドイツの現代文化をテーマとするテキストを読みながら、ドイツ語文法と読解の練習を行います。まとまった量のドイツ語を読むことでドイツ語の読み方を学び、単に日本語に訳すだけではなく、ドイツ語の言語表現の多様性を楽しむことができるようになることを目標とします。テキストを読むための基礎的知識である初級文法や単語の意味、発音のルールについては授業中に説明や復習を行いますので、ドイツ語が苦手な方でも大丈夫です。ドイツ語で書かれた文章を音読をしながら読みすすめ、ドイツ語表現を学びながら、ドイツ語圏の歴史や文化、抱えている様々な社会問題なども学んでいきたいと思えます。また、テキストの内容に関する補足資料の紹介なども併せて行っていこうと考えています。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

まとまった量のドイツ語を読み、基本文法を用いた作文ができることを目標とします。

《授業の概要》

ドイツ語で書かれた文化論を読みながら、ドイツ語文法の定着と読解力の向上を目指します。

2. 授業内容

第1回：a：イントロダクション b：基本文法の復習

第2回：読解演習

第3回：読解演習

第4回：読解演習

第5回：読解演習

第6回：読解演習

第7回：読解演習

第8回：読解演習

第9回：読解演習

第10回：読解演習

第11回：読解演習

第12回：読解演習

第13回：読解演習

第14回：まとめ

3. 履修上の注意

辞書を一冊用意してください（電子辞書も可）。必要な文法や単語に関しては授業時に解説いたします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

入念に予習を行ってください。不明な部分に関しては放置せずに必ず質問するよう心掛けてください。

5. 教科書

『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化 8章 プラス・エクストラ』（和泉雅人ほか著 三修社）

6. 参考書

適宜指示いたします。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業への貢献度（50%）及び課題評価（50%）

9. その他

連絡先：初回授業時に示します。

科目ナンバー (AG) LAN221N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅲ(4)

2017~2021 年度入学者
ドイツ語Ⅲ(4)

1 単位

辻朋季

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

1 年次に学んだ文法事項を復習しつつ、中級文法も習得し、込み入ったテーマのドイツ語の文章を正確に読み解く力を養います。読解テキストのテーマに関連して、ドイツの現代事情や人々の暮らしなどについても学び、ドイツ語の奥深さやドイツ人の思考様式にも触れていきたいと思えます。この科目は、農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応します。

《授業の概要》

履修者の興味関心に応じて、こちらで読解用のテキストを用意します。ドイツ語の読解を通して、応用力を身に付けるとともに、ドイツ語圏の社会・文化事情についての知識も高めていきます。

2. 授業内容

(以下のテーマは暫定的なもので、履修者の興味に応じて適宜変更可能です)

- 第1回：オリエンテーション（授業の進め方について・テーマについての募集）
- 第2回：ドイツ人と政治、選挙について
- 第3回：ドイツ人と有機食品(BIO)
- 第4回：オーストリアのカフェ文化について
- 第5回：スイスの言語事情について(4つの公用語)
- 第6回：ドイツとオリンピック(ベルリン、ミュンヘンなど)
- 第7回：ベルリンの壁について
- 第8回：映画鑑賞(東西ドイツ分断に関して)
- 第9回：ドイツの学生生活について
- 第10回：ドイツのアルバイト事情、最低賃金
- 第11回：ドイツ人と旅行
- 第12回：ドイツと日本のつながり
- 第13回：ドイツの就活事情
- 第14回：a: 今学期のまとめ

3. 履修上の注意

予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくることを。学生の主体的な授業参加が求められます。無断欠席が4回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習に当たっては、単に辞書の意味を調べるだけでなく、単語の用例やイディオムにも気を配り、文脈全体の流れを掴めるようにすることが重要です。

5. 教科書

(適宜プリントを配布します)

6. 参考書

- 『必携ドイツ文法総まとめ』、中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著、白水社、2003年。
- 『もやもやを解消！ドイツ語文法ドリル』、辻朋季、三修社、2015年。
- 『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季、三修社、2023年。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験5割、平常点（授業参加・小テストなど）5割。

9. その他

研究室は第一校舎3号館407号室、オフィスアワーは授業時に伝えます。

科目ナンバー (AG) LAN221N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅲ (5)

2017～2021 年度入学者
ドイツ語Ⅲ (5)

1 単位

辻朋季

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

1 年次に学んだ文法事項のうち、特に複雑な項目を重点的に復習しながら、会話や聞き取りの能力を高め、ドイツ語を使えるようにマスターしていくのが目標です。少人数のクラスで、個別指導をしながら表現の幅を広げていきます。ドイツの文化や社会についても学びながら、より人々の暮らしなどについても学び、ドイツ語圏とドイツ語をより身近なものにしていきましょう。この科目は、農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応します。

《授業の概要》

中級用の教科書を使用して、読む・書く・話す・聞くの各能力を総合的に高めていきます。

2. 授業内容

- 第 1 回： オリエンテーション、春学期の復習
- 第 2 回： Lektion 4: zu 不定詞を使った様々な表現 (1) 文法の解説
- 第 3 回： Lektion 4: zu 不定詞を使った様々な表現 (2) 会話表現
- 第 4 回： Lektion 4: zu 不定詞を使った様々な表現 (3) 聞き取り
- 第 5 回： Lektion 4: zu 不定詞を使った様々な表現 (4) 読解・作文
- 第 6 回： Lektion 5: 受動態 (1): 文法の解説
- 第 7 回： Lektion 5: 受動態 (2): 会話表現
- 第 8 回： Lektion 5: 受動態 (3): 聞き取り
- 第 9 回： Lektion 5: 受動態 (4): 読解・作文
- 第 10 回： Lektion 6: 接続法で非現実を表現する (1): 文法の解説
- 第 11 回： Lektion 6: 接続法で非現実を表現する (2): 会話表現
- 第 12 回： Lektion 6: 接続法で非現実を表現する (3): 聞き取り
- 第 13 回： Lektion 6: 接続法で非現実を表現する (4): 読解・作文
- 第 14 回： a: 今学期のまとめ

3. 履修上の注意

予習を前提に授業を進めますので、必ず準備してくることを。学生の主体的な授業参加が求められます。無断欠席が 4 回以上ある場合、履修意思がないものと判断します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内の指示に従って、予習・復習をして来ること。

5. 教科書

ドイツ語ネクストステージ[改訂版] (Aufbaukurs Deutsch), 大園正彦・Roland Schulz 著, 三修社, 2024 年。

6. 参考書

- 『必携ドイツ文法総まとめ』、中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著、白水社、2003 年。
- 『もやもやを解消！ドイツ語文法ドリル』、辻朋季、三修社、2015 年。
- 『ドイツ語冠詞・格変化の強化書』、辻朋季、三修社、2023 年。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点 6 割（授業への積極的参加）、小テスト 4 割。

9. その他

研究室は第一校舎 3 号館 407 号室。オフィスアワーは開講時にお伝えします。

科目ナンバー (AG) LAN221N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ドイツ語Ⅲ (6)

1 単位

金子祥之

2017~2021 年度入学者
ドイツ語Ⅲ (6)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

春学期と同様に、ドイツ語で書かれたエッセイを読み、ドイツ語の読解力と表現力のさらなる向上をめざします。ドイツ語で書かれた文章を音読をしながら読みすすめ、ドイツ語表現を学びながら、ドイツ語圏の歴史や文化、抱えている様々な社会問題なども学んでいきたいと思ひます。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

まとまった量のドイツ語を読み、基本文法を用いた作文ができることを目標とします。

《授業の概要》

ドイツ語で書かれた現代文化論を読みながら、ドイツ語文法の定着と読解力の向上を目指します。

2. 授業内容

第1回：a：イントロダクション b：基本文法の復習

第2回：読解演習

第3回：読解演習

第4回：読解演習

第5回：読解演習

第6回：読解演習

第7回：読解演習

第8回：読解演習

第9回：読解演習

第10回：読解演習

第11回：読解演習

第12回：読解演習

第13回：読解演習

第14回：まとめ

3. 履修上の注意

辞書を一冊用意してください（電子辞書も可）。必要な文法や単語に関しては授業時に解説いたします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

入念に予習を行ってください。不明な部分に関しては放置せずに必ず質問するよう心掛けてください。

5. 教科書

『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化 8章 プラス・エクストラ』（和泉雅人ほか著 三修社）

6. 参考書

適宜指示いたします。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業への貢献度（50%）及び課題評価（50%）

9. その他

連絡先：初回授業時に示します。

科目名	単位数	担当者
フランス語 I について	各 1 単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>《授業の達成目標及びテーマ》</p> <p>フランス語が話されているのはフランス本土のみではありません。ヨーロッパ・アフリカを中心に現在世界の30カ国以上で約3億人にのぼる人々がフランス語を公用語または共通語として話しています。フランス語は、国連やオリンピック、またビジネスにおいても、英語に次いでスペイン語などと並ぶ世界で最も使用頻度の高い言語の1つだといえるでしょう。</p> <p>「フランス語 I」の授業では、大学1年目に初めて触れるフランス語のしくみ（文法）とその機能を知ると同時に、言語の背景となる文化にふれる機会が提供されます。フランス語という新たな外国語を学ぶ過程を通し、世界の多様性に目を向けるベースを築くことが、フランス語 I、フランス語 II（別欄参照）に共通する目的です。</p> <p>尚、農学科食糧生産・環境コースにおいて「フランス語 I」は、学習・教育目標のA に対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>フランス語 I では、原則として言葉のしくみである文法の習得に重点が置かれます。</p> <p>様々な国の出身者が国境を越えて出会う機会の多い現代社会において、言語はコミュニケーションの道具として習得されることが望めます。従って、規則を暗記するのみに留まらず、初歩的な会話や、短い文章に触れ、色々な文法事項が実際にどのようなはたらきを持つかをつかみ取ることに重点が置かれます。</p> <p>（各回の授業内容の詳細、準備の必要性等については、担当教員の指導に従ってください。）</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>仏和辞典を購入すること。外国語取得の早道は、なるべく多くの時間、学習言語に触れることだと言われます。従って、授業への出席は基本条件といえるでしょう。各授業で使用される教材のCD を聴く努力も大切です。また、授業以外でも生のフランス語に触れることができる、メディア・ライブラリー（中央校舎）所蔵の音声・映像資料なども利用しましょう。</p> <p>「フランス語 I a」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「フランス語 I a」の授業(学科は問いません)から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p> <p>また「フランス語 I b」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「フランス語 I b」の授業から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>担当者の指示に従ってください。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>『Le Dico 現代フランス語辞典』（白水社）</p> <p>『クラウン仏和辞典』（三省堂）</p> <p>『ロワイヤル仏和中辞典』（旺文社）</p> <p>『新スタンダード仏和辞典』（大修館）</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。（基本的に期末試験 60 点以上が単位修得の最低条件となります。また、出席は加点の対象にはならず、全授業の3分の1以上の欠席があった場合は原則として評価の対象から外れます。）</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「フランス語会話」、夏期に実施される「フランス語会話（集中講座）」などについての説明を参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 フランス語 I a 農	1 単位	小谷奈津子
2017~2021 年度入学者 フランス語 I a 農		

1. 授業の概要・到達目標

初級文法と、短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典が引ける、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。

2. 授業内容

- [第1回] a: イン트로ダクション、b: アルファベ、あいさつ表現
- [第2回] 1 課 名詞、冠詞、提示表現、国名、練習
- [第3回] 練習・Par coeur
- [第4回] 2 課 主語人称代名詞、-er 動詞、曜日、数詞、練習
- [第5回] 練習・Par coeur
- [第6回] 3 課 動詞 etre、形容詞、国籍、職業
- [第7回] 練習・Par coeur
- [第8回] 4 課 動詞 avoir、否定文、疑問文
- [第9回] 練習・Par coeur
- [第10回] 5 課 動詞 prendre/faire、指示形容詞、所有形容詞
- [第11回] 練習・Par coeur
- [第12回] 6 課 動詞 aller/venir、近接未来/近接過去、疑問副詞
- [第13回] 練習・Par coeur
- [第14回] a: 試験、b: まとめ

3. 履修上の注意

連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。
授業には仏和辞典を必ず持参すること。初回授業で案内します。
音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もって録音を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書で調べておくこと。

授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、毎日の積み重ねが重要です。

以上の準備学習には毎週 2 時間は必要です。

5. 教科書

『エスプラナード1』、久富、小谷、森著、(朝日出版社)

6. 参考書

必要とあれば授業中に紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で回答します。

8. 成績評価の方法

平常点（発表・課題提出・小テスト）60%、定期試験（筆記）40%で評価します。
教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 フランス語 I a 政	1 単位	宮川慎也
2017~2021 年度入学者 フランス語 I a 政		

1. 授業の概要・到達目標

〈人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう〉。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台上で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。

この授業では、アルファベヤ綴り字の読み方から始めて、初級文法前半程度の知識を身につけ、現在形の簡単な文章が読めるようになることを目指します。そして、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端にも触れていきましょう。

到達目標は以下のようです。

- ・日常生活に必要な程度のフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになるための文法を身につける。
- ・国際的な分野で活躍できる視野を養う。
- ・資格を増やすため、フランス語検定の受験準備をも念頭に置いて進める。

2. 授業内容

受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。

- 第1回 アルファベの読み方、綴り字の読み方
- 第2回 名詞の性と数、不定冠詞
- 第3回 部分冠詞、定冠詞
- 第4回 Il y a などの慣用表現
- 第5回 主語人称代名詞、規則動詞（—er 動詞と—ir 動詞）
- 第6回 基本動詞の直説法現在
- 第7回 否定形、疑問文に対する答え、指示形容詞
- 第8回 形容詞の位置、形容詞の女性形、名詞の複数形・形容詞の複数形
- 第9回 形容詞の前の不定冠詞（複数）des→de、不規則動詞 aller、venir の直説法現在
- 第10回 冠詞の縮約（à+定冠詞、de+定冠詞）、形容詞の女性形
- 第11回 疑問形容詞、不規則動詞 faire、prendre、mettre、attendre の直説法現在
- 第12回 命令形、所有形容詞、不規則動詞 partir、vouloir、pouvoir、devoir の直説法現在
- 第13回 形容詞・副詞の比較級・最上級
- 第14回 a 期末試験 / b 正答解説

3. 履修上の注意

受講姿勢（問題演習に取り組む姿勢など）も重視するので、テストの苦手な人はその面で頑張りましょう。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・授業で扱う課題文や練習問題を、繰り返し音読しましょう。
- ・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

5. 教科書

『ル・フランセ』斎藤昌三著（白水社）

6. 参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。なお、辞書の選び方は初回授業やクラスウェブで説明します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

8. 成績評価の方法

中間試験…50%、期末試験…50%。ただし、平常点（受講態度など）を、20%程度の範囲で加点・減点する場合があります。評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

9. その他

連絡先： 教員のメールアドレスを、Oh-o! Meiji クラスウェブに記載します。

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 フランス語 I a 化	1 単位	今関アン
2017~2021年度入学者 フランス語 I a 化		

1. 授業の概要・到達目標

b) 《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語は世界の多くの国や地域で使用され、国際機関の公用語・作業言語にもなっている。初習外国語は文法・講読・聞き取り・会話など総合的に学習していくことが大切である。とくに耳を鍛えてコミュニケーション能力を高め、綴り字と発音の関係を徹底的に習得していく。あわせてフランスの文化に親しんでゆくつもりである。

《授業の概要》

教科書に従って、DVD・発音・文法・表現・演習・読解の順に進めていく。随時暗唱、会話、訳読などを行う。毎回発音、動詞活用・単語などのテストを行う。

2. 授業内容

[第1回] a : アンケート, 座席決め, インTRODクシヨN : フランスについて。フランス語の歴史

b : アルファベ, 単母音字の発音

[第2回] 小テスト, Lecon 1. DVD, 主語人称代名詞, 動詞 etre, 国籍・身分を言う

[第3回] 小テスト, Lecon 1. Expressions, 挨拶, 自己紹介, Exercices, Lecon 2. DVD

[第4回] 小テスト, Lecon 2. 動詞 avoir, 名詞と不定冠詞, 形容詞

[第5回] 小テスト, Lecon 2. Exercices, Lecon 3. DVD, 定冠詞, -er 動詞, 否定文

[第6回] 小テスト, Lecon 3. Expressions, Exercices, 暗唱

[第7回] L. 3 までの総復習

[第8回] 小テスト, Lecon 4. DVD, 指示形容詞, 動詞 faire, descendre

[第9回] 小テスト, Lecon 4. 疑問文, Expressions, Exercices, Lecon 5. DVD

[第10回] 小テスト, Lecon 5. 動詞 aller, venir, 命令形, Expressions, Exercices

[第11回] 小テスト, Lecon 5. 暗唱, Lecon 6, 所有形容詞, 強勢形, 数字

[第12回] 小テスト, Lecon 6. 疑問形容詞, 数字, Expressions, Exercices

[第13回] Lecon 7. DVD, 部分冠詞, 動詞-ir, vouloir, Expressions, Exercices

[第14回] a : 試験 b : 試験の解説

3. 履修上の注意

- ・授業内小テスト未受験は-3点、課題未提出-5点の減点なので要注意。
- ・宿題・連絡事項は oh-o! Meiji の class web で告知するので、必ず確認すること。
- ・教科書・辞書を忘れた場合、受講態度不良と見なし欠席とする。
- ・必要教材は oh-o! meiji から各自ダウンロードやプリントアウトしておくこと。また授業ではノートパソコン、タブレット端末、スマートフォンを持参するように。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

小テスト・課題提出のマイナス点が大きいので、日々の予習・復習を欠かさないように。
予習は該当箇所の単語調べ、これまで学んだつづり字と発音の規則を確認して新しいところを読めるようにする。予習時間の目安は 30 分。
復習 60 分は学習事項の練習問題、会話練習、ネット教材での復習にあてること。
また随時フランス関係の展覧会・映画・講演を紹介する。語学のみならずフランス文化に積極的に接することを期待する。

5. 教科書

『ビエールとユゴー[コンパクト版]』小笠原洋子著、白水社

6. 参考書

[url]http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/[url]

ネット教材 web なびふらんせ

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説・説明する。

8. 成績評価の方法

- ・授業への取り組み（練習問題、訳読の評価、フランス関係のレポートなど）20% 20点
- ・期末試験 80% 80点
- ・小テスト未受験-3点、課題未提出-5点を授業への取り組みと期末試験の合計点から減じる。
合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

9. その他

- ・出席・成績管理は各自で行うこと。出席・成績状況の質問は一切受け付けない。
- ・教科書・辞書忘れ、無断退席は欠席と見なす。

科目ナンバー (AG) LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
フランス語 I a 生
2017~2021年度入学者
フランス語 I a 生

1 単位

小谷奈津子

1. 授業の概要・到達目標

初級文法と短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典を引いて語彙を調べられる、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。

2. 授業内容

- [第1回] a: イントロダクション、b: アルファベ、あいさつ表現
- [第2回] 1課 名詞、冠詞、提示表現、国名、練習
- [第3回] 練習・Par coeur
- [第4回] 2課 主語人称代名詞、-er 動詞、曜日、数詞、練習
- [第5回] 練習・Par coeur
- [第6回] 3課 動詞 etre、形容詞、国籍、職業
- [第7回] 練習・Par coeur
- [第8回] 4課 動詞 avoir、否定文、疑問文
- [第9回] 練習・Par coeur
- [第10回] 5課 動詞 prendre/faire、指示形容詞、所有形容詞
- [第11回] 練習・Par coeur
- [第12回] 6課 動詞 aller/venir、近接未来/近接過去、疑問副詞
- [第13回] 練習・Par coeur
- [第14回] a: 試験、b: まとめ

3. 履修上の注意

連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。
授業には仏和辞典を必ず持参すること。初回授業で案内します。
音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もって録音を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書をひいて調べておくこと。
授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、日々の積み重ねが重要です。
以上の準備学習には毎週2時間は必要です。

5. 教科書

『エスプラナード1』、久富、小谷、森著、(朝日出版社)

6. 参考書

必要とあれば授業中に紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で回答します。

8. 成績評価の方法

平常点（発表・課題提出・小テスト）60%、試験40%で評価します。
教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語 I b 農

2017~2021 年度入学者
フランス語 I b 農

1 単位

小谷奈津子

1. 授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、初級文法と短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典を引いて語彙を調べられる、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。実用フランス語検定 4 級に挑戦できるだけの力をつけていきます。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。

2. 授業内容

- [第 1 回] 春学期の復習
- [第 2 回] 7 課 補語人称代名詞、疑問代名詞、疑問形容詞
- [第 3 回] 練習・Par coeur
- [第 4 回] 8 課 比較級と最上級、命令形、花、動詞 attendre/voir
- [第 5 回] 練習・Par coeur
- [第 6 回] 9 課 過去分詞、複合過去形、動詞 écrire/lire
- [第 7 回] 練習・Par coeur
- [第 8 回] 10 課 代名動詞、代名動詞の複合過去、一日の時の表現
- [第 9 回] 練習・Par coeur
- [第 10 回] 11 課 半過去、中性代名詞
- [第 11 回] 練習・Par coeur
- [第 12 回] 12 課 関係代名詞、強調構文、動詞 pouvoir/vouloir
- [第 13 回] 練習・Par coeur
- [第 14 回] a: 定期試験、b: まとめ

3. 履修上の注意

連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。
授業には仏和辞典を必ず持参すること。
音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もってフランス語を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書をひいて調べておくこと。

授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、日々の積み重ねが重要です。

以上の準備学習に毎週 2 時間は必要です。

5. 教科書

『エスプラナード 1』、久富、小谷、森著、(朝日出版社)

6. 参考書

必要とあれば授業中に紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で回答します。

8. 成績評価の方法

平常点（発表・課題提出・小テスト）60%、定期試験（筆記）40%で評価します。
教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 フランス語 I b 政	1 単位	宮川慎也
2017~2021年度入学者 フランス語 I b 政		

1. 授業の概要・到達目標

〈人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう〉。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。

春学期の後を受けてこの授業では、様々な時制の出てくる初級文法後半程度の知識を身につけ、時制の混ざった簡単な文章が読めるようになることを目指します。また、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端にも触れていきましょう。

到達目標は以下のようです。

- ・日常生活に必要な程度のフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになるための文法を身につける。
- ・国際的な分野で活躍できる視野を養う。
- ・資格を増やすため、フランス語検定4級~3級程度の力が身につくことを目指す。

2. 授業内容

受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。

- 第1回 過去分詞、直説法複合過去
- 第2回 不規則動詞 voir、savoir、dire、recevoir の直説法現在、関係代名詞
- 第3回 疑問代名詞
- 第4回 人称代名詞、直接目的補語と過去分詞の一致
- 第5回 受動態
- 第6回 指示代名詞、強調構文
- 第7回 代名動詞
- 第8回 非人称構文
- 第9回 直説法単純未来
- 第10回 中性代名詞 le、en、y
- 第11回 直説法半過去・大過去
- 第12回 条件法
- 第13回 接続法
- 第14回 a 期末試験 / b 正答解説

3. 履修上の注意

受講姿勢（問題演習に取り組む姿勢など）も重視するので、テストの苦手な人はその面で頑張りましょう。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・授業で扱う課題文や練習問題を、繰り返し音読しましょう。
- ・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

5. 教科書

『ル・フランセ』 斎藤昌三著（白水社）

6. 参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

8. 成績評価の方法

中間試験…50%、期末試験…50%。ただし、平常点（受講態度など）を、20%程度の範囲で加点・減点する場合があります。評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

9. その他

連絡先： 教員のメールアドレスを、Oh-o! Meiji クラスウェブに記載します。

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語 I b 化

2017~2021 年度入学者
フランス語 I b 化

1 単位

今関アン

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

春学期に引き続きフランス語文法の基礎を学び、フランス語検定 4 級合格程度の実力を身につける。前期に引き続き、綴り字と音の関係を完璧に覚えて、正しい発音ができるようにする。またフランス文化を理解するため、映画を鑑賞する。

《授業の概要》

春学期同様教科書に従って、DVD、会話、文法、表現、問題の順に進めていく。毎回発音・動詞活用・学習事項に関する小テスト、暗唱、会話、訳読などを行う。

2. 授業内容

[第 1 回] 小テスト, Lecon 8. DVD, 非人称構文, 直接目的の代名詞, 動詞 pouvoir, Vocabulaire

[第 2 回] 小テスト, Lecon 8. Expressions, Exercices, Lecon 9. DVD

[第 3 回] 小テスト, Lecon 9. 発音, 目的の代名詞, 動詞 prendre, 代名動詞. Expressions

[第 4 回] 小テスト, Lecon 9. Exercices, Lecon 10. DVD, 近接未来・過去, 中性代名詞, Expressions

[第 5 回] 小テスト, Lecon 10. Exercices, Lecon 11. DVD, 比較級・最上級

[第 6 回] 小テスト, Lecon 11. Expressions. Exercices

[第 7 回] L. 11 までの総復習

[第 8 回] Lecon 12. DVD, 過去分詞, 複合過去 (1), Expressions Lecon 12. Exercices, Lecon 13. DVD, 複合過去 (2), Expressions, Exercices, 小テスト

[第 9 回] Lecon 12. Exercices, Lecon 13. DVD, 複合過去 (2), Expressions, Exercices, 小テスト

[第 10 回] Lecon 13. DVD, 複合過去 (2), Expressions, Exercices, 小テスト

[第 11 回] Lecon 14. DVD, 半過去 Expressions, Exercices 1, 2, 小テスト

[第 12 回] Lecon 14. Exercices 3. Lecon 15. DVD, 単純未来 Expressions, 小テスト

[第 13 回] Lecon 15. Exercices

[第 14 回] a : 試験 b : 解説

3. 履修上の注意

- ・小テスト未受験-3 点、課題未提出-5 点を減じるので要注意。
- ・宿題・連絡事項は oh-o! Meiji の class web で告知するので、必ず確認すること。
- ・教科書・辞書を忘れた場合、受講態度不良と見なし欠席とする。
- ・必要教材は oh-o! meiji から各自ダウンロードやプリントアウトしておくこと。また授業ではノートパソコン、タブレット端末、スマートフォンを持参するように。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

小テスト・課題の減点数が大きいので、学習事項の復習をよくすること。
予習は該当箇所の単語調べ、これまで学んだつづり字と発音の規則を確認して新しいところを読むようにする。予習時間の目安は 30 分。
復習 60 分は学習事項の練習問題、会話練習、ネット教材での復習にあてること。
また随時フランス関係の展覧会・映画・講演を紹介する。語学のみならずフランス文化に積極的に接することを期待する。

5. 教科書

『ピエールとユゴー [コンパクト版]』小笠原洋子著, 白水社

6. 参考書

[url]http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/[url]

ネット教材 web なびふらんせ

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で解答・説明する。

8. 成績評価の方法

- ・授業への取り組み（練習問題、訳読の評価、フランス関係のレポートなど）20% 20 点
- ・期末試験 80% 80 点
- ・小テスト未受験-3 点、課題未提出-5 点を授業への取り組みと期末試験の合計点から減じる。
合計が満点の 60% 以上を単位取得の条件とする。

9. その他

- ・出席・成績管理は各自で行うこと。出席・成績状況の質問は一切受け付けない。
- ・教科書・辞書忘れ、無断退席は欠席と見なす。

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語 I b 生

2017~2021 年度入学者
フランス語 I b 生

1 単位

小谷奈津子

1. 授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、初級文法と短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典を引いて語彙を調べられる、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。実用フランス語検定 4 級に挑戦できるだけの力をつけていきます。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。

2. 授業内容

- [第 1 回] 春学期の復習
- [第 2 回] 7 課 補語人称代名詞、疑問代名詞、疑問形容詞
- [第 3 回] 練習・Par coeur
- [第 4 回] 8 課 比較級と最上級、命令形、花、動詞 attendre/voir
- [第 5 回] 練習・Par coeur
- [第 6 回] 9 課 過去分詞、複合過去形、動詞 écrire/lire
- [第 7 回] 練習・Par coeur
- [第 8 回] 10 課 代名動詞、代名動詞の複合過去、一日の時の表現
- [第 9 回] 練習・Par coeur
- [第 10 回] 11 課 半過去、中性代名詞
- [第 11 回] 練習・Par coeur
- [第 12 回] 12 課 関係代名詞、強調構文、動詞 pouvoir/vouloir
- [第 13 回] 練習・Par coeur
- [第 14 回] a: 試験、b: まとめ

3. 履修上の注意

連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。
授業には仏和辞典を必ず持参すること。
音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もって録音を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書をひいて調べておくこと。
授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、日々の積み重ねが重要です。
以上の準備学習に毎週 2 時間は必要です。

5. 教科書

『エスプラナード 1』、久富、小谷、森著、(朝日出版社)

6. 参考書

必要とあれば授業中に紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で回答します。

8. 成績評価の方法

平常点（発表・課題提出・小テスト）60%、定期試験（筆記）40%で評価します。
教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。

9. その他

科目名	単位数	担当者
フランス語Ⅱについて	各1単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>《授業の達成目標及びテーマ》</p> <p>フランス語が話されているのはフランス本土のみではありません。ヨーロッパ・アフリカを中心に現在世界の30カ国以上で約3億人にのぼる人々がフランス語を公用語・共通語として話しています。フランス語は、国連やオリンピック、またビジネスにおいても、英語に次いでスペイン語などと並ぶ世界で最も使用頻度の高い言語の1つだといえるでしょう。</p> <p>「フランス語Ⅰ」の授業では大学1年目に初めて触れるフランス語のしくみ—文法とその機能を知ると同時に、この言語の背景となる文化にふれる機会が提供されます。フランス語という新たな外国語を学ぶ過程を通し、世界の多様性に目を向けるベースを築くことが、フランス語Ⅰ（別欄参照）、フランス語Ⅱに共通する目的です。</p> <p>尚、農学科食糧生産・環境コースにおいて「フランス語Ⅱ」は、学習・教育目標のAに対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>フランス語Ⅱでは原則として平易な文章読解や口頭表現を通して初級フランス語を学びます。フランス語Ⅰで学習した文法が、日常会話や映画・メディア、あるいはフランス語を母語とする人々を対象に書かれた記事や小説、生活に必要な説明書などの中で、どのように息づいているか観察し、また自分でも初歩的な文を書き、簡単な会話をかわせるようになることを目標とします。（各回の授業内容の詳細については、担当教員の指導に従って下さい。）</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>担当教員の指導に従い、仏和辞典を購入すること。外国語取得の早道は、なるべく多くの時間、学習言語に触れることだと言われます。従って、授業への出席は基本条件といえるでしょう。各授業で使用される教材の音源を聴く努力も大切です。また、授業以外でも生のフランス語に触れることができる、メディア・ライブラリー（中央校舎）所蔵の音声・映像資料なども利用しましょう。</p> <p>尚、「フランス語Ⅱ a」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「フランス語Ⅱ a」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p> <p>また「フランス語Ⅱ b」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「フランス語Ⅱ b」の授業から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>各授業で学んだことに関する課題・宿題等を通してしっかり復習をしましょう。初習言語の場合は、予習よりも復習がさらに大切です。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>担当者の指示に従って下さい。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>『Le Dico 現代フランス語辞典』（白水社）</p> <p>『クラウン仏和辞典』（三省堂）</p> <p>『ロワイヤル仏和中辞典』（旺文社）</p> <p>『新スタンダード仏和辞典』（大修館）</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。（基本的に期末試験60点以上が単位修得の最低条件となります。また、出席は加点の対象にはならず、全授業の3分の1以上の欠席があった場合は原則として評価の対象から外れます。）</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「フランス語会話」、夏期に実施される「フランス語会話（集中講座）」などについての説明を参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG) LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語Ⅱa 農

2017~2021 年度入学者
フランス語Ⅱa 農

1 単位

宮川慎也

1. 授業の概要・到達目標

〈人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう〉。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台上で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。

この授業では、初級文法前半程度の知識を身につけ、現在形の簡単な文章が読めるようになることを目指します。そして、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端にも触れていきましょう。

到達目標は以下のようです。

- ・日常生活に必要なフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになる。
- ・国際的な分野で活躍できる視野を養う。
- ・資格を増やすため、フランス語検定の受験準備をも念頭に置いて進める。

なお、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。

- 第1回 アルファベ、綴り字の読み方
- 第2回 主語人称代名詞、基本動詞の活用
- 第3回 国籍を表す形容詞
- 第4回 名詞と不定冠詞、指示代名詞 ce
- 第5回 形容詞の性数一致と位置
- 第6回 規則動詞の活用、定冠詞
- 第7回 疑問文
- 第8回 指示形容詞 ce、動詞 avoir の活用
- 第9回 否定文、動詞 aller と近接未来
- 第10回 疑問代名詞 que, qui
- 第11回 不規則動詞 faire, partir
- 第12回 所有形容詞、疑問形容詞
- 第13回 強勢形、指示代名詞 celui
- 第14回 a 期末試験 / b 正答解説

3. 履修上の注意

読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらおうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・次回の授業の読解箇所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう（辞書を引いて、各自訳しておく）。
- ・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。
- ・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

5. 教科書

『パリ・ボルドー』藤田裕二著（朝日出版社）

6. 参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。なお、辞書の選び方は初回授業やクラスウェブで説明します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

8. 成績評価の方法

中間試験…50%、期末試験…50%。ただし、平常点（和訳の発表、受講態度など）を、20%程度の範囲で加点・減点する場合があります。評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

9. その他

連絡先： 教員のメールアドレスを、Oh-o! Meiji クラスウェブに記載します。

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 フランス語Ⅱa 政	1 単位	森真太郎
2017~2021 年度入学者 フランス語Ⅱa 政		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語 I で学んだ文法の知識を会話のレベルで実践するための授業です。自分について、また、身近な世界について話すことができるようになるのを目的としています。

《授業の概要》

2人あるいは3-4人のグループで、モデル表現をもとに会話練習をし、日常的な単語とその使い方を身につけます。

2. 授業内容

- [第1回] a インTRODakション：外国語を学ぶ意味
b 挨拶・自己紹介／教室で用いる表現
- [第2回] 出合いの挨拶・別れの挨拶
- [第3回] 夕方の挨拶／アルファベ／名前の綴りを言う
- [第4回] 名前・職業・住んでいる場所についてたずねる
- [第5回] 人について名前、職業、住んでいる場所をたずねる
- [第5回] 就きたい職業についてたずねる・答える
- [第6回] 国籍・話せる言語についてたずねる・答える
- [第7回] 人・場所について知っているかをたずねる
- [第8回] 色々な国で話されている言語についてたずねる・答える
- [第9回] 好きなものを言う・好き嫌いの程度を言い表す
- [第10回] どちらが好きが言う
- [第11回] 好きなことを言う
- [第12回] 週末にしたいことを言う
- [第13回] 電話で話す
- [第14回] a 表現のまとめ・口頭インタビュー
b 期末試験

3. 履修上の注意

遅刻をしないように気をつけて下さい。

遅刻2回で欠席1回とします。

授業日数の3分の1以上の欠席があった場合、原則として期末試験の受験資格は失われます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

どのような言語も間違えながら習得されるものです。授業中の積極的発言、参加が求められます。

予習はしないこと。復習を心がけましょう。

5. 教科書

『新・スパイラル』 ガエル・クレピュー他著 アシェット・ジャポン

6. 参考書

『現代フランス社会を知るための62章』 三浦信孝・西山教行編著 明石書店

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験：50% 平常点：50% *初回の授業で説明します。

9. その他

新型コロナウイルスの動向で、授業形態・計画に変更をきたすことがあります。

科目ナンバー (AG) LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
フランス語Ⅱa化

2017～2021年度入学者
フランス語Ⅱa化

1単位

高瀬智子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語Ⅰで学んだ文法の知識を会話のレベルで実践するための授業です。自分について、また、身近な世界について話すことができるようになるのを目的としています。

《授業の概要》

2人あるいは3-4人のグループで、モデル表現をもとに会話練習をし、日常的な単語とその使い方を身につけます。

2. 授業内容

- [第1回] a インTRODクシヨン：外国語を学ぶ意味
b 挨拶・自己紹介/教室で用いる表現
- [第2回] 出合いの挨拶・別れの挨拶
- [第3回] 夕方の挨拶/アルファベ/名前の綴りを言う
- [第4回] 名前・職業・住んでいる場所についてたずねる
- [第5回] 人について名前、職業、住んでいる場所をたずねる
- [第6回] 就きたい職業についてたずねる・答える
- [第7回] 国籍・話せる言語についてたずねる・答える
- [第8回] 人・場所について知っているかをたずねる
- [第9回] 色々な国で話されている言語についてたずねる・答える
- [第10回] 好きなものを言う・好き嫌いの程度を言い表す
- [第11回] どちらが好きか言う・好きなことを言う
- [第12回] 週末にしたいことを言う
- [第13回] 電話で話す
- [第14回] a 表現のまとめ・口頭インタビュー
b 期末試験

3. 履修上の注意

どのような言語も間違えながら習得されるものです。授業中の積極的発言、参加が求められます。授業時に情報が提供される映画や展覧会などに足を運び、教室以外でもフランス語に触れましょう。授業日数の3分の1以上の欠席があった場合、原則として期末試験の受験資格は失われます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習よりも復習をこころがけましょう（初習言語では、音源をよく聞くことが大切です）。

5. 教科書

『新・スパイラル』 ガエル・クレピュー 他著 アシェット・ジャポン

6. 参考書

『現代フランス社会を知るための62章』 三浦信孝・西山教行編著 明石書店
『地図でスッと頭に入るフランス』 ジュリ・ブランシャン・フジタ監修 昭文社

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験：70%
平常点：30%

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語Ⅱa 生

2017~2021 年度入学者
フランス語Ⅱa 生

1 単位

今関アン

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語は世界の多くの国や地域で使用され、国際機関の公用語・作業言語にもなっています。この授業では、フランスの誇るパリの街の映像や情報が盛り込まれたテキストを中心に、将来の実践的なフランス語駆使に向けた基礎学習を行います。

《授業の概要》

まず文法を学んでこれを使って表現できる優しい日常会話も同時に練習します。教室での学習時には、声を出して練習してください。またフランス語の発音についても細かく学んでいきます。

2. 授業内容

第1回 a: アンケート/座席決め/イントロダクション: フランスについて, フランス語の歴史

b: アルファベ/単母音字の発音

第2回 綴り字と発音/数

第3回 パン屋で/名詞の性/不定冠詞・定冠詞

第4回 提示の表現

第5回 パリ発祥の地, シテ島/主語人称代名詞

第6回 être / avoir

第7回 まとめと復習 (1)

第8回 凱旋門とエッフェル塔/-er 動詞

第9回 疑問文

第10回 パリのマルシェ/部分冠詞

第11回 複数形/否定文

第12回 美術館で/形容詞

第13回 指示形容詞/所有形容詞

第14回 まとめと復習 (2)

3. 履修上の注意

- ・小テスト未受験-3、課題未提出-5 点と減点するので要注意。
- ・Web コンテンツを使って十分に復習した後、各課の小テストを受け、ポートフォリオに記録して提出すること
- ・宿題・連絡事項は oh-o! Meiji の class web で告知するので、必ず確認すること。
- ・教科書・辞書を忘れた場合、受講態度不良と見なし、欠席とする。
- ・必要教材は oh-o! meiji から各自ダウンロードやプリントアウトしておくこと。また授業ではノートパソコン、タブレット端末、スマートフォンを持参するように。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

小テスト・課題のマイナス点が大きいので、日々の予習・復習を欠かさないように。

予習は該当箇所の単語調べ、これまで学んだつづり字と発音の規則を確認して新しいところを読めるようにする。予習時間の目安は 30 分。

復習 60 分は学習事項の練習問題、会話練習、ネット教材での復習にあてること。

また随時フランス関係の展覧会・映画・講演を紹介する。語学のみならずフランス文化に積極的に接することを期待する。

5. 教科書

『なびふらんせ 1』有富智世他著、朝日出版社

6. 参考書

[url]http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/[/url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で解答・説明する。

8. 成績評価の方法

- ・授業への取り組み (練習問題、訳読の評価、フランス関係のレポートなど) 20% 20 点
- ・期末試験 80% 80 点
- ・小テスト未受験-3 点、課題未提出-5 点を授業への取り組みと期末試験の合計点から減じる。合計が満点の 60%以上を単位取得の条件とする。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語Ⅱb 農

2017～2021 年度入学者
フランス語Ⅱb 農

1 単位

宮川慎也

1. 授業の概要・到達目標

〈人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう〉。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台上で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。

春学期の後を受けて、この授業では、様々な時制の出でくる初級文法後半程度の知識を身につけ、時制の混ざった文章が読めるようになることを目指します。また、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端にも触れていきましょう。

到達目標は以下のようです。

- ・日常生活に必要なフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになる。
- ・国際的な分野で活躍できる視野を養う。
- ・資格を増やすため、フランス語検定 4 級～3 級程度の力が身につくことを目指す。

なお、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目です。

2. 授業内容

受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。

- 第1回 il y a～と je voudrais～の表現、定冠詞の縮約
- 第2回 補語人称代名詞
- 第3回 代名動詞
- 第4回 中性代名詞 y、動詞 vouloir
- 第5回 非人称構文、命令形
- 第6回 感嘆文、部分冠詞
- 第7回 中性代名詞 en、数量の表現
- 第8回 比較級
- 第9回 直説法単純未来形
- 第10回 直接法複合過去形
- 第11回 直説法半過去形
- 第12回 条件法現在
- 第13回 接続法現在
- 第14回 a 期末試験 / b 正答解説

3. 履修上の注意

読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらおうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・次回の授業の読解箇所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう（辞書を引いて、各自訳しておく）。
- ・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。
- ・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

5. 教科書

『パリ・ポルドー』藤田裕二（朝日出版社）

6. 参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

8. 成績評価の方法

中間試験…50%、期末試験…50%。ただし、平常点（和訳の発表、受講態度など）を、20%程度の範囲で加点・減点する場合があります。評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

9. その他

連絡先： 教員のメールアドレスを、Oh-o! Meiji クラスウェブに記載します。

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語Ⅱb 政

1 単位

森真太郎

2017~2021 年度入学者
フランス語Ⅱb 政

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語Ⅰで学んだ文法の知識を会話のレベルで実践するための授業です。自分について、また、身近な世界について話すことができるようになるのを目的としています。

《授業の概要》

2人あるいは3-4人のグループで、モデル表現をもとに会話練習をし、日常的な単語とその使い方を身につけます。

2. 授業内容

- [第1回] a イン트로ダクション
b 好きなことについて、その理由を話す
- [第2回] 色々な人を描写する
- [第3回] 年齢、学年について話す
- [第4回] 科目、時間割について話す
- [第5回] 持ち物について話す
- [第6回] ものの貸し・借りをする
- [第7回] 色々な場所について説明する
- [第8回] 場所についての情報を集める
- [第9回] 建物に位置関係についてたずねる・答える
- [第10回] どの曜日・時間帯に何をするのかたずねる・答える
- [第11回] 手帳を見て予定を話す
- [第12回] 本や映画のジャンルについてたずねる・答える
- [第13回] 趣味について話す
- [第14回] a 表現のまとめ・口頭インタビュー
b 期末試験

3. 履修上の注意

遅刻をしないように気をつけて下さい。

遅刻2回で欠席1回とします。

授業日数の3分の1以上の欠席があった場合、原則として期末試験の受験資格は失われます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習はしなくてかまいません。復習を心がけましょう。

宿題や提出物は平常点の対象になります。

5. 教科書

『新・スピラル』 ガエル・クレピュー 他著 アシェット・ジャポン

6. 参考書

『フランス語で広がる世界』（インタビュー集）駿河台出版社

『クラウン仏和辞典』三省堂

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験：50% 平常点 50%

9. その他

オフィスアワー： 水曜日 10:40~10:50 （中央校舎講師控室）

新型コロナウイルスの動向により、授業形態・内容が変更となる可能性があります。

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
フランス語Ⅱb化

2017～2021年度入学者
フランス語Ⅱb化

1単位

高瀬智子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語Ⅰで学んだ文法の知識を会話のレベルで実践するための授業です。自分について、また、身近な世界について話すことができるようになるのを目的としています。

《授業の概要》

2人あるいは3-4人のグループで、モデル表現をもとに会話練習をし、日常的な単語とその使い方を身につけます。

2. 授業内容

- [第1回] a インTRODakシヨン
b 好きなことについて、その理由を話す
- [第2回] 色々な人を描写する
- [第3回] 年齢、学年について話す
- [第4回] 科目、時間割について話す
- [第5回] 持ち物について話す
- [第6回] ものの貸し・借りをする
- [第7回] 色々な場所について説明する
- [第8回] 場所についての情報を集める
- [第9回] 建物に位置関係についてたずねる・答える
- [第10回] どの曜日・時間帯に何をするのかたずねる・答える
- [第11回] 手帳を見て予定を話す
- [第12回] フランス映画を見てみよう!
- [第13回] 秋学期総復習
- [第14回] a 表現のまとめ・口頭インタビュー
b 期末試験

3. 履修上の注意

どのような言語も間違えながら習得されるものです。授業中の積極的発言、参加が求められます。授業時に情報が提供される映画や展覧会などに足を運び、教室以外でもフランス語に触れましょう。

授業日数の3分の1以上の欠席があった場合、原則として期末試験の受験資格は失われます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習よりも復習をこころがけて下さい。教材の音源をよく聞くこと。動詞の活用なども覚えましょう!
[url]<https://www.hachette-japon.jp/spirale-complet>[/url]

5. 教科書

『新・スパラル』 ガエル・クレピュー 他著 アシェット・ジャポン

6. 参考書

『現代フランス社会を知るための62章』 三浦信孝・西山教行編著 明石書店
『地図でスッと頭に入るフランス』 ジュリ・ブランシャン・フジタ 昭文社

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験：70%
平常点：30%

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN131N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語Ⅱb 生
2017～2021 年度入学者
フランス語Ⅱb 生

1 単位

今関アン

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語は世界の多くの国や地域で使用され、国際機関の公用語・作業言語にもなっています。この授業では、フランスの誇るパリの街の映像や情報が盛り込まれたテキストを中心に、将来の実践的なフランス語駆使に向けた基礎学習を行います。

《授業の概要》

まず文法を学んでこれを使って表現できる優しい日常会話も同時に練習します。教室での学習時には、声を出して練習してください。またフランス映画を鑑賞して、フランス文化の一端に触れます。

2. 授業内容

- 第1回 カフェに誘う／ aller / venir
- 第2回 近接未来／近接過去／強勢形
- 第3回 レストランで注文する／疑問代名詞
- 第4回 疑問副詞／ prendre
- 第5回 モンマルトル散策／ -ir 動詞
- 第6回 疑問形容詞／非人称構文
- 第7回 まとめと復習（1）
- 第8回 買い物をする／準助動詞
- 第9回 比較級
- 第10回 道案内／命令法／目的語人称代名詞
- 第11回 代名動詞
- 第12回 過去を語る／複合過去
- 第13回 指示代名詞
- 第14回 定期試験

3. 履修上の注意

- ・小テスト未受験-3点、課題未提出-5点と減点するので、要注意。
- ・Web コンテンツを使って十分に復習した後、各課の小テストを受け、ポートフォリオに記録して提出すること
- ・その他、提出物の期限は必ず守り、授業に遅刻しないこと
- ・宿題・連絡事項は Oh-o! Meiji の class web で告知するので、必ず確認すること
- ・教科書忘れは受講態度不良と見なし欠席とする
- ・Covid-19 対策でプリントは配布しない。すべて oh-o! meiji にアップするから、各自ダウンロードやプリントアウトしておくこと。また授業ではノートパソコン、タブレット端末、スマートフォンを持参するように。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- 小テスト・課題の原点が大きいので、日々の予習・復習を欠かさないように。
- 予習は該当箇所の単語調べ、これまで学んだつづり字と発音の規則を確認して新しいところを読めるようにする。予習時間の目安は30分。
- 復習60分は学習事項の練習問題、会話練習、ネット教材での復習にあてること。
- また随時フランス関係の展覧会・映画・講演を紹介する。語学のみならずフランス文化に積極的に接することを期待する。

5. 教科書

『なびふらんせ1』有富智世他著、朝日出版社

6. 参考書

[url]http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wmf/[/url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に解答・説明する。

8. 成績評価の方法

- ・授業への取り組み（練習問題、訳読の評価、フランス関係のレポートなど）20% 20点
- ・期末試験 80% 80点
- ・小テスト未受験-3点、課題未提出-5点を授業への取り組みと期末試験の合計点から減じる。合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

9. その他

- ・出席・成績管理は各自で行うこと。出席・成績状況の質問は一切受け付けない。
- ・教科書忘れ、無断退席は欠席と見なす。

科 目 名	単 位 数	担 当 者
フランス語Ⅲについて	各 1 単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>《授業の達成目標及びテーマ》</p> <p>1年次に身につけたフランス語の基礎をさらに発展させたいと考える者のために、自由選択科目として設けられています。2年次から4年次までのどの時期に履修することもでき、また重複履修も可能です(春・秋学期、継続の履修も可能)。</p> <p>フランス語文法の復習をしつつ、さらに学習を進めることで使用できる表現の幅を広げて行きます。フランス語の背景にあるものとして紹介されて来たフランスの文化が、実は、この言語そのものの性質と深くかかわっていることが、様々な資料を通して知識を深める中から実感できるでしょう。ここで初めてフランス語を通して見る世界の入り口に立つことになります。</p> <p>尚、農学科食糧生産・環境コースにおいて「フランス語Ⅲ」は、学習・教育目標のA に対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>1年次の学習を基礎に、フランス語圏の文化事情(映画や音楽等)の紹介、中級レベルのテキストの講読、多文化理解力を培う会話練習、など、受講生の希望を入れながら経験豊かな担当者によって、フランス語、その文化への理解をさらに深めます。</p> <p>個々の授業に関しては、各担当者のシラバスを参照して下さい。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>講読中心の授業の場合、辞書を持参すること。また、予習をすることが重要です。文法のスキル練習中心の授業においても、自習時間は学習効果と比例します。会話を中心とする授業では復習の時間を確保しましょう。以上を念頭に置き、自分なりの目標を立てて、フランス語の学習スタイルを作して下さい。</p>		
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>8. その他</p> <p>特に会話表現を学びたいと考える場合、学部間共通外国語の「フランス語会話」の説明を参照すること。また、夏期実施予定の「フランス語会話(集中講座)」や、フランス現地での語学研修などのプログラムについても大学HPでご確認下さい。</p>		

科目ナンバー (AG) LAN231N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 フランス語Ⅲ(1)	1 単位	今関アン
2017~2021年度入学者 フランス語Ⅲ(1)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

邦画やハリウッド映画を見る機会はたくさんありますが、映画を生んだ国フランスの映画はほとんどなじみがないかもしれません。この授業では最近制作され、大ヒットしたフランス映画を鑑賞して、フランス人の暮らしや思考、文化、歴史、地理の理解に努めていきます。またフランス語の基本語彙や使い方を学び、台詞を聞き取り、シナリオの抜粋や原作を読んで、一年時に習得したフランス語の能力（文法・聴き取り・会話）を深めるのを目標にします。

《授業の概要》

今学期は2011年に以降に制作されヒットしたフランスならではの映画を見ていきます。いずれも難解なアート系映画ではなく、身障者とアフリカ系若者との交流、かつての女子あこがれの職業と恋、フランスファッション制作の現場、ブルジョワジー一家の4人娘がそれぞれ移民と結婚し繰り広げられる異文化交流のコメディ、超軽量飛行機を使い、渡り鳥に安全な飛行ルートを教えるというプロジェクトに夢中の父とゲーム好きの息子が無謀な冒険に乗り出す実話をもとにした作品、パリの名所を巡る老女と運転手の交流、オペラ座のパレリーナを目指しながら挫折した少女が新しいダンスの世界に目覚める物語、ブルゴーニュでワイン畑を持つ三兄弟の話など商業的成功を目指した「オチ」のある映画なので、楽しく見られると思います。抜粋シナリオや原作の解説、聞き取り、関連する語彙や文法の説明もあわせて行ないます。

2. 授業内容

授業内容は受講者の希望を優先します。

- 第1回：イントロダクション、「最強のふたり」、挨拶などの日常会話（1）
- 第2回：「最強のふたり」、「タイプスト」、職業についてのフランス語
- 第3回：「タイプスト」「オートクチュール」
- 第4回：「最高の花婿」、フランスの家族関係
- 第5回：「最高の花婿アンコール」
- 第6回：「グランド・ジャーニー」内容把握プリント
- 第7回：「しあわせの雨傘」フランスの休暇
- 第8回：「パリタクシー」パリの名所説明
- 第9回：「メグレと若い女の死」ミステリー
- 第10回：「シチリアを征服したクマ王国の物語」フランスのアニメ
- 第11回：「ダンサーインParis」
- 第12回：「おかえり、ブルゴーニュへ」
- 第13回：「おかえり、ブルゴーニュへ」
- 第14回：a. まとめ
b. レポート作成

3. 履修上の注意

履修者のこれまでの習熟度は考慮する。映画を数回に分けて鑑賞するので欠席しないように。
告知は0h-o! Meijiで行う。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習は対象映画の監督・出演者・音楽などをネットで調べてくること。
復習は授業時間に配布されたプリント（映画内容・シナリオ・基本語彙）を完成させる。
授業内で紹介された映画・文献・展覧会・書籍に積極的に触れてください。

5. 教科書

必要に応じてプリントを使用

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内、または0-oh! Meiji 上で行う。

8. 成績評価の方法

平常点 50%、レポート 50%

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN231N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
フランス語Ⅲ(2)

1単位

森真太郎

2017~2021年度入学者
フランス語Ⅲ(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語を1年生の時に学んだものの、表現を使いこなすところまでは行けなかったという印象を持っていませんか。フランス語III(3)は、身近な表現を用い、フランス語でコミュニケーションできるようにすることを目的としています。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

《授業の概要》

前半は配布プリントで授業を行います。また随時DVDや新聞記事などを用いて「読む」「話す」「書く」ことを伸ばす授業を行います。全体的には、ディクテ(聴いて書く)に力を入れていきます。中級に接続するのが目的です。

2. 授業内容

- [第1回] a インTRODakション
b 自己紹介・好きなことについて話す
- [第2回] フランス語の基本の復習(1)
- [第3回] フランス語の基本の復習(2)
- [第4回] アルザス。ロレーヌ風キッシュ
- [第5回] 複合過去・代名動詞
- [第6回] ストラスブール。シュークルート。
- [第7回] 半過去・第過去
- [第8回] ディジョン。エスカルゴ。
- [第9回] 関係代名詞
- [第10回] ブルゴーニュ地方。ワイン。
- [第11回] 現在分詞・ジェロンディフ。
- [第12回] シャモニー。フォンデュ。
- [第13回] 比較級、受動態。
- [第14回] a:総復習 b:まとめ

*学生と協議して配布プリントにより授業を進めるため、上記の予定は変化します、

3. 履修上の注意

1年次でフランス語を学習済であることが前提です。
教室ではできるだけたくさんフランス語を話しましょう!

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

復習を心がけましょう。

5. 教科書

『新・彼女は食いしん坊2』朝日出版社

6. 参考書

開講時にお知らせします。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点(参加・授業内課題等)100%

9. その他

オフィスパワー:水曜日 10:40~10:50 (中央校舎講師控室)
身近なフランスを見つけるアンテナを張りましょう!

科目ナンバー (AG) LAN231N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語Ⅲ (3)

1 単位

高瀬智子

2017~2021 年度入学者
フランス語Ⅲ (3)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

使用テキスト『新・スピラル』ユニット4～7, また随時 DVD や新聞記事などを用いて「話す」ことを中心においた授業を行います。日常的な表現を用いるところから見え隠れするフランス語圏の生活文化に触れる機会として, できるだけフランス語を用います。

《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語を1年生の時に学んだものの, 表現を使いこなすところまでは行けなかったという印象を持っていませんか。フランス語 III (3) は, 身近な表現を用い, フランス語でコミュニケーションできるようにすることを目的としています。

農学科食糧生産・環境コースにおいては, 学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- [第1回] a イントロダクション
b 自己紹介・将来旅したい町について話す
- [第2回] 復習タイム
- [第3回] 趣味・余暇について話す
- [第4回] 頻度を表す・習慣について言う／聞き取り＋文法
- [第5回] 家族について話す
- [第6回] 過去の出来事を話す複合過去形(1) /聞き取り＋文法
- [第7回] どこに行くがきく・時間の言い方
- [第8回] どこに行ったか話す 複合過去形(2) /聞き取り＋文法
- [第9回] できること・すべきことを言う
- [第10回] 提案する・誘う・会うための約束する／聞き取り＋文法
- [第11回] よく行く場所について話す・時期や日付を言う
- [第12回] 時期・日付を言う。目的を言う／聞き取り＋文法
- [第13回] 毎日の習慣について話す・過去形で話す
- [第14回] a ショート・スケッチをつくる
b ショートスケッチの発表・まとめ

3. 履修上の注意

1年次でフランス語の初級を学習済であることが前提です。
教室ではできるだけたくさんフランス語を話しましょう！
履修学生の積極的参加が期待されます。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

復習の時間をとると、上達につながります。
このため、クラスウェブを介して、時々、学習内容に関する小さい課題を提出していただきます。

東京やその近郊で開催されるフランス語圏関連の展覧会やイベントにも、足を運ぶ機会を作る予定です(状況が許せば)。
身近なフランスを見つけるアンテナを張りましょう！

5. 教科書

『新 Spirale (スピラル)』GAEL CREPIEUX 他著 アシェット・ジャポン

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験あるいはプレゼン・レポート：70%
平常点：30%

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN231N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 フランス語Ⅲ(4)	1 単位	今関アン
2017~2021年度入学者 フランス語Ⅲ(4)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

邦画やハリウッド映画を見る機会はたくさんありますが、映画を生んだ国フランスの映画はなじみが薄いかもかもしれません。この授業では最近制作されたフランスやフランス語圏の映画を鑑賞して、彼らの暮らし・思考の変化、抱える問題、異文化への接し方などについて考えていきます。また台詞を聞き取り、シナリオの抜粋を読んで、一年時に習得したフランス語の能力（文法・聞き取り・会話）を深めることを目標にします。

《授業の概要》

今学期は 2010 年以降フランス語圏（カナダ・ベルギーなど）で制作された映画で、ユニークな視点を持った作品を見ていきます。ヨーロッパの難民・移民・テロ問題、さまざまな恋愛事情、教育をテーマにした作品やアニメ、SF 問題作などを視聴します。シナリオの翻訳、聞き取り、関連する語彙や文法の説明もあわせて行います。また皆さんが見たい映画があれば 2010 年代以前の作品でも取り上げるつもりです。

2. 授業内容

授業内容は受講者の希望を優先する。

第 1 回：イントロダクションー世界のフランス語圏、映画史 「サンバ」

第 2 回：「サンバ」

第 3 回：「レ・ミゼラブル」

第 4 回：「レ・ミゼラブル」「トリとロキタ」

第 5 回：「トリとロキタ」「シュヴァルの理想宮 ある郵便配達員の夢」

第 6 回：「シュヴァルの理想宮 ある郵便配達員の夢」

第 7 回：「戦争より愛の関係」

第 8 回：「戦争より愛の関係」「Summer 85」

第 9 回： 「Summer 85」「アマンダと僕」

第 10 回：「アマンダと僕」

第 11 回：「奇跡の教室」

第 12 回：「オーケストラ・クラス」「ベルヴィル・ランデブー」

第 13 回：「ベルヴィル・ランデブー」

第 14 回： a. まとめ

b. レポート作成

3. 履修上の注意

履修者のこれまでの習熟度は考慮する。数回に渡って映画を鑑賞するので欠席しないように。告知は Oh-o! Meiji! で行う。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習は対象映画の監督・出演者・音楽などをネットで調べてくること。

復習は授業時間に配布されたプリント（映画内容・シナリオ・基本語彙）を完成させる。

授業内で紹介された映画・文献・展覧会・書籍に積極的に触れてください。

5. 教科書

必要に応じてプリントを使用

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内、または Oh-o! Meiji 上で行う。

8. 成績評価の方法

平常点 50%、レポート 50%

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN231N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語Ⅲ (5)

1 単位

森真太郎

2017～2021 年度入学者
フランス語Ⅲ (5)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

1 年次に学んだフランス語の文法や表現は、実際にはどのように使うことができるのでしょうか。フランス語Ⅲ (6) では、フランス語でのコミュニケーションをとると同時に、「自分の意志・考えを伝える」基盤を作ることを目的としています。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A に対応する科目です。

《授業の概要》

当面は配布プリントを用い、随時 DVD や新聞記事などを用いて「話す」ことを中心においた授業を行います。日常的な表現を用いるところから見え隠れするフランス語圏の生活文化に触れる機会として、できるだけフランス語を用います。

2. 授業内容

- [第 1 回] a インTRODクシヨン
b 前期の振り返り
- [第 2 回] シャモニーとチーズ。
- [第 3 回] 強調構文・中性代名詞
- [第 4 回] マルセイユとブイヤベース
- [第 5 回] 条件法現在・条件法過去
- [第 6 回] アルルとラタトゥイユ
- [第 7 回] 接続法現在・接続法過去
- [第 8 回] レンヌとクレープ
- [第 9 回] 間接話法
- [第 10 回] サン・マロと海の幸
- [第 11 回] 前置詞と接続詞
- [第 12 回] 仏検 3 級の問題に挑戦 (1)
- [第 13 回] 仏検 3 級の問題に挑戦 (2)
- [第 14 回] a. 期末考査 b. まとめ

* 学生と協議したうえで教材を配布する。

3. 履修上の注意

1 年次にフランス語の基礎を学んでいることが履修の前提条件です。

受講者の積極的な参加が大切です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習をしっかりとしましょう！

5. 教科書

『新・彼女は食いしん坊 2』朝日出版社

6. 参考書

授業時に指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（参加・授業内課題への取り組みなど）100%

9. その他

オフィスアワー：水曜日 12:30～13:30（中央校舎講師控室）

科目ナンバー (AG) LAN231N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フランス語Ⅲ(6)

1 単位

高瀬智子

2017~2021 年度入学者
フランス語Ⅲ(6)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

使用テキスト『新・スピラル』ユニット6~7, また随時 DVD や新聞記事などを用いて「話す」ことを中心においた授業を行います。日常的な表現を用いるところから見え隠れするフランス語圏の生活文化に触れる機会として, できるだけフランス語を用います。

《授業の達成目標及びテーマ》

フランス語を1年生の時に学んだものの, 表現を使いこなすところまでは行かれなかったという印象を持っていませんか。

フランス語 III (6) は, 身近な表現を用い, フランス語でコミュニケーションできるようにすることを目的としています。

農学科食糧生産・環境コースにおいては, 学習・教育目標のAに対応する科目です。

2. 授業内容

- [第1回] a イントロダクション
b 自己紹介・好きなことについて話す
- [第2回] 復習タイム
- [第3回] 交通手段について話す・発着の詳細をきく
- [第4回] 起点と目的地を言う・聞取り+文法
- [第5回] 交通手段と移動時間について聞く・道順を示す
- [第6回] 予約・支払い方法を言う／聞取り+文法
- [第7回] これからの計画を話す・天候について話す
- [第8回] 助言を求める・与える／聞取り+文法
- [第9回] 食習慣について話す・値段をきく
- [第10回] 注文する・助言を求める／聞取り+文法
- [第11回] 道順を教える・出来事について述べる
- [第12回] 過去の出来事についての意見を述べる
- [第13回] 複合過去? 半過去?
- [第14回] a ショート・スケッチをつくる
b ショートスケッチの発表・まとめ

3. 履修上の注意

1年次にフランス語の初級を履修していることが本科目履修の前提条件となります。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

履修学生の積極的参加が期待されます。

また, 東京やその近郊で開催されるフランス語圏関連の展覧会やイベントにも足を運ぶ機会を作る予定です。

身近なフランスを見つけるアンテナを張りましょう!

5. 教科書

『新 Spirale (スピラル)』 GAEL CREPIEUX 他著 アシェット・ジャボン

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験・口頭発表あるいはレポート: 70%

平常点: 30%

9. その他

科目名	単位数	担当者
スペイン語 I について	各 1 単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>《授業の達成目標及びテーマ》</p> <p>スペイン語は、スペインを始めラテンアメリカ諸国等で 4 億人余りが話している言語です。授業では、初めてスペイン語に触れる人を対象に、まず、英語とは少し異なる文字と発音の学習から始め、スペイン語で最低限の意志を伝える、ある程度のコミュニケーションを成立させる、という段階を経て、自分の感情や身近な事柄の表現もできるように、さらにはスペイン語圏の文化背景についても紹介します。スペイン語圏を旅する際、人と知り合い、自分のことを話し相手の話を聞けるようになること、辞書を片手に初歩的な文章の読解ができるようになることを目指します。</p> <p>農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>主に文法に重点をおいて、スペイン語の初級を学びます。</p> <p>発音も重視しつつ、日常的なやさしい表現の習得を通じて、1年間で初級文法のあらましを習得していきます。ごく簡単な会話ができ、やさしい文章なら辞書を用いて自分で読める水準に達することを目標にしています。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>語学の学習は、予習・復習なしには成り立ちません。初級クラスでは音声データ等を活用して、授業中に習ったことをしっかりと身につけ、つぎの段階に進む基礎を作っていく必要があります。</p> <p>必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。</p> <p>「スペイン語 I a」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「スペイン語 I a」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p> <p>「スペイン語 I b」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「スペイン語 I b」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>各担当者の指示に従って下さい。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>教科書販売所の教科書一覧に従って購入してください。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>各科目のシラバスを参照。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「スペイン語会話」についての説明も参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG)LAN141N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スペイン語 I a 農

2017~2021年度入学者
スペイン語 I a 農

1 単位

福原弘識

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とする。

スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初の段階では簡単なように思えるかもしれない。しかし文法面では、動詞の活用、性数一致など、覚えること・難しい点も少なくないので、復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでほしい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

《授業の概要》

教科書に沿って文法事項の解説を行い、一通り解説が終わったら、受講生を指名して教科書の例文の音読と解釈、練習問題への解答をしてもらい、文法力や語彙を習得します。毎回、宿題、予習などの課題を義務づけます。またプリントを配布して補足的説明も行います。

2. 授業内容

- | | |
|--|--------------------------|
| 1. イントロダクション、第1課：アルファベットなど | |
| 2. 第1課：母音・子音など | 小テスト：数0-10(3頁) |
| 3. 第2課：名詞の性数など | 小テスト：国名と国籍の単語(3頁) |
| 4. 第2課：冠詞、主格人称代名詞、動詞 ser など | 小テスト：職業名の単語(10頁) |
| 5. 第3課：形容詞、所有形容詞前置形、疑問文と否定文など | 小テスト：主格人称代名詞と ser 活用(8頁) |
| 6. 第3課：動詞 tener、数1~100、第4課：規則動詞など | 小テスト：数1-100(14頁) |
| 7. 第4課：主な前置詞、疑問詞など | 小テスト：規則動詞の意味と活用(19頁) |
| 8. 第5課：指示形容詞、動詞 estar、hay など | 小テスト：3課の単語(16頁) |
| 9. 第5課：ser+形容詞、estar+形容詞、tener+名詞など | 小テスト：4課の単語(22頁) |
| 10. 第6課：動詞 ir, ver, hacer, poner, salir など | 小テスト：estar と主格人称代名詞(25頁) |
| 11. 第6課：時刻や日付の表現、疑問詞など | 小テスト：5課の単語(28頁) |
| 12. 第7課：語幹母音変化動詞、天候表現など | 小テスト：不規則動詞の意味と活用(31頁) |
| 13. 第7課：直接目的格人称代名詞など | 小テスト：語幹母音変化動詞の意味と活用(37頁) |
| 14a. 期末考査 | |
| 14b. 授業全体のふりかえりと試験の正答解説 | |

※講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

学生は間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。授業には必ずテキストと辞書を持参すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。

復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。

5. 教科書

『イメージ・スペイン語(Español en imágenes)』エウヘニオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治 著 (朝日出版社)、2,500円(税別)

※ スペイン語 II(農学科)と同一の教科書を使用します

6. 参考書

第1回目のイントロダクションで辞書と参考書を紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8. 成績評価の方法

学期末テスト70%、小テスト15%、授業への参加度15%として総合的に評価する。

9. その他

オフィスアワー：金曜日12:30-13:30

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者

スペイン語 I a 政

2017~2021年度入学者

スペイン語 I a 政

1 単位

ペレスラモン, ルベ

1. 授業の概要・到達目標

このコースの目標は、現在形の基本的な考え方をスペイン語で表現できるようになること、そして語彙と発音を学ぶことです。動詞の活用（規則／不規則）にも細心の注意を払います。スペイン語学習とスペイン文化に関する情報を組み合わせることで、受講生は新しいスキルをコミュニケーションの中で実践することができます。このコースは英語とスペイン語で行われ、時折、日本語の注釈や本の解説が使われています。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] Unidad 1: アルファベット、発音、アクセント規則 (4/15)
- [第2回] Unidad 1: スペイン語圏、数字 (1-10) (4/22)
- [第3回] Unidad 2: 人称代名詞、動詞 ser、性別と数、疑問詞 (4/29)
- [第4回] Unidad 2: 指示代名詞、個人情報; Unidad 3: 定冠詞と不定冠詞 (5/13)
- [第5回] Unidad 3: 仮定法形容詞、動詞 ser と estar (5/20)
- [第6回] Unidad 3: スペインの都市、ヒスパニックの国々; Unidad 4: 現在形の動詞 (5/27)
- [第7回] 【中間テスト①】 (6/3)
- [第8回] Unidad 4: 疑問文、時間、前置詞、スケジュール、曜日、日常生活 (6/10)
- [第9回] Unidad 5: 指示詞、仮定法、動詞 tener (6/17)
- [第10回] Unidad 5: 数字 (11-100)、人、家族を表す; Unidad 6: 動詞 hay と estar (6/24)
- [第11回] Unidad 6: 動詞 ir、月と季節、「動詞+不定詞」構造 (7/1)
- [第12回] Unidad 6: 有名な場所、理由と目的を表現する (7/8)
- [第13回] 復習 (7/15)
- [第14回] 試験

※講義内容は、必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

○毎回の学習内容について全て理解した上で学習を進めていくことが大切です。スペイン語は、発音はしやすいものの、動詞の活用や名詞に合わせた性数変化など覚えることが多い言語でもあります。ですが、授業への積極的な参加、復習、確認テストのための学習を怠らないことで、着実に習得できます。コツコツと学習・練習を続けてゆきましょう。

○一度迷子になると、ついていくのが大変です。やむを得ず欠席した場合は、その回の内容を必ず自分でフォローしてください。その上で理解できなかった箇所については質問してください。

○自分で考えた上でわからないことは、遠慮なく聞いてください。

○三分の一以上欠席した場合には、原則として評価の対象外となります。

○授業には、辞書（紙または電子辞書）を持参してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

○予習：指定された場合には、その範囲の未修単語の意味を調べてきてください。

○復習：授業で取り組んだ問題の見直しを行ってください。また、宿題も復習になります。必ず授業前に余裕をもって取り組んでください。

5. 教科書

iMuy bien! - 朝日出版社 - Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu, 2600円+税.

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

中間テスト (30%)、期末テスト (40%)、授業参加 (20%)、宿題 (10%) で評価します。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 スペイン語 I a 化	1 単位	メンドサ
2017~2021 年度入学者 スペイン語 I a 化		

1. 授業の概要・到達目標

この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。

スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいけます。動詞の活用、名詞/形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。

2. 授業内容

第1回：挨拶と自己紹介をする。アルファベットと発音、スペイン語圏の国々。

第2回：国々と国籍、簡単な単語、スペイン圏の世界遺産。

第3回：テスト。他者を紹介する、国籍、職業。

第4回：ser と tener 動詞ー現在形、文の使い方。主語人称代名詞、スペイン語の動詞について。

第5回：テスト。定冠詞と不定冠詞の用法。規則動詞ー現在形。相手を指す代名詞。疑問代名詞。

第6回：名詞の性、名詞の数。形容詞の性数、形容詞の用法。

第7回：テスト。電話番号や住所を尋ねる。tú と usted の使い方。

第8回：家族を紹介する。個人情報をやりとりする、物や人の住所。

第9回：テスト。所有（誰それの）を表現する。所有形容詞前置形、従属節の作り方。

第10回：時刻の表し方。estar 動詞ー現在形。指し代名詞。スペイン人の生活習慣ー時間。

第11回：テスト。時間を尋ねると伝える。スペイン語圏の家族、お祝いの習慣。

第12回：仕事（場所、職業、時間帯）について話す。日常生活について話す。

第13回：テスト。朝食を注文する。再帰代名詞ー現在形。不規則動詞ー現在形。前置詞、前置詞の主な用法（al＋不定）詞。

第14回：まとめ。

3. 履修上の注意

ポケット プログレッシブ 西和・和西辞典（小学館）。

西和・和西辞典と7mm罫線入り50枚ノートを持参すること。授業中必ず携帯を電源から切ってください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

必ず授業の予習・復習をしておくこと。

5. 教科書

プリント。

6. 参考書

『ポケット プログレッシブ 西和・和西辞典』（小学館）。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

テスト20%と授業の参加度80%により総合的に評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN141N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スペイン語 I a 生	1 単位	福原弘識
2017~2021年度入学者 スペイン語 I a 生		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とする。

スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初の段階では簡単なように思えるかもしれない。しかし文法面では、動詞の活用、性数一致など、覚えること・難しい点も少なくないので、復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでほしい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

《授業の概要》

教科書に沿って文法事項の解説を行い、一通り解説が終わったら、受講生を指名して教科書の例文の音読と解釈、練習問題への解答をしてもらい、文法力や語彙を習得します。毎回、宿題、予習などの課題を義務づけます。またプリントを配布して補足的説明も行います。

2. 授業内容

- | | |
|--|--------------------------|
| 1. イントロダクション、第1課：アルファベットなど | |
| 2. 第1課：母音・子音など | 小テスト：数0-10(3頁) |
| 3. 第2課：名詞の性数など | 小テスト：国名と国籍の単語(3頁) |
| 4. 第2課：冠詞、主格人称代名詞、動詞 ser など | 小テスト：職業名の単語(10頁) |
| 5. 第3課：形容詞、所有形容詞前置形、疑問文と否定文など | 小テスト：主格人称代名詞と ser 活用(8頁) |
| 6. 第3課：動詞 tener、数1~100、第4課：規則動詞など | 小テスト：数1-100(14頁) |
| 7. 第4課：主な前置詞、疑問詞など | 小テスト：規則動詞の意味と活用(19頁) |
| 8. 第5課：指示形容詞、動詞 estar、hay など | 小テスト：3課の単語(16頁) |
| 9. 第5課：ser+形容詞、estar+形容詞、tener+名詞など | 小テスト：4課の単語(22頁) |
| 10. 第6課：動詞 ir, ver, hacer, poner, salir など | 小テスト：estar と主格人称代名詞(25頁) |
| 11. 第6課：時刻や日付の表現、疑問詞など | 小テスト：5課の単語(28頁) |
| 12. 第7課：語幹母音変化動詞、天候表現など | 小テスト：不規則動詞の意味と活用(31頁) |
| 13. 第7課：直接目的格人称代名詞など | 小テスト：語幹母音変化動詞の意味と活用(37頁) |
| 14a. 期末考査 | |
| 14b. 授業全体のふりかえりと試験の正答解説 | |

※講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

学生は間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。授業には必ずテキストと辞書を持参すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。

復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。

5. 教科書

『イメージ・スペイン語(Español en imágenes)』エウヘニオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治 著 (朝日出版社)、2,500円(税別)

※ スペイン語 II(農学科)と同一の教科書を使用します

6. 参考書

第1回目のイントロダクションで辞書と参考書を紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8. 成績評価の方法

学期末テスト70%、小テスト15%、授業への参加度15%として総合的に評価する。

9. その他

オフィスパワー：金曜日12:30-13:30

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スペイン語 I b 農	1 単位	福原弘識
2017~2021年度入学者 スペイン語 I b 農		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

この授業は、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていく。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とする。

学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受検など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてほしい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

《授業の概要》

教科書に沿って文法事項の解説を行い、一通り解説が終わったら、受講生を指名して教科書の例文の音読と解釈、練習問題への解答をしてもらい、文法力や語彙を習得します。毎回、宿題、予習などの課題を義務づけます。またプリントを配布して補足的説明も行います。

2. 授業内容

1. イントロダクション、第8課：動詞 oír, venir, saber, conocer など
2. 第8課：間接目的格人称代名詞、動詞 dar, decir, traer など 小テスト：6課の単語（34頁）
3. 第9課：再帰動詞など 小テスト：不規則動詞の意味と活用（43・44頁）
4. 第9課：義務の表現など、第10課：前置詞格人称代名詞 小テスト：7課の単語（40頁）
5. 第10課：動詞 gustar、所有形容詞後置形など 小テスト：再帰動詞の意味と活用（49頁）
6. 第11課：比較級、最上級など 小テスト：再帰動詞の意味と活用（50頁）
7. 第11課：不定語・否定語、感嘆文など 小テスト：8課の単語（46頁）
8. 第12課：点過去規則活用など 小テスト：10課の単語（52頁）
9. 第12課：点過去不規則活用、数 100~2000 など 小テスト：点過去規則活用（67頁）
10. 第13課：線過去形、点過去と線過去など 小テスト：点過去不規則活用（68頁）
11. 第13課：数 10000、序数など 小テスト：線過去活用（73頁）
12. 第14課：過去分詞など 小テスト：数（74頁）
13. 第14課：完了形など 小テスト：過去分詞の意味と活用（79頁）
- 14a. 期末考査
- 14b. 授業全体のふりかえりと試験の正答解説

※講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

学生は間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。授業には必ずテキストと辞書を持参すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。

復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。

5. 教科書

『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』エウヘニオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治 著（朝日出版社）、2,500円（税別）

※ スペイン語 II（農学科）と同一の教科書を使用します

6. 参考書

授業内で随時指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8. 成績評価の方法

学期末テスト 70%、小テスト 15%、授業への参加度 15%として総合的に評価する。

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12:30-13:30

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スペイン語 I b 政	1 単位	ペレスラモン, ルベ
2017~2021年度入学者 スペイン語 I b 政		

1. 授業の概要・到達目標

このコースの目標は、現在形の基本的な考え方をスペイン語で表現できるようになること、そして語彙と発音を学ぶことです。動詞の活用（規則／不規則）にも細心の注意を払います。スペイン語学習とスペイン文化に関する情報を組み合わせることで、受講生は新しいスキルをコミュニケーションの中で実践することができます。このコースは英語とスペイン語で行われ、時折、日本語の注釈や本の解説が使われています。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] Unidad 1: アルファベット、発音、アクセント規則 (4/15)
- [第2回] Unidad 1: スペイン語圏、数字 (1-10) (4/22)
- [第3回] Unidad 2: 人称代名詞、動詞 ser、性別と数、疑問詞 (4/29)
- [第4回] Unidad 2: 指示代名詞、個人情報; Unidad 3: 定冠詞と不定冠詞 (5/13)
- [第5回] Unidad 3: 仮定法形容詞、動詞 ser と estar (5/20)
- [第6回] Unidad 3: スペインの都市、ヒスパニックの国々; Unidad 4: 現在形の動詞 (5/27)
- [第7回] 【中間テスト①】 (6/3)
- [第8回] Unidad 4: 疑問文、時間、前置詞、スケジュール、曜日、日常生活 (6/10)
- [第9回] Unidad 5: 指示詞、仮定法、動詞 tener (6/17)
- [第10回] Unidad 5: 数字 (11-100)、人、家族を表す; Unidad 6: 動詞 hay と estar (6/24)
- [第11回] Unidad 6: 動詞 ir、月と季節、「動詞+不定詞」構造 (7/1)
- [第12回] Unidad 6: 有名な場所、理由と目的を表現する (7/8)
- [第13回] 復習 (7/15)
- [第14回] 試験

※講義内容は、必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

○毎回の学習内容について全て理解した上で学習を進めていくことが大切です。スペイン語は、発音はしやすいものの、動詞の活用や名詞に合わせた性数変化など覚えることが多い言語でもあります。ですが、授業への積極的な参加、復習、確認テストのための学習を怠らないことで、着実に習得できます。コツコツと学習・練習を続けてゆきましょう。

○一度迷子になると、ついていくのが大変です。やむを得ず欠席した場合は、その回の内容を必ず自分でフォローしてください。その上で理解できなかった箇所については質問してください。

○自分で考えた上でわからないことは、遠慮なく聞いてください。

○三分の一以上欠席した場合には、原則として評価の対象外となります。

○授業には、辞書（紙または電子辞書）を持参してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

○予習：指定された場合には、その範囲の未修単語の意味を調べてきてください。

○復習：授業で取り組んだ問題の見直しを行ってください。また、宿題も復習になります。必ず授業前に余裕をもって取り組んでください。

5. 教科書

iMuy bien! - 朝日出版社 - Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu, 2600円+税.

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

中間テスト (30%)、期末テスト (40%)、授業参加 (20%)、宿題 (10%) で評価します。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スペイン語 I b 化

2017~2021 年度入学者
スペイン語 I b 化

1 単位

メンドサ

1. 授業の概要・到達目標

この授業では、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていきます。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とします。学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受検など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてください。

2. 授業内容

- 第1回：住まいを描写する。家具や電化製品の名前。
- 第2回：場所や存在を示す。ホテルの予約をする。
- 第3回：テスト。定冠詞と不定冠詞。hay（存在を表す）と estar（所在を表す）。
- 第4回：序数詞。スペインの住まい。
- 第5回：テスト。食べる。レストランで食事を注文する。
- 第6回：好みを表現する。gustar 動詞。querer 動詞。
- 第7回：テスト。料理のレシピを理解する。命令形の規則形。
- 第8回：スペイン圏の食習慣。テスト。
- 第9回：テスト。地区。交通機関について情報をやりとりする、指示をする。
- 第10回：命令形、不規則。命令形の用法。ser と estar の用法。
- 第11回：テスト。依頼する。住んでいる地区を描写する。
- 第12回：所有形容詞後置形。テスト。
- 第13回：テスト。スペインの都市。サンティアゴ・デ・コンポステラ。
- 第14回：まとめ。

3. 履修上の注意

ポケット プロGRESSIVE 西和・和西辞典（小学館）。
西和・和西辞典と 7mm 罫線入り 50 枚ノートを持参すること。授業中必ず携帯を電源から切ってください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で学習した内容を次回まで復習しておくこと。

5. 教科書

プリント。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

テスト 20% と授業の参加度 80% により総合的に評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スペイン語Ib生	1 単位	福原弘識
2017~2021年度入学者 スペイン語Ib生		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

この授業は、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていく。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とする。

学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受検など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてほしい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。

《授業の概要》

教科書に沿って文法事項の解説を行い、一通り解説が終わったら、受講生を指名して教科書の例文の音読と解釈、練習問題への解答をしてもらい、文法力や語彙を習得します。毎回、宿題、予習などの課題を義務づけます。またプリントを配布して補足的説明も行います。

2. 授業内容

1. イントロダクション、第8課：動詞 oír, venir, saber, conocer など
2. 第8課：間接目的格人称代名詞、動詞 dar, decir, traer など 小テスト：6課の単語（34頁）
3. 第9課：再帰動詞など 小テスト：不規則動詞の意味と活用（43・44頁）
4. 第9課：義務の表現など、第10課：前置詞格人称代名詞 小テスト：7課の単語（40頁）
5. 第10課：動詞 gustar、所有形容詞後置形など 小テスト：再帰動詞の意味と活用（49頁）
6. 第11課：比較級、最上級など 小テスト：再帰動詞の意味と活用（50頁）
7. 第11課：不定語・否定語、感嘆文など 小テスト：8課の単語（46頁）
8. 第12課：点過去規則活用など 小テスト：10課の単語（52頁）
9. 第12課：点過去不規則活用、数 100~2000 など 小テスト：点過去規則活用（67頁）
10. 第13課：線過去形、点過去と線過去など 小テスト：点過去不規則活用（68頁）
11. 第13課：数 10000、序数など 小テスト：線過去活用（73頁）
12. 第14課：過去分詞など 小テスト：数（74頁）
13. 第14課：完了形など 小テスト：過去分詞の意味と活用（79頁）
- 14a. 期末考査
- 14b. 授業全体のふりかえりと試験の正答解説

※講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

学生は間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。授業には必ずテキストと辞書を持参すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。

復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。

5. 教科書

『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』エウヘニオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治 著（朝日出版社）、2,500円（税別）

※ スペイン語II（農学科）と同一の教科書を使用します

6. 参考書

授業内で随時指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8. 成績評価の方法

学期末テスト70%、小テスト15%、授業への参加度15%として総合的に評価する。

9. その他

オフィスアワー：金曜日 12:30-13:30

科目名	単位数	担当者
スペイン語Ⅱについて	各1単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>スペイン語は、スペインを始めラテンアメリカ諸国等で4億人余りが話している言語です。授業では、初めてスペイン語に触れる人を対象に、まず、英語とは少し異なる文字と発音の学習から始め、スペイン語で最低限の意志を伝える、ある程度のコミュニケーションを成立させる、という段階を経て、自分の感情や身近な事柄の表現もできるように、さらにはスペイン語圏の文化背景についても紹介します。スペイン語圏を旅する際、人と知り合い、自分のことを話し相手の話を聞けるようになること、辞書を片手に初歩的な文章の読解ができるようになることを目指します。</p> <p>農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>読解や会話に重点をおいてスペイン語を学びます。</p> <p>発音も重視しつつ、日常的なやさしい表現の習得を通じて、1年間で初級文法のあらましを習得していきます。ごく簡単な会話ができ、やさしい文章なら辞書を用いて自分で読める水準に達することを目標にしています。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>語学の学習は、予習・復習なしには成り立ちません。初級クラスでは音声データ等を活用して、授業中に習ったことをしっかりと身につけ、つぎの段階に進む基礎を作っていく必要があります。</p> <p>必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。</p> <p>「スペイン語Ⅱ a」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「スペイン語Ⅱ a」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p> <p>「スペイン語Ⅱ b」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「スペイン語Ⅱ b」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>各担当者の指示に従って下さい。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>教科書販売所の教科書一覧に従って購入してください。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>各科目のシラバスを参照。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「スペイン語会話」についての説明も参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG)LAN141N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スペイン語Ⅱa 農

2017~2021年度入学者
スペイン語Ⅱa 農

1 単位

ペレスラモン, ルベ

1. 授業の概要・到達目標

このコースはスペイン語Ⅰaの続編です。このコースの目標は、現在形の基本的な考え方をスペイン語で表現できるようになること、そして語彙と発音を学ぶことです。動詞の活用(規則/不規則)にも細心の注意を払います。スペイン語学習とスペイン文化に関する情報を組み合わせることで、受講生は新しいスキルをコミュニケーションの中で実践することができます。このコースは英語とスペイン語で行われ、時折、日本語の注釈や本の解説が使われています。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] Unidad 7: 前置詞を伴う人称代名詞, 動詞 gustar, 好みの一致と不一致 (9/23)
- [第2回] Unidad 7: 動詞 encantar と interesar, 動詞+不定詞, 好み, 予定と招待 (9/30)
- [第3回] Unidad 8: 不規則活用する動詞 1, 直接目の人称代名詞, 数字 (100-999 999) (10/7)
- [第4回] Unidad 8: 序数, 不定語, マーケットで; Unidad 9: 不規則活用する動詞 2 (10/14)
- [第5回] Unidad 9: 直接目の人称代名詞と間接目の人称代名詞, 動詞 saber と poder (10/21)
- [第6回] Unidad 9: 動詞 ser +形容詞と estar +形容詞, スペイン料理 (10/28)
- [第7回] 【確認テスト①】 (11/11)
- [第8回] Unidad 10: 代名動詞, 天気, 日常生活 (11/18)
- [第9回] Unidad 10: 祭りや行事; Unidad 11: 動詞 estar +形容詞 (体調や気分), 動詞 estar / encontrarse +副詞 bien (11/25)
- [第10回] Unidad 11: 動詞 tener+名詞 (感覚), 動詞 doler, 接続詞, 体調表現と気分 (12/2)
- [第11回] Unidad 12: 過去の時を表す表現, 動詞 ir 点過去, 点過去規則活用, 2つの過去 (点過去と線過去) (12/9)
- [第12回] Unidad 12: 行った場所, 日帰り旅行 (12/16)
- [第13回] 最終試験の概要説明と準備 (12/23)
- [第14回] 試験 (1/20)

※講義内容は、必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

○毎回の学習内容について全て理解した上で学習を進めていくことが大切です。スペイン語は、発音はしやすいものの、動詞の活用や名詞に合わせた性数変化など覚えることが多い言語でもあります。ですが、授業への積極的な参加、復習、確認テストのための学習を怠らないことで、着実に習得できます。コツコツと学習・練習を続けてゆきましょう。

○一度迷子になると、ついていくのが大変です。やむを得ず欠席した場合は、その回の内容を必ず自分でフォローしてください。その上で理解できなかった箇所については質問してください。

○自分で考えた上でわからないことは、遠慮なく聞いてください。

○三分の一以上欠席した場合には、原則として評価の対象外となります。

○授業には、辞書(紙または電子辞書)を持参してください。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

○予習: 指定された場合には、その範囲の未修単語の意味を調べてきてください。

○復習: 授業で取り組んだ問題の見直しを行ってください。また、宿題も復習になります。必ず授業前に余裕をもって取り組んでください。

5. 教科書

iMuy bien! - 朝日出版社 - Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu, 2600円+税。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

中間試験(30%)、期末テスト(40%)、授業参加(20%)、宿題(10%)で評価します。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スペイン語Ⅱa政	1 単位	渡辺有美
2017～2021年度入学者 スペイン語Ⅱa政		

1. 授業の概要・到達目標

この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。

スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいきます。

動詞の活用、名詞/形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。

またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。

2. 授業内容

春学期は、以下の3点の習得を重点課題として授業を行います。

- 1、スペイン語の発音
- 2、名詞・形容詞の性数一致（所有詞、指示詞含む）
- 3、動詞の活用（直説法現在（ser、estar、haber [hay]、最頻出の規則動詞と不規則動詞）

- 第1回 第1課 イントロダクション（スペイン語とは）アルファベット、発音、アクセント
 第2回 第2課 アクセント、母音
 第3回 第3課 主格人称代名詞、動詞 ser
 第4回 第4課 疑問詞、名詞
 第5回 第5課 hay、所有形容詞、指示形容詞、動詞 estar
 第6回 第6課 説法現在形規則動詞、直接目的語
 第7回 第1課～第6課のまとめ、中間試験
 第8回 第7課 直説法現在不規則動詞（1）
 第9回 第8課 直説法現在不規則動詞（2）
 第10回 第9課 間接目的語
 第11回 第10課 比較表現
 第12回 第11課 gustar 型動詞
 第13回 第12課 再帰動詞
 第14回 春学期の振り返り、定期試験

3. 履修上の注意

- ・授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として定期試験の受験はできません。
- ・初習外国語は、自発的かつ継続的な学習で習得度に大きな差が出ます。積極的に授業に参加し、自習する習慣をつけましょう。
- ・辞書とノートを用意することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・授業で出された課題は必ず自力でやってくることを。
- ・授業で文法説明を聞いた後、自分の頭で理解し説明できるぐらいの状態での次の授業に臨むこと。
- ・復習中心でいいが、主体的に授業を受けられるよう、できる限り、テキストの次の学習箇所をあらかじめよく読んで単語等を調べ、
不明な点については質問を準備してくるぐらいの姿勢が望ましい。

5. 教科書

指定教科書：『スペイン語 24 課[改訂版]!』山村ひろみ著（白水社）

6. 参考書

「文法書が欲しい」、「辞書はどれがいいのか」、「ワーク形式の練習問題集が欲しい」などの希望がある方は、相談にのりますので個別にメール連絡ください。

授業時に適宜紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

・担当教員が、定期試験、中間試験、授業参加度、授業態度、課題提出状況などを総合的に評価します。

・テスト形態はその都度お知らせします。

9. その他

・授業進度に応じて、適宜、「スペイン語技能検定」について紹介します。

・あらゆる連絡・相談については、メールでいつでも受け付けますので、このクラスのことに関しては、まずは担当教員である渡辺まで連絡・相談ください。メールアドレスはOh-o!Meijiでお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スペイン語Ⅱa化	1 単位	渡辺有美
2017～2021年度入学者 スペイン語Ⅱa化		

1. 授業の概要・到達目標

この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。

スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいきます。

動詞の活用、名詞/形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。

またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。

2. 授業内容

春学期は、以下の3点の習得を重点課題として授業を行います。

- 1、スペイン語の発音
- 2、名詞・形容詞の性数一致（所有詞、指示詞含む）
- 3、動詞の活用（直説法現在（ser、estar、haber [hay]、最頻出の規則動詞と不規則動詞）

- 第1回 第1課 イントロダクション（スペイン語とは）アルファベット、発音、アクセント
- 第2回 第2課 アクセント、母音
- 第3回 第3課 主格人称代名詞、動詞 ser
- 第4回 第4課 疑問詞、名詞
- 第5回 第5課 hay、所有形容詞、指示形容詞、動詞 estar
- 第6回 第6課 直説法現在形規則動詞、直接目的語
- 第7回 第1課～第6課のまとめ、中間試験
- 第8回 第7課 直説法現在不規則動詞（1）
- 第9回 第8課 直説法現在不規則動詞（2）
- 第10回 第9課 間接目的語
- 第11回 第10課 比較表現
- 第12回 第11課 gustar 型動詞
- 第13回 第12課 再帰動詞
- 第14回 春学期の振り返り、定期試験

3. 履修上の注意

- ・授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として定期試験の受験はできません。
- ・初習外国語は、自発的かつ継続的な学習で習得度に大きな差が出ます。積極的に授業に参加し、自習する習慣をつけましょう。
- ・辞書とノートを用意することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・授業で出された課題は必ず自力でやってくる。
- ・授業で文法説明を聞いた後、自分の頭で理解し説明できるぐらいの状態ですぐ次の授業に臨むこと。
- ・復習中心でいいが、主体的に授業を受けられるよう、できる限り、テキストの次の学習箇所をあらかじめよく読んで単語等を調べ、

不明な点については質問を準備してくるぐらいの姿勢が望ましい。

5. 教科書

指定教科書：『スペイン語 24 課[改訂版]!』山村ひろみ著（白水社）

6. 参考書

「文法書が欲しい」、「辞書は何かいいのかわからない」、「ワーク形式のものが欲しい」などの希望がある方は、相談にのりますので個別にメール連絡ください。

授業時に適宜紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

・担当教員が、定期試験、中間試験、授業参加度、授業態度、課題提出状況などを総合的に評価します。

・テスト形態はその都度お知らせします。

9. その他

・授業進度に応じて、適宜、「スペイン語技能検定」について紹介します。

・あらゆる連絡・相談については、メールでいつでも受け付けますので、このクラスのことに関しては、まずは担当教員である渡辺まで連絡・相談ください。メールアドレスは Oh-o ! Meiji でお知らせします。

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スペイン語Ⅱa生	1 単位	メンドサ
2017～2021年度入学者 スペイン語Ⅱa生		

1. 授業の概要・到達目標

この授業は、初めてスペイン語を学習する人を対象として、スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。

スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初からスムーズに学んでいけます。動詞の活用、名詞/形容詞の性数一致など、覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も、発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し、一步一步着実に進んでいけるように取り組んでください。

2. 授業内容

第1回：挨拶と自己紹介をする。アルファベットと発音、スペイン語圏の国々。

第2回：国々と国籍、簡単な単語、スペイン圏の世界遺産。

第3回：テスト。他者を紹介する、国籍、職業。

第4回：ser と tener 動詞－現在形、文の使い方。主語人称代名詞、スペイン語の動詞について。

第5回：テスト。定冠詞と不定冠詞の用法。規則動詞－現在形。相手を指す代名詞。疑問代名詞。

第6回：名詞の性、名詞の数。形容詞の性数、形容詞の用法。

第7回：テスト。電話番号や住所を尋ねる。tú と usted の使い方。

第8回：家族を紹介する。個人情報やりとりする、物や人の住所。

第9回：テスト。所有（誰それの）を表現する。所有形容詞前置形、従属節の作り方。

第10回：時刻の表し方。estar 動詞－現在形。指し代名詞。スペイン人の生活習慣－時間。

第11回：テスト。時間を尋ねると伝える。スペイン語圏の家族、お祝いの習慣。

第12回：仕事（場所、職業、時間帯）について話す。日常生活について話す。

第13回：テスト。朝食を注文する。再帰代名詞－現在形。不規則動詞－現在形。前置詞、前置詞の主な用法（a＋不定）詞。

第14回：まとめと。

3. 履修上の注意

ポケット ブログレッシブ 西和・和西辞典（小学館）。

西和・和西辞典と7mm 罫線入り50枚ノートを持参すること。授業中必ず携帯を電源から切ってください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で学習した内容を次回まで復習しておくこと。

5. 教科書

プリント。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

テスト20%と授業の参加度80%により総合的に評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN141N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スペイン語Ⅱb農	1単位	ペレスラモン, ルベ
2017~2021年度入学者 スペイン語Ⅱb農		

1. 授業の概要・到達目標

このコースはスペイン語Ⅰaの続編です。このコースの目標は、現在形の基本的な考え方をスペイン語で表現できるようになること、そして語彙と発音を学ぶことです。動詞の活用(規則/不規則)にも細心の注意を払います。スペイン語学習とスペイン文化に関する情報を組み合わせることで、受講生は新しいスキルをコミュニケーションの中で実践することができます。このコースは英語とスペイン語で行われ、時折、日本語の注釈や本の解説が使われています。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] Unidad 7: 前置詞を伴う人称代名詞, 動詞 gustar, 好みの一致と不一致 (9/23)
- [第2回] Unidad 7: 動詞 encantar と interesar, 動詞+不定詞, 好み, 予定と招待 (9/30)
- [第3回] Unidad 8: 不規則活用する動詞1, 直接目的人称代名詞, 数字 (100-999 999) (10/7)
- [第4回] Unidad 8: 序数, 不定語, マーケットで; Unidad 9: 不規則活用する動詞2 (10/14)
- [第5回] Unidad 9: 直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞, 動詞 saber と poder (10/21)
- [第6回] Unidad 9: 動詞 ser +形容詞と estar +形容詞、スペイン料理 (10/28)
- [第7回] 【確認テスト①】 (11/11)
- [第8回] Unidad 10: 代名動詞, 天気, 日常生活 (11/18)
- [第9回] Unidad 10: 祭りや行事; Unidad 11: 動詞 estar +形容詞(体調や気分), 動詞 estar / encontrarse +副詞 bien (11/25)
- [第10回] Unidad 11: 動詞 tener+名詞(感覚), 動詞 doler, 接続詞, 体調表現と気分 (12/2)
- [第11回] Unidad 12: 過去の時を表す表現, 動詞 ir 点過去, 点過去規則活用, 2つの過去(点過去と線過去) (12/9)
- [第12回] Unidad 12: 行った場所, 日帰り旅行 (12/16)
- [第13回] 最終試験の概要説明と準備 (12/23)
- [第14回] 試験 (1/20)

※講義内容は、必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

○毎回の学習内容について全て理解した上で学習を進めていくことが大切です。スペイン語は、発音はしやすいものの、動詞の活用や名詞に合わせた性数変化など覚えることが多い言語でもあります。ですが、授業への積極的な参加、復習、確認テストのための学習を怠らないことで、着実に習得できます。コツコツと学習・練習を続けてゆきましょう。

○一度迷子になると、ついていくのが大変です。やむを得ず欠席した場合は、その回の内容を必ず自分でフォローしてください。その上で理解できなかった箇所については質問してください。

○自分で考えた上でわからないことは、遠慮なく聞いてください。

○三分の一以上欠席した場合には、原則として評価の対象外となります。

○授業には、辞書(紙または電子辞書)を持参してください。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

○予習: 指定された場合には、その範囲の未修単語の意味を調べてきてください。

○復習: 授業で取り組んだ問題の見直しを行ってください。また、宿題も復習になります。必ず授業前に余裕をもって取り組んでください。

5. 教科書

iMuy bien! - 朝日出版社 - Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu, 2600円+税。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

中間試験(30%)、期末テスト(40%)、授業参加(20%)、宿題(10%)で評価します。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN141N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スペイン語Ⅱb政

2017～2021年度入学者
スペイン語Ⅱb政

1単位

渡辺有美

1. 授業の概要・到達目標

この授業では、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていきます。

スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とします。

学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受検など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてください。

2. 授業内容

秋学期は、以下の3点の習得を重点課題として、コミュニケーション力が向上するよう授業を行います。

- 1、再帰動詞の理解
- 2、動詞の活用（直説法現在、点過去、線過去、未来、過去未来の規則動詞と不規則動詞）
- 3、過去時制の使い分け

具体的には、主にスペイン語検定5級の範囲を習得します

- 第1回：第13課 春学期の復習、秋学期の授業について
第2回：第14課 直説法点過去
第3回：第15課 直説法線過去
第4回：第16課 直説法未来
第5回：第17課 直説法過去未来
第6回：第18課 直説法現在完了、過去分詞
第7回：第13課～第18課のまとめ、中間試験
第8回：第19課 直説法過去完了
第9回：第20課 接続法現在、接続法現在完了
第10回：第21課 現在分詞、名詞節、形容詞節の接続法
第11回：第22課 副詞節の接続法、命令形
第12回：第23課 接続法過去
第13回：第24課 条件文、接続法過去完了
第14回 a：定期試験
b：秋学期のまとめ

3. 履修上の注意

- ・授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として定期試験の受験はできません。
- ・初習外国語は、自発的かつ継続的な学習で習得度に大きな差が出ます。積極的に授業に参加し、自習する習慣をつけましょう。
- ・辞書とノートを用意することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・授業で出された課題は必ず自力でやってくることを。
- ・授業で文法説明を聞いた後、自分の頭で理解し説明できるぐらいの状態での次の授業に臨むこと。
- ・復習中心でいいが、主体的に授業を受けられるよう、できる限り、テキストの次の学習箇所をあらかじめよく読んで単語等を調べ、

不明な点については質問を準備してくるぐらいの姿勢が望ましい。

5. 教科書

指定教科書：『スペイン語24課[改訂版]!』山村ひろみ著（白水社）

6. 参考書

「文法書が欲しい」「ワーク形式のものが欲しい」などの希望がある方は、相談にのりますので個別にメール連絡ください。

適宜、授業時に紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

・担当教員が、定期試験、中間試験、授業参加度、授業態度、課題提出状況などを総合的に評価します。

・テスト形態はその都度お知らせします。

9. その他

・授業進度に応じて、適宜、「スペイン語技能検定」について紹介します。

・あらゆる連絡・相談については、メールでいつでも受け付けますので、このクラスのことに関しては、まずは担当教員である渡辺まで連絡・相談ください。メールアドレスはOh-o!Meijiでお知らせします。

科目ナンバー (AG)LAN141N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スペイン語Ⅱb化

2017～2021年度入学者
スペイン語Ⅱb化

1 単位

渡辺有美

1. 授業の概要・到達目標

この授業では、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていきます。

スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とします。

学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受験など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてください。

2. 授業内容

秋学期は、以下の3点の習得を重点課題として、コミュニケーション力が向上するよう授業を行います。

- 1、再帰動詞の理解
- 2、動詞の活用（直説法現在、点過去、線過去、未来、過去未来の規則動詞と不規則動詞）
- 3、過去時制の使い分け

第1回：第13課 春学期の復習、秋学期の授業について

第2回：第14課 直説法点過去

第3回：第15課 直説法線過去

第4回：第16課 直説法未来

第5回：第17課 直説法過去未来

第6回：第18課 直説法現在完了、過去分詞

第7回：第13課～第18課のまとめ、中間試験

第8回：第19課 直説法過去完了

第9回：第20課 接続法現在、接続法現在完了

第10回：第21課 現在分詞、名詞節、形容詞節の接続法

第11回：第22課 副詞節の接続法、命令形

第12回：第23課 接続法過去

第13回：第24課 条件文、接続法過去完了

第14回 a：定期試験

b：秋学期のまとめ

3. 履修上の注意

・授業回数の3分の1以上を欠席した場合、原則として定期試験の受験はできません。

・初習外国語は、自発的かつ継続的な学習で習得度に大きな差が出ます。積極的に授業に参加し、自習する習慣をつけましょう。

・辞書とノートを用意することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・授業で出された課題は必ず自力でやってくること。

・授業で文法説明を聞いた後、自分の頭で理解し説明できるぐらいの状態での次の授業に臨むこと。

・復習中心でいいが、主体的に授業を受けられるよう、できる限り、テキストの次の学習箇所をあらかじめよく読んで単語等を調べ、

不明な点については質問を準備してくるぐらいの姿勢が望ましい。

5. 教科書

指定教科書：『スペイン語24課[改訂版]!』山村ひろみ著（白水社）

6. 参考書

「文法書が欲しい」「ワーク形式のものが欲しい」などの希望がある方は、相談にのりますので個別にメール連絡ください。

適宜、授業時に紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

・担当教員が、定期試験、中間試験、授業参加度、授業態度、課題提出状況などを総合的に評価します。

・テスト形態はその都度お知らせします。

9. その他

・授業進度に応じて、適宜、「スペイン語技能検定」について紹介します。

・あらゆる連絡・相談については、メールでいつでも受け付けますので、このクラスのことに関しては、まずは担当教員である渡辺まで連絡・相談ください。メールアドレスはOh-o!Meijiでお知らせします。

科目ナンバー (AG)LAN141N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スペイン語Ⅱb生

2017～2021年度入学者
スペイン語Ⅱb生

1単位

メンドサ

1. 授業の概要・到達目標

この授業では、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形、過去形など新しい時制を中心に学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていきます。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とします。学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受検など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてください。

2. 授業内容

- 第1回：住まいを描写する。家具や電化製品の名前。
- 第2回：場所や存在を示す。ホテルの予約をする。
- 第3回：テスト。定冠詞と不定冠詞。hay（存在を表す）と estar（所在を表す）。
- 第4回：序数詞。スペインの住まい。
- 第5回：テスト。食べる。レストランで食事を注文する。
- 第6回：好みを表現する。gustar 動詞。querer 動詞。
- 第7回：テスト。料理のレシピを理解する。命令形の規則形。
- 第8回：スペイン圏の食習慣。テスト。
- 第9回：テスト。地区。交通機関について情報をやりとりする、指示をする。
- 第10回：命令形、不規則。命令形の用法。ser と estar の用法。
- 第11回：テスト。依頼する。住んでいる地区を描写する。
- 第12回：所有形容詞後置形。テスト。
- 第13回：テスト。スペインの都市。サンティアゴ・デ・コンポステラ。
- 第14回：復習。

3. 履修上の注意

ポケット ブログレッシュ 西和・和西辞典（小学館）。
西和・和西辞典と7mm罫線入り50枚ノートを持参すること。授業中必ず携帯を電源から切ってください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で学習した内容を次回までに復習すること。

5. 教科書

プリント。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

テスト20%と授業の参加度80%により総合的に評価する。

9. その他

科 目 名	単 位 数	担 当 者
スペイン語Ⅲについて	各1単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>スペイン語をさらに深く学びたい人のために、自由選択科目として設けられています。二年次から四年次までのどの時期にも履習でき、重複履習が可能です。大学生らしい語学授業の楽しみを味わうことのできる科目です。</p> <p>農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>一年次の学習の足りなかったところを補い、さらにスペイン語の運用能力を高めるため、一年次の学習を基礎に、コミュニケーション能力の開発、中級から上級テキストの講読など受講生の希望も取り入れながら、ことばの背景となる「文化」の理解にも踏み込んだ授業が行われます。</p> <p>具体的な授業内容に関しては該当科目のシラバスを参照してください。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>語学の授業なので予習することが必要です。そして自分なりの目標をたてることがそれを容易にしてくれるものと思います。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「スペイン語会話」についての説明も参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG) LAN241N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スペイン語Ⅲ(1)

1 単位

メンドサ

2017~2021 年度入学者
スペイン語Ⅲ(1)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スペイン語文法を基本とし、簡単な日常会話に親しみ、コミュニケーションのためのスペイン語力を習得すること。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

《授業の概要》

文法の総復習をしながら、直接法のあらゆる動詞の活用を駆使し、簡単な日常会話レベルのスペイン語力をつけられるよう、練習していきます。

2. 授業内容

- 第1回：友達と出かける。電話で話す。約束をする。
- 第2回：進行中の動作をする。お願いする。住んでいる地区を描写する。
- 第3回：文化について、スペイン語圏の若者の余暇の過ごし方。
- 第4回：休暇。生き方を尋ねる。教える、過去（昨日）のことを話す。
- 第5回：天候について話す。一年の月や季節。
- 第6回：文化について、スペインで休暇を過ごす。
- 第7回：料理のレシピを理解する。命令形の規則形。
- 第8回：スペイン圏の食習慣。
- 第9回：買い物で使う表現：色、洋服について描写する。比較をする。
- 第10回：命令形、不規則。命令形の用法。ser と estar の用法。
- 第11回：健康と病気。体の都立や病気について話す。
- 第12回：過去の習慣について話す。
- 第13回：これからのプランやしたいことについて話す。
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

ポケット プログレッシブ 西和・和西辞典（小学館）。

西和・和西辞典と7mm 罫線入り50枚ノートを持参すること。授業中必ず携帯を電源から切ってください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で学習した内容を次回までに復習しておくこと。

5. 教科書

プリントを配る

6. 参考書

『ポケット プログレッシブ 西和・和西辞典』（小学館）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

評価は授業の課題100%により総合的に行う。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN241N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スペイン語Ⅲ(2)

1 単位

メンドサ

2017~2021 年度入学者
スペイン語Ⅲ(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

全ての文法項目を含めたスペイン語の総復習をし、文法を全体的にみながら、スペイン語力を向上させることを目的とする。
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

《授業の概要》

文法の総復習をしながら、直接法のあらゆる動詞の活用を駆使し、簡単な日常会話レベルのスペイン語力をつけられるよう、練習していきます。

2. 授業内容

- 第1回：現在分詞。紹介する。待ち合わせる。賛成と断る返事。
- 第2回：外見や性格を描写する。
- 第3回：形容詞と反対。若者の関心。週末の時間の過ごし方。ト。
- 第4回：店の名前。点過去。過去の話。天気について話す。
- 第5回：メキシコの祭り：カルナバル、聖週間、お盆、クリスマスと正月。
- 第6回：夏休みについての手紙。スペインでの休暇。
- 第7回：直接目的・間節目的格。装いについて述べる。
- 第8回：比較級。指示代名詞。
- 第9回：好きなこと。絵について。ピカソのゲルニカ。
- 第10回：体の部分。痛みについての表現。
- 第11回：住んでいた地区の描写。線過去の使い方。
- 第12回：インカ文明について。山への旅。習慣について話す。
- 第13回：スペインの都市。バルセロナ。
- 第14回：復習。

3. 履修上の注意

ポケット プログレッシブ 西和・和西辞典(小学館)。
西和・和西辞典と7mm 罫線入り50枚ノートを持参すること。授業中必ず携帯を電源から切ってください。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

授業で学習した内容を次回までに復習しておくこと。

5. 教科書

プリントを配る

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

評価は授業の課題100%により総合的に行う。

9. その他

科 目 名	単 位 数	担 当 者
中国語Ⅰについて	各1単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>《授業の達成目標及びテーマ》</p> <p>これまで日本は欧米ばかりに目を向け、近隣アジアを軽視してきたという考えは、もはや時代遅れになっているといえます。日本人はアジアの一員でありながら、意外なほどアジアを知らずに過ごしてきましたが、現在特に中国が世界のなかで占める役割の重要さはみなさんのよく知るところです。今、盛んな日中両国の交流の中で、中国語に熟達した人材が強く求められています。この授業は基礎的な中国語を修得するとともに、中国やアジアに深い理解と鋭い洞察力をもつ人間を育成することを目標にしています。</p> <p>農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>中国語Ⅰ 原則として文法に重点をおきます。</p> <p>しかし中国語Ⅰも中国語Ⅱもゼロからスタートする人を対象としますので、中国語を学ぶ初歩として、中国語の発音体系—ピンイン、中国語の表記文字—簡体字を始め、初級文法、基本文型などの習得は不可欠です。したがって、いずれの場合も、発音、系統的な文法、初歩的な会話、平易な文章の読解など、総合的な中国語の基礎学力を養います。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。</p> <p>「中国語語Ⅰ a」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「中国語語Ⅰ a」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p> <p>「中国語語Ⅰ b」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「中国語語Ⅰ b」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>各科目の担当者の指示に従って下さい。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>各担当教員が選定します。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>各担当教員が紹介します。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示にしたがってください。</p> <p>◎春学期・秋学期の筆記試験</p> <p>◎各担当教員による発音・暗唱・ヒアリング・単語などの小テストや作文などの課題</p> <p>◎平常点などにより評価します。</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「中国語会話」、夏期に実施される「中国語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語 I a 農

1 単位

陳英招

2017～2021 年度入学者
中国語 I a 農

1. 授業の概要・到達目標

中国語初級の授業です。

〈授業の概要〉

発音から習い、ピーイン表現の規則を覚えます。

練習を繰り返し、正確な発音を習得します。

基礎的な文法を学び、基本文型を理解して、

簡単な日常会話ができるように進めていきます。

〈到達目標〉

(1) 基本的な発音規則と簡単なフレーズを覚えます。

(2) 中国語の構文と語順等の基礎的な文法を学びます。

(3) 平易な中国語の日常会話を習得します。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、

学習・教育目標の A に対応する科目となります。

2. 授業内容

第 1 回 導入・発音

第 2 回 第一課

第 3 回 第二課

第 4 回 第三課

第 5 回 第四課

第 6 回 第五課

第 7 回 復習

第 8 回 第六課

第 9 回 第七課

第 10 回 第八課

第 11 回 第九課

第 12 回 第十課

第 13 回 総復習

第 14 回 a:まとめ、b:試験。

3. 履修上の注意

第 1 回目の授業までに教科書を購入すること。

欠席せず積極的に取り組むことを期待しています。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習を必ず行ってください。

5. 教科書

《 実学実用 初級中国語 》 朝日出版社

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験の成績 60%、受講態度 40% とします。

9. その他

科目ナンバー (AG) LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語 I a 政

1 単位

顧銘

2017~2021 年度入学者
中国語 I a 政

1. 授業の概要・到達目標

中国語の発音をはじめ、基本的な語彙および基礎的な文法事項を習得します。さらに初歩的な日常会話を通して、中国語で簡単なやり取りができる程度の語彙・表現力を身につけ、基礎をしっかりと鍛えていきます。原則として会話に重点をおきます。

初めの3-4回は中国語表音ローマ字（ピンイン）の読み方やつづり方を学びます。その後の授業の進め方と内容はテキストに沿って以下の要領で行います。

- 新出単語や句の読み方および意味は授業前に予習しておき、毎回授業の最初に受講者が発音してみます。その後、正しい発音を指導します。
- 文法ポイントについて説明し、反復練習によって学習内容を確実に身につけます。
- 学習ポイントに基づいた練習問題によって理解度と習得度を確認します。

2. 授業内容

第1回：発音1

第2回：発音2

第3回：発音3

第4回：復習1 発音総復習

第5回：第1課 職業、国／よろしく

第6回：第2課 大学生活／あなたはどこに行きますか

第7回：第3課 持ち物／これはなんですか

第8回：第4課 数量詞／あなたは授業がありますか

第9回：第5課 場所／あなたは家はどこにありますか

第10回：復習2・テスト

第11回：第6課 夏休み／夏休みあなたは何をしましたか

第12回：第7課 食べ物・飲み物／誕生日おめでとう

第13回：復習3・テスト

第14回：まとめ

(授業の進みぐあいによってスケジュールが変更になる場合もあります。)

3. 履修上の注意

単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えましょう。授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認しましょう。

5. 教科書

『シンプルチャイニーズ 東京（会話篇）』西早稲田中国語部会、朝日出版社 ISBN：978-4-255-45279-1

6. 参考書

推奨参考辞書

『中日辞書』『日中辞書』を格納した電子辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

- ① 平常点（学習意欲、履修態度など）：20%
- ② テスト（単語、音読）：80%

9. その他

一年生の皆さんは他の科目を履修しなければならず、初めての大学生活は忙しいかもしれないが、毎回の授業に積極的に取り組み、100分間の授業を無駄にしないよう集中し有効にしてください。忙しい大学生活の中で、時間をうまく活用して学習を積み重ねていけば、中国語力はきっと上達します。頑張ってください。

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語 I a 化

2017~2021 年度入学者
中国語 I a 化

1 単位

中本梅衣

1. 授業の概要・到達目標

中国語を初めて学ぶ学生を対象として楽しみながら学び、後期の中国語Ⅱにつなげていく。

到達目標は、(1) ピンイン(発音表記)と正確な発音の習得、(2) 日常生活で使われる基本的な単語と会話文の習得、(3) 初歩的な文法力を身につけることに置く。

中国語は特に発音が命なので、間違えてもいいから大きな声を出して発音してもらおう。語彙・文法を学ぶために教科書の表現を暗記する。中国の文化・社会についても随時取り上げる。

2. 授業内容

第1回： オリエンテーション 年間授業の計画についての説明と指示。

第2回： 発音1 ピンイン、声調、単母音。

第3回： 発音2 子音。

第4回： 発音3 複合母音(前半)。

第5回： 発音4 複合母音(後半)と挨拶言葉。

第6回： 発音小テストと第一課「学習の要点と文型練習」。

第7回： 第一課本文と練習問題、副课文。

第8回： 第二課「学習の要点と文型練習」。

第9回： 第二課本文と練習問題、副课文。

第10回： 第三課「学習の要点と文型練習」。

第11回： 第三課本文と練習問題、副课文。

第12回： 第四課「学習の要点と文型練習」。

第13回： 第四課本文と練習問題、副课文。

第14回： 期末試験。

3. 履修上の注意

1 5回及びそれ以上欠席した者は単位取得を認めない。

2 欠席・遅刻した者は一回あたり5点の減点とする。

3 宿題も評価の対象になる。

4 辞書を必ず用意すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

毎回教科書の予習と復習をして下さい。

毎回教員が出した補充問題もやって下さい。

5. 教科書

『初級中国語 花ばな 一改訂版』池上貞子ほか、朝日新聞社、2200円。

6. 参考書

『中日辞典』・『日中辞典』は必需品!電子辞書を勧める。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

宿題15%、学習態度15%、小テスト30%、期末試験40%。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語 I a 生

2017~2021 年度入学者
中国語 I a 生

1 単位

陳英招

1. 授業の概要・到達目標

中国語初級の授業です。

〈授業の概要〉

発音から習い、ピーイン表現の規則を覚えます。

練習を繰り返し、正確な発音を習得し、基礎的な文法を学びます。

基本文型を理解して、簡単な日常会話ができるように進めていきます。

〈到達目標〉

- (1) 基本的な発音規則と簡単なフレーズを覚えます。
- (2) 中国語の構文と語順等の基礎的な文法を学びます。
- (3) 平易な中国語の日常会話を習得します。

2. 授業内容

- 第1回 導入・発音
- 第2回 第一課
- 第3回 第二課
- 第4回 第三課
- 第5回 第四課
- 第6回 第五課
- 第7回 復習
- 第8回 第六課
- 第9回 第七課
- 第10回 第八課
- 第11回 第九課
- 第12回 第十課
- 第13回 総復習
- 第14回 a:まとめ、b:試験。

3. 履修上の注意

第1回目の授業までに教科書を購入すること。
欠席せず積極的に取り組むことを期待しています。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習を必ず行ってください。

5. 教科書

《実学実用 初級中国語》 朝日出版社

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験の成績60%、受講態度40%とします。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語 I b 農

1 単位

陳英招

2017～2021 年度入学者
中国語 I b 農

1. 授業の概要・到達目標

中国語初級の秋学期の授業です。

〈授業の概要〉

春学期で習得した発音・語彙・文法の基礎固めをしながら、初歩的な会話能力を養います。

正確な発音の定着に留意しながら、語彙を増やします。

基本文型を覚え、簡単な会話ができるように進めていきます。

〈到達目標〉

(1) 基本的な単語と簡単なフレーズを言えるようになること。

(2) 基礎的構文と語順を把握できるようになること。

(3) 簡単な日常会話ができるようになること。

2. 授業内容

第1回 春学期の復習

第2回 第11課

第3回 第12課

第4回 第13課

第5回 第14課

第6回 第15課

第7回 復習

第8回 第16課

第9回 第17課

第10回 第18課

第11回 第19課

第12回 第20課

第13回 総復習

第14回 a:まとめ、b:試験。

3. 履修上の注意

教科書を購入すること。

欠席せず積極的に取り組むことを期待しています。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習を必ず行ってください。

5. 教科書

《実学実用 初級中国語》 朝日出版社

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験の成績 60%、受講態度 40% とします。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 中国語 I b 政	1 単位	顧銘
2017~2021 年度入学者 中国語 I b 政		

1. 授業の概要・到達目標

春学期に引続き、基本的な語彙および基礎的な文法事項を習得させ、さらに初歩的な日常会話を通して、基礎をしっかりと鍛えていきます。今後、中国語の読む、聞く、話す、表現する力を養うための基礎を育むことを目的とします。原則として会話に重点をおきます。

授業の進め方と内容はテキストに沿って以下の要領で行います。

→新出単語や語句の読み方および意味は授業前に予習しておき、毎回授業の最初に受講者が発音してみます。その後、正しい発音を指導します。

→文法ポイントについて説明し、そして反復練習によって学習内容を確実に身につけます。

→学習ポイントに基づいた練習問題によって理解度と習得度を確認します。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：第8課 スポーツ／あなたは卓球ができますか
- 第2回：第8課 復習・応用練習
- 第3回：第9課 季節／味はどうですか
- 第4回：第9課 復習・応用練習
- 第5回：第10課 私の一日／私の家は学校からあまり遠くありません
- 第6回：第10課 復習・応用練習&テスト
- 第7回：第11課 好きなこと／あなたは何をしていますか
- 第8回：第11課 復習・応用練習
- 第9回：第12課 結果補語／あなたは準備が出来ましたか
- 第10回：第12課 復習・応用練習 中間テスト
- 第11回：第13課 交通手段／あなたはいつ北京に到着したのですか
- 第12回：第13課 復習・応用練習
- 第13回：復習2&テスト
- 第14回：まとめ

(授業の進みぐあいによってスケジュールが変更になる場合もあります。)

3. 履修上の注意

単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えましょう。授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認しましょう。

5. 教科書

『シンプルチャイニーズ 東京（会話篇）』西早稲田中国語部会、朝日出版社 ISBN：978-4-255-45279-1

6. 参考書

推奨参考辞書

『中日辞書』『日中辞書』を格納した電子辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

- ① 平常点（学習意欲、履修態度など）：20%
- ② テスト（単語、音読）：80%

9. その他

一年生の皆さんは他の科目を履修しなければならず、初めての大学生活は忙しいかもしれないが、毎回の授業に積極的に取り組み、100分間の授業を無駄にしないよう集中し有効にしてください。忙しい大学生活の中で、時間をうまく活用して学習を積み重ねていけば、中国語力はきっと上達します。頑張ってください。

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語 I b 化

2017~2021 年度入学者
中国語 I b 化

1 単位

中本梅衣

1. 授業の概要・到達目標

中国語 I a を学んだ学生を対象とし、より中国語の能力を高める。

達成目標は、(1) 語彙を増やすこと、(2) 多様な場面における会話表現の習得、(3) 辞書を使いながら読み書き能力を習得することである。

中国語 I の復習として、発音と基本的な表現の再確認をする。色々な会話表現を学びながら、語彙数を増やし、文法力を高める。辞書の使い方を学び、読解・作文能力を習得する。中国語でメールのやりとりもできるようにする。

2. 授業内容

- 第1回：第五課「学習の要点と文型練習」。
- 第2回： 第五課本文と練習問題、副課文。
- 第3回： 第六課「学習の要点と文型練習」。
- 第4回： 第六課本文と練習問題、副課文。
- 第5回： 第七課「学習の要点と文型練習」。
- 第6回： 第七課本文と練習問題、副課文。
- 第7回： 作文の発表会。
- 第8回： 第八課「学習の要点と文型練習」。
- 第9回：第八課本文と練習問題、副課文。
- 第10回：第九課「学習の要点と文型練習」。
- 第11回：第九課本文と練習問題、副課文。
- 第12回：第十課「学習の要点と文型練習」。
- 第13回：第十課本文と練習問題、副課文。
- 第14回：期末試験。

3. 履修上の注意

- 1 5回及びそれ以上欠席した者は単位取得を認めない。
- 2 欠席・遅刻した者は一回あたり5点の減点とする。
- 3 宿題も評価の対象になる。
- 4 辞書を必ず用意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- 1 毎回教科書の予習と復習をして下さい。
- 2 毎回教員が出した補充問題もやって下さい。

5. 教科書

『初級中国語 花ばな 一改訂版』池上貞子ほか、朝日新聞社、2200 円。

6. 参考書

『中日辞典』・『日中辞典』は必需品！電子辞書を勧める。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

宿題 15%、学習態度 15%、小テスト 30%、期末試験 40%。

9. その他

特になし。

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語 I b 生

1 単位

陳英招

2017~2021 年度入学者
中国語 I b 生

1. 授業の概要・到達目標

中国語初級の秋学期の授業です。

〈授業の概要〉

春学期で習得した発音・語彙・文法の基礎固めをしながら、初歩的な会話能力を養います。

正確な発音の定着に留意しながら、語彙を増やします。

基本文型を覚え、簡単な会話ができるように進めていきます。

〈到達目標〉

(1) 基本的な単語と簡単なフレーズを言えるようになること。

(2) 基礎的構文と語順を把握できるようになること。

(3) 簡単な日常会話ができるようになること。

2. 授業内容

第1回 春学期の復習

第2回 第11課

第3回 第12課

第4回 第13課

第5回 第14課

第6回 第15課

第7回 復習

第8回 第16課

第9回 第17課

第10回 第18課

第11回 第19課

第12回 第20課

第13回 総復習

第14回 a:まとめ、b:試験。

3. 履修上の注意

教科書を購入すること。

欠席せず積極的に取り組むことを期待しています。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習を必ず行ってください。

5. 教科書

《実学実用 初級中国語》 朝日出版社

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験の成績 60%、受講態度 40% とします。

9. その他

科 目 名	単位数	担当者
中国語Ⅱについて	各1単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>《授業の達成目標及びテーマ》</p> <p>これまで日本は欧米ばかりに目を向け、近隣アジアを軽視してきたという考えは、もはや時代遅れになっているといえます。日本人はアジアの一員でありながら、意外なほどアジアを知らずに過ごしてきましたが、現在特に中国が世界のなかで占める役割の重要性はみなさんのよく知るところです。今、盛んな日中両国の交流の中で、中国語に熟達した人材が強く求められています。この授業は基礎的な中国語を修得するとともに、中国やアジアに深い理解と鋭い洞察力をもつ人間を育成することを目標にしています。</p> <p>農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>中国語Ⅱ 原則として文法に重点をおきます。</p> <p>しかし中国語Ⅰも中国語Ⅱもゼロからスタートする人を対象としますので、中国語を学ぶ初歩として、中国語の発音体系—ピンイン、中国語の表記文字—簡体字を始め、初級文法、基本文型などの習得は不可欠です。したがって、いずれの場合も、発音、体系的な文法、初歩的な会話、平易な文章の読解など、総合的な中国語の基礎学力を養います。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>必修単位が修得できなかった場合は、次のとおりです。</p> <p>「中国語Ⅱ a」の単位が修得できなかった場合、次年度以降の「中国語Ⅱ a」の授業（学科は問いません）から1つを選択し、所定の単位数を修得しなければなりません。</p> <p>「中国語Ⅱ b」の単位が修得できなかった場合も同様で、次年度以降の「中国語Ⅱ b」の授業を再履修し、所定の単位数を取得しなければなりません。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>各科目の担当者の指示に従って下さい。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>各担当教員が選定します。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>各担当教員が紹介します。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎春学期・秋学期の筆記試験 ◎各担当教員による発音・暗唱・ヒアリング・単語などの小テストや作文などの課題 ◎平常点などにより評価します。 		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「中国語会話」、夏期に実施される「中国語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語Ⅱa 農

2017～2021 年度入学者
中国語Ⅱa 農

1 単位

顧銘

1. 授業の概要・到達目標

中国語の発音をはじめ、基本的な語彙および基礎的な文法事項を習得します。さらに初歩的な日常会話を通して、中国語で簡単なやり取りができる程度の語彙・表現力を身につけ、基礎をしっかりと鍛えていきます。原則として文法に重点をおきます。

初めの3-4回は中国語表音ローマ字（ピンイン）の読み方やつづり方を学びます。その後の授業の進め方と内容はテキストに沿って以下の要領で行います。

- 新出単語や句の読み方および意味は授業前に予習しておき、毎回授業の最初に受講者が発音してみます。その後、正しい発音を指導します。
- 文法ポイントについて説明し、反復練習によって学習内容を確実に身につけます。
- 学習ポイントに基づいた練習問題によって理解度と習得度を確認します。

2. 授業内容

第1回：授業ガイダンス（授業の進め方について）

第2回：発音1

第3回：発音2

第4回：発音3

第5回：総合練習：発音

第6回：第1課（1）人称代名詞／（2）“是”の文／（3）疑問文（1）／（4）所有・所属の“的”

第7回：第2課（1）指示詞（1）／（2）形容詞述語文／（3）疑問文（2）／（4）“的”の省略

第8回：第3課（1）動詞述語文／（2）指示詞（2）／（3）疑問文（3）／（4）疑問文（4）

第9回：中間テスト

第10回：第4課（1）動詞の“在”／（2）前置詞の“在”／（3）数の言い方（1）／（4）前置詞“从”と“到”

第11回：第5課（1）所有を表す“有”／（2）語気助詞“吧”主な用法／（3）数詞と助数詞（量詞）／（4）“几”と“多少”

第12回：第6課（1）存在を表す“有”人称代名詞／（2）疑問文（5）／（3）連動文／（4）助動詞“要”

第13回：期末テスト

第14回：まとめ

（授業の進みぐあいによってスケジュールが変更になる場合もあります。）

3. 履修上の注意

単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えましょう。授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認しましょう。

5. 教科書

『楽しく学ぶチャイニーズ』顧銘、私家版

（※教科書の販売については、別途初回授業時に指示します）

6. 参考書

推奨参考辞書

『中日辞書』『日中辞書』を格納した電子辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

① 平常点（学習意欲、履修態度など）：20%

② テスト：80%

9. その他

一年生の皆さんは他の科目を履修しなければならず、初めての大学生活は忙しいかもしれないが、毎回の授業に積極的に取り組み、100分間の授業を無駄にしないよう集中し有効にしてください。忙しい大学生活の中で、時間をうまく活用して学習を積み重ねていけば、中国語力はきっと上達します。頑張ってください。

科目ナンバー (AG) LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語Ⅱa 政

2017～2021 年度入学者
中国語Ⅱa 政

1 単位

顧銘

1. 授業の概要・到達目標

中国語の発音をはじめ、基本的な語彙および基礎的な文法事項を習得します。さらに初歩的な日常会話を通して、中国語で簡単なやり取りができる程度の語彙・表現力を身につけ、基礎をしっかりと鍛えていきます。原則として文法に重点をおきます。

初めの3-4回は中国語表音ローマ字（ピンイン）の読み方やつづり方を学びます。その後の授業の進め方と内容はテキストに沿って以下の要領で行います。

- 新出単語や句の読み方および意味は授業前に予習しておき、毎回授業の最初に受講者が発音してみます。その後、正しい発音を指導します。
- 文法ポイントについて説明し、反復練習によって学習内容を確実に身につけます。
- 学習ポイントに基づいた練習問題によって理解度と習得度を確認します。

2. 授業内容

第1回：授業ガイダンス（授業の進め方について）

第2回：発音1

第3回：発音2

第4回：発音3

第5回：総合練習：発音

第6回：第1課（1）人称代名詞／（2）“是”の文／（3）疑問文（1）／（4）所有・所属の“的”

第7回：第2課（1）指示詞（1）／（2）形容詞述語文／（3）疑問文（2）／（4）“的”の省略

第8回：第3課（1）動詞述語文／（2）指示詞（2）／（3）疑問文（3）／（4）疑問文（4）

第9回：中間テスト

第10回：第4課（1）動詞の“在”／（2）前置詞の“在”／（3）数の言い方（1）／（4）前置詞“从”と“到”

第11回：第5課（1）所有を表す“有”／（2）語気助詞“吧”主な用法／（3）数詞と助数詞（量詞）／（4）“几”と“多少”

第12回：第6課（1）存在を表す“有”人称代名詞／（2）疑問文（5）／（3）連動文／（4）助動詞“要”

第13回：期末テスト

第14回：まとめ

（授業の進みぐあいによってスケジュールが変更になる場合もあります。）

3. 履修上の注意

単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えましょう。授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認しましょう。

5. 教科書

『楽しく学ぶチャイニーズ』顧銘、私家版

（※教科書の販売については、別途初回授業時に指示します）

6. 参考書

推奨参考辞書

『中日辞書』『日中辞書』を格納した電子辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

① 平常点（学習意欲、履修態度など）：20%

② テスト：80%

9. その他

一年生の皆さんは他の科目を履修しなければならず、初めての大学生活は忙しいかもしれないが、毎回の授業に積極的に取り組み、100分間の授業を無駄にしないよう集中し有効にしてください。忙しい大学生活の中で、時間をうまく活用して学習を積み重ねていけば、中国語力はきっと上達します。頑張ってください。

科目ナンバー (AG) LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語Ⅱa 化

2017～2021 年度入学者
中国語Ⅱa 化

1 単位

顧銘

1. 授業の概要・到達目標

中国語の発音をはじめ、基本的な語彙および基礎的な文法事項を習得します。さらに初歩的な日常会話を通して、中国語で簡単なやり取りができる程度の語彙・表現力を身につけ、基礎をしっかりと鍛えていきます。原則として文法に重点をおきます。

初めの3-4回は中国語表音ローマ字（ピンイン）の読み方やつづり方を学びます。その後の授業の進め方と内容はテキストに沿って以下の要領で行います。

- 新出単語や句の読み方および意味は授業前に予習しておき、毎回授業の最初に受講者が発音してみます。その後、正しい発音を指導します。
- 文法ポイントについて説明し、反復練習によって学習内容を確実に身につけます。
- 学習ポイントに基づいた練習問題によって理解度と習得度を確認します。

2. 授業内容

第1回：授業ガイダンス（授業の進め方について）

第2回：発音1

第3回：発音2

第4回：発音3

第5回：総合練習：発音

第6回：第1課（1）人称代名詞／（2）“是”の文／（3）疑問文（1）／（4）所有・所属の“的”

第7回：第2課（1）指示詞（1）／（2）形容詞述語文／（3）疑問文（2）／（4）“的”の省略

第8回：第3課（1）動詞述語文／（2）指示詞（2）／（3）疑問文（3）／（4）疑問文（4）

第9回：中間テスト

第10回：第4課（1）動詞の“在”／（2）前置詞の“在”／（3）数の言い方（1）／（4）前置詞“从”と“到”

第11回：第5課（1）所有を表す“有”／（2）語気助詞“吧”主な用法／（3）数詞と助数詞（量詞）／（4）“几”と“多少”

第12回：第6課（1）存在を表す“有”人称代名詞／（2）疑問文（5）／（3）連動文／（4）助動詞“要”

第13回：期末テスト

第14回：まとめ

（授業の進みぐあいによってスケジュールが変更になる場合もあります。）

3. 履修上の注意

単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えましょう。授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認しましょう。

5. 教科書

『楽しく学ぶチャイニーズ』顧銘、私家版

（※教科書の販売については、別途初回授業時に指示します）

6. 参考書

推奨参考辞書

『中日辞書』『日中辞書』を格納した電子辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

① 平常点（学習意欲、履修態度など）：20%

② テスト：80%

9. その他

一年生の皆さんは他の科目を履修しなければならず、初めての大学生活は忙しいかもしれないが、毎回の授業に積極的に取り組み、100分間の授業を無駄にしないよう集中し有効にしてください。忙しい大学生活の中で、時間をうまく活用して学習を積み重ねていけば、中国語力はきっと上達します。頑張ってください。

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
中国語Ⅱa 生

2017～2021 年度入学者
中国語Ⅱa 生

1 単位

中本梅衣

1. 授業の概要・到達目標

中国語を初めて学ぶ学生を対象として楽しみながら学び、後期の中国語Ⅱにつなげていく。

到達目標は、(1) ピンイン(発音表記)と正確な発音の習得、(2) 日常生活で使われる基本的な単語と会話文の習得、(3) 初歩的な文法力を身につけることに置く。

中国語は特に発音が命なので、間違えてもいいから大きな声を出して発音してもらう。語彙・文法を学ぶために教科書の表現を暗記する。中国の文化・社会についても随時取り上げる。

2. 授業内容

第1回： オリエンテーション 年間授業の計画についての説明と指示。

第2回： 発音1 ピンイン、声調、単母音。

第3回： 発音2 子音。

第4回： 発音3 複合母音(前半)。

第5回： 発音4 複合母音(後半)と挨拶言葉。

第6回： 発音小テストと第一課「学習の要点と文型練習」。

第7回： 第一課本文と練習問題、副课文。

第8回： 第二課「学習の要点と文型練習」。

第9回： 第二課本文と練習問題、副课文。

第10回： 第三課「学習の要点と文型練習」。

第11回： 第三課本文と練習問題、副课文。

第12回： 第四課「学習の要点と文型練習」。

第13回： 第四課本文と練習問題、副课文。

第14回： 期末試験。

3. 履修上の注意

1 5回及びそれ以上欠席した者は単位取得を認めない。

2 欠席・遅刻した者は一回あたり5点の減点とする。

3 宿題も評価の対象になる。

4 辞書を必ず用意すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

毎回教科書の予習と復習をして下さい。

毎回教員が出した補充問題もやって下さい。

5. 教科書

『初級中国語 花ばな 一改訂版』池上貞子ほか、朝日新聞社、2200円。

6. 参考書

『中日辞典』・『日中辞典』は必需品!電子辞書を勧める。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

宿題15%、学習態度15%、小テスト30%、期末試験40%。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 中国語Ⅱb 農	1 単位	顧銘
2017～2021 年度入学者 中国語Ⅱb 農		

1. 授業の概要・到達目標

春学期に引続き、基本的な語彙および基礎的な文法事項を習得させ、さらに初歩的な日常会話を通して、基礎をしっかりと鍛えていきます。今後、中国語の読む、聞く、話す、表現する力を養うための基礎を育むことを目的とします。原則として文法に重点をおきます。

授業の進め方と内容はテキストに沿って以下の要領で行います。

→新出単語や語句の読み方および意味は授業前に予習しておき、毎回授業の最初に受講者が発音してみます。その後、正しい発音を指導します。

→文法ポイントについて説明し、そして反復練習によって学習内容を確実に身につけます。

→学習ポイントに基づいた練習問題によって理解度と習得度を確認します。

2. 授業内容

第1回：第7課 (1) 完了の“了” / (2) 助動詞“能”、“会”、“可以” / (3) 動作量 / (4) 前置詞“从”と“到”

第2回：第7課の復習・応用練習

第3回：第8課 (1) 進行を表す“在” / (2) 助動詞“想” / (3) 動詞の重ね型 / (4) 前置詞の“给”

第4回：第8課の復習・応用練習

第5回：第9課 (1) 経験・終結を表す“过” / (2) 変化を表す“了” / (3) 離合動詞 / (4) 結果補語

第6回：第9課の復習・応用練習

第7回：第10課 (1) 方向補語 / (2) 比較表現 / (3) “(是)…的”の構文 / (4) 様態補語

第8回：第10課の復習・応用練習

第9回：第11課 (1) 動詞の連体修飾 / (2) 二重目的語をとる動詞 / (3) “一点儿”と“有点儿” / (4) 可能性を表す“会”

第10回：第11課の復習・応用練習

第11回：第12課 (1) 前置詞“离” / (2) 近い未来の表現 / (3) 持続の“着” / (4) 副詞“就”主な用法

第12回：第12課の復習・応用練習

第13回：テスト

第14回：まとめ

(授業の進みぐあいによってスケジュールが変更になる場合もあります。)

3. 履修上の注意

単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えましょう。授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認しましょう。

5. 教科書

『楽しく学ぶチャイニーズ』顧銘、私家版

(※ 教科書の販売については、別途初回授業時に指示します)

6. 参考書

推奨参考辞書

『中日辞書』『日中辞書』を格納した電子辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

① 平常点（学習意欲、履修態度など）：20%

② テスト：80%

9. その他

一年生の皆さんは他の科目を履修しなければならず、初めての大学生活は忙しいかもしれないが、毎回の授業に積極的に取り組み、100分間の授業を無駄にしないよう集中し有効にしてください。忙しい大学生活の中で、時間をうまく活用して学習を積み重ねていけば、中国語力はきっと上達します。頑張ってください。

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 中国語Ⅱb 政	1 単位	顧銘
2017～2021 年度入学者 中国語Ⅱb 政		

1. 授業の概要・到達目標

春学期に引続き、基本的な語彙および基礎的な文法事項を習得させ、さらに初歩的な日常会話を通して、基礎をしっかりと鍛えていきます。今後、中国語の読む、聞く、話す、表現する力を養うための基礎を育むことを目的とします。原則として文法に重点をおきます。

授業の進め方と内容はテキストに沿って以下の要領で行います。

→新出単語や語句の読み方および意味は授業前に予習しておき、毎回授業の最初に受講者が発音してみます。その後、正しい発音を指導します。

→文法ポイントについて説明し、そして反復練習によって学習内容を確実に身につけます。

→学習ポイントに基づいた練習問題によって理解度と習得度を確認します。

2. 授業内容

第1回：第7課 (1) 完了の“了” / (2) 助動詞“能”、“会”、“可以” / (3) 動作量 / (4) 前置詞“从”と“到”

第2回：第7課の復習・応用練習

第3回：第8課 (1) 進行を表す“在” / (2) 助動詞“想” / (3) 動詞の重ね型 / (4) 前置詞の“给”

第4回：第8課の復習・応用練習

第5回：第9課 (1) 経験・終結を表す“过” / (2) 変化を表す“了” / (3) 離合動詞 / (4) 結果補語

第6回：第9課の復習・応用練習

第7回：第10課 (1) 方向補語 / (2) 比較表現 / (3) “(是)…的”の構文 / (4) 様態補語

第8回：第10課の復習・応用練習

第9回：第11課 (1) 動詞の連体修飾 / (2) 二重目的語をとる動詞 / (3) “一点儿”と“有点儿” / (4) 可能性を表す“会”

第10回：第11課の復習・応用練習

第11回：第12課 (1) 前置詞“离” / (2) 近い未来の表現 / (3) 持続の“着” / (4) 副詞“就”主な用法

第12回：第12課の復習・応用練習

第13回：テスト

第14回：まとめ

(授業の進みぐあいによってスケジュールが変更になる場合もあります。)

3. 履修上の注意

単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えましょう。授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認しましょう。

5. 教科書

『楽しく学ぶチャイニーズ』顧銘、私家版

(※ 教科書の販売については、別途初回授業時に指示します)

6. 参考書

推奨参考辞書

『中日辞書』『日中辞書』を格納した電子辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

① 平常点（学習意欲、履修態度など）：20%

② テスト：80%

9. その他

一年生の皆さんは他の科目を履修しなければならず、初めての大学生活は忙しいかもしれないが、毎回の授業に積極的に取り組み、100分間の授業を無駄にしないよう集中し有効にしてください。忙しい大学生活の中で、時間をうまく活用して学習を積み重ねていけば、中国語力はきっと上達します。頑張ってください。

科目ナンバー (AG)LAN161N

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 中国語Ⅱb化	1 単位	顧銘
2017～2021年度入学者 中国語Ⅱb化		

1. 授業の概要・到達目標

春学期に引続き、基本的な語彙および基礎的な文法事項を習得させ、さらに初歩的な日常会話を通して、基礎をしっかりと鍛えていきます。今後、中国語の読む、聞く、話す、表現する力を養うための基礎を育むことを目的とします。原則として文法に重点をおきます。

授業の進め方と内容はテキストに沿って以下の要領で行います。

→新出単語や語句の読み方および意味は授業前に予習しておき、毎回授業の最初に受講者が発音してみます。その後、正しい発音を指導します。

→文法ポイントについて説明し、そして反復練習によって学習内容を確実に身につけます。

→学習ポイントに基づいた練習問題によって理解度と習得度を確認します。

2. 授業内容

第1回：第7課 (1) 完了の“了” / (2) 助動詞“能”、“会”、“可以” / (3) 動作量 / (4) 前置詞“从”と“到”

第2回：第7課の復習・応用練習

第3回：第8課 (1) 進行を表す“在” / (2) 助動詞“想” / (3) 動詞の重ね型 / (4) 前置詞の“给”

第4回：第8課の復習・応用練習

第5回：第9課 (1) 経験・終結を表す“过” / (2) 変化を表す“了” / (3) 離合動詞 / (4) 結果補語

第6回：第9課の復習・応用練習

第7回：第10課 (1) 方向補語 / (2) 比較表現 / (3) “(是)…的”の構文 / (4) 様態補語

第8回：第10課の復習・応用練習

第9回：第11課 (1) 動詞の連体修飾 / (2) 二重目的語をとる動詞 / (3) “一点儿”と“有点儿” / (4) 可能性を表す“会”

第10回：第11課の復習・応用練習

第11回：第12課 (1) 前置詞“离” / (2) 近い未来の表現 / (3) 持続の“着” / (4) 副詞“就”主な用法

第12回：第12課の復習・応用練習

第13回：テスト

第14回：まとめ

(授業の進みぐあいによってスケジュールが変更になる場合もあります。)

3. 履修上の注意

単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えましょう。授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認しましょう。

5. 教科書

『楽しく学ぶチャイニーズ』顧銘、私家版

(※ 教科書の販売については、別途初回授業時に指示します)

6. 参考書

推奨参考辞書

『中日辞書』『日中辞書』を格納した電子辞書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

① 平常点（学習意欲、履修態度など）：20%

② テスト：80%

9. その他

一年生の皆さんは他の科目を履修しなければならず、初めての大学生活は忙しいかもしれないが、毎回の授業に積極的に取り組み、100分間の授業を無駄にしないよう集中し有効にしてください。忙しい大学生活の中で、時間をうまく活用して学習を積み重ねていけば、中国語力はきっと上達します。頑張ってください。

科目ナンバー (AG) LAN161N

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
中国語Ⅱb生

2017～2021年度入学者
中国語Ⅱb生

1 単位

中本梅衣

1. 授業の概要・到達目標

中国語Ⅱaを学んだ学生を対象とし、より中国語の能力を高める。

達成目標は、(1) 語彙を増やすこと、(2) 多様な場面における会話表現の習得、(3) 辞書を使いながら読み書き能力を習得することである。

中国語Ⅱaの復習として、発音と基本的な表現の再確認をする。色々な会話表現を学びながら、語彙数を増やし、文法力を高める。辞書の使い方を学び、読解・作文能力を習得する。中国語でメールのやりとりもできるようにする。

2. 授業内容

- 第1回：第五課「学習の要点と文型練習」。
- 第2回：第五課本文と練習問題、副课文。
- 第3回：第六課「学習の要点と文型練習」。
- 第4回：第六課本文と練習問題、副课文。
- 第5回：第七課「学習の要点と文型練習」。
- 第6回：第七課本文と練習問題、副课文。
- 第7回：第八課「学習の要点と文型練習」。
- 第8回：第八課本文と練習問題、副课文。
- 第9回：第九課「学習の要点と文型練習」。
- 第10回：第九課本文と練習問題、副课文。
- 第11回：作文の発表会。
- 第12回：第十課「学習の要点と文型練習」。
- 第13回：第十課本文と練習問題、副课文。
- 第14回 a： 期末試験。
b： 正答解説。

3. 履修上の注意

- 1 5回及びそれ以上欠席した者は単位取得を認めない。
- 2 欠席・遅刻した者は一回あたり5点の減点とする。
- 3 教科書を忘れた場合、一回あたり5点の減点とする。もし忘れた場合、授業前にコピーをして準備をしていれば減点とはしない。
- 4 宿題も評価の対象になる。
- 5 辞書を必ず用意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、30分程度次回の教科書の内容に目を通して、わからない単語を調べたり、練習問題の答えをノートに書いたりすること。復習として、30分程度習った教科書の内容をCDで聞いたり、暗記したりすること。

5. 教科書

『初級中国語 花ばな 一改訂版』池上貞子ほか、朝日新聞社、2200円。

6. 参考書

『中日辞典』・『日中辞典』は必需品！電子辞書を勧める。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（授業に取り組む態度、小テスト）30%、中間テスト30%、期末試験40%。

9. その他

なし。

科 目 名	単 位 数	担 当 者
中国語Ⅲについて	各 1 単位	
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>中国語をさらに深く学びたい人のために、自由選択科目として設けられています。二年次から四年次までのどの時期にも履修でき、重複履修が可能です。少人数でじっくり学ぶことができ、大学の語学授業の楽しみを味わうことのできる科目です。</p> <p>農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>一年次の授業で扱い切れなかった事柄を補いつつ、さらに中国語の運用能力を高めるため、一年次の学習を基礎に、履修者の希望も取り入れながら、中級・上級テキストの講読などを行います。又、ことばの背景となる文化・社会の理解にも踏み込んだ解説を行います。</p> <p>個々の授業内容に関しては該当するシラバスを参照してください。</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>語学の授業なので予習することが必要です。そして自分なりの目標をたてることがそれを容易にしてくれるものと思います。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>各担当者の指示に従って下さい。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>各科目のシラバスを参照して下さい。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>7. 成績評価の方法</p> <p>担当者の指示に従うこと。</p>		
<p>8. その他</p> <p>尚、さらに会話表現を身につけたいと考える学生は、学部間共通外国語科目（MLP）の「中国語会話」、夏期に実施される「中国語会話（集中講座）」などについての説明も参照のこと。</p>		

科目ナンバー (AG) LAN261N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 中国語Ⅲ(1)	1 単位	許家晟
2017~2021 年度入学者 中国語Ⅲ(1)		

1. 授業の概要・到達目標

この授業は中国語の基礎文法を一通り学習した者を対象に、一年次に学習した内容を復習しながら、日常生活に使う会話や読解力を身につけていく授業です。受講生の人数・レベル・要望等合わせて、臨機応変に進めていきます。

また、授業前後の予習復習が必須。

なお、農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目となります。

2. 授業内容

- 第1回：a インTRODakシヨン b 自己紹介
- 第2回：第1課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第3回：第1課 会話練習，リスニング練習
- 第4回：第2課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第5回：第2課 会話練習，リスニング練習
- 第6回：第3課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第7回：第3課 会話練習，リスニング練習
- 第8回：第4課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第9回：第4課 会話練習，リスニング練習
- 第10回：第5課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第11回：第5課 会話練習，リスニング練習
- 第12回：第6課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第13回：第6課 会話練習，リスニング練習
- 第14回：a 総合復習，b 期末理解度確認
- その他：課題，小テスト

3. 履修上の注意

辞書を各自用意して下さい。紙媒体のものでも電子辞書でも構いません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業ではテキストの訳読を行いますので、30分程度をかけて、音読の練習と、口頭で和訳ができるようにして下さい。また第2回以降、毎回単語の小テストを行いますので、15分程度学習をし、規定の範囲の単語を答えられるようにして下さい。

5. 教科書

『2年めの伝える中国語』

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（小テスト、授業参加度など）を30%、期末試験を70%とします。なお、3分の1以上欠席すると期末試験の受験資格を失いますので注意して下さい。

9. その他

オフィシアワー、および連絡先についてはOh-o!Meijiのほうに掲載します。

科目ナンバー (AG) LAN261N

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 中国語Ⅲ(2)	1 単位	許家晟
2017~2021 年度入学者 中国語Ⅲ(2)		

1. 授業の概要・到達目標

この授業は中国語の基礎文法を一通り学習した者を対象に、一年次に学習した内容を復習しながら、日常生活に使う会話や読解力を身につけていく授業です。受講生の人数・レベル・要望等合わせて、臨機応変に進めていきます。

また、授業前後の予習復習が必須。

なお、農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のAに対応する科目となります。

2. 授業内容

- 第1回：a インTRODakシヨン b 自己紹介
- 第2回：第1課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第3回：第1課 会話練習, リスニング練習
- 第4回：第2課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第5回：第2課 会話練習, リスニング練習
- 第6回：第3課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第7回：第3課 会話練習, リスニング練習
- 第8回：第4課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第9回：第4課 会話練習, リスニング練習
- 第10回：第5課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第11回：第5課 会話練習, リスニング練習
- 第12回：第6課 文法ポイントや表現のパターンの学習
- 第13回：第6課 会話練習, リスニング練習
- 第14回：a 総合復習, b 期末理解度確認
- その他：課題, 小テスト

3. 履修上の注意

辞書を各自用意して下さい。紙媒体のものでも電子辞書でも構いません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業ではテキストの訳読を行いますので、30分程度をかけて、音読の練習と、口頭で和訳ができるようにして下さい。また第2回以降、毎回単語の小テストを行いますので、15分程度学習をし、規定の範囲の単語を答えられるようにして下さい。

5. 教科書

『2年めの伝える中国語』

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（小テスト、授業参加度など）を30%、期末試験を70%とします。なお、3分の1以上欠席すると期末試験の受験資格を失いますので注意して下さい。

9. その他

オフィシアワー、および連絡先についてはOh-o!Meijiのほうに掲載します。

総合科目

保健・体育科目群

科目ナンバー (AG) HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅰ1組・男子
2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅰ1組・男子

1 単位

渡邊文雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修する。ここで行うスポーツ種目はバレーボールである。

授業の到達目標は

第一に体力の向上である。入試後の体力の回復と卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。

第二にスポーツを楽しむために必要な競技ルールや審判法について学ぶと共に基本技能の習得すること。

積極的に授業に参加し、スポーツを大いに楽しむことを望む。

《授業の概要》

初回はイントロダクション

2回目に体力・形態測定を行い自己の体力水準を確認

3回目以降はバレーボールに関する講義と実技を行う

視覚教材を用いる場合もある。

農学部食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目である。

2. 授業内容

- 1: イントロダクション (受講の仕方、体育施設の使用法、授業展開及び成績評価)
- 2: 測定 体力および体脂肪率
- 3: 講義 (競技ルールと審判法)
- 4: 基本技能 (パス&サーブ) +ミニゲーム
- 5: 基本技能 (サーブ&レシーブ) +ゲーム
- 6: 基本技能 (スパイク&ブロック) +ゲーム
- 7: 応用技能 (サーブ・レシーブ・トス・スパイク&ブロック) +ゲーム (審判法の確認)
- 8: ゲーム (リーグ戦①)
- 9: ゲーム (リーグ戦②)
- 10: ゲーム (リーグ戦③)
- 11: ゲーム (トーナメント戦)
- 12~13: 技能テスト2
- 14: 筆記試験 (競技ルール)

※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある

3. 履修上の注意

1. 必ず健康診断を受診すること。
2. 服装は運動に適したものを着用すること。(タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない)
3. 時間や期限を厳守すること。
4. 不適切な受講態度 (許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など) は認めない。

※詳細は初回授業時に指示をする。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

日頃から怪我予防や疲労回復のためにストレッチ等を行うようにする。

授業で取り扱うスポーツ競技 (バレーボール) に関するメディア等の情報に興味関心を持つ。

事前に競技に関するルール等を調べておくとよい。

授業では技能テストを行う。休み時間等の時間を利用して個人練習を行うことを心掛けること。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

特に定めない

7. 課題に対するフィードバックの方法

個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う。

8. 成績評価の方法

評価の対象者・・・開講数の2/3以上の出席者

評価項目

技能テスト (40%)

レポートまたは筆記試験 (20%)

平常点 (40%)

9. その他

体育館事務室

オフィスアワー: 月、火曜 12:30~13:30

E-mail: rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習I2組・男子
2017～2021年度入学者
スポーツ実習I2組・男子

1 単位

立花泰則

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュにおける打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、マシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行い、受講生の能力に応じた実習を行います。

第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。

《達成目標》

基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）

第2回：体力測定（筋力、全身持久力、柔軟性、体脂肪率など）

第3回：ラケットとボールに慣れる、テニスの歴史

第4回：グラウンドストローク（フォアハンド）

第5回：グラウンドストローク（バックハンド）

第6回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック）

第7回：ボレー（フォアハンド・バックハンド）

第8回：スマッシュ、サーブ

第9回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム

第10回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム

第11回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム

第12回：ゲーム

第13回：ゲーム

第14回：ゲーム

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

4月の健康診断を受けて下さい。

テニスに適したシューズや運動着を用意して下さい。また各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料等を適宜提示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説します。

8. 成績評価の方法

平常点・授業への取り組み方 80%

実技評価（技術達成度とゲーム成績）20%

9. その他

体育館1階体育事務室

火曜日 12:30～13:30

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スポーツ実習Ⅰ3組・男子	1 単位	片瀬文雄
2017～2021年度入学者 スポーツ実習Ⅰ3組・男子		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修し、農学科食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

授業では、ソフトボールを通して、生涯スポーツを实践しうる知識・技能の習得を目標とする。また、体力の維持向上、心身のストレス解消、コミュニケーション技能獲得の場といったスポーツの魅力を学習者に理解させるよう授業展開する。

ソフトボールは、ベースボール型の球技としてボールが大きく、コートが小さくすむことなどから初心者初級者でも実施しやすい球技である。授業の達成目標は、基本的技能の習得、ゲームを安全に行える総合的な技能の習得、ルールを理解にある。

《授業の概要》

まず、体力や形態測定を行い、体力のバランスなど判定する。そして、ソフトボールによってその改善を目指す。授業では、基本的な技能の獲得やゲームを通しての総合的な技能の獲得をより高めるために、十分な運動量を設定している。

2. 授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅰとは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 体力・形態測定…筋力、パワー、全身持久力、敏捷性、柔軟性、体重、体脂肪率など
- 第3回 ソフトボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の習得
- 第4回 基本的技能の習得Ⅰ 係争物（ボール）に慣れることと、キャッチボール
- 第5回 基本的技能の習得Ⅱ 走塁（ベースランニング競争やタッチアップ）
- 第6回 基本的技能の習得Ⅲ 連携・中継プレー、シートノックなど守備の基本技能
- 第7回 基本的技能の習得Ⅳ バッティング（ティー・トス・フリー）
- 第8回 基本的技能の習得Ⅴ ピッチング（スイングショットやウィンドミル）とバッテリー
- 第9回 ルールの理解と簡易ゲームⅠ 簡易ゲームによるルールの理解
- 第10回 簡易ゲームⅡ 簡易ゲームによる様々なポジションの練習と、ゲーム進行方法の理解
- 第11回 ゲームによる総合的技能的習得Ⅰ（ダブルプレーや中継プレーなど守備面の戦術）
- 第12回 ゲームによる総合的技能的習得Ⅱ（バントやヒットエンドランなどの攻撃面の戦術）
- 第13回 ゲームによる総合的技能的習得Ⅲ（投手・捕手・審判を体験）
- 第14回 ソフトボールのまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）

3. 履修上の注意

授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。

運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。

用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。

気温・湿度などの環境に対応して、帽子、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。

健康診断を受診していること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、実技テスト・ルール審判法レポートの解説と総評を行う。

8. 成績評価の方法

平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点

レポート（ルールと審判法について）20点

実技テスト（基本的な技能および総合的な技能について）30点

以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

質問等は、授業開講時間前後に体育館教員室まで。

・オフィスアワー：最初の講義で指示する

・連絡先：最初の講義で示す

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習 I 化・男子(1)
2017～2021 年度入学者
スポーツ実習 I 化・男子(1)

1 単位

多賀恒雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実習はバレーボールのスキルを向上させると同時に、バレーボールを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすることや健康・体力に関する科学的知識を得ることを主なねらいとする。

《授業の概要》

パスやレシーブなどの基本技術およびゲームにおける戦術を学習し、より楽しくバレーボールを実施できるようにする。

2. 授業内容

1. イン트로ダクションおよびルールの説明
2. オーバーハンドおよびアンダーハンドパス練習
3. アタック練習
4. サーブ練習
5. ミニゲーム
6. ゲームにおける動き方
7. ブロック練習
8. ミニゲーム
9. ゲームにおける戦術
10. ゲームにおける戦術
11. ゲーム
12. ゲーム
13. ゲーム
14. ゲーム

3. 履修上の注意

必ず運動着および屋外用シューズを着用すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

攻撃と守備のポジショニングについて理解を深めておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

バレーボールマガジン

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト 40点 参加意欲 40点 受講態度 20点

9. その他

受講にあたっては、健康診断を受けておくこと。
オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅰ化・男子(2)

1 単位

佐藤雅幸

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅰ化・男子(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、ラケットとボールを操作するために必要な、眼と手のコーディネーショントレーニングを行いながら、テニスの基本を学んでいく。また、ゲームを通じて、マナーや他人とのコミュニケーションスキルも習得する

《授業の到達目標》

テニスは、生涯スポーツとして社会人となってからも個人の体力に応じて楽しめるスポーツである。

本演習の目的は、テニスの打球スキルとルールを学び、ゲーム（シングルス、ダブルス）を楽しめるようになり、スポーツとジェロントロジーの密接な関係を理解すること。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のGに対応する科目である

2. 授業内容

- 第1回：テニスのためのウォーミングアップ・トレーニング
- 第2回：ミニテニスでのストローク、ボレー、サーブ、レシーブ、スマッシュ
- 第3回：ストローク（フォアハンドストローク、バックハンドストローク）スキルトレーニング
- 第4回：ボレー（フォアボレー、バックボレー）、スマッシュスキルトレーニング
- 第5回：サーブ、レシーブスキルトレーニング
- 第6回：スピードガンを用いたサーブ速度測定実習
- 第7回：講義（テニスの歴史、世界4大会およびATP トーナメントについて）
- 第8回：ダブルスのポイントゲームでの練習
- 第9回：講義（スポーツとジェロントロジー）
- 第10回：シングルのポイントゲーム練習
- 第11回：ダブルスのフォーメーション練習
- 第12回：テニスにおけるメンタルトレーニング（オンコート）
- 第13回：テニスのスキルテスト
- 第14回：演習内期末テスト（筆記試験：歴史、メンタル、フィジカル）・まとめ

3. 履修上の注意

運動に適した服装（ジーパン不可）と可能であればテニスシューズで参加の事

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的なルールの確認をしておく

5. 教科書

テニス基本の基本（学習研究社）

6. 参考書

ショーンボーンのテニスコーチングブック（ベースボールマガジン社）。
テニスマガジン、スマッシュ。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題の達成度や改善点については、講義中および講義の最後にフィードバックする予定である

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト70点、平常点（授業への参加態度・貢献度）30点。

9. その他

初心者大歓迎です。
ラケットおよびボールは大学が用意します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅰ7組・男子

1単位

渡邊文雄

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅰ7組・男子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スポーツ実習Ⅰは1年次の春学期に履修する。ここで行うスポーツ種目はソフトボールである。

授業の到達目標は

第一に体力の向上である。入試後の体力の回復と卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。

第二にスポーツを楽しむために必要な競技ルールや審判法について学ぶと共に基本技能の習得すること。

積極的に授業参加し、スポーツを大いに楽しむことを望む。

《授業の概要》

初回はイントロダクション

2回目に体力・形態測定を行い自己の体力水準を確認

3回目以降はソフトボールに関する講義と実技を行う。

視覚教材を用いる場合もある。

2. 授業内容

1：イントロダクション（受講の仕方、体育施設の使用法、授業展開及び成績評価、注意事項）

2：測定 体力および体脂肪率

3：講義（競技ルールと審判法）

4：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング） & 守備練習（内野）

5：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング） & 守備練習（外野）

6：シートバッティング（ルールと審判法の確認①）

7：シートバッティング（ルールと審判法の確認②）

8：ゲーム（全員攻撃ルール）

9：ゲーム（リーグ戦①）

10：ゲーム（リーグ戦②）

11：ゲーム（リーグ戦③）

12～13：技能テスト

14：筆記試験（競技ルール）

※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある

3. 履修上の注意

1. 必ず健康診断を受診すること。

2. 服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない）

3. 時間や期限を厳守すること。

4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。

※詳細は授業時に指示をする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。

授業では技能テストを行う。休み時間等を利用して個人練習をするように心掛ける。

日頃から怪我予防や疲労回復のためにストレッチ等を行うようにする。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

特に定めない

7. 課題に対するフィードバックの方法

個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う。

8. 成績評価の方法

評価対象者・・・開講数の2/3以上の出席者

評価項目

技能テスト（40%）

レポートまたは筆記試験（20%）

平常点（40%）

9. その他

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習 I 8 組・男子
2017~2021 年度入学者
スポーツ実習 I 8 組・男子

1 単位

立花泰則

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》 対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュにおける打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、マシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行い、受講生の能力に応じた実習を行います。第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。

《達成目標》

基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）
 - 第2回：体力測定（筋力、全身持久力、柔軟性、体脂肪率など）
 - 第3回：ラケットとボールに慣れる、テニスの歴史
 - 第4回：グラウンドストローク（フォアハンド） 第5回：グラウンドストローク（バックハンド）
 - 第6回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック）
 - 第7回：ボレー（フォアハンド・バックハンド）
 - 第8回：スマッシュ、サーブ
 - 第9回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム
 - 第10回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム
 - 第11回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム
 - 第12回：ゲーム
 - 第13回：ゲーム
 - 第14回：ゲーム
- * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

- 4月の健康診断を受けて下さい。
- テニスに適したシューズや運動着を用意して下さい。また各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業や扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料等を適宜配布します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説します。

8. 成績評価の方法

平常点・授業への取り組み方 80%
実技評価（技術達成度とゲーム成績） 20%

9. その他

保健体育第II研究室（3号館4階411号室）
オフィスアワー：月曜12:00~13:00
E-mail: aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習 I 9 組・男子
2017~2021 年度入学者
スポーツ実習 I 9 組・男子

1 単位

片瀬文雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スポーツ実習 I は 1 年次の春学期に履修し、授業では、バレーボールを通して、生涯スポーツを实践しうる知識・技能の習得を目標とする。また、体力の維持向上、心身のストレス解消、コミュニケーション技能獲得の場といったスポーツの魅力を学習者に理解させるよう授業展開する。

バレーボールは、ネット型のチームスポーツで、ボールを前腕部と掌を中心に身体どこかにてボールをコントロールする球技である。授業の達成目標は、基本的技能の習得、ゲームを安全に行える総合的な技能の習得、ルールの理解にある。

《授業の概要》

まず、体力や形態測定を行い、体力的なバランスなどを判断する。そして、バレーボールによって体力の維持向上を目指す。授業では、基本的な技能の獲得やゲームを通しての総合的な技能の獲得をより高めるために、十分な運動量を設定している。

2. 授業内容

- 第 1 回 a のみ：イントロダクション（スポーツ実習 I とは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第 2 回 体力・形態測定…筋力、パワー、全身持久力、敏捷性、柔軟性、体重、体脂肪率など
- 第 3 回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウオーミングアップと運動動作の習得
- 第 4 回 基本的技能の習得 I 係争物（ボール）に慣れることと、基本的な操作と技術
- 第 5 回 基本的技能の習得 II アンダーハンドパス、オーバーハンドパスの 2 種のパスワーク
- 第 6 回 基本的技能の習得 III アンダーハンドサーブ、サイドハンドサーブ、などのサーブ技能
- 第 7 回 基本的技能の習得 IV オープンスパイクを中心にしたアタック技能
- 第 8 回 基本的技能の習得 V レシーブ、サーブカットといった守備的技能
- 第 9 回 ルールの理解 簡易ゲームによるルールの理解
- 第 10 回 簡易ゲームによる総合的な技能の習得 ワンバウンドゲーム、サーブの位置の緩和など簡易ゲームによるゲーム進行の学習
- 第 11 回 ゲームによる総合的な技能の習得 I（オープンスキルの獲得）6 人制バレーボール
- 第 12 回 ゲームによる総合的な技能の習得 II（戦術的な理解度を深める）守備位置やフォーメーション
- 第 13 回 さまざまな競技方法による楽しみ方 9 人制バレーボールなど
- 第 14 回 バレーボールのまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）

3. 履修上の注意

授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。

運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。

用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。

気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。

健康診断を受診していること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14 回授業にて、実技テスト・ルール審判法レポートの解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

平常点（学習への意欲や受講時の態度）50 点

レポート（ルールと審判法について）20 点

実技テスト（基本的な技能および総合的な技能について）30 点

以上 100 点中、60 点以上で単位を与える。

9. その他

質問等は、授業開講時間前後に体育館教員室まで。

- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する
- ・連絡先：最初の講義で示す

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習 I 10 組・男子
2017～2021年度入学者
スポーツ実習 I 10 組・男子

1 単位

渡邊文雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スポーツ実習 I は1年次の春学期に履修する。ここで行うスポーツ種目はソフトボールである。

授業の到達目標は

第一に体力の向上である。入試後の体力の回復と卒業後に向けて体力を向上させ健康の維持増進させること。

第二にスポーツを楽しむために必要な競技ルールや審判法について学ぶと共に基本技能の習得すること。

積極的に授業参加し、スポーツを大いに楽しむことを望む。

《授業の概要》

初回はイントロダクション

2回目に体力・形態測定を行い自己の体力水準を確認

3回目以降はソフトボールに関する講義と実技を行う。

視覚教材を用いる場合もある。

2. 授業内容

1：イントロダクション（受講の仕方、体育施設の使用法、授業展開及び成績評価、注意事項）

2：測定 体力および体脂肪率

3：講義（競技ルールと審判法）

4：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング） & 守備練習（内野）

5：基本技能（キャッチボール、ピッチング、トスバッティング） & 守備練習（外野）

6：シートバッティング（ルールと審判法の確認①）

7：シートバッティング（ルールと審判法の確認②）

8：ゲーム（全員攻撃ルール）

9：ゲーム（リーグ戦①）

10：ゲーム（リーグ戦②）

11：ゲーム（リーグ戦③）

12～13：技能テスト

14：筆記試験（競技ルール）

※測定と講義は授業展開や天候等により変更する場合がある

3. 履修上の注意

1. 必ず健康診断を受診すること。

2. 服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない）

3. 時間や期限を厳守すること。

4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。

※詳細は授業時に指示をする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。

授業では技能テストを行う。休み時間等を利用して個人練習をするように心掛ける。

日頃から怪我予防や疲労回復のためにストレッチ等を行うようにする。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

特に定めない

7. 課題に対するフィードバックの方法

個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う。

8. 成績評価の方法

評価対象者・・・開講数の2/3以上の出席者

評価項目

技能テスト（40%）

レポートまたは筆記試験（20%）

平常点（40%）

9. その他

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習 I 11 組・男子
2017~2021 年度入学者
スポーツ実習 I 11 組・男子

1 単位

立花泰則

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュにおける打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、マシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行い、受講生の能力に応じた実習を行います。第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。

《達成目標》

基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）

第2回：体力測定（筋力、全身持久力、柔軟性、体脂肪率など）

第3回：ラケットとボールに慣れる、テニスの歴史

第4回：グラウンドストローク（フォアハンド）

第5回：グラウンドストローク（バックハンド）

第6回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック）

第7回：ボレー（フォアハンド・バックハンド）

第8回：スマッシュ、サーブ

第9回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム

第10回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム

第11回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム

第12回：ゲーム

第13回：ゲーム

第14回：ゲーム

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

4月の健康診断を受けて下さい。

テニスに適したシューズや運動着を用意して下さい。また各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料を適宜配布します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説します。

8. 成績評価の方法

平常点・授業への取り組み方 80%

実技評価（技術達成度とゲーム成績） 20%

9. その他

体育館1階体育事務室

火曜日 12:30~13:30

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スポーツ実習 I 12組・男子	1 単位	片瀬文雄
2017～2021年度入学者 スポーツ実習 I 12組・男子		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スポーツ実習 I は1年次の春学期に履修し、授業では、バレーボールを通して、生涯スポーツを实践しうる知識・技能の習得を目標とする。また、体力の維持向上、心身のストレス解消、コミュニケーション技能獲得の場といったスポーツの魅力を学習者に理解させるよう授業展開する。

バレーボールは、ネット型のチームスポーツで、ボールを前腕部と掌を中心に身体どこかにてボールをコントロールする球技である。授業の達成目標は、基本的技能の習得、ゲームを安全に行える総合的な技能の習得、ルールの理解にある。

《授業の概要》

まず、体力や形態測定を行い、体力的なバランスなどを判断する。そして、バレーボールによって体力の維持向上を目指す。授業では、基本的な技能の獲得やゲームを通しての総合的な技能の獲得をより高めるために、十分な運動量を設定している。

2. 授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習 I とは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 体力・形態測定…筋力、パワー、全身持久力、敏捷性、柔軟性、体重、体脂肪率など
- 第3回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウオーミングアップと運動動作の習得
- 第4回 基本的技能の習得 I 係争物（ボール）に慣れることと、基本的な操作と技術
- 第5回 基本的技能の習得 II アンダーハンドパス、オーバーハンドパスの2種のパスワーク
- 第6回 基本的技能の習得 III アンダーハンドサーブ、サイドハンドサーブ、などのサーブ技能
- 第7回 基本的技能の習得 IV オープンスパイクを中心としたアタック技能
- 第8回 基本的技能の習得 V レシーブ、サーブカットといった守備的技能
- 第9回 ルールの理解 簡易ゲームによるルールの理解
- 第10回 簡易ゲームによる総合的な技能の習得 ワンバウンドゲーム、サーブの位置の緩和など簡易ゲームによるゲーム進行の学習
- 第11回 ゲームによる総合的な技能の習得 I（オープンスキルの獲得）6人制バレーボール
- 第12回 ゲームによる総合的な技能の習得 II（戦術的な理解度を深める）守備位置やフォーメーション
- 第13回 さまざまな競技方法による楽しみ方 9人制バレーボールなど
- 第14回 バレーボールのまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）

3. 履修上の注意

授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。

運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。

用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。

気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。

健康診断を受診していること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、実技テスト・ルール審判法レポートの解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点

レポート（ルールと審判法について）20点

実技テスト（基本的な技能および総合的な技能について）30点

以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

質問等は、授業開講時間前後に体育館教員室まで。

・オフィスアワー：最初の講義で指示する

・連絡先：最初の講義で示す

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅰ農・女子(1)

1単位

多賀恒雄

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅰ農・女子(1)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実習はバドミントンのスキルを向上させると同時に、バドミントンを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすることや健康・体力に関する科学的知識を得ることを主なねらいとする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

ハイクリアーやドロップなどの基本技術およびゲームにおける戦術を学習し、より楽しくバドミントンを実施できるようにする。

2. 授業内容

1. インTRODakションおよびルールの説明
2. グリップの習得およびラケットの使い方
3. ミニラリー
4. 基本技術練習
5. ミニゲーム
6. ゲームにおける動き方
7. ポイントゲーム
8. ゲームにおける戦術
9. ゲームにおける戦術
10. ゲーム（ダブルス）
11. ゲーム（ダブルス）
12. ゲーム（ダブルス）
13. ゲーム（ダブルスおよびシングルス）
14. ゲーム（ダブルスおよびシングルス）

3. 履修上の注意

必ず運動着および室内用シューズを着用すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

ダブルスにおける攻撃と守備の陣型の違いについて理解しておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

バドミントンマガジン

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト40点 参加意欲40点 受講態度20点

9. その他

受講にあたっては、健康診断を受けておくこと。

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習 I 農・女子(2)

1 単位

加納明彦

2017~2021 年度入学者
スポーツ実習 I 農・女子(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュにおける打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、マシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行い、受講生の能力に応じた実習を行います。第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。

《達成目標》

基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）

第2回：ラケットとボールに慣れる、テニスの歴史

第3回：グラウンドストローク（フォアハンド）

第4回：グラウンドストローク（バックハンド）

第5回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック）

第6回：ボレー（フォアハンド・バックハンド）

第7回：スマッシュ、サーブ

第8回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム

第9回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム

第10回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム

第11回：ゲーム

第13回：ゲーム

第14回：ゲーム

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

4月の健康診断を受けて下さい。

テニスに適したシューズと運動着を用意して下さい。また各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料を適宜配布します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

基本的技術を習得する段階でビデオ撮影等を行って、フォームのチェック・形成に役立てます。

8. 成績評価の方法

平常点と授業への取り組み方 80%

実技評価（技術達成度とゲーム成績） 20%

9. その他

保健体育第II研究室（3号館4階411号室）

オフィスアワー：月曜12:30~13:30

E-mail: aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習 I 化・女子(1)

1 単位

多賀恒雄

2017～2021 年度入学者
スポーツ実習 I 化・女子(1)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実習はバレーボールのスキルを向上させると同時に、バレーボールを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすることや健康・体力に関する科学的知識を得ることを主なねらいとする。

《授業の概要》

パスやレシーブなどの基本技術およびゲームにおける戦術を学習し、より楽しくバレーボールを実施できるようにする。

2. 授業内容

1. イン트로ダクションおよびルールの説明
2. オーバーハンドおよびアンダーハンドパス練習
3. アタック練習
4. サーブ練習
5. ミニゲーム
6. ゲームにおける動き方
7. ブロック練習
8. ミニゲーム
9. ゲームにおける戦術
10. ゲームにおける戦術
11. ゲーム
12. ゲーム
13. ゲーム
14. ゲーム

3. 履修上の注意

必ず運動着および屋外用シューズを着用すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

攻撃と守備のポジショニングについて理解を深めておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

バレーボールマガジン

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点等（100 点）配点内訳：スキルテスト 40 点 参加意欲 40 点 受講態度 20 点

9. その他

受講にあたっては、健康診断を受けておくこと。
オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅰ化・女子(2)

1 単位

佐藤雅幸

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅰ化・女子(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、ラケットとボールを操作するために必要な、眼と手のコーディネーショントレーニングを行いながら、テニスの基本を学んでいく。また、ゲームを通じて、マナーや他人とのコミュニケーションスキルも習得する。

《授業の到達目標》

テニスは、生涯スポーツとして社会人となってからも個人の体力に応じて楽しめるスポーツである。本演習の目的は、テニスの打球スキルとルールを学び、ゲーム（シングルス、ダブルス）を楽しめるようになり、スポーツとジェロントロジーの密接な関係を理解すること。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のGに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：テニスのためのウォーミングアップ・トレーニング
- 第2回：ミニテニスでのストローク、ボレー、サーブ、レシーブ、スマッシュ
- 第3回：ストローク（フォアハンドストローク、バックハンドストローク）スキルトレーニング
- 第4回：ボレー（フォアボレー、バックボレー）、スマッシュスキルトレーニング
- 第5回：サーブ、レシーブスキルトレーニング
- 第6回：スピードガンを用いたサーブ速度測定実習
- 第7回：講義（テニスの歴史、世界4大会およびATP トーナメントについて）
- 第8回：ダブルスのポイントゲームでの練習
- 第9回：講義（スポーツとジェロントロジー）
- 第10回：シングルのポイントゲーム練習
- 第11回：ダブルスのフォーメーション練習
- 第12回：テニスにおけるメンタルトレーニング（オンコート）
- 第13回：テニスのスキルテスト
- 第14回：演習内期末テスト（筆記試験：歴史、メンタル、フィジカル）・まとめ

3. 履修上の注意

運動に適した服装（ジーパン不可）と可能であればテニスシューズで参加すること。
水分補給のために水やスポーツドリンクなどを各自準備すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的なルールや打球方法について確認をしておいてください。

5. 教科書

テニス基本の基本（学習研究社）。
ショーンボーンのテニスコーチングブック（ベースボールマガジン社）。

6. 参考書

テニスマガジンWEB版、スマッシュなど

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中および終了後に課題達成度などについて随時フィードバックする予定である。

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト70点、平常点（授業への参加態度・貢献度）30点。

9. その他

初心者大歓迎です。
ラケットおよびボールは大学が用意します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習 I 化・女子 (3)

1 単位

加納明彦

2017~2021 年度入学者
スポーツ実習 I 化・女子 (3)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「フィットネス」です。フィットネスでは最初に体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体重、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度などの測定を行います。これらのデータに基づいて、個々に合ったトレーニングプログラムを作成・実行します。プログラムの有効性や改善点の検証を行うつつ、各自の目標に向かってトレーニングを行います。

《達成目標》

自分の体力や健康状態を客観的に把握して、適切なトレーニングプログラムを作成・実行する能力を養うとともに、日常生活に運動を取り入れる習慣を身に付けることを目標とします。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）

第2回: 体力測定（筋力、有酸素運動能力、柔軟性）

第3回: 体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度の測定

第4回: トレーニング機器の使用法

第5回: トレーニングプログラムの作成

第6回: トレーニングプログラムの実行

第7回: トレーニングプログラムの実行

第8回: トレーニングプログラムの実行

第9回: トレーニングプログラムの実行

第10回: トレーニングプログラムの修正

第11回: トレーニングプログラムの実行

第12回: トレーニングプログラムの実行

第13回: トレーニングプログラムの実行

第14回: 体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定・評価

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

4月の健康診断を受けて下さい。

服装は運動に適したものとします。

各自の必要に応じてタオルや飲料を持参して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で配布した印刷資料やトレーニング記録表を参考にして復習をして下さい。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料等を適宜配布します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時のみでなく、日常生活においても運動を習慣化して下さい。

8. 成績評価の方法

平常点・授業への取り組み方 80%

実技評価（トレーニングメニューの評価と目標値達成度） 20%

9. その他

保健体育第II研究室（3号館4階411号室）

オフィスアワー：月曜 12:30~13:30

E-mail: aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習 I 生・女子(1)
2017～2021 年度入学者
スポーツ実習 I 生・女子(1)

1 単位

多賀恒雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実習はバドミントンのスキルを向上させると同時に、バドミントンを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすることや健康・体力に関する科学的知識を得ることを主なねらいとする。

《授業の概要》

ハイクリアーやドロップなどの基本技術およびゲームにおける戦術を学習し、より楽しくバドミントンを実施できるようにする。

2. 授業内容

1. インTRODakションおよびルールの説明
2. グリップの習得およびラケットの使い方
3. ミニラリー
4. 基本技術練習
5. ミニゲーム
6. ゲームにおける動き方
7. ポイントゲーム
8. ゲームにおける戦術
9. ゲームにおける戦術
10. ゲーム（ダブルス）
11. ゲーム（ダブルス）
12. ゲーム（ダブルス）
13. ゲーム（ダブルスおよびシングルス）
14. ゲーム（ダブルスおよびシングルス）

3. 履修上の注意

必ず運動着および室内用シューズを着用すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

ダブルスにおける攻撃と守備の陣型の違いを理解しておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

バドミントンマガジン

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト 40点 参加意欲 40点 受講態度 20点

9. その他

受講にあたっては、健康診断を受けておくこと。
オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG) HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅰ生・女子(2)

1単位

加納明彦

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅰ生・女子(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「テニス」です。第2回から第8回までは基本的な技術習得が中心となります。グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、サーブ、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュにおける打法を運動学的に理解しつつ、これらの技術を習得します。その際、マシンによる反復打球練習やビデオ撮影による動作チェックを行い、受講生の能力に応じた実習を行います。第9回以降はルール、ゲームの進め方および審判方法を理解しながら、ゲームを行います（シングルスとダブルス）。

《達成目標》

基本技術の習得を目指しつつ、テニスを通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。またテニスの歴史や文化的意義についても理解していきます。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）

第2回：ラケットとボールに慣れる運動、テニスの歴史

第3回：グラウンドストローク（フォアハンド）

第4回：グラウンドストローク（バックハンド）

第5回：グラウンドストローク（ビデオ撮影・動作チェック）

第6回：ボレー（フォアハンド・バックハンド）

第7回：スマッシュ、サーブ

第8回：ゲームの進め方・審判法、ゲーム

第9回：ダブルスゲームにおけるフォーメーション、ゲーム

第10回：シングルスゲームの組み立て方、ゲーム

第11回：ゲーム

第12回：ゲーム

第13回：ゲーム

第14回：ゲーム

* 内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

4月の健康診断を受けて下さい。

テニスに適したシューズと運動着を用意して下さい。また各自の必要に応じて帽子、タオル、飲料を持参して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

適宜印刷資料を配布します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

基本的技術を習得する段階でビデオ撮影等を行って、フォームのチェック・形成に役立てます。

8. 成績評価の方法

平常点と授業への取り組み方 80%

実技評価（技術達成度とゲーム成績） 20%

9. その他

保健体育第Ⅱ研究室（3号館4階411号室）

オフィスアワー：月曜 12:30～13:30

E-mail: aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習I政・女子(1)

1単位

佐藤雅幸

2017～2021年度入学者
スポーツ実習I政・女子(1)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、ラケットとボールを操作するために必要な、眼と手のコーディネーショントレーニングを行いながら、テニスの基本を学んでいく。また、ゲームを通じて、マナーや他人とのコミュニケーションスキルも習得する。

《授業の到達目標》

テニスは、生涯スポーツとして社会人となってからも個人の体力に応じて楽しめるスポーツである。本演習の目的は、テニスの打球スキルとルールを学び、ゲーム（シングルス、ダブルス）を楽しめるようになり、スポーツとジェロントロジーの密接な関係を理解すること。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のGに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：テニスのためのウォーミングアップ・トレーニング
- 第2回：ミニテニスでのストローク、ボレー、サーブ、レシーブ、スマッシュ
- 第3回：ストローク（フォアハンドストローク、バックハンドストローク）スキルトレーニング
- 第4回：ボレー（フォアボレー、バックボレー）、スマッシュスキルトレーニング
- 第5回：サーブ、レシーブスキルトレーニング
- 第6回：スピードガンを用いたサーブ速度測定実習
- 第7回：講義（テニスの歴史、世界4大会およびATP トーナメントについて）
- 第8回：ダブルスのポイントゲームでの練習
- 第9回：講義（スポーツとジェロントロジー）
- 第10回：シングルのポイントゲーム練習
- 第11回：ダブルスのフォーメーション練習
- 第12回：テニスにおけるメンタルトレーニング（オンコート）
- 第13回：テニスのスキルテスト
- 第14回：演習内期末テスト（筆記試験：歴史、メンタル、フィジカル）・まとめ

3. 履修上の注意

運動に適した服装（ジーパン不可）と可能であればテニスシューズで参加すること
水分補給のための水、スポーツドリンクを準備すること

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的なテニスのルールの確認をしておく

5. 教科書

テニス基本の基本（学習研究社）。
ショーンボーンのテニスコーチングブック（ベースボールマガジン社）。

6. 参考書

テニスマガジン、スマッシュ

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義中および講義終了後に、パフォーマンスの評価を実施し、改善点および課題についてフィードバックする

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト70点、平常点（授業への参加態度・貢献度）30点。

9. その他

初心者大歓迎です。
ラケットおよびボールは大学が用意します

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習 I 政・女子(2)

1 単位

多賀恒雄

2017～2021 年度入学者
スポーツ実習 I 政・女子(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実習はバレーボールのスキルを向上させると同時に、バレーボールを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすることや健康・体力に関する科学的知識を得ることを主なねらいとする。

《授業の概要》

パスやレシーブなどの基本技術およびゲームにおける戦術を学習し、より楽しくバレーボールを実施できるようにする。

2. 授業内容

1. イン트로ダクションおよびルールの説明
2. オーバーハンドおよびアンダーハンドパス練習
3. アタック練習
4. サーブ練習
5. ミニゲーム
6. ゲームにおける動き方
7. ブロック練習
8. ミニゲーム
9. ゲームにおける戦術
10. ゲームにおける戦術
11. ゲーム
12. ゲーム
13. ゲーム
14. ゲーム

3. 履修上の注意

必ず運動着および屋外用シューズを着用すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

攻撃と守備のポジショニングについて理解を深めておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

バレーボールマガジン

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト 40点 参加意欲 40点 受講態度 20点

9. その他

受講にあたっては、健康診断を受けておくこと。
オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(1)

1単位

佐藤雅幸

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(1)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本実習はゴルフの打球スキルを学び、ゴルフを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすること。
加えて、健康・体力に関する科学的知識を得ることを到達目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては学習教育のGに対応する科目である。

《授業の概要》

スウィングの基本技術およびゲームにおけるマナーやルールを学習する

2. 授業内容

1. インTRODakShIONおよびルールの説明
2. ゴルフにおける基本理論の学習（クラブの構造とセットアップ）
3. ゴルフにおける基本スウィングの習得（グリッパとスタンス）
4. ゴルフにおける基本スウィングの習得（アドレス）
5. ゴルフにおける基本スウィングの習得（テークバックからスウィングトップ）
6. ゴルフにおける基本スウィングの習得（スウィングトップからダウンスウィング）
7. ゴルフにおける基本スウィングの習得（ダウンスウィングからフォロースルー、フィニッシュ）
8. ゴルフにおける基本スウィングの習得（一連のスウィング動作の連動と技術の完成）
9. ゴルフにおける応用スウィングの習得（クラブの違いによる身体各部のコントロールの違いと技術）
10. ゴルフにおけるバターの学習（パッティングの技術）
11. ゴルフにおける模擬ラウンド（ラウンドにおけるルールとマナーの学習）
12. ゴルフにおける模擬ラウンド（ラウンドにおけるスコアリングの学習）
13. ゴルフにおける模擬ラウンド（ラウンドにおけるスコアリングの学習）
14. ゴルフにおける模擬ラウンド（ラウンドにおけるスコアリングの学習）

3. 履修上の注意

運動に適した服装で参加の事。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的なルールおよび打球スキルについて事前学習をしておくこと。

5. 教科書

特に指定しません。

6. 参考書

特に指定しません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

打球弾道測定装置を用いて、打球スキルのチェックを行い、授業終了後に結果をフィードバックする。

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト40点、参加意欲40点 社会的協調20点。

9. その他

<参考>

授業時には、水分補給のための飲料水およびスポーツドリンクなどの準備をすること

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ(2)	1 単位	片瀬文雄
2017～2021年度入学者 スポーツ実習Ⅱ(2)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・本授業の種目は卓球（体育館）の実習となる。
- ・スポーツ実習は、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。
- ・1年次の秋学期から4年次の秋学期までに複数履修することができる。
- ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。
- ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。
- ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。
- ・食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

- ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。
- ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチーム（ペア）づくりを行う。
- ・履修定員数は30名。

2. 授業内容

以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 卓球の特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング
- 第3回 簡易ゲームによる基本的技能と基本的なルールの確認（ダブルス、シングルス）
- 第4回 基本技能の習得Ⅰ フォアハンドの基本とラリー、フットワーク、フォアハンドでのサーブ
- 第5回 基本技能の習得Ⅱ バックハンドの基本とラリー、フットワーク、バックハンドでのサーブ
- 第6回 応用技能の習得Ⅰ フォア・バックハンド（ロングとショート、クロスとストレート）
- 第7回 応用技能の習得Ⅱ フォア・バックハンド（ドライブ、カット、つつつき）
- 第8回 応用技能の習得Ⅲ サービス（フォア・バックハンド、上・下・横回転）とレシーブ
- 第9回 応用技能の習得Ⅳ スマッシュ、レシーブ
- 第10回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅰ ダブルスでの動き方と戦術
- 第11回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅱ ダブルス（ルールと審判法の理解、審判の実践）
- 第12回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅲ シングルス（ルールと審判法の理解、審判の実践）
- 第13回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅳ 団体戦 5人から6人チーム
- 第14回 卓球のまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）

3. 履修上の注意

- ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。
- ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。
- ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。
- ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。
- ・健康診断を受診していること。
- ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

- ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点
- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）30点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20点
- ・以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(3)

1単位

片瀬文雄

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(3)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・本授業の種目は卓球（体育館）の実習となる。
- ・スポーツ実習は、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。
- ・1年次の秋学期から4年次の秋学期までに複数履修することができる。
- ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。
- ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。
- ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。
- ・食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

- ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。
- ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチーム（ペア）づくりを行う。
- ・履修定員数は30名。

2. 授業内容

以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 卓球の特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング
- 第3回 簡易ゲームによる基本的技能と基本的なルールの確認（ダブルス、シングルス）
- 第4回 基本技能の習得Ⅰ フォアハンドの基本とラリー、フットワーク、フォアハンドでのサーブ
- 第5回 基本技能の習得Ⅱ バックハンドの基本とラリー、フットワーク、バックハンドでのサーブ
- 第6回 応用技能の習得Ⅰ フォア・バックハンド（ロングとショート、クロスとストレート）
- 第7回 応用技能の習得Ⅱ フォア・バックハンド（ドライブ、カット、つつつき）
- 第8回 応用技能の習得Ⅲ サービス（フォア・バックハンド、上・下・横回転）とレシーブ
- 第9回 応用技能の習得Ⅳ スマッシュ、レシーブ
- 第10回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅰ ダブルスでの動き方と戦術
- 第11回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅱ ダブルス（ルールと審判法の理解、審判の実践）
- 第12回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅲ シングルス（ルールと審判法の理解、審判の実践）
- 第13回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅳ 団体戦 5人から6人チーム
- 第14回 卓球のまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）

3. 履修上の注意

- ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。
- ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。
- ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。
- ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。
- ・健康診断を受診していること。
- ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

- ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点
- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）30点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20点
- ・以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(4)

1 単位

片瀬文雄

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(4)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・本授業の種目はバスケットボール（体育館）の実習となる。
- ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。
- ・1年次の秋学期から4年次の秋学期までに複数履修することができる。
- ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。
- ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。
- ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。
- ・食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

- ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。
- ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。
- ・履修定員数は30名。

2. 授業内容

以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 バスケットボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング
- 第3回 ハーフコートでのゲームによる基本的個人技能の確認
- 第4回 簡易ゲームによる基本的個人技能の確認
- 第5回 ハーフコートでのゲームによる基本的戦術の確認
- 第6回 簡易ゲームによる基本的戦術の確認
- 第7回 簡易ゲームによるルールと審判（タイマーの使い方）の確認
- 第8回 4分ゲームによる総合的技能の習得1
- 第9回 4分ゲームによる総合的技能の習得2
- 第10回 4分ゲームによる総合的技能の習得3
- 第11回 5分ゲームによる総合的技能の習得1
- 第12回 5分ゲームによる総合的技能の習得2
- 第13回 5分ゲームによる総合的技能の習得3
- 第14回 バスケットボールのまとめ

3. 履修上の注意

- ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。
- ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。
- ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。
- ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。
- ・健康診断を受診していること。
- ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

- ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点
- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）30点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20点
- ・以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG) HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(5)

1単位

多賀恒雄

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(5)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実習はバドミントンのスキルを向上させると同時に、バドミントンを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすることを目的とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

ハイクリーアーやドロップなどの基本技術およびゲームにおける戦術を学習し、より楽しくバドミントンを実施できるようにする。

2. 授業内容

1. イントロダクションおよびルールの説明
2. グリップの習得およびラケットの使い方
3. ミニラリー
4. 基本技術練習
5. ミニゲーム
6. ゲームにおける動き方
7. ポイントゲーム
8. ゲームにおける戦術
9. ゲームにおける戦術
10. ゲーム(ダブルス)
11. ゲーム(ダブルス)
12. ゲーム(ダブルス)
13. ゲーム(ダブルスおよびシングルス)
14. ゲーム(ダブルスおよびシングルス)

3. 履修上の注意

必ず運動着および室内用シューズを着用すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

ダブルスにおける攻撃と守備の陣型の違いについて理解しておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

バドミントンマガジン

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点等(100点) 配点内訳: スキルテスト40点 参加意欲40点 受講態度20点

9. その他

受講にあたっては、健康診断を受けておくこと。

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG) HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(6)

1 単位

佐藤雅幸

2017~2021 年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(6)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、ラケットとボールを操作するために必要な、眼と手のコーディネーショントレーニングを行いながら、テニスの基本を学んでいく。また、ゲームを通じて、マナーや他人とのコミュニケーションスキルも習得する。

《授業の到達目標》

テニスは、生涯スポーツとして社会人となってからも個人の体力に応じて楽しめるスポーツである。本演習の目的は、テニスの打球スキルとルールを学び、ゲーム（シングルス、ダブルス）を楽しめるようになり、スポーツとジェロントロジーの密接な関係を理解すること。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の G に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：テニスのためのウォーミングアップ・トレーニング
- 第2回：ミニテニスでのストローク、ボレー、サーブ、レシーブ、スマッシュ
- 第3回：ストローク（フォアハンドストローク、バックハンドストローク）スキルトレーニング
- 第4回：ボレー（フォアボレー、バックボレー）、スマッシュスキルトレーニング
- 第5回：サーブ、レシーブスキルトレーニング
- 第6回：スピードガンを用いたサーブ速度測定実習
- 第7回：講義（テニスの歴史、世界4大会およびATP トーナメントについて）
- 第8回：ダブルスのポイントゲームでの練習
- 第9回：講義（スポーツとジェロントロジー）
- 第10回：シングルのポイントゲーム練習
- 第11回：ダブルスのフォーメーション練習
- 第12回：テニスにおけるメンタルトレーニング（オンコート）
- 第13回：テニスのスキルテスト
- 第14回：演習内期末テスト（筆記試験：歴史、メンタル、フィジカル）・まとめ

3. 履修上の注意

運動に適した服装（ジーパン不可）とテニスシューズで参加の事。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的なルールの確認をしておいてください。

5. 教科書

テニス基本の基本（学習研究社）。
ショーンボーンのテニスコーチングブック（ベースボールマガジン社）。

6. 参考書

テニスマガジン、スマッシュ。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中および終了後に課題達成度などについて随時フィードバックする予定である。

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト70点、平常点（授業への参加態度・貢献度）30点。

9. その他

初心者大歓迎です。
ラケットおよびボールは大学が用意します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(7)

1 単位

多賀恒雄

2017～2021 年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(7)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実習はゴルフのスキルを向上させると同時に、ゴルフを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすることや健康・体力に関する科学的知識を得ることを主なねらいとする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては学習教育のGに対応する科目である。

《授業の概要》

スウィングの基本技術およびゲームにおけるマナーやルールを学習する

2. 授業内容

1. インTRODakションおよびルールの説明
2. 基本理論の学習（クラブの構造とセットアップ）
3. 基本スウィングの習得（グリップとスタンス）
4. 基本スウィングの習得（アドレス）
5. 基本スウィングの習得（テークバックからスウィングトップ）
6. 基本スウィングの習得（スウィングトップからダウンスウィング）
7. 基本スウィングの習得（ダウンスウィングからフォロースルー、フィニッシュ）
8. 基本スウィングの習得（一連のスウィング動作の連動と技術の完成）
9. 応用スウィングの習得（クラブの違いによる身体各部のコントロールの違いと技術）
10. パターの学習（パッティングの技術）
11. 模擬ラウンド（ラウンドにおけるルールとマナーの学習）
12. 模擬ラウンド（ラウンドにおけるスコアリングの学習）
13. 模擬ラウンド（ラウンドにおけるスコアリングの学習）
14. 模擬ラウンド（ラウンドにおけるスコアリングの学習）

3. 履修上の注意

必ず運動着および室外用シューズを着用すること。

衛生上、安全上の問題から、ゴルフグローブを各自用意することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

スウィング軌道とボール軌道との関係について理解を深めておくこと。

5. 教科書

特に使用しない

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキル40点 参加意欲40点、受講態度20点

9. その他

受講にあたっては健康診断を受けておくこと。

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(8)

1単位

佐藤雅幸

2017~2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(8)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、ラケットとボールを操作するために必要な、眼と手のコーディネーショントレーニングを行いながら、テニスの基本を学んでいく。また、ゲームを通じて、マナーや他人とのコミュニケーションスキルも習得する。

《授業の到達目標》

テニスは、生涯スポーツとして社会人となってからも個人の体力に応じて楽しめるスポーツである。本演習の目的は、テニスの打球スキルとルールを学び、ゲーム（シングルス、ダブルス）を楽しめるようになり、スポーツとジェロントロジーの密接な関係を理解すること。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のGに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：テニスのためのウォーミングアップ・トレーニング
- 第2回：ミニテニスでのストローク、ボレー、サーブ、レシーブ、スマッシュ
- 第3回：ストローク（フォアハンドストローク、バックハンドストローク）スキルトレーニング
- 第4回：ボレー（フォアボレー、バックボレー）、スマッシュスキルトレーニング
- 第5回：サーブ、レシーブスキルトレーニング
- 第6回：スピードガンを用いたサーブ速度測定実習
- 第7回：講義（テニスの歴史、世界4大会およびATPトーナメントについて）
- 第8回：ダブルスのポイントゲームでの練習
- 第9回：講義（スポーツとジェロントロジー）
- 第10回：シングルのポイントゲーム練習
- 第11回：ダブルスのフォーメーション練習
- 第12回：テニスにおけるメンタルトレーニング（オンコート）
- 第13回：テニスのスキルテスト
- 第14回：演習内期末テスト（筆記試験：歴史、メンタル、フィジカル）・まとめ

3. 履修上の注意

運動に適した服装（ジーパン不可）とテニスシューズで参加の事。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的なルールの確認をしておいてください。

5. 教科書

テニス基本の基本（学習研究社）。
ショーンボーンのテニスコーチングブック（ベースボールマガジン社）。

6. 参考書

テニスマガジン、スマッシュ。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中および終了後に課題達成度などについて随時フィードバックする予定である。

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト70点、平常点（授業への参加態度・貢献度）30点。

9. その他

初心者大歓迎です。
ラケットおよびボールは大学が用意します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(9)

1単位

佐藤雅幸

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(9)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

バドミントンは、技術レベルに応じて楽しむことの運動量を調整することができる。本演習では、バドミントンの特性を理解し、スマッシュ、ドロップなどの各技法、サービスなどの技術を習得し、相手の動きや味方同士の連携を考えたゲームができるように構成している。

《授業の到達目標》

バドミントンは、体力に応じて手軽に行うことができるスポーツである。本演習では、バドミントンの打球スキルとルールを学び、ゲームを楽しみ生涯スポーツの動機づけとすることを目標とすると同時にスポーツとジェロントロジーの密接な関わりを理解する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：バドミントンのためのウォーミングアップ・トレーニング
- 第2回：ハイクリアーでのラリー
- 第3回：ストローク（サイドアーム：フォア&バック）ドリル練習
- 第4回：スマッシュ、ドライブ
- 第5回：ヘアピン、スマッシュのコンビネーション
- 第6回：サーブ、レシーブのスキルトレーニング
- 第7回：総合練習
- 第8回：ダブルスのポイントゲームでの練習
- 第9回：講義（スポーツとジェロントロジー）
- 第10回：シングルのポイントゲーム練習
- 第11回：ダブルスのフォーメーション練習
- 第12回：バドミントンにおけるメンタルトレーニング（オンコート）
- 第13回：バドミントンのスキルテスト
- 第14回：演習内期末テスト（筆記試験：歴史、メンタル、フィジカル）・まとめ

3. 履修上の注意

運動に適した服装（ジーパン不可）と室内シューズで参加の事。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的なルールの確認をしておいてください。

5. 教科書

特になし。

6. 参考書

バドミントン・マガジン（ベースボールマガジン社）。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中および授業後に目標達成度および打球スキル改善点などについて映像を用いてフィードバックする。

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト70点、平常点（実験への参加態度・貢献度）30%。

9. その他

初心者大歓迎です。
ラケットおよびシャトルは大学が用意します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ (10)	1 単位	佐藤雅幸
2017~2021 年度入学者 スポーツ実習Ⅱ (10)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では、ラケットとボールを操作するために必要な、眼と手のコーディネーショントレーニングを行いながら、テニスの基本を学んでいく。また、ゲームを通じて、マナーや他人とのコミュニケーションスキルも習得する。

《授業の到達目標》

テニスは、生涯スポーツとして社会人となってからも個人の体力に応じて楽しめるスポーツである。本演習の目的は、テニスの打球スキルとルールを学び、ゲーム（シングルス、ダブルス）を楽しめるようになり、スポーツとジェロントロジーの密接な関係を理解すること。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のGに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：テニスのためのウォーミングアップ・トレーニング
- 第2回：ミニテニスでのストローク、ボレー、サーブ、レシーブ、スマッシュ
- 第3回：ストローク（フォアハンドストローク、バックハンドストローク）スキルトレーニング
- 第4回：ボレー（フォアボレー、バックボレー）、スマッシュスキルトレーニング
- 第5回：サーブ、レシーブスキルトレーニング
- 第6回：スピードガンを用いてのサーブ速度測定実習
- 第7回：講義（テニスの歴史、世界4大会およびATP トーナメントについて）
- 第8回：ダブルスのポイントゲームでの練習
- 第9回：講義（スポーツとジェロントロジー）
- 第10回：シングルのポイントゲーム練習
- 第11回：ダブルスのフォーメーション練習
- 第12回：テニスにおけるメンタルトレーニング（オンコート）
- 第13回：テニスのスキルテスト
- 第14回：演習内期末テスト（筆記試験：歴史、メンタル、フィジカル）・まとめ

3. 履修上の注意

運動に適した服装（ジーパン不可）とテニスシューズで参加の事。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的なルールの確認をしておいてください。

5. 教科書

テニス基本の基本（学習研究社）。
 ショーンボーンのテニスコーチングブック（ベースボールマガジン社）。

6. 参考書

テニスマガジン、テニスクラシックブレイク。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中および授業終了前に映像を用いて、打球スキルの改善点や良かった点などについてフィードバックする

8. 成績評価の方法

平常点等（100点）配点内訳：スキルテスト70点、平常点（実験への参加態度・貢献度）30%。

9. その他

初心者大歓迎です。
 ラケットおよびボールは大学が用意します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(11)

1 単位

渡邊文雄

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(11)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スポーツ実習Ⅱは1年次の秋学期以降、各学年に設定されている。また、年間に履修できるのは一種目（1単位）のみであるが、異なる種目を選択することでどの学年においても重複履修が可能となる。

本授業ではバドミントンを行う。レクリエーションとして人気のこの種目は時速 300 km 近いショットから一瞬に0 km に近いショットまで変化する他に類のないスピード感と、見た目より難しくハードな運動量などの理由から幅広い年齢層に生涯スポーツとして盛んに行われている。

授業ではより専門性をもった技術の習得を目指しているが、初心者には基本技能から始めゲームができるまでを目標としている。シングルスやダブルス、団体戦といったゲームを中心に授業を展開する。

《授業の概要》

初回にイントロダクション内で簡単な技能レベルによるグループ分けを行う。

第二回以降はグループごとにテーマと目標を設定し基本練習とゲームを行う。

視覚教材を用いる場合もある。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目である。

2. 授業内容

- 1：イントロダクション、講義（競技ルールと審判法）
- 2：基本練習（フットワーク、サーブ、クリアー）、ゲーム（半面シングル）
- 3：基本練習（フットワーク、ヘアピン）、ゲーム（半面シングル）
- 4：基本練習（フットワーク、ドライブ）、ゲーム（半面シングル）
- 5：基本練習（フットワーク、ドロップ、スマッシュ）、ゲーム（半面シングル）
- 6：基本練習（全部）、ゲーム（全面ダブルスの審判法確認）
- 7～10：基本練習（全部）、ゲーム（ダブルス 技能別）
- 11～12：団体戦
- 13：技能テスト
- 14：技能テスト（予備）、筆記テスト

※詳細は授業時に説明する。

3. 履修上の注意

1. 屋内で行うため、体育館用シューズと運動のできる服装を用意する。

服装は運動に適したものを着用すること。（タンクトップやジーンズ、サンダル、革靴などは認めない）

2. 必ず健康診断を受診すること。
3. 時間を厳守すること。
4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。

※詳細は授業時に指示をする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

怪我予防や疲労回復のために日頃からストレッチ等を行うようにする。

授業で取り扱うスポーツ競技（バドミントン）に関するメディア等の情報に興味関心を持つ。

競技に関する知識（ルール等）を事前に深めておく。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

特に定めない

7. 課題に対するフィードバックの方法

個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う。

8. 成績評価の方法

評価対象者・・・開講数の2/3以上の出席者

評価項目

技能テスト（40%）

筆記テスト（20%）

平常点（40%）

9. その他

履修に関して施設と安全面を考慮して授業運営上定員を設定する。

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ (12)

1 単位

立花泰則

2017～2021 年度入学者
スポーツ実習Ⅱ (12)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「ストレッチ&トレーニング」です。受講生各々が体力や体格などについて目標を設定し、それに適したトレーニングプログラムを作成・実行します。授業を始めるにあたり、体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）などの測定を行います。これらのデータを参考にして、自分に合ったトレーニングプログラムを作成します。その際、採用するトレーニング内容については、筋力トレーニングマシン、エアロバイク、補助トレーニング機器および自重を利用する方法などを選択します。このプログラムに基づいて半期間トレーニングを行い、体力や体組成などの変化を検証します。

《達成目標》

自分の体力や健康状態を客観的に把握しつつ、科学的根拠に基づいた適切なトレーニングプログラムを作成し、実行する方法を習得します。また日常生活に運動を取り入れる習慣の重要性を理解し、健康管理を行う能力を養います。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）
 - 第2回：体力測定（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性）
 - 第3回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）
 - 第4回：トレーニングプログラムの作成
 - 第6回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第7回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第8回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第9回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第10回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定、トレーニングプログラムの修正
 - 第11回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第12回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第13回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第14回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定・評価
- * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

- 4月の健康診断を受けて下さい。
- 必要に応じて飲料やタオルを用意して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- 復習：授業で配布した資料やトレーニング記録票を参考に、授業で行ったトレーニングの方法や効果を復習しておいてください。
- 予習：トレーニングの強度や頻度が適切であるかを考察し、次回の授業で行うトレーニング内容に反映させてください。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料を適宜提示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説します。

8. 成績評価の方法

- 平常点と授業への取り組み方 50%
- 実技評価（トレーニングメニュー評価と目標値達成度） 50%

9. その他

体育館1階体育事務室
火曜日 12:30～13:30

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(13)

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(13)

1単位

片瀬文雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・本授業の種目は、フットサル(人工芝)の実習となる。
- ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。
- ・1年次の秋学期から4年次の秋学期までに複数履修することができる。
- ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。
- ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。
- ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。
- ・食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

- ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。
- ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。
- ・履修定員数は30名。

2. 授業内容

以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。

- 第1回 aのみ：イントロダクション(スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について)
- 第2回 フットサルの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング
- 第3回 簡易ゲームによる基本的技能の確認
- 第4回 基本技能の習得1(パスについて)
- 第5回 基本技能の習得2(速攻とシュートについて)
- 第6回 基本技能の習得3(守備について)
- 第7回 ミニゲーム1(ハーフコート、や2/3大のコート)
- 第8回 ミニゲーム2(3対3もしくは4対3などプレイヤーの人数を変更して)
- 第9回 ミニゲーム3(時間を短縮してのゲーム)
- 第10回 ゲーム1(3チームないし4チームでのリーグ戦形式7分ゲーム)
- 第11回 ゲーム2(3チームないし4チームでのリーグ戦形式10分ゲーム)
- 第12回 ゲーム3(審判やタイムキーパーなどゲーム運営に参加する)
- 第13回 ゲーム4(審判やタイムキーパーなどゲーム運営に参加する)
- 第14回 フットサルのまとめ

3. 履修上の注意

- ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。
- ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。
- ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。
- ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする(詳細はガイダンスにて)。
- ・健康診断を受診していること。
- ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

- ・平常点(学習への意欲や受講時の態度)50点
- ・実技点(ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合)30点
- ・レポート点(オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成)20点
- ・以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ (14)

1 単位

渡邊文雄

2017～2021 年度入学者
スポーツ実習Ⅱ (14)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スポーツ実習Ⅱは1年次の秋学期以降、各学年に設定されている。また、年間に履修できるのは一種目（1単位）のみであるが、異なる種目を選択することでどの学年においても重複履修が可能となる。

農学科食糧生産・環境コースにおいては学習教育目標のGに対応する科目である。

本授業では軟式野球を行う。日本では野球が国民的スポーツであることは言うまでもなく、その技能はソフトボールにも応用できることから生涯を通して行えるスポーツとして位置づけられる。

授業ではより専門性をもった技能の習得を目指しているが、初心者にはキャッチボールから始める。

ゲームを中心に授業を展開する。

《授業の概要》

初回にイントロダクション内で簡単なグループ分けを行う。

第二回以降はテーマに沿った練習とゲームを行う。

視覚教材を用いる場合もある。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目である。

2. 授業内容

1：イントロダクション、講義（競技ルールと審判法）、グループ分け

2～4：基本練習（キャッチボール、トスバッティング）、守備練習、シートバッティング

5～6：基本練習、守備練習（連係プレー）、シートバッティング

7～10：ゲーム（リーグ戦）

11～12：ゲーム（トーナメント戦）

13. 技能テスト

14. 技能テスト（予備）、筆記テスト

※詳細は授業時に説明する。

3. 履修上の注意

1. 屋外で行うため、服装は運動に適したものを着用すること。（ジーンズ、サンダル、革靴などは認めない）

2. 必ず健康診断を受診すること。

3. 時間を厳守すること。

4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。

※詳細は授業時に指示をする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で取り扱うスポーツ競技（野球）はよくメディア等に取り上げられるので興味関心を持つ。

日頃から怪我予防や疲労回復のためにストレッチ等を行うようにする。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

特に定めない

7. 課題に対するフィードバックの方法

個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う。

8. 成績評価の方法

評価対象者・・・開講数の2/3以上の出席者

評価項目

技能テスト（40%）

筆記テスト（20%）

平常点（40%）

※詳細は授業時に説明をする。

9. その他

履修に関して施設と安全面を考慮して授業運営上定員を設定する。

体育館事務室

オフィスアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ (15)

2017~2021 年度入学者
スポーツ実習Ⅱ (15)

1 単位

立花泰則

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「卓球」です。第2回から第7回までは基本的な技術習得が中心となります。ストローク（フォアハンド・バックハンド）、突つき、スマッシュ、サーブ、レシーブなどの反復練習を行うとともに、ビデオ撮影による動作チェックを用いて受講生の能力に応じた実習を行います。

第8回以降はルール、ゲームの進め方や審判法を理解しながら、ゲームを行う能力を身に付けます（シングルスとダブルス）。ゲームは総当たりを行った後、技能レベルに応じたグループ別のリーグ戦を行います。

《達成目標》

卓球のゲームを行うための基本技術の習得を目指しつつ、卓球を通して体力の向上やスポーツを楽しむ能力を養います。また卓球の歴史や文化的意義についても理解していきます。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回 a: インタロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）

第2回: 卓球台のセットの仕方、ラケットとボールに慣れる

第3回: フォアハンドストローク

第4回: バックハンドストローク

第5回: 突つき

第6回: スマッシュ

第7回: サーブ、レシーブ

第8回: ルール解説と審判法、ゲームの進め方、ゲーム

第9回: シングルスゲーム（戦術の解説）、ゲーム

第10回: 総当たりゲーム

第11回: 総当たりゲーム

第12回: グループ別リーグ戦

第13回: グループ別リーグ戦

第14回: ダブルスゲーム（フォーメーション・戦術の解説）、ゲーム

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

4月の健康診断を受けて下さい。

体育館シューズを用意して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱った技術の確認と各自の課題点をまとめておいて下さい。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料を適宜配布します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説します。

8. 成績評価の方法

平常点と授業への取り組み方 50%

実技評価（技術達成度とゲーム成績） 50%

9. その他

体育館1階体育事務室

火曜日 12:30~13:30

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ(16)	1 単位	片瀬文雄
2017～2021年度入学者 スポーツ実習Ⅱ(16)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・本授業の種目はバレーボールの実習となる。
- ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。
- ・1年次の秋学期から4年次の秋学期までに複数履修することができる。
- ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。
- ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。
- ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。
- ・食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

- ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。
- ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。
- ・履修定員数は30名。

2. 授業内容

以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の確認
- 第3回 簡易ゲームによる基本的な個人技能の確認（パス・レシーブ・サーブ・スパイク）
- 第4回 簡易ゲームによる戦術やポジションの役割についての確認
- 第5回 簡易ゲームによるルール、審判、得点係の確認
- 第6回 15点制でのゲーム1
- 第7回 15点制でのゲーム2
- 第8回 15点制でのゲーム3
- 第9回 15点制でのゲーム4
- 第10回 25点制でのゲーム1
- 第11回 25点制でのゲーム2
- 第12回 25点制でのゲーム3
- 第13回 25点制でのゲーム4
- 第14回 バレーボールのまとめ

3. 履修上の注意

- ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。
- ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。
- ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。
- ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。
- ・健康診断を受診していること。
- ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

- ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点
- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）30点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20点
- ・以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(17)

1 単位

渡邊文雄

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(17)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

スポーツ実習Ⅱは1年次の秋学期以降、各学年に設定されている。また、年間に履修できるのは一種目（1単位）のみであるが、異なる種目を選択することでどの学年においても重複履修が可能となる。

本授業ではソフトボールを行う。競技人口は多く生涯を通して行えるスポーツである。

授業ではより専門性をもった技能の習得を目指しているが、初心者にはキャッチボールから始める。ゲームを中心に授業を展開する。

《授業の概要》

初回にイントロダクション内で簡単なグループ分けを行う。

第二回以降はテーマに沿った練習とリーグ戦を行う。

視覚教材を用いる場合もある。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目である。

2. 授業内容

1：イントロダクション、講義（競技ルールと審判法）、グループ分け

2～4：基本練習（キャッチボール、トスバッティング）、守備練習、シートバッティング

5～6：基本練習、守備練習（連係プレー）、シートバッティング

7～10：ゲーム（リーグ戦）

11～12：ゲーム（トーナメント戦）

13. 技能テスト

14. 技能テスト（予備）、筆記テスト

※詳細は授業時に説明する。

3. 履修上の注意

1. 屋外で行うため、服装は運動に適したものを着用すること。（ジーンズ、サンダル、革靴などは認めない）

2. 必ず健康診断を受診すること。

3. 時間を厳守すること

4. 不適切な受講態度（許可の無い飲食、携帯スマホ等の操作など）は認めない。

※詳細は授業時に指示をする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で取り扱うスポーツ競技（ソフトボール）について事前にルール等を学習しておく。

ま日頃から怪我予防のためにストレッチ等を行うようにする。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

特に定めない

7. 課題に対するフィードバックの方法

個人カードを使い授業課題習得度を把握。その内容をもとに授業内で個別指導を行う。

8. 成績評価の方法

評価対象者・・・開講数の2/3以上の出席者

評価項目

技能テスト（40%）

筆記テスト（20%）

平常点（40%）

※詳細は授業時に説明をする。

9. その他

履修に関して施設と安全面を考慮して授業運営上定員を設定する。

体育館事務室

オフィシアワー：月、火曜 12:30～13:30

E-mail：rahitita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ (18)

1 単位

立花泰則

2017～2021 年度入学者
スポーツ実習Ⅱ (18)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「ストレッチ&トレーニング」です。受講生各々が体力や体格などについて目標を設定し、それに適ったトレーニングプログラムを作成・実行します。授業を始めるにあたり、体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）などの測定を行います。これらのデータを参考にして、自分に合ったトレーニングプログラムを作成します。その際、採用するトレーニング内容については、筋力トレーニングマシン、エアロバイク、補助トレーニング機器および自重を利用する方法などを選択します。このプログラムに基づいて半期間トレーニングを行い、体力や体組成などの変化を検証します。

《達成目標》

自分の体力や健康状態を客観的に把握しつつ、科学的根拠に基づいた適切なトレーニングプログラムを作成し、実行する方法を習得します。また日常生活に運動を取り入れる習慣の重要性を理解し、健康管理を行う能力を養います。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）
 - 第2回：体力測定（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性）
 - 第3回：体組成測定（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）
 - 第4回：トレーニングプログラムの作成
 - 第6回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第7回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第8回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第9回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第10回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定、トレーニングプログラムの修正
 - 第11回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第12回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第13回：ストレッチ&トレーニングプログラムの実行
 - 第14回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定・評価
- * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

- 4月の健康診断を受けて下さい。
- 必要に応じて飲料やタオルを用意して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- 復習：授業で配布した資料やトレーニング記録票を参考に、授業で行ったトレーニングの方法や効果を復習しておいてください。
- 予習：トレーニングの強度や頻度が適切であるかを考察し、次回の授業で行うトレーニング内容に反映させてください。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料を適宜提示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説します。

8. 成績評価の方法

- 平常点と授業への取り組み方 50%
- 実技評価（トレーニングメニュー評価と目標値達成度） 50%

9. その他

体育館1階体育事務室
火曜日 12:30～13:30

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ(19)	1 単位	片瀬文雄
2017～2021年度入学者 スポーツ実習Ⅱ(19)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・本授業の種目はバレーボール（体育館）の実習となる。
- ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。
- ・1年次の秋学期から4年次の秋学期までに複数履修することができる。
- ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。
- ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。
- ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。
- ・食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

- ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。
- ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。
- ・履修定員数は30名。

2. 授業内容

以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の確認
- 第3回 簡易ゲームによる基本的な個人技能の確認（パス・レシーブ・サーブ・スパイク）
- 第4回 簡易ゲームによる戦術やポジションの役割についての確認
- 第5回 簡易ゲームによるルール、審判、得点係の確認
- 第6回 15点制でのゲーム1
- 第7回 15点制でのゲーム2
- 第8回 15点制でのゲーム3
- 第9回 15点制でのゲーム4
- 第10回 25点制でのゲーム1
- 第11回 25点制でのゲーム2
- 第12回 25点制でのゲーム3
- 第13回 25点制でのゲーム4
- 第14回 バレーボールのまとめ

3. 履修上の注意

- ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。
- ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。
- ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。
- ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。
- ・健康診断を受診していること。
- ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

- ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点
- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）30点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20点
- ・以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG) HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(20)

1単位

多賀恒雄

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(20)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実習はバドミントンのスキルを向上させると同時に、バドミントンを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすることを目的とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

ハイクリアーやドロップなどの基本技術およびゲームにおける戦術を学習し、より楽しくバドミントンを実施できるようにする。

2. 授業内容

1. イントロダクションおよびルールの説明
2. グリップの習得およびラケットの使い方
3. ミニラリー
4. 基本技術練習
5. ミニゲーム
6. ゲームにおける動き方
7. ポイントゲーム
8. ゲームにおける戦術
9. ゲームにおける戦術
10. ゲーム(ダブルス)
11. ゲーム(ダブルス)
12. ゲーム(ダブルス)
13. ゲーム(ダブルスおよびシングルス)
14. ゲーム(ダブルスおよびシングルス)

3. 履修上の注意

必ず運動着および室内用シューズを着用すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

ダブルスにおける攻撃と守備の陣型の違いについて理解しておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

バドミントンマガジン

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点等(100点) 配点内訳: スキルテスト 40点 参加意欲 40点 受講態度 20点

9. その他

受講にあたっては、健康診断を受けておくこと。

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(21)

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(21)

1単位

加納明彦

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「フィットネス」です。受講生各々が体力や体格などについて目標を設定し、それに適ったトレーニングプログラムを作成・実行します。授業を始めるにあたり、体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）などの測定を行います。これらのデータを参考にして、自分に合ったトレーニングプログラムを作成します。その際、採用するトレーニング内容については、筋力トレーニングマシン、エアロバイク、補助トレーニング機器および自重を利用する方法などを選択します。このプログラムに基づいて半期間トレーニングを行い、体力や体組成などの変化を検証します。

《達成目標》

自分の体力や健康状態を客観的に把握しつつ、科学的根拠に基づいた適切なトレーニングプログラムを作成し、実行する方法を習得します。また日常生活に運動を取り入れる習慣の重要性を理解し、健康管理を行う能力を養います。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回 a：イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）

第2回：体力測定（筋力、有酸素運動能力、柔軟性）

第3回：体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度の測定

第4回：トレーニングプログラムの作成

第6回：トレーニングプログラムの実行

第7回：トレーニングプログラムの実行

第8回：トレーニングプログラムの実行

第9回：トレーニングプログラムの実行

第10回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定、トレーニングプログラムの修正

第11回：トレーニングプログラムの実行

第12回：トレーニングプログラムの実行

第13回：トレーニングプログラムの実行

第14回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定・評価

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

4月の健康診断を受けて下さい。

必要に応じて飲料やタオルを用意して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：トレーニングの強度や頻度が適切であるかを考察し、次回の授業で行うトレーニング内容に反映させてください。

復習：授業で配布した資料やトレーニング記録票を参考に、授業で行ったトレーニングの方法や効果を復習しておいてください。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料を適宜配布します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

筋力、持久力、柔軟性、体重、体脂肪率、骨密度などを測定し、トレーニング効果を確認するとともに、作成したトレーニング内容を検証する。

8. 成績評価の方法

平常点と授業への取り組み方 50%

実技評価（トレーニングメニュー評価と目標値達成度） 50%

9. その他

保健体育第II研究室（3号館4階411号室）

オフィスアワー：月曜12:30～13:30

E-mail: aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(22)

1単位

多賀恒雄

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(22)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実習はバドミントンのスキルを向上させると同時に、バドミントンを通してスポーツの楽しさを体感し、生涯スポーツの動機付けとすることを目的とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

ハイクリアーやドロップなどの基本技術およびゲームにおける戦術を学習し、より楽しくバドミントンを実施できるようにする。

2. 授業内容

1. イントロダクションおよびルールの説明
2. グリップの習得およびラケットの使い方
3. ミニラリー
4. 基本技術練習
5. ミニゲーム
6. ゲームにおける動き方
7. ポイントゲーム
8. ゲームにおける戦術
9. ゲームにおける戦術
10. ゲーム(ダブルス)
11. ゲーム(ダブルス)
12. ゲーム(ダブルス)
13. ゲーム(ダブルスおよびシングルス)
14. ゲーム(ダブルスおよびシングルス)

3. 履修上の注意

必ず運動着および室内用シューズを着用すること。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

ダブルスにおける攻撃と守備の陣型の違いについて理解しておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

バドミントンマガジン

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点等(100点) 配点内訳: スキルテスト 40点 参加意欲 40点 受講態度 20点

9. その他

受講にあたっては、健康診断を受けておくこと。

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ (23)

2017~2021 年度入学者
スポーツ実習Ⅱ (23)

1 単位

加納明彦

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

対象種目は「フィットネス」です。受講生各々が体力や体格などについて目標を設定し、それに適ったトレーニングプログラムを作成・実行します。授業を始めるにあたり、体力（筋力、筋持久力、有酸素能力、柔軟性など）や体組成（筋肉量、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度）などの測定を行います。これらのデータを参考にして、自分に合ったトレーニングプログラムを作成します。その際、採用するトレーニング内容については、筋力トレーニングマシン、エアロバイク、補助トレーニング機器および自重を利用する方法などを選択します。このプログラムに基づいて半期間トレーニングを行い、体力や体組成などの変化を検証します。

《達成目標》

自分の体力や健康状態を客観的に把握しつつ、科学的根拠に基づいた適切なトレーニングプログラムを作成し、実行する方法を習得します。また日常生活に運動を取り入れる習慣の重要性を理解し、健康管理を行う能力を養います。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション（授業の進め方・受講に際しての諸注意）

第2回：体力測定（筋力、有酸素運動能力、柔軟性）

第3回：体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度の測定

第4回：トレーニングプログラムの作成

第6回：トレーニングプログラムの実行

第7回：トレーニングプログラムの実行

第8回：トレーニングプログラムの実行

第9回：トレーニングプログラムの実行

第10回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定、トレーニングプログラムの修正

第11回：トレーニングプログラムの実行

第12回：トレーニングプログラムの実行

第13回：トレーニングプログラムの実行

第14回：体力、体脂肪率、皮下脂肪厚の測定・評価

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

4月の健康診断を受けて下さい。

必要に応じて飲料やタオルを用意して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：トレーニングの強度や頻度が適切であるかを考察し、次回の授業で行うトレーニング内容に反映させてください。

復習：授業で配布した資料やトレーニング記録票を参考に、授業で行ったトレーニングの方法や効果を復習しておいてください。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

印刷資料を適宜配布します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

筋力、持久力、柔軟性、体重、体脂肪率、骨密度などを測定し、トレーニング効果を確認するとともに、作成したトレーニング内容を検証する。

8. 成績評価の方法

平常点と授業への取り組み方 50%

実技評価（トレーニングメニュー評価と目標値達成度） 50%

9. その他

保健体育第II研究室（3号館4階411号室）

オフィスアワー：月曜12:30~13:30

E-mail: aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 スポーツ実習Ⅱ(24)	1単位	片瀬文雄
2017～2021年度入学者 スポーツ実習Ⅱ(24)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・本授業の種目は卓球（体育館）の実習となる。
- ・スポーツ実習は、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。
- ・1年次の秋学期から4年次の秋学期までに複数履修することができる。
- ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。
- ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。
- ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。
- ・食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

- ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。
- ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチーム（ペア）づくりを行う。
- ・履修定員数は30名。

2. 授業内容

以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 卓球の特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング
- 第3回 簡易ゲームによる基本的技能と基本的なルールの確認（ダブルス、シングルス）
- 第4回 基本技能の習得Ⅰ フォアハンドの基本とラリー、フットワーク、フォアハンドでのサーブ
- 第5回 基本技能の習得Ⅱ バックハンドの基本とラリー、フットワーク、バックハンドでのサーブ
- 第6回 応用技能の習得Ⅰ フォア・バックハンド（ロングとショート、クロスとストレート）
- 第7回 応用技能の習得Ⅱ フォア・バックハンド（ドライブ、カット、つつつき）
- 第8回 応用技能の習得Ⅲ サービス（フォア・バックハンド、上・下・横回転）とレシーブ
- 第9回 応用技能の習得Ⅳ スマッシュ、レシーブ
- 第10回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅰ ダブルスでの動き方と戦術
- 第11回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅱ ダブルス（ルールと審判法の理解、審判の実践）
- 第12回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅲ シングルス（ルールと審判法の理解、審判の実践）
- 第13回 ゲームによる総合的技能の習得Ⅳ 団体戦 5人から6人チーム
- 第14回 卓球のまとめ（学習者の運営によるチーム対抗戦）

3. 履修上の注意

- ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。
- ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。
- ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。
- ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。
- ・健康診断を受診していること。
- ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

- ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点
- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）30点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20点
- ・以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ(25)

2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅱ(25)

1単位

片瀬文雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・本授業の種目はバスケットボール（体育館）の実習となる。
- ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。
- ・1年次の秋学期から4年次の秋学期までに複数履修することができる。
- ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。
- ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。
- ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。
- ・食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

- ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。
- ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。
- ・履修定員数は30名。

2. 授業内容

以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 バスケットボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップとフィジカルトレーニング
- 第3回 ハーフコートでのゲームによる基本的個人技能の確認
- 第4回 簡易ゲームによる基本的個人技能の確認
- 第5回 ハーフコートでのゲームによる基本的戦術の確認
- 第6回 簡易ゲームによる基本的戦術の確認
- 第7回 簡易ゲームによるルールと審判（タイマーの使い方）の確認
- 第8回 4分ゲームによる総合的技能の習得1
- 第9回 4分ゲームによる総合的技能の習得2
- 第10回 4分ゲームによる総合的技能の習得3
- 第11回 5分ゲームによる総合的技能の習得1
- 第12回 5分ゲームによる総合的技能の習得2
- 第13回 5分ゲームによる総合的技能の習得3
- 第14回 バスケットボールのまとめ

3. 履修上の注意

- ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。
- ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。
- ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。
- ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。
- ・健康診断を受診していること。
- ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

- ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点
- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）30点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20点
- ・以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
スポーツ実習Ⅱ (26)

2017～2021 年度入学者
スポーツ実習Ⅱ (26)

1 単位

片瀬文雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・本授業の種目はバレーボール（体育館）の実習となる。
- ・スポーツ実習は、男女問わずに、一人でも友人とでも気軽に参加できる授業を目指しています。
- ・1年次の秋学期から4年次の秋学期までに複数履修することができる。
- ・一人でも気軽に履修・参加をしやすいように練習やゲーム時に配慮する。
- ・初心者から競技経験者まで、その種目を楽しみながら技能や運動の習慣化の習得を目指す。
- ・基本的技能、戦術、ルール、審判法の理解と実践が課題となる。
- ・食糧生産・環境コースは、学習目標のGに対応する科目である。

《授業の概要》

- ・授業では、ゲームを中心に、技能・体力・性差を考慮しながら、授業を行う。
- ・一人でもゲームに参加しやすいように、毎週その都度、ランダムなチームづくりを行う。
- ・履修定員数は30名。

2. 授業内容

以下の授業内容は、専門的な用語を多く用いていますが、実際の授業時には初心者でもわかりやすい簡易な表現や実技内容ですので、安心して参加してください。なお、随時変更の可能性もあります。

- 第1回 aのみ：イントロダクション（スポーツ実習Ⅱとは 成績の評価方法・受講上の注意点について）
- 第2回 バレーボールの特性の理解と、安全面の注意、基本的なウォーミングアップと運動動作の確認
- 第3回 簡易ゲームによる基本的な個人技能の確認（パス・レシーブ・サーブ・スパイク）
- 第4回 簡易ゲームによる戦術やポジションの役割についての確認
- 第5回 簡易ゲームによるルール、審判、得点係の確認
- 第6回 15点制でのゲーム1
- 第7回 15点制でのゲーム2
- 第8回 15点制でのゲーム3
- 第9回 15点制でのゲーム4
- 第10回 25点制でのゲーム1
- 第11回 25点制でのゲーム2
- 第12回 25点制でのゲーム3
- 第13回 25点制でのゲーム4
- 第14回 バレーボールのまとめ

3. 履修上の注意

- ・授業に取り組む姿勢と意欲を十分に持つこと。
- ・運動を安全に行えるスポーツウエアとシューズの着用を義務付ける。貴金属は身に付けない。
- ・用具の使用方法和管理について、自他の安全に十分配慮すること。
- ・気温・湿度などの環境に対応して、タオル、飲料物などの持参は可とする（詳細はガイダンスにて）。
- ・健康診断を受診していること。
- ・授業中のけが、事故、体調不良は、必ず教員に報告し、応急処置すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

体調の管理、ウォームアップ、クールダウン、ルールの確認について、各自準備等しておく

5. 教科書

特に無し

6. 参考書

授業中にプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

14回授業にて、まとめとして実技・ルール・審判法の解説と総評を行う

8. 成績評価の方法

- ・平常点（学習への意欲や受講時の態度）50点
- ・実技点（ゲーム、審判、得点タイマー係への積極的な参加と習熟度合）30点
- ・レポート点（オンライン授業時など必要に応じて、ルールと審判法について授業内に作成）20点
- ・以上 100点中、60点以上で単位を与える。

9. その他

- ・質問は、授業開講時間前後に教員までどうぞ。
- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する。
- ・連絡先は、最初のガイダンスで示す。
- ・教場変更、休講については、体育館階段下の掲示板に授業時間前に確認すること。

科目ナンバー (AG)HES943J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
スポーツ実習Ⅲ(冬季集中)
2017～2021年度入学者
スポーツ実習Ⅲ(冬季集中)

1単位

加納明彦

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

スキーの学外集中授業です。実習期間は2025年2月1日～4日（3泊4日）、実習地は菅平高原スキー場です。授業は3回の事前学習とゲレンデ実習で構成されています。なおゲレンデ実習は、履修者のスキー技能レベルに応じた班別講習を行います。

《到達目標》

履修者のレベルに応じた講習を行い、スキー技能の向上を目指します。また、スキーや雪山に関する知識を身に付け、大自然の中で身体を動かすことの爽快感を体験することで、生涯スポーツとしてのスキーを実践する能力を養うことを目標とします。また、学外で行われる唯一のスポーツ実習であることから、ゲレンデや宿舎での集団生活におけるマナーを養うことも重要であると考えます。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のGに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回 a：事前学習（イントロダクション）
- 第2回：事前学習（実習の概要説明）
- 第3回：事前学習（スキー用具とスキー技能）
- 第4回：班分け、スキー用具の取り扱い方、歩行、登行、方向転換、転び方
- 第5回：ゲレンデにおけるマナー、ゲレンデ実習（止まり方、曲がり方、転び方）
- 第6回：ゲレンデ実習（ブルークボーゲン）
- 第7回：ゲレンデ実習（シュテムターン）
- 第8回：ゲレンデ実習（直滑降、斜滑降、スケーティング）
- 第9回：ゲレンデ実習（初歩の平行ターン）
- 第10回：ゲレンデ実習（洗練の平行ターン）
- 第11回：ゲレンデ実習（急斜面・緩斜面の滑走）
- 第12回：ゲレンデ実習（こぶの滑り方）
- 第13回：ゲレンデ実習（総合滑走）
- 第14回：ゲレンデ実習（総合滑走）

*講義内容は必要に応じて変更する事があります。

3. 履修上の注意

- 4月の健康診断を受けて下さい。
- 3泊4日の日程全てが授業である、という心構えで履修して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：スキー技術について、参考書（「スキー教本」大学スキー研究会編）等で調べておいてください。

5. 教科書

印刷資料を配布します。

6. 参考書

「スキー教本」大学スキー研究会編

7. 課題に対するフィードバックの方法

ゲレンデ実習中に滑走フォームをビデオ撮影し、その日の班別ミーティングで動作チェックを行います。

8. 成績評価の方法

班別の実技試験、平常点・実習への取り組み方によって総合的に評価します。

9. その他

保健体育第II研究室（3号館411号室）
オフィスアワー：月曜12:30～13:30
E-mail: aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES121J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
運動学(1)

2017~2021年度入学者
運動学(1)

2 単位

多賀恒雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本講義の目的は運動を効果的にかつ安全に実施するための科学的知識を理解することにある。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目である。

《授業の概要》

骨格筋の構造や働き、骨格筋へのエネルギー供給機構、運動調節の仕組みおよび運動の学習理論について解説する。

2. 授業内容

1. イントロダクション・運動学とその領域
2. ヒトの機能と体力
3. 骨格筋の働きと収縮様式および出力特性
4. 筋繊維の特性とその可塑性
5. ウェートトレーニングと筋力作り
6. エネルギー供給系と身体運動
7. エネルギー供給と栄養素
8. エネルギーの回復過程
9. 運動による消費エネルギー
10. 体温調節と熱中症
11. 神経系の構造と機能
12. 運動制御
13. 運動学習の理論
14. 運動学習指導の展開

3. 履修上の注意

運動の科学的側面に興味を持って受講すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

運動器の働きについて理解しておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

『健康科学としての運動生理学』 中原凱文他（文化書房博文社）

『選手とコーチのためのスポーツ生理学』 エドワード・フォックス著，朝比奈一男監訳（大修館書店）

『運動指導の心理学』 杉原隆（大修館書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験により評価する

9. その他

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)HES121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
運動学(2)

2 単位

加納明彦

2017~2021 年度入学者
運動学(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

運動を習慣的に行う事によって体組成（筋、脂肪、骨）は変化します。「筋力を高めるためには」、「余分な体脂肪を減らすためには」、「骨を丈夫にするためには」といったテーマに対して、どのようなトレーニングが効果的であるかを運動生理学や運動力学の観点から明らかにしていきます。また、スポーツにおける熟練者と未熟練者の動作の違いをバイオメカニクスの分析から明らかにします。一流選手は「速く走る」、「遠くへ跳ぶ」、「速いボールを投げる」ためにどのような動作を行っているのかを解説するとともに、運動の巧緻性における中枢神経の働きについても考えていきます。

《達成目標》

運動することが身体に及ぼす影響や、スポーツ・パフォーマンスを科学的に捉えて理解する能力を養うことが本講義の目標です。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回 a: インTRODakShION（授業内容の概略と受講の仕方）
- 第2回: 骨の生理学（太くて丈夫な骨を作る）
- 第3回: 筋の生理学（1）（随意最大筋力と筋線維タイプ）
- 第4回: 筋の生理学（2）（絶対筋力と神経系機能）
- 第5回: 筋力トレーニング（トレーニングの原則～最新のトレーニング法）
- 第6回: サルコペニア（筋力の加齢変化）
- 第7回: 体脂肪の生理学（脂肪細胞増減のメカニズム、白色・ベージュ・白色脂肪細胞）
- 第8回: 運動と体脂肪（余分な体脂肪を減らすための exercise）
- 第9回: 持久力の生理学（トレーニング方法と生理学的効果）
- 第10回: 運動と脳（動きの巧みさと脳の働き）
- 第11回: 「速いボールを投げるには」、「速く走るためには」（バイオメカニクスの分析から）
- 第12回: 栄養と運動（トレーニング効果を高める栄養摂取）
- 第13回: ストレスと運動（運動でストレスに勝つ）
- 第14回: 運動がもたらす身体からのメッセージ物質（筋、脂肪、骨から分泌される生理活性物質）

* 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。

3. 履修上の注意

「身体がどのような過程を経て運動を発現させているのか?」、「運動することが身体にどのような影響を及ぼすのか?」という問題意識を持って受講して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業内容について事前に参考書等で調べておいてください。
授業時に配布したプリントの内容を、説明できるように復習しておいてください。

5. 教科書

プリントを配布します。

6. 参考書

「21世紀のフィットネス・デザイン—スポーツ科学に基づく健康・体づくり」（文化書房博文社）中原凱文・角田直也編著

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験により評価します。

9. その他

保健体育第II研究室（3号館4階411号室）
オフィスアワー：火曜日 12:30~13:30
aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
健康科学(1)

2017~2021 年度入学者
健康科学(1)

2 単位

加納明彦

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

日本人の死因別死亡割合をみると、約50%が三大生活習慣病（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）で占められています。メタボリックシンドローム対策と共に、これらの予防法を考えます。また人類を脅かす感染症（新型コロナや AIDS）に対する理解を深める事や、ストレス社会におけるストレスとの上手な付き合い方なども論じていきます。

《達成目標》

健康管理のために必要な知識や実践方法を習得するとともに、健康に関するエビデンスを理解する能力を養う事を目標とします。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション（授業内容の概略と受講の仕方）

第2回：ライフサイクルと健康（健康問題を年齢との関係から考える）

第3回：生活習慣病とは（三大生活習慣病の概要）

第4回：体内の脂肪（皮下脂肪、内臓脂肪、血中脂質）

第5回：メタボリックシンドローム（内臓脂肪が健康に及ぼす影響）

第6回：肥瘦関連遺伝子（消費エネルギー構成要素との関係）

第7回：栄養としての脂肪（飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、トランス脂肪酸）

第8回：大腸がん（原因と予防法）

第9回：胃がん（原因と予防法）

第10回：肺がん、子宮頸がん（原因と予防法）

第11回：ストレスと健康（ストレスが免疫に及ぼす影響）

第12回：ストレス耐性を高める（運動と栄養）

第13回：感染症（新型コロナ、インフルエンザ、STI など）の基礎知識と対策

第14回：健康に生きて行くために（まとめ）

* 講義内容は必要に応じて変更する場合があります。

3. 履修上の注意

自分の健康診断の結果や体脂肪率などを把握しておいてください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業内容について事前に参考書等で概要を把握しておいてください。

復習：授業時に配布したプリントの内容を、説明できるように復習しておいてください。

5. 教科書

プリントを配布します。

6. 参考書

「21世紀のフィットネス・デザイン—スポーツ科学に基づく健康・体づくり」（文化書房博文社）中原凱文・角田直也編著

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験により評価します。

9. その他

保健体育第II研究室（3号館4階411号室）

オフィスアワー：月曜12:30~13:30

aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)HES121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
健康科学(2)

2 単位

多賀恒雄

2017～2021 年度入学者
健康科学(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本講義の目的は健康を単に維持していくということばかりではなく、さらに上の段階へと高めていく方策を考えることにある。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目である。

《授業の概要》

主に生活習慣病を題材として、生活環境の中に潜む健康阻害要因を解説し、健康的なライフスタイルについて考察する。

2. 授業内容

1. イントロダクション・健康とライフスタイル
2. 健康の概念と個人の健康指標
3. 健康と体力
4. 集団の健康指標と我が国における健康状態の推移
5. 生活習慣と健康—高血圧(1)—
6. 生活習慣と健康—高血圧(2)—
7. 生活習慣と健康—動脈硬化(1)—
8. 生活習慣と健康—動脈硬化(2)—
9. 生活習慣と健康—心疾患と脳血管疾患—
10. 生活習慣と健康—糖尿病—
11. 生活習慣と健康—悪性新生物—
12. AIDS
13. 運動と健康
14. 運動処方

3. 履修上の注意

将来の健康とライフスタイルとの関係について、強い意識を持って受講すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

健康と身体活動との関係について理解しておくこと。

5. 教科書

特に指定しない

6. 参考書

『運動処方』池上晴夫（朝倉書店）

『21世紀のフィットネス・デザイン』中原凱文他（朝倉書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験により評価する

9. その他

オフィスアワーは別途指示します。

総合科目

総合科目ゼミナール

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
人文科学ゼミナール(哲学)
2017~2021年度入学者
人文科学ゼミナール(哲学)

4単位

長田蔵人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

この講義では、日常生活上のちょっとした疑問から学問的なテーマまで、さまざまなレベルで生じる大小の問題を掘り下げ、仲間との議論を通じて、自分や他者がどのような価値観や考え方に基いて生きているのかを捉え直すことが目指される。

それは、自分の判断を知らぬまに一定の方向に導いている「思考の枠組み」の存在に気づく、つまり「自分自身を知る」ということであり、また、他者の思考や感情に対する理解力と寛容さを身に着ける、ということでもある。

自明のこととして素通りしている考え方を自明視せず、なぜそのように考えられるのか、他にどのような考え方がありうるのかを問うことで、柔軟な思考力と他者の立場に対する理解力を養いたい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のFに対応する科目である。

《到達目標》

(1) 自発的な問題意識に基づく「問いの発見」から考察を進めることにより、主体的・自立的な思考力を身に付ける。

(2) 討論における他者との意見交換を通じて、問題に対するより深い理解と多角的な視点を身に付ける。

2. 授業内容

* 下記の内容は扱われるテーマの事例であり、そのほかにも参加者が自由にテーマを提案できます。

【春学期】

- 第1回 aのみ: イントロダクション — 進め方とテーマについて
- 第2回 プロフィールを偽った作家が与えた感動は本物か? (1)
- 第3回 プロフィールを偽った作家が与えた感動は本物か? (2)
- 第4回 家畜を育てさせて食べさせるのは正しい食育か? (1)
- 第5回 家畜を育てさせて食べさせるのは正しい食育か? (2)
- 第6回 自殺はつねに悪か? (1)
- 第7回 自殺はつねに悪か? (2)
- 第8回 普遍的な「美しさ」は存在するか? (1)
- 第9回 普遍的な「美しさ」は存在するか? (2)
- 第10回 ロボットに権利は認められるべきか? (1)
- 第11回 ロボットに権利は認められるべきか? (2)
- 第12回 差別とは何か? (1)
- 第13回 差別とは何か? (2)
- 第14回 総括

【秋学期】

- 第1回 aのみ: イントロダクション — 進め方とテーマについて
- 第2回 芸術は公的資金によって助成されるべきか? (1)
- 第3回 芸術は公的資金によって助成されるべきか? (2)
- 第4回 ヘイト・スピーチとは何か? (1)
- 第5回 ヘイト・スピーチとは何か? (2)
- 第6回 殺人はつねに悪か? (1)
- 第7回 殺人はつねに悪か? (2)
- 第8回 自動運転の自家用車が起こした事故の責任は誰が取るのか? (1)
- 第9回 自動運転の自家用車が起こした事故の責任は誰が取るのか? (2)
- 第10回 人権とは何か?なぜそれは守られるべきなのか? (1)
- 第11回 人権とは何か?なぜそれは守られるべきなのか? (1)
- 第12回 人は必ず働くべきか?どのように働くべきか? (1)
- 第13回 人は必ず働くべきか?どのように働くべきか? (2)
- 第14回 総括

3. 履修上の注意

自明と思われる自分たちの考え方が、どのような基礎の上に成立しているのか、既存の「思考の枠組み」に対する問題意識を持つことを心がけてください。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

事前に渡された資料やテキストの指定箇所をあらかじめ通読しておくこと。

また授業後も扱われた箇所を再読し、自分なりの考えや疑問点を整理して中間・期末レポートに備えるように。

5. 教科書

特に使用しない。必要な資料は授業中に配布する。

6. 参考書

石井洋二郎, 藤垣裕子, 『大人になるためのリベラルアーツ』(東京大学出版会, 2016年)
児玉聡, 『実践・倫理学 — 現代の問題を考えるために』(勁草書房, 2020年)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

中間レポート 40%, 期末レポート 60%

9. その他

連絡先: kurandoo@meiji.ac.jp
研究室: 哲学研究室 (3号館4階 401号室)

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
人文科学ゼミナール(文章表現)
2017~2021 年度入学者
人文科学ゼミナール(文章表現)

4 単位

松下浩幸

1. 授業の概要・到達目標

読む・書く・考える—Japan Studies 日本の〈社会〉と〈文化〉をめぐる—

春学期は日本社会と文化についての代表的なテキストを読み、日本の現在・過去・未来について考える。また、書評を書くことで文章作成の技術を学ぶ。

夏休みにはフィールド・ワークによる取材実習を予定している。

秋学期には各自が設定したテーマによって研究・調査を行いレポート作成を行う。そして、年度末には研究の成果を文集にまとめる。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のFに対応する科目である。

2. 授業内容

【春学期】

〔第1回〕 イントロダクション・履修上の注意点と授業計画について

〔第2回〕 昨年度のゼミ文集を読む

〔第3回~第7回〕 読書会① 東京の盛り場と都市について考える テキスト：吉見俊哉『都市のドラマトゥルギー』（河出文庫）

〔第8回〕 書評の合評会・その1

〔第9回~第13回〕 読書会② ジェンダーと平等性について考える テキスト：上野千鶴子『生き延びるための思想』（岩波現代文庫）

〔第14回〕 書評の合評会・その2

【夏休み】 フィールド・ワーク「東京の歴史を歩く」 参考図書：『大学的東京ガイド』（昭和堂）、森まゆみ『東京遺産』（岩波新書）

【秋学期】

〔第1回〕 イントロダクション・秋学期の授業計画について

〔第2回~第3回〕 取材実習の成果を文章化する

〔第4回~第8回〕 インタビューの仕方、メモの取り方、文章作成の練習

参考図書：『情報生産者になってみた』（ちくま新書）

〔第9回~第12回〕 取材のための計画を立てる

〔第13回~第14回〕 各自のテーマ発表を行う +ゼミ文集の作成を行う。

※扱うテキスト等は、都合により変更することがある。

3. 履修上の注意

1年間履修は3年生・4年生ともに可能。1年間のみの履修は2単位。

2年間履修は4単位、さらにゼミナール論文を履修すればプラス4単位=8単位。（2年間履修は3年生のみ可能）

初回の授業で履修の仕方や授業の進め方について詳しく説明するので、履修者希望者は必ず出席すること。

※履修に関する質問は以下のメールアドレスを利用ください。

松下：matuhiro@meiji.ac.jp

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習—課題の図書を読み、各自のコメントを準備する。

復習—議論の内容をまとめ、疑問点等を整理し、次回の授業に備える。

5. 教科書

「授業内容」に記した通り。

6. 参考書

大久保喬樹『日本文化論の系譜』（中公新書）

樺島忠夫『文章術—「伝わる書き方」の練習』（角川 one テーマ 21）

上野千鶴子『情報生産者になる』（ちくま新書）

花村太郎『知的トレーニングの技術』（ちくま学芸文庫）

永江 朗『インタビュー術！』（講談社現代新書）

野村 進『調べる技術・書く技術』（講談社現代新書）

関満 博『現場主義の知的生産法』（ちくま新書）

猪瀬直樹『猪瀬直樹著作集 日本の近代』（全12巻 小学館）

沢木耕太郎『沢木耕太郎ノンフィクション』（全9巻 文藝春秋）

大宅壮一文庫編『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業において適宜、課題についてのコメントを、個別または全体に対して行う。

8. 成績評価の方法

発表及びレポート作成によって、総合的に行う。

9. その他

オフィスアワー 月曜日 13:00~14:30
研究室・第一校舎3号館402号（日本語研究室）

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
外国文化ゼミナール(英語) (1)
2017~2021 年度入学者
外国文化ゼミナール(英語) (1)

4 単位

樋渡さゆり

1. 授業の概要・到達目標

「風景で読む英文学」

《授業の概要》

自然・風景・言語をキーワードとして視聴覚資料を参照しつつシェイクスピア、W. ワーズワス、T.S. エリオットらの文学作品を楽しみ、自然観の変遷を追うことで、人と環境について考えます。歴史上の重要な参照点として、科学者であり著述家でもあるアイザック・ニュートンとチャールズ・ダーウィンの著作を取り上げます。資料を講読し、改めて一言語としての英語の特徴を焦点化し、英語らしいロジックへの理解を深めます。

《到達目標》

言語文化的な面から文化の諸相を理解する視点を身につけます。

英文学の言語表現上の特徴と風土的、社会的、思想的背景を考え、私たちを取り巻く文化・社会・環境を意識化します。

ディスカッションやプレゼンテーション、課題提出とフィードバックをとおして、主体的に思考し、意見を発信できるよう目指します。

農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA・Fに対応する科目です。

2. 授業内容

クラスウェブを補助的に使用します。

《春学期》

第1回：bのみ：イントロダクション

第2回から第13回まで、毎回テキストを講読します。

第14回：まとめ

《秋学期》

第1回：bのみ：秋学期イントロダクション

第2回から第13回まで、毎回テキストを講読します。

第14回：まとめ

3. 履修上の注意

資料提示や連絡にクラスウェブを利用しますので、履修を考えている場合は早めに仮登録をしてください。

英文資料の難易度は、英語Ⅰ・英語Ⅱの単位修得を目安とします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予定範囲のテキストをあらかじめ読んで出席すると理解が深まります。

受講後は内容をふりかえり、関心をもった事柄については積極的に調べ、自主的に学びを展開するとよいでしょう。

5. 教科書

プリントまたは電子資料。おもに英語文献を読み、補助的に日本語文献を使用。

6. 参考書

段階を追ってクラスウェブに掲示予定。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出はおもにクラスウェブを利用します。

フィードバックはクラスウェブのコメント欄をとおして各履修者へ返すほか、ディスカッション欄を利用する、授業で取り上げる、などの方法をとります。

8. 成績評価の方法

平常点（授業参加状況、課題提出など）60%、レポート・プレゼンテーション40%。

9. その他

1. 連絡方法⇒クラスウェブ上に用途別に設置された連絡欄のほか、授業で提示。質問は随時受け付けます

2. オフィスアワー⇒質問は1.のほか、ゼミでの積極的な問題提起・話題提供を歓迎します。面談を希望する場合は授業終了時または事前連絡でアポイントメントをとると確実です

場所：英語第Ⅰ研究室（第一校舎 3号館4階403号室）

時間：在室中は可能な限り対応

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
外国文化ゼミナール(英語) (2)
2017~2021 年度入学者
外国文化ゼミナール(英語) (2)

4 単位

織田哲司

1. 授業の概要・到達目標

比較神話の試み

《授業の概要》

このゼミナールは神と神話について考えます—神は存在するのか/しないのか、神は単一の存在なのか/複数存在するのか、神はどのような機能をもっているのか—このような諸問題についてリサーチと議論を重ねます。ときには、教室を抜け出てみんなで神社へ足を延ばして、われわれの先祖がなぜある場所にある神様をお祀りしたのか、などを実際の風景の中で考えてみるのもいいかもしれません。

ただ、漠然と神について考えるのはつかみどころがないかもしれませんから、日本神話と西洋の神話を比較しながら神について考えていきます。

この作業は神だけでなく、じつは日本と西洋の人間について比較することにほかなりません。神について考えることは人間について考えることであると気づけば、このゼミナールは豊かな知の体験の場となるでしょう。

《到達目標》

歴史学や考古学が明らかにしてきた知見をもとに日本の古代文化を概観することにより、次のような学習目標が達成できると期待される：

1. 現代まで連続と続く日本文化の根源的な世界観を理解することができる。
2. 西洋文化と日本文化の相違点を比較することができる。
3. 日本そして日本人の成り立ちを理解することにより、それを自分のことばで説明することができる。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Fに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 ガイダンスとイントロダクション
第2回~第3回 神と人間の関係について考える
第4回~第7回 東西の神統系譜を比較する
第8回~第14回 神と神話をめぐる諸問題を考える
第15回~第28回 リサーチの結果の発表と議論

3. 履修上の注意

充分な予習、復習と出席はいうまでもないが、このクラスでは自発的な質問やコメントが求められる。また、日本語や日本文化のみならず英語や西洋文化にも興味をもつことが非常に重要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o! Meiji System から配信する資料の該当箇所をふり返り、不明な部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容について資料や下に掲げる教科書・参考書に目を通しておくこと。

5. 教科書

とくになし。

6. 参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

リサーチ結果に対する講評は授業内で行う。

8. 成績評価の方法

年間授業回数 2/3 以上の出席者が評価対象となる。授業内での議論参加度 50%、レポート 50%の配分で計算し、合計で 60%以上を合格とする。

9. その他

英語第IV研究室 (3号館3階3-406)

オフィス・アワー：水曜日、木曜日、金曜日 12：40~13：30。オフィスアワー以外でも可能な限り随時受け付けるが、事前の連絡が望ましい。

電子メール：oda_t@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
外国文化ゼミナール(英語) (3)
2017~2021 年度入学者
外国文化ゼミナール(英語) (3)

4 単位

狩野晃一

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標およびテーマ》

中世イギリスの抒情詩を読み、鑑賞するとともに、その時代的な変遷、他言語文学からの影響などの考察を通して中世イギリス人の世界観を垣間見る。そして自分の読みをもとにディスカッション、プレゼンテーションを行う。

《授業の概要》

中世イギリス（古英語期～中英語期）で書かれた様々なジャンルの抒情詩（恋愛詩、政治詩、宗教詩、教訓詩など）を翻訳などを頼りに鑑賞し、そこに詠われた世界に触れる。また近年、抒情詩研究における説教文学との関連、写本研究の重要性が説かれ、書物文化史の観点からも対象に迫る。

2. 授業内容

春学期

- 第1回：イントロダクション、抒情詩とは何か。
- 第2回：英語、英文学の時代区分とその特徴1（古英語）
- 第3回：英語、英文学の時代区分とその特徴2（中英語）
- 第4回：古英語期の抒情詩1
- 第5回：古英語期の抒情詩2
- 第6回：古英語期の抒情詩3
- 第7回：中間のまとめ1（ディスカッション）
- 第8回：中英語期の抒情詩1
- 第9回：中英語期の抒情詩2
- 第10回：中英語期の抒情詩3
- 第11回：中英語期の抒情詩4
- 第12回：中英語期の抒情詩5、および説教文学
- 第13回：写本文化
- 第14回：中間のまとめ2（ディスカッション）

秋学期

- 第1回：春学期の復習と秋学期のイントロダクション（文献案内）
- 第2回：古ノルド語文学との関連
- 第3回：中世フランス語文学との関連
- 第4回：中世イタリア語文学との関連
- 第5回：時代別ディスカッション1（古英語）
- 第6回：時代別ディスカッション2（中英語）
- 第7回：テーマ別文献研究1
- 第8回：テーマ別ディスカッション1
- 第9回：テーマ別文献研究2
- 第10回：テーマ別ディスカッション2
- 第11回：テーマ別文献研究3
- 第12回：テーマ別ディスカッション3
- 第13回：プレゼンテーション1
- 第14回：プレゼンテーション2、まとめ

3. 履修上の注意

色々な言語、文学形態、文化などに広く興味を持ち、広い視野で物事を見る態度で参加してもらいたい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

イントロダクションおよび各回で事前に指定する文献を読み込んでくる。

5. 教科書

特に使用しない。配布する資料に基づいて進める。

6. 参考書

- [i] Secular Lyrics of the XIVth and XVth Centuries, 2nd ed[/i], R. H. Robbins (ed.), (Oxford. Clarendon P, 1955)
- [i] Medieval Lyric: Middle English Lyrics, Ballads, and Carols[/i], John Hirsh (ed.), (Blackwell, 2005)
- [i] Medieval English Lyrics[/i], T. Silverstein (ed.), (Faber, 1971)
- [i] Old and Middle English Poetry [/i] (Blackwell Essential Literature, 2002)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中のディスカッション、プレゼンテーション（60%）、レポート（40%）の相互評価とする。

9. その他

オフィス・アワー：金曜日・3時限目
英語第Ⅱ研究室（3号館4階3-404号室）

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
外国文化ゼミナール(英語) (4)
2017~2021 年度入学者
外国文化ゼミナール(英語) (4)

4 単位

下永裕基

1. 授業の概要・到達目標

ことばの世界を“楽しむ”方法をさぐる
多くの日本人にとって、英語は初めて本格的に学ぶ外国語です。そして外国語を学ぶにあたって、母語である日本語との「衝突」を経験してきたはずで、この「衝突」を上手に克服し、楽しむことができれば、母語にも外国語にも豊かさを見出すことができるでしょう。このゼミナールでは、外国語としての「英語」はもちろんのこと、個々の学生が関心をもつ諸言語 — 手話や点字の世界も含みます — を材料とし、ことばにみられる共通の特性や、相違の受け止め方などをさぐっていきます。
ことばに関心をもつ学生の参加を期待しています。日本語の世界、英語の世界、場合によってはラテン語や日本手話などの世界を包括的に捉えて、ことばを理解することの醍醐味を見出していくゼミナールです。

2. 授業内容

(提供)とはこちらから投げかけるヒントです。学生はそれに応じたり、あるいは自身の関心のある言語に関する情報の提供や解釈の提示を各回に求められます。

<春学期>

- 第1回：(提供) 言語の多様性のもつ意味 1
- 第2回：(提供) 言語の多様性のもつ意味 2
- 第3回：(提供) 母語（日本語）について 1
- 第4回：(提供) 母語（日本語）について 2
- 第5回：(提供) 母語（日本語）について 3
- 第6回：(提供) 母語と第二言語 1
- 第7回：(提供) 母語と第二言語 2
- 第8回：(提供) ことばと文化 1
- 第9回：(提供) ことばと文化 2
- 第10回：(提供) 「英語は簡単」は本当か？ 1
- 第11回：(提供) 「英語は簡単」は本当か？ 2
- 第12回：(提供) 手話の世界 1
- 第13回：(提供) 手話の世界 2
- 第14回：(提供) 夏休みの間の言語観察

<秋学期>

- 第1回：(提供) 意味変化と語源
- 第2回：(提供) 語源の世界 1
- 第3回：(提供) 語源の世界 2
- 第4回：(提供) 語源の世界 3
- 第5回：(提供) 語源の世界 4
- 第6回：(提供) 語源の世界 5
- 第7回：(提供) 英文法をつくった人々
- 第8回：(提供) 英文法を壊す人々
- 第9回：(提供) 言語にみられる変化 1
- 第10回：(提供) 言語にみられる変化 2
- 第11回：(提供) 言語にみられる変化 3
- 第12回：(提供) 言語にみられる変化 4
- 第13回：1年を通しての議論から得たもの
- 第14回：a レポート提出 b 提供資料とリアクションの総括

3. 履修上の注意

辞書（電子辞書可）を必ず携帯してください。受講者は、言語（英語・日本語・その他の外国語、手話、方言等）に高い関心を有し、積極的に議論に参加できる人でなければなりません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教員から投げかける素材をヒントにしつつ、ふだんから身の周りの「ことば」をよく観察し、面白いと感じたことについては、「なにが」「どのように」面白いと感じたかを表現できるようにしててください。

5. 教科書

ハンドアウト教材を使用します。

6. 参考書

渡部昇一『英文法を撫でる』（PHP新書）
織田哲司『英語の語源探訪』（大修館書店）
佐々木健一『辞書になった男』（文春文庫）
その他、必要に応じて紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出課題に対しては提出物への直接のコメントとして提出者に提供します。発表課題に対しては、ゼミナール参加者が相互に行うリアクションと合わせて、教員コメントとして口頭で行います。

8. 成績評価の方法

平素のゼミナールにおける取組み・積極的参加 50%
発表および期末レポート 50%

9. その他

研究室は3号館4階3-405にある。
オフィスアワー 火曜 15:20~18:00、水曜 13:30~16:00
その他、在室時には可能な限り対応します。
連絡先 ysmeiji@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 外国文化ゼミナール(英語) (5)	4 単位	長谷川安代
2017~2021 年度入学者 外国文化ゼミナール(英語) (5)		

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

本ゼミナールのテーマは、「地域社会における多文化共生」です。日本で暮らす在留外国人数は年々増加しています。2023 年 6 月末時点での在留外国人数は、322 万 3858 人で、2022 年末から 4.8%増（14 万 8645 人プラス）で、過去最高となっています（出入国在留管理庁）。みなさんが暮らす地域でも外国人と出会う機会や、外国の食材店やレストランなどが増えてきているのではないのでしょうか。いまや、外国に行かずとも、「外国文化」は、私たちの身近なところにあります。こうしたなか、文化の「違い」に起因する地域社会の課題も生じてきています。まずは、身近な「外国文化」に関心をもち、文化の「違い」・多様性を知り、そして、「違い」を尊重し合いながら、外国人住民・日本人住民が対等な関係で、ともにつくる地域社会のあり方について、考えていきます。

<授業の到達目標>

- ・日本における多文化化の現状を知る。
- ・「外国文化」に関心をもち。
- ・多文化共生にかかる取組を知る。
- ・自らの考えを論理的に述べるができる。
- ・行動に移すことができる。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A に対応する科目である。

2. 授業内容

◆春学期

- [第 1 回] イントロダクション
- [第 2 回] チームビルディング
- [第 3 回] 日本における多文化化の現状
- [第 4 回] シミュレーション「ひょうたん島問題」①
- [第 5 回] 自分自身が暮らす地域の現状を知る①
- [第 6 回] 自分自身が暮らす地域の現状を知る②
- [第 7 回] 自分自身が暮らす地域の現状を知る③
- [第 8 回] 文献紹介とディスカッション①
- [第 9 回] 文献紹介とディスカッション②
- [第 10 回] 文献紹介とディスカッション③
- [第 11 回] 文献紹介とディスカッション④
- [第 12 回] 文献紹介とディスカッション⑤
- [第 13 回] フィールド調査の計画
- [第 14 回] フィールド調査の計画の共有と準備

※ 授業内容・順番は履修学生の希望に応じて、変更する可能性があります。

◆秋学期

- [第 1 回] 前期の振り返り 発表準備
- [第 2 回] フィールド調査結果の発表①
- [第 3 回] フィールド調査結果の発表②
- [第 4 回] シミュレーション「ひょうたん島問題」②
- [第 5 回] 取組み事例の紹介とディスカッション①
- [第 6 回] 取組み事例の紹介とディスカッション②
- [第 7 回] 取組み事例の紹介とディスカッション③
- [第 8 回] 取組み事例の紹介とディスカッション④
- [第 9 回] 取組み事例の紹介とディスカッション⑤
- [第 10 回] ファイナルプレゼンテーション準備
- [第 11 回] ファイナルプレゼンテーション①
- [第 12 回] ファイナルプレゼンテーション②
- [第 13 回] ファイナルプレゼンテーション③
- [第 14 回] 全体の振り返り

※ 授業内容・順番は受講生の希望に応じて、変更する可能性があります。

3. 履修上の注意

- ・履修学生が主体的にゼミナール運営を行います。
- ・授業には、PC、Tablet 等のデバイスを持参してください。
- ・夏休み期間中に、身近な「外国文化」に触れるフィールド調査を行うことを予定しています。（帰省先での調査でも OK です。）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ・履修学生からの話題提供・ディスカッションを中心にゼミを進行しますので、話題提供のための準備が必要です。

5. 教科書

指定なし

6. 参考書

必要に応じて、文献を紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントします。

8. 成績評価の方法

- ・平常点（話題提供、ディスカッションへの参加度、ゼミ運営への貢献度など）:70%
- ・ファイナルプレゼンテーション:30%

9. その他

オフィスアワーについては、最初の授業時にお知らせします。

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
外国文化ゼミナール（ドイツ語）

4 単位

辻 朋季

2017～2021 年度入学者
外国文化ゼミナール（ドイツ語）

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

【2024 年度から再開します】 ドイツおよびドイツ語圏に関する歴史・文化・社会などの様々なテーマについて、学生が自ら考え、調べ、意見を発表し、他の参加者と議論する場にするのが目標です。またテーマ発表の準備を通して、学術研究の基礎的なプロセス（問題の所在を明らかにする、先行研究など関連資料を探す、自分なりの解釈を提示する、ハンドアウトを作成する、文献リストを作る）についても習得していきます。

《授業の概要》

基本的に、履修者の興味に沿って議論のテーマを選び、関連するテキストを選んでいきたいと思います。過去の履修者が興味を持っていたテーマは次の通りです：日独の大学制度の比較、トーマス・マンの『魔の山』と映画『風立ちぬ』との関連、旧ユーゴスラヴィア（かつてのオーストリア領）の歴史、第一次世界大戦がヨーロッパに与えた影響、日本における『第九』の歴史、ナチスドイツの環境政策・景観保護、第二次世界大戦とドイツ、日本とドイツの外国人労働者問題の比較、日本とドイツの感染症対策の比較など。

受講者には、各学期に調べたいテーマ（または書評をしたい本）を一つ選んでもらい、その成果を発表してもらいます。その後、発表についての質疑応答とディスカッションを行います。その他、関連する映画の鑑賞なども予定しています。この科目は農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標 F に対応する科目です。

2. 授業内容

春学期

第 1 回：イントロダクション

第 2 回：どんなテーマに興味があるか、履修者同士のブレインストーミング

第 3 回：ドイツの歴史と文化について（解説）

第 4 回：現代のドイツについて（解説）

第 5 回：ドイツの食文化について

第 6 回：ドイツの働き方や余暇の過ごし方について

第 7 回：ドイツ語圏の国々について

第 8 回：発表とディスカッション（1）

第 9 回：発表とディスカッション（2）

第 10 回：発表とディスカッション（3）

第 11 回：ドイツ映画の鑑賞

第 12 回：映画についてのディスカッション

第 13 回：全体での討論

第 14 回 a のみ：今学期のまとめ

秋学期

第 1 回： イントロダクション

第 2 回：秋学期の発表テーマと担当決め

第 3 回：2024 年前期の日本とドイツの世相を振り返る

第 4 回：関連文献の講読（1）

第 5 回：関連文献の講読（2）

第 6 回：関連文献の講読（3）

第 7 回：発表とディスカッション（1）

第 8 回：発表とディスカッション（2）

第 9 回：発表とディスカッション（3）

第 10 回：映画鑑賞

第 11 回：映画についてのディスカッション

第 12 回：全体での討論

第 13 回：前回の続き

第 14 回 a のみ：今年度のまとめ

3. 履修上の注意

3 年次または 4 年次のみの 1 年間の履修も可能です。また学科の専門のゼミ・研究室とも兼ねることができます。ドイツ語の知識は必要としませんが、あれば理解が深まるため、なるべく授業と並行してドイツ語を学習したり、ドイツ関連の文献の講読をしたりするのが望ましいでしょう。

学生主導のゼミナールにしたいので、参加学生が何事にも好奇心を持って自由に発言し、主体的に授業に取り組むことを期待します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

文献講読に当たっては、事前にプリントを配布するので、授業時まで読んでおくこと。発表に当たっては、先行研究なども比較・対照しつつ、自らが設定したテーマについての独自の視点を提示することが求められます。

5. 教科書

6. 参考書

『ドイツの街角から』、高橋憲著、郁文堂、2017年。

『知ってほしい国ドイツ』、新野守広・飯田道子（編著）、高文研、2017年。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業参加（50%）、テーマ発表とレポート（50%）。

9. その他

研究室：第1校舎3号館407号室。オフィスアワー等は初回授業時に伝えます。

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 外国文化ゼミナール(フランス語)	4 単位	高瀬智子
2017~2021 年度入学者 外国文化ゼミナール(フランス語)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

「フランスの若者は何に興味をもっているのか？」が今年度のテーマです。

YouTube を通して提供されるテーマ・インタビューをもとに、フランス語の復習もしつつ、今を生きるフランスの若者の視点をとらえます。フランス語圏に視点を置いてみると、世界はどのように見えるかを観察することで視野を広げることがこのゼミの目的です。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の F に対応する科目です。

《授業の概要》

年間を通し、テキストをもとに、聞き取り、読解、など、フランス語にふれつつ、少しずつ自分でもフランス語で考えを述べる練習もします。また、ゼミナール実施の時点で公開されている映画、美術展などにも言及する予定です。教室の中のみでなく、直接フランス語圏の文化に触れられるところに足を運ぶ機会を作ることをも計画しています。

2. 授業内容

- [第 1 回] a イントロダクション
b アンケート/ディスカッション：フランス・フランス語のイメージ
- [第 2 回] ソーシャル・ネットワーク
- [第 3 回] SNS で使われる言葉
- [第 4 回] フランスの学生たちの住宅事情は？
- [第 5 回] Tanguy, c'est qui ?
- [第 6 回] エコロジー
- [第 7 回] GENERATION CLIMAT とは？
- [第 8 回] 好きな映画、ドラマ、動画は？
- [第 9 回] 『最強のふたり』／『アデル』
- [第 10 回] 学生のお財布事情
- [第 11 回] どんなアルバイト？
- [第 12 回] 日常で感じる「差別」？
- [第 13 回] どのような差別？どう向き合う？
- [第 14 回] まとめ

- [第 15 回] a イントロダクション
b プレゼンテーション：身近なフランスについて
- [第 16 回] バカンスをどう過ごす？
- [第 17 回] 余暇の使い方
- [第 18 回] ファッションへの関心
- [第 19 回] コロナ後のファッションの変化？
- [第 20 回] プチ比較研究発表 1
- [第 21 回] プチ比較研究発表 2
- [第 22 回] 恋愛事情は？
- [第 23 回] 結婚・家族の形の色々
- [第 24 回] 映画『最高の花婿』
- [第 25 回] 仕事探し
- [第 26 回] 「就活」「履歴書」比較
- [第 27 回] 映画『スパニッシュ・アパートメント』
- [第 28 回] a フランス語圏出身の大学生とのディスカッション（予定）
b まとめ

3. 履修上の注意

1 年次にフランス語を履修していることが望ましいです。、フランス語を読むための努力が必要になります。

ゼミナールの授業は受講者のみなさんの積極的な参加によって成立するものです。

欠席が授業回数の 3 分の 1 を超過すると、原則として単位取得はできません。

「ゼミナール」は通年科目ですので、半期だけの履修はできません。注意して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

春学期の授業では、テキストの読解と併せて、フランス語でかんたんなディスカッションにも挑戦します。音源をよく聞いて、色々な表現を復習・練習しましょう。

秋学期は受講者によるプレゼンテーションを実施しますので、担当する時には準備が必要です。

5. 教科書

「クワ・ドゥ・ヌフ？ 2 世代のリアル・フランス」 レナ・ジュンタ／清岡智比古／オリヴィア・ボワゼル（白水社）

Web 上に公開されている、動画・記事を使用予定

6. 参考書

『現代フランスを知るための62章』三浦信孝 他 (明石書店)

『もっと知りたいフランス 歴史と文化を旅する5章』斎藤広信・ベルナール・レウルス (駿河台出版社)

フランス語で読めるメディアのリンク

1jour 1 actu

[url]<https://www.1jour1actu.com/>[/url]

20 minutes

[url]<https://www.20minutes.fr/>[/url]

聞取り教材 TV5 Monde

[url]<https://apprendre.tv5monde.com/fr/exercices/a2-elementaire>[/url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのアンケート機能・レポート機能を必要に応じて使用します。

8. 成績評価の方法

レポート・プレゼン : 70%

平常点 : 30%

9. その他

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 身体運動学ゼミナール(1)	4 単位	加納明彦
2017～2021年度入学者 身体運動学ゼミナール(1)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

テーマは以下の2つとします。

- (1)「巧みな動きのメカニズムを明らかにする」
- (2)「健康の自己管理法を検討する」

受講生は上記の2つのテーマの内、いずれかを選択します。

テーマ(1)では各種スポーツや走、跳、投などの基本動作を対象にして、高速度ビデオカメラによる動作分析や床反力・筋電図の測定を行って、「ヒトの巧みな動きのメカニズム」を明らかにします。なお研究対象とする運動は受講生個々が興味を持っているものとします。

テーマ(2)では運動、トレーニングおよび食事のプログラムを作成し実践します。その際、体重、体脂肪率、皮下脂肪厚、骨密度、筋力などの測定を行い、その効果を検証します。

《到達目標》

身体運動やスポーツを科学的に捉える能力を養います。健康を管理する上で効果的な運動や食事のプログラムを作成・実践する能力を養います。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のFに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション(ゼミの進め方と受講の仕方について)
- 第2～3回: テーマの解説(過去の卒論紹介と研究テーマの検討)
- 第4回: 実験・測定装置の使用方法(高速度ビデオカメラ)
- 第5回: 実験・測定装置の使用方法(フォースプレート)
- 第6回: 実験・装置の使用方法(筋電計)
- 第7回: 実験・装置の使用方法(体脂肪計, 超音波皮下脂肪厚計, 骨密度計)
- 第8回: テーマの決定
- 第9～10回: 文献読み合わせ
- 第11回: 予備実験の計画・準備
- 第12～13回: 予備実験
- 第14回: データ分析の方法・まとめ方
- 第15～16回: 本実験の計画・準備
- 第19～21回: 本実験
- 第22～25回: 本実験のデータ分析
- 第26～28回: レポート作成・発表

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

運動学または健康科学を履修しておくことを望みます。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

- 予習: 授業で出題された課題について、文献等(授業時に指示)で調べておいてください。
- 復習: 前回授業に関する疑問点や発展的課題等を確認します。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

適宜、文献や資料を提示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

実験で得られたデータから、スポーツ競技力や健康・体力を向上をさせるために必要な具体的方法を考察し、実践に結び付けます。

8. 成績評価の方法

レポートと平常点で評価します(配点: レポート50点, 平常点50点)。レポート課題は受講生の研究テーマに関するものとします。

9. その他

保健体育第 II 研究室（3号館4階411号室）

フィスアワー：月曜 12：30～13：30

E-mail アドレス：aki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
身体運動学ゼミナール(2)

4 単位

多賀恒雄

2017～2021 年度入学者
身体運動学ゼミナール(2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本ゼミナールは運動のパフォーマンスに影響を与える変数を検討することを目的とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のFに対応する科目である。

《授業の概要》

運動のパフォーマンスに変化を与える要因を検討していく。

2. 授業内容

1. 運動のパフォーマンスに影響をおよぼす変数についての解説

2～3. テーマの決定

4～7. 文献収集

8～10. 文献の読み合わせ

11～12. 予備調査

13～14. 予備調査の検討

15～16. 本調査

17～19. 本調査の検討

20～27. レポート作成

28. 発表

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

運動学の単位を修得していること

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

検討すべき内容について調べておくこと。

5. 教科書

特に使用しない。

6. 参考書

テーマにより指示する

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

レポートにより評価する

9. その他

オフィスアワーは別途指示します。

複数学科 設置科目

ここに記載されている科目は、複数学科に共通して設置されている専門科目の授業科目です。

科目ナンバー (AG)MAT191J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
数学概論

2017～2021年度入学者
数学概論

2 単位

梅田典晃

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

大学教養程度の標準的な線形代数学の理解と、将来において様々な分野へ応用できるような数学的なものの考え方や計算法の習得を目標とする。
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目である。

《授業の概要》

線形代数学の基礎について講義をする。

2. 授業内容

高等学校で行列を学習していない事を考慮し、2次・3次正方行列で具体例を多く挙げて、掃き出し法や行列式とその応用等をわかりやすく解説する。

第1回：行列の定義

第2回：行列の演算

第3回：掃き出し法

第4回：行列の階数

第5回：連立1次方程式

第6回：逆行列

第7回：行列式の定義

第8回：行列式の計算

第9回：行列式の性質

第10回：余因子展開

第11回：余因子展開による行列式の計算

第12回：余因子展開と逆行列

第13回：クラメルの公式

第14回：まとめ

3. 履修上の注意

半期科目のため、講義内で演習に当てる時間が少ないので、各自、教科書等の問題を解いておくようにすること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

数学は復習が大切なので、授業で扱った問題や、教科書の練習問題などを自分で解いておくこと。

5. 教科書

『やさしく学べる線形代数』石村園子 著（共立出版）

6. 参考書

『線形代数学講義（改訂版）』、対馬龍司（共立出版）

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji 上で行う。

8. 成績評価の方法

期末レポート 100%で評価する。

9. その他

質問等で使う連絡先は最初の講義で示す。

科目ナンバー (AG)BPH191J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
物理学概論

2017～2021年度入学者
物理学概論

2 単位

小山岳人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

農学を含む各分野で用いられる実験装置は物理法則に従って動いており、その挙動を理解するためには物理の知識が必要です。また、物理的なものの考え方は、様々な科学的な分野の背景にもなっています。この授業では、物理学の基本分野である力学・波動学・熱力学・電磁気学の各分野について、微分積分等の数学を用いてさまざまな量を定量的に扱い、これにより緒概念を説明します。

《到達目標》

いろいろな物理現象は少数の基本的な原理から導けること、また、それらの現象・原理の多くは数式で定量的に表されることを理解し、実際にそれらを使いこなせるようになることを目標とします。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習教科目標のCに対応する科目です。

2. 授業内容

第1回：《イントロダクション》

《力学1》運動を表す物理概念

第2回：《力学2》運動の法則と力/万有引力と重力

第3回：《力学3》仕事とエネルギー/エネルギー保存則

第4回：《力学4》力積と運動量/回転運動と角運動量

第5回：《力学5》剛体運動の基礎/振動

第6回：《波動学》波動/音と光

第7回：《熱力学1》圧力と温度・内部エネルギー/仕事と熱

第8回：《熱力学2》熱力学第1法則/熱力学第2法則

第9回：《熱力学3》エントロピー/熱力学関数

第10回：《電磁気学1》電荷と電場/電圧と電流

第11回：《電磁気学2》電流と磁場/電磁誘導

第12回：《電磁気学3》電気回路素子/電気回路の振動現象

第13回：《電磁気学4》交流回路と電磁波の基礎

第14回：《総合復習》

3. 履修上の注意

この科目の履修に当たり、高校での物理または春学期科目「物理学基礎」といった講義を履修していることを期待しています。これらの講義で現れた概念について、物理量を定量的に扱うため、数学を用います。特に、ベクトル、三角関数、微分積分学の概念・計算を用いて説明したり、問題を解いたりします。

*春学期「物理学基礎」の履修を迷われている方へ：春学期「物理学基礎」を履修していなくても、この秋学期「物理学概論」を履修することは可能です。ただし、高校での物理・数学の履修がない方・少ない方で「物理学概論」のみを履修される場合、例年皆さん大変苦労されている模様です。よって該当の方は、難しくても毎回必ず受講・レポート提出する、という覚悟が必要と思われる。そこで特に物理・数学の両方に心配のある方は、ベクトル・微積分の数学を用いない「物理学基礎」でまず物理的基礎を学び、その後「物理学概論」を履修すると、すでに学んだことを高度な数学とともに学ぶことが可能になります。これによって皆さんが必要な単位を取得しやすくなると思いますので、是非ご検討ください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義では物理のいろいろな概念・法則が出てきます。その理解を深めるため、講義の前に、配布される講義用スライドを資料に目を通しておくとともに、教科書の対応箇所を読んでおいて下さい。そして講義後に内容の確認・補強のため、講義資料・教科書を参照してもらいながらレポートに取り組んでもらいます。さらにこのレポートの締め切り後に、レポートの解答例を配布しますので、これを見ながらレポートの答え合わせをしてください。

5. 教科書

『楽しみながら学ぶ物理入門』 山崎耕三（共立出版）

6. 参考書

『Essential 物理学』 阿部龍蔵（サイエンス社）

『第5版 基礎物理学』 原 康夫（学術図書出版社）

『物理学演習問題集』 原 康夫・右近 修治（学術図書出版社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

各回のレポートにおいて質問等があった場合には、同じ回のクラスウェブ・レポート欄に、フィードバックファイルで返答します。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、毎回講義後のレポート・授業貢献 40%

総合点の60%以上を単位修得の条件とする。

9. その他

オフィスアワー： 授業時間の前後に講師控室にいます。

科目ナンバー (AG)BPH294J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
物理学実験(1)

2017~2021 年度入学者
物理学実験(1)

1 単位

奥出信一郎

1. 授業の概要・到達目標

《授業の到達目標およびテーマ》

理科の数多くの基本原理や法則は物理学に基づいたものです。物理学実験は、実験を通して原理、法則の「物理量」を測定したり、「物理現象」を観察する実験科学です。この実験は種々の装置や器具を操作しながら計測したり観察したりします。これにより、「計測概念」、「単位系や精度」、「計測方法」を学びます。また、物理量の計測から私達の日常周辺で起こっている出来事が物理現象であることが理解できます。自動車もスマートフォンもパソコンも物理学実験から誕生したと言っても過言ではないでしょう。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目です。

《授業の概要》

実験テーマは授業内容にある物理学全分野から選ばれています。

2. 授業内容

第1回 イン트로ダクション・安全教育

第2回 長さ・体積の測定

第3回 面積の測定

第4回 密度の測定

第5回 重力加速度の測定

第6回 音速の測定

第7回 熱の仕事率（ジュール定数）の測定

第8回 レンズの焦点距離の測定

第9回 光の回折現象と光スペクトルの波長測定

第10回 等電位線（電流の可視化）と電位差測定

第11回 背景放射線量測定とβ線吸収量測定

この授業では、3・4限セットで1回と記載しています。

3. 履修上の注意

高校・大学で物理学の授業を履修していると実験内容をより深く理解できます。履修していない場合でも実験操作に支障をきたすことはありませんので、安心して履修してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

実験の原理について事前に予習しておくこと。

5. 教科書

なし。プリントを配布。

6. 参考書

『六訂 物理学実験』 吉田、武居編（三省堂）

『理科年表』東京天文台（丸善）

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された実験レポートは、2週間後までに添削して返却する。

8. 成績評価の方法

実験レポート（50%）と平常点（実験への参加態度・貢献度50%）により評価します。

9. その他

土曜日の物理学実験と同じ内容です。どちらかを選択してください。

授業以外の時間帯で、対面での質問を希望する場合には、土曜日担当の鈴木が受け付けます。

生物物理学研究室（6号館3階 6-309A号室）に来てください。

オフィスアワーは特に指定しません。

科目ナンバー (AG)BPH294J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 物理学実験(2)	1 単位	鈴木博実
2017~2021 年度入学者 物理学実験(2)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の到達目標およびテーマ》

理科の数多くの基本原理や法則は物理学に基づいたものです。物理学実験は、実験を通して原理、法則の「物理量」を測定したり、「物理現象」を観察する実験科学です。この実験は種々の装置や器具を操作しながら計測したり観察したりします。これにより、「計測概念」、「単位系や精度」、「計測方法」を学びます。また、物理量の計測から私達の日常周辺で起こっている出来事が物理現象であることが理解できます。自動車もスマートフォンもパソコンも物理学実験から誕生したと言っても過言ではないでしょう。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目です。

《授業の概要》

実験テーマは授業内容にある物理学全分野から選ばれています。

2. 授業内容

- 第1回 インTROダクシヨン・安全教育
- 第2回 長さ・体積の測定
- 第3回 面積の測定
- 第4回 密度の測定
- 第5回 重力加速度の測定
- 第6回 音速の測定
- 第7回 熱の仕事率（ジュール定数）の測定
- 第8回 レンズの焦点距離の測定
- 第9回 光の回折現象と光スペクトルの波長測定
- 第10回 等電位線（電流の可視化）と電位差測定
- 第11回 背景放射線量測定とβ線吸収量測定

この授業では、3・4限セットで1回と記載しています。

3. 履修上の注意

高校・大学で物理学の授業を履修していると実験内容をより深く理解できます。履修していない場合でも実験操作に支障をきたすことはありませんので、安心して履修してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

実験の原理について事前に予習しておくこと。

5. 教科書

なし。プリントを配布。

6. 参考書

- 『六訂 物理学実験』 吉田、武居編（三省堂）
- 『理科年表』 東京天文台（丸善）

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された実験レポートは、2週間後までに添削して返却する。

8. 成績評価の方法

実験レポート（50%）と平常点（実験への参加態度・貢献度50%）により評価します。

9. その他

金曜日の物理学実験と同じ内容です。どちらかを選択してください。
質問などがあれば、生物物理学研究室（6号館3階 6-309A号室）に来てください。
オフィスアワーは特に指定しません。

科目ナンバー (AG)BCH394J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
化学実験

2017～2021 年度入学者
化学実験

1 単位

長田・竹中・
中村・石丸・小林

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

自然科学の知識の大半は実験を通し得てきたものです。我々が学び研究する農学は基礎自然科学から成る応用科学であり、また、実践の科学といわれています。とくに化学は最も基本的な柱であり、農学部学生の基本的必須体系です。この化学実験の目的は、各自が実験ノートを作成し、主体的に実験し、レポートを作成することで、基本的実験操作と化学反応の機構の考察や定量分析の理論を習得することにあります。

《授業の概要》

定性分析と定量分析を行います。具体的には、定性分析では、無機陽イオンの系統的分離と確認を通じて、実験操作に慣れるとともに、化学反応を体験します。最終的に、未知試料に含まれる陽イオンを特定します。定量分析では、滴定法と比色法の理論と実験操作を理解・習得します。データの統計処理とレポートの作成方法を学び、最後に実際の食品を分析します。指示に従って、レポートを作成し提出します。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション：班分け、安全教育、器具の準備・洗浄（試薬調整）等

〈定性分析：1・3 属陽イオンの系統分析〉

第2回：基本操作・試薬調整

第3回：第1 属陽イオンの分離と確認

第4回：第3 属陽イオンの分離と確認

第5回：未知試料の分析

〈定量分析：統計処理〉

第6回：定量分析・容量分析用計量器の取り扱い：滴定：ビュレット・ホールピペット・メスフラスコ

第7回：食酢中の酢酸の定量（中和滴定）

第8回：分光光度計・電子天秤・オートピペットの取り扱い：検量線の作成と濃度の決定

第9回：水道水中の残留塩素の定量（分光光度法）

実験内容および順序は必要に応じて変更します。初回の授業でお知らせします。

この実験授業については3・4 限セットで1 回と記載しています。

3. 履修上の注意

実験は危険が伴うために白衣の着用、ローヒールの靴を履くこと。遅刻は厳禁です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

実験内容について事前に学習し、実験ノートに整理しておく必要があります。

実験操作や反応の経過（概観・溶液の色の変化・沈殿の生成の有無と色）さらに実験結果の記録は、常に知識の裏付けとなります。またその際行なった実験が失敗したとしても実験に対して重要な示唆が与えられることから、必ず実験ノートを用意し自分のノートで実験を行う必要があります。

5. 教科書

実験に必要なプリントを適時配布します。

6. 参考書

『定性分析』浅田誠一他 技報堂出版

『定量分析』同上

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて配信する。

8. 成績評価の方法

平常点を重視し、実験ノートや実験に取り組む姿勢（50%）と、それに加え未知試料のテストおよび各実験のレポート（50%）で評価します。

9. その他

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)AGR151J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
地学概論

2017~2021 年度入学者
地学概論

2 単位

中村修子

1. 授業の概要・到達目標

太陽系の惑星 地球は、誕生から 46 億年もの間ダイナミックに活動を続けている。その地球に生命が誕生し、地球環境と生物は互いを変化させあう共進化の途上にある。自然界の一生物種として人間がこの惑星に生きるとき、地球環境を理解し認識することは重要である。

講義前半では、生物の活動の舞台となる地球の成り立ち、大気・海洋・地殻の形成と進化、それらの相互関係を俯瞰し、1つのシステムとして「地球環境」を捉えることを目標とする。後半は生命進化を軸に地球史を辿り、相互にどのように関係し影響を及ぼしてきたかを探る。

現在直面する気候変動問題を通しサイエンスと社会の繋がりについても目を向けたい。人間社会中心の視点から離れ、グローバルな時空間スケールで物事を捉え、自然界におけるヒトの立ち位置を見つめたい。

本講義は農学科の基礎科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の A および C に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回 a: イントロダクション (地球科学へのいざない)

b: 太陽系と地球の概観、惑星形成

第 2 回: 初期地球・分化

第 3 回: 内部エネルギーとプレートテクトニクス、火山

第 4 回: 地震の基礎知識

第 5 回: 自然の作用、地形形成

第 6 回: 外部エネルギー、大気

第 7 回: 海洋、大気海洋相互作用

第 8 回: 地球生命史 1 (生命誕生と生物進化)

第 9 回: 地球生命史 2 (大気進化、スノーボールアース)

第 10 回: 地球生命史 3 (上陸)

第 11 回: 大量絶滅 1 (P/T) 大量絶滅 2 (K/T)

第 12 回: 気候変動

第 13 回: 人類進出

第 14 回: サンゴ礁から見る地球環境、将来予測

3. 履修上の注意

履修前提科目・同時履修が望ましい科目は特になし。高校での地学履修歴は不問です。

地球科学は物理・化学・生物を包括しますが、丁寧な解説を心がけます。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

講義資料 PDF は事前に Oh-o!Meiji に掲載します。各自ダウンロード・印刷して準備すること。

予習は特に必要ないが、課題を通して講義のポイントを掴んでほしい

5. 教科書

講義は基本的にパワーポイント資料で行う (PDF をダウンロード・配布資料とします)

地学の履修経験のない人には、(自身の学習用としての) 教科書/参考書として以下を推奨します

はじめて学ぶ大学教養地学 杉本憲彦・杵島正洋・松本直記 慶応義塾大学出版会 ISBN978-4-7664-2662-5

惑星地球の進化 松本良・浦辺徹郎・田近英一 放送大学教育振興会 ISBN978-4-595-31447-6

6. 参考書

・地球・惑星・生命 日本地球惑星科学連合編 東京大学出版会

・地球惑星科学 (全 14 巻) 岩波書店

ほか多数。授業でも紹介します。興味あるものから手に取ってみてください

7. 課題に対するフィードバックの方法

次週の授業にて、注意点など講評を行う

8. 成績評価の方法

講義でのアンケート課題 (出欠を兼ねる, 30%), および期末試験/レポート (70%) にて評価する

試験形態については状況により変更あり。決まり次第連絡します

9. その他

質問・連絡・要望などは課題提出フォームで受け付け、対応します。

科目ナンバー (AG) AGR154J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 地学実験	1 単位	倉本・菅野・小島・登尾・服部・矢 崎・佐藤
2017～2021 年度入学者 地学実験		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

地学は、地球を取り巻く様々な現象を取り扱う基礎的学問である。その分野は広く、天文学、気象学、地質学、地形学、土壌学、陸水学、海洋学などに及ぶ。農業も地学分野と無関係には成立していない。地学実験では、広範囲に及ぶ基礎学の中から分野を選び、自然のなりたち（倉本）、気象（登尾）、地盤と水の関係（小島）、地層や鉱物・化石の観察と過去の環境の推定（中村・佐藤）、岩石の性質（菅野）について、実験、実習、観察を行う。

《到達目標》

身近な現象についての関心を広げ、理解を深めることを目的とする。

農学科の食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の C・D・H に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第 1 回 a イントロダクション（全員）
b レポートの書き方・安全教育（服部・佐藤）
- 第 2 回 多摩丘陵のランドスケープ（地形と植生）（倉本・佐藤）
- 第 3 回 多摩丘陵のランドスケープ（地形と土地利用）（倉本・佐藤）
- 第 4 回 生田周辺地形と地史（中村・佐藤）
- 第 5 回 生田緑地 多摩丘陵地層観察（中村・佐藤）
- 第 6 回 年輪・年縞試料 環境復元（中村・佐藤）
- 第 7 回 地層採取鉱物・化石観察、砂の比較（中村・佐藤）
- 第 8 回 河川の流れの速さと石の移動（小島・佐藤）
- 第 9 回 地盤の安定（小島・佐藤）
- 第 10 回 岩石と鉱物の種類と性質（菅野・佐藤）
- 第 11 回 環境材としての岩石と鉱物（菅野・佐藤）
- 第 12 回 生田キャンパスの気象観測（登尾・佐藤）

※実験の内容・順番・担当者は変更することがあります。

※天候によって実験の内容を変更することがあります。

※3・4 限セットで 1 回と記載しています。

3. 履修上の注意

実験に支障があるので遅刻をしないこと。実験の予定を変更することがあるので事前の連絡に注意すること。教職等の実習で、欠席が予定される場合には、欠席をしなくてもよい年次で履修することが望ましい。農学科の学生は、「地学概論」「土壌学」「ランドスケープ入門」「生産環境学入門」等を履修し、理解を深めていくことを望む。

秋学期履修の学生も必ず春学期に履修登録をすること。秋学期の追加履修は認めない。

実験室の大きさの都合上、春・秋学期各 8 4 名を上限とし、超過した場合は抽選等により、少ない方の期に振り分けを行う。ただし、教職課程 3、4 年生の希望を優先する。履修者が定員を超過しそうな場合には、説明会を実施します。Oh-o! Meiji を通じて案内をするので、必ず出席すること。欠席した学生の履修は認めないので注意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中の指示に従ってレポートの作成をすること。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

必要に応じて講義内で提示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートへのコメントをもって行う。

8. 成績評価の方法

レポート 70%、実験に取り組む姿勢 30%とする。 レポートが課されている実験では、レポートの提出のない場合は出席と認めない。

9. その他

オフィスアワー

- 倉本 応用植物生態学研究室 4-213A 金 12:45-13:15
- 登尾 土地資源学研究室 4-215A 月 12:30-13:20
- 菅野 環境デザイン研究室 4-306A 木 12:30-13:20
- 小島 水資源学研究室 4-304A 水 12:40-13:20

服部 地域環境計画研究室 4-214A 木 12:30 - 13:20
佐藤 6-402 水 12:40-13:20
中村 実験後 30分間 実験室/中央棟 3階講師室

科目ナンバー (AG) CBI331J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 実験動物学	2 単位	多田昇弘
2017～2021年度入学者 実験動物学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

実験動物学は、医学、薬学及び生物学等の発展に寄与している動物実験のベースとなる学問領域である。また、ヒト及びマウスゲノム上の全遺伝子配列が解明された現在、遺伝子改変動物を用いた研究等がますます盛んに行われつつあり、実験動物学とヒト疾患の病因解明との接点が重要視されている。本講義では、基礎医学・生命科学研究を行う上での実験動物及び動物実験に関する知見について説明してゆく。

本講義では、実験動物学の医学、生物学等における重要性を論じるのみならず、ゲノム科学における今後の実験動物の役割及び動物福祉の観点からの実験動物学についても講義することによって、実験動物学の社会における学問的意義を理解することを目標としている。

なお、農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のB・Cに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：a: イントロダクション（実験動物学とは）

b: 実験動物学（実験動物科学）及び動物実験の定義と生命科学としての位置づけ

第2回：実験用動物の分類、微生物及び遺伝的統御からみた実験動物の分類

第3回：動物実験の適正な実施法と動物実験成績のヒトへの外挿法

第4回：動物実験の倫理

第5回：比較遺伝学（遺伝と育種）

第6回：繁殖生理学

第7回：発生工学、遺伝子改変動物、ゲノム編集動物の作製と病態解析法

第8回：飼育管理学

第9回：動物実験施設

第10回：疾病学

第11回：微生物モニタリングと実験動物授受における微生物学的ステータス

第12回：比較実験動物学

第13回：関連法規及び動物実験法、論文作成法

第14回：aのみ：まとめ

3. 履修上の注意

講義内容は、一応、指定した教科書を参考にしているが、各講義の内容をまとめたものを資料として、Oh-o! Meiji web にて公開しているので、各自でダウンロードして使用すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義内容がかなり広範に渡っているため、事前にダウンロードした資料に目を通して、予習すると共に、毎回の講義後は、必ずノートを整理し、自分なりにまとめ、復習しておくことが肝要である。また、講義中、不明な点があった場合は、積極的に質問すること。

5. 教科書

『最新実験動物学』前島一淑、笠井憲雪著（朝倉書店）

6. 参考書

『ジーンターゲットングの最新技術』八木健編（羊土社）

『実験動物の基礎と技術 I 総論』日本実験動物協会（丸善）

『実験動物の基礎と技術 II 各論』日本実験動物協会（丸善）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業への参加度及び期末試験の成績により評価する（授業への参加度：30%、期末試験：70%）。

9. その他

大学医学部の動物実験施設の見学希望は常時受け付ける。希望者は事前にメールにて連絡すること。

E-mail: ntada@juntendo.ac.jp

科目ナンバー (AG)PHY341J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 生物物理学	2 単位	鈴木博実
2017~2021 年度入学者 生物物理学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生命現象を研究する上であまり関係がないと思われがちな物理学がいかに生命現象やその測定装置と関連しているかの理解を深めることを目的とする。

《授業の概要》

生物物理学のうち特に農学部に関連性が高い4つのテーマを取り上げ、様々な現象が、物理法則や物理学的思考でどのように理解しモデル化出来るかを示す。

2. 授業内容

第1回：講義内容の紹介

第2回：タンパク質の立体構造形成原理 (1) タンパク質の構造と物性

第3回：タンパク質の立体構造形成原理 (2) 立体構造予測

第4回：タンパク質の立体構造形成原理 (3) フォールディング機構

第5回：イオンチャネル (1) 電気信号発生メカニズム

第6回：イオンチャネル (2) イオンチャネルの構造と機能

第7回：イオンチャネル (3) イオン透過の物理学

第8回：イオンチャネル (4) チャネル開閉の物理学

第9回：様々な顕微鏡 (1) 顕微鏡の原理

第10回：様々な顕微鏡 (2) 種々の光学顕微鏡

第11回：様々な顕微鏡 (3) 電子顕微鏡, X線顕微鏡, 原子間力顕微鏡

第12回：系統推定 (1) 系統解析の基礎

第13回：系統推定 (2) 距離法

第14回：系統推定 (3) 最尤法、ベイズ法

3. 履修上の注意

農芸化学科の場合は物理学(力学・熱力学)、物理学(電磁気学・光学)を生命科学科の場合は物理学概論を履修していることが望ましいが、これらの科目を履修していない場合でも履修可。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について、配布するプリントなどで、事前に予習しておくこと。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『シリーズ・ニューバイオフィジックス』(共立出版社, 1997年)

『タンパク質の構造と機能』(メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2005年)

『バイオインフォマティクス第2版』(メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2005年)

7. 課題に対するフィードバックの方法

第4回、第8回、第11回の講義終了後にレポート課題を提示し、それぞれ、第6回、第10回、第13回講義までにオンラインでレポートを提出してもらう。

提出されたレポートは翌週に添削して返却する。

8. 成績評価の方法

成績は学期末試験60%、レポート30%、平常点(授業参加・貢献度)10%で判断する。

9. その他

生物物理学研究室(6号館3階6-309A号室)

オフィスアワーは特に設定しません。質問等があれば研究室に来てください。

科目ナンバー (CC) CST111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 職業指導	2 単位	阿部 英之助
2017～2021年度入学者 職業指導		

1. 授業の概要・到達目標

本講義では、現代社会における職業教育の意義と課題を学ぶとともに職業教育の現状について理解を深めます。具体的には、①青年期における進路選択問題、②高等学校における職業指導および職業教育の実際、③職業指導および職業選択の課題、以上の3点を通じて、青年期における職業教育を理解します。

この講義の到達目標は、①現代社会における職業の役割と労働構造の変化について把握する。②学校教育における職業教育の意義と歴史について理解する。③青年期における職業指導および職業選択について理解し、進路指導の方法を修得することです。具体的な事例を通じて現代社会および学校教育の現状と、様々な視点から職業指導および職業教育の在り様を理解していきます。また同時に、受講生のキャリア意識やキャリアガイダンスも併せながら授業を展開していきます。

2. 授業内容

- 第1回：a：イントロダクション（講義のねらい、職業指導の意義）
b：現代社会における職業（1）～現代社会の現状とその理解～
- 第2回：現代社会における職業（2）～働くことの意義を考える～
- 第3回：現代社会における職業（3）～労働構造問題と格差社会～
- 第4回：現代社会における職業（4）～労働基準法と労働環境問題～
- 第5回：青年期の進路と進路指導（1）～高校生の進路動向と進路保障～
- 第6回：青年期の進路と進路指導（2）～高校生の就職状況と就職問題～
- 第7回：高等学校における職業指導（1）～普通教育と専門教育～
- 第8回：高等学校における職業指導（2）～農業高校の現状と高度専門化の対応～
- 第9回：高等学校における職業指導（3）～高等教育における職業教育～
- 第10回：高等学校における職業指導（4）～農業教育の課題と職業指導の実際～
- 第11回：新たな職業指導の問題と課題～障がい者雇用の現状と実際～
- 第12回：諸外国の職業指導の実態（1）～諸外国の職業教育の現状～
- 第13回：諸外国の職業指導の実態（2）～ドイツ・イギリスの事例から～
- 第14回：a：講義全体ふりかえり
b：試験

3. 履修上の注意

この講義は、基本的には教員免許取得（高校農業免許）を目指している学生及び教職志望向きの資格科目である。それ以外でも、授業内容に興味・関心があれば、履修は妨げません。

最初に新聞・雑誌や調査データなどの具体的な事例の紹介を通して、現代社会における職業世界の姿を知り、その背景にある理論的位置づけなどを学んでいきます。また、授業毎に簡単な「コメント」や「ワークシート」を通して、自分の見解・意見をまとめる作業を行い、授業内容の定着を図りたいと思います。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に次の講義に使用する資料または内容によってはワークシートを配布しますので、事前に読み込んでおくか、関連事項のキーワード検索を行い、講義内容の理解を深めてください（必要時間としては30～1時間程度）。また、授業回数が半分を過ぎたら、中間まとめと中間チェック・テストを行いますので、配布した講義資料及びノートはしっかり復習しておいてください。

5. 教科書

教科書は使用しませんが、教員が作成した講義資料を使用します。

6. 参考書

- 『新時代のキャリア教育と職業指導』佐藤史人編（法律文化社）2018年
- 『職業教育・産業教育ハンドブック』日本産業教育学会編（大学教育出版）2013年
- 『日本と世界の職業教育』堀内達夫編（法律文化社）2013年
- 『キャリア教育のウソ』児美川孝一郎（筑摩書房）2013年
- 『夢があふれる社会に希望はあるのか』児美川孝一郎（ベストセラーズ）2016年

7. 課題に対するフィードバックの方法

中間まとめと中間チェック・テストの解説については、Oh -o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

8. 成績評価の方法

成績評価は、平常点（授業への参加度・貢献度、発言など）15%、授業小レポート課題15%、学期末試験70%の合計100%によって総合的に評価をします。また、皆さんの積極的な関わりを期待しますが、授業に直接関係のない私語は厳禁とします。場合によっては、退席と評価対象外として処理させていただきます。

9. その他

農学科

農
学
科

科目ナンバー (AG) BCH191J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 化学概論	2 単位	高須賀智子
2017～2021年度入学者 化学概論		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

物質や現象をより深く理解するために、化学的視点および素養を身に付け、考える力を養っていきましょう。各テーマのエッセンスについて、自分の手で図解できるようになること、自分の言葉で説明できるようになることが到達目標です。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Cに対応する科目となっています。

《授業の概要》

本科目では、原子と電子、元素と周期表、化学結合、化学反応など基本的な化学の考え方を学びます。化学は物質の性質や変化の様子、すなわち森羅万象を学ぶ学問であると同時に、自然の素晴らしさ・かけがえのなさを教えてくれる学問です。我々の身の回りには、化学製品がいたるところに使われており、化学製品なくしては生活ができないほどです。また、現在、人類は食糧・環境・エネルギーの問題と直面しており、地球全体での解決が求められています。このような課題に対しても化学は大いに役立つ学問の一つです。

2. 授業内容

第1回から9回までは、化学の基本を学びます。その後、農学科の専門科目につながる有機化学を取り上げる予定です。第10回から14回の内容については、授業の進行程度など必要に応じて変更となる場合があります。講義は教科書の内容をまとめたワークシートを使用して進めていきます。毎回、「まとめと質問シート」を書いて提出していただきます。

- 第1回 インTRODククション：化学の基礎（数・単位・研究、水分子）
- 第2回 元素、原子、電子
- 第3回 化学結合（その1：共有結合と分子、極性）
- 第4回 化学結合（その2：分子内および分子間に働く力）
- 第5回 化学反応
- 第6回 反応速度と化学平衡
- 第7回 酸・塩基と緩衝液
- 第8回 エネルギー
- 第9回 酸化と還元
- 第10回 有機化学（その1：脂肪族炭化水素と官能基）
- 第11回 有機化学（その2：芳香族化合物、異性体）
- 第12回 有機化学（その3：化学反応機構）
- 第13回 生体分子
- 第14回 (aのみ) 光

3. 履修上の注意

高校で化学基礎及び化学を履修していることが望ましいです。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

第1回のイントロダククションで、第2回から第14回の講義内容と教科書の対応表をお配りしますので、教科書の当該箇所を熟読し、予め配布するワークシートの穴埋めをする予習をして下さい。高校では習っていない内容もありますので、予習していないと講義内容を理解するのが難しい回もあると思われます。また、講義のはじめに前回内容の小テストを行いますので、ワークシートの重要部分を中心に復習して、確実に図示・説明できるようにしておくことが望ましいです。

5. 教科書

「ライフサイエンスのための基礎化学」

R. Sutton・B. Rockett・P. Swindelles 著 影近弘之・平野智也 訳
(東京化学同人) 2011年

6. 参考書

特になし。

7. 課題に対するフィードバックの方法

「質問とまとめシート」に書かれた質問やコメントは、翌週に全員と共有しながら解説やフィードバックを行います。また、小テストの解答例を Oh-o!Meiji で公開するとともに、個人の小テストはクラスウェブのレポートからコメント入りファイルを返却いたします。

8. 成績評価の方法

平常点（まとめと質問シート14回分）10%、小テスト14回分40%、期末テスト50%で評価します。

やむを得ず欠席される場合は、Oh-o!Meiji システムより「まとめと質問シート」および小テストをダウンロードして回答・提出することが可能です。ただし、遅延は減点対象となります。

期末テストは持ち込み不可で、講義全体からの出題となります。

9. その他

第1回目のときに履修者の皆さんのバックグラウンドを知るために高校までの履修状況等についてアンケートを行う予定です。ご協力をお願い致します。小職は東京農工大学に所属しているため、問い合わせ・連絡はメールにてお願いします。

メールアドレス：takasuka@cc.tuat.ac.jp です。

科目ナンバー (AG)AGR121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
栽培学入門

2017~2021 年度入学者
栽培学入門

2 単位

岩崎直・塩津・糸山

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

指数関数的勢いで増加する世界人口は今や 72 億に達し、一人当たりの食糧供給量は減少の傾向をたどっている。したがって、われわれ人類の生存は、最も重要な産業である「農業」における「作物」の栽培を通じた「食糧」供給の多寡にかかっている。本講義では、農業の成り立ちと役割、植物資源の種類、生理生態、環境と生産、生産技術の基礎などを概観する。

農学科の基礎科目で、食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の C および E に対応する科目である。

《到達目標》

農学を学ぶ諸兄が生産技術の理論を理解するのに役立つ基礎知識を充ち、それらを応用して「食糧生産（作物栽培）」における諸問題を解決する能力を修得することを目標とする。

2. 授業内容

第 1 回：a のみ：イントロダクション（栽培学とは）

第 2 回：農業の成り立ちと作物の栽培

第 3 回：植物資源と作物

第 4 回：作物の分類

第 5 回：栽培植物の構造と機能

第 6 回：作物の生理・生態（光合成と物質生産性）

第 7 回：作物の生理・生態（環境適応性）

第 8 回：作物の栽培・管理

第 9 回：生産と環境

第 10 回：生産技術の基礎

第 11 回：環境変動と食糧生産

第 12 回：収量と品質

第 13 回：植物資源の活用

第 14 回：農業の多面的機能・まとめ

3. 履修上の注意

「農業」「食糧」「温暖化」「バイオマス」「持続性」「健康」等のキーワードに敏感であって欲しい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。

5. 教科書

特に指定しないが、必要な資料は配付する。

6. 参考書

植物生産学概論（星川清親 編著、文永堂出版）

栽培学-環境と持続的農業-（森田茂紀 他、朝倉書店）

栽培学大要（江原 薫、養賢堂）

農学とは何か（田附貞洋・生井兵治 編、朝倉書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

100%定期試験で評価する。

9. その他

果樹園芸学研究室（5号館3階306A）

オフィスアワー：水曜日：12：40～13：30、質問などがあれば気軽に研究室まで来てください。

科目ナンバー (AG)AGR161J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
 アニマルサイエンス入門
 2017～2021 年度入学者
 基礎動物生産学

2 単位

溝口・川口・佐々木

1. 授業の概要・到達目標

<授業の達成目標及びテーマ>

動物に関心のある学生が、動物の基礎知識を幅広く学習し、動物の生産の基礎が理解できるようにする。本授業は動物系を学ぶ礎としての位置づけである。

<授業の概要>

ウシ・ブタ・ニワトリなどの畜産動物を中心に、動向、行動、疾病、栄養、繁殖などについて学習する。また、学生同士で議論するアクティブラーニング手法も取り入れる。本授業は、農学科基礎科目群導入科目の一つである。食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

1. 畜産動向について (佐々木)
2. 畜産生産物について (佐々木)
3. 動物の衛生 (佐々木)
4. 動物の行動 (川口)
5. 動物の環境 (川口)
6. 動物の疾病 (川口)
7. 動物の生産と繁殖 (佐々木)
8. 単胃動物・反芻動物・鶏の栄養 (溝口)
9. 動物でのエネルギー変換と栄養素 (ミネラルとビタミン) (溝口)
10. 動物の飼料とその原料 (溝口)
11. 新聞記事を用いたアクティブラーニング1 (溝口・川口・佐々木)
12. 新聞記事を用いたアクティブラーニング2 (溝口・川口・佐々木)
13. 新聞記事を用いたアクティブラーニング3 (溝口・川口・佐々木)
14. 新聞記事を用いたアクティブラーニング4 (溝口・川口・佐々木)

*授業内容は必要に応じて変更する場合があります。

3. 履修上の注意

各教員の最初の授業での指示に従い、配布するプリントなどをよく読み理解する。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

授業の後は、プリントなどを振り返り復習すること。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

畜産学概論 朝倉書店 2021

畜産学入門 文永堂 2012

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて講義にて解説する

8. 成績評価の方法

各教員ごとによる小テストなどにより評価する。

9. その他

動物生産学研究室 (5号館5階501A)

動物環境学研究室 (5号館5階502A)

動物遺伝資源学研究室 (5号館3階305A)

科目ナンバー (AG)AGR181J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ランドスケープ入門	2 単位	倉本・菅野
2017～2021年度入学者 緑地学入門		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

この科目は二つの部分から構成されている。第一部はランドスケープの歴史とデザインをテーマとし、第二部はランドスケープエコロジー（マクロエコロジー）をテーマとしている。全体でランドスケープの全体像を理解することを目標としている。ランドスケープという概念で統一された授業であるものの、ランドスケープには複数の特徴的な意味があり、第一部では人と社会の間で形成される景観、第二部では生態学の階層としての景観、すなわち生態系の複合という意味で用いている。

《授業の概要》

第一部では、ランドスケープの視点を紹介したうえで、緑地学の成果としての人工的な空間施設である庭園や公園について、歴史的な発展過程を紹介する。次に、身近な生田のランドスケープから世界のランドスケープまで、ランドスケープデザインの見方、考え方について理解する。

第二部では、ランドスケープという見方と教員が実務としてかかわったランドスケープの仕事について紹介し、生態系の複合体としてのランドスケープについて、人と自然の関わりからの視点から、関わり程度の異なる五つのタイプのランドスケープを取り上げて検討し、最後にランドスケープ概念のもつ潜在的な可能性について述べ、受講生が将来ランドスケープを主体的に活用できるようにする。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA・C・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

第一部 ランドスケープデザインの世界（菅野）

- 第1回 イントロダクション：学際的分野としてのランドスケープ
- 第2回 身の回りのランドスケープ・デザインとその見方・とらえ方
- 第3回 日本と西洋の庭園、その歴史とデザイン
- 第4回 都市公園のランドスケープデザイン
- 第5回 自然公園のランドスケープデザイン
- 第6回 死生観のランドスケープデザイン（墓地のランドスケープデザイン）
- 第7回 ランドスケープデザインの実践について

第二部 人と自然との関係（倉本）

- 第8回 生態系の集まりとしてのランドスケープ、ランドスケープという見方
- 第9回 都市のランドスケープ
- 第10回 里山のランドスケープ
- 第11回 河川と低地のランドスケープ
- 第12回 海辺のランドスケープ
- 第13回 島嶼のランドスケープ
- 第14回 ランドスケープエコロジーを現実と未来の社会に生かす

3. 履修上の注意

ランドスケープ科学においては現場から学ぶことが重要である。希望者に対しては現場を案内する予定である（参加は任意で成績には関係しない）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

二つの部分ごとに、初回に各回の内容について説明するので、その指示に従って授業の前にかんたんな用意を行うこと。授業の後には、指示に従って、各自でふりかえりを行うこと。

5. 教科書

前半のランドスケープ・デザインのパートに関して、特に教科書は定めないが、この分野に関心のある学生は『空間から読み解く 環境デザイン入門』菅野博真著（彰国社）を積極的に活用いただきたい。

後半のパートに関しては、特に定めない。

6. 参考書

- 『新版生態工学』 亀山章監修 倉本宣・佐伯いく代編集（朝倉書店）
- 『生態学入門 第2版』 日本生態学会編（東京化学同人）
- 『空間から読み解く 環境デザイン入門』 菅野博真著（彰国社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

毎回出欠をとり、原則として4回以上欠席すると評価の対象としない。出席は加点要素とはしない。担当する2人の教員が指示するレポートを作成し、期日までに提出すること。2人の教員によるレポート評価点の合算により、最終評価とする。

9. その他

倉本 宣 (クラモトノボル kura@meiji.ac.jp 応用植物生態学 研究室 4-213A号室 水曜日 12:45~13:15)
菅野博真 (カンノヒロツグ kanno@meiji.ac.jp 環境デザイン研究室 4-306A号室 水曜日と木曜日の12:45~13:30)

科目ナンバー (AG)AGR151J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生産環境学入門

2017～2021 年度入学者
生産環境学入門

2 単位

登尾・小島・服部

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

作物は、水田や畑地やかんがいのための水、土などがあってはじめて栽培が可能になる。また、食料生産には、生産の場であるとともに生活の場である農村や、周辺の自然環境との関係が重要となる。

この授業では、生産環境整備の歴史を概観した上で、水田や畑の構造と機能、水循環やかんがい・排水、農村空間の諸問題まで、生産環境整備に関する多様な視点を提供する。

《授業の達成目標》

生産環境整備の必要性とその内容、生産環境整備と地域環境の関係を理解することを目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の A・C・E に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第 1 回：イントロダクション（登尾・小島・服部）
- 第 2 回：生産環境整備の歴史 I（服部）
- 第 3 回：生産環境整備の歴史 II（服部）
- 第 4 回：水の循環～農業用水は足りているか～（小島）
- 第 5 回：かんがいと排水～水・土地管理の現場から～（小島）
- 第 6 回：農業用水はどこからくるか～愛知用水～（小島）
- 第 7 回：営農と環境保全～コウノトリから考える～（小島）
- 第 8 回：農地の土壌環境（登尾）
- 第 9 回：農地の水環境（登尾）
- 第 10 回：農地の汚染（登尾）
- 第 11 回：人と自然の関係～温室効果ガス～（登尾）
- 第 12 回：生産環境整備の担い手（服部）
- 第 13 回：生産環境整備のしくみ（服部）
- 第 14 回：生産環境整備の現場（登尾・小島・服部）

3. 履修上の注意

授業の順序を変更することがある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

生産環境に関するニュースに日頃、目を配るとともに、参考書の該当部分を事前に読んでおくこと。
授業で不明な部分がないかを確認し、ある場合は次回講義終了までに質問をする等で解決すること。

5. 教科書

とくに定めない。

6. 参考書

『豊かで美しい地域環境をつくるー地域環境工学概論ー』地域環境工学概論編集委員会 農業農村工学会
『土壌環境学』岡崎正規（編）朝倉書店
シリーズ〈地域環境工学〉『農村地域計画学』渡邊紹裕・星野敏・清水夏樹 編著 朝倉書店

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートへのコメントをもって行う。

8. 成績評価の方法

複数回のレポートによって評価する。
レポートの詳細については、授業の中で指示する。

9. その他

オフィスアワー
登尾浩助：土地資源学研究室（4号館2階215A室）
水曜日 12:30～13:30
小島 水資源学研究室（4号館3階304A号室）
水曜日 12:40～13:20
服部俊宏：地域環境計画研究室（4号館2階214A室）
木曜日 12:30～13:20

科目ナンバー (AG)STA191J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
基礎生物統計学(農)

2 単位

大森宏

2017~2021年度入学者
基礎生物統計学(農)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物学・農学の理論や仮説などのモデル世界と、実験ないしデータの現実世界との関係を認識し、生物科学の基本として、確率モデルを用いた統計分析の必要性を理解すること。また、実験・データの背後にある生物の実態を想像する習慣を身につけること。農学科 食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目である。

《授業の概要》

自然現象と生物学(科学)モデルの食違いを説明するための確率モデルの役割、科学的推論としての推定・検定法などについて解説する。背景には難しい数学も含まれているが、図や表でなんとなく理解できればよいことが多い。

2. 授業内容

- 第1回 生物統計学とは何か
- 第2回 現実世界と科学モデルの関係
- 第3回 メンデルの遺伝実験と確率モデル
- 第4回 確率変数と2項分布
- 第5回 2項分布による確率の計算
- 第6回 珍しいできごとと『モデルの真偽』
- 第7回 大標本での近似計算
- 第8回 離散分布に対する近似関数の補正
- 第9回 計数データとよく使われる離散確率分布
- 第10回 確率分布の性質
- 第11回 適合度検定と正確な検定
- 第12回 生物学・農学データの種類
- 第13回 計量データの特性
- 第14回 基本統計およびヒストグラム

3. 履修上の注意

精度の高い実験の設計方法(実験計画法)や、さまざまな実験データの具体的な分析方法を理解するためには、秋学期の『応用生物統計学』も履修していただきたい。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

授業後、学んだ内容について復習をしておくこと。

5. 教科書

適当な教科書がないので、講義中に配布するプリントを使って説明する。

6. 参考書

講義の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

主として試験の点数による。講義中に行う演習レポートの提出状況と内容によって、加点することがある。

9. その他

メールアドレス: hihiomori@gmail.com

ホームページ: [url]http://lbn.ab.a.u-tokyo.ac.jp/~omori/meiji/[/url]

科目ナンバー (AG)STA191J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 応用生物統計学	2 単位	大森宏
2017～2021年度入学者 応用生物統計学		

1. 授業の概要・到達目標

生物統計学では、状況の違いに応じて、計算式も複雑に変化し、場合によっては、専門家への相談が必要になることもある。この講義では、このような状況の変化に対応して、簡単な分析は自力でできるようになり、また、相談に必要な『データの性質や分析法の種類についての知識』を身に付けてほしい。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目である。

《授業の概要》

計量データの構造（単位，制度，数値）に基づいた確率モデルを紹介し，各種の統計分析の考え方と分析法について概説する。複雑な数式も出てくるが，数値を入れて計算する式，読み下して内容を理解しておく式，鑑賞するだけでよい式などがある。

《到達目標》

2つの標本平均の比較、分散分析法、線形回帰などの基本確率モデルを理解する。

2. 授業内容

- 第1回 計量データおよび連続確率分布についての確認
- 第2回 確率変数の性質
- 第3回 期待値および分布パラメータ
- 第4回 アベレージ（算術平均）の分布
- 第5回 2つの平均値の比較（t-検定）
- 第6回 ウェルチの近似検定
- 第7回 実験計画法の意味
- 第8回 分散分析の考え方
- 第9回 品種適応性試験のデータ解析
- 第10回 収量比較試験のデータ解析（多重比較の問題）
- 第11回 直線の当てはめ
- 第12回 回帰分析
- 第13回 多変量解析の考え方（その1：回帰分析・主成分分析）
- 第14回 多変量解析の考え方（その2：重回帰分析・正準相関分析）

3. 履修上の注意

講義内容は一応独立しているが，春学期の『基礎生物統計学』を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業後，学んだ内容について復習をしておくこと。

5. 教科書

適当な教科書が無いので，講義中に配布するプリントを使って説明する。

6. 参考書

講義の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

主として試験の点数による。講義中に行う演習レポートの提出状況で，加点することがある。

9. その他

メールアドレス：hihiomori@gmail.com

ホームページ：[url]http://lbn.ab.a.u-tokyo.ac.jp/~omori/meiji/[/url]

科目ナンバー (AG)BB1221J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
植物生理学

2017～2021年度入学者
植物生理生態学

2 単位

近藤 悟

1. 授業の概要・到達目標

「概要」

農および園芸作物の成長および生産性を理解するために必要である、植物の光合成代謝、土壌および肥料など栄養条件、植物ホルモンを始めとした二次代謝物産生について学ぶ。「食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA・Cに対応する科目である」。

「到達目標」

植物の発育と環境との関連を、生理学的観点から理解し、作物の安定的な生産に向けた技術開発につなげる。

2. 授業内容

- 第1回：植物と環境
- 第2回：太陽エネルギーと光合成
- 第3回：光化学反応と電子伝達
- 第4回：炭酸固定反応
- 第5回：C3、C4、CAM植物の比較
- 第6回：呼吸と代謝
- 第7回：植物ホルモンの役割
- 第8回：植物ホルモンの種類と代謝
- 第9回：植物ホルモンによる信号伝達
- 第10回：植物のストレス防御
- 第11回：植物のストレス防御機構
- 第12回：栄養と元素
- 第13回：無機元素の代謝
- 第14回：aのみ：まとめ

3. 履修上の注意

毎回内容が異なるので、全回出席を心がけてください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

内容が多岐にわたるので、復習を心がけてください。

5. 教科書

特になし。

6. 参考書

「植物生理学」：裳華房、佐藤直樹著；「植物生理学」：化学同人、三村徹郎
他著など

7. 課題に対するフィードバックの方法

試験終了後に解説を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験の成績に基づいて評価します。

9. その他

連絡先：s-kondo@faculty.chiba-u.jp

科目ナンバー (AG)BB1271J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
マクロ生物学入門
2017～2021年度入学者
植物分類・形態学

2単位

倉本宣

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農学、緑地学、生態学の基礎となる形態学と分類学と生態学の初歩を個体レベル以上の現象を通じて興味深いトピックスを通じて身につける。人間が生来持っていると思われる biophilia（生きもの大好き）な気持ちを取り戻す。

0.1 平方ミリメートルから数百平方キロメートルの肉眼的な世界のさまざまなトピックスを通じて、生きもののあり方について自分なりの認識を持つ。

《授業の概要》

前半は形態学と分類学の授業とする。植物を中心に生命は我々人類の理解とは大きく異なることを最初に理解し、そのあと、形態と機能について学ぶ。

後半は植物を中心とした分類学と生態学の授業とする。個体群という見方を持ち、分類学の考え方、分けることと進化の道筋をたどることについて解説する。分類群の関係性を学びながら、生物の進化の歴史を知る。現代が生物多様性が主流になりつつある時代であるという認識のもとに、生物多様性保全の基礎となる植物分類学の最新の生物間相互作用の研究事例を紹介する。

あわせて、生きものとハビタットの関係についての考え方をランドスケープエコロジーを通して身につける。

食糧生産・環境コースにおいては学習教育目標のA・Cに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 生命像を問い直す
- 第2回 生きもの大きさと寿命
- 第3回 形態と機能
- 第4回 生きもの移動
- 第5回 個体群とメタ個体群
- 第6回 分類するとはどういうことか、単位としての種（しゅ）
- 第7回 絶滅とはどういうことか ドードーを例として
- 第8回 外来種という存在 セイタカアワダチソウとアメリカザリガニと日本の生態系
- 第9回 系統と進化的重要単位
- 第10回 APG 分類体系による分類の見直し
- 第11回 花とポリネーター
- 第12回 種子散布の実態
- 第13回 食う食われる関係
- 第14回 経験の消失時代の生きものとの付き合い方

3. 履修上の注意

身の回りにはおびただしい種類の生きものが生息生育している。

植物や動物に興味を持ち、不思議だと思ふ気持ち sense of wonder を育ててほしい。

授業の際に野外に出て、植物を観察することがあるので、予告された授業には野外で活動できる服装で出席すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で示した生きものを通学の際にみつけて観察する。

提出物には、担当教員の意見を付して返却することがあるので、意見について考えること。

5. 教科書

特に、定めない。プリントを配布する。

6. 参考書

分野は問わないので、ハンディーな図鑑を1冊持ってほしい。

植物形態学[url]https://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~fukuhara/keitai/（福岡教育大学 福原達人先生）が画像が美しく、参考になる。

7. 課題に対するフィードバックの方法

アンケートのアンケート機能を使用して集計し、授業で解説する。

8. 成績評価の方法

レポートを2回提出し、アンケート20%、レポート40%×2回の合計100%で評価する。

アンケートは授業の定められた時間帯に行う。8回以上の出席で、成績評価の対象とする。

レポートは示された定義をもとに事例を示す部分と、その生物学的な意義を示す部分からなり、テーマや意義の考察のオリジナリティを評価する。したがって、同じテーマが多い場合には、オリジナリティが低いと判断する。

9. その他

応用植物生態学研究室（4号館2階213A号室）

オフィスアワー：水曜日12時45分～13時15分

kura@meiji.ac.jp

第9回の系統と進化的重要単位の事例として、6月17日に黒川農場周辺でゲンジボタルの観察を行う予定である。

受入可能な人数は15名で、希望者が多い場合には選考する。

科目ナンバー (AG)AGR261J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
動物遺伝資源学

2017～2021年度入学者
動物遺伝資源学

2 単位

溝口康

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ヒトと動物との関わりについての歴史と、その動物の遺伝資源の多様性・保存・調査等について学び、広い視野から動物遺伝資源について考える。また、近年急速に進歩した動物分子遺伝学について学び、ミクロの世界から動物遺伝資源について理解を深めることを目的とする。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・Cに対応する科目である。

《授業の概要》

本講義の前半は、動物遺伝資源の中でも特にヒトとの関わりの深い動物について、その起源と有用性について解説する。中盤は、動物遺伝資源の多様性や保存方法等について解説する。後半は、最新のトピック紹介も取り入れて動物分子遺伝学について解説する。

2. 授業内容

第1回：動物遺伝資源学の概論

第2回：野生動物の家畜化

第3回：野生動物の遺伝資源

第4回：動物の遺伝資源（1）牛・水牛の利用と品種

第5回：動物の遺伝資源（2）豚・鶏の利用と品種

第6回：動物の遺伝資源（3）馬・羊・山羊の利用と品種

第7回：動物の遺伝資源（4）犬・猫・その他動物の利用と品種

第8回：動物遺伝資源の保存

第9回：動物分子遺伝学の概要

第10回：動物の遺伝的多様性およびその遺伝資源の調査（1）

第11回：動物の遺伝的多様性およびその遺伝資源の調査（2）

第12回：動物の毛色・行動に関する分子遺伝学（1）

第13回：動物の毛色・行動に関する分子遺伝学（2）

第14回：動物ゲノム科学

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

本講義を履修前または同時期に動物関連の科目を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習は、講義時に配布したレジメを参照し、参考書などを用いて当該箇所の理解を深める。

5. 教科書

毎回の講義時にレジメを配布するので、教科書は使用しない。

6. 参考書

「世界哺乳類図鑑」著：ジュリエット・クラットン=ブロック・翻訳：渡辺健太郎 新樹社

「生物資源とその利用」天野卓ら著 三共出版

「動物と人間の歴史」江口保暢著 築地出版

「品種改良の世界史 家畜編」正田陽一編 悠書館

「獣医遺伝育種学」国枝哲夫・今川和彦・鈴木勝士編 朝倉書店

「アジアの在来家畜」在来家畜研究会編 名古屋大学出版会

「世界家畜品種事典」正田陽一監修 東洋書林

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて講義にて解説する

8. 成績評価の方法

原則として、期末試験により評価する。

9. その他

研究室名 動物遺伝資源学研究室（5号館3階305A）

オフィスアワー：木曜日：12:30～13:10

科目ナンバー (AG)DES128J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 基礎図法	2 単位	菅野博貢
2017～2021年度入学者 図学		

1. 授業の概要・到達目標

ランドスケープ・デザインの基礎的な作図方法について実践を交えながら学びます。最初に製図で用いる用具についてその種類や使用方法について学習し、続いて製図記号や植栽の描き方等基礎的な知識を学んだ後、平面図、立面図、断面図などの作図法について学習します。後半は立体的な図法について学び、具体的な庭園（または公園）を例にランドスケープ・デザインのプロセスを実践してみます。モノを描くことが苦手な学生でも、初歩からはじめますので、絵を描くことの上手下手は関係ありません。

ランドスケープ・デザインの計画・設計における基礎的な表現力を身につけることを到達目標とします。

食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCに対応する科目です。

2. 授業内容

- 第1回 a: 今後の授業のすすめ方について
b: 製図用具の種類と使い方について
- 第2回 設計製図基礎 その1 製図に用いる線の種類とその意味
- 第3回 設計製図基礎 その2 製図に用いる記号の種類とその意味
- 第4回 設計製図基礎 その3 製図に用いる植物の平面図上の表現方法
- 第5回 設計製図基礎 その4 製図に用いる植物の立面図上の表現方法
- 第6回 平面図の描き方
- 第7回 立面図の描き方
- 第8回 断面図の描き方
- 第9回 立体表現（アクソノメトリック）による作図法
- 第10回 立体表現（アクソノメトリック）による実践的な作図法
- 第11回 立体表現（アイソメトリック）による作図法
- 第12回 公園をデザインし簡易透視図で描く（その1）
- 第13回 公園をデザインし簡易透視図で描く（その2）
- 第14回 公園のデザイン（最終課題）について講評会・まとめ

3. 履修上の注意

毎回授業時間中に課題を完成させ、チェックを受けてから次に進むこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回資料を配布するので、授業内で行う課題の作成が遅れた場合は次週までに資料をもとに完了させること。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『造園図面の表現と描法』（誠文堂新光社）

『はじめてのランドスケープ・デザイン』八木健一著（学芸出版社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中の課題 50%、最終課題 50%の割合で評価する。

9. その他

履修者はA3 のトレーシングペーパーパッド、4B～2Hの鉛筆、消しゴム、製図用三角定規を準備して講義に臨むこと。

科目ナンバー (AG)BI0111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
分子生物学(農)

2017~2021 年度入学者
分子生物学(農)

2 単位

山田哲也

1. 授業の概要・到達目標

<概要>

現在、農業や医療の分野で応用が進められているゲノム編集は分子生物学を基礎として開発された技術です。一方、細胞は生物体の構造的かつ機能的な単位であり、その誕生（細胞分裂）と死（細胞死）は様々な農業形質に関与することが知られています。この授業では、ゲノム編集を理解するために必要な基礎的な知識について詳細に説明します。また、分子生物学が明らかにしてきた細胞の誕生と死のメカニズムについて概説します。

<到達目標>

遺伝子の構造と機能および遺伝子発現の分子過程と制御機構について知り、それらの知識に基づき開発された遺伝子発現を人為的に制御する技術であるゲノム編集技術を理解できる。また、細胞分裂や細胞死が制御される仕組みを理解できる。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション（分子生物学とは）

b: 遺伝子の本体（核酸の構造と種類）

第2回: 遺伝子の機能（DNAの複製、セントラルドグマ）

第3回: 遺伝子発現の分子過程1（遺伝子の構造）

第4回: 遺伝子発現の分子過程2（遺伝情報の転写）

第5回: 遺伝子発現の分子過程3（RNAプロセッシング）

第6回: 遺伝子発現の分子過程4（遺伝情報の翻訳）

第7回: 遺伝子発現の制御機構1（転写制御因子）

第8回: 遺伝子発現の制御機構2（ヒストン修飾）

第9回: 遺伝子発現の制御機構3（DNAメチル化, RNAi）

第10回: 遺伝子発現の人為的制御1（遺伝子組換え技術）

第11回: 遺伝子発現の人為的制御2（ゲノム編集）

第12回: 細胞の分子生物学1（細胞周期）

第13回: 細胞の分子生物学2（細胞死）

第14回 a: 講義内容の総括

b: 期末試験

3. 履修上の注意

この講義は対面授業により実施します。履修要件は特に設定しません。出席は0h-o! Meiji の出欠管理機能を用いて行います。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で使用する資料（スライドのPDF）および講義を録画した動画を0h-o! Meiji で配付するので、それらを参考に予習・復習を行って下さい。また、レポート課題を提示するので、その遂行を通じて講義内容の理解を深めて下さい。

5. 教科書

指定なし。

6. 参考書

『クロー遺伝学概説』J. F. クロー著（培風館）

『遺伝学』中村千春編著（化学同人）

『Essential 細胞生物学改訂第3版』南江堂

『エッセンシャル遺伝学』培風館

『分子遺伝学の基礎』岡山博人監訳（東京化学同人）

『遺伝情報の発現制御 転写機構からエピジェネティクスまで』五十嵐和彦ら監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

『細胞の分子生物学 第6版』中村桂子・松原謙一監訳（ニュートンプレス）

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に定期試験を実施し、同日に解説を0h-o! Meiji で公開する。

8. 成績評価の方法

学期中に課すレポート（全5回、各10点）と学期末に行う筆記試験（50点）との合計点から成績を評価する（レポート50%、定期試験50%）。

9. その他

本科目を選択履修する対象になっている皆さんは、将来、何らかの形でゲノム編集など分子生物学を基礎としたさまざまな技術に関わることになると思います。また、それらの技術は私たちの生活にも深く浸透しつつあり、一般教養としても理解しておくべき事柄になっています。受講生の皆さんには、本講義を通じてそれらの技術を基礎から正確に学んでもらうことを希望します。質問や相談は随時受け付けます。E-mail での対応も可能です。

オフィスアワー： 出講日 11:00 まで（中央校舎 3 階 304）

連絡先： メールアドレス teyamada@cc.tuat.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0211J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
バイオテクノロジー

2017～2021年度入学者
遺伝子工学（農）

2 単位

大里修一

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物を利用して食物、薬物、生物材料を生産する技術「バイオテクノロジー」について理解することを目的とする。遺伝子工学や関連のある生化学、分子生物学の必要な基礎的知識を学び、農学研究分野におけるバイオテクノロジーの役割や可能性について理解を深めることを目標とする。

《授業の概要》

生化学、細胞工学、遺伝子工学の基礎について確認した後、遺伝子組換え技術を中心に、遺伝子工学や細胞工学について概説する。農業に影響を与えたバイオテクノロジーの事例について紹介する。

「食糧生産・環境コース」においては学習・教育目標のCに対応する科目である。

2. 授業内容

第01回：イントロダクション：バイオテクノロジーの誕生

第02回：バイオテクノロジーと遺伝子工学

第03回：細胞の基礎知識と遺伝子の働き(1)

第04回：細胞の基礎知識と遺伝子の働き(2)

第05回：核酸の解析(1)

第06回：核酸の解析(2)

第07回：核酸の解析(3)

第08回：タンパク質や細胞の解析

第09回：遺伝子組換え技術とその方法(1)

第10回：遺伝子組換え技術とその方法(2)

第11回：遺伝子組換え技術とその方法(3)

第12回：植物の形質転換法

第13回：農業バイオテクノロジー(1)

第14回：農業バイオテクノロジー(2)

3. 履修上の注意

「分子生物学」などの基礎科目を履修しておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布する資料や参考書の該当箇所について適宜、復習しておくこと。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

授業の中で紹介していく。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に説明するか、もしくはOh-o! Meiji システムを介して行う。

8. 成績評価の方法

原則として定期試験（100%）により評価する。

9. その他

植物病理学研究室（5号館3階 5-302A室）

オフィスアワー：金曜日

連絡先：ohsato.meiji@gmail.com（◎は@）

科目ナンバー (AG)BBI141J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
動物生理・栄養学

2017～2021 年度入学者
動物生理学入門

2 単位

渡辺元

1. 授業の概要・到達目標

授業の概要

哺乳動物は特殊化された器官とシステムを持ち、それらを調整・統合して個体としての生命活動を営んでいる。これら生命活動システムの基本を学習する。卒業後にも役に立つ基礎知識である。農学科の共通基礎科目の一つであり、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のCに対応する科目である。

到達目標

動物や生命に関心のある学生が、哺乳動物の基礎的な生理学がわかるようになる。

2. 授業内容

第1回：恒常性について

第2回：動物の組織・器官・器官系

第3回：中枢・末梢神経系

第4回：感覚器系

第5回：筋系

第6回：循環器系と免疫系

第7回：呼吸器系

第8回：消化器系

第9回：動物の栄養1：炭水化物、脂質、タンパク質

第10回：動物の栄養2：代謝とエネルギー変換

第11回：動物の栄養3：ビタミン・ミネラル・微量元素

第12回：泌尿器系

第13回：内分泌系とストレス

第14回：生殖器系

*講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

教科書や配布する資料だけでなく、参考書も読み、理解を深めること。動物生理の不思議さ、面白さも知って欲しい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に Oh-o! Meiji より配布資料をダウンロードし、読むこと。授業の後には授業内容を参考書等も用いて理解しなおすこと。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『キャンベル生物学原書11版』池内昌彦ら 監修、翻訳（丸善出版）

『Biology: A Global Approach, Global Edition』Pearson Education Limited; 12th Ed.

『新生理学（Qシリーズ）』【電子版付き】日本医事新報社；改訂第8版（2023/5/12）

『生体のしくみ標準テキスト第3版』【動画付き】株式会社医学映像教育センター；第3版

『カラスケッチ生理学第2版』永田豊監訳（廣川書店）

『シンプル生理学 改訂第6版』貴邑富久子/根来英雄 著（南江堂）

『ギャノン生理学 原書25版』Kim E. Barrettら 著 岡田 泰伸ら 監訳（丸善出版）

『Ganong's Review of Medical Physiology, 26thEd』Kim E. Barrettら 著（McGraw-Hill）

『動物の体の仕組み』尼崎肇 著（ファームプレス）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

単元ごとにミニテストを行い（50%）、学期末試験（50%）を行い、合計したものを評価とする。

9. その他

オフィスアワー：講義終了後10分。

動物環境学研究室（5号館5階502号室）

連絡先：gen@cc.tuat.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGR151J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
土壌学

2 単位

登尾浩助

2017～2021 年度入学者
土壌学

1. 授業の概要・到達目標

講義では、農学分野において作物と並んで重要な作物栽培の培地として土壌を扱う。受講生は、作物栽培の培地としての土壌について、その生成、性質、周辺環境との関係に関する基礎的な知識を獲得することができる。

受講生は、どのようにして“土壌”が作られるのか、なぜ水や肥料分は土壌に保持されるのか、作物生産にとって土壌のどのような性質が重要なのかを学習することで、学期末には土壌を単なるブラックボックスではなく、物理的・化学的・生物学的反応装置として科学的な視点から説明できるようになることが目標である。

農学科の基礎科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA、C、Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：土壌の生成
- 第2回：有機物の働き
- 第3回：土壌生物の働き
- 第4回：土壌の骨格
- 第5回：土壌中の水と空気
- 第6回：土壌の温度
- 第7回：養分の保持（1）
- 第8回：養分の保持（2）
- 第9回：土壌の酸性化（1）
- 第10回：土壌の酸性化（2）
- 第11回：土壌肥沃度と作物の養分
- 第12回：耕地土壌の特徴
- 第13回：土壌汚染
- 第14回：土壌保全

3. 履修上の注意

「土壌物理学」「肥料学」の基礎となる科目である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の講義前に教科書の該当箇所を読み、講義後には自分のノートを読み返して理解を深めること。必要に応じて参考図書を読んだり、ネット検索することをお勧めする。

5. 教科書

『新版土壌学の基礎』松中照夫著（農村漁村文化協会、2018年）

6. 参考書

- 『土壌環境学』岡崎正規編（朝倉書店、2020年）
- 『土壌学概論』犬伏和之・安西徹郎編（朝倉書店、2001年）
- 『土 地球最後のナゾ～100億人を養う土壌を求めて』藤井一至著（光文社新書、2018年）
- 『土壌の基礎知識』藤原俊六郎著（農文協、2013年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

成績は、学期末試験90%、小テスト10%で評価する。

9. その他

オフィスアワー
木曜日 12:30～13:30
土地資源学研究室（4号館2階215A室）
電話：044-934-7156
E-mail: noboriok@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BBI161J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生物多様性進化学

2017～2021年度入学者
生物多様性進化学

2 単位

新屋良治

1. 授業の概要・到達目標

地球上には、数千万ともいわれる生物種が存在する。それらの生態、生息環境、生活史は千差万別であり、体の構造も組成も、繁殖の様式も実に多様である。生物がこれほどまでの多様性を持つに至ったのはなぜなのか。本講義では、まずこれらの不思議を共有し、「生物」や「生物学」のおもしろさを感じることから始める。講義では、現代生物学において残された大きな謎を主なトピックとして取り上げ、生物多様化の事例を数多く紹介するとともに、多様性が生じる仕組み、多様な生物同士の相互作用、生物と環境との関わりについて理解することを目標とする。大学生物学の入門講義として、生物や生物学の奥深さやおもしろさを体感してもらいたい。

2. 授業内容

- 第1回：生物の多様性とは何か？（イントロダクション）
- 第2回：未知の生物は存在するか？
- 第3回：生命とは何か？種とは何か？
- 第4回：新種はいかにして誕生するか？
- 第5回：なぜ性は存在するか？
- 第6回：なぜオスは競争にさらされる？
- 第7回：せめぎ合い、助けあいで生物は進化するか？
- 第8回：私たちはパラサイトに操られている？
- 第9回：私たちは共生者無しでは生きていけない？
- 第10回：私たちは感染症をコントロールできるか？
- 第11回：生物はいかにして語り合うか？
- 第12回：生物はなぜ死ぬのか？
- 第13回：形の多様性はなぜ生じるのか？
- 第14回：a：試験

b：試験の正答解説

* 講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

農学を学ぶために必要な、生物学の基礎を理解するための科目である。講義では、生物多様化の事例を数多く紹介するとともに、多様性が生じる仕組み、多様な生物同士の相互作用、生物と環境との関わりについて理解することを目標とする。講義中、受講者に意見を求めることがあるので、その際積極的に発言すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容について文献等で調べ、自ら理解を深めること。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

講義中に適宜紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

講義中に取り組む小課題（25%）と期末試験（75%）で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG) AGR211J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
基礎植物育種学

2017～2021 年度入学者
基礎植物育種学

2 単位

丸橋 亘

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物育種学は人間にとって有用な作物品種を育成するために必要な原理と技術を開発する学問である。この分野におけるこれまでの成果と今後の可能性を理解する。

《授業の概要》

植物の生殖過程、遺伝学の原理、系統立った交雑技術に加え、バイオテクノロジーの育種への応用を解説する。農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のC及びDに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：aのみ：イントロダクション

第2回：植物の繁殖様式

第3回：受粉と受精

第4回：アポミクシス

第5回：遺伝子と染色体

第6回：減数分裂

第7回：系統分化と種の形成・育種素材の収集と保存

第8回：交雑を利用した育種

第9回：突然変異を利用した育種

第10回：染色体数の変化を利用した育種

第11回：植物組織培養を利用した育種

第12回：種属間雑種を利用した育種

第13回：遺伝子組換えを利用した育種

第14回：DNA マーカーを利用した育種・品種登録制度

3. 履修上の注意

「分子生物学」を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

高校生物の教科書に記載されている、「遺伝子のはたらき」、「有性生殖」、「植物の発生」、「生物の進化」等の項目を再読しておくことを勧めます。

5. 教科書

使用しない。

6. 参考書

『植物の育種と遺伝 第2版』福井希一ら著（朝倉書店）

『植物の発生学』ボジュワニ・バトナガー著/足立・丸橋訳（講談社サイエンティフィック）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

複数課題に対する解答文により評価する。

9. その他

オフィスアワー：メール（marubasi@meiji.ac.jp）でアポイントメントをとって来室して下さい。

科目ナンバー (AG) AGR251J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
測量学 I

2017~2021 年度入学者
測量学 I

2 単位

佐藤直人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

測量は、地面上の諸点の位置情報を取得・処理・記述するための技術であり、国土の利用に必須のものである。

測量学 I では、測量学の基礎の習得に主眼を置き、基本的な計測技術や理論等の習得を目的とする。

《授業の概要》

地上測量（距離測量・角測量・水準測量）によって測量の三要素（距離・角度・高さ）を計測し、地面上の諸点の座標を決定する手法を学ぶ。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の C に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回：イントロダクション、測量の意義と分類

第 2 回：距離測量（歩測、巻尺）

第 3 回：距離測量（電磁波測距）

第 4 回：角測量

第 5 回：水準測量（直接水準測量）

第 6 回：水準測量（不定誤差の調整）

第 7 回：水準測量（間接水準測量、縦横断測量、勾配の表し方）

第 8 回：トラバース測量

第 9 回：測定値の処理

第 10 回：誤差の処理

第 11 回：地形測量

第 12 回：面積・体積

第 13 回：測量法規、測量の歴史

第 14 回：要点整理

3. 履修上の注意

測量実習 I を合わせて履修することが望ましい。

引き続き、測量学 II、測量実習 II を履修することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業後は、講義内容について整理し、授業で扱った課題に再度取り組むこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

『改訂版 空間情報工学概論』近津博文他（日本測量協会）

『基礎測量学』長谷川昌弘他（電気書院）

『エース測量学』福本武明他（朝倉書店）

『図説わかる測量』猪木幹雄他（学芸出版社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業で取り扱った課題は回答期間の終了後、Oh-o!Meiji で解答および解説を公開する。

8. 成績評価の方法

定期試験 70%、平常点（課題提出などを含む）30%

9. その他

オフィスアワー：月曜日 12:30~13:20（6 号館 4 階 6-402）

連絡先（mail）：n_sato@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGR255J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
測量実習 I

2017～2021 年度入学者
測量実習 I

1 単位

服部俊宏

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

測量は、地域環境と関わる上で必須の技術である。本授業では、測量の基本である距離測量、水準測量、角測量に関する実習をおこなう。それぞれ、野
外の測量作業である外業と、結果の処理や作図である内業から構成される。

《授業の達成目標及びテーマ》

測量の体系の中で基本となる距離、高さ、角度の計測とその結果の処理方法を理解し機器の操作法を実践できるようにすること、班の中で協働して達成
すべき課題のプロセスを計画し実行できるようにすることを到達目標とする。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の C・H に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回 a: イントロダクション

b: 三脚の使用法

第 2 回: 距離測量 (歩測, 平坦地, 傾斜地, 光波測距)

第 3 回: 角測量

第 4 回: 水準測量 (直接水準測量, 縦断測量・横断測量)

第 5 回: トラバース測量 (外業)

第 6 回: トラバース測量 (外業)

第 7 回: 地形測量 (外業)

第 8 回: トラバース測量 (内業)

第 9 回: 地形測量 (内業)

第 10 回～第 14 回: 雨天予備

※天候等により、順番を変更することがあります。

※第 2 回～第 7 回については悪天候時は順延される。その場合、以降の予定は第 10 週以降を利用して順次繰り下がる。

3. 履修上の注意

測量学 I を合わせて履修すること。

実習は、動きやすい・安全な服装で参加すること。

実習は、天候に左右されるため、日程変更に注意すること。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

予習として、測量学 I で関連する授業の復習をしておくこと。

復習として、不明な部分がないかを確認し、ある場合は次回講義終了まで質問をする等で解決すること。

5. 教科書

『空間情報工学概論』近津博文他, 日本測量協会

6. 参考書

『測量—その基礎と要点第 2 版—』駒村正治他 共立出版

『測量実習指導書 2007 年度版』土木学会 丸善

『基礎測量学』長谷川昌弘他, 電気書院

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にてコメントを配信する。

8. 成績評価の方法

実習への参加態度 30%, レポート 70%とする。

ただし、出席日数が 2/3 に満たないものは評価の対象としない。

9. その他

地域環境計画研究室 (4 号館 2 階 214A 研究室)

オフィスアワーは、木曜日 12:30～13:20

科目ナンバー (AG)BBI194J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農学基礎実験 (1 班) (2 班)

1 単位

農学科教員

2017~2021 年度入学者
農学基礎実験 (1) (2)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農学科では様々な分野の教育・研究が行われている。本実験では、各分野に共通して必要とされる基礎的な実験・調査の方法、さらには、データの処理方法やレポートの書き方について学ぶことを目標としている。

《授業の概要》

農学科基礎科目群の導入科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の D・G・H に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回：ガイダンス (安全教育、倫理教育)

第 2 回：キャンパスツアー

第 3 回：レポート作成法

第 4 回：図書館を活用した文献検索

第 5 回：野外調査

第 6 回：観察とスケッチ

第 7 回：顕微鏡を用いた観察と計測

第 8 回：試薬の調製

第 9 回：無菌操作

第 10 回：電気泳動

第 11 回：データの処理と統計

第 12 回：まとめ

※この実験授業は 3・4 限セットで 1 回と記載している。

※実験材料や天候の都合により、実験内容や順番が変更される場合もある。

3. 履修上の注意

実験中は白衣を着用すること。また、屋外に出る場合もあるので動きやすい服装を心がけること。毎回、実験のはじめには説明を行うので、遅刻することのないように注意すること。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

授業後のレポート課題は遅れずに提出すること。

5. 教科書

必要な資料は配付する。

6. 参考書

特に指定しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実験への取り組み態度およびレポートの提出状況により評価する。

9. その他

応用昆虫学研究室 (5 号館 2 階 208A 号室)

オフィスアワー：火曜日 12:40~13:20

植物病理学研究室 (5 号館 3 階 302 号室)

オフィスアワー：金曜日 12:40~13:20

科目ナンバー (AG) IND311J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
技術者倫理

2 単位

名倉理紗

2017～2021 年度入学者
技術者倫理

1. 授業の概要・到達目標

大学で学んだことを活かした職業への就職を希望している方に受講を勧める。

近年の技術革新は、産業の発展の源であり、現代経済社会の発展の源である一方、社会及び環境に対して大変大きな影響力を持っている。倫理に反する事故、偽装、不正行為は社会の信用を著しく低下させるため、技術の担い手である技術者一人一人が、技術者倫理を理解し行動することが大変重要である。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のBに対応する科目である。

《到達目標》

1. 技術者倫理の必要性について理解する。
2. 技術者は専門家であるがゆえに社会に対して重大な責任があることを認識できる。
3. 公衆の安全を守ることが最重要であることを認識する。
4. 組織の中での技術者のとるべき行動について認識する。
5. 自分とは意見が異なる人がいることを理解し、コミュニケーションの重要性を認識する。

2. 授業内容

第1回：ガイダンス・技術者倫理とは

第2回：技術者倫理の重要性及び技術者倫理の重層構造、技術士の義務と責務、技術士制度と技術士法における倫理規定

第3回：組織における技術者倫理（1）（スペースシャトル事故の事例と教訓等）

第4回：組織における技術者倫理（2）（組織での技術者の在り方）

第5回：技術者のアイデンティティ

第6回：事故の責任

第7回：法的責任とモラル責任

第8回：コンプライアンス

第9回：説明責任

第10回：内部告発・警笛鳴らし

第11回：公務員倫理

第12回：ライティングディベート

第13回：ライティングディベート解説

第14回：a: 技術者倫理のまとめ

b: 試験（記述式）

3. 履修上の注意

・技術者倫理は、実際に起きている事故・偽装・不正行為の事例からの教訓を学ぶことが必要であるため、日頃から技術に関連するニュースをチェックすること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

・配布資料をよく読み、授業で説明したことを復習すること。

5. 教科書

特に定めない。授業にてプリントを配布する。

6. 参考書

特に定めない。授業にてプリントを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

試験の解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

8. 成績評価の方法

- ・第14回（最終回）の試験 70%
- ・平常点（授業参加、課題の提出） 30%

9. その他

- ・連絡先：（名倉）r-nagura@in-lab.co.jp
- ・メールの件名の最初に【技術者倫理】と記載すること。

科目ナンバー (AG)AGR221J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 作物学概論	2 単位	塩津文隆
2017～2021 年度入学者 作物学概論		

1. 授業の概要・到達目標

作物学は、人類の生存に必須である食糧生産に作物生産の理論と技術を与える主要な学問である。本講義では、作物と人類とのかかわり、作物生産過程の基本と環境との関係、作物の栽培・管理技術などについて概説する。

作物の特徴や作物学の基礎的理論を修得する。また、作物の生育と環境との関係ならびに生産を制限する要因を理解し、それらを作物学が関連する分野において応用する能力を修得する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCおよびDに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：aのみ：イントロダクション（農業と作物）
- 第2回：日本と世界の作物生産
- 第3回：作物の種類と品種
- 第4回：作物の形態学的特徴
- 第5回：作物の形態形成と生活環
- 第6回：作物の生理・生態
- 第7回：作物の光合成・呼吸
- 第8回：作物の養水分吸収
- 第9回：作物生産と環境
- 第10回：作物の多収とその基礎
- 第11回：作物の栽培と管理1 耕耘、施肥、雑草防除など
- 第12回：作物の栽培と管理技術2 作付体系、持続的作物生産
- 第13回：収穫物の品質と機能性
- 第14回：作物生産の課題および将来展望

3. 履修上の注意

あらかじめ「栽培学入門」、「農学実験Ⅰ」を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習では教科書や参考書を読んで概要を把握すること。復習ではキーワードや専門用語をおさえ、それらの意味を整理すること。

5. 教科書

指定しない

6. 参考書

- 『作物学概論』今井勝 他著（八千代出版）
- 『作物学概論』大門弘幸 編著（朝倉書店）
- 『作物学』今井勝・平沢正 編著（文永堂出版）
- 『作物学用語事典』日本作物学会 編（農文協）
- 『作物生産生理学の基礎』平沢正・大杉立 編著（農文協）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験（100%）
なお、変更がある場合は講義で周知する。

9. その他

作物学研究室（5号館2階202A室）
オフィスアワー：水曜日 12：30～13：20、質問などがあれば研究室まで来てください。
連絡先は講義内で周知する。

科目ナンバー (AG)AGR231J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
園芸学概論

2017～2021年度入学者
園芸学概論

2 単位

岩崎・元木

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

園芸作物の特徴および園芸学の基礎理論を理解し、園芸学が包含する各分野に応用する能力を修得する。

《授業の概要》

園芸学とは果樹、野菜、花き（観賞植物）作物に関する科学であり、それらの育種、生産、保蔵、流通、利用、加工などを含めた広い分野が体系化されている。本講義では園芸学の各分野における基礎的な事項を概説する。農学科、生物資源関係の専攻科目（共通基幹科目）で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のCおよびDに対応する科目である。

2. 授業内容

[第1回] a: 園芸の定義と範囲（元木）

b: 園芸の起源と役割（元木）

[第2回]: 園芸作物の生理（岩崎）

[第3回]: 果樹園芸の定義・特徴（岩崎）

[第4回]: 果樹園芸の発達の歴史・果樹の起源と分類（岩崎）

[第5回]: 樹体の生育と環境（岩崎）

[第6回]: 結実の生理（岩崎）

[第7回]: 野菜園芸の基礎（元木）

[第8回]: 野菜園芸の歴史と発展（元木）

[第9回]: 野菜栽培の基礎と実際（元木）

[第10回]: 野菜の食品価値（元木）

[第11回]: 花卉園芸の歴史と文化（半田；オンデマンド型オンライン）

[第12回]: 花卉遺伝資源と分類（半田；オンデマンド型オンライン）

[第13回]: 花卉の育種と繁殖（半田；オンデマンド型オンライン）

[第14回]: 花卉の栽培と利用（半田；オンデマンド型オンライン）

3. 履修上の注意

授業内容と順序は変更する場合がある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

植物関連の農学基礎科目（植物分類・形態学、基礎植物育種学、植物遺伝資源学、植物生理生態学）を履修しておくかまたは事前に自分で学習しておくこと。

5. 教科書

指定なし。

6. 参考書

「園芸学の基礎」（鈴木正彦編著，農文協）

「園芸学入門 第2版」（今西秀雄・小池安比古編著，朝倉書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席回数6割以上の者を評価対象とし、定期試験で評価する。

9. その他

オフィスアワー

岩崎直人（果樹園芸学研究室，5号館3階306A）

水曜日：12：40～13：30

半田 高（花卉園芸学研究室，5号館3階303A）

火曜日：12：40～13：20

元木 悟（野菜園芸学研究室，5号館3階301A）

水曜日：12：30～13：00

質問などがあれば気軽に研究室まで来てください。

科目ナンバー (AG) AGR261J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 動物生産・福祉学	2 単位	佐々木羊介
2017～2021年度入学者 動物生産学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農場の大規模化に伴い、飼養管理の方法が個体管理から群管理へ変遷したことにより、動物生産の現場では動物福祉（アニマルウェルフェア）の考え方を踏まえた飼養管理が求められている。そこで本授業では、動物生産に関する基本的な知識や動物福祉に関する考え方および疫学のアプローチを幅広く学習し、理解することを目的とする。

《授業の概要》

本授業では、ウシ・ブタ・ニワトリなどの産業動物における飼養管理と動物福祉（アニマルウェルフェア）や疫学を用いた疾病の予防方法等に関して解説する。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：動物生産・福祉学の概要
- 第2回：産業動物の生産システム
- 第3回：産業動物に対する動物福祉（アニマルウェルフェア）
- 第4回：ウシの飼養管理とアニマルウェルフェア
- 第5回：ブタの飼養管理とアニマルウェルフェア
- 第6回：ニワトリの飼養管理とアニマルウェルフェア
- 第7回：産業動物に関する学術研究の発展方法1
- 第8回：産業動物に関する学術研究の発展方法2
- 第9回：疫学の概要と動物生産における活用法
- 第10回：疫学研究と実験デザインの設定1
- 第11回：疫学研究と実験デザインの設定2
- 第12回：防疫体制と疾病の予防方法
- 第13回：生産データの収集と活用法
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

講義内容について、小テストまたは課題に対するレポートの提出を課すため、提出期限を厳守すること。本講義を履修前または同時期に動物関連の科目を履修していることが望ましい。特にアニマルサイエンス入門と動物資源繁殖学を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各授業における講義資料をWebで配布するため、資料を用いて予習・復習を行うこと。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

- 畜産学入門（文永堂出版、2012）
- 獣医疫学〈第三版〉（近代出版、2022）

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける

8. 成績評価の方法

毎回出席を取り、講義での定期テスト（40%）、課題レポート2回（30%）、小テスト（30%）で評価する。

9. その他

動物生産学研究室（5号館5階501A）
オフィスアワー：月曜日：12:30～13:10

科目ナンバー (AG)AGR241J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
植物保護学概論
2017~2021 年度入学者
植物保護学概論

2 単位

糸山・大里・新屋

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物保護学は植物の病気や害虫、線虫等による被害の防除を目的とする分野である。植物保護学概論では、病害虫の特徴や植物と病害虫との相互関係について広く理解し、植物病理学、応用昆虫学、植物線虫学の基礎的知識を習得することを目標とする。

《授業の概要》

植物病理学の分野では、病気の原因や伝染方法を見極め、それを防ぐさまざまな基礎的、応用的方法を研究する。本講義では、植物の病気がどのような病原によって、どのような環境で、いかなる機構で引き起こされるかを概説する。応用昆虫学の分野では、昆虫の生理・生態学的な特性を活かした害虫防除方法を研究する。本講義では、昆虫に関する様々な基礎的知見を概説し、新たな害虫管理について考察する。植物線虫学の分野では、線虫の生物学的特性を解明し、新たな防除法の開発に繋がる研究を行う。本講義では、線虫という生物を知ることから始め、農林業上の問題や防除法についても概説する。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション：植物の病害虫とは何か？（糸山①）
- 第2回：昆虫と人間の関わり（糸山②）
- 第3回：昆虫の生活史特性（糸山③）
- 第4回：植物の病気とは（大里①）
- 第5回：病原と病気の発生（大里②）
- 第6回：植物の伝染病（大里③）
- 第7回：小さな巨人-線虫（新屋①）
- 第8回：線虫の多様な生活史（新屋②）
- 第9回：農業を減らす本当の理由（糸山④）
- 第10回：害虫と付き合う方法（糸山⑤）
- 第11回：昆虫とヒトの病気（糸山⑥）
- 第12回：線虫と他の生物の関係（新屋③）
- 第13回：植物寄生性線虫病（新屋④）
- 第14回：病気の伝染・診断・管理（大里④）

※講義の内容や順序は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

レポートの提出期限は厳守すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

生物学，化学の基礎的素養を習得しておくこと。

5. 教科書

6. 参考書

- 『植物病理学』 眞山滋志ら著（文永堂出版）
- 『植物病理学』 大木理 著（東京化学同人）
- 『植物医科学』 難波成任ら 著（養賢堂）
- 『応用昆虫学』 石川幸男・野村昌史 編著（朝倉書店）
- 『バイオロジカル・コントロール』 仲井まどから 編著（朝倉書店）
- 『線虫の生物学』 石橋信義 著（東京大学出版会）

7. 課題に対するフィードバックの方法

期末試験の答えは採点后に Oh-o! Meiji で返却する。

8. 成績評価の方法

期末試験（75%）とレポート（25%）で評価する。

9. その他

糸山：応用昆虫学研究室（5号館2階208号室）
 オフィスアワー：火曜日12:40~13:20
 連絡先：E-mail：mushi@meiji.ac.jp（◎は@）
 大里：植物病理学研究室（5号館3階302号室）
 オフィスアワー：月曜日および金曜日12:00~13:00

連絡先：E-mail：ohsato.meiji@gmail.com（◎は@）
新屋：植物線虫学研究室（5号館3階307号室）
オフィスアワー：在室していれば随時可。
※各研究室のHP等も参照すること。

科目ナンバー (AG) AGR251J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
農地工学

2017～2021年度入学者
農地工学

2 単位

登尾・小島

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

作物生産は、水田や畑を灌漑するための水、肥沃な土壌を適切に管理することによって可能になる。また、食料生産には、農地を取り巻く周辺の自然環境との適切な関係が重要である。

この授業では、農地工学の歴史を概観した上で、水田と畑の構造と機能、水田と畑の灌漑・排水、農地防災の諸問題まで、農地に関する様々な工学的な視点を提供する。

《授業の達成目標》

農地工学の必要性とその内容、食料生産と農地整備の関係を理解することを目標とする。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のA・C・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：農地および農地環境工学（小島）
- 第2回：水田の構造と土壌・地耐力（登尾）
- 第3回：土地改良法（登尾）
- 第4回：水田の圃場整備（1）（登尾）
- 第5回：水田の圃場整備（2）（登尾）
- 第6回：水田の灌漑と排水（1）（小島）
- 第7回：水田の灌漑と排水（2）（小島）
- 第8回：畑地の圃場整備と造成（1）（登尾）
- 第9回：畑地の圃場整備と造成（2）（登尾）
- 第10回：畑地の灌漑と排水（1）（小島）
- 第11回：畑地の灌漑と排水（2）（小島）
- 第12回：農地の保全と防災（小島）
- 第13回：乾燥地・開発地域の農地環境工学（1）（小島）
- 第14回：乾燥地・開発地域の農地環境工学（2）（小島）

3. 履修上の注意

授業の順序を変更することがある。

生産環境学入門を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義は教科書に沿って進めるので、予習によって不明な用語等を把握して講義の際に確認することを勧める。復習の小テストを行うので必ず解答すること。

5. 教科書

『農地環境工学第2版』塩沢昌・山路永司・吉田修一郎編（文永堂出版）

6. 参考書

必要に応じて講義中に示す。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiの小テスト機能の正答例によって行う。

8. 成績評価の方法

小テスト20%と期末テスト80%の合計で評価する。

9. その他

オフィスアワー

登尾浩助：土地資源学研究室（4号館2階215A室）

水曜日 12：30～13：30

小島信彦：水資源学研究室（4号館3階304A号室）

水曜日 12：40～13：20

科目ナンバー (AG)AGR251J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
応用力学

2017～2021年度入学者
応用力学

2 単位

小林大樹

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ダムや水路、橋梁など農業生産を支える様々な構造物を設計するためには、外力の作用のもとで構造物内部にはたらく力と構造物の変位を正しく求めることが必要である。

本講義では構造物を設計するために必要な諸量の基本的な計算手法を習得することを目標とする。

《授業の概要》

応用力学では、力のつり合いにより静定構造物の支点反力や断面力が計算できることを学ぶ。

食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション、力とモーメント

第2回：支点の種類とつり合いの条件

第3回：反力の求め方

第4回：単純ばりの断面力（集中荷重）

第5回：単純ばりの断面力（等分布荷重）

第6回：片持ちばりの断面力

第7回：張出しばりの断面力

第8回：移動荷重と単純ばりの影響線

第9回：材料の性質と強さ

第10回：断面のもつ幾何学的性質（断面1次モーメント）

第11回：断面のもつ幾何学的性質（断面2次モーメント）

第12回：はり部材の曲げ応力

第13回：はり部材のせん断応力

第14回：要点整理

3. 履修上の注意

1) 「力」の基礎から解説するので、高校物理の履修を必須としない。

2) 引き続き、構造力学を履修することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、講義予定項目について教科書の該当部分を読んでおくこと。また講義後は講義内容について整理し、課題に再度取り組むこと。

5. 教科書

『基礎から学ぶ構造力学』藤本一男他（森北出版）

6. 参考書

特に指定しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業の最後に演習問題を課題として与える。

課題のフィードバックは次回の授業にて行う。

8. 成績評価の方法

平常点（授業参加・貢献度、課題提出） 30%

定期試験 70%

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する

連絡先 (mail)：最初の講義で示す

科目ナンバー (AG)AGR251J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 土質力学	2 単位	森洋
2017～2021年度入学者 土質力学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

地下水の過剰な汲み上げによる地盤沈下、大雨による斜面崩壊や地震による液状化現象などは、農地や農業水利施設へも大きな影響を与える。施設構造物の構築のみならず防災面からも、地盤を構成する土の力学的特性について知ることは重要である。土質力学では、土の基本的物理量の表わし方を学んだ後、土の種類や水分量の違いによって地盤に生じる様々な破壊現象について、そのメカニズムを考える。また、土質力学は、水理学や構造力学、応用力学、測量学と並んで農業生産環境設備に関する大事な基礎科目の一つである。

《到達目標》

土の力学的特性の基礎を理解し、持続的食糧生産の基盤となる農地、並びに農地周辺での地盤に生じる破壊現象に関して正しく理解して説明できることを目標とする。専攻科目群<基幹科目>においては、学習・教育目標のC(◎)・D(O)に対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：土質力学一般
- 第2回：土の基本的物理量
- 第3回：土のコンシステンシー
- 第4回：確認問題解説1
- 第5回：土の締固め
- 第6回：土の透水
- 第7回：確認問題解説2
- 第8回：有効応力と間隙水圧
- 第9回：土の圧密
- 第10回：確認問題解説3
- 第11回：土のせん断強度
- 第12回：土圧
- 第13回：確認問題解説4
- 第14回：支持力・斜面安定

3. 履修上の注意

「応用力学」や「構造力学」を履修することが望ましい。
 前回の授業内容に関わる確認問題（小テスト）を毎回課しながら、その理解度に従って授業を進めていく。
 関数電卓を常備すること。
 教科書の購入を奨励するが、購入しなくても済むように関係するプリントを配付する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、教科書の該当箇所を読んでおくこと。
 復習として、教科書の該当箇所を再度読みながら確認問題を解くこと。

5. 教科書

『土質力学』 石原研而・著（丸善出版）

6. 参考書

『土質実験 基本と手引き』 地盤工学会編（丸善出版）

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回の授業内容に関わる確認問題（小テスト）の解答を、次回の授業で解説することで課題に対するフィードバックを実施する。

8. 成績評価の方法

確認問題（小テスト）70%、平常点（授業への参加態度・貢献度）30%

9. その他

オフィスアワーと連絡先：最初の講義で提示する。

科目ナンバー (AG) AGR251J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
水理学

2 単位

小島信彦

2017～2021 年度入学者
水理学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

水理学では、河川・運河・農業用排水路など土木工学の一分野として、流れを取り扱うのが一般的であるが、その他、水辺の空間の利用や公園のせせらぎなど、地域環境の整備に水を使用する場合にも、水の挙動の基本的な性質を知っていることは重要である。また、水理学は生産環境整備に関わる大事な基礎科目の一つである。

講義では、最初に水の基本的性質について解説を行う。つぎに、水の流れの性質や表わし方について学ぶ。

《到達目標》

水理学では、水の流れに関する基本的事項を理解し、実際の水理設計へ適応させるための基礎を身につけることを目的とする。農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の C・D に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回 a : 水理学とは何か

b : 水理学の対象となる構造物と流れ

第 2 回 : 水の物理的性質流れ

第 3 回 : 水の流れの種類

第 4 回 : 静水圧の性質

第 5 回 : マノメーター

第 6 回 : 連続の式とベルヌーイの定理

第 7 回 : ベルヌーイの定理の応用

第 8 回 : 小オリフィス・大オリフィス

第 9 回 : もぐりオリフィス

第 10 回 : 口金

第 11 回 : 平板に作用する水圧

第 12 回 : 傾斜平板に作用する水圧

第 13 回 : 浮体と浮力

第 14 回 : 水門・まとめ

※理解度によって内容を変更することがある。

3. 履修上の注意

講義は、高校の数学 II までに学んだことを基礎として行う。「生産環境学入門」、「農地工学」を履修していることが望ましい。実務に興味のある学生は応用水理学の履修を推奨する。また、農学実験 VI では水理学に関する基礎的な実験を行うので、履修することを推奨する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回復讐の宿題を出すので、決められた期日までに必ず提出すること。

5. 教科書

とくに定めない。

6. 参考書

水理学の教科書は多数出版されているので、購入する場合は吟味して自分に合ったものを見つけること。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の宿題は次の回の授業の冒頭で解説する。

8. 成績評価の方法

学期末試験（70%）および復習の宿題（毎週提出）（30%）により評価する。宿題の提出が7割に満たない場合は評価の対象としない。

9. その他

水資源学研究室（4号館3階304A号室）

オフィスアワー：水曜日 12：40～13：20

科目ナンバー (AG) AGR291J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生産システム学概論

2 単位

池田敬

2017～2021年度入学者
生産システム学概論

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

食料生産を支える、農業技術・生産システムにはどのようなものがあるのか、特に農業現場に出たことのない学生にも分かりやすく説明する。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のCに対応する科目である。

《授業の概要》

農業は生物を育てることで人間の生活を豊かにする産業であるが、それには数多くの要因が複雑に絡み合っている。生産システム学概論では、農業生産システムの入門編として、現在の農業が抱える問題や改善点を具体的な事例を挙げて紹介し、体系化された農業システム下でどのような解決法があるのか、考えるようにする。

2. 授業内容

- 第1回：オリエンテーション 生産システムとは
- 第2回：現在の農業が抱える問題 その1
- 第3回：現在の農業が抱える問題 その2
- 第4回：民間の農業参入
- 第5回：農業生産におけるシステム化1 苗
- 第6回：農業生産におけるシステム化2 施設栽培と養液栽培
- 第7回：農業生産におけるシステム化3 植物工場
- 第8回：農業生産におけるシステム化4 トマト栽培
- 第9回：農業生産におけるシステム化5 イチゴ栽培
- 第10回：農業生産におけるシステム化6 収穫後システム
- 第11回：環境保全型農業
- 第12回：流通のシステム化
- 第13回：農業情報処理
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

授業は、幅広い農学分野を紹介します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

新聞等の農業に関する記事を注視すること。

5. 教科書

授業中に資料を配付する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験で評価を行う。

9. その他

オフィスアワー
木曜日昼休み

科目ナンバー (AG) AGR261J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
動物行動学

2017~2021 年度入学者
動物行動学

2 単位

川口真以子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の到達目標及びテーマ》

動物はどのような時にどのような行動をするのだろうか。本講義では、産業動物や伴侶動物といった家畜の典型的な行動とその発現機序を理解することにより、話すことのできない動物の福祉と効率的な飼育管理の両立に有用な知識を習得することを目標とする。

《授業の概要》

主要な家畜や実験動物における社会性、情動、繁殖、養育、摂食などの行動について紹介し、その背景となる生理、神経-内分泌について解説する。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：動物行動学の概論と家畜の起源

第2回：社会性行動

第3回：動物行動の調節機構：脳

第4回：動物行動の調節機構：ホルモン

第5回：情動行動

第6回：なわばりとフェロモン

第7回：学習行動

第8回：脳の性分化

第9回：動物行動学研究の基礎的手法

第10回：摂食行動

第11回：養育行動

第12回：性行動ときずなの形成

第13回：攻撃行動

第14回：遊び行動

その他、野生動物の行動、行動学的研究に関する話題

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

本講義を履修前、または同時期に、動物生理・栄養学や農学実験 II など動物関連の科目を履修していることが望ましい。配布資料や参考書をよく読んで理解を深め、動物行動の面白さや様々な動物とのかかわりの楽しさを知って欲しい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に Oh-o! Meiji より配布資料をダウンロードし読むこと。授業の後には授業内容を参考書等も用いて理解しなおすこと。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『脳とホルモンの行動学』近藤保彦ら 著（西村書店）

『動物行動図説 家畜・伴侶動物・展示動物』佐藤衆介ら 編（朝倉書店）

『カールソン神経科学テキスト 一脳と行動一 原書13版』Neil R. Carlson 著 中村 克樹 監訳（丸善出版）

『獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 動物行動学』森祐司ら 著（インターズー）

『ソロモンの指輪』Konrad Lorenz 著 日高敏隆 訳（早川書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義で提示される課題について、必要に応じて講義にて解説する。期末試験の答えは採点后に Oh-o! Meiji で返却する。

8. 成績評価の方法

ミニテスト（50%）と学期末試験（50%）を行い合計したものを評価とする。

9. その他

動物環境学研究室（5号館5階502号室）

オフィスアワー：講義終了後10分。

科目ナンバー (AG)AGR211J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
資源植物学

2017~2021 年度入学者
資源植物学

2 単位

元木悟

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標およびテーマ》

資源植物と人間の関わりを理解し、利用部位や利用目的に基づいて資源植物を分類・把握するとともに、資源植物の特徴やその利用について学ぶ。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の C・D に対応する科目である。

《授業の概要》

人類は多くの植物を資源として利用し、食糧など生存に必要な資源植物を手に入れている。資源植物には、穀類や豆類、野菜類、牧草類ばかりでなく、人間の役に立つ多くの作物種やその近縁種が幅広く含まれる。本講義では、利用部位とその生産性の特性、資源植物の多様性とその環境適応性について概説する。

2. 授業内容

第 1 回 a のみ：資源植物の定義

第 2 回：地球上の生物と資源植物

第 3 回：利用部位による分類と基本的な形態

第 4 回：資源植物の利用形態とその利用（種子・果実）その 1

第 5 回：資源植物の利用形態とその利用（種子・果実）その 2

第 6 回：資源植物の利用形態とその利用（種子・果実）その 3

第 7 回：資源植物の利用形態とその利用（茎・根）その 1

第 8 回：資源植物の利用形態とその利用（茎・根）その 2

第 9 回：資源植物の利用形態とその利用（茎・根）その 3

第 10 回：資源植物の利用形態とその利用（葉・花）その 1

第 11 回：資源植物の利用形態とその利用（葉・花）その 2

第 12 回：資源植物の利用形態とその利用（葉・花）その 3

第 13 回：資源植物の多様性とその利用（薬用資源植物など）

第 14 回：資源植物の多様性とその利用（工業原料作物と飼料作物など）

3. 履修上の注意

栽培学入門など、植物関連の基礎科目を履修していると理解しやすい。

授業内容と順序は変更する場合がある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

植物関連の農学基礎科目（栽培学入門など）を履修しておくか、または事前に自分で学習しておくこと。

5. 教科書

特に指定しないが、必要な資料は配付する。

6. 参考書

講義のなかで紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席回数 6 割以上の者を評価対象とし、定期試験 100% で評価する。

9. その他

野菜園芸学研究室（5号館3階 301A）

オフィスアワー： 水曜日 12:30-13:00

E-mail: motoki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BB1271J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
保全生態学

2017～2021年度入学者
植物保全生態学

2 単位

岡田久子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

現代は生命の歴史始まって以来の大量絶滅の時代であり、この生物多様性の危機を救い、健全な生態系を維持するための科学である保全生態学の体系を身につける。保全生態学は基礎学と応用学の両面を持っているので、基礎的な知識を習得するだけでなく、生きものの保全のあり方を自分のものとすることを目標とする。

《授業の概要》

地球に生まれた生物はさまざまな環境で進化してきた。地球の歴史、生物の歴史を振り返り、生物と自然環境との相互作用を考える。地球上のあらゆる環境はそれぞれの地形と歴史に育まれたもので、わが国の主要な自然である里山などの二次的な自然や湖・河川などを対象に生物多様性の重要性を理解する。食糧生産・環境コースにおいては学習教育目標のA・C・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：なぜ保全生態学を学ぶのか
- 第2回：自然に対する人間の影響
- 第3回：生息地の破壊
- 第4回：生息地のかく乱
- 第5回：持続可能性はなくなったのか
- 第6回：保護区の選定
- 第7回：保護区の設計と管理
- 第8回：生物多様性とはなにか
- 第9回：森川海のつながり
- 第10回：生態系の機能と構造
- 第11回：生態系における生物生産
- 第12回：生態系とランドスケープの保全
- 第13回：生態学的な復元
- 第14回 aのみ：生物多様性国家戦略から学ぶ

3. 履修上の注意

生物多様性や自然環境の保全のニュースの背景に関心をもってほしい。明治大学のキャンパスとその周辺の自然にあり方について見識を持ってほしい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で示した内容について調べておく。

5. 教科書

使用しない。資料を配布する。

6. 参考書

『保全生態学入門』 鷺谷いづみ・矢原徹一（文一総合出版）
『保全生物学』 樋口広芳ほか（東大出版会）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学期末レポート 85%、平常点（小課題などの提出物）15% により評価する。
欠席が5回を超える場合は、学期末レポートを受けつけない。

9. その他

2号館1階講師控室 および 応用植物生態学研究室（4号館2階213号室）
オフィスアワー：授業の前後1時間
E-mail: hokada@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) ENV221J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
ランドスケープデザイン学
2017～2021年度入学者
環境デザイン学

2単位

菅野博貢

1. 授業の概要・到達目標

「ランドスケープデザイン学」では、私たちの身近な生活空間から都市・農村空間までの幅広い環境を対象とし、造園学、都市計画学、建築学等の視点から、それらの有する形態・デザインを読み解くための知識を身に着けます。最初に空間の読み解き方について解説した後、日本と西洋の歴史的ランドスケープデザインを学びつつ、それらが現代の空間に用いられていることを見ていきます。伝統的な環境デザインについて一通り学んだ後に、現代の都市や農村空間の成り立ち、問題点についても考えていきます。

身近な生活環境を見る目を養いつつ、都市や農村の景観、環境問題について自律的に考える能力を身につけることを達成目標とします。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のD・Eに対応する科目となります。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション - ランドスケープ・デザインとは何か？
- 第2回 ランドスケープ・デザインの基本的な見方（前半）
- 第3回 ランドスケープ・デザインの基本的な見方（後半）／日本の基層文化と庭園のはじまり
- 第4回 仏教伝来（浄土式庭園）から平安時代の庭園
- 第5回 書院の庭／禅宗の庭
- 第6回 露地の空間
- 第7回 大名庭園／中国の庭園
- 第8回 西洋の古代～中世の空間デザインとその今日的空間への応用
- 第9回 中世の庭園／イスラムの庭園
- 第10回 イタリア庭園、フランス整形園のデザインとその今日的空間への応用
- 第11回 イギリス風景園及びガーデニングのデザインと今日的空間への応用
- 第12回 19世紀末のデザイン
- 第13回 20世紀前半のデザイン・ムーヴメント
- 第14回 20世紀後半～現在のデザイン・ムーヴメントとランドスケープ・デザイン

3. 履修上の注意

私達の身の回りの空間には、多くの歴史的デザインが埋め込まれています。これらは知識がないと気づけないものですが、この授業を通してそれらを見分ける眼を養います。3週目以降、授業中に学んだデザインと関係する身のまわりにあるデザインを見つけて報告してもらい、それらを分析したり議論の対象にします。受講期間中は、常に身の回りの空間やデザインに注意を向けてください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

身のまわりの環境に存在するデザインを注意深く見て、理解することに主眼をおきますが、インターネット上には関連する画像が無数にありますので、積極的に利用し、事前にデザインのイメージを獲得することを勧めます。

5. 教科書

菅野博貢著『空間から読み解く 環境デザイン入門』を教科書として使用します。教科書を軸に講義を進めますので、事前に準備してください。

6. 参考書

その回ごとの内容にそって紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中の課題 50%、期末テスト 50%の割合で評価します。

9. その他

科目ナンバー (AG) AGR224J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農学実験 I

2017~2021 年度入学者
農学実験 I

1 単位

丸橋・池田・塩津

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

作物の合理的な生産を行うためには形態・生理生態的特徴、遺伝様式、環境要因などを知ることが必要である。本実験では材料植物、顕微鏡、培養器具、分析機器の取り扱いの説明を受けた後に、個人またはグループで実験を行う。

《到達目標》

本実験では、作物の生育と環境の関係や育種技術を理解するために、基礎的実験を行い、特別研究での実験実施能力を涵養する。の専攻科目の共通科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のD・GおよびHに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：オリエンテーション（実験のねらい、器具の使用法説明、安全教育、班分け）
- 第2回：イチゴアントシアニン含量の測定
- 第3回：受精胚珠の観察（顕微鏡の割り当て）
- 第4回：種子、葉などの形態観察
- 第5回：茎の形態観察および根の活力や長さの測定
- 第6回：米の食味官能試験
- 第7回：各種の糖のモル濃度と糖度計の検量
- 第8回：限界原形質分離観察による細胞浸透圧の推定
- 第9回：減数分裂の観察
- 第10回：体細胞分裂の観察

3. 履修上の注意

各回とも最初に説明を行うので、遅刻しないこと。実験材料の適期との関係により実施順序を変更することがある。白衣を着用する必要のある実験があるので注意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

不明な内容を明確にし、次回の授業までに質問等で解決しておくこと。

5. 教科書

教科書は使用しない。適宜プリントを用意する。

6. 参考書

- 「植物生産農学実験マニュアル」日向・羽柴編（ソフトサイエンス社）
- 「改訂農業気象の測器と測定法」日本農業気象学会編（農業技術協会）
- 「応用植物科学実験」山口・堀内・森 監修（養賢堂）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

毎回出席をとり、欠席が4回以上のものは評価対象としない。各テーマへの取り組みの態度とレポートを評価の対象とする。

9. その他

- 丸橋 亘（植物育種学研究室、5号館2階209A）
- 池田 敬（生産システム学研究室、5号館2階201A）
- 塩津文隆（作物学研究室、5号館2階202A）
- オフィスアワー 担当実験終了後の1時間

科目ナンバー (AG) AGR264J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農学実験Ⅱ

2017～2021 年度入学者
農学実験Ⅱ

1 単位

溝口・川口・佐々木

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

動物生体の機構を骨学を通じて動物まるごとを理解することを学ぶ。動物行動について学ぶ。実験動物の福祉についても学ぶ。食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のD・G・Hに対応する科目である。

《授業の概要》

骨格標本のスケッチを行う。ラットを用い実験動物の扱い方および動物行動の測定方法について学ぶ。実験動物の飼養及び保定を適切に実施するために必要な基礎知識の習得を目的とした訓練も行う。

2. 授業内容

第1回：農学実験Ⅱの心構え（安全教育を含む）（溝口・川口・佐々木）

第2回：ラットのオープンフィールド試験（川口）

第3回：牛・豚の枝肉格付の理論・評価技術と精肉の官能評価（佐々木）

第4回：反芻動物の飼養管理と乳製品の官能評価（佐々木）

第5回：ラットの社会性行動試験（川口）

第6回：動物研究の実践（溝口・川口・佐々木）

第7回：実験結果についてのディスカッション（川口）

第8回：DNAの抽出とPCR増幅（溝口）

第9回：DNA電気泳動（溝口）

第10回：実験結果を基にした仮説の発表（川口）

第11回：予備とレポートまとめ（溝口・川口・佐々木）

第12回：総括（溝口・川口・佐々木）

※授業内容は必要に応じて変更する場合がある。

3. 履修上の注意

実験に関する説明は毎回開始前に行うので遅刻しないこと。基礎動物生産学と動物行動学履修済みが望ましい。履修希望者多数の場合は選考します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

プリントを配布するので、予習しておくこと。紹介するweb-siteのコンテンツをよく読み理解しておく（佐々木分）。
プリントを配布するので、予習しておくこと（川口分）。

5. 教科書

なし

6. 参考書

『動物の体の仕組み』著者名（尼崎肇）出版社名（ファームプレス）

『ギャノン生理学 原書26版』W. F. Ganong 著 岡田 泰伸ら 監訳（丸善出版）

『脳とホルモンの行動学』近藤保彦ら 著（西村書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

レポートに対し全体講評を Oh-o! Meiji で公開する（川口分）。

8. 成績評価の方法

毎回出席を取り、各種レポート（100%）から評価する。

9. その他

オフィスアワー：実験終了後10分程度

科目ナンバー (AG) AGR244J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農学実験Ⅲ

2017~2021 年度入学者
農学実験Ⅲ

1 単位

糸山・大里・新屋・浴野

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農学実験Ⅲは植物保護の分野に関わる内容の実験である。作物や緑化樹に寄生する病原菌や線虫類、昆虫類の形態的特徴や生理・生態の特性、被害の特徴等を正しく理解するとともに、これらの制御に関する基本的な知識と技術の習得を目的とする実験を行う。

《授業の概要》

植物病原菌および線虫の形態観察法・分離法・同定法、昆虫の形態観察法・個体群調査法などの習得を行う。

農学科専攻科目の共通基幹科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のD・G・Hに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション、安全教育、顕微鏡の割当て（全員）

第2回：チョウ目昆虫の外部形態、内部形態の観察（糸山）

第3回：微小害虫の形態観察（糸山）

第4回：植物病原菌の接種法（大里）

第5回：植物病原糸状菌の培養法（大里）

第6回：植物病原糸状菌に対する拮抗細菌の探索（大里）

第7回：野外からの線虫分離と観察（新屋）

第8回：線虫の行動観察（新屋）

第9回：線虫の発生（新屋）

第10回：昆虫の採集と分類（糸山）

第11回：まとめ（全員）

* 実験材料の準備の都合により、実験内容と順番の変更がありうる。

3. 履修上の注意

毎回、実験のはじめに実験の説明を行うので遅刻することの無いように注意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

不明な内容を明確にし、次の授業までに質問等で解決しておくこと。

5. 教科書

特に定めない。毎回、実験の資料を配布する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出したレポートは採点后に授業内あるいは Oh-o! Meiji にて返却する。

8. 成績評価の方法

実験への取り組み態度およびレポートの提出状況により評価する（100%）。

9. その他

応用昆虫学研究室（5号館2階208A号室）

オフィスアワー：火曜日 12:40~13:20

植物病理学研究室（5号館3階302A号室）

オフィスアワー：金曜日 12:00~14:00

植物線虫学研究室（5号館3階307A号室）

オフィスアワー：在室していれば随時可

科目ナンバー (AG) AGR234J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 農学実験Ⅳ	1 単位	岩崎・元木
2017～2021 年度入学者 農学実験Ⅳ		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

園芸作物の品質や成分の評価に関する実験を行い、評価方法を修得するとともに品質向上に関連する栽培技術を理解する。

《授業の概要》

生産物の品質は栽培方法や品種の特性で大きく異なる。生産物の形質・品質を的確に評価することは、安全で品質の高い生産物を生産する栽培技術を考えるうえで重要である。そこで、農学実験Ⅳでは園芸作物を用いて、生産物の品質構成要素を理解するため、青果物の品種特性と品質評価に関する実験を行う。農学科、共通の専攻科目であり、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のD、GおよびHに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：aのみ イントロダクション・安全教育（全員）
 - 第2回：園芸作物に含まれるカロテンおよびリコペンの抽出および定量（元木）
 - 第3回：園芸植物に含まれるクロロフィルの抽出および定量（元木）
 - 第4回：反射式光度計を利用したビタミンCおよび栄養成分の測定（元木）
 - 第5回：果実の形態観察と品質の測定Ⅰ（岩崎）
 - 第6回：果実の形態観察と品質の測定Ⅱ（岩崎）
 - 第7回：果実品質に影響する要因の解析（岩崎）
 - 第8回：植物からのDNA抽出と電気泳動（半田）
 - 第9回：PCR法による遺伝子の検出と品種識別（半田）
 - 第10回：TLCによる花色分析（半田）
- ※3・4限セットで1回と記載している。

3. 履修上の注意

- ・毎回実験に先だって手順や注意点の説明をするため遅刻しないこと。
- ・白衣を準備すること。
- ・材料の関係で予定の項目が入れ替わることがある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の実験で習得する測定・分析・解析方法に関連する分野について調べることで深く学習し、レポートを作成する。

5. 教科書

特に指定しない。
毎回、必要な資料を配布する。

6. 参考書

特に指定しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席が6回以上の者のみを評価対象とし、レポートで評価する。

9. その他

オフィスアワー

- 岩崎直人（果樹園芸学研究室、5号館3階306A）
水曜日：12：40～13：30
- 半田 高（花卉園芸学研究室、5号館3階303A）
火曜日：12：30～13：30
- 元木 悟（野菜園芸学研究室、5号館3階301A）
水曜日：12：30～13：00

科目ナンバー (AG) ENV294J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農学実験 V

2017～2021 年度入学者
農学実験 V

1 単位

倉本・菅野

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実験はランドスケープ、生態学、気象学、の研究と実践の導入として、将来生態系の保全・再生およびランドスケープ・デザインならびに地球環境保全に関わることを目指す学生向けに開講する。

生田キャンパスにおいては、将来キャンパスの周囲に車道を回す案があるので、自然環境に対する影響を調査、予測、評価する。学生実験 6 回で評価し、受講生が 10 年後にキャンパスを訪れた時に自ら評価の成否を判断できるようにする。

食糧生産・環境コースにおいては、学習教育目標の D・G・H に対応する科目である。

《授業の概要》

緑地計画の立案とともに、キャンパスの一部の環境を改変する計画による、環境変化を予測することを通して、緑地学、生態学、気象学の入門とする。

1) 空間的認識 調査ポイントをキャンパスの周縁に配置するので、地形や植生や景観や動物相が異なることを理解する。

移動力が小さい土壌動物は空間による違いが大きい。

立体的に空間を使い、移動力が大きい野鳥は空間による違いが小さい。

2) 季節変化 積算光量子量、地温の連続測定、土壌水分の季節変化、実生の増減を通じて理解する。

3) 時間変化 土壌水分の一日の中での変化、湿った時期の実生の出現を通じて理解する。

夜間調査（希望者のみ）はツバメの退場、アブラコウモリの出現、コマツヨイグサの開花など、時間変化を理解する。

4) 種子生態 タンポポ類の種子の温度に対する発芽応答を調べることで、在来種から外来種までの交雑の程度の異なる集団の特性を理解し、種子散布実験では実物の散布実験と模型の作成を組み合わせ、移動できない植物が移動できる種子の意義を理解する。

2. 授業内容

第 1 回 ガイダンス、実習準備の指示、安全教育、前半の調査地概観、自然環境アセスメントの意義（倉本）

第 2 回 環境調査（草原の群落調査、植生図作成、植物の種子散布（風散布、動物散布）、タンポポ類の種子発芽実験開始）（倉本）

第 3 回 環境調査（野鳥のラインセンサス）（倉本）

第 4 回 環境調査（土壌動物のハンドソーティング）（倉本）

第 5 回 植生管理（種子模型の作製と散布実験、または夜間調査＝アブラコウモリ、メマツヨイグサの開花）（どちらか選択）（倉本）

第 6 回 前半の実験全体のまとめ、自然環境アセスメントの実際（倉本）

第 7～8 回 予備日

第 9 回 緑地計画の基礎と現地調査（菅野）

第 10 回 ブレーンストーミングによる計画コンセプトの作成（菅野）

第 11 回 ゾーニング計画、動線計画と大まかな施設計画の作成（菅野）

第 12 回 平面図の作成（菅野）

第 13 回 作成した計画についての講評会（菅野）

第 14 回 ふりかえり

3. 履修上の注意

屋外に出る実験があるため、肌を露出しない汚れてもよい服装で、屋外作業や雨にも対応できるような準備で臨むこと。

雨天で屋外での実験が困難な場合は、対応を Oho!Meiji で当日午前中に連絡するので、連絡に留意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

第 1 回の授業の際に、各回の準備学習の内容について説明するので、事前に主要な概念と方法について予習してくること。

実験の後にレポートや作品を書く際に、身に付けるべき考え方は何かふりかえりを行うこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

参考書として『やさしい造園図面の描き方』『続やさしい造園図面の描き方』建築資料研究社等

7. 課題に対するフィードバックの方法

レポートなどの課題については、それぞれのレポートに対するコメントを返却するとともに、その後の実験にて解説を行う。

8. 成績評価の方法

毎回出欠をとり、4 分の 3 以上の出席がなければ評価の対象としない。出席は加点要素とはしない。 レポート、図面などの成果品で評価する。

9. その他

オフィシアワー

倉本 宣 (クラモトノボル kura@meiji.ac.jp 応用植物生態学研究室 4-213A号室 木曜日 12:45~13:15、その他随時対応します。その際は連絡を取ってください)

菅野博真 (カンノヒロツグ kanno@meiji.ac.jp 環境デザイン研究室 4-306A号室 金曜日昼)

科目ナンバー (AG) AGR254J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農学実験Ⅵ

2017～2021 年度入学者
農学実験Ⅵ

1 単位

小島・登尾・服部・佐藤

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生産環境の整備や地域環境の改善のために必要な土や水の基本的性質について実験するとともに、生産環境や地域の整備に用いられるコンクリートの作製方法や強度に関する実験を行う。これらの実験項目は、実際の現場で仕事を行う上で不可欠なものである。また、データの整理については、パソコン等を用いて行う。

《到達目標》

土や水、材料に関して教室で学んでいる基本的な重要な事項を、実験を通して体験的に習得し、理解することを到達目標とする。
食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のD・G・Hに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション (登尾・小島・服部・佐藤)

b: 安全教育 (登尾・小島・服部・佐藤)

第2回: 管水路の摩擦損失係数 (小島)

第3回: オリフィスの流量係数 (小島)

第4回: 開水路の流速分布 (小島)

第5回: 多孔質体中への水平浸潤実験 (登尾・佐藤)

第6回: 熱拡散係数測定 (登尾・佐藤)

第7回: コンクリート供試体の作製とスランプ試験 (服部)

第8回: コンクリートの強度試験 (服部)

第9回: 現地見学 (登尾・小島・服部・佐藤)

第10回 a: まとめ (登尾・小島・服部・佐藤)

※実験の順番や内容は変更することがあります。

3. 履修上の注意

実験に支障が出るので遅刻しないこと。

実験内容に直接関係のある「水理学」「応用水理学」「土質力学」の履修が望ましい。また、関連する「材料施工学」「土壌学」「土壌物理学」「地学実験」を履修することを推奨する。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

事前に実験に関連する講義内容を復習しておくこと。

不明な内容を明確にし、次回の授業までに質問等で解決しておくこと。

5. 教科書

適宜プリントを配布する。

6. 参考書

文献等はプリントにて紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートへのコメントをもって行う。

8. 成績評価の方法

実験への参加態度 30%、レポート 70%とする。ただし、出席日数が 2/3 に満たないものは評価の対象としない。また、レポートが要求されている実験については、出席とともにレポート提出をもって出席と認定する。

9. その他

オフィスアワー:

登尾浩助: 土地資源学研究室 (4号館2階215A室)

水曜日 12:30~13:30

小島信彦: 水資源学研究室 (4号館3階304A号室)

水曜日 12:40~13:20

服部俊宏: 地域環境計画研究室 (4号館2階214A室)

木曜日 12:30~13:20

佐藤直人: (6号館4階402室)

水曜日 12:40~13:20

科目ナンバー (AG) INS915J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
専門実習 I

1 単位

小島・佐々木

2017～2021 年度入学者
専門実習 I

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

農学科には、講義のほかに各種の実験・実習科目が設置されているが、時間的に必ずしも十分ではない。農学科では、現場での実務に対する意識を高めることは非常に重要であると考えている。3 年次以降においては、インターンシップにも対応した科目である。当科目は、重複履修（一度単位を修得した科目を再度履修すること）を認めているので、一つの現場にとどまらず、さまざまな現場を体験することを奨励する。

現場での実習、実習中の日誌および実習のまとめの作成、報告会での発表を行うものとする。

《到達目標》

専門実習では、単位認定を行うことにより、学生諸君が学外における農業体験等の実習に積極的に参加して、農学への関心や卒業後の進路への思考を大いに高めてもらうことを目的としている。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の G・H に対応する科目である。

2. 授業内容

実習の流れは、以下のとおりである。

- ・実習先を決定
↓
- ・農学部事務室へ実習参加届の提出（実習先・実習内容のわかる書類を添付する）
↓
- ・書類審査により、単位認定の対象としての可否を決定
↓
- ・実習に参加
↓
- ・実習記録の提出
実習日誌（実習者本人）
実習のまとめ（実習者本人）
実習実施報告書（実習先担当者が記入・捺印）
↓
- ・実習報告会での発表

3. 履修上の注意

- ・履修希望者はガイダンスに必ず出席すること。
- ・定められた期日までに必ず実習参加届を提出すること。
- ・実習先については、教員が紹介することもあるが、原則として自分で探すこと。
- ・実習期間は実働 5 日以上とする。（原則として 5 日連続勤務）
- ・実習先の適否については事前に担当教員に確認をとること。
- ・重複履修に当たっては、過去の実習内容と異なることが望ましい。
- ・単位認定の対象とならなかった場合ならびに実習先が見つからなかった場合の履修取り消しを認める。
- ・2・3 月の実習に参加した場合は、次年度の履修科目として取扱う。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

まず事前に実習先を探してみる。見つからない場合は教員に相談する。

5. 教科書

とくに定めない。

6. 参考書

とくに定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

実習報告会において担当教員からコメントする。

8. 成績評価の方法

実習後の提出書類 3 点および実習報告会で発表を行った者について評価する。
実習場所責任者評価（40%）、実習日誌・まとめ（50%）、発表（10%）とする。

9. その他

オフィスパワー

小島 水資源学研究室（4 号館 3 階 304A）

水曜日 12：40～13：20

佐々木 動物生産学研究室（5 号館 5 階 501A）

月曜日：12:30～13:10

科目ナンバー (AG) INS915J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
専門実習Ⅱ

2017～2021 年度入学者
専門実習Ⅱ

2 単位

小島・佐々木

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

農学科には、講義のほか各種の実験・実習科目が設置されているが、時間的に必ずしも十分ではない。農学科では、現場での実務に対する意識を高めることは非常に重要であると考えている。3年次以降においては、インターンシップにも対応した科目である。当科目は、重複履修（一度単位を修得した科目を再度履修すること）を認めているので、一つの現場にとどまらず、さまざまな現場を体験することを奨励する。

現場での実習、実習中の日誌および実習のまとめの作成、報告会での発表を行うものとする。

《到達目標》

専門実習では、単位認定を行うことにより、学生諸君が学外における農業体験等の実習に積極的に参加して、農学への関心や卒業後の進路への思考を大いに高めてもらうことを目的としている。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のG・Hに対応する科目である。

2. 授業内容

実習の流れは、以下のとおりである。

- ・実習先の決定
↓
- ・農学部事務室へ実習参加届の提出（実習先・実習内容のわかる書類を添付する）
↓
- ・書類審査により、単位認定の対象としての可否を決定
↓
- ・実習に参加
↓
- ・実習記録の提出
実習日誌（実習者本人）
実習のまとめ（実習者本人）
実習実施報告書（実習先担当者が記入・捺印）
↓
- ・実習報告会での発表

3. 履修上の注意

- ・履修希望者はガイダンスに必ず出席すること。
- ・定められた期日までに必ず実習参加届を提出すること。
- ・実習先については、教員が紹介することもあるが、原則として自分で探すこと。
- ・実習期間は実働10日以上とする。（少なくとも5日間は連続勤務すること）
- ・実習先の適否については事前に担当教員に確認をとること。
- ・重複履修に当たっては、過去の実習内容と異なることが望ましい。
- ・単位認定の対象とならなかった場合ならびに実習先が見つからなかった場合の履修取り消しを認める。
- ・2・3月の実習に参加した場合は、次年度の履修科目として取扱う。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

まず事前に実習先を探してみる。見つからない場合は教員に相談する。

5. 教科書

とくに定めない。

6. 参考書

とくに定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

実習発表会において担当教員からコメントする。

8. 成績評価の方法

実習後の提出書類3点および実習報告会で発表を行った者について評価する。
実習場所責任者評価（40%）、実習日誌・まとめ（50%）、発表（10%）とする。

9. その他

オフィスアワー

小島 水資源学研究室（4号館3階304A）

水曜日 12:40～13:20

佐々木 動物生産学研究室（5号館5階501A）

月曜日：12:30～13:10

科目ナンバー (AG)AGR321J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 食用作物学	2 単位	塩津文隆
2017～2021年度入学者 食用作物学		

1. 授業の概要・到達目標

人間の主食となる食用作物の定義、生産状況などについて概説する。そのあと、穀類、マメ類、イモ類に分類し、それぞれの作物の来歴、形態、生長、生理生態、品種、栽培技術、品質などについて解説する。また、近年の地球環境問題と作物生産に関連する内容についても講義の中で触れる。本講義では、食用作物の特徴やその重要性などの基礎的知識を学修し、それらを実際の食用作物生産の現場において応用する能力を修得する。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のCおよびDに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：aのみ：イントロダクション
- 第2回：日本と世界の食糧生産の動向
- 第3回：穀類（イネ1 来歴・生産状況、形態、生長・発育）
- 第4回：穀類（イネ2 生理生態）
- 第5回：穀類（イネ3 品種・育種）
- 第6回：穀類（イネ4 栽培、品質）
- 第7回：穀類（コムギ、オオムギ、その他のムギ類）
- 第8回：穀類（トウモロコシ、モロコシ）
- 第9回：穀類（キビ、アワ、その他の穀類）
- 第10回：マメ類（ダイズ）
- 第11回：マメ類（ラッカセイ、アズキ、その他のマメ類）
- 第12回：イモ類（ジャガイモ）
- 第13回：イモ類（サツマイモ、キャッサバ、その他のイモ類）
- 第14回：地球環境と作物生産

3. 履修上の注意

本講義では食用作物分野で特に重要な作物を取り扱う。あらかじめ「栽培学入門」、「植物生理生態学」、「作物学概論」を受講しておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習では教科書や参考書を読んで概要を把握すること。復習ではキーワードや専門用語をおさえ、それらの意味を整理すること。

5. 教科書

『作物学』今井勝・平沢正 編著（文永堂出版）

6. 参考書

『農学基礎シリーズ 作物学の基礎 I 食用作物』後藤雄佐・新田洋司・中村聡 著（農文協）
『作物学用語事典』日本作物学会 編（農文協）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験（100%）
なお、変更がある場合は講義内で周知する。

9. その他

作物学研究室（5号館2階202A室）
オフィスアワー：水曜日12：30～13：20、質問などがあれば研究室まで来てください。

科目ナンバー (AG) AGR321J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 工芸作物学	2 単位	大潟直樹
2017~2021 年度入学者 工芸作物学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

食用作物はヒトが生存する上での必要カロリーを供給する目的であるが、工芸作物はヒトが社会生活を発展させたり、生活領域を拡大するために必要とされる多様な目的（工業原料、飲料、衣料、食用、医薬等）に利用される。また、食用作物は、収穫後に比較的単純な工程で食糧利用されるが、工芸作物は人の生活へ利用されるまでに多くの処理・加工（しかも家庭内の過程ではなく工業的過程）を要することが特徴である。さらに適地適作による品質改良が製品の最終品質に影響し、生産地や出荷地の名称を冠した銘柄の成立することが多い。生活の安定した社会では、化学合成品よりも工芸作物に由来する製品（天然物）への要求が高まっている。講義はスライドを用いて解説を行う。

《到達目標》

本講義では、用途別に類型化した作物群を基礎として、いくつかの重要な工芸作物、特に国内生産されている作物に関するヒトの生活上の必要性、作物化された過程・歴史、実際の生産・加工技術の理論を理解し、農作物の多様性、可能性、また、それを応用する能力を得ることを目標とする。

2. 授業内容

工芸作物は食用利用も含めてヒトが生活する上で必要とする様々な用途の原料として利用されている。その多くは栽培上の最適な地帯で生産され、各国へ輸出されているが、必要性が高い用途原料では、各地帯において異なる植物が作物化されている。例えば、シヨ糖は高緯度地帯ではてん菜から生産され、低緯度地帯ではさとうきびから生産されている。用途ごとに各工芸作物のヒトとの関係や栽培化された経緯、また原料品質の重要性などを内容とする。多品目に渡るため、一つの品目を集中的に教授することはないが、広く概論的、横断的に学ぶことにより、農業の持つ可能性と現代における問題点を理解できるようにすることを目的とする。

- 第1回：工芸作物総論
- 第2回：繊維作物
- 第3回：油料作物（1）
- 第4回：油料作物（2）
- 第5回：嗜好料作物（1）
- 第6回：嗜好料作物（2）
- 第7回：香辛料作物
- 第8回：芳香油料作物
- 第9回：染料作物
- 第10回：薬用作物
- 第11回：糖料作物
- 第12回：デンプン・糊料作物
- 第13回：ゴム・樹脂料作物
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

あらかじめ「作物学概論」および「食用作物学」を受講しておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の内容を基本として勧めるため、次回の講義範囲に該当する箇所をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

5. 教科書

『作物学』今井勝・平沢正 編著（文永堂出版）

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

100 点満点を定期試験によって 70%、レポート評価によって 30%で案分し、合計点によって評価する。

9. その他

- オフィスアワー：最初の講義で指示する
- メールアドレス：最初の講義で示す

科目ナンバー (AG)AGR331J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
野菜園芸学

2017～2021年度入学者
野菜園芸学

2 単位

元木悟

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標およびテーマ》

野菜は人間の生存にとって欠かせない食材であると同時に、食生活を豊かにする嗜好性の高い食材でもある。本講義では野菜の生産や利用、さらには新しい野菜の開発や導入などにおける諸問題を解決する能力を得るための基礎を論述する。食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

《授業の概要》

主要野菜（葉茎菜類ではアスパラガスやキャベツ、ハクサイ、レタス、ネギ、タマネギなど、花菜類ではブロッコリーやカリフラワーなど、根菜類ではダイコンやニンジンなど、果菜類ではトマトやピーマン、イチゴ、エダマメなど）を具体例として挙げ、野菜の発育生理および生態と生産技術について述べる。また、野菜生産の歴史と現状、さらには先進的な生産技術についても論述する。

2. 授業内容

第1回 aのみ：野菜園芸の栽培環境と作型

第2回：野菜園芸の現状と経営の特徴

第3回：葉茎菜類 その1. 茎菜類（アスパラガス）

第4回：葉茎菜類 その2. 茎菜類（アスパラガスなど）

第5回：葉茎菜類 その3. 葉菜類（結球・非結球野菜：キャベツ、ハクサイ、レタスなど）

第6回：葉茎菜類 その4. 葉菜類（ホウレンソウと鱗茎野菜：ネギ、タマネギなど）

第7回：花菜類（ブロッコリー、カリフラワーなど）

第8回：根菜類（ダイコン、ニンジン、サトイモなど）

第9回：果菜類 その1. ナス科（トマト、ピーマンなど）

第10回：果菜類 その2. ウリ科（キュウリ、カボチャなど）およびバラ科（イチゴ）

第11回：果菜類 その3. マメ科（エダマメなど）およびイネ科（スイートコーンなど）

第12回：その他の品目（薬用作物、キノコ類など）

第13回：野菜の販売戦略と地域活性化

第14回：野菜の品質と鮮度保持、流通と販売

3. 履修上の注意

栽培学入門や資源植物学、園芸学概論など、植物関連の基礎科目を履修していると理解しやすい。

授業内容と順序は変更する場合がある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

植物関連の農学基礎科目（栽培学入門や資源植物学、園芸学概論など）を履修しておくか、または事前に自分で学習しておくこと。

5. 教科書

『野菜園芸学の基礎』 篠原 温 編著（農文協）

6. 参考書

『園芸学 第2版』 金山喜則 編（文永堂出版）

『野菜園芸学 第2版』 金山喜則 編（文永堂出版）

『園芸利用学』 山内直樹・今堀義洋 編（文永堂出版）

『園芸生産学』 小池安比古 編著（朝倉書店）

『図説 野菜新書』 矢澤 進 編著（朝倉書店） ほか

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席回数6割以上の者を評価対象とし、定期試験100%で評価する。

9. その他

野菜園芸学研究室（5号館3階301A）

オフィスアワー：水曜日 12:30-13:00

E-mail: motoki@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGR331J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
果樹園芸学

2単位

岩崎直人

2017~2021年度入学者
果樹園芸学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

今日までに確立された果実生産技術の理論を理解することにより、それらを応用する能力を習得することを目標とする。

《授業の概要》

果樹は他の園芸作物とは異なってほとんどが樹木作物であり、永年作物である。また、樹を育てることではなく果実を生産することが目的であることから、栽培管理上注意しなければならない点が1年生作物に比べて異なることも多い。本講義では日本で栽培されている主要な果樹の生理・生態的特徴について解説する。

農学科、生物資源関係の専攻科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のCおよびDに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] aのみ:イントロダクション(果樹園芸の定義)
- [第2回] 果樹の栽培と環境(適地適作と休眠)
- [第3回] 果樹の種類と結果習性
- [第4回] 花芽分化とそれに関与する要因
- [第5回] 受粉受精と結実(自家受粉と他家受粉)
- [第6回] 果樹の単為生殖(珠心胚の形成)とその利用
- [第7回] 果実の発育と組織学および生理学的変化
- [第8回] 樹体の物質生産と転流
- [第9回] 品質構成要素と生産環境
- [第10回] 果実の成熟生理と果実の機能性
- [第11回] 果実の貯蔵と流通
- [第12回] 樹形とせん定、時期と方法
- [第13回] 樹勢・結実と樹体の物質生産
- [第14回] 果樹の育種・栄養繁殖の利点と欠点

3. 履修上の注意

植物関連の基礎科目を履修していると理解しやすい。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。

5. 教科書

特に指定しないが、必要な資料は配付する。

6. 参考書

- 果樹園芸学(米森敬三 編集, 朝倉書店)
- 果樹園芸大要(小林 章 著, 養賢堂)
- 果樹園芸学の基礎(伴野 潔・山田 寿・平 智 著, 農文協)
- 果樹園芸学(金浜耕基 編, 文永堂出版)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

100%定期試験で評価する。

9. その他

果樹園芸学研究室(5号館3階306A)
オフィスパワー:水曜日:12:40~13:30, 質問などがあれば気軽に研究室まで来てください。

科目ナンバー (AG)AGR331J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
園芸植物繁殖学

2017~2021年度入学者
園芸植物繁殖学

2 単位

岩崎直人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

園芸作物の主要な繁殖法である種子繁殖法と栄養繁殖法の理論を理解し、応用する能力を修得することを目標とする。

《授業の概要》

植物の主要な繁殖法である種子繁殖および栄養繁殖法に係わる諸問題について解説するとともに、園芸作物を中心に繁殖に関連する植物の生理について講述する。また、特に永年作物における繁殖法による植物機能の調節や、苗木生産の手法等についても解説する。

農学科、生物資源関係の専攻科目（共通基幹科目）で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のCおよびDに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 aのみ: ガイダンス・種苗生産の目的

第2回: 繁殖に用いられる組織および器官とその性質

第3回: 種子繁殖の生理

第4回: 単為生殖とその利用

第5回: 接ぎ木繁殖の理論

第6回: 接ぎ木繁殖法の種類と台木

第7回: 接ぎ木繁殖による機能の付与

第8回: 挿し木・取り木繁殖の理論

第9回: 挿し木繁殖における発根の生理

第10回: 挿し木の方法と特徴

第11回: 組織培養による繁殖法

第12回: スノキ属の大量増殖法・根挿し

第13回: 種苗生産の現状

第14回: 種苗法について・まとめ

3. 履修上の注意

植物関連の基礎科目を履修していると理解しやすい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。

5. 教科書

特に指定しないが、必要な資料は配付する。

6. 参考書

園芸種苗生産学（今西英雄 他、朝倉書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

100%定期試験で評価する。

9. その他

果樹園芸学研究室（5号館3階306A）

オフィスパワー：水曜日：12：40～13：30、質問などがあれば気軽に研究室まで来てください。

科目ナンバー (AG)AGR321J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
植物成長制御学

2017~2021 年度入学者
植物成長制御学

2 単位

池田・元木

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標およびテーマ》

植物の成長のしくみは、私たちの想像以上に精緻である。いろいろな植物における成長のしくみを理解することで植物の成長を制御し、農業の生産現場において作物の生産性向上につなげる手法を学ぶ。食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC、Dに対応する科目である。

《授業の概要》

実際の栽培現場で行われている植物の成長制御の手法を紹介しながら、栽培環境や気象環境などと植物の成長を制御するための技術について概説する。また、植物の成長を制御する物理的および化学的要因について概説し、それらの諸要因と植物ホルモンとの関連、農業における植物成長調整剤の利用についても講述する。さらに、青果物および切り花の鮮度保持と貯蔵についても概説する。

2. 授業内容

- 第1回 aのみ：植物成長制御学とは
- 第2回：施設における環境制御 温度
- 第3回：施設における環境制御 風
- 第4回：施設における環境制御 光 その1
- 第5回：施設における環境制御 光 その2
- 第6回：施設における環境制御 CO2 その他
- 第7回：施設における環境制御 制御技術
- 第8回：栽培環境と成長制御 その1
- 第9回：栽培環境と成長制御 その2
- 第10回：栽培環境と成長制御 その3
- 第11回：農業における植物成長調整剤の利用 その1
- 第12回：農業における植物成長調整剤の利用 その2
- 第13回：青果物の鮮度保持と貯蔵
- 第14回：切り花の鮮度保持と貯蔵

3. 履修上の注意

栽培学入門や資源植物学、作物学概論、園芸学概論、生産システム学概論、野菜園芸学、生産システム学、生産気象学など、植物および気象関連の科目を履修していると理解しやすい。授業内容と順序は変更する場合がある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

植物関連の農学基礎科目（栽培学入門）を履修しておくか、または事前に自分で学習しておくこと。

5. 教科書

特に指定しないが、必要な資料は配付する。

6. 参考書

講義のなかで紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席回数 6 割以上の者を評価対象とし、定期試験 100%で評価する。

9. その他

オフィスアワー

元木 悟（野菜園芸学研究室、5号館3階301A）

水曜日：12：30-13：00

E-mail：motoki@meiji.ac.jp

池田 敬（生産システム学研究室、5号館2階201A）

木曜日：12：40-13：20

E-mail：agrisys@meiji.ac.jp

質問などがあれば気軽に研究室まで来て下さい。

科目ナンバー (AG)AGR311J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
植物育種学

2単位

丸橋 巨

2017～2021年度入学者
植物育種学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物の生殖細胞および体細胞を対象に開発された育種技術についてその原理を理解する。

《授業の概要》

植物が正常に機能する生殖細胞を作らないとき、始めてその本来の機能に気づかされることがある。育種技術者はこれまで正常に機能しない生殖細胞を育種上有効に利用する方法を考案してきた。また、体細胞に対しても直接変異を導入する手段を工夫して来た。この授業ではその詳細を解説する。農学科食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のC及びDに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：aのみ：イントロダクション

第2回：植物の生殖様式

第3回：植物の雌雄性

第4回：雄性生殖器官の形成

第5回：雄性生殖器官の形成不全とその利用

第6回：雌性生殖器官の形成

第7回：雌性生殖器官の形成不全とその利用

第8回：受粉と受精

第9回：受精前の障害とその利用

第10回：受精後の障害

第11回：受精前後の障害の克服

第12回：細胞融合とその利用

第13回：新しい育種技術

第14回：補遺

3. 履修上の注意

「分子生物学」、「基礎植物育種学」を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

高校生物の教科書に記載されている、「遺伝情報の発現」、「有性生殖」、「植物の発生」等の項目を再読しておくことを勧めます。

5. 教科書

使用しない。

6. 参考書

『植物の発生学』ボジュワニ・バトナガー著/足立・丸橋訳（講談社サイエンティフィック）その他、授業において適宜、紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

複数課題に対する解答文により評価する。

9. その他

オフィスアワー：メール（marubasi@meiji.ac.jp）でアポイントメントをとって来室して下さい。

科目ナンバー (AG)AGR391J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生産システム学

2017～2021年度入学者
生産システム学

2 単位

池田敬

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農業における生産効率化技術や、施設栽培・養液栽培に関する技術を詳しく説明する。また栽培環境に関わる計測技術などを説明することで、現代農業の現状を理解できるようにする。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のD・Eに対応する科目である。

《授業の概要》

作物生産には大きく分けて2つのファクターがある。農作物（ソフト）と環境（ハード）である。生産システム学では、主に施設栽培および養液栽培を中心として、環境とそこで育つ農作物を相互に考察することで、それらがいかに密接に関係しているのか、重要性を認識する。

2. 授業内容

- 第1回：施設内農作物生産
- 第2回：農業施設の構造および資材
- 第3回：養液栽培システム1 水耕
- 第4回：養液栽培システム2 固形培地耕
- 第5回：養液栽培システム3 養液土耕
- 第6回：農業の機械化
- 第7回：ロボットの農業への応用
- 第8回：ポストハーベストのシステム化
- 第9回：様々な環境における農業システム1
- 第10回：様々な環境における農業システム2
- 第11回：植物および環境計測技術1 水
- 第12回：植物および環境計測技術2 その他
- 第13回：生産システムの将来・宇宙農業
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

生産システム学概論を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

新聞等の農業に関する記事を注視すること。

5. 教科書

授業中に資料を配付する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験（もしくはレポート）で評価を行う。

9. その他

オフィスアワー
金曜日昼休み

科目ナンバー (AG)AGR361J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
動物育種学

2017～2021年度入学者
動物育種学

2単位

溝口康

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

動物育種は、動物の生産・繁殖等の形質能力を正確に予測し、選抜・交配を繰り返す、動物の遺伝的能力を望ましいものへと改良を図ることである。特に産業動物における経済的に価値のある形質の遺伝的能力の改良は、動物生産上とても重要な目標となる。本講義は、これらを遂行するための基礎的理論とその技術について、理解を深めることを目的とする。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

《授業の概要》

動物育種学の基本的な考え方と、育種対象となる遺伝形質における動物の選抜方法及びその交配計画について解説する。また、現在までに行われている各動物種の育種手法についても解説し、その特徴と今後の育種の展望について考える。

2. 授業内容

第1回：動物育種学の概論

第2回：遺伝の原理と遺伝様式

第3回：育種対象となる遺伝形質

第4回：集団における遺伝的構成

第5回：育種目標とその計画

第6回：遺伝的パラメーターの推定

第7回：量的形質の選抜方法

第8回：ゲノム情報を活用した選抜方法

第9回：交配様式とその計画

第10回：肉牛の育種学

第11回：乳牛の育種学

第12回：豚の育種学

第13回：鶏（卵用、肉用）の育種学

第14回：まとめ

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります

3. 履修上の注意

本講義を履修前または同時期に動物関連の科目を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習は、講義時に配布したレジメを参照し、参考書などを用いて当該箇所の理解を深める。

5. 教科書

毎回の講義時にレジメを配布するので、教科書は使用しない。

6. 参考書

「応用動物遺伝学」東條英昭・佐々木義之・国枝哲夫編 朝倉書店

「獣医遺伝育種学」国枝哲夫・今川和彦・鈴木勝士編 朝倉書店

「動物遺伝育種学」祝前博明・国枝哲夫・野村哲郎・万年英之編 朝倉書店

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて講義にて解説する

8. 成績評価の方法

原則として、期末試験により評価する。

9. その他

研究室名 動物遺伝資源学研究室（5号館3階305A）

オフィスアワー：木曜日：12:30～13:10

科目ナンバー (AG) AGR261J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
動物資源繁殖学

2017～2021 年度入学者
動物資源繁殖学

2 単位

佐々木羊介

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

世界人口の増加に伴う食料問題への対応として、安定した動物生産やそのための生産基盤の構築が求められている。そこで本授業では、動物繁殖に関する基本的な知識や動物生産システムと繁殖管理の関わり合いに関する考え方を幅広く学習し、理解することを目的とする。

《授業の概要》

本授業では、動物繁殖に関する基本的な知識を解説し、ウシ・ブタ・ニワトリなどの産業動物の生産システムと繁殖管理との関わり合いを解説する。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：動物資源繁殖学の概要
- 第2回：産業動物の種類とその役割
- 第3回：雌と雄の生殖器の構造と機能
- 第4回：雌と雄の繁殖生理と内分泌
- 第5回：肉用牛のライフサイクルと生産システム
- 第6回：肉用牛の繁殖管理
- 第7回：乳用牛のライフサイクルと生産システム
- 第8回：乳用牛の繁殖管理
- 第9回：ブタのライフサイクルと生産システム
- 第10回：ブタの繁殖管理
- 第11回：ニワトリのライフサイクルと生産システム
- 第12回：ニワトリの繁殖管理
- 第13回：繁殖群の計数管理
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

講義内容について、小テストまたは課題に対するレポートの提出を課すため、提出期限を厳守すること。本講義を履修前または同時期に動物関連の科目を履修していることが望ましい。特にアニマルサイエンス入門を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各授業における講義資料を Web で配布するため、資料を用いて予習・復習を行うこと。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

- 畜産学入門（文永堂出版、2012）
- 獣医疫学〈第三版〉（近代出版、2022）

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける

8. 成績評価の方法

毎回出席を取り、講義での定期テスト（40%）、課題レポート2回（30%）、小テスト（30%）で評価する。

9. その他

動物生産学研究室（5号館5階501A）
オフィスパワー：月曜日：12:30～13:10

科目ナンバー (AG) AGR361J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
動物資源機能利用学

2 単位

水野谷航

2017～2021 年度入学者
動物資源機能利用学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

家畜から生産される畜産物のうち、主として食肉、牛乳、鶏卵およびそれらから製造される加工品を対象に、生産性や品質保証などを理解し、さらにこれら畜産物の処理、加工、貯蔵、流通上の技術的諸問題、食品としての機能性、食文化に至るまで、総合的に学習を進める。視聴覚教材と双方向型の手法も取り入れ、実践的な授業を目指す。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

《授業の達成目標及びテーマ》

- ・畜産物のうち、主として食肉、卵、牛乳を対象に、生産性や品質保証などについて説明できる。
- ・畜産物の処理、加工、流通上の技術的諸問題を説明できる。
- ・動物性食品の栄養機能性、食文化などを理解し説明できる。

2. 授業内容

第1回：ガイダンスと食肉・食肉加工の歴史

第2回：食肉生産と流通の現況

第3回：と畜、解体処理、法的規制

第4回：食肉の格付

第5回：骨格筋の構造

第6回：筋肉から食肉への変換

第7回：食肉の保存：微生物制御と寒冷短縮

第8回：食肉製品の種類と製造法

第9回：食肉の加工特性と製造理論

第10回：食肉の栄養と機能性

第11回：牛乳の栄養成分

第12回：乳製品の製造技術

第13回：鶏卵の生産、鮮度と品質の栄養機能性

第14回：野生鳥獣肉について

3. 履修上の注意

化学、生物学を基礎にした内容であることから、既修得の関連基礎科目を復習しておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で説明したことを配付資料（PDF）に書き込んだものを復習教材として見直す。習った項目について自分でも調べる。

5. 教科書

適宜配布する資料および下記の参考書の内容に沿って授業を進める。

6. 参考書

『畜産物利用学』 齊藤忠夫他編（文永堂出版）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験 50%、平常点（授業参加・貢献度、小テスト）50%

欠席が1/3を超えた場合は評価の対象としない

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する

メール宛先：mizunoya@azabu-u.ac.jp

研究室 HP：https://lab-navi.azabu-u.ac.jp/va-09/

科目ナンバー (AG)AGR321J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
熱帯農学

2017～2021年度入学者
熱帯農学

2 単位

皆川礼子

1. 授業の概要・到達目標

〈概要〉

熱帯地域の自然環境（気候、植生、土壌など）を利用した伝統的な農業形態と農業技術の改善による近代農業、さらに大規模なプランテーションについて学ぶ。また、地球温暖化や熱帯林破壊などの問題と熱帯地域で行われている農業の現状を理解し、グローバルな視点で熱帯農業のあり方について考える。

〈目標〉

熱帯の環境に適応した熱帯農業の特性、代表的な熱帯の作物の種類と栽培方法を理解する。そして、熱帯農業資源の評価、熱帯産作物の流通、熱帯農業の展望をまとめ、熱帯における農業のあり方に関する思考力を養うことを目標とする。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA・C・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：「熱帯農学」とは 熱帯の特性と農業の起源
- 第2回：熱帯の環境 (1) 気候と作物の種類
- 第3回：熱帯の環境 (2) 生物相と農業
- 第4回：熱帯の環境 (3) 生態系と農業的土地利用
- 第5回：熱帯の伝統的な農業 (1) アグロフォレストリー
- 第6回：熱帯の伝統的な農業 (2) 栽培の起源と作物
- 第7回：畑作の特性と栽培技術 (1) 熱帯果実
- 第8回：畑作の特性と栽培技術 (2) イモ類
- 第9回：畑作の特性と栽培技術 (3) プランテーション
- 第10回：畑作の特性と栽培技術 (4) 香辛料と嗜好品
- 第11回：稲作の現状と生産性
- 第12回：熱帯における農地の造成と農地の改良・保全
- 第13回：熱帯林と共存する
- 第14回：熱帯地域で生産される農作物の流通・熱帯農業の展望

3. 履修上の注意

熱帯地域で行われている農業に関するすべてに興味を持ち、授業に参加すること。シャトルカードなどを利用し、質問や意見を積極的に伝えることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

新聞やインターネットなどで最新の情報を得ること。興味ある事項は文献などで調べて知識を増やしてほしい。受講後は必ず資料を参考にして復習し、次回の講義まで理解しておくこと。

5. 教科書

指定しない。

6. 参考書

- 『熱帯農業概論』田中 明・編著（築地書館）
 - 『熱帯生態学』長野敏英・編（朝倉書店）
 - 『熱帯雨林総論』T. C. ホイットモア著、熊崎 実・小林繁男監訳（築地書館）
- それぞれの講義に必要な資料はOh-o! Meiji を通じて配信する。各自ダウンロードして利用すること。

7. 課題に対するフィードバックの方法

期末試験の解説と講評は、Oh-o! Meiji を通じて配信するので、各自確認すること。

8. 成績評価の方法

成績評価は期末試験の結果（100%）で判定する。

9. その他

オフィスアワー：第1回目の講義で示す。
連絡先：第1回目の講義で示す。

科目ナンバー (AG) AGR321J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 肥料学	2 単位	伊藤紘子
2017~2021 年度入学者 肥料学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本講義では、まず日本における肥料の取り扱いに関する法令と様々な肥料の種類と特性を知り、作物が必要とする無機養分の種類と土壌環境中における化学形態の変化や、作物による吸収と体内での働きおよび欠乏症等を学ぶ。さらに土壌、微生物との相互作用、それらを用いたバイオ肥料の利用について学ぶ。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA・C・Dに対応する科目である。

《授業の達成目標》

農業生産現場で利用される肥料資材に関して、その成分を保证するための法令、肥料の種類、それを作物等へ施用するときの原理、作用機構、肥料が環境におよぼす影響等を知り、作物生産のための肥料の有効利用技術の基盤となる知識を修得する。

2. 授業内容

- 第1回：肥料学とは、肥料法と肥料の定義・分類
- 第2回：肥料に関する特殊な用語について
- 第3回：植物の必須元素と物質の輸送
- 第4回：主な窒素質肥料の種類と製造法・特性・土壌中における挙動と作物による吸収と働き
- 第5回：主なりん酸質肥料の種類と製造法、土壌中での挙動と作物による吸収と働き
- 第6回：主な加里質肥料の種類、土壌中での挙動と作物による吸収と働き
- 第7回：石灰質肥料とアルカリ分と土壌中での挙動、苦土（質）肥料
- 第8回：マンガン質肥料、ほう素質肥料、添加が許される微量元素（鉄、銅、亜鉛）、けい酸質肥料
- 第9回：複合肥料（化成肥料、配合肥料）の種類と特徴、肥効調節型肥料、緩効性肥料
- 第10回：有機質肥料の種類と特性、堆肥と土壌改良資材の種類と特性
- 第11回：植物における必須元素の欠乏症と過剰症、不良土壌における植物の応答
- 第12回：施肥に関わる法則性
- 第13回：植物に対する特異的な養分供給機構とバイオ肥料
- 第14回：講義内容の総括

* 授業内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

「土壌学」「作物学概論」「植物生理学」など植物関連の農学基礎科目を履修しておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲についてポータルを通じて講義資料（PDF）を配布するので、事前に教科書等で内容を予習しておくこと。この資料については講義時に印刷等して持参すること。

また、講義ごとに小テストで理解度を確認する。小テストで分からなかったところや理解不足のところは、次の講義までに調べるか、講義後に課される小テストの質問欄にて質問すること。

5. 教科書

『新植物栄養学・肥料学 改訂版』、米山忠克・長谷川功・関本均編（朝倉書店）

また、ポータルを通じて講義資料（PDF）を配布する。

6. 参考書

- ①『土壌肥料用語事典 第2版』 藤原俊六郎、安西徹郎、小川吉雄、加藤哲郎 編 （農文協）
- ②『ポケット肥料要覧』（農林統計協会）

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回講義の最初に、前講義後に課した小テストと質問への解説を行う。提出されたレポートについては、まとめの講義にて総評と解説を行う。

8. 成績評価の方法

平常点（講義への参加・質問などの貢献度、小テスト）50% とレポート 50%により総合的に評価する。

レポート課題は10~12回のいずれかの講義で示す。

欠席回数が全講義回数の1/3を超えた場合は成績評価の対象としない。

9. その他

オフィスアワーおよび連絡先：最初の講義で指示する。

その他、内容・方法・順番の変更があり得るので、Oh-o!Meijiでの連絡に留意すること。

科目ナンバー (AG) AGR341J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
植物病理学

2017~2021年度入学者
植物病理学

2 単位

大里修一

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物病原菌の病原性と植物の病害抵抗性の関係を理解し、安全で効果的に病気を防ぐ方法を考えながら、分子レベルで植物の病気をとらえ考察することを目標とする。

《授業の概要》

植物病原菌が植物に感染するために持つ病原性、植物が病原菌の感染を防ぐために病害抵抗性など宿主-病原菌相互反応について、生理・生化学的および分子遺伝学的視点から概説する。授業では、植物病理学の基本概念から始め、宿主と病原菌の相互作用の複雑な生理学的、生化学的、分子遺伝学的側面について学びます。

食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第01回：ガイダンス・植物病理学とは
- 第02回：病原菌における病原性の分化
- 第03回：病原菌の分化型とレース
- 第04回：植物の病害抵抗性機構の概要(1)
- 第05回：植物の病害抵抗性機構の概要(2)
- 第06回：植物の静的病害抵抗性
- 第07回：植物の動的病害抵抗性(1)
- 第08回：植物の動的病害抵抗性(2)
- 第09回：植物の動的病害抵抗性(3)
- 第10回：病原菌の病原性(1)
- 第11回：病原菌の病原性(2)
- 第12回：分子植物病理学(1)
- 第13回：分子植物病理学(2)
- 第14回：分子植物病理学(2)

3. 履修上の注意

植物保護学概論を必ず履修し、菌類および細菌病について理解を深めておくこと。また、植物病害制御学も合わせて履修することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布する資料や参考書の該当箇所を復習すること。

5. 教科書

『植物病理学』 眞山滋志ら 著（文永堂出版）2020年 / 第2版

6. 参考書

- 『植物病理学』大木 理 著（東京化学同人）2019年 / 第2版
- 『新 植物病理学概論』白石友紀 著（養賢堂）2012年
- 『植物病理学の基礎』夏秋啓子ら 著（農文教）2021年
- 『植物医科学』難波成任ら 著（養賢堂）2022年 / 第2版
- 『Plant Pathology 5th ed.』Agrios, G. N 編（Elsevier）2005年

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に説明するか、もしくはOh-o! Meiji システムを介して行う。

8. 成績評価の方法

成績評価は、原則として定期試験（100%）により評価する。

9. その他

植物病理学研究室（5号館3階 5-302A室）
 オフィスアワー：金曜日
 連絡先：ohsato.meiji@gmail.com（◎は@）

科目ナンバー (AG)AGR341J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
植物ウイルス学

2017~2021 年度入学者
植物ウイルス学

2 単位

佐々木信光

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物病原体の一つである植物ウイルスの形態的・構造的特徴、感染・増殖機構および病害防除などについて、生物学的および植物病理学的観点から総合的に理解することを目標とする。

《授業の概要》

植物ウイルス研究の歴史的経緯を踏まえつつ、現代科学によって解明されてきたウイルスの生物学的性状や感染・増殖・伝搬機構および植物のウイルス感染防御機構に関する総合的な講義を行う。また、ウイルス病の診断方法や防除・制御方法やウイルス自体のバイオテクノロジーツールとしての利用について最新の研究成果を交えて説明する。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション

b: ウイルスの研究史

第2回: ウイルス感染による被害と病徴

第3回: ウイルスの粒子構造と分類

第4回: ウイルスの精製と定量

第5回: ウイルスゲノムの構造と遺伝子の発現

第6回: ウイルスの複製機構

第7回: ウイルスの移行機構

第8回: ウイルスの伝染

第9回: 植物のウイルス抵抗性

第10回: ウイルス病の防除

第11回: ウイルスの検出と診断

第12回: ウイロイド

第13回: バイオテクノロジーツールとしてのウイルス

第14回 a: まとめ

b: 試験

3. 履修上の注意

授業は配布する資料とパワーポイントを用いて行う。植物病理学及び分子生物学の基本的な知識を学習しておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配布した資料に事前に目を通しておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。ただし、講義内容は参考書欄に記載されている『植物ウイルス学』池上正人ら著（朝倉書店、2009年）を基本としている。

6. 参考書

『植物ウイルス学』池上正人ら著（朝倉書店、2009年）

『最新植物病理学』奥田誠一ら著（朝倉書店、2004年）

『新編植物ウイルス学』平井篤造ら著（養賢堂、1988年）

『植物のウイルス病物語』都丸敬一著（全国農村教育協会、2001年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

講義における参加態度（20%）および定期試験の成績に基づき評価する（80%）。参加態度は、講義中に行うアンケートのコメントおよび質問内容により判断する。

9. その他

東京農工大学遺伝子実験施設 E15 室

TEL: 042-367-5840（直通）

E-mail: chaki@cc.tuat.ac.jp

URL: [url]http://www.tuat.ac.jp/~idenshi/[/url]

科目ナンバー (AG)AGR341J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 植物病害制御学	2 単位	小松健
2017～2021年度入学者 植物病害制御学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

微生物によって引き起こされる植物の生育障害を病気、それが人間による食用植物の生産に被害を及ぼすときに病害と呼ぶ。本講義では、植物病害の診断・制御に現在使用されている手段と、研究の進展により見えてきた制御法の将来像について理解を深めることを目標とする。さらに、農業生産と流通のグローバル化に伴う植物病害の拡散を制御するための植物検疫技術の現状と問題点、植物検疫制度についても学習し、理解を深める。その結果として、生き物と環境に関わる基礎的な知識と応用能力、自然環境と調和した持続的食糧生産システムに関する知識と、植物病害の拡散・制御の理解に必須な国際的な視点が習得可能である。

《授業の概要》

この授業では、植物病原体の種類と特徴、植物病原体の生活環と伝染方法、植物-病原体の相互関係、化学的・物理的・耕種的・生物的防除法の例と作用メカニズムや利点・欠点、植物検疫制度などについて具体例に基づいて概説する。農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：植物病害とその被害の現状
- 第2回：植物病原体の種類、診断に関する概論
- 第3回：植物病害発生メカニズムと制御に関する概論
- 第4回：糸状菌病の特徴、診断と制御（1）概論
- 第5回：糸状菌病の特徴、診断と制御（2）詳説
- 第6回：糸状菌病の化学的制御法：殺菌剤の作用メカニズム
- 第7回：化学的制御法の効率的な適用と欠点
- 第8回：農薬の安全性評価と化学的制御法に関する最新トピック
- 第9回：細菌・ファイトプラズマ病の特徴、診断と制御
- 第10回：ウイルス・ウイロイド病の特徴、診断と制御
- 第11回：植物病害の疫学
- 第12回：植物検疫制度：輸出入の国際検疫と国内検疫
- 第13回：国際的な植物防疫体制
- 第14回：a:植物病害の総合的防除・b:定期試験

3. 履修上の注意

「植物病理学概論」を履修しておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配布するプリント、Oh-o! Meiji にアップする資料等を用いて、講義での疑問点をあらかじめ考えておくこと。講義後は資料に改めて目を通し、理解度を確認しておくこと。

5. 教科書

特に指定しない。講義内容は参考書欄記載のものに準拠している。

6. 参考書

『植物病理学 第二版』土佐幸雄・眞山滋志編（文永堂出版）
『新版 農業の科学』宮川恒ら編著（朝倉書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

試験成績（100—授業回数を最高点とする）+授業参加度で評価する。出席が50%に満たない者は評価の対象としない。

9. その他

質問・議論その他は常時メール（akomatsu@cc.tuat.ac.jp）で受けつける。
 昨年の試験問題と解答は受講者に公開する。講義に出るだけでは合格は難しいので勉強すること。
 2022年の試験の成績分布は以下の通り。
 S: 13%, A: 21%, B: 29%, C: 23%, F: 14%

科目ナンバー (AG)AGR341J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
応用昆虫学

2017~2021 年度入学者
応用昆虫学

2 単位

糸山享

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

昆虫類は最も種多様性が大きい生物であり、我々人間は様々な場面で昆虫に遭遇する。『応用昆虫学』では、昆虫と人との関わりについて理解を深め、昆虫学および害虫防除に関する基礎的知識の習得を目標とする。

《授業の概要》

昆虫の生物学的特性について、様々な視点から概説する。また、農業や日常生活で遭遇する害虫の特徴や被害について紹介する。

農学科専攻科目の分野別科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のCおよびDに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：はじめに—人間と昆虫の関わり—
- 第2回：昆虫概論（1）形態的な特徴と多様性
- 第3回：昆虫概論（2）生活史戦略
- 第4回：昆虫概論（3）活動を支える生理特性
- 第5回：昆虫概論（4）昆虫の発育制御機構と制虫剤
- 第6回：昆虫概論（5）情報交換とフェロモン
- 第7回：水稻の害虫とその被害
- 第8回：畑作物の害虫とその被害
- 第9回：植物ウイルスと媒介害虫
- 第10回：野菜・花きの害虫とその被害（1）
- 第11回：野菜・花きの害虫とその被害（2）
- 第12回：果樹・茶の害虫とその被害
- 第13回：衣食住の害虫とその被害
- 第14回：昆虫の産業利用

* 講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

『植物保護学概論』を履修していることが望ましい。また、『栽培学入門』をはじめとする関連科目の受講も推奨する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

日頃から昆虫、さらには生物全般に興味を持つこと。各回の授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。

5. 教科書

特に定めない。必要な資料は配付する。

6. 参考書

- 『応用昆虫学』石川幸男・野村昌史 編著（朝倉書店）
- 『最新応用昆虫学』田付貞洋・河野義明 編著（朝倉書店）
- 『昆虫生理生態学』河野義明・田付貞洋 編著（朝倉書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

期末試験の答えは採点后に Oh-o! Meiji で返却する。

8. 成績評価の方法

期末試験（100%）で評価する。

9. その他

応用昆虫学研究室（5号館2階208号室）
 オフィスアワー：火曜日 12:40~13:20、その他の時間も含めて訪問する場合は事前にアポイントを取る。
 連絡先：mushi@meiji.ac.jp（◎は@）
 研究室HP：[url]http://www.isc.meiji.ac.jp/~entomol/index.html[/url]

科目ナンバー (AG)AGR341J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
害虫管理学

2017～2021年度入学者
害虫管理学

2 単位

糸山享

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

化学農業の開発によって害虫防除の技術は飛躍的に進歩したが、農業だけに頼った歴史は、「害虫の薬剤抵抗性」「圃場や周辺環境の生物相攪乱」「環境や野生動物「人体への残留」といった多くの負の遺産を遺した。こうした事態を反省し、近年では環境負荷の低減を目指した総合的害虫管理（Integrated Pest Management; IPM）の理論を農業生産の現場に取り入れることが一般化してきた。『昆虫制御学』では、IPM の概念を理解し、化学農業を含む様々な防除技術とその特性を活かした害虫管理システムを構築する為の基礎的知見を身に付けることを目的とする。

《授業の概要》

IPM の定義や鍵となる概念、害虫管理システムを構成する防除技術について解説する。専攻科目の分野別科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のCおよびDに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：害虫防除の歴史－農業以前の害虫防除－
- 第2回：農業の全盛と影
- 第3回：殺虫剤抵抗性の発達
- 第4回：天敵至上主義の台頭とその限界
- 第5回：複数防除法の合理的統合－IPM の概念（1）－
- 第6回：基礎的防除法－IPM の技術（1）－
- 第7回：副次的防除法－IPM の技術（2）－
- 第8回：害虫個体群の密度低減－IPM の技術（3）－
- 第9回：害虫の根絶－IPM の技術（4）－
- 第10回：被害許容水準とシステム管理－IPM の概念（2）－
- 第11回：IPM の問題点と見直し－IPM の概念（3）－
- 第12回：生産現場における IPM の実践と普及
- 第13回：生態系の機能を活かした害虫管理へ
- 第14回：これからの害虫管理

※講義の内容や順番は必要に応じて変更する場合があります

3. 履修上の注意

『植物保護学概論』および『応用昆虫学』を履修していることが望ましい。また、『栽培学入門』をはじめとする関連科目の受講も推奨する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業で配布された資料については、次回の授業前に必ず確認し、理解を深めること。

5. 教科書

特に定めない。必要な資料は配布する。

6. 参考書

- 『バイオロジカル・コントロール-第2版-』仲井まどか・日本典秀編（朝倉書店）
- 『総合的害虫管理学』中筋房夫著（養賢堂）
- 『天敵』矢野英二著（養賢堂）
- 『新版 農業の科学』宮川恒・田村廣人・浅見忠男著（朝倉書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

期末試験の答えは採点后に Oh-o! Meiji で返却する。

8. 成績評価の方法

期末試験（100%）で評価する。

9. その他

応用昆虫学研究室（5号館2階208号室）
 オフィスアワー：火曜日 12：40～13：20、その他の時間も含めて訪問する場合は事前にアポイントを取ること。
 連絡先：mushi@meiji.ac.jp（@は@）
 研究室HP：[url]http://www.isc.meiji.ac.jp/~entomol/index.html[/url]

科目ナンバー (AG) AGR341J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
植物線虫学

2017~2021 年度入学者
植物線虫学

2 単位

新屋良治・浴野泰甫

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

線虫はその種数およびバイオマスともに地球上で最も繁栄している動物の1つである。多くは地球生態系における分解者としての役割を担っているが、動植物に寄生し様々な病気を引き起こすものも多数存在する。本講義では様々な種類の線虫における生物学的特徴や他の生物との関わり、さらには寄生線虫病について解説する。

<到達目標>

多様な線虫の生物学的特徴や線虫と私たち人間生活との関わりについて理解を深め、寄生性線虫の制御法を学ぶことを目標とする。
「食糧生産・環境コース」においては学習・教育目標のCおよびDに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション：線虫という生き物

第2回：線虫の系統と体構造

第3回：モデル生物としての線虫

第4回：線虫の性・繁殖

第5回：線虫の行動

第6回：線虫の環境適応・ゲノム

第7回：植物寄生性線虫：定着性線虫

第8回：植物寄生性線虫：移動性・外部寄生性線虫

第9回：植物寄生性線虫：侵入種問題1

第10回：植物寄生性線虫：侵入種問題2

第11回：植物寄生性線虫：検出と防除1

第12回：植物寄生性線虫：検出と防除2

第13回：植物寄生性線虫：検出と防除3

第14回：a：試験

b：試験の正答解説

*講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

線虫の生物学および線虫が引き起こす寄生線虫病を理解するための科目である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容について文献等で調べる。授業中に不明な点があればその都度質問すること。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『線虫の生物学』石橋信義（東京大学出版会）

『線虫-1000細胞のシンフォニー』小原雄治編（共立出版）

『The Biology of Nematodes』Donald L Lee（CRC Press）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験（100%）により評価する。

9. その他

植物線虫学研究室（5号館3階307A号室）

オフィスアワー：在室していれば随時可。質問等があれば気軽に研究室まで来てください。

科目ナンバー (AG) AGR341J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 雑草学	2単位	藤井義晴
2017～2021年度入学者 雑草学		

1. 授業の概要・到達目標

「授業の概要」

雑草には、農業を行うときに問題になる「農耕地雑草」と、道路や河川敷、公園や庭などの非農耕地で問題となる「環境雑草」があります。農耕地雑草は農業上もっとも問題となる作物の減収要因ですが、環境雑草も社会生活上でも問題となり防除には多額の費用と労力がかかります。その一方で、雑草は最も身近な「自然」であり、未利用資源として、将来作物や有用植物になる可能性を秘めた植物でもあります。

そこで、さまざまな雑草について、その性質と生活史を学習することで、農耕地および非農耕地の管理上重要な雑草の特性を知り、雑草防除法および雑草利用法について学びます。雑草の生態学、生理学、含まれる有用成分と有害成分、アレロパシー、および雑草の利用法を勉強します。農業や自然環境の保護のために制御する必要がある雑草についてはその制御法を学びます。とくに最近問題となっている外来雑草についても学びます。雑草は未来の作物になる可能性がある未利用遺伝資源でもあることから、雑草の優れた特性や有用成分についても理解します。

雑草は農作業上は防除すべき植物ですが、有用植物になる可能性を持っており、また、人知れず環境を守っていることがあります。そのような雑草の能力や魅力についても勉強します。

「到達目標」

- ①人里植物を含む雑草の概念について理解する。
 - ②日本と世界の代表的な雑草を理解する。
 - ③雑草に固有の生理・生態的特性を理解する。
 - ④雑草群落の特性を理解する。
 - ⑤除草剤や耕種的方法による雑草防除法を理解する。
 - ⑥雑草の生態的な利用も含めた雑草管理法について理解する。
 - ⑦雑草群落調査法について学び、簡単な植生調査法を身に付ける。
 - ⑧雑草に含まれる成分と雑草の利用法について理解する。
- 「農学科食糧生産・環境コース」においては、学習・教育目標のA・D・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：雑草の概念・雑草の起源
 - 第2回：雑草の植生調査法：自分で雑草調査を行ってみよう
 - 第3回：日本の雑草、世界の雑草
 - 第4回：雑草群落の診断法、雑草調査レポートの説明
 - 第5回：雑草の環境生理学、生態生理学
 - 第6回：雑草調査法の講評、雑草の生活史戦略
 - 第7回：生活型と種子の散布法、発芽生理学
 - 第8回：雑草の生育型戦略、遷移メカニズム
 - 第9回：農耕地における雑草防除法
 - 第10回：雑草のアレロパシー、アレロパシーを利用した雑草抑制
 - 第11回：除草剤とその作用機構、除草剤の功罪
 - 第12回：除草剤抵抗性雑草、遺伝子組換え作物
 - 第13回：外来雑草の現状（侵入機構）、外来雑草への対策
 - 第14回：雑草に含まれる成分、雑草の有効利用
 - 第15回：未利用遺伝資源としての雑草、雑草の未来+レポート試験提出
- ※授業内容は必要に応じ変更する場合があります。

3. 履修上の注意

毎回、最初にその日の授業で理解してほしい内容に関連したミニクイズを出題し、提出された内容を平常点に加算することがあります。

他の科目履修は必要ではありませんが、作物学、資源植物学、植物保護学、植物生態学、植物生理学、緑地学などと関連がありますので、これらの科目の事前の履修あるいは同時履修が望ましいです。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

最初の2回の講義で身近な雑草を含めて個別の重要な雑草について紹介しますので、できるだけ多くの雑草名を覚えて欲しいです。第3回に「コドラート法」という簡単な雑草植生調査法を紹介し、これらの知識を利用して、5月の連休や土日・放課後等を利用して、自分で自宅周辺や帰省先、農耕地や河川敷など自由に対象を選んで雑草調査を実施し、調査レポートを提出していただきます。この調査結果のとりまとめと講評を第5回に行います。このレポートを提出しなくても単位がとれる配点にしています（レポートは必須ではありません）が、自分で雑草を見るよい機会になり、屋外で簡単な雑草調査をするのはとても楽しいので、できるだけ実際に雑草を観察・調査して提出してください。授業後半に、自由課題のレポートを課します。この授業に関連して予習・復習した内容について、雑草に関する皆さんの自主研究やアイデア・意見・提言・調査レポートを歓迎します。

最後に行う試験は本科目で身に付けてほしい知識の復習の意味で実施するものです。授業に出席して毎回出すミニクイズに答えれば簡単に解ける内容となっています。最近の農業関係の公務員試験にも雑草に関連した問題が出題されることがあり、試験問題の一部はこれに対応した問題になっています。

5. 教科書

購入義務のある教科書は設けませんが、下記の参考書を予習・復習および雑草植生調査に利用してください。とくに、わたしが分担執筆した『身近な雑草の生物学』根本・富永編著（朝倉書店）と、執筆した『植物たちの静かな戦い』（化学同人）には授業で紹介する話題を載せていますので、可能なら購入されるか図書館で閲覧してください。

また、2019年に出版した『へんな名前の植物-ヘクソカズラは本当にくさいのか』（化学同人）、および2020年に出版した『植物たちの生き残り大作戦』（新星出版社）には、本講義の中で紹介する雑草の生態についてさらに詳しく紹介していますので一読をお勧めします。

6. 参考書

雑草学と関連分野の本

- 『植物たちの生』 沼田 真（岩波新書）1972年
- 『雑草の防除』 筒井喜代治・草薙得一・中山兼徳著（家の光協会）1977年
- 『雑草の科学』 沼田真編著（研成社）1979年
- 『雑草学総論』 伊藤操子著（養賢堂）1993年
- 『雑草管理ハンドブック』 草薙・近内・芝山編（朝倉書店）1994年
- 『雑草防除大要』 植木邦和・松中昭一著（養賢堂）1980年
- 『アレロパシー-他感物質の作用と利用』 藤井義晴（農文協）2000年
- 『雑草生態学』 根本正之著（朝倉書店）2006年
- 『農業と雑草の生態学』 種生物学会編（文一総合出版）2007年
- 『ちょっと知りたい雑草学』 日本雑草学会編（全国農村教育協会）2011年
- 『雑草は踏まれても諦めない』 稲垣栄洋（中公文庫ラクレ）2012年
- 『身近な雑草の生物学』 根本正之・富永達編著（朝倉書店）2014年
- 『雑草がつくる日本らしい自然』（築地書館）2014年
- 『植物たちの静かな戦い』 藤井義晴著（化学同人）2016年
- 『へんな名前の植物-ヘクソカズラは本当にくさいのか』 藤井義晴著（化学同人）2019年
- 『植物たちの生き残り大作戦』 藤井義晴著（新星出版社）2020年

雑草を見分けるための図鑑

- 『日本雑草図説』 笠原安夫著（養賢堂）1970年
- 『人里の植物Ⅰ、Ⅱ』 長田武正著（保育社）1973年
- 『ミニ雑草図鑑』 広田伸七（全国農村教育協会）1996年
- 『新校庭の雑草』 岩瀬徹・中村俊彦・川名興（全国農村教育協会）1998年
- 『日本帰化植物写真図鑑』（全国農村教育協会）2001年
- 『日本帰化植物写真図鑑 第二巻』（全国農村教育協会）2010年
- 『新版日本原色雑草図鑑』 沼田真・吉沢長人編（全国農村教育協会）2002年
- 『浅野貞夫日本植物生態図鑑』 浅野貞夫著（全国農村教育協会）2005年
- 『植調雑草大鑑』 浅井元朗（全国農村教育協会）2015年

その他

- 『畦畔と圃場に生かすグラウンドカバープランツ』 有田博之・藤井義晴編著（農文協）1999年
- 『野草を食べる』 川原勝征（南方新社）2005年
- 『葉のギモン早わかり帖』 藤井義晴（主婦の友社）2020年
- 『カタカナ栄養素事典』 藤井義晴（主婦の友社）2021年
- 『栄養大全』 上西一弘、藤井義晴、吉田宗弘監修（NHK出版）2022年

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回のミニクイズの解説と講義への質問については、できるだけ翌週の講義の冒頭で解説します。
コドラート法による雑草調査レポートは、できるだけ添削し講評するようにします。

8. 成績評価の方法

レポート（雑草調査と自由課題）30%、授業への貢献度30%、定期試験40%

9. その他

兼任講師：
オフィスアワー：出講日の授業の前のお昼休み時間は講師控室で昼食を食べていますので質問等を受け付けます。メールでの質問も受け付けます：
yfujii@cc.tuat.ac.jp
雑草等の鑑定や雑草防除の相談も受け付けますが、最近は画像をネットにあげると同定してくれるシステムもあるので活用してください。

科目ナンバー (AG)AGR341J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 野生動物学	2 単位	加藤卓也
2017～2021 年度入学者 有害動物学		

1. 授業の概要・到達目標

生物多様性の保全是国際的な課題であり、日本においても様々な取り組みがみられる。人と自然との関わりの変化は野生動物にも影響をもたらし、絶滅の危機に瀕する生物種が増加する一方、個体数増加や分布域の拡大により農林業被害や生態系への被害を深刻化させている生物種もいる。さらに、国際的な人や物資の輸送増加に伴う外来種の導入も、生物多様性を損失させるおそれがある。近年、我が国ではシカ、イノシシ、クマ類（ツキノワグマ、ヒグマ）、サルなどの大型哺乳類による農林業被害や人身被害、また外来種アライグマ等による農業被害や生活被害などの問題が、中山間地域のみならず都市部にも拡大し社会的にも強い関心事となっている。そして、生態系のバランスが崩れることは、野生動物から人や家畜へ、あるいは人や家畜から野生動物への共通感染症の媒介など新たな問題にも波及している。

本講義では、人と野生動物との関係性の変遷を背景に、野生動物問題の対象動物の生態と現状、被害発生メカニズム、野生動物管理に関わる法制度と地域の取り組みについて触れ、野生動物管理の理論と問題解決のための課題について学ぶ。

農学科専攻科目の分野別科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA・C・Dに対応する科目である

到達目標

- (1) 野生動物管理の基本的な理論を概説できる。
- (2) 野生動物の基本的な生態と社会的課題を例示して説明できる。
- (3) 野生動物管理のための制度を理解し、基本的な施策について議論できる。

2. 授業内容

- [第1回] 生物多様性と野生動物
- [第2回] 野生動物管理－ワイルドライフ・マネジメントとは
- [第3回] a: 野生動物管理に関わる法制度
b: ヨーロッパと北米の野生動物管理
- [第4回] 野生動物の基本生態と社会的課題 1 ニホンジカ・イノシシ
- [第5回] 野生動物の基本生態と社会的課題 2 クマ類
- [第6回] 野生動物の基本生態と社会的課題 3 ニホンザル
- [第7回] a: 特定鳥獣保護管理計画に基づく管理－モニタリングに基づく科学的管理
b: 高等教育機関における野生動物管理従事者の育成
- [第8回] 鳥獣被害特措法に基づく管理－被害対策における地域と自治体の役割
- [第9回] 外来哺乳類の管理
- [第10回] 野生動物管理における感染症対策
- [第11回] 持続可能な資源としての野生動物管理
- [第12回] 野生動物の個体数推定と動態予測
- [第13回] 野生動物問題とどう関わるか？
- [第14回] a: 試験
b: 正答解説と講評

3. 履修上の注意

野生動物問題に関わる記事やニュースに関心を持つことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の講義に関連する事項について、事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。また、講義で扱った専門用語や理論について教科書等で復習すること。

5. 教科書

『実践 野生動物管理学』 鷲谷いづみ 監修・編著/梶 光一・横山真弓・鈴木正嗣 編著 (培風館)

6. 参考書

- 『増補版 野生動物管理－理論と技術－』 羽山伸一・三浦慎悟・梶光一・鈴木正嗣 編 (文永堂出版)
- 『野生動物問題への挑戦』 羽山伸一 (東京大学出版会)
- 『コアカリ 野生動物学 第2版』 日本野生動物医学学会 編 (文永堂出版)
- 『日本の動物政策』 打越綾子 (ナカニシヤ出版)

7. 課題に対するフィードバックの方法

中間レポートの解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信する。第14回のbモジュールで、試験の正答解説と講評を行う。

8. 成績評価の方法

中間レポート (20%)、期末試験 (80%) とする。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR361J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
動物環境学

2017～2021年度入学者
動物環境学

2 単位

川口真以子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の到達目標及びテーマ》

環境は動物に対し、個体発生から成熟期、あるいは進化の過程といった、さまざまな場面で影響を及ぼす。また、動物が環境に与える影響も糞尿臭から砂漠化に至るまで幅広い。このような動物と環境の相互作用について広い視野で理解することで、動物の飼育管理における環境負荷の軽減、生産物の安全性および動物福祉の両立についての今後のあるべき姿を考えることを目的とする。

《授業の概要》

さまざまな環境がもたらす動物への影響について、動物生理や行動を中心に紹介すると同時に、動物飼育が環境に及ぼす影響についても解説する。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のC・E・Fに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：環境が動物に及ぼす影響

第2回：妊娠期の環境と動物の発達

第3回：生育環境と動物の発達

第4回：プレゼンテーション①

第5回：成熟動物への環境の影響

第6回：暑熱・寒冷の動物への影響

第7回：放射線が動物に及ぼす影響

第8回：環境中化学物質が動物に及ぼす影響 1

第9回：環境中化学物質が動物に及ぼす影響 2

第10回：畜産が環境に及ぼす影響

第11回：畜産の環境保全への寄与

第12回：プレゼンテーション②

第13回：プレゼンテーション②

第14回：期末試験と解説

その他、動物トピック

*講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

本講義を履修前、または同時期に、動物行動学などの動物関連の科目を履修していることが望ましい。環境と動物、そしてヒトの関心に興味を持ち、畜産の将来像について考えてほしい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業前にOh-o! Meijiより配布資料をダウンロードし読むこと。授業の後には授業内容を参考書等も用いて理解しなおすこと。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『最新畜産学』水間豊ら 著（朝倉書店）

『脳とホルモンの行動学』近藤保彦ら 著（西村書店）

『畜産環境保全論』押田敏雄ら 著（養賢堂）

『奪われし未来〈増補改訂版〉』T. Colbornら 著 長尾力ら 訳（翔泳社）

『銃・病原菌・鉄』J. Diamond 著 倉骨彰 訳（草思社文庫）

『文明崩壊』J. Diamond 著 楡井浩一 訳（草思社文庫）

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8. 成績評価の方法

毎回簡単な意見発表を行い（15%）、プレゼンテーション①では動物環境学に関連する新聞記事の紹介を行い（15%）、プレゼンテーション②では課題について自分の意見を発表し（20%）、学期末試験（50%）を行い合計したものを評価とする。

9. その他

動物環境学研究室（5号館5階502号室）

オフィスアワー：講義終了後10分。

科目ナンバー (AG) AGR361J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
動物生産制御学

2017～2021年度入学者
動物生産制御学

2 単位

佐藤礼一郎

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標およびテーマ》

産業動物とヒトとの関係、産業動物を取り巻く情勢や特性を理解するとともに、生産の原点である「健康な産子を元気に育てる」ことから「安全な生産物を得る」までを理解し説明できることを目標とする。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

《授業の概要》

産業動物（主に牛）についてライフサイクルや飼養管理方法、飼養管理失宜に起因する疾病、生産物利用について概説し、産業動物についての理解醸成を計る。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション（産業動物という動物について）
- 第2回：産業動物を取り巻く情勢
- 第3回：産業動物の特徴（解剖・生理・代謝）
- 第4回：豚とニワトリのライフサイクルと生産
- 第5回：肉用牛と乳用牛のライフサイクル
- 第6回：肉用牛の栄養管理と行動管理
- 第7回：肉用牛の衛生管理と疾病管理
- 第8回：乳用牛の栄養管理と行動管理
- 第9回：乳用牛の衛生管理と疾病管理
- 第10回：生産物の認証制度（HACCPとGAP）
- 第11回：畜産分野における環境負荷と対策
- 第12回：アニマルウェルフェア（動物福祉）
- 第13回：バイオセキュリティ
- 第14回：総括と試験

3. 履修上の注意

動物関連の科目を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

持続可能な開発目標（SDGs）について理解し、SDGsと畜産について自分なりの意見や考えを持っておく。授業後は参考書等を用いて理解の醸成を促がす。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

- 『乳牛管理の基礎と応用』 柏村文郎他著（デーリィ・ジャパン社）
- 『新しい子牛の科学』 家畜感染症学会編（緑書房）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点 50%（授業参加度）、課題レポート 40%および定期試験 10%により評価を行う。

9. その他

連絡先：
佐藤 礼一郎
宮崎大学農学部獣医学科 産業動物内科学研究室
r-sato@cc.miyazaki-u.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGR261J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
動物感染症学

2017~2021 年度入学者
動物感染症学

2 単位

大竹聡

1. 授業の概要・到達目標

動物関係の科学を志向する学生が免疫・病原微生物・感染症の基礎メカニズムを理解し、それを幅広く応用できる考察能力を身につける。

動物の健康に影響を及ぼす病原微生物、宿主の免疫機能、発症機序などについて理解を深める。担当者の海外研究・民間獣医療コンサルティングの経験・人脈を生かし、学生が産業界と直結した知識・技術を学べる場としたい。グループで課題に取り組みディスカッションを行うことで、学ぶことの楽しさを重視する。日本語および英語の文献・ウェブを利用した自主リサーチ能力を身につける。農学科食料生産・環境コースにおいては、学習・教育目標の C・D に対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：導入：動物感染症学とは

第2回：宿主の免疫 I：免疫学概論

第3回：宿主の免疫 II：非特異性免疫・液性免疫・細胞性免疫

第4回：宿主の免疫 III：免疫性疾患

第5回：課題グループ・ディスカッション1

第6回：病原体 I：微生物学概論

第7回：病原体 II：真菌・細菌・ウイルス・その他

第8回：病原体 III：感染症の病理発生機所

第9回：課題グループ・ディスカッション2

第10回：感染症の発症要因 I：概論

第11回：感染症の発症要因 II：ストレス、栄養、環境、その他

第12回：動物感染症の現在と将来 I：予防獣医療 (Preventive Veterinary Medicine) と群獣医療 (Population Veterinary Medicine) の考え方

第13回：動物感染症の現在と将来 II：疾病伝播 (Disease Transmission) と疾病防疫 (Biosecurity) の考え方

第14回：課題グループ・ディスカッション3

3. 履修上の注意

毎回の授業での配布資料がテキストとなるので、授業には必ず出席すること。細かい暗記作業は極力要求しない。グループで課題に取り組みディスカッションを行うことで、応用の効く考察能力を習得し、知的刺激を得ることの楽しさを知って欲しい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

日本語および英語の文献・ウェブを利用した自主リサーチ能力を身につける。強い自主性と好奇心旺盛な姿勢が望ましい。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出されたファイナルレポートに対して、講師からのコメントを Oh-o! Meiji にてフィードバックする。

8. 成績評価の方法

平常点 (50%)。課題ディスカッション・レポートを3回提出する (25%)。ファイナルレポート提出 (25%) を行う。それらを合計したものを最終評価とする。

9. その他

12月下旬に3日間実施。2024年は12/26、27、28を予定、詳細決定次第シラバスの補足に記載していきます。コンタクトはEメールで (satoshiotake@swext-consulting.co.jp)。

科目ナンバー (AG)AGR351J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
農村計画学

2017～2021年度入学者
農村計画学

2 単位

服部俊宏

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生産基盤や環境の整備を実現するためには、いつ、だれが、どこを、どのように、整備や管理をするのかといったことを考え、社会的な合意として決定する必要がある。計画は、それを実現するための技術である。本科目では、地域の課題を明らかにした上で、その解決のために必要な技術を明らかにする。対象とする地域は、既成市街地を除いた都市近郊から中山間地域までである。

《授業の達成目標》

だれがどのように地域環境の保全と利用を図るべきかを考えられるようになるとともに、計画のあり方、計画の実現手段などを理解することを到達目標とする。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のD・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション
- 第1回 b: 農村計画とは何か
- 第2回: 農村地域の鳥獣害対策
- 第3回: 農村地域の防災・減災と復興
- 第4回: 農村と感染症パンデミック
- 第5回: 農村のコミュニティ再生
- 第6回: 農村景観の形成と保全
- 第7回: 都市農村交流と農村ツーリズム
- 第8回: 農村の土地利用計画
- 第9回: 農村の土地利用計画
- 第10回: 農業構造と農地の再編
- 第11回: 農業の生産基盤整備
- 第12回: 農村を支える政策的対応
- 第13回: 住民参加と合意形成、計画の策定手順
- 第14回: 計画策定技術

3. 履修上の注意

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書・参考書の該当部分を事前に読んでおくこと。教科書・参考書は授業中の使用より、準備学習での使用を念頭に指定している。

不明な部分がないかを確認し、ある場合は次回講義終了まで質問をする等で解決すること。

5. 教科書

シリーズ〈地域環境工学〉『農村地域計画学』渡邊紹裕・星野敏・清水夏樹 編著 朝倉書店
(予習・復習での利用が中心。授業中に関連する図表を参照することもある)

6. 参考書

『改訂農村計画学』改訂農村計画学編集委員会 農業土木学会

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストは翌週の授業中ないし Oh-o! Meiji にて解説ないしコメントを配信する。期末試験は Oh-o! Meiji にて解説を配信する。

8. 成績評価の方法

各回の小テスト 70%、学期末試験 30%により評価する。

9. その他

地域環境計画研究室（4号館2階 214A 研究室）
オフィスパワーは、木曜日 12:30～13:20

科目ナンバー (AG) AGR351J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
応用水理学

2 単位

小島信彦

2017～2021年度入学者
応用水理学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

応用水理学では、開水路や管水路の実際の設計において必要とされる設計方法を学び、それらを基に実際の水路はどうあるべきかについて考える。水理学で学んだことを基にして、実際のパイプラインや開水路、水利構造物の設計に必要な基礎事項について講義する。

《到達目標》

水利構造物について簡単な水理設計ができるようになることを目的とする。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：水理学の講義内容の復習

第2回：管水路の損失水頭

第3回：摩擦以外の損失水頭

第4回：管径が異なる場合の損失水頭

第5回：サイホンと伏越し

第6回：水車とポンプ

第7回：管径の決定方法

第8回：複断面水路

第9回：等流推進

第10回：限界水深

第11回：刃形堰

第12回：運動量の法則

第13回：広頂堰と跳水

第14回：まとめ

※理解度によって内容を変更することがある。

3. 履修上の注意

水理学を履修し理解を深めておくこと。生産環境学・農地工学・農学実験VIを履修することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回宿題を出すので決められた期日までに必ず提出すること。

5. 教科書

とくに定めない。

6. 参考書

多くの水理学の教科書が出版されているので手に取って、自分に合ったものを見つけてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出日の次の授業で解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期末試験（70%）および復習の宿題（毎回）（30%）により評価する。宿題の提出が7割に満たない場合は評価の対象としない。

9. その他

水資源学研究室（4号館3階304A号室）

オフィスパワー：水曜日 12：40～13：20

科目ナンバー (AG)AGR351J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 土壌物理学	2 単位	登尾浩助
2017～2021年度入学者 土壌物理学		

1. 授業の概要・到達目標

講義では、土地を持続的利用可能な資源として取り扱う際に基礎となる土壌中の水のエネルギー状態、水分・溶質の移動、および土壌水分と作物生育の関係について解説する。受講生は、パソコン上で動作する汎用有限要素解析アプリを利用したシミュレーションモデルを使って、土壌中における水・溶質移動に対して土壌や溶液の性質が及ぼす影響に対する理解を深める。

受講生は、学期中に学習する土壌の物理的な性質と土壌中における水分・溶質・熱移動の知識を使って、学期末には水資源保全、地下水汚染防止、作物の水管理等にどのように適用できるかを説明できるようになる。

農学科、環境緑地・生産環境関係の専攻科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：土壌の物理性・化学性
- 第2回：土壌の保水性
- 第3回：飽和土壌中の水分移動
- 第4回：不飽和土壌中の水分移動
- 第5回：土壌中の水分移動方程式（リチャーズ式）
- 第6回：移動方程式の解法
- 第7回：水分移動シミュレーション解説
- 第8回：水分移動のコンピュータシミュレーション演習
- 第9回：土壌中の溶質移動
- 第10回：溶質移動シミュレーション解説
- 第11回：溶質移動のコンピュータシミュレーション演習
- 第12回：土壌中の熱移動
- 第13回：土壌中のガス移動
- 第14回：土壌水分の測定法

3. 履修上の注意

履修に際しては、「土壌学」と「数学概論」・「数学基礎」が履修済みか同等程度の知識があることが望ましい。教室外では、コンピュータの操作と表計算ソフトの取り扱いに習熟すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の講義前に教科書（配布物）の該当箇所を読み、講義後には自分のノートを読み返して理解を深めること。必要に応じて参考図書を読んだり、ネット検索をすることをお勧めする。

5. 教科書

『土壌物理学』実践土壌学シリーズ4 西村拓（朝倉書店、2019年）

6. 参考書

- 『土壌物理学』ウィリアム・ジュリー＋ロバート・ホートン著（筑地書館、2006年）
- 『土壌物理学』宮崎毅・長谷川周一・粕淵辰昭著（朝倉書店、2005年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

成績は、学期末試験 80%、小テスト 10%、レポート 10%で評価する。

9. その他

オフィスアワー
 金曜日 12:30～13:30
 土地資源学研究室（4号館2階 215A室）
 電話：044-934-7156
 E-mail: noboriok@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGR251J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
構造力学

2017～2021年度入学者
構造力学

2単位

小林大樹

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標》

ダムや水路、橋梁などの農業生産を支える様々な構造物を設計するためには、対象が受ける外力のもとで、構造物内部にはたらく力と構造物の変位や変形を求める必要がある。

本講義では構造物を設計するために必要な諸量の計算手法を習得することを目標とする。

《授業の概要》

構造力学では、はりのたわみ、トラス構造物の解析、柱の解析について学び、続いて不静定構造物の解析方法について講義する。

食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション、支点反力と応力

第2回：はりのたわみ

第3回：たわみ曲線の求め方

第4回：はりの設計

第5回：トラスの解析

第6回：柱の強度と設計

第7回：柱の強度（短柱）

第8回：柱の強度（長柱）

第9回：要点整理

第10回：不静定構造物とは（構造物の安定・不安定）

第11回：静定基本系を用いた解析方

第12回：たわみ角法公式の導出

第13回：たわみ角法を用いた解法

第14回：まとめ

3. 履修上の注意

「応用力学」を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、講義予定項目について教科書の該当部分を読んでおくこと。また講義後は講義内容について整理し、課題に再度取り組むこと。

5. 教科書

『基礎から学ぶ構造力学』藤本一男他（森北出版）

6. 参考書

『構造力学 上・下』崎本達郎（森北出版）

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業の最後に演習問題を課題として与える。

課題のフィードバックは次回の授業にて行う。

8. 成績評価の方法

平常点（授業参加・貢献度、課題提出） 30%

定期試験 70%

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する

連絡先 (mail)：最初の講義で示す

科目ナンバー (AG)AGR351J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
材料施工学

2017～2021年度入学者
材料施工学

2単位

鈴木哲也

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農業生産には水路や頭首工といった水利施設による水と土地の資源化が必要である。本講義では、食料生産に必要な農業水利施設の建設方法とその構築材料について理解することを目標とする。具体的には、農業水利施設とはどのようなものであるかを実例によって理解する。そのことを前提に、環境保全を考慮した建設計画・設計方法を講述する。具体的事例では、水資源施設を取り上げ、建設に要する基礎的技術を知り、建設すべきか否かを議論するために必要な自然との調和や維持管理に必要な条件を考え、建設と環境のバランスを総合的に論じられる能力を修得することを目指す。達成目標：〈1〉水資源システムの構成と役割、〈2〉建設材料の特性と非破壊検査、〈3〉基盤施設の環境との調和とその構築法を修得し、説明できることを達成目標とする。食料生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目である。

《授業の概要》

第1回～3回の授業は、水資源システムを事例に基盤施設の構成と構築方法、建設材料に関して概説する。第4回～7回は、建設材料について講述する。第9回～12回は、基盤施設の施工法について講述する。第8回と13回は事例研究を紹介し、講義内容の理解と定着を促す。

2. 授業内容

- 第1回：総説(1)「食料生産に関わる農業水利施設の構築と地球環境問題」について講述する。
- 第2回：総説(2)「基盤施設の各種施工法」；食料生産に関わる農業水利施設の建設方法を概説する。
- 第3回：総説(3)「建設材料の特性」；農業水利施設に用いられる建設材料の種類と特性について概説する。
- 第4回：建設材料(1)「延性材料」；金属と木質材料を中心に延性材料の特性を講述する。
- 第5回：建設材料(2)「脆性材料」；セメント材を中心に脆性材料の特性を講述する。
- 第6回：建設材料(3)「品質評価」；建設材料の試験法と規格を講述する。
- 第7回：建設材料(4)「材料劣化現象」；建設材料の劣化現象の種類とその非破壊検査法を講述する。
- 第8回：事例研究；実際の構造物の劣化現象を紹介し、農業水利施設の保全・更新方法を講述する。
- 第9回：施工(1)「基礎工」；農業水利施設を構築する際に行われる基礎工(地盤工を含む)について講述する。
- 第10回：施工(2)「コンクリート工」；コンクリート工について講述する。
- 第11回：施工(3)「工程管理」；農業水利施設の構築プロセスでの工程管理方法について講述する。
- 第12回：施工(4)「施工計画」；工程管理を踏まえた施工計画について講述する。
- 第13回：事例研究；歴史的建造物の保全・再生事例を取り上げ、建設施工技術の現状と課題を講述する。
- 第14回：事例研究；農業水利施設のストックマネジメント事例を解説する。
- 第15回：まとめ；第1回～14回の講義内容を概観し、今日残されている課題を概説する。

3. 履修上の注意

- ・履修の前提科目・同時履修が望ましい科目：なし
- ・授業前後にすべき事項：予習復習は必須。前回の授業を前提に講義を進める。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

- ・授業を受講する前に前回授業の内容を十分に復習すること。
- ・特に、専門用語や演習問題は事前に確認し、受講時に十分な理解が各自で進むように努力すること。

各回のキーワード

- 第1回：SDG's, 農業用水, 農業農村整備事業, 地球環境と食料問題, グリーンインフラ
- 第2回：基盤施設, 建設, 施工管理, 公共性
- 第3回：建設材料, 材料科学, 物性, 有機材, 無機材
- 第4回：延性材料, 金属材料, 木質材料, 応力ひずみ曲線
- 第5回：脆性材料, セメント系材料, コンクリート, 土質材料
- 第6回：品質評価, JIS, ISO, 非破壊試験
- 第7回：材料劣化現象, 損傷, 腐食, 寿命評価
- 第8回：コンクリート水利施設, 劣化現象, 保全・更新
- 第9回：施工, 基礎工, 地盤工学, 杭工, 擁壁工
- 第10回：施工, コンクリート工, コンクリート2次製品, ひび割れ, 補修・補強
- 第11回：施工, 工程管理, ネットワーク, クリティカルパス
- 第12回：施工, 施工計画, 工程管理, 安全管理
- 第13回：歴史的建造物, 農業水利の歴史, 保全・再生事業, 文化財
- 第14回：農業水利施設のストックマネジメント, 非破壊検査, UAV
- 第15回：まとめ；上記第1回～14回の講義内容まとめ

5. 教科書

『建設材料(環境・都市システム系教科書シリーズ)』中嶋 清実, 菅原 隆, 角田 忍(著), コロナ社

6. 参考書

- 『社会基盤メンテナンス工学』土木学会メンテナンス工学連合小委員会(編著), 東京大学出版会
- 『機能保全における性能設計入門』, 農業農村工学会
- 『マテリアルの力学的信頼性-安全設計のための弾性力学-』, 榎学著, 内田朗鶴園
- 『農業用鋼矢板水路の腐食実態と長寿命化対策-補修・補強・更新への性能設計-』, 鈴木哲也 他(編著), 養賢堂

7. 課題に対するフィードバックの方法

レポート等を提出した場合は、添削した後に返却する。

8. 成績評価の方法

定期試験 60%およびレポート 40%（2回；講義第8回と第13回に提示）により総合評価。2/3以上の出席を要す。

9. その他

オフィスアワーは出講日とする。

出講日以外に質問等がある場合は E メールにて受け付ける。

メールアドレスについては授業時に提示する。

科目ナンバー (AG)AGR351J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 農業水利学	2 単位	小島信彦
2017～2021 年度入学者 農業水利学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

「水」は人類のみならず、地球上のあらゆる生物にとって欠けがいのない資源であり、適切な水循環を維持していくことは非常に重要である。人間の水利利用と降雨などによる自然の水供給、生態系とのバランスに配慮した持続的な水利利用を念頭に置き、農業用水を中心に、水資源と水利利用、水利施設、水文循環について講義を行う。本科目は食糧生産・生産環境の両方に関わる専門科目である。

《到達目標》

農業水利学では、これからの農業用水の適切な利用について考えるための基本事項を身につけることを目的とする。食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA・D・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：水資源開発の現場から
- 第2回：世界の水資源量と国際河川
- 第3回：世界の水使用量とアジア・モンスーン地域
- 第4回：日本の水資源量と使用量
- 第5回：水資源開発
- 第6回：農業用水の課題
- 第7回：貯水池・ダム構造
- 第8回：ダムの問題点
- 第9回：頭首工
- 第10回：水路工
- 第11回：流出解析手法1 洪水流出解析
- 第12回：流出解析手法2 長期流出解析
- 第13回：今後の水資源開発 渓流取水工
- 第14回：まとめ 農業水利施設整備に必要な要素

※新しいトピックに触れるために授業内容が前後することがあります。

3. 履修上の注意

「水」なしには農業は成立しないので、生産を支える基礎分野であるとの意識を持って講義に参加することを望む。

「生産環境学入門」「農地工学」を履修していることが望ましい。また「水理学」「応用水理学」「土壌物理学」「材料施工学」「農村計画学」「農学実験VI」等を履修し、理解を深めてほしい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

水に関するニュースはチェックしておくこと。また、講義中に示された事例については自分で調べて確認しておくこと。レポートには真剣に取り組むこと。

5. 教科書

とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

6. 参考書

- 『水危機 ほんとうの話』 沖大幹 著 新潮選書
- 『地域環境水文学』 田中丸治哉 他著 朝倉書店

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に課したレポートについてはその内容に該当する授業の際に解説を行う。

8. 成績評価の方法

学期末試験（50%）およびレポート（50%）により評価する。

9. その他

水資源学研究室（4号館3階304A号室）
 オフィスアワー：水曜日 12：40～13：20

科目ナンバー (AG) AGR251J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
測量学Ⅱ

2単位

佐藤直人

2017～2021年度入学者
測量学Ⅱ

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

測量は、地面上の諸点の位置情報を取得・処理・記述するための技術であり、国土の利用に必須のものである。

測量学Ⅱでは、測量学Ⅰで学んだことが具体的な対象の中でどのように用いられるか理解することに加えて、先端デジタル技術による空間情報データの取得技術や理論等について理解することを目的とする。

《授業の概要》

測量学の新しい概念である空間情報工学を取り扱う。

空間情報工学の先端技術として全地球測位システム、リモートセンシング、地理情報システム、デジタル写真測量について学ぶ。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のDに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション、数値地図の取り扱い

第2回：GISの概要

第3回：空間分析

第4回：リモートセンシングの概要

第5回：リモートセンシングの基礎

第6回：リモートセンシングデータの処理・解析

第7回：地球の形と座標系

第8回：基準点測量

第9回：GNSSの概説（単独測位）

第10回：GNSS測量（ディファレンシャル測位）

第11回：GNSS測量（スタティック測位、キネマティック測位）

第12回：GNSS測量（RTK測位）

第13回：デジタル写真測量

第14回：要点整理

3. 履修上の注意

測量学Ⅰを履修していることが望ましい。

測量実習Ⅱを合わせて履修することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業後は、講義内容について整理し、授業で扱った課題に再度取り組むこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

『改訂版 空間情報工学概論』近津博文他，日本測量協会

『基礎測量学』長谷川昌弘他，電気書院

『エース測量学』福本武明他，朝倉書店

『図説わかる測量』猪木幹雄他，学芸出版社

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業で取り扱った課題は回答期間の終了後、Oh-o!Meiji で解答および解説を公開する。

8. 成績評価の方法

定期試験 70%、平常点（課題提出などを含む） 30%

9. その他

オフィスアワー：月曜日 12:30～13:20（6号館4階6-402）

連絡先（mail）：n_sato@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGR255J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
測量実習Ⅱ

2017～2021 年度入学者
測量実習Ⅱ

1 単位

服部俊宏

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

パソコンを使用して、ジオインフォマティクスに関するデータの取り扱い、ソフトウェアを利用した解析に関する実習を行う。また、測量シミュレータソフトを活用し、測量実習Ⅰの内容の定着を図る。

《授業の達成目標及びテーマ》

本科目では、地理情報システム（GIS）とリモートセンシング（RS）を用いた空間情報の収集・解析技術に関して理解すること、測量結果の処理と製図・読図の基礎を理解すること、測量の社会的役割を理解することを到達目標とする。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のDに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 a：イントロダクション b：実習環境の確認

第2回：水準測量（シミュレータ：往復法）

第3回：水準測量（シミュレータ：結合方式）

第4回：トラバース測量（シミュレータ：単測法、倍角法）

第5回：GIS（属性情報の表示と検索・空間分析）

第6回：GIS（数値地図の利用とファイル交換）

第7回：GIS（COVID-19 感染リスクの解析）

第8回：リモートセンシング（土地被覆分類その1）

第9回：リモートセンシング（土地被覆分類その2）

3. 履修上の注意

測量実習Ⅰの履修が終了していること。

測量学Ⅱを合わせて履修すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、測量学Ⅰ・Ⅱ、測量実習Ⅰに関連する授業の復習をしておくこと。

復習として、不明な部分がないかを確認し、ある場合は次回講義終了まで質問をする等で解決すること。

5. 教科書

『空間情報工学概論』近津博文他 日本測量協会

6. 参考書

実習中に適宜紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にてコメントを配信する。

8. 成績評価の方法

実験への参加態度 30%、レポート 70%とする。

ただし、出席日数が 2/3 に満たないものは評価の対象としない。

9. その他

地域環境計画研究室（4号館2階214A研究室）

オフィスアワーは、木曜日 12:30～13:20

科目ナンバー (AG) IND311J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
プロジェクト計画法

2017~2021 年度入学者
プロジェクト計画法

2 単位

服部・久野

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

問題解決と合意形成の能力を養うためには、問題解決のための適切な手法を習得することが有効である。そこで、ODA（政府開発援助）の分野で、実施官庁・NGO が用いているプロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）手法を、演習事例を用いて説明する。本手法は、課題抽出から企画策定・発表に至る一連の技術である。

《授業の到達目標》

現状を分析して問題相互の関係を整理し、問題解決のためのプロジェクト（企画）を立案する技術の習得を目標とする。具体的には、手法説明と、開発事例を用いた演習により、問題解決のためのプロジェクト（企画）を立案する。

農学科専攻科目群の応用科目で、食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標の F・G・H に対応する科目である。

2. 授業内容

第 1 回 a：イントロダクション

第 2 回：PCM の概要

第 3 回：事例事業の概要

第 4 回：関係者分析

第 5 回：問題分析①（問題分析の方法）

第 6 回：問題分析②（問題分析の実際）

第 7 回：目的分析①（目的分析の方法）

第 8 回：目的分析②（目的分析の実際）

第 9 回：プロジェクトの選択

第 10 回：PDM の概要

第 11 回：PDM 作成について①（作成の方法）

第 12 回：PDM 作成について②（作成の実際）

第 13 回：プレゼンテーションの準備・実際

第 14 回：関連手法の紹介（ワールドカフェ、オープンスペーステクノロジー）

3. 履修上の注意

生産環境学入門と農村計画学を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の関連する部分を読んでおくこと。

不明な部分がないかを確認し、ある場合は次回講義終了まで質問をする等で解決すること。

5. 教科書

1) PCM Tokyo : 「PCM ハンドブック（日本語版）」、

[url]http://www.pcmtokyo.org/modules/tinyd2/index.php?id=5[url]（ダウンロード）

6. 参考書

1) 国際開発高等教育機構：「PCM 開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネジメント 参加型計画編」、国際開発高等教育機構、2007

2) 香取一昭、大川亘：「ワールドカフェをやろう！会話がつながり、世界がつながる」、日本経済新聞出版社、2009

3) 香取一昭、大川亘：「ホールシステム・アプローチ 1000 人以上でもとことん話し合える方法」、日本経済新聞出版社、2011

4) 關谷武司、大迫正弘、三好崇弘：「グローバル人材に贈る プロジェクトマネジメント」、関西学院出版会、2013

7. 課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションは実施した授業の中で講評を実施する。レポートは Oh-o! Meiji でコメントを配信する。

8. 成績評価の方法

授業への参加態度（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）による。

9. その他

オフィスアワー

服部 地域環境計画研究室（4号館2階214A研究室）木曜日 12:30~13:20

久野 最初の講義で案内する

学部間共通総合講座

課題の『発見』『解決』のためのデザイナープロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）を学ぶ—

を過年度履修した者については、本講義の履修を認めない。

科目ナンバー (AG) ENV321J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生物多様性再生学

2 単位

岡田久子

2017～2021年度入学者
生物多様性デザイン学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物多様性再生学は、生物多様性の保全と再生が求められている現代において、その基礎となる考え方と具体的な手法を学ぶ学問である。生態学と緑地学の境界領域であり、生態学的な学問の体系的な理解と、実務における基本的な技術の習得を目標とする。

生物多様性保全・再生の実務から学ぶことをテーマとする。

《授業の概要》

生物多様性再生学では保全生態学と景観生態学を基礎として、現実の世界で取り組まれている多様な事例を取り上げ、さらに事例の組み合わせとしての地域づくりについて述べる。

食糧生産・環境コースにおいては学習教育目標のB・C・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回 生物多様性再生学の基礎—「景観論」

第2回 環境ポテンシャル

第3回 目標とする自然

第4回 エコロジカルネットワーク

第5回 インパクトと反応

第6回 里山の環境の成り立ち

第7回 人とみどりの空間

第8回 多自然河川工法と礫河原生態系の再生

第9回 里山の保全と再生

第10回 ミティゲーション

第11回 生きものと人間の関係

第12回 生物多様性地域戦略を生かす

第13回 緑の基本計画の活用

第14回 多様な生きものと共存する未来

3. 履修上の注意

身の回りには、生物多様性再生学にかかわるさまざまな社会的活動が存在する。アンテナを伸ばしそれらの活動から学んでほしい。

授業科目としては、緑地学入門、保全生態学、緑地管理学と関連する科目である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、講義内容に関係した課題を提示するので提出すること

5. 教科書

亀山章監修 倉本宣・佐伯いく代編「新版生態工学」朝倉書店 (2021)

6. 参考書

「生態工学」朝倉書店 亀山章編 (2002)

「保全生態学入門」文一総合出版 鷺谷いづみ他 (1996)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学期末レポート 85%、平常点（小課題などの提出物）15% により評価する。

欠席が5回を超える場合は、学期末レポートを受けつけない。

9. その他

オフィスアワー 授業前後1時間（農学部2号館講師控室、または4号館4-213A）

メールアドレス hokada@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGR381J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ランドスケープ工学	2 単位	人見誠マルセール
2017～2021年度入学者 緑地工学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本講義では、現代社会における緑地空間の役割や要求に応える実務を軸として、緑地・造園技術について学ぶことを目的としています。ただ緑を増やすのではなく、誰のための緑地なのか、なぜ緑地空間の創出を行うのかを考えるには、技術として緑化に関する知識を得るだけでなく、哲学的な背景をも含め、社会的背景や時代の移り変わりと共に変化する緑の価値、そして根源にある人々と空間との関わりについても俯瞰する視野をもつことが重要である。

講義の軸として、理論編と設計編を設定し、前半の理論編では緑地の在り方について理解することを目指す。設計編では造園・設計を志す者として求められる各工種の考え方と技術について実務・図面等を用いつつ講義を行う。講義の後半では、実際の設計業務の流れをなぞった緑地工学の実践について学ぶ。講義の最後にはアクティブ・ラーニングの要素として演習で実施することで講義全体を通じ、緑地を扱う人材に求められる視野と技術についてその基本的技術の習得を目指す。

食糧・環境コースにあつては学習・教育目標のE・Dに対応する科目。

《授業の概要》

講義の前半は理論編として、緑地工学の成り立ちと社会に対して果たす役割について学ぶ。

緑地を含めた景観の価値について、人々の生活によって成り立っていた風景から、意図的な眺めを作る目的で発展してきた技術と価値観の変容、公共空間での緑の価値について取り上げる。また、場の賑わいと緑の在り方、緑地工学の技術的貢献の場として動物園を事例として緑地の在り方について学ぶ。

設計編では、実際の設計業務を軸として緑地工学と関連する種々の技術について学ぶ。

公園設計事例を用いて、緑地空間を成立させるための関連技術および緑地工学の役割について理解する。

演習では、理論編で学んだ緑地の意義・価値と設計編での技術的手法を下に、空間計画・積算についての演習を行うことで、緑地工学という学術分野を用いて社会的需要に対応した提案手法についての必要最低限の知識を得ることを目指す。

2. 授業内容

第1テーマ「緑を創るということ」

1 コマ目：緑の価値と表象

2 コマ目：風景と景観から読み解く緑の価値：日常の実践

3 コマ目：眺めの創出の歴史 ランドスケープと技術的蓄積

第2テーマ「公共空間における緑の在り方・関わり方」

4 コマ目：モダンランドスケープから見る緑地の価値の変遷

5 コマ目：公共空間における緑と場所の価値

6 コマ目：賑わいと緑地～公園と指定管理まで

第3テーマ「公共空間の作られ方」

7～9 コマ目：公共空間の設計について 設計実務を参考に

第4テーマ「動物園にみる緑地の在り方」

10～12 コマ目：動物園における緑地工学の役割と考え方

13 コマ：まとめ

14 コマ：演習課題

※講義内容は必要に応じて前後・変更となる場合があります。

3. 履修上の注意

集中講義日程にて、各日3コマ講義を実施します。

最終講義時間内に演習課題に取り組んで頂きます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

単純に緑を増やすことが良しとされる時代は終わり、価値観が多様化・複雑化した現代社会に対して、何のために緑を増やすのか、誰のために緑を使うのかを理解しておくことが、緑を増やす（＝緑地工学）の技術を用いることの根拠となります。

日頃から、「なぜ？」という問題意識をもって自分の好きな緑空間や公園、日常的な生活の場での緑のなどに目を向けておくと良いと思います。

5. 教科書

必要に応じて講義前にプリントの配布、PDFデータのアップロード等を行う。

6. 参考書

風景という知：近代のパラダイムを超えて オギユスタン・ベルク

他、適宜講義内にて出典とともに伝えます。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

講義内での小課題（20%）とレポート（80%）で評価する。

9. その他

オフィスアワー

- ・集中講義日に対応いたします。

科目ナンバー (AG)AGR381J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
景観園芸学

2017～2021年度入学者
景観園芸学

2単位

豊田正博

1. 授業の概要・到達目標

人と植物の関わり、景観の構造、植物や園芸の特性とそれらを活用したまちづくりなどについて、事例紹介や課題の発表、ディスカッションを通して理解を深める。植物や自然を取入れたバイオフィリックデザイン、緑を活用した健康づくりと関連する園芸療法についても解説する。人と自然・植物の関係を理解し、自然と調和し、かつ人々が健康に暮らせる生活環境の創造について考える力を養う。食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC、Dに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：景観園芸とは
- 第2回：人と植物の関わり
- 第3回：景観の構造と緑の役割
- 第4回：わがまちの景観の今 発表
- 第5回：わがまちの課題（1） 発表
- 第6回：わがまちの課題（2） 発表
- 第7回：植物や自然がもたらすストレス回復と構内の癒しの環境調査
- 第8回：バイオフィリックデザイン
- 第9回：脳のはたらきと園芸療法の癒し
- 第10回：子供や母親のための公園の活用
- 第11回：高齢者のための庭・公園の活用
- 第12回：地域における緑の活用事例
- 第13回：わがまちにおけるみどりの活用
- 第14回： a:まとめ b:試験

3. 履修上の注意

集中講義です。講義初日までに準備学習が必要です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習課題：あなたが住むまち（ふるさと可）の、下記情報①②③について、各市町村HP、町史資料等から事前に資料を集める。

その資料をもとに、要点を箇条書きにして初日の授業に臨むこと。（授業ではあなたが住むまちについて集めた資料をもとに発表する。

要点はA4用紙2～3枚にまとめる。要点の提出は最終日とする） ネット検索の場合は、情報源URLも記録しておく。

- ①自然（気候、環境など）、歴史・文化（祭・行事など）
- ②緑に関するまちづくりの施策・計画
- ③近隣公園・緑地などの活用事例

5. 教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

6. 参考書

『自然をデザインする』 レイチェル・カプラン他著、羽生和紀監訳（誠信書房）2400円+税

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける

8. 成績評価の方法

事前課題（50%）、および試験（50%）で評価を行う。

9. その他

所属先：兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科
兼務先：兵庫県立淡路景観園芸学校 園芸療法課程

科目ナンバー (AG)AGR381J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ランドスケープエコロジー	2 単位	ホーテスシュテファン
2017~2021年度入学者 緑地環境学		

1. 授業の概要・到達目標

ランドスケープエコロジーにおいては、生物と環境の相互作用が生み出す広域的なパターンを分析する。森林や草原、湿地などに構成される自然のランドスケープを我々人間が大きく変えて、里地・里山など伝統的な農村環境から集約的な資源生産のために整備された植林や農地、水産業や運搬のために改変された水辺までが広く分布する。近年は、世界的に人口が都市に集中するようになって、都市的ランドスケープや「シティスケープ」も注目を集めている。これらのパターンとその変化を引き起こすプロセスの理解は、持続可能な土地利用を計画的に進める上で必要不可欠である。

ランドスケープの主要な概念と用語について整理し、世界や日本の代表的なランドスケープの地形や地質、気候や水文条件などについて確認し、植生や植物群落、生物群集について把握する。土地利用・土地被覆と水循環や炭素、窒素の循環、地域のエネルギー収支の関係について最新の研究成果を確認する。ランドスケープに関する分野横断的な知見がどのように政策や計画の立案に活用されるか、基礎研究の成果の応用について考察する。

農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のD・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

- [第1回] ランドスケープエコロジーの概念
- [第2回] ランドスケープエコロジーの主要な研究方法
- [第3回] 地球規模のパターン
- [第4回] ヨーロッパのランドスケープ
- [第5回] アジア大陸のランドスケープ
- [第6回] 日本の植生
- [第7回] 森林の植物群落
- [第8回] 草原の植物群落
- [第9回] 湿地の植物群落
- [第10回] 里地・里山と近代的農村環境
- [第11回] 都市的ランドスケープ
- [第12回] 土地利用・土地被覆と物質循環
- [第13回] ランドスケープエコロジーと持続可能な発展
- [第14回] ランドスケープエコロジーを活かした土地利用計画

3. 履修上の注意

授業中質問したり、履修者同士で議論したりする時間を設ける。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

参考資料の内容について次の授業までに確認する。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

講義の都度紹介する

7. 課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業において課題に対して質問することによって理解度を確認する。不明な点について改めて説明する。

8. 成績評価の方法

平常点（40%）、レポート（期末1回、60%）

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR381J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ランドスケープ情報論	2 単位	齋藤馨
2017～2021年度入学者 自然公園論		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

自然公園の保護と利用について計画的視点に立ち今後の方向性を考究する。

《授業の概要》

自然風景計画の変遷を俯瞰することにより、風景の保護と利用の歴史的展開を国際的な位置づけの中で学ぶ。そして我が国の国立公園の成立から自然公園制度への進展にともなう環境と開発の関わりについて、国内全ての国立公園を事例にしながら考察し、景観の意義と基礎的知識について理解する。さらに景観アセスメントの考え方や手順を学び、景観予測、景観評価の技術、インターネットでの景観記録共有・評価技術を理解し習得する。
農学科食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のD・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

第1回：「自然公園概論」自然公園成立の基本である、自然風景論について風土、気候、民族による美意識、快適性や、造園学、計画的視点について理解する。

第2回：「風景計画の変遷」西欧及び我が国における自然風景計画について庭園様式を通じて各時代の特徴と変遷を解説し、庭園から公園への展開を理解する。

第3回：「自然風景と森林」自然景観の主要な要素である森林について、森林美学からサイバーフォレストの視点から解説し、森林の価値の最前線を理解する。

第4回：「風景の保護と利用」国立公園が成立する前後の自然風景に対する考え方について理解する。国立公園巡り（その1）

第5回：「国立公園の成立と自然公園体系」昭和初期の国立公園の成立から自然公園法による自然公園体系について理解する。国立公園巡り（その2）

第6回：「自然公園計画」保護計画、利用計画について解説し、生物多様性国家戦略などに対応した新たな自然公園の役割と制度について理解する。国立公園巡り（その3）

第7回：「景観把握の基礎」景観を把握するための基礎知識として、視知覚特性、認知心理学、アフォーダンスについて理解する。国立公園巡り（その4）

第8回：「景観解析と評価」視知覚特性などを基礎として嵐山の景観構成を解説し、景観の解析と評価手法を理解する。国立公園巡り（その5）

第9回：「環境アセスメントと景観アセスメント」環境基本法、環境影響評価法にともなって自然公園の景観がアセスメントの対象となることを理解する。国立公園巡り（その6）

第10回：「景観の記録と共有技術（1）」景観調査の基本となる景観記録と共有技術について理解し、習得する国立公園巡り（その7）。

第11回：「景観の記録と共有技術（2）」景観のライブモニタリングとアーカイブ技術「サイバーフォレスト」について理解する。

第12回：「エコツアーと参加型自然景観保全」エコツアーの状況を解説し、自然公園の新たな保護と利用となる参加型自然保全活動について理解する。

第13回：国立公園巡りのまとめ

第14回：総合的なふりかえり解説とまとめ

3. 履修上の注意

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するレジュメを振り返り、不明な点は授業で質問すること。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

日本の自然環境政策 自然共生社会をつくる 武内和彦・渡辺綱男 東大出版会

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

課題レポート10%、期末試験90%を総合して評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG) ENV391J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ランドスケープ活用学	2 単位	倉本宣
2017～2021年度入学者 緑地管理学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

公園や緑地の管理を越えて、人々とかかわりのあるあらゆる空間に視野を広げて、ランドスケープを活用する際に必要な考え方と技術、特に市民と行政の協働、合意形成技術、コミュニティ、コーディネート技術、環境教育、植生管理、リノベーションについて基本的な考え方と技法を見につける。広い範囲を扱うものの、基本になるのは自然科学的なものの見方であり、その上に人間性や社会があるという立場での講義である。

《授業の概要》

ランドスケープは、多義的な用語である。ここでは、異質な生態系の複合したヘテロな空間ととらえており、不特定多数の市民がかかわるものであり、その市民がどのようなかかわりをもつことでランドスケープが活性化し、活用できるのかを体験的に理解する。

食糧生産・環境コースにおいては学習教育目標のD・Eに対応する科目である。

2. 授業内容

- 第1回：ランドスケープとは何か、思い出の場所について考える
- 第2回：ランドスケープの特性
- 第3回：公園の安全安心—キャンパス近くの公園の問題点—使うだけからの脱却
- 第4回：植生管理—里山ボランティアと保全ボランティア
- 第5回：市民参加とコーディネーター
- 第6回：緑は量から質へ
- 第7回：身近な生物多様性を楽しむ
- 第8回：パークマネジメントと指定管理者制度
- 第9回：ランドスケープの中の公と民
- 第10回：市民科学—市民と専門家の協働によるモニタリング
- 第11回：環境教育—環境問題の根本的な解決のために
- 第12回：サイン—コミュニケーションのツール
- 第13回：ランドスケープとは自分にとってどのようなものか
- 第14回：パークから始める街のリノベーション

3. 履修上の注意

この授業は学生の主体的な参画によって成り立っているため、自覚を持って授業に出席してほしい。

特に、積極的に授業に参画する意欲を持って履修してほしい。

将来、緑地管理を仕事にする学生だけでなく、ランドスケープを中心に社会に対する眼を開くためにすべての学生に聞いてほしい授業である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業のプリントを1週間前に oh-o! Meiji に掲載するので、授業の前に目を通して、授業に参加してほしい。

授業の中で時間帯を定めて、アンケート機能を活用して、単純化した問題についての受講生の意見を整理し、授業の後半でいっしょに考える。

5. 教科書

特に定めない。プリントを配布する。

6. 参考書

- 『造園学概論』 亀山章監修、小野良平・一ノ瀬友博編集 全般について
- 『新版生態工学』 亀山章監修、倉本宣・佐伯いく代編集 植生管理について
- 『エコパーク』 亀山章・倉本宣編（ソフトサイエンス社）サインについて
- 『つながりひろがれ環境学習』 小野三津子（ぎょうせい）環境学習について

7. 課題に対するフィードバックの方法

オーメジのアンケート機能を用いて集めた意見を授業で解説する。

成績に関するレポートは、1回目の期日に提出されたものに対しては個別にコメントし、2回目提出されたものについては第14回の授業でコメントする。

8. 成績評価の方法

アンケートを利用した出席の把握によって、8回以上出席した学生を成績評価の対象とする。

成績評価は授業の際に指定する課題に対するレポートによる。

9. その他

応用植物生態学研究室（4号館2階213号室）

オフィスアワー：水曜日 12：45～13：15

E-mail: kura@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGR381J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
ランドスケープ設計学
2017～2021年度入学者
緑空間設計学

2単位

柳原博史

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

動植物と人間環境の関係性について、計画・設計という応用的観点から考え、あるべき緑地や身の回りの環境を探求します。

将来造園建設業において「造園施工管理技術検定」による技術者資格の取得を目指す学生、自然環境の保全・維持に関わる学生にも役立つ知識や考え方を講義します。

食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目です。

《授業の概要》

今年は、「生物多様性」と「デザイン（計画・設計）」について特に掘り下げて考えます。前半はテーマごとに発表を行い、後半は設計製図、デザインの練習を行います。

2. 授業内容

第1回 緑地を計画するとは？

第2回 日本庭園

第3回 西洋庭園

第4回 都市公園

第5回 自然公園

第6回 グリーン・インフラ

第7回 アクティビティ

第8回 遊び環境

第9回 モニュメント

第10回 屋上庭園・壁面緑化

第11回 植栽

第12回 設計の実践 その1

第13回 設計の実践 その2

第14回 ふりかえりとまとめ

各回に、テーマ毎の報告を行います。

3. 履修上の注意

「環境デザイン学」と「ランドスケープ設計学」は、前者が理論編、後者が実践編という位置づけですので、できるだけ両方を受講してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

テーマごとの発表（調査やパワーポイント作成など）や設計課題（作図・スケッチ）を行います。また、日常的にいろいろな風景や、公園・緑地などを観察し、どのような仕組みや意図があるかを読み解き、改善点、改善方法があるかなどを考えられるようになります。

5. 教科書

特に指定しない

6. 参考書

授業の中で適宜紹介します。授業で使用したスライドを後で公開します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中の発表（複数回）（50%）、設計課題（50%）を総合して最終的な評価とします。

9. その他

オフィスアワーは、金曜日の16:00～18:00。

メールアドレス：y@mindscape.jp

科目ナンバー (AG)AGR381J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
ランドスケープ計画学
2017～2021年度入学者
緑地計画学

2単位

菅野博貢

1. 授業の概要・到達目標

ランドスケープ計画学では、公園や緑道など身近な緑地空間がどのような意味を持ち、構成されているのか、デザインの歴史や素材などから読み解いた後、実際に計画が策定される手順に沿って学習を進めます。まず、計画コンセプトが形成される際のブレインストーミングからはじめ（これは近年、公共の緑地空間を計画・策定する際に求められる市民とのワークショップを行うことも想定しています）、景観計画や動線計画、植栽計画などについて学習します。終盤にかけては実際の緑地計画・設計の現場について紹介するとともに、より広がりのある学問領域として、近年盛んになりつつあるサウンド・スケープなどの視覚以外の感覚に訴求するデザインも紹介していく計画です。

一通り緑地計画の内容を理解し、将来関連の職業について幅広く対応できる能力を身につけることを到達目標とします。
尚、食糧生産・環境コースにおいては、学習・教育目標のC・Dに対応する科目となります。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション（緑地計画学のすすめかた）、緑地計画とは何か？
- 第2回 身近なランドスケープ・デザインを読む
- 第3回 身近なランドスケープ・デザインを評価する
- 第4回 日本庭園のランドスケープ・デザイン
- 第5回 西洋庭園のランドスケープ・デザイン
- 第6回 現代のランドスケープ・デザインを俯瞰する
- 第7回 緑地計画におけるソフトとハードのデザインについて考える
- 第8回 デザインの発想法について学ぶ（マインドマップ、KJ法など）
- 第9回 計画のプロセス、上位計画の見方について学ぶ
- 第10回 景観計画とゾーニング計画
- 第11回 動線計画と施設配置計画
- 第12回 植栽計画（植栽用植物の理解と実践的使用方法）
- 第13回 素材から考えるランドスケープ・デザイン
- 第14回 造成計画の基礎（地形を読んで考える）／ 五感に訴えるランドスケープ・デザインについて考察する

3. 履修上の注意

農学実験Ⅴと連携します。必須ではありませんが、本講義を理論、農学実験Ⅴを実践として位置づけていますので、両方を同時に履修するとより教育的効果が高まります。また、両授業の連携のために授業内容の順番を調整することがあります。

ゾーニング計画や動線計画などを学ぶ際には、設計演習なども織り交ぜて行います。事前にOh-o! MeijiにPDFのデータを掲載しますので、各自プリントアウトしてお持ちください。また、演習の際には、鉛筆と消しゴムを用意してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

身近な公園、緑道、庭園などの空間とそのデザインに注意を向けるとともに、首都圏に多数存在する歴史的な庭園や公園なども積極的に訪問してみてください。

5. 教科書

菅野博貢著『空間から読み解く 環境デザイン入門』を用います。尚「ランドスケープ・デザイン学」との共通の教科書となります。

6. 参考書

その回ごとの内容にそって紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中の演習 50%、期末テスト 50%の割合で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
文献調査・特別研究（卒論）
2017～2021 年度入学者
文献調査・特別研究（卒論）

8 単位

農学科教員

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

与えられた制約のもとでの問題解決に必要なデザイン能力の養成や専門知識の応用力を身につける。文献調査では、自主的・継続的に特別研究のテーマに関連した情報の収集を行って特別研究に活かすとともに、プレゼンテーション能力を身につけることを目的としている。

《授業の概要》

教員の指導のもとで、研究テーマの設定と実験計画の立案を行い、研究遂行に必要な情報を収集しながら2年間に亘って実験を遂行する。得られたデータをもとに論文を取りまとめ、学科の卒論発表会で発表する。

食糧生産・環境コースにおいては学習・教育目標のA・F・G・Hに対応する科目である。

2. 授業内容

テーマにより内容が異なるため、指導教員と相談して決定する。

3. 履修上の注意

食糧生産・環境コースの学生は必修科目である。

2年次終了時において、研究室が「履修していることが望ましい」としている以下の科目がある。

作物学研究室

「作物学概論」「農学実験Ⅰ」

野菜園芸学研究室

「園芸学概論」「農学実験Ⅳ」

花卉園芸学研究室

「園芸学概論」「農学実験Ⅳ」

植物育種学研究室

「遺伝学概論」

応用昆虫学研究室

「植物保護学概論」「農学実験Ⅲ」

動物遺伝資源学研究室

「動物遺伝資源学」「農学実験Ⅱ」

動物生産学研究室

「アニマルサイエンス入門」「動物資源繁殖学」「動物生産・福祉学」「農学実験Ⅰ」

動物環境学研究室

「動物行動学」

土地資源学研究室

「農学実験Ⅵ」

水資源学研究室

「農学実験Ⅵ」

応用植物生態学研究室

「緑地学入門」「農学実験Ⅴ」

環境デザイン研究室

「図学」「緑地学入門」「農学実験Ⅴ」

環境気象学研究室

「緑地学入門」「環境気象学」「農学実験Ⅴ」

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

指導教員の指示に従うこと。

5. 教科書

特に指定しないが、指導教員と相談する。

6. 参考書

特に指定しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

研究姿勢 40%, 発表 30%, 論文 30%の割合で評価する。なお, 評価は関連分野の複数の教員で行う。

9. その他

農芸化学科

科目ナンバー (AG)BBI191J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生物学

2 単位

伊東昇紀

2017~2021 年度入学者

1. 授業の概要・到達目標

<授業の達成目標及びテーマ>

人間生活に密着した食品・環境・生物機能分野について探求する農芸化学で、学問の基礎となる生物に関する基本的な知識を身につけることにより、農芸化学の発展的な講義科目の理解を容易にし、体系的に学問を身につけることを目的としています。

<授業の概要>

生命を基本単位である細胞の構造と、生命活動を支える化学反応とエネルギー獲得機構について説明する。生命を次世代につなぐ遺伝現象の分子機構を説明し、その応用技術を紹介する。ウイルス・細菌・菌類・植物・動物についてそれぞれ構造と特徴について解説した上で、地球環境と生態系について説明し、生物学全般について概観する。

2. 授業内容

- 第1回：細胞の構造
- 第2回：生命を作る分子
- 第3回：細胞の活動と酵素反応
- 第4回：エネルギー獲得機構
- 第5回：細胞分裂とメンデル遺伝学
- 第6回：DNA からタンパク質へ
- 第7回：遺伝子の発現制御とバイオテクノロジー
- 第8回：細胞増殖と発生
- 第9回：ウイルスと微生物
- 第10回：植物と菌類の構造
- 第11回：植物の応答と生殖
- 第12回：動物の形態と機能
- 第13回：感覚器と免疫系
- 第14回：分類学の基礎と学名

3. 履修上の注意

教科書の指定はありませんが、参考書としてリストアップしたマダー生物学の内容に沿って進めることを予定しています。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各回予習、復習をしっかりとすることをおすすめします。

5. 教科書

特になし

6. 参考書

「マダー生物学（原書第5版）」Sylvia S. Mader, Michael Windelspecht 著 藤原晴彦監訳
東京化学同人

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で解説の時間を設ける。

8. 成績評価の方法

講義への出席状況（50%）と定期試験の結果（50%）により評価する

9. その他

科目ナンバー (AG)AGC191J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 農芸化学	2 単位	農芸化学科教員
2017～2021年度入学者 農芸化学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

人間生活に密着した農芸化学の理念と方針を理解し、これから学ぶことと社会とのつながりを知ることが目的とします。将来の自分の可能性を考えるきっかけとなることを期待しています。

《授業の概要》

この授業では農芸化学の食品・環境・生物機能分野について、学科の全教員から、個々の[u]研究分野の解説と関連する話題、研究の展開、将来の展望[/u]などについて講義します。

2. 授業内容

農芸化学科では、生物機能を応用したバイオテクノロジーと最新のサイエンスを融合した手法を用い、人間生活に関わりのある食品・環境分野の諸課題を解決するための教育研究を行っています。人間生活に密着したバイオサイエンスを通して、幅広い知識・スキル、チャレンジ精神、高いコミュニケーション能力を有する人材を育成します。積極的に行動し、仲間を作り、社会に貢献できる人として成長し、将来社会をリードしていく「個」として活躍するための基礎力の養成を目標としています。具体的には、食品・環境分野における健康・機能・安全・保全を評価し高めるために必要な幅広い教育研究を行っています。これらの内容について以下の予定（目安）で講義します。

第1回 ガイダンス 農芸化学とは

第2～4回 食品分野（複数担当）

第5～7回 環境分野（複数担当）

第8～10回 生物機能分野（複数担当）

第11～14回 微生物科学分野（複数担当）

日程は進行状況によっては変更することがあります。

第1回のガイダンスにおいて、具体的なスケジュールを提示します。

3. 履修上の注意

授業では、幅広い農芸化学分野を紹介します。学生自らが、図書館等の書籍や文献で理解を深めることを期待します。自習の成果として農芸化学分野でのレポートを提出する必要があります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配布する資料に目を通し、知識を深めておくこと。

5. 教科書

「農芸化学に学ぶ」日本農芸化学会のHP、[url]https://www.jsbba.or.jp/manabu/site/menu.html[/url]

教科書は指定しません。授業の中で資料を配布し、参考書を紹介します。

6. 参考書

農芸化学の事典 生田参考開架 R613/32//S

その他講義において紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業時間内で解説し、Oh-o! Meiji システム等も利用します。

8. 成績評価の方法

成績評価は、毎回担当教員に提出した小レポートと最終レポートにて行ないます。詳しくは最初の授業で説明します。

9. その他

農芸化学科全教員が担当する予定です。担当教員ごとに小レポート（A5版）を課し、出席表に替えて提出を求めます。

科目ナンバー (AG)ACH241J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
必修化学

2017~2021年度入学者
分析化学

2 単位

安保充

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

原子・分子の成り立ちから、化学結合やその安定性など分子レベルでの内容を理解した後、スペクトルやエネルギー準位、熱力学・化学平衡など化学量論的な内容も学習する。本講義では農芸化学の専門科目の学習に役立つ化学の基礎を概説する。

《授業の概要》

原子の電子配置や周期性、分子レベルでの構造、安定性などの議論から化学結合に関しては有機化学への導入部分として、また、熱力学や平衡論では物理化学・分析化学の基礎部分を担う。また、反応速度については酵素化学・有機化学の導入的内容が含まれる他、配位化学など無機化学に相当する内容や核化学の導入についても解説する。

2. 授業内容

- 第1回 イン트로ダクション 原子, 分子, 化合物
- 第2回: 原子の構造と安定性 (光と電磁波) (ボーアモデル, 量子数と原子軌道)
- 第3回: 化学結合 (イオン結合, イオン化エネルギー)
- 第4回: 化学結合 (点電子構造, 共有結合)
- 第5回: 分子の形 (VSEPR モデル, 混成軌道, 分子軌道理論)
- 第6回: 気体の法則 (ボイル, シャルル, ドルトンの分圧の法則)
- 第7回: 熱化学 (エンタルピー, エントロピー, 自由エネルギー変化)
- 第8回: 化学平衡
- 第9回: 酸塩基 (酸と塩基の性質)
- 第10回: 酸塩基 (中和反応, 緩衝液)
- 第11回: 酸化と還元 (半反応式・酸化還元電位)
- 第12回: 酸化と還元 (電位差分析・ネルンストの式)
- 第13回: 化学反応速度論
- 第14回: 総括

3. 履修上の注意

高校で化学を履修していない学生は復習の時間を要する。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

教科書を予習して授業に出席すること。

5. 教科書

マクマリー 一般化学 (上) (下) J. McMURRY (ほか) 著 (東京化学同人)

6. 参考書

トロウ 化学入門 N. TRO (ほか) 著 (東京化学同人)
演習で学ぶ無機化学の基礎の基礎 M. Almond (ほか) 著 (化学同人)

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックコメントはOh!Meiji システムを介して返却する。

8. 成績評価の方法

講義中の演習 (30%) と期末の試験 (70%)

9. その他

科目ナンバー (AG) BCH121J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
有機化学

2017~2021年度入学者
有機化学 I

2 単位

荒谷博

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標》

生体や食品に含まれるほとんどの成分は有機化合物であり、それらは酵素による化学変換あるいは非酵素的な反応によって作られる。これらの有機化合物の構造や反応を学ぶことは「農芸化学」に必須であり、不可避である。生化学等で学習する代謝反応や食品に含まれる成分の生成過程などの“反応機構”を理解し、書けるようになることが目標である。本科目で学習する内容は生物有機化学（農化）の基礎ともなるものであり、この科目をしっかりと理解するための準備段階でもある。したがって、単位の取得のみを目的としたその場しのぎの学習は避けるべきである。有機化学を基盤とする研究分野に進みたいと思う者は3年次終了までに参考書として示した成書のいずれかを、自主的に学習することが望ましい。

《授業の概要》

化学（必修1）や生化学I（必修1）で学習した電子構造、酸・塩基などの内容は理解していることを前提に、「ブルース有機化学概説第3版」を教科書として、2~9章の内容について講義を進める。講義内容は概ね教科書に沿って行いが、一部内容の追加や省略がある。

生物有機化学では有機化学で学習した内容を基盤に、農芸化学の様々な分野で頻出するカルボニル化合物、アルコール、アミンなどの反応を学習する。有機化学の習得は生物有機化学の学習に必須である。

2. 授業内容

* 講義は概ね教科書に沿って進行する。

* 括弧内には教科書の該当する章を示した。

第1回：酸と塩基（2）

第2-3回：有機化合物の命名と構造、構造式の書き方（3）、異性体（4）

第4回：アルケン（5）

第5-6回：アルケンおよびアルキンの反応（6）

第7-8回：非局在化電子、ベンゼンの反応（7）

第9回：中間試験

第10-11回：ハロゲン化アルキルの置換反応と脱離反応（8）

第12-13回：アルコール、アミン、エーテル、およびエポキシドの反応（9）

第14回：総括

3. 履修上の注意

本科目は農芸化学科の必修（1）の科目であり、2年次までに単位を修得する必要がある。

有機化学に関わる基礎科目は研究室配属前に「化学」→「有機化学」→「有機化学・有機分析実験」→「生物有機化学」のように順次学習するようにプログラムされている。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

シラバスの予定にしたがって教科書を予習し、受講後は各章内の問題を解くなどして復習すること。有機化学は高校までの学習と同様に演習問題を解くことで効率の良い学習効果が得られるので、章末問題も解かずして良い成績を修めることは難しいでしょう。

構造式の骨格構造での描画を早々にマスターし、効率の良い学習を心掛けたい。

5. 教科書

『ブルース有機化学概説 第3版』 P. Y. Bruice 著、大船ら監訳（化学同人、2016）

6. 参考書

『ブルース有機化学 第7版 上下』 P. Y. Bruice 著、大船ら監訳（化学同人、2014、2015）

『ポルハルト・ショア有機化学 第8版 上下』 K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著、古賀ら監訳（化学同人、2019、2020）

『ジョーンズ有機化学 第5版 上下』 Jr., M. Jones, S. A. Fleming 著、奈良坂ら監訳（東京化学同人、2016）

7. 課題に対するフィードバックの方法

中間試験、教科書中の問題の解答についてはクラスウェブから配信する。

8. 成績評価の方法

期末試験を概ね85%、中間試験および平常点を併せて概ね15%として評価する。

詳細は講義初日および最終日に説明する。

なお、期末試験の試験範囲は1~9章とする。

9. その他

天然物有機化学研究室（第一校5号館507A号室）

科目ナンバー (AG)BI0121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生化学 I 農芸化学科

2017~2021 年度入学者
生化学 I 農芸化学科

2 単位

石丸喜朗

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生命維持のしくみを、生物を構成する化合物とその性質・機能から講義する。その際に、高等学校での履修の多様化にできるだけ配慮し、教科書に沿って授業を進めると共に、可能な限り平易に講義する。

《到達目標》

高等学校の生物・化学で学んだ生体構成成分について分子・原子のレベルから理解できるように講義を進める。具体的には、構成する元素、特に「炭素、窒素、酸素、水素」の電子配置等の特質が、どのように生物内での反応と関わるかを講義する。この講義は、2 年次以降の専攻分野の講義を理解する上で必須となる。生物を構成する化合物の構造、性質、機能を理解することを目標とする。

2. 授業内容

- 第 1 回：イントロダクション（生化学入門）
- 第 2 回：水
- 第 3 回：アミノ酸
- 第 4 回：タンパク質の一次構造
- 第 5 回：タンパク質：三次元構造
- 第 6 回：タンパク質：機能
- 第 7 回：酵素の特性
- 第 8 回：酵素の反応速度論
- 第 9 回：酵素の反応機構
- 第 10 回：補酵素とビタミン
- 第 11 回：単糖類の構造と性質
- 第 12 回：多糖類とその他の糖類
- 第 13 回：脂質と生体膜
- 第 14 回：総括

3. 履修上の注意

生化学 I と生化学 II を合わせて理解することで、生化学の基礎を習得することができる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、シラバスに従って教科書の該当部分を予習し、理解できない部分があれば授業で質問すること。復習として、教科書の章末問題を解いて巻末の解答を確認し、参考書の該当箇所を読むこと。

5. 教科書

『ホートン生化学 第 5 版』鈴木紘一他監訳（東京化学同人）

6. 参考書

『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第 1 巻 細胞生物学』デイヴィッド・サダヴァ他著、石崎泰樹他監訳（講談社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験（90%）と授業への貢献度（10%）で評価する。

9. その他

食品機能化学研究室（第一校舎 5 号館 6 階 603 号室）

科目ナンバー (AG)BI0121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生化学Ⅱ 農芸化学科
2017～2021 年度入学者
生化学Ⅱ 農芸化学科

2 単位

島田友裕

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生命のしくみを、代謝と生体エネルギーを中心として、その構成と制御機構から講義する。教科書に沿って授業を進めると共に、可能な限り平易に講義する。

《到達目標》

細胞構成成分の異化・同化に関わる代謝系およびエネルギー生成について、その構成および制御機構を学ぶことにより、動的な生命の仕組みを理解することを目標とする。この講義は以後の農芸化学専攻分野の講義を理解するための基礎となるので、十分に予習・復習して理解すること。

2. 授業内容

- 第1回：本講義の概要
- 第2回：代謝について
- 第3回：酵素活性制御の基礎
- 第4回：代謝活性制御の基礎
- 第5回：解糖系
- 第6回：糖新生
- 第7回：ペントースリン酸経路
- 第8回：グリコーゲン代謝
- 第9回：TCA 回路
- 第10回：電子伝達系と ATP 合成
- 第11回：脂質代謝
- 第12回：アミノ酸代謝
- 第13回：ヌクレオチド代謝
- 第14回：総括

3. 履修上の注意

シラバスに沿って教科書を予習し、受講後は必ず復習すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義中に理解できないときは、質問や復習をすること。

5. 教科書

『ホートン生化学』第5版 鈴木紘一他訳 東京化学同人

6. 参考書

適宜、講義中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストにより自身の理解度を把握すること。理解できないときは、教科書を熟読するなど、講義後に十分に復習をすること。

8. 成績評価の方法

定期試験の成績（80%）＋出席状況と小テスト（20%）により評価する。

9. その他

質問は授業終了後または研究室にて受け付ける。

ゲノム微生物学研究室（3号館3階3-308A号室）

科目ナンバー (AG)AGC121J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 微生物学 I (農化)	2 単位	中島春紫
2017~2021 年度入学者 微生物学 I (農化)		

1. 授業の概要・到達目標

肉眼では観察が難しい微生物とヒトとの関わりを実感し、多様な地球上の生物の一員としての微生物を理解することを目標とする。微生物学の歴史・微生物の観察法と無菌操作などの基本的な取扱い法を学習する。同時期に進行する1年生対象の学生実習「微生物学実験」と関連づけて、微生物の実態についてイメージできるように計画している。さらに、微生物の細胞構造・生育環境・測定法およびウイルスの生態などについて一般的な知識を身につけた上で、発酵工業や発酵食品などへの応用について学習する。一方、高校で学んできた生物学の延長として、基礎的な発生学・分類学・免疫学について解説し、以後の農芸化学科における広範な専門知識を身につけていくための基盤となることをめざして可能な限り簡明に講義する。

2. 授業内容

- 第1回：微生物学とヒトの関わり
- 第2回：微生物学の歴史
- 第3回：微生物の取り扱い法
- 第4回：微生物の細胞の構造
- 第5回：微生物の生育環境
- 第6回：微生物の測定法
- 第7回：微生物の増殖制御技術
- 第8回：顕微鏡の科学
- 第9回：ウイルスの構造と生態
- 第10回：発生学の基礎
- 第11回：分類学の基礎
- 第12回：病原微生物との戦いと免疫
- 第13回：発酵食品の科学
- 第14回 a：まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

「微生物学Ⅱ」とともに必修科目なので必ず履修すること

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

高校で生物学を十分に学習してこなかった学生にも配慮しているが、講義内容の深い理解には化学と生物の基礎的な知識が必要となるので、日頃より高校レベルの参考書等を随時参照して必要な知識の収集と理解に務めること。

講義中に配布するプリントの内容について、データ解析演習および用語の解説を重点的に復習し、専門知識と専門用語を系統的に学習すること。

5. 教科書

教科書は指定しない。講義内容を解説するプリントを毎回配布する。

6. 参考書

- 「キャンベル生物学（第11版）」N. A. Campbell, J. B. Reece（丸善）
- 「マダー生物学（原書第5版）」S. S. Madar（東京化学同人）
- 「微生物学」大木理（東京化学同人）
- 「ベーシックマスター微生物学」掘越弘毅監修（オーム社）
- 「図解微生物学入門」井上明・中島春紫（オーム社）
- 「発酵の科学」中島春紫（講談社ブルーバックス）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験の結果により評価する。出席状況を考慮する。

9. その他

講義に関する質問等は随時受け付ける。
微生物生態学研究室（5号館5階506号室）
E-mail: harushi@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGC121J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
微生物学Ⅱ(農化)

2017~2021年度入学者
微生物学Ⅱ(農化)

2単位

山田千早

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

微生物の多様性、代謝や遺伝子発現について、基礎的な内容から応用利用について可能な限り簡明に講義する。

《授業の達成目標及びテーマ》

多様な微生物の形、代謝、分類、生息環境について系統的に学習し、微生物がなぜ様々な環境で生育可能なのかについて系統的に学ぶ。また応用利用されている微生物について工業的な利用法、微生物と人類との関わりについて理解を深めることを目指す。

2. 授業内容

第1回：微生物の多様性

第2回：微生物の代謝-1

第3回：微生物の代謝-2

第4回：細菌の転写・翻訳・変異

第5回：細菌の転写制御

第6回：遺伝子伝搬と遺伝子組換え技術

第7回：微生物間相互作用

第8回：窒素・炭素・硫黄循環に関わる土壌微生物

第9回：植物と微生物

第10回：微生物の利用-1：バイオエネルギー生産

第11回：微生物の利用-2：抗生物質

第12回：乳酸菌と食品保存

第13回：腸内細菌と免疫

第14回：まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

「微生物学Ⅰ」とともに必修科目なので、必ず履修すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習方法として、配布資料を読み不明な点や理解できない点を拾い出して参考書などで調べること。それでもわからない時はそのままにしないで、教員に質問すること。

5. 教科書

教科書は指定しない。講義内容を解説するプリントを毎回配布する。

6. 参考書

「Brock 微生物学」 室伏、関 監訳（オーム社）

「基礎生物学テキストシリーズ4 微生物学」青木著（化学同人）

「ベーシックマスター微生物学」掘越弘毅 監修（オーム社）

「Q&A で学ばやさしい微生物学」浜本著（講談社サイエンティフィック）

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を介して、または次回の授業冒頭で解説する。

8. 成績評価の方法

授業への参加度 30%（毎回紙の出席票で）

小テスト3回と定期試験の合計4回で70%

9. その他

講義に関する質問等は随時受け付けますが、不在の時もあるので、来室の際はあらかじめメールをください。メールでの質問も受け付けます。

発酵食品学研究室（5号館6階601号室）

E-mail: chihaya@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
基礎分子生物学

2017~2021 年度入学者
基礎分子生物学

2 単位

前田理久

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

分子生物学は日進月歩で、その内容も広く、深くなっている。限られた時間内で最低限必要な現象の理解を主眼として進める。講義は基本的な内容を中心に行うが、その内容も膨大な量になっているため、より高度なものに関しては、なるべく講義中に各個人で勉強できるように配慮する。

《到達目標》

分子生物学は今や現代人の常識として位置づけられている。新聞やニュースが理解できるだけでなく、身近な健康、医療、環境においても十分に判断できる根拠となる知識として必須である。分子生物学の中心は、情報の概念と情報識別の原理である。これらを確実に理解することを目標とする。

2. 授業内容

第1回：ガイダンス、イントロダクション(分子生物の世界)

第2回：核酸

第3回：組換え DNA

第4回：タンパク質-核酸相互作用

第5回：遺伝暗号、遺伝子、ゲノム

第6回：遺伝物質の物理構造

第7回：細菌の転写/真核生物の転写

第8回：細菌の転写制御

第9回：真核生物の転写制御

第10回：RNA プロセッシング

第11回：翻訳に関わる分子

第12回：翻訳の工程

第13回：細菌の DNA 複製

第14回：真核生物の DNA 複製

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

生命現象の理解は、物理化学の法則に基づく分子と分子の相互作用および生化学反応を理解することを基礎におく。ある程度の化学、生物化学の基礎知識が必要であるから、各自勉強しておくこと。また、高校で生物を選択していない人は各自高校生物の関係部分も勉強しておくこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書は予習・復習・自習用として指定している。講義の進行はガイダンス時に計画を示すのできちんと予習しておくこと。例年講義中盤から脱落する人が多い。予習・復習の手を抜かないことが肝要であることをアドバイスしておく。現象を正しく理解し、適切な用語を用いて説明できることが目標である。図を見て何となく分かった気になって、その後の作業を怠らないように注意せよ。

5. 教科書

「分子生物学 ゲノミクスとプロテオミクス」(東京化学同人)

講義には必ず教科書を持ってくること。

予習・復習、および文章表現の参考として利用できる。

6. 参考書

「分子細胞生物学 第9版」(東京化学同人)

「ワトソン 遺伝子の分子生物学 第7版」(東京電気大学出版局)

「細胞の分子生物学 第6版」(ニュートンプレス)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

レポート課題、宿題、自由課題を課すことがある。

評価は、基本的に学期末定期試験で行うが、上記のアクティビティも評価に組み入れる場合もある。

9. その他

講義に関する質問等は随時受け付ける。

微生物遺伝学研究室 (5号館6階605号室)

E-mail: mmaeda@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) BCH121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生物有機化学

2017~2021 年度入学者
有機化学Ⅱ

2 単位

久城哲夫

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生体や食品に含まれる有機化合物は、生命体や食品等を構成する重要な物質であり、炭素、水素、酸素、窒素、硫黄、リンなどから構成されている。有機化合物の合成、変換、分解等の過程を、反応機構を書くことで「化学的」に理解することは、農芸化学科の学生に必須である。生体内の生化学反応（代謝反応）は、全て有機化学の反応によって成り立っており、その反応機構を理解することで、生化学反応を「化学的」に理解することができる。さらに、農芸化学科の多くの研究室で研究されている様々な生体内反応を理解するためにも有機化学の反応の理解が必須である。

生物有機化学（農化）の学習内容は、有機化学の内容を引き継ぎ、まず生体内の代謝反応で特に重要なカルボニル基の化学と反応を学習する。さらに、これらの反応が生体内の代謝経路で実際に働いている様子を学習する。特に中心的な代謝経路である解糖系やクエン酸回路などについて紹介する。

授業では、線構造式、立体化学、脱離反応、置換反応などが始めから登場し、これらの内容を理解するために、有機化学の内容の修得は不可欠である。学習が不十分な学生は事前に有機化学の教科書を再学習することを強く勧める。有機化学との継続性を持たせるために、教科書は有機化学と同じ「ブルース有機化学概説」を用いる。さらに、代謝経路を参照するために生化学Ⅰ、Ⅱで用いている教科書「ホートン生化学 第5版」を用いる。

《到達目標》

カルボニル化合物の反応機構を修得し、生体内の生化学反応を「化学的」に解析することができるようにする。また、授業で扱っていない初見の生化学反応に遭遇した場合にも、その反応が理解できるようになりたい。

2. 授業内容

- [第1回] カルボニル基の化学
- [第2-3回] アルデヒドとケトンの反応
- [第4-5回] カルボン酸とカルボン酸誘導体の反応
- [第6-7回] カルボニル化合物の α 炭素の反応 エノラートの反応
- [第8回] 代謝の有機化学
- [第9-10回] 脂肪酸の生合成と分解反応
- [第11回] 解糖系の代謝反応
- [第12回] クエン酸回路の代謝反応
- [第13回] アミノ酸の生合成と分解反応
- [第14回] まとめ、補足

3. 履修上の注意

有機化学の単位未修得者およびB以下の成績の者は夏季休業中に再学習することを強く勧める。特に再履修者は、他の教科書を併せて読むなどの学習の工夫が必要かもしれない。また、生化学Ⅰ、Ⅱの内容の復習もしておくことが必要である。

有機化学の教科書中に「この科目で成功する秘訣は、試験の前日に詰め込むのではなく毎晩少しずつやることである。詰め込みは、ほかの科目ではうまくいくかもしれないが、有機化学では難しい。」とある。生物有機化学（農化）の単位を確実に修得するには、計画的な学習が必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

有機化学の内容を修得していない者は、事前に総復習しておくこと。
シラバスの予定にしたがって教科書を予習し、受講後は各章内の問題を解くなどして復習すること。
有機化学は演習問題を解くことで効率の良い学習ができるので、問題を繰り返し解くことを勧める。
また、生化学Ⅰ、Ⅱの内容も総復習しておくこと。特に代謝経路に関する項目を復習することを勧める。

5. 教科書

- 『ブルース有機化学概説 第3版』P.Y.ブルース著、大船ら監訳（化学同人、2016）
- 『ホートン生化学 第5版』Morgan, Horton, Scrimgeour, Perry 著、鈴木ら監訳（東京化学同人、2013）

6. 参考書

- 『マクマリー生化学反応機構 第2版』McMurry, Begley 著、長野ら監訳（東京化学同人、2018）
- 『生物有機化学がわかる講義』清田洋正著（講談社サイエンティフィック、2010）

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義中の課題や小テストに関して、後の講義で解説を行うと共に、Oh-o! Meiji を通して個別のコメントを返却する。

8. 成績評価の方法

期末試験を90%、授業への貢献度を10%として評価する。

9. その他

ケミカルバイオロジー研究室（第一校舎6号館406A号室）

科目ナンバー (AG)AGC251J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
栄養科学

2017～2021年度入学者
栄養科学

2 単位

金子賢太郎

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

食べることは生命活動を維持するために必須の行為であり、生活習慣病の世界的な蔓延とも相まって、食と健康・栄養に対する社会的ニーズは高まっています。また食品は私たちの身体と同じく多種多様な化合物の集合体であり、互いに協調しながら相互作用を行っています。本講義では食品中に含まれるエネルギー産生栄養素（糖質、脂質、タンパク質）および微量栄養素（ビタミン、ミネラル）について、その消化・吸収・代謝・生理作用について概説します。さらに日本人の食事摂取基準等の解説を通して正しい栄養状態の理解を深めると共に、口から摂取した食品に含まれる栄養素などの機能性成分の生体内での役割（機能性）を解説します。

《到達目標》

食品摂取および栄養素や代謝産物の体内における消化・吸収・代謝について理解を深めると共に、食品摂取が身体に及ぼす生理作用について理解することを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：栄養科学と日本人の食事摂取基準
- 第3回：食物の摂取：栄養素の消化・吸収の概要①
- 第4回：栄養素の消化・吸収の概要②
- 第5回：細胞内での栄養素代謝の概要&糖質の消化・吸収・代謝
- 第6回：糖代謝の制御
- 第7回：脂質の消化・吸収・代謝
- 第8回：脂質の生理
- 第9回：タンパク質の消化・吸収・代謝
- 第10回：タンパク質の生理
- 第11回：その他の栄養素の生理作用
- 第12回：食、栄養、食欲、健康について
- 第13回：食と生活習慣病
- 第14回：総括

講義内容や順番は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

- 3、4年生向きに開催される「栄養生化学」の受講を考えている学生は、本講義の受講を望みます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料やノートにより復習を行うこと。本講義は特に前提となる履修科目を指定しませんが、生化学の基礎的な知識が必要です。

5. 教科書

特に指定しません。講義はプリントを配布して行います。

6. 参考書

- 『楽しくわかる栄養学』中村丁次・著（羊土社）
- 『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学』田地陽一・編（羊土社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義中に課題に対して解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験を中心として、小テスト・課題・平常点などにより総合的に評価します。

9. その他

講義に関する質問等は随時受け付けます。
メール (kanekok@meiji.ac.jp) での問い合わせ、もしくは、金子の居室（栄養生化学研究室：5号館6階606室）まで気軽にお越しください。

科目ナンバー (AG)AGC251J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
食品化学

2017～2021年度入学者
食品化学

2 単位

竹中麻子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

食品はわれわれが食事のたびに口にする身近なものである。食品からの栄養素の摂取が生命や健康の維持に必要であることに加え、食品のおいしさや疾病予防効果も近年大きな注目を集めている。この講義では、栄養素として機能する食品成分の構造、性質について解説する。農芸化学科のカリキュラムの中で、食品系科目の基礎として位置づけられる講義である。

《到達目標》

食品中の水分・炭水化物・脂質・タンパク質の構造と性質、はたらきについて理解することを到達目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション（食品とは、食品の機能、食品に関する諸問題）
- 第2回：水分（食品中の水の存在形態）
- 第3回：水分（水分活性）
- 第4回：炭水化物（単糖、二糖類の構造と性質）
- 第5回：炭水化物（オリゴ糖、多糖類の構造と機能）
- 第6回：炭水化物（食物繊維の物性と機能）
- 第7回：脂質（脂肪酸の構造と性質）
- 第8回：脂質（食品中の主要な油脂の特徴）
- 第9回：脂質（リン脂質、コレステロール）
- 第10回：タンパク質（タンパク質・アミノ酸の構造と機能、タンパク質の変性）
- 第11回：タンパク質（植物食品中の主要なタンパク質）
- 第12回：タンパク質（動物食品中の主要なタンパク質）
- 第13回：食品成分表
- 第14回：総括

3. 履修上の注意

各回の講義終了時に小テストを行う。小テスト回答時に講義への質問・コメントも受け付ける。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、教科書およびクラスウェブ等に提示された資料の該当箇所を読んでおくこと。復習として、教科書及び資料の該当箇所を読み、不明な点は質問すること。

5. 教科書

『わかりやすい食品化学（第2版）』吉田勉・監修，早瀬文孝・佐藤隆一郎編著（三共出版）

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答および質問・コメントへのフィードバックは、Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載あるいはクラスウェブから個別に回答する。

8. 成績評価の方法

定期試験（60%）と小テスト（40%）の成績で評価する。

9. その他

講義に関する質問は随時受け付ける。
食品生化学研究室（5号館6階602号室）
E-mail: takenaka@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGC281J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 環境科学	2 単位	村上周一郎
2017～2021年度入学者 環境科学		

1. 授業の概要・到達目標

産業の発展や人口増加に伴い、我々を取り巻く環境は様々な影響を受け、変化していきます。この講義では、まず環境問題を誘発する要因について説明します。次に現在、あるいは今後人類の将来に大きな問題となる可能性のある事項、特に広い地域・大陸レベル、あるいは地球規模の問題を概説します。また身近な環境問題として、廃棄物やリサイクル、さらに将来における1つのモデルとして循環型社会について説明していきます。

この講義を通して環境や環境問題に関する基本的な知識を学び、農学部を卒業する学生として必要な素養を身につけることをこの講義の到達目標としています。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション—この授業で学ぶこと—

第2回：環境に影響を与える因子-1（人口の増加）

第3回：環境に影響を与える因子-2（エネルギー・電気）

第4回：物質の循環

第5回：オゾン層の破壊

第6回：温室効果ガスの種類と挙動

第7回：地球温暖化とIPCCの活動

第8回：COPとパリ協定書

第9回：砂漠化

第10回：水環境の悪化（有機物・富栄養化、処理）

第11回：水質（抗生物質の拡散）

第12回：廃棄物の処理とリサイクル

第13回：緑の保全と循環型社会・SDGs

第14回 a：試験

b：試験の正答解説

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

この講義では、幅広い分野を網羅的に取り扱うため、授業は各論的に進行します。そのため、より内容を理解するためには、授業への積極的な出席と授業内容の復讐を要望します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

板書したノートと授業中に配付するプリントの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば参考書等に目を通しておくこと。

5. 教科書

特に定めません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

6. 参考書

『環境科学要論 第2版』、世良 力 著（東京化学同人）

『環境』 齋藤 勝裕 著（三共出版）

『環境科学』 金原 稔 著（実践出版）

『環境科学』 吉原利一編（Ohmsha）

『環境の科学 三訂版』 山口勝三、菊地立、齋藤紘一 共著（培風館）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（10%）と期末テスト（90%）により評価します。

9. その他

特にオフィスアワーは設けませんが、質問等があれば研究室（3号館 3-304A）に来てください。

連絡先：smura@meiji.ac.jp, 044-934-7098

科目ナンバー (AG)AGC211J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
土壌化学

2017～2021年度入学者
土壌化学

2単位

安補充・登尾浩助 他

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本講義は、土壌の化学的機構を中心に土壌の構造と機能を基礎科学の視点から理解することを目的とする。本講義で得られる知識は、土壌の農業生産機能や環境保全機能を理解するために必要となる。

土壌は、植物が生育するために不可欠な基盤であるとともに、足元の土壌も地球を構成する地圏の一部であり、大気圏、水圏、生物圏と常に相互作用している。また土壌中では、化学的、生物的、物理的に相互に絶えず関連している。そのため、農業生産や土壌環境保全の維持発展には、土壌の基礎機構の理解が必要となる。

《授業の概要》

本講義では、普段あまりにも身近過ぎて、あまり気にされていない土壌とは何かをその性状から成り立ちまで概説する。次に、土壌の化学的機構を中心に土壌中の基礎機構を実現象と関連付けながら説明していく。

2. 授業内容

第1回：土壌学とは（土壌学の歴史、土と土壌の違い、土壌学と他学問との関連、土壌の機能：なぜ土壌学を学ぶ必要があるのかを概説）

第2回：土壌とはいったい何か-土壌の構成物質と土壌ができるまで-

第3回：土壌中での主要反応と物質挙動変化

第4回：科学的な土壌の分類-土壌の三相構造と組成-

第5回：土壌粘土鉱物の構造と機能

第6回：土壌有機物の生成と機能

第7回：土壌中の水の役割-植物への水供給と物質移動-

第8回：土壌での荷電発現と物質の吸着

第9回：土壌 pH と土壌の pH 緩衝能

第10回：土壌での物質挙動 1-陽イオン-

第11回：土壌での物質挙動 2-陰イオン-

第12回：土壌生物の種類と働き

第13回：物質循環と土壌微生物-窒素循環を例に-

第14回 a：定期試験

b：講義全体のふりかえりとまとめ

3. 履修上の注意

基礎化学の知識を必要とする。また基礎的な物理・生物の素養があることが望まれる。「土壌化学」は、「土壌圏科学」、「土壌環境保全学」の基礎的理論を構成する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：各講義回に該当する教科書について一読する。

復習：配布した資料、板書内容と関連付けながら教科書の該当部分を再読する。

5. 教科書

講義時に配布する資料

『改訂 土壌学概論』 犬伏和之・白鳥豊編 朝倉書店

6. 参考書

『新版 土壌学の基礎-生成・機能・肥沃度・環境（農学基礎シリーズ）』 松中照夫著 農文協

『土壌サイエンス入門』 三枝正彦・木村真人編 文永堂出版

『最新土壌学』 久馬一剛編 朝倉書店

『環境土壌学』 松井健・岡崎正規編 朝倉書店

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験（60%）＋小テスト・レポート（40%）

2/3以上の出席が期末試験受験のための必要条件である。

9. その他

土壌圏科学研究室（3号館3階302A）

オフィスアワー：在室していれば随時可（メールにて事前問い合わせることが望ましい）

E-mail: mkatoh@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
分子生物学(農化)

2 単位

小山内崇

2017~2021 年度入学者
分子生物学(農化)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生命現象は、個々の生化学反応の上に成り立っているが、それが細胞あるいは個体レベルで秩序が保たれているのは、それらを制御してシステムとして機能するようにするメカニズムがあるからである。このメカニズムの理解と解明に道具としてあるいは考え方として重要な分子生物学の普遍性と発展性について一定の理解が得られることを目的とする。

《授業の概要》

講義では、ゲノム上にある生物学的情報がどのように機能しているかをこれまでの知見をまとめて行う。全体を通して、遺伝子の発現、複製、組換えといった生命現象の根本を担う反応群のメカニズムについて講義を行う。講義は教科書の内容に準拠して行うが、適宜、参考書やその他の教材を用いて進める。また、分子生物学手法や病気と遺伝子の関係についても触れる。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：細胞の構造と機能

第3回：糖・脂質・タンパク質

第4回：遺伝子の構造とDNA複製

第5回：DNAの損傷と修復

第6回：原核生物の転写制御

第7回：真核生物の転写制御（基本転写装置）

第8回：真核生物の転写制御（エピジェネティクス）

第9回：分子生物学的技術（基本的技術）

第10回：分子生物学的技術（最新技術）

第11回：遺伝子と病気（遺伝病）

第12回：遺伝子と病気（DNAの損傷）

第13回：遺伝子と病気（癌と遺伝子）

第14回：試験と解説

*講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

事前に基礎分子生物学の内容を復習しておくことよい。生命現象を理解する上で、高校生物および他の関連講義の内容が役に立つので、復習しておくこと。教科書は予習、復習に利用できることで活用すること。

講義当日は、教科書を持参しなくてもよい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

生命現象を理解する上で、高校生物および他の関連講義の内容が役に立つので、復習しておくこと。教科書は予習、復習に利用できることで活用すること。

5. 教科書

「ベーシックマスター分子生物学」改訂2版（オーム社）

6. 参考書

田村隆明『分子生物学超図解ノート』（羊土社）

「ワトソン 遺伝子の分子生物学 第7版」（東京電気大学出版局）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

評価は、学期末試験・小テスト・平常点を総合的に判断して行う。およその配分は、学期末試験（60~70%）、小テストなど（20~30%）、平常点（10%）である。

9. その他

環境バイオテクノロジー研究室（3号館3階3-310号室）

E-mail: tosanai@meiji.ac.jp

メールでの質問を歓迎します。面会希望の場合はメールでアポイントメントをとることを推奨する。

科目ナンバー (AG) BCH221J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
有機分析化学

2017～2021年度入学者
有機分析化学

2 単位

瀬戸義哉

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

有機化合物の各種機器分析による構造解析は有機化学の中でも重要なテーマの一つである。本講義では、他の講義内容も考慮して、分析化学の中でも、実際の化学構造を決定するために利用する手法である質量分析法と核磁気共鳴法を主な対象とし、それらの手法について概説する。また、それらの手法を利用した低分子化合物の構造解析法について実践練習も行いながら学習する。さらに、質量分析の実用例として、近年生命科学分野で良く見られる手法となったメタボロームやプロテオームに加え、植物ホルモンの分析手法を概説する。化合物の構造決定や分析手法についての基礎的な知識を身に付けることを目標とする。

《授業の概要》

質量分析法について概説するとともに、質量分析法がどのように生命科学的研究に利用されているのか、幾つか実例なども含めて概説する。また、核磁気共鳴 (NMR) についてもその手法を学ぶとともに、実際の化合物のスペクトルを利用した、構造決定のトレーニングを行う。講義内容をより深く理解する目的で、毎回、前回の講義内容について的小テストを実施する。

2. 授業内容

- 第1回：質量分析法とは。各種イオン化法について。
- 第2回：分子の精密質量の決定。
- 第3回：フラグメンテーション（原理）
- 第4回：フラグメンテーション（実例）
- 第5回：質量分析の実用例：植物ホルモン分析、メタボローム、プロテオーム
- 第6回：核磁気共鳴法とは
- 第7回：化学シフト（遮蔽について）
- 第8回：カップリング①カップリングの基本と原理
- 第9回：カップリング②複雑なカップリング
- 第10回：¹³CNMR、
- 第11回：二次元 NMR、
- 第12回：IR、UV、蛍光分析
- 第13回：分子構造の決定練習①
- 第14回：a: 期末試験
b: 講義全体のまとめ

3. 履修上の注意

講義は配布する資料に基づいて進める。また、シラバスに基づき、指定した教科書の該当箇所について、予習・復習を勧める。有機化合物の構造決定は演習が重要なので、教科書中の問題に積極的に挑戦することを勧める。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

理解できない部分があれば授業中に質問するか、オフィスに来てください。

5. 教科書

『ビギナーズ有機構造解析』、川端潤、(化学同人)、2015年

6. 参考書

『有機化合物のスペクトルによる同定法 第7版』、荒木ら訳、(東京化学同人)、2006年
『資源天然物化学 (改訂版)』 秋久ら、(共立出版)、2017年

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義の最後に小テストを実施し、次の週の講義の最初に解説を行う。

8. 成績評価の方法

成績は期末試験 (70%) と小テスト・出席などによる平常点 (30%) で評価します。

9. その他

植物制御化学研究室 (第一校舎 3号館 3階 306A室)
オフィスアワーは特に指定しません。質問・疑問があれば研究室に来てください。

科目ナンバー (AG) BCH211J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 物理化学	2 単位	中村卓
2017~2021年度入学者 物理化学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農芸化学科の必修科目(2)で2年生以上が対象です。本授業では農芸化学分野で必要となる物理化学の基礎知識と基本概念を理解し、我々が五感で感じられる物事を定量的に考え説明できる様になることを目標とします。

《授業の概要》

化学は多様な物事を分子(原子)という概念で理解する学問です。その中で、物理化学は定量性を特徴とする体系です。具体的には、物理的な手法で物質の構造・性質・変化を探究し、物質全般に通用する原理や仕組みを定量的に明らかにします。物理化学では数式が多く出てきますが、数式の意味の捉え方や背景にある概念を習得することが重要です。社会の仕事でも定量的(数値)に物事を考え判断することが求められます。定量的な考え方をマスターするためには、授業を聴くだけでなく、自分で考え問題を解き、解説を聞いて確認することが最も効率的です。

2. 授業内容

第1回: 物理化学の位置づけと基礎

【熱力学】

第2回: 基本概念と気体分子運動論

第3回: 熱力学第一法則

第4回: エントロピーと自発変化

第5回: ギブズエネルギー

第6回: 化学平衡

第7回: イオンと電子の輸送

第8回: 熱力学のまとめと中間試験1

【化学反応】

第9回: 反応速度

第10回: 反応式の解釈

第11回: 複雑な生化学過程

第12回: 化学反応のまとめと中間試験2

【分光光学と生体分子の構造】

第13回: 分子の回転と振動+光分光法と光生物学

第14回: 高分子と分子集団

3. 履修上の注意

進行状況によっては内容を変更する場合があります。授業中に提示した課題について授業の最後に提出を求めます。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習のために資料PDFを0h-o! Meijiを通じてあらかじめ配信します。授業中に自習用として出された演習問題について、次回の授業の開始時に小テストを行いません。

5. 教科書

教科書は指定しません。授業の中で資料を配布します。

6. 参考書

『アトキンス生命科学のための物理化学第2版』P. Atkinsら著, 千原秀昭ら訳, (東京化学同人, 2014) シラバス本・464/1292/B/S

『アトキンス物理化学要論第6版』P. Atkins, J. de Paula 著, 千原秀昭ら訳, (東京化学同人, 2016) シラバス本・431/832/J/S

『現代物理化学』寺嶋正秀ら著, (化学同人, 2015) シラバス本・431/966//S

自宅からも使える電子資料の紹介

Maruzen eBook Library (MeL) 0h-Meiji のクラスウェブの授業内容・資料でリンクを紹介

7. 課題に対するフィードバックの方法

前回の演習問題について、授業の開始時に小テストを行なった後、解説します。中間試験の解答は0h-o! Meijiを通じて配信し、自己採点訂正レポートの提出を求めます。

8. 成績評価の方法

学期末試験60%と平常点(小テスト・中間試験等)40%で評価します。

9. その他

食品研究室（5号館，503号室）オフィスアワー：特に設けていませんが、質問があれば気軽に研究室に来て下さい。

科目ナンバー (AG)AGC211J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 植物栄養学	2 単位	田畑亮
2017～2021年度入学者 植物栄養学		

1. 授業の概要・到達目標

植物は移動ができず外的条件の影響を受けやすいが、一方で気象環境の変化によく対応できます。この授業では、こうした植物をとりまく環境条件のうち、植物が必要とする水と無機栄養素の種類と濃度や、その吸収と分配の仕方について述べます。

植物栄養学の知識に基づいて、栽培管理がシステム化されている植物工場（養液栽培法）についても理解を深めます。

2. 授業内容

- 第1回：授業内容の紹介（全編（第1回～第12回）の紹介）
- 第2回：生命の定義（生きているということ）
- 第3回：生命の発生と植物の誕生（原始地球での元素と生命誕生）
- 第4回：光合成と植物の無機栄養（光合成の電子伝達系と元素）
- 第5回：植物の進化（コケから高等植物へ：吸水をめぐって）
- 第6回：窒素代謝（根での窒素吸収と葉でのアミノ酸合成）
- 第7回：窒素栄養資源（人工アンモニア合成法）
- 第8回：植物の構成成分（成分の欠乏と過剰）
- 第9回：植物の栄養吸収とストレス（植物の栄養診断法）
- 第10回：有機栄養と無機栄養（有機農法と植物工場）
- 第11回：養液栽培の基礎知識（培養液組成）
- 第12回：施設栽培から植物工場へ
- 第13回：植物栄養学の先達（科学史）
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

植物環境制御学（3年次）の基礎となるので、この分野に興味がある学生は2年次のうちに履修をおえておくことが望まれます。この授業は対面実施を予定していますが、大学の活動制限指針によってはウェブ履修となる場合もあります。

大学から「自宅受講配慮者」の認定を受けている学生には、別途、レポートの提出を求めます。

質問のある場合は、学生各自の大学アドレスから nakakazu@meiji.ac.jp あてへ連絡をください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

生物（植物）の進化の歴史を予習しておくとうい。毎回の授業資料を授業前日までにクラスウェブで配信するので、必ず閲覧（遅くとも授業の翌々日までに）すること。閲覧がない場合には、減点する場合があります。

5. 教科書

とくに定めない。

6. 参考書

- 『人を健康にする施肥』 国際植物栄養協会（農文協）
- 『たべて、たべられて、まわる』 高橋英一（研成社）
- 『栄養学の窓からながめた生物の世界』 高橋英一（研成社）
- 『ここまでわかった作物栄養のしくみ』 高橋英一（農文協）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

成績は対面での定期（期末）試験（60%）と対面授業中の小テスト（2～4回で不定期：合計40%）の合計点によります。また、クラスウェブ内の授業資料の閲覧がない場合には、1ファイルについて2点程度の減点もあります（予習または復習をお願いします）。

定期試験を欠席した場合には、早急に農学部事務室へ追試験の申請（理由を説明できる文書も）をしてください。受理が必要です。

一方、授業中に行う小テストを欠席した場合には、速やかに、書類「やむを得ぬ理由を確実に証明できる書類（病院・薬局や鉄道運営者などの発行）」のコピーを添付して、学生固有の大学アドレスから中林までメールをください。また実施日から10日以内に、500字から750字以内で作成した2課題のレポートを作成して提出いただきます（合計1000字から1500字）。詳細はシラバスの補足をご覧ください。

9. その他

オフィスアワー：授業の後か、水曜と木曜の昼休みが望ましい。

植物環境制御学研究室；5号館505号B室

メールアドレス nakakazu@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0231J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
細胞生物学(農化)

2017~2021 年度入学者
細胞生物学(化)

2 単位

中北智哉

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生物個体は多くの細胞からできている。生体が恒常性を維持するためには、細胞・臓器・器官が連携してはたらかなければならず、さまざまな物質と情報のやりとりが必要となる。この講義では、細胞の構造、細胞内・細胞間の物質移動、細胞間・細胞内シグナル伝達について、主に動物細胞をモデルとして解説する。

《到達目標》

細胞の構造、細胞内・細胞間の物質移動、細胞間・細胞内シグナル伝達の基礎について理解することを到達目標とする。

2. 授業内容

細胞の組成と組織

- ・細胞膜
- ・細胞骨格
- ・細胞間結合

細胞の物質授受

- ・細胞膜の物質輸送
- ・細胞内タンパク質輸送
- ・細胞内小胞輸送

細胞のシグナル伝達

- ・核内受容体の細胞内シグナル伝達
- ・G タンパク質共役型受容体の細胞内シグナル伝達
- ・酵素共役型受容体の細胞内シグナル伝達

細胞のライフサイクルについて

- ・細胞周期
- ・がん化とその制御

3. 履修上の注意

各回の講義終了時に小テストを行う。小テスト回答時に講義への質問・コメントも受け付ける。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、クラスウェブ等に提示された資料の該当箇所を読んでおくこと。復習として、資料及び参考書の該当箇所を読み、不明な点は質問すること。

5. 教科書

指定しない。

6. 参考書

『Essential 細胞生物学 原書第 5 版』中村桂子・松原謙一監訳（南江堂）

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストと演習問題の解説および質問・コメントへのフィードバックは、翌週の授業までに Oh-o! Meiji のクラスウェブに掲載、あるいは Oh-o! Meiji から個別に行う。

8. 成績評価の方法

定期試験（60%）と小テスト（40%）の結果で評価する。

9. その他

講義に関する質問は随時受け付ける。

食品機能化学研究室（5号館 603号室、石丸研）

E-mail: t_nakagita@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BPH211J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
物理学(力学・熱力学)

2017～2021年度入学者
物理学(力学・熱力学)

2単位

鈴木博実

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

物理学は自然科学の中で最も基礎的な学問のひとつであり、様々な科学技術の基礎となっています。この授業では物理学の基礎的な知識の理解を図るとともに物理学を学ぶ上で必要な演繹的思考に親しみ、様々な問題を解決する際の考え方の取得を目指します。

《授業の概要》

力学、弾性体及び熱力学を中心に、基本的な物理の言葉としての数式と、それが持つ物理的な意味について講義を行います。
また、各單元ごとに小テストを行い、理解度の確認を行います。

2. 授業内容

- 第1回：講義内容の紹介、必要となる数学的知識（ベクトル、微分、積分）の復習、直線運動
- 第2回：力、力の釣合い
- 第3回：運動の法則、一様な重力場での運動
- 第4回：仕事、ポテンシャル
- 第5回：力学的エネルギー
- 第6回：運動量と力積、運動量保存則
- 第7回：角運動量、円運動
- 第8回：剛体の釣合い、剛体の運動
- 第9回：固定軸を持つ剛体、剛体の平面運動
- 第10回：弾性体、ばねの振動、弾性率
- 第11回：定常流、ベルヌーイの法則
- 第12回：温度と熱、状態方程式
- 第13回：熱力学の第一法則、カルノーサイクル
- 第14回：熱力学の第二法則、不可逆反応

3. 履修上の注意

- 基礎物理学を履修（あるいは同時履修）していることが望ましい。
- 練習問題をきちんと解けるようにしておくこと（なぜ解答のような式が成立するかを理解すること）。
- 小テストで理解度をチェックする。
- 物理学（電磁気学・光学）（旧カリキュラム物理学 II）と共に履修することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した問題を解けるように復習しておくこと。

5. 教科書

『第5版物理学基礎』原康夫著（学術図書出版社、2016年）

6. 参考書

- 『物理学へのガイド』田辺行人、塚田昌甫共著（裳華房、1995年）
- 『Essential 物理学』阿部龍蔵著（サイエンス社、2003年）
- 『高校と大学をつなぐ穴埋め式 力学』藤城武彦、北村照幸共著（講談社、2011年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

- 練習問題については、次回の講義で黒板で解答してもらい、答え合わせを行う。
- 小テストについては、翌週に採点したものを返却する。
- なお、間違った問題についてはレポートとして翌週以降に提出してもらい、それを添削して返却する。

8. 成績評価の方法

学期末試験 60%、小テスト 30%、平常点（授業参加・貢献度）10%で評価する。

9. その他

- 生物物理学研究室（6号館3階 6-309A号室）
- オフィスアワーは特に指定しません。質問等があれば研究室に来てください。

科目ナンバー (AG)BPH221J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 物理学(電磁気学・光学)	2 単位	鈴木博実
2017~2021 年度入学者 物理学(電磁気学・光学)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

物理学（力学・熱力学）（旧カリキュラム物理学 I）で学んだ内容を深め、物理学を学ぶ上で必要な演繹的思考に親しみ、様々な問題を解決する際の考え方の取得を目指します。

《授業の概要》

電磁気、波、光、相対性理論などを学習し、様々な測定装置等で利用されている物理学の原理の理解を図ります。

各単元終了に小テストを行い、理解度の確認を行います。

2. 授業内容

第 1 回：クーロンの法則、電場

第 2 回：ガウスの法則

第 3 回：電位

第 4 回：導体、静電誘導、キャパシター

第 5 回：誘電体、誘電率

第 6 回：直流、オームの法則、キルヒホッフの法則、ジュール熱

第 7 回：磁荷と磁場、磁気双極子、磁性体

第 8 回：電流と磁場、アンペールの法則

第 9 回：電磁誘導、インダクタンス、交流回路

第 10 回：磁場のエネルギー、磁場の基礎方程式

第 11 回：マクスウェルの方程式、電磁波

第 12 回：波の性質、定在波、音波

第 13 回：光の反射・屈折、干渉

第 14 回：ローレンツ変換、質量とエネルギー、相対性理論

3. 履修上の注意

物理学（力学・熱力学）（旧カリキュラム物理学 I）を履修していることが望ましい。

練習問題をきちんと解けるようにしておくこと。

小テストで理解度をチェックする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した問題を解けるように復習しておくこと。

5. 教科書

『第 5 版物理学基礎』原康夫著（学術図書出版社、2016 年）

6. 参考書

『物理学へのガイド』田辺行人、塚田昌甫共著（裳華房、1995 年）

『Essential 物理学』阿部龍蔵著（サイエンス社、2003 年）

『高校と大学をつなぐ穴埋め式 電磁気学』遠藤雅守、榎田淳子、北林照幸、藤城武彦共著（講談社、2011 年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

練習問題については、次回の講義で黒板で解答してもらい、答え合わせを行う。

小テストについては、翌週に採点したものを返却する。

なお、間違った問題についてはレポートとして翌週以降に提出してもらい、それを添削して返却する。

8. 成績評価の方法

学期末試験 60%、小テスト 30%、平常点（授業参加・貢献度）10%で評価する。

9. その他

生物物理学研究室（6 号館 3 階 6-309A 号室）

オフィスアワーは特に指定しません。質問等があれば研究室に来てください。

科目ナンバー (AG)STA191J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 基礎生物統計学(農化)	2 単位	大森宏
2017~2021年度入学者 基礎生物統計学(化)		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物学・農学の理論や仮説などのモデル世界と、実験ないしデータの現実世界との関係を認識し、生物科学の基本として、確率モデルを用いた統計分析の必要性を理解すること。また、実験・データの背後にある生物の実態を想像する習慣を身につけること。

《授業の概要》

自然現象と生物学（科学）モデルの食違いを説明するための確率モデルの役割、科学的推論としての推定・検定法などについて解説する。背景には難しい数学も含まれているが、図や表でなんとなく理解できればよいことが多い。

2. 授業内容

- 第1回 生物統計学とは何か
- 第2回 現実世界と科学モデルの関係
- 第3回 メンデルの遺伝実験と確率モデル
- 第4回 確率変数と2項分布
- 第5回 2項分布による確率の計算
- 第6回 珍しいできごとと『モデルの真偽』
- 第7回 大標本での近似計算
- 第8回 離散分布に対する近似関数の補正
- 第9回 計数データとよく使われる離散確率分布
- 第10回 確率分布の性質
- 第11回 適合度検定と正確な検定
- 第12回 生物学・農学データの種類
- 第13回 計量データの特性
- 第14回 基本統計およびヒストグラム
- 第15回 計量データの分析例

3. 履修上の注意

精度の高い実験の設計方法（実験計画法）や、さまざまな実験データの具体的な分析方法を理解するためには、秋学期の『応用生物統計学』も履修していただきたい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

プリントの内容に全て目を通し、必ず復習すること。

5. 教科書

適当な教科書がないので、講義中に配布するプリントを使って説明する。

6. 参考書

講義の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

主として試験の点数による。講義中に行う演習レポートの提出状況と内容によって、加点することがある。

9. その他

メールアドレス：hihiomori@gmail.com

ホームページ：[url]http://lbn.ab.a.u-tokyo.ac.jp/~omori/meiji/[/url]

科目ナンバー (AG)AGC351J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
食品生化学

2単位

竹中麻子

2017~2021年度入学者
食品生化学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

食品成分の中には、三大栄養素（炭水化物・脂質・タンパク質）以外にも、三大栄養素の代謝を助けるはたらきをもつビタミン・ミネラルや、おいしさに関わるはたらきをもつ成分が含まれている。この講義では、こうした食品成分の構造や性質について学ぶ。まず、ビタミン・ミネラルの構造・性質・作用について解説し、さらに食品のおいしさに関わる成分（色、味、香り成分）の構造と性質についても解説する。「食品化学」に続けて学ぶ科目として位置づけられる。

《到達目標》

ビタミン・ミネラルおよび美味しさに関わる食品成分（色、味、香り成分）の構造・性質・はたらきを理解することを到達目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：脂溶性ビタミン（ビタミンA, D）
- 第3回：脂溶性ビタミン（ビタミンE, K）
- 第4回：水溶性ビタミン（ビタミンB1、B2、B6、ナイアシン）
- 第5回：水溶性ビタミン（パントテン酸、ピオチン、葉酸、ビタミンB12、C）
- 第6回：ミネラル（カルシウム、マグネシウム、リン、ナトリウム、カリウム）
- 第7回：a ミネラル（鉄、亜鉛） b 栄養機能食品
- 第8回：食品中の色素成分（ポルフィリン色素、カロテノイド色素）
- 第9回：食品中の色素成分（フラボノイド色素、その他の色素）
- 第10回：a 色素の褐変 b 味のイントロダクション
- 第11回：食品中の味成分（甘味、酸味、塩味）
- 第12回：食品中の味成分（苦味、うま味、その他の味）
- 第13回：食品中の香り成分
- 第14回：総括

3. 履修上の注意

「食品化学」を受講していることが望ましい。
各回の講義終了時に小テストを行う。小テスト回答時に講義への質問・コメントも受け付ける。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、教科書およびクラスウェブ等に提示された資料の該当箇所を読んでおくこと。復習として、教科書及び資料の該当箇所を読み、不明な点は質問すること。

5. 教科書

『わかりやすい食品化学（第2版）』吉田勉・監修、早瀬文孝・佐藤隆一郎編著（三共出版）

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説および質問・コメントへのフィードバックは、翌週の授業までに0h-o! Meijiのクラスウェブに掲載、あるいは0h-o! Meijiから個別に行う。

8. 成績評価の方法

定期試験（60%）と小テスト（40%）の成績で評価する。

9. その他

講義に関する質問は随時受け付ける。
食品生化学研究室（5号館602号室）
E-mail: takenaka@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGC351J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 栄養生化学	2 単位	金子賢太郎
2017～2021年度入学者 栄養生化学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

私たちは食品に含まれる栄養素を摂取することで生命活動を維持している。栄養素は糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルに大別され、五大栄養素と呼ばれる。さらに糖質、脂質、タンパク質は生体内で代謝されることによりエネルギーを作り出せることからエネルギー産生栄養素（三大栄養素）として知られる。本講義では、私達の日常の活動を支える三大栄養素の巧みな消化・吸収・代謝・生理機構について細胞レベル、分子レベル、個体レベルで解説します。特に本講義では、カラダの視点も踏まえて、食・栄養素の機能を捉えるとともに、栄養（生体恒常性の維持）のために摂取された栄養素について、内分泌や代謝の観点も踏まえて考えていきます。

《到達目標》

本講義では摂取した栄養素の生体内において代謝される化学的変化の仕組みについて理解を深め、さらに、ホルモンや視床下部におけるエネルギー恒常性維持機構、内分泌代謝機構、栄養素や食品由来機能性成分の持つ生体調節機能、生活習慣病や加齢との関わりについて正確な知識を得ることで、食品や食品由来栄養シグナルの持つ生体調節機能に対する理解を深めることを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
 - 第2回：栄養に関わる諸問題と食品の機能、食欲制御
 - 第3回：消化と吸収について全般的に
 - 第4回：糖質：消化・吸収・グルコース代謝
 - 第5回：糖質：血糖値の調節機構
 - 第6回：脂質：消化・吸収・分布・代謝
 - 第7回：脂質：ケトン体・コレステロール・エイコサノイド
 - 第8回：タンパク質：消化・吸収・代謝
 - 第9回：タンパク質：ペプチドホルモン
 - 第10回：全身レベルのエネルギー収支
 - 第11回：脳における食欲制御機構
 - 第12回：栄養成分と生体調節機能
 - 第13回：生活習慣病との関わり
 - 第14回：総括
- 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

「栄養科学」を受講していることが望ましいですが、基礎から概説するため、特に注意点はありません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料やノートにより復習を行うこと。

5. 教科書

特に指定しません。講義はプリントを配布して行います。

6. 参考書

- 『エッセンシャル栄養化学』佐々木努・編著（講談社）
- 『もっとよくわかる！食と栄養のサイエンス』佐々木努・編（羊土社）
- 『Introduction to Nutrition and Metabolism』（CRC Press）

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義中に課題に対して解説を行います。

8. 成績評価の方法

定期試験を中心として、小テスト・課題・平常点などにより総合的に評価します。

9. その他

講義に関する質問等は随時受け付けます。
メール（kanekok@meiji.ac.jp）での問い合わせ、もしくは、金子の居室（栄養生化学研究室：5号館6階606室）まで気軽にお越しください。

科目ナンバー (AG)AGC291J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 食品衛生学	2 単位	長田恭一
2017~2021 年度入学者 食品衛生学		

1. 授業の概要・到達目標

食の多様化に伴い、我々は多くの加工食品あるいは輸入食材を摂取することが日常的になっている。このような食環境下で、人体に影響がないように、食の安全性を確保しなければならない。本講義では、食品衛生行政、食品工場の設計、二次汚染防止策、食品の腐敗指標、微生物やウイルスによる食中毒について詳しく解説する。

現在の日本の食品衛生の行政ならびに食中毒の基礎について理解することを到達目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：食品衛生学の目的とリスク分析
- 第2回：食品衛生行政
- 第3回：食品衛生行政と食品表示
- 第4回：異物混入と衛生動物
- 第5回：食品工場設計と二次汚染防止について
- 第6回：食品の腐敗とその測定指標
- 第7回：食品と微生物
- 第8回：国内の食中毒発生状況
- 第9回：サルモネラ食中毒症
- 第10回：腸炎ビブリオ食中毒と黄色ブドウ球菌による食中毒
- 第11回：ボツリヌス菌による食中毒、腸管出血性大腸炎による食中毒
- 第12回：ウエルシュ菌、カンピロバクターによる食中毒、その他の食中毒細菌について
- 第13回：ノロウイルスによる食中毒と肝炎ウイルスについて
- 第14回：ウイルスに関する最新の話

3. 履修上の注意

微生物学を履修し、よく理解しておくことを希望します。

公務員あるいは食品関連企業の技術職で食品衛生監視員、管理者になることを希望する場合は必須となります。

食品衛生監視員として公務員受験を志望される方には、専門分野の試験内容の40%以上を占めることをお知らせします。

なお、本年度も外部講師を招聘（東海大学医学部 野田先生）し、コロナウイルスを中心にウイルス学の基礎について学習する予定です。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義では毎回レジュメを配布します。また、2回目からは重要事項を講義最初にまとめますので復習して下さい。また、食中毒に関するニュース等に興味をもってください。

5. 教科書

2019年度より資料については教科書を使用しています。

教科書：東京化学同人：新スタンダード栄養・食物シリーズ8 食品衛生学第2版（一色賢司編）

6. 参考書

医歯薬出版：新食品衛生学要説

その他有り

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テスト実施の場合は解答の解説をする。

期末試験についてはO-Meijiを通じて正答を公表する。

8. 成績評価の方法

定期試験により評価する。合格は60点以上である。

3-4回不定期に出席調査をする。授業参加評価としてプラス評価にのみ利用する。

外部講師招聘時にはレポートを課し、10%程度の評価点を加算する。

9. その他

受講態度に応じて試験難易度を変えています。

講義内容について相談等があれば対応します。講義後に連絡してください。

科目ナンバー (AG)AGC351J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
食品機能化学

2017～2021年度入学者
食品機能化学

2 単位

石丸喜朗

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

食品成分のタンパク質、脂質、炭水化物、ポリフェノール、色素などの3次機能（生体調節機能）について講義する。

《到達目標》

体の仕組みを理解するとともに、食品機能について化学的知識および生化学的知識を身につけ、応用力をつけること。機能性食品などの近年問題となっている効能、安全性について正確な知識を得るとともに正しい情報を社会に発信する。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション（食品機能学の展開）
- 第2回：味覚と嗅覚の受容機構
- 第3回：ミネラルの吸収促進成分、血糖上昇抑制成分
- 第4回：抗肥満および脂質異常症の予防改善作用成分
- 第5回：腸内環境を整える成分
- 第6回：骨・歯の健康と骨粗鬆症・う蝕予防成分
- 第7回：抗疲労効果成分、活性酸素と抗酸化成分
- 第8回：高血圧と降圧作用成分
- 第9回：脳・神経系の機能に関与する成分
- 第10回：免疫と免疫機能活性化・調節成分
- 第11回：アレルギーと抗アレルギー作用成分
- 第12回：がんと抗がん作用成分
- 第13回：抗菌成分、食品機能研究の新展開
- 第14回 a：試験
b：講義全体のふりかえりと試験の正答解説

3. 履修上の注意

食品化学、生化学 I, II, 有機化学 I, II を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、シラバスに従って教科書の該当部分を予習し、理解できない部分があれば授業で質問すること。復習として、教科書及び参考書の該当部分を読むこと。

5. 教科書

『わかりやすい食品機能学』森田英利他編著（三共出版）

6. 参考書

『食品学 食品成分と機能性』久保田紀久枝他編（東京化学同人）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験（90%）と授業への貢献度（10%）で評価する。

9. その他

食品機能化学研究室（第一校舎 5号館 6階 603号室）

科目ナンバー (AG)AGC351J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 食品工学	2 単位	中村卓
2017～2021年度入学者 食品工学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標》

食品分野において工業的に製品を製造する際の基礎知識を学びます。特に、プロセス単位操作の工学的な考え方を習得し、食品素材と加工食品の製造工程を理解することを目的とします。さらに食品開発の目標の一つである「おいしさ」について理解します。

《授業の概要》

「ものづくり」においてプロセスの妥当性を判断するには、原料から製品に至るまでの段階を分解して技術単位（単位操作）で考え、その技術単位への投入量と排出量からエネルギー収支・物質収支を定量的に考える必要があります。また、食品素材と加工食品について実際の製造工程をまじえながら「ものづくり」について学びます。さらに、食品開発のターゲットである「おいしさ」の捉え方・考え方について学びます。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション：授業の進め方・成績評価

ものづくり：定量的に考える：式・単位、全体として考える：弾性・粘性(レオロジー)、分けて考える：損益分岐点・ボイラー

第2回：割って考える：スケールアップ・無次元化、足して考える：粘弾性

基本概念と装置

第3回：物質移動：エネルギー保存：ベルヌーイの定理・レイノルズ数：ポンプ

第4回：熱移動：伝熱：伝導フーリエの法則・対流ニュートンの冷却法則：熱交換機

第5回：殺菌：菌の耐熱パラメーターD値、Z値、F値：殺菌機・サニタリー仕様

第6回：乳化：o/w, w/o(転相・相分離)・ストークスの式・攪拌：乳化機

食品素材と生産設備

第7回：小麦粉：種類・粉碎・篩・粉体トラブル・粉体製品・グルテンタンパク質ネットワーク構造

第8回：油脂：種類（液体・固体（相転移・結晶型/チョコレート））・加工

第9回：糖類：澱粉（相転移・糊化老化）・甘味料種類・バイオリアクター・クロマト分離

加工食品の製造装置と計算問題

第10回：乳製品：牛乳・ヨーグルト・チーズ 小麦製品：麺類・パン類 飲料：お茶・コーヒー・野菜ジュース

第11回：魚畜肉製品：蒲鉾・ハム 大豆製品：豆乳・豆腐・納豆 菓子製品：アイス・チョコレート・クッキー

おいしさの捉え方・考え方

第12回：脳科学：知覚（生理学）・認知（心理学） 五感：視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚

第13回：官能評価：統計処理 食品：風味・食感 / 食品開発への展開

まとめ

第14回：「ものづくり」：制御システム・生産工学・サニタリーシステム

：総括：プロダクトアウトからマーケットインへ R&D&M, B to B to C

3. 履修上の注意

毎回の授業の最初に前回授業の提出課題の解説から始めます。その後、その回の講義内容を説明しながら質問します。また、例題を解きます。最後に、提出課題を説明します。工学的な考え方を習得するためには、授業を聴くだけでなく、自分で考え問題を解き、解説を聞いて確認することが最も効果的です。食品開発（ものづくり）に興味のある学生に履修を勧めます。なお、進行状況によっては順番・内容を変更する場合もあります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

食品化学・細胞生理学・物理化学を前提としています。復習として授業中に出された提出課題を解いて Oh-o! Meiji を通じて提出する必要があります。解答解説を聞いてなぜ間違えたかを追加提出します。

5. 教科書

教科書は指定しません。授業の中で資料を配布し、参考書を紹介します。

6. 参考書

『基礎食品工学』（建帛社 1996年）生田図書館開架 588/510/

『食品工学・生物化学工学』（丸善 1999年）開架 588/479/

『化学工学の計算法』（東京電機大学出版社 1999年）開架 571/333//

『図解食品加工プロセス』（工業調査会 2003年）開架 588/542/

『食品工学入門：食品を造る基礎科学』（カルチュレロード, 2014.2）開架 588/683/

『食品工学ハンドブック / 日本食品工学会編』（朝倉書店, 2006.1）開架/R588/79/

『レオロジーの世界：基本概念から特性・構造・観測法まで』/尾崎著 428.3/49//S

『食品物性用語辞典』/種谷真一 [ほか] 共著 R498/87//S

『食品とテクスチャー』 / 川端晶子編著 498.5/515-4//S
『澱粉科学の事典』 / 不破編 588.2/3//S
『食品多糖類』 / 国崎直道 [ほか] 共著 498.5/429//S
『製菓用油脂ハンドブック』 / 蜂谷巖著 R576/44//S
『スタンフォード神経生物学』 / Liqun Luo 著 柚崎ら監訳 491.3/1153/B/
『カンデル神経科学』 Eric R. Kandel ら編 (2022) 491.3/1017/E/S

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の初めの解説に加え、Oh-o! Meiji を通じても行います。

8. 成績評価の方法

毎回の課題提出と学期末評価を行います。成績は平常点（提出課題等）70%と学期末評価30%で判定（予定）を基本としますが、詳細は初回の授業で解説します。

9. その他

食品工学研究室（第1校舎5号館5階503A室）オフィスアワーは特に指定しませんが、質問があれば気軽に研究室に来てください。

科目ナンバー (AG)AGC321J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
発酵食品学

2017～2021年度入学者
発酵食品学

2単位

山田千早

1. 授業の概要・到達目標

様々な発酵食品の製造原理を知り、発酵食品の栄養価・保存性などの特徴、および健康への寄与などについて理解することを到達目標とする。特に、どのような微生物が関与して発酵食品ができるかに注目する。現在では健康志向の高まりの中で、発酵食品を特定保健用食品や機能性食品として捉えることが多くなった。そのためには腸内細菌と健康の関係、さらにプロバイオティクスについての正しい理解が必要であり、それらを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：ガイダンス：多様な発酵食品と発酵文化について
 - 第2回：発酵食品を作る微生物の役割 全体の概要
 - 第3回：チョコレート：(株)明治 宇都宮先生
 - 第4回：乳酸菌とヨーグルト：(株)明治 山本先生
 - 第5回：プロバイオティクスと腸管免疫：理化学研究所 成島先生
 - 第6回：チーズ：(株)明治 渡邊先生
 - 第7回：醸造の概略 日本酒
 - 第8回：ビール：アサヒホールディングス(株) 鈴木先生
 - 第9回：ワインなどのアルコール飲料
 - 第10回：酢：東京大学 新井先生
 - 第11回：味噌
 - 第12回：醤油：キッコーマン(株) 伊藤先生
 - 第13回：納豆・漬物
 - 第14回：魚の発酵食品、その他の発酵食品(バニラなど)
- 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

履修前提科目 「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

不明な点や理解できない点を拾い出して参考書などで調べる。また質問として準備すること。

5. 教科書

・講義資料 PDF 版 Oh-meiji を介して 印刷物の配布は行わない

6. 参考書

- 『発酵食品』(小泉武夫著、講談社)
- 『47都道府県・発酵文化百科』(北本勝ひこ著、丸善出版)
- 『日本の伝統 発酵の科学』(中島春紫著、ブルーバックス)
- 『乳酸菌とビフィズス菌のサイエンス』(京都大学学術出版会)
- 『“進化している発酵食品”学』佐々木著(明治大学出版会)

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を介して

8. 成績評価の方法

授業への参加度(紙のリアクションペーパーによる出席点と毎回講義後に Oh-meiji を介して課題の提出)100%
定期試験は行わない

9. その他

スケジュールは外部講師の都合により変更の可能性があります。
講義に関する質問等は随時受け付けますが、不在の時もあるので、来室の際はあらかじめメールをください。
メールでの質問も受け付けます。
発酵食品学研究室(5号館6階601号室)
E-mail: chihaya@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGC341J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
天然物有機化学

2単位

荒谷博

2017~2021年度入学者
天然物有機化学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

様々な天然有機化合物の構造と生合成経路を有機化学的に理解することを目的とする。
本講義の内容を理解することにより、ある天然有機化合物が示されたとき、その構造的長から生合成経路を予測できるようになる。
なお、生合成経路をしっかりと理解するためには有機化学反応を正しく理解していることが重要である。
また、本講義では食品衛生に関わる数多くの天然有機化合物を学ぶので、食品衛生に係わる職に就くことを考えている者は履修することが望ましい。
《授業の概要》
様々な天然有機化合物について、構造、生合成、生物活性等について解説する。

2. 授業内容

概ね以下のように講義を進める。

- 第1回：天然物有機化学とは？序論および抽出、単離・精製法
- 第2回：有機化合物の構造決定法、立体化学、天然有機化合物の単離例
- 第3回：生合成概要
- 第4回：ポリケチド
- 第5回：脂質
- 第6回：テルペノイド (1)
- 第7回：テルペノイド (2)
- 第8回：シキミ酸経路
- 第9回：フラボノイド、ファイトアレキシン
- 第10回：アミノ酸、アルカロイド
- 第11回：植物ホルモン
- 第12回：昆虫ホルモン、フェロモン
- 第13回：生物間作用物質 (1)
- 第14回 a: 生物間作用物質 (2)
- b: 全講義の総括

3. 履修上の注意

農芸化学科の専攻科目であり、3年次以降に履修が可能である。有機化学および生化学の理解を深めておくこと。秋学期科目の「ケミカルバイオロジー」の基礎となる内容が多く含まれているので、ケミカルバイオロジーを履修予定の学生は本科目を履修することを勧める。
本講義では食品衛生に係わる数多くの天然有機化合物を学ぶので、食品衛生に係わる職に就くことを考えている者も履修すべきである。
期末試験では手書きのA4用紙1枚のみ持ち込み可とする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

本科目をしっかりと理解するには、「有機化学」の基礎が必要である。事前に有機化学で学んだ内容を復習したうえで授業に挑むことが望ましい。基礎となる代表的な生合成経路の理解は必須である。
授業中に解説する代表的な化合物については、名称とおおよその構造的特徴をイメージできる程度に復習することが望ましい。

5. 教科書

複数の参考書等から必要な部位を抜粋した資料を配布する。

6. 参考書

- 『パートナー天然物化学 改訂第3版』海老塚ら著 (南江堂, 2016)
- 『マクマリー生化学反応機構 第2版』長野哲雄監訳 (東京化学同人, 2018)

7. 課題に対するフィードバックの方法

質問があれば、講義後もしくは研究室居室で対応する。

8. 成績評価の方法

学期末試験 80%, 平常点+レポートを 20%として評価する。
なお、平常点は出席状況や授業態度などを総合した評価である。

9. その他

天然物有機化学研究室 (5号館5階507A号室)

科目ナンバー (AG)AGC341J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 生物機能化学	2 単位	瀬戸義哉
2017～2021年度入学者 生物機能化学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物は多種多様な化学分子を作り出し、それらを用いて自分自身の成長を制御するだけでなく、化学分子を他生物との相互作用（コミュニケーション）に利用している。それらは、多くの場合、低濃度においてダイナミックな作用を示し、自然界においても重要な役割を担っている。また、われわれ人間は、それら生物が作り出す多様な化学分子を葉などの形で利用してきた。本講義では、生物が作り出すこれら生理活性物質について化学、かつ生物学的な視点から学ぶことを目的とする。生理活性物質を幾つかのカテゴリーに分類し、それぞれの中から幾つかの化合物をピックアップし化学構造的な特徴や、生物学的機能などについて概説する。自然界に存在する生理活性物質について基礎的な知識を身に着けることを目標とする。

《授業の概要》

生理活性物質のうち、特に植物や微生物にまつわるものをピックアップし、それらの機能を概説する。化学構造や、生合成、或いは信号伝達メカニズムなどの観点から、生理活性物質の機能を学ぶことを本講義における目的とする。随時、実際の研究成果などを紹介することも交えながら、生理活性物質について興味を持てるような内容を心掛けたい。講義内容をより深く理解する目的で、毎回、前回の講義内容についての小テストを実施する。

2. 授業内容

- 第1回：生理活性物質、生物活性物質について
- 第2回：植物ホルモン①オーキシン
- 第3回：植物ホルモン②サイトカイニン、
- 第4回：植物ホルモン③ジベレリン
- 第5回：植物ホルモン④アブシジン酸
- 第6回：植物ホルモン⑤エチレン
- 第7回：植物ホルモン⑥ジャスモン酸
- 第8回：植物ホルモン⑦ストリゴラクトン
- 第9回：植物ホルモン⑧その他の植物ホルモン
- 第10回：ファイトアレキシン、植物由来の生物活性物質
- 第11回：生物由来の毒分子
- 第12回：微生物由来の生物活性物質（抗生物質、薬用分子）
- 第13回：微生物のクオラムセンシング
- 第14回：a: 講義全体のまとめ
b: 期末試験について

3. 履修上の注意

講義は配布する資料に基づいて進める。講義後は資料に再度目を通し、復習することを勧める。教科書の指定はないが、参考書としてリストアップした『資源天然物化学』の13章以降の内容を参考に進めることを予定している。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

理解できない部分があれば授業中に質問するか、オフィスに来てください。

5. 教科書

特に指定しない

6. 参考書

- 『新しい植物ホルモンの科学』 浅見、柿本ら、(講談社)、2016年
- 『植物ホルモンの分子細胞生物学』 小柴ら、(講談社)、2006年
- 『資源天然物化学(改訂版)』 秋久ら、(共立出版)、2017年

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義の最後に小テストを実施し、次の週の講義の最初に解説を行う。

8. 成績評価の方法

成績は期末試験（およそ70%）と小テスト・出席などによる平常点（およそ30%）で評価します。

9. その他

植物制御化学研究室（第一校舎3号館306A室）
オフィスアワーは特に指定しません。質問・疑問があれば研究室に来てください。

科目ナンバー (AG)AGC341J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ケミカルバイオロジー

2017~2021 年度入学者
ケミカルバイオロジー

2 単位

久城哲夫

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

我々の身の回りの生物（とくに微生物や植物）が生産する有機化合物（天然物）を、生物がどのように生合成しているのかを解説する。特に、多様で複雑な構造を有するポリケタイドやテルペノイド化合物の生合成の原理と反応を中心に紹介する。また、たんぱく質の合成過程で遺伝暗号の翻訳を担うアミノアシル tRNA 合成酵素について、その機能や遺伝暗号の進化との関係を紹介し、最近解明されてきた新たな二次機能についても紹介する。

《演習の達成目標及びテーマ》

生命現象を化学レベルで扱うケミカルバイオロジーの視点を習得させることを目標とする。特に生体分子に関する化学や反応について十分に理解することを目指す。ケミカルバイオロジーは、従来の学問領域をまたぐ横断的な分野であり、学際的な視点を養うことが重要である。

2. 授業内容

第1回：ケミカルバイオロジーとは？

第2回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド1）

第3回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド2）

第4回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド3）

第5回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド4）

第6回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド5）

第7回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（ポリケタイド6）

第8回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（テルペノイド1）

第9回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（テルペノイド2）

第10回：天然物生合成のケミカルバイオロジー（テルペノイド3）

第11回：タンパク質翻訳系

第12回：アミノアシル tRNA 合成酵素

第13回：遺伝暗号の進化

第14回：アミノアシル tRNA 合成酵素の二次機能

3. 履修上の注意

農芸化学科の専攻科目であり、3年次以降に履修可能。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

有機化学の反応が多く登場します。有機化学 I と II の内容をしっかりと習得しておいて下さい。

5. 教科書

なし

6. 参考書

『マクマリー生化学反応機構』J. McMurry, T. Begley 著, 長野哲雄監訳, (東京化学同人, 2007)

『医薬品天然物化学』P. M. Dewick 著, 海老塚豊監訳, (南江堂, 2004)

『ケミカルバイオロジーの基礎』C. M. ドブソン, J. A. ジェラード, A. J. プラット著, 三原久和訳, (化学同人, 2004)

『基礎から学ぶ植物代謝生化学』水谷正治, 土反伸和, 杉山暁史編, (羊土社, 2019)

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義中の課題や小テストに関して、後の講義で解説を行うと共に、Oh-o! Meiji を通して個別のコメントを返却する。

8. 成績評価の方法

学期末試験と平常点で評価します。授業への貢献度 40%, 定期試験 60%。

9. その他

ケミカルバイオロジー研究室 (6号館, 406号室) オフィスアワー: 特に設けていません。いつでもどうぞ。

科目ナンバー (AG)AGC331J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
応用生化学

2 単位

島田友裕

2017～2021年度入学者
酵素化学

1. 授業の概要・到達目標

酵素は生体内で起こる化学反応を触媒するタンパク質であり、近年では、その機能に加えて化学構造の情報により分子として扱われるようになってきた。本講義では、酵素化学の基礎から応用までを講義する。また、酵素に関する様々な知識や解析法から利活用までを理解することを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：酵素とは
- 第2回：タンパク質としての物理化学的性質
- 第3回：酵素タンパク質の構造と解析法
- 第4回：酵素の立体構造
- 第5回：複合的な酵素系
- 第6回：酵素の精製
- 第7回：酵素活性の反応速度論
- 第8回：酵素の作用
- 第9回：酵素活性の調節
- 第10回：酵素の応用
- 第11回：酵素の遺伝子工学
- 第12回：酵素の探索、改変
- 第13回：酵素の安定化、固定化
- 第14回：総括

3. 履修上の注意

シラバスに沿って予習し、受講後は復習すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義中に理解できないときは、質問や復習をすること。

5. 教科書

毎回、プリントを配布する。

6. 参考書

『初めての酵素化学』第1版 井上國世 シーエムシー出版

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験の成績によって評価する。出席は毎回とり、評価に加える。

9. その他

質問は授業終了後または研究室にて受け付ける。
ゲノム微生物学研究室（3号館308A号室）

科目ナンバー (AG)AGC311J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 植物環境制御学	2 単位	田畑亮
2017～2021年度入学者 植物環境制御学		

1. 授業の概要・到達目標

植物を良好に育てるために、人々は水や光熱環境を調節・制御してきた。こうした技術の積み重ねを古代から現代までの歴史に沿って概説する。特に現代の施設園芸と植物工場における環境制御法については詳述する。

植物をとりまく様々な環境と、栽培技術の進歩や肥料資源の獲得方法について理解させ、この知識に基づいて、環境条件を調節・制御して作物生産を増進しうる植物工場についても理解を深める。

2. 授業内容

- 第1回：授業概要（一人分の必要面積が12haから4aへ）
- 第2回：火と水の制御（焼畑から灌漑農耕へ）
- 第3回：土地利用体系と有機肥料（二圃式から三圃式へ）
- 第4回：牧草と家畜（穀草式とノーフォーク（4輪）式農法）
- 第5回：有機肥料から無機肥料へ（家畜フンから鉱産物肥料へ）
- 第6回：無機肥料から化学合成肥料へ（窒素・リン酸・カリウム）
- 第7回：農業機械の発達（鉄と石油の時代へ）
- 第8回：施設園芸の発達（温室内の光と気温の調節）
- 第9回：植物工場での栽培環境制御（無土壌栽培法）
- 第10回：日本の農業の発展Ⅰ（古代～中世）
- 第11回：日本の農業の発展Ⅱ（近世～現代）
- 第12回：植物工場の実際
- 第13回：補足と種子標本づくり。
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

植物栄養学と土壌化学を履修済であることが強く望まれる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

農業技術は、地理や歴史と深く関わっている。あらかじめ、世界史（第2回～第7回配置）や、日本史（第10回、11回配置）を概観しておくこと、授業が楽しみになる。

毎回の授業資料を授業前日までにクラスウェブで配信するので、必ず閲覧（遅くとも授業の翌々日（日曜日23時））までにすること。

閲覧がない場合には、減点する場合があります。

5. 教科書

とくに定めなし。

6. 参考書

『肥料の来た道帰る道』 高橋英一（研成社）は新版がないが、入手できれば授業の全般的な参考書として興味深い。

『植物の成長と環境』 高倉直（農文協）は、第7回～9回の授業内容の参考になる。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験（60%）と小テスト（40%）による。

成績は対面での定期（期末）試験（60%）と対面授業中の小テスト（2～4回で不定期：合計40%）の合計点によります。また、クラスウェブ内の授業資料の閲覧がない場合には、1ファイルについて1点程度の減点もあります（予習または復習をお願いします）。

定期試験を欠席した場合には、早急に農学部事務室へ追試願いの申請（理由を説明できる文書も）をしてください。受理が必要です。

一方、授業中に行う小テストを欠席した場合には、速やかに、書類「やむを得ぬ理由を確実に証明できる書類（病院・薬局や鉄道運業者などの発行）」のコピーを添付して、学生固有の大学アドレスから中林までメールをください。また実施日から10日以内に、レポートを作成して提出いただきます。詳細はシラバスの補足をご覧ください。

9. その他

オフィスアワー：授業の後か、水曜と木曜の昼休みが望ましい。

植物環境制御学研究室：5号館505号B室

メールアドレス nakakazu@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGC381J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 環境分析化学	2 単位	安保充
2017～2021 年度入学者 環境分析化学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

各種機器分析法に必要な学習を行う。分析原理だけでなく、実際の分析例を挙げて説明し、研究に活用できる分析化学的知識の習得を目指す。

《授業の概要》

分析化学の中から分離分析、分光分析について解説する。分離分析では分離法の原理とその応用について、分光分析では電磁波の吸収・放射を利用して何を分析できるのかについて説明する。

無機成分の分析手法を中心に、一部有機成分の分析手法についても述べる。

2. 授業内容

第1回：分離分析（概説）、クロマトグラフィー（分配・吸着）

第2回：クロマトグラフィー（イオン交換）

第3回：クロマトグラフィー（ゲル濾過・アフィニティー）

第4回：クロマトグラフィーの理論、理論段数

第5回：ガスクロマトグラフィー（GC）

第6回：高速液体クロマトグラフィー（HPLC）

第7回：ゲル電気泳動、キャピラリー電気泳動（CE）

第8回：蛍光 X 線分析

第9回：原子吸光分析、炎光法

第10回：ICP 発光分析、ICP-MS

第11回：紫外可視吸光分析

第12回：蛍光分析

第13回：電解分析

第14回：検量線と検出限界

3. 履修上の注意

必修化学、物理化学の講義を受講していれば理解しやすい

参考書を利用すること

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で説明する資料は、講義の前後 1 週間程度 Oh!Meiji に掲示します。併せて掲示する練習問題や小テストで知識が身についているか確認すること。

5. 教科書

指定しない

6. 参考書

『分析化学 I, II, III』井村久則（ほか）著（丸善）

『分析化学 I, II』山口政俊（ほか）編集（南江堂）

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テスト課題に対するフィードバックは、紙ベースでコメントを返却し、講義中に全体講評を述べる。または、Oh!Meiji システムを使ってコメントを返却する。

8. 成績評価の方法

講義中の演習（30%）と期末の試験（70%）

9. その他

科目ナンバー (AG)AGC371J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
環境バイオテクノロジー
2017～2021年度入学者
環境バイオテクノロジー

2 単位

小山内崇

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物を利用した環境技術について理解することを目的とする。遺伝子、代謝、細胞の改変を行うバイオテクノロジーの基礎を習得し、また、エネルギーやプラスチックについて基礎的な解説を行い、バイオテクノロジーを利用した環境問題への取り組みについて考えていく。

《授業の概要》

遺伝子工学と代謝工学を中心に講義を行う。遺伝子と代謝の基礎を復習するとともに、最新の遺伝子工学・代謝工学を学ぶ。また、科学技術と環境および社会の接点について学んでいく。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
 - 第2回：遺伝子工学 I DNA・遺伝子の基礎 復習を兼ねて
 - 第3回：遺伝子工学 II 遺伝子改変の実際
 - 第4回：遺伝子工学 III 最新の遺伝子工学
 - 第5回：代謝工学 I 代謝の基礎 復習を兼ねて
 - 第6回：代謝工学 II 代謝改変の実際
 - 第7回：代謝工学 III 代謝工学とバイオプラスチック
 - 第8回：代謝工学 IV メタボロミクス
 - 第9回：環境とバイオテクノロジー I 基礎用語解説
 - 第10回：環境とバイオテクノロジー II バイオリファイナリー
 - 第11回：環境とバイオテクノロジー III バイオエネルギー
 - 第12回：科学と一般社会の関係 I 遺伝子組換え作物
 - 第13回：科学と一般社会の関係 II LCA, ESG など
 - 第14回：まとめと定期試験解説
- 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

単位取得に必須な課題や小テストがあることに留意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に分子生物学や生化学、環境分野の授業の復習をしておくが良い。

5. 教科書

教科書は指定しない。講義内容を解説するプリントを配布する。

6. 参考書

参考書は特に指定しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

課題、小テスト、平常点など（40%）、定期試験（60%）

9. その他

環境バイオテクノロジー研究室（3号館3階3-310号室）

E-mail: tosanai@meiji.ac.jp

メールでの質問を歓迎します。面会希望の場合はメールでアポイントメントをとることを推奨する。

科目ナンバー (AG)AGC321J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 微生物化学	2 単位	村上周一郎
2017~2021年度入学者 微生物化学		

1. 授業の概要・到達目標

これまでに人類は、生活を豊かにするために微生物のもつ様々な能力を利用して、必要な様々な物質を生産してきました。この講義では、「微生物による有用物質の生産」、特にアルコール発酵、乳酸発酵、アミノ酸発酵について、工業製品としてこれらの物質の生産することに焦点を絞って概説します。講義の中では、用いる微生物、その発酵プロセス、今後に向けての課題等を解説します。

最終的にこの講義を通じ、微生物による主要な物質生産方法を理解するとともに、応用面における微生物のもつ様々な可能性をイメージできるようになることを到達目標と考えています。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション—この授業で学ぶこと—
- 第2回：アルコール発酵-1（代謝経路）
- 第3回：アルコール発酵-2（糖質原料の利用）
- 第4回：アルコール発酵-3（糖化とデンプン質原料の利用）
- 第5回：アルコール発酵-4（植物繊維系原料の利用）
- 第6回：アルコール発酵-5（アーミング酵母の利用）
- 第7回：乳酸発酵-1（代謝経路と微生物）
- 第8回：乳酸発酵-2（発酵プロセス）
- 第9回：アミノ酸発酵-1（代謝経路）
- 第10回：アミノ酸発酵-2（直接発酵法）
- 第11回：変異処理による微生物の育種法
- 第12回：アミノ酸発酵-3（代謝制御発酵）
- 第13回：アミノ酸発酵-4（酵素法）
- 第14回 a：試験

b：試験の正答解説

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

講義内容を容易に理解するために、2年生秋学期開講の「微生物生理学」を受講することを希望します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

板書した内容と授業中に配付するプリントの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば参考書等に目を通しておくこと。

5. 教科書

特に定めません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

6. 参考書

『微生物学』 青木健次編（化学同人）

『発酵ハンドブック』（財）バイオインダストリー協会編（共立出版）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（10%）と期末テスト（90%）により評価します。

9. その他

特にオフィスアワーは設けませんが、質問等があれば研究室（3号館 3-304A）に来てください。

連絡先：smura@meiji.ac.jp, 044-934-7098

科目ナンバー (AG)AGC321J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
微生物遺伝学

2017~2021 年度入学者
微生物遺伝学

2 単位

前田理久

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本講義では、微生物の生理、生態の特徴を概観し、遺伝学については実践的に、微生物ゲノムについては詳しく取り扱う。また最先端の分子生物学的研究、さらには医学、農学、工学への応用を紹介し、将来を展望する。

《到達目標》

現代の分子生物学は急速な発展を遂げている。これらの基本的な概念の大部分は、微生物の研究からなされてきたものである。また、研究手法、新しい方法論の確立などにも多大な貢献をしている。

遺伝学の基本的な考え方とその利用、さらに微生物の可能性を知ることが目的とする。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション、微生物の惑星

第2回：微生物細胞の外部と内部

第3回：微生物細胞の増殖と分裂

第4回：微生物の代謝

第5回：燃料補給の生体エネルギー学

第6回：構成単位の合成

第7回：巨大分子の構築

第8回：細胞外被の構築

第9回：遺伝と情報の流れ

第10回：細胞工程の協調

第11回：環境中で成功すること

第12回：細菌における分化と発生

第13回：多様性：細菌と古細菌

第14回：元素循環

講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

微生物学、生物化学、分子生物学関連の講義は履修している方が望ましい。最も重要なことは興味を持って積極的に自分で勉強する姿勢である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予め、講義資料を配付するので、予習しておくこと。これらの資料は英語で書かれているので、予習は必須である。また、復習もきちんと行うことで理解が深まるので行うこと。

5. 教科書

適切な教科書がないので指定しない。講義資料は予め配布する。

6. 参考書

『microbe』 M. Schaechter 著 (ASM PRESS)

『Molecular Genetics of Bacteria』 L. Snyder 著 (ASM PRESS)

『Microbiology, an evolving science』 J. Slonczewski 著 (NORTON)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

小テストまたはレポート課題を課す。

評価は、学期末試験(70%)、小テストまたは課題(30%)を総合的に判断して行う。

9. その他

微生物遺伝学研究室 (5号館6階605号室)

オフィシアワー：金曜日 17:10~18:00

E-mail: mmaeda@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGC321J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
微生物生態学

2017~2021 年度入学者
微生物生態学

2 単位

中島春紫

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

地球上のさまざまな環境に生息する微生物の多様性および能力について実践的な知識を体系的に習得することを目標とする。種々の微生物について概説するとともに、乳酸菌、放線菌、酵母、糸状菌など人類と関わりの深い微生物について利用法および伝統的な発酵食品の製造法を含めて解説する。

《授業の概要》

多様な環境に生息する微生物の生態・種々の微生物に関する各論・微生物の研究法・微生物の利用法・遺伝子組換え技術と社会との関わりについて、実例を挙げて可能な限り簡明に講義する。

2. 授業内容

- 第1回：生物学を学ぶこと
- 第2回：微生物の生態と研究法
- 第3回：顕微鏡の科学
- 第4回：グラム陽性菌と陰性菌
- 第5回：乳酸菌と放線菌
- 第6回：エネルギー獲得と呼吸
- 第7回：原生生物
- 第8回：酵母の生態と利用
- 第9回：糸状菌の生態と利用
- 第10回：糸状菌とキノコ
- 第11回：抗菌治療
- 第12回：微生物と酵素
- 第13回：遺伝子組換えと社会
- 第14回 a：まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

「環境微生物学」と合わせて受講することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

微生物に関する基礎的な知識が前提となるので、必修の微生物学 I および微生物学 II の内容を復習しておくこと。配布したプリントの内容について、用語の解説を重点的に復習し、専門知識と専門用語を系統的に学習すること。

5. 教科書

教科書は指定しない。講義内容を解説するプリントを毎回配布する。

6. 参考書

- 「キャンベル生物学（第11版）」（丸善）
- 「マダー生物学（原書第5版）」S. S. Madar（東京化学同人）
- 「ベーシックマスター微生物学」（オーム社）
- 「ブラック微生物学 第3版」（丸善）
- 「エッセンシャル 土壤微生物学」南澤究、妹尾啓史（講談社）
- 「図解 微生物学入門」井上明・中島春紫（オーム社）
- 「発酵の科学」中島春紫（講談社ブルーバックス）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験の結果により評価する。出席状況を考慮する。

9. その他

講義に関する質問等は随時受け付ける。
微生物生態学研究室（5号館5階506号室）
E-mail: harushi@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) CBI351J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生命システム工学
2017～2021 年度入学者
生命システム工学

2 単位

芝清隆

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

「生命」を、その構成要素である「有機化合物」と、それらが相互作用して形成される「システム」の観点から理解する能力の獲得を目指す。最初に、タンパク質、脂質、糖などの細胞を作る物質、「有機化合物」の理解を確実にし、ついで、遺伝情報の複製・転写・翻訳、エネルギー獲得システムと生体膜の役割を教科書に沿って学ぶ。次に、より大きな視点での生命システムを、特にシステムのもつ、「強靱性」「階層性」「創発性」を生命の本質として理解していく。その結果、生物の進化や疾患をこれらの観点で理解できる能力が身につく。授業においては常に、時間軸を意識した説明をおこなう。時間軸としては、宇宙誕生からの 170 億年、生物誕生からの 40 億年、人類文化の誕生からの数千年、近代自然科学誕生からの数百年といった異なるスケールを織り交ぜていく。さらに、生命科学の最先端の研究を体感するために、各種公共データベースを授業中に実際に利用する演習も何回か予定している。タンパク質、脂質、糖などの細胞を作る物質、遺伝情報伝達の仕組み、生体膜、代謝や酵素反応なども基本的な項目は教科書に沿って講義を進めるが、教科書に書かれていない最近知見も紹介する。また、学習支援システムを活用しながら、受講者からのフィードバックも取り入れていく。

《達成目標及》

「これまでの教育過程で学んだ生物学の知識を基礎に、「新しい枠組みで生命をとらえる」視点を獲得することを目標とする。最終的に受講者が「今まで学んだことの復習となりました」と感じて終わる場合は、この授業が目標とするゴールには達していないことになる。「生命に対する新たな見方が身につきました」と終わるのが、本講義が狙う到達目標である。

2. 授業内容

第 1 回：「細胞と小部屋」

最初にイントロダクションとして 14 回の授業全体の概要を説明する。特に、この授業の目的、達成目標を明確にし、授業の進め方、その特徴、配点の方法、可否の判定方法を説明する。授業で用いる教科書、参考図書の紹介もおこなう。続いて、第 1 回の講義『生命階層の基本単位：細胞』を教科書の第 1 章に準じておこなう。ここでは、生物の構成単位としての細胞について、これまでに学んできたことを再確認する。その際、細胞がどのように発見され、認識されてきたかの科学史とかることで、新たな視点で細胞を識ることを目標とする。なお、2 回目以降の授業でおこなうネットワークを用いた小テストを 1 回目の授業でもおこなうが、システム操作の確認を主目的とするので、配点はおこなわない。また、教科書もまだ持参しなくてもよい。

第 2 回：「「分ける」ことと「まとめる」こと」

地球上には極めて多様な「形」と「機能」を備えた様々な細胞が無数に存在する。しかし、視点を変えれば、地球上の全細胞は、驚くほど似通った単純な構造（細胞）を有しているとも言える。この「多様性」と「同一性」を、「時間」を軸にとつて学んでいく。同時に、科学における、さまざまなものを「分ける」ことと、様々なものの中から「同一性を見いだす（まとめる）」ことの重要性を学んでいく。教科書の第 1 章相当部分。

第 3 回：「シンプルに複雑なものを作る」

細胞は多種多様な有機化合物が集まって構成される複雑かつ精密な構造体です。そして、これら細胞を構成する有機化合物も、さまざまな「形」と「機能」を持っています。同時に、細胞の時と同じように、これらの多様な有機化合物も「恐ろしく単純な原理で形成」されている。すなわち、水素、炭素、窒素、酸素、リン、イオウのたった 6 種類の元素が集めたものにすぎない。この有機化合物の「多様性」と「単純さ」を宇宙の誕生から現在までの長い「時間軸」をなぞって考え、世の中＝全宇宙システムがもつ「階層性」と「創発性」を学ぶ。教科書の第 2 章相当部分。

第 4 回：「水と油」

第 3 回の授業では、多様な有機化合物も、つきつめれば小数の元素の集まりにすぎないことを学んだが、限られた数のブロック単位が組み合わさることで、驚くべき多様な構造と機能を生み出すことができることも認識する必要がある。その名前を覚えるのがうんざりする生体有機化合物であるが、第 4 回の授業では「水」と「油」を視点に、有機化合物の発見の科学史とからめながら、わかりやすく多様な分子をまとめていきたい。教科書の第 2 章相当部分。

第 5 回：「ホムンクルス」

水素、炭素、窒素、酸素、リン、イオウのたった 6 種類の元素の集合から多様な有機化合物が形成され、それらがさらに高い階層が集合して細胞となり、生命となるということならば、試験管の中で、あれこれモノを混合することから新たな(デ・ノボ)に生命を作り出すことができるかもしれない、というのが中世の錬金術師が考えた「ホムンクルス」実験である。いままでのところ、デ・ノボに生命を創り出すことには成功していないが、生命が人智を超えた存在なのか、あるいは、物質の延長上に存在するものであるかについては、有史以降現在までわれわれの知的好奇心を強く惹きつけるエニグマである。第 5 回の授業では、古代哲学、近代科学の進展と共に成熟してきた、「生命の誕生と連続性」についての基本知識を身につけ、第 6 回以降での「生命情報」を考える知識基盤を身につけておく。教科書の第 3 章相当部分。

第 6 回：「1953」

物理学における「万有引力の法則」や「相対性理論」に匹敵する生物学上の大発見は何か？の問いに対する答えの 1 つに「1953 年の DNA の二重らせん構造の発見」があるかもしれない。この場合、美しい数式で法則を記述するのではなく、「DNA の分子構造」の中から、いろいろなことが読み解けるといったことが物理の法則とは異なる点である。1953 年の DNA 構造の解明の感動を追体験できれば、現代生物学の半分から三分の一は理解できてしまうのではと思えるほどの重要な発見といえる。授業では、20 世紀前半の物理、化学、生物学の動きが、どう分子生物学へと結晶していくかを時間軸と共に紹介し、1953 年当時の「二重らせん構造の発見」の驚きの追体験をめざす。教科書の第 3 章相当部分。

第 7 回：「物質と情報」

1953 年の DNA の二重らせん構造の発見を起点とし、20 世紀後半の分子生物学は急速に進展する。ここでは、受講者が既に過去の勉強で学んだであろう、「遺伝情報」の「複製」「転写」「翻訳」についての完璧な復習を、練習問題を交えながら進める。物質である有機分子が、どのように情報を蓄えて、それを伝え、また、変化させていくかを学ぶ。教科書の第 3 章相当部分。

第 8 回：「全ての細胞は細胞から生じる」

1953 年の DNA の二重らせん構造の発見の衝撃が凄まじかったために、DNA 至上主義的な流れも生まれたが、DNA（核酸分子）が主導権を握りながら生物が誕生したかどうかについては意見の分かれる点である。第 2 回目の授業で習ったように、現存する生物は全て、「驚くほど似通った単純な構造」をもつ細胞から構成されている。このことは、過去の生物の痕跡を辿っても変わらない。第 8 回の授業では、核酸分子を「包む」脂質膜の基本構造を復習しながら、生命における「区切る」ことの重要性を考えて行く。教科書の第 4 章相当部分。

第 9 回：「137 億年の連続性」

全ての細胞は細胞から生じるとはいうものの、40 億年ぐらいい前には、最初の細胞、あるいは、核酸分子が何かのきっかけで誕生したと考えるのが一般的である。生命の誕生が人智の及ばない出来事としておこったのか、あるいは、137 億年の宇宙の歴史の中で、自然な流れとしておこったのかは、証明する術

はないが、137 億年の宇宙の歴史を駆け足で辿ってみることで、受講者がこの問題を考える際の土台を固めていくことを目標とする。また、正確な理解が意外と難しい、「ダーウィンの進化論」についても、正しい知識をつけていく。教科書第 1 章から第 4 章までのまとめ。

第 10 回：「負のエントロピーを食べる生物」

「生命は負のエントロピーを食べている」とは 20 世紀の前半に物理学者シュレティンガーが言い放った謎の言葉である。生物はエントロピー増大の法則に逆らうかのように、秩序構造を作っていく事実を指摘した言葉と考えるとよい。実際、生物は膨大なエネルギーを作り出すシステムをもち、ある意味では、生命の本質は太陽光エネルギーを分子の秩序構造に変換するシステムと考えるとよいだろう。ここには、核酸分子を至上とする生命観とはまたちがった、エネルギーを中心として生物を考える立場がある。第 10 回の授業では、細胞がもつエネルギー代謝システムの復習を進めながら、同時に生物活動における電子の重要性も学んでいく。教科書の第 5 章、第 6 章相当部分。

第 11 回：「エピジェネティクス」

「ジェネティクス」は「遺伝学」、「エピ」は「上位」を意味する。あわさると、「遺伝子を越えた何か」ということになるが、現在進行形の生物学は、この遺伝子を越えた生命情報をなんとか理解していこうといったとてつもない大きな問題に挑戦しつつある。第 11 回の授業では、20 世紀中頃のオペロン仮説からはじまり、現在のエピゲノム研究に続く研究でめざされている、有機分子からなるシステムの動きか、どのように高次の生命情報を生み出しているのかについて学ぶ。同時に、生命システムの擾乱としてのがんなどの各種疾患との関係について考えて行く。各種疾患ゲノムデータベースを実際に使いながら、現在進行形のゲノム医療を体験する。

第 12 回：「たった 2 万数千遺伝子」

大腸菌がもつ遺伝子は 4 千強と考えられている。では、偉大なる(?)ヒトのゲノム上には、いくつの遺伝子があるのかというと、わずかその数倍の 2 万数千遺伝子にすぎない。大腸菌とヒトとは、それほど変わらない存在なのか、あるいは、ヒトなどの多細胞の生物真核生物には、遺伝子の数とは関係のない、独自のシステム構造があるのか?第 12 回の授業では、「ゲノム」に焦点をあてながら、生物の進化・多様性を考えていく。授業では、各種ゲノム公共データベースを実際に使いながら、現在進行形のゲノム生物学を体験する。

第 13 回：「サイバネティクス」

生命をシステムとして理解しようとする動きは、20 世紀中頃「マーシー会議」にその起点を求めることができる。「サイバネティクス」「複雑性科学」「システムバイオロジー」「ゲノム生物学」と現在にまで続くこのシステムの観点的学問は、今後も生物学の中心テーマとして、基礎と応用のどちらの分野でも重要な役割を果たしていくことは間違いない。第 13 回の授業では、システムの的に生物を理解しようする学問の歴史を紹介し、今後の展望も紹介していく。また、現在進行形のシステム研究を、各種データベースを実際に使いながら、体験してみる。

第 14 回：「まとめテスト」

これまでの授業に関するまとめテストを学習支援システムを用いて実施する。予定では、このまとめテストを 30 点とし、第 2 回から第 13 回までの授業中の小テストの合計を 70 点として合否を判定する。

3. 履修上の注意

教科書に沿った授業をおこなうが、該当する教科書の章を予習していることを前提に授業を進める。その際、教科書とは違った視点での説明、すなわち、関連したトピックの紹介などを通じて、理解を深めるための工夫をおこなう。授業の初めに、前回の授業での課題の解説や、提出された質問に対する答えの時間をおき、受講者へのフィードバックを行う。授業中には、学習支援ネットワークを用いた小テストと、後半には各種生物系データベースを実際に使った実習をおこなうので、各自通信機器を持参すること（スマートフォンでも対応できるであろうが、公共データベースなどは、PC を利用した方が使いやすいので注意）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の最後に、次回の授業で学ぶキーワードを与えるので、教科書や参考書などをてがかりに予習しておくこと。また、授業のノートを読み返し、学んだことを振り返り、不明な部分があれば次の授業で質問すること。

5. 教科書

*佐藤健『入門 生化学』裳華房（電子版・プリント版のどちらでも。[url=https://amzn.to/3Rire41]amazon リンク[/url]。)

6. 参考書

*『細胞の分子生物学』ニュートンプレス（定番の教科書ですが、高価なので、必要な時に図書室で読むとかでよいかと思います。[url=https://amzn.to/3Dp6z94]amazon リンク[/url]）

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎授業におこなう小テストで、特に間違いが多かった課題については、次回の授業で解説をおこなう。

8. 成績評価の方法

毎授業（第 2 回から第 13 回）に、ネット環境を利用して小テストをおこなう。小テストの総計を 70 点、第 14 回の最終授業でおこなう試験（ネット環境を利用する）を 30 点とし、その合計で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGC351J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 食品健康科学	2 単位	長田恭一
2017～2021 年度入学者 食品健康科学		

1. 授業の概要・到達目標

前半はさまざまな植物性成分の三大栄養素ならびに微量の機能性成分について解説する。後半は、機能性を発揮する食品、脂質の機能性、抗酸化食品成分、肥満と糖尿病を予防する食品成分、脂質異常症を予防する食品成分について解説する。
毎日摂取している植物性食品素材の成分と健康に資する機能性、特定保健食品等を含む機能性食品と健康との関係、脂質が関わる疾病とその予防について理解することを到達目標とする。

2. 授業内容

- 1 ガイダンス 穀類の科学（成分と一般論）
- 2 いも類、豆類の科学（成分と一般論）
- 3 種実類の科学（成分と一般論）
- 4 野菜類の科学（成分と一般論）
- 5 果実類の科学（成分と一般論）
- 6 きのこと類、海藻類の科学（成分と一般論）
- 7 中間テスト 機能性食品の分類と最近の話題
- 8 食事蛋白質と健康
- 9 食事脂質と健康 I（脂質代謝への影響）
- 10 食事脂質と健康 II（炎症、免疫機能、疾病との関係）
- 11 脂質代謝と肥満、糖尿病、脂質異常症
- 12 機能性脂質、有害脂質と健康（中鎖脂肪酸、共役脂肪酸、トランス酸、グリシドール脂肪酸エステルと健康）
- 13 カロテノイド色素と健康（カロテノイド色素と健康）
- 14 ポリフェノール類と健康（カテキン類、フラボン、アントシアニン類）

3. 履修上の注意

食品化学および食品栄養学の基礎を理解していること。2 年次に食品化学実験を履修していることを希望します。
農芸化学科以外の学生が履修する場合、化学的用語を多用しますのでよく復習して下さい。但し、試験等では構造式等を書かせることはありません。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義では毎回、試料とレジュメを配布します。また、2 回目からは重要事項を講義最初にまとめますので復習して下さい。
また、毎日摂取している植物性食品素材に興味をもち、健康食品等にも興味をもっていることが望ましい。

5. 教科書

とくに、指定しない。

6. 参考書

三共出版：わかりやすい食品機能栄養学
その他有り

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テスト実施の場合は解答の解説をする。
期末試験については O-Meiji を通じて正答を公表する。

8. 成績評価の方法

中間試験と定期試験の合計 120 点（200 点満点）以上である。
3-4 回不定期に出席調査を行う。なお、調査結果は授業参加度の評価としてプラス評価にのみ利用する。

9. その他

受講態度に応じて試験難易度を変えています。
講義内容について相談等があれば対応します。講義後に連絡してください。
再試験、レポートによる再評価はしません。

科目ナンバー (AG)AGC351J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
食品冷凍冷蔵学

2017～2021年度入学者
食品冷凍冷蔵学

2単位

萩原知明

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

低温を獲得する原理、食品の低温保存技術、食品の低温貯蔵中における品質劣化要因、食品の低温下における物理化学的変化、そして食品を凍結させるために必要なエネルギーおよび時間の推定に関わる伝熱論の基礎について講義します。

《授業の到達目標》

生鮮食品や加工食品の低温貯蔵方法は、各種食品が低温下に置かれたときの化学・生化学的変化に基づいています。また、食品成分のうち、70%近くを占める水の状態変化が解凍後の食品の質に影響を及ぼしています。

さらに、冷却とは物品から熱エネルギーを奪う操作です。そのためにエネルギーを必要とし、地球温暖化やオゾン層破壊といった環境問題にも関わりがあります。

これまでに大学で学んできたことを活かし、総合的な視野に立って、食品の低温貯蔵を理解しましょう。

2. 授業内容

第1回：食品冷凍技術の現状と課題

第2回：低温保存による食品の品質保持の原理

第3回：低温をつくりだす仕組み（冷凍機の原理）

第4回：食品の冷却・凍結過程Ⅰ

第5回：食品の冷却・凍結過程Ⅱ

第6回：食品の冷蔵および凍結貯蔵中における変化

第7回：食品の解凍過程

第8回：水産物の低温保存

第9回：畜産物の低温保存

第10回：農産物の低温保存

第11回：調理冷凍食品およびアイスクリームの製造

第12回：冷凍を利用した食品加工手法（凍結乾燥（フリーズドライ）、凍結濃縮）

第13回：凍結に必要なエネルギーおよび凍結所要時間の予測

第14回：食品冷凍に関する最新の研究動向：過冷却凍結、不凍タンパク質

3. 履修上の注意

物理化学、食品化学を修得していることが望ましい。また、関連する科目として食品衛生学、食品工学、動物資源化学、植物資源化学、水産資源化学を受講することを望みます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

復習では、配布資料の図表や授業内容を振り返り、ノートを整理しましょう。

自宅の冷凍庫で生鮮食品を凍結保存してみたり、市販冷凍食品を買って食べてみたいりしましょう。

5. 教科書

教科書は指定しません。授業において参考資料を配付します。

6. 参考書

『食品冷凍技術』日本冷凍空調学会（日本冷凍空調学会，2009年）

『冷凍食品入門』尾辻昭秀著（日本食糧新聞社，2014年）

『冷凍食品を知る』野口 敏著（丸善，1997年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末定期試験の成績で評価します。期末定期試験 100%

ただし試験を受けるためには3分の2以上の出席が必要です。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGC351J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 食品安全学	2 単位	長田恭一
2017～2021年度入学者 食品安全学		

1. 授業の概要・到達目標

食料自給率の低下、食の多様化に伴い、我々は多くの輸入食材を利用し、また、加工食品を摂取しています。輸入食材には国内で使用されていない農薬の使用の問題があります。一方、加工食品には保存等の目的で食品添加物を利用しなければなりません。日本の食品の安全性は世界の中でも最も高いレベルで保たれていると思われませんが、健康に食生活を営む上での食品の安全性に関わる知識を正しく理解する必要があります。本講義では、化学物質による有害性、植物素材や魚介類の毒素、食品添加物、寄生虫に関する基礎を解説します。

本講義では、食の安全に関して、食品衛生学で教授する分野を除く化学物質による有害性、植物素材や魚介類の毒素、食品添加物、寄生虫と食との関係を理解することを到達目標とします。

2. 授業内容

- 第1回：化学物質による有害作用
- 第2回：食品成分の変質に伴う有害物質
- 第3回：フグ毒とシガテラ毒
- 第4回：麻痺性貝毒と下痢性貝毒、その他のマリントキシン
- 第5回：キノコの毒素
- 第6回：山野草等の毒素
- 第7回：農薬の問題、ポジティブリスト制度、ポストハーベストについて
- 第8回：カビ毒
- 第9回：食品添加物の分類と役割
- 第10回：食品添加物の安全性と表示
- 第11回：野菜や飲料水由来の寄生虫
- 第12回：獣肉由来の寄生虫
- 第13回：魚介類由来の寄生虫
- 第14回：食品アレルギー問題、BSE、遺伝子組み換え食品発がん物質等の最近の安全問題

3. 履修上の注意

食品衛生学を履修していることを希望します。

化学的な用語や構造式等が出る場合がありますが、とくに高度な化学的素養は求めていませんので生物が得意な方でも問題ありません。食品の安全性に興味をもっていることを希望します。

公務員あるいは食品関連企業の技術職で食品衛生監視員、管理者になることを希望する場合は必須となります。

食品衛生監視員として公務員受験を志望される方には、専門分野の試験内容の40%以上（食品衛生学と合わせて80%以上）を占めることをお知らせします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義では毎回レジュメを配布します。また、2回目からは重要事項を講義最初にまとめますので復習して下さい。また、キノコや魚介類の毒素による食中毒、食品の安全性に関するニュース等に興味をもってください。

5. 教科書

2019年度より資料については教科書を使用します。資料は配布しません。

教科書：東京化学同人：新スタンダード栄養・食物シリーズ8 食品衛生学第2版（一色賢司編）

6. 参考書

医歯薬出版：新食品衛生学要説

その他有り

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テスト実施の場合は解答の解説をする。

期末試験についてはO-Meijiを通じて正答を公表する。

8. 成績評価の方法

定期試験により評価する。合格は60点以上である。

3-4回不定期に出席調査をする。授業参加評価としてプラス評価にのみ利用する。

9. その他

受講態度に応じて試験難易度を変えています。

講義内容について相談等があれば対応します。講義後に連絡してください。

科目ナンバー (AG)AGC351J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
食品免疫学

2017~2021 年度入学者
食品免疫学

2 単位

薬袋裕二

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

脊椎動物は神経系、内分泌系など数多くのネットワークが複雑に絡み合い、最終的に生体の恒常性を維持している。その中でも免疫系は細菌などの非自己を排除して、確立した自己の持続的な形成を保たせている。しかしながら、その自己を形成しているアミノ酸、炭水化物、脂質などは全て「非自己」である食物から腸管を経て得ているのである。また細菌が体表に触れる面積が一番大きい器官も腸管である。すなわち腸管では矛盾した処理を日々行っている不思議な器官である。本講義では免疫学の基礎を個体レベル、分子レベルで理解してもらうことを目指すとともに、腸管免疫、食物アレルギーなどについて講述し理解せしめる。

《授業の概要》

この授業では免疫機序をまず勉強し、後半で腸管免疫、食物アレルギーなど理解する。

2. 授業内容

- 第1回：免疫と免疫系を構成するもの
- 第2回：感染初期の自然免疫
- 第3回：自然免疫から適応免疫へ・免疫担当細胞
- 第4回：抗体分子のタンパク構造
- 第5回：多様な抗体が生合成される遺伝子機構
- 第6回：T細胞レセプターと MHC 分子
- 第7回：抗原提示
- 第8回：リンパ球の分化
- 第9回：T細胞の活性化
- 第10回：B細胞の活性化（体液性免疫）
- 第11回：食品アレルギー、粘膜免疫
- 第12回：栄養と免疫
- 第13回：食品による免疫修飾
- 第14回：経口免疫寛容と治療への応用

3. 履修上の注意

タンパク質の構造、細胞の分化などを理解しておく。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- 第1回 高校の「生物」の教科書の「免疫」領域を復習しておく。
- 第2回~14回 配布したプリントを読んで復習をしておくこと。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

- 『食品とからだ』上野川修一（朝倉書店）
- 『免疫生物学』笹月健彦（南江堂）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

成績は学期末試験 100%で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGC321J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
応用微生物学

2017～2021 年度入学者
応用微生物学

2 単位

中島・村上

1. 授業の概要・到達目標

本講義は、外部講師を中心としたオムニバス形式で実施する。

人類は古来より微生物の存在を認識する以前から、発酵食品や酒類の醸造などさまざまな形で微生物を利用してきた。科学技術の進展により微生物の生態や特性が明らかにされ、伝統的な微生物の利用のメカニズムが解明されると共に、新たな微生物の利用法が次々に開発されている。環境負荷の少ない微生物の利用は、持続的社会的形成の上でも大きく貢献することが期待されている。本講義では、産業界で活躍する外部講師を招き、微生物利用の実情について学び、微生物と共に生活することの意義について実感できるようにすることを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：麹菌で作る化粧品 (中島春紫)
- 第2回：微生物を利用した発酵生産の歴史 (和地正明：東京工業大学)
- 第3回：代謝工学に基づく発酵生産菌の育種 (和地正明：東京工業大学)
- 第4回：抗生物質の探索 (和地正明：東京工業大学)
- 第5回：うま味と微生物 (外内尚人：製品評価技術基盤機構)
- 第6回：酢酸菌利用の食文化 (外内尚人：製品評価技術基盤機構)
- 第7回：微生物研究と社会実装 (外内尚人：製品評価技術基盤機構)
- 第8回：しょうゆ造りに欠かせない微生物たち (伊藤孝太郎：キッコーマン)
- 第9回：光合成を守る環境応答系とその進化 (田中寛：東京工業大学)
- 第10回：好アルカリ性微生物の基礎と応用 (伊藤政博：東洋大学)
- 第11回：ビールと飲料分野の品質管理と微生物 (下津智志：アサヒビール)
- 第12回：“国酒”を醸す微生物たち (山川結：玉乃光酒造)
- 第13回：熟成肉製造に使われる低温性接合菌 (村上周一郎)
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

出席を重視する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

外部講師の講義は1話完結であり、講義内容の背景を説明するイントロダクションを聞き逃すと理解が難しくなる。講義には遅刻せずに出席し、適宜配布されるプリントなどを参照して内容の理解に努めること。

5. 教科書

教科書は指定しない。

6. 参考書

- 「キャンベル生物学（第11版）」N. A. Campbell, J. B. Reece（丸善）
- 「マダー生物学（原書第5版）」S. S. Madar（東京化学同人）
- 「微生物学」大木理（東京化学同人）
- 「ベーシックマスター微生物学」堀越弘毅監修（オーム社）
- 「発酵の科学」中島春紫（講談社ブルーバックス）
- 「発酵醸造学」北本勝ひこ監修（朝倉書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験は実施しない。
毎回の講義終了後に、講義の感想や課題について200 - 300字程度記述して提出すること。
提出物により出席および講義への取り組みを評価・集計して成績評価とする。

9. その他

講義に関する質問や問い合わせは担当の中島春紫まで。微生物生態学研究室 5号館5階506号室 E-mail: harusimeiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGC341J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農薬化学

2017~2021 年度入学者
農薬化学

2 単位

清水力

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

人類は農業を始めてから今日に至るまで、絶えず病害虫や雑草に悩まされ続けている。この病害虫や雑草などの生物的ストレスから農作物を保護する資材が農薬である。本講義では、農薬に関する基礎的な知識を学ぶとともに、代表的な農薬の化学構造、生物活性、作用機構などを化学と生物の両面から理解することを旨とする。

《授業の概要》

農薬の歴史、役割、研究開発の手法、安全性などの説明から始めて、代表的な農薬について、化学構造、生物活性、作用機構、選択性、農薬の標的分子・代謝分解などについて講述し、その後、総合的病害虫雑草管理（IPM）及び農薬と密接な関係にある遺伝子組換え作物を紹介した後、農薬科学の新技术と農薬の将来について言及する。講義内容をより深く理解してもらうため、随時、講義内容について的小テストを実施する。

2. 授業内容

- 第1回：農薬の歴史、農薬の果たす役割、農薬の研究開発
- 第2回：農薬の一般的知識（農薬の名称、用途別分類、製剤）、農薬取締法の概要、農薬の登録、農薬の安全性など
- 第3回：害虫防除剤その1（殺虫剤）
- 第4回：害虫防除剤その2（殺ダニ剤、殺線虫剤）
- 第5回：病害防除剤その1（病害抵抗性を誘導する殺菌剤）
- 第6回：病害防除剤その2（呼吸阻害剤などのその他殺菌剤）
- 第7回：植物制御剤その1（葉緑体を標的とする除草剤）
- 第8回：植物制御剤その2（葉緑体以外の代謝系などを標的とする除草剤、植物成長調整剤）
- 第9回：農薬の標的分子（酵素、受容体、イオンチャンネル他）
- 第10回：農薬の代謝分解（加水分解、酸化、抱合など）
- 第11回：微生物農薬、総合的病害虫雑草管理（IPM）
- 第12回：遺伝子組換え作物、ゲノム編集作物
- 第13回：農薬の権利化、農薬創製の新技术、農薬の将来
- 第14回：講義全体のまとめ、期末試験

3. 履修上の注意

配布する資料に基づいて講義を進める。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

第2回目の授業から授業の初めに質問を受け付ける。

5. 教科書

特になし。

6. 参考書

- 「新版農薬の科学」宮川恒・田村廣人・浅見忠男（朝倉書店）2019年
- 農薬の関する情報を調べるためのWebサイト
- 日本農薬学会：農薬について知ろう
[url]<http://pssj2.jp/rikai/index.shtml>[/url]
- 農薬工業会：農薬の作用機構分類
[url]<https://www.jcpa.or.jp/labo/>[/url]
- 農林水産省：農薬コーナー
[url]<https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>[/url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験（4課題程からなる自筆のレポート）を実施し、後日、講評を個別配信する。

8. 成績評価の方法

成績は期末試験（4課題程からなる自筆のレポート；70%）と小テスト・出席などによる平常点（30%）で評価する。

9. その他

特になし。

科目ナンバー (AG)ACH331J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 高分子化学	2 単位	風間伸吾
2017~2021 年度入学者 高分子化学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

高分子であるプラスチックは、農産物の生産、食品の品質保持、医療分野などに広く用いられており、私たちが安心して豊かな生活を営む上で不可欠です。一方で、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」でも取り上げられている海洋のプラスチックごみ問題などの解決すべき課題も抱えています。

また、高分子化学の視点は、生体高分子の性質や組織構造を理解する上で不可欠です。タンパク質、DNA、多糖類などの生体高分子、プラスチックや樹脂、ゴムなどの合成高分子は、単に相対モル質量が大きいだけでなく、化学的にも物理的にも低分子化合物には見られない数多くの高分子性をもっています。食品の包装材料にも不可欠な高分子について正しい視点を持ちましょう。講義では、「高分子性」の理解のために高分子材料の有用性と課題の実例を挙げながら、基礎から応用までやさしく解説します。

《授業の到達目標》

農芸化学科の専攻科目である「高分子化学」において、化学的にも物理的にも低分子化合物には見られない数多くの特徴（高分子性）をもつ高分子物質を合成、構造・物性、機能や実用面から学習します。この高分子性を通して、物質化学の理解はもとより、農学部の方々が学ぶ機会の多い生体高分子の実用的理解を深め、新しい時代にふさわしい物質観を育てることを目指します。

2. 授業内容

講義は、低分子との対比を常に念頭に置いて具体的に高分子性の理解を図るとともに、生体高分子との関係を意識しながら各テーマについて詳述します。

- 第1回：高分子化学の概論1（イントロダクション、高分子化学の歴史など）
- 第2回：高分子化学の概論2（暮らしの中で利用されている高分子化学の解説）
- 第3回：高分子の合成1（ラジカル重合など）
- 第4回：高分子の合成2（イオン重合など）
- 第5回：高分子の合成3（重縮合など）
- 第6回：高分子の合成4（高分子反応など）
- 第7回：高分子の分子量とかたち（低分子と高分子の特性の違いなど）
- 第8回：高分子溶液の性質1（溶液の熱力学など）
- 第9回：高分子溶液の性質2（溶液物性論など）
- 第10回：高分子の構造と物性1（生体高分子の化学構造など）
- 第11回：高分子の構造と物性2（ガラス状態、ゲル構造、緩和現象など）
- 第12回：高分子の構造と物性3（力学的性質、レオロジー粘弾性など）
- 第13回：高分子の機能（食品包装材を例として）
- 第14回：まとめ

*講義内容は、必要に応じて変更することがあります

3. 履修上の注意

化学を履修していることが望ましいですが、講義の理解に必要な知識は授業の中で説明します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎時間予習及び復習内容を説明します。なお、第1回目の講義は「概論」を行うため予習は不要です。

5. 教科書

「明大生のための高分子化学（農芸化学科版）」永井一清編（履修登録確定後に、Oh-o! Meiji システムにて無料配布します。）

6. 参考書

高分子化学や高分子科学の書名で出版されているどの書でもよいです。授業で適宜紹介します。（参考書の例「基礎高分子科学」高分子学会編，東京化学同人（2006）ISBN 4-8079-0635-6）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席日数を満たしている者に対して、100点満点で成績評価を行います。この100点の振り分けは、授業中に実施する小テスト、演習問題やレポート等計40点、学期末に行われる定期試験60点です。

9. その他

オフィスパワーは、第1回目の講義の中で、受講者の他の履修科目と重複しないことを確認して決定します。連絡先：kazama@mvc.biglobe.ne.jp

科目ナンバー (AG)AGC381J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 環境化学	2 単位	殷熙洙
2017～2021年度入学者 環境安全学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

21世紀に至るまで人類が築いてきた輝かしい繁栄とは裏腹に、46億年の歴史を持つ地球に様々な問題を解決できずに次世代に残す事態になっている。環境化学は環境汚染に係わる様々な物質は何であろうか、また、それらの物質の発生源は何か、さらに、ヒトや生態系にどのような影響を及ぼすか、汚染や被害を軽減または防ぐ方法はあるのかについて様々な事例とともに最先端の環境修復技術を学び、「環境保全の大切さ」を考える。

《授業の概要・到達目標》

本授業では、地球環境問題に対し、巨視的観点や微視的観点でその原因を詳細に探り、より現実的なアプローチで地球環境と生態系が共存共栄できるように方策を考えるとともに、環境保全の意識を高めることである。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション—この授業で学ぶこと—

第2回：環境問題の歴史と環境基準

第3回：環境における化学物質の挙動

第4回：環境の現状と対策（大気環境）

第5回：環境の現状と対策（水環境）

第6回：環境の現状と対策（土壌環境と廃棄物）

第7回：環境の現状と対策（残留性有機汚染物質：POPs）

第8回：環境汚染物質の測定法（主な環境測定方法）

第9回：環境汚染物質の測定法（大気、水質、土壌）

第10回：その他の測定法（残留農薬等）

第11回：環境とエネルギー

第12回：資源のリサイクルと無害化処理

第13回：地球にやさしい化学をめざして

第14回：まとめ

3. 履修上の注意

授業内容は、多義にわたるので毎回出席すること。講義の形式は、基本的にパワーポイントを用い、図、表、画像を中心に説明する。また、必要に応じてハンドアウトも使用する。受講者には毎回授業内容に対するディスカッションを積極的に行う。それを通じて環境に対する価値観の多様性を認識して学ぶ。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容に不明な部分があれば授業中またはメールで質問すること。次回の授業範囲について事前に各自論点を調べておくこと。

5. 教科書

特に指定はしないが、環境化学（齋藤勝裕、山崎鈴子・東京化学同人 ISBN: 4807914863）を主に参考する。

6. 参考書

環境化学（エキスパート応用化学テキストシリーズ）（坂田 昌弘（共著）、講談社、2015年）、地球の環境と化学物質（安原 昭夫（著）、三共出版、2013年）、環境リスク解析入門 化学物質編（吉田 喜久、中西 準子（著）、東京図書、2006年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中の意見交換、レポート等によるフィードバック

8. 成績評価の方法

成績評価に関しては、出席状況、授業態度等を考慮した平常点、中間レポートおよび期末テストまたはレポートの成績に基づき総合的に評価する。その評価比率は、原則として、平常点 20%、中間レポート 30%、期末テスト 50%とする。

9. その他

科目ナンバー (AG) ENV321J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
土壌環境保全学

2017～2021 年度入学者
土壌環境保全学

2 単位

肴倉宏史

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

土壌を含む地圏は大気圏、水圏、生物圏とともに、地球環境、生活環境の維持に大きく関与している。本授業では、土壌環境保全に関する基礎的な次項から最新の課題や取り組みを学び、様々な課題に対応するための適切な判断力を身につけることを目標とする。

《授業の概要》

本授業では、土壌汚染の歴史、汚染物質の種類、ならびに関連法規を概説する。次いで、土壌汚染の未然防止や修復のための技術、さらには、廃棄物、自然由来有害物質、自然災害、放射性物質、地球温暖化等の様々な課題について、基礎事項を踏まえながら詳説していく。

2. 授業内容

- 第1回：ガイダンス 土壌環境の保全とは
- 第2回：土壌汚染の歴史
- 第3回：土壌汚染とリスク
- 第4回：汚染原因物質
- 第5回：土壌環境基準と土壌汚染対策法
- 第6回：地下水の動き
- 第7回：汚染物質の動き
- 第8回：土壌汚染の対策技術
- 第9回：自然由来の有害物質
- 第10回：放射性物質と土壌環境保全
- 第11回：廃棄物の埋立と土壌環境保全
- 第12回：地球温暖化と土壌環境保全
- 第13回：小レポートの解説
- 第14回：期末試験

3. 履修上の注意

履修前提科目：土壌化学、土壌圏科学

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、講義前（月曜中）に、講義スライドを Oh!Meiji に掲載します。各自でダウンロードや印刷を行い、持参してください。

毎回、小レポートを課します。講義時間内に提出してください。

5. 教科書

講義前に配布するスライド資料

6. 参考書

適宜、紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験（60%）＋小レポート（30%）＋出席（10%）

毎回、出欠をとります。10回以上の出席（期末試験を除く）を、期末試験受験のための必要条件とします。

9. その他

質問等はメールで連絡してください。

E-mail: sakanakura@nies.go.jp

科目ナンバー (AG)AGC321J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
微生物生理学

2017~2021 年度入学者
微生物生理学

2 単位

村上周一郎

1. 授業の概要・到達目標

微生物は、小さいながらも様々な環境に適応し生命活動を続けています。この講義では、微生物細胞を作り出すために必要な炭素や窒素を異化、または同化する方法、生体成分の生合成経路、そして微生物が生命活動を維持するために必要なエネルギーを獲得する方法やそのエネルギーをどのように利用しているかを説明していきます。またその代謝経路において key となる酵素について説明します。

現在様々な産業分野で微生物の代謝経路や酵素は、もの作りに利用されています。そのことを踏まえ、本講義では微生物細胞内での物質の流れをイメージし、それを産業利用するための基礎力を養うことを到達目標としています。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション—この授業で学ぶこと—
- 第2回：炭素の利用—1（EMP 経路）
- 第3回：炭素の利用—2（ペントースリン酸経路）
- 第4回：炭素の利用—3（エントナー—ドウドルフ経路、他）
- 第5回：炭素の利用—4（エタノール、乳酸の生成）
- 第6回：炭素の利用—5（TCA サイクル、有機溶媒発酵）
- 第7回：脂質の代謝、グリオキシル酸経路
- 第8回：電子伝達系を介したエネルギー生産—1（酸素呼吸）
- 第9回：電子伝達系を介したエネルギー生産—2（脱窒）
- 第10回：植物型光合成と炭酸固定
- 第11回：細菌型光合成と炭酸固定
- 第12回：アミノ酸の生合成
- 第13回：芳香族化合物の分解
- 第14回 a：試験

b：試験の正答解説

* 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

この講義は、3 年生秋学期開講の「微生物化学」と対をなすように位置づけています。この講義を受講された学生諸君は、「微生物化学」を受講することを希望します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

板書した内容と授業中に配付するプリントの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば参考書等に目を通しておくこと。

5. 教科書

特に定めません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

6. 参考書

『微生物学』 青木健次編（化学同人）

『細胞機能と代謝マップ I 細胞の代謝・物質の動態』 日本生化学会編（東京化学同人）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（10%）と期末テスト（90%）により評価します。

9. その他

特にオフィスアワーは設けませんが、質問等があれば研究室（3 号館 3-304 A）に来てください。

連絡先：smura@meiji.ac.jp, 044-934-7098

科目ナンバー (AG)AGC321J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
環境微生物学

2017~2021 年度入学者
環境微生物学

2 単位

中島春紫

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

人類と不断の戦いを繰り広げてきた病原性微生物および、特殊な環境下に生息する多様な微生物に関する実践的な知識を体系的に修得すること。

《授業の概要》

病原性微生物による疾患・感染症の防除法・物質循環・特殊環境微生物の能力と利用・微生物の環境浄化への利用等について、実例を挙げて可能な限り簡明に講義する。

2. 授業内容

- 第1回：病原性微生物（1）
- 第2回：病原性微生物（2）
- 第3回：病原性微生物（3）
- 第4回：ウイルス
- 第5回：公衆衛生と疫学
- 第6回：バイオ燃料・材料
- 第7回：物質循環
- 第8回：好熱菌と古細菌
- 第9回：好塩菌・嫌気性菌
- 第10回：好酸・好アルカリ菌
- 第11回：有機溶媒・極限環境
- 第12回：排水処理
- 第13回：環境修復
- 第14回 a：まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

「微生物生態学」を履修してから受講することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

微生物に関する基礎的な知識が前提となるので、必修の微生物学 I および微生物学 II の内容を復習しておくこと。配布したプリントの内容について、用語の解説を重点的に復習し、専門知識と専門用語を系統的に学習すること。

5. 教科書

教科書は指定しない。プリントを毎回配布する。

6. 参考書

- 「キャンベル生物学（第11版）」N. A. Campbell, J. B. Reece（丸善）
- 「マダー生物学（原書第5版）」S. S. Madar（東京化学同人）
- 「ベーシックマスター微生物学」（オーム社）
- 「ブラック微生物学 第3版」（丸善）
- 「図解 微生物学入門」井上明・中島春紫（オーム社）
- 「エッセンシャル 土壌微生物学」南澤究、妹尾啓史（講談社）
- 「発酵の科学」中島春紫（講談社ブルーバックス）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験の結果により評価する。出席状況を考慮する。

9. その他

講義に関する質問等は随時受け付ける。

微生物生態学研究室（5号館5階506号室）

E-mail: harushi@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0124J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生化学・物理化学実験
2017～2021年度入学者
生化学・物理化学実験

2単位

金子・島田・鈴木・伊東・小林

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本実験ではタンパク質・アミノ酸・糖などの生体構成成分を対象にして、これらの物質が持つ生体にとって必須の性質を実験により確認する。また、ここで行う実験を通して、実験の準備、実験の基本技術、実験データの取り扱い、レポートの書き方、等 実験を行う上での最も基本的な事柄について、一連のトレーニングを行う。

《到達目標》

生体構成成分の構造、性質、機能を理解すること、および実験を行う上での基本事項の修得を目標とする。

2. 授業内容

第1回 ガイダンス・安全教育、実験書の配布 (金子賢太郎、島田友裕、鈴木博実 担当)

○酵素に関する実験

1. 比色による定量の基礎
- 第2回 p-Nitrophenol の吸光スペクトル測定
- 第3回 p-Nitrophenol の比色による定量 (Lambert-Beer の法則)
2. アルカリ性ホスファターゼを用いた酵素反応の実際
- 第4回 アルカリ性ホスファターゼの至適 pH
- 第5回 アルカリ性ホスファターゼの至適温度
- 第6回 反応速度に及ぼす酵素濃度の影響
- 第7回 反応速度に及ぼす基質濃度の影響: Km, Vmax 測定 (第2-7回, 金子賢太郎担当)

○タンパク質の分離・精製に関する実験

1. 寒天ゲル電気泳動
- 第8回 酸性・塩基性条件下におけるタンパク質の電気泳動
- 第9回 染色・脱染色
2. ゲルクロマトグラフィー (分子篩) その1
- 第10回 BlueDextran 2000 と Phenol Red との分離
- 第11回 パソコンによるデータ処理
3. ゲルクロマトグラフィー (分子篩) その2
- 第12回 BSA と Lysozyme の分離・精製
- 第13回 Lysoplate を用いた Lysozyme の溶菌域の測定 (第8-13回, 島田友裕担当)

○糖・アミノ酸・水に関する実験

1. 糖・アミノ酸の旋光度測定
 - 第14回 糖濃度と旋光度
 - 第15回 L-Alanine と D-Alanine の旋光度の測定
 2. 分子間の水素結合力
 - 第16回 水とアルコールの表面張力測定
 3. アミノ酸の電離平衡
 - 第17回 pH測定の基本 (pH測定の原理と実際)
 - 第18回 緩衝液の緩衝能
 - 第19回 アミノ酸の電離平衡と等電点 (第14-19回, 鈴木博実担当)
- (この実験は3・4限セットで1回とし、1週に2回の実験を行います。)

3. 履修上の注意

実験の初日にガイダンスを行い、実験書の配布および注意事項を説明するので必ず出席すること。

実験は毎回出席すること。このことは単位を得るための必要条件である。

実験当日は最初に実験内容および注意事項の説明があるので、遅刻厳禁である。遅刻したものは当日の実験を行わせない。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

実験に先立って実験書を精読し、実験内容を理解しておくことが必須である。

実験終了後は実験レポートの提出が求められるので、指定された日時に時間厳守で提出すること。(時間外の提出は受け取らない)

5. 教科書

- ・『実験データを正しく扱うために』 化学同人編集部 編 (化学同人)
- ・実験書はガイダンス時に配布する。

6. 参考書

- ・『ホートン 生化学 (第5版)』 鈴木紘一 他訳 (東京化学同人)
- ・『シーゲル 生化学計算法』 永井 裕 他訳 (廣川書店)
- ・『生物化学実験法 11 ゲルろ過法 (第2版)』 志村憲助 他著 (学会出版センター)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実験レポートによる。ただし、出席は評価を得るための必要条件である。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGC114J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
環境化学実験

2017～2021 年度入学者
環境化学実験

1 単位

安保・小山内
・田畑・伊東

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

環境化学実験および環境分析実験では、環境を構成する水圏 (Hydrosphere)、土壌圏 (Pedosphere)、生物 (植物) 圏 (Biosphere) を対象として、水圏・土壌圏の化学反応的性質や、植物の元素吸収による生育反応、土壌の環境保全機能・養分保持機能、植物の環境応答などの実験を通し、農芸化学の基礎である分析化学や機器分析の基本的理論と土壌、植物の基本的機能の理解を目的としている。また、化学分析における安全教育にも重点を置き、本実験で使用する実験器具の他、毒・劇物薬品や可燃性ガスの取り扱いを教育する。

《授業の概要》

各分野の基礎的学問概要を講義ののち、環境化学実験では主として化学電子天秤、分光光度計、原子吸光光度計、pH メーターの原理と使用法、土壌固体の緩衝作用、土壌の重金属吸着、植物形質の環境応答、微細藻類の色素抽出および分離など基本的な分析操作と環境機能の基本原則に関する実験を行う。また、データ処理には部分的にパソコンを使用する。

初回到安全教育を行う。

2. 授業内容

水圏環境実験

1. 水試料の硬度測定 (キレート滴定)
2. 環境水中の鉄の定量: 鉄 (II) -オルトフェナントロリン法 (吸光分析)

土壌圏環境実験

1. 土壌学について
2. 土壌 pH と土壌の pH 緩衝能: pH メーター
3. 土壌のリン (陰イオン) 吸着実験: 吸光分析; 分光光度計
4. 土壌の重金属 (陽イオン) 吸着実験: Cu, Zn 原子吸光分析; 原子吸光光度計

環境応答植物実験

1. 植物栄養条件 (N・P・K 各 2 水準) の設定と、播種
2. 培養液の補充と、実験計画法 (直交表) の説明
3. 遊離態無機成分 (汁液中成分) 分析用試薬の調整
4. 植物環境応答形質の観察と遊離態無機成分の測定 (N: 簡易比色法, P: 分光光度法, K: イオン電極法) および解析

微細藻類実験

1. 藻類からの色素タンパク質の抽出
2. 順相クロマトグラフィーによる色素の分離

3. 履修上の注意

実験ノートを準備し、実験の行程、起きた現象、測定データを必ず記載すること。
実験終了後に各自のノートを参考に結果の論議を行う。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

実験テキストを熟読し、実験の方法・原理を理解した上で受講すること。

5. 教科書

1. 『分析化学実験 第2版』 内海 他著 (東京化学社)
2. 『土壌学の基礎』 松中照夫著 (農文協)
3. 『作物栄養肥料学』 松田敬一郎著 (文永堂出版)

6. 参考書

1. 『実験農芸化学』 東京大学大学院農学生命科学研究科編 (朝倉書店)
2. 『土壌環境分析法』 (博友社)
3. 『植物栄養分析法』 (博友社)

7. 課題に対するフィードバックの方法

レポート課題に対して Oh!Meiji を介してフィードバックコメントを付ける。

8. 成績評価の方法

実験レポートの内容、実験ノートの内容および出席状況によるが各実験系で2回以上の欠席は評価対象としない。

9. その他

各担当教員のオフィスアワー時に対応する。

科目ナンバー (AG)AGC214J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
環境分析実験

2017～2021 年度入学者
環境分析実験

1 単位

安保・小山内
・田畑・伊東

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

理系教育における実験科目の目的は、学生各自が自らの手で能動的に対象物の化学的構造・機能・現象を解析し、対象物をより本質的に理解することにある。環境化学・分析実験では、環境を構成する水圏 (Hydrosphere)、土壌圏 (Pedosphere)、生物 (植物) 圏 (Biosphere) を対象として実験を行い、農芸化学の基礎である分析化学、機器分析の基本的理論と土壌、植物の基本的諸機能の理解を目的としている。また、化学分析における安全教育にも重点を置き、本実験で使用する実験器具の他、毒・劇物薬品や可燃性ガスの取り扱いを教育する。

《授業の概要》

水圏環境実験では、水質汚濁・汚染の指標元素の定量分析、土壌圏環境実験では土壌のイオン交換体としての機能解析、環境応答植物実験では環境応答栽培実験で得られた植物試料の成分分析を行い、栽培環境と元素吸収の関係など、各環境機能および現象の基本原理の理解を得る。微細藻類実験では、色素タンパク質の抽出、定量および、SDS-PAGE を用いた分離と検出を行う。

2. 授業内容

水圏環境実験

1. 環境水の GOD (化学的酸素要求量) 測定
2. 硫酸イオンの定量 (重量分析法)
3. 硫酸銅水溶液中の銅の定量 (酸化還元滴定法)

土壌圏環境実験

1. 酢酸アンモニウムによる土壌からの陽イオンの交換浸出および塩化ナトリウム溶液による NH_4^+ の交換浸出
2. 原子吸光度法による交換性陽イオンの定量、滴定法による NH_4^+ の定量と陽イオン交換容量の算出

環境応答植物実験

1. 植物体の湿式分解：乾燥試料の粉碎と、硫酸・過酸化水素分解。
2. 植物体中の無機成分含有率の測定 (1) 水蒸気蒸留・滴定法による全窒素の測定 (2) 分光光度法による全リンの測定。植物体中無機元素に関する統計的検討

微細藻類実験

1. 色素タンパク質の抽出とタンパク質の分離・定量
2. SDS-PAGE による色素タンパク質の分離と検出 (セミドライプロッターを用いた膜への転写)

3. 履修上の注意

実験ノートを準備し、実験の行程、起きた現象、測定データを必ず記載すること。
実験終了後に各自のノートを参考に結果の論議を行う。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

実験テキストを熟読し、実験の方法・原理を理解した上で受講すること。

5. 教科書

1. 『分析化学実験 第2版』 内海 他著 (東京化学社)
2. 『土壌学の基礎』 松中照夫著 (農文協)
3. 『作物栄養肥料学』 松田敬一郎著 (文永堂出版)

6. 参考書

1. 『実験農芸化学』 東京大学大学院農学生命科学研究科編 (朝倉書店)
2. 『土壌環境分析法』 (博友社)
3. 『植物栄養分析法』 (博友社)

7. 課題に対するフィードバックの方法

レポート課題に対して Oh!Meiji を介してフィードバックコメントを付ける。

8. 成績評価の方法

実験レポートの内容、実験ノートの内容および出席状況によるが各実験系で2回以上の欠席は評価対象としない。

9. その他

各担当教員のオフィスアワー時に対応する。

科目ナンバー (AG) BCH224J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
有機化学・有機分析実験

2017～2021年度入学者
有機化学・有機分析実験

2 単位

荒谷・久城・瀬戸・西山

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本実験では、生薬由来の成分の分離・精製などを行い、クロマトグラフィーによる同定およびスペクトル解析法などを学ぶ。天然物有機化学・有機合成化学および有機分析化学に関する実験の単位操作を修得することを目的とする。

《授業の概要》

天然物有機化学・有機合成化学および有機分析化学に共通のクロマトグラフィーを学んだ後に、生薬からの目的化合物の分離・精製、有機化合物の合成、有機化合物の反応を理解、習得するための実験を行う。これらすべての実験を通して、クロマトグラフィーによる化合物の同定と NMR 等による構造解析および有機分子の極性を官能基の種類および TLC 上の挙動と関連付けて考察する。

2. 授業内容

第1回：本実験全体を通じた説明・安全教育

第2回：ガラス細工の基礎—キャピラリーの作成（荒谷／久城／瀬戸）

第3回：薄層クロマトグラフィー（TLC）の基礎技術（久城）

第4～9回：紫根からのシコニンの単離・精製およびシコニンの化学分解、誘導体化、分光学的手法による構造確認（荒谷）

第10～15回：コレステロール 3-OH の保護・脱保護の化学とハイドロボレーションおよびこれらの反応の立体化学的解析（久城）

第16～21回：イネ馬鹿苗病菌の生産するジベレリンの粗精製と分析。サリチル酸、サリチル酸メチルの分液操作による分離と純度検定（瀬戸）

第22回：実験全体の解説および試験

3. 履修上の注意

配布資料で実験内容を調べ、教科書等で予習すること。実験ノートを必ず作成して実験時には実験ノートで実験が進められるようにまとめておくこと。

すべての実験は順調に進行すれば、定められた時間内に終了するように設計してあるが、予習不足による手順の拙さ次第では数時間遅延することもある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、実験ノートの見開きの一面にスキーム形式で実験内容を作成して、必要な試薬や器具についても確認すること。実験中は実験ノートのもう一面に実験経過の観察を記録すること。実験後に観察した現象や実験結果について考察すること。

5. 教科書

配布するプリントにしたがって実験を進める。単位操作を修得するため教科書として『続・実験を安全に行うために』化学同人編集部（化学同人）を指定する。

6. 参考書

『第2版機器分析のてびき1, 2とデータ集』泉ら著（化学同人）

『続・実験を安全に行うために』化学同人編集部（化学同人）

『研究室で役立つ有機実験のナビゲーター』上村明男訳（丸善）

『有機化学実験法』三橋ら著（培風館）

『生命科学のための化学実験』高橋ら著（東京化学社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

成績は出欠、実験に臨む態度、実験ノートおよび試験の結果などに基づいて評価する。
なお、試験は実験ノートのみ持ち込み可とし、試験終了後に実験ノートは回収し評価します。
（評価後、実験ノートは返却します。）

9. その他

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)AGC124J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 微生物学実験	1 単位	中島・前田・村上・山田
2017～2021年度入学者 微生物学実験		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

身近にはあるが目には見えない微生物を“みる”，“すばらしい能力を体験する”，“調べる”ことを通して，その特徴を把握する。

《授業の概要》

嫌気性菌を含む各種の細菌、酵母、糸状菌などの微生物を対象に培地作製、無菌操作、顕微鏡観察などの微生物取り扱いの基本的な操作を繰り返し体験することにより習得する。また、生物にとって重要なゲノム（DNA）についても実際にその実体、はたらきを体験し、理解する。

2. 授業内容

第1回：ガイダンス・安全教育

第2～5回：細菌の培養と同定実験

- ・培地調製と植菌
- ・コロニー計測法と濁度法による細菌の計測
- ・同定試験（形態観察、Gram染色、運動性、オキシダーゼ・カタラーゼ試験）

第6～9回：形態観察

顕微鏡観察：顕微鏡の操作に習熟する

- ・培地調製と無菌操作
- ・血球計数器による酵母の細胞数測定
- ・糸状菌の形態観察とマイクロメーターによる大きさの計測

第10～13回：発酵食品と微生物

- ・発酵乳微生物の単離
- ・生理的性質の観察
- ・乳への作用の検定

レポート

*実験内容は必要に応じて変更することがあります。

*この実験は2時間セットで1回とし、1週に2回の実験を行います。

3. 履修上の注意

実験に当たっては内容を十分に把握することが重要であるので必ず予習をすること。疑問はまず自らが“調べる”ことによって解決を目指すことが大切である。

実験は3つの実験室に分かれて、各実験週1回3～4週にわたって行う。レポートは各実験に対して1回提出する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

実験後に観察した現象や実験結果について考察すること。

5. 教科書

教科書は指定しない。実験に必要な資料、プロトコル等はプリントを配布する。

6. 参考書

『新版微生物学実験法』（講談社サイエンティフィック）

『生物工学実験書』改訂版 日本生物工学会編（培風館）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席を重視する。提出されたレポートの内容により評価する。

9. その他

中島春紫 (微生物生態学研究室：5号館5階506A号室)

前田理久 (微生物遺伝学研究室：5号館6階605A号室)

村上周一郎 (微生物化学研究室：3号館3階304A号室)

山田千早 (発酵食品学研究室：5号館6階601A号室)

科目ナンバー (AG)AGC274J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
バイオテクノロジー実験
2017～2021 年度入学者
バイオテクノロジー実験

1 単位

中島・前田・村上・山田

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

バイオテクノロジー分野における基本操作である有用微生物の分離法および同定法を学び、有用物質の生産法と検出法を理解する。またバイオテクノロジーを支える遺伝子操作法について理解を深める。

《授業の概要》

自然界からアミラーゼおよびプロテアーゼ生産微生物を分離し、その菌学的諸性質を検討する。ペニシリン発酵を行い、バイオアッセイにより生成したペニシリンを定量する。大腸菌を形質転換し、遺伝子発現を確認するとともに形質転換株からプラスミド DNA を検出する。

2. 授業内容

第1回：ガイダンス・安全教育

第2～4回：有用微生物の分離・同定

- ・微生物単離用および生理試験用培地の調製
- ・土壌試料より加水分解酵素生産菌の純粋分離
- ・分離した細菌の顕微鏡観察と生理学的性質の検討

第5～7回：抗生物質生産菌の分離とペニシリン発酵

- ・ペニシリン発酵（培地の調製、植菌、培養）
- ・バイオアッセイ法によるペニシリンの定量

第8～10回：微生物遺伝子工学実験

遺伝子工学で必要とされる超基本的な実験操作を身につける

- ・緑色蛍光タンパク質を大腸菌で生産させる
- ・組換え大腸菌の核酸を解析する

レポート

* 実験内容は必要に応じて変更することがあります。

* この実験は2時限セットで1回と記載しています。

3. 履修上の注意

実験に当たっては内容を十分に把握することが重要であるので必ず予習をすること。疑問はまず自らが“調べる”ことによって解決を目指すことが大切である。

実験は3つの実験室に分かれて、各実験週1回3～4週にわたって行う。レポートは各実験に対して1回提出する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

実験後に観察した現象や実験結果について考察すること。

5. 教科書

教科書は指定しない。実験に必要な資料、プロトコル等はプリントを配布する。

6. 参考書

『新版微生物学実験法』（講談社サイエンティフィック）

『生物工学実験書』改訂版 日本生物工学会編（培風館）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席を重視する。提出されたレポートの内容により評価する。

9. その他

中島春紫（微生物生態学研究室：5号館5階506A号室）

前田理久（微生物遺伝学研究室：5号館6階605A号室）

村上周一郎（微生物化学研究室：3号館3階304A号室）

科目ナンバー (AG)AGC254J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 食品化学・食品分析実験	1 単位	長田・石丸 竹中・中村・西山
2017～2021 年度入学者 食品化学・食品分析実験		

1. 授業の概要・到達目標

各自で食品の成分を定量しその結果を各自で評価する。各自の味覚評価と味覚受容体の遺伝子解析を行う。なお、実験内容の配分は初回に説明する。詳細を以下に示す。食品の一般成分分析および特殊分析実験を行なう。五味識別試験と苦味受容体の遺伝子解析を行う。学生実験の集大成として、正確に定量できるか各自で確認する。農芸化学科の専攻科目で2年生以上が対象である。

各自で食品の成分を定量しその結果を各自で評価し、食品の成分を理解する。食品成分を受け取る味覚受容体について、各自の遺伝子型を判定し、味覚の仕組みを理解する。なお、実験内容の配分は初回に説明する。詳細を以下に示す。

2. 授業内容

実験 I

1. 食品の粗タンパク質の定量
2. 食品の水分活性の定量
3. 果実及びジュース中のビタミンCの定量

実験 II

4. 五基本味の識別試験
5. ゲノムDNAの抽出、PCR増幅
6. 制限酵素処理、遺伝子型判定（アガロース電気泳動法）

実験 III

7. 食品の水分、灰分、粗脂肪の定量
8. 食用油脂の酸価測定と経時的劣化の評価
9. 食用油脂の過酸価測定と経時的劣化の評価

状況によっては内容を変更することもあります。また、この実験授業は3・4限セットで1回と記載しています。なお、実験内容によっては4限目を過ぎることがあります。

初回にガイダンス及び安全教育教育を行います。

3. 履修上の注意

実験前に注意事項を述べるので遅刻しないこと。強アルカリ液等を使用する実験の場合、保護眼鏡を必ず着用すること。脂質等の実験では引火性溶剤を使用するので火気に厳重注意する事。実験 II では、同意書を提出すること。初回は、実験手引書および分析試料の配布・全体説明・クラス別説明・実験準備を行なう。実験は3つの実験室に分かれ、各実験室で実験 I-III を行なう。その後実験室を移動して同様に繰り返す。レポートは3回（各実験室で1回）提出する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、自前に手引きをよく読んで実験に臨むこと。また、データは実験終了後すぐにまとめておくこと。

5. 教科書

実験書として「食品化学実験の手引き」を配布する。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

レポート返却または Oh-o! Meiji を通じて配信する。

8. 成績評価の方法

成績は実験に対する姿勢（50%）・レポート（50%）に基づいて評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
文献調査及び特別研究（卒論）
2017～2021 年度入学者
文献調査及び特別研究（卒論）

8 単位

農芸化学科教員

1. 授業の概要・到達目標

教員の指導のもとで、研究テーマの設定と実験計画の立案を行い、研究遂行に必要な情報を収集しながら2年間にわたって実験を遂行する。得られたデータをもとに論文を取りまとめ、学科の卒論発表会で発表する。文献調査では、自主的・継続的に特別研究のテーマに関連した情報の収集を行って特別研究に活かすとともに、プレゼンテーション能力を身につけることを目的としている。

2. 授業内容

研究室により内容が異なるため、指導教員と相談して決定する。

3. 履修上の注意

2年間の継続履修が必要です。
入室予定の研究内容をよく理解し、準備学習をしておくこと。
学生実験をすべて履修していることが好ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

特に指定しないが、研究室により内容が異なるため、指導教員と相談すること。

5. 教科書

特に指定しないが、指導教員と相談すること。

6. 参考書

特に指定しないが、指導教員と相談すること。

7. 課題に対するフィードバックの方法

実験報告会、卒論中間発表会、文献セミナー、さらに日々の実験を通じて行う。

8. 成績評価の方法

研究への取り組み、文献の読解力、研究成果のまとめと発表、卒業論文を総合的に評価する。

9. その他

生命科学科

科目ナンバー (AG)CBI191J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生命科学入門

2017～2021 年度入学者
生命科学入門

2 単位

生命科学科教員

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生命科学は生物学を基盤として、多岐多様な学問分野にまたがり、生命現象を解析・理解し、得られた科学的理解を応用に結びつける学問である。この授業では、生命科学の面白さ、重要性、今後期待される発展・人間生活への還元などについて、生命科学科教員がそれぞれの専門分野に基づいて解説する。話題の対象は、動物・植物・微生物の各研究分野、および生命科学に重要な、タンパク質や遺伝子その他の生物種横断的な生物情報の研究分野とする。

《授業の達成目標》

生命科学入門では、各教員の多彩な研究分野の紹介から生命科学とは何かを読み取り、自然科学と生命科学への興味を高めるとともに理解を深め、専門科目を学ぶ意欲と研究に対する興味・関心を涵養する。

2. 授業内容

- 「美肌を目指して今日から菌活」(浅沼)
- 「組織の発生とシグナル伝達」(乾)
- 「エピジェネティクスとは？ - 動物の遺伝子機能を自在に操るために - 」(大鐘)
- 「植物も会話する：植物の化学交信と応答の研究」(賀来)
- 「植物の巧みな環境応答と植物ホルモン」(川上)
- 「オスとメスの分子生物学」(河野)
- 「酵母の細胞生物学とプロテオミクス」(紀藤)
- 「環境ストレスに対する植物の生存戦略」(高橋)
- 「植物の形づくりを支える細胞極性」(田中)
- 「生理活性物質と細胞応答」(戸村)
- 「発生工学から医学・医療への展開」(長嶋)
- 「粘膜免疫システムのユニーク性」(長竹)
- 「生体リズムの研究」(中村)
- 「健康維持・増進に役立つ酵母のチカラ」(浜本)
- 「がんの分子生物学」(吉田)
- 「生命維持における膜交通・分解系の重要性 ～植物オートファジーに焦点を当てながら～」(吉本)
- 「疾病の原因となる生体内の有機化学反応」(渡辺)

レポート作成と提出

3. 履修上の注意

授業では個々の講義の記録を取り、講義から得られた新知識を図書館等での書籍・文献から更に充実させ、生命科学という学問分野を理解するように努力することが学生に期待されている。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各回のタイトルに関連した背景・知識を図書館等であらかじめ調べる。個々の講義で得られた知識を、予習した知識と照らし合わせながらまとめること。

5. 教科書

使用しない。

6. 参考書

使用しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題レポートについてのコメント対応は、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

8. 成績評価の方法

毎回実施される小テストまたは小レポート等（90%）および授業への貢献度（10%）。

9. その他

授業内容は変更されることがある。

担当者実施順は学期はじめに決定し、第1回の授業にて通知する。

質問は、講義の前後に受け付ける。また、必要な場合には、各教員の研究室もしくはメールで受け付ける。

科目ナンバー (AG) BCH191J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
化学要論

2017～2021年度入学者
化学要論

2 単位

一刀かおり

1. 授業の概要・到達目標

生物や物質の構成要素は分子や原子であり、化学はこうした物質そのものを研究する学問である。その基礎知識を学ぶことは、材料科学のみならず、生命科学や農学研究をすすめるうえでも必要不可欠なものである。本講義では物質の性質や構造、反応、法則に関する化学的知識を学ぶ。とくに高校で十分に化学を学習していない学生がいることを想定して基礎に重点を置き、現象の化学的説明や考察方法を身につけることを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション（化学とは、最新の研究について）
- 第2回：元素・原子・電子、周期表
- 第3回：化学結合
- 第4回：化学反応（モル・濃度）
- 第5回：化学反応（酸化還元）
- 第6回：物質の状態
- 第7回：気体
- 第8回：化学反応（熱エネルギー）
- 第9回：化学反応（反応と平衡）
- 第10回：溶液と浸透圧
- 第11回：酸と塩基
- 第12回：放射線と放射能
- 第13回：有機化学と無機化学
- 第14回：講義全体の復習

3. 履修上の注意

受験で化学を選択しなかった者は、高校化学の教科書を参照し、講義の予習・復習につとめること。化学既習者も配布した講義資料を参考に復習につとめること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の内容を中心にして参考書の関連事項を含むパワーポイントを使って授業を行う。

5. 教科書

『はじめて学ぶ化学』野島高彦著、化学同人

6. 参考書

『理系のための基礎化学』増田芳男・澤田清編著、化学同人

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に、前回の授業で提示した課題の解説を行う。

8. 成績評価の方法

講義での小テストを40%、講義最後の試験を60%の目安で評価する。

9. その他

- ・オフィスアワー：最初の講義で指示する
- ・連絡先：kaori.nakama-itto@edu.k.u-tokyo.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0191J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 動物生命科学	2 単位	乾雅史
2017~2021年度入学者 動物生命科学		

1. 授業の概要・到達目標

動物における生命現象を理解するためには動物個体という複雑な系の理解とその背景にある分子レベルの理解がともに重要である。本講義では動物の発生現象という視点から個体レベルの現象と分子レベルの現象を講義する。多細胞生物の発生は複数種類の細胞の分化と形態形成が調和して起こる複雑な過程である。本講義ではまず個体発生過程における細胞の分化（細胞レベルの現象）や形態形成（組織・個体レベルの現象）について講義し、その過程に不可欠である細胞間のコミュニケーションについて、特に進化的に保存されたシグナル伝達経路（分子レベルの現象）に着目して講義する。

多細胞生物の発生の基礎およびその過程で働く進化的に保存されたシグナル伝達経路の代表的な役割について理解すること、またそれを通じて分子レベルの現象と個体レベルの現象がどのように結びつくのかを理解することを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション：多細胞生物の発生と細胞間コミュニケーション
- 第2回：発生生物学の基礎 1 受精から原腸陥入まで
- 第3回：発生生物学の基礎 2 細胞の分化と形態形成
- 第4回：発生生物学の基礎 3 三胚葉からの組織・器官の発生 I
- 第5回：発生生物学の基礎 4 三胚葉からの組織・器官の発生 II
- 第6回：シグナル伝達・細胞のコミュニケーション概論 1
- 第7回：シグナル伝達・細胞のコミュニケーション概論 2
- 第8回：Hedgehog シグナルとその発生における役割
- 第9回：TGF β /BMP シグナルとその発生における役割
- 第10回：Notch/RTK シグナルとその発生における役割
- 第11回：Wnt シグナルとその発生における役割
- 第12回：Hippo シグナルとその発生における役割
- 第13回：ゲノム編集とシグナル伝達
- 第14回：a 講義全体のまとめ
b 試験

3. 履修上の注意

高校生物未習者は並行して細胞生物学・分子生物学の基礎を学習することが望まれる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するレジュメおよびノートを振り返り、不明な点があれば次回の授業で質問すること。

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

『ギルバート発生生物学』 Scott T. Gilbert 著 阿形清和 高橋淑子 監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル社）
『細胞のシグナル伝達 システムとしての共通原理にもとづく理解』 Wendell Lim, Bruce Mayer, Tony Pawson 著 監訳 西田栄介（メディカル・サイエンス・インターナショナル社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

各回の講義で提示される課題について、Oh-o!Meiji を通じて、あるいは次の回の講義でフィードバックを行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%と授業への貢献度 30%で評価する。

9. その他

生命科学科・動物再生システム学研究室

科目ナンバー (AG)BI0191J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
植物生命科学

2 単位

高橋直紀

2017～2021 年度入学者
植物生命科学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物は動物とは異なる体制を進化させることで、地球上の様々な環境での生存を可能にしてきた。そして、近年の植物科学の進展により、植物の特徴が遺伝子や分子レベルで理解されるようになってきた。本授業では、植物の構造や発生・分化、環境応答、生物間相互作用などの基礎知識を習得することで、植物の生命過程への理解を深めることを目標とする。

《授業の概要》

植物の基本的成り立ちを細胞、組織、器官レベルで理解するとともに、光合成や植物ホルモン、胚発生や種子形成、花発生など、他生物では見られない植物の特徴について学ぶ。

2. 授業内容

- [第 1 回] イントロダクション
- [第 2 回] 植物の構造と細胞骨格
- [第 3 回] 物質輸送
- [第 4 回] 光合成
- [第 5 回] 細胞周期制御
- [第 6 回] 植物ホルモン
- [第 7 回] 光形態形成
- [第 8 回] 胚発生
- [第 9 回] 種子の休眠・発芽
- [第 10 回] 植物の成長と器官形成
- [第 11 回] 花成と花の発生・配偶体
- [第 12 回] 植物の老化と細胞死
- [第 13 回] 生物間相互作用
- [第 14 回] 植物の環境応答

3. 履修上の注意

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に、事前にクラスウェブにアップロードされている授業ファイルに目を通しておくこと。また、授業後に復習をすることで、理解を深めるようにする。不明な部分があれば、積極的に質問すること。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

- 『植物生理学・発生学 第 6 版』 テイツ/ザイガー編（講談社）
- 『植物の生化学・分子生物学』 Buchanan, Gruissem, Jones 編（学会出版センター）

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回、20 分程度課題に対する解説を行う。

8. 成績評価の方法

課題提出（15%）、期末試験（85%）により評価する。

9. その他

研究室：植物適応制御学研究室（第一校舎 2 号館 403 号室）

科目ナンバー (AG)BI0111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
分子生物学入門

2017~2021 年度入学者
分子生物学入門

2 単位

戸村秀明

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

遺伝を司る物質の構造、機能を中心に解説する。

《授業の到達目標》

遺伝現象の分子メカニズムを解明する過程で誕生した分子生物学は、今日の生命科学研究を理解するための基盤となっている。本講義では、分子生物学の基礎的事項が理解できることを目標としている。

2. 授業内容

第1回：遺伝物質としての DNA の発見

第2回：核酸の性質

第3回：タンパク質の性質

第4回：DNA の複製

第5回：DNA の変異と修復

第6回：転写と修飾

第7回：翻訳

第8回：まとめ I

第9回：細菌の分子遺伝

第10回：DNA の取り扱い

第11回：遺伝子工学

第12回：染色体・ゲノム

第13回：RNA の役割

第14回：まとめ II

講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

専攻科目群を学ぶための基礎事項を講義するので、わからないままにせず、講義で使用するプリント等を利用してきちっと復習することが必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の重要項目を選んで解説するので、講義前に教科書を一読しておくこと

講義中と復習用に使用するプリントを用意するので、それを使って復習を行うこと。

5. 教科書

『基礎分子生物学 第4版』 田村隆明・村松正實 著（東京化学同人）

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

試験により評価する。レポートなどの課題を課した場合は、試験（80%）、レポート等（20%）とする。

9. その他

細胞情報制御学研究室（5号館4階407号室）

科目ナンバー (AG)AGR111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
遺伝学

2017~2021 年度入学者
遺伝学

2 単位

大鐘潤

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物が自身の形質を次世代に伝える遺伝、および長い世代をかけて環境に適応してきた進化について、遺伝因子を仮定した古典遺伝学から、DNA 配列を基盤としたゲノム科学・分子生物学的観点での分子遺伝学への橋渡しを中心とし、遺伝学の基礎について理解することを目標とする。

《授業の概要》

様々な遺伝様式や遺伝現象の古典的・現代的解析法を中心に解説するとともに、遺伝子と変異・発生・育種・病気・進化などとの関係について基礎的な項目を概説する。

2. 授業内容

- 第 1 回：ガイダンス、DNA/遺伝子の基礎
- 第 2 回：DNA：遺伝子とゲノムの遺伝暗号
- 第 3 回：古典遺伝学（メンデルの法則を中心に）
- 第 4 回：染色体から見た遺伝の基礎（連鎖と遺伝地図）
- 第 5 回：核型と染色体の挙動
- 第 6 回：DNA：化学構造、複製
- 第 7 回：DNA：変異、修復
- 第 8 回：遺伝子発現の分子遺伝学
- 第 9 回：遺伝子制御の分子機構
- 第 10 回：病気と遺伝学
- 第 11 回：集団遺伝学
- 第 12 回：進化
- 第 13 回：量的形質の遺伝学
- 第 14 回：まとめ

3. 履修上の注意

下に指定する参考書のうち、『Essential 遺伝学 3rd edition』『エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学（原著第 7 版）』を中心に他の参考書からの必要事項を取り入れて、スライドを用いた講義を行う。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

いずれかの参考書で授業の該当箇所を予習しておくこと。また、講義資料は Oh-o! Meiji にて閲覧できるようにするので、講義で聞き逃した箇所を中心に復習すること。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

- 『Essential 遺伝学 3rd edition』D. L. ハートル/E. W. ジョーンズ共著，布山喜章/石和貞男訳，培風館
- 『エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学（原著第 7 版）』ダニエル・L・ハートル、化学同人
- 『クロー遺伝学概説 原書第 8 版』J. F. クロー著，木村資生/太田朋子共訳，培風館
- 『これだけは知っておきたい図解ジェネティクス』江島洋介著，オーム社

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点 30%（授業中に 3 回程度行う小テスト）、期末試験 70%で評価する。

9. その他

オフィスアワーは別途指示する。

科目ナンバー (AG)BI0231J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
細胞生物学(生命)

2 単位

吉田健一

2017~2021 年度入学者
細胞生物学(生命)

1. 授業の概要・到達目標

細胞生物学では、細胞の構造と機能の理解を通して、生命科学を学ぶうえで必要な基礎的概念の習得を目指す。この講義では、1) 細胞内の分子であるタンパク質、DNA および RNA が共同して一つの生命系を維持する基本機構の理解、2) 膜を利用した輸送経路とエネルギー生産、3) 細胞が動き、刺激に応答し、成長するメカニズムとは、等について動物細胞を中心に講述する。

生物学の基礎知識を持つ大学生が、より専門性の高い講義を学習することで、細胞生物学の真髄を理解することを目指す。本講義では原核細胞と真核細胞との比較を念頭に置いて講義を進め、2年時以降の専門科目を学ぶ上での知識獲得を目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：細胞とは
- 第2回：細胞の化学成分とエネルギー
- 第3回：タンパク質の構造と機能
- 第4回：DNA と染色体
- 第5回：DNA 複製と修復
- 第6回：DNA からタンパク質へ
- 第7回：遺伝子発現の調節
- 第8回：遺伝子とゲノムの進化
- 第9回：膜の構造
- 第10回：膜を横切る輸送
- 第11回：細胞内区画とタンパク質の輸送
- 第12回：細胞のシグナル伝達
- 第13回：細胞骨格・細胞周期
- 第14回（aモジュール）：組織の成り立ち・幹細胞・がん

3. 履修上の注意

授業の前後、指定された教科書の該当箇所を通読し、理解を深めておくこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容を振り返り、不明な部分があれば授業後に質問すること。また、次の回の内容について教科書に目を通しておくこと。

5. 教科書

『Essential 細胞生物学 原書第5版』 B. Alberts 他 著 中村桂子・松原謙一・榊佳之・水島昇 監訳（南江堂）

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中に実施する小テスト（50%）、定期試験（50%）で評価する。

9. その他

分子発生学研究室（6号館4階410A号室）。オフィスアワーは特に指定しないが、質問のための来室は随時受け付けます。

科目ナンバー (AG) BCH121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生物有機化学(生命)

2 単位

渡辺寛人

2017~2021 年度入学者
生物有機化学(生命)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

この授業では生命現象を踏まえつつ、有機化合物の構造と性質、および有機化学反応について、電子の動きを中心に解説を行う。

《授業の到達目標》

生命現象を支える諸反応は、細胞内外において起こる有機化学反応であるといっても過言ではない。この授業では、生命科学を学習・研究するための基礎となる基本的有機化合物の構造とそれに関わる反応とについて理解することを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：生命科学における有機化学の役割
- 第2回：原子の構造，共有結合と分子軌道
- 第3回：アルカン，化合物命名法，構造異性体，配座異性体
- 第4回：アルケン，幾何異性体，光学異性体
- 第5回：芳香族化合物，共鳴
- 第6回：化学反応と活性化エネルギー
- 第7回：アルカンのラジカル反応
- 第8回：アルケンの求電子付加反応
- 第9回：芳香族の求電子置換反応
- 第10回：ハロゲン化アルキルの求核置換反応，アルコール
- 第11回：カルボニル化合物の求核付加反応（1）
- 第12回：カルボニル化合物の求核付加反応（2）
- 第13回：カルボン酸，エーテル，エステル
- 第14回：アミン，アミド，複素環化合物・まとめ

3. 履修上の注意

「化学要論」を履修していることが望ましい。

とくに、化学を苦手とする学生は「化学要論」を予め必ず履修すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

参考書や授業中に配布する資料，Oh-o! Meiji システムに掲載される資料・練習問題等を活用して予習・復習を行い，不明な点があれば質問すること。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

『ハート基礎有機化学』秋葉・奥訳（培風館）

『ブルース有機化学概説』大船他監訳（化学同人）

『ビギナーズ有機化学』川端著（化学同人）

この他の参考書については、授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学期末試験のみで評価する。

9. その他

生体機能物質学研究室（2号館4階2-401A号室）

オフィスアワー：水曜日 12：10～12：50 質問したい場合は、これ以外の時間帯でも遠慮なく来てほしい。

E-mail: hwata@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0121J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生化学Ⅰ（生体成分・酵素）
2017～2021年度入学者
生化学Ⅰ（生体成分・酵素）

2 単位

佐藤 伴

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

生化学は、生体を構成する分子を科学的に理解し、その反応についても化学から考察する学問である。本講義では、生化学を理解する上で基礎となる生体成分・酵素について解説する。講義内に小テストを行う。

〈到達目標〉

生体成分や酵素は、生体における基本的な要素であり、特性や機能を理解することは、生化学だけでなく生命科学において必須である。本講義では、生体を構成する成分について機能や特性についての基礎知識及び酵素の性質や機能について理解することを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：生化学の基礎
- 第2回：水の性質・ミネラル
- 第3回：化学反応と自由エネルギー
- 第4回：核酸
- 第5回：アミノ酸
- 第6回：タンパク質の構造
- 第7回：タンパク質
- 第8回：糖
- 第9回：脂質
- 第10回：酵素Ⅰ：基本的な性質
- 第11回：酵素Ⅱ：反応速度論1
- 第12回：酵素Ⅲ：反応速度論2
- 第13回：糖鎖合成
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

講義は、パワーポイントを使用します、その際の資料は事前に Oh-o! Meiji にて配布します。講義開始までに各自ダウンロードしてください。対面時は資料を配布します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業で使用する資料を事前にダウンロードし、予習をしておくこと。また、毎授業後の復習を行うことで、理解度や知識の獲得に貢献すると思います。

5. 教科書

特に指定しません。資料を用いて授業を行います。

6. 参考書

- ヴォート基礎生化学
- ベインズ・ドミニチャク生化学
- イラストレイテッド生化学

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

講義内における小テスト（60%）定期試験（40%）で評価を行う。
必要な場合はレポート課題を課します。

9. その他

電子メールにて質問は随時受け付けます。連絡先は、初回の講義時に伝えます。

科目ナンバー (AG)BI0111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
分子生物学(生命)

2 単位

田中博和

2017~2021 年度入学者
分子生物学(生命)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物の遺伝的形質は遺伝子によって決定される。本講義では、遺伝子がどのようなものであり、その中の情報がどのような仕組みで発揮（発現）されるのかを理解することを目標とする。

《授業の概要》

遺伝子の働きについて、その構造や情報の単位、情報の発現などを、図表を提示しながら解説する。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：細胞を構成する物質

第3回：遺伝子の性質

第4回：核酸の性質と機能

第5回：DNA複製

第6回：ヌクレオチド鎖の中の情報

第7回：遺伝子情報の発現

第8回：遺伝子情報の転写機構

第9回：タンパク質の生合成

第10回：遺伝子が決めるタンパク質の構造と機能

第11回：遺伝子の働きの調節

第12回：遺伝子機能の攪乱

第13回：遺伝子組み換え

第14回：a: まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

生化学の基礎知識が必要となる。理解度を確認するために小テストを行うことがある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

必要な資料は授業時に配布する。授業後は配布資料と参考書で復習して理解を深めることが望ましい。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『ヴォート基礎生化学』田宮他・訳（東京化学同人）

『理系総合のための生命科学』東京大学生命科学教科書編集委員会（羊土社）

『細胞の分子生物学』中村・松原監訳（南江堂）

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブで出した課題については、フィードバック機能でコメントする。

紙媒体で提出した課題については、次回以降の講義で返却する。

8. 成績評価の方法

定期試験（60%）、小テストや授業への貢献度（40%）で評価する。

9. その他

植物発生制御学研究室（2号館4階402号室）

質問等は随時受け付ける。

科目ナンバー (AG)AGC121J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 微生物学Ⅰ(生命)	2 単位	浜本牧子
2017～2021年度入学者 微生物学Ⅰ(生命)		

1. 授業の概要・到達目標

微生物, 特に生命科学分野において大切な真正細菌, 放線菌, 古細菌, 糸状菌, 酵母, バクテリオファージの分類, 形態, 細胞構造とその機能, 栄養, 生理, および生育について講述します。

通常肉眼では見ることのできない微生物は多種多様な生き物であり, 地球上の物質循環や食品・医薬品などの物質生産において人間生活に重要な役割を果たしています。一方, 最新の生命科学研究に欠かせないバイオテクノロジーは伝統的な微生物の研究を基盤に発展してきました。本講義は, 微生物とはどのような生き物か, どのような種類がいるのか, またどのようにして生命活動を営んでいるのかなどの微生物に関する基礎知識を理解し, 身に付けることを到達目標とします。本講義は, 2年次以降に学ぶ微生物学Ⅱおよび微生物工学を理解するための基礎となります。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション (微生物とは)
- 第1回 b: 微生物の基礎
- 第2回: 原核微生物と真核微生物
- 第3回: 微生物の分類
- 第4回: 真正細菌の形態・分類
- 第5回: 放線菌, 古細菌の形態・分類
- 第6回: 真菌類の形態・分類
- 第7回: 酵母の形態・分類
- 第8回: バクテリオファージの形態・分類
- 第9回: 原核細胞と真核細胞の構造・機能の違い
- 第10回: 原核微生物の構造と機能
- 第11回: 真核微生物の構造と機能
- 第12回: バクテリオファージの構造と機能
- 第13回: 微生物の生理
- 第14回: aのみ: まとめ

3. 履修上の注意

微生物学は生化学, 分子生物学など幅広い分野と連携しながら発展してきたものであるため, これら関連分野の同時履修が望ましい。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

事前に参考書の該当箇所を読み, 予習を行うこと。授業後は配付プリントおよび参考書を用いて復習し, 理解を深めること。不明な部分があれば授業で質問すること。

5. 教科書

特に定めません。プリントを配付します。

6. 参考書

- * 微生物学の参考書
 - 『Q & A で学ぶ やさしい微生物学』 浜本哲郎・浜本牧子 著 (講談社)
 - 『遺伝子・細胞から見た 応用微生物学』 阪井康能他 編著 (朝倉書店)
 - 『応用微生物学』 塚越規弘 編 (朝倉書店)
 - 『応用微生物学 第2版』 清水昌・堀之内末治 編 (文永堂出版)
 - 『ベーシックマスター微生物学』 掘越弘毅 監修 (オーム社)
- * 微生物学を理解する上で必要な生化学の参考書
 - 『ヴォート基礎生化学 第5版』 田宮信雄他訳 (東京化学同人)

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で行う。

8. 成績評価の方法

授業中に実施する課題 20%, 授業への参加度 30%, 定期試験 50%

9. その他

微生物工学研究室 (6号館3階301号室)

科目ナンバー (AG)BI0221J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生化学Ⅱ（動物代謝）
2017～2021年度入学者
生化学Ⅱ（動物代謝）

2 単位

後藤芳邦

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標》

動物の体の中で食物や体内の貯蔵物質が、どのように「代謝」され、利用されるかを理解する。また、代謝反応は、動物の栄養・健康状態によって変化することを理解する。

《授業の概要》

食物がエネルギーや生体高分子を形作る部品としてどのように利用されるかを、動物の「代謝」反応を通して学ぶ。本講義では、特に以下の2点に関して重点的に紹介する。

- (1) 糖、脂質、蛋白質の代謝（異化及び同化）の意義と主な反応
- (2) 飢餓、飽食状態における動物のエネルギー代謝反応

2. 授業内容

- 第1回：講義全体の概要、成績評価の説明、代謝を学ぶ意義
- 第2回：エネルギー代謝概論
- 第3回：解糖系
- 第4回：クエン酸回路
- 第5回：電子伝達系と酸化リン酸化反応
- 第6回：飢餓および飽食状態におけるエネルギー代謝
- 第7回：グリコーゲンの代謝
- 第8回：糖新生
- 第9回：脂肪酸の代謝
- 第10回：ケトン体の生合成
- 第11回：コレステロールの代謝
- 第12回：アミノ酸の代謝
- 第13回：ペントースリン酸回路
- 第14回：ヌクレオチドの代謝

(進捗状況により、項目の入れ替え、内容の変更などがある。)

3. 履修上の注意

(1) 高校までの「生物」の確認、(2)「生化学Ⅰ」と「細胞生物学」の講義内容の復習が、本科目の学習には望まれる。講義では配布プリントを用い、重要な部分は板書するので、プリントをまとめるバインダーやノートを用意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の限られた時間では、広大な動物代謝の全ての領域をカバーすることはできない。配布資料や参考書を参考に、各回の予習、復習を各自で実施し、理解を深めること。

5. 教科書

講義テキストとしては使用しないが、参考書を一冊購入することを強く勧める。

6. 参考書

詳解 生化学 —BIOCHEMISTRY— 京都廣川書店
リップスコット生化学 丸善出版
THE CELL 細胞の分子生物学 ニュートンプレス

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの成績を学生に開示し、学習の進展を理解させる。
また、小テストの成績が良好ではない領域について講義で改めて解説することで理解度を向上させる

8. 成績評価の方法

平常点（指名時の受け答え、授業内の小テスト、レポートなど）30%、定期試験の成績70%を基本として総合的に評価する。評価方法については、講義中に確認する。

9. その他

本講義に関する質問、発展学習の相談等は授業の前後又はメール等を介して、受け付ける。

科目ナンバー (AG)BI0221J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 生化学Ⅲ(植物代謝)	2単位	宮田佳奈
2017~2021年度入学者 生化学Ⅲ(植物代謝)		

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

植物には、動物には存在しない特有の代謝系が多数存在する。本講義では、特に高等植物について、光合成や呼吸をはじめとする様々な代謝系について学び、地球の環境を支えている植物についての理解を深める。

<到達目標>

植物が持つ代謝系について幅広く理解し、受講者が将来、農学・植物科学分野で国際的に活躍するにあたり、必要な基礎知識を十分に身に付けることを目標とする。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：植物とは何か？・葉緑体の起源

第3回：植物の細胞・構造・物質輸送

第4回：一次代謝と二次代謝

第5回：光合成Ⅰ：光反応と炭素固定反応・でんぷんの合成

第6回：光合成Ⅱ：光呼吸・C4植物・CAM植物

第7回：光合成Ⅲ：環境による変化・光合成まとめ

第8回：呼吸

第9回：植物が持つ多様な代謝系

第10回：二次代謝産物と防御応答

第11回：無機イオンの代謝とリン酸の役割

第12回：窒素代謝

第13回：植物代謝系の利用

第14回：授業の振り返りと総括

*講義内容は状況に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

Oh-o! Meiji の小テスト機能や出席確認機能を使うため、スマートフォンなどのデバイスを持参すること。

*感染症などの欠席時には、事前のメール連絡を通して、オンラインで授業を受けられるようにするなど適宜対応する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で触れる内容はあくまでエッセンスであり、興味がある部分は自分でさらに詳しく調べ、学習を深めることを前提としている。授業内で疑問に思ったことなどをさらに深く調べ、レポートとして提出することを準備学習とする。必要に応じて、以下に挙げた参考書などを熟読することが好ましい。

また、毎週前回の授業を復習する機会を提供する。先週学んだことを再確認してから授業に臨むこと。

5. 教科書

特に指定しない。スライドを用いた授業を行う。

6. 参考書

『テイツ/ザイガー植物生理学 第3版』L・テイツ・E・ザイガー編（培風館）

『テイツ/ザイガー植物生理学・発生学 原著第6版』L・テイツ/E・ザイガー/I・Mモラー/A・マーフィー編（講談社）

『図説生物学30講 植物編4 光合成と呼吸』大森正之 著（朝倉書店）

『図説生物学30講 植物編5 代謝と生合成』芦原担・加藤美砂子著（朝倉書店）

『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第3版』Tracey Greenwood 著, Lissa Bainbridge-Smith 著, Kent Pryor 著, 後藤太一郎 翻訳（オーム社）

『キャンベル生物学 原書11版』池内 昌彦 監訳, 伊藤元己 監訳, 箸本 春樹 監訳, 道上 達男 監訳（丸善出版）

これ以外の文献に関しては、スライドで出典を明示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの回答は、次の週に正解を公開・解説を行う。

提出されたレポートに対しては、Oh-o! Meiji を通してコメントと評価を返す。良くできているものに関しては、授業内で内容を共有する。

期末試験に関しては、全体講評を Oh-o! Meiji を通して公開する。

8. 成績評価の方法

定期試験 40%、平常点（授業参加・貢献度、小テスト）60%

9. その他

質問は随時受け付けます。

連絡先: kanamiyata@meiji.ac.jp

@を小文字に変えてください。

研究室：環境応答植物学研究室（5号館1階5-107号室）

科目ナンバー (AG) CBI268J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
バイオインフォマティクス入門
2017~2021 年度入学者
バイオインフォマティクス入門

2 単位

紀藤・吉本・河野・乾・大鐘・中村
(孝)・浅沼・田中・吉田・中村(和)

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

バイオインフォマティクスは、生命科学分野の大規模データを解析するために必要不可欠な学問である。とくに、多くの生物種のゲノム配列解読や、様々な分析技術の進歩により、多種多様な大規模データが生命科学の分野で利用されるようになってきた。これらのデータ解析には、ウェブ上で利用できる多くの解析ツールが活用されている。一方で、解析目的も多様なため、プログラム言語を用いたデータ解析も重要な技術のひとつである。本授業では、生命科学に関わる大規模データからあらたな生物学的知識を抽出するための知識や技術として、ウェブ上の解析ツールとプログラム言語の理解とその活用方法を習得することを目標とする。

《授業の概要》

生命科学分野に関わるウェブ上の解析ツールとして、文献検索から配列情報およびオミクスデータの解析に利用される手法を解説するとともに、演習形式の授業のなかで実際に利用し、理解を深める。また、生命科学のデータ解析に重要かつ汎用的な統計解析の基礎について、解説する。後半では、Python や R などのプログラム言語を解説と演習をとおして、その基本的なルールや活用方法を学習する。

2. 授業内容

- 第1回 a: ガイダンス・系統樹の作成 (紀藤・浅沼)
- 第2回: 学術論文の検索 (吉本)
- 第3回: 配列情報データベースの活用 (河野)
- 第4回: DNA 実験のための解析ツール・配列解析ツールの有用性 (乾・大鐘)
- 第5回: 統計解析の基礎 (中村(孝))
- 第6回: 画像解析データの統計解析 (田中)
- 第7回: microRNA データベースの活用 (吉田)
- 第8回: オミクス解析データベース・Gene Ontology 解析 (紀藤)
- 第9回: Python の基礎 (中村(和))
- 第10回: 変数・条件分岐 (中村(和))
- 第11回: 繰り返し・ファイル入出力 (中村(和))
- 第12回: 文字列処理 (中村(和))
- 第13回: ライブラリの利用 (中村(和))
- 第14回: R の利用 (中村(和))

3. 履修上の注意

分子生物学などの基礎知識を学習しておくこと。また、PC の基本的操作 (ファイルの保存、ウェブサイトの閲覧、キーボード入力など) について、予め理解をしておくことが望ましい。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

Oh-o! Meiji クラスウェブに掲載する各回の授業資料を予め閲覧し、内容の概略について予習をするとともに、各回の課題を通して知識の習熟に努める。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義もしくは Oh-o! Meiji クラスウェブにおいて課題の解説または講評などを行う。

8. 成績評価の方法

各回の課題および総合課題を期限内に提出すること。各回の課題を 60%、平常点 20%、総合課題 20% で評価する。

9. その他

科目ナンバー 未設定		
科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 キャリア教育	1 単位	生命科学科教員
2017～2021 年度入学者 キャリア教育		
1. 授業の概要・到達目標 物事に取り組む姿勢を学び、将来の生き方、社会での実務に対する意識を高めるとともに、学問に対する関心を高めることを目的とする。このため、学外における企業研修に参加し、大学の講義や実験・実習のみでは身につけることの出来ない事柄を、体験を通して学ぶ。この科目は、学外の企業・公的機関等で行う実習と報告会をその内容とする。		
2. 授業内容 <ガイダンス> キャリア教育に関する説明、および実習の心構えなどについて説明する。 <学外実習> 1) 実習希望者が実習先を決定 2) 書類審査及び報告会等により、単位認定の可否を決定 3) 実習への参加 4) 実習記録の提出 実習レポート（実習日誌及び実習報告書等）の提出（実習者本人） 実習受け入れ実施報告書の提出（実習先担当者） <実習報告会> 各自の実習についてプレゼンテーション資料等を作成し、報告する。		
3. 履修上の注意 ・必ずガイダンスに参加する。 ・指定された期日までに実習参加届けを提出する。 ・実習先は、全学版 Meiji Job Trial あるいは農学部へ依頼があった企業等とする。1～2 年次の実習は企業等が行うタイプ 2 キャリア教育のプログラムに相当するものとする。3 年次はタイプ 3 と 4 に相当するインターンシップも対象とする。タイプについては以下のリンクを参照： https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/20230920-app_ope02-1.pdf ・実習期間は、実働 5 日間以上とする。 ・単位認定の対象にならなかった場合、ならびに実習先が見つからなかった場合は、履修取り消しを認める。 ・実習は夏季あるいは春季休業期間中に行う。春休み期間に実習を行う場合は、次年度の履修科目とする。 ・配当学年は 1～3 年、1 年に 1 回、3 単位を上限とする。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実習先の社会的役割、目的、業務内容などを事前に把握する。 実習を通して考えたこと、身につけたことを、大学における学習、研究室活動等にフィードバックする意識を持つ。		
5. 教科書 実習先で紹介・指定される可能性がある。		
6. 参考書 実習先で紹介・指定される可能性がある。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実習レポート（40%）、実習受け入れ実施報告書（30%）、報告会の発表（30%）		
9. その他 不明な点は農学部事務室、または担当教員（就職担当教員、カリキュラム担当教員、学科長）に問い合わせること。		

科目ナンバー (AG)BB1241J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
動物生理学 I

2017~2021 年度入学者
動物生理学 I

2 単位

中村孝博

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

ヒトを含む哺乳類を中心とした高等動物における各種生体機能について、機能別に詳説する。また、動物の生殖に関する生理現象についても解説する。

《授業の到達目標》

動物生理学Ⅱとあわせ、「生体の機能調節機構」について理解することを最終目標とする。そのために本講義では、各器官の役割について深く理解する。各項目の到達目標は講義内に示す。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：細胞の基本構造・機能と組織

第3回：血液

第4回：循環系Ⅰ（心臓の機能）

第5回：循環系Ⅱ（刺激伝導系）

第6回：循環系Ⅲ（血液系とリンパ系）

第7回：呼吸系Ⅰ（呼吸生理の基礎）

第8回：呼吸系Ⅱ（呼吸調節）

第9回：消化と吸収Ⅰ（消化液の分泌）

第10回：消化と吸収Ⅱ（消化管の運動と吸収）

第11回：排泄系Ⅰ（腎臓の機能）

第12回：排泄系Ⅱ（尿の生成と排泄）

第13回：生殖の生理Ⅰ（性周期とホルモン）

第14回：生殖の生理Ⅱ（生殖器の機能と受精～妊娠・分娩）

3. 履修上の注意

1年次に履修可能な生命科学科目の内容を十分に理解していることが望ましい。講義では配布プリントを用い、重要な部分は板書するので、プリントをまとめるバインダーやノートを用意すること。また、生理学への理解を深めるために、秋学期に設定されている動物生理学Ⅱとのセット履修を推奨している。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業後は、各項目で設定されている到達目標を達成できたかを各自で確認し、達成するまで参考書等を用い復習すること。

5. 教科書

講義テキストとしては使用しないが、参考書を一冊購入することを強く勧める。

6. 参考書

シンプル生理学（南江堂）

標準生理学（医学書院）

生理学・解剖学（羊土社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（指名時の受け答え、授業内の小テスト、レポートなど）30%、定期試験の成績70%を基本として総合的に評価する。評価方法については、講義中に確認する。

9. その他

講義に関する質問は動物生理学研究室（5号館4階 5-405室）で受け付けます。オフィスアワーは別途連絡します。

科目ナンバー (AG)BB1241J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
動物生理学Ⅱ

2単位

中村孝博

2017～2021年度入学者
動物生理学Ⅱ

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生体機能の中でも統合生理機能を担う神経系・内分泌系についての講義を行う。前半では復習も兼ね生理学領域に必要な遺伝情報の発現・発現調節・転写翻訳についての知識を再確認し、統合生理機能を理解するうえで重要な概日リズム機構について概説する。その後、内分泌系・神経系について詳説する。最終的に分子レベルから生体の機能調節機構を理解するための知識や考え方について解説する。

《授業の達成目標》

「生体の機能調節機構を分子・細胞レベルから説明できる」ことを目標とする。動物生理学Ⅰで理解した各器官の生理機能について個体として機能するための調節の仕組みを、細胞間及び細胞内における生体分子の相互作用と、分子情報の流れという視点から再構築する。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション及び遺伝子の基本構造・機能、遺伝子発現（セントラルドグマ）

第2回：内分泌系Ⅰ（ホルモンの基礎）

第3回：内分泌系Ⅱ（各ホルモンの働きⅠ）

第4回：内分泌系Ⅲ（各ホルモンの働きⅡ）

第5回：概日リズムの生理学

第6回：神経系Ⅰ（中枢神経系・末梢神経系Ⅰ）

第7回：神経系Ⅱ（中枢神経系・末梢神経系Ⅱ）

第8回：神経系Ⅲ（ニューロンの構造・機能と伝導）

第9回：神経系Ⅳ（シナプス伝達と神経ネットワーク）

第10回：感覚系Ⅰ（感覚の一般的性質）

第11回：感覚系Ⅱ（体性感覚・内臓感覚）

第12回：感覚系Ⅲ（特殊感覚）

第13回：筋収縮機構

第14回：生体の機能調節（体温調節、血糖調節）

3. 履修上の注意

動物生理学Ⅰの内容を理解していることを前提として講義を進めるため、動物生理学Ⅰとのセット履修を強く勧める。講義では配布プリントを用い、重要な部分は板書するので、プリントをまとめるバインダーやノートを用意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業後は、各項目で設定されている到達目標を達成できたかを各自で確認し、達成するまで参考書等を用い復習すること。

5. 教科書

講義テキストとしては使用しないが、参考書を一冊購入することを強く勧める。

6. 参考書

シンプル生理学（南江堂）

インテグレートドシリーズ生理学（東京化学同人）

標準生理学（医学書院）

生理学・解剖学（羊土社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（指名時の受け答え、授業内の小テスト、レポートなど）30%、定期試験の成績70%を基本として総合的に評価する。評価方法については、講義中に確認する。

9. その他

講義に関する質問は動物生理学研究室（5号館4階5-405室）で受け付けます。オフィスアワーは別途連絡します。

科目ナンバー (AG)BB1291J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 生殖生物学	2 単位	長嶋比呂志
2017～2021 年度入学者 生殖生物学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

我々人類も動物の中の一民族であるという原点に立ち、生殖を通じた動物の理解を目標とする。

《授業の概要》

有性生殖を営む動物の生殖細胞の形成・受精・発生過程、哺乳動物における着床・胎仔発育・性行動などを取り上げ、その機構や特徴などを解説するとともに、生物学的解釈について講義する。さらに、動物生殖の人為的操作の技術内容・意義・応用・課題・展望等について学ぶ。

《授業の狙い》

生殖生物学および派生する人工生殖技術が、医療や産業において利用されている事例の紹介を通じ、大学の授業での学びと実社会の接点の顕在化を図る。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション

b: 個体発生のはじまりを探る

第2回: 人工生殖技術と生殖の人為的操作

第3回: 人工生殖技術の応用と社会との接点

第4回: 生殖細胞の形成 (卵子形成)

第5回: 生殖細胞の形成 (精子形成)

第6回: 精巣の構造と精子生産

第7回: 精子の形態と機能

第8回: 雌性生殖器の形態と機能

第9回: 減数分裂と生殖細胞の多様性

第10回: 受精と卵子の変化

第11回: 胚の初期発生

第12回: 着床、胎子発育、胎生機構における胎盤の意義

第13回: 性周期と性行動

第14回 a: 総括 (講義全体のまとめ、試験問題の傾向と学習ポイント)

3. 履修上の注意

発生工学を履修する学生は本科目も履修することが望ましい。

授業中に参考となる文献やウェブ上の URL を紹介するので、それらを参照して授業の準備や理解の深化を行うことが学生に期待されている。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

授業で紹介した問題について文献等で調べ、理解を深めること。

復習として、教科書の当該箇所を読むこと。

5. 教科書

『繁殖生物学』 日本繁殖生物学会編 (インターズー)

6. 参考書

『哺乳類の生殖生物学』 高橋迪雄 (学窓社)

『動物生殖学』 佐藤英明 (朝倉書店)

『新繁殖学辞典』 家畜繁殖学会編 (文永堂出版)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中の小テスト、発表等の結果によって評価する。

9. その他

メディカル・バイオエンジニアリング研究室 (5号館4階406号室)

連絡先: hnagas@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BB1231J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 生体機構学 I	2 単位	長竹貴広
2017～2021年度入学者 生体機構学 I		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生体機構学は体の構造と機能を細胞レベルから個体レベルまで広範に学ぶ動物科学全般の基礎となる学問である。前半は、動物の体を構成する各器官について解説する。後半は、生体機構学で学ぶ各項目（系）のうち、近年重要視されてきている免疫系を特に取り上げ、免疫細胞の分化機構や働きについての基礎を詳説する。

《授業の到達目標》

解剖学的知識を身につけ、免疫系の基礎を理解し、説明できるようになることを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：解剖学用語、細胞と組織
- 第2回：運動器系（骨格系、筋系）
- 第3回：循環器系（血液系、リンパ系）
- 第4回：呼吸器系
- 第5回：消化器系1（口腔、咽頭、食道、胃）
- 第6回：消化器系2（小腸、大腸）
- 第7回：消化器系3（肝臓、膵臓）
- 第8回：泌尿器系
- 第9回：生殖器系
- 第10回：免疫系1（免疫系概論）
- 第11回：免疫系2（胸腺の構造と機能、T細胞分化の仕組み）
- 第12回：免疫系3（B細胞分化の仕組み、抗体の構造と機能）
- 第13回：免疫系4（獲得免疫系）
- 第14回：免疫系5（自然免疫系）

3. 履修上の注意

生体機構学 II と合わせて履修することが望ましい。積極的に質問し理解を深めること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については参考書等で復習しておくこと。

5. 教科書

指定しない。

6. 参考書

指定しないが参考書の例をあげる。

- 『人体の構造と機能 第6版』上田晃・内田さえ・鍵谷法子・原田彰宏 著（医歯薬出版）
- 『免疫系のしくみ-免疫学入門- 第4版』Lauren Sompayrac 著、桑田啓貴・岡橋暢夫 訳（東京化学同人）
- 『新T細胞の免疫学』小安重夫（羊土社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中の質疑応答で行う。

8. 成績評価の方法

学期末試験のみで評価する。

9. その他

生体機構学研究室（第一校舎5号館4階401号室）
E-mail: nagatake@meiji.ac.jp
オフィスアワーは設けませんが、質問したい場合は遠慮なく来てほしい。

科目ナンバー (AG)BB1231J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生体機構学Ⅱ

2単位

長竹貴広

2017～2021年度入学者
生体機構学Ⅱ

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

生体機構学Ⅰで学習した基礎を発展させ、より複雑なシステムを形成し統合生理機能を担う内分泌系・神経系・免疫系を扱う。前半は、内分泌系と神経系の構造と機能を解説する。後半は、免疫反応の仕組みと制御についての基礎を詳説する。

〈授業の到達目標〉

解剖学的知識を身につけ、細胞間情報伝達機構の基礎を理解し、説明できるようになることを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：内分泌系1（視床下部、下垂体）
- 第2回：内分泌系2（甲状腺、副腎など）
- 第3回：神経系1（神経系の発生、構成）
- 第4回：神経系2（脳神経）
- 第5回：神経系3（脊髄、神経伝導路、自律神経系）
- 第6回：神経系4（脳）
- 第7回：神経系5（感覚器）
- 第8回：免疫系1（免疫系概論・復習）
- 第9回：免疫系2（抗原のプロセッシングと抗原提示）
- 第10回：免疫系3（免疫細胞の体内動態）
- 第11回：免疫系4（粘膜免疫機構）
- 第12回：免疫系5（リンパ組織構築の分子機構）
- 第13回：免疫系6（ワクチン、アレルギー）
- 第14回：免疫系7（免疫を制御する腸内環境因子）

3. 履修上の注意

生体機構学Ⅰと合わせて履修することが望ましい。積極的に質問し理解を深めること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については参考書等で復習しておくこと。

5. 教科書

指定しない。

6. 参考書

指定しないが参考書の例をあげる。

- 『人体の構造と機能 第6版』上田晃・内田さえ・鍵谷方子・原田彰宏 著（医歯薬出版）
- 『免疫系のしくみ-免疫学入門- 第4版』Lauren Sompayrac 著、桑田啓貴・岡橋暢夫 訳（東京化学同人）
- 『新T細胞の免疫学』小安重夫（羊土社）
- 『粘膜免疫 腸は免疫の司令塔』清野宏・石川博通・名倉宏 編集（中山書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中の質疑応答で行う。

8. 成績評価の方法

学期末試験のみで評価する。

9. その他

生体機構学研究室（第一校舎5号館4階401号室）
E-mail: nagatake@meiji.ac.jp
オフィスアワーは設けませんが、質問したい場合は遠慮なく来てほしい。

科目ナンバー (AG) CBI211J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生体防御学

2017~2021 年度入学者
生体防御学

2 単位

河野菜摘子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

動物の生体防御について基本的なしくみを理解することを目的とします。

《授業の概要》

私たちの体内には、一生を通じて非自己生物・物質が頻繁に侵入してきます。生体防御システムによって、これらが速やかに取り除かれることで生体恒常性が維持され、そのシステムが破綻すると健康を保つことが難しくなります。授業では様々な動物の生体防御システムを知ると同時に、免疫学が発達してきた背景を学びます。後半では、身近に感じられる免疫システムに着目して解説します。

2. 授業内容

第1回：生体防御とは

第2回：生体防御の進化（自然免疫）

第3回：生体防御の進化（獲得免疫）

第4回：免疫学誕生の歴史

第5回：非自己認識システム

第6回：抗体産生理論

第7回：記憶する免疫

第8回：自分を攻撃しないしくみ

第9回：アレルギー疾患

第10回：免疫学の新しい課題

第11回：免疫寛容システム（共生細菌）

第12回：免疫寛容システム（経口免疫寛容）

第13回：免疫寛容システム（体内受精・妊娠）

第14回：a：総括、b：定期試験

3. 履修上の注意

授業は主にパワーポイントを用いて行い、資料はOh-o! Meijiにて配布します。授業開始までに各自ダウンロードし、印刷等しておいてください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業で使用する資料を事前にダウンロードし、教科書等で調べておくこと。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

特に定めません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回、授業に対する質問・疑問を回収します。代表的な皆さんの質問・疑問について、次の授業のはじめに解説・フィードバックをする予定です。

8. 成績評価の方法

定期試験（100%）にて評価します。毎回出席を取り、欠席回数が5回以上の場合、受験資格を失うことがあります。

9. その他

質問のための来室（2号館4階405号室）やメール(nkawano@meiji.ac.jp)は随時受け付けます。

科目ナンバー (AG) CBI211J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
生体制御学

2017~2021 年度入学者
生体制御学

2 単位

河野菜摘子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

動物の生体形成の基本的なしくみを理解し、体の調節機構に関する最新のメカニズムを学ぶことを目的とします。

《授業の概要》

動物は受精卵から始まり、卵割、細胞分裂、組織・器官形成を経て個体発生します。その仕組みは精密かつ正確に制御されています。授業では個体形成の仕組みを疾患、ミュータントなどの事例をもとに解説します。後半では、より複雑な制御を受ける感覚器の仕組みを学び、最近注目されている再生医療についても言及します。

2. 授業内容

第1回：a：イントロダクション（生体制御とは）、b：文献の調べ方について

第2回：受精

第3回：初期発生

第4回：遺伝子発現のエピジェネティック制御

第5回：体軸形成

第6回：後期発生

第7回：性決定

第8回：四肢形成

第9回：発生とがん

第10回：再生医療の展開

第11回：感覚器（目）

第12回：感覚器（鼻）

第13回：感覚器（耳）

第14回：a：総括、b：定期試験

3. 履修上の注意

授業は主にパワーポイントを用いて行い、資料は0h-o! Meijiにて配布します。授業開始までに各自ダウンロードし、印刷等しておいてください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業内容について、0h-o! Meijiよりダウンロードした資料をもとに教科書や文献等で調べておくこと。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

そうだったのか！ヒトの生物学 坪井貴司著（丸善出版）

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回、授業に対する質問・疑問を回収します。代表的な皆さんの質問・疑問について、次の授業のはじめに解説・フィードバックをする予定です。

8. 成績評価の方法

定期試験（100%）にて評価します。毎回出席を取り、欠席回数が5回以上の場合、受験資格を失うことがあります。

9. その他

質問のための来室（2号館4階405号室）やメール(nkawano@meiji.ac.jp)は随時受け付けます。

科目ナンバー (AG)BB1291J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 動物栄養学 I	2 単位	浅沼成人
2017～2021年度入学者 動物栄養学 I		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

動物栄養学では、ヒトも含めた動物全般の栄養に関する基本的な事柄を扱う。内容としては、食べたものが体内でどのように代謝・利用され、生命活動にどう役立つかを説明する。これは、一般的な生命現象だけでなく、特にヒトやペット動物の場合は健康との関連が重要であり、家畜の場合はタンパク食料の生産との関連が重要である。栄養学 I では、栄養学の基本的な事項を学び、腸内細菌との関わり合いについて学習する。

《授業の到達目標》

動物栄養学 I では、栄養素の特性を知り、それらを摂取することによる健康効果を学ぶ。さらに、それらがどのように消化・吸収されるかを学習する。また、消化管に生息する腸内細菌と宿主動物との関わり合い、特に腸管免疫系の発動、について学習し、腸内細菌による健康効果を知る。

2. 授業内容

- 第1回：栄養学の概要、主要栄養素の栄養効果
- 第2回：主要栄養素（炭水化物、たんぱく質）の生理作用_1
- 第3回：主要栄養素（たんぱく質、脂質）の生理作用_2
- 第4回：微量栄養素（ビタミン、ミネラル）の生理作用
- 第5回：消化管の構造と機能
- 第6回：炭水化物の消化と吸収
- 第7回：たんぱく質の消化と吸収
- 第8回：腸内細菌とヒトとの関わり合い
- 第9回：腸内細菌による有益物質の生成
- 第10回：腸内細菌による有害物質の生成
- 第11回：腸内細菌による発癌抑制
- 第12回：腸粘膜免疫系
- 第13回：腸内細菌による免疫制御
- 第14回：腸内細菌による健康効果のまとめ

3. 履修上の注意

生命科学科カリキュラムの生化学 I および II、微生物学 I および II、動物生理学 I および II、生体機構学 I および II、生体防御学の単位を修得していることが望ましい。また、秋学期開講の動物栄養学 II とのセット履修が望ましい。

本講義は、対面授業を主として行います。対面での授業を実施した際の内容について、動画や資料の配布は致しませんので、講義に出席して下さい、お願い致します。

課題レポートは、クラスウェブのレポート欄を通じて連絡いたします。課題レポートは、充実した内容となるように作成して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

ノートをしっかりととり、毎回の講義に持参すること。予習としては、ノートを見直し、前回までの講義内容について頭に入れておくこと。復習としては、講義時のメモノートの内容を整理し、内容を確認しながら、清書版のノートを再作成すること。不明な参考用語等については、辞書等で調べること。講義内で紹介した問題や課題について文献等で調べること。

5. 教科書

指定無し。特に購入する必要はないが、栄養、ダイエット、腸内細菌、発酵食品、免疫、アレルギー等を取り扱う書籍を積極的に目を通すことが望ましい。また、上記のキーワードを特集した雑誌、TV 番組、web page 等にも関心を持ち、チェックすることが望ましい。

6. 参考書

- ・講談社 エssenシャル 栄養化学 佐々木努編集 ISBN978-4-06-523806-6
- ・東京化学同人 ヴォート 基礎生化学 第5版 ISBN9784807909254
- ・実験医学別冊 もっとよくわかる！シリーズ 改訂版 もっとよくわかる！腸内細菌叢 ”もう1つの臓器”を知り、健康・疾患を制御する！ 福田真嗣/編 羊土社 (ISBN978-4-7581-2211-5)

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題レポートについてのコメント対応は、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

8. 成績評価の方法

課題レポート (30%)、授業への貢献度 (20%)、期末試験 (50%)

9. その他

春学期期間の月曜日～金曜日のLモジュールの時間帯に、研究室にて受付いたします。

科目ナンバー (AG)BB1291J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
動物栄養学Ⅱ

2017～2021年度入学者
動物栄養学Ⅱ

2 単位

浅沼成人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

動物栄養学Ⅰの続きとして、メタボリックシンドローム、動脈硬化などの成人病について分子レベルで学習する。また、これらの病気と腸内細菌との関わり合いについて学び、病気の予防法について考える。更に、美容皮膚科学について学び、皮膚の知識を深めると共に、栄養学的観点から美容面への応用を考察する。

《授業の達成目標》

動物栄養学Ⅱでは、動物栄養学Ⅰで学んだ腸内細菌と宿主の共生関係の基本事項を発展させ、より専門的な知識を身につける事を目標とする。また、皮膚科学の知識を深め、美容や理容方面に役立てる。

2. 授業内容

- 第1回：運動と栄養代謝
- 第2回：脂肪の消化・吸収
- 第3回：肥満の分子生物学
- 第4回：腸内細菌とメタボリックシンドローム
- 第5回：腸管循環と胆汁酸
- 第6回：休養とストレス
- 第7回：腸内細菌とストレス
- 第8回：動脈硬化の分子生物学
- 第9回：美容皮膚科学その1 皮膚科学の基礎
- 第10回：美容皮膚科学その2 皮膚の保湿とバリア機能
- 第11回：美容皮膚科学その3 肌の老化
- 第12回：美容皮膚科学その4 紫外線からの皮膚防御
- 第13回：美容皮膚科学その5 美白効果
- 第14回：美容皮膚科学その6 ニキビができるメカニズム

3. 履修上の注意

春学期開講の動物栄養学Ⅰとのセット履修が望ましい。

本講義は、対面授業を主として行います。対面での授業を実施した際の内容について、動画や資料の配布は致しませんので、講義に出席して下さい、お願い致します。

課題レポートは、クラスウェブのレポート欄を通じて連絡いたします。課題レポートは、充実した内容となるように作成して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

ノートをしっかりとり、毎回の講義に持参すること。予習としては、ノートを見直し、前回までの講義内容について頭に入れておくこと。復習としては、講義時のメモノートの内容を整理し、内容を確認しながら、清書版のノートを再作成すること。不明な参考用語等については、辞書等で調べること。講義内で紹介した問題や課題について文献等で調べること。

5. 教科書

指定無し。特に購入する必要はないが、栄養、ダイエット、腸内細菌、発酵食品、免疫、アレルギー等を取り扱う書籍を積極的に目を通すことが望ましい。また、上記のキーワードを特集した雑誌、TV番組、web page等にも関心を持ち、チェックすることが望ましい。

6. 参考書

- ・講談社 エssenシャル 栄養化学 佐々木努編集 ISBN978-4-06-523806-6
- ・東京化学同人 ヴォート 基礎生化学 第5版 ISBN9784807909254
- ・実験医学別冊 もっとよくわかる！シリーズ 改訂版 もっとよくわかる！腸内細菌叢 ”もう1つの臓器”を知り、健康・疾患を制御する！ 福田真嗣/編 羊土社 (ISBN978-4-7581-2211-5)
- ・南山堂 あたらしい美容皮膚科学 日本美容皮膚科学会(監) ISBN9784525341510

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題レポートについてのコメント対応は、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

8. 成績評価の方法

課題レポート (30%)、授業への貢献度 (20%)、期末試験 (50%)

9. その他

春学期期間の月曜日～金曜日のLモジュールの時間帯に、研究室にて受付いたします。

科目ナンバー (AG)CBI231J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 発生工学	2 単位	長嶋比呂志
2017～2021年度入学者 発生工学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ヒトを含む哺乳動物の生殖システムは、発生工学の適用によって劇的に変化している。その現状と未来像について、最新の情報を提供するだけでなく、学生自らが考察する機会を与えることが目標である。

《授業の概要》

哺乳動物の生殖プロセスの人為的操作・改変によって行われる動物生産の効率化や、クローニングのような全く新しい概念に基づく動物生殖技術の内容、医療や産業への応用と課題などについて講義する。さらに、発生工学技術を基盤とする生殖医療について、その技術内容と応用の現状、倫理的課題などについても述べる。

《授業の狙い》

発生工学が医療や産業において利用されている事例の紹介を通じ、大学の授業での学びと実社会の接点の顕在化を図る。特に発生工学の医療応用に伴う倫理的課題については、学生自らの考察を促す。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション

b: 発生工学の応用と社会との接点

第2回 a: クローン動物について

b: 古典的クローニングと受精卵クローニング

第3回 a: 体細胞クローニング (体細胞核移植の技術内容と生物学的意義)

b: クローン動物の作出は細胞分化の安定性・初期化への抵抗との戦い

第4回 a: 体細胞クローン動物の応用 (再生医療や高付加価値動物の生産への応用事例)

b: 体細胞クローニングの課題 (テロメア長やゲノムインプリンティングパターンの変化, ヘテロプラスミー他)

第5回: クローン人間について考える

第6回: 発生工学の基盤技術 (卵の体外成熟、初期胚の培養、体外受精、人工授精、胚移植他)

第7回: 補助生殖技術 (ART) と不妊治療

第8回: 発生工学技術と生命倫理 (ART と再生医学の接点)

第9回: 発生工学技術と生命倫理 (臓器再生、異種移植、Therapeutic cloning、Reproductive cloning 他)

第10回: キメラ動物 (キメラ動物とは? その生物学的意義と応用)

第11回: 多能性幹細胞 (ES細胞、iPS細胞) の成り立ちと応用

第12回: 遺伝子改変動物 (技術的側面)

第13回: 遺伝子改変動物 (遺伝子改変動物の応用と課題)

第14回 a: 総括 (講義全体のまとめ、試験問題の傾向と学習ポイント)

3. 履修上の注意

履修前提科目: 生殖生物学の履修が望ましい。

授業中に参考となる文献やウェブ上の URL を紹介するので、それらを参照して授業の準備や理解の深化を行うことが学生に期待されている。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

授業で紹介した問題について、参考書や文献等で調べること。

復習として、参考書等の当該箇所を読むこと。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

『動物の人工生殖』長嶋比呂志 (裳華房)

『動物発生工学』岩倉洋一郎他 編 (朝倉書店)

『発生工学のすすめ』中辻憲夫 (羊土者)

『最新 発生工学総論』入谷明 (裳華房)

『脳死・クローン・遺伝子治療』加藤尚武 (PHP 新書)

『先端医療と向き合う』櫛島次郎 (平凡社新書)

『生命の研究はどこまで自由か』櫛島次郎 (岩波書店)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中の小テスト、発表等の結果によって評価する。

9. その他

メディカル・バイオエンジニアリング研究室（5号館4階406号室）

連絡先: hnagas@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BI0241J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
分子発生学

2017~2021年度入学者
分子発生学

2 単位

吉田健一

1. 授業の概要・到達目標

本講義では、発生学の歴史を概観するとともに、主要なモデル生物の胚発生について個体発生と系統発生の観点から講述する。具体的には、1) 一個の受精卵から出発し、個体形成へと至る生物のボディープランとは何か、またそれはどのようにして明らかにされたか、2) シグナルはいかにしてパターンを形成するのか、3) 細胞分化を決定する因子の作用メカニズムとは、等について講述する。

本講義の到達目標は以下の3点である。1) モデル生物の胚発生を比較横断的に理解することで、発生を分子レベルで理解するための知識を身に付ける。また、2) 動物の発生機構を集団レベルで理解することで、種分化すなわち進化を理解するための素養を身に付ける。最後に、3) 人体の初期発生について最新の知見を習得する。

2. 授業内容

第1回 a: 分子発生学とは (イントロダクション)

第2回: 体をつくるためのプログラムと共通の遺伝子セット (1)

第3回: 体をつくるためのプログラムと共通の遺伝子セット (2)

第4回: 動物とは (1)

第5回: 動物とは (2)

第6回: 個体発生と系統発生をつなぐモデル

第7回: 発生と進化

第8回: 発生と分化

第9回: キイロショウジョウバエの胚発生 (1)

第10回: キイロショウジョウバエの胚発生 (2)

第11回: 両生類の胚発生

第12回: 羊膜類の胚発生

第13回: 脊椎動物の器官形成 (1)

第14回: 脊椎動物の器官形成 (2)

3. 履修上の注意

細胞生物学を履修し、動物細胞に関する基本事項の理解を深めておくことが強く望まれる。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

授業の前後、教科書と参考書の該当箇所を通読し、理解を深めておくこと。

5. 教科書

6. 参考書

『ウィルト発生生物学』 F. Wilt/S. Hake 著 赤坂甲治/大隅典子/八杉貞雄 監訳 (東京化学同人)

『ウォルパート発生生物学』 L. Wolpert/T. Cheryll 著 武田洋幸/田村宏治 監訳 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業中に実施する小テスト (50%)、定期試験 (50%) で評価する。

9. その他

分子発生学研究室 (6号館4階410A号室)。

科目ナンバー (AG)BI0221J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生体機能物質学

2017～2021年度入学者
生体機能物質学

2 単位

渡辺寛人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

おもに動物の生体機能について概説するとともにそれに関わる物質について化学的側面と生物学的側面から解説を行う。

《授業の到達目標》

われわれが日常摂取する食品にはさまざまな生体機能を調節する因子が含まれる。それら機能因子の構造と機能について理解することを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：生体機能と食品機能因子
- 第2回：生理活性脂質の構造と機能
- 第3回：脂質酸化の機構と関連疾患
- 第4回：生理活性ペプチドの構造と機能
- 第5回：食品機能因子の研究手法
- 第6回：腸管における物質透過機構
- 第7回：薬物代謝
- 第8回：腸管免疫と食品アレルギー
- 第9回：糖質の構造と機能
- 第10回：タンパク質の修飾と機能低下
- 第11回：活性酸素種と生体機能
- 第12回：抗酸化物質の構造と機能
- 第13回：変異原物質
- 第14回：味覚の情報伝達・まとめ

3. 履修上の注意

生化学, 有機化学の基礎知識を身につけておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

参考書や授業中に配布する資料等を活用して予習・復習を行い、不明な点があれば質問すること。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

『食と健康』村上・森光編（丸善）

他の参考書については、授業中に紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学期末試験のみで評価する。

9. その他

生体機能物質学研究室（2号館4階2-401A号室）

オフィスアワー：水曜日12：10～12：50 質問したい場合は、これ以外の時間帯でも遠慮なく来てほしい。

E-mail: hwata@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BB1221J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
植物細胞生物学

2017～2021 年度入学者
植物細胞生物学

2 単位

吉本光希

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物細胞の構造・機能・動態についての基本的知識・理解を得る。オルガネラ機能、さらにオルガネラの相互作用による植物の高次機能発現を理解する。
《授業の概要》
大地に根を張り移動することのできない植物は、動物、微生物にはみられない独自の機能を進化させてきた。本講義では、複雑で多様な植物の高次機能をオルガネラの構造・動態・機能の視点から解説する。

2. 授業内容

- 第1回：植物の機能特性
- 第2回：葉緑体機能と植物の高次機能発現
- 第3回：ミトコンドリア機能と植物の高次機能発現
- 第4回：ペルオキシソーム機能と植物の高次機能発現
- 第5回：液胞機能と植物の高次機能発現
- 第6回：植物機能に必須なタンパク質の選別輸送
- 第7回：小胞輸送による植物の機能制御（1）液胞へのターゲティングと分泌
- 第8回：小胞輸送による植物の機能制御（2）ゴルジ体でのタンパク質の修飾
- 第9回：小胞輸送による植物の機能制御（3）エンドサイトーシス
- 第10回：植物細胞の機能発現における細胞骨格
- 第11回：細胞内分解系による生体制御（1）ユビキチン-プロテアソーム系
- 第12回：細胞内分解系による生体制御（2）オートファジー
- 第13回：オルガネラ機能制御による植物バイオテクノロジー
- 第14回：a のみ：まとめ

3. 履修上の注意

必要な資料は授業時に配布する。授業後は配布プリントと下記の参考書で復習して理解を深めることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

前回の講義の理解を確かめるための小テストを行う場合がある。配布プリントと下記の参考書で復習しておくことが望ましい。

5. 教科書

特に指定しない。下記の参考書で理解を深めることを勧める。

6. 参考書

- 『植物の生化学・分子生物学』Bob B. Buchanan 他 編集（杉山達夫 監修、岡田清孝 他 監訳）（学会出版センター）
- 『細胞工学』別冊、植物細胞工学シリーズ17、『植物オルガネラの分化と多様性』西村いくこ 他 監修（秀潤社）
- 『ユビキチン-プロテアソーム系とオートファジー』田中啓二・大隅良典 編集（共立出版）
- 他

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストなどの解説については、次講義で行うか、Oh-o! Meiji を通じて配信する場合もあるため、クラスウェブを確認すること。

8. 成績評価の方法

小テスト・レポート・授業への参加度（30%）および期末試験（70%）により評価する。

9. その他

生命科学科環境応答生物学研究室（2号館4階406A室）
質問などは随時受け付ける。
E-mail : kohki_yoshimoto@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BBI211J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
植物環境生理学

2017～2021 年度入学者
植物環境生理学

2 単位

川上直人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物が環境を感知して応答するしくみ、および環境と成長との関わりを学び、その生物学的な意味を考える。また、植物が持つ能力・機能を知り、その保全と利用の方策を考える。

《授業の概要》

植物は外界の厳しい環境に対する耐性機構を発達させるとともに、環境変化を成長・分化のシグナルとして巧みに利用している。ここでは、物理・化学的な環境を感知し、鋭敏に応答して柔軟に生育する植物の有様を紹介するとともに、組織、細胞あるいは分子レベルで解明されてきた成長制御の仕組みを理解する。

2. 授業内容

- [第1回] 植物と環境・人と植物
- [第2回] 光と植物
- [第3回] 光とストレス
- [第4回] 光の受容と伝達・光による植物ホルモン作用の制御
- [第5回] 植物の極性とオーキシン
- [第6回] 重力を感じるメカニズム
- [第7回] 細胞の伸長と植物ホルモン
- [第8回] 水と植物
- [第9回] 乾燥対応
- [第10回] ソース・シンク、老化と物質輸送
- [第11回] 温度と植物
- [第12回] 温度の記憶・エピジェネティクスと花芽形成・低温馴化
- [第13回] 温度の受容と情報伝達・光と温度のクロストーク
- [第14回] 概日リズム・概日時計と環境応答

3. 履修上の注意

「植物生命科学」、「分子生物学入門」、「遺伝学」、「生化学Ⅰ」を履修していることが望ましい。また、春学期に「環境応答植物学」、「生化学Ⅲ(植物代謝)」、「植物細胞生物学」、秋学期に「植物機能制御学」、「環境応答生物学」、「分子遺伝学」を併せて履修することを勧める。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

普段、何気なく見過ごしている身の回りの植物に目を向け、その柔軟な成長・分化の様子を感じ取る。また、図書館の情報検索機能を活用し、興味を持った事柄を調査し、理解を深める。

講義で取り上げられた話題や、自分自身が興味を持ったことについて、図書館、OPAC、CiNii などを利用してより深く調べる。

5. 教科書

『植物生理学 第2版』三村・深城・鶴見編著(2019年:化学同人)

6. 参考書

- 『エッセンシャル 植物生理学 農学系のための基礎』牧野・渡辺・村井・榎原著(2022年:講談社)
- 『絵でわかる 植物の世界』大場監修、清水著(2004年:講談社)
- 『植物生理学・発生学 原著第6版』テイツ・ザイガー・モラー・マーフィー編、西谷・島崎監訳(2016年:講談社)
- 『新しい植物ホルモンの科学 第3版』浅見・柿本編(2016年:講談社)
- 『植物まるかじり叢書2 植物は感じて生きている』瀧澤美奈子著、日本植物生理学会監修(2008年:化学同人)

7. 課題に対するフィードバックの方法

小レポートなどの課題については、次の回の講義にて回答する。また、クラスウェブに寄せられた質問や意見については、随時クラスウェブ等で回答する。

8. 成績評価の方法

小レポート 40%、授業に臨む姿勢 10%、定期試験 50%

9. その他

植物分子生理学研究室 5号館4階403号室
E-mail: kawakami@meiji.ac.jp
質問などは随時受け付ける。

科目ナンバー (AG)BB1221J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
植物分子生理学

2017~2021 年度入学者
植物分子生理学

2 単位

川上直人

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物の形態形成、成長・分化、環境応答に深く関わる植物ホルモンの代謝や情報伝達メカニズムについて理解を深める。

《授業の概要》

植物の成長・分化における植物ホルモンの役割を概説するとともに、近年分子遺伝学的手法を用いて明らかにされてきた植物ホルモンの生合成とその調節、作用に至るまでの情報伝達機構について解説する。また、成長・分化を制御する光や温度、乾燥などの環境情報に対する植物の応答と植物ホルモン関わりについて考察する。

2. 授業内容

- [第 1 回] 植物の成長・分化・環境応答と植物ホルモン
- [第 2 回] ジベレリンの作用と量的調節
- [第 3 回] 環境要因によるジベレリン作用の制御と情報伝達
- [第 4 回] エチレンの作用と合成の制御
- [第 5 回] エチレンの情報伝達経路
- [第 6 回] アブシジン酸の作用と量的制御
- [第 7 回] アブシジン酸情報伝達の分子機構
- [第 8 回] アブシジン酸と生物の進化
- [第 9 回] アレロパシー、共生・寄生とストリゴラクトン
- [第 10 回] 枝分かれに働くストリゴラクトン
- [第 11 回] ストリゴラクトンの情報伝達
- [第 12 回] サイトカイニンの作用と情報伝達
- [第 13 回] ブラシノステロイドの作用
- [第 14 回] 植物のペプチド因子

3. 履修上の注意

遺伝学、分子生物学などの基礎知識があることを前提に講義を進めるので、関連科目の復習をして欲しい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で取り上げられた話題や、自分自身が興味を持ったことについて、図書館、OPAC、CiNii などを利用してより深く調べる。

5. 教科書

『新しい植物ホルモンの科学 第 3 版』浅見・柿本編（講談社）

6. 参考書

- 『植物生理学・発生学 原著第 6 版』テイツ・ザイガー・モーラー・マーフィー編、西谷・島崎監訳（講談社）
- 『植物生理学 第 2 版』三村・深城・鶴見編著（2019 年：化学同人）
- 『エッセンシャル 植物生理学 農学系のための基礎』牧野・渡辺・村井・榊原著（2022 年：講談社）
- 『絵でわかる 植物の世界』大場監修、清水著（2004 年：講談社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

小レポートなどの課題については、次の回の講義にて回答する。また、クラスウェブに寄せられた質問や意見については、随時クラスウェブ等で回答する。

8. 成績評価の方法

小レポート 30% 授業に臨む姿勢 10%、定期試験 60%

9. その他

植物分子生理学研究室 5号館 4階 403号室
E-mail: kawakami@meiji.ac.jp
質問などは随時受け付ける。

科目ナンバー (AG)BB1221J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
植物工学

2017～2021 年度入学者
植物工学

2 単位

高橋直紀

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物工学は植物科学を基盤として、近年大きく発展してきた。本授業では、遺伝子組換えによる植物を改良する技術やその原理についての基礎的な知識に加え、その応用についての専門的な知識を持つことを目標とする。

《授業の概要》

植物の組織培養、細胞融合、遺伝子組換えについての技術やその応用についての分子生物学・生化学的知見を身につけるとともに、遺伝子発現制御技術やゲノム編集技術、そして植物工学の現状と今後について学ぶ。

2. 授業内容

- [第 1 回] イントロダクション
- [第 2 回] 植物細胞の特徴と分化全能性
- [第 3 回] 植物培養、プロトプラスト、細胞融合技術
- [第 4 回] 植物遺伝子組換え技術
- [第 5 回] 遺伝子組換えによる除草剤耐性作物作出の原理
- [第 6 回] 遺伝子組換えによる耐病性・耐虫性作物作出の原理
- [第 7 回] 温度ストレス耐性植物の原理と応用
- [第 8 回] 耐塩性植物の原理と応用
- [第 9 回] 植物による環境浄化の原理と応用
- [第 10 回] 植物遺伝子の発現制御技術
- [第 11 回] 植物のゲノム編集技術
- [第 12 回] 遺伝子組換え作物の現状
- [第 13 回] 遺伝子組換えと法規制
- [第 14 回] 植物遺伝子組換え・ゲノム編集の未来像

3. 履修上の注意

分子生物学、生化学、植物科学の基礎知識を必要とすることから、未履修の場合は自習する必要がある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に、事前にクラスウェブにアップロードされている授業ファイルに目を通しておく。また、授業後に復習をすることで、理解を深めるようにする。不明な部分があれば、積極的に質問すること。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

- 『植物工学の基礎』長田敏行編（東京化学同人）
- 『植物細胞遺伝子工学』多田雄一著（三恵社）
- 『植物分子生理学入門』横山明穂編（学会出版センター）

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回、20 分程度課題に対する解説を行う。

8. 成績評価の方法

課題提出（15%）、期末試験（85%）により評価する。

9. その他

研究室：植物適応制御学研究室（第一校舎 2 号館 403 号室）

科目ナンバー (AG)BI0251J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
環境応答生物学

2017~2021年度入学者
環境応答生物学

2 単位

福嶋俊明

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物の環境応答の基本となる環境因子の認識・受容とその情報の細胞内伝達機構の基本的仕組みを理解することを目的とする。

《授業の概要》

受容体を中心に代表的なシグナル伝達機構について学ぶ。できるだけ典型的な例を用い、基本的理解を深める。

2. 授業内容

第1回：環境応答とは何か

第2回：生物の環境応答を支えるシグナル伝達

第3回：3量体 G タンパク質とサイクリック AMP を介したグリコーゲン代謝の制御

第4回：3量体 G タンパク質とホスホリパーゼ C を介するシグナル伝達

第5回：Ca²⁺を介するシグナル伝達

第6回：酵素型受容体：チロシンキナーゼ受容体

第7回：酵素型受容体：PI3 キナーゼ系，非受容体型チロシンキナーゼ

第8回：酵素型受容体：セリン・スレオニンキナーゼ型受容体，グアニル酸シクラーゼ型受容体など

第9回：タンパク分解の制御を含むシグナル伝達系：Notch, Wnt, Hedgehog, NF- κ B (1)

第10回：タンパク分解の制御を含むシグナル伝達系：Notch, Wnt, Hedgehog, NF- κ B (2)

第11回：細胞表層受容体を介さないシグナル伝達：脂溶性リガンド受容体と遺伝子発現調節機構

第12回：シグナル伝達経路のクロストークとネットワーク

第13回：シグナル伝達研究のトピックス

第14回：a のみ：まとめ

3. 履修上の注意

必要な資料は授業時に配布する。授業後は配布プリントと下記の参考書で復習して理解を深めることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

前回の講義の理解を確かめるための小テストを行う場合がある。配布プリントと下記の参考書で復習しておくことが望ましい。

5. 教科書

特に指定しない。下記の参考書で理解を深めることを勧める。

6. 参考書

『分子生物学講義中継 Part2』（羊土社）

『Molecular Biology of The Cell 第6版』（Garland Science）

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストなどの解説については、次講義で行うか、Oh-o! Meiji を通じて配信する場合もあるため、クラスウェブを確認すること。

8. 成績評価の方法

小テスト・レポート・授業への参加度（30%）および期末試験（70%）により評価する。

9. その他

生命科学科環境応答生物学研究室（2号館4階406A室）

質問などは随時受け付ける。

E-mail: kohki_yoshimoto@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)BB1281J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
環境応答植物学

2017~2021 年度入学者
環境応答植物学

2 単位

賀来華江

1. 授業の概要・到達目標

高等植物は動物と異なり自由に移動することができない。このため、植物は様々な環境ストレスや生物的ストレスに対応するための独自の仕組みを発達させてきた。植物のシグナル伝達機構や環境応答に関する研究は動物系に比べて遅れているが、動物と共通した機構と植物固有のものがあることが分かって始めている。本講義では植物固有の環境応答機構を中心に、物理・化学的環境、生物的環境に対応するための仕組みを個別に掘り下げ、植物の持つ生存戦略の理解を深めることを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション (植物と動物の生き方の相違)
- 第2回: 植物の環境応答
- 第3回: 乾燥ストレスに対する応答
- 第4回: 高温ストレスに対する応答
- 第5回: 低温ストレスに対する応答
- 第6回: 凍傷ストレスに対する応答
- 第7回: 金属ストレスに対する応答
- 第8回: 傷害に対する応急処置
- 第9回: 傷害に対する防御応答
- 第10回: 植物の生存戦略
- 第11回: 植物免疫
- 第12回: 病原菌の逆襲
- 第13回: 防御のシグナル応答
- 第14回: 微生物との共生応答

3. 履修上の注意

本講義は「植物細胞生物学」及び「植物環境生理学」の講義を合わせて受講することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業において、課題を出題し、それについて文献等で調べること。

5. 教科書

指定しない。関連する DVD の鑑賞とプリントを配布するが、下記の参考書で理解を深めることを勧める。

6. 参考書

- 『植物のシグナル伝達—分子と応答』出版社名：共立出版
- 『植物における環境と生物ストレスに対する応答』出版社名：共立出版
- 『細胞工学』別冊、植物細胞工学シリーズ 11、『植物の環境応答』出版社名：秀潤社
- 『Biochemistry and Molecular Biology of Plants』出版社名：(American Society of Plant Physiologists)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験（70%）、授業中及び提出課題レポート（30%）で評価する。

9. その他

環境応答植物学研究室（5号館1階107号室）

科目ナンバー (AG)BB1251J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 分子遺伝学	2 単位	渡邊雄一郎
2017~2021 年度入学者 分子遺伝学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

メンデル遺伝学を起点に、生命現象に関係した”表現型”に関係した責任”遺伝子”を同定するまでのアプローチ、考え方を理解する。遺伝的相補、遺伝的 DNA マーカー/SNP、ハプロタイプ、量的形質 (QTL)、GWAS といった、最近の生命科学分野で登場する遺伝学に関する術語を理解する。

《授業の概要》

遺伝学の理解は、分子生物学的な解析やゲノム情報の解釈をする上で不可欠である。古典的なメンデルの法則から始まり、分子生物学との関連、遺伝子がどのような形質を生物に与えているかを確認する。最近の研究の場における遺伝学のアプローチ、染色体上の DNA マーカー、ハプロタイプ、量的形質 (QTL)、比較ゲノミクス、エピジェネティクスの基礎についても考察をする。研究の過程に秘められた事実、そこから発せられるメッセージも伝える。モデル生物と実用生物との関連を理解する。分子生物学との関連、逆遺伝学的考え方、最近のゲノム情報に基づいた考え方を学ぶ。

2. 授業内容

第1回： 形質とは

表現型 (フェノタイプ) と遺伝子型 (ジェノタイプ)、比較からの気づき、交配、分離の法則、遺伝用語の確認
分子遺伝学で学んだ遺伝子の構造との関連

第2回： 優性 (顕性) 形質/劣性 (潜性) 形質と遺伝子との対応

遺伝子, DNA, 染色体, ゲノム, ABO 式血液型決定因子の遺伝子の実体複製, 転写, 翻訳, 遺伝子発現調節との関連

第3回： 変異と形質との関係

微生物遺伝学, 形質転換, 遺伝病の原因、ミュータジェネシス法, スクリーニング

第4回： 掛け合わせと相補

遺伝子破壊, 変異体の単離, 責任遺伝子の単離, クローニング、遺伝子治療、cDNA 導入による相補

第5回： 遺伝子座とアリル (対立遺伝子)

交配による allelism test, 相補性検定, 複数の遺伝子座の関係

第6回： ゲノム情報と染色体地図

連鎖群—染色体, 類似遺伝子, pleiotropism (多面発現性)
サブレッサー変異体の解析, エピスタシス, 戻し交配の意義

第7回： DNA 多型現象と組換え

交配結果が教えてくれること, ハプロタイプ, DNA 鑑定, SNP

第8回： 遺伝子を取るとは

染色体歩行と責任遺伝子、形質の相補、育種

第9回： ゲノム比較と逆遺伝学

トランスポゾンタギングと positional cloning, ミュータントパネル, 栽培品種・系統、ゲノム編集、RNAi、

第10回： ゲノム情報からの遺伝学

量的形質 (QTL), 育種への展開、戻し交配の意義、有用遺伝子の探索、GWAS (ゲノムワイド関連解析)

第11回：モデル生物と比較ゲノミクス、類似遺伝子、遺伝的冗長性

大腸菌, 酵母、線虫、ショウジョウバエ, ゼブラフィッシュ、マウス、ゼニゴケ, シロイヌナズナ、イネ
類似遺伝子, ホモログ (homolog)、オルソログ (ortholog)、パラログ (paralog)

第12回： エピジェネティクス

エピジェネティクスとは ヒストン、DNA がうける化学修飾とクロマチン状態変化、遺伝子発現、

第13回：将来の遺伝学と周辺領域の未来

ケミカルジェネティクス、オプトジェネティクス (光遺伝学)、プロモーター/エンハンサー再考

第14回： 理解の確認 (学期末試験)

3. 履修上の注意

通常授業時間後に理解を図るため、授業の後に簡単な演習問題 (アンケート)、学期途中でのレポート提出を求める。
コンスタントに学習をするつもりで履修して欲しい。にわか勉強でこなそうとしないで欲しい。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

Oh-o! Meiji システムに授業資料を PDF として事前にアップするので、それをみてほしい。
わからない言葉、専門用語は自主的に調べることも行うことを望む。

5. 教科書

『生命と情報—分子遺伝学入門—』東京大学出版会 渡邊雄一郎著

6. 参考書

カーブ分子細胞生物学 山本正幸, 渡邊雄一郎, 大杉美穂, 児玉有希共訳 東京化学同人
クロー遺伝学概説 (原書第8版) 培風館 J. F. クロー著 木村資生, 太田朋子訳

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

各授業ごとの簡単な演習問題（アンケート）、学期の途中に提出するレポート。そして学期末試験と合わせて評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)BB1221J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
植物機能制御学

2017～2021年度入学者
植物機能制御学

2 単位

田中博和

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

植物は動物とは異なるしくみで多細胞系を構築し、生長や環境応答に関わる独自の制御システムを発達させている。本講義では、植物の高次機能発現を支える細胞の成り立ちや器官形成の分子的背景を理解することを目標とする。

《授業の概要》

本講義では、複雑で多様な植物の高次機能に関わる鍵因子の働きについて、分子遺伝学、細胞生物学、発生生物学の観点から解説する。

2. 授業内容

- 第1回：植物の機能特性
- 第2回：花器官の形成
- 第3回：植物の生殖と細胞間の認識
- 第4回：植物の胚形成
- 第5回：植物における軸形成
- 第6回：小胞輸送による植物の機能制御
- 第7回：細胞の極性が関わる生体制御
- 第8回：根の構造と機能
- 第9回：根における細胞分化の制御
- 第10回：根の成長と分岐
- 第11回：地上部の分裂組織の構築と機能
- 第12回：分裂と分化の切り替え
- 第13回：地上部の器官における軸と組織分化
- 第14回：a: まとめ

3. 履修上の注意

理解度を確保するために小テストを行うことがある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

必要な資料は授業時に配布する。授業後は配布資料と参考書で復習して理解を深めることが望ましい。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『植物の生化学・分子生物学』杉山達夫 監修、岡田清孝他・監訳（学会出版センター）

『植物生理学』三村徹郎、鶴見誠二 編著（化学同人）

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブで出した課題については、フィードバック機能でコメントする。

紙媒体で提出した課題については、次回以降の講義で返却する。

8. 成績評価の方法

定期試験（60%）、小テストや授業への貢献度（40%）で評価する。

9. その他

植物発生制御学研究室（2号館4階402号室）

質問等は随時受け付ける。

科目ナンバー (AG)CBI211J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
糖鎖生物学

2017～2021年度入学者
糖鎖生物学

2 単位

賀来華江

1. 授業の概要・到達目標

糖質はこれまでエネルギー源や甘味料の素材、生体組織構築などの面を中心に関心が持たれてきた。一方、最近の研究は糖鎖（糖のつながったもの）が生体内での蛋白質品質管理、細胞内輸送、細胞・生物間相互作用、癌化、分化、受精など様々な生物学的場面で重要な役割を果たしていることを明らかにしている。本講義では、糖鎖の構造と生物機能、糖鎖認識を介した生体制御機構、病気と糖鎖などに関して学び、また、今日的な視点から見た糖鎖の生物学的機能とその基礎となる糖の生化学について理解することを目的とする。

2. 授業内容

- 第1回：糖とは
- 第2回：糖の基礎化学
- 第3回：オリゴ糖および糖鎖の構造と解析法
- 第4回：植物・動物レクチンの特性および疾病と糖鎖
- 第5回：糖タンパク質の糖鎖：構造と生合成
- 第6回：糖タンパク質の糖鎖：生物機能
- 第7回：プロテオグリカン・ペプチドグリカン
- 第8回：糖脂質
- 第9回：GPI アンカー型糖鎖
- 第10回：生活に密着する糖鎖（1）
- 第11回：生活に密着する糖鎖（2）
- 第12回：植物の持つ特有な糖鎖と機能
- 第13回：微生物の持つ特有な糖鎖と機能
- 第14回：糖鎖に関する課題の発表

3. 履修上の注意

「化学要論」、「生物有機化学」、「生化学Ⅰ」など、1・2年次において化学系の講義を履修していることが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業において、課題を出題し、それについて文献等で調べ、発表を行う。

5. 教科書

指定しない。下記の参考書で理解を深めることを勧める。

6. 参考書

- 『わかる実験医学シリーズ ポストゲノム時代の糖鎖生物学がわかる』（羊土社）
- 『Introduction to Glycobiology 2nd edition』（Oxford University Press）
- 『コールドスプリングハーバー 糖鎖生物学 第2版』（丸善）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験（70%）、授業中の発表および提出レポート課題（30%）で評価する。

9. その他

環境応答植物学研究室（5号館1階107号室）

科目ナンバー (AG)BI0221J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
タンパク質科学 I

2017~2021年度入学者
タンパク質科学 I

2 単位

紀藤圭治

1. 授業の概要・到達目標

《授業の到達目標及びテーマ》

タンパク質は最も重要な生体内分子の一つであり、実に様々な特性・機能を有しているが、これは多様性に富んだ構造と化学的性質に起因するものである。また、タンパク質を対象とする研究手法としては、伝統的な生化学実験に基づくものから最新のプロテオミクス研究まで多岐にわたり、幅広い知識を必要とする。本講義では、タンパク質の性質および機能の多様性について構造および化学的な側面と関連付けて理解するとともに、タンパク質研究のための解析手法について学習することを目標とする。

《授業の概要》

タンパク質の機能の多様性について、構造および化学的性質と関連付けて概説する。またタンパク質を取り扱う実験手法として、精製および機能解析などについてプロテオミクスも含めた幅広い解説を行う。

2. 授業内容

- 第1回：タンパク質の分類
- 第2回：分離と精製（1）
- 第3回：分離と精製（2）
- 第4回：定量と分析方法（1）
- 第5回：定量と分析方法（2）
- 第6回：構造の階層性
- 第7回：構造と機能
- 第8回：構造解析法
- 第9回：フォールディング
- 第10回：修飾と機能調節
- 第11回：相互作用の解析
- 第12回：ゲノム機能科学とタンパク質の機能解析
- 第13回：プロテオミクス
- 第14回：まとめと総合解説

3. 履修上の注意

本科目は、生化学 I、分子生物学、細胞生物学などとの関連が深いため、これら該当科目の履修が望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

生化学 I、分子生物学、細胞生物学などの関連科目の内容を事前によく理解しておくこと。講義後に、各回の授業内容の関連事項について適宜参考書に目を通すことで理解を深めること。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

- 「ストライヤー生化学」入村達郎他訳（東京化学同人）
- 「ポストゲノム時代のタンパク質科学」高木淳一訳（化学同人）
- 「新・タンパク質精製法」塚田欣司訳（シュプリンガー・フェアラーク社）
- 「ポストシーケンスタンパク質実験法—構造・機能解析の基礎」大島泰郎他編（東京化学同人）
- 「ポストシーケンスタンパク質実験法—構造・機能解析の実際」大島泰郎他編（東京化学同人）

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義のなかで課題を課すことはほとんどないが、講義内容について質問があった場合には、必要に応じて Oh-o! Meiji クラスウェブにその内容と追加の開設を掲載する。

8. 成績評価の方法

学期末試験（80%）と授業での平常点（20%）で評価する。

9. その他

プロテオミクス研究室（5号館4階402号室）。
kito@meiji.ac.jp。内線：7820

科目ナンバー (AG)CBI241J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
タンパク質科学Ⅱ
2017～2021 年度入学者
タンパク質科学Ⅱ

2 単位

紀藤圭治

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

タンパク質は生命活動の中核を成す生体分子群であり、多種多様なタンパク質の機能を知ることは生命現象の分子レベルでの理解に必要不可欠である。数多くのタンパク質の働きを明らかにするためには、個々の分子に焦点を当てたアプローチだけでなく、生命現象への各分子の関わりを包括的に調べて理解することが重要となる。本講義では、タンパク質やそれらをコードする遺伝子およびその転写産物について、包括的な解析手法を理解するとともに、大規模な解析結果からどのようにしてタンパク質の機能を知ることができるのかを学習する

《授業の概要》

タンパク質や対応する遺伝子およびその転写産物を包括的に解析するアプローチとして、ゲノム研究、トランスクリプトーム解析、プロテオーム解析などの手法について解説する。また、包括的な解析結果から生命現象におけるタンパク質の関わりや機能を知るための考え方を講義するとともに、個別の分子に焦点を当てた生化学または分子生物学的アプローチとも適宜対比させることで、包括的なアプローチの長所および短所についても解説を行う。

2. 授業内容

- 第1回：分子生物学とゲノム解析
- 第2回：オミックス研究におけるゲノム解析の意義
- 第3回：トランスクリプトーム解析とその解釈
- 第4回：クラスタリングと Gene Ontology 解析
- 第5回：高速 DNA シーケンス解析技術とその応用
- 第6回：様々なプロテオーム解析方法（1）
- 第7回：様々なプロテオーム解析方法（2）
- 第8回：質量分析の原理
- 第9回：質量分析によるタンパク質の同定と定量方法
- 第10回：翻訳後修飾の大規模解析
- 第11回：タンパク質複合体の解析とその意義
- 第12回：タンパク質立体構造の解析
- 第13回：プロテオーム解析の応用
- 第14回：多階層的なオミックス解析

3. 履修上の注意

本科目は、生化学Ⅰ、分子生物学、細胞生物学、などとの関連が深く、またタンパク質化学での内容を理解しているものとして講義を進めるため、これら該当科目の履修が望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

生化学Ⅰ、分子生物学、細胞生物学、タンパク質化学などの関連科目の内容を事前によく理解しておくこと。講義後に、各回の授業内容の関連事項について適宜参考書に目を通すことで理解を深めること。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

- 「ポストゲノム時代のタンパク質科学」高木淳一訳（化学同人）
- 「ポストシーケンスタンパク質実験法—構造・機能解析の基礎」大島泰郎他編（東京化学同人）
- 「ポストシーケンスタンパク質実験法—構造・機能解析の実際」大島泰郎他編（東京化学同人）

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義のなかで課題を課すことはほとんどないが、講義内容について質問があった場合には、必要に応じて Oh-o! Meiji クラスウェブにその内容と追加の開設を掲載する。

8. 成績評価の方法

学期末試験（80%）と授業での平常点（20%）で評価する。

9. その他

プロテオミクス研究室（5号館4階402号室）。
kito@meiji.ac.jp。内線：782

科目ナンバー (AG)AGC121J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 微生物学Ⅱ (生命)	2 単位	松山晃久
2017~2021 年度入学者 微生物学Ⅱ (生命)		

1. 授業の概要・到達目標

●授業の達成目標及びテーマ

本講義では主に微生物の代謝と遺伝子工学について取り扱います。

細胞は多様な酵素反応を用いて様々な物質を他の物質に変換することでエネルギーを産生し、また、逆にエネルギーを用いて新たな物質を合成することで生命を維持しています。本講義では、このような微生物の細胞内で機能している細胞内代謝経路について学び、エネルギー代謝への理解を深めることを目指します。

また、後半では生命科学分野の研究に欠かせない組換え DNA 技術の基本を学ぶと共に、前半で学習した代謝の制御がどのようにして行われているのかを分子レベルで理解することを目標とします。

●授業の概要

多種多様な微生物のエネルギー代謝と制御機構について講述します。また、後半では組換え DNA 技術等の基盤となっている分子遺伝学について講述します。

微生物学ⅠとⅡを続けて履修することは生命科学科の他の専攻科目を理解するうえで大変有益ですが、それぞれ講義内容は大きく異なります。本講義で扱う代謝や DNA 関連のプロセスのほとんどは、微生物だけでなく高等生物にも広く保存されていることから、将来、動物細胞等を用いた研究を希望している学生にとっても非常に重要ですが、本講義では微生物特有の現象・制御機構によりフォーカスした内容を解説します。

2. 授業内容

【授業内容】

- 第1回： 概論（代謝と遺伝子工学）
- 第2回： 代謝とは ー代謝の重要因子ー
- 第3回： エネルギー代謝1 ー発酵・解糖系ー
- 第4回： エネルギー代謝2 ーTCA サイクルー
- 第5回： エネルギー代謝3 ー好気呼吸ー
- 第6回： エネルギー代謝4 ー嫌気呼吸・光合成（概論）ー
- 第7回： 微生物における代謝制御機構
- 第8回： 微生物の遺伝子発現とシグナル伝達
- 第9回： 分子レベルで見る微生物の代謝制御機構
- 第10回： 組換え DNA 技術と遺伝子工学1 ー組換え DNA 技術ー
- 第11回： 組換え DNA 技術と遺伝子工学2 ー宿主・ベクター系ー
- 第12回： 微生物研究のための遺伝学の基礎
- 第13回： 酵母を中心とした分子遺伝学
- 第14回： 組換え DNA 関連技術

3. 履修上の注意

微生物学は生化学、分子生物学など幅広い分野と連携しながら発展してきたものであるため、これら関連分野の学習も必要です。

高校生物等を履修していない学生についても理解できる平易な内容にするように努めますが、内容がより理解できるようにするために「遺伝学」「分子生物学」等の基本的な生物学の知識を学べる講義の受講をお勧めします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

前回までの講義資料の穴埋めを完成させ、理解が追い付いていないところは参考書等を用いて調べておいてください。前回までの講義については解説動画を提供しますので復習に利用してください。

5. 教科書

特に定めません。各講義の開始時に資料を配付します。

資料は穴埋め式となっていますので、聴講しながら必要事項を記載していき、最後にまとめるとオリジナルの教科書が完成します。資料は紙媒体としてだけでなく、電子ファイルとしても提供しますので、事前にタブレット端末等にダウンロードし、講義中に空欄への入力を行うことも可能です。欠席等の理由により資料がない場合も電子ファイルをダウンロードして利用してください。

6. 参考書

- 『Q & A で学ぶ やさしい微生物学』 浜本哲郎・浜本牧子著（講談社サイエンティフィク）
- 『応用微生物学』 塚越規弘編（朝倉書店）
- 『応用微生物学 第2版』 清水昌、堀之内末治編（文永堂出版）
- 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1-2巻（ブルーボックス）』 （講談社）
- 『ヴォート基礎生化学』 田宮信雄他訳（東京化学同人）

7. 課題に対するフィードバックの方法

期末試験やレポート課題に関する解説を Oh-o! Meiji を通じて提供しますので確認してください。

8. 成績評価の方法

出席票の提出により出欠を毎回確認します。期末試験またはレポート課題による評価を行います。授業への参加度 40%、期末試験またはレポート課題 60% として最終的な成績評価を行います。

9. その他

講義に対する質問・相談等は e-mail ([i]akihisa@riken.jp[/i]) までお気軽にご連絡下さい。

科目ナンバー (AG)BB1291J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 微生物工学	2 単位	浜本牧子
2017～2021 年度入学者 微生物工学		

1. 授業の概要・到達目標

微生物が利用されている形態および範囲、伝統的な発酵技術から最先端の代謝制御発酵、微生物を用いた環境修復・浄化、さらにバイオマス資源を利用したエネルギー生産について講述します。

自然界に無数に生息している微生物は、エネルギー代謝をはじめ、実に多種多様な生き物であり、それぞれには優れた潜在能力が備わっています。本講義ではこのような微生物のもつ有用な機能を、農業から工業生産、遺伝子工学、環境問題、エネルギー生産などの幅広い分野で利用している応用微生物学を理解し、知識を身に付けることを達成目標とします。微生物学の基礎を習得することを目標としている微生物学ⅠおよびⅡに引き続いて、本講義を履修することにより微生物学の全容が理解でき、生命科学科の他の専攻科目を理解するうえで極めて重要です。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション (微生物工学とは)
- 第1回 b: 微生物と産業
- 第2回: 微生物とその扱い① 培地成分
- 第3回: 微生物とその扱い② 顕微鏡 (1)
- 第4回: 微生物とその扱い③ 顕微鏡 (2)
- 第5回: 有用物質生産と微生物① 培養容器と生産性
- 第6回: 有用物質生産と微生物② うま味物質としてのアミノ酸と核酸
- 第7回: 有用物質生産と微生物③ 乳酸菌とビフィズス菌
- 第8回: 食品開発研究と微生物
- 第9回: 食品の衛生管理と微生物
- 第10回: 抗菌技術と微生物
- 第11回: 排水処理技術と微生物
- 第12回: バイオテクノロジーと微生物
- 第13回: クォーラムセンシングとその応用
- 第14回: a のみ: まとめ

3. 履修上の注意

微生物学Ⅰ・Ⅱ (生命科学科)、および微生物学に関連の深い生化学、分子生物学も履修していることが望ましい。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

事前に参考書の該当箇所を読み、予習を行うこと。授業後は配付プリントおよび参考書を用いて復習し、理解を深めること。不明な部分があれば授業で質問すること。

5. 教科書

特に定めません。プリントを配付します。

6. 参考書

- 『Q & A で学ぶ やさしい微生物学』浜本哲郎・浜本牧子著 (講談社)
- 『遺伝子・細胞から見た 応用微生物学』阪井康能他 編著 (朝倉書店)
- 『応用微生物学』塚越規弘編 (朝倉書店)
- 『環境微生物学』大森俊雄編 (昭晃堂)

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で行う。

8. 成績評価の方法

授業中に実施する課題 20 %、授業への参加度 10 %、定期試験 70 %

9. その他

微生物工学研究室 (6 号館 3 階 301 号室)

科目ナンバー (AG)BI0291J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 ウイルス学概論	2 単位	小松健
2017～2021年度入学者 ウイルス学概論		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

ウイルスは歴史上、我々人間に直接的な脅威となるのみならず、家畜や農作物にも感染し被害を及ぼし続けてきた。しかし、新型コロナウイルスの発生とその後の経緯に顕著にあらわれているように、その制御は未だ十分になされているとは言いがたく、今後も人類の脅威となり続けることは間違いない。その一つの原因はウイルスの巧みな宿主への感染戦略と、その宿主の抵抗性に対応した進化にあり、こうしたメカニズムを理解することが本講義の一つの目標である。

さらにウイルスは、その単純なゲノム構成と宿主への依存性から、分子生物学研究のツール・研究対象として利用されてきた歴史があり、さまざまな知見をもたらしてきた。こうした知見には、倫理上・安全管理上研究が難しい動物ウイルス以外で発見されてきたものも多く、多様な宿主のウイルスについて知ることは、いかなる研究を志す学生にも非常に有益であることは間違いない。本講義では、こうした病原体としての脅威ならびに遺伝情報を担う分子としてのウイルスの異なる側面に関する知識と、現代生物学に適用可能な視点を習得可能である。

《授業の概要》

この授業では、ウイルスがこれまで人類にどのように捉えられてきたのか、その生物との違いは何か、という点から説き起こし、ウイルスの種類と特徴、ゲノム構成、その宿主への感染環について概説する。さらに、細菌、動物、植物に感染するウイルスの代表的なものをとりあげつつ、菌類ウイルスや巨大ウイルスなどの研究もたらしたインパクトについても紹介し受講者の興味を喚起する。さらに、ウイルスがどのように研究されてきたどのような科学知見を人類にもたらしてきたのか、という点についても述べていく。

2. 授業内容

- 第1回：ウイルスの発見と人類との戦いの歴史
- 第2回：ウイルスとは何か
- 第3回：ウイルスの構造とゲノム核酸
- 第4回：ゲノム核酸の種類とその複製—Baltimore classification
- 第5回：ウイルスの進化と分類
- 第6回：動物ウイルス①・重要ウイルス病の紹介、レセプターによる侵入
- 第7回：動物ウイルス②・伝搬と免疫応答、レトロウイルスとがん遺伝子
- 第8回：植物ウイルス・動物ウイルスとの違いと特徴
- 第9回：菌類ウイルス・マイナーにしてフロンティア
- 第10回：細菌や古細菌のウイルス・巨大ウイルス
- 第11回：ウイルスの検出と抗ウイルス薬
- 第12回：ウイルスの逆遺伝学系とワクチン
- 第13回：ウイルスの感染戦略を解き明かす先端研究
- 第14回：講義のまとめ

3. 履修上の注意

授業の理解のためには分子生物学の知識が必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配布するプリント、Oh-o! Meiji にアップする資料等を用いて、講義での疑問点をあらかじめ考えておくこと。講義後は資料に改めて目を通し、理解度を確認しておくこと。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『生命科学のためのウイルス学』下遠野邦忠・瀬谷司 監訳（南江堂；2012）
『ずかん ウイルス』武村政春・宮沢孝幸 監修（技術評論社；2020）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

試験成績（100—授業回数を最高点とする）+授業参加度で評価する。出席が50%に満たない者は評価の対象としない。

9. その他

質問・議論その他は常時メール（akomatsu@cc.tuat.ac.jp）で受けつける。

本講義は本年度が講師が変わって初年度のため、定期試験の参照となる過去問がない。試験の難易度は受講者の様子をみながらの手探りとなるため承知いただきたい。また、講義内容を今後ブラッシュアップするため受講者の積極的なフィードバックを求めたい。

科目ナンバー (AG)BI0211J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
遺伝子工学(生命)

2017~2021 年度入学者
遺伝子工学(生命)

2 単位

大和屋健二

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本講義では遺伝子操作技術や PCR など遺伝子工学の基盤技術の成り立ちから、その原理や応用を概説します。
新たな技術がもたらす恩恵と危険性について関連法規と倫理問題について学びながらディスカッションしていきます。

《授業の達成目標》

- ・ 遺伝子工学の成り立ちを知り、基礎研究がもたらす発見の重要性と、それらの応用がもたらす新たな可能性を理解する。
- ・ 遺伝子工学に関連する法令や倫理問題を理解する。
- ・ 最新の遺伝子工学技術の理論と原理、その発展を知る。

2. 授業内容

- 第1回：遺伝子工学とは
- 第2回：イントロダクション
- 第3回：遺伝子工学の幕開け
- 第4回：遺伝子配列の操作技術
- 第5回：細胞への遺伝子導入法
- 第6回：PCR の原理と応用
- 第7回：遺伝子配列解析手法
- 第8回：遺伝子発現制御法
- 第9回：遺伝子発現解析法
- 第10回：ゲノム工学と関連技術
- 第11回：遺伝子組換え関連法規と倫理問題
- 第12回：医療における遺伝子工学
- 第13回：エピゲノム工学
- 第14回：講義全体の総合復習

3. 履修上の注意

基礎的な分子生物学、遺伝学、細胞生物学の用語は理解している前提で進めます。
オーブングループディスカッションなど横のコミュニケーションを要することを理解して履修してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

適宜、授業に関連する小レポートを課すので、その遂行を通じて予習・復習・調査・考察を行うことになる（30分以上）。

5. 教科書

指定しない。

6. 参考書

『基礎から学ぶ遺伝子工学 第3版』田村隆明（羊土社）2022年

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義中にディスカッション時間を設け、リアルタイムでのフィードバックを行う。適宜、メール等での質問に回答する。

8. 成績評価の方法

小テストを兼ねたレポートによって評価する。

9. その他

ゲノム機能工学研究室

科目ナンバー (AG)CBI291J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生物統計学

2017~2021年度入学者
生物統計学

2 単位

石井和雄

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生物統計は大学の卒業論文作成時のデータ解析のみならず、この分野で研究を続けていく上で必要不可欠な知識である。社会人となり他分野に就職したときも、生物統計を履修することで得た知識は統計資料から必要な情報を読み取るための有用なツールとなる。近年、統計解析ソフトの高機能化により、実験結果を入力して解析方法を選ぶだけで結果が得られるようになってきた。そのため間違っただけの解析法を選択し、誤った結論を導き出してしまう危険性が高くなっている。さらに、研究のための試験設計を立てるに当たり、統計処理が可能な設計にできなかったために研究自体が無駄になることもある。そこで本講義では、統計の基礎知識を理解するとともに、自らが実験をおこなったときに適切な統計手法を選択することのできる能力を習得することを目標とする。

《授業の概要》

具体的な事例データを用いた演習問題をこなしながら統計処理の基礎的な知識を習得する。

2. 授業内容

- 第1回：統計学概論：統計解析法と実験計画
- 第2回：基本統計量：平均値、分散など
- 第3回：データの分類：データの種類とその性質
- 第4回：分布の種類：分布の基礎と共分散
- 第5回：統計的検定と推定（1）
- 第6回：統計的検定と推定（2）
- 第7回：統計的検定と推定（3）
- 第8回：多重比較（1）：多重比較の基礎
- 第9回：多重比較（2）：さまざまな多重比較法
- 第10回：回帰分析：回帰と相関
- 第11回：変量解析（1）：多変量解析とは
- 第12回：変量解析（2）：重回帰分析
- 第13回：変量解析（3）：主成分分析
- 第14回：ノンパラメトリック検定

3. 履修上の注意

- √ 計算ができる、計算機を持参のこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業内容をあらかじめプリントして配布するので、それを用いて事前に疑問点を整理しておく。さらにプリント内の演習問題を解くことを復習とする。

5. 教科書

特になし、プリントを配布する予定。

6. 参考書

- 『すぐわかる統計処理』 石村貞夫著（東京図書）
- 『バイオサイエンスの統計学』 市原清志著（南江堂）
- 『SASによる実験データの解析』 竹内啓監修（東京大学出版会）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学期末試験と出席で判定する。欠席が3回以上の場合、評価対象としない。

9. その他

所属：〒305-0901 茨城県つくば市池の台2 畜産草地研究所 家畜育種増殖研究チーム
E-mail: kazishi@affrc.go.jp

科目ナンバー (AG)CBI241J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 ゲノム機能工学	2 単位	大和屋健二
2017~2021 年度入学者 ゲノム機能工学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

遺伝子組み換えを基に細胞・個体レベルでゲノムを操作するゲノム工学と、転写調節機構として近年注目されているエピジェネティクスを操作するエピゲノム工学をあわせた、新しい学問としてのゲノム機能工学の基礎について理解することを目標とする。

《授業の概要》

まずこの授業の根幹となる真核生物ゲノムの基本構造や各機能単位の役割とともに、遺伝子組換えによるゲノム工学の基礎について概説する。近年注目され始めたエピジェネティクスについては、様々な DNA、ヒストンへのエピジェネティック修飾、それらの役割、解析法、生物種間でのエピジェネティック制御の共通性や相違について解説する。これらを総合してエピジェネティクスを中心とした細胞分化、個体発生、組み換え遺伝子の発現制御、エピゲノム改変による細胞機能の変化、などについて主にほ乳類での最新の知見を紹介する。

2. 授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：ゲノムの基礎 1
- 第3回：ゲノムの基礎 2
- 第4回：ゲノム工学 1
- 第5回：ゲノム工学 2
- 第6回：エピジェネティクスの基礎 1
- 第7回：エピジェネティクスの基礎 2
- 第8回：モデル生物のエピジェネティクス
- 第9回：ほ乳類のエピジェネティクス
- 第10回：細胞分化・個体発生とエピジェネティクス
- 第11回：ゲノム改変とエピジェネティクス
- 第12回：病気とエピジェネティクス
- 第13回：エピゲノム改変
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

この授業は「分子生物学入門」「遺伝学」「細胞生物学」の履修を前提に講義を進めるので、必ず理解している必要がある。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

エピジェネティクスを中心としたゲノム機能工学は、体細胞核初期化や細胞の分化・脱分化・分化転換の分子メカニズムとして近年注目を集めている分野ではあるが、今のところ一冊ですべてをカバーできる教科書がない。専門用語などについても授業中に初めて聞くものがほとんどだと思われるが、授業で使うスライドは Oh-o! Meiji にて閲覧できるようにするので、下に指定する参考書などとともに予習・復習することが望ましい。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

- 入門書
 - 『エピジェネティクス入門』佐々木裕之（岩波書店）
 - 『エピジェネティクス-新しい生命像をえがく』仲野徹（岩波新書）
 - 『エピゲノムと生命』太田邦史（講談社ブルーバックス）
- 専門書
 - 『エピジェネティクス：その分子機構から高次生命機能まで』田嶋正二編（化学同人）
 - 『エピジェネティクスキーワード事典』牛島俊和、眞貝洋一編（羊土社）
 - 『DNAメチル化研究法』塩田邦郎、服部中編（学会出版センター）

7. 課題に対するフィードバックの方法

適宜、講義中やメールでの質問などに回答する。

8. 成績評価の方法

定期試験により評価するが、レポート等を課したときはそれも評価対象とする場合がある。

9. その他

ゲノム機能工学研究室

科目ナンバー (AG)BI0251J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
細胞情報制御学

2017～2021年度入学者
細胞情報制御学

2 単位

戸村秀明

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

シグナル伝達系を構成する個々の要素が、どのようにお互いに作用しあって生命現象を制御しているのかに主眼を置き、解説する。

《授業の到達目標》

細胞情報（シグナル伝達）を「システム」としてとらえ、その「システム」を制御することが、どのように私たちの生活に関わっているのかをグループワーク、プレゼンテーションを通して、理解する。

2. 授業内容

第1回：シグナル伝達とは？

第2回：細胞内シグナル伝達系Ⅰ

第3回：細胞内シグナル伝達系Ⅱ

第4回：細胞間シグナルⅠ

第5回：細胞間シグナルⅡ

第6回：シグナル伝達と細胞増殖Ⅰ

第7回：シグナル伝達と細胞増殖Ⅱ

第8回：シグナル伝達と細胞接着Ⅰ

第9回：シグナル伝達と細胞接着Ⅱ

第10回：シグナル伝達と細胞周期—概論Ⅰ

第11回：シグナル伝達と細胞周期—概論Ⅱ

第12回：細胞周期の制御Ⅰ

第13回：細胞周期の制御Ⅱ

第14回：まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがある

3. 履修上の注意

シグナル伝達系を構成する個々の要素に関しては、すでに理解しているものとして授業を進めるので、「環境応答生物学」を事前に履修しておくことを強く勧める。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の内容を基準として、自ら他の資料を調べていく必要がある。

また調べたものをまとめて発表してもらおう。そのため、資料の下調べと発表準備が事前に必要である。

また発表前に、その内容をまとめ、提出してもらおう。

5. 教科書

『分子生物学講義中継 part2』 井出利憲著（羊土社）

6. 参考書

特に指定はしない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

発表・試験により評価する。レポートなどの課題を課した場合は、発表・試験（80%）、レポート等（20%）とする。

9. その他

研究室：細胞情報制御学研究室（5号館4階407号室）

科目ナンバー (AG)BI0241J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
動物再生システム学

2 単位

乾雅史

2017～2021年度入学者
動物再生システム学

1. 授業の概要・到達目標

失われた体の一部を回復するという再生現象は多くの動物種で見られるが、その細胞・分子的なメカニズムは多様であり、また種ごと・組織ごとに再生のポテンシャルは大きく異なる。我々ヒトがもつ再生能力は限られているため、生命科学の知識や技術を用いた再生医療による機能の回復が望まれる。本講義では前半に様々な動物の再生現象の分子・細胞メカニズムや研究の歴史、受精卵からの形態形成過程である個体発生の過程について講義する。後半では多能性幹細胞や組織の恒常性を支える幹細胞、発生・再生・幹細胞研究の成果を応用する再生医療について技術的・社会的な側面から現状と課題を講義する。

様々な組織再生メカニズムについて類似点や相違点など分子細胞レベルでの理解を深め、また個体発生、組織再生、再生医療の関係について理解することを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション：動物の再生とは？
- 第2回：様々な動物の再生：相違点と共通点（ヒドラ、プラナリア、節足動物、脊椎動物）
- 第3回：細胞の分化と形態形成
- 第4回：細胞間コミュニケーション
- 第5回：再生組織の細胞の起源
- 第6回：再生上皮
- 第7回：再生過程の制御因子
- 第8回：再生組織の形態形成
- 第9回：個体発生と組織再生
- 第10回：幹細胞と分化
- 第11回：組織幹細胞
- 第12回：再生医療1
- 第13回：再生医療2
- 第14回：再生医療3

3. 履修上の注意

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義後は授業中に配布するレジュメおよび講義のノートを見返し、不明な点があれば次回の授業で質問すること

5. 教科書

特に定めない

6. 参考書

- 『ギルバート発生生物学』 Scott T. Gilbert 著 阿形清和 高橋淑子 監訳 （メディカル・サイエンス・インターナショナル社）
- 『Principles of Regenerative Biology』 Bruce M. Carlson 著 (Academic Press 社)
- 『幹細胞』 ジョナサン・スラック著 八代嘉美 訳 （岩波科学ライブラリー）

7. 課題に対するフィードバックの方法

各回の講義で提示される課題について、Oh-o!Meiji を通じて、あるいは次の回の講義でフィードバックを行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 70%と授業への貢献度 30%で評価する。

9. その他

生命科学科・動物再生システム学研究室

科目ナンバー (AG) CBI394J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生命科学実験 I

2017~2021年度入学者
生命科学実験 I

2 単位

田中・浜本・乾・中村・大和屋

1. 授業の概要・到達目標

植物、動物および微生物を実験材料として用い、その取り扱い、基本的操作、肉眼および顕微鏡による細胞・組織の観察、生体（または、その一部）を用いた生理機能、有用代謝産物に関する実験を行う。

本実験・実習を習得することにより、植物、動物および微生物の形態、構造および機能の実際を理解するとともに、生体材料の取り扱い、基本的操作、および実験データの解析法を身に付け、生物の基本である観察力を養うことを達成目標とする。

2. 授業内容

※この実験授業については3・4限セットで1回と記載しています。

- 第1回：ガイダンス・安全教育（担当者全員）
- 第2回：マウス胚の観察・骨格標本作成（乾）
- 第3回：ツメガエル胚・ニワトリ胚の観察（乾）
- 第4回：植物の分裂組織と組織切片の観察（田中）
- 第5回：植物ホルモンによる細胞・組織の変化（田中）
- 第6回：培地作製と無菌操作、微生物の純粋分離（浜本、中村）
- 第7回：アミラーゼ生産菌のスクリーニング、細菌細胞のグラム染色と観察（浜本、中村）
- 第8回：まとめ（担当者全員）

3. 履修上の注意

- ・毎回実験に先立って手順や注意点の説明を行うので遅刻しないこと。
- ・実験用の白衣と実験ノートを必ず用意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

実験毎に配付するプリントの該当箇所を事前に読み、次回の実験内容について参考書に目を通し、不明な部分があれば授業で質問すること。授業終了後は、実験ノートを振り返り、実験内容の復習をすること。

5. 教科書

教科書は指定しない。実験毎にプリントを配付する。

6. 参考書

- 『植物生理学』三村徹郎、鶴見誠二 編著（化学同人）
- 『ギルバート発生生物学』Scott T. Gilbert 著 監訳 阿形清和 高橋淑子（メディカル・サイエンス・インターナショナル社）
- 『実験応用生命化学』東京大学大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻・応用生命工学専攻編（朝倉書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

実験中、もしくは実験終了後にフィードバックを行う。

8. 成績評価の方法

動物、植物、微生物の3分野の実験の評価の平均を成績とする。評価方法はレポート70%、平常点30%とする。

9. その他

- レポートの提出期限を厳守すること。
- オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG) CBI394J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 生命科学実験Ⅱ	2 単位	大鐘・吉田・高橋・大和屋
2017～2021 年度入学者 生命科学実験Ⅱ		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

生命の仕組みの本質は化学反応である。従って未知なる生命現象を理解・探究するためには、化学の知識のみでなく、化学の実験手法を熟知し、理論的に展開・立証することが重要で不可欠である。

《授業の到達目標》

本実験では、生命の主要な成分である糖類及び核酸およびタンパク質（酵素）に着目し、様々な化学分析方法を学習するとともに、基礎的な化学実験の実践を通して実験技術を習得することが目標である。

2. 授業内容

第1回：全体ガイダンス・安全教育

第2回：化学分析用試薬・機器に関する取り扱い技術

第3回：酵素活性の測定

第4回：細胞からの DNA 単離、定量、分析

第5回：化学反応による核酸塩基の変換、検出法

第6回：制限酵素による DNA 切断反応の分析

第7回：制限酵素反応後の切断断片の性状解析

この授業については3・4限セットで1回と記載しています。

3. 履修上の注意

遅刻は認めない。白衣および実験ノートを必ず用意すること。第1回目の講義にグループ分けを行うので、必ず出席すること。（無断欠席の場合は、履修を断ります。）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

「特別講義：川崎市の下水道の水質規制」の動画を視聴すること。

5. 教科書

教科書は指定しない。

履修者には実験マニュアルを配布する。

6. 参考書

特になし。

履修者には実験マニュアルを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

3教員に提出するそれぞれのレポートと平常点（出欠状況と実験への参加態度）によって評価して成績（100%）とする。3教員の担当するすべての実験についてレポートを提出しないと成績評価の対象とはなりません。

9. その他

科目ナンバー (AG) CBI394J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
生命科学実験Ⅲ

2017～2021年度入学者
生命科学実験Ⅲ

2 単位

吉本・紀藤・渡辺・佐藤

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

タンパク質の特性を理解し、その性質を応用した分離・分析と酵素活性の計測を行う。

《授業の到達目標》

本実験では、生体成分に関する研究方法について、その原理を理解するとともに基本的な技術を習得することを目標とする。

2. 授業内容

第1回 aのみ：ガイダンス・安全教育（担当者全員）

第2回：タンパク質の分離・精製（イオン交換クロマトグラフィー）①（渡辺）

第3回：タンパク質の分離・精製（イオン交換クロマトグラフィー）②（渡辺）

第4回：タンパク質の分析（SDS-PAGE）①（渡辺）

第5回：タンパク質の分析（SDS-PAGE）②（渡辺）

第6回：タンパク質の同定（データ解析）（渡辺）

第7回：タンパク質の分離・精製①（アフィニティー精製）（紀藤）

第8回：タンパク質の分離・精製②（アフィニティー精製）（紀藤）

第9回：ウエスタンブロッティングによるタンパク質の検出と定量①（紀藤）

第10回：ウエスタンブロッティングによるタンパク質の検出と定量②（紀藤）

第11回：タンパク質の精製効率の解析（紀藤）

第12回：タンパク質の抽出・精製（ゲルろ過クロマトグラフィー）（吉本）

第13回：タンパク質の定量（吉本）

第14回：ザイモグラフィーによるタンパク質分解活性の検出（吉本）

第15回：タンパク質分解酵素の活性測定（吉本）

第16回：タンパク質分解酵素活性の解析（吉本）

（この実験は3・4限セットで1回とし記載しており、1週に2回の実験を行います。）

3. 履修上の注意

化学実験には、特に厳密さと丁寧さが要求されるので、慎重な態度で臨んでほしい。また、単に技術の習得だけでなく、作業を通して知識や理論、あるいは物質についての理解を深めることも、実験の重要な目的であるので、関連分野については自身で勉強するのが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配布する実験マニュアルを事前に熟読し、実験操作をよく理解しておくこと。実験後には得られたデータを整理し、実験原理の理解を深めること。

5. 教科書

使用しない。実験時にマニュアルを配布する。

6. 参考書

使用しない。実験時にマニュアルを配布する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

レポートなどの課題に対する解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信する場合もあるため、クラスウェブを確認すること。

8. 成績評価の方法

授業への参加度・授業での平常点およびレポートによって評価する。

9. その他

オフィスアワーについては別途説明する。

科目ナンバー (AG) CBI394J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 生命科学実験IV	2 単位	浅沼・河野・長竹・佐藤
2017~2021 年度入学者 生命科学実験IV		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

生命科学の分野で行われている様々な研究方法の中から、遺伝子組み換え、微生物の遺伝子解析、実験動物を扱う基本的な実験を行う。

〈授業の到達目標及びテーマ〉

「生命体の成り立ち」を理解するとともに、そのために必要な生命科学研究に関連する実験技能を習得することがテーマである。具体的な到達目標として、(1) 代表的な微生物を取り扱うことができ、そこから必要な情報を取り出せる。(2) 遺伝子操作に関する基礎知識を持ち、基本的な実験操作ができる。(3) 実験動物を適切に取り扱い、適切な方法による観察・処置ができる。また、到達目標を達成する過程において重要な(4) 実験方法の理論的背景、方法、実験結果の処理と報告、考察、レポート作成ができるようになることや、(5) これらの実験技術がどのように展開できるかを考慮に入れ、実験・研究の進め方を習得することも到達目標として設定している。

2. 授業内容

第1週目に、ガイダンスとして本実験に関わる遺伝子組換えや動物実験に関する法令についての説明を含めた安全教育を行い、学生実験の説明、諸注意を与える。実験実施はクラス単位で3グループに分かれ、各グループは、浅沼、長竹、河野の3教員がそれぞれ行う計5回のコース(A, B, C)を順番にすべて履修する。

第1回：ガイダンス・ヒト共生細菌の分離と培養 (A：浅沼)

第2回：ヒト共生細菌からの遺伝子抽出 (A：浅沼)

第3回：ヒト共生細菌の塩基配列決定 (A：浅沼)

第4回：遺伝子情報に基づいた共生細菌の多様性解析 I (A：浅沼)

第5回：遺伝子情報に基づいた共生細菌の多様性解析 II (A：浅沼)

第6回：ガイダンス・マウスの解剖 (B：長竹)

第7回：動物組織切片の作製と染色 (B：長竹)

第8回：動物組織切片の観察 (B：長竹)

第9回：ELISAによる糞便IgAの定量1 (B：長竹)

第10回：ELISAによる糞便IgAの定量2 (B：長竹)

第11回：ガイダンス・遺伝子導入とマウス組織の回収 (C：河野)

第12回：組換え体の確認・大腸菌培養、PCR (C：河野)

第13回：プラスミド調整と酵素分解 (C：河野)

第14回：PCRと制限酵素分解物の電気泳動と評価 (C：河野)

第15回：グループによる実験結果の発表 (C：河野)

3つのグループは、上記のA, B, Cのコースを異なった順序・日程で演習する。

実験レポートの提出期限は実験日時、教員毎に異なる。

3. 履修上の注意

遅刻は欠席と見なし、単位取得には原則として全回出席が必須である。レポートは全てのコースについて提出することが必要条件である。実験に集中し、実験操作の結果を注意深く観察し、結果に至った原因を考察し、自然科学に対する好奇心を育成することが必要である。実験に集中できない学生には退出を命じる。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

初回のガイダンス時に配布する実験テキストをあらかじめ熟読し、当日の実験に備えること。また、各実験終了後には実験の結果をまとめ、考察を忘れないこと。

5. 教科書

なし

6. 参考書

なし

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題レポートに対するコメント対応は、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

8. 成績評価の方法

成績は3教員による成績評価値の平均を持って判定する。教員による成績評価はレポート(50%)、実験中の態度および参加度(50%)で行う。

9. その他

オフィスアワーは特に定めない。質問等は教員にメールでコンタクトし、適宜に直接の質疑応答を行う。

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
文献調査・特別研究（卒論）
2017～2021 年度入学者
文献調査・特別研究（卒論）

8 単位

生命科学科教員

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

教員の指導のもとで研究テーマを設定し、実験計画を立案し、2年間にわたって特別研究を遂行する。文献調査では特別研究のテーマに関連した情報の収集を行い、論文や総説などを読解してゼミ形式で発表する。特別研究で得られた実験データをもとに論文を取りまとめ、卒論発表会で発表する。

《授業の到達目標》

特別研究を行うことによって、実験手法を学び、実験結果を解析する能力や問題解決に必要な応用力を身につける。文献調査では、論文読解から科学的な知識を深めるとともに、発表を通じてプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。総合的には自然科学研究を遂行する際の留意点の学習、実験計画を構築する能力の育成が達成目標である。

2. 授業内容

研究室により研究領域が異なるので、履修者は教員と相談の上で特別研究と文献調査の授業内容を決定する。

3. 履修上の注意

2年間の継続履修が必要。研究内容をよく理解し、それに応じた準備学習をしておくこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

研究室のテーマおよび関連分野の背景および基礎的事項について、日常的に調査し、理解する。また、研究分野の最新情報に目を配る。

5. 教科書

特に指定しないが、随時指定する。

6. 参考書

特に指定しないが、随時指定する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

研究内容のレポートについて、添削したものを共有し、研究の進捗状況と今後の計画について対面で議論する。

8. 成績評価の方法

研究姿勢、文献の読解力、研究成果の発表、論文を総合的に評価する。

9. その他

食料環境政策学科

科目ナンバー (AG)AGE191J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
食料環境政策学を学ぶ
2017～2021年度入学者
食料環境政策学を学ぶ

2単位

食料環境政策学科教員

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

今日、めまぐるしく変化する現代経済・社会のなかで、「食と農」「環境と資源」の問題やその社会的役割が改めて問われている。この講義のねらいは、食料環境政策学科でこれから学ぼうとする初学者（1年生）を対象に、主に「食と農」や「環境と資源」をテーマとした部分について、まず社会科学的なものの見方、考え方を身につけ、問題意識を醸成することにある。

《授業の概要》

当該学科に所属する専任教員によるオムニバス方式の授業である。よって、各担当者が1回ずつ、それぞれの専門分野の立場からこうした「食と農」や「環境と資源」の現代的問題を切り口に、それぞれの学問体系の基礎を平易に概説することが本講義の特徴である。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション（大江）
- 第2回 農業のもつ特質を経営的な視点で考える（竹本）
- 第3回 途上国の食と農を考える（暁剛）
- 第4回 農村の現場から農業・農村政策の展開を考える（橋口）
- 第5回 環境問題はなぜ発生するかを考える（廣政）
- 第6回 つくる人と食べる人をどうつなぐかー大学生の地域連携活動からー（本所）
- 第7回 地域社会と使われない土地のゆくえを考える（片野）
- 第8回 世界の人口と食料：飢餓と飽食の併存（池上）
- 第9回 食料の貿易と国際ルール（作山）
- 第10回 共有資源と経済、および人間関係（岡）
- 第11回 食ビジネスと持続可能性（中嶋）
- 第12回 農業は環境にやさしいか（藤栄）
- 第13回 環境保全型農業の政策と実態：ドイツの現場から（市田）
- 第14回 地域問題と地域ガバナンスを考える（小田切）

※担当教員の校務等の都合で順序が前後することがある。

3. 履修上の注意

受講生は関心ある分野を見出し、2年次以降のプロジェクトゼミやゼミナールの選択時に役立ててほしい。
ノートと配付資料をまとめるファイルを準備することをお薦めする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習としては、参考書のうち各回の該当箇所（担当教員の執筆箇所）を読んでおくこと。
復習としては、各回の授業内容をノートにまとめること。

5. 教科書

特になし

6. 参考書

廣政幸生編著『持続可能性と環境・食・農』（日本経済評論社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

毎回の授業時のレポートの評価点を合計して成績評価を行う。

9. その他

問い合わせ先は次の研究室まで。

→共生社会論研究室（3号館4階421A号室）：岡通太郎

環境資源会計論研究室（3号館4階412A号室）：本所靖博

科目ナンバー (AG)AGE131J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
食料環境政策入門

2017～2021 年度入学者
食料環境政策入門

2 単位

作山巧

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

予備知識を持たない1年生を対象に、日本の食料・農業・農村の現状とそれらに関する政策の動向を中心に講義する。農林水産省に行政官として25年間勤務し、本授業の教科書である『食料・農業・農村白書』も執筆した教員の体験談を随所に交えた講義を行う。また、同白書の最新版を執筆した農林水産省の現役官僚をゲスト講師として招き、特集を解説してもらう。

<授業の到達目標>

食料・農業・農村の現状を把握した上で、それらが直面する問題点や解決すべき政策的な課題について包括的に学習することによって、2年次以降の専門的な科目の履修に必要な知識を習得する。

2. 授業内容

第1回 aのみ：イントロダクション

第2回：食料安全保障と食料消費の動向

第3回：グローバルマーケットを含む新たな需要の開拓

第4回：食品の安全確保と動植物防疫措置の強化

第5回：農業生産の動向

第6回：担い手の確保と多様な人材の活躍

第7回：担い手への農地集積と農業生産基盤整備

第8回：特集（ゲスト講師の講義）

第9回：生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化

第10回：イノベーションの促進と農業関連団体

第11回：みどりの食料システム戦略の推進

第12回：田園回帰と中山間・都市の農業

第13回：雇用機会の確保と定住条件の整備

第14回：農村の活力創出と多面的機能の理解促進

※シラバスの執筆時点では教科書が未刊行のため、2023年度の内容を記載している。

3. 履修上の注意

受講に当たって特段の予備知識は前提としない。毎回の小テストに必要となるスマートフォンやパソコン等の電子機器を持参する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

教科書とそれをベースとした講義資料はクラスウェブに掲載されており、事前に読んだ上で受講すること。また、講義時の小テストと講義後の感想の提出を毎回行う。

5. 教科書

『令和6年版食料・農業・農村白書』農林水産省編（農林統計協会）2024年

※農林水産省のウェブサイトに掲載されているため、購入は任意である。

6. 参考書

『知識ゼロからの現代農業入門』八木宏典監修（家の光協会）2019年

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答例や代表的な質問に対する回答は、次回授業の冒頭で解説する。

8. 成績評価の方法

毎回の授業開始時の着席（25%）、小テストへの解答（50%）、感想の提出（25%）により評価する（定期試験は実施せず、レポート等による事後的な救済も行わない）。

9. その他

教員の連絡先は sakuyama@meiji.ac.jp である。なお、欠席に関する連絡は、第1回講義資料と「シラバスの補足」をよく読んだ上で行うこと。

科目ナンバー (AG)ECN111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 経済学入門	2 単位	岡通太郎
2017～2021年度入学者 経済学入門		

1. 授業の概要・到達目標

ミクロ経済学では需給曲線の意味および市場の失敗、マクロ経済学では景気と失業の理論および成長理論と環境経済政策を軸としつつ理論と実例を交えながら解説する。

ミクロ経済学とマクロ経済学の入門レベルを習得したうえで、現代社会の諸経済課題を理解するのに必要な最新の経済理論学習への基礎作りを目指す。

2. 授業内容

- 第1回：ミクロ経済学とマクロ経済学とは何か。交換、希少性、機会費用を中心に。
- 第2回：需要と供給とは。消費者の限界効用。
- 第3回：企業の限界費用。市場メカニズム。
- 第4回：労働市場。独占・寡占は何をもたらすか、なぜ起こるか。
- 第5回：ゲーム理論。外部性。環境問題の経済学的理解。
- 第6回：不完全情報の世界と食料環境問題。
- 第7回：GDP・三面等価の原則。経済書指標の見方。
- 第8回：有効需要。非自発的失業。ケインズ。
- 第9回：貯蓄と投資。政府の役割。
- 第10回：財政政策、IS-LM分析、金融政策、ハイパワードマネー。
- 第11回：景気と失業。循環的失業と構造的失業。
- 第12回：インフレ・デフレ。バブル経済とその崩壊。
- 第13回：経済成長・国際経済。比較優位。円高・円安の功罪。
- 第14回：経済政策の実例 まとめ

3. 履修上の注意

時事問題を事例に解説することが多いので出席を心がけること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

前回の講義の内容を1行でまとめてくること。

5. 教科書

井堀利宏『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA

6. 参考書

特になし

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学期末に行われる試験において評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)ECN111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ミクロ経済学

2017~2021 年度入学者
ミクロ経済学

2 単位

中嶋晋作

1. 授業の概要・到達目標

食料環境政策に必要なミクロ経済学の基礎について、主に消費者行動、企業行動に焦点を当てて、できるだけ平易に解説する。講義を受け、練習問題を繰り返し解くことで、ミクロ経済学の基礎を習得することを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション
- 第1回 b: 経済学とは何か
- 第2回: 経済学の数学基礎<1>
- 第3回: 経済学の数学基礎<2>
- 第4回: 消費者行動の理論<1>
- 第5回: 消費者行動の理論<2>
- 第6回: 企業行動の理論<1>
- 第7回: 企業行動の理論<2>
- 第8回: 中間試験
- 第9回: 中間試験の正答解説
- 第10回: 市場均衡<1>
- 第11回: 市場均衡<2>
- 第12回: 市場の失敗<1>
- 第13回: 市場の失敗<2>
- 第14回: まとめ

3. 履修上の注意

微分を多用するが、数学について特別な準備は必要ない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するレジユメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。

5. 教科書

- 『ミクロ経済学入門の入門』坂井豊貴著（岩波新書）2017年
- 『経済数学入門の入門』田中久稔著（岩波新書）2018年

6. 参考書

- 『はじめてのミクロ経済学 増補版』三土修平著（日本評論社）2014年
- 『ミクロ経済学の力』神取道宏著（日本評論社）2014年
- 『ミクロ経済学の技』神取道宏著（日本評論社）2018年
- 『改訂版 経済学で出る数学—高校数学からきちんと攻める—』尾山大輔・安田洋祐編著（日本評論社）2013年
- 『よくわかる経済数学入門講義<上>静学分析編』門川和男著（学術研究出版）2018年。
- 『よくわかる経済数学入門講義<下>動学分析編』門川和男著（学術研究出版）2018年。
- 『農業経済学 第4版』荏開津典生・鈴木宣弘著（岩波書店）2015年
- 『農業経済論 新版』速水佑次郎・神門善久著（岩波書店）2002年
- 『農業と人間—食と農の未来を考える—』生源寺真一（岩波書店）2013年

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

レポート、中間試験および学期末試験によって評価する。具体的には、レポート20%、中間試験30%、学期末試験50%とする。

9. その他

食ビジネス論研究室（3号館4階422A号室）
E-mail: anakajim@meiji.ac.jp
TEL: 044-934-7129

科目ナンバー (AG)ECN111J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 マクロ経済学	2 単位	廣政幸生
2017~2021 年度入学者 -		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

マクロ経済学は経済学の基礎科目である。マクロ経済学を理解する目的は、世の中の経済の動きを理解することにある。とりわけ、日本経済の状況を把握し、生じている経済問題の要因と、克服のための経済政策のあり方を理解することは、将来、社会に出たときに社会人としての教養となつて、いわば、最も役に立つ知識となる。

《授業の概要》

マクロ経済理論よりは、日々の経済関係のニュース、新聞記事、マスコミに取り上げられる経済状況、用語が理解できるよう解説を行う。日本経済の状況と世界経済との関係が理解できるように解説する。

2. 授業内容

- 第1回：マクロ経済とは -経済現象の見方とその意味-
- 第2回：マクロ経済とは -マクロ経済指標の見方-
- 第3回：マクロ経済とは -カネは天下の回りもの-
- 第4回：GDP の概念 (1) -付加価値とは-
- 第5回：GDP の概念 (2) -国民経済計算とは-
- 第6回：GDP の概念 (3) -国民経済計算 (名目と実質) -
- 第7回：GDP の概念 (4) -国民経済計算 (景気とは) -
- 第8回：物価とは何か -消費者物価指数の作り方と意味-
- 第9回：物価の決まり方 -需要と供給-
- 第10回：貨幣とは何か -貨幣とマネーサプライ-
- 第11回：金融市場とは -貨幣と国債-
- 第12回：金融政策とは -日銀の役割-
- 第13回：為替市場とは -開放経済-
- 第14回：a 市場と政府の役割

3. 履修上の注意

日頃より、経済ニュースに興味を持ち、世の中の経済の仕組みを考えるよう心掛けること。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

毎日、新聞の経済欄を読むこと。

5. 教科書

特に定めないが、プリントは配布する。参考書のいずれかは手元にあるとよい。

6. 参考書

- 「マクロ経済学」アセモグル・レブソン・リスト著、岩本康志訳 (東洋経済新報社)
- 「世界のエリートが学ぶマクロ経済入門」デヴィッド・モス著、久保 恵美子 訳 (日本経済新聞社)
- 「GDP——〈小さくて大きな数字〉の歴史」ダイアン・コイル 著、高橋 璃子 訳 (みすず書房)

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の始めに行う

8. 成績評価の方法

学期末試験 (60%)、レポート (20%)、リアクションペーパー (20%) によって評価する。

9. その他

環境経済論研究室 (3号館4階 3-425 A)
hiroy@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)ECN111J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 政治経済学	2 単位	橋口卓也
2017～2021 年度入学者 政治経済学		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

マルクス経済学上、最も有名な書物は、いうまでもなく『資本論』であるが、本講義では、その要点をできるだけ分かりやすく解説するとともに、現代経済・現代社会とを繋ぐ接点についてもふれる。

《到達目標》

本講義で取り扱う「政治経済学」は、古典派経済学の成果を踏襲しつつ、それらへの批判から生まれた「マルクス経済学」的視点に基づく。それは資本主義経済の歴史的理解と、政治体制、経済体制への批判的考察を中心に形成されてきたものである。本講義では単にマルクスの唱えた経済理論をなぞるのではなく、現代社会の抱える諸問題をも視野に入れ、社会事象を複眼的に観察する視点を養うようにしたい。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：「政治経済学」の経済学史上の位置づけ
- 第3回：資本主義成立期の社会の特徴
- 第4回：商品とは何か
- 第5回：価値とは何か
- 第6回：貨幣とは何か
- 第7回：資本とは何か
- 第8回：労働力商品の特殊性
- 第9回：剰余価値について
- 第10回：「地代論」の世界
- 第11回：「政治経済学」的視点からの農業問題—農民層分解—
- 第12回：「政治経済学」的視点からの農業問題—集団農場—
- 第13回：「政治経済学」的視点から見た現代社会
- 第14回：総括と質疑応答

3. 履修上の注意

内容を理解するために、連続して講義を受講することが望ましい。
やむをえず、実習等で欠席した場合も、内容把握に努めること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習については、前回講義の終わりに重要なキーワードを提示するので、それらについて事前に自分なりに調べてくること。ノートや配布プリントに基づいて、講義内容を十分に理解するように、復習すること。

5. 教科書

特に指定しない。必要に応じてプリント等を配布する。

6. 参考書

- ・北村洋基『改定新版 現代社会経済学』（桜井書店、2013年）
- ・松石勝彦編著『現代の経済学入門』（同成社、2010年）
- ・小幡道昭『経済原論 基礎と演習』（東京大学出版会、2009年）
- ・若森章孝・小池渺・森岡孝二『入門・政治経済学』（ミネルヴァ書房、2007年）
他、適宜、講義の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

小テスト等を実施する可能性があるが、それら自体は最終的な成績には反映しない。成績評価は定期試験 100%とする。

9. その他

《担当教員連絡先》

研究室（第一校舎3号館4階、3-413A、Tel：044-934-7121）
e-mail：hashiguchi.takuya@nifty.com

科目ナンバー (AG)AGE131J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 政策科学入門	2 単位	小田切徳美
2017～2021年度入学者 政策科学入門		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

食料環境政策学は「食料」と「環境」という現代的なキーワードに彩られている。しかし、それと同時にこの分野で大切なのは「政策」である。この場合の「政策」とは、国や市町村の施策を意味する狭い概念ではない。むしろ、問題の所在を科学的につきとめ、それに対して「どうしたらよいか」と問い、解決策を提示し、実践を支援するという幅広い概念である。政策科学とはこうした、問題把握—原因解明—解決策の提示—実践（支援）—解決策の評価という一連の過程を含んでいる。本講義では、様々なトピックス（地域、農業、食料、環境）を取り上げ、それに対してその分野でいかなる処方箋が打ち出されてきたのかという現実を素材として、政策科学の概要を講述する。本講義は「入門」講義であり、食料環境政策学科の1～2年生を主な対象とする。

《授業の概要》

政策科学は問題を抱える「現場」にこそ、存在するものに他ならない。そこで、本講義では食料、環境、農業、地域の各分野のトピックスを取り上げたうえで、生きた政策科学のあり方を検討する。その際、それぞれのトピックの実態認識を深めるため、動画の利用を積極的に行う。

2. 授業内容

第1回：政策科学とは何か

第2回：食料問題と政策〈1〉

第3回：食料問題と政策〈2〉

第4回：地域問題と政策〈1〉

第5回：地域問題と政策〈2〉

第6回：農業問題と政策〈1〉

第7回：農業問題と政策〈2〉

第8回：農業問題と政策〈3〉

第9回：環境問題と政策〈1〉

第10回：環境問題と政策〈2〉

第11回：環境問題と政策〈3〉

第12回：政策科学と実態調査

第13回：政策科学と統計分析

第14回：講義の振り返り

※講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

授業中の私語等は厳禁とする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で配布するレジュメ（Oh-o! Meiji のクラスウェブを利用することもある）を再読して、疑問等があれば次回講義の場で質問をしていただきたい（リアクション・ペーパーに書いても可）。

また、次回の内容の目的・目標を講義の最後に触れるので、関連情報の事前収集を予習として行うこと。

5. 教科書

教科書は指定しない。毎回の講義で配布するプリント等（講義レジュメ）をテキストとする。

6. 参考書

参考書は指定しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパーによる感想等の提出を課題とし、そのなかから優れたものや印象的なものは次回に紹介し、さらに質問についても次回講義で積極的に回答する。

8. 成績評価の方法

1. 学期末試験を行い、それによって評価する（定期試験100%）。ただし、毎回、講義内容に関する感想（質問も含む）を書くリアクション・ペーパー（課題）の提出機会を作り、その内容が優れたものを、次回の講義で紹介すると同時に、成績の加点要素とする（最大20点）。

2. 本講義は、食料環境政策学科の「入門」講義であり、1～2年生を主な対象としている。したがって、入門期を修了した同学科の3～4年生は、より高い基準による成績評価となる。

9. その他

地域ガバナンス論研究室（3号館4階 3-420A）

odagiri@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)SOC111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 社会学入門	2 単位	市田知子
2017～2021年度入学者 社会学入門		

1. 授業の概要・到達目標

社会学は近代化以降、個人と個人の関係、社会と個人の中法則性を見出す学問として発展してきた。本講義では現代日本社会を中心に、家族、地域社会、国家などの主体や主体相互の関係がどのように変化してきたのかを、都市と農村、ジェンダーなどの具体的な問題に即して理解する。

到達目標：

社会学的な考え方を習得する。

2. 授業内容

- 第1回：社会とは何かを考える：イントロダクション
- 第2回：自己と他者
- 第3回：家族と社会（1）：概念と実態
- 第4回：家族と社会（2）：家族の変容
- 第5回：地域社会を考える
- 第6回：情報と社会
- 第7回：食と社会
- 第8回：都市と農村（1）：概念
- 第9回：都市と農村（2）：実態
- 第10回：ジェンダーと社会（1）：ジェンダーの視点
- 第11回：ジェンダーと社会（2）：多様な性
- 第12回：消費社会を考える（1）：「消費社会の神話と構造」再考
- 第13回：消費社会を考える（2）：「孤独な群衆」再考
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ①講義中に指示をした文献やテキストの該当箇所を読むこと
- ②講義後に資料等を確認し、不明な点は次回の講義で質問すること

5. 教科書

指定しない。

6. 参考書

好井裕明『「今、ここ」から考える社会学』ちくまプリマー新書、2017
友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』丸善出版、2021
ほか

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

授業への参加度合（レポートを含む）が20%、定期試験が80%

9. その他

環境社会学研究室（3号館4階）
Email: ichida@meiji.ac.jp
研究室HP: [url]https://www.ichidato.jp/[url]

科目ナンバー (AG)STA111J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 統計学入門	2 単位	藤栄剛
2017～2021年度入学者 統計学入門		

1. 授業の概要・到達目標

「ビッグ・データ」や「データ・サイエンス」といった言葉を耳にしたことがある人は多いのではないのでしょうか。現代社会では、これまで以上にデータの情報量が増加し、コンピュータの普及と技術進歩によって、情報処理能力は飛躍的に向上している。多量の情報から、社会現象を説明する規則性や法則性を見だし、それらをベースに企業の販売戦略や政策の立案などの意思決定に活かすためには、統計学の基礎知識は不可欠である。本講義では、統計学の基礎的知識・手法を概説する。本講義の目標は、今後の専門科目の履修、フィールドワーク実習でのデータの取りまとめや卒業論文作成などに、統計学の基本的な考え方を活用できるようになることである。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクションー統計学とはー
- 第2回：度数分布
- 第3回：さまざまな平均
- 第4回：データの散らばり
- 第5回：ローレンツ曲線とジニ係数
- 第6回：相関係数
- 第7回：回帰分析
- 第8回：確率変数と確率分布(1)
- 第9回：確率変数と確率分布(2)
- 第10回：推測統計ー母平均の区間推定ー
- 第11回：仮説検定(1)ーその考え方ー
- 第12回：仮説検定(2)ー母平均の検定ー
- 第13回：仮説検定(3)ー母平均の差の検定ー
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

履修にあたって、高度な数学的知識は不要であるが、講義内容を理解するための意欲と努力は不可欠である。講義では、数理的な表現を可能な限り避け、文系学生にとって理解しやすい内容となるよう、努める。なお、高校数学ⅡB程度の知識があれば、授業内容の理解に資する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

統計学の習得には、演習が重要です。繰り返し演習を行うことで、理解が進みます。配付資料を振り返り、適宜復習すること。特に、数学に苦手意識を持つ者は、復習が必須である。

5. 教科書

使用しない。変更がある場合には、初回講義時に指示する。

6. 参考書

- 白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学 第2版』日本評論社、2015.
- 宮川公男『基本統計学 第5版』有斐閣、2022.
- 久保克行『経営学のための統計学・データ分析』東洋経済新報社、2021.
- その他参考書については、講義時に指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験と講義後の課題で評価する。課題は初回と最終回の講義を除き、原則毎回出します。なお、変更がある場合には、初回講義時に指示する。

9. その他

資源経済論研究室（3号館4階 3-415A）

科目ナンバー (AG)MAN191J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
経営学入門

2017～2021年度入学者
経営学入門

2 単位

竹本田持

1. 授業の概要・到達目標

初めて学ぶ経営学という観点から、経営学の基礎的な内容について講義します。経営学とは、実際に企業経営をするため、起業するためだけに必要なものではありません。雇用される立場として、経営の仕組みを理解しておくことはもちろん大切ですし、私たちが所属する組織や社会全体においても、また生活においても、経営学の見方や考え方が役立つことがあります。

企業経営を土台に、事例を織り交ぜながら、幅広く客観的に経営、マネジメントについて理解を深めていきます。そして、農業マネジメント論その他の科目に有益な基礎的知識を修得することを目指します。

2. 授業内容

- 第1回 経営学とは何だろうか
- 第2回 経営学と経済学、経営学の略史
- 第3回 科学的管理法とフォーティズム
- 第4回 働く人の気持ちを考えるー人間関係論などー
- 第5回 法人化と会社
- 第6回 経営組織と管理
- 第7回 経営戦略
- 第8回 経営理念と組織文化
- 第9回 マーケティング
- 第10回 事業構造と多角化
- 第11回 リーダーシップ
- 第12回 雇用制度
- 第13回 日本の経営の特質
- 第14回 講義内容の総括とポイント整理

3. 履修上の注意

経済学や社会学とともに学ぶようにして、広い視野を養うようにして下さい。毎回、講義のリアクションペーパー（ビデオ等の感想文を含む）の提出を求め、成績評価に反映します。

2年次に農業マネジメント論を履修しようと考えている人、3年次から農業マネジメント論ゼミを履修しようと考えている人は、この講義を1年次に履修して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

経営は生きものと言われることもあり、常に動いています。ニュースや新聞記事から「いま」の動きを捉えて下さい。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

- 『ゼミナール経営学入門・第3版』伊丹・加護野著（日本経済新聞社）
 - 『1からの経営学』加護野・吉村編著（中央経済社）
 - 『テキスト経営学[第3版]』井原久光著（ミネルヴァ書房）
- 他にも授業において紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に提出されたリアクションペーパーの記述からピックアップして、次回講義の最初に説明や補足を行います。

8. 成績評価の方法

講義中に提出されたレポート（40%）、講義への貢献度（10%）、学期末試験（50%）で評価します。

9. その他

オフィスアワー：水曜日（不定期）13時～13時30分
農業マネジメント論研究室（3号館4階 3-417A）
takemoto@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)ACC111J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
会計学入門

2017～2021年度入学者
会計学入門

2 単位

本所靖博

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

- ・テーマ：ビジネス社会の3大必須言語の1つ（＝経済がわかる会計）のいろはを学ぶ
- (1) 会計は経済主体が行う経済活動を見える化（情報化）するビジネス言語の1つです。
- (2) この言語（会計言語）は簿記という方法で作成され、財務諸表という形で表現されます。

<到達目標>

簿記のしくみと財務諸表の読み方をマスターし、経済がわかるようにすることを到達目標とします。

2. 授業内容

- 第1回 (4/10)：会計へのいざない（授業の進め方と学習の動機づけ）
 - 第2回 (4/17)：簿記の基礎 (1)：簿記の全体像
 - 第3回 (4/24)：簿記の基礎 (2)：B/SとP/L
 - 第4回 (5/8)：簿記の基礎 (3) 複式簿記のしくみ
 - 第5回 (5/15)：簿記の基礎 (4) 仕訳と転記
 - 第6回 (5/22)：簿記の基礎 (5) 決算手続き
 - 第7回 (5/29)：簿記の基礎 (6) 商品売買の記帳方法と簿記のまとめ
 - 第8回 (6/5)：農業簿記
 - 第9回 (6/12)：中間テスト（試験範囲：第2回～第7回）
 - 第10回 (6/19)：財務諸表の読み方 (1)
 - 第11回 (6/26)：財務諸表の読み方 (2)－収益性分析の基礎－
 - 第12回 (7/3)：財務諸表の読み方 (3)－収益性分析の応用－
 - 第13回 (7/10)：財務諸表の読み方 (4)－安全性分析－
 - 第14回 (7/17)：財務諸表の読み方 (5)－まとめ－
- ※第1回の授業で詳細な授業計画表を配付します。

3. 履修上の注意

初回の授業に出て、学習の動機付けに基づいて履修することと、よい授業にするための環境づくりに協力してくれれば、特にありません。（対面授業の場合は座席登録制とメリハリある授業環境への協力）

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回のレジュメにある例題、練習問題を復習することが望ましい。
簿記や経営分析に関する初学者向けの本を読んでおくことで理解が深まるに役立ちます。

5. 教科書

教科書は使用せず、レジュメを配付します。

6. 参考書

- 桑原知之著『サクッとわかる日商3級(第3版)』（ネットスクール出版）
- 大原簿記学校・日本ビジネス技能検定協会編『農業簿記検定教科書3級(第2版)』（大原出版）
- 大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級[第4版]』（中央経済社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

コメントカードについて次の授業で抜粋してフィードバックコメントを行う。
中間テストは答案を返却し、解答解説を行う。

8. 成績評価の方法

- 平常点 40%、中間試験 20%、期末試験 40%で評価する。
- ポイント制：合計ポイント（200p）＝平常点（80p）＋試験（120p）
- ※オンライン授業の場合は成績評価の内訳を変更する場合があります。
- ▼平常点：
 - ・コメントカードのやりとり（1回の授業につき0-5p）
 - ・平常点 64p以上をS・Aの必要最低条件とし、40p未満はFとします。
- ▼テスト：中間試験 40p満点、期末試験：80p満点
ただし、期末試験が40点未満のものは基準ポイントに達していてもFとします。
- ▼加点ボーナス：
農業簿記検定受験または合格者には平常点に加点します。
- ▼最終成績：
S（180p以上）、A（160p以上）、B（140p以上）、C（120p以上）、F（120p未満）、T（未受）

9. その他

研究室：3号館4階の3-412A, E-mail: honjo@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)ECN181J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
社会経済史入門

2017～2021年度入学者
社会経済史入門

2 単位

中村 壘

1. 授業の概要・到達目標

授業の概要

今から500年以上前の大航海時代から現代に至るまでのグローバル・ヒストリー、中でもヨーロッパとアジアの関係に注目する。ヒト・モノ・カネ・情報は地球の上でどのような動きをしてきたのか、また日本は世界とどのような関係を持ってきたのかについて講義する。

授業の到達目標

貧困や飢餓、環境の悪化といった国や地域を超えたグローバルな問題が形成されてきた歴史的過程について理解できるようになる。

2. 授業内容

- 第1回：aのみ：イントロダクション（グローバル・ヒストリーとは）
- 第2回：アジア域内交易と大航海時代
- 第3回：近世東アジアの国際環境①（中国）
- 第4回：近世東アジアの国際環境②（日本）
- 第5回：インドの植民地化とイギリス
- 第6回：イギリス産業革命
- 第7回：「バクス・ブリタニカ」の時代
- 第8回：アジアの近代化①（中国・タイ）
- 第9回：アジアの近代化②（日本）
- 第10回：アジア経済のモノカルチャー化と再編
- 第11回：両大戦間期の世界経済
- 第12回：両大戦間期の日本経済
- 第13回：戦後世界経済の再建と動揺
- 第14回：授業のまとめ

3. 履修上の注意

日本史や世界史について特別な準備は必要ない。可能であれば大学入学前に使用した歴史の教科書や参考書等を読み直してほしい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、参考書の該当箇所を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと。
復習として、講義レジュメをよく見直し、授業中に教員が話したことを振り返ること。

5. 教科書

指定しない。講義レジュメを配布する。

6. 参考書

『グローバル経済史入門』杉山伸也（岩波書店）2014年

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で、小レポートについてコメントをする。

8. 成績評価の方法

試験（70%）と毎回の講義の最後に実施する小レポート（30%）で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)SOC151J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
社会調査法入門

2017～2021年度入学者
社会調査法入門

2 単位

片野洋平

1. 授業の概要・到達目標

本講義では、社会調査の基礎知識や方法を習得し、社会調査を実践できる力と社会調査の結果を読みとく力を身につけることを目標とする。

様々な情報や複雑に絡み合う社会を、どのように観察し、どのように分析し、あるいはどのように理解していけばいいのだろうか。もっとシンプルに表現すれば、「事実に基づいて自らの考えを形作ることは」どうしたら可能であろうか。

本講義では、これまで人類が作り上げてきた科学的思考の基礎的な部分のうち、人々や社会を対象とする社会科学の思考様式の基礎的な部分を学習することを狙う。

さらに、本講義で得た知見は、「正しく未来を予測する」(データをもとに原因の推論を行う)「他者の行動の合理性を理解する」といった学生諸君が社会人になったあと役に立つことを想定している。

授業は、1年生にもわかりやすく興味をもっていただけるように工夫して行う。

2. 授業内容

第1回 内的動機の重要性 授業を受けるうえで得する TIPS

第2回 事実と意見 根拠と主張 論拠

第3回 素朴な観察と見せ方1 量的調査の基礎

第4回 素朴な観察と見せ方2 質的調査の基礎

第5回 概念化 比較

第6回 仮説と問い

第7回 相関関係

第8回 因果関係

第9回 アンケート調査の実際 質的調査の実際

第10回 クロス集計 質的調査結果の見方

第11回 質的調査の意義と目的

第12回 質的調査の分析の実際

第13回 読み書きのツボを押さえる

第14回 調査でやってはいけないNG集 これまでの授業のまとめ

※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

本講義が目指すのは、調査研究の目的に応じて、具体的な調査方法を自ら選択し実行できる力を身につけることである。講義で学んだことを実践することがとても大事になるので、授業で学習したことを授業時間以外でも工夫して実践することが望ましい。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

予習・復習については適宜授業で提示する。

「社会で起きている問題とは何か?」「どうしたら解決できるのか?」といった意識を持って授業に臨むこと。

5. 教科書

6. 参考書

・『創造の方法学』高根正昭 講談社現代新書

・佐藤郁哉著『社会調査の考え方(上・下)』東京大学出版会

・西内啓著『一億人のための統計解析』日経BP社

上記に加え、必要な場合は授業内で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

小レポートなど課題: 20%, テスト: 80%

オンライン授業となった場合別途指示する予定である。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGR191J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 農学入門	2 単位	農場教員
2017～2021年度入学者 農学入門		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農業・食料・環境の社会科学および自然科学を学ぶ学生で、農業技術に関する基礎知識がほとんどない学生が、日本農業の現状を学び、問題点を理解する場とする。受講により農業に対する基礎知識が修得でき、大学における農業技術や農業経営の理解力が向上し、農学教育や研究に寄与することを目的とする。

《授業の概要》

農業の概要を理解するために、稲作・畑作・園芸・畜産等の様々な形態の農業の基礎知識と肥料や農薬の役割を紹介するとともに、植物工場やバイオテクノロジー利用の先端的農業、食の安全をめざした環境保全型農業など多様な農業活動を紹介する。さらに地球環境や食料問題などの課題についても紹介し、これからの農業のあり方を考える。

2. 授業内容

- 第1回 ガイダンス 玉置
- 第2回 伝播からみる作物、家畜の歴史 小沢
- 第3回 作物をとりまく地・気象環境 小沢
- 第4回 植物の栄養と土壌の基礎知識 蛭木
- 第5回 土壌と農業 蛭木
- 第6回 作型と露地栽培 川岸
- 第7回 施設栽培 川岸
- 第8回 農業の様式 (1) 慣行農業 伊藤
- 第9回 農業の様式 (2) 先端的農業 伊藤
- 第10回 農業の様式 (3) 持続可能型農業 伊藤
- 第11回 農業の発展と諸問題 (1) 農地の現状と環境問題 甲斐
- 第12回 農業の発展と諸問題 (2) 里山管理 甲斐
- 第13回 農業の6次産業化 徳田
- 第14回 まとめ 玉置

3. 履修上の注意

農業、食料、環境等の問題に興味を持って臨むこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で取り上げた内容について、関連する書籍、雑誌等を読み、学習するとともに理解を深めること。

5. 教科書

特に定めない。必要に応じて資料を配布する。

6. 参考書

講義の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

レポート（100％）で評価する。

9. その他

担当教員の研究室所在地は黒川農場である。

科目ナンバー (AG)ENV191J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
環境学入門

2017~2021 年度入学者
環境学入門

2 単位

コーディネーター：廣政・岡

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

環境学の分野を農学および社会科学の視点から理解することが目的である。農業（自然）に関連した身近な環境について学び、環境と人間生活の関わりを考えながら、環境問題にどのように対処するかを考察し、2 学年以降に学ぶ科目の基礎とする。

《授業の概要》

農学、資源経済学、植物生態学、環境 NPO 活動、再資源化それぞれについての専門家の方々を講師としてお招きし、分かりやすく環境学について論じていただく。

2. 授業内容

- 第 1 回：農業環境問題序説（竹迫紘）
- 第 2 回：農業による環境負荷（竹迫紘）
- 第 3 回：農業の多面的機能（横田敏恭）
- 第 4 回：環境保全型農業の進め方（横田敏恭）
- 第 5 回：資源問題と環境問題（小林弘明）
- 第 6 回：食料と環境問題（小林弘明）
- 第 7 回：森林資源と環境問題（小林弘明）
- 第 8 回：エネルギー資源と環境問題（小林弘明）
- 第 9 回：里山の環境の成り立ち（岡田久子）
- 第 10 回：都市近郊の環境の成り立ち（岡田久子）
- 第 11 回：NPO が取り組む森林保全活動（鹿住貴之）
- 第 12 回：日本の環境保全 NPO 活動（鹿住貴之）
- 第 13 回：循環型社会での食料・農業問題（丹戸靖）
- 第 14 回：食品廃棄物のリサイクル化（丹戸靖）

3. 履修上の注意

専門家による講義だが、文系学生にも分かりやすいように依頼してある。

内容は、深く広いので、心得て受けること。

他学科学生の履修には要件があるので注意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

前回の内容を 1 行で整理してくる。

5. 教科書

なし

6. 参考書

教員によって指定することがある。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

各教員の講義において行うミニ試験かミニレポートによる評価点の算術平均によって総合評価とする。

9. その他

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)AGR191E

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
英語農学入門

2017~2021年度入学者
英語農学入門

2 単位

マクタガート

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

The objective of the 英語農学入門 is to learn about food, agriculture, and the environment. You will read short English reports, learn new vocabulary, and discuss the meaning with other students in the class. Then you will do individual and group practice exercises to help you understand the meaning of the reports. The classes will be conducted mainly in English.

このコースの目標は、食糧、農業と環境について学びます。授業では、英語の論文や記事を読み、専門の勉強に必要な英語の単語を学び、語彙力を高めるために他の受講生と専門用語の意味や使い方などを話し合います。論文や記事の内容の理解を高めるために、個人やグループ学習も取り入れます。授業は主に英語で行います。

《授業の概要》

In the course, you will learn about topics like sustainable food and agriculture, food nutrition, climate change, food waste, and urban agriculture.

このコースでは持続可能食料と農業、食品栄養、気候変動、食品廃棄と都市農業などを中心に学びます。

2. 授業内容

- 第1回： ガイダンス・Introduce yourself to other students in English
- 第2回： a Sustainable food and agriculture. Introduction + problems caused by agriculture
- 第2回： b Examples of sustainable food and agriculture management
- 第3回： a Group Work - discuss examples of sustainable food and agriculture
- 第3回： b Practice Exercise 1
- 第4回： a Food Nutrition - Main food nutrients + health benefits
- 第4回： b Examples of food nutrition problems
- 第5回： a Group Work - discuss examples of food nutrition problems and solutions
- 第5回： b Practice Exercise 2
- 第6回： a Climate Change - Causes of Climate Change
- 第6回： b Effects of Climate Change
- 第7回： a Group Work - discuss examples of how agriculture can reduce climate change problems
- 第7回： b Practice Exercise 3
- 第8回： Students start work on Semester Report
- 第9回： a Food Waste - Causes of Food Loss and Food Waste
- 第9回： b Examples of ways to reduce food loss and waste
- 第10回： a Group Work - discuss student ideas to reduce food loss and food waste
- 第10回： b Practice Exercise 4
- 第11回： a Urban agriculture. What is it? Why is it becoming more important in the world?
- 第11回： b Examples of urban agriculture in different countries
- 第12回： a Group Work - discuss benefits of urban agriculture in developed and advanced countries
- 第12回： b Practice Exercise 5
- 第13回： Introduction to UK agriculture and food
- 第14回： Revision (まとめ)

3. 履修上の注意

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

The reading materials will be in English.
資料は全て英語です。

Every week, read suggested reading material before coming to the class, and then complete practical exercises related to class handouts before coming to the next class.

5. 教科書

There is no course textbook. Reading materials will be given out in each class.
教科書は特に定めません。資料を配布します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

Semester Report = 45% 、Final Exam = 45% 、Class participation = 10%
(レポート 45% 、定期試験 45% 、平常点 10%)

9. その他

Iain McTAGGART (マクタガート・イアン)

英語農学研究室、第一校舎、5号館 (農学部) 205号室

Email: imctagg@meiji.ac.jp Office Hour: Thursday 12:30-13:30

科目ナンバー (AG)AGE192J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 基礎ゼミ	2 単位	食料環境政策学科教員
2017～2021年度入学者 基礎ゼミ		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本学科において、今後、学ぶ上での基礎の基礎、いわば、現代版大学生活での学問リテラシーについて学ぶ。

《授業の概要》

学科教員全員が担当するゼミナール形式の少人数授業である。食料、農業、資源、環境の各問題についての基礎的な見方、文献図書の探し方、検索の仕方、情報源である新聞の見方、課題図書を通じた文献の読み方、レポートの作り方、課題の発表の仕方、討論の仕方について、教員の指導により身につける。

2. 授業内容

- 第1回：当学科で学びへの誘い（いざない）
- 第2回：フィールドワーク入門
- 第3回：新聞の読み方とディスカッションの基本
- 第4回：新聞の読み方とディスカッションの実践
- 第5回：図書館利用法（新聞記事検索実習）
- 第6回：リサーチリテラシー：聞く力
- 第7回：リサーチリテラシー：読む力と書く力
- 第8回：文献の読み方とディベートの実践（1）
- 第9回：文献の読み方とディベートの実践（2）
- 第10回：図書館利用法（レジュメ・レポート作成・文献検索演習）
- 第11回：文献の読み方とディベートの実践（3）
- 第12回：文献の読み方とディベートの実践（4）
- 第13回：文献の読み方とディベートの実践（5）
- 第14回：まとめ学習：レポートの作成・提出

※順番、内容は担当教員によって変更する場合がある。

3. 履修上の注意

ゼミナール形式なので、授業へ積極的参加が重要である。

学科として、1年生全員が履修することを推奨する。

ガイダンス期間中にグループ分けと担当教員の割当を発表する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各担当教員によって指示された新聞記事および教科書の輪読箇所について事前に読んでおくこと。また、必要に応じてレジュメを作成すること。

この授業で学んだことを参考にして、他の授業科目等で出された課題やレポート作成に取り組むこと。授業で議論したこと（ディスカッションしたこと・ディベートしたこと）をノートにまとめてみたり、他のメンバーと議論を実践してみること。

5. 教科書

- ①山田剛史・林創著『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』（ミネルヴァ書房）
- ②廣政幸生編著『持続可能性と環境・食・農』（日本経済評論社）

6. 参考書

- 山形大学基盤教育院編『なせば成る！—スタートアップセミナー学習マニュアル（改訂版）』（山形大学出版会）
- 世界思想社編集部編『大学生学びのハンドブック（3訂版）』（世界思想社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点・授業への参加意欲度（50%）とレジュメ・レポートの内容（50%）によって成績評価を行う。

9. その他

グループ割当後の問い合わせは各担当教員まで。

その他の問い合わせは先は、以下の教員まで。

カリキュラム委員（藤栄剛）：fujiet@meiji.ac.jp

カリキュラム委員（橋口卓也）：hashiguchi.takuya@nifty.com

科目ナンバー (AG)AGE192J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 プロジェクトゼミ	2 単位	食料環境政策学科教員
2017～2021年度入学者 プロジェクトゼミ		

1. 授業の概要・到達目標

プロジェクトゼミでは、リサーチ・リテラシーの定着を図ります。本授業の目標は、3年生以降のリサーチ・ゼミで必要とされる、論理的思考力やリサーチ・リテラシー（聞く力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）の基礎力を高めることにあります。このため、本授業では、ゼミの基本となる文献輪読、リサーチ・リテラシーの基礎学習を行うことで、リサーチ・リテラシーや論理的思考力を涵養します。さらに、各ゼミで設定されるプロジェクトによる基礎的なアクティブ・ラーニングを通じて、リサーチ・リテラシーの定着を図るとともに、論理構築力を養います。

2. 授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 文献輪読（1）
- 第3回 文献輪読（2）
- 第4回 文献輪読（3）
- 第5回 文献輪読（4）
- 第6回 文献輪読（5）
- 第7回 文献輪読（6）
- 第8回 リサーチ・リテラシーを磨く（1）
- 第9回 リサーチ・リテラシーを磨く（2）
- 第10回 リサーチ・リテラシーを磨く（3）
- 第11回 プロジェクトとプレゼンテーション（1）
- 第12回 プロジェクトとプレゼンテーション（2）
- 第13回 プロジェクトとプレゼンテーション（3）
- 第14回 プロジェクトとプレゼンテーション（4）

※授業内容は各教員により異なる。

3. 履修上の注意

7月中旬頃に履修ガイダンスを実施するので、履修希望者は参加必須である。
そのガイダンスで配布する志望届をもとに、2年生春学期までの通算 GPA と希望順位を併用して割当を決定し、秋学期授業開始日一週間前頃に割当結果を発表する。
時間割では木曜日と金曜日に設定されているが、履修できるのは1つだけである。どの担当教員を希望するかは自由である。
少人数のゼミナール形式で行うので、食料・農業・農村・環境・資源問題に興味や関心を持ち、積極的に参加することが必須である。
なお、3年次からのリサーチ・ゼミは11月末頃～12月初め頃にかけて行う説明会および選考によって決定する。すなわち、この「プロジェクトゼミ」が3年次からのゼミナールに自動継続するものではない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

担当教員から指定された教科書の輪読箇所は、レジュメ作成当番にかかわらず、事前に読んでおき、議論したいことや自分の考えについてまとめておくこと。
発表当番の際はレジュメやプレゼンファイルを作成すること。
議論したことは論点を整理してまとめノートを作成しておくこと。

5. 教科書

山田剛史・林創『大学生のためのリサーチ・リテラシー入門：研究のための8つの力』ミネルヴァ書房、2011。ならびに各ゼミ教員が指定する輪読教材。各ゼミ教員が指定する輪読教材は、7月に実施予定の「プロジェクトゼミ履修ガイダンス」で配布する募集要項に記載する。
割当決定後、秋学期授業開始時に丸善明大マート店で購入できるよう受講者人数分の教材を手配する。

6. 参考書

特になし

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

平常点（受講態度・授業での発表発言・レポート提出等）によって成績評価を行う。平常点については担当者によって異なるので、初回の授業で説明する。

9. その他

割当後の問い合わせは各担当教員まで。
その他の問い合わせは先は、以下の教員まで。
カリキュラム委員（藤栄剛）：fujiet@meiji.ac.jp
カリキュラム委員（橋口卓也）：hashiguchi.takuya@nifty.com

科目ナンバー (AG)AGE195J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
ファームステイ実習

2017~2021 年度入学者
ファームステイ実習

2 単位

食料環境政策学科教員

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

この実習は、農村において農家に宿泊して農作業に従事し、農家生活の実態に触れ、総合的に現実の農業や農村生活を体得することを目的としている。

《授業の概要》

農家の人々と起居寝食をともにすることによって、経営・家計・生活を総合的に把握し、さらに農村生活の実情に触れ、農業や農村の問題を考え、それによって経験を豊かにし、食料環境政策学の学びに役立ててほしい。

2. 授業内容

受け入れ実習地側の事情を最優先させるので、具体的な実習地および実施期間は確定していない。参考までに、2023 年度は以下の通り実施した（いずれか一か所に参加することになる）。

- (1) 5/26~6/1: 山口県柳井市（水稻・野菜・繁殖牛・農産加工）（担当：廣政）
 - (2) 6/20~6/26: 愛知県田原市（施設園芸・露地野菜・養豚）（担当：片野）
 - (3) 7/3~7/9: 山梨県笛吹市（桃・ブドウ）（担当：市田）
 - (4) 8/2~8/8: 福島県喜多方市・北塩原村（果菜類：きゅうり・チェリートマト）（担当：本所）
 - (5) 9/5~9/11: 群馬県嬬恋村（キャベツ）（担当：作山）
 - (6) 9/6~9/12: 長野県飯綱町（りんご）（担当：岡）
 - (7) 9/6~9/12: 岐阜県中津川市（水稻・野菜収穫・調整）（担当：古田・竹本）
 - (8) 9/28~10/4: 栃木県大田原市・那須塩原市・那須町（水稻・酪農・園芸作物）（担当：暁剛）
 - (9) 9/29~10/5: 福島県金山町（米・エゴマ）（担当：大江）
 - (10) 9/30~10/6: 長野県佐久地域（りんご）（担当：小田切）
 - (11) 10/5~10/11: 新潟県小千谷市（水稻・野菜）（担当：橋口・藤菜）
 - (12) 11 月中旬: 静岡県東伊豆市（花き・イチゴ）（担当：中嶋）
 - (13) 11 月中旬: 千葉県銚子市（キャベツ等）（担当：大江・暁剛）
- （第 1 回）事前説明会および事前学習
（第 2 回~第 14 回）現地での実習（6 泊 7 日）及びレポート作成

3. 履修上の注意

この実習は、農繁期に農家に 1 週間泊り込んで行うものである。そのため、積極性と協調性のある学生であることは必須の条件である。

実習前および実習中の病気や事故等について十分注意しなければならない。

年度当初に行う履修説明会において、説明ならびに実習地決定を行う。説明会への遅刻・欠席者の履修は認めないので説明会開催日程の掲示を見落とすことのないよう注意すること。

事前に社会調査法入門・農場実習を受講していることがのぞましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

担当教員の指示に基づいて、農業センサス等の統計資料を参考にして事前学習をし、各自の問題意識を・参加意識を高めておくこと。

社会調査法に基づく聞き取り調査の準備をしておくこと。

授業で学ぶことと現場で学ぶことを結びつけて実習後の学習にも役立てること。

5. 教科書

教科書は使用しない

6. 参考書

特になし

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

事前説明会及び実習期間中の平常点・実習態度（70%）、事後の作業日誌及びレポート（30%）により成績評価を行う。

9. その他

実習先割当後の問い合わせは各担当教員まで。

その他問い合わせ先は次の研究室まで。

→ 共生社会論研究室（3 号館 4 階 421A 号室）：岡通太郎

→ 資源経済論研究室（3 号館 4 階 415A 号室）：藤栄剛

科目ナンバー (AG) AGE195J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
海外農業体験

2017～2021 年度入学者
海外農業体験

2 単位

池上・暁

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本授業は、海外においてその国の農業がいかに行われているのかを、現地の人々や風土に触れて、体得することを目的としている。本授業は、事前学習、1週間の海外現地研修および現地研修後のレポート作成から構成されている。

《到達目標》

この授業を通して、海外の農業・農村の実態や課題に関する理解が深まることが期待される。

2. 授業内容

2024年度は、モンゴル国ウランバートル市、およびその周辺において、現地研修を実施する予定である（実施場所については変更もあり得る）。研修時期、研修内容、実施場所等の詳細は、4月に実施するガイダンスにおいて説明するので、掲示等に注意すること。

3. 履修上の注意

本授業は、2年次の学生を対象としている。海外で研修を行う関係上、希望者多数の場合、選抜を行う可能性がある。海外現地研修への参加費は自己負担である。参加費や研修内容の詳細等については、4月のガイダンスにおいて説明する。説明会開催日程の掲示等を見落とすことのないよう、注意すること。

本授業は、実際に海外に出かけて行うものであり、現地関係機関や現地の人々の全面的な協力を受けている。そのため、現地関係者に失礼のないよう、また明治大学の学生として恥ずかしくないよう、行動には十分気をつけなければならない。さらに、長期間にわたる集団生活になるので、協調性も必要である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

4月のガイダンスにおいて説明する。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

特に指定しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

担当教員より Oh-o!Meiji 等を利用して説明する。

8. 成績評価の方法

4月のガイダンスにおいて説明する。

9. その他

コーディネーター：暁剛

研究室：3号館423A室

連絡先：xiaogang@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE241J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 食料貿易論	2 単位	作山巧
2017～2021年度入学者 食料貿易論		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

食料は、工業品と異なって国内消費の余剰分が輸出される傾向が強いことから、食料貿易の実態を把握するためには、食料需給に関する理解が必要となる。このため本講義では、食料の需給と貿易の現状に関して、(1) 貿易の決定要因、(2) 世界と日本の現状、(3) 個別品目や主要国の主要国の現状、という3つの観点から解説する。また、農林水産省の研究機関や在京外国大使館の外交官をゲスト講師として招く予定である。

《授業の到達目標》

世界の食料需給の動向と穀物を中心とする食料貿易の現状について学習することによって、それが日本の食料消費や食料需給に与える影響を理解する。

2. 授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション
- 第2回：貿易利益と貿易構造の決定要因
- 第3回：産業内貿易と輸出の決定要因
- 第4回：世界の食料需給の動向
- 第5回：世界の食料貿易の動向
- 第6回：日本の食料輸入の動向
- 第7回：食料需給の将来予測（ゲスト講師の講義）
- 第8回：日本の食料輸出の動向
- 第9回：日本の食料輸出の促進政策
- 第10回：とうもろこし貿易と米国
- 第11回：コメ貿易とアジア
- 第12回：スイスの貿易と農業（ゲスト講師の講義）
- 第13回：大豆貿易とブラジル
- 第14回：小麦貿易とロシア・ウクライナ

3. 履修上の注意

受講に当たって特段の予備知識は前提としないが、秋学期の「食と農の貿易ルール」を併せて受講することが望ましい。なお、食料貿易論研究室への入室を希望する学生は、2年次での本科目の受講が必須である。

毎回の小テストに必要なスマートフォンやパソコン等の電子機器を持参する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義資料はクラスウェブに掲載されており、事前に読んだ上で受講すること。また、毎回の講義時に関連する新聞記事を輪読し、講義時の小テストと講義後の感想の提出を求める。

5. 教科書

教科書は使用せず、教員が作成したパワーポイントの資料を用いて講義する。

6. 参考書

1. 『世界の農業と食料問題のすべてがわかる本』 八木宏典監修（ナツメ社）2013年（全般）
2. 『絵でみる食糧ビジネスのしくみ』 榎本裕洋・阿部直樹（日本能率協会マネジメントセンター）2008年（全般）
3. 『日本の食料戦略と商社』 美甘哲秀編著（東洋経済新報社）2009年（全般）
4. 『国際経済学をつかむ』（第2版）石川城太・菊地徹・棕寛（有斐閣）2013年（第2・3回）
5. 『日本人の「食欲」は世界をどう変えた？』 鈴木裕明（メディアファクトリー）2011年（第7回）
6. 『いちご、空を飛ぶー輸出でよみがえるニッポンの農』 古谷千絵（ぎょうせい）2009年（第8回）

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答例や代表的な質問に対する回答は、次回授業の冒頭で解説する。

8. 成績評価の方法

毎回の小テストへの解答（67%）と感想の提出（33%）により評価する（定期試験は実施せず、レポート等による事後的な救済も行わない）。

9. その他

教員の連絡先は sakuyama@meiji.ac.jp である。なお、欠席に関する連絡は、第1回講義資料と「シラバスの補足」をよく読んだ上で行うこと。

科目ナンバー (AG) AGE241J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
フードシステム論

2017~2021 年度入学者
フードシステム論

2 単位

大江徹男

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

「フードシステム」とは、農産物・食品の生産から流通、消費までの全過程における商取引全体を指す。「産地の巨大化」と「小売主導の流通再編」によってフードシステムは大きく変化しており、本講義ではこれらの過程の包括的理解を目的とする。

《授業の概要》

最初に流通の基本的な概念、近年の状況について包括的に説明した後に、卸売、小売といった個別テーマについてビデオ等を利用して説明する。

2. 授業内容

- [第1回] aのみ：イントロダクション（フードシステムで何を学ぶか）
- [第2回] 流通はなぜ必要か—流通の理論的根拠
- [第3回] 農産物価格の特徴
- [第4回] 生鮮農産物流通と卸売市場の機能
- [第5回] 青果物と農協のマーケティング
- [第6回] 大規模経営体と契約生産
- [第7回] コメの流通と価格形成
- [第8回] 食肉の流通とブランド化
- [第9回] 小売業の現状と課題—何が問題なのか
- [第10回] 小売企業の事業戦略—スーパー
- [第11回] 小売企業の事業戦略—コンビニエンスストア
- [第12回] 小売をめぐる論点①（限界地の小売機能）
- [第13回] 小売をめぐる論点②（食品廃棄）
- [第14回] 小売をめぐる論点③（独占禁止法違反）（産地マーケティング）

3. 履修上の注意

主体的かつ積極的な授業参加が望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義の内容については、身近な小売店等においてどのように実践されているか確認して下さい。

5. 教科書

特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験と毎回講義終了後に提出してもらったコメントで評価する。
定期試験が80%、コメントが20%。

9. その他

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)AGE241J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 食ビジネス論	2 単位	中嶋晋作
2017～2021年度入学者 食ビジネス論		

1. 授業の概要・到達目標

授業全体を通して考えるための基礎であるフードシステムの枠組みと機能を紹介する。その上で、わが国の食料消費が戦後どのように変化したかを確認し、近年の特徴を述べる。次に、それらの食を支える農業、食品製造業、流通業、小売業の実態を産業組織という観点から説明する。さらに近年、消費者の最大の関心事項である、食の安全、信頼問題を取り上げて、その問題点と対策について考察する。最後に現代の消費者の意識と行動を踏まえながら新しいフードシステムをどのように設計すべきかについて学び考える。

現代の食と農は大きな曲がり角に直面している。これからの行く末を見通すために、食と農、そしてそれらを支える社会的枠組みの現状と課題を学ぶ。食生活の変化、食をめぐる産業（食ビジネス）、社会的に必要とされる制度の実態と背景を社会科学的視点、特に経済学的視点に基づいて、理解して考察できる思考方法と専門知識を身に付けることを目標とする。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション
- 第1回 b: 食ビジネスとは何か
- 第2回: フードシステムとは何か
- 第3回: わが国の食料消費
- 第4回: 農業とフードシステムの連関構造<1>
- 第5回: 農業とフードシステムの連関構造<2>
- 第6回: 食ビジネスの産業組織とゲーム理論<1>
- 第7回: 食ビジネスの産業組織とゲーム理論<2>
- 第8回: 農産物流通とオークション<1>
- 第9回: 農産物流通とオークション<2>
- 第10回: 戦後の日本における小売業<1>
- 第11回: 戦後の日本における小売業<2>
- 第12回: 食の安全・安心<1>
- 第13回: 食の安全・安心<2>
- 第14回: 新しいフードシステム・まとめ

3. 履修上の注意

数式を使用することがあるが、数学について特別な準備は必要ない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

- 『フードシステムの経済分析』時子山ひろみ著（日本評論社）1999年
- 『フードシステムの経済学 第5版』時子山ひろみ・荏開津典生著（医歯薬出版）2013年
- 『安全で良質な食生活を手に入れる—フードシステム入門—』時子山ひろみ著（左右社）2012年
- 『開発輸入とフードビジネス』斎藤高宏著（農林統計協会）1997年
- 『ゲーム理論入門の入門』鎌田雄一郎著（岩波新書）2019年
- 『行動経済学の使い方』大竹文雄著（岩波新書）2019年
- 『流通戦略の新発想』伊藤元重著（PHP新書）2003年
- 『食の安全と安心の経済学』中嶋康博著（コープ出版）2004年
- 『日本農業の真実』生源寺眞一著（ちくま新書）2011年

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

レポート、平常点（ミニレポート、小テスト）および学期末試験によって評価する。具体的には、レポート20%、平常点30%、学期末試験50%とする。

9. その他

食ビジネス論研究室（3号館4階422A号室）
E-mail: anakajim@meiji.ac.jp
TEL: 044-934-7129

科目ナンバー (AG)AGE261J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 食料農業社会学	2 単位	片野洋平
2017～2021年度入学者 食料農業社会学		

1. 授業の概要・到達目標

私達の食・農を支える地域社会では大きな変化が生じている。我が国全体の傾向としての人口減少に加え、地域社会は人々の都市への移動、少子高齢化などにより、変化や改革が迫られている。本講義では、特に、地域社会の問題の内、空き家、耕作放棄地、放置山林など、地域社会に放置された資産の問題を考察する。なお、放置資産の問題は、所有者不明の土地問題といわれる現代的な課題と多くの部分で重複する。潜在的な受講者は、本講義は地域社会のことを考察しているように見えるであろうが、本講義は実は都市問題をも考察の対象としている。地域社会の資産を有している人々の多くは都市住民であり、都市住民の考え方や行動が地域社会の土地問題に大きく影響を及ぼすことになるからである。本講義では、食や農を支える地域の課題を私たち国民全体が抱える重要な社会的問題としてとらえ、各人が放置資産の問題を社会科学的に分析し、理解し、対策案を思考する能力を獲得することを目指す。

2. 授業内容

- 第1回：なぜ都会の人にとって地域社会の研究が必要なのか
 - 第2回：人口減少と地域社会の問題の把握（政治、経済、社会）
 - 第3回：なぜ放置資産が生まれたのか（1）
 - 第4回：なぜ放置資産が生まれたのか（2）
 - 第5回：なぜ放置されると問題なのか
 - 第6回：どんな対策が行われてきたのか
 - 第7回：海外の動向
 - 第8回：所有者は何を考えているのか
 - 第9回：空き家、耕作放棄地、放置山林それぞれの分析
 - 第10回：なぜ実践できないのか（1）
 - 第11回：なぜ実践できないのか（2）
 - 第12回：ではなにができるのか
 - 第13回：地域政策には何が必要なのか
 - 第14回：今後の課題とまとめ
- * 講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

地域社会の問題を理解することはしばしば、都市における30年後の未来を理解することにつながると言われていている。本講義で扱う地域の問題を、受講生が受講生自身の未来の問題としてとらえ、興味をもって受講してもらいたい。資料を適宜配布するがノートをきちんととることを期待する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業の復習を通じて、各人が授業内容を理解するとともに、各人が授業で扱った課題に対する自分なりの解答を見出す努力を行うことを期待する。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

特に指定しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

リアクションペーパー（20%）、期末試験（80%）で評価する。
オンライン授業となった場合別途指示する予定である。

9. その他

食料農業社会学研究室（3号館4階416A号室）

科目ナンバー (AG) AGE231J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 農業政策論	2 単位	橋口卓也
2017～2021 年度入学者 農業政策論		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

農業政策の目的と必要性について講義した後、戦後の日本経済の変化と農業政策の対応について、できるだけ多くの歴史的事象などを紹介しながら解説を加えていく。その際には、当時のイメージが湧くような画像・動画なども提示するようにしたい。

《到達目標》

本講義では、主として戦後の日本の農業政策の展開過程をたどりながら、日本経済の変化の中で、農業政策それ自体と、その位置づけがどのように変化してきたのかを理解することを到達目標とする。また、現在は戦後の日本の農業政策展開の中でも一大転換期に当たっていると言える。できるだけ現在の政策課題をめぐる論点についても触れ、その背景と目的について理解できることも到達目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：農業政策の目的と必要性
- 第3回：日本における農業・農村の経済的位置とその変化
- 第4回：戦前の日本農業の姿
- 第5回：大戦後の混乱期の農業政策の動揺
- 第6回：高度成長期までの農業政策の展開
- 第7回：第1次高度成長と基本法農政
- 第8回：第2次高度成長と総合農政
- 第9回：高度成長の破綻と地域農政の登場
- 第10回：経済構造調整と市場主義農政
- 第11回：世界貿易体制と国際化対応農政
- 第12回：国際化対応農政下での新たな政策手法の展開
- 第13回：農政転換と農業政策の展望
- 第14回：総括と質疑応答

3. 履修上の注意

他の科目では、「農業政策論特講」との関連が深い（ただし、2016年度までの入学生のみ履修可能）。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習については、前回講義の終わりに重要なキーワードを提示するので、それらについて事前に自分なりに調べてくること。ノートや配布プリントに基づいて、講義内容を十分に理解するように、復習すること。

5. 教科書

特に指定しない。必要に応じてプリント等を配布する。

6. 参考書

- 『農業・食料問題入門』田代洋一著（大月書店、2012年）
 - 『日本農政の50年』北出俊昭著（日本経済評論社、2001年）
 - 『現代農業政策論』増田萬孝著（農林統計協会、1998年）
 - 『食と農の戦後史』岸康彦著（日本経済新聞社、1996年）
- 他、適宜、講義の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験の内容と密接に関連する小テストやレポートを実施する可能性があるが、それら自体は最終的な成績には反映しない。成績評価は定期試験 100%とする。

9. その他

《担当教員連絡先》

研究室（第一校舎3号館4階、3-413A、Tel：044-934-7121）
e-mail：hashiguchi.takuya@nifty.com

科目ナンバー (AG)AGE221J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 農業マネジメント論	2 単位	竹本田持
2017~2021年度入学者 農業マネジメント論		

1. 授業の概要・到達目標

「マネジメント」には管理、管理手腕、処理能力などの意味があり、多くの場合「経営」という言葉が充てられます。本講義における「農業マネジメント」では、農業のマネジメントを中心として、農村（地域）のマネジメントも含まれます。

農業のマネジメントは、農村における個別経済主体としての農業経営の行動メカニズムを、社会経済条件と関連させつつ理解することを目指します。農村（地域）のマネジメントは、個別農業経営の多様性を前提として、地域としての成長・発展戦略を担う主体について事例を交えて考えます。

農業・農村をとりまく諸条件の現状を視野に入れつつ、マネジメントの基礎的知識を習得するため、ビデオや事例紹介資料などもトピックとして使いながら、できるだけ具体的に講義します。また、最近は実施できていませんが、可能であれば現場で活躍する人から直接お話しいただく機会をつくりたいと思います。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション（農業とは、マネジメントとは何か）
- 第2回 農業経営の特質
- 第3回 家族経営の特徴
- 第4回 経営費と生産費
- 第5回 規模と集約度
- 第6回 経営の単一化と複合化
- 第7回 経営多角化の論理
- 第8回 農業経営の法人化
- 第9回 企業の農業参入
- 第10回 地域のマネジメント
- 第11回 地域資源を活用したアグリビジネス
- 第12回 都市における農業振興
- 第13回 農業経営の支援組織と政策
- 第14回 講義内容の総括とポイント整理

3. 履修上の注意

農業経営や地域農業に関する問題に関心を持ち、積極的な姿勢で受講して下さい。毎回、講義のリアクションペーパー（ビデオ等の感想文を含む）の提出を求め、成績評価に反映します。

3年次に農業マネジメント論ゼミを履修しようと考えている人は、この講義を2年次に履修して下さい。

また、秋学期「農業経営の発展と地域農業」は本講義と深く関わりますので、あわせて履修するようにしてください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するレジュメ、統計等の資料を読み返して、用語や仕組みへの理解を深めて下さい。
新聞等で、農業経営や地域農業に関わる記事に目を通し、現状を把握するよう努めるようにして下さい。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

- 『食料・農業・農村政策の動向』（食料・農業・農村白書）
 - 『農業経営者の時代』金沢・稲本・八木編（農林統計協会）
 - 『ゼミナール経営学入門』伊丹・加護野著（日本経済新聞社）
 - 『未来を語る日本農業史』野田公夫著（昭和堂）
- 他にも授業において紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に提出されたリアクションペーパーの記述からピックアップして、次回講義の最初に説明や補足を行います。

8. 成績評価の方法

授業中に提出されたリアクションペーパー（30%）、授業への貢献度（10%）、中間ミニテスト（20%）、学期末試験（40%）によって評価します。中間ミニテストを行わなかった場合は、リアクションペーパー（40%）、授業への貢献度（10%）、学期末試験（50%）で評価します。

9. その他

オフィスアワー：水曜日（不定期）13時～13時30分
農業マネジメント論研究室（3号館4階 3-417A）
takemoto@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE231J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
国際農業経済論

2単位

暁剛

2017～2021年度入学者
国際農業経済論

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

経済のグローバル化が進むなかで、農業経済学の社会的役割が改めて問われている。農業の最も重要な役割は、食料供給（量的にも・質的にも）であるが、他方では水や土地の制約といった資源・環境問題を抱えている。本授業では、食料・農業・農村の実態に関する知識や理論について学ぶ。

《授業の目標》

本授業の目標は、日本をはじめとする世界の食料・農業・農村にかかわる主要な問題を、経済学的に理解することにある。本授業を受講することで、農業経済学の知識と理論を身につけることができる。

2. 授業内容

- 第1回：農業経済学とは
- 第2回：農業部門の相対的縮小
- 第3回：食料の需要と供給
- 第4回：農業生産と土地
- 第5回：家族農業
- 第6回：農産物の市場組織
- 第7回：農産物貿易と農業保護政策
- 第8回：世界の人口と食料
- 第9回：食生活の成熟とフード・システム
- 第10回：農業の近代化
- 第11回：資源・環境と農業
- 第12回：日本の農業と食料
- 第13回：農業政策と農業経済学
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

特にない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

第1回目の授業以降、授業内に紹介した参考書などについて予習すること。授業終了後、ノートに基づき復習すること。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『農業経済学 [第5版]』、荏開津典生・鈴木宣弘、岩波書店、2020年。
『農業経済学事典』、日本農業経済学会編、丸善出版、2019年。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックや解説は授業の最初に行う。

8. 成績評価の方法

ミニレポート40%、定期試験60%。

9. その他

研究室：3号館423A号室
E-mail: xiaogang@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGE251J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
国際開発論

2017～2021年度入学者
国際開発論

2単位

池上彰英

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

主にアジアの経験にもとづき、開発途上国の社会・経済がかかえる諸問題の提示、開発途上国の経済発展メカニズムの解明、ならびに各国政府の開発への取り組みの紹介、日本の果たすべき役割の検討などを行う。

《到達目標》

国際開発論の課題は、開発途上国が経済発展の過程において直面する様々な問題を社会科学的に分析することにある。本講義は、とくに政治経済学的手法を用いて、この課題に接近する。本講義を受講することで、開発途上国とくにアジア諸国の経済発展過程における諸問題とその解決策に関する、基本的な知識が身につくことが期待される。

2. 授業内容

- 第1回：国際開発論の課題
- 第2回：アジアの経済発展と社会発展
- 第3回：新興アジア経済論の視角と課題
- 第4回：世界経済とアジア
- 第5回：中国の台頭と域内貿易の深化
- 第6回：技術のパラダイム変化と後発企業の戦略
- 第7回：アジア工業化の担い手
- 第8回：要素投入型成長の限界
- 第9回：中進国の罫とイノベーション
- 第10回：人口転換、人口ボーナス
- 第11回：高齢化社会の到来と人口オーナス
- 第12回：格差の拡大とストレスの増大
- 第13回：経済と社会のリバランス、日本の役割
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

アジア諸国の第二次大戦後の歴史と経済地理に関する基本的な知識が備わっていることを前提に授業を進める。経済学の基礎は必要であるが、数式は用いない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業は教科書を用いるので、事前に教科書の該当箇所を読み、次回の授業内容に関する専門用語等については調べておくこと。復習として、教科書の該当箇所を読み返すとともに、授業で紹介した問題について文献等で調べること。

5. 教科書

『新興アジア経済論』 末廣昭（岩波書店） 2014年
[url]<https://www.iwanami.co.jp/book/b257255.html>[/url]

6. 参考書

『キャッチアップ型工業化論』 末廣昭（名古屋大学出版会） 2000年
[url]<https://www.unp.or.jp/ISBN/ISBN4-8158-0394-3.html>[/url]
『現代東アジア経済論』 三重野文晴・深川由紀子編（ミネルヴァ書房） 2017年
[url]<https://www.minervashobo.co.jp/book/b288094.html>[/url]
『現代アジア経済論』 遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編（有斐閣） 2018年
[url]<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641184428/>[/url]
『アジア経済とは何か』 後藤健太（中公新書） 2019年
[url]<https://www.chuko.co.jp/shinsho/2019/12/102571.html>[/url]
『アジア開発史』 アジア開発銀行著 澤田康幸監訳（勁草書房） 2021年
[url]<https://www.keisoshobo.co.jp/book/b588461.html>[/url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時間に解説する。

8. 成績評価の方法

定期試験（70%）、ミニレポート（30%）

9. その他

国際開発論研究室（3号館414A号室）
E-mail: akihide@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE271J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
環境経済論

2017～2021 年度入学者
環境経済論

2 単位

廣政幸生

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

環境問題を経済学の観点から解明をし、理解を深めることが目的である。

《授業の概要》

ミクロ経済理論を用い、企業行動、消費者行動によって環境問題が何故生じるか、そして、環境問題を解決するためには、どのような政策をとればよいのかについて検討する。われわれの日常の行動を見直し、環境問題に対しどのように対処すればよいかも考察する。

2. 授業内容

第1回：環境問題を見る視点

第2回：環境問題と経済、経済学の関係

第3回：環境問題の構造と対処（公害問題から地球環境問題）

第4回：環境問題の捉え方－外部性の理論－

第5回：環境問題の捉え方－公共財の理論－

第6回：環境問題の解決－ピグー的政策－

第7回：環境問題の解決－直接規制の経済学（1）－

第8回：直接規制の経済学（2）－アナウンス効果、情報の非対称性－

第9回：環境税の経済理論と実際－ボームル・オーツ税－

第10回：地方環境税の理論と実際

第11回：バズとグッズの経済学

第12回：排出量取引の概念と経済理論

第13回：排出量取引の実際

第14回：a 地球温暖化問題と行動インサイト

3. 履修上の注意

初歩的なミクロ経済学の知識が必要である。現実の環境問題の背景をよく理解するように努めること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義理解のためには参考書による予習、復習が必要である。

5. 教科書

指定しないが、参考書は必須である。

6. 参考書

『環境資源経済学入門』小林弘明・廣政幸生・岩本博幸（泉文堂）

『気候カジノ』ノードハウス著：藤崎訳（日経BP社）

『環境経済学講義』諸富徹他（有斐閣）

『環境経済学をつかむ』栗山浩一他（有斐閣）

『環境経済学』細田衛士・横山彰（岩波書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義の始めに行う

8. 成績評価の方法

定期試験（80%）、講義に関する小レポート（20%）で評価する。

9. その他

環境経済論研究室（3号館4階 3-425A）

hiroy@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGE211J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
資源経済論

2 単位

藤栄剛

2017～2021 年度入学者
資源経済論

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本講義では、自然資源の利用に関わる問題、とりわけ、生物多様性の保全をテーマとして、その特質や現状を経済学的な側面から理解し、自然資源やその有効利用に関わる問題に対する理解を深めることを目標とします。

《授業の概要》

我々は資源や環境を利用することで、経済活動を営んでいます。しかし、その過剰利用によって、いったん資源や環境の状態が悪化してしまうと、その改善は非常に難しくなります。種の絶滅や生態系の消失に代表される生物多様性の減少・劣化は、その典型例です。そこで、本講義ではこうした自然資源の利用をめぐる問題の中でも、特に生物多様性の保全に着目し、生物多様性が減少する背景を解説するとともに、保全のための条件を経済学的な観点から検討します。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクションー生物多様性と人間社会ー
- 第2回：生物多様性保全の論理と便益
- 第3回：生態系サービスの経済的評価（1）ーその便益と付加価値化ー
- 第4回：生態系サービスの経済的評価（2）ー開発と生態系サービスー
- 第5回：環境・生態系サービスの価値評価（1）ー利用価値と非利用価値ー
- 第6回：環境・生態系サービスの価値評価（2）ー顕示選好法と表明選好法ー
- 第7回：小括
- 第8回：グリーン財生産と生物多様性保全（1）ーグリーン財の需要と供給ー
- 第9回：グリーン財生産と生物多様性保全（2）ー認証財と非認証財の市場ー
- 第10回：生物多様性の利用・保全と管理（1）ー利用形態と利用制限ー
- 第11回：生物多様性の利用・保全と管理（2）ー国際的枠組みー
- 第12回：貧困と生物多様性（1）ー貧困との関係ー
- 第13回：貧困と生物多様性（2）ー所得分配との関係ー
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

初歩的なミクロ経済学の知識を有することがのぞましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配付資料を振り返り、適宜復習すること。また、必要に応じて参考書を参照し、発展的な内容についても目を通すことがのぞましい。

5. 教科書

使用しない。変更がある場合には、初回講義時に指示する。

6. 参考書

大沼あゆみ『生物多様性保全の経済学』有斐閣、2014。
 栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ 第4版』有斐閣、2020。
 バリー・C・フィールド『入門 自然資源経済学』庄子康・柘植隆宏・栗山浩一訳、日本評論社、2016。
 環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』丸善、2018。
 大沼あゆみ・柘植隆宏『環境経済学の第一歩』有斐閣、2021。
 その他参考書については、講義時に指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

期末試験と講義後の課題で評価します。なお、変更がある場合には、初回講義時に指示します。

9. その他

資源経済論研究室（3号館4階 3-415A）

科目ナンバー (AG) AGE271J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 環境資源会計論	2 単位	本所靖博
2017～2021 年度入学者 環境資源会計論		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

・授業のテーマ：「持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるか」

1999 年に当時の環境庁がガイドラインを発表したのを契機に環境会計・環境報告の導入や ISO14001 の認証を受ける企業が相次ぐようになった。環境報告書は企業の社会的責任 (CSR) と関連して、CSR 報告書・持続可能性報告書・統合報告書への発展している。さらに SDGs の取組とあいまって持続可能な社会づくりに会計分野の思考が取り入れられており、具体的な事例を紹介しながら、このテーマを一緒に考えたい。

・達成目標：

(1) 環境報告書・CSR 報告書・持続可能性報告書・統合報告書を読む力を養います。

(2) 各経済主体の経済活動を情報化して誰かに説明するという会計の本質を正しく理解しましょう。

この授業は専攻科目 I (選択) である。

《授業の概要》

各経済主体が取り組む環境保全活動の成果の見える化などの会計的手法を学習します。

ECO 検定への取得にも役立つ内容に触れます。

2. 授業内容

第 1 回 (4/10)：

a：環境会計へのいざない⇒授業の進め方と学習の動機づけ

b：会計とは何か

第 2 回 (4/17)：

a：会計的なものの見方・考え方

b：環境資源と環境問題

第 3 回 (4/24)：持続可能な社会づくりとアカウンタビリティ

第 4 回 (5/8)：家庭部門の環境問題と会計的アプローチ

第 5 回 (5/15)：企業部門の環境問題と会計的アプローチ

第 6 回 (5/22)：環境会計ガイドライン (1) - 保全コスト

第 7 回 (5/29)：環境会計ガイドライン (2) - 保全効果と経済効果

第 8 回 (6/5)：環境経営指標

第 9 回 (6/12)：環境報告と環境報告ガイドライン

第 10 回 (6/19)：CSR 報告書と持続可能性報告書

第 11 回 (6/26)：CSR から CSV へ

第 12 回 (7/3)：環境資産と環境負債

第 13 回 (7/10)：森林資源と林業会計

第 14 回 (7/17)：授業のまとめ (b のみ)

※授業内容は実際の授業進度により変更する場合がありますが、その場合は Oh-o!Meiji のクラスウェブと授業でお知らせします。初回の授業でも授業計画表を配付します。

3. 履修上の注意

履修を予定又は検討している学生は学習の動機づけやよい授業環境づくりの為、第 1 回の授業には必ず参加すること。参加がない場合は平常点を減点する (対面授業実施ができる場合のみ)。ただし、対面授業が実施できずオンライン授業の場合はその決定時にシラバスの補足にて明示する。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

ECO 検定の公式テキストを事前に読んでおくと、授業の理解が増す。授業後は試験までに指定用紙にまとめノートを作成しておくといよい。

5. 教科書

教科書は使用せず、レジュメを配付する。

6. 参考書

東京商工会議所編『改訂 9 版環境社会検定 eco 検定公式テキスト』(日本能率協会マネジメントセンター)

上野清貴編著『スタートアップ会计学 (第 2 版)』(同文館出版) 一本所靖博稿「第 12 章：持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるか」

7. 課題に対するフィードバックの方法

コメントカードについて次の授業で抜粋してフィードバックコメントを行う。

8. 成績評価の方法

成績は平常点が 20% で、期末試験が 80% で評価します。詳しくは次のとおりです。

※ポイント制 ⇒ 合計ポイント (100p) = 期末試験 (80p) + 平常点 (20p + α)

※オンライン授業の場合は評価の内訳を変更する場合があります。その場合はシラバスの補足に明示します。

▼平常点：20p を超えた場合はそのまま加算します。

- ・出席はとりません。期末試験の受験要件（最低出席回数）もありません。
- ・コメントカードのやりとり1回につき平常点2p前後を加点します。
- ・初回の授業への参加（コメントカード提出）で4p加点，初回の授業に不参加（コメントカード提出なし）で4p減点します（対面授業実施の場合のみ）。
- ・ECO検定受験または合格で平常点に $+\alpha$ を加点します。

▼期末試験：100点満点を80pに換算します。

▼最終成績：

S (90p以上)、A (80p以上)、B (70p以上)、C (60p以上)、F (60p未満)、T (未受)

9. その他

毎回ではないが対面授業で実施の場合、イマキク（アクティブラーニング支援ツール）を使った学生参加型の授業を行います。

環境資源会計論研究室（3号館4階 3-412A）

E-mail: honjo@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGE281J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
環境社会学

2 単位

市田知子

2017～2021 年度入学者
環境社会学

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

生活環境主義、環境問題の構図、農業と環境、農地開発など、環境問題の現状を「社会的に」とらえる上での基本的な概念や知識を身につける。

《授業の概要》

環境問題はゴミ処分から地球温暖化まで幅広い。本授業では、日常生活を環境の視点からとらえる生活環境主義、環境問題にかかわる加害者・被害者、地域住民、自治体などの関係の構図（なぜ「問題」となるのか）、農業の近代化や地域開発による環境破壊とその解決方向について、「社会的に」考え、読み解いていく。

2. 授業内容

- [第1回] 環境社会学の考え方
- [第2回] 生活環境主義 (1)：食と環境
- [第3回] 生活環境主義 (2)：食品ロス
- [第4回] 生活環境主義 (3)：資源循環型社会の取り組み
- [第5回] 生活環境主義 (4) 住まいと環境—住宅の近代化とは何だったのか？
- [第6回] 環境問題の発生から「解決」まで—水俣病を事例に
- [第7回] 農業と環境 (1)：環境保全型農業の可能性
- [第8回] 農業と環境 (2)：環境保全型農業の取り組み
- [第9回] 農業と環境 (3)：農村環境とは何か？
- [第10回] 農業と環境 (4)：農地開発と環境—諫早湾干拓事業を事例に
- [第11回] 地域開発による環境破壊 (1)：福島原発事故を事例に
- [第12回] 地域開発による環境破壊 (2)：飯館村における営農再開
- [第13回] 地域開発による環境破壊 (3)：被害補償の実態と問題点
- [第14回] まとめ

3. 履修上の注意

講義の形式をとるが、内容に関する質問、意見には可能な限り対応する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容についての疑問があれば、その都度、自分で解決するなり、教員に質問するなりして解決すること。放置しないこと。

5. 教科書

指定しない。

6. 参考書

『環境社会学研究』（環境社会学学会会誌）有斐閣ほか、講義中に随時紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

レポート提出を含む授業への参加程度が 20～30%、期末試験が 70～80%。

9. その他

環境社会学研究室（第1校舎3号館4階）

E-mail: ichida@meiji.ac.jp

研究室 HP: [\[url\]https://www.ichidato.jp/\[url\]](https://www.ichidato.jp/)

科目ナンバー (AG) AGE231J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
地域ガバナンス論

2017～2021 年度入学者
地域ガバナンス論

2 単位

小田切徳美

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

農村地域には、多様な問題が発現している。また、中央・地方政府のみならず、地域住民やその自治組織、各種の機能組織、さらには地域外の都市住民、NPO 等の多様な主体が政策にかかわり始めている。このような政策の内容や主体に関する多様性を十分に踏まえ、かつそれを各論としてのみではなく、体系化・総合化した新しい農村政策論（農村ガバナンス学）の構築が、国内はもとより諸外国においても新たな課題となっている。

《授業の概要》

本講義では、上記の新しい農村政策論の構築を意識しつつ、農村地域の現状、あるべき姿、それに導く政策を多面的に講述する。その際、それぞれのトピックの実態認識を深めるため、動画の利用を積極的に行う。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクションー農村とはー
- 第2回：いまなぜ農村か？
- 第3回：農村地域問題の展開と現状〈1〉
- 第4回：農村地域問題の展開と現状〈2〉
- 第5回：農村地域における地域づくりの枠組み〈1〉
- 第6回：農村地域における地域づくりの枠組み〈2〉
- 第7回：地域づくりの3要素の論点〈1〉
- 第8回：地域づくりの3要素の論点〈2〉
- 第9回：農村再生への支援策
- 第10回：農村再生の実践例
- 第11回：農村再生の論点
- 第12回：応用トピックス〈1〉
- 第13回：応用トピックス〈1〉
- 第14回：総括ー地域ガバナンスとは？ー

※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

地域ガバナンス論は、農業経済学、地域経済学、行政学、財政学、農村社会学、社会教育論等の本格的学際分野として位置付く。したがって、受講生には関連科目の積極的履修を期待したい。

なお、講義中の私語は厳禁とする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で配布するレジュメ（Oh-o! Meiji のクラスウェブを利用する）を再読して、疑問等があれば次回講義の場で質問をしていただきたい（リアクション・ペーパーに書いても可）。また、次回の内容の目的・目標を講義の最後に触れるので、関連情報の事前収集を予習として行うこと。

5. 教科書

教科書は指定しない。毎回の講義で配布するプリント（講義レジュメ）をテキストとする。

6. 参考書

小田切徳美『農山村は消滅しない』（岩波新書）は本講義の内容と重なる。しかし、今年度講義は、同書執筆以降の新たな実態認識や理論的枠組みを含み、完全に一致するものではない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパーによる感想等の提出を課題とし、そのなかから優れたものや印象的なものは次回に紹介し、さらに質問についても次回講義で積極的に回答する。

8. 成績評価の方法

学期末試験を行い、それによって評価する（定期試験 100%）。ただし、毎回、講義内容に関する感想（質問も含む）を書くリアクション・ペーパー（課題）の提出機会を作り、その内容が優れたものを、次回の講義で紹介すると同時に、成績の加点要素とする（最大 20 点）。

9. その他

地域ガバナンス論研究室（3号館4階 3-420A）
odagiri@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG) AGE271J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
共生社会論

2017~2021 年度入学者
共生社会論

2 単位

岡通太郎

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

なぜ共生する（ともに生きる）ことが必要とされるのか。地球環境資源問題を念頭におきつつ総合的に解説する。(1) 近代化パラダイムに内在する問題点の発見と整理、(2) 試行錯誤を繰り返す環境政策の理論と現実、および近代的成長パラダイムそのものの再検討、(3) 問題解決の一例として、龍神村、白神山地、ソロモン諸島、マルク諸島などにおけるローカルな環境資源管理の事例を論考し、地域の「知恵」から学ぶ「グローカル・コモンズ」という概念を理解せしめる。

《授業の概要》

地球環境資源問題の理解には発想の転換が求められるため、異文化世界における日常生活をスライドや動画にて視覚的に理解し、頭をやわらかくしながら授業を進める。

2. 授業内容

- 第1回 なぜ共生が求められるのか
- 第2回 国家と国家の共生問題
- 第3回 途上国と先進国の共生
- 第4回 先進国と先進国の共生
- 第5回 ヒトと自然の共生問題
- 第6回 経済発展と自然の共生〈1〉
- 第7回 経済発展と自然の共生〈2〉
- 第8回 共生パラダイムへ向けて
- 第9回 成長とは何か
- 第10回 消費者が生み出す共生パラダイム
- 第11回 内発的発展論
- 第12回 地域経済論
- 第13回 コモンズ論〈1〉
- 第14回 コモンズ論〈2〉

3. 履修上の注意

共生社会特論（秋学期）への連続履修が望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

前回の内容を1行で整理してくる。

5. 教科書

特に指定しない

6. 参考書

- 『コモンズの社会学：森・川・海の資源共同管理を考える』著者名（井上真・宮内泰介編）出版社名（新曜社）
- 『環境政策の経済学：理論と現実』著者名（植田和弘他編著）出版社名（日本評論社）
- 『リーディングス環境第5巻：持続可能な発展』著者名（植田和弘他編）出版社名（有斐閣）
- 『環境経済学』著者名（植田和弘）出版社名（岩波書店）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

成績は、毎回の講義の最後に行なわれる小レポート（3～5行）50%、学期末試験50%をもって判定する。

9. その他

質問は
共生社会論研究室（3号館4階421A号室）
m-oka@meiji.ac.jp まで

科目ナンバー (AG)AGE361J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
現代社会と食

2017~2021 年度入学者
現代社会と食

2 単位

片野洋平

1. 授業の概要・到達目標

私達が毎日接する「食」の背後には様々な問題が潜んでいる。本講義では、現代社会における「食」を巡る社会現象や社会的課題を理解し、受講者一人ひとりが「食」に対して考える能力を獲得することを目標とする。その際、本講義では、世界の動向を踏まえつつ健康、偽装、リスク、文化など、現代社会における重要な「食」に関するキーワードから講義を展開する。

2. 授業内容

- 第1回：a：イントロダクション
(食を取り巻く現代社会の特徴について概説する)
b：授業に対する簡単なアンケート
- 第2回：世界の食の課題(1)
第3回：世界の食の課題(2)
第4回：世界の食の課題(3)
第5回：世界の食の課題(4)
第6回：食と健康(1)
第7回：食と健康(2)
第8回：レポートの書き方・食と文化(1)
第9回：食と文化(2)
第10回：食と文化(3)
第11回：食と文化(4)
第12回：食と偽装
第13回：予防原則
第14回：リスクコミュニケーション まとめ
- *講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

受講生は興味を持って授業に臨んでほしい。授業中における質問・疑問・コメントを歓迎する。資料は配布する予定だが、各人がきちんとノートを取ることを期待する。

4. 準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業の復習を通じて、各人が授業内容を理解するとともに、各人が授業で扱った課題に対する自分なりの解答を見出す努力を行うことを期待する。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

マイケル・ポーラン(2009)『雑食動物のジレンマ(上)(下)』東洋経済新報社
嘉田 良平(2008)『食品の安全性を考える』放送大学教材

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

リアクションペーパーなど(20%)、期末試験(80%)で評価します。

9. その他

食料農業社会学研究室(3号館4階416A号室)

科目ナンバー (AG)AGC351J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
食生活の科学

2017～2021 年度入学者
食生活の科学

2 単位

川野因

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

食の営みは、人間が生存し、それを維持して行く為の基本的要素であるという認識のもと、食生活と食品産業、農林水産業とのかかわり、更に、適切な食品選択が持続可能な社会の実現と健康な身体づくりに及ぼす影響について理解することを教育目標とし、健康的な食生活の在り様を説明できることを達成目標とする。

《授業の概要》

戦後から今日までの日本の食生活と疾病構造の変遷、フードシステムと食料消費行動の変化について基本的数値などを把握し、21 世紀の食料問題からすべての国民が健やかで心豊かに生活できる社会の実現に向けた食生活の在り方について理解を深める。

2. 授業内容

- 第 1 回 a：イントロダクション、b：食生活と栄養の科学
- 第 2 回 我が国の食を取り巻く環境変化
- 第 3 回 食品の定義と種類、日本食品標準成分表
- 第 4 回 食べ物の一次機能（栄養機能：五大栄養素とその働き）
- 第 5 回 食べ物の二次機能（嗜好・感覚機能：摂食と食欲調節）
- 第 6 回 食べ物の三次機能（生体調節機能：神経内分泌系、酵素反応）
- 第 7 回 食べ物の消化と吸収メカニズム
- 第 8 回 国民健康・栄養調査（調査方法と調査結果の概要；基礎項目と重点項目）
- 第 9 回 日本における健康課題-その 1 成人期と若年期
- 第 10 回 日本における健康課題-その 2 高齢期
- 第 11 回 健康づくり施策 その 1（健康増進法、日本人の食事摂取基準 2020 年版）
- 第 12 回 健康づくり施策 その 2（国民健康づくり運動、食育基本法、食生活指針）
- 第 13 回 身近な食生活課題の解決策（健康的な食事と食事バランスガイド）
- 第 14 回 まとめ（健康的な食事を考察する）

3. 履修上の注意

1. 事前に配信する講義資料をダウンロードの上で持参するか、または、PC を持参して講義を受けましょう（講義資料の紙媒体での配布は行いません）。
2. 毎回、授業で紹介したテーマを復習するとともに、当該テーマを自らの食生活や周辺の人々の食生活場面に照らし合わせ、改善すべき事項に気づき、積極的・意欲的に改善に取り組むことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

1. 毎回、0h-o! Meiji システムを介して授業 3 日前に配布する資料をダウンロード、事前に当該内容を予習しましょう。
2. 不明な点は当該、授業前後に質問し、適切な理解に努めましょう。
3. 授業後は再度、配布資料の内容を確認しながら、20 分程度の 0h-o! Meiji システムを介する「小テスト」に必ず回答しましょう。

5. 教科書

特に指定しない。

6. 参考書

- 『基礎栄養学』鈴木和春ほか著（第一出版）、2023 年
- 『基礎栄養学』柴田克己ほか編（南江堂）、2020 年
- 『食品学 I』中山勉ほか編（南江堂）、2020 年
- 『日本人の食事摂取基準 2025』厚生労働省
- 『食育白書』農林水産省

7. 課題に対するフィードバックの方法

第 1 回から 13 回までは毎回、0h-o! Meiji システムを利用して小テスト問題を配信します。
テストの結果は小テスト欄に得点、正答および解説を個別にフィードバックします。各自、フィードバック内容を確認するとともに、知識の定着に努めましょう。

8. 成績評価の方法

成績は第 1 回から第 13 回まで実施する小テストへの回答（9 回以上）をもって評価対象者とします。
最終的な成績評価は「小テスト」合計点（40%）、「授業への積極的参加状況」合計点（20%）、試験に代わる「課題レポート」得点（40%）から総合的に行います。
「小テスト合計点」とは 13 回分の小テストの合計得点（問 1～10）で評価します。
また、「授業への積極的参加状況」は小テストの問 11 欄への回答状況・得点で評価します。なお、問 11 欄の課題は第一課題（テーマに関する記述式確認試験）に加えて、第二課題は毎回、講義で新たに得た知識や再確認した内容、感想などを記載する 2 課題で構成します。毎回、問 11 の 2 課題は必ず、答えましょう。
本講義では試験に代わるレポートの提出を求め、レポートの記述方法や内容などによって課題レポート点として評価します。

9. その他

緊急時などは必ず、メール y1kawano@nodai.ac.jp にて「ほうれんそう」を行ってください。講義を受ける基本ルールです。

すなわち、報告と連絡・事後対処などの相談を行うよう努めましょう。

特に、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症への罹患リスクから不安な日々が続きます。学生の皆さんは急な体調不良などにて講義を欠席せざるを得ない状況があると考えます。罹患証明書などの公的証明書などをもって公欠対応しますので、事前に、報告・連絡・相談して、事態の解決に努めましょう。

また、公欠の場合も必ず、期限内に Oh-Meiji のクラスウェブ欄の小テストに回答しましょう。小テストの合計点が成績評価に反映されます。

毎回、回答漏れがないよう、十分、注意しましょう。

公欠対応時には「小テスト問題の問 1 1」をメールなどで配信します。講義のある当日、午前 8 時までには、必ずメールで連絡して下さい。

科目ナンバー (AG)AGE341J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
食品ブランド化戦略論
2017～2021年度入学者
食品ブランド化戦略論

2 単位

大江徹男

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

近年、食品の安全性をめぐる問題が注目を浴びている。本講義では、安全性の経済学的意味や安全性を考察する上で必要不可欠なリスク分析と安全に関する事例研究について説明する。また、リスク分析を踏まえたより積極的な安全性への取り組みとして、ブランド化戦略について紹介する。つまり、安全性を前提としての農産物及び食品のブランド化について説明する。

《授業の概要》

最初に食品リスクの理論的説明をおこなう。そのうえで、食品安全に関する個別具体的事例を検証しながら、わが国の食品安全行政とブランド化について述べる。ビデオ等の視覚教材を活用する。

2. 授業内容

- 第1回 aのみ：イントロダクション（食品安全リスク論で何を学ぶか）
- 第2回 食品の安全性とはーリスク分析
- 第3回 リスク評価について（概論）
- 第4回 リスク評価について（ダイオキシン・タバコ）
- 第5回 リスク管理と検査制度（国内検査・輸入品検査）
- 第6回 食の安全性をめぐる国際的枠組み（WTO）
- 第7回 食品公害ー水俣病
- 第8回 生産部門の安全性対応ー有機農産物と GAP
- 第9回 加工部門の安全性対応ーHACCP
- 第10回 流通部門の安全性対応ートレイサビリティ・表示
- 第11回 食の安全とブランドー地域団体商標と地理的表示
- 第12回 ブランド化の事例ー伝統野菜
- 第13回 ブランド化の事例ー銘柄牛
- 第14回 ブランド化の事例ー加工食品

3. 履修上の注意

積極的かつ主体的な参加を期待する。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義の内容については、自分の生活の中で実際のどのよう実践されているか、確認して下さい。

5. 教科書

教科書は使用せず、講義レジュメを配付する。

6. 参考書

特になし

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験と講義終了後に毎回提出してもらったコメントで評価する。
定期試験が80%、毎回提出するコメントが20%。

9. その他

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)AGE341J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
食品マーケティング論
2017～2021年度入学者
食品マーケティング論

2 単位

大浦裕二

1. 授業の概要・到達目標

マーケティングに関する基礎知識（定義、コンセプトの変遷、製品・価格戦略、ブランド、消費者行動、マーケティング・リサーチなど）について、できるだけ平易に解説します。工業製品などを対象とした一般マーケティングの基本的な考え方や理論を講義の柱としますが、さらに食品や農業関連のマーケティング活動事例を多く取り上げて、グループディスカッションも行いながら、食品マーケティングと一般マーケティングとの共通点および相違点についても習得します。

2. 授業内容

- 第1回 a: イントロダクション。
b: マーケティングの基本的な考え方を理解する。
- 第2回 マーケティングコンセプトの変遷について理解する。
- 第3回 マーケティング環境を理解する。
- 第4回 マーケティング STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）を理解する。
- 第5回 マーケティング STP に関する演習を実施する。
- 第6回 製品ライフサイクルについて理解する。
- 第7回 マーケティングミックスを理解する。
- 第8回 これまで学習したマーケティング理論を用いてマーケティング戦略を考える（中間試験）。
- 第9回 店頭マーケティングについて理解する。
- 第10回 消費者行動の考え方（個人編：知覚、学習、記憶、態度、意思決定）について理解する。
- 第11回 消費者行動の考え方（集団・社会編：家族、集団、サブカルチャ、文化）について理解する。
- 第12回 マーケティング・リサーチとその活用方法について理解する。
- 第13回 マーケティング・リサーチ演習を行う。
- 第14回 a: 期末試験。
b: 試験の正答解説と授業を総括する。

3. 履修上の注意

数式を使用することがあるが、数学について特別な準備は必要ない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。

5. 教科書

教科書は特に定めない。

6. 参考書

高嶋克義・桑原秀史著『現代マーケティング論』有斐閣
和田充夫、恩蔵直人、三浦俊彦著『マーケティング戦略』有斐閣
松井 剛、西川英彦編著『1からの消費者行動<第2版>』碩学舎
中野崇『マーケティングリサーチとデータ分析の基本』すばる舎

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

中間試験（40%）、期末試験（40%）、期中のレポート（10%）に加え、授業の参画度合（10%）などにより総合的に評価します。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGE341J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
6 次産業化論

2017～2021 年度入学者
6 次産業化論

2 単位

中嶋晋作

1. 授業の概要・到達目標

農業の6次産業化に関わるトピック（地域ブランド、農産物直売所、農村ツーリズム、契約農業など）について、マーケティング理論などのフレームワークをベースにできるだけ平易に解説する。

農業の6次産業化に関する社会科学的な理解を深めることを目標とする。

2. 授業内容

第1回 a: イントロダクション

第1回 b: 6次産業化とは何か

第2回: マーケティングとは何か

第3回: セグメンテーションとターゲティング<1>

第4回: セグメンテーションとターゲティング<2>

第5回: ポジショニング<1>

第6回: ポジショニング<2>

第7回: 新製品開発<1>

第8回: 新製品開発<2>

第9回: 価格設定<1>

第10回: 価格設定<2>

第11回: 価格設定<3>

第12回: マーケティング・リサーチ<1>

第13回: マーケティング・リサーチ<2>

第14回: 農業の6次産業化の先進事例・まとめ

3. 履修上の注意

数式を使用することがあるが、数学について特別な準備は必要ない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するレジユメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。

5. 教科書

『行動経済学の使い方』大竹文雄（岩波新書）2019年

6. 参考書

『マーケティングは進化する—クリエイティブなMarketingの発想—』水野誠（同文館出版）2014年

『マーケティング・リサーチ入門』星野崇宏・上田雅夫（有斐閣）2018年

『新しい市場のつくりかた』三宅秀道著（東洋経済新報社）2012年

『【新版】ブルー・オーシャン戦略—競争のない世界を創造する—』W・チャン・キム, レネ・モボルニュ著 入山章栄・有賀裕子翻訳（ダイヤモンド社）2015年

『価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?—』リー・コールドウェル著（日本実業出版社）2013年

『世界標準の経営理論』入山章栄著（ダイヤモンド社）2019年

『野生化するイノベーション—日本経済「失われた20年」を超える—』清水洋著（新潮選書）2019年

『農業のマーケティング教科書』岩崎邦彦（東洋経済新報社）2012年

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

レポート、平常点（ミニレポート、小テスト）および学期末試験によって評価する。具体的には、レポート20%、平常点30%、学期末試験50%とする。

9. その他

食ビジネス論研究室（3号館4階422A号室）

E-mail: anakajim@meiji.ac.jp

TEL: 044-934-7129

科目ナンバー (AG)AGE341J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 食文化と農業ビジネス	2 単位	津田 渉
2017～2021年度入学者 食文化と農業ビジネス		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の達成目標及びテーマ〉

「食文化と農業ビジネス」というテーマは食料環境政策学科のカバーする専門領域のほとんどすべてと結びついています。本講義は食文化と農業・農業ビジネスとの関係を考えていきます。本講義の達成目標は、①日本を中心に食文化と農業の基本的関係を説明できるようになること、②現代の食文化と農業ビジネスの関係性について基礎的な認識を持つこと、③そのうえで、それらの今後の在り方などについて、自分の考えを表明できる・発想できるようになることです。

〈授業の概要〉

テーマに沿って、次の4つの単元で構成します。①食文化について、②食文化と農業-風土・農業・食-、③食材の伝播・食の融合と農業・農業ビジネス、④現代の食文化と農業ビジネス。4つの単元を通じて、食と農業、食文化と農業、食文化と農業ビジネスの関係性・関係の構造について、歴史的变化もみるとともに、現代の諸特徴を考察します。

2. 授業内容

各単元では、資料を配布し、テーマに関する知識や考え方の説明のほか、講義内容の理解や考える力を確かめるために動画の活用や講義中に行うミニワーク、数回のミニテストを行います。質疑応答等のコミュニケーションを図ります（参加する人数により方法は異なります）。

各単元の具体的内容とキーワード

第1回：1. 食文化について 1-1) 食と文化・食の文化①

キーワード：「食べる」意味、食の文化とは、食の素材、粉食と粒食、

第2回：1-2) 食と文化・食の文化②

キーワード：調理・保存、お酒、世界の3大食文化（食に歴史あり）

第3回：1-3) 日本食とその変化①

キーワード：日本食の起源、日本食の特徴、日本食の広がり（江戸時代まで）

第4回：1-4) 日本食とその変化②

現代の食生活と食文化（日本を例に）

キーワード：日本食の変化、現代の日本食、和食、洋食、中華

第5回：2. 食文化と農業-風土・農業・食- 2-1) 風土と農と食-食と農の関係性・関係の構造①

キーワード：農耕文化と食文化、主食とは、肉食

第6回：2-2) 食と農の伝統の形成-食と農の関係性・関係の構造②

キーワード：日本、ヨーロッパ、アジア

第7回：2-3) 普通の人の食と農・権力を持つ人の食と農

キーワード：食の格差、食の普及、農業の発達

第8回：3. 食材の伝播・食の融合と農業・農業ビジネス 3-1) 食と農のグローバル化

キーワード：古代地中海世界、シルクロード、大航海時代

第9回：3-2) 市民社会と食ビジネス・農業ビジネス

キーワード：市民革命と食・農、植民地と帝国主義、アメリカの発展

第10回：3-3) 食と農のグローバル化

キーワード：国際フードビジネスの展開、外食、加工食品

第11回：4. 現代の食文化と農業ビジネス 4-1) 第2次大戦後の日本

キーワード：食生活の変化と農業、新しい食文化（電子レンジ調理、ファッショーフード）、農業ビジネスの行方

第12回：4-2) 食文化の新しい潮流と農業ビジネス①

キーワード：健康と安全、スローフード、CSA

第13回 4-3) 食文化の新しい潮流と農業ビジネス②

キーワード：利便性と食文化、素材の多様な利用（地域発の発想）、格差と分断（フェアトレード）

第14回： a：講義のまとめ・補足 b：まとめのテスト

各単元の内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

①講義のテーマのどこに関心を持つか、考えながら参加してください。②講義中の私語は厳禁とします。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

①これまで学んだ学科の講義を復習しながら、本講義と関連付けて予習・復習を行ってください。質問などがある場合は、講義後に教員に尋ねるか、講義で配布するシートなどに記入してください。②講義中に振り返りのためのミニワークも適宜行います。

5. 教科書

特に指定しません。

6. 参考書

特に指定しません。参考となる文献等を必要に応じて講義中に提示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

講義中に振り返りワークでテストの解説や質問等に対応します。コミュニケーションを図るために、質問への応答を含め、適宜、Oh-Meiji を活用します。

8. 成績評価の方法

①講義への参加態度、②講義中に行うミニワーク（不定期）、③ミニテスト、④最終回に行うまとめテストにより総合的に評価します。①20%、②20%、③30%、④30%とします。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGE391J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
食農メディア論A

2017～2021 年度入学者
食農メディア論A

2 単位

榊田みどり

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

メディアから得られる農業・農村の情報を多角的な視点と長期的な視野でとらえ直す力を養う。同時に、特定のメディアのみを鵜呑みにせず、農業・農村の現場に生きる人々の実像への関心と理解を深め、現場を基点に自ら考える力を養う。

《授業の概要》

マスコミが発する農業・農村像は、現場情報の一部を切り取るため、どうしても一面的な視点からの発信になりがちです。また、出版元の立場によって情報の切り取り方も異なります。講義では、テレビや新聞・雑誌の記事などを題材に、記事とは異なる視点での情報や農業・農村現場の実例などを紹介しつつ、情報を複眼でとらえ直す習慣を身につけていただきたいと思います。

可能な限り、農業者やメディア関係者をゲストスピーカーに招き、現場の声に接する機会を設ける予定です。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：時系列で見る農業・農村に関するマスコミの論調変化（1）

第3回：時系列で見る農業・農村に関するマスコミの論調変化（2）

第4回：時系列で見る農業・農村に関するマスコミの論調変化（3）

第5回：時系列で見る農業・農村に関するマスコミの論調変化（4）

第6回：都市から見る農業・農村と現場基点で見る農業・農村（1）

第7回：都市から見る農業・農村と現場基点で見る農業・農村（2）

第8回：都市から見る農業・農村と現場基点で見る農業・農村（3）

第9回：都市から見る農業・農村と現場基点で見る農業・農村（4）

第10回：「食」の視点で見る農業・農村をめぐる議論（1）

第11回：「食」の視点で見る農業・農村をめぐる議論（2）

第12回：「食」の視点で見る農業・農村をめぐる議論（3）

第13回：「食」の視点で見る農業・農村をめぐる議論（4）

第14回：a. 講義全体のふりかえり b. 試験

3. 履修上の注意

講義中に簡単なレポートを求められることがあります。講義内容は、適宜変更の可能性もあります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習・復習に努めること。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

使用しません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験 60%、レポート 30%、平常点 10%。

9. その他

農業・農政・地方・食に関する記事やニュースに日頃から関心を持ってください。

科目ナンバー (AG)AGE391J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
食農メディア論B

2017～2021 年度入学者
食農メディア論B

2 単位

榎田みどり

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

メディアから得られる農業・農村の情報を多角的な視点と長期的な視野でとらえ直す力を養う。同時に、メディアを鵜呑みにせず、農業・農村の現場に生きる人々の実像への関心と理解を深め、農業や農村について現場を基点に自ら考える力を養う。

《授業の概要》

マスコミではあまり報道されない、農業や地域づくりに関する各地の新しい動きの事例を中心に紹介。農業と教育・福祉の連携や農業体験の事業化など「農業＝農産物生産」という固定観念を崩し、広い視野で農業のあり方を考えるための素材を提供します。可能な範囲で農業者等をゲストスピーカーに招き、現場の声に接する機会を設ける予定です。

2. 授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：農業の多面的機能と新たな農業のカタチ（1）

第3回：農業の多面的機能と新たな農業のカタチ（2）

第4回：農業の多面的機能と新たな農業のカタチ（3）

第5回：農業の多面的機能と新たな農業のカタチ（4）

第6回：農業の多面的機能と新たな農業のカタチ（5）

第7回：農業の多面的機能と新たな農業のカタチ（6）

第8回：地域を基点にした食・農システム再構築の動き（1）

第9回：地域を基点にした食・農システム再構築の動き（2）

第10回：地域を基点にした食・農システム再構築の動き（3）

第11回：地域を基点にした食・農システム再構築の動き（4）

第12回：地域を基点にした食・農システム再構築の動き（5）

第13回：地域を基点にした食・農システム再構築の動き（6）

第14回：a. 講義全体のふりかえり b. 試験

3. 履修上の注意

講義中に簡単なレポートを求めることがあります。内容は適宜変更する可能性があります。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習・復習に努めること。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

使用しません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験 50%、レポート 30%、平常点 20%。

9. その他

農業・農政・地方・食に関する記事やニュースに日頃から関心を持ってください。

科目ナンバー (AG)AGE321J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
農業経営の発展と地域農業
2017～2021年度入学者
農業経営の発展と地域農業

2 単位

澤野久美

1. 授業の概要・到達目標

本講義では、日本の農業経営や地域農業、食料をめぐる現状、直面している課題や新たな可能性等について、農業・農村における女性、高齢者、障害者、農業法人や食品製造業による取組など、実際の取組を紹介しながら解説する。実際の取組をふまえながら、持続可能な農業経営の発展や地域農業のあり方について考察し、自分の意見を述べられるようになることを到達目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
 - 第2回：地産地消・6次産業化（1） 直売
 - 第3回：地産地消・6次産業化（2） 農産加工
 - 第4回：地産地消・6次産業化（3） 農家民宿
 - 第5回：地産地消・6次産業化（4） 農家レストラン
 - 第6回：地産地消・6次産業化（5） 在来作物
 - 第7回：新規就農
 - 第8回：農業経営における組織づくりと人的資源管理（1） 採用を中心に
 - 第9回：農業経営における組織づくりと人的資源管理（2） モチベーションを中心に
 - 第10回：農業・農村と女性
 - 第11回：食品製造業（1） 食品製造とは
 - 第12回：食品製造業（2） 米を用いた取組を中心に
 - 第13回：農福連携（1） 農福連携とは
 - 第14回：農福連携（2） 農業法人での取組を中心に
- ※都合により、授業回を入れ替える可能性がある。

3. 履修上の注意

実際の取組から真摯に学ぶこと。農業・農村問題やそれに関わる問題に広く関心を持ち、知識を深めること。履修者の理解を促すため、映像資料も使用する。授業で担当講師が使用するPowerPoint資料は配布しないため、講義内容のメモを取る。授業中の迷惑行為には、厳重に対処する。特に、授業中の私語は、他の履修者の学ぶ権利を侵害する行為であることから慎むこと。私語をしている履修者には、担当講師が学生証などにより氏名および学籍番号を確認し、当該履修者の退席を命ずるとともに、成績評価の際に大幅な減点を課す。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

図書、新聞、Web等を活用して、各トピックに関わる内容をまとめる。授業内で紹介した事例と同様の取組を行っている事例を調べてみる。なぜそのような取組をしようと実践者が考えたのか、その背景や理由を探求する。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

特に定めない。必要に応じて授業内で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出されたミニレポート・リアクションペーパーの内容は、次回以降の授業内で紹介することがある。

8. 成績評価の方法

定期試験 70%、ミニレポート・リアクションペーパー30%。

9. その他

オフィスアワー・連絡先は、初回の講義で指示する。

科目ナンバー (AG)AGE391J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 農業史	2 単位	中村 塑
2017～2021年度入学者 農業史		

1. 授業の概要・到達目標

授業の概要

当たり前のことであるが、人間は食料なくしては生きていくことができない。したがって人間は、人間に食料を供給する第1次産業、特に農業とともに長い歴史を歩んできた。しかしながら、人間が作った社会の仕組みは各時代によって異なるため、社会の影響を受けやすいという性格を持つ農業は、それぞれの時代ならではの姿もあらわしてきた。農業について、時代を越えてつながっている点は何であるのか、各時代の中でのみみられた点は何であるのか、つまり歴史の連続している面と断絶している面の双方を意識しながら授業を進めていく。

授業の到達目標

日本における農業の歩みを学び、現代日本農業が有する諸問題の歴史的背景について理解できるようになる。

2. 授業内容

- 第1回：aのみ：イントロダクション（農業史とは）
- 第2回：原始の農業
- 第3回：古代の農業
- 第4回：中世の農業①（鎌倉・南北朝期の農業）
- 第5回：中世の農業②（室町・戦国期の農業）
- 第6回：近世の農業①（新田開発の進展）
- 第7回：近世の農業②（集約農業の追求）
- 第8回：近世の農業③（農書の成立）
- 第9回：近世の農業④（商業的農業の隆盛）
- 第10回：近現代の農業①（明治期の農業）
- 第11回：近現代の農業②（大正～昭和初期の農業）
- 第12回：近現代の農業③（戦時・戦後期の農業）
- 第13回：近現代の農業④（高度経済成長と農業）
- 第14回：授業のまとめ

3. 履修上の注意

日本史について特別な準備は必要ない。可能であれば大学入学前に使用した日本史の教科書や参考書等を読み直してほしい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、参考書の該当箇所を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと。
復習として、講義レジュメをよく見直し、授業中に教員が話したことを振り返ること。

5. 教科書

指定しない。講義レジュメを配布する。

6. 参考書

『日本農業史』木村茂光編（吉川弘文館）2010年

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の中で、小レポートについてコメントをする。

8. 成績評価の方法

試験（70%）と毎回の講義の最後に実施する小レポート（30%）で評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG)ARS311J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 アジア農業論	2 単位	池上彰英
2017～2021年度入学者 アジア農業論		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

中国と日本の農業は「人が多く耕地が少ない」、家族農業経営が主体である等の共通性を有する一方、耕地の所有制度（中国は集団所有制）、総合農協の有無（中国には日本のような農協は存在しない）、企業の農業参入（中国では日本以上に企業の農業参入が進んでおり、政府も積極的にこれを奨励）等においては、大きな違いも存在する。本講義では、中国の社会経済システムおよび経済発展の歴史を概観したのち、中国の食料・農業・農村問題と農業政策に関する全般的な紹介を行う。また、日中農業の共通性と異質性に関する比較検討も行う。

《授業の到達目標》

本講義を受講することで、中国の社会経済システムに関する基本的な知識と中国農業に関する専門的な知識が身につくことが期待される。また、本講義を通じて、日本の農業と農業政策を相対化する視点が身につくことも期待される。

2. 授業内容

- 第1回：中国農業論の課題
- 第2回：中国入門1
- 第3回：中国入門2
- 第4回：中国入門3
- 第5回：中国の農業地理
- 第6回：世界のなかの中国農業
- 第7回：中国の食料需給1
- 第8回：中国の食料需給2
- 第9回：中国の経済発展と農業問題
- 第10回：中国の農業政策1
- 第11回：中国の農業政策2
- 第12回：中国の農業企業と農民専門合作社
- 第13回：中国の農業企業の事例分析
- 第14回：中国農業が直面する課題と対策

3. 履修上の注意

とくにない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に参考書に目を通しておくこと。授業後は、レジュメやノートの内容を復習するとともに、授業で紹介した問題について文献等で調べること。

5. 教科書

とくに定めない。

6. 参考書

中国農業に関する専門書

『WTO体制下の中国農業・農村問題』 田島俊雄・池上彰英編（東京大学出版会） 2017年

[url]http://www.utp.or.jp/book/b307820.html[/url]

『中国の食糧流通システム』 池上彰英（御茶の水書房） 2012年

[url]https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784275009869[/url]

『中国農村改革と農業産業化』 池上彰英・寶劔久俊編（アジア経済研究所） 2009年

[url]https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Sensho/018.html[/url]

中国入門書

『現代中国経済〔新版〕』 丸川知雄（有斐閣） 2021年

[url]https://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641221796[/url]

『はじめて出会う中国〔改訂版〕』 園田茂人編（有斐閣） 2022年

[url]https://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641221819[/url]

『現代中国を知るための54章【第7版】』 藤野彰編（明石書店） 2024年2月刊行予定。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時間に解説する。

8. 成績評価の方法

定期試験（70%）、ミニレポート（30%）

9. その他

国際開発論研究室（3号館414A号室）

E-mail: akihide@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGE331J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
比較農業論

2017～2021年度入学者
国際比較農政論

2 単位

暁剛

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本授業では、世界の農業について広く浅く概説したのち、比較検討を行う。世界の農業は、自然条件（気候、地形、土壌など）と、社会条件（生産の目的、経営組織、農地の所有形態、経営体の規模、機械化・労働力、農業政策など）により大きく異なる。アメリカの地理学者であるホイットルセイ（1890～1956年）は、作物と家畜の組合せ、作物栽培・家畜飼養の方法、労働・資本投下の程度と収益性、生産物の仕向け先、住居・農業施設の状態という5つの指標に基づき、世界の農業を13に分類（区分）した。ホイットルセイによる農業の分類（農業地域区分）は、自然条件・経済条件・文化的要素を取り入れた総合的な分類であり、指標のとり方も妥当であるため、現在も広く用いられている。

《授業の到達目標》

本授業の目標は、世界農業の地域区分、世界農業の多様性、農業をめぐる歴史性などについて比較検討することにある。本授業を受講することで、世界の農業に関する地理的分類や基本的な知識、多様性を身につけることができる。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：遊牧
- 第3回：焼畑農業
- 第4回：粗放的定住農業
- 第5回：集約的稲作農業
- 第6回：集約的畑作農業
- 第7回：混合農業
- 第8回：酪農
- 第9回：園芸農業
- 第10回：地中海式農業
- 第11回：企業的穀物農業
- 第12回：企業的牧畜業
- 第13回：プランテーション農業
- 第14回：まとめ（比較検討）

3. 履修上の注意

特にない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

第1回目の授業以降、授業内に紹介した参考書などについて予習すること。授業終了後、ノートに基づき復習すること。

5. 教科書

特にない。

6. 参考書

『世界農業の形成過程』、デーヴィッド・グリッグ/飯沼二郎、大明堂、1977年。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックや解説は授業の最初に行う。

8. 成績評価の方法

ミニレポート40%、定期試験60%。

9. その他

研究室：3号館423A号室
E-mail: xiaogang@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGE341J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
国際食料需給論

2017～2021年度入学者
国際食料需給論

2 単位

池上彰英

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

なぜ現在の世界には飢餓と飽食が併存しているのでしょうか。本講義は、食料不足と食料過剰の併存という現象に着目して、国際食料需給の過去、現在、未来について考える。アフリカ等の最貧国を除くと、現在の食料需給の焦点は主食問題ではなく、畜産物消費の増大にともなう飼料問題であり、最近ではこれにバイオエネルギーの問題が付け加わってきている。本講義は、世界の食料需給の現状から入り、歴史分析を踏まえて、食料需給の将来展望について検討する。

《到達目標》

本講義を受講することで、世界的な食料需給問題の性格や食料需給の歴史と現状に関する理解が深まることが期待される。

2. 授業内容

- 第1回：国際食料需給をめぐる論点
- 第2回：世界の飢餓の現状と展望1
- 第3回：世界の飢餓の現状と展望2
- 第4回：経済発展に伴う食料需給問題の焦点の変化
- 第5回：食料需給に関するデータベース等の紹介
- 第6回：食料需給に関するデータベースの活用1
- 第7回：食料需給に関するデータベースの活用2
- 第8回：世界の三大穀物と大豆の需給1
- 第9回：世界の三大穀物と大豆の需給2
- 第10回：世界の畜産物需給1
- 第11回：世界の畜産物需給2
- 第12回：世界の植物油需給
- 第13回：バイオマスエネルギーと食料
- 第14回：Food Securityと日本の食料安全保障

3. 履修上の注意

とくにない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前に参考書等に目を通しておくこと。授業後は、レジュメやノートの内容を復習するとともに、授業で紹介した問題について文献等で調べること。

5. 教科書

とくに定めなし。

6. 参考書

- 『The State of Food Security and Nutrition in the World』 FAO (FAOのホームページからダウンロード可能)
[url]https://www.fao.org/3/cc3017en/cc3017en.pdf[/url]
- 『FAOSTAT (FAOの統計データベース)』 FAO (FAOのホームページからダウンロード可能)
[url]http://www.fao.org/faostat/en/#home[/url]
- 『食料安全保障月報』 農林水産省 (農林水産省のホームページからダウンロード可能)
[url]https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html[/url]
- 『検証 米国農業革命と大投機相場ーバイオ燃料ブームの向こう側で何が起きたのか!?』 増田篤 (時事通信出版局) 2010年
[url]https://bookpub.jiji.com/book/b374377.html[/url]

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業で説明する。

8. 成績評価の方法

定期試験 (70%)、ミニレポート (30%)

9. その他

国際開発論研究室 (3号館414A号室)
E-mail: akihide@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGE331J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 食と農の貿易ルール	2 単位	作山巧
2017~2021 年度入学者 国際貿易協定論		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

食料貿易に関する国際ルールについて講義する。具体的には、(1) 全世界を対象とする WTO (世界貿易機関)、(2) 主に二国間で締結される FTA (自由貿易協定) や EPA (経済連携協定)、(3) TPP (環太平洋パートナーシップ) 協定のように、経済規模の大きな日本・米国・EU・中国が相互に締結するメガ FTA、という 3 つのタイプの貿易協定について解説する。教員は、農林水産省でこれら全ての交渉に従事した経験があり、その体験談を随所に交えた講義を行う。

《授業の到達目標》

WTO のルールが依然として食料貿易で重要な役割を果たしている現状を把握した上で、FTA・EPA やメガ FTA が拡大した理由や問題点、それらが日本の食料・農業に与える影響について理解する。

2. 授業内容

- 第 1 回 a のみ：イントロダクション
- 第 2 回：食と農の貿易ルールを学ぶために (教科書第 1 章)
- 第 3 回：GATT の歴史と基本原則 (教科書第 2 章)
- 第 4 回：GATT ウルグアイ・ラウンド農業合意 (教科書第 3 章)
- 第 5 回：WTO 農業協定の実施状況 (教科書第 4 章)
- 第 6 回：WTO 協定下の重要品目の貿易制度 (教科書第 5 章)
- 第 7 回：WTO ドーハ・ラウンド交渉 (教科書第 6 章)
- 第 8 回：WTO 衛生植物検疫協定と紛争解決制度 (教科書第 7 章)
- 第 9 回：WTO 知的所有権貿易協定と地理的表示 (教科書第 8 章)
- 第 10 回：世界の FTA の動向 (教科書第 9 章)
- 第 11 回：日本の EPA の動向 (教科書第 10 章)
- 第 12 回：環太平洋パートナーシップ (TPP) 協定 (教科書第 11 章)
- 第 13 回：日 EU 経済連携協定 (日欧 EPA) (教科書第 12 章)
- 第 14 回：メガ FTA 時代の日本の食と農 (教科書第 13 章)

3. 履修上の注意

受講に当たって特段の予備知識は前提としないが、春学期の「食料貿易論」を併せて受講することが望ましい。なお、食料貿易論研究室への入室を希望する学生は、2 年次での本科目の受講が必須である。

毎回の小テストに必要なスマートフォンやパソコン等の電子機器を持参する。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

教科書は開講前に必ず購入し、事前に該当部分を読み、毎回の講義に持参すること。また、教科書の設問を用いた講義時の小テストと講義後の感想の提出を毎回行う (このため、教科書を持参しないと小テストに解答できない)。

5. 教科書

『食と農の貿易ルール入門—基礎から分かる WTO と EPA/TPP』作山巧 (昭和堂) 2019 年

6. 参考書

1. 『WTO・FTA 法入門』(第 2 版) 小林友彦・飯野文・小寺智史・福永有夏 (法律文化社) 2020 年 (全般)
2. 『WTO・FTA・CPTPP: 国際貿易・投資のルールを比較で学ぶ』飯野文 (弘文堂) 2019 年 (全般)
3. 『詳解 WTO と農政改革』山下一仁 (食料農業政策研究センター) 2001 年 (第 3~5 回)
4. 『解説・WTO 農業交渉: 日本人の食は守れるか』石田信隆 (農林統計協会) 2010 年 (第 7 回)
5. 『貿易紛争と WTO: ルールに基づく紛争解決の事例研究』福永有夏 (法律文化社) 2022 年 (第 8 回)
6. 『農林水産物・飲食品の地理的表示』高橋梯二 (農山漁村文化協会) 2015 年 (第 9 回)
7. 『2022 年版世界貿易投資報告』ジェトロ編 (日本貿易振興機構ウェブサイト) 2022 年 (第 10 回)
8. 『詳解経済連携協定』外務省経済連携協定研究会 (日本経済評論社) 2022 年 (第 11 回)
9. 『日本の TPP 交渉参加の真実: その政策過程の解明』作山巧 (文真堂) 2015 年 (第 12 回)

7. 課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答例や代表的な質問に対する回答は、次回授業の冒頭で解説する。

8. 成績評価の方法

毎回の小テストへの解答 (67%) と感想の提出 (33%) により評価する (定期試験は実施せず、レポート等による事後的な救済も行わない)。

9. その他

教員の連絡先は sakuyama@meiji.ac.jp である。なお、欠席に関する連絡は、第 1 回講義資料と「シラバスの補足」をよく読んだ上で行うこと。

科目ナンバー (AG)AGE351J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 国際協力論	2 単位	コーディネーター： 暁・池上
2017～2021 年度入学者 国際協力と国際機関		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

国際協力は単なる同情や損得勘定で行われるものではなく、明確な理念や様々な手法、実務的実行体制に裏打ちされている。しかし実際の途上国開発協力では、厳しい現実の前にそうした理念や手法が当てはまらない場合も多い。この講義では、国際機関での勤務や開発協力の経験の豊富な 4 名の講師が、実際の農業開発援助事業の実例を参考に、開発協力で直面する様々な問題と対応策について議論する。また、開発経済理論や国際援助機関の基準も引用しながら、なぜ農業開発協力が必要なのか、どのような手段と問題があり、どう解決しようとしてきたのかをさぐる。授業全体を通じて、他の国の人のために働くことの難しさ、喜び、驚きを感じてもらい、国際協力への関心と認識を高めてもらうことを目指す。

《到達目標》

国際協力といってもその範囲は広い。ここでは、将来受講生が様々な国際的な仕事にかかわる可能性があることを考慮し、国際貢献に関する理論と国際協力の実務や問題について、大学生としての専門的知識を習得することを目標とする。

2. 授業内容

- 第 1 回：国際協力と国際機関：課題（池上彰英）
- 第 2 回：国際協力と国際機関の役割（坪田邦夫）
- 第 3 回：国際開発の基礎理論（坪田邦夫）
- 第 4 回：国際協力理念の変遷（坪田邦夫）
- 第 5 回：国際研究協力とは（杉野智英）
- 第 6 回：国際協力から学ぶ—インドネシアの経験から（杉野智英）
- 第 7 回：開発協力とジェンダー・宗教（高木茂）
- 第 8 回：アフリカ開発協力（高木茂）
- 第 9 回：開発援助とコンサル・NGO の役割（高木茂）
- 第 10 回：現場から見た開発協力の光と影（高木茂）
- 第 11 回：国際協力の手法（坪田邦夫）
- 第 12 回：事例分析—インドネシア精米近代化事業（坪田邦夫）
- 第 13 回：事例分析—中国遊牧民定住支援事業（坪田邦夫）
- 第 14 回：国際協力と国際機関：まとめと展望（池上彰英）

授業の順番等は変更する可能性がある。

3. 履修上の注意

外務省や JICA、世界銀行、国際機関などのホームページを事前に関覧し、国際協力について一通りの知識は持っていてほしい。授業は、各講師が自分自身の国際機関等での経験や現地調査に基づいて作成した一連の資料を用いて行う。必ず出席して具体的な話を体感してほしい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

参考書等を事前学習することで、国際協力の考え方と基本的な専門用語を適宜整理し、頭の中に入れておくこと。国際協力という性格上、海外を相手にすることになるので、予習・復習に使う参考書も、できれば英語で読んでほしい。

5. 教科書

特になし。

6. 参考書

- 『開発経済学』 速水佑次郎（創文社） 2000 年
- 『国際協力機構（JICA）年次報告書』 JICA
- 『世界開発報告』 世界銀行

7. 課題に対するフィードバックの方法

コーディネーターの教員が Oh-o!Meiji 等を利用して説明する。

8. 成績評価の方法

毎回のレポートで成績を評価する。
レポート評価点の合計が 60% 以上であることが単位認定のラインである。

9. その他

コーディネーター連絡先：国際開発論研究室（3号館 4 1 4 A 号室）
E-mail: akihide@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGE351J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
途上国と一次産品論

2 単位

大江徹男

2017～2021 年度入学者
途上国と一次産品論

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

貧困問題を考えるために、主にアフリカに焦点を絞って、同地域の農業と食料の現状、貧困について、一次産品に着目しながら、理論的かつ歴史的に理解することを目的とする。

《授業の概要》

欧米諸国とアフリカの歴史的関係性を対象に、国際経済学（貿易理論）、経済史等を駆使しながら、現在のアフリカにおける貧困や世界の農産物貿易の状況について、理論的かつ実証的に説明する。

内容は、図表やビデオを活用して、可能な限り理解しやすいように説明する。

2. 授業内容

- [第1回] aのみ：イントロダクション（フードシステム論特講で何を学ぶか）
- [第2回] アフリカの抱える問題とは
- [第3回] 比較優位説と自由貿易
- [第4回] 大航海時代とヨーロッパの貿易の変化（スパイスの話）
- [第5回] 世界市場の形成とイギリスの経済発展
- [第6回] カリブ海の植民地化と砂糖
- [第7回] アフリカにおける奴隷貿易の実態
- [第8回] イギリスの産業革命と植民地拡大（綿と茶の話）
- [第9回] アフリカの植民地化－ケニアの事例（農業）
- [第10回] アフリカの植民地化－南アフリカの事例（鉱物）
- [第11回] 一次産品の価格形成・流通①（コーヒー）
- [第12回] 一次産品の価格形成・流通②（コーヒー）
- [第13回] WTO 体制下における途上国の農産物貿易問題
- [第14回] 公正な貿易－フェアトレード

3. 履修上の注意

主体的かつ積極的な授業参加が望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義の内容について、身の回りの食品について途上国でどのように生産・流通されているか、調べてみましょう。

5. 教科書

特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験と講義終了後毎回提出してもらうコメントで評価を行う。
定期試験が80%、コメントが20%。

9. その他

オフィスアワーは別途指示します。

科目ナンバー (AG)AGE341J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
先進国の食と環境

2017~2021 年度入学者
先進国の食と環境

2 単位

和泉真理

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

食・農・環境はその土地の自然・歴史・社会・文化に根づく固有・保守的なものであるが、グローバル化がこれらの分野でも急速に進んでいることも事実である。今や日本の食・農・環境に関する考察を、海外の動向との比較抜きに行うことはできない。本授業では、先進国の食と農と環境を巡る最新のトピックについて学ぶことを通じ、その多様性と共通性を認識し、先進国の1つである日本と諸外国との比較から日本の食・農・環境を評価するという視点を持つことを目的とする。

《授業の概要》

本講義では、先進国特に欧州を中心に食と農と環境について毎回様々なトピックを扱い、その背景や各国の具体的な食・農・環境に関する取組や政策の紹介、日本との比較について、画像、動画なども活用しつつ講義を行う。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション、先進国特有の食・農・環境をめぐる諸問題
- 第2回 先進国の食料消費・食生活
- 第3回 食品・農場の表示と認証
- 第4回 有機農業と有機産品市場
- 第5回 食料安全保障
- 第6回 フードシステムの特徴と構造
- 第7回 グローバル化するフードシステム
- 第8回 先進国の農業（農地、農業者）
- 第9回 先進国の農業（農業経営の多角化、農業政策ツール）
- 第10回 農業と環境保全：両立のための手法
- 第11回 環境に偏重するヨーロッパの農業政策
- 第12回 EU 離脱後の英国農政：公的資金は公共財へ
- 第13回 協同組合
- 第14回 都市と農村を結ぶ

※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3. 履修上の注意

食や環境に関わるニュースや自身の周辺の事象に常に関心を払い、問題意識を持って講義に参加し、積極的に質問をしてほしい。
なお、海外について学ぶ以上最低限の英語力は必要であり、英語の資料、動画も用いて講義を行う。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で使用したパワーポイント資料やレジュメを再読し、疑問等があれば次回講義の場で質問をしていただきたい（コメント・ペーパーに書いても可）。
講義のレジュメを授業前にクラスウェブにアップロードするので、授業中に参考にするなど活用してほしい。

5. 教科書

特に指定しない。準備したパワーポイント等や講義用レジュメを用いて授業を行う。

6. 参考書

より詳細・具体的な内容については以下を参考にしてほしい。

（一社）日本協同組合連携機構のサイトに掲載されている和泉の「EU の農業・農村・環境」シリーズ
https://www.japan.coop/wp/publications/study/localagri/eu_agri

7. 課題に対するフィードバックの方法

指定したメールアドレスを用いて行う。
メールアドレスは初回講義時に提示する。

8. 成績評価の方法

講義毎に、テーマを指定したコメント・ペーパーの提出を求め、その提出状況及び内容によって評価する（100%）。

9. その他

科目ナンバー (AG)AGE351J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
途上国の食と環境

2017～2021年度入学者
途上国の食と環境

2 単位

暁剛

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

多くの途上国は、第二次世界大戦後、宗主国の植民地や傀儡政権から独立を果たした。本授業は、アジアにおける途上国や地域を中心に取り上げる。とくにモンゴル国と内モンゴル自治区（中国版図に含まれる）の事例を通じて、社会経済・食料・農業・環境・地域文化などの領域に焦点を当てて、第二次世界大戦前後の歴史的展開や現状などについて広く浅く紹介する。

《授業の到達目標》

本授業を受講することで、アジアにおける途上国や地域に関する基礎的ではあるが全般的な知識、ならびにモンゴル国や内モンゴル自治区に関する専門的な知識を身につけることができる。

2. 授業内容

- 第1回：途上国の国家形成1
- 第2回：途上国の国家形成2
- 第3回：途上国における農業搾取
- 第4回：途上国における第一次産業の役割
- 第5回：途上国における第二次産業の役割
- 第6回：途上国における第三次産業の役割
- 第7回：国際政治経済環境を考える
- 第8回：工業化に伴う問題を考える
- 第9回：途上国政府の役割を考える
- 第10回：モンゴル国の政治・経済
- 第11回：カシミヤと日本人
- 第12回：雑豆と日本人
- 第13回：結婚式からみる内モンゴル
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

特にない。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

第1回目の授業以降、授業内に紹介した参考書などについて予習すること。授業終了後、ノートに基づき復習すること。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

『途上国を考える』、高木保興・河合明宣、放送大学教育振興会、2014年。
『アジア開発史：政策・市場・技術発展の50年を振り返る』、アジア開発銀行 [著]、澤田康幸 [監訳]、勁草書房、2021年。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックや解説は授業の最初に行う。

8. 成績評価の方法

ミニレポート40%、定期試験60%。

9. その他

研究室：3号館423A号室
E-mail: xiaogang@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)LAW341J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 農業・環境法	2 単位	奥田進一
2017～2021 年度入学者 農業・環境法		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

農地が法律によって適正に規律され、安定した農業経営が保障されることは、国家経済の基盤です。産業としての農業を法的側面から捉えるとともに、環境問題として認識し、農業の有する多面的機能を具体的な事例を通じて考えます。なお、本授業では、農業だけでなく、林業、漁業、畜産業も対象として、第一次産業全体に関する法政策について理解を深めます。

《授業の到達目標》

農地、農家、農業経営をめぐる農業関係法に則して、農地所有や利用関係を規律している法律の仕組みについて環境保全の視点から理解できることを目標とします。

2. 授業内容

第1回：農業法政策の体系

これから学ぶ農業法の全体像について紹介し、わが国の法体系の中での位置づけを確認する。

第2回：土地法制度の概説

民法の物権法総論を中心として、土地権利関係についての基礎知識の確認作業を行い、あわせて農地法の概要について解説する。

第3回：農地制度の変遷～明治維新から農地解放まで

明治維新から今日までの農業法政策について概観したうえで、とうに戦後農政の問題点や食料自給率の低下問題を指摘しながら、農業法の体系について全体像を紹介する。

第4回：農地流動化

農地の売買、賃貸借、転用等が、農地法においてどのように規制され、あるいはどのように緩和されてきたのについて、歴史的経緯も踏まえて理解を深める。

第5回：土地改良事業と区画整理法

土地改良区の設立とその意義、農地および農業組織の近代化に関する法政策について紹介する。

第6回：都市化と農地の法政策

都市計画法において農村がどのように扱われてきたのかについて、東京圏を中心とした具体的事例を紹介しながら問題点を指摘し、農村の景観保護について考える。

第7回：新基本法と農業の多面的機能

1999年の食料農業農村基本法（新農基法）の概要を紹介したうえで、そこで軸とされている農業の多面的機能について環境問題の側面から理解を深める。

第8回：農村金融問題と法

農村は都市とは異なる論理や担保で金融システムが機能しているが、とくに農協を中心とする集金・融資の状況について理解を深める。

第9回：里山保全とコモンズ

農村の景観保護を中心として、いわゆる里地里山の保全に対して、既存の各種法政策がどの程度機能しているのかについて、コモンズ論の視点から考える。

第10回：漁業と海をめぐる法政策と権利

2018年改正漁業法の動向を中心に、漁業権および漁業協同組合の将来像を解説する。

第11回：森林保全と経営の法政策

森林の保全と利用に関係する各種の法政策を紹介し、人口減少社会において森林をいかに経営するのかという問題を考える。

第12回：農業水利と仮想水

河川法における農業水利権をめぐる問題点を指摘しつつ、世界最大の水輸入国たるわが国の農業水利権の方向性を考える。

第13回：フードマイレージと地産地消

フード・マイレージの考え方を理解したうえで、地産地消について多角的に検証する。また、地産地消の推進を阻む現行法の問題点についても触れる。

第14回：a：定期試験

b：試験の解説

* 講義内容は必要に応じて変更したり、前後する可能性があります。

3. 履修上の注意

講義で採り上げる農地法等の条文を、農林水産省のWebサイト等を通じて入手しておいて下さい。詳細は講義中に指示します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で使用するレジュメがある場合は、あらかじめ予告したうえで Oh!Meiji にアップロードします。かならずダウンロードして一読してから講義に臨んでください。なお、レジュメの教室での配布は原則としてしませんが、担当者の事情によりアップロードが間に合わなかったり、追加や補足資料がある場合には配布します。

5. 教科書

初回講義の際に指示します。

6. 参考書

河相一成『農地法制の変遷～近代から現代まで』（光陽出版社、2019）

大西敏夫『都市化と農地保全の展開史』（筑波書房、2018）

7. 課題に対するフィードバックの方法

定期試験実施後に、解答例と採点講評を Oh-o!Meiji において公開します。

8. 成績評価の方法

定期試験の結果を以て評価します。

9. その他

質問等がある場合は遠慮なくメールを送って下さい。

sokuda@ner.takushoku-u.ac.jp (奥田進一)

科目ナンバー (AG)AGE311J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
農業・資源問題の経済学
2017～2021 年度入学者
農業・資源問題の経済学

2 単位

藤栄剛

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本講義の目標は、農業問題や資源問題を経済学的な側面から検討することによって、その現状や特質、さらにメカニズムに対する理解を深めることです。

《授業の概要》

授業の前半は、資源問題について、たとえば生物資源や海洋資源などをはじめとする資源利用のあり方をめぐる問題や制度・政策を経済学的な観点から検討します。授業の後半は、農業問題について、ミクロ経済学をベースに、国際比較などを通じて、農業形態の決定要因などを概説するとともに、歴史的な視点や新たな研究動向もふまえて、農業の特質や固有性を検討します。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクションー農業・資源問題と経済学ー
- 第2回：共有資源の利用と管理（1）ーコモンズの悲劇と社会関係資本ー
- 第3回：共有資源の利用と管理（2）ー地域社会とコモンズー
- 第4回：海洋資源（1）ー漁業のモデルー
- 第5回：海洋資源（2）ー海洋資源管理のための政策・手段ー
- 第6回：小括
- 第7回：世界の農業と日本農業
- 第8回：国民経済と農業
- 第9回：経済発展と農業
- 第10回：小括
- 第11回：農業の技術選択と技術進歩
- 第12回：農業の技術的特質と技術普及
- 第13回：農業の経営組織
- 第14回：まとめ

3. 履修上の注意

初歩的なミクロ経済学の知識を有することがのぞましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配付資料を振り返り、適宜復習すること。また、必要に応じて参考書を参照し、発展的な内容についても目を通すことがのぞましい。

5. 教科書

使用しない。変更がある場合には、初回講義時に指示する。

6. 参考書

- バリー・C・フィールド『入門 自然資源経済学』庄子康・柘植隆宏・栗山浩一訳、日本評論社、2016.
 - 栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ 第4版』有斐閣、2020.
 - 荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学 第5版』岩波書店、2020.
 - 速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』岩波書店、2002.
 - 木村茂光編『日本農業史』吉川弘文館、2010.
 - 大塚啓二郎『「革新と発展」の開発経済学』東洋経済新報社、2023.
- その他参考書については、講義中に適宜紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

講義後の課題と期末試験で評価する。変更がある場合には、初回講義時に指示する。

9. その他

資源経済論研究室（3号館4階 3-415A）

科目ナンバー (AG)AGE371J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
環境行動経済学

2017～2021 年度入学者
環境行動経済学

2 単位

岡通太郎

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

共生社会の実現に向けた新しい試みを体系的かつ具体的に理解する。『「情報」の経済学』, 『「コモンズの社会」という2つの概念を軸に、近代社会における個人主義の限界を論考しつつ、共生社会を実現させる経済理論の構築を目指す。自らの効用の最大化を目的とする市場経済システムの中で、自分以外の他者と共生しようとする行為は可能なのか。自発的参加, 連帯意識, 利他心の保険機能, 社会的評価, 情報の非対称性, ゲーム理論, 行動経済学, 実験経済学, 「つながり」を求める心, 等々の概念を利用しながら冷静かつ客観的に理解する。

《授業の概要》

多くのスライドや動画を利用しつつ世界の異文化社会をイメージしながら、本講義が実践的な共生社会論の知識体系であることを具体的に解説する。

2. 授業内容

- 第1回 個人主義の経済学と共生社会
- 第2回 共生社会と「情報」
- 第3回 「情報」とは何か
- 第4回 社会的ジレンマの経済学
- 第5回 コモンズ論と経済学の融合
- 第6回 「情報」の経済学の誕生
- 第7回 利他行動と利己行動
- 第8回 共生と強制
- 第9回 他者との関係性から生まれる効用
- 第10回 ニードとグリード
- 第11回 NPO の経済学
- 第12回 「情報」と経済の融合〈1〉 制度
- 第13回 「情報」と経済の融合〈2〉 貨幣
- 第14回 人は「情報」を用いる生き物か

3. 履修上の注意

共生社会論（春学期）からの連続履修が望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

前回の内容を1行で整理してくる。

5. 教科書

特に指定しない

6. 参考書

- 『コモンズの人類学』 秋道智彌（人文書院）
- 『循環の経済学：持続可能な社会の条件』 室田武他（学陽書房）
- 『ボランティア経済学への招待』 香西泰・下河辺淳（実業之日本社）
- 『ボランティア経済の誕生：自発する経済とコミュニティ』 金子郁容他（実業之日本社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

成績は、毎回の講義の最後に行なわれる小レポート（3～5行）50%、学期末試験 50%をもって判定する。

9. その他

質問は
共生社会論研究室（3号館4階421A号室）
m-oka@meiji.ac.jp まで

科目ナンバー (AG)AGE371J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
持続可能性の経済学

2017～2021年度入学者
持続可能性の経済学

2 単位

廣政幸生

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

SDGs (Sustainable Development Goals) という言葉を多く聞くようになった。しかしながら、様々な場面で用いられるために、Sustainable Development の意味、本質は不明確なままである。Sustainable Development とは何かを問い、経済学の観点から理解することが目的である。持続可能性の背景、意義を理解し、SDGs が達成される社会経済条件について学ぶこと、また、環境問題に対する思考力を養うことをねらいとしている。

《授業の概要》

Sustainable Development の概念及び定義づけ、SDGs の評価、経済学からのアプローチについて解説する。循環型社会、Sustainable Agriculture 等の社会、農業と環境の関係を経済学から捉え、現在の状況の理解と循環型社会、Sustainable Agriculture 成立ための条件について論ずる。

2. 授業内容

- 第1回：Sustainable Development と Sustainable Agriculture
- 第2回：Sustainable Development の概略（歴史的背景と経緯）
- 第3回：Sustainable Development のキーコンセプト（環境倫理の基礎）
- 第4回：Sustainable Development の概念（資源と経済学より）
- 第5回：Sustainable Development の概念（weak と strong）
- 第6回：SDGs の意味を考える
- 第7回：Sustainable Agriculture とは何か
- 第8回：Sustainable Agriculture と多面的機能
- 第9回：Sustainable Agriculture 成立条件（生産者）
- 第10回：Sustainable Agriculture 成立条件（流通業者）
- 第11回：Sustainable Agriculture 成立条件（消費者）
- 第12回：Sustainable Agriculture 成立条件（地域）
- 第13回：バズとグッズの経済学-循環型社会-
- 第14回：バズとグッズの経済学-静脈産業-

3. 履修上の注意

環境経済論を履修しておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

参考書を指定した部分を理解しておくこと。

5. 教科書

なし。

6. 参考書

蟹江憲史「SDGs」中公新書
南博・稲場雅紀「SDGs」岩波新書
細田衛士「グッズとバズの経済学」東洋経済新報社
加藤尚武「環境倫理学のすすめ」丸善出版
適宜、講義で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業の始めに行う

8. 成績評価の方法

講義中に関する小レポート（20%）、学期末試験（80%）によって評価する。

9. その他

環境経済論研究室（3号館4階 3-425A）
E-Mail: hiroy@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGE371J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
持続可能性の会計学

2017~2021 年度入学者
持続可能性の会計学

2 単位

本所靖博

1. 授業の概要・到達目標

《授業のテーマ》

「財政と管理会計から持続可能な社会・組織づくりを考える」

《授業の達成目標》

(1) 財政学の基礎知識に基づいて、主に「資源」配分の観点から社会的課題について「公共政策のあり方」を考える力を養います。また、国や地方自治体が税金を使って「政策課題」をどう解決すべきかを考える力を養います。

(2) 管理会計の基礎知識に基づいて、持続可能な組織であるために経営者がどのような意思決定を行うべきかを考える力を養います。

《授業の概要》

(1) 国や地方自治体の会計である「財政」に着目し、「財政学」の基礎知識を学習します。

(2) 「管理会計」「原価計算」の基礎知識を学習します。

2. 授業内容

第1回 (9/25) :

a : 授業の進め方と学習の動機づけ

b : 財政の機能

第2回 (10/2) : 政府予算と地方財政

第3回 (10/9) : 公債の発行と財政赤字

第4回 (10/16) : 公共財の理論と財政政策

第5回 (10/23) : 租税理論と租税体系

第6回 (10/30) : 消費課税のしくみ

第7回 (11/13) : 所得課税のしくみ

第8回 (11/20) : 資産課税のしくみ

第9回 (11/27) : 財政から持続可能な社会づくりを考える

第10回 (12/4) : 管理会計・原価計算の基礎知識

第11回 (12/11) : 短期利益計画 : CVP分析

第12回 (12/18) : 意思決定と会計 (1) : 差額原価収益分析

第13回 (1/8) : 意思決定と会計 (2) : 設備投資の経済性計算

第14回 (1/15) bのみ : 意思決定と会計 (3) : まとめ

※授業内容は進度等により変更する場合がありますが、Oh-o!Meiji のクラスウェブと授業にて知らせます。 初回の授業で詳細な授業計画表を配付します。

3. 履修上の注意

履修を予定又は検討している学生は学習の動機づけやよい授業環境づくりの為、第1回の授業には必ず参加すること。参加がない場合は平常点を減点する。なお、対面授業が実施できない場合はこの点についてシラバスの補足に変更の明示します。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

財政学や公共経済学、租税、管理会計に関する入門的な書籍や新聞記事を事前に読んでおくことで授業の理解が増す。レジュメに掲載されている復習問題を解くこと。授業で配付の指定用紙にまとめノートをしておくこと。

5. 教科書

教科書は使用せず、レジュメを配付する。

6. 参考書

特になし

7. 課題に対するフィードバックの方法

コメントカードについて次の授業までにフィードバックコメントを返します。

8. 成績評価の方法

成績は平常点が20%で、期末試験が80%で評価します。詳細は次のとおりです。

※ポイント制 ⇨ 合計ポイント (100p) = 期末試験 (80p) + 平常点 (20p + α)

※オンライン授業の場合は成績評価の方法を変更する場合があります。その場合はシラバスの補足に明示します。

▼平常点 : 20p を超えた場合はそのまま加算します。

・出席はとりません。期末試験の受験要件 (最低出席回数) もありません。

・コメントカードのやりとり1回につき平常点2p前後を加算します。

・初回の授業への参加 (コメントカード提出) で4p加算、初回の授業に不参加 (コメントカード提出なし) で4p減点します。

▼期末試験 : 100点満点を80pに換算します。

▼最終成績 :

S (90p 以上)、A (80p 以上)、B (70p 以上)、C (60p 以上)、F (60p 未満)、T (未受)

9. その他

第1回～第9回の授業では対面授業が実施できた場合、アクティブラーニング支援ツール（イマキク）を可能な範囲で使用して学生参加型の授業を行います。

環境資源会計論研究室（3号館4階 3-412A）

E-mail: honjo@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)AGE381J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
環境問題と地域社会

2017～2021 年度入学者
環境問題と地域社会

2 単位

市田知子

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

春学期の「環境社会学」を踏まえた上で、環境社会学が提起するいくつかの問題について考察を深める。

《授業の概要》

環境問題は、公害問題のように加害者・被害者が明確なものから、地球環境問題のように加害者・被害者や被害の程度が明確でないものに変化している。本授業ではそのような環境問題の変化に対応した環境政策のあり方、また、コモنزの現代的意義、リスク社会、公共性、受益圏域・受苦圏、復興と減災など、環境社会学が提起するいくつかの問題や概念について具体例に基づき考察する。

2. 授業内容

- [第1回] 環境政策と環境社会学の視点
- [第2回] 農業と環境 (1): コモンズとしての農業用水
- [第3回] 農業と環境 (2): コモンズとしての共有林・共同牧野
- [第4回] 農業と環境 (3): 生物多様性と農業・農村
- [第5回] リスク社会論 (1): リスク社会とは何か?
- [第6回] リスク社会論 (2): 食品リスク
- [第7回] リスク社会論 (3): 環境リスク
- [第8回] 公共性と受益圏・受苦圏 (1): 公共性をめぐって
- [第9回] 公共性と受益圏・受苦圏 (2): 事例考察 (沖縄米軍基地移設問題)
- [第10回] 映像の中の「郊外」
- [第11回] 復興・減災の社会学 (1): 過去の復興事例から学ぶ
- [第12回] 復興・減災の社会学 (2): 災害と地域社会
- [第13回] 復興・減災の社会学 (3): 飯舘村に生きる人々
- [第14回] まとめ

3. 履修上の注意

講義の形式をとるが、内容に関する質問、意見には可能な限り対応する。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

授業内容についての疑問があれば、その都度、自分で解決するなり、教員に質問するなりして解決すること。放置しないこと。

5. 教科書

指定しない

6. 参考書

『環境社会学研究』(環境社会学会誌) 有斐閣ほか、講義中に随時紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

レポート提出を含む授業への参加程度が 20~30%、期末試験が 70~80%。

9. その他

環境社会学研究室 (3号館4階)

E-mail: ichida@meiji.ac.jp

研究室 HP: [url]https://www.ichidato.jp[url]

科目ナンバー (AG)AGE331J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
内発的発展論

2017～2021年度入学者
内発的発展論

2 単位

小田切徳美

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

本講義では、地域経済論により「内発的発展」のあり方を論じること目的とする。

経済原論の世界には「空間」が存在しない。国民はすべて1点に集まり、資本もそこにのみ立地することが仮定されている。しかし、現実の経済では、当然のことながら、地理的なひろがりが存在する。そして、多くの国では、人々の居住や資本立地の偏在が発生し（過疎・過密現象）、その結果、無視できない経済的社会的な地域間格差が顕在化している。地域経済論は、こうした問題が何故発生し、そしてその問題の本質（要因）は何かを明らかにすることを課題とする。

そのうえで、こうした状況からの「内発的発展」にかかわる、理論と実践を掘り下げて学ぶこと課題とする。

《授業の概要》

本講義の前半では、上記の課題解明を目的として、戦後日本経済と国土開発政策の展開を素材として、地域経済と地域経済政策のあるべき姿を講述する。また、後半では、地域問題のいくつかの各論、そして内発的発展の理論の課題について講述する。その際、実態認識を深めるため、動画の利用を積極的に行う。

2. 授業内容

第1回：ガイダンス

第2回：イントロダクションー戦後日本の概観ー

第3回：日本経済と国土開発政策<1>ー旧全総

第4回：日本経済と国土開発政策<2>ー新全総

第5回：日本経済と国土開発政策<3>ー三全総

第6回：日本経済と国土開発政策<4>ー四全総

第7回：小括ー国土開発計画の一貫性ー

第8回：<補論1>日本における地域間格差

第9回：<補論2>地方自治とは何かー内発的発展の基盤としてー

第10回：新しい国土開発政策の展開と可能性

第11回：新しい内発的発展論

第12回：応用トピックス<1>ー地方自治と内発的発展

第13回：応用トピックス<2>ー関係人口と内発的発展

第14回：総括ー内発的発展に向けてー

※講義内容は必要に応じて変更することがある。

3. 履修上の注意

1. 新しい領域の講義であるために、講義の内容は柔軟に変更することも考えたい。
2. 講義中の私語は厳禁とする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で配布するレジュメ（Oh-o! Meiji のクラスウェブを利用することもある）を再読して、疑問等があれば次回講義の場で質問をしていただきたい（リアクション・ペーパーに書いても可）。

また、次回の内容の目的・目標を講義の最後に触れるので、関連情報の事前収集を予習として行うこと。

5. 教科書

教科書は指定しない。毎回の講義で配布するプリント（講義レジュメ）をテキストとする。

6. 参考書

小田切徳美編『新しい農村をつくる』（岩波書店、2022年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパーによる感想等の提出を課題とし、そのなかから優れたものや印象的なものは次回に紹介し、さらに質問についても次回講義で積極的に回答する。

8. 成績評価の方法

学期末試験を行い、それによって評価する（定期試験100%）。ただし、毎回、講義内容に関する感想（質問も含む）を書くリアクション・ペーパー（課題）の提出機会を作り、その内容が優れたものを、次回の講義で紹介すると同時に、成績の加点要素とする（最大20点）。

9. その他

地域ガバナンス論研究室（3号館4階 3-420A）

odagiri@meiji.ac.jp

科目ナンバー (AG)ECN321J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
協同組合論

2017～2021年度入学者
協同組合論

2単位

コーディネーター：
大江・橋口

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

講義は主に2人の講師によって実施される。ガイダンスの後、小野澤康晴講師（農林中金総合研究所）から、協同組合の歴史と理念等について概括的な講義が展開される。そして、農業協同組合に関して詳細な解説が加えられる。次に、藤木千草講師（ワーカーズ・コレクティブ及び非営利・協同支援センター）から、消費生活協同組合及びワーカーズ協同組合について、その動向と社会的な意義について講義が行われる。

《到達目標》

国際連合は、2012年を国際協同組合年として定め、現代社会における協同組合の役割の重要性を訴えた。本講義においては、「協同組合思想」とはどのようなものか、それはどのようにして生まれ、どのような変化をとげてきたかを概観するとともに、主に農業協同組合（農協）、消費生活協同組合（生協）、ワーカーズ協同組合を題材とし、現在のわが国における協同組合組織の具体的な取り組みの状況、課題等を論ずる。それらを通じ、格差の拡大、地域の疲弊等、現代社会の抱える様々な問題に対し、協同組合がどのような役割を果たしうるか、そのために解決すべき課題等を考えることとする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション（橋口卓也）
- 第2回：協同組合とは何かー協同組合思想の歴史ー（小野澤康晴）
- 第3回：現代社会における協同組合の意義ー市場と政府の間に（同上）
- 第4回：日本における協同組合活動の現状（同上）
- 第5回：農協の仕組みと歴史的展開（同上）
- 第6回：農協の組織とその特徴（同上）
- 第7回：農協が果たすべき役割と可能性（同上）
- 第8回：協同出資・協同経営で働く協同組合（ワーカーズ協同組合）とは（藤木千草）
- 第9回：ワーカーズ協同組合の事例（同上）
- 第10回：ワーカーズ協同組合の意義と課題（同上）
- 第11回：生協の仕組みと歴史的展開（同上）
- 第12回：生協の組織とその特徴（同上）
- 第13回：生協が果たすべき役割と可能性（同上）
- 第14回：総括と質疑応答（橋口卓也）

3. 履修上の注意

日常から、協同組合に関する情報に関心を持ち、その動向について注目しておくことを望む。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習については、講義の内容に沿った協同組合をめぐる重要事項について、自分なりに調べてくること。ノートや配布プリントに基づいて、講義内容を十分に理解するように、復習すること。なお、藤木講師担当分は「演習シート」が課題として出されることがあるので、それに対応すること。

5. 教科書

・〔藤木講師担当分〕ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン『小さな起業で、楽しく生きる～仲間と始める地域協働ビジネス』ほんの木、2014年。

他に、必要に応じてプリント等を配布する。

6. 参考書

・風見正三・山口浩平編著『コミュニティビジネス入門 地域市民の社会的事業』（学芸出版社、2009年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

原則として、各回終了後に、ミニレポート（講義の理解度を測るアンケートのようなものや、提案など）を課します。

評価の採点配分は、ミニレポートが30%相当（1回当たりでは30点÷14回＝約2点分相当）、全講義期間終了後の定期試験）が70%です。

9. その他

《コーディネーター担当教員：橋口卓也 連絡先》

研究室（第一校舎3号館4階、3-413A、Tel：044-934-7121）

e-mail：hashiguchi.takuya@nifty.com

科目ナンバー (AG)AGE331J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
森林・水産政策論

2 単位

橋口卓也

2017～2021 年度入学者
森林・水産政策論

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

日本の林業・水産業の現状や林産物・水産物の流通・消費・貿易の構造について解説する。また、森林・水産政策の展開過程を追いながら、森林組合・漁業協同組合など関連団体の果たす役割についても講義する。その際、できるだけ、農業政策や水産政策に関わる諸団体との共通点、関連性や相違点などにも注意を払うようにしたい。

《到達目標》

日本は、周囲を海に囲まれる一方、広大な森林地帯を擁している。わが国の食料需給を考える上で、水産物の位置づけは極めて重要である。また、国土管理を意識した土地問題・資源問題を考慮する上では、森林・林野の位置づけを抜きにすることもできない。本講義では、日本の林業や水産業の現状や課題とともに、森林政策、水産政策の概要を理解することを到達目標とする。

2. 授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：日本の林業の実態
- 第3回：日本の水産業の実態
- 第4回：林産物の流通と消費
- 第5回：水産物の流通と消費
- 第6回：林産物貿易・水産物貿易の現状と課題
- 第7回：森林資源をめぐる問題
- 第8回：水産資源をめぐる問題
- 第9回：森林政策の展開と特徴
- 第10回：水産政策の展開と特徴
- 第11回：森林政策・水産政策と農業政策との比較
- 第12回：森林組合・漁業協同組合の役割と課題－農協との比較－
- 第13回：関連団体・組織の役割と課題
- 第14回：総括と質疑応答

3. 履修上の注意

本講義を含めて、農・林・水産政策を横断的に見るために、「農業政策論」も履修することが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習については、講義の内容に沿った森林政策・水産政策をめぐる重要事項について、自分なりに調べてくること。ノートや配布プリントに基づいて、講義内容を十分に理解するように、復習すること。

5. 教科書

特に指定しない。必要に応じてプリント等を配布する。

6. 参考書

- 『日本漁業の真実』濱田武士著（ちくま新書，2014年）
 - 『水産経済学—政策的接近—』小野征一郎著（成山堂書店，2007年）
 - 『森林政策学』堺正紘編著（日本林業調査会，2004年）
 - 『農林漁業政策の新方向』岸康彦編著（農林統計協会，2002年）
 - 『森林・林業・山村問題研究入門』船越昭治編著（地球社，1999年）
- 他、適宜、講義の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

定期試験の内容と密接に関連する小テストやレポートを実施する可能性があるが、それら自体は最終的な成績には反映しない。成績評価は定期試験100%とする。

9. その他

《担当教員連絡先》

研究室（第一校舎3号館4階，3-413A，Tel：044-934-7121）
e-mail：hashiguchi.takuya@nifty.com

科目ナンバー 未設定		
科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 キャリア探求実習	1 単位	食料環境政策学科教員
2017～2021 年度入学者 キャリア探求実習		
1. 授業の概要・到達目標 《授業の達成目標及びテーマ》 食料環境政策学科では、講義の他に基礎ゼミやプロジェクトゼミなどの演習科目やファームステイ実習などの実習科目が設置されているが、食料環境政策学は現場で実際に何が起きているのかという姿勢を重要視しているため、現場から問題を発見したり、問題解決の糸口を探ることはとても大切と考えている。そこで、インターンシップで単位認定を行うことにより、学生諸君が学外における農業研修や企業研修に積極的に参加して、学問的関心や将来の進路への思考を大いに高めてもらうことを目的としている。この科目は専攻科目 II（選択）で、2 年次以降、各学年において重複履修が可能である。 《授業の概要》 授業は実習参加前のオリエンテーション、現場での実習および実習後の報告会での発表からなる。		
2. 授業内容 実習の流れは以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前説明会（4 月ガイダンス時） ・インターンシップ先紹介 ・受講者各自が実習先を決定 ・履修登録及び参加申請 ・書類審査等により単位認定の可否を決定 ・実習の参加 ・実習記録の提出 （実習日誌、実習レポートを本人が提出） （実習受入実施報告書を実習先担当者が提出） ・事後報告会での発表 （第 1 回）事前説明会 （第 2 回～第 13 回）実習先での研修（実働 5 日以上） （第 14 回）事後報告会 		
3. 履修上の注意 履修を予定又は検討している学生は事前説明会に必ず出席すること。 指定された期日までに実習参加届の提出 実習先については、教員が紹介することもあるが、原則として自分で探すこと。なお、全学版インターンシップを利用することもできる。 実習期間は原則として一週間（実働 5 日間）以上とする。 単位認定の対象にならなかった場合ならびに実習先が見つからなかった場合は履修取消を認める。 2～3 月の春休みに実習に参加した場合は、次年度の履修科目として扱う。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 なぜインターンシップに参加するのか、なぜその実習先のインターンシップに参加するのか、参加目的を明確にしておくこと インターン先およびインターン先の仕事内容に関連する事前調査を十分に行うこと インターン実施中はつねに問題意識をもち、振り返り作業を行い、日誌に書き留めておくこと。 インターン実施後は、実習報告書をまとめ、そこで得たことを今後の学生生活に役立てること。 事後報告会に向けてプレゼンテーションの準備をすること		
5. 教科書 特に使用しない。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 実習後の提出書類 3 点および実習報告会での発表を行った者について評価する。 実習日誌及び実習レポート（40%）、実習受入実施報告書（40%）、事後報告会での発表（20%）とする。		
9. その他 問い合わせ先は次の研究室まで。 → 共生社会論研究室：岡通太郎 → 資源経済論研究室：藤栄剛		

科目ナンバー (AG)AGE391J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
「食料環境政策」総合講座
2017～2021年度入学者
「食料環境政策」総合講座

2単位

コーディネーター：
廣政・暁

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要・到達目標》

本学科での学習をより深めようとする学生に対し、「食料」・「環境」・「農業」・「農村」・「政策」の最前線において、どのような問題があり、その問題解決に向け如何に思索し、どのような手段、方法を採用するのかなどを、各方面で活躍されている方々から直に講義して頂く。本講義により得た知見とレギュラー教員による講義を組み合わせることで、現代社会の諸事情を深く考察し、学生生活後半の勉学態度やキャリア形成に繋げることを期待している。

それぞれの分野の最前線で活躍されている方々を講師として招き、「食料」、「環境」、「農業」、「農村」、「政策」について、現状、課題、対応などについて論じていただく。

2. 授業内容

- 第1回 国際機関による世界食糧需給見通し（坪田邦夫氏 元農学部特任教授）
- 第2回 都市と農業の共生：練馬・白石農園のとらつき（白石好孝氏 白石農園・大泉風のがっこう）
- 第3回 私がジャーナリストと呼ばれるようになるまで（榎田みどり氏 客員教授・農業ジャーナリスト）
- 第4回 イオングループの農業参入：農業のありかたを考える（高橋寛氏 イオンアグリ創造株式会社）
- 第5回 農業と観光農園、農業の6次産業化（深作勝己氏 深田農園）
- 第6回 三者（菓子屋、生産者、お客様）が喜ぶ仕組みづくり（鎌田真悟氏 恵那川上屋）
- 第7回 プロ農家が変わる、これからの食・農業界（中村圭佑氏 FOODBOX（株））
- 第8回 地域農業の維持・発展と普及指導員（小林郁彦氏 新潟県長岡地域振興局）
- 第9回 高機能性肥料販売と野菜生産ネットワークを創る（大谷行輝氏 株式会社シイズンドアグリ）
- 第10回 農業団体と食料・農業（金井健氏 全国農業協同組合中央会）
- 第11回 豊洲から世界に「美味しい」水産物を売る（山崎康弘氏（株）山治）
- 第12回 わが国の酪農産業の特性と生乳の取引（古橋佳也氏 関東生乳販売農業協同組合連合会）
- 第13回 私が農業に見ている希望：次世代への持続型社会のタスキ渡し（菅野芳秀 菅野農園園主）
- 第14回 まとめ（暁剛 コーディネーター）

※第1回目の授業で授業計画表を提示する。

※講師の都合で順序・担当者・内容を変更する場合がある。

3. 履修上の注意

第一線で活躍されている方々の講義なので、内容は広く、深い。心得て受けること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

現実の農業・農村の問題は何かを常に考えること。
講師の講義をより深めるために、何をすればよいかを考えること。

5. 教科書

特に定めない。

6. 参考書

特に定めない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

第14回において、課題に対するフィードバックや解説を行う。

8. 成績評価の方法

出席と毎回のレポートで評価をする。

9. その他

コーディネーター：暁剛
研究室：3号館423A号室
E-mail: xiaogang@meiji.ac.jp

科目ナンバー (CC)LAW111J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 法律学概論	2 単位	田村翔
2017～2021 年度入学者 法律学概論		

1. 授業の概要・到達目標

本講義では、そもそも法とは何であるのか、法と道徳とはどのような関係にあるのか、法の種類・体系、法を解釈するとはどういうことか、などの基本的な事項について確認したうえで、私たちの社会生活における様々な具体的な場面に素材として、そこに実際にかかわりうる法律にはどのようなものがあるのか、そのそれぞれの法律の目的や具体的な内容を学習していきます。

また、本講義では、全 14 回の授業を通じ、私たちの社会生活と大きなかかわりを有する様々な法（法律）を概観し、その目的や具体的な内容を理解していくことで、法（法律）の役割の重要性を一層強く意識し、法的思考力（リーガル・マインド）、すなわち、様々な利益を有する様々な人々が共同生活を送る現代社会において時としてそれらの利益が対立し（法的）紛争が起きた際に、そこではそもそもどのような利益がどのように対立し問題となっているのか、複雑に絡み合う事情を整理したうえで真の問題点を見出し、そこで見出された問題点を説得力のある形で他者にも説明することで紛争解決のための交渉を可能にする力、法的コミュニケーション能力を獲得することを到達目標とします。

2. 授業内容

- 第 1 回：法とは何か
- 第 2 回：法の発展
- 第 3 回：法と裁判、裁判の基準となるもの
- 第 4 回：法の解釈
- 第 5 回：法の分類
- 第 6 回：国家と法（1）—日本国憲法の基本原理
- 第 7 回：国家と法（2）—基本的人権の尊重
- 第 8 回：犯罪と法（1）—刑法の機能と刑罰の目的
- 第 9 回：犯罪と法（2）—犯罪の成立要件と刑法の基本原理
- 第 10 回：財産関係と法（1）—民法・財産法の内容と基本原則
- 第 11 回：財産関係と法（2）—物権と債権、契約の意義
- 第 12 回：家族生活と法（1）—民法・家族法の基本原則、婚姻と離婚
- 第 13 回：家族関係と法（2）—親子と相続
- 第 14 回 a：国際社会と法—国際法
- b：試験

3. 履修上の注意

本講義の授業は、基本的に指定の教科書や適宜配布する授業プリント、板書などをを用い講義形式で行いますが、随時こちらから授業内容と関連した質問を投げかけ、学生からの発言を求めたり、リアクションペーパーを配布し、その提出をしてもらうことがあります。

また、各回の授業内容は原則として上記の計画に沿って実施しますが、その進行具合などによっては一部計画が変更されることもあります。

授業に参加する際は、授業内容と関係のない私語の禁止など、一般的な授業マナーを守ってください。

なお、本講義を履修する際は、前提として「日本国憲法」の単位を取得していること、あるいは、「日本国憲法」と同時履修することが望まれます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業に参加するにあたっては、あらかじめシラバス（上記授業内容計画）で実施する授業内容を確認したうえで、教科書でその内容が記載された箇所を目を通してください（予習）。

また、各回の授業後には、授業内での板書や指定の参考書、配布プリントがあった場合にはそれも活用し、再度教科書を読み込むなどしてその回に実施した授業内容を自分なりに理解できるようにしてください（復習）。

もっとも、法律学概論の講義においては、回によっては非常に抽象度の高い授業内容が実施されることもあり、事前の予習段階で完全に授業内容を理解・把握することは難しいものとも思われます。そのため、予習段階ではその回の授業内容の大枠をつかみ、準備学習としては、とくに復習に力を入れるよう心がけてください（決して、予習が重要ではない、という意味ではありません）。

なお、授業内容についてわからなかった点・不明な点などは、授業中ないし授業終了後に質問を受け付けますので、必ず、疑問を疑問のままに終わらせないようにしてください。

5. 教科書

『現代実定法入門〈第 3 版〉』原田大樹（弘文堂、2023 年）

6. 参考書

『現代法学入門〔第 4 版〕』伊藤正己・加藤一郎編（有斐閣双書、2005 年）

『エッセンシャル法学〔第 7 版〕』大谷實編（成文堂、2019 年）

『法学入門』早川吉尚（有斐閣、2016 年）

『高校生からの法学入門』中央大学法学部編（中央大学出版部、2016 年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題等があった場合には、その提出日以降の授業時間内で説明します。

8. 成績評価の方法

試験 80%、授業への貢献度 20%で評価します（あくまで予定であり、変更の可能性があります。変更する場合は適宜アナウンスいたします）。

9. その他

科目ナンバー (AG)LAW961J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
民法 I

2017~2021 年度入学者
民法 I

2 単位

戸田知行

1. 授業の概要・到達目標

民法 I では、民法の中で特に身近な家族法（親族法、相続法）およびそれに関連する民法総則の一部（第一編第二章「人」）を取り上げる。人は生まれると親子関係に入り、成長・独立して婚姻関係に入り、子供が生まれるとまた親子関係に入る。そして、年をとると、場合によっては後見関係に入り、最後には死亡し相続関係が生じる。本講座は、これらの関係を規律する法の基礎を習得することを目的とする。

2. 授業内容

- 第 1 回：イントロダクション、民法とは？
 - 第 2 回：権利能力 1（権利能力の始期、終期（失踪宣告の前まで））
 - 第 3 回：権利能力 2（権利能力の終期（失踪宣告以降））、親族とは？ 氏名
 - 第 4 回：相続 1（相続とは？ 相続人、相続分、代襲相続、相続失格、相続の承認・放棄）
 - 第 5 回：行為能力 1（意思能力と行為能力、未成年者）、親権・未成年後見
 - 第 6 回：親子（実子、養子）
 - 第 7 回：行為能力 2（成年被後見人・被保佐人・被補助人）、成年後見・保佐・補助、扶養
 - 第 8 回：行為能力 3（制限能力者の相手方の保護）、任意後見
 - 第 9 回：婚姻 1（成立）
 - 第 10 回：婚姻 2（効力）
 - 第 11 回：婚姻 3（解消）、内縁
 - 第 12 回：相続 2（相続の効力 1）
 - 第 13 回：相続 3（相続の効力 2、相続回復請求権、財産分離・相続人の不存在）
 - 第 14 回：相続 4（遺留分、遺言、死因贈与）
- ・各回の予定は、一応のものであり、変更の可能性がある。

3. 履修上の注意

各種資格・採用試験にも対応するため、かなり高度な内容にも踏み込むが、受験希望者以外は、骨組みの理解ができれば十分である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

出席者は、事前に問題について考え、またテキストを読むなどして、「わからない所」をはっきりさせて、講義に臨むこと。復習として、重要な論点について、講義のノート、配布したレジュメ、テキストなどから自分なりの整理ノートを作ること。

5. 教科書

『民法 7 親族・相続 [第 7 版]』(有斐閣アルマ) 高橋朋子・床谷文雄・棚村政行 (有斐閣) 令和五年(2023)を一応指定するが、その他、各自が気に入ったものでも構わない。

6. 参考書

- 『民法判例百選 I 総則・物権 [第 9 版]』 潮見佳男・道垣内弘人編 (有斐閣) 令和五年(2023)
- 『民法判例百選 III 親族・相続 [第 3 版]』 大村敦志・沖野真巳編 (有斐閣) 令和五年(2023)

7. 課題に対するフィードバックの方法

期末試験の解説に該当するものは、毎回配布するレジュメの中に、すでに記載してある。疑問がある人に対しては、出講日に訪ねてもらえれば、個別に対応する。

8. 成績評価の方法

期末の試験で行う。

9. その他

留意点は、講義の中で述べる。

科目ナンバー (AG) LAW961J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
民法Ⅱ

2017～2021 年度入学者
民法Ⅱ

2 単位

戸田知行

1. 授業の概要・到達目標

民法Ⅱでは、契約上の救済と不法行為責任を取り上げる。前者は、例えば、購入した物やサービスが期待外れだった場合の救済で、欠陥のある契約をなかつたことにしたり（例 錯誤・詐欺・強迫による取消し）、契約の成立を前提に、契約違反の責任（債務不履行責任、担保責任）として、履行の追完や損害賠償をさせたり、契約解除を認めるというものである。後者は、例えば、交通事故で怪我をした場合の救済で、加害者から被害者に損害賠償をさせるというものである。主に契約関係にない当事者間で問題となる。本講座では、これらの要件・効果の基礎を習得することを目的とする。

2. 授業内容

- 第1回：損害賠償法総論1（責任の種類、安全配慮義務違反の責任）
- 第2回：損害賠償法総論2（契約締結上の過失責任等）
- 第3回：不法行為1（成立要件（故意・過失）、責任無能力者の監督義務者等の責任）
- 第4回：不法行為2（成立要件（権利侵害と違法性））
- 第5回：不法行為3（成立要件（因果関係））
- 第6回：不法行為4（効果（方法、損害賠償請求権者、損害賠償額の算定））
- 第7回：不法行為5（効果（損害賠償額の減額事由、損害賠償請求権の性質））
- 第8回：不法行為6（使用者責任、注文者の責任）
- 第9回：不法行為7（土地工作物責任、営造物責任、運行供用者責任、動物占有者の責任、失火責任法）
- 第10回：不法行為8（共同不法行為）、法律行為1（総論、内容の適法性・社会的妥当性）
- 第11回：法律行為2（意思表示の構造・効力発生時期、心裡留保、通謀虚偽表示）
- 第12回：法律行為3（錯誤、詐欺、強迫）
- 第13回：債務不履行責任
- 第14回：売主の担保責任

・各回の予定は、一応のものであり、変更の可能性がある。

3. 履修上の注意

各種資格・採用試験にも対応するため、かなり高度な内容にも踏み込むが、受験希望者以外は、骨組みの理解ができれば十分である。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

出席者は、事前に問題について考え、また指示された文献を読むなどして、「わからない所」をはっきりさせて、講義に臨むこと。復習として、重要な論点について、講義のノート、配布したレジュメ、指示された文献などから自分なりの整理ノートを作ること。

5. 教科書

特に指定しない。毎回レジュメを配布する。その他、講義の中で文献を指示する。

6. 参考書

- 『民法判例百選Ⅱ 債権 [第9版]』 窪田充見・森田宏樹編（有斐閣）令和五年（2023）
- 『民法判例百選Ⅰ 総則・物権 [第9版]』 潮見佳男・道垣内弘人編（有斐閣）令和五年（2023）

7. 課題に対するフィードバックの方法

期末試験の解説に該当するものは、毎回配布するレジュメの中に、すでに記載してある。疑問がある人に対しては、出講日に訪ねてもらえれば、個別に対応する。

8. 成績評価の方法

期末の試験で行う。

9. その他

留意点は、講義の中で述べる。

科目ナンバー (AG)POL911J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 政治学 I	2 単位	三森ちかし
2017～2021 年度入学者 政治学 I		

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》

21 世紀のヨーロッパでは大幅な政治変動が起きています。2002 年には共通通貨ユーロが導入され、2004 年には旧東欧諸国を中心とする 10 もの国々が EU に加入しました。加盟国は最大時 28（現在は 27）、ユーロ参加国も 20 にまで増加しました。また、シェンゲン協定によって EU 域外国も含む 27 の国でパスポートなしの自由な移動が可能となっています。飛躍的な発展を遂げたヨーロッパの統合ですが、その一方で拡大に応じた EU の構造改革に手間取り、各国での EU 懐疑派の台頭を招きました。それは 2016 年の国民投票による英国の EU 離脱の決定（BREXIT）、そして 2021 年の完全離脱に繋がりました。また、ヒトの移動の自由は難民問題やテロの脅威、さらにはコロナ禍によって危機に晒されています。この講義では、ヨーロッパの統合の過程を見ていくことで、国家および国際政治についての理解を深めることを目的とします。

《授業の概要》

下記の各タイトルに従った講義を行います。

2. 授業内容

第二次世界大戦前の「汎ヨーロッパ運動」から現在の EU に至るまでの過程を辿ります。現在の EU の動向についても、大きな動きがあればその都度解説を行います。

- 第 1 回：EU とは何か
- 第 2 回：リヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギーと「汎ヨーロッパ」
- 第 3 回：戦後の欧州統合運動—欧州評議会—
- 第 4 回：ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSC）
- 第 5 回：ヨーロッパ経済共同体（EEC）の結成
- 第 6 回：仏独枢軸の始まり
- 第 7 回：ド・ゴールの挑戦—「65 年危機」—
- 第 8 回：拡大 EC の登場と仏独枢軸の危機
- 第 9 回：チンデマンス報告
- 第 10 回：ヨーロッパ統合の再始動
- 第 11 回：サッチャーと英国の財政負担問題
- 第 12 回：単一欧州議定書
- 第 13 回：EU の誕生
- 第 14 回：a. 定期試験・解説 b. まとめ

3. 履修上の注意

新聞、ニュースなどでヨーロッパに関する知識を深めておいて下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義開始前に、参考書に少しでも目を通しておいてください。質問があれば随時行ってください。

5. 教科書

なし

6. 参考書

- 『新 EU 論』植田隆子ほか（信山社）
- 『ヨーロッパ統合の政治史』金丸輝男ほか（有斐閣）
- 『EU の政治』田中俊郎（岩波書店）
- 『EU—欧州統合の現在— 第 4 版』鷲江義勝ほか（創元社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学期末に定期試験を行って評価します。

9. その他

特になし

科目ナンバー (AG)POL911J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
政治学Ⅱ

2017～2021 年度入学者
政治学Ⅱ

2 単位

三森ちかし

1. 授業の概要・到達目標

21 世紀のヨーロッパでは大幅な政治変動が起きています。2002 年には共通通貨ユーロが導入され、2004 年には旧東欧諸国を中心とする 10 もの国々が EU に加入しました。加盟国は最大時 28（現在は 27）、ユーロ参加国も 20 にまで増加しました。また、シェンゲン協定によって EU 域外国も含む 27 の国でパスポートなしの自由な移動が可能となっています。飛躍的な発展を遂げたヨーロッパの統合ですが、その一方で拡大に応じた EU の構造改革に手間取り、各国での EU 懐疑派の台頭を招きました。それは 2016 年の国民投票による英国の EU 離脱の決定（BREXIT）、そして 2021 年の完全離脱に繋がりました。また、ヒトの移動の自由は難民問題やテロの脅威、さらにはコロナ禍によって危機に晒されています。この講義では、ヨーロッパの統合の過程を見ていくことで、国家および国際政治についての理解を深めることを目的とします。

《授業の概要》

下記の各タイトルに従った講義を行います。

2. 授業内容

EU 加盟国の紹介から、EU の諸機関および政策などについて学びます。

- 第 1 回：EU 加盟国の紹介〈1〉
- 第 2 回：EU 加盟国の紹介〈2〉
- 第 3 回：EU 加盟国の紹介〈3〉
- 第 4 回：EU の構造
- 第 5 回：EU の諸機関
- 第 6 回：EU の基本条約〈1〉
- 第 7 回：EU の基本条約〈2〉
- 第 8 回：欧州基本権憲章
- 第 9 回：EU の諸政策
- 第 10 回：共通通貨ユーロ
- 第 11 回：トルコおよびノルウェーの加盟問題
- 第 12 回：英国の EU 離脱問題
- 第 13 回：EU と日本の関係
- 第 14 回：定期試験

3. 履修上の注意

政治学Ⅰの履修を前提として講義を行います。新聞、ニュースなどでヨーロッパに関する知識を深めておいて下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

講義開始前に、参考書を読んでおいてください。質問があれば随時行ってください。

5. 教科書

なし

6. 参考書

- 『新 EU 論』植田隆子ほか（信山社）
- 『EU の政治』田中俊郎（岩波書店）
- 『EU—欧州統合の現在—第 4 版』鷺江義勝ほか（創元社）
- 『EU の知識』藤井良広（日本経済新聞社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

学期末に定期試験を行って評価します。

9. その他

特になし

科目ナンバー (CC)HIS111J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
日本史概論

2017～2021 年度入学者
日本史概論

2 単位

伊勢弘志

1. 授業の概要・到達目標

《授業概要》

現在の日本社会の前提になっている近現代の国際環境・社会環境を講義する。

私たちの社会が世界の潮流と密接であることを理解するために、政治学や現代思想にも着目し、私たちにどれほど影響しているかを考察する。

また、歴史学で得た「道具としての知識」を実社会で活用するため、「考える力」を訓練できるように「歴史学的思考法」について考える。

《到達目標》

1. 近現代とはどのような時代であるのかを知り、その理解の上に現在の日本社会や東アジア情勢の前提が理解できる。

2. 現在の教育問題・歴史認識問題などについて多面的な分析ができる。

3. 「道具としての知識」を実社会や教育の現場で活用するために、「考える力」を訓練する。その上で、「なぜ勉強をするのか？」について自身の答えをもてる。

2. 授業内容

- 1 : 歴史を学ばないとどうなるか？
- 2 : 「自由」と「勝手」はどう違うか？ - 戦後社会と歴史認識
- 3 : 「敗戦」と「聖断」 - 原爆はなぜ2発落とされたのか？
- 4 : 「東京裁判」 - 何を裁き・何を裁かなかったか？
- 5 : 「国家の安全」と「国民の安全」 - 「戦後帝国主義」の登場
- 6 : 「安心」と「安全」はどう違うか？
- 7 : 「文明」と「文化」は何が違うか？ - 「高度経済成長」と国民生活
- 8 : 「近代化論」 - 冷戦下の歴史認識と佐藤栄作内閣
- 9 : 「日本列島改造論」と「公共財」 - 高度経済成長の終焉と遺産
- 10 : 「相互依存」の世界 - 私たちの暮らしはどう成り立っているか？
- 11 : 「能力主義社会」は成立するか？ - 「新自由主義」の世界
- 12 : 「自由」と「民主」はどう違うか？
- 13 : 大切なのは「良識」か「良心」か？ - 社会通念の影響
- 14 : 「民主主義」の中の「個」／フリーライド&サイレントマジョリティー

3. 履修上の注意

- ① 教科書は必ず用意すること。
- ② 毎時の講義内容について、次の講義までに教科書を読んで理解を深めておくこと。
- ③ 知識（内容知）を獲得するだけでなく、知るための調べ方・自身の関心や疑問を自ら解決するための知識（方法知）を獲得し、さらに「考える力」を訓練できるよう留意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

- ① 教科書を読んで、自らの意見・考えをノートしておくこと。
- ② 自ら調べて学習すること（「教わるのを待つ」姿勢ではなく、「自身で学ぶ」姿勢で臨むこと）。

5. 教科書

伊勢弘志『明日のための現代史』〔下巻〕（芙蓉書房出版、2022年）。

6. 参考書

使用しない。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で対応する。

8. 成績評価の方法

レポート100%（およびプラスアルファとしてのリアクションペーパーによる加点）

9. その他

初回の授業時に成績評定や単位認定についての詳細を説明します。履修にあたっては必ずその内容を把握しておくこと。

科目ナンバー (CC)HIS121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
東洋史概論

2017～2021 年度入学者
東洋史概論

2 単位

小松原ゆり

1. 授業の概要・到達目標

《授業の概要》

10 世紀から 20 世紀初頭にかけての中国を中心とした東アジアの歴史を学びます。具体的な内容としては、宋・元・明・清の各中国王朝の歴史を概観し、その政治・社会・文化の特質について解説を行います。さらに中国とその周辺諸国（モンゴル、チベット、朝鮮、日本など）との関係にも注目することで、東アジアの歴史を多角的に考察します。

《到達目標》

宋から清にかけての中国を中心とした東アジアの歴史に関する知識を習得することを目標とします。

2. 授業内容

第 1 回： a：オリエンテーション b：アジアに関する映像の鑑賞

第 2 回： 唐宋変革と北方の諸勢力

第 3 回： 宋の社会と文化

第 4 回： モンゴル帝国の登場と元の拡大

第 5 回： 元の支配構造と宗教・文化

第 6 回： 明の建国と諸制度の改革

第 7 回： 明の海禁政策と倭寇

第 8 回： 明後期の政治の混乱と崩壊

第 9 回： 清初期の歴史と中央集権化への道のり

第 10 回： 清の全盛期と三人の皇帝

第 11 回： 清の衰退：国内の動乱と列強諸国の進出

第 12 回： 清と日本の関係：交易を中心に

第 13 回： 清の崩壊と中華民国の成立

第 14 回： a：まとめ b：テスト

※授業の進行状況によって内容が変更する場合があります。

3. 履修上の注意

毎回出欠を兼ねてリアクションペーパーを提出してもらいます。講義中の私語、スマホ、パソコンなどの使用は禁止。受講者の積極的な参加を求めます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

次の回の内容について事前に調べたり、参考書に目を通しておくと、授業の内容をより把握できるでしょう。

5. 教科書

授業毎にプリントを配布します。パワーポイントを使いながら、視覚的にも歴史を学んでいきます。

6. 参考書

『歴史からみる中国』吉澤誠一郎編著、NHK出版、2013 年、『紫禁城の栄光—明・清全史』岡田英弘・神田信夫・松村潤、講談社学術文庫、2006 年、『海と帝国 明清時代（中国の歴史 09）』上田信、講談社、2005 年など。各回に関係する参考文献については、授業中に紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーの内容については、次の授業で情報を共有し解説を行う予定です。

8. 成績評価の方法

期末テスト：60%、平常点：40%（出席点、積極性、授業態度等を含む）。基本的に出席が全回数の半分に満たない場合は単位を認めません。

9. その他

科目ナンバー (CC)HIS131J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 西洋史概論	2 単位	渡辺知
2017～2021年度入学者 西洋史概論		

1. 授業の概要・到達目標

15世紀のポルトガル、スペインのヨーロッパ外への進出に始まる世界の一体化の過程を世界システム論の観点から概観し、ヨーロッパ近代の歩みが世界の諸地域に与えた影響について考えてみたいと思います。ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

2. 授業内容

以下の通り授業を進める予定ですが、進捗具合によって若干の変更を加えることもあります。

- 第1回 世界の一体化 この講義のテーマについて説明します。
- 第2回 大航海時代以前のヨーロッパ 1 11～13世紀のヨーロッパの経済、社会について説明します。
- 第3回 大航海時代以前のヨーロッパ 2 14世紀以降ヨーロッパで危機的状況が深まっていく過程を説明します。
- 第4回 ポルトガルとアジア ポルトガルがアフリカ、アジアに進出していく過程とその影響について説明します。
- 第5回 スペインとアメリカ 1 スペインのアメリカ進出の過程とアメリカに与えた影響について説明します。
- 第6回 スペインとアメリカ 2 スペインのアメリカ進出がスペインと世界の一体化に与えた影響について説明します。
- 第7回 17世紀のヨーロッパ 「17世紀の危機」論争を紹介しつつ、西ヨーロッパ諸国の台頭を説明します。
- 第8回 第一次イギリス帝国の形成 イギリスがオランダ、フランスと対立しながらその帝国を形成する過程を説明します。
- 第9回 イギリス商業革命 イギリスの帝国形成がイギリスの経済、社会に与えた影響について説明します。
- 第10回 西インド諸島と砂糖 イギリスの植民地支配が西インド諸島に与えた影響について説明します。
- 第11回 アフリカと大西洋奴隷貿易 イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国による大西洋奴隷貿易の展開とその影響について説明します。
- 第12回 フランス革命と環大西洋革命 1 フランス革命の展開について説明します。
- 第13回 フランス革命と環大西洋革命 2 フランス革命をその時期大西洋の両岸で起きた出来事と関連付けながらその意義を説明します。
- 第14回 a まとめ
b 試験

3. 履修上の注意

西洋の歴史に興味のある方はもちろん、これまで歴史になじみがなかった方の受講も歓迎します。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した問題について参考文献等で調べてください。授業前に前回の授業ノート、参考文献を見返し、まとめておいてください。

5. 教科書

特に定めません。

6. 参考書

参考文献として以下の文献を紹介しておきます。授業で随時、紹介してきます。

川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年）

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業でコメントします。

8. 成績評価の方法

授業の区切りに授業内容のまとめや感想を書いて頂き、これを平常点とします。学期末には試験を行い、成績はこれらの総合評価とします（学期末試験80%、平常点20%）。

9. その他

オフィスアワーは最初の授業でお知らせします。

科目ナンバー (CC)GE0131J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 地誌学概論	2 単位	中西雄二
2017～2021年度入学者 地誌学概論		

1. 授業の概要・到達目標

〈授業の達成目標及びテーマ〉

地理学における地誌学の学術的な位置づけを理解した上で、日本の諸地域の自然環境と人間生活との関わりについて、社会的、歴史的な文脈から複眼的に把握していくことを主たる達成目標とする。

〈授業の概要〉

具体的な授業内容としては、日本という近代国民国家の成立過程や総論的な地誌を踏まえ、諸地域の基礎的な学術的知識の獲得を通して、それらの歴史的事象と現状の関連性を多角的な視点から理解していく。図表・資料の活用を通じた講義形式を採用し、地域ごとの地誌的概要の理解と地理学的想像力の涵養を深め、最終的には受容した知識に基づく各地域の関連性を読み解いていくことを目指し、様々な地理学的手法を用いて考察する視点や方法を紹介していく。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション：地理学と地誌学について
- 第2回 北海道：「アイヌモシリ」から「北海道」へ
- 第3回 東北地方：寒冷な気候と産業の関連性
- 第4回 東京Ⅰ：「帝都」の成立と都市空間
- 第5回 東京Ⅱ：グローバル・シティの空間編成
- 第6回 白川郷：村落の社会変動
- 第7回 金沢：旧城下町の近代化と都市機能
- 第8回 大阪大都市圏：近代工業都市と脱工業化
- 第9回 瀬戸内工業地帯：工業都市の形成過程と地域の変容
- 第10回 九州北部：旧産炭地域と社会変動
- 第11回 琉球文化圏（1）：沖縄・奄美に関する地誌的概略
- 第12回 琉球文化圏（2）：戦後における沖縄・奄美の社会的文脈
- 第13回 総論と要点確認
- 第14回 まとめと確認テスト

*なお、進捗状況により、内容の一部を変更することがある。

3. 履修上の注意

基本的に毎回の授業時にレジュメを配布する。

各授業で扱った事例や概念については、毎回の入念な復習を強く勧める。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業の内容や紹介した用語・概念について確認と把握をすること。

また、配布資料に示した参考文献のうち、興味のある文献を通読するなど、自主的な予復習を期待する。

5. 教科書

教科書は特に定めない。

6. 参考書

平岡昭利・野間晴雄編（2006）『地図で読む百年』全10巻、古今書院。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8. 成績評価の方法

成績は原則として学期末の確認テストによって評価する。

確認テストの採点にあたっては、内容の正確性と文章の論理性とを極めて厳正に審査する。

授業には遅刻・欠席のないように留意すること。

9. その他

科目ナンバー (AG) GE0911J

科目名	単位数	担当者
2022年度以降入学者 地理学概論	2 単位	中西雄二
2017～2021年度入学者 地理学概論		

1. 授業の概要・到達目標

<授業の概要>

地理学とは、「地表の人文・自然にわたる諸現象を環境・地域・空間などの概念に基づいて解明しようとする学問」であり、極めて広範な研究分野を包含する学問である。本講義では、地形図と空間認識、環境、産業、近代化過程と空間変容などといったテーマを鍵として、具体的な事例の紹介とともに地理学の基礎的な概念や研究課題について解説していく。また、暗記科目とは異なる、地域、環境、文化、社会と関連した多岐にわたる現象を考察する研究視点を有する「地理学」の視点を伝えていきたい。

<授業の到達目標>

一見すると所与のものと考えてしまいがちな現代社会について、その背景や変容プロセスを知り、歴史的な多様性や諸地域の関係性を理解することはグローバル化の進む世界における異文化理解の足掛かりとして極めて重要である。本講義で地理的な想像力を養い、幅広く複眼的な視野で世の中を捉え、社会の豊かな多様性を理解する能力を高めることを目標とする。また、基礎的な地形図の読図能力や地理学的知識の習得を目指す。

2. 授業内容

— 導入 —

第1回 オリエンテーション：「地理学」とはなにか？

— 地図と空間・世界 —

第2回 地図の歴史：地図にみる世界観の変遷と地理情報の表象

第3回 地図の政治性：戦時改描などの事例から

— 人間活動と自然環境 —

第4回 人間による自然環境の改変：治水工事や河道変化を地図から探る

第5回 自然災害と人間社会：都市型災害と現代社会

— 人間活動としての産業 —

第6回 農村空間の変容：クリークを用いた農村の社会変容

第7回 産業構造の変化と地域：川崎にみる工業化と脱工業化

第8回 市民・住民運動から捉える環境問題：人間活動と自然環境をめぐる政治地理

— 近代社会と文化・政治 —

第9回 文化の政治性：「他なるもの」と地理学

第10回 近代国民国家の成り立ち（1）：ネーション概念とエスニック・グループ

第11回 近代国民国家の成り立ち（2）：「想像の共同体」と「創られた伝統」

第12回 地理学と公共政策：空間の公共性

— 総論と要点確認 —

第13回 総論とまとめ

第14回 要点と確認テスト

*なお、進捗状況により、内容の一部を変更することがある。

3. 履修上の注意

基本的に毎回の授業時にレジュメを配布する。

各授業で扱った事例や概念については、毎回の入念な復習を強く勧める。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業の内容や紹介した用語・概念について確認と把握をすること。

また、配布資料に示した参考文献のうち、興味のある文献を通読するなど、自主的な予復習を期待する。

5. 教科書

教科書は特に定めない。

6. 参考書

・竹中克行ほか編（2009）『人文地理学』ミネルヴァ書房。

・竹中克行編（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房。

・ノックス、P.・ピンチ、S.、川口太郎ほか訳（2013）『改訂新版 都市社会地理学』古今書院。

・水内俊雄・加藤政洋・大城直樹（2008）『モダン都市の系譜：地図から読み解く社会と空間』。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8. 成績評価の方法

成績は原則として学期末の確認テストによって評価する。

確認テストの採点にあたっては、内容の正確性と文章の論理性とを極めて厳正に審査する。

授業には遅刻・欠席のないように留意すること。

9. その他

オフィスアワー：最初の講義で指示する。

連絡先：最初の講義で指示する。

科目ナンバー (CC)PHL111J

科目名	単位数	担当者
2022 年度以降入学者 哲学概論	2 単位	長田蔵人
2017～2021 年度入学者 哲学概論		

1. 授業の概要・到達目標

【授業の概要】

西洋哲学の歴史ではその初期から、のちに「形而上学 (metaphysics)」と呼ばれることになる学問が探究されてきた。それは伝統的には、「存在者であるかぎりの存在者」の探究とされ、「存在するとはどのようなことか」「何が存在するのか」「現実 (reality) とは何か」などを一般的に問う、「哲学の中の哲学」とも言うべき探究であった。近代以降、それは「存在論 (ontology)」とも呼ばれ、自然科学や論理学の飛躍的な発展を踏まえて、現代においても新しい状況の中で見直され問い直されている。たとえば、「生物種は存在するか」「種が存在するとすれば、それは何であるのか」「虚構 (フィクション) の対象はどのような意味で存在し、どのような意味で存在しないのか」などといった問いもその探求のうちに含まれる。

本講義では、現代存在論において何が問われているのか、どのような考え方が主張されているのかを概観し、私たちが自明であると思っている「存在」の奥深さや哲学的思考の意義について理解を深めていきたい。

【到達目標】

- (1) 現代の存在論において、何がどのように問題にされているかということを、その問題の背景や意義を踏まえて説明できる。
- (2) 存在論の諸問題に対する多様な考え方や立場が、どのような根拠に基づいて主張されているかを説明できる。

2. 授業内容

- 第1回 イントロダクション — 形而上学とは何か
- 第2回 「何が存在するのか」という問いの意味
- 第3回 存在論の方法について
- 第4回 カテゴリーの体系
- 第5回 普遍的性質は存在するか (1)
- 第6回 普遍的性質は存在するか (2)
- 第7回 生物種の存在論
- 第8回 可能的世界の存在論
- 第9回 虚構的对象の存在論
- 第10回 世界とは何か
- 第11回 世界は存在するか (1)
- 第12回 世界は存在するか (2)
- 第13回 科学的世界像の存在論
- 第14回 a: まとめ/b: 試験

3. 履修上の注意

出席数が授業回数の3分の2を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。
また、特段の事情がない限り、20分以上の遅刻は出席としては認められませんので、注意してください。

4. 準備学習 (予習・復習等) の内容

あらかじめ配布されるレジュメと資料を熟読のうえ、疑問点をまとめておくこと。
また授業後は、レジュメを中心にノートを整理し、正確な理解と自分なりの考えを深めたうえで、ミニ・レポート課題を提出する。

5. 教科書

教科書は使用せず、レジュメと資料を配布する。

6. 参考書

- 倉田剛, 『現代存在論講義 — ファンダメンタルズ』 (新曜社, 2017年)
 倉田剛, 『現代存在論講義 — 物質的对象・種・虚構』 (新曜社, 2017年)
 マルクス・ガブリエル, 『なぜ世界は存在しないのか』 (講談社, 2018年)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

ミニ・レポート 30%, 期末試験 70%

9. その他

連絡先: kurandoo@meiji.ac.jp
 研究室: 哲学研究室 (3号館4階 401号室)

科目ナンバー (CC)PHL121J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
倫理学概論

2017~2021 年度入学者
倫理学概論

2 単位

長田蔵人

1. 授業の概要・到達目標

【授業の概要】

人類はそれぞれの時代と地域において、人はどう生きるべきか、いかに振る舞うべきかについて思索をめぐらせ、それを特有の「宗教的戒律」や「道徳的規範」として表現してきた。西洋哲学の伝統では、そのような「規範」や「価値」への問いが、「倫理学 (ethics)」という 1 つの合理的・批判的な学問へと仕上げられ、望ましい生き方や振る舞いについて、「根拠」を持って語る可能性が追求されてきた。

本講義では、この倫理学という学問における人間の思索の追体験を通じて、私たちが無意識のうちに前提している価値観や人生観の、多様な源流を理解することを目指す。そこで得られる視点から、自分自身の「価値観」や「思考の枠組み」を客観視し、評価し直してもらいたい。

日本は東洋思想と西洋思想から決定的な影響を受けつつ、独自の倫理観・価値観を発展させてきた。そこで本講義では、これらを順に扱っていく。

【到達目標】

- (1) それぞれの回ごとのテーマについて、議論の概要を自分自身で説明できる。
- (2) そこで提示されている問題に対する自分自身の考えを、筋道を立てて論じられる。

2. 授業内容

- 第 1 回 インTROダクション—倫理学とは何か？
- 第 2 回 古代ギリシャの倫理思想
- 第 3 回 古代中国の倫理思想
- 第 4 回 ヘブライの宗教とイスラーム
- 第 5 回 古代日本人の宗教と倫理
- 第 6 回 古代日本人の政治理念
- 第 7 回 神仏習合と怨霊信仰
- 第 8 回 武士道の理念
- 第 9 回 西洋近代の倫理思想
- 第 10 回 労働と公正な社会
- 第 11 回 日本の近代化と戦後日本人の精神
- 第 12 回 現代日本人の宗教意識
- 第 13 回 グローバル化時代の倫理
- 第 14 回 a: まとめ/b: 試験

3. 履修上の注意

出席数が授業回数の 3 分の 2 を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。

また、特段の事情がない限り、20 分以上の遅刻は出席としては認められませんので、注意してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ配布されるレジュメと資料を熟読のうえ、疑問点をまとめておくこと。

また授業後は、レジュメを中心にノートを整理し、正確な理解と自分なりの考えを深めたうえで、ミニ・レポート課題を提出する。

5. 教科書

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

6. 参考書

山脇直司, 『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会, 1992 年)

マイケル・ピュエット, 『ハーバードの人生が変わる東洋哲学』(早川書房, 2018 年)

末木文美士, 『日本思想史』(岩波書店, 2020 年)

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

ミニ・レポート 30%, 期末試験 70%

9. その他

連絡先: kurandoo@meiji.ac.jp

研究室: 哲学研究室 (3号館 4階 401号室)

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022年度以降入学者
フィールドワーク実習
2017~2021年度入学者
フィールド調査実習

8単位

食料環境政策学科教員

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》《授業の概要》

教員の指導のもとで、研究テーマを設定し、2年間を通じて、文献の講読と卒業論文の作成を行う。リサーチゼミでは広く研究テーマに関連した著書や論文などを講読・読解し、ゼミナール形式で発表し、議論する。さらにゼミナールという場における議論の仕方をも学ぶ。卒論の作成に当たっては、関連文献を読解し、データを収集し、調査を行うなどして、その結果を論文に取りまとめる。特に、自らの問題関心を明確にし、そのテーマに沿った論文を執筆する能力を身につけることを目的とする。

2. 授業内容

研究室により研究領域が異なるので、履修者は教員の指導のもと、文献調査と卒論テーマの内容を決定する。

3. 履修上の注意

トータルで4学期の履修が必要。単位はフィールドワーク実習と一括して付与する。但し、活動の内容によっては、単位を付与しない場合もあり得るので、注意すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

常に問題意識を持ち、幅広く知識を深めること。

5. 教科書

指導教員が指定する。

6. 参考書

指導教員が指定する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

ゼミでの研究姿勢、文献の読解力、発表、議論への参加、卒業論文を総合的に評価する。

9. その他

科目ナンバー (AG) IND412J

科目名

単位数

担当者

2022 年度以降入学者
リサーチゼミ・卒論ゼミ
2017～2021 年度入学者
文献調査・卒論ゼミ

8 単位

食料環境政策学科教員

1. 授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》《授業の概要》

教員の指導のもとで研究室ごとに、フィールドワークのテーマを設定して、その内容と項目を決め、実際に農村等に出かけて調査を行う。フィールドワーク実習によって、調査対象地域の実情を知り、調査方法を学び、データを収集し、データを分析する能力や、問題解決に必要な応用力を身につける。また調査内容をレポートにまとめることを通して、表現能力の向上を図る。

2. 授業内容

研究室により研究領域が異なるので、履修者は教員の指導のもと、フィールドワークのテーマや実習の内容を決定する。

3. 履修上の注意

単位はリサーチゼミ・卒論ゼミと一括して付与されるので、同一教員が担当する同科目を同時履修すること。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

指導教員が指示をする。

5. 教科書

指導教員が指定する。

6. 参考書

指導教員が指定する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

実習に対する姿勢、調査結果の分析力、調査結果の発表、調査レポートを総合的に評価する。

9. その他